函 館 市

# 中 野 A 遺 跡(II)

—函館空港拡張工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

## 本 文 編

平成 4 年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

# 正誤表

北埋調報84　中野Ａ遺跡（Ⅱ）

| 頁 | 行 | 誤 | 正 |
|---|---|---|---|
| 例言12 | 35 | 松野　儀二 | 松野　儀市 |
| 〃 | 37 | 箕野　文二 | 萱野　文二 |
| 〃 | 〃 | 三沢市歴史民族博物館 | 三沢市歴史民族資料館 |
| 21 | 凡　例 | 縄文早期　Ⅰ群Ａ類 | 縄文前期　Ⅱ群 |
| 〃 | 〃 | 縄文前期　Ⅱ群 | 縄文早期　Ⅰ群Ａ類 |
| 55 | 図版キャプション | Ｈ－16 出土土器（１） | Ｈ－16 出土石器（１） |
| 96 | 31 | ３ ～ ５は | ３ ～ ６は |
| 154 | 7 | 35 ～ 44は | 35 ～ 43は |
| 158 | 図版キャプション | Ｈ－22 出土石器（３） | Ｈ－33 出土石器（３） |
| 163 | 21 | 覆土中層からⅡ群土器が | 覆土から、Ⅰ群Ｅ類土器が４点、Ⅱ群土器が |
| 195 | 24 | ２・３は敲き潰 | ２・３は敲き潰している。 |
| 202 | 9 | 十数条の沈線文（７ａ） | 十数条の沈線文（７ｂ） |
| 〃 | 11 | 丸く閉じられ（７ｂ） | 丸く閉じられ（７ａ） |
| 219 | 7 | １・２はⅠ群Ａ類 | １・２はⅠ群Ｂ類 |
| 306 | 6 | 廃棄されて | 廃棄された |
| 308 | 35 | など、157は | なを、158は |
| 〃 | 39 | 157は | 158は |
| 356 | 8 | 管理のため | 管見のため |
| 〃 | 33 | 早稲田５類時 | 早稲田５類期 |
| 〃 | 34 | 表館式・早稲田の６種類 | 表館式・早稲田６類期 |
| 358 | 3 | 表館式・早稲田の６類期 | 表館式・早稲田６類期 |
| 〃 | 2 | 花積下層式・早稲田の５種類 | 花積下層式・早稲田５類期 |
| 371 | 27 | た跡 | た後 |
| 390 | 15 | 乾燥科 | 乾燥化 |
| 〃 | 29 | 帯畜大研法 | 帯畜大研報 |
| 403・404 | 表 | 箆　状 | 箆状石器 |
| 〃 | 〃 | 両　調 | 両面調整石器 |
| 〃 | 〃 | 擦　切 | 擦り切り残片 |
| 〃 | 〃 | 研　磨 | 研磨石材 |
| 〃 | 〃 | たたき | たたき石 |
| 〃 | 〃 | す　り | すり石 |
| 〃 | 〃 | 石　鋸 | 石　鋸 |
| 〃 | 〃 | 環　状 | 環状石斧 |

函館市

# 中野A遺跡(II)

—函館空港拡張工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

## 本文編

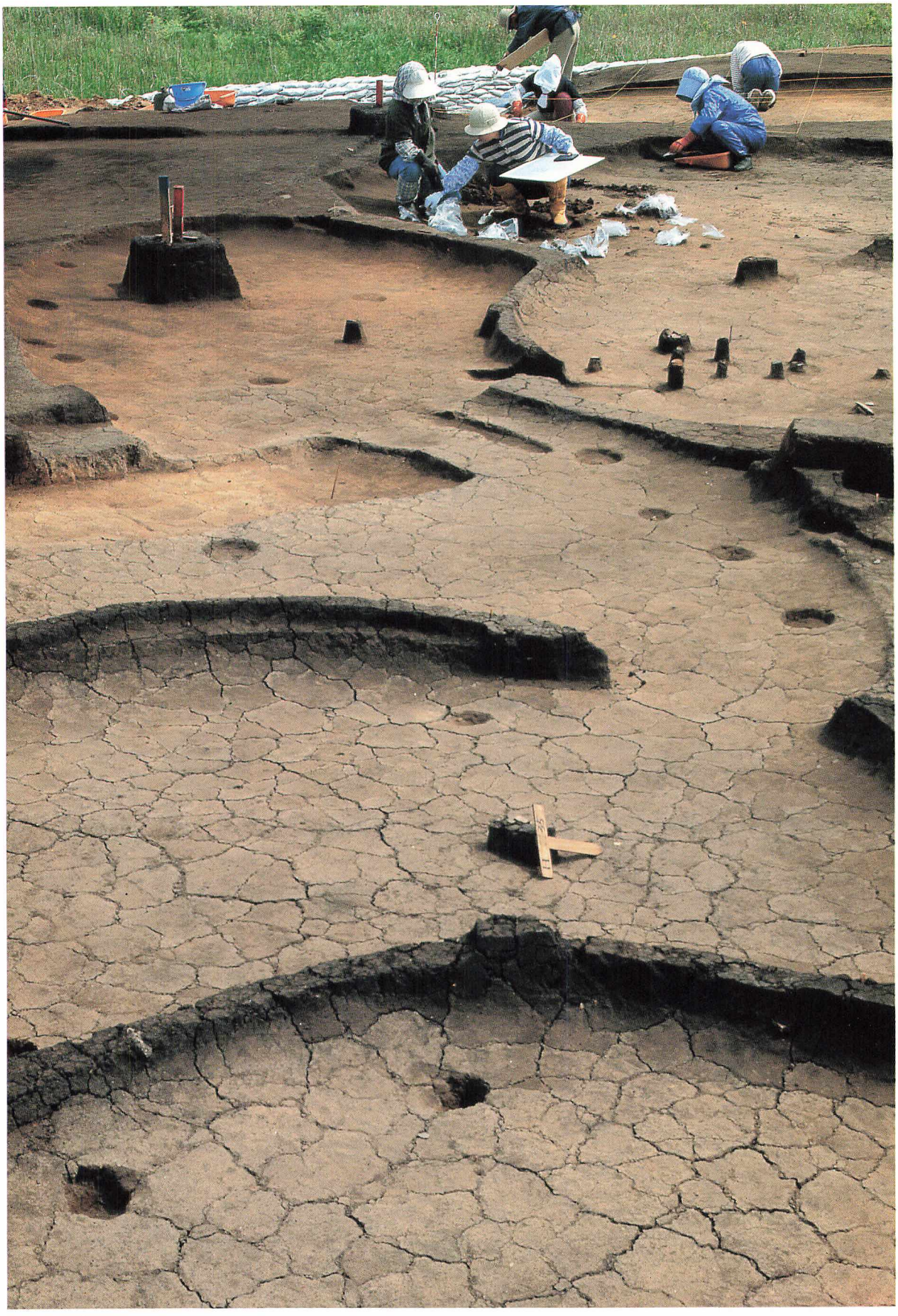
平成4年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター



遺跡周辺の空中写真（南から）

口絵 2



住居跡群



縄文時代早期の貝殻文土器




中野A遺跡土層断面

口絵 4



縄文時代早期の石器

# 例　　言

1．本書は、平成４年度に、函館空港拡張工事用地内において、財団法人北海道埋蔵文化財センターが調査を実施した、函館市中野Ａ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．調査および報告書の作成は、調査部調査第４課が行った。中野Ａ遺跡の調査は平成３年度からの継続事業であり、竪穴住居跡や土壙、Ｔピット、焼土などの遺構番号は平成３年度からの連番である。

3．遺構のうち竪穴住居跡の図版作成、原稿執筆等の分担については、調査を担当した調査員が、それぞれ検出状況等の説明を執筆（Ｈ－19・20・21・22・24・26・30・31・32・33・34・35・38・39・40・41・42・45・46・47・48・49・50・51・52・53・56；和泉田毅、H-15・16・28・43；谷島由貴、H-17・23・25・36・37・44・54・55；山原敏朗、H-18・27；村田　大、H-29；倉橋直孝）、土壙・Ｔピットについては高橋和樹が、焼土については和泉田毅が、遺構出土の土器については遠藤香澄が、石器については山原敏朗が分担、執筆した。そのほかの各章・節の執筆の担当は、以下のとおりである。

Ⅰ１～３・４(1)・６・Ⅱ１，Ⅴ４，あとがき　高橋和樹、Ⅰ４(2)・５(1)，Ⅴ２和泉田毅、Ⅰ４(3)ⅰ)・5(2)ⅰ)，Ⅳ１・３，Ⅴ５遠藤香澄、Ⅱ２・３，Ⅵ５花岡正光、Ⅴ３谷島由貴、Ⅰ４(3)ⅱ)・５(2)ⅱ)，Ⅳ２・３，Ⅴ６山原敏朗、Ⅴ１，Ⅵ２(1)倉橋直孝

4．Ⅵ章の各種分析・同定については、次の方々に執筆を依頼した。

１　山田　治（京都産業大学理学部）、２　吉崎昌一・椿坂恭代（北海道大学埋蔵文化財調査室）、３　藁科哲夫（京都産業大学原子炉研究所）４　近藤錬三（帯広畜産大学土地資源利用学講座）

5．石材鑑定は、花岡正光が行った。一部の試料は上磯町茂辺地中学校の香河正人氏に御教示頂いた。

6．現地の写真撮影は、和泉田毅・谷島由貴・山原敏朗・村田　大・倉橋直孝が、遺物の写真撮影は、村田　大が行った。写真台帳・アルバムの整理、写真図版の作成は、主に尾美里子が従事した。

7．遺構図は、調査員が作成、整理したものを、主に和泉田毅がトレースした。

8．遺物分布図、集計表等の整理・作成には主に服部たえ子・澤田直美・田川幸子・大坂篤美・関口成子が従事し、谷島由貴・倉橋直孝が統括した。

9．土器の接合、復元、拓本には、主に手嶋敦子・田川幸子・山木良子・貝田和子・高橋慶子・種市伊津子・前川紀子が従事し、土器の実測・トレースは、主に山下かず子・小林晴美・栗山麻子・田中ひとみ・米道靖子が行い、これらの作業は遠藤香澄が統括した。

10．石器の接合、計測、集計等には、主に千田照子・波多野にな子が従事し、石器の実測・トレースは渡部久美子・山下かず子・岡崎ゆかり・三国谷環が行い、これらの作業は山原敏朗が統括した。

11．フローテーション試料の大まかな選別作業には、大坂篤美・関口成子が従事した。

12．調査にあたっては、下記の機関および人々の指導ならびに協力を得た（順不同、敬称略）。

文化庁、奈良国立文化財研究所、福島県文化財保護審議会　中村五郎、北海道教育委員会　木村尚俊・畑　宏明・種市幸生・大沼忠春・長沼　孝・田中哲郎・森　秀之、函館市教育委員会　中村公宣・佐藤智雄、市立函館博物館　田原良信、函館市北方民族資料館　長谷部一弘、函館市立図書館、七飯町教育委員会　石本省三、上磯町教育委員会　森　靖裕・落合治彦・松野儀一・野辺地初雄・大矢内愛史、上磯町茂辺地中学校　香河正人、戸井町教育委員会　古屋敷則雄、南茅部町教育委員会　阿部千春・福田裕二・山口　敦・小林　貢、木古内町教育委員会　鈴木正語・管野文二・

三上英則、森町教育委員会　藤田　登、八雲町教育委員会　三浦孝一・柴田信一、知内町教育委員会　高橋豊彦、松前町教育委員会　久保　泰、上ノ国町教育委員会　松崎水穂・斉藤邦典、乙部町教育委員会　森　広樹、江差町教育委員会　藤島一巳、今金町教育委員会　寺崎康史、寿都町教育委員会　内山真澄、倶知安町教育委員会　矢吹俊男、余市町教育委員会　宮　宏明、小樽市教育委員会　大島秀俊・石川直章、札幌市教育委員会　加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二、千歳市教育委員会　田村俊之・高橋　理・豊田宏良、恵庭市教育委員会　上屋真一・松谷純一、江別市教育委員会　高橋正勝・直井孝一・園部真幸・野中一宏・稲垣和幸、石狩町教育委員会　石橋孝夫・工藤義衛、苫小牧市教育委員会　佐藤一夫・宮夫靖夫・工藤　肇・渡辺俊一・二階堂啓也・鈴木耕栄、伊達市教育委員会　竹田輝雄、静内町教育委員会　古原敏弘、旭川市教育委員会　斉藤　傑・瀬川拓郎・友田哲弘、富良野市教育委員会　杉浦重信、名寄市教育委員会　氏江敏文・鈴木邦輝、枝幸町教育委員会　佐藤隆広、紋別市教育委員会　佐藤和利、常呂町教育委員会　武田　修、斜里町教育委員会　金盛典夫、羅臼町教育委員会　涌坂周一、美幌町博物館　小林　敬・荒生健志、浦幌町教育委員会　後藤秀彦、帯広百年記念館　北沢　実、釧路市立郷土博物館　澤　四郎・西　幸隆・松田猛・石川　朗、北海道開拓記念館　野村　崇・平川善祥・山田悟郎・右代啓視・手塚　薫・三野紀雄・赤松守雄・小林幸雄、国立歴史民俗学博物館　西本豊弘・西川博孝、東京大学常呂研究室　宇田川洋、同大学院　新美倫子、早稲田大学　金子浩昌、北海道教育大学函館分校　千代　肇、札幌大学　木村英明、札幌医科大学　百々幸雄・大島直行・石田　肇、北海道大学　吉崎昌一・椿坂恭代・菊池俊彦・林　謙作・天野哲也、青森県立郷土館　福田友之・三宅徹也、青森県埋蔵文化財調査センター　成田滋彦・三浦圭介・鈴木克彦、八戸市博物館　小笠原善範・大野　亨・杉山　武、三沢市歴史民族博物館　長尾正義、札幌市　横山英介、函館市　石田昭男、小笠原忠久

# 凡　例

1　遺構は、以下の記号によって表記し、原則として発掘調査順に番号を付した。

H：竪穴住居跡　P：土壙・土壙墓　T：Tピット　F：焼土　F・C：剥片集中

HF：住居に伴う炉跡　HP：住居に伴う小ピット　SP：小ピット

2　遺構図中の方位は真北を、レベルは標高（単位m）を示す。

3　掲載した実測図等の縮尺は、原則的には以下のとおりである。

遺物分布図　発掘区　1：80，遺構　1：40，遺構実測図　1：40

土器実測図　1：4　　土器拓影図　1：3

石器実測図　剥片石器・石斧　1：2，礫石器　1：3，土・石製品実測図　1：1

4　遺構の規模は、以下のように計測値を表示した。

確認面での長軸長／床（壙底）面での長軸長×確認面での短軸長／床（壙底）面での短軸長×確認面での最大深さ（単位m）

5　土層図中では、土層の混合状態を表現するため、以下の記号を使用した。

A≒B：AとBがほぼ同量混じる。　　A＞B：AにBが少量混じる。

A≫B：AにBが微量混じる。

6　出土遺物の接合図および分布図の●は床面出土の土器、○は覆土出土の土器、▲は床面出土の石器、△は覆土出土の石器をそれぞれ表示している。

# 目　　次

口絵1～4（カラー）
例言・凡例
目次・挿図目次・表目次・図版目次
Ⅰ　調査の概要 …… 1
1　調査要項 …… 1
2　調査体制 …… 1
3　調査の経緯 …… 1
4　調査の方法 …… 9
(1)　調査区の設定 …… 9
(2)　発掘調査の方法 …… 9
(3)　整理の方法 …… 10
5　遺構・遺物の分類 …… 11
(1)　遺構 …… 11
(2)　遺物 …… 11
ⅰ）土器 …… 11
ⅱ）石器 …… 12
6　遺跡の概要 …… 16
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 25
1　位置と周辺の遺跡 …… 25
2　地形・地質 …… 29
3　土層 …… 31
Ⅲ　遺構と遺構出土の遺物 …… 39
1　住居跡 …… 40
2　土壙 …… 230
3　Tピット …… 232
4　焼土 …… 255
Ⅳ　包含層出土の遺物 …… 257
1　土器 …… 257
2　石器 …… 299
3　土・石製品 …… 334
Ⅴ　まとめ …… 335
1　遺跡の立地と遺物の分布、接合、組み合わせ …… 335
2　縄文時代早期中葉の住居跡について …… 346
3　Ⅱ群土器に伴う竪穴住居跡 …… 356
4　Tピット …… 360
5　土器 …… 363
6　石器 …… 370

Ⅵ　自然科学的分析…… 375
1　液体シンチレーション$^{14}$C年代測定結果 …… 375
2　炭化種子…… 376
(1)　試料の採取と分析の依頼について…… 376
(2)　中野Ａ遺跡（1992年度発掘）の植物遺体…… 380
3　中野Ａ、Ｂ遺跡の出土の黒曜石製遺物の原材産地分析…… 382
4　函館市中野Ａ遺跡土壌および焼土（？）の植物珪酸体分析…… 388
5　中野Ａ遺跡の火山灰・土壌の鉱物組成と火山灰の対比…… 394
あとがき…… 399
引用・参考文献…… 401
一覧表…… 403
写真図版（別冊）……

# 挿　図　目　次


図Ⅰ－1　遺跡の位置…… 2
図Ⅰ－2　函館空港用地内の遺跡の位置… 4
図Ⅰ－3　函館空港用地内の遺構の分布… 5
図Ⅰ－4　平成4年度中野A遺跡発掘調査区設定図…… 8
図Ⅰ－5　石器の計測方法の模式図…… 15
図Ⅰ－6　最終面地形測量図と遺構位置図(1)…… 19
図Ⅰ－7　遺構位置図 (2) …… 21
図Ⅰ－8　遺構位置図 (3) …… 23
図Ⅱ－1　周辺の遺跡…… 26
図Ⅱ－2　発掘調査区の位置と周辺の地形…… 30
図Ⅱ－3　基本土層模式図…… 31
図Ⅱ－4　遺跡周辺の地形分類図…… 32
図Ⅱ－5　地形断面と地質柱状図…… 33
図Ⅱ－6　土層断面図（M-8-87～M-7-83, N-8-66～N-7-63）…… 35
図Ⅱ－7　土層断面図（M-7-40～N-7-80）…… 37
図Ⅲ－1　住居跡の位置図…… 39
図Ⅲ－2　H-15　実測図 …… 41
図Ⅲ－3　H-15　出土土器の分布図 …… 43
図Ⅲ－4　H-15　出土石器の分布図 …… 44
図Ⅲ－5　H-15　出土遺物の接合図 …… 45
図Ⅲ－6　H-15　出土土器 …… 47
図Ⅲ－7　H-15　出土石器 …… 48
図Ⅲ－8　H-16　実測図 …… 51
図Ⅲ－9　H-16　出土遺物の分布と接合図…… 53
図Ⅲ－10　H-16　出土土器 …… 54
図Ⅲ－11　H-16　出土石器 (1) …… 55
図Ⅲ－12　H-16　出土石器 (2) …… 56
図Ⅲ－13　H-17　実測図 …… 57
図Ⅲ－14　H-17　出土遺物の分布と接合図…… 58
図Ⅲ－15　H-17　出土土器 …… 59
図Ⅲ－16　H-17　出土石器 (1) …… 60
図Ⅲ－17　H-17　出土石器 (2) …… 61
図Ⅲ－18　H-18　実測図 …… 63
図Ⅲ－19　H-18　出土土器の分布図 …… 65
図Ⅲ－20　H-18　出土石器の分布図 …… 66
図Ⅲ－21　H-18　出土遺物の接合図 …… 67
図Ⅲ－22　H-18　出土土器 (1) …… 70
図Ⅲ－23　H-18　出土土器 (2) …… 71
図Ⅲ－24　H-18　出土石器 (1) …… 74
図Ⅲ－25　H-18　出土石器 (2) …… 75
図Ⅲ－26　H-18　出土石器 (3) …… 76
図Ⅲ－27　H-19　実測図 …… 77
図Ⅲ－28　H-19　出土土器 …… 79
図Ⅲ－29　H-19　出土石器 …… 79
図Ⅲ－30　H-20　実測図 …… 80
図Ⅲ－31　H-20　出土遺物の分布と接合図…… 82
図Ⅲ－32　H-20　出土土器 …… 83
図Ⅲ－33　H-20　出土石器 …… 84
図Ⅲ－34　H-21　実測図 …… 85
図Ⅲ－35　H-21　出土遺物の分布と接合図…… 86
図Ⅲ－36　H-21　出土土器 …… 88
図Ⅲ－37　H-21　出土石器 …… 88
図Ⅲ－38　H-22　実測図 …… 89
図Ⅲ－39　H-22　出土遺物の分布と接合図…… 90
図Ⅲ－40　H-22　出土土器 …… 92
図Ⅲ－41　H-22　出土石器 …… 93
図Ⅲ－42　H-23　実測図 …… 94
図Ⅲ－43　H-23　出土遺物の分布と接合図…… 95
図Ⅲ－44　H-23　出土土器 …… 97
図Ⅲ－45　H-23　出土石器 …… 97
図Ⅲ－46　H-24　実測図 …… 99
図Ⅲ－47　H-24　出土土器 …… 100
図Ⅲ－48　H-24　出土石器 …… 100

図Ⅲ－49　H-25　出土の微細なチップの分布図…… 102
図Ⅲ－50　H-25・44　実測図 …… 103
図Ⅲ－51　H-25　出土土器（床面）の分布と接合図 …… 105
図Ⅲ－52　H-25　出土石器（床面）の 分布と接合図 …… 106
図Ⅲ－53　H-25・44　出土遺物（覆土）の分布と 接合図 …… 107
図Ⅲ－54　H-25　出土土器 (1) …… 109
図Ⅲ－55　H-25　出土土器 (2) …… 110
図Ⅲ－56　H-25　出土石器 (1) …… 112
図Ⅲ－57　H-25　出土石器 (2) …… 113
図Ⅲ－58　H-25　出土石器 (3) …… 114
図Ⅲ－59　H-44　出土石器 …… 115
図Ⅲ－60　H-26　実測図 …… 116
図Ⅲ－61　H-26　出土土器 …… 117
図Ⅲ－62　H-26　出土石器 …… 118
図Ⅲ－63　H-27　実測図 …… 119
図Ⅲ－64　H-27　出土遺物の分布と接合図 …… 120
図Ⅲ－65　H-27　出土土器 ……121
図Ⅲ－66　H-27　出土石器 ……121
図Ⅲ－67　H-28　実測図 …… 122
図Ⅲ－68　H-28　出土遺物の分布と接合図 …… 123
図Ⅲ－69　H-28　出土土器 …… 124
図Ⅲ－70　H-28　出土石器 …… 125
図Ⅲ－71　H-29　実測図 …… 127
図Ⅲ－72　H-29　出土遺物の分布図 …… 129
図Ⅲ－73　H-29　出土遺物の接合図 …… 130
図Ⅲ－74　H-29　出土土器 (1) …… 131
図Ⅲ－75　H-29　出土土器 (2) …… 132
図Ⅲ－76　H-29　出土石器 (1) …… 133
図Ⅲ－77　H-29　出土石器 (2) …… 134
図Ⅲ－78　H-30　実測図 ……136
図Ⅲ－79　H-30　出土土器 …… 137
図Ⅲ－80　H-30　出土石器 …… 138
図Ⅲ－81　H-31　実測図 …… 139
図Ⅲ－82　H-31　出土土器 …… 140
図Ⅲ－83　H-32　実測図 …… 141
図Ⅲ－84　H-32　出土土器 …… 142
図Ⅲ－85　H-32　出土石器 …… 143
図Ⅲ－86　H-33　実測図 …… 145
図Ⅲ－87　H-33　出土遺物の分布と接合図 …… 147
図Ⅲ－88　H-33　出土土器 (1) …… 151
図Ⅲ－89　H-33　出土土器 (2) …… 153
図Ⅲ－90　H-33　出土土器 (3) …… 155
図Ⅲ－91　H-33　出土石器 (1) …… 156
図Ⅲ－92　H-33　出土石器 (2) …… 157
図Ⅲ－93　H-33　出土石器 (3) …… 158
図Ⅲ－94　H-34　実測図 …… 160
図Ⅲ－95　H-34　出土土器 …… 161
図Ⅲ－96　H-34　出土石器 …… 162
図Ⅲ－97　H-35　実測図 …… 164
図Ⅲ－98　H-35　出土土器 …… 166
図Ⅲ－99　H-35　出土石器 …… 167
図Ⅲ－100　H-36　実測図 …… 169
図Ⅲ－101　H-36　出土土器（床面）の分布と接合図…… 171
図Ⅲ－102　H-36　出土石器（床面）の分布と接合図…… 172
図Ⅲ－103　H-36　出土遺物（覆土）の分布と接合図…… 173
図Ⅲ－104　H-36　出土の微細なチップの分布図…… 174
図Ⅲ－105　H-36　出土土器 (1) …… 177
図Ⅲ－106　H-36　出土土器 (2) …… 178
図Ⅲ－107　H-36　出土石器 (1) …… 180
図Ⅲ－108　H-36　出土石器 (2) …… 181
図Ⅲ－109　H-36　出土石器 (3) …… 182
図Ⅲ－110　H-37　実測図 …… 183
図Ⅲ－111　H-37　出土遺物の分布と接合図 …… 185
図Ⅲ－112　H-37　出土土器 …… 187
図Ⅲ－113　H-37　出土石器 (1) …… 188
図Ⅲ－114　H-37　出土石器 (2) …… 189
図Ⅲ－115　H-38・41　実測図 …… 191
図Ⅲ－116　H-38　出土土器 …… 192

図Ⅲ－117　H-41　出土土器 …… 192
図Ⅲ－118　H-38　出土石器 …… 192
図Ⅲ－119　H-41　出土石器 …… 193
図Ⅲ－120　H-39　実測図 …… 194
図Ⅲ－121　H-39　出土石器 …… 195
図Ⅲ－122　H-40　実測図 …… 197
図Ⅲ－123　H-40　出土土器 …… 198
図Ⅲ－124　H-40　出土石器 …… 198
図Ⅲ－125　H-42　実測図 …… 200
図Ⅲ－126　H-42　出土遺物の分布と接合図 …… 201
図Ⅲ－127　H-42　出土土器 …… 202
図Ⅲ－128　H-42　出土石器 …… 203
図Ⅲ－129　H-43　実測図 …… 205
図Ⅲ－130　H-43　出土遺物の分布と接合図 …… 206
図Ⅲ－131　H-43　出土土器 …… 207
図Ⅲ－132　H-43　出土石器 …… 208
図Ⅲ－133　H-45　実測図 …… 209
図Ⅲ－134　H-45　出土土器 …… 210
図Ⅲ－135　H-45　出土石器 …… 210
図Ⅲ－136　H-46　実測図 …… 211
図Ⅲ－137　H-46　出土土器 …… 212
図Ⅲ－138　H-46　出土石器 …… 212
図Ⅲ－139　H-47　出土石器 …… 213
図Ⅲ－140　H-47　実測図 …… 214
図Ⅲ－141　H-48　実測図 …… 215
図Ⅲ－142　H-49　実測図 …… 216
図Ⅲ－143　H-50　実測図 …… 218
図Ⅲ－144　H-50　出土土器 …… 219
図Ⅲ－145　H-50　出土石器 …… 220
図Ⅲ－146　H-51　出土石器 …… 221
図Ⅲ－147　H-51　実測図 …… 221
図Ⅲ－148　H-52　実測図 …… 222
図Ⅲ－149　H-52　出土土器 …… 223
図Ⅲ－150　H-53　実測図 …… 223
図Ⅲ－151　H-54・55　実測図 …… 225
図Ⅲ－152　H-54・55　出土遺物の分布図 …… 226
図Ⅲ－153　H-54　出土石器 …… 227
図Ⅲ－154　H-55　出土土器 …… 227
図Ⅲ－155　H-56　実測図 …… 228
図Ⅲ－156　H-56　出土石器 …… 229
図Ⅲ－157　土壙実測図 (1) …… 233
図Ⅲ－158　土壙実測図 (2) …… 234
図Ⅲ－159　土壙実測図 (3) …… 235
図Ⅲ－160　P-25　出土土器 …… 235
図Ⅲ－161　P-25　出土石器 …… 235
図Ⅲ－162　土壙実測図 (4) …… 236
図Ⅲ－163　P-26　出土石器 …… 236
図Ⅲ－164　P-28　出土遺物の分布と接合図 …… 237
図Ⅲ－165　P-28　出土土器 …… 237
図Ⅲ－166　P-28　出土石器 …… 238
図Ⅲ－167　Tピットの分布図 ……239
図Ⅲ－168　Tピット実測図 (1) …… 241
図Ⅲ－169　Tピット実測図 (2) …… 242
図Ⅲ－170　Tピット実測図 (3) …… 243
図Ⅲ－171　T-18　出土石器 …… 243
図Ⅲ－172　T-19　出土土器 …… 243
図Ⅲ－173　Tピット実測図 (4) …… 244
図Ⅲ－174　T-21　出土石器 …… 244
図Ⅲ－175　T-21　出土土器 …… 244
図Ⅲ－176　Tピット実測図 (5) …… 245
図Ⅲ－177　T-22　出土石器 …… 245
図Ⅲ－178　T-22　出土土器 …… 245
図Ⅲ－179　Tピット実測図 (6) …… 246
図Ⅲ－180　Tピット実測図 (7) …… 247
図Ⅲ－181　Tピット実測図 (8) …… 248
図Ⅲ－182　Tピット実測図 (9) …… 249
図Ⅲ－183　Tピット実測図 (10) …… 250
図Ⅲ－184　Tピット実測図 (11) …… 251
図Ⅲ－185　Tピット実測図 (12) …… 252
図Ⅲ－186　Tピット実測図 (13) …… 253
図Ⅲ－187　Tピット実測図 (14) …… 254
図Ⅲ－188　T-52　出土石器 …… 254
図Ⅲ－189　T-52　出土土器 …… 254
図Ⅲ－190　F-3　実測図 …… 256
図Ⅲ－191　F-3　出土遺物の分布図 …… 256
図Ⅲ－192　F-3　出土土器 …… 256

図Ⅲ－193　F-3　出土石器 …… 256
図Ⅲ－194　F-4　実測図 …… 256
図Ⅳ－1　発掘区別出土遺物点数 (1) …… 258
図Ⅳ－2　発掘区別出土遺物点数 (2) …… 259
図Ⅳ－3　発掘区別出土遺物点数 (3) …… 260
図Ⅳ－4　発掘区別出土遺物点数 (4) …… 261
図Ⅳ－5　Ⅰ群Ａ類土器…… 262
図Ⅳ－6　Ⅰ群Ｂ類の復元土器接合図 (1)…263
図Ⅳ－7　Ⅰ群Ｂ類の復元土器接合図 (2)…265
図Ⅳ－8　Ⅰ群Ｂ類土器 (1) …… 268
図Ⅳ－9　Ⅰ群Ｂ類土器 (2) …… 269
図Ⅳ－10　Ⅰ群Ｂ類土器 (3) …… 270
図Ⅳ－11　Ⅰ群Ｂ類土器 (4) …… 276
図Ⅳ－12　Ⅰ群Ｂ類土器 (5) …… 277
図Ⅳ－13　Ⅰ群Ｂ類土器 (6) …… 285
図Ⅳ－14　Ⅰ群Ｂ類土器 (7) …… 286
図Ⅳ－15　Ⅰ群Ｂ類土器 (8) …… 288
図Ⅳ－16　Ⅰ群Ｂ類土器 (9) …… 289
図Ⅳ－17　Ⅰ群Ｂ類土器 (10) …… 290
図Ⅳ－18　Ⅰ群Ｂ類土器 (11) …… 291
図Ⅳ－19　Ⅰ群Ｂ類土器 (12) …… 292
図Ⅳ－20　Ⅰ群Ｅ類土器 (1) …… 293
図Ⅳ－21　Ⅰ群Ｅ類土器 (2) …… 294
図Ⅳ－22　Ⅱ群土器 (1) …… 296
図Ⅳ－23　Ⅱ群土器 (2) …… 297
図Ⅳ－24　Ⅴ群土器 …… 298
図Ⅳ－25　発掘区別出土石器総数 (1) …… 300
図Ⅳ－26　発掘区別出土石器総数 (2) …… 301
図Ⅳ－27　分類別分布図 (1) …… 302
図Ⅳ－28　分類別分布図 (2) …… 303
図Ⅳ－29　分類別分布図 (3) …… 304
図Ⅳ－30　分類別分布図 (4) …… 305
図Ⅳ－31　分類別分布図 (5) …… 306
図Ⅳ－32　包含層の石器 (1) …… 312
図Ⅳ－33　包含層の石器 (2) …… 313
図Ⅳ－34　包含層の石器 (3) …… 314
図Ⅳ－35　包含層の石器 (4) …… 315
図Ⅳ－36　包含層の石器 (5) …… 316
図Ⅳ－37　包含層の石器 (6) …… 317
図Ⅳ－38　包含層の石器 (7) …… 318
図Ⅳ－39　包含層の石器 (8) …… 319
図Ⅳ－40　包含層の石器 (9) …… 320
図Ⅳ－41　包含層の石器 (10) …… 321
図Ⅳ－42　包含層の石器 (11) …… 322
図Ⅳ－43　包含層の石器 (12) …… 323
図Ⅳ－44　包含層の石器 (13) …… 324
図Ⅳ－45　包含層の石器 (14) …… 325
図Ⅳ－46　包含層の石器 (15) …… 326
図Ⅳ－47　包含層の石器 (16) …… 327
図Ⅳ－48　包含層の石器 (17) …… 328
図Ⅳ－49　包含層の石器 (18) …… 329
図Ⅳ－50　包含層の石器 (19) …… 330
図Ⅳ－51　包含層の石器 (20) …… 331
図Ⅳ－52　包含層の石器 (21) …… 332
図Ⅳ－53　包含層の石器 (22) …… 333
図Ⅳ－54　土・石製品…… 334
図Ⅴ－1　平成３年・４年度土器型式別分布図 (1) …… 336
図Ⅴ－2　平成３年・４年度土器型式別分布図 (2) …… 337
図Ⅴ－3　平成３年・４年度土器型式別分布図 (3) …… 338
図Ⅴ－4　平成３年・４年度土器型式別分布図 (4) …… 339
図Ⅴ－5　平成３年・４年度石器分類別分布・接合関係図 (1) …… 340
図Ⅴ－6　平成３年・４年度石器分類別分布・接合関係図 (2) …… 341
図Ⅴ－7　平成３年・４年度石器分類別分布・接合関係図 (3) …… 342
図Ⅴ－8　平成３年・４年度石器分類別分布・接合関係図 (4) …… 343
図Ⅴ－9　平成３年・４年度石器分類別分布・接合関係図 (5) …… 344
図Ⅴ－10　中野Ａ・Ｂ遺跡石器組成比較図 …… 345
図Ⅴ－11　長軸方向模式図…… 347
図Ⅴ－12　新旧関係図…… 350
図Ⅴ－13　炭化植物遺体の分布図…… 353
図Ⅴ－14　炭化植物遺体の分布図…… 354

図Ⅴ－15　Ⅱ群土器の平均化した分布密度 …… 357
図Ⅴ－16　H-15　出土の植物遺体 …… 357
図Ⅴ－17　土壌水洗で出土したフレイク・チップ…… 357
図Ⅴ－18　住居規模比較 …… 357
図Ⅴ－19　竪穴住居跡長幅比 …… 357
図Ⅴ－20　縄文時代前期前葉の竪穴住居跡例 …… 357
図Ⅴ－21　H-43の上屋構造 …… 359
図Ⅴ－22　中野Ａ遺跡のＴピットの分布と配列…… 361
図Ⅴ－23　中野Ａ遺跡のＴピットの規模と長軸方位…… 362
図Ⅴ－24　Ⅰ群Ｂ類土器集成図 (1) …… 364
図Ⅴ－25　Ⅰ群Ｂ類土器集成図 (2) …… 365
図Ⅴ－26　Ⅰ群Ｂ類土器集成図 (3) …… 366
図Ⅴ－27　Ⅰ群Ｂ類土器集成図 (4) …… 367
図Ⅴ－28　Ⅰ群Ｂ類土器集成図 (5) …… 368
図Ⅴ－29　文様模式図…… 369
図Ⅴ－30　石器の長幅比・重量グラフ (1) …… 373
図Ⅴ－31　石器の長幅比・重量グラフ (2) …… 374
図Ⅵ－1　キハダ属・クルミ属検出遺構分布図 …… 376
図Ⅵ－2　黒曜石の原産地…… 385
図Ⅵ－3　植物珪酸体の分離・定量法…… 388
図Ⅵ－4　試料採取地点の地質柱状図…… 394

# 図　版　目　次

図版Ⅵ－1　1992年度函館市中野Ａ遺跡出土炭化植物遺体…… 381
図版Ⅵ－2　中野Ａ遺跡土壌から分離した植物珪酸体の走査型電子顕微鏡写真 (1) …… 391
図版Ⅵ－3　中野Ａ遺跡土壌から分離した植物珪酸体の走査型電子顕微鏡写真 (2) …… 392
図版Ⅵ－4　中野Ａ遺跡土壌から分離した植物珪酸体の走査型電子顕微鏡写真 (3) …… 393
図版Ⅵ－5　火山灰・土壌の偏光顕微鏡写真 …… 397
図版Ⅵ－6　火山ガラスのＳＥＭ写真…… 398

# 表　目　次


表Ⅰ－1　函館空港拡張整備工事に伴う年次別発掘調査結果概要一覧…… 3
表Ⅰ－2　遺構規模一覧 (1) …… 17
表Ⅰ－3　遺構規模一覧 (2) …… 18
表Ⅱ－1　周辺の遺跡一覧…… 27
表Ⅲ－1　H-15　小ピット一覧 …… 46
表Ⅲ－2　H-16　小ピット一覧 …… 50
表Ⅲ－3　H-19　小ピット一覧 …… 78
表Ⅲ－4　H-20　小ピット一覧 …… 81
表Ⅲ－5　H-21　小ピット一覧 …… 87
表Ⅲ－6　H-22　小ピット一覧 …… 91
表Ⅲ－7　H-24　小ピット一覧 …… 100
表Ⅲ－8　H-26　小ピット一覧 …… 115
表Ⅲ－9　H-28　小ピット一覧 …… 124
表Ⅲ－10　H-30　小ピット一覧 …… 135
表Ⅲ－11　H-31　小ピット一覧 …… 140
表Ⅲ－12　H-33　小ピット一覧 …… 149
表Ⅲ－13　H-34　小ピット一覧 …… 159
表Ⅲ－14　H-35　小ピット一覧 …… 163
表Ⅲ－15　H-38・41　小ピット一覧 …… 193
表Ⅲ－16　H-39　小ピット一覧 …… 195
表Ⅲ－17　H-40　小ピット一覧 …… 196
表Ⅲ－18　H-42　小ピット一覧 …… 202
表Ⅲ－19　H-43　小ピット一覧 …… 204
表Ⅲ－20　H-45　小ピット一覧 …… 210
表Ⅲ－21　H-46　小ピット一覧 …… 212
表Ⅲ－22　H-47　小ピット一覧 …… 214
表Ⅲ－23　H-48　小ピット一覧 …… 216
表Ⅲ－24　H-49　小ピット一覧 …… 217
表Ⅲ－25　H-50　小ピット一覧 …… 219
表Ⅲ－26　H-51　小ピット一覧 …… 221
表Ⅲ－27　H-52　小ピット一覧 …… 223
表Ⅲ－28　H-53　小ピット一覧 …… 224
表Ⅲ－29　H-56　小ピット一覧 …… 229
表Ⅴ－1　中野Ａ・Ｂ遺跡石器組成比較一覧 …… 344
表Ⅴ－2　床面積一覧…… 352
表Ⅴ－3　同時共存の住居床面積一覧…… 355
表Ⅴ－4　掲載縄文前期前葉住居一覧…… 359
表Ⅵ－1　フローテーション遺構別集計… 377
表Ⅵ－2　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値 …… 386
表Ⅵ－3　中野Ａ，中野Ｂ遺跡出土の黒曜石製遺物分析結果…… 387
表Ⅵ－4　中野Ａ，中野Ｂ遺跡出土の黒曜石製石器，石片の原材産地推定結果 …… 387
表Ⅵ－5　中野Ａ遺跡土壌の植物珪酸体組成％…… 390
表Ⅵ－6　火山灰・土壌の鉱物組成と火山ガラスの形態量比…… 395
表1　遺構の出土遺物一覧…… 403
表2　包含層の出土遺物一覧…… 404
表3　遺構別出土遺物一覧…… 405
表4　遺構の掲載土器一覧…… 410
表5　遺構の掲載石器一覧…… 413
表6　包含層の掲載土器一覧…… 421
表7　包含層の掲載石器一覧…… 423

# Ⅰ　調　査　の　概　要

## 1　調　査　要　項

事 業 名　函館空港拡張整備工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者　函館開発建設部
受 託 者　財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺 跡 名　中野Ａ遺跡（北海道教育委員会登載番号：Ｂ－01－40）
所 在 地　函館市中野町100 － 1 ～12
調査面積　8,500㎡
調査期間　平成４年４月20日～平成５年３月26日（現地調査５月６日～10月27日）

## 2　調　査　体　制

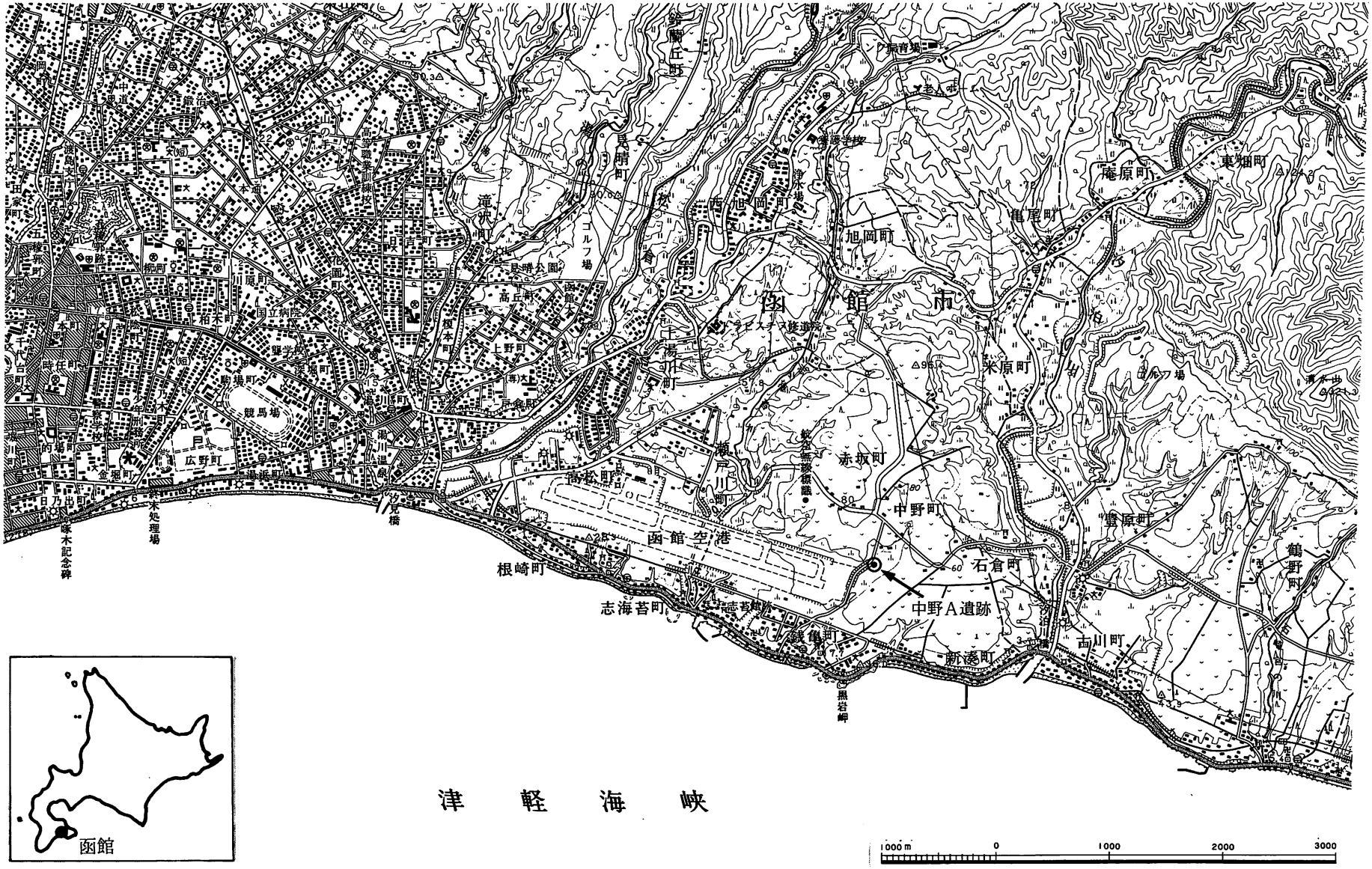
理　　事　　長　　寺山　敏保
専 務 理 事　　永田　春男
常 務 理 事　　中村　福彦
業 務 部 長　　伊藤　庄吉
調 査 部 長　　森田　知忠
調査第４課長　　高橋　和樹（発掘担当者）
主　　任　　和泉田　毅（発掘担当者）
主　　任　　遠藤　香澄（発掘担当者）
主　　任　　花岡　正光
主　　任　　谷島　由貴
文化財保護主事　　山原　敏朗
嘱　　託　　村田　　大
嘱　　託　　倉橋　直孝

## 3　調　査　の　経　緯

平成４年度実施の中野Ａ遺跡の発掘調査は、平成３年度からの継続事業である。函館空港拡張整備工事に伴う調査の経緯については、平成３年度の発掘調査報告書（北埋調報79）にやや詳しく触れたところであり、繰り返さないが、これまでの発掘調査結果を年次別に簡単に列記すると、別表のとおりである。

平成３年度から、㈶北海道埋蔵文化財センターが担当することになった中野Ａ遺跡の発掘調査は、滑走路本体の下につくられる、市道長坂１号線切替工事用地を対象とするものであり、発掘調査が必要とされた中野Ａ遺跡の全面積14,000㎡のうち、平成３年度には5,500㎡を調査、平成４年度には残る8,500㎡を継続調査した。

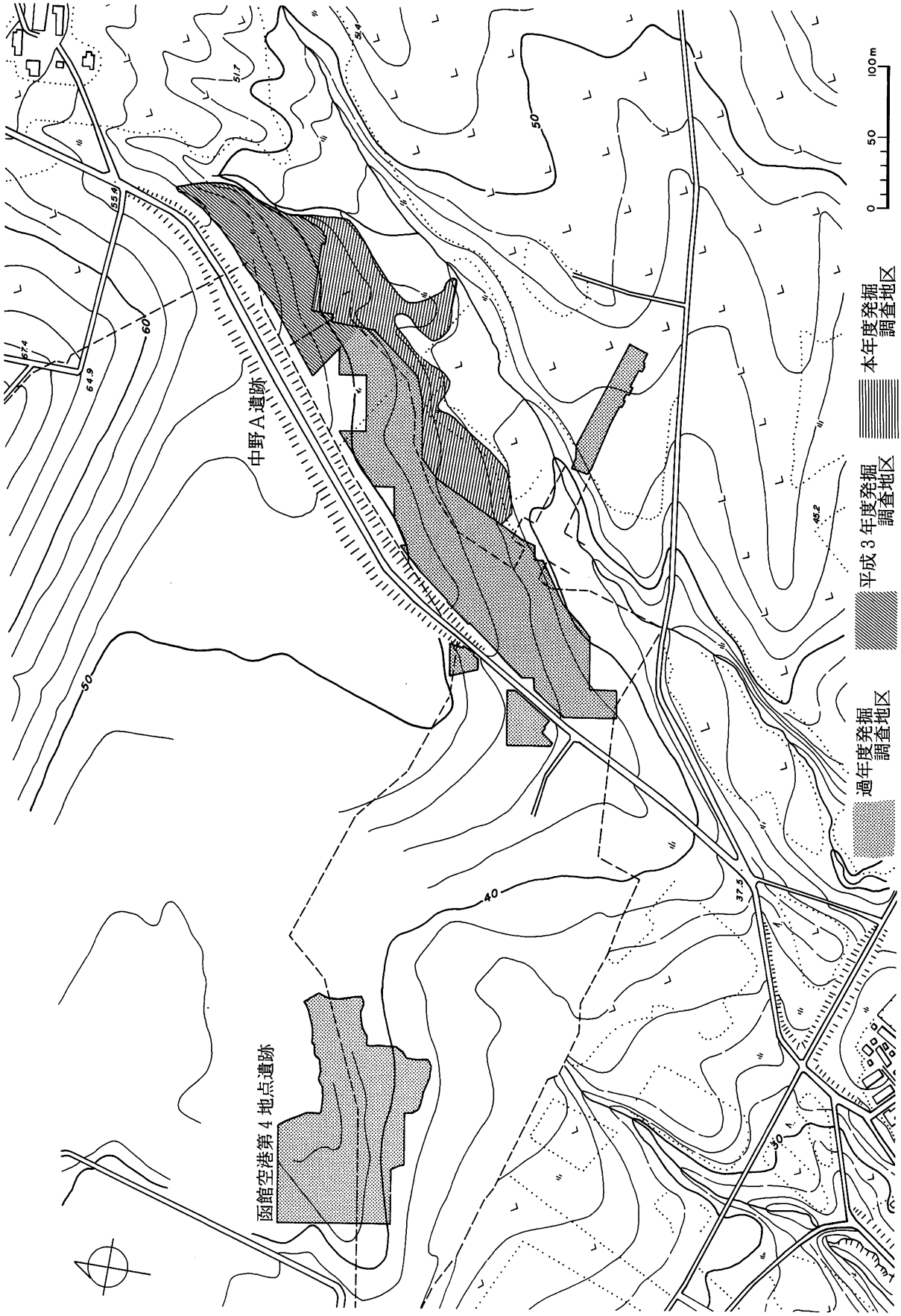
平成４年度の発掘調査区は、14軒の竪穴住居跡が発見された平成３年度調査区の南に隣接する一帯で、平成３年度に見出された集落跡の続きがあるものと予想された地区3,200㎡と、北海道教育委員会の遺跡範囲確認調査によって、竪穴住居跡や遺物包含層は殆どないと判断されていた地区5,300㎡とがあり、後者については、Ｔピットなどの発見・精査を主眼とする、遺構確認調査を実施した。




図Ⅰ－1　遺跡の位置（この地図は、国土地理院発行5万分の1の地形図「五稜郭」を利用したものである。）

| 調査年度 | 調査主体 | 遺跡名 | 時期 | 主要な遺構 |
|---|---|---|---|---|
| 昭和42年度 | 市立函館博物館 | 函館空港第Ⅰ遺跡 | 縄文時代早期末葉<br>縄文時代<br>擦文時代初期 | 竪穴住居跡　1<br>Tピット　54 |
| 昭和43年度 | 市立函館博物館 | 函館空港遺跡群第2地点 | | |
| | | 第3地点 | | |
| | | 第4地点 | 縄文前期中葉 | 竪穴住居跡　60＜<br>貯蔵穴　20<br>Tピット　56 |
| | | 第5地点 | | |
| | | 第6地点 | 縄文時代早期前半 | |
| | | 第8地点 | | |
| | | 第9地点 | | |
| 昭和49年度<br>昭和50年度 | 市立函館博物館 | 函館空港第4地点 | 縄文時代前期中葉<br>縄文時代 | 竪穴住居跡　55<br>土壙　35<br>Tピット　108 |
| 昭和50年度<br>昭和51年度 | 市立函館博物館 | 中野A遺跡 | 縄文時代早期中葉<br>縄文時代早期末葉<br>縄文時代 | 竪穴住居跡　6<br>土壙　12<br>竪穴住居跡　8<br>石組炉　1<br>Tピット　75 |
| | | 中野B遺跡 | 縄文時代早期中葉<br>縄文時代 | 竪穴住居跡　21<br>土壙　15<br>Tピット　22 |
| 昭和53年度 | 函館市教育委員会 | 中野A遺跡 | 縄文時代 | Tピット　7 |
| 平成3年度 | (財)北海道埋蔵文化財センター | 中野A遺跡 | 縄文時代早期前葉<br>縄文時代早期中葉<br>縄文時代 | 竪穴住居跡　1<br>竪穴住居跡　13<br>土壙　10<br>Tピット　11 |
| 平成4年度 | (財)北海道埋蔵文化財センター | 中野A遺跡 | 縄文時代早期中葉<br>縄文時代前期前葉<br>縄文時代 | 竪穴住居跡　40<br>竪穴住居跡　2<br>土壙　16<br>Tピット　40 |
| | | 中野B遺跡 | 縄文時代早期中葉<br>縄文時代 | 竪穴住居跡　148<br>土・墓壙　64<br>Tピット　12 |

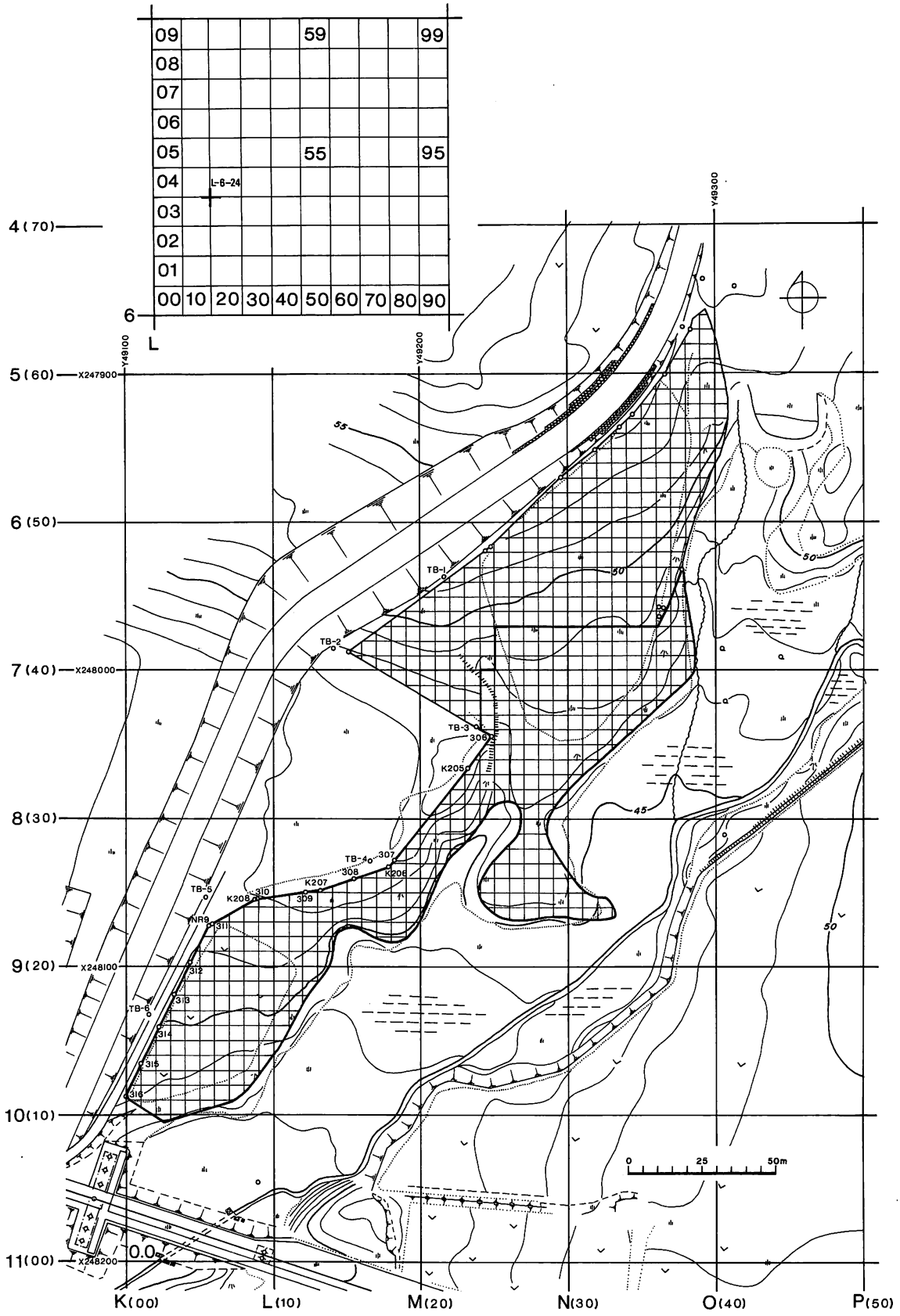
表Ⅰ－1　函館空港拡張整備工事に伴う年次別発掘調査結果概要一覧




図Ⅰ－２　函館空港用地内の遺跡の位置

平成４年度には、中野Ａ遺跡のほか、中野Ｂ遺跡についても、3,700㎡を対象に発掘調査を実施した。これは、やはり滑走路の下に潜る、銭亀宮の川の河川切替工事に先行するものである。中野Ａ遺跡については５月から調査に着手して、７月初旬までに現場を終了、引続き中野Ｂ遺跡の調査に移行した。調査終了後の中野Ａ遺跡では、直ぐに土木工事が開始された。

中野Ａ遺跡の平成４年度発掘分については、調査に並行して、現場段階から整理作業の一部を進め、現場終了後の11月以降、本格的な整理作業に入った。本書の刊行によって、今回の空港拡張整備工事に伴う中野Ａ遺跡の発掘調査は完了となるが、竪穴住居跡だけで148軒と、大量の遺構・遺物が検出された、中野Ｂ遺跡の平成４年度発掘分の整理作業については、当初からその大部分が平成５年度以降に積み残される計画であった。中野Ｂ遺跡についは、次年度以降も、さらに広大な面積を対象に、調査が継続される予定であり、函館空港拡張整備工事用地内には、このほかにも石倉貝塚など発掘調査を必要とする遺跡が存在している。整理作業の積み残しは、今後さらに増大するものと予想され、適切な対応が必要となろう。




図Ⅰ－4　平成4年度中野A遺跡発掘調査区設定図

## 4　調　査　の　方　法

(1)　調査区の設定

平成4年度の中野A遺跡の発掘調査区は、平成3年度の調査区をそのまま踏襲したものである（北埋調報79)。これは、道南新座標系（第XI系）を基準に設定したもので、繰返しになるが、道南新座標系（第XI系）のX軸を利用した南北方向では、50m毎に、北から南へX＝－247900.000が5、－247950.000が6、－248000.000が7となるようにアラビア数字を付し、東西方向はY軸を用いて、西から東へY＝49200.000がM、49250.000がN、49300.000がOとなるようにアルファベットを順に与え、この50mメッシュの南西側の交点の表示をもって、それぞれの大グリッドの呼称とした。

さらに、この50m四方の大グリッドを5m毎に100分割し、大グリッドの南西隅にあたる5m四方の小グリッドが00、北東隅の小グリッドが99となるように、00から北へは01、02、03…、東へは10、20、30…、とそれぞれ番号を付して小グリッドを表示した。

また、平成4年度の調査では一部、トータルステーションとパソコンを利用した遺物の取り上げおよび遺構測量を実施した。このトータルステーション・システムでは、平成3・4年度調査区全体をカバーする、数学座標系の第1象限の座標系を設定、原点（0，0）をK－11の交点に置き、この原点からのX方向距離、Y方向距離、およびZ標高を測定した。トータルステーションにおけるグリッドの呼称については、5m区間を基準とし、X方向ではKラインの0から東へ、Lが10、Mが20、Nが30…、Y方向では11ラインの0から北へ、10が10、9が20、8が30…となるよう数字に変換し、例えば、N－7－00区は30－40区、その北東のN－7－11区は31－41区として扱った（図Ⅰ－4)。

竪穴住居床面の土壌試料採取など、必要に応じて、さらに任意の小さな区画を設定した場合もある。

(2)　発掘調査の方法

平成4年度の発掘調査区は、北海道教育庁文化課が実施した遺跡範囲確認調査の結果によって、大きく二つの地区に分けられていた。一つは、竪穴住居跡などの遺構や遺物が濃密に分布すると予想された地区で、図Ⅰ－4の中央に位置する境界杭306を通る北西－南東のラインから北の一帯である。この地区における調査方法は、平成3年度と同じく、Ⅰ，Ⅱ層およびP．D．3の上半部については重機でこれを除去し、遺物の包含がみられるP．D．3の下半部から人手によって掘開した。

この地区では、平成3年度に設定した南北方向のメインセクションラインを延長し、M－7－82区西壁からM－8－83区西壁までと、N－7－62区西壁からN－8－67区西壁までの2本、東西方向では新たにM－8－49区北壁からN－8－89区北壁まで、計3本のメインセクションベルトを予め残し、土層を確認しながら調査を進めた。遺物については、層位毎に、基本的に全点の出土位置、レベルを測定し、取上げるよう努めた。この取上げ作業の一部については、上述のトータルステーション・システムを利用した。その具体的な方法については、谷島が清水町上清水2遺跡・共栄3遺跡の調査に際して詳述したところと同じである（北埋調報76)。

いま一つは、Tピット以外には遺構や遺物が稀薄と判断された、境界杭306を通る北西－南東のラインから南の地区で、ここについては遺構や遺物の有無を立会によって確かめつつ、Ⅲ層の下部まで重機で掘り下げ、そのあとを人手でクリーニング、検出されたTピットや土壙をそれぞれ調査した。

昨年同様、遺構に関連する土壌はできるだけ採集し、フローテーション作業を実施、剥片集中など微細な遺物についても、小区画で土ごと取上げ、篩分けや水洗選別を行った。

なお、排土の多くは土嚢袋に詰めて、調査区の外縁沿いに延々と積み並べ、雨などによって泥水が直接、銭亀宮の川へ流出し、海へと流下しないよう配慮した。

(3)　整理の方法

ⅰ）　土器

現地では取り上げ後、並行して水洗、大分類を行い、遺物台帳、カードを作成した。遺物量が多く作業が遅滞していくため、台帳整理の終了した分を順次札幌へ搬送し注記作業、仮収納を行った。注記については、昨年度の方法を踏襲した。

札幌での二次整理では、遺構出土の遺物を中心に、遺構間、遺構と包含層間との接合関係を把握することに努めた。また同時に、昨年度調査区出土の遺物と接合する可能性が高いことが予想されたので、再び遺物を広げ、本年度の遺物との接合作業も行った。その結果、昨年度の資料と接合したものは、復元個体では10個体以上、破片資料では100点を越えた。接合資料については、報告書に掲載しなかった分も含め、全て、分類別に、グリッド毎、遺構毎にカードに記載した。復元可能と判断した資料については、接合作業の段階で、展開図を作成し、未接合資料も含め同一個体片の識別に努めた。最終的な復元個体数は、早、前期のものあわせて100個体を越えた。また復元可能ではあるが、器面が削落していたり、体部のみの資料については（6個体)、展開図とカードの作成のみとした。拓影図は文様構成が想定できるものを中心に作成した。実測図では、文様構成が復元可能な部分は、細い実線、破線等で表現した。断面は、最も器形の特徴を表わしている部分を実測するために、90度、あるいは180度回転させた位置で実測したものもある。

復元作業終了後の資料、報告書掲載資料、遺構毎、グリッド毎にまとめ、また、口縁部、底部はそれぞれの遺構、グリッド内で区別し収納した。

ⅱ）　石器

石器も現場で水洗・分類と遺物台帳への登記を行った。このうち、遺構から出土した石器については、図化するものを選び出して札幌に搬入、調査と並行して実測図の作成を進めた。調査終了後に全点を札幌に搬入した。搬入後は分類を再検討するとともに、一部の石器の注記、包含層出土石器の実測図の作成にとりかかった。

分類は遺跡内での分類統一の必要性から昨年度の分類の名称・定義を多少変更した。一部の石器は細分類も試みた。接合作業は昨年度出土の遺物も含めて行ったが、時間と整理場所の制約から磨製石器群・礫石器群を主として行った。計測は最大長・最大幅・最大厚・重量について行った。遺構出土の掲載石器は全点、その他では完形品のみを対象とした。計測の一覧表は掲載石器についてのみ作成したが、一部の石器はグラフを作成し、分類ごとの傾向はつかめるように試みた。石質、特に礫石器については、主として花岡が同定したが、それをもとに一部を山原が行った。

掲載石器の総数は738点（出土石器総数の1.9%）で、遺構出土の石器が470点（遺構出土石器総数の1.8%)、包含層出土の石器が268点（包含層石器総数の2.1%）である。写真は掲載石器のすべてを撮影、収録した。

## 5　遺構・遺物の分類

### (1)　遺構

遺構は、住居跡、土壙、焼土、遺物集中に大きく分け、土壙はさらに土壙とＴピットに、遺物集中は剥片集中と一括出土遺物に分けた。住居跡はＨ、土壙はＰ、ＴピットはＴ、焼土はＦ、剥片集中はＦ・Ｃと記号を付した。

住居跡としたものは、床面に炉（火を焚いた痕跡が認められるものを含む）を有するものか、または上屋を想定しうる柱穴もしくは柱穴状小ピットがあるものなど、そこで生活することが可能であった遺構である。本年度の調査で発見された住居跡は、すべて地面を掘りくぼめてつくられた、いわゆる竪穴住居跡である。

土壙としたものは、人為的に地面を掘りくぼめた遺構で、平面形、断面形に特にこれといった規則性は見られなかった。規模や構造などもいろいろで、機能や性格などはほとんど不明である。ただ調査の過程で、平面形、断面形、覆土の堆積状況、遺物の出土状況などから、墓の可能性があると考えられた、いわゆる土壙墓の類もこれに含まれている。

Ｔピットとしたものは、細長く、深い溝状の土壙で、小判型に近い小型のものも含めている。Ｔピットの覆土は自然堆積で、壙底直上に黒色または黒褐色の腐植土が見られるという特色がある。また壙底に杭状の小ピットが見られるものもあった。

焼土としたものは、住居跡に伴わず、単独に検出されたものであり、屋外炉の可能性もある。遺物集中としたものは、遺構中や包含層中から大量の剥片（石器などの製作過程で出る剥片）や、一個体以上の土器片がかたまって出土したものである。剥片集中としたものはすべて遺構中で検出されており、遺構の項で説明している。一括出土の遺物は特に項をもうけて説明せず、遺構、包含層のところで随時扱っている。なお、包含層中で検出されたものは、出土遺物の集計では包含層出土遺物の項で扱っている。

### (2)　遺物

ｉ）土器

Ⅰ群　縄文時代早期の土器群

Ａ類　胎土に繊維が混入する。縄文を地文とし、平行沈線文が施されるもので、小波状口縁をなす。日計式押型文土器に伴うとみられるもので、昨年度のＨ－１の土器に接合した資料のほかに、Ｎ－７－30を中心とした地区から出土している。

Ｂ類　貝殻腹縁圧痕文、沈線文、刺突文、腹縁文等で文様が構成されるもので、物見台式に相当するもの。尖底が主で、平底のものもある。本年度調査区の主体をなす土器である。

Ｃ類　物見台式と住吉町式の中間に位置づけられるもの。

Ｄ類　貝殻腹縁圧痕文、沈線文、刺突文等で文様が構成されるもので、住吉町式に相当するもの。

Ｅ類　沈線文、刺突文、隆起帯等で文様が構成される平底のもので、ムシリⅠ式に相当する。Ｈ－25・36を中心とした地区をはじめ、調査区南側に比較的分布している。

Ⅱ群　縄文時代前期の土器群

胎土に繊維が混入する。押し引き文、斜行、羽状縄文が施される尖底土器で、前期前半の春日町・トドホッケ式に相当するもの。住居跡周辺をはじめＮ－７－09を中心とした地区に分布している。

Ⅴ群　縄文時代晩期の土器群

縦行縄文、斜行縄文が施されたもので、大洞式に相当するもの。

なお昨年度晩期の土器群をⅢ群としたが、中期、後期の土器群の存在を想定して今年度はⅤ群と改めた。

またⅠ群B類土器の文様の表現は昨年度のものを踏襲した。

ii）　石器

石器の分類は、昨年同様、剥片石器群、磨製石器群に大別した。器種の定義も基本的に昨年度を踏襲したが、いくつかの器種については分類・名称を変更している。変更した器種は、遺跡全体の分類統一の必要から昨年度出土の遺物も本年度の分類に変更して集計を行なっている。また、いくつかの器種については細分類も行ない、本遺跡出土石器の特徴を引き出すことを試みた。本年度の分類・細分類は、以下のとおり行なった。なお、複数の器種が複合していると考えられるものは、原則的に下位の分類に含めている。

Ⅰ　剥片石器群

**石鏃**

石鏃は形態を中心に5細分した。

1類　三角形

a　凹基　　b　平基

2類　柳葉形

3類　有茎

4類　上記の分類以外のもの　製作が簡易で輪郭線が側縁が丸味をおびるものが多く、一部未製品を含む可能性がある。

5類　形態不明

**石槍**

石槍は、尖頭部をもつ木葉形・柳葉形の石器に限った。大きさ・形態から3細分した。最大長8㎝を基準に大小に区分した。

1類　木葉形

a　大型　　b　小型

2類　柳葉形

a　大型　　b　小型

3類　形態不明　尖頭部をもつ欠損品

**石錐**

石錐は、形態または製作方法から5細分した。

1類　素材の一部に尖頭部を作り出すもの　尖頭部以外はあまり加工をしていない

2類　素材の加工によるもの　尖頭部と身部の区別は明確ではない

3類　剥片または石器の折れ面を尖頭部に利用しているもの

4類　石鏃の転用品

5類　形態不明

**箆状石器**

箆状石器は、全体の形態から3細分（1～3類）、刃部形態から3細分（a～c類）した。

1類　三角形またはそれに近い台形状のもの　　a類　直刃加工

2類　方形またはそれに近い台形状のもの　　b類　曲刃加工

3類　形態不明　　c類　素材のまま

**両面（片面）調整石器**

両面が加工された石器のうち、上記の分類に含めることができないもの。形態的な特徴から5細分した。なお、形態が同じ片面調整石器も一部含めている。

1類　円形・楕円形
2類　小型三角形・撥形
3類　木葉形
4類　半円形　一方の側縁に平坦面をもつ。
5類　その他、形態不明　欠損品のうち上記の器種も含め分類できないもの

**石匙**

身部の加工状況から5細分（1～5類）、つまみの形態から4細分（a～d類）した。昨年度の石匙形石器も細分中に含める。

1類　両面加工　　a類　菱形
2類　半両面・片面加工　　b類　円形
3類　一側縁・周辺加工　　c類　その他抉りのはいったもの
4類　ほとんど加工しないもの（石匙形石器）　　d類　棒状
5類　形態不明

**スクレイパー**

連続する剥離によって刃部を作出しているもの。刃部の形態から5細分した。

1類　刃部が外湾するもの
　a類　刃部が短辺にあるもの　　b類　刃部が長辺にあるもの、円形掻器を含む
2類　刃部が直線状になるもの
3類　刃部が内湾するもの
4類　抉りのある刃部をもつもの、抉入削器
5類　刃部が鋸歯状になるもの
6類　形態不明

**加工痕ある剥片（Rフレイク）**

**使用痕ある剥片（Uフレイク）**

**石核**

**剥片**

Ⅱ　磨製石器群

**磨製石斧**

磨製石斧は製作方法から4細分した。

1類　擦り切り技法によるもの
2類　打ち欠き・敲打によるもの
3類　刃部のみを作出しているもの、礫石斧
4類　不明

**環状石斧**

**擦り切り残片**

**研磨石材**

**石斧破片**

小破片のため分類できないもの。昨年度未分類磨製遺物としたもの。

Ⅲ　礫石器群

**たたき石**

たたき石は素材の形態から５細分した。

１類　球状のもの

２類　円・楕円形のもの

３類　長円形のもの　原則として長幅比２：１以上

４類　棒状のもの

５類　形態不明

**すり石**

すり石も素材の形態から４細分した。

１類　断面が三角形に近いもの　ほぼ例外なく縁辺をすっている。

２類　円・楕円形のもの

３類　長円形のもの

４類　形態不明、その他

**砥石**

砥石はすり石との分類が一部困難であり、石材と機能部の状況を考慮して分類した。機能部については、すり面の断面が平坦かやや凹状になるものを砥石としている。

１類　すり面が平坦かやや凹状になるもの

２類　すり面がＵ字状になるもの

３類　細長い溝状のくぼみを持つもの

**石鋸**

石鋸もすり石との区別が一部困難であり、砥石同様石材と機能部の状況を考慮して分類した。素材断面幅が狭く、機能部がＶ字またはＵ字状の断面を持つものを石鋸とした。

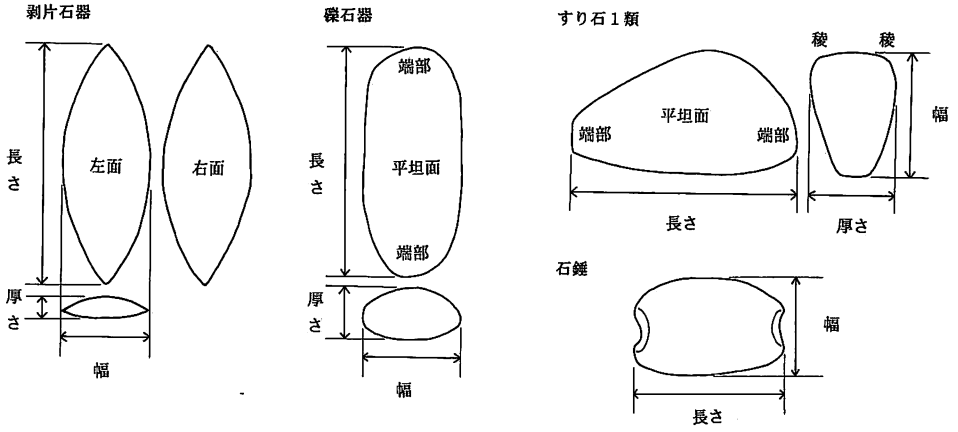
**石皿・台石**

**石錘**

**加工痕ある礫**

**礫・礫片**

計測については昨年度の報告同様であり、図Ⅰ－５のように行なった。磨製石器については剥片石器と同様である。礫石器は機能部にこだわらず、長軸を長さ、短軸を幅としている。部位の名称は、本文中で便宜上使用したものについて下図に記した。なお、遺物実測図では、たたき痕はＶ－Ｖ、すり痕は←→で範囲を表している。




図Ⅰ－５　石器の計測方法の模式図

## 6　遺　跡　の　概　要

中野Ａ遺跡は函館市街地の東方約８㎞、津軽海峡に注ぐ小河川、銭亀宮の川の右岸に位置する。河口からは約１㎞遡った、標高40～50ｍ程の段丘上で、ここからは、海峡を約20㎞隔てた対岸の下北半島が間近に眺望できる。相対する銭亀宮の川左岸には、中野Ｂ遺跡が所在しており（図Ⅰ－１，２）、これら銭亀宮の川の両岸に営まれた縄文時代早期の集落が、下北半島の文化などと密接な関係にあったことは、これまでの調査によっても知られている。

３節の経緯に触れたように、中野Ａ遺跡は過去昭和50・51年度および53年度にも函館空港拡張工事のため発掘調査が実施されており、縄文早期中葉の貝殻文尖底土器を伴う竪穴住居跡６軒などからなる集落跡や、早期末葉の梁川町式土器期の竪穴住居跡８軒などから成る集落跡、合計82基のＴピットなどが発見されている（図Ⅰ－３）。

市道長坂１号線の切替工事に係る平成３年度の調査区は、中野Ａ遺跡の過去の調査区の北東に隣接する地域で、調査の結果、縄文早期前葉の日計式土器併行の縄文施文の土器を伴う竪穴住居跡が１軒、早期中葉の物見台式土器を伴う竪穴住居跡が13軒検出され、このほか土壙10基、Ｔピット11基、焼土２ヵ所のほか、礫の集中２ヵ所、フレイク・チップ集中11ヵ所などの遺構が見出された。遺物も豊富で、貝殻文尖底土器や、石鏃、石槍、石錐、箆状石器、掻器、削器、石匙、石匙形石器、抉入石器などの剥片石器、磨製石斧、擦切残片、そして、たたき石、すり石、砥石、石鋸、石皿、石錘などの礫石器が出土、特に擦切磨製石斧や礫石器の類の多さが注目された（北埋調報79）。

平成４年度の調査区は、３年度調査区の南に続く一帯で、新たに竪穴住居跡42軒、土壙17基、焼土２ヵ所、Ｔピット40基など数多くの遺構と多量の遺物が検出された（図Ⅰ－６）。

竪穴住居跡のうち２軒（Ｈ－15，43）は、春日町式土器を伴う縄文時代前期前葉のもので、残る40軒は昨年同様、物見台式土器を伴う早期中葉のものであった。それらは径30ｍ程の範囲内に密集し、重複する様相がみられた。

物見台式期の竪穴住居跡は、平面形が隅丸方形や台形状を呈し、中央部に地床炉を有する例が多かった、昨年度のそれとはやや異なり、卵形や円形プランのものが多く、炉跡がない例も少なくなかった。Ⅴ章２節に説明するように、竪穴住居は数軒単位で存在、変遷したものと考えられるが、全般的な傾向としては、平成４年度に見出された住居が、時期的により新しく位置付けられるものと思われる。床面の土壌からはフローテーションにより、クルミやキハダなどの炭化種子が検出されている。

前期の竪穴住居跡２軒は、長軸方向は異なるが、プランは長方形で、側壁の一部に張り出しを有し、明確な炉址がみられない。柱穴は中央に３本、長軸側の一端に３本、他端に４本と、整然たる配列が認められるなど、形状や構造はほぼ同一であった。

集落跡付近に見出された土壙には墓と推定されるものもあり、焼土は屋外炉の可能性が高い。集落から遠く離れた土壙は、何らかの作業の結果残された穴で、墓や貯蔵穴などではないと判断される。

Ｔピットには、長径が1.5m以下のごく短いタイプ、1.8～2.6ｍ程のもの、３～４ｍと狭長なもの、底が４ｍを超えるさらに長いものなどがみられた。

出土遺物のうち土器は、物見台式の範疇に含まれる貝殻文尖底土器が大半を占め、その他に日計式併行の縄文施文土器やムシリⅠ式土器、前期の春日町・トドホッケ式土器などがある。

石器も数多く出土しており、剥片石器や磨製石斧、礫石器などのそれぞれに豊富な器種が認められた。石製品には少量ながら環状石斧や玦状耳飾などがあり、土製品には春日町式土器を利用した土器片錘などがみられた。

表Ⅰ－2　遺構規模一覧(1)

住居跡　　単位m

| 遺構番号 | 平面形 | 長　軸（上場／下場） | × | 短　軸（上場／下場） | × | 深さ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| H － 15 | 隅丸長方形 | 4.90／4.70 | × | 2.80／2.40 | × | 0.40 |
| 16 | 隅丸方形 | 5.70／5.60 | × | 5.30／5.00 | × | 0.25 |
| 17 | 略卵形 | 2.33／2.03 | × | 2.16／1.95 | × | 0.24 |
| 18 | 隅丸長方形 | 7.86／7.52 | × | 4.64／4.40 | × | 0.30 |
| 19 | 卵形 | 3.84／3.68 | × | 2.88／2.74 | × | 0.18 |
| 20 | 卵形 | 4.44／4.24 | × | (3.90)／(3.70) | × | 0.14 |
| 21 | 卵形 | 3.40／3.14 | × | 3.25／3.13 | × | 0.15 |
| 22 | 卵形 | (3.90)／(3.70) | × | 2.90／2.75 | × | 0.16 |
| 23 | 長円形 | 5.60／5.40 | × | 3.68／3.52 | × | 0.16 |
| 24 | 卵形 | (5.62)／(5.20) | × | 4.50／4.26 | × | 0.18 |
| 25 | 台形状 | 6.24／5.96 | × | 4.60／4.24 | × | 0.36 |
| 26 | 卵形 | 5.00／4.80 | × | (4.00)／(3.70) | × | 0.22 |
| 27 | 円形 | 3.48／3.10 | × | 3.32／2.88 | × | 0.15 |
| 28 | 円形？ | ——／—— | × | ——／—— | × | 0.15 |
| 29 | 隅丸長方形 | 6.42／5.84 | × | 4.90／4.60 | × | 0.34 |
| 30 | 卵形 | 4.50／4.30 | × | 3.80／3.50 | × | 0.12 |
| 31 | 卵形 | 4.55／4.34 | × | (3.25)／(3.00) | × | 0.15 |
| 32 | 卵形 | 4.15／3.90 | × | 3.35／3.16 | × | 0.14 |
| 33 | 卵形 | 6.18／5.90 | × | 4.20／4.10 | × | 0.18 |
| 34 | 卵形 | 4.40／4.24 | × | (3.80)／(3.60) | × | 0.15 |
| 35 | 卵形？ | (3.90)／(3.70) | × | 3.10／2.96 | × | 0.16 |
| 36 | 台形状 | 4.72／4.36 | × | 3.18／3.00 | × | 0.18 |
| 37 | 台形状 | 5.80／5.60 | × | 5.00／4.82 | × | 0.18 |
| 38 | 卵形？ | ——／—— | × | ——／—— | × | 0.08～0.12 |
| 39 | 卵形？ | 4.80／4.70 | × | (3.70)／(3.50) | × | 0.06～0.15 |
| 40 | 卵形？ | (4.10)／(3.90) | × | 3.10／2.90 | × | 0.12～0.14 |
| 41 | —— | ——／—— | × | ——／—— | × | —— |
| 42 | 卵形？ | ——／—— | × | ——／—— | × | —— |
| 43 | 隅丸長方形 | 4.30／4.00 | × | 2.35／2.15 | × | 0.25 |
| 44 | —— | ——／—— | × | ——／—— | × | —— |
| 45 | 略卵形 | (3.80)／(3.40) | × | (3.14)／(3.00) | × | 0.18 |
| 46 | 卵形 | 4.05／3.84 | × | 3.55／3.40 | × | 0.16 |
| 47 | 卵形 | 4.90／4.65 | × | (4.10)／(3.80) | × | 0.05～0.12 |
| 48 | 卵形？ | ——／—— | × | ——／—— | × | —— |
| 49 | 卵形？ | ——／—— | × | ——／—— | × | —— |
| 50 | 卵形？ | ——／—— | × | ——／—— | × | —— |
| 51 | —— | ——／—— | × | ——／—— | × | —— |
| 52 | —— | ——／—— | × | ——／—— | × | —— |
| 53 | —— | ——／—— | × | ——／—— | × | —— |
| 54 | 卵形 | 4.05／3.88 | × | (3.88)／(3.00) | × | 0.16 |
| 55 | 楕円形 | (2.60)／(2.40) | × | 2.10／1.96 | × | 0.12 |
| 56 | 卵形 | 3.04／3.02 | × | 2.20／2.12 | × | 0.01～0.15 |

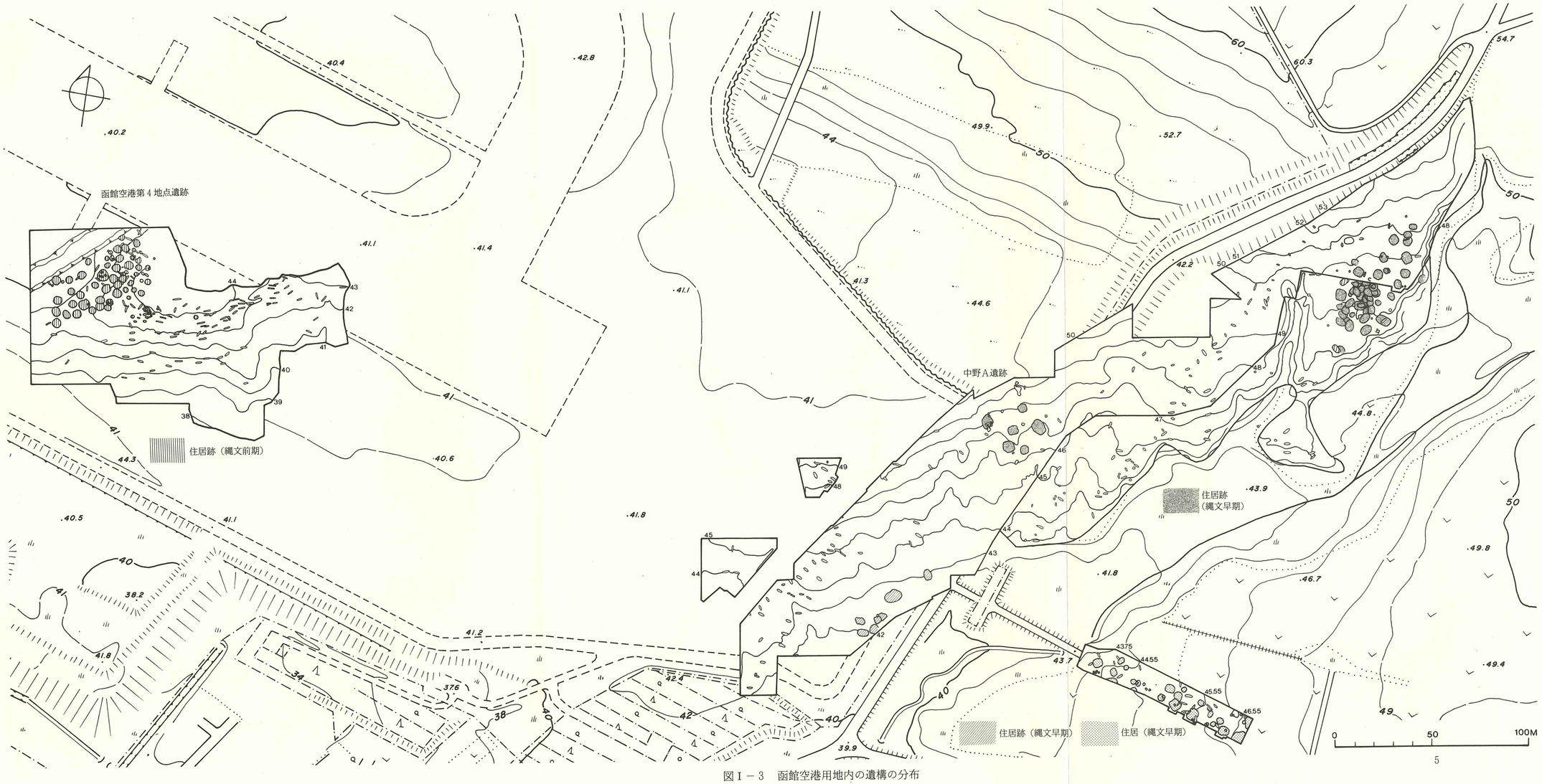
## 表Ⅰ－３　遺構規模一覧(2)

土　壙

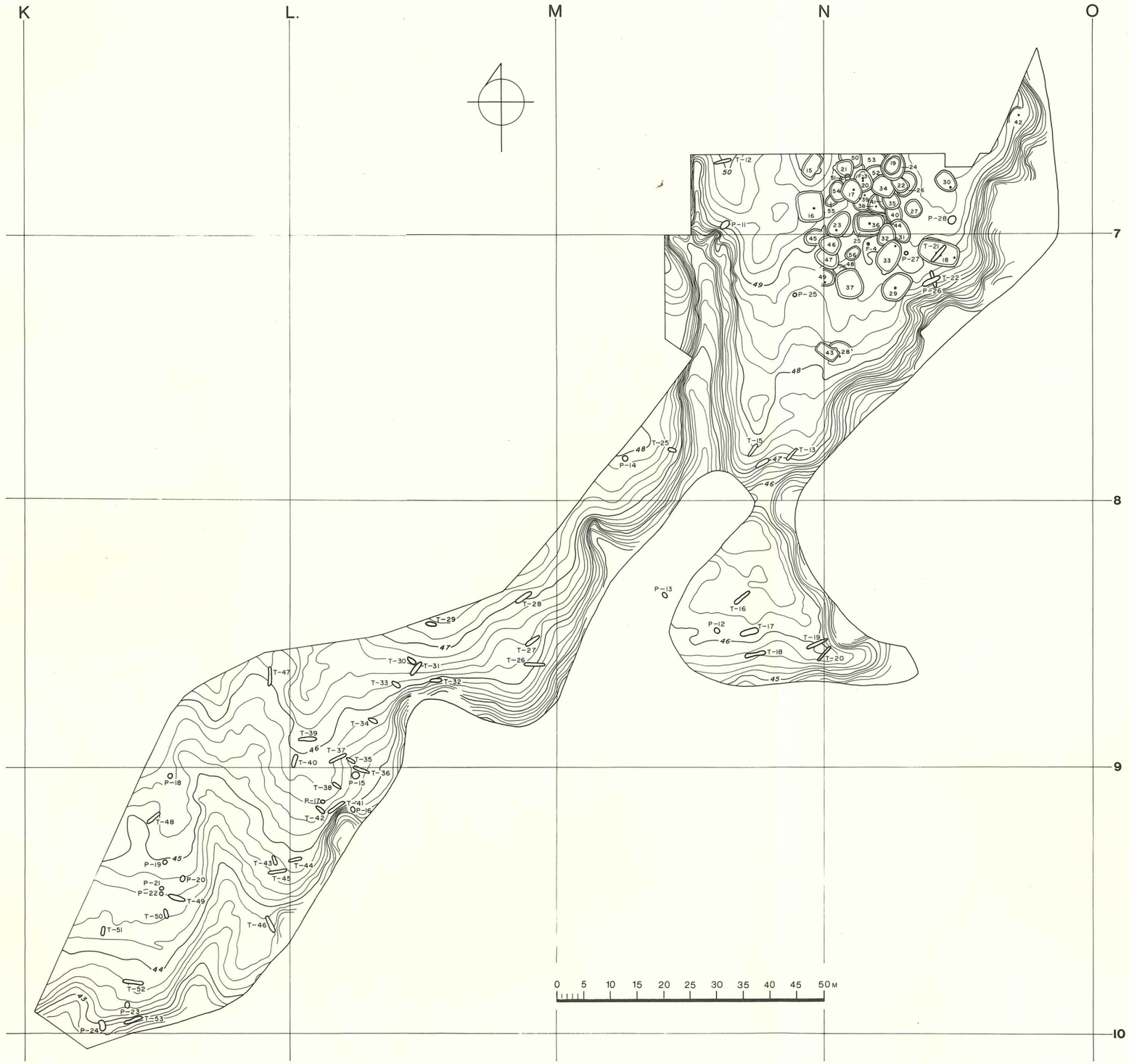
| 遺構番号 | 発　掘　区 | 平面形 | 長軸(上/下)×短軸(上/下)×深さ(m) | 長軸方位 | 出土遺物・備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P－11 | M－7－60 | 不整長円形 | (2.00)/(1.40)×1.20/0.50×0.60 | N－44°－E | |
| P－12 | M－9－55・65 | 不整円形 | 1.10 / 0.87 ×0.86/0.66×0.20 | N－71°－W | |
| P－13 | M－9－36・46 | 不整長円形 | 1.20 / 1.07 ×0.68/0.46×0.24 | N－30°－W | |
| P－14 | M－8－21 | 不整円形 | 0.96 / 0.80 ×0.90/0.76×0.13 | N－75°－E | |
| P－15 | L－10－29 | 不整円形 | 1.55 / 1.26 ×1.31/0.97×0.33 | N－57°－E | |
| P－16 | L－10－28 | 不整円形 | 1.17 / 0.78 ×0.86/0.64×0.58 | N－24°－W | |
| P－17 | L－10－18 | 不整円形 | 0.70 / 0.55 ×0.64/0.50×0.30 | N－47°－E | |
| P－19 | K－10－56 | 不整円形 | 0.79 / 0.70 ×0.74/0.63×0.18 | N－44°－E | |
| P－20 | K－10－55・65 | 不整円形 | 0.87 / 0.76 ×0.74/0.58×0.17 | N－6°－W | |
| P－21 | K－10－55 | 不整円形 | 0.70 / 0.63 ×0.60/0.52×0.42 | N－80°－W | |
| P－23 | K－10－31 | 不整円形 | 1.28 / 0.74 ×0.90/0.62×0.80 | N－5°－E | |
| P－24 | K－10－20・30 | 不整長円形 | 1.98 / 1.56 ×1.10/0.80×0.48 | N－10°－W | |
| P－25 | M－8－87 | 不整長円形 | 0.39 / 0.33 ×0.29/0.20×0.06 | N－5°－W | 土器１、石器１ |
| P－26 | N－8－38・48 | 不整溝状 | 4.37 / 4.24 ×0.92/0.60×0.52 | N－20°－W | 土器22、石器４、石片８ |
| P－27 | N－8－39 | 不整円形 | 0.43 / 0.19 ×0.39/0.18×0.16 | N－8°－E | 土器３、石片１ |
| P－28 | N－7－40 | 不整円形 | 1.70 / 1.45 ×1.46/1.25×0.24 | N－50°－E | 土器152、石器38、石片10 |

Ｔピット

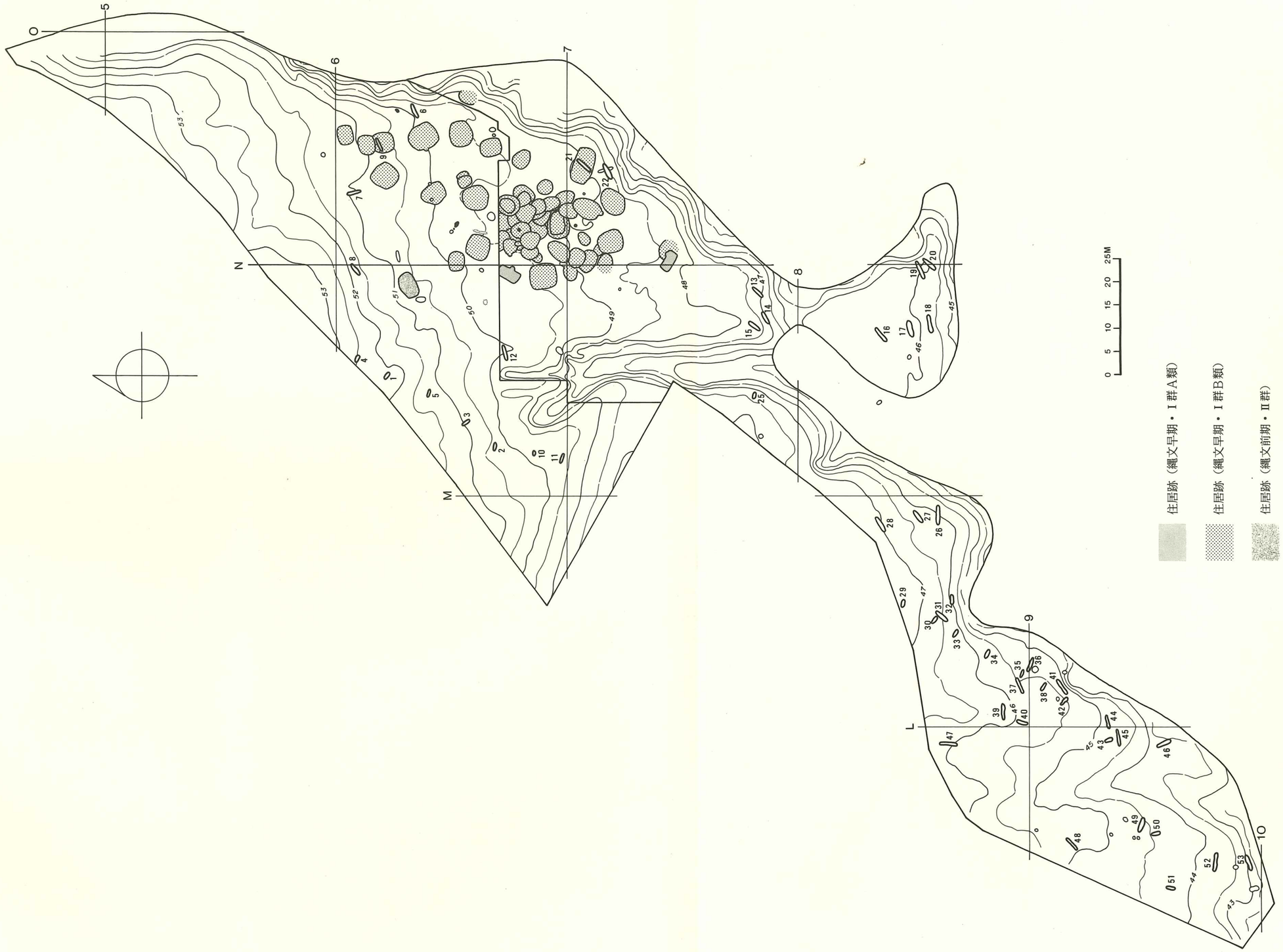
| 遺構番号 | 発　掘　区 | 平面形 | 長軸(上/下)×短軸(上/下)×深さ(m) | 長軸方位 | 出土遺物・備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| T－12 | M－7－52・62 | 溝状 | 3.60 / 3.48 ×0.45/0.09×0.76 | N－78°－E | |
| T－13 | M－8－81 | 溝状 | 3.14 / 3.16 ×0.46/0.16×0.96 | N－43°－E | |
| T－14 | M－8－71 | 溝状 | 3.00 / 3.30 ×0.56/0.15×1.22 | N－59°－E | |
| T－15 | M－8－71・72 | 溝状 | 2.80 / 2.80 ×0.60/0.10×1.20 | N－35°－E | |
| T－16 | M－9－66 | 溝状 | 3.65 / 3.92 ×0.62/0.18×0.78 | N－48°－E | |
| T－17 | M－9－75 | 溝状 | 3.58 / 3.38 ×0.96/0.19×1.04 | N－75°－E | 石器１ |
| T－18 | M－9－74 | 溝状 | (3.60)/ 3.86 ×0.65/0.20×1.06 | N－80°－E | 石器１ |
| T－19 | M－9－94 | 溝状 | (4.30)/ 3.82 ×0.60/0.28×0.60 | N－67°－E | 土器１ |
| T－20 | M－9－94・N－9－04 | 溝状 | 3.64 / 3.35 ×0.50/0.16×0.56 | N－39°－E | |
| T－21 | N－8－49 | 溝状 | 4.10 / 4.10 ×0.68/0.14×1.10 | N－40°－E | 土器45、石器10、石片23 |
| T－22 | N－8－38・48 | 溝状 | 3.70 / 3.60 ×1.06/0.17×0.73 | N－64°－E | 土器53、石器６、石片16 |
| T－25 | M－8－41 | 不整長円形 | 1.36 / 1.12 ×0.50/0.24×0.35 | N－79°－W | |
| T－26 | L－9－83・93 | 溝状 | 3.92 / 4.10 ×0.49/0.25×0.79 | N－85°－W | 土器42、石片１ |
| T－27 | L－9－84・94 | 溝状 | 3.08 / 2.97 ×0.58/0.11×0.94 | N－53°－E | |
| T－28 | L－9－86 | 溝状 | 3.72 / 3.38 ×0.70/0.22×0.98 | N－61°－E | |
| T－29 | L－9－55 | 不整長円形 | 1.84 / 1.98 ×0.64/0.10×1.00 | N－78°－W | |
| T－30 | L－9－43・44 | 不整長円形 | 1.94 / 1.98 ×0.64/0.12×1.06 | N－52°－W | |
| T－31 | L－9－53 | 溝状 | 3.17 / 3.13 ×0.69/0.15×1.07 | N－41°－E | |
| T－32 | L－9－53 | 不整長円形 | 2.09 / 1.79 ×0.52/0.20×0.74 | N－83°－E | |
| T－33 | L－9－33・43 | 不整長円形 | 1.81 / 1.84 ×0.58/0.09×1.06 | N－54°－W | |
| T－34 | L－9－31 | 不整長円形 | 1.95 / 1.95 ×0.53/0.10×0.85 | N－64°－W | |
| T－35 | L－9－20 | 不整長円形 | 1.81 / 1.97 ×0.32/0.11×0.70 | N－63°－W | |
| T－36 | L－10－29 | 溝状 | 3.25 / 3.26 ×0.48/0.16×0.85 | N－72°－W | |
| T－37 | L－9－10 | 溝状 | 3.37 / 3.82 ×0.54/0.21×0.86 | N－65°－E | 底に小ピット２個 |
| T－38 | L－10－19 | 不整長円形 | 1.82 / 2.22 ×0.40/0.11×0.91 | N－56°－W | |
| T－39 | L－9－01 | 溝状 | 3.46 / 3.48 ×0.73/0.19×1.10 | N－90°－E | |
| T－40 | L－9－00 | 不整長円形 | 2.63 / 2.36 ×0.61/0.10×1.05 | N－11°－E | 底に小ピット１個 |
| T－41 | L－10－18 | 溝状 | 3.73 / 4.26 ×0.40/0.17×1.00 | N－58°－E | |
| T－42 | L－10－08・18 | 不整長円形 | 1.83 / 2.00 ×0.56/0.21×0.88 | N－54°－W | |
| T－43 | K－10－96 | 不整長円形 | 1.78 / 1.84 ×0.49/0.11×0.98 | N－26°－W | |
| T－44 | L－10－06 | 溝状 | 2.58 / 2.44 ×0.33/0.18×0.76 | N－77°－E | |
| T－45 | K－10－96 | 溝状 | 3.44 / 3.19 ×0.35/0.13×0.80 | N－80°－E | 石器１ |
| T－46 | K－10－94 | 溝状 | 3.42 / 3.56 ×0.58/0.24×0.92 | N－26°－W | |
| T－47 | K－9－93 | 溝状 | 3.61 / 3.76 ×0.34/0.16×0.64 | N－2°－E | |
| T－48 | K－10－47・48・58 | 溝状 | 3.26 / 3.46 ×0.40/0.15×0.94 | N－50°－E | |
| T－49 | K－10－55 | 溝状 | 3.36 / 3.41 ×0.72/0.16×0.87 | N－74°－W | |
| T－50 | K－10－54 | 不整長円形 | 1.86 / 2.18 ×0.54/0.14×0.98 | N－17°－W | 底に小ピット１個 |
| T－51 | K－10－23・33 | 不整長円形 | 1.84 / 1.82 ×0.46/0.13×0.74 | N－7°－E | |
| T－52 | K－10－31・41 | 溝状 | 3.84 / 4.54 ×0.38/0.12×0.99 | N－83°－W | 土器42、石器２ |
| T－53 | K－10－30・40 | 溝状 | 3.51 / 3.58 ×0.50/0.10×1.12 | N－70°－E | |



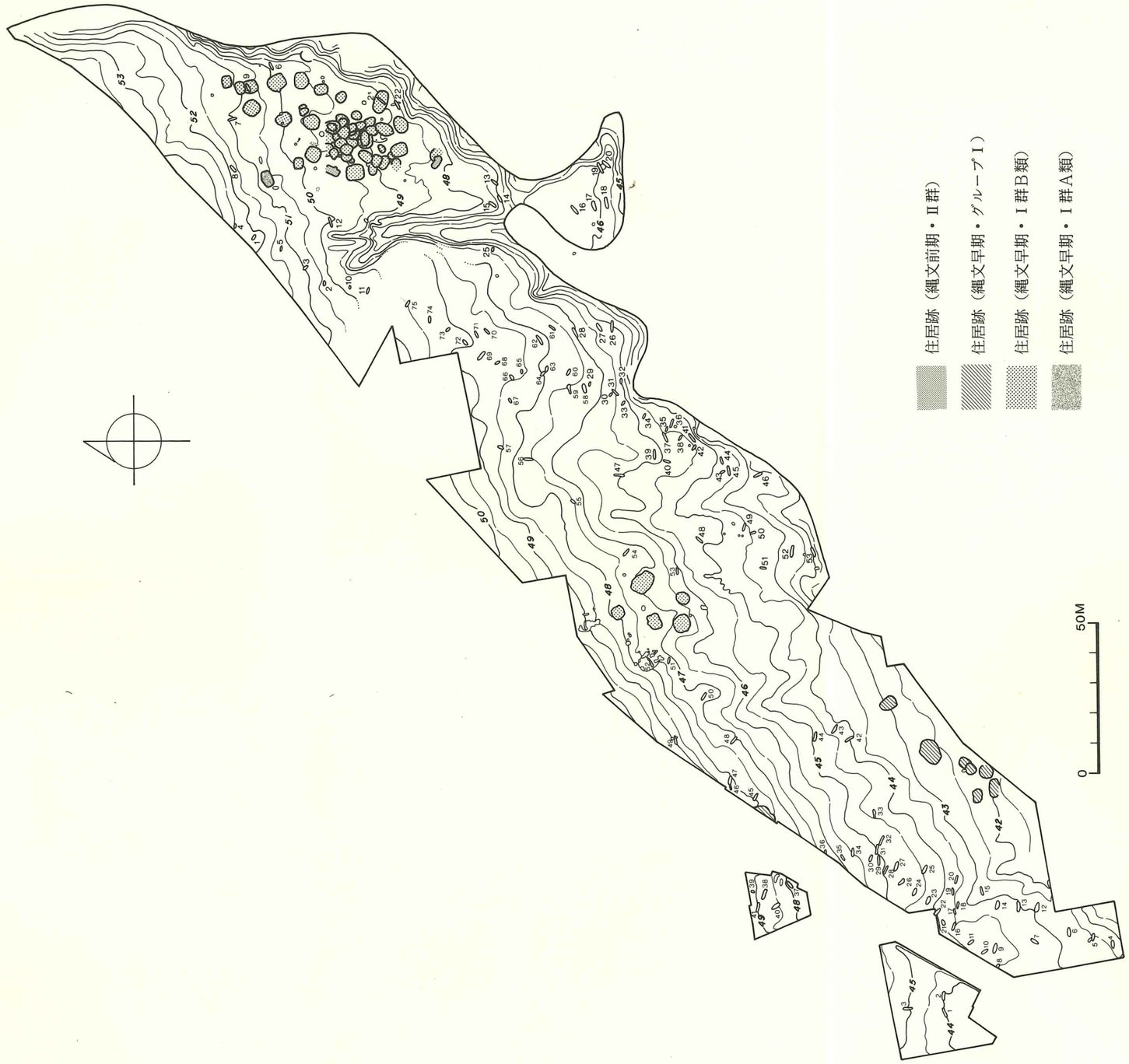

図Ⅰ－３　函館空港用地内の遺構の分布




図Ⅰ－6　最終面地形測量図と遺構位置図 (1)




図Ⅰ－7　遺構位置図 (2)




図Ⅰ－8　遺構位置図 (3)

# Ⅱ　遺跡の位置と環境

## 1　位置と周辺の遺跡

中野Ａ遺跡（Ｂ－01－40）は、函館市街地の東方約８㎞、津軽海峡に注ぐ小河川、銭亀宮の川の河口から約１㎞遡った、標高40～50ｍ程の右岸段丘上に位置する。この遺跡では、函館空港拡張整備工事に伴って、昭和50・51年度、昭和53年度、そして平成３年度および平成４年度と発掘調査が重ねられ、その結果、右岸の流域約500ｍにわたって、竪穴住居跡やＴピットなど、遺構の広範囲な分布が確認されている。竪穴住居跡を時代順に数えると、縄文早期前葉の日計式併行期のそれが１軒、早期中葉の物見台式期のそれが昭和50・51年度調査区に６軒と、平成３・４年度調査区に53軒の計59軒、早期末葉の梁川町式期のそれが８軒、前期前葉の春日町式期のそれが２軒となる。中野Ａ遺跡は、物見台式期の集落跡に代表される遺跡であるといえよう。

物見台式や住吉町式など、縄文早期の沈線・貝殻文系の文化が残された遺跡は、この中野Ａ遺跡や川を挟んで相対する中野Ｂ遺跡（Ｂ－01－39）を中心に、西方3.5㎞の根崎遺跡（Ｂ－01－24）から、函館空港６遺跡（Ｂ－01－34）、東方3.7㎞の仮称石崎町第９地点遺跡（未登載、小笠原1974）までの間の、函館市の東海岸に沿った、標高15～50ｍ程の段丘上に、比較的濃密な分布が認められる。この一帯から海峡を隔てた大間崎へは直線距離で約20㎞、物見台遺跡やムシリ遺跡、吹切沢遺跡のある尻屋崎へは直線ではほぼ60㎞しか離れていない。地元の人の話では、かつては日帰りで北海道から対岸へ、畑を耕しに通っていた人があったということであり、貝殻文尖底土器文化の相互の共通性からみても、縄文時代早期の段階から、下北半島は身近な存在であり、密接な交流があったことは疑いえない。

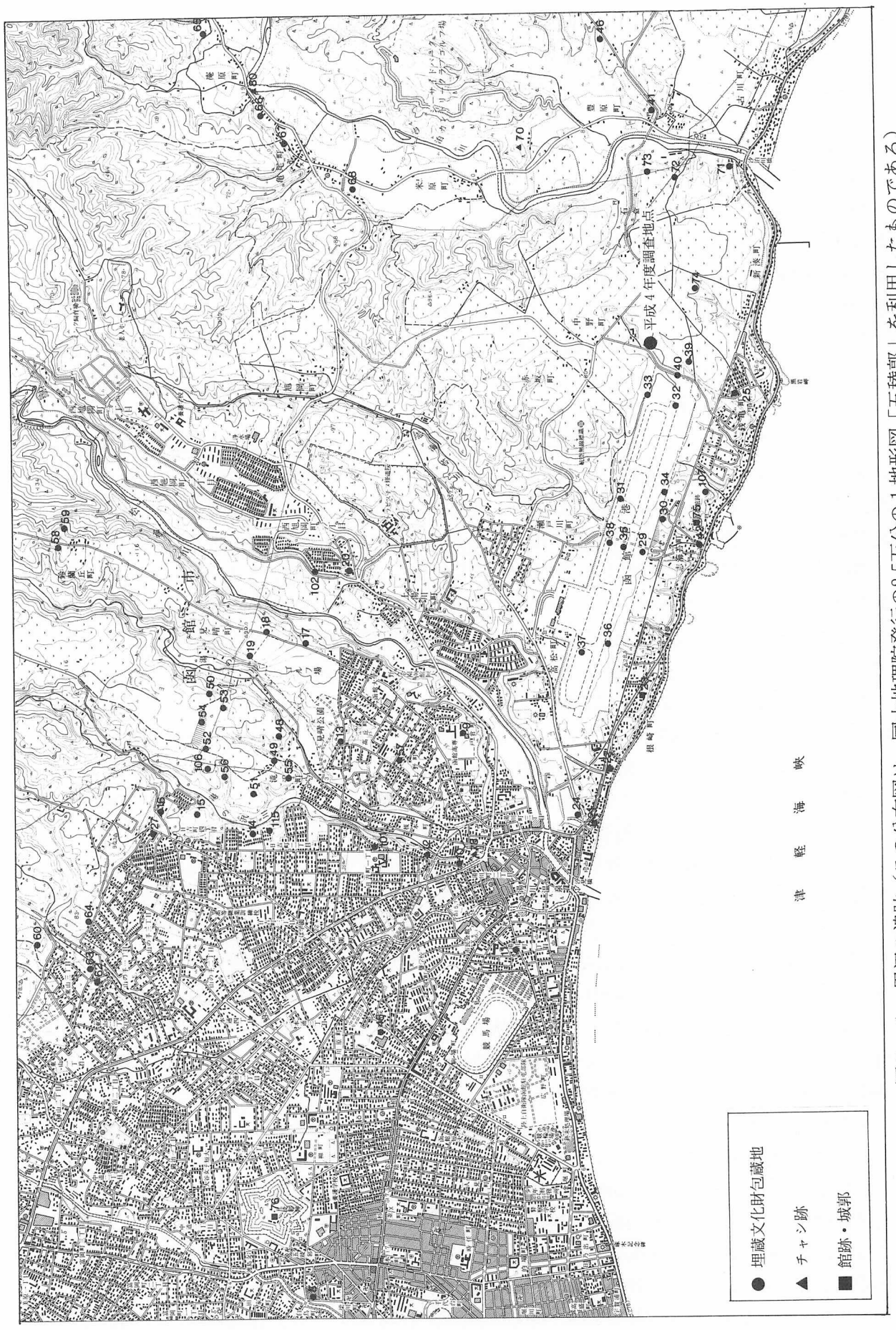
早期中葉の遺跡はこのほかに、図Ⅱ－１からは外れるが、函館山の南東麓につづく標高10数ｍの海岸段丘上にある住吉町遺跡（Ｂ－01－３）や、市街地中央の標高10ｍ程の梁川町遺跡（Ｂ－01－８）など、基盤に砂礫層がみられる比較的低位の段丘上にも立地している。

そのさらに北方には、西桔梗Ｎ－１，２，３（Ｂ－01－86，87，88）の各遺跡や石川１遺跡（Ｂ－01－109）など、旧函館湾東岸標高10～40ｍの段丘上に分布するグループもみられる。

以上の諸遺跡は、直接あるいは近距離で、海岸や入江に臨んでいたものと判断され、海への依存度が高かったものと推定される。ところが、これも図Ⅱ－１からは外れるが、ノダップⅠ式土器が出土し、やや古く位置付けられている西股遺跡（Ｂ－01－28）は、汐泊川を直線距離で遡ること11㎞、標高115ｍの内陸部に位置する。ここでは調査区内で１軒だが、竪穴住居跡も発見されている。また、貝殻文土器の出土が伝えられる東山Ａ遺跡（Ｂ－01－60）は、市街地の北東端に隣接する標高80ｍの丘陵南麓にあり、七飯町管内の有名な鳴川遺跡（Ｂ－08－56）は、標高140ｍの扇状地のほぼ中央に所在している。これら海岸線からは遠ざかった遺跡の存在は、一方で、縄文早期の古い段階から、内陸部での盛んな活動があったことを窺わせる。

梁川町式土器などに代表される縄文早期末葉では、中野Ａ遺跡のほか、近隣の函館空港１遺跡（Ｂ－01－29）や豊原２遺跡（Ｂ－01－46）などで集落跡が見出されており、市街地のやや低い段丘上にも春日町遺跡（Ｂ－01－４）や梁川町遺跡などが知られている。より北方の旧函館湾沿いの地区にも、石川野遺跡（Ｂ－01－84）や西桔梗Ａ遺跡（Ｂ－01－92）、西桔梗Ｅ１遺跡（Ｂ－01－97）などがあり、さらに丘陵南麓に近く、標高40ｍ程の河岸段丘上には日吉町２遺跡（Ｂ－01－115）が所在するなど、早期中葉とほぼ同様の立地条件の下で、遺跡が営まれていたものと思われる。

トドホッケ・春日町式土器などを伴う縄文前期前葉の段階では、中野Ａ遺跡のほか、豊原１遺跡




図Ⅱ－１　周辺の遺跡（この分布図は、国土地理院発行の2.5万分の１地形図「五稜郭」を利用したものである）

| 台帳番号 | 遺跡名 | 時期 | 内容(種別) | 立地 | 所在地 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| B-01-8 | 梁川町遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 低位海岸段丘 | 梁川町25 | 大場利夫他 1955 |
| B-01-9 | 戸倉町遺跡 | 続縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 戸倉町226 | |
| B-01-10 | 湯川貝塚 | 縄文 | 貝塚 | 低位段丘先端 | 湯川町2丁目29-6ほか | 千代肇 1953 |
| B-01-11 | 湯川土師遺跡 | 土師 | 集落跡 | 海岸段丘 | 湯川町1丁目24-1ほか | 前野英一 1960 |
| B-01-12 | 榎本町遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 榎本町72-1 | |
| B-01-13 | 高丘町遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 高丘町125 | |
| B-01-14 | 日吉町百花園遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 舌状海岸段丘 | 日吉町2丁目55-4ほか | 高橋正勝 1961 |
| B-01-15 | 日吉町A遺跡 | 縄文 | 住居跡 | 海岸段丘 | 日吉町64-1-2 | 千代肇 1971 |
| B-01-16 | 日吉町B遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 日吉町4丁目8日吉公園 | |
| B-01-17 | 見晴町C遺跡 | 続縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 見晴町67-2ほか | 千代肇 1953 |
| B-01-18 | 見晴町B遺跡 | 縄文 | 集落跡 | 海岸段丘 | 見晴町51-3ほか | 柴田幸生.田原良信他1981 |
| B-01-19 | 見晴町A遺跡 | 続縄文 | 遺物包含地 | 中位海岸段丘 | 見晴町36－2ほか | |
| B-01-20 | 上湯川遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 上湯川町334-1ほか | |
| B-01-21 | 根崎台場跡 | 近代 | 台場跡 | 海岸段丘 | 根崎町 | 河野常吉 1924 |
| B-01-22 | 弥右衛門川館跡 | 中世 | 館跡 | 海岸段丘 | 根崎町 | 〃 |
| B-01-23 | 与倉前館跡 | 中世 | 館跡 | 海岸段丘 | 根崎町4312 | 〃 |
| B-01-24 | 根崎遺跡 | 縄文 | 墳墓 | 舌状台地 | 高松町23ほか | |
| B-01-25 | 赤坂1遺跡 | | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 銭亀町298ほか | |
| B-01-27 | 日吉町C遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 丘稜南麓 | 日吉町4丁目16 | |
| B-01-29 | 函館空港1遺跡 | 擦文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 瀬戸川町12 | |
| B-01-30 | 函館空港2遺跡 | 続縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 赤坂町 | |
| B-01-31 | 函館空港3遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 赤坂町 | |
| B-01-32 | 函館空港4遺跡 | 縄文 | 集落址 | 河岸段丘 | 中野町 | 千代肇 1977 |
| B-01-33 | 函館空港5遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 中野町 | |
| B-01-34 | 函館空港6遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 赤坂町 | 森田知忠 1965 |
| B-01-35 | 函館空港7遺跡 | | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 瀬戸川町 | |
| B-01-36 | 函館空港8遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 高松町 | |
| B-01-37 | 函館空港9遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 高松町 | |
| B-01-38 | 函館空港10遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 瀬戸川町 | |
| B-01-39 | 中野B遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 中野町97・98 | 千代肇 1977 |
| B-01-40 | 中野A遺跡 | 縄文 | 集落址 | 海岸段丘 | 中野町22・25, 27・29・30 | 〃 |
| B-01-41 | 豊原1遺跡 | 縄文 | 集落址 | 海岸段丘 | 豊原町140-38～41 | 田原良信 1887 |
| B-01-42 | 志海苔中世遺構 | 室町 | 古銭出土地 | 海岸段丘低位 | 志海苔町247 | 吉崎昌一他 1971 |
| B-01-45 | 深堀町遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 深堀町 | |
| B-01-46 | 豊原2遺跡 | 縄文 | 集落址 | 河岸段丘 | 豊原町147-1ほか | 函館市教育委員会 1972 |

| 台帳番号 | 遺跡名 | 時期 | 内容(種別) | 立地 | 所在地 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| B-01-48 | 滝ノ沢A遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝ノ沢町36-1, 42-1 | 函館市教育委員会 1972 |
| B-01-49 | 滝ノ沢B遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝ノ沢町26-7, 30-32 | 〃 |
| B-01-50 | 滝ノ沢C遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝ノ沢町74-3 | 〃 |
| B-01-51 | 滝ノ沢D遺跡 | 敲・磨敲 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝ノ沢町47-2・3・5・6 | 〃 |
| B-01-52 | 滝ノ沢E遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝ノ沢町69 | 〃 |
| B-01-53 | 滝ノ沢F遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝ノ沢町72 | 〃 |
| B-01-54 | 滝ノ沢G遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝ノ沢町73-2 | 〃 |
| B-01-55 | 滝ノ沢H遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝ノ沢町26-4 | 〃 |
| B-01-56 | 滝ノ沢I遺跡 | 敲・磨敲 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝ノ沢町46-1 | 〃 |
| B-01-57 | 上野町遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 上野町 | |
| B-01-58 | 鈴蘭丘町A遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 鈴蘭丘町21-1ほか | |
| B-01-59 | 鈴蘭丘町B遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 鈴蘭丘町27-1ほか | |
| B-01-60 | 東山A遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 丘稜南麓 | 東山町121-10ほか | |
| B-01-62 | 東山C遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 東山町27-1ほか | |
| B-01-63 | 東山D遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 東山町25-1 | |
| B-01-64 | 東山E遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 丘稜南麓 | 東山町20-4ほか | |
| B-01-65 | 女名沢遺跡 | 縄文 | 墳墓 | 舌状河岸段丘 | 庵原町203-1ほか | |
| B-01-66 | 亀尾A遺跡 | 敲・磨敲 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 亀尾町97・98-1-2 | |
| B-01-67 | 亀尾B遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 亀尾町113-1-4 | |
| B-01-68 | 亀尾C遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 米原町88-1ほか | |
| B-01-70 | 汐泊チャシ | アイヌ | チャシ跡 | 河岸段丘 | 豊原町75ほか | |
| B-01-71 | 新湊町遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 石倉町37-1ほか | |
| B-01-72 | 汐泊遺跡 | 擦文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 石倉町84-2ほか | |
| B-01-73 | 石倉遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 石倉町83-1ほか | |
| B-01-74 | 石倉遺跡 | 縄文 | 貝塚 | 海岸段丘 | 石倉町1-1ほか | |
| B-01-75 | 志苔館跡 | 室町 | 館跡 | 海岸段丘 | 志海苔町443<br>赤坂町6－1 | |
| B-01-76 | 五稜郭跡 | 近世 | 城郭 | 沖積台地 | 五稜郭町1-4 | 田原良信他 1990 |
| B-01-78 | 湯倉神社チャシ跡 | アイヌ | チャシ跡 | 海岸段丘 | 湯川町2丁目28-1 | |
| B-01-80 | 亀尾神社チャシ跡 | アイヌ | チャシ跡 | 孤立丘 | 庵原町78-1 | |
| B-01-101 | 日吉町I遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 低位段丘 | 日吉町1丁目153-1・154・156<br>156-3・43・93-6 | 峰山巌他 1975 |
| B-01-102 | 銅山遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 銅山町113・118-2～4 | |
| B-01-106 | 滝ノ沢J遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 滝沢町65-1 | |
| B-01-107 | 赤坂2遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 海岸段丘 | 赤坂町13-1 | |
| B-01-115 | 日吉町2遺跡 | 縄文 | 遺物包含地 | 河岸段丘 | 日吉町2丁目28-1ほか | |
| | | | | | | |

表Ⅱ－1　周辺の遺跡一覧

（Ｂ－01－41）や豊原２遺跡が知られており、市街地には春日町遺跡や千代ヶ台遺跡（Ｂ－01－７）などが分布する。北には西桔梗Ｎ－２遺跡、西桔梗Ａ遺跡など、やはり遺跡が少なからずみられる。

函館空港４遺跡（Ｂ－01－32）は、円筒下層ａ，ｂ式土器などを伴う、縄文前期中葉の大集落跡であり、この時期の函館を代表する存在といえるが、その後しばらく、函館空港周辺では遺跡がやや空白状態となったらしい。円筒下層式後半期や円筒上層式期と時代が新しくなるにつれ、大規模な集落遺跡は東から西方へと移動、サイベ沢遺跡（Ｂ－01－82）や石川１遺跡、桔梗２遺跡（Ｂ－01－110）、権現台場遺跡（Ｂ－01－81）などのように、函館市内の北西部に偏在する傾向が認められる。縄文中期末の遺跡についても、レンガ台遺跡（Ｂ－01－83）や西桔梗Ｅ$_2$遺跡（Ｂ－01－98）、西股遺跡などで多数の竪穴住居跡が調査されているが、空港周辺ではその存在は余り顕著ではない。これは、縄文海進やその後の海退に伴う古函館湾の消長や、函館山を陸繋島とする砂洲の発達史など、沿岸の潮流の変化を伴った、大きな環境変化などに対応する現象であろうか。

縄文後期初頭には、函館山の麓に天祐寺貝塚（Ｂ－06－６）をはじめとする幾つかの貝塚が残され、空港の西近くにも湯川貝塚（Ｂ－01－10）が、東隣りの戸井町には戸井貝塚（Ｂ－09－８）がつくられるなど、道南の各地に大きな貝塚や集落が営まれたが、函館空港周辺でも石倉貝塚（Ｂ－01－74）が形成されている。ここは空港拡張工事の対象地で、発掘調査が予定されている。後期中葉以降では、ストーンサークルのつくられた日吉町Ａ遺跡（Ｂ－01－15）が著名だが、空港周辺での遺跡は稀薄である。

晩期に至っても、市内の各地域には榎本町遺跡（Ｂ－01－12）、高丘町遺跡（Ｂ－01－13）、上湯川遺跡（Ｂ－01－20）、滝ノ沢Ａ遺跡（Ｂ－01－48）、女名沢遺跡（Ｂ－01－65）、亀尾Ａ遺跡（Ｂ－01－66）など亀ヶ岡系の文化が広く認められるが、空港周辺での遺存は稀なようだ。

さらに続縄文時代では、戸倉町遺跡（Ｂ－01－９）や西桔梗Ｂ$_2$遺跡（Ｂ－01－94）、見晴町Ａ遺跡（Ｂ－01－19）などに恵山式の、西桔梗Ｅ$_2$遺跡などには後北式の文化が残されているが、やはり空港周辺での分布は少ないらしい。

ところが擦文時代に入る頃には、この地域では再び人々の動きが活発となる。空港の西には湯川土師遺跡（Ｂ－01－11）が、用地内には函館空港１遺跡が、そして東には銭亀沢遺跡（未登載、千代1980）や汐泊遺跡（Ｂ－01－72）が隣接し、そのさらに東方にも鶴野２遺跡（Ｂ－01－108）が残されるなど、東海岸に沿ってずらりと集落跡が並ぶといった具合であり、縄文早期中葉の状況にも似た分布が認められる。恐らくこの時期には、本州方面との往来が一段と増加したものと推定される。

中世の遺跡には、志苔館跡（Ｂ－01－75）など、本州からの渡来者の定着を反映する居館跡が幾つかあり、その経済的繁栄を裏づける、志海苔中世遺構（Ｂ－01－42）での、大甕３個に詰められた37万枚余の古銭の発見などが特記される。一方、汐泊チャシ（Ｂ－01－70）はじめ、アイヌ文化の所産と考えられる、道南では数少ないチャシ跡の存在も幾つか伝えられており、重視される。

汐泊川は現在でも、サケの遡上する川として特に名高く、海岸域の昆布などとともに、資源の保護が図られている。中野Ａ遺跡で実施中の、竪穴住居跡床面の土壌や焼土のフロテーションあるいは水洗選別作業では、クルミやキハダ、ミズキなど植物の炭化種子は検出されているが、今のところ動物遺骸は見つかっていない。しかし、過去の函館空港４遺跡の調査では、トコブシなどの貝類や、ヒラメ、マダラなどの魚骨、アザラシ類やアシカ類、イルカ類などの海獣骨、シカと思われる陸獣骨片などが得られており、中野Ｂ遺跡からは、バフンウニの棘や、サケ科、ネズミザメ、イワシ類、ウグイなど魚の骨や歯が検出されている（宮1977）。豊富な魚介類や海獣類の捕獲も含めて、函館空港周辺の地域では、いつの時代においても、水産資源は生活に大きなウエイトを占めていたものと思われる。

## 2　地形・地質

図Ⅱ－2に遺跡周辺の等高線図を、図Ⅱ－4に地形分類図を示す。遺跡周辺には主に、数段の段丘地形と段丘を開折する河川沿いの沖積低地・谷底平野が発達している。

段丘は少なくとも三段認められる。段丘Ⅰは標高60～100ｍに分布し、円礫から構成される。扁平な礫が多い。地点4では砂と礫の水平互層が観察される。この面は、長谷川・鈴木（1964）の第2段丘、瀬川（1974）の中野町面に相当する。段丘Ⅰの下位に標高30－60ｍの平坦面が分布する。この面は、松倉川右岸地域では地点13で観察されるように円礫層から構成され、段丘とみなされる。一方、松倉川から海岸沿いに汐泊川へかけて分布するこの平坦面は、水成礫をほとんど観察し得ず火砕流堆積物から成っている。地点12では火砕流堆積物に円礫が含まれ、火砕流堆積物の水成二次堆積物と考えられる。標高30－60ｍに分布し、一連の平坦面のようにみえるこの面は、段丘面としての平坦面のほか、火砕流堆積物の堆積面、火砕流堆積物の侵蝕面といった成因の異なる平坦面が含まれていると考えられる。地形分類図には、標高30－60ｍの平坦面を一括して段丘Ⅱ・火砕流台地として示している。この面は、長谷川・鈴木（1964）の第3段丘、瀬川（1974）の日吉町段丘に相当する。火砕流堆積物は、長谷川・鈴木（1964）の銭亀沢火山灰層、山縣ほか（1989）の銭亀一女那川火砕流堆積物に対比される。段丘Ⅲは標高40ｍで現河川沿いに認められる。

段丘面、とくに段丘Ⅰの段丘面は波状の起伏をなすことが多い。これは段丘面が浅くて広い谷に開析されているためである。また、段丘Ⅰの縁辺部では段丘崖が不明瞭で、下位の平坦面との間に緩傾斜面をなすことが多い。

山地斜面は標高50ｍ以上で谷密度が大きく、段丘堆積物や火砕流堆積物の基盤である新第三紀の汐泊川層（長谷川・鈴木，1964）の分布と一致している。

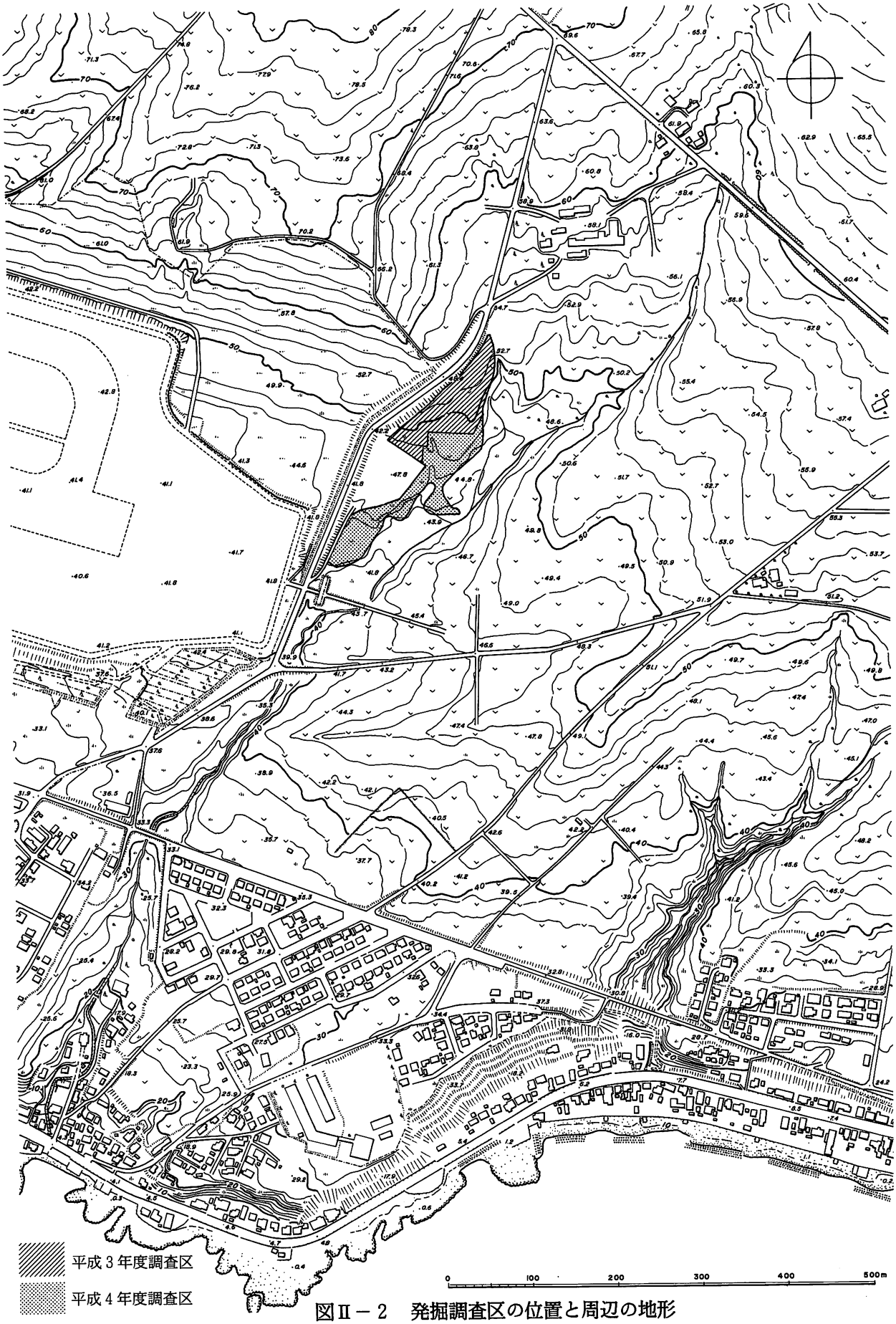
沖積低地が湯の川、松倉川、汐泊川沿いに認められる。狭長で侵蝕性の谷底平野は、志海苔川沿いや段丘Ⅱ・火砕流台地を刻む小谷に発達している。遺跡周辺の河川は、概ね北東－南西の方向性がある。

海岸部には、砂礫から成る海浜と安山岩から成る波蝕棚が認められる。

中野Ａ遺跡は、浅くて広い谷と段丘Ⅰの縁辺部の緩傾斜面で囲まれた波状起伏地に立地している。低部には銭亀宮の川の流水があり、湿地となっている。本遺跡は流水の右岸に位置し、左岸には河蝕による急崖がある。

遺跡で出土する石器の石材は、主に流紋岩、硬質頁岩、砂岩、閃緑岩、蛇紋岩[1]である。石器石材と遺跡周辺地質との関係をみるために、現河床・河口で礫の岩種を調べた。松倉川では、安山岩、頁岩、硬質頁岩、緑色凝灰岩、閃緑岩等が認められる。汐泊川では、硬質頁岩、粘板岩、閃緑岩等が認められる。河口では安山岩と流紋岩が多く、まれに硬質頁岩が認められる。蛇紋岩を除くと、石器石材の大部分は遺跡周辺から得られそうであるが、石器として使用されている質の良い材質のものまでも周辺で入手可能かはさらに調査する必要があろう。

[1] 流紋岩の可能性がある




図Ⅱ－２　発掘調査区の位置と周辺の地形

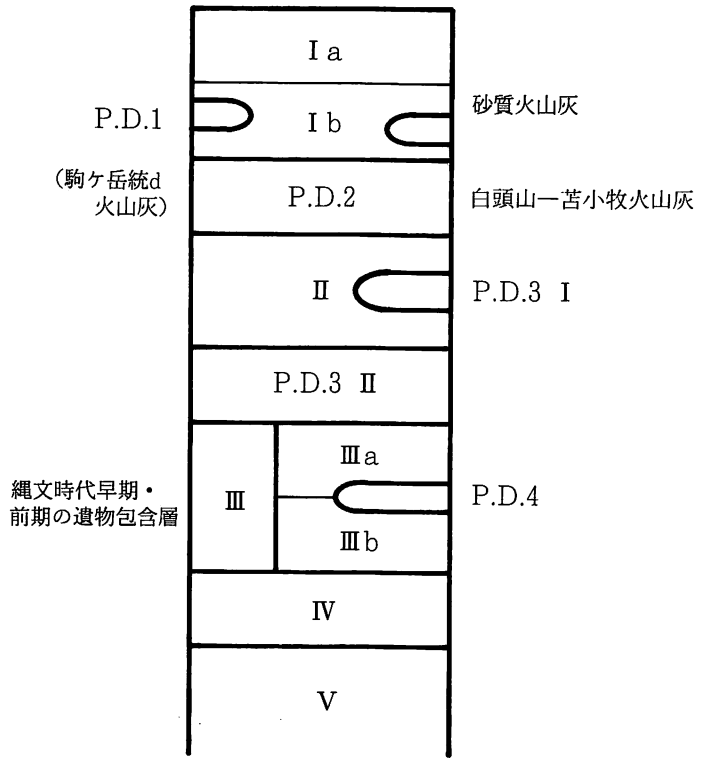
### 3　土層

本遺跡の土壌断面は、上位から下位へ、黒色土、黒褐色ないし暗褐色土、未風化層に区分される。これらは土壌層位のA層、B層ないしB／C層、C層に相当する。黒色土中には数枚の降下火山灰、遺物が認められ、黒色土が累積成土壌であることを示している。発掘調査上、土壌や火山灰を便宜的にⅠ層、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴ層、P.D.1、砂質火山灰、P.D.2、P.D.3、P.D.4に区分した。この区分法は昨年度の調査と同じであるが、砂質火山灰は今年度の調査で新たに見い出された火山灰である。図Ⅱ－3に基本土層模式図を、図Ⅱ－6、図Ⅱ－7にM-8-87～M-7-83、N-8-66～N-7-63、および7ライン沿いの土層断面図を示す。火山灰の鉱物組成や対比、P.D.3の成因についてはⅥ章に詳しく述べられている。

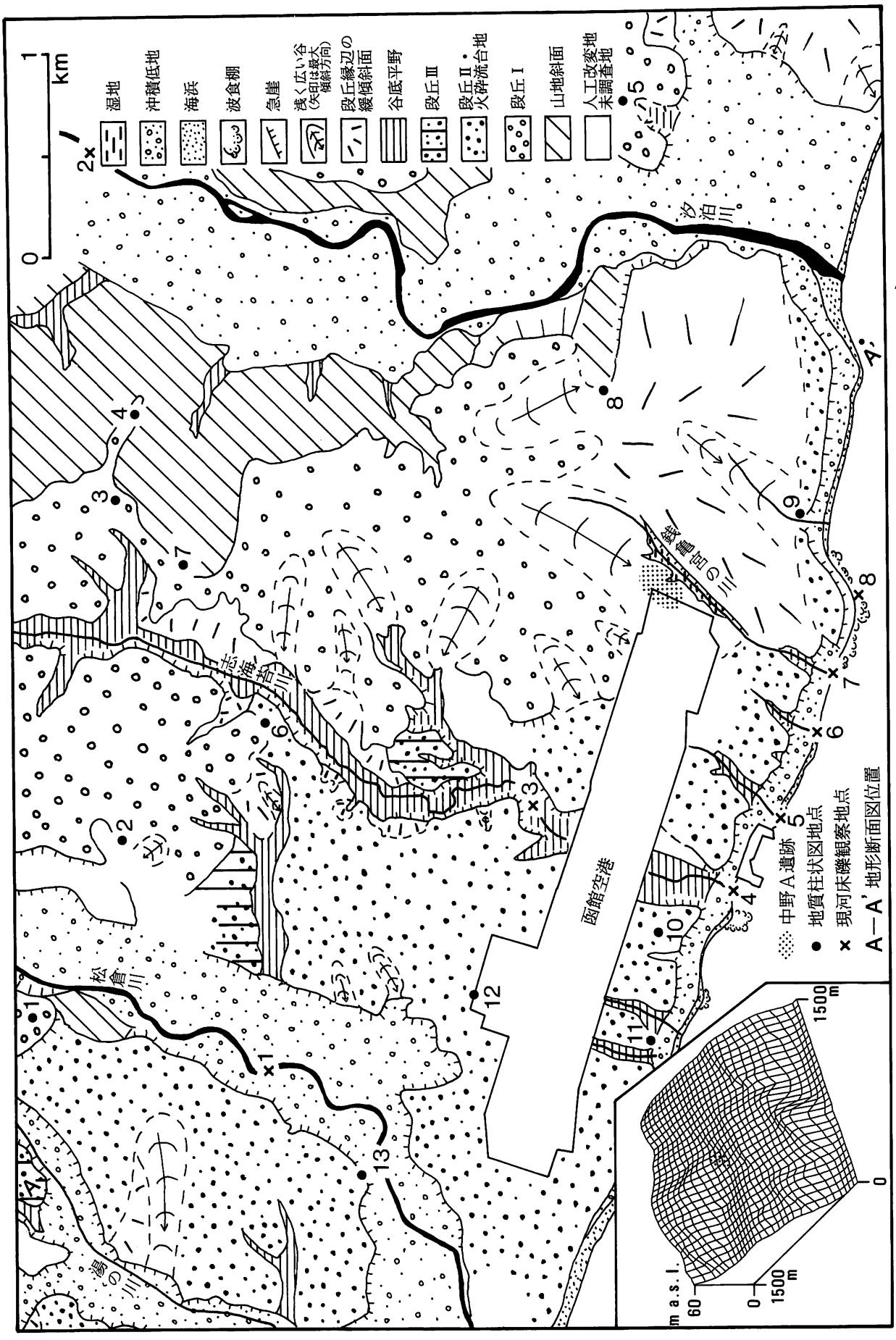
Ⅰ層：P.D.2より上位の腐植土層を一括してⅠ層とする。Ⅰ層のうち耕作により作土となっている層をⅠａ層、耕作から免れた腐植土層をⅠｂ層とする。Ⅰａ層は層厚20－30cmで、発掘区のほとんど全域を覆っている。Ⅰｂ層は黒色（5YR1.7／1）の粘土質腐植土で、M-7-40付近のように基盤が凹地形の部分で厚く集積しているほかは保存は非常に悪い。

P.D.1：灰白色（10YR8／1,10YR8／2）のシルト質降下火山灰。Ⅰｂ層中に径1cm以下で斑点状に断片的に産出する。残存状態は非常に悪いが、まれに凹地に厚く堆積していることがある（例えば、図Ⅲ-157のP-11。）。火山ガラスに頗る富む。函館市教育委員会（1977）は駒ヶ岳統ｄ火山灰（Ko-d）に対比されるものと考えている。Ko-dの年代はA.D.1640年である（北海道火山灰命名委員会，1982；佐々木ほか，1970）。

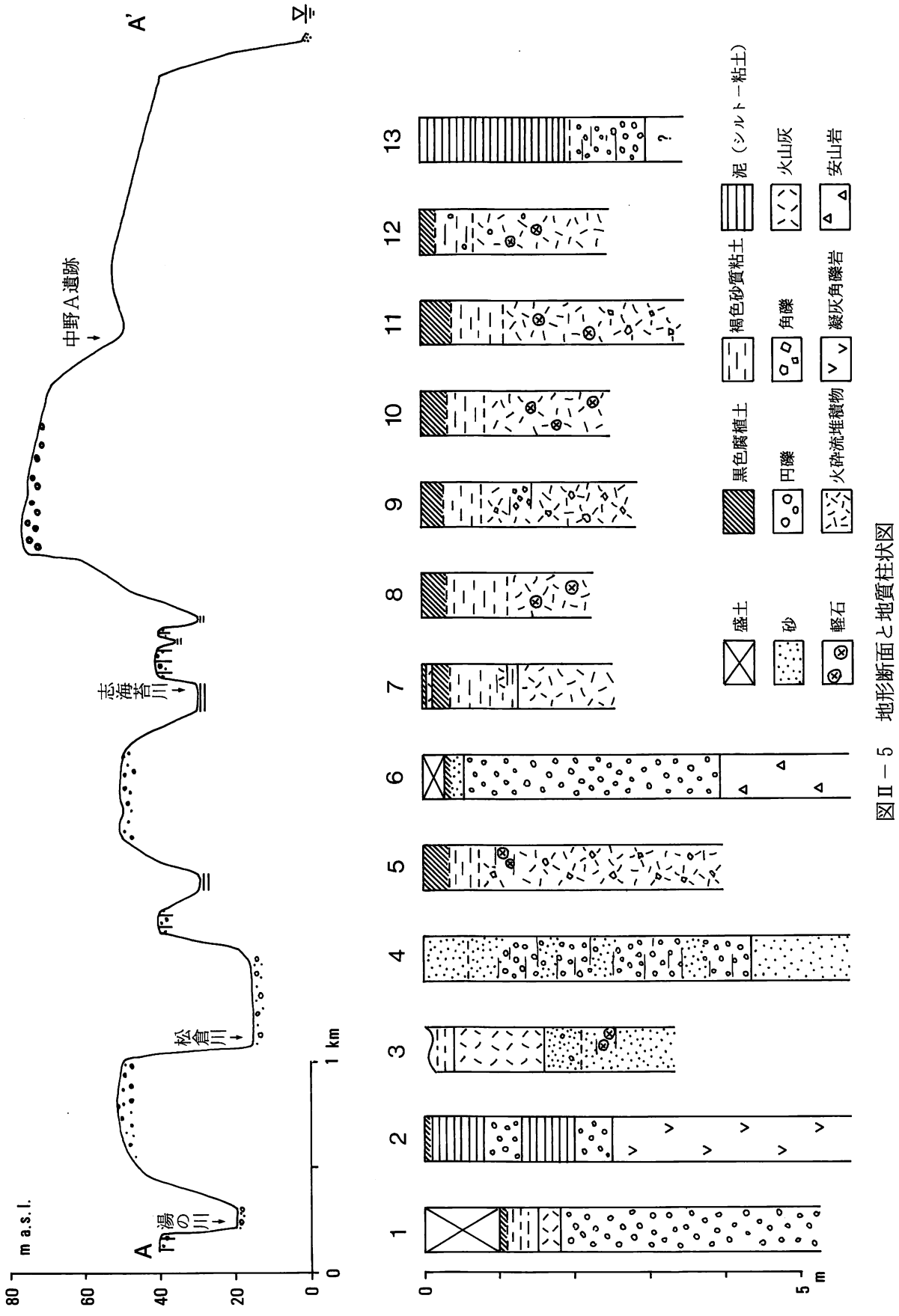
砂質火山灰：にぶい黄褐色（10YR4／3）の軽石混じり砂質降下火山灰。Ⅰｂ層中で P.D.1より下位に認められる。最大層厚1cmでレンズ状に産出する。残存状態は非常に悪い。本遺跡の従来の発掘調査では未記載の火山灰である。




図Ⅱ－3　基本土層模式図




図Ⅱ－４　遺跡周辺の地形分類図（左下は南西方向から俯瞰したコンピュータグラフィクスによるワイヤーフレーム図。範囲は図Ⅱ－２にほぼ同じ。）




図Ⅱ－5　地形断面と地質柱状図

P.D.2：にぶい黄褐色、黄褐色、褐色（10YR5／4, 10YR5／6, 10YR4／4, 10YR4／6）のシルト質降下火山灰。層厚1－5㎝で層状に産出し、遺跡全域で断続的に認められる。火山ガラスに頗る富み、アルカリ長石を含む。従来から駒ヶ岳統e火山灰（Ko-e）とされてきた（函館市教育委員会，1977）が、本火山灰は町田ほか（1981）・町田ほか（1984）の白頭山－苫小牧火山灰（B-Tm）に対比される。その年代は800－900年前である（町田・新井，1992）。

Ⅱ層：P.D.1とP.D.3との間の層準の腐植土層をⅡ層とする。本層は黒色（5YR1.7／1, 10YR1.7／1）を呈し粘土質である。P.D.3を欠く土壌断面では本層とⅢ層との区別は難しい。耕作による削平は、本層上部まで及ぶことが多い。層厚10－20㎝。

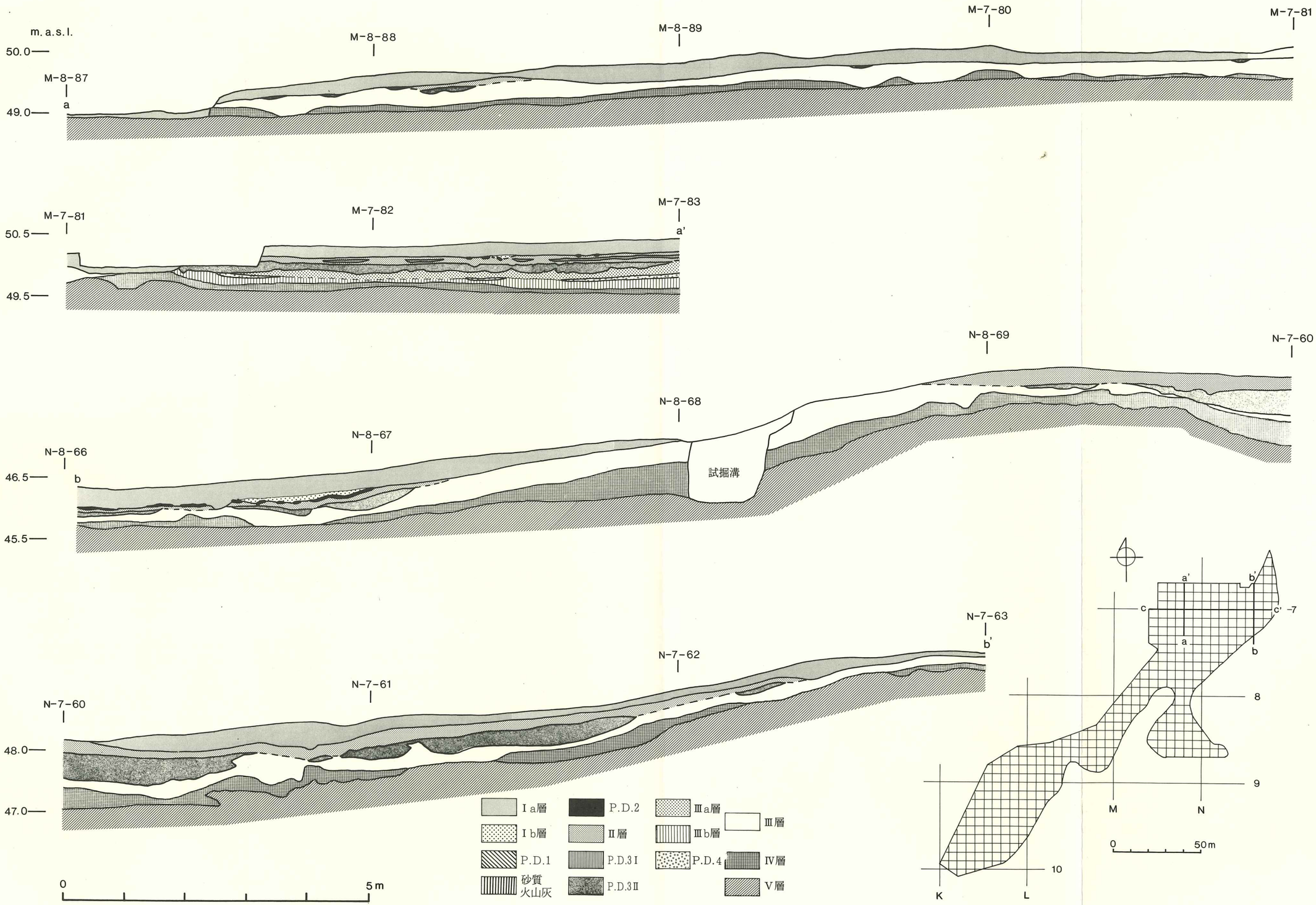
P.D.3：赤褐色、明赤褐色（2.5YR4／8, 5YR5／8）の粘土質土壌で、含水量が非常に多い。層厚は通常10-20㎝，遺跡全域で層状ないしレンズ状に産出する。N-7-60付近のように、平坦地から谷への斜面にかけては、層厚が40㎝にも達することがある。ここでは本層中に土器片、すり石、礫が含まれている。昨年度の調査でも、本層中から縄文時代前期前葉の春日町式・トドホッケ式土器や剥片が出土している。結晶鉱物のほかプラントオパールを頗る多く含み、かつては腐植土であったことを示唆している。本遺跡の周辺地域では、このような赤褐色土はほとんど確認されない。佐々木ほか（1970）以後、本層は銭亀沢層の名称で火山灰とされてきたが、上述のように火山噴出物とするには不自然な点が多く、色調から焼土と考えるのが妥当である。極めて人為的な土壌と考えられる。本層は、遺跡内の多くの土壌断面において少なくとも二つの層準で産出することが認められる。この場合、単純に上位のものをP.D.3Ⅰ、下位のものをP.D.3Ⅱとした。しかし、M-7-82付近では下位が厚い鮮明な明赤褐色土であるのに対し、K-9-51やM-9-97では上位の方が厚い鮮明な明赤褐色土である。したがって、厚くて鮮明な明赤褐色土を同一時代の生成物と仮定すると、P.D.3は少なくとも三層存在する可能性がある。M-7-82では、P.D.3Ⅰ、P.D.3Ⅱとも構成物質に差は認められない。図Ⅱ－6、図Ⅱ－7ではP.D.3Ⅰは便宜的にⅡ層に含めた。本層のプラントオパール分析については、Ⅵ章－4に詳しい。

Ⅲ層：P.D.3とⅣ層との間の腐植土層をⅢ層とする。本層は遺物包含層の主体で、縄文時代前期・早期の遺物が出土する。本層をP.D.4の挟在によって上下に二分する。P.D.4より上位をⅢa層、下位をⅢb層とする。Ⅲa層は黒色（10YR1.7／1）の粘土質腐植土で、層厚10－20㎝である。Ⅲb層は赤黒色（2.5YR1.7／1）の粘土質腐植土で、層厚10－15㎝である。Ⅲb層はⅢa層より赤色味が強いが、P.D.4が挟在しない場合には両層の区別は難しく、一括してⅢ層として示す。

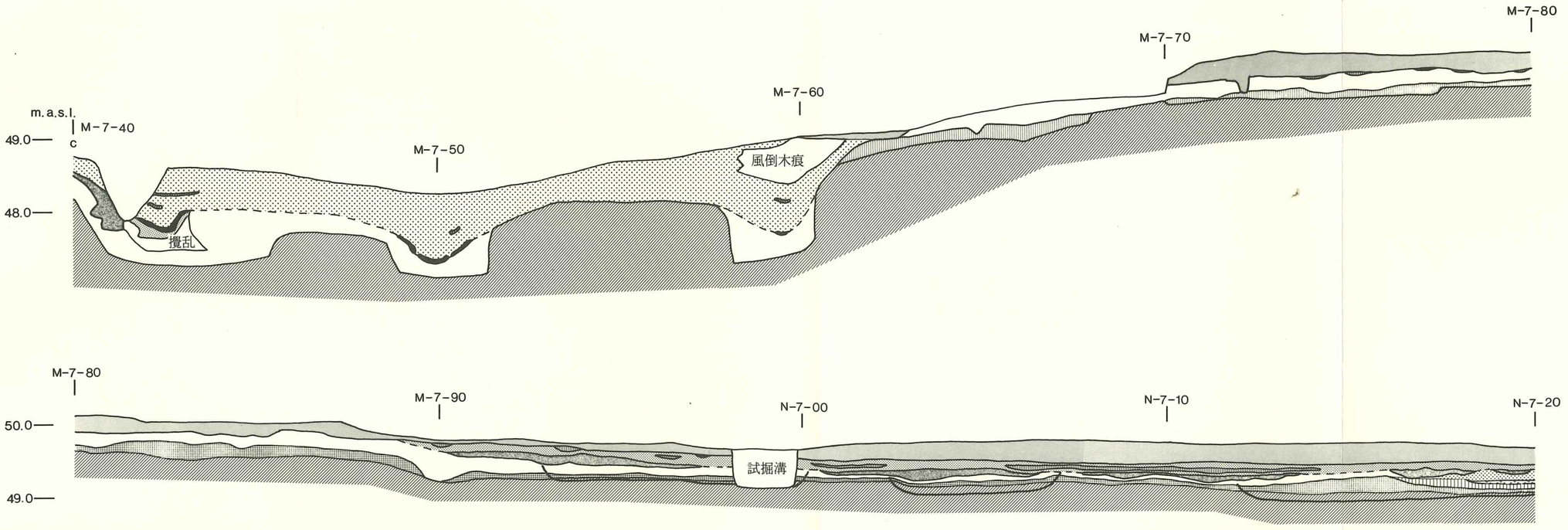
P.D.4：明黄褐色（10YR6／8）のシルト質降下火山灰。層厚2－4㎝で層状に産出する。K-9-50付近とM-7-82付近を除いて保存は悪い。火山ガラスに頗る富む。函館市教育委員会（1977）は不明火山灰としている。北海道火山灰命名委員会（1982）の「？火山灰（鈍褐灰）」に対比されるものであろう。

Ⅳ層：Ⅴ層を母材とする腐植土層で、Ⅲ層との間のいわゆる漸移層。黒褐色、暗褐色（5YR3／1, 7.5YR3／2, 7.5YR3／4）の砂質粘土－粘土質腐植土。層厚10－20㎝。

Ⅴ層：火砕流堆積物。明褐色（7.5YR5／6）の軽石質砂礫層。石英と角閃石を多く含む。層厚10m以上。




図Ⅱ－6　土層断面図 (1) (M－8－87～M－7－83, N－8－66～N－7－63)




図Ⅱ－7　土層断面図 (2) (M－7－40～N－7－80)

## １　住　居　跡

本年度の調査で42軒の住居跡が発見されている。これらは調査区の北端部に集中している。ここは平成３年度の調査区の続きにあたり、西、南、東側は沢地形となっている。この辺りは北から南に向けて緩やかに傾斜する標高48.00ｍ－50.00ｍの緩斜面となっている。これら42軒の住居跡はＮラインの東に見られる。北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形周辺にまとまっている。ただＨ－28とＨ－43はこれらのまとまりから離れている。Ｈ－15、Ｈ－43は平面形、柱穴状小ピットの配列、出土遺物から見て縄文時代前期のものである。そのほかについては出土遺物などから見て縄文時代早期中葉の時期と考えられる。二年度にわたった調査により遺跡の全体が明らかにされた。縄文時代早期前葉から同中葉、そして同前期に至る集落の変遷を解明する良好な資料となるのであろう。

Ｈ－15（図Ⅲ－２・３・４・５　図版５）

**位置**：Ｍ－７－92　住居跡群の西端、緩斜面のやや尾根状の微高地、標高50ｍに位置する。

**規模**：4.9ｍ／4.7ｍ×2.8ｍ／2.4ｍ×0.4ｍ　**平面形**：隅丸長方形　　南東側に張り出しを持つ。

**床面積**：11.74㎡　　**長軸方向**：Ｎ－30°　－Ｅ

**確認・調査・土層**：Ⅰ層除去後の、Ⅲ層調査中に黒色土の落ち込みを確認した。また、北西側の試掘溝により、壁の立ち上がりを検出した。北側は平成２年度調査区であったため北端隅が削り落とされていた。周囲より高いため、耕作によりⅢ層が半ば削られていたが、掘り込みはⅢ層中である。確認面から覆土の上半にⅢ層およびⅢ層とＶ層の混合土層が自然堆積していた。覆土１・２・３層は黒色土とＶ層の混合土。中央部と北側の覆土４層は焼土粒を含むブロックであるが、検出した範囲は狭い。覆土６層の東側隅からフレイク集中を検出した。両者共に出土層位から竪穴に伴わないものと判断した。最下部の覆土７層は堅くしまり少量の炭化物が混入していた。遺物の出土状況を含め、上面を生活面と判断した。覆土７層を50㎝メッシュで土壌採取しフロテーションにより、種子の検出を行った。

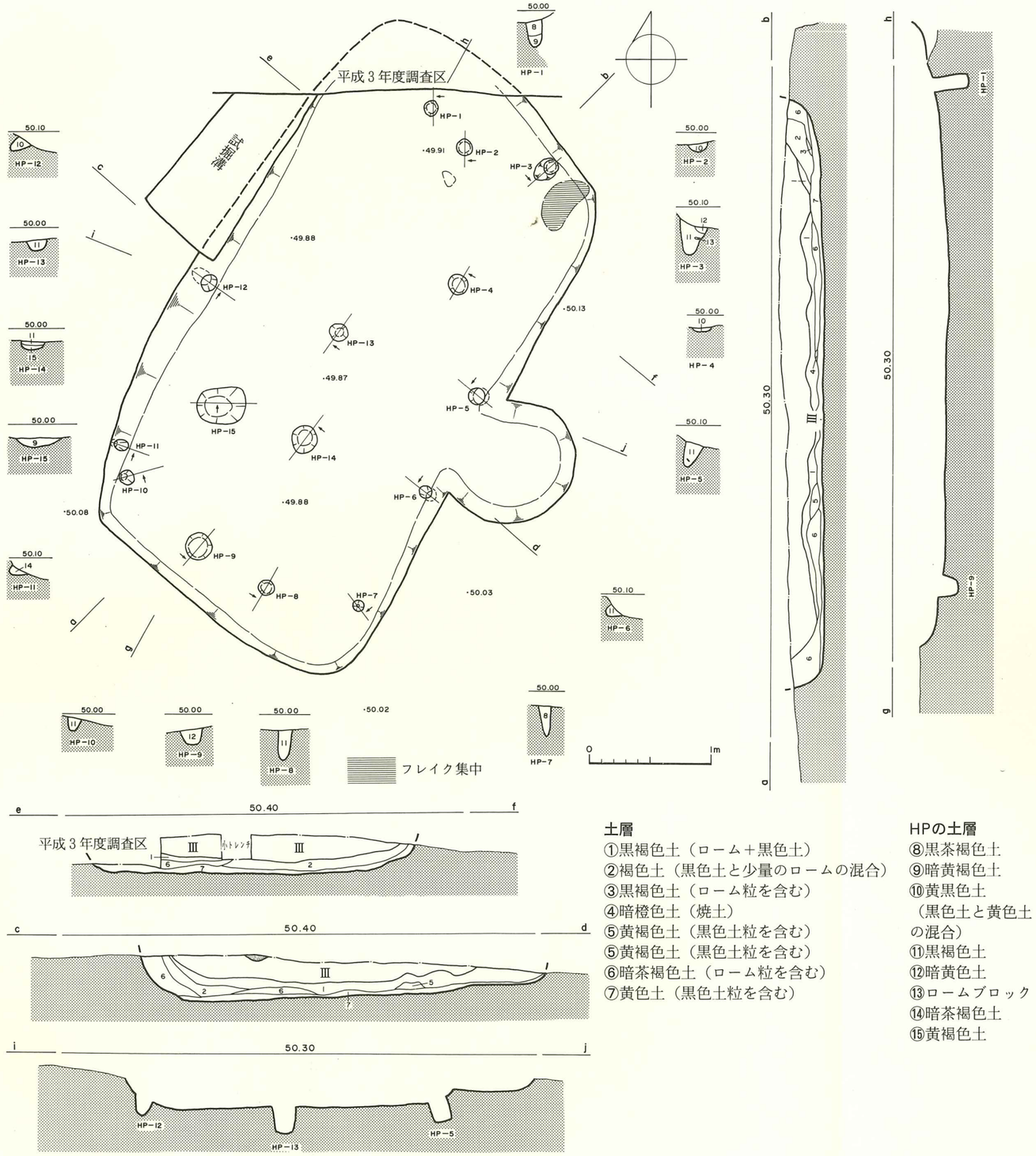
**床面**：Ｖ層中に掘り込んで構築されている。構築面は長軸に沿って中央が深く、長辺の壁から緩やかに傾斜する。構築面から生活面までは覆土７層に覆われている。床面の中央部で径５㎝の赤色物質（ベニガラ？）を検出した。

**壁**：床面近くの立ち上がりは丸みを持ち上部で垂直になる。

**炉跡**：炉跡は確認されなかった。覆土中の焼土粒は住居の廃棄された後に堆積したものと考える。検出した層位からフレイク集中と極めて近い時期と思われる。

**付属ピット**：南東側長辺の壁から外に径約１ｍで円形の張り出しが掘り込まれている。覆土は住居内と同様に黒褐色土、黄褐色土の順である。中央部北東側に長円形で深さ８㎝の浅い皿状のHP-15が掘り込まれている。柱穴と考えられる小ピットは14カ所確認された。長辺の壁面にある４カ所は内傾し、他は直立か、または、やや内傾している。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は3,315点で、土器が292点、石器が7282点である。そのうち床面の土壌サンプルから得られた遺物が、土器片187点、剥片7,017点含まれる。土器は覆土からⅠ群B類が９点、Ⅱ群が64点で、床または構築面からはⅠ群B類が５点、Ⅱ群が27点である。剥片石器は覆土から21点、床または構築面から15点出土した。礫石器は覆土から２点、床または構築面から３点出土した。剥片は、覆土から129点、床または構築面から92点出土した。また、柱穴から剥片が７点出土している。覆土のフレイク集中から剥片240点、Ⅱ群の土器片１点が出土した。Ⅱ群土器を使用した土器片錘が中央部南よりの覆土１層から１点出土した。２個体の土器が復元でき、うち１個体は竪穴内の覆土と床面で接合している。残る１個体は覆土１層・床面・構築面で出土したものに、Ｈ－18の覆土１層・覆土２層から出土した土器片に接合している。石器は石匙が接合し、覆土１層・床面・構築面からの


平成３年度調査区
表採
HP-1
HP-2
HP-3
HP-4
HP-5
HP-6
HP-7
HP-8
HP-9
HP-10
HP-11
HP-12
HP-13
HP-14
HP-15
·49.91
·49.88
·50.13
·49.87
·49.88
·50.08
·50.03
·50.02
50.00
50.10
50.30
フレイク集中
0
m
平成３年度調査区
小トレンチ
50.40
50.30
土層
①黒褐色土（ローム＋黒色土）
②褐色土（黒色土と少量のロームの混合）
③黒褐色土（ローム粒を含む）
④暗橙色土（焼土）
⑤黄褐色土（黒色土粒を含む）
⑤黄褐色土（黒色土粒を含む）
⑥暗茶褐色土（ローム粒を含む）
⑦黄色土（黒色土粒を含む）
HPの土層
⑧黒茶褐色土
⑨暗黄褐色土
⑩黄黒色土
（黒色土と黄色土の混合）
⑪黒褐色土
⑫暗黄色土
⑬ロームブロック
⑭暗茶褐色土
⑮黄褐色土

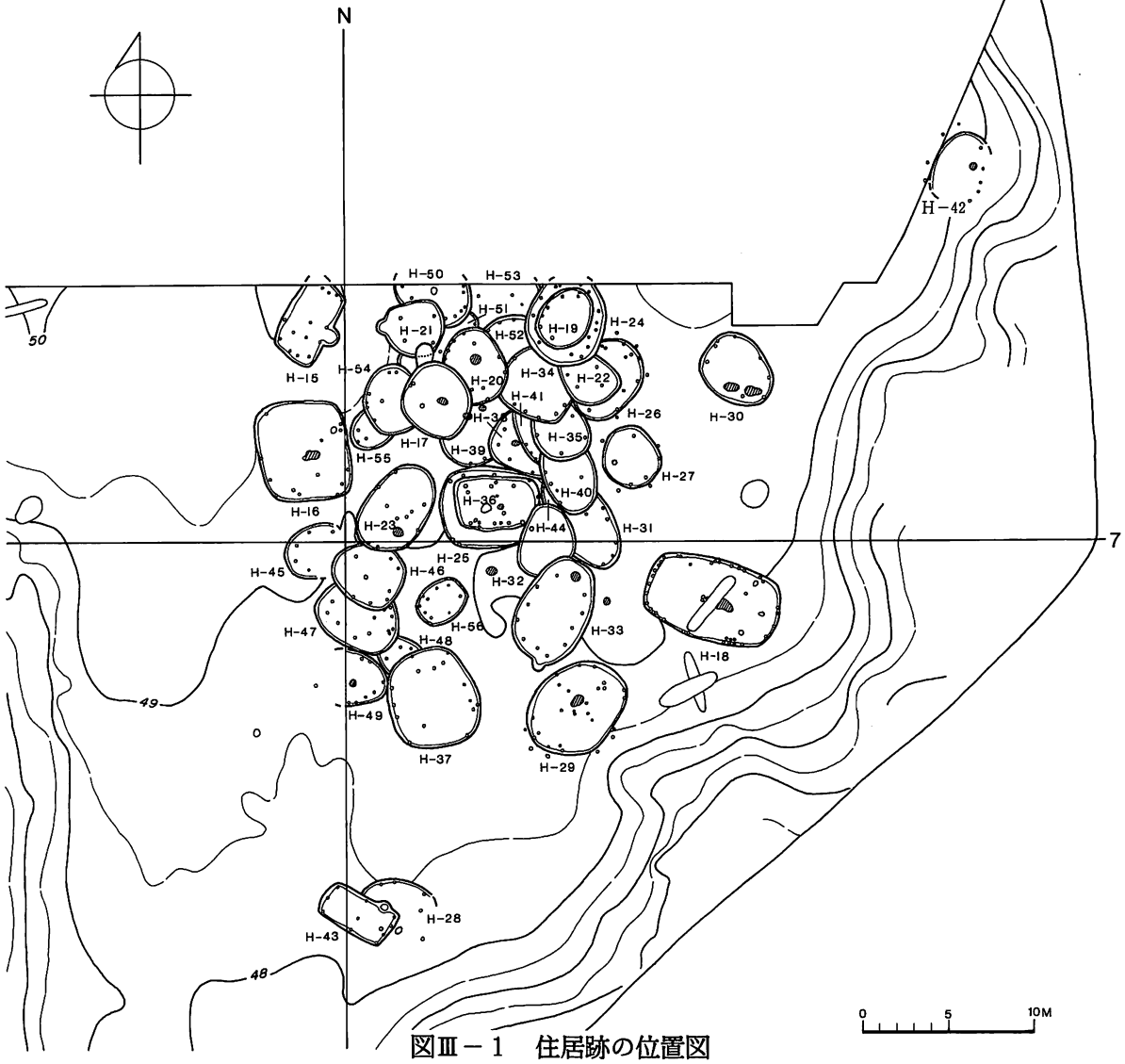
図Ⅲ－２　Ｈ－15実測図

# Ⅲ　遺構と遺構出土の遺物

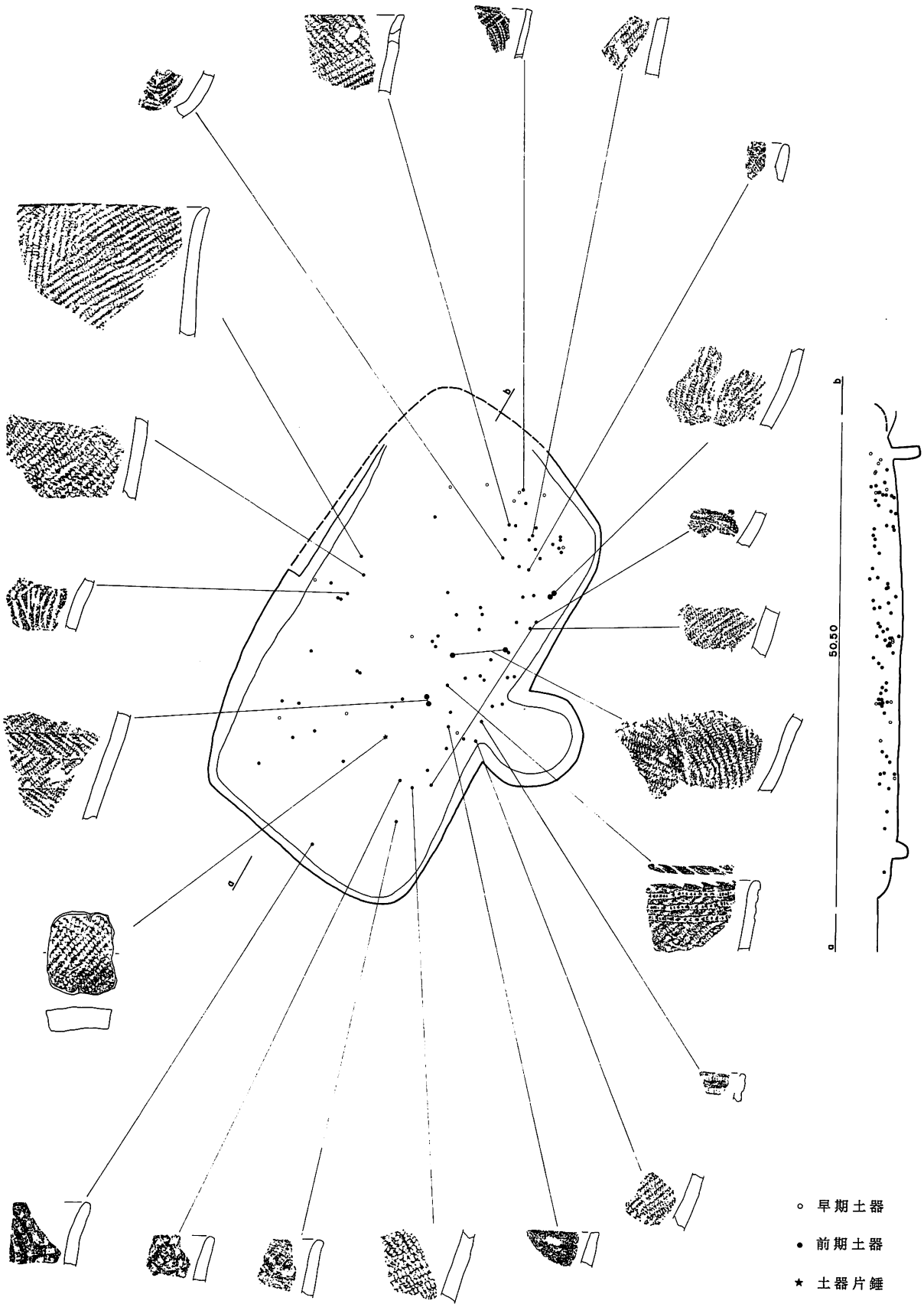
遺構は住居跡、土壙、Ｔピット、焼土の順に記載し、いずれも番号順に説明している。

住居跡は、位置、規模、平面形、床面積、長軸方向、確認・調査・土層、床面、壁、炉跡、付属ピット、遺物出土状況、時期、出土遺物の順で説明する。柱穴状小ピットや遺構に付設すると思われるピット、張り出し状のものは付属ピットのところで説明する。重複、新旧関係その他についてのコメントは時期の項のあと説明している。土壙の説明もほぼ住居跡のそれに準ずるが、時に遺構確認調査区検出の土壙については、まとめて記述する。Ｔピットは、分布、規模、平面形、形態などから類型化して説明する。焼土は、位置、確認・調査、平面形、遺物出土状況、性格・時期、出土遺物の順で説明する。遺構の実測図、出土遺物の実測図と拓本図は、住居跡は住居跡別、土壙、Ｔピット、焼土はそれぞれの事実記載のあとに各遺構毎にまとめて作成し、掲載している。

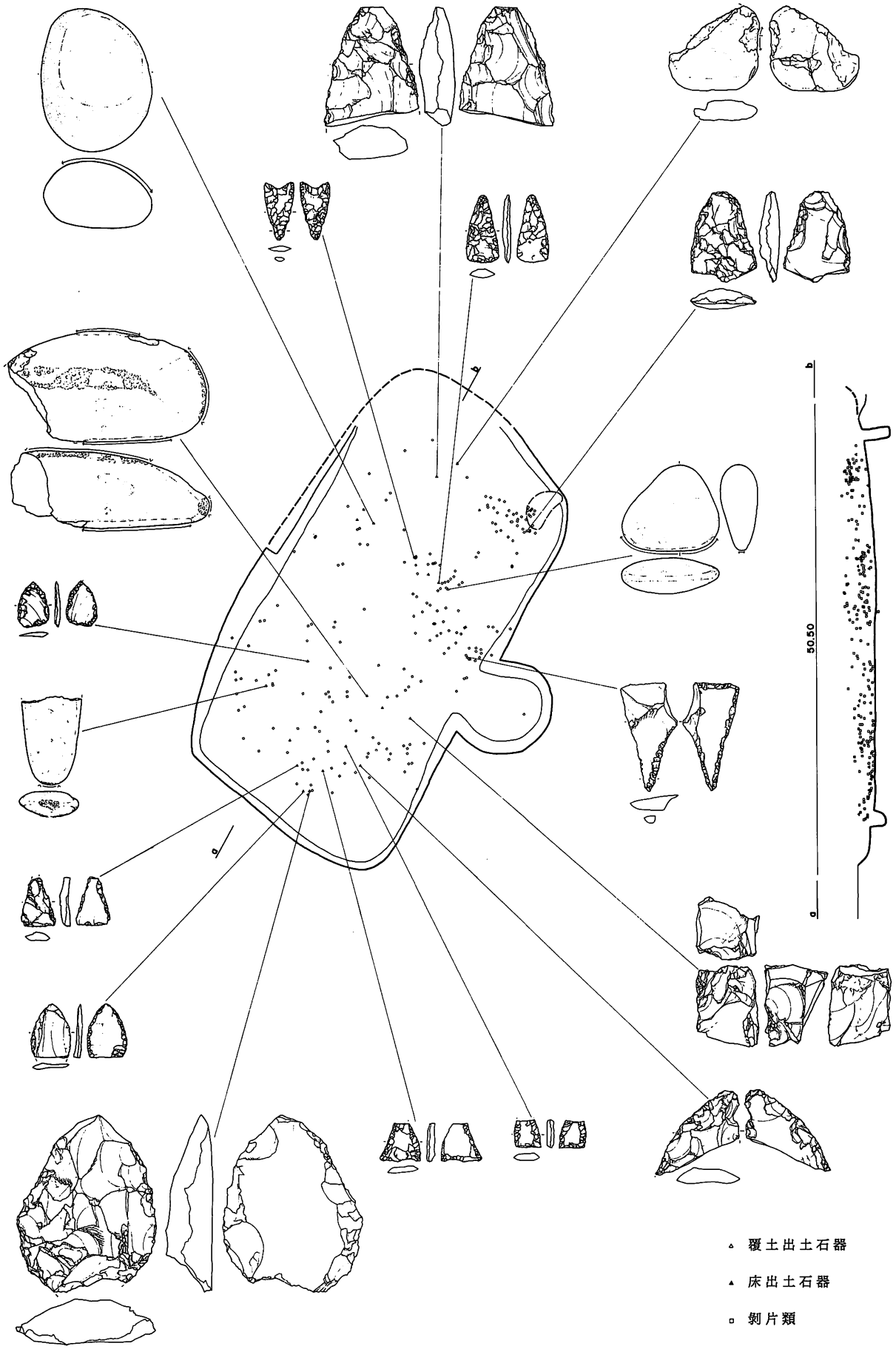
出土遺物は、実測土器、土器拓本、石器、石製品の順に掲載する。遺構の規模はⅡ章「遺跡の概要」の項、遺構別の出土遺物、遺構別の出土遺物、遺構および包含層の出土遺物と掲載土器の発掘区別、出土点数、掲載石器の発掘区別、出土層位、大きさ、重量などは一覧表にして巻末に掲載している。



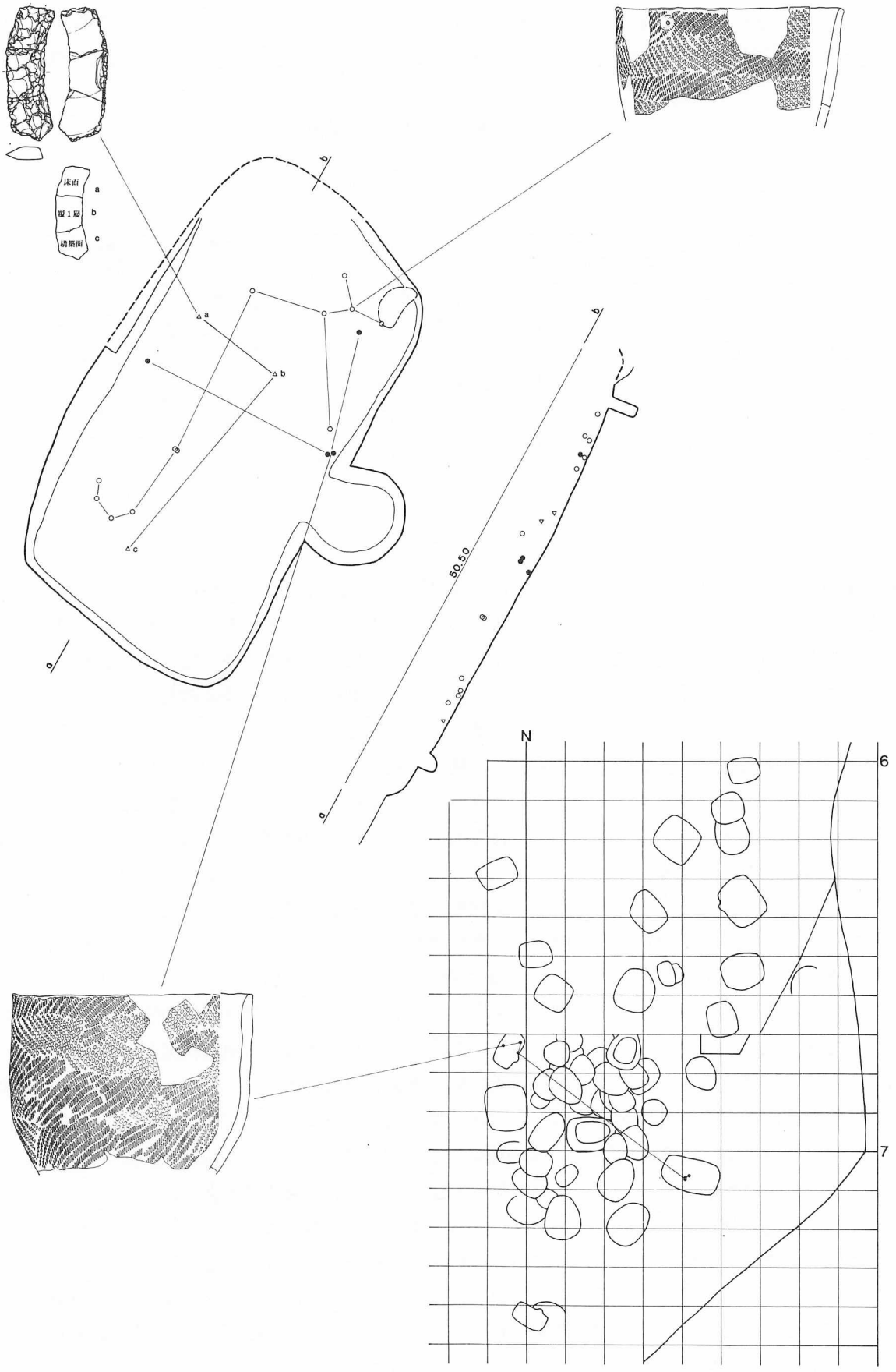

図Ⅲ－１　住居跡の位置図




図Ⅲ－3　H－15出土土器の分布図




図Ⅲ－4　H－15出土石器の分布図




図Ⅲ－5　H－15出土遺物の接合図

ものである。接合・復元したものは、出土層位の上下差が大きい。土器の分布は南西側に多くみられる。覆土７層から検出した炭化種子は、クルミ属0.03ｇ、果肉付キハダ0.03ｇ、不明種子３粒である。

**時期**：竪穴の形状や、遺物の出土状態から縄文時代前期前葉の時期のものと思われる。

表Ⅲ－１　Ｈ－15小ピット一覧

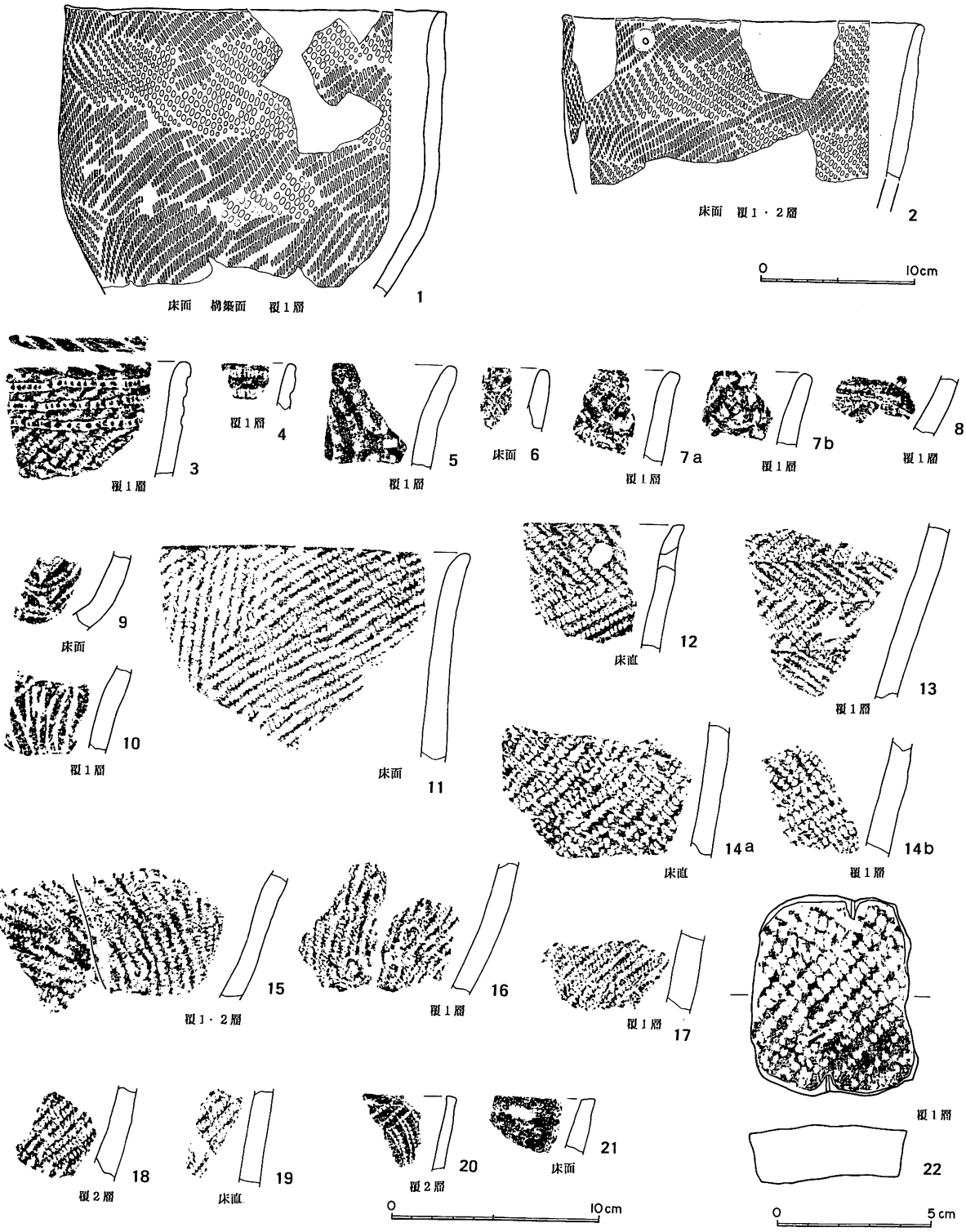
| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 13×12（cm） | 24(cm) | 黒茶褐色土・暗黄褐色土 | 構築面 | 垂　直 | ＨＰ－９ | 23×22(cm) | 14(cm) | 暗　黄　色　土 | 構築面 | 垂　直 |
| ＨＰ－２ | 14×14 | 8 | 黒褐色土＋黄色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－10 | 13×12 | 12 | 黒　褐　色　土 | 〃 | やや内傾 |
| ＨＰ－３ | 22/14×17/12 | 24 | 黒褐色土・暗黄色土 | 〃 | 垂直､段有り | ＨＰ－11 | 12×９ | ９ | 暗　茶　褐　色　土 | 〃 | 内　傾 |
| ＨＰ－４ | 17×16 | 4 | 黒褐色土＋黄色土 | 〃 | 垂　直 | ＨＰ－12 | 14×12 | 11 | 黒褐色土＋黄色土 | 〃 | 〃 |
| ＨＰ－５ | 15×14 | 21 | 黒　褐　色　土 | 〃 | 内　傾 | ＨＰ－13 | 16×15 | ９ | 黒　褐　色　土 | 〃 | 垂　直 |
| ＨＰ－６ | 11×10 | 10 | 黒　褐　色　土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－14 | 17×16 | ８ | 黒褐色土・黄褐色土 | 〃 | 〃 |
| ＨＰ－７ | 10×９ | 25 | 黒　茶　褐　色　土 | 〃 | やや内傾 | ＨＰ－15 | 41×30 | ８ | 暗　黄　褐　色　土 | 〃 | 皿　状 |
| ＨＰ－８ | 14×13 | 24 | 黒　褐　色　土 | 〃 | 垂　直 | | | | | | |

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－６　図版44・53）

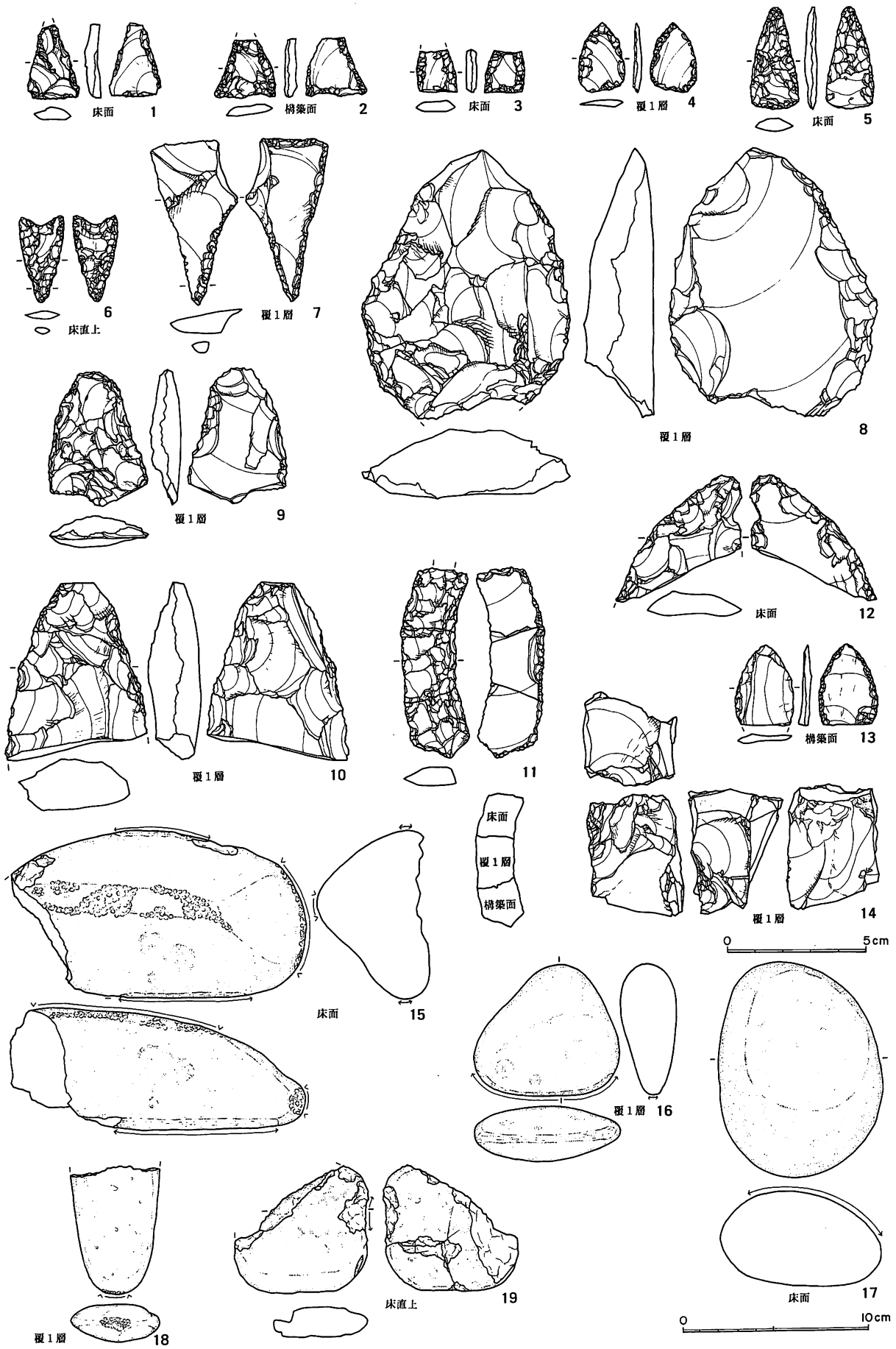
１は構築面・床面（各２点）、覆土１層（３点）の破片と南東に25ｍ～30ｍ程離れたＨ－18覆土１・４層出土の破片と接合した。胴部下半と、上半部の２分の１が欠損している大型尖底土器。口唇断面は丸味を帯び、口唇上から内面にかけてミガキがかけられている。胴部はやや張り出し底部にむかって急角度になっている。器内外面は凹凸が著しい。文様は基本的には０段多条のＬＲ原体による縄文と、比較的条の太いＲＬ原体により羽状縄文を構成する意図とみられるが、菱形の文様になる部分やＬＲ原体による縄文範囲が多い特徴がみられる。施文は雑である。また条の中の節は指などですり消されている部分や全く縄文を消して無文に近くなっているところもある。２は床面（11点）、覆土１・２層（５点）から出土した破片、胴部から下は欠損しているが、口縁部の２分の１が残存する。平縁で口唇断面は角形で、１同様にミガキがかけられ平坦になっている。０段多条のＬＲ原体とやや条の太いＲＬ原体を交互に施文することで菱形の文様を構成している。器面のところどころは指などでナデられすり消されている部分がある。内面は丁寧に調整されている。３～10は器面に押引き文、刺突文的押引き文が施されているもの。６・９・13は床面、ほかは覆土１層出土のもの。３は口唇断面は角形で、断面の丸い棒状工具で斜めに刻み目を入れている。口縁部には幅４㎜程の竹管状工具を器面深く押して施した押引き文が３条めぐっている。下位にはＬＲ原体による斜行縄文が施されているが、押引き文に先立って施文されたと思われ、３条の押引き文間の部分はナデて消されている。４は小型のもの。５は口縁部がやや外反する器形とみられ、幅４㎜程の篦状工具で浅く文様を施文している。７ａ・ｂは同一個体。器面は凹凸があり、５同様の工具での文様がかすかに観察できる。８・９は底部付近の破片。８は断面が丸い工具により押し引きされているが、連続刺突文の印象をうける。９は底部を中心に同心円状に施文されているとみられる。10は工具を斜めにねせて縦に施文した文様と、これとは別の原体での押引き文が施されている。11～19は縄文の施されているⅡ群土器。

12・13・21は床面、ほかは覆土１層出土のもの。12は非常に焼成が良い。０段多条のＬＲ原体を横位と縦位に施文している。12～15は羽状縄文が施されている。13は12同様口唇部から内面にかけてナデられている。13は羽状縄文が段状になっている。14ａ・ｂは同一個体。15は底部付近の破片。16は縦行気味の縄文、17～19はＬＲ原体による斜行縄文が施されている。




図Ⅲ－６　Ｈ－15出土土器

20・21はＩ群Ｂ類土器。20は小型のもので貝殻腹縁圧痕文のみによる文様が施されている。22はⅡ群土器を素材にした土器片錘。15㎜以上の厚手の土器の胴部片を打ち欠きによって整形し、短いほうの２辺に、外面から内面に斜めに切り込みを入れている。


床面 1
構築面 2
床面 3
覆１層 4
床面 5
6
床直上
覆１層 7
覆１層 8
覆１層 9
覆１層 10
11
床面 12
構築面 13
床面
覆１層
構築面
覆１層 14
0 5cm
床面 15
覆１層 16
床面 17
0 10cm
覆１層 18
床直上 19

図Ⅲ－７　Ｈ－15出土石器

**石器**（図Ⅲ－7　図版70）

1～4は石鏃。1～3は三角形平基鏃である。1・2は加工が粗く未製品と思われる。4は周辺加工のもので非常に薄い。6・7は石錐。6は石鏃からの転用品で、先端が摩耗している。7は折れ面を利用して尖頭部を作出している。左面が腹面である。5・8は両面調整石器。5は先端が丸く石鏃とするには難しい。むしろ篦状石器の小型品という印象を受ける。8は加工が粗く、篦状石器の未製品の可能性もある。9・10は篦状石器の基部と思われる。9は欠損後、折れ面から刃部の作出を試みている。11は石匙。つまみ部は欠損している。製作状況から早期後葉～前期のものであろう。12・13はスクレイパー。14は角礫を素材とした石核である。打面転移が行なわれており、最終的には破損してしまったようである。15～17はすり石。15・16は1類。17は2類。15はたたき痕が認められる。16は1類の中でも小型のものである。17は片面の一部にだけすり痕が観察できる。また、暗褐色の付着物が両面の下半部に認められる。18はたたき石4類。端部にたたき痕のある棒状のものである。19は石錘。

H－16（図Ⅲ－8・9　図版6）

**位置**：M－7－90・91　住居跡群の西端、標高49.3～49.7mの緩斜面に位置する。

**規模**：5.7.m／5.6m×5.3m／5.0m×0.25m

**平面形**：隅丸方形　　**床面積**：26.31㎡　　**長軸方向**：N－5°－W

**確認・調査・土層**：Ⅲ層調査中に確認した。地形の傾斜により南側のプラン確認に手間取った。北半はV層を掘り込んでいるが南東端の掘り込みはⅢ層に留まっている。覆土の上部にはP.D.3とⅢ層が堆積している。掘り込みはⅢ層の下位からである。覆土1層は茶褐色土、覆土2層は黄色土、覆土3層は黄褐色土、覆土4層は覆土2層に類似するが黒色土を含む。覆土5層は黄色味を帯びた茶褐色土、覆土6層は焼土で床から盛り上がっている。覆土7層は暗茶褐色土で壁際に堆積する。

**床面**：床は南東端を除きV層を掘り込んで構築されている。北側が高く、南側に緩く傾斜している。床面はほぼ平坦である。

**壁**：壁は緩やかに立ち上がる。壁高は北西側が30cm、南端で2cmである。

**炉跡**：床面中央部に1m×0.5mで平面形が不整形の焼土があり、床面から最大13cmの厚さで盛り上がり、広がっている。地床炉である。

**付属ピット**：柱穴と思われる小ピットは18カ所検出された。壁面にあるものは2カ所で、内側に傾いている。壁際から1m以内にあるものは14カ所で直立またはやや内傾している。その内側に4カ所あり、すべて直立する。そのうちHP－7は竪穴のほぼ中央に位置し主柱穴と考えられるが焼土から10cmと近接している。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は639点で、土器が529点、石器が380点である。そのうち床面の土壌サンプルをフロテーションした結果得られた遺物が、土器31点、剥片329点含まれる。土器は覆土からⅠ群B類が20点、Ⅱ群が3点で、床からはⅠ群B類が203点である。石器は床から剥片石器24点、礫石器7点が出土した。剥片は床から17点出土した。また、柱穴から剥片が2点出土している。復元された土器は4個体である。そのうち小さい土器3は原形を残すように横倒しの状態でまとまって出土した。2は床面と南東側Ⅲ層から出土した。4は床面のものとH－18の床から出土した土器片が接合した。1は床面出土のものに、竪穴の外から流れ込んだと推定される覆土2層出土のものと、H－28覆土2層出土のものと、H－37覆土1層出土の土器片が接合した。石器は床面出土のRフレイクが接合した。土器は北西側に多く出土し、石器類は南西側に多くみられる。床の土壌サンプルからクルミ属0.08gを検出した。

**時期**：竪穴の形態および床面の土器から縄文時代早期中葉の時期である。

復元土器のうち１個体は大半が床面から出土し、Ｈ－28・37の覆土から出土した土器片とも接合したことからこの２カ所の竪穴より新しいものと考えられる。フロテーションにより床の土壌サンプルから炭化物を選別し$^{14}$Ｃ年代測定した。

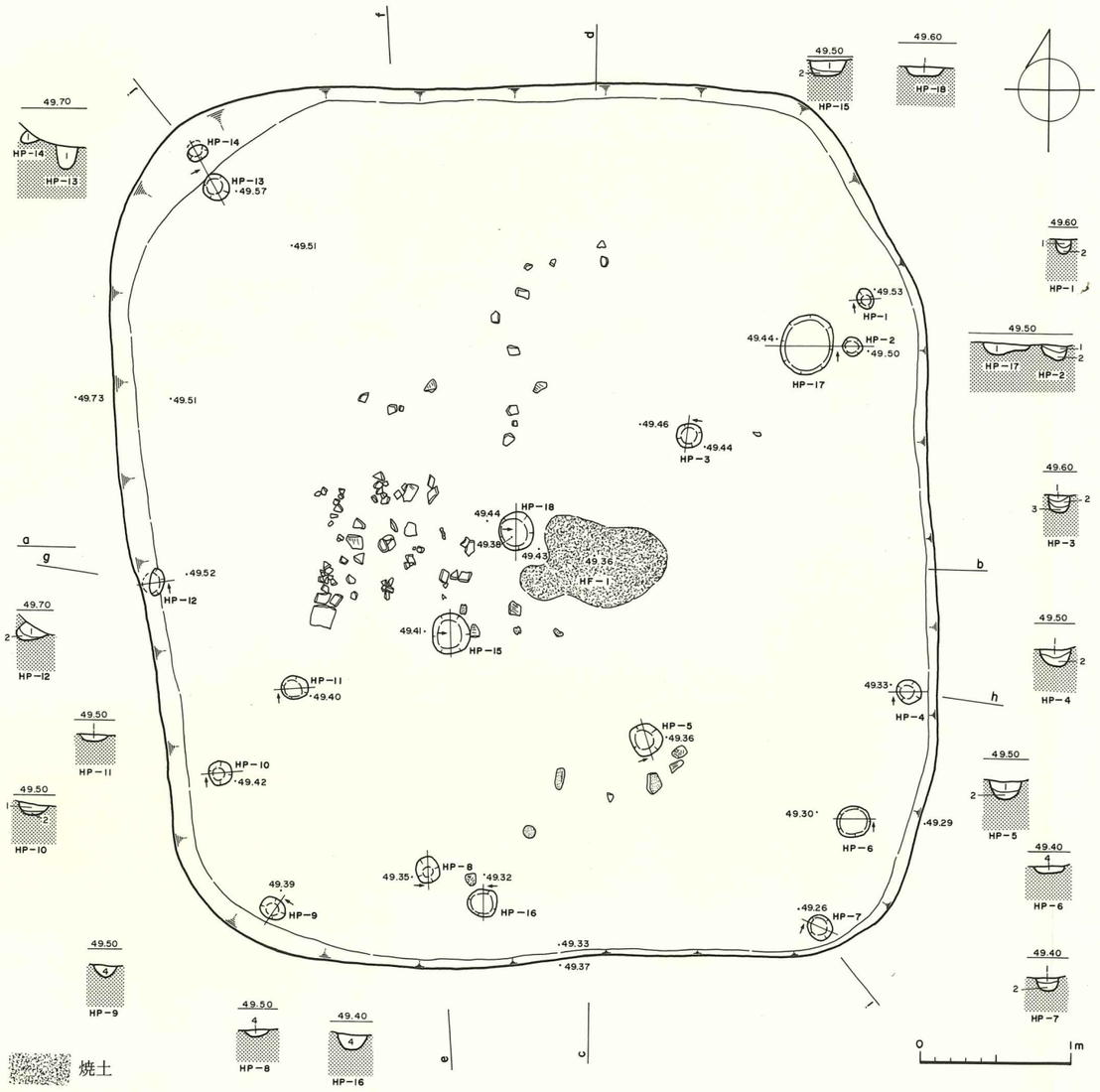
表Ⅲ－２　Ｈ－16小ピット一覧

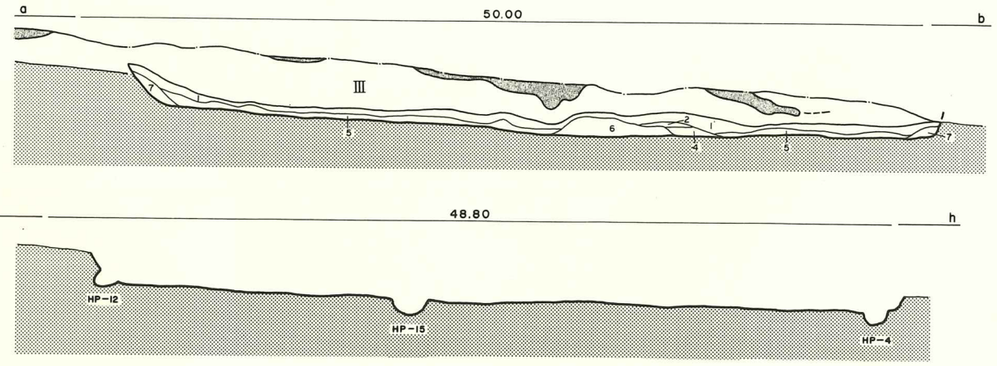
| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 14×11（cm） | 9（cm） | 黒茶褐色土・暗黄褐色土 | 床　面 | 垂　直 | ＨＰ－10 | 17×14（cm） | 8（cm） | 暗茶褐色土・暗黄褐色土 | 床　面 | 垂　直 |
| ＨＰ－２ | 14×13 | 11 | 暗茶褐色土・暗黄褐色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－11 | 19×16 | 5 | 暗　茶　褐　色　土 | 〃 | 〃 |
| ＨＰ－３ | 17×16 | 13 | 暗茶褐色土・暗黄褐色土・茶褐色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－12 | 19×10 | 12 | 暗茶褐色土・暗黄褐色土 | 壁　面 | 内　傾 |
| ＨＰ－４ | 17×16 | 12 | 暗茶褐色土・暗黄褐色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－13 | 19×17 | 16 | 暗　茶　褐　色　土 | 床　面 | 垂　直 |
| ＨＰ－５ | 22×20 | 13 | 暗茶褐色土・暗黄褐色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－14 | 14×10 | 9 | 暗　茶　褐　色　土 | 壁　面 | 内　傾 |
| ＨＰ－６ | 22×20 | 6 | 暗茶褐色土＋暗黄褐色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－15 | 27×25 | 11 | 暗茶褐色土・暗黄褐色土 | 〃 | 垂　直 |
| ＨＰ－７ | 18×15 | 10 | 暗茶褐色土・暗黄褐色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－16 | 20×18 | 10 | 暗茶褐色土＋暗黄褐色土 | 〃 | 〃 |
| ＨＰ－８ | 17×15 | 5 | 暗茶褐色土＋暗黄褐色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－17 | 40×35 | 8 | 暗　茶　褐　色　土 | 〃 | 皿　状 |
| ＨＰ－９ | 18×14 | 9 | 暗茶褐色土＋暗黄褐色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－18 | 26×23 | 7 | 暗　茶　褐　色　土 | 〃 | 垂　直 |

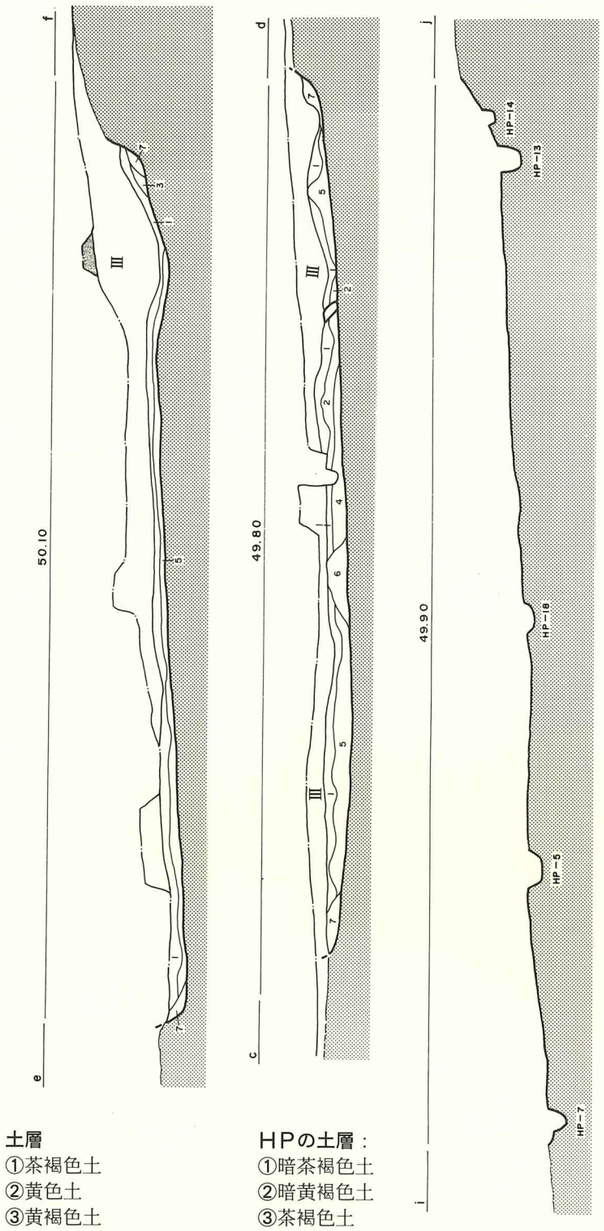
**遺物**

**土器**（図Ⅲ－10　図版44・53）

**1**は床面出土の破片（11点）と南側へ15ｍ程離れたＨ－37覆土1層（5点）、さらに10ｍ程北側のＨ－28覆土2層（2点）の破片が接合した。このほかに口縁部を含め、無文の胴部の破片が床面から42点、周辺の包含層からも出土したが、胎土が脆弱なために接合できなかった。口縁部がやや開き気味で、４ヵ所に緩やかな波頂部がある大型土器。口唇部は指などでナデられ平坦になっている。文様は上下を３条一単位の腹縁文で区画した中に菱形を連結する文様を構成している。菱形内は同様な文様が一筆描きで施文されてている。空間部には、沈線文でやや変形した横長の三角形を描き、貝殻腹縁圧痕文を縦位、斜位に施している。また波頂部下に腹縁文で三角形の垂下する文様があり、その部分にも斜位に施されている。内面には横位に条痕がある。胎土に0.5㎜～１㎜白い砂粒（長石・石英等）が多量に混入している。**2**は床面、床直上（10点）、覆土1層（13点）、Ｍ－7－70・71（14点）、出土の破片が接合した。体部下半は欠損しているが、全体の５分の３程が残存する。４ヵ所に緩やかな波頂部のある大型土器。文様帯は体部半ばまでだが、剥落している部分が多い。口唇は角形で内側角に貝殻腹縁部による縦位の刻みがつけられている。上下を3条、2条の腹縁文で区画し、波頂間から斜位に腹縁文を施し、波頂部で交叉させ、連結する菱形の文様と、口縁部には三角形、胴部半ばには不整の五角形が展開する文様構成となっている。波頂部の下位では、腹縁文の交叉する部分、下位の区画の腹縁文には弧線が施されている。それぞれの空間はほぼ同様の文様に再区画されているが、特に、菱形の空間には一筆描きで描いたような対称をなす三角形の文様が施文されている。これらの区画内には、貝殻腹縁圧痕文が施されているが、押引き文的になっている部分もある。内面は粗い条痕が、口縁付近では横位に、体部では斜位、縦位にみられる。**3**は床面から出土した小型鉢型土器。底部は欠損している。器壁は比較的厚手で、器内外面は口縁部では横位に、胴部から底部にかけては縦位、斜行に条痕が観察できる。**4**は床面の破片（19点）と25ｍ程東側のＨ－18床面出土の破片が接合した。このほかに接合しなかったがＨ－16の床面、周辺の包含層から10数点出土している。無文の中型土器。器面にはかすかに擦痕が残る。内面は凹凸があり縦方向に指などでナデたような痕跡がある。**5～7**はⅡ群土器。**5・6**にはＬＲ原体による斜行縄文が、**7**は薄手のもので押引き文による文様が描かれている。



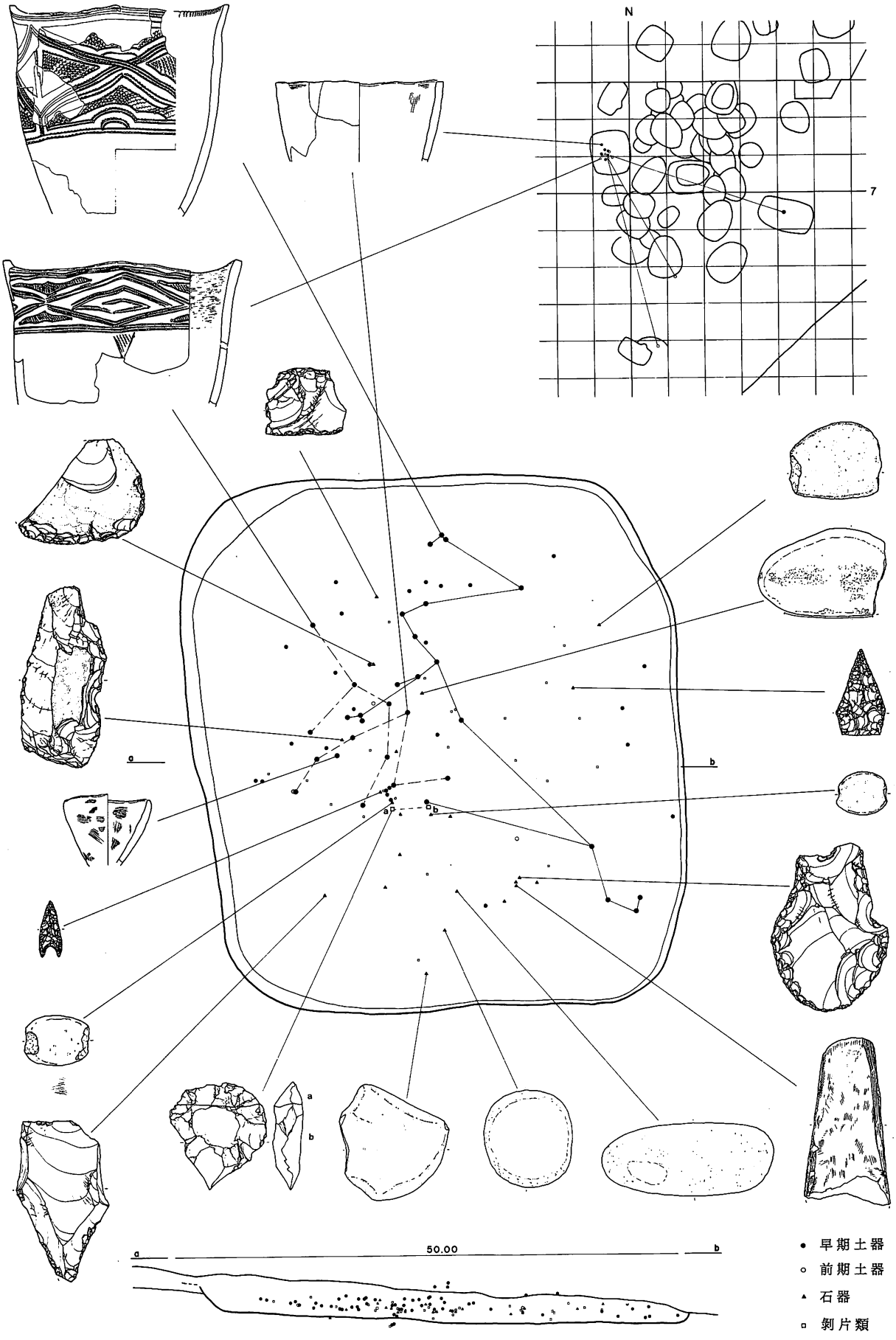




**土層**
①茶褐色土
②黄色土
③黄褐色土
④黄色土（黒色土を含む）
⑤黄茶褐色土
⑥赤褐色土（焼土）
⑦暗茶褐色土

**HPの土層：**
①暗茶褐色土
②暗黄褐色土
③茶褐色土
④暗黄茶褐色土

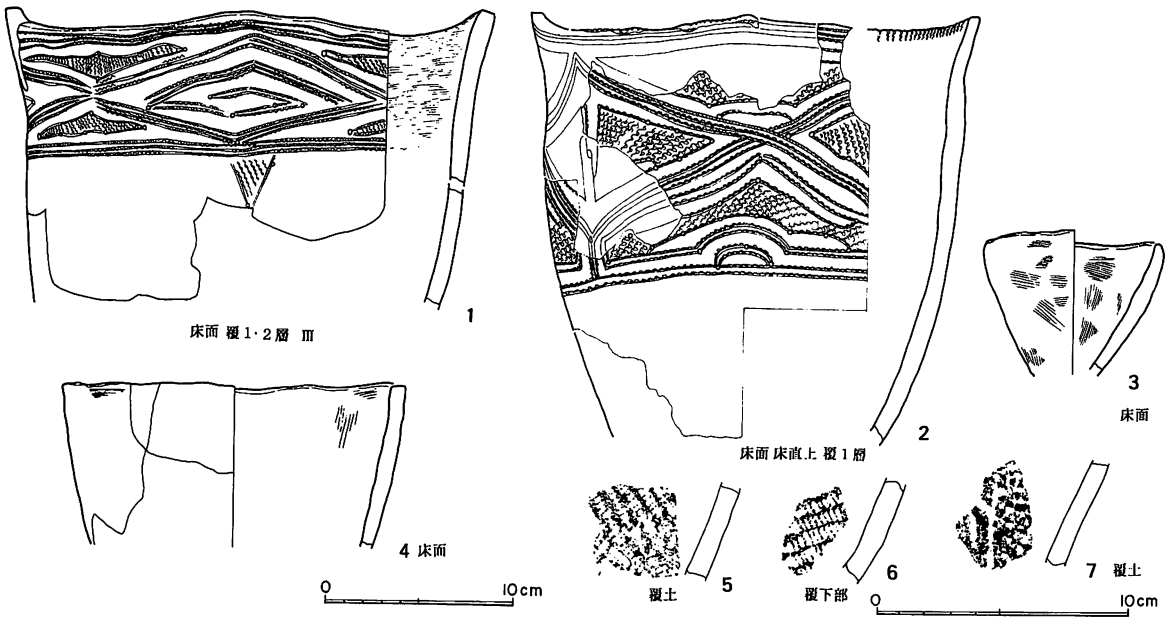
図Ⅲ－8　H－16実測図



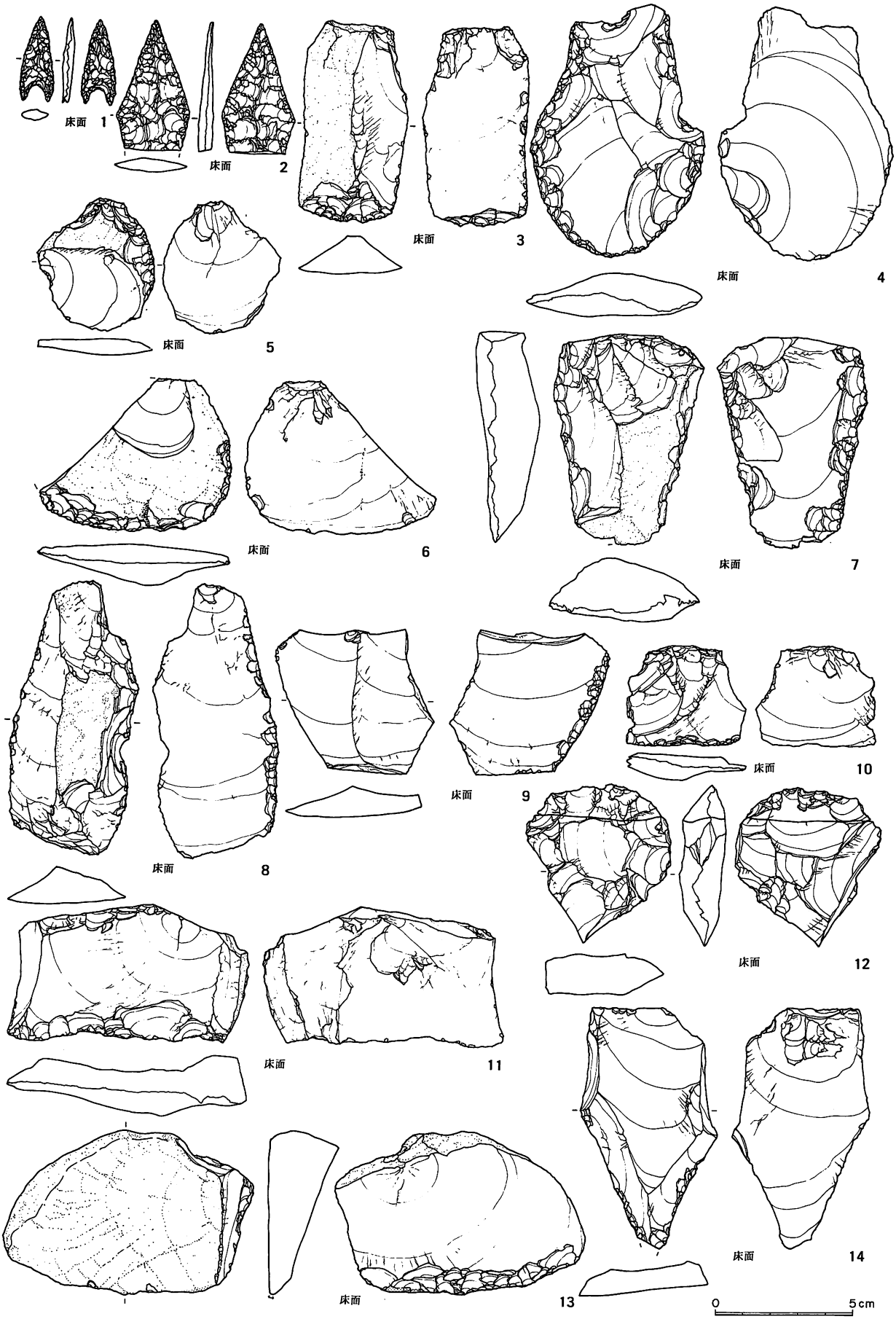

図Ⅲ－9　H－16出土遺物の分布と接合図

**石器**（図Ⅲ－11・12　図版71）

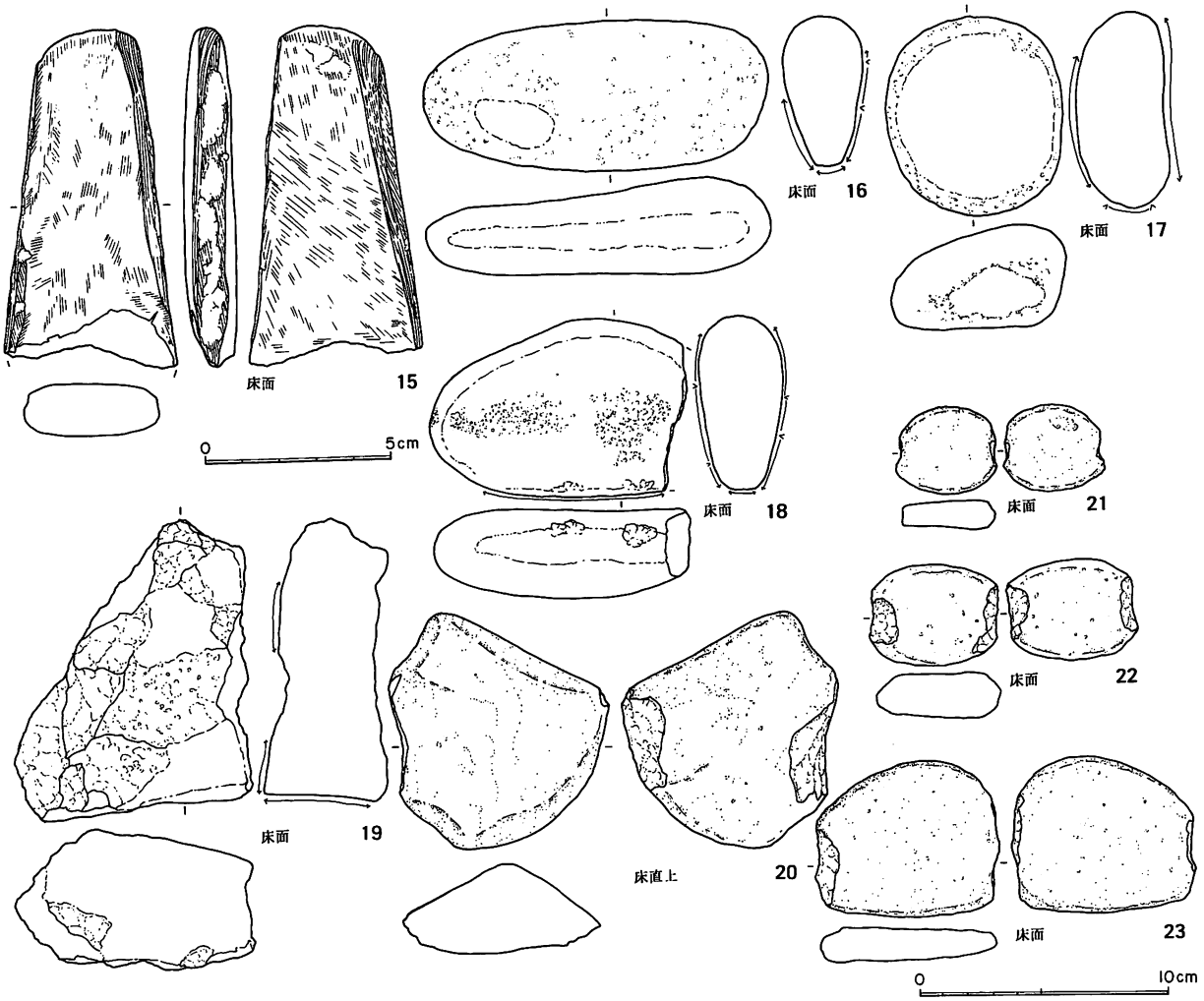
1～4は石鏃。1～3は三角形平基鏃である。1・2は加工が粗く未製品と思われる。4は周辺加工のもので非常に薄い。6・7は石錐。6は石鏃からの転用品で、先端が磨耗している。7は折れ面を利用して尖頭部を作出している。左面が腹面である。5・8は両面調整石器。5は先端が丸く石鏃とするには難しい。むしろ篦状石器の小型品という印象を受ける。8は加工が粗く、篦状石器の未製品の可能性もある。9・10は篦状石器の基部と思われる。9は欠損後、折れ面から刃部を作り出そうとしている。11は石匙。つまみ部は欠損している。製作状況から早期後葉～前期のものであろう。12・13はスクレイパー。14は角礫を素材とした石核である。打面転移が行われており、最終的には大きく割れてしまったようである。15～17はすり石。15・16は1類。17は2類。15はたたき痕が認められる。16は1類の中でも小型のものである。17は片面の一部にだけすり痕が観察できる。また、暗褐色の付着物が利用面の下半部に認められる。18はたたき石4類。端部にたたき痕のある棒状のものである。19は石錘。




図Ⅲ－10　H－16出土土器




図Ⅲ－11　H－16出土土器 (1)




図Ⅲ－12　Ｈ－16出土石器 (2)

Ｈ－17（図Ⅲ－13・14　図版７）

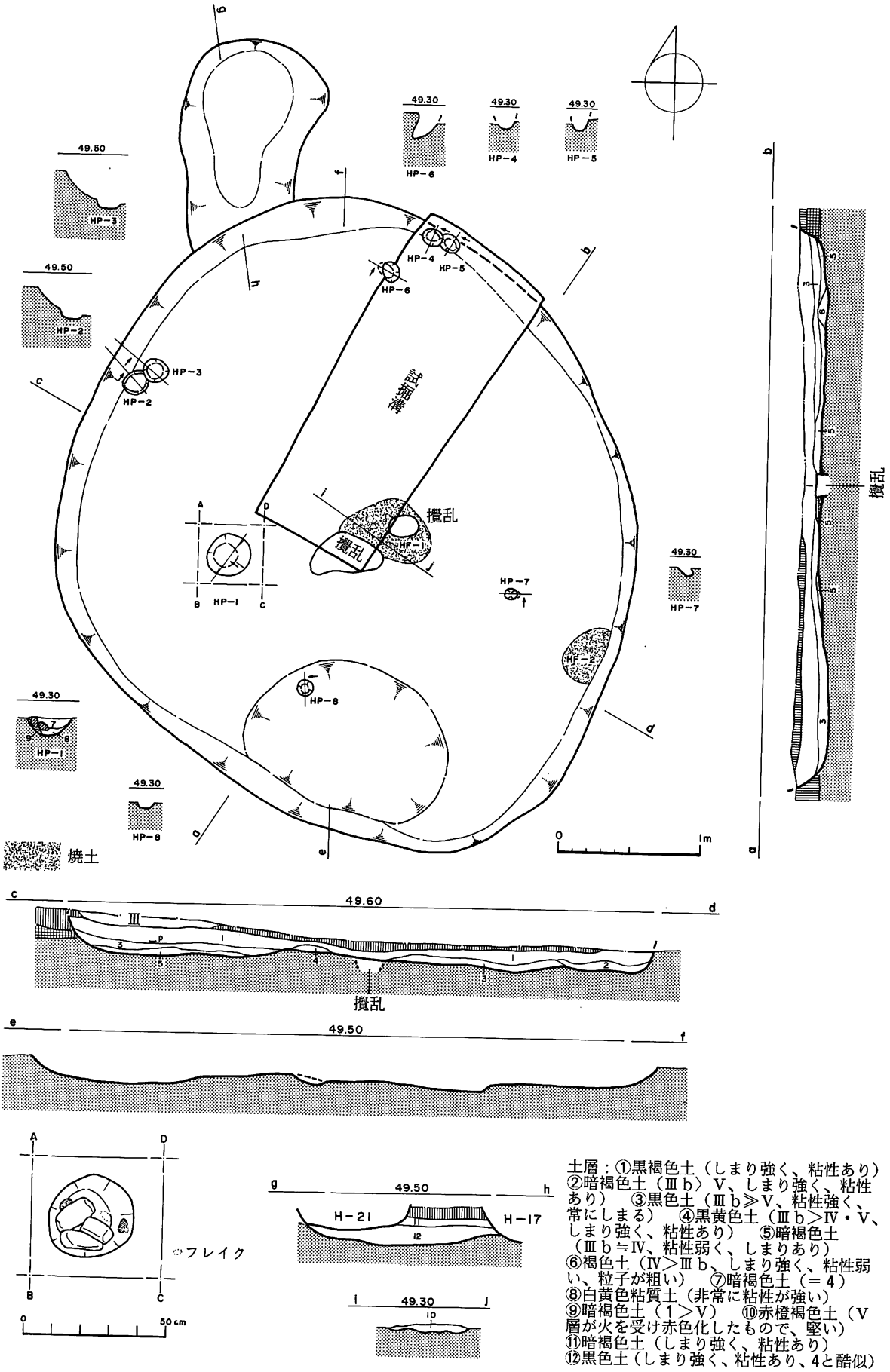
**位置**：Ｎ－７－00・01・11・12区にまたがり、標高49.5ｍ前後の沢地内に立地する。

**規模**：2.33ｍ／2.03ｍ×2.16ｍ／1.95ｍ×0.24ｍ

**平面形**：やや角のある不整円形または卵形。　**床面積**：12.17㎡　**長軸方向**：Ｎ－15°－Ｗ

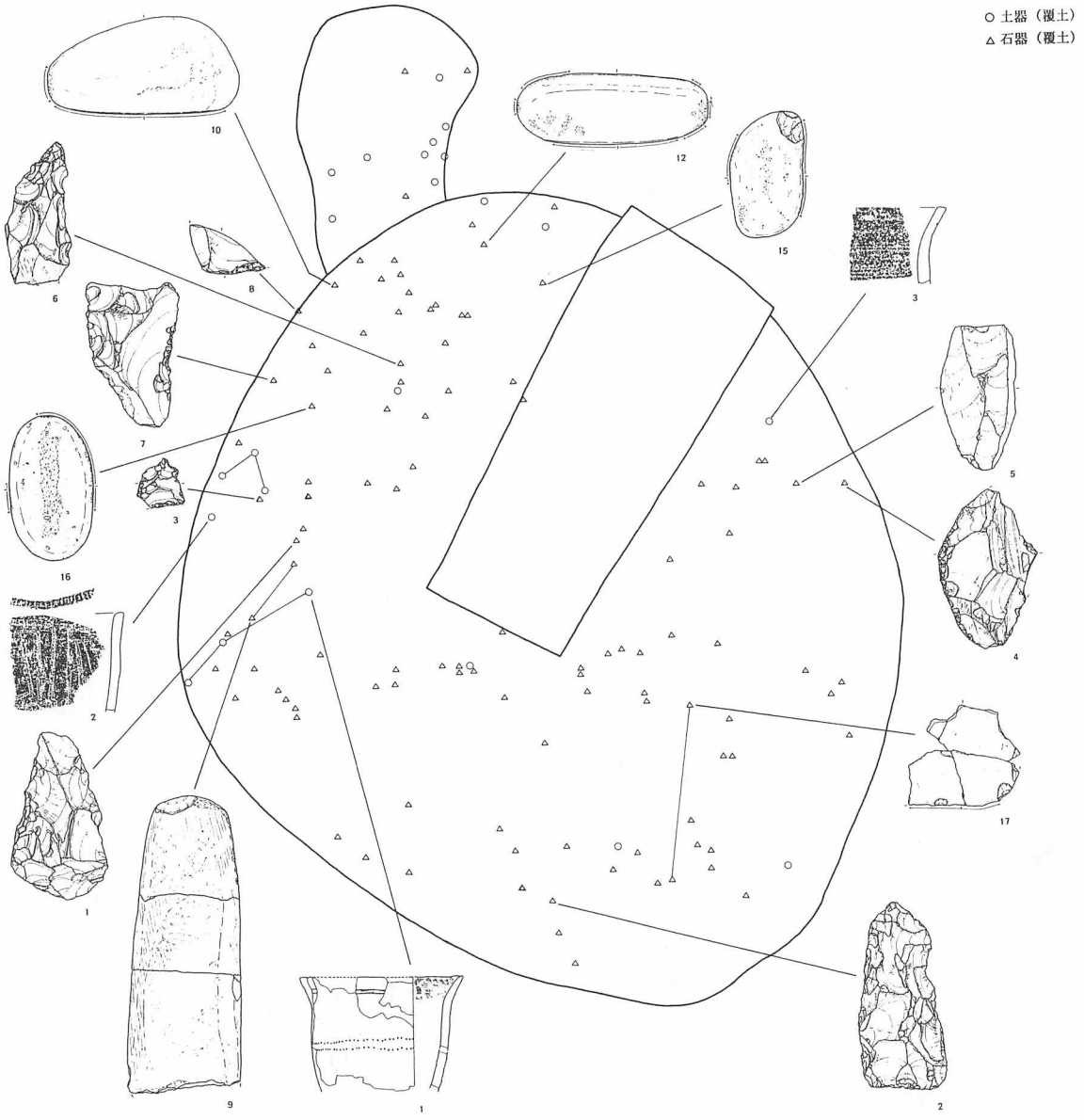
**確認・調査・土層**：Ｂ調査試掘溝の底面を清掃中、焼土を検出した。遺構の存在を予想し、試掘溝の断面を観察したところ遺構の壁の立ち上がりが認められた。そのため、土層観察用ベルトを試掘溝の壁に沿って設定し、南・東・西方向にトレンチを入れて規模を確認した後、遺構調査に移行した。覆土北側の壁にＰ．Ｄ．４相当の暗黄色土が部分的に残存し、Ⅲｂ層を取り除くと上部にはⅢ層主体黒褐色土（１層）が厚く堆積していた。２層以下は、層厚が10㎝以下の薄い土層が堆積する。土層の堆積は地形に沿うように北西方向からの流れ込みによるものがほとんどである。遺物は１層下半部で多量に出土した。３層では減少し、４、５、６層上部で再び出土が増加する傾向が認めらた。遺物は１～３層出土のものを覆土上部として、４～６層出土のものを覆土下部として取り扱った。

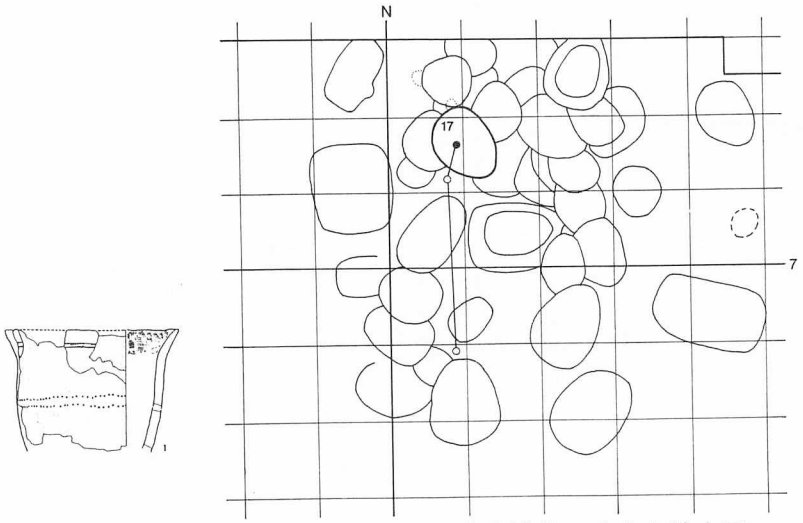
**床面**：Ⅴ層を最大10㎝程度掘り込んで構築されている。Ⅴ層上面に焼土があることから構築面が床面であろう。床面は、周辺部に比べ中央付近がわずかに高くなっている。南側には浅いくぼみが認められた。




土層：①黒褐色土（しまり強く、粘性あり）
②暗褐色土（Ⅲb＞Ⅴ、しまり強く、粘性あり）　③黒色土（Ⅲb≫Ⅴ、粘性強く、常にしまる）　④黒黄色土（Ⅲb＞Ⅳ・Ⅴ、しまり強く、粘性あり）　⑤暗褐色土（Ⅲb≒Ⅳ、粘性弱く、しまりあり）
⑥褐色土（Ⅳ＞Ⅲb、しまり強く、粘性弱い、粒子が粗い）　⑦暗褐色土（＝4）
⑧白黄色粘質土（非常に粘性が強い）
⑨暗褐色土（1＞Ⅴ）　⑩赤橙褐色土（Ⅴ層が火を受け赤色化したもので、堅い）
⑪暗褐色土（しまり強く、粘性あり）
⑫黒色土（しまり強く、粘性あり、4と酷似）

図Ⅲ－13　H－17実測図



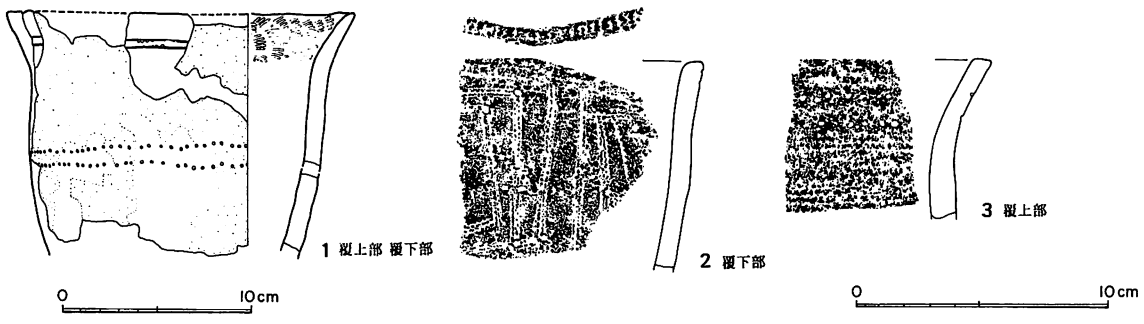

図Ⅲ－14　Ｈ－17出土遺物の分布と接合図

**壁**：床面からの立ち上がりは、平均して約20cmであるが、北西側で高く、南東で低くなる。
**炉跡**：床面のほぼ中央に0.64m×0.4mの不整形の焼土が存在する（ＨＦ－１）。一部撹乱を受けている。焼土はⅤ層が被熱したもので、炭化物はほとんど認められなかった。また土壌を採取し、フローテーションを行ったが、有意な結果は得られなかった。なお、南西の壁ぎわにも焼土が検出されたが（ＨＦ－２）、位置的にはＨ－17に伴うものではなく、隣接するＨ－39に伴う焼土と思われる。
**付属ピット**：ＨＰ－１は0.64m×0.57m×0.12mの円形の小ピットで、断面が椀状となる。覆土は４層の土が大部分堆積する。その下には白黄色粘土層が堆積していた。粘土は意図的に入れられたものと思われる。粘土中からは小円礫が２点出土した。また、粘土層の直上からは３点のすり石が南西寄りに出土している。柱穴様の小ピットは７つ検出した。このうち、ＨＰ－６は開口方向、傾斜等から他の遺構（Ｈ－20？）に伴うものと思われる。ＨＰ－２・３とＨＰ－４・５は対で検出されており、立て替えがあったことが推定される。ＨＰ－７は大きさ、開口方向から人為的とは言い切れない。なお、北側に長円形状のくぼみが調査後に確認された。覆土はＨ－17と類似している。Ｈ－17の付属施設の可能性も考えたが、断面は中央からＨ－17に向かって緩やかに上がり、境では段違いとなる。そのため、付属施設とは一概に言えず、一応別のものとして考えておく。
**遺物出土状況**：出土遺物総数は153点。土器32点、石器121点で石器が圧倒的に多い。しかし、ＨＰ－１出土のすり石等を除いてはすべて覆土からの出土であり、遺構に伴うものは少ない。土器はⅠ群Ｂ類のみの出土であり、北・西側の壁ぎわからの出土がほとんどである。一方、石器は東側でやや出土数が少ないものの、遺構全域から出土している。主な石器としては、篦状石器、石匙、スクレパー、石斧、たたき石、すり石、石鋸等が出土している。すり石の出土が比較的多いのが目立つ。遺構外との接合は少なく、隣接するＮ－７－01区と10数m離れたＮ－８－08区包含層出土のものと接合する土器が１個体あるだけである。
**時期**：掘り込み面はⅢｂ層中と思われる。本遺構はＨ－20、Ｈ－39、Ｈ－51、Ｈ－54と接し、そのすべてを切って構築されている。床面出土の土器がないものの、覆土中からはⅠ群Ｂ類しか出土しておらず、縄文時代早期中葉の時期と思われる。

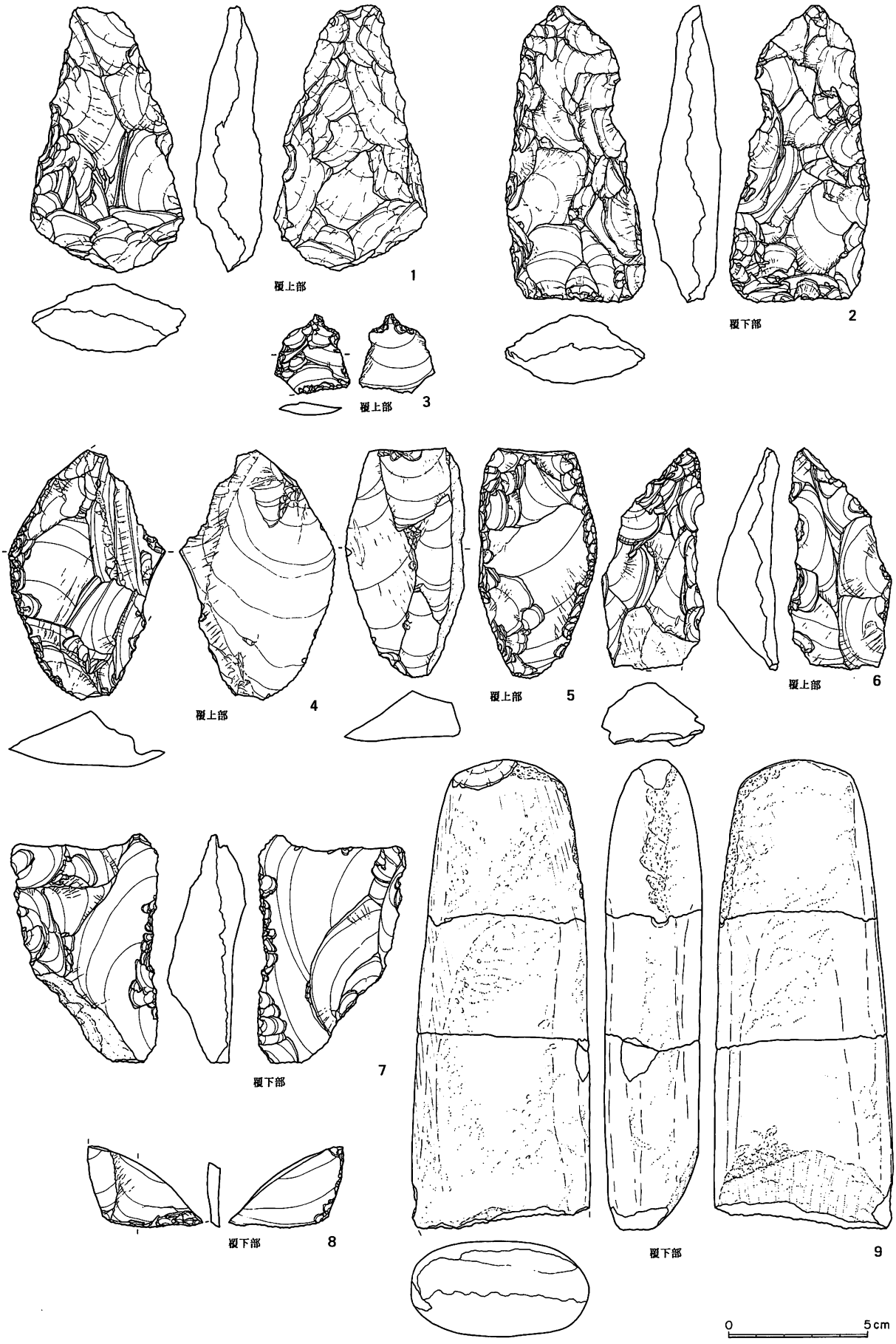
**遺物**

**土器**（図Ⅲ－15　図版44・53）

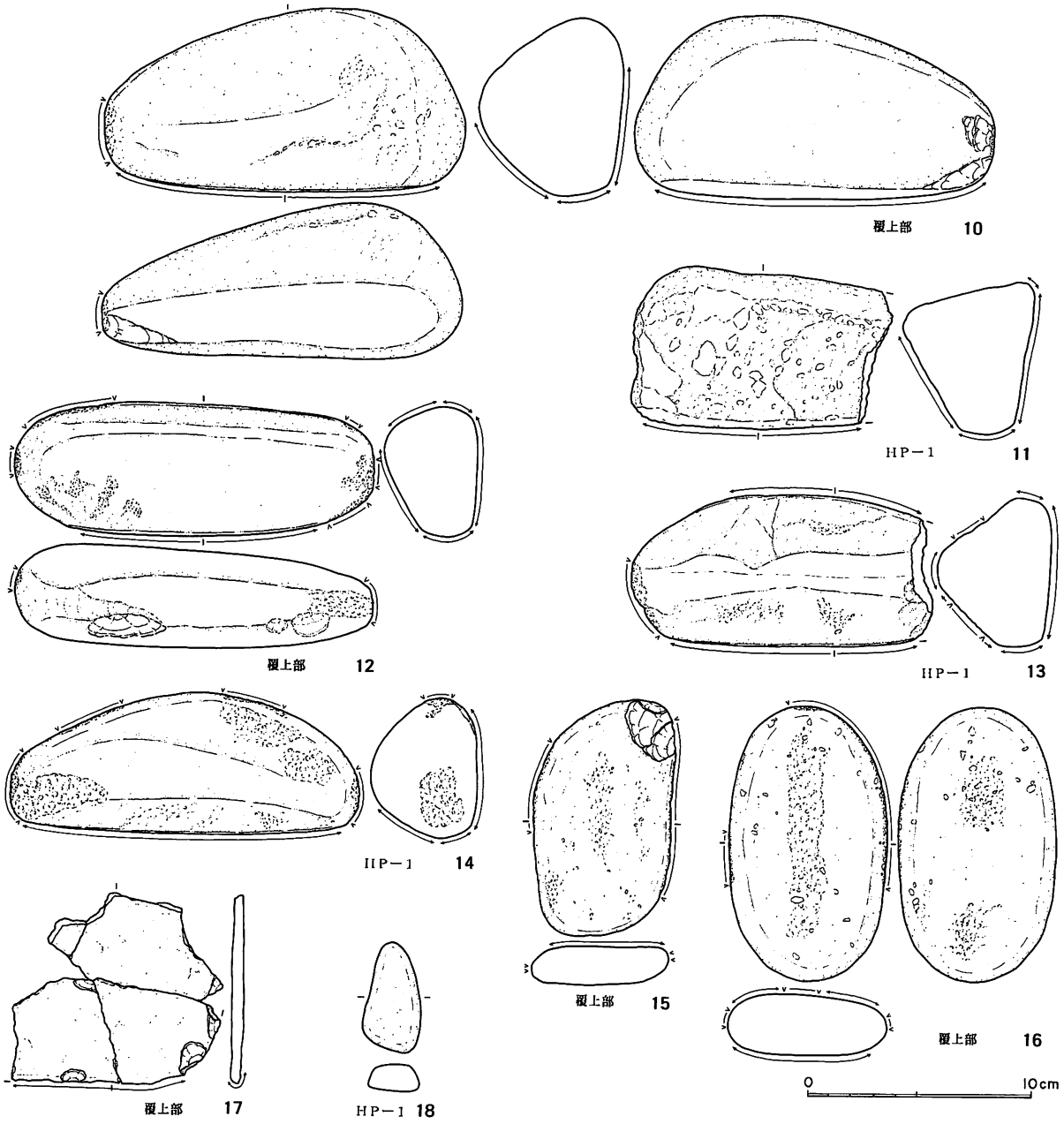
１は遺構の南西壁際、覆土２・４層出土の破片（７点）と包含層Ｎ－７－01・02（11点）、15m程北側のＮ－８－08（４点）出土の破片が接合した。体部下半は欠損しているが全体の５分の３程が残存する中型の土器。平縁で口唇部は薄身で口縁は外反する。表面は剥落している部分が多く、文様構




図Ⅲ－15　Ｈ－17出土土器




図Ⅲ－16　H－17出土石器 (1)




図Ⅲ－17　H－17出土石器 (2)

成は不明瞭である。口縁のくびれ部に細い沈線が２条めぐっているが、部分的に貝殻腹縁圧痕文を重ねているところもある。胴部のやや張りだす部分には、径１㎜以下の非常に細かい円形刺突文が２列不規則な間隔で２列めぐっている。口縁の内面部には貝殻の腹縁部を斜位・横位に押引きした条痕がみられる。２は覆土４層から出土した。腹縁文による文様ははっきりとはしないが、四角あるいは台形の組み合せであろう。口唇内面角には貝殻腹縁圧痕文が縦位に施されている。３は覆土２層から出土。１と同様の、口縁部が外反する器形のもの。細かい砂粒の多い胎土、文様構成も類似し、くびれ部には円形刺突文が２列めぐり、その下位には腹縁圧痕文が数条施されているようである。

**石器**（図Ⅲ－16・17　図版73・74）

１・２は両面加工の篦状石器。両者とも加工は粗い。３は棒状のつまみをもつ石匙。端部の小剥離痕は使用痕と思われる。４・５・７・８はスクレイパー。５の腹面左側縁の加工では刃部が形成されておらず、形態補正のためと思われる。６は剥片素材の石核。両面調整石器の未製品の可能性もある。７は刃部に使用によると思われ潰れが認められる。打点は除去されている。９は石斧未製品。刃部は完全に作出されておらず、折れ面が残る。敲打－研磨－刃部作出の製作過程が推定される。また、刃部加工も研磨の前に敲打によって刃部をある程度作出しており、研磨作業の省力化を試みている。10～16はすり石である。10～14は１類。10・12は側縁とその両側の平坦面にすり面をもつ。すりの後たたき石に転用している。13は全面にすりが認められ、端部や平坦面にたたき痕も認められる。14もたたき石に転用されており、両端部付近を中心にたたき痕が認められる。11は被熱により表面が一部変色している。なお、11・13・14はＨＰ－１から出土したものである。15・16は２類。いずれも平坦面にはすりとたたき痕が複合し、側縁にもたたき痕をもつ。17は薄い礫片を素材とした石鋸。刃部には線状痕が認められる。19はＨＰ－１白色粘土層から出土した円礫のうちの１点である。

Ｈ－18（図Ⅲ－18・19・20・21　図版８・９）

**位置**：Ｎ－８－38・39・48・49・58・59　調査区南東側の北西から南東へ傾斜する標高49ｍの緩斜面上に位置し、南東側は沢地形になっている。北にＰ－30、西にＨ－31・33、南西にＨ－29が隣接し、遺構のほぼ中央をＴ－21が切っている。　**規模**：7.86ｍ／7.25ｍ×4.64ｍ／4.40ｍ×0.30ｍ

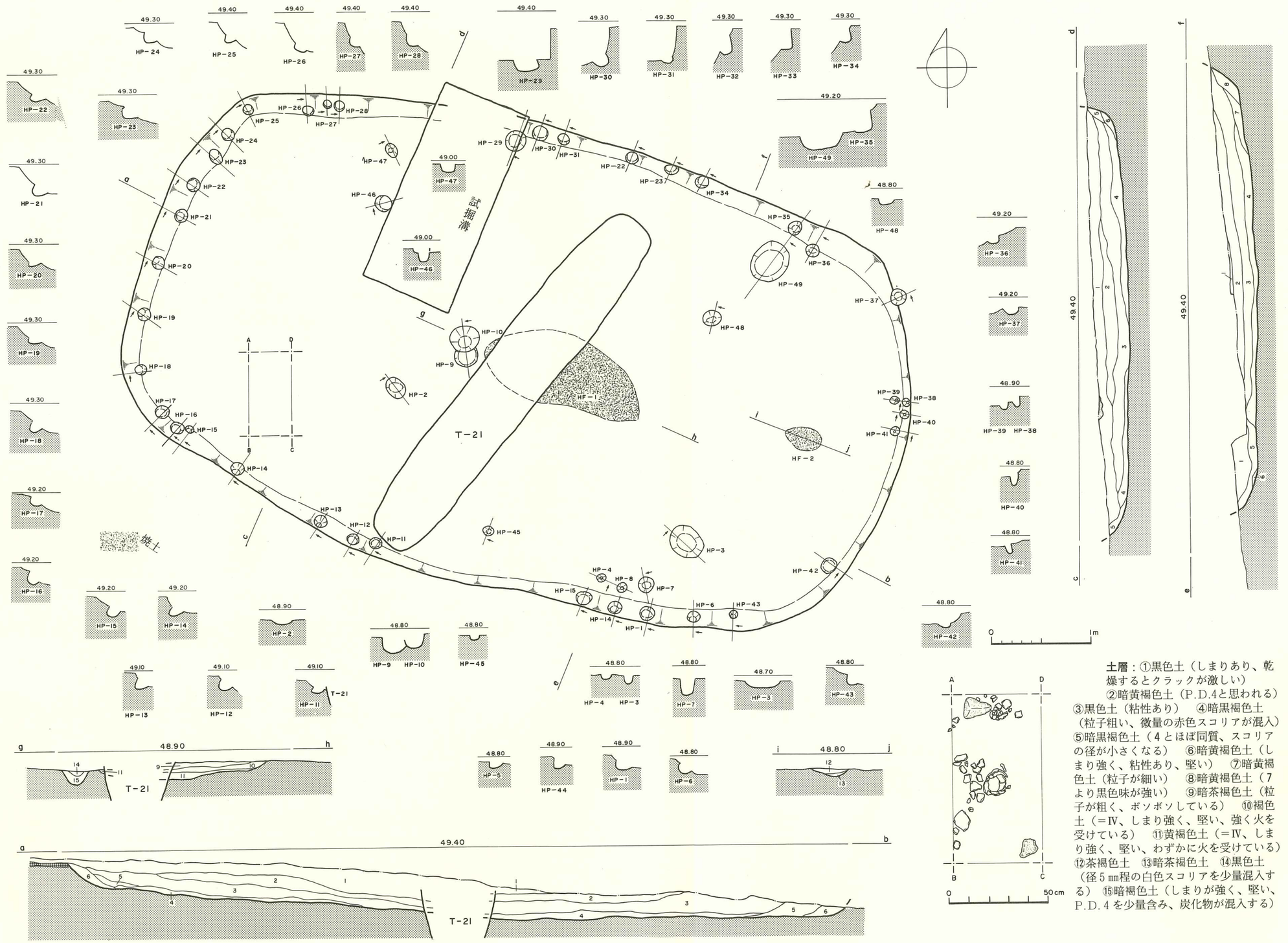
**平面形**：隅丸長方形　**床面積**：28.74㎡　**長軸方向**：Ｎ－72°－Ｗ

**確認・調査・土層**：Ⅲ層の除去後、Ⅳ層上面で北西－南東を長軸とする長円形状の落ち込みを検出した。当初北西側と南東側に２個の遺構を想定したため、遺構の切り合い関係を確認するために土層観察用のベルトを残し、長軸方向に１本、短軸方向に２本のトレンチを設定し調査を行った。トレンチ調査の結果、遺構が２個であるかどうかは確認できず、長円形状の落ち込みのほぼ中央を北東から南西方向、つまり遺構の短軸方向に切っているＴピット（Ｔ－21）が確認された。また、トレンチ調査で焼土が確認されたため、この面を床面と想定し、全体に掘り下げ、壁の立ち上がりを確認し遺構全体のプランを把握することにした。その結果、隅丸長方形を呈する大型の１軒の住居跡であることが確認された。また、床面付近の土壌は１ｍメッシュを設定して全量サンプリングし、炭化物、種子等のフローテーション選別をおこなった。

覆土はおおよそ４層に分層できる。覆土１層は黒色土で乾燥するとクラックが激しい。Ⅲａ層に相当する。層厚は10㎝～20㎝である。覆土２層は暗黄褐色土でP.D.4と呼ばれる暗黄灰色火山灰に覆土１層が少量混じったもので、10㎝ほど堆積している。縄文時代前期の遺物が多い。覆土３層は黒色土で粘性があり、乾燥すると細かいクラックが入る。層厚は約10㎝である。覆土４層は暗黄褐色土で粒子が粗く、赤色のスコリアが多く含まれ５㎝～10㎝程堆積している。覆土５層は暗黒褐色土で覆土４層とほぼ同様の床面直上の堆積だが、スコリアの径が覆土４層に比べ小さくなる。覆土６層は暗黄褐色土で粘性があり、かたい。覆土３層とⅤ層の混合土層である。覆土７層は暗黄褐色で覆土５層と似るが粒子は細かい。覆土８層は暗黄褐色土で覆土７層と同様だが黒色土の割合が多い。

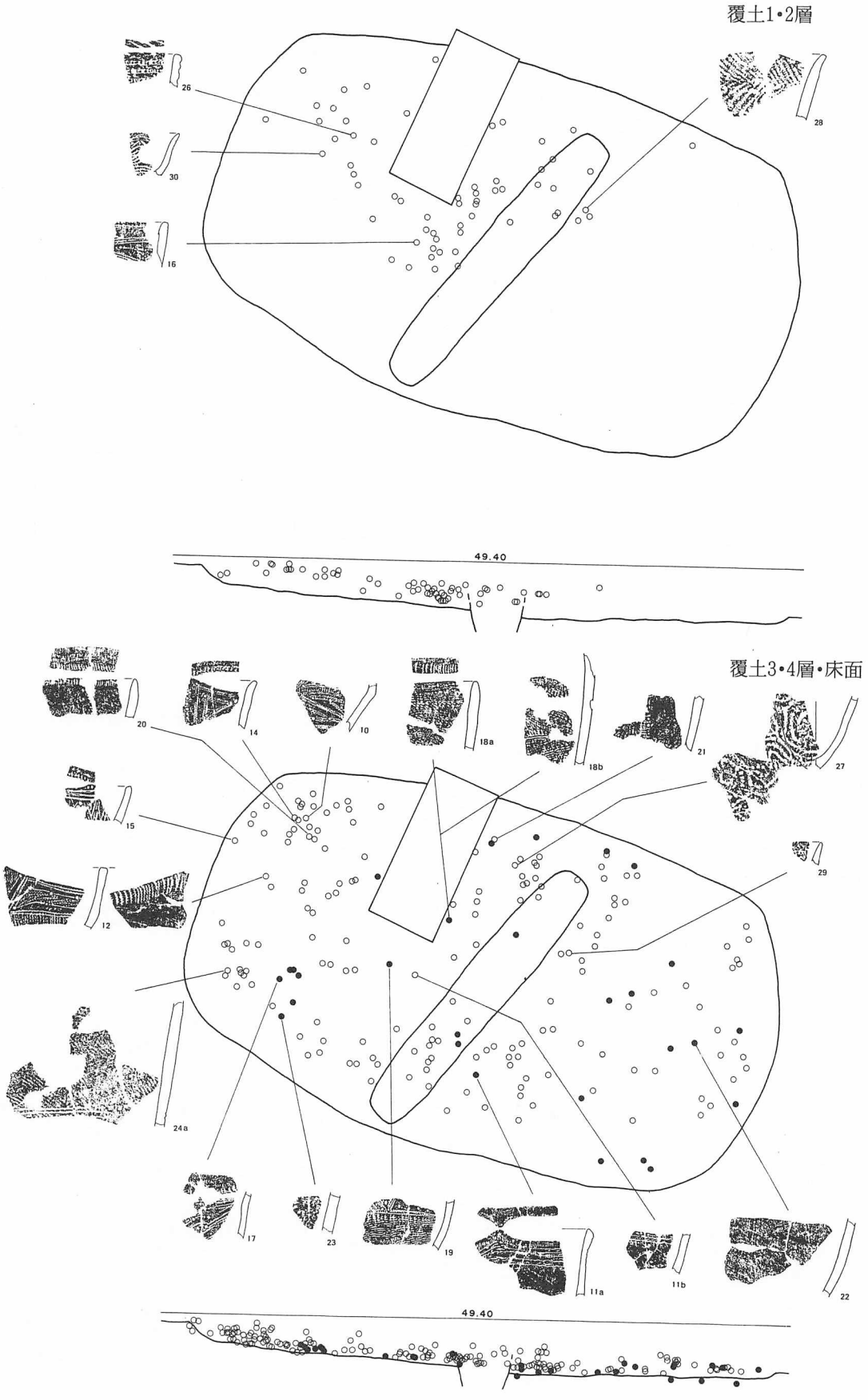
**床面**：ほぼ平坦でⅤ層を15㎝ほど掘り込んで構築されている。遺構の北西側は南東側の沢に向かって緩やかに傾斜しているが、南東側はフラットになっている。床面は全体にかたく、焼土（ＨＦ－１）から南東側の壁にかけてはやや軟質である。

**壁**：全体的に急傾斜で立ち上がっている。とくに北－西壁は垂直的である。壁高は20㎝～30㎝で沢に

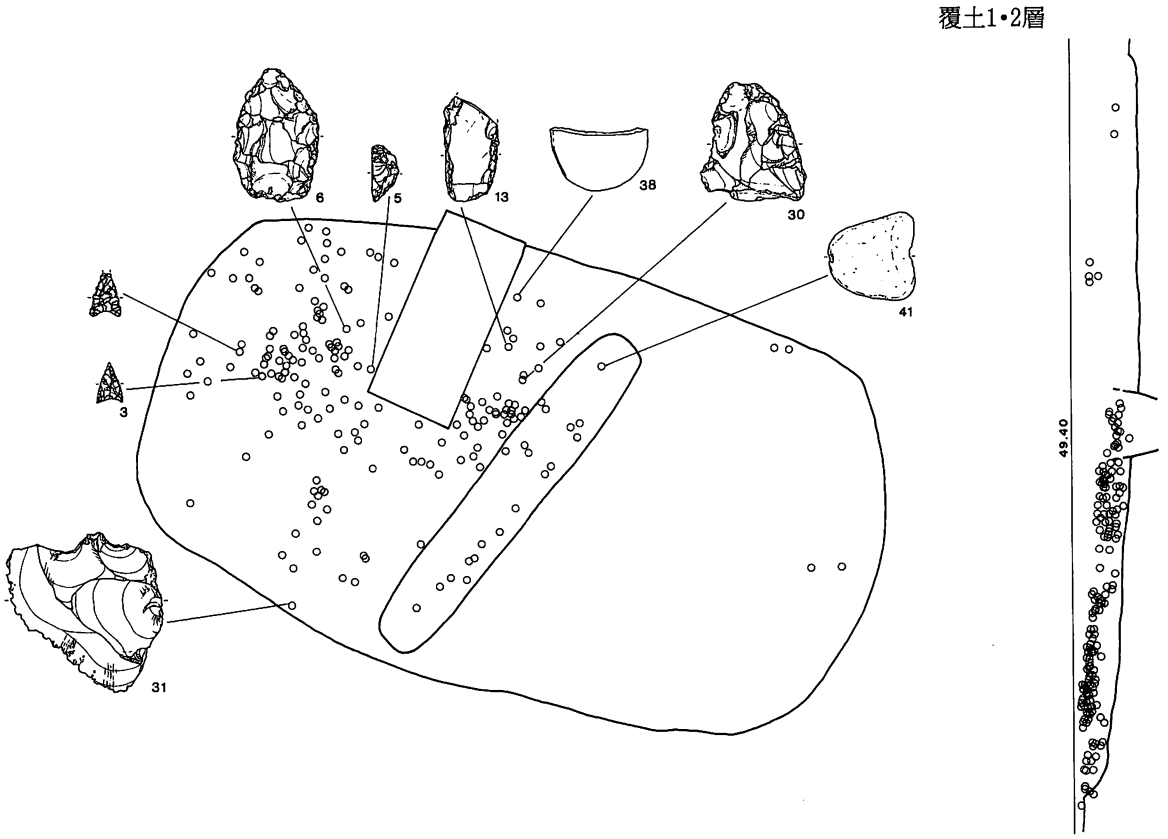


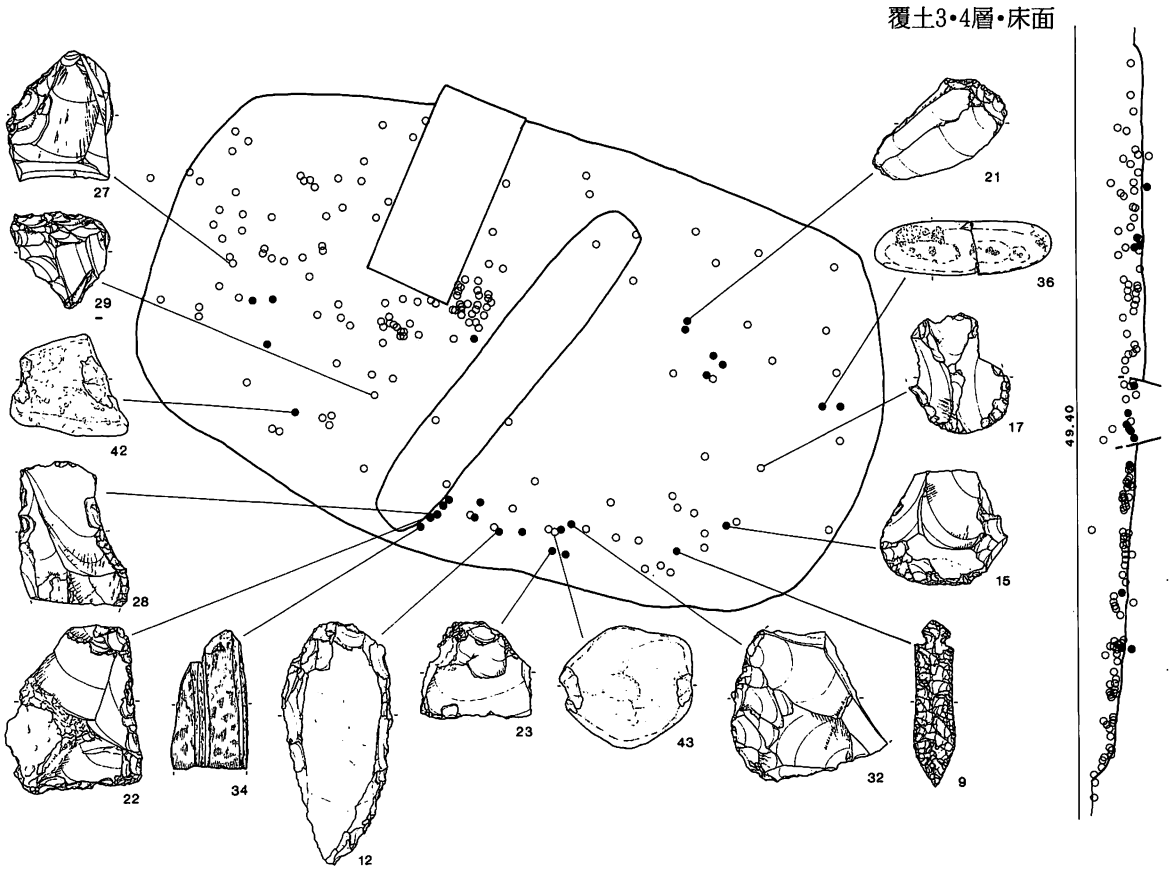

図Ⅲ－18　H－18実測図

土層：①黒色土（しまりあり、乾燥するとクラックが激しい）
②暗黄褐色土（P.D.4と思われる）
③黒色土（粘性あり）　④暗黒褐色土（粒子粗い、微量の赤色スコリアが混入）
⑤暗黒褐色土（4とほぼ同質、スコリアの径が小さくなる）　⑥暗黄褐色土（しまり強く、粘性あり、堅い）　⑦暗黄褐色土（粒子が細い）　⑧暗黄褐色土（7より黒色味が強い）　⑨暗茶褐色土（粒子が粗く、ボソボソしている）　⑩褐色土（＝Ⅳ、しまり強く、堅い、強く火を受けている）　⑪黄褐色土（＝Ⅳ、しまり強く、堅い、わずかに火を受けている）
⑫茶褐色土　⑬暗茶褐色土　⑭黒色土（径5㎜程の白色スコリアを少量混入する）　⑮暗褐色土（しまりが強く、堅い、P.D.4を少量含み、炭化物が混入する）

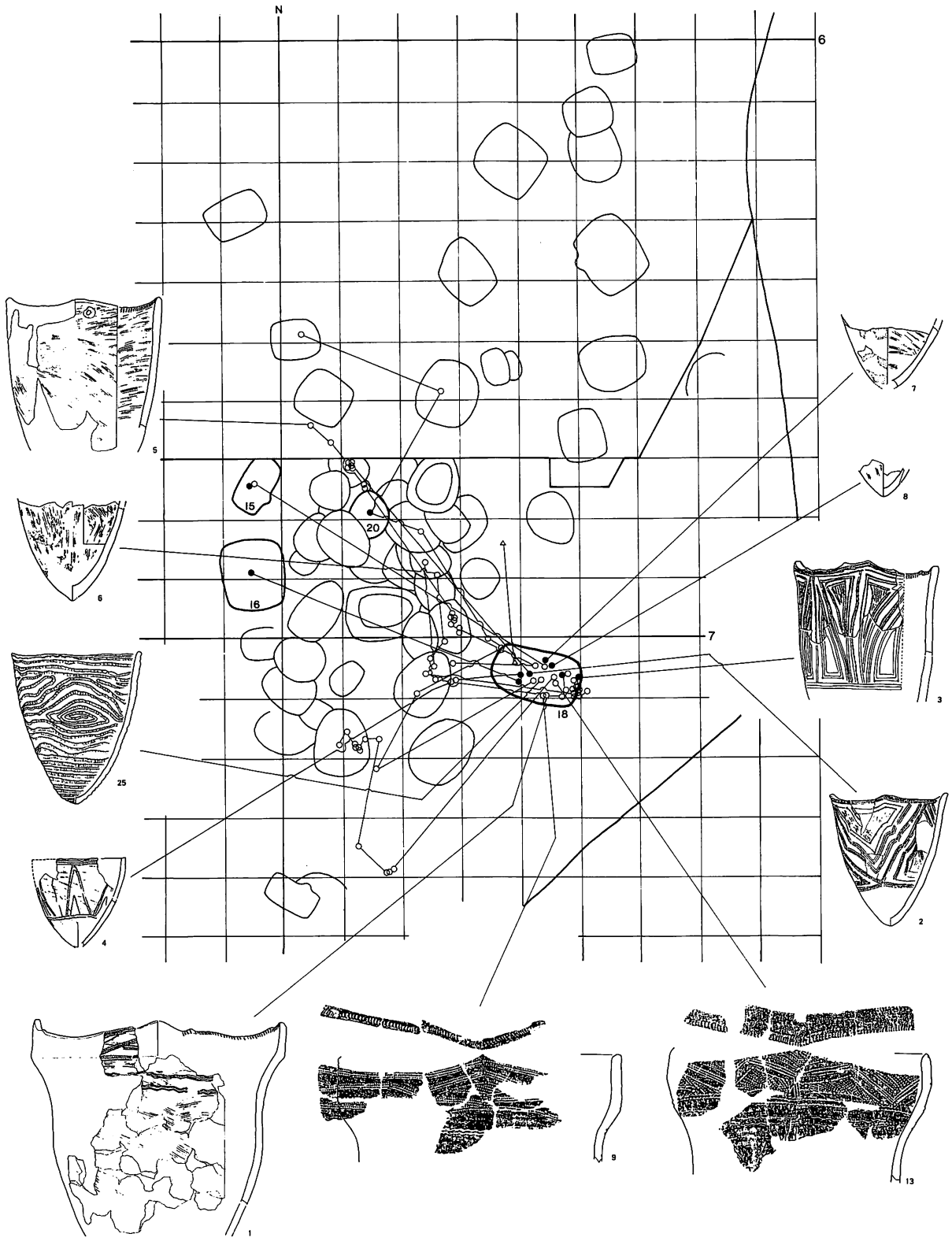



図Ⅲ－19　H－18出土土器の分布図




図Ⅲ－20　Ｈ－18出土石器の分布図




図Ⅲ－21　H－18出土遺物の接合図

面している南東にかけては浅くなっている。

**炉跡**：床面に２ヵ所の焼土がある。ＨＦ－１は中央に住居跡と同じ長軸方向で1.70ｍ×0.80ｍの細長い焼土である。半分ほどがＴ－21に切られている。最大層厚は19㎝で浅い掘り込み（実側図９層部分）がある。Ｖ層が被熱によって赤化している。焼土中からは、キハダ属種子、果肉付キハダ、クルミ属が検出されている。ＨＦ－２は0.38ｍ×0.24ｍの楕円形状で明瞭な掘り込みはない地床炉である。

**付属ピット**：柱穴状の小ピットは、48個検出された。そのうち12個は床面にあり、すべて直立している。主柱穴と考えられる。残りの36個はすべて壁際にあり、いずれも竪穴中央に向かって、少し傾いており、屋根材の支柱穴であろう。柱穴の覆土は、遺構覆土の４層と同様である。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は3,107点で、内訳は土器1,105点、石器2,002点である。土器はⅠ群Ａ・Ｂ・Ｅ類、Ⅱ群が出土しているが、床面付近からの出土はⅠ群Ｂ類に限られる。Ⅱ群は１層から、また、Ⅰ群Ｅ類は１～４層から量的にまとまって出土しており、５点しか出土していないⅠ群Ａ類を除く３者は遺構の埋没状況に応じた新旧関係を表していると思われる。床面付近の土器は遺構内に散在し、特徴的な分布傾向は示さない。石器は石鏃、石槍、石錐、両面調整石器、石匙、石斧、すり石、砥石、石錘等が出土した。１層下部からはⅡ群の復元土器（図Ⅲ－22－４　図版45－４）に隣接してフレイク集中（F•C.－９）が検出された。F•C.－９からの石器の出土は認められない。床面付近からは石鏃、石匙、両面調整石器、スクレイパー、すり石、砥石、石錘等が出土した。量的にはスクレイパー、すり石、石錘の出土が目立つ。ただし、すり石は破片が22点あり、個体数では４点である。床面付近の石器は南東側の周辺部に分布するが、焼土の周辺では出土していない。また、南側の壁付近ではフレイク集中（F•C.－10）が検出された。流れ込み、廃棄等の状況は示していなかった。F•C.－10からも石器の出土は認められない。分布はP.D.4相当の２層を境にして上下で大きく様相が異なる。１・２層では分布が北西側に片寄るのに対して、３層以下では遺構全体に遺物が分布しており、遺構の埋没状況を反映している。Ⅱ群の土器は大型破片がかたまって出土しており、Ｈ－15の床面出土の土器と接合する。遺構の南東側がほぼ埋没した頃、Ｈ－15の住民が土器片や多量のフレイクをＨ－18のくぼみへ廃棄したものと思われる。なお、Ｔ－21に分布が重複する遺物はＴ－21に落ち込んでいるものである。Ｔ－21ではⅡ群土器が出土していることから、Ｔ－21はⅡ群土器廃棄後に構築されたものと思われる。Ｈ－18の良好な接合関係としては、Ｈ－３・６覆土及びその付近出土のものと床面直上出土の底部（高さ約５㎝）が接合する。底部は炭の付着部分より下が残っていた。Ｈ－３覆土とは床面直上出土のすり石も接合しており、新旧関係が明瞭である。他にＨ－16・20・31・33～35・37・50と接合関係がある。

**時期**：床面出土の土器がⅠ群Ｂ類であることから、縄文時代早期中葉の時期と思われる。

床面から採取した土壌のフローテーションの結果、キハダ属種子、果肉付キハダ属、クルミ属、不明種子が検出されており、特にクルミ属種子が量的に多い。

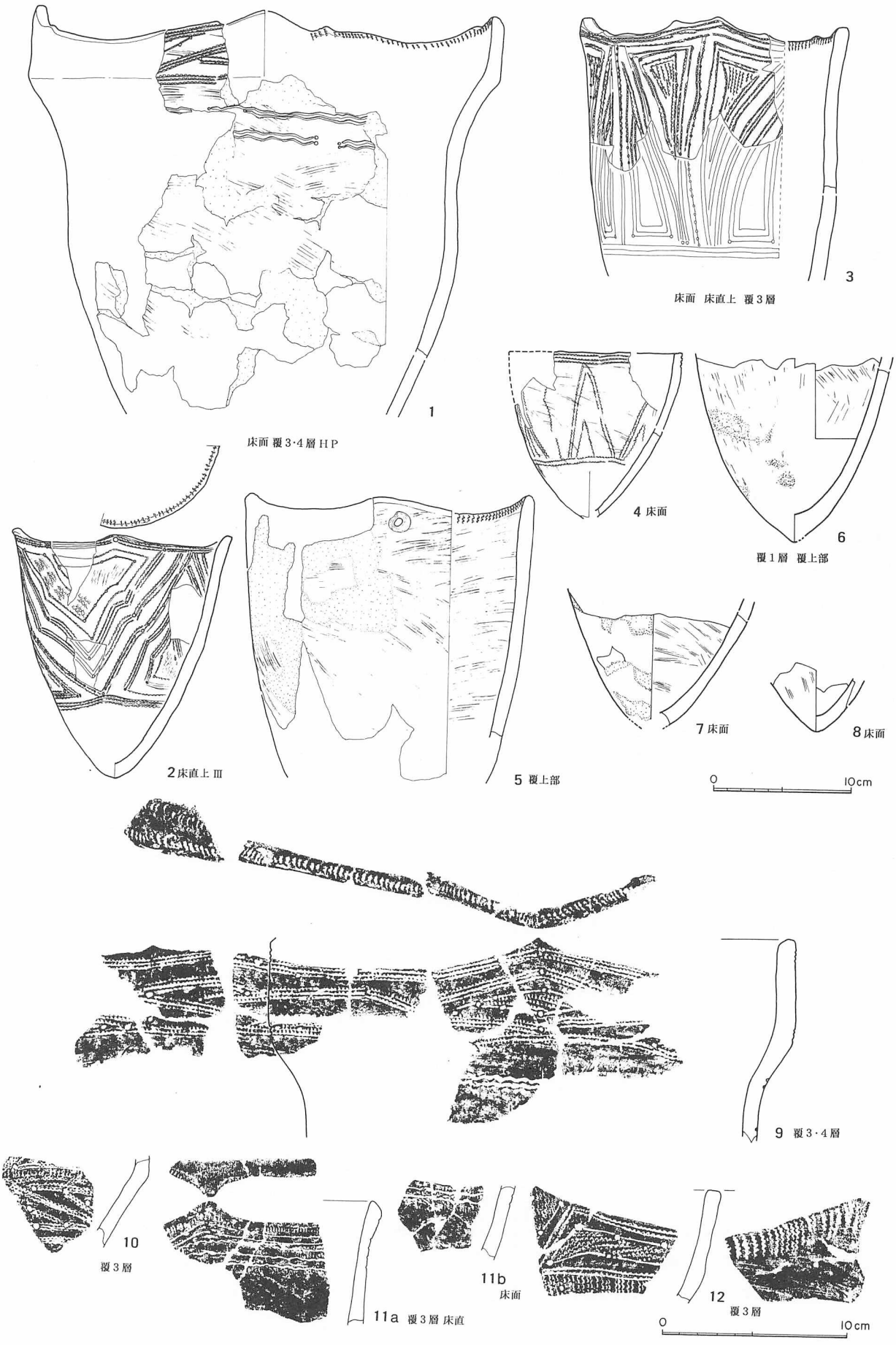
**遺物**

**土器**（図Ⅲ－22・23　図版45・46・54）

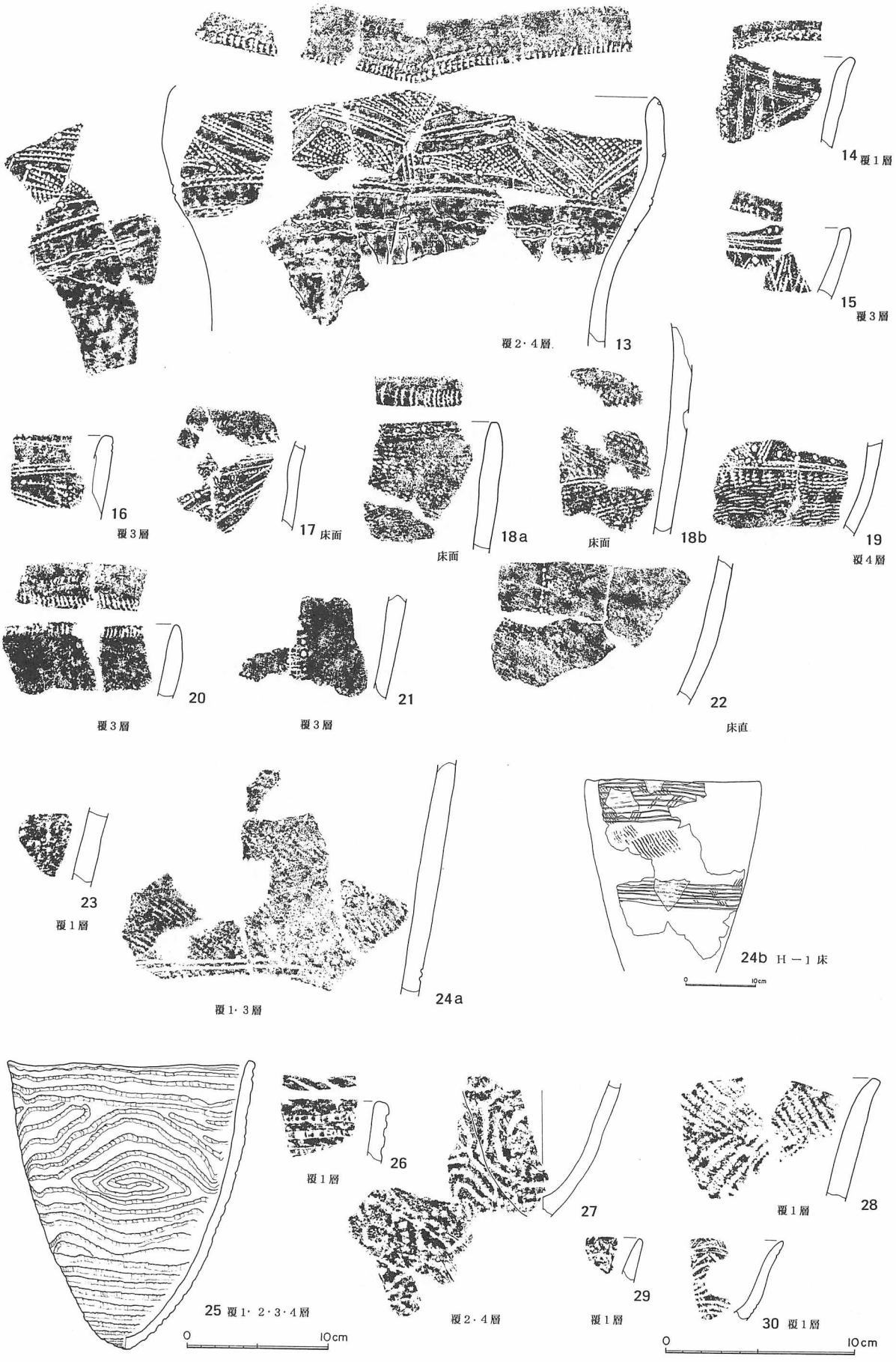
１は床面、覆土３・４層の破片とＮ－８－49の破片が接合した。同一個体片は、このほか30点程あったが接合しなかった。口縁部が直立する大型のキャリパー型土器。胴部下半は欠損し、口縁部はごくわずかに残存する。４ヵ所に波頂部と両端に副突起がある。口唇内側には短い貝殻腹縁圧痕文が施されている。文様は菱形・三角形の文様が、腹縁文で描かれているかとみられる。頸部には２条一単位の崩れた鋸歯状文が間隔をあけて施され、その両端に円形刺突文が施文されている。胴部には細い条痕が斜位にみられるが、すり消されている部分もある。２は昨年度のＨ－３・６出土の土器（図Ⅲ－

18－3）と接合したもの。底部は床面直上、口縁部の3分の1はN－7－12から出土した。口縁部が外反する、非常に形の整った砲弾形底部の中型土器。文様帯は体部下半までに限られる。波頂部間からクランク状の腹縁文を斜位に施し、文様帯を区画し、対称・点対称の三角形の文様を展開させている。区画内は押引き文的な貝殻腹縁圧痕文を充填させている。円形刺突文は上下の区画をつなぐクランク状腹縁文上に等間隔に施され、また、波頂部、文様の変換点にはより大きな刺突文が施されている。区画内には押引き文的な腹縁圧痕文が充填されている。底部は赤褐色であるが、体部下半部では幅7・8㎝の範囲で黒色に変色している。底部の無文部には幅0.5㎜程の条痕がみられる。内面は比較的凹凸があり粗い条痕がある。3は体部下半は欠損している。口縁部の4ヵ所に山形の波頂部と、その両端に小突起がある。口唇内面には押引き的な貝殻腹縁圧痕文が施されている。文様帯は体部半ば程までとみられ、波頂部と波頂間から2条一単位の腹縁文を直線、あるいはやや屈曲させて施し、8単位に区画している。区画内は点対称の三角形が構成されている。円形刺突文は縦位の区画の腹縁文上、最終的三角形状文様の角に施されている。胎土に白い砂粒（長石・石英等）が多い。4は床面からまとまって出土した破片とN－8－29出土の破片が接合した。全体の3分の2程が残存する。平縁で口唇に棒状工具での刻みがかすかにみえる。薄手で非常に焼成の良い黒褐色を呈する砲弾形底部の鉢型土器。口縁部と体部にそれぞれ2条、3条の腹縁文をめぐらせ、8単位の三角形の区画が形成されている。区画の間には腹縁文を1条、屈曲させて施しているが無文の部分もある。口縁部から体部上半部には横位、底部には縦位に細かい条痕があるがすり消されている部分がある。内面は半ばまでは横位に粗い条痕がみられる。5は覆土1層の破片と近隣するH－31の覆土上層、N－7－03・12・20、N－8－29出土の破片が接合した。底部は欠損しているが、全体の5分の3程が残存する。4ヵ所に緩やかな波頂部がある中型土器。口唇断面はやや丸味を帯びた角形で、内側角に短い貝殻腹縁圧痕文が施されている。口縁部から体部上半には幅20㎜程の貝殻の腹縁部の一部を使用した条痕がみられる。下半部は斜位に施されているが、すり消されている部分が多い。内面では下半部まで、体部のものより粗い条痕が施文されている。器面は剥落している部分が多い。6～8は底部。6は覆土1層の破片と近接するH－33覆土上層、N－8－29・49出土の破片が接合した。体部下半から底部までのもので、乳房状尖底に近い。内・外面ともに凹凸が著しい。器面には底部付近にまで縦位に粗い条痕がみられる。内面は貝殻腹縁部や、細い棒状工具で施文されたかと思われる粗い条痕か斜位、縦位に不規則に施されているが、底部にはみられない。底部から10㎝程の範囲は黒色に変色し、内面には炭化物が付着している。7・8は床面出土のもの。7は尖底部に欠損している。器面にはところどころにかすかに条痕が残るが、ナデ消されているらしい。内面は横位・斜位に粗い条痕がみられる。8は砲弾形底部。底部付近には縦位と横位の条痕がある。内面は丁寧にナデられている。

9・10・13はキャリパー状の器形のもの。10は口縁部を欠いているが、内面に貝殻腹縁圧痕文（9・13）、13には爪形圧痕が部分的にみられる。9は床面・覆土出土の破片を図上で復元した。口縁部はごくわずかに内傾する。口唇断面は丸味を帯びた角形で、4ヵ所に山形の波頂部とその両端に副突起がある。口縁部には3条一単位の腹縁文により菱形の文様が横位展開されているとみられる。沈線文に重ねられている貝殻腹縁圧痕文はやや押引き的である。波頂部下の区画内にのみ腹縁文が施されている。器面には横位に細かい条痕が横位にみられる。頸部には2条一単位の鋸歯状沈線文が間隔をあけて施されており、その端には円形刺突文がある。10は薄手のもので胴部にまで文様が及んでいる。13は器形、胎土は9と類似する。覆土2・4層出土の破片と、H－18を掘り込んで構築されたT－21から出土した土器片と接合した。接合しなかった破片とともに図上で復元した。波頂部を中心に腹縁文で三角形、台形などの幾何学文様を展開させている。区画内はやや押引き的な貝殻腹縁圧痕文が斜




図Ⅲ－22　H－18出土土器（1）




図Ⅲ－23　H－18出土土器 (2)

位に充填されている。比較的大きな円形刺突文が沈線文上に施されている。波頂部下では内面から指などで押してやや盛り上がらせている。頸部には、崩れて曲線的になった鋸歯状文が２条施されている、器面にはかすかに擦痕が残る。内面は口唇部の圧痕文のすぐ下に連続した楕円形の浅い圧痕が部分的にみられる。指頭の跡であろうか。11ａ・ｂは丸味のある山形突起がある中型土器。突起部を肥厚させている。口唇上から内面はナデ調整され、口唇内側面角に細い棒状工具による短い刻みが部分的につけられている。文様は口縁部に限られ、平行沈線文、崩れた鋸歯状文がそれぞれ２条・３条ずつ施されている。器面には縦位に細かい条痕がみられるが、すり消されている部分が多い。12～19は口縁部。文様構成は、はっきりとはしない。12～14・18の口縁内側にはいずれも貝殻腹縁圧痕文が施されているが、12のものは長さが10㎜以上ある。18は床面出土のもの。口縁部（18a）には２・３条の貝殻腹縁文が粗く施され、先の尖った棒状工具による小さな円形刺突文がめぐっている。器面には条痕文が施されているが、押引き的になっている部分もある（18b）。19は体部下半部の破片。押引き文的に貝殻腹縁圧痕文が施文されている。20は口縁部は尖り気味で内面に腹縁圧痕文が縦位に施されている。21・22は垂下する文様帯の一部とみられる。21は短い貝殻腹縁文を横位に施し、その両端に円形刺突文がある。22は縦位の沈線文上に円形刺突文が施されている。

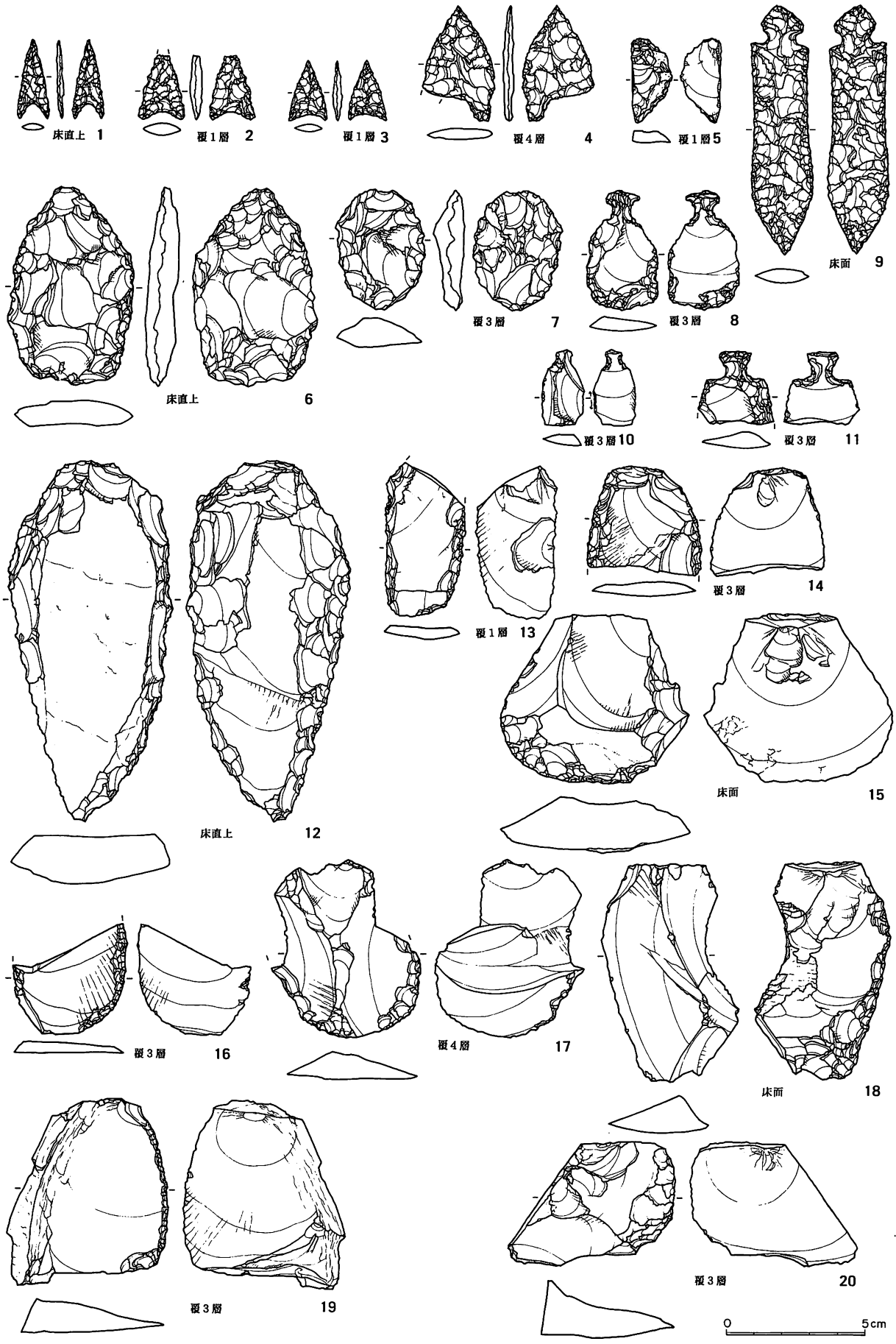
23・24はⅠ群Ａ類土器。同一個体と思われる。24aは北側に50ｍ程離れたＨ－１床面出土の土器（24b）と接合した（図の裏面）。

25～30はⅡ群土器。覆土１～４層から出土した。25はほぼ完形の中型土器。口縁は、わずかに波打つ部分もあるが、平縁で、底部は小さな丸底である。形が非常に整っており、焼成も良好である。口唇部から内面にかけて丁寧にナデ調整されている。文様は器面全体に施されており２種類の原体を使用しているとみられる。口縁部には幅２㎜程の竹管状工具でやや曲線的な３条の押引き文をめぐらしている。体部下半までは同様の原体で、大きく波状の文様を描いている。原体を引く際に強く止める部分と、当て引くだけで沈線文になっている部分がある。体部下半から底部は幅３・４㎜程の箆状工具を用い、１㎜程の間隔で、施文具を押圧することで、深い縦長の刺突文状の押引き文となってる。器面全体も、口唇部同様、施文後にナデ調整されている。内面は口縁部を除き、黒褐色を呈している。26はＨ－15（図Ⅲ－６－３）出土のものと同一。27は中型土器の底部。縦に弧状の文様を描いているようである。胎土は、ほかのⅡ群土器とは異なり、むしろＡ群土器に似ている。器面調整も雑である。28は波状口縁をなすもので、０段多条のＬＲとＲＬの原体で羽状縄文が施されている。30はミニチュア土器。Ｎ－７－60出土の土器（図Ⅳ－22－19）と同一個体。細かい棒状工具で口縁部、底部に平行沈線文をめぐらせ、口縁部には斜位に、体部には山形の文様が描かれている。

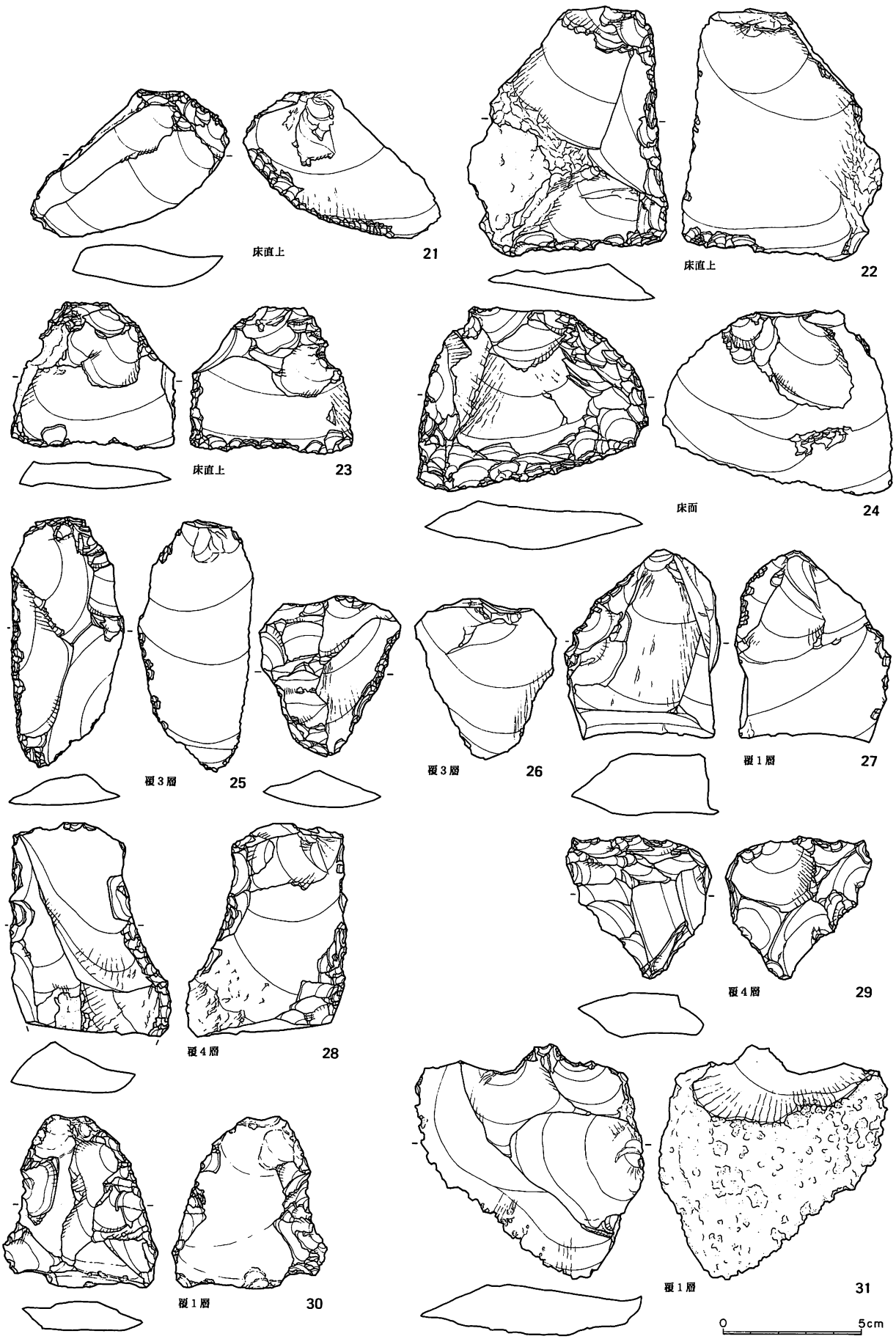
**石器**（図Ⅲ－24・25・26　図版75・76・77）

１～４は三角形凹基鏃。４のような大型幅広の凹基鏃は本遺跡では他にない。５は折れ面を利用して尖頭部を作出した石錐。先端は摩耗している。６は形態から箆状石器としたが、主な使用部位は左主面右側縁のようである。また、通常のものより薄身である。７は小型楕円形の両面調整石器。加工はやや粗く、周縁が鋸歯状である。８～11は石匙。８～11は周辺加工のもの。９は薄身の両面加工のもので、非常に精巧なものである。10は素材に抉りを入れただけのものである。12～28はスクレイパー。12は両側縁とも両面から刃部を作出している。17は縦に割れた剥片を素材とする。22・23は直行する２辺を刃部とするもの。24は打面部を除く３辺を刃部としたものである。27の素材は背・腹面が同時に剥離したものと思われ、打点を共有する。29・30はＲフレイク。29は石核の可能性もある。30は剥片状の自然礫をそのまま利用している。31・32は石核。31は剥片の腹面から数枚剥離したもの。32は大型の剥片素材である。33は石斧の刃部片である。粗粒の凝灰岩を石材とする。刃部端には使用痕が

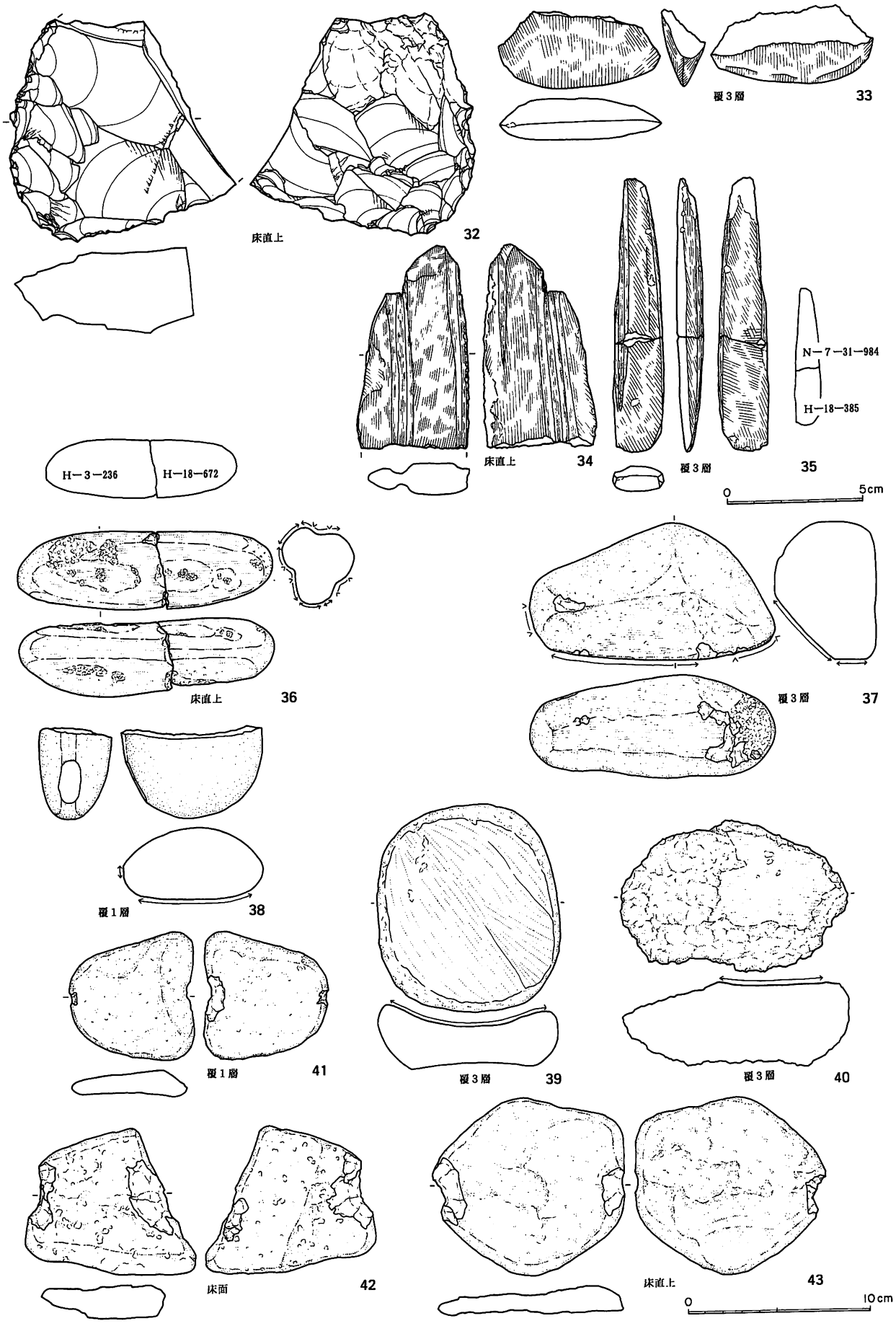
わずかに残る。34は擦り切り石斧の基部。深い擦り切り溝は再加工を試みたものと思われる。35はのみ型の擦り切り石斧。N－7－31出土の基部と接合する。36・37はすり石1類。36はたたき痕が著しく、くぼみ状のたたき痕もすべて平坦面に残る。H－3出土のものと接合する。37は両端部付近にたたき痕が残る。38はすり石2類。平坦面の他に側縁にもすり面がある。39・40は砥石。39は円礫の両面をかなり使いこんだもの。40は礫片を利用したものである。41～43は石錘。




図Ⅲ－24　H－18出土石器 (1)




図Ⅲ－25　H－18出土石器 (2)




図Ⅲ－26　H－18出土石器 (3)

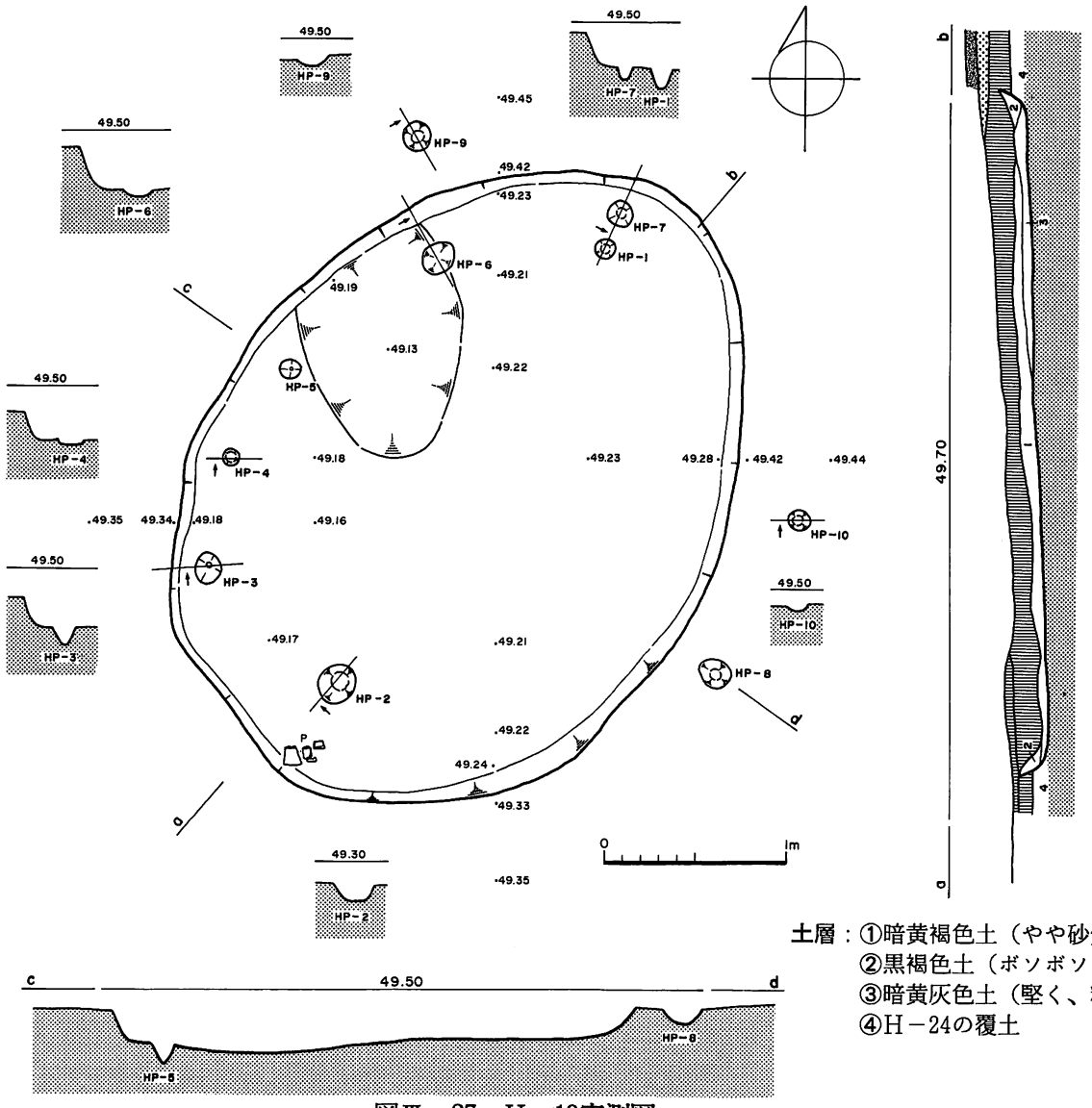
H－19（図Ⅲ－27　図版10）

**位置**：N－7－22　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高49.45m～49.30mである　**規模**：3.84m／3.68m×2.88m／2.74m×0.18m

**平面形**：北東側がやや尖る卵形　**床面積**：7.70㎡　**長軸方向**：N－27°－E

**確認・調査・土層**：N－7－22の包含層調査中、Ⅲ層を約5㎝ほど掘り下げたところで約3.3m×2.8mの長円形（北東－南西を長軸とする）の落ち込みを検出した。この落ち込みは、Ⅲ層上面で見られた、乾燥すると堅くなり、またヒビ割れの激しい部分に相当するものである。小トレンチ調査によって床面、壁の立ち上がりを確認し、全体に少しづつ掘り下げる。覆土は2層に分けられる。覆土1層は暗黄褐色土である。非常に堅く、微小の赤橙色土粒が混入している。南西寄りの部分では、床面直上まで堆積している。層厚は5㎝～10㎝である（土層図1）。覆土2層は床面直上に堆積する暗黄灰色土である。粘質で堅い。層厚は約5㎝である（土層図3）。また壁際には三角堆積状にボソボソした黒褐色土が認められた。掘り込み面はⅢ層上層中と思われる。

**床面**：Ⅴ層をわずかに掘り込んで構築されている。やや凹凸があり、わずかに南西方向に傾斜している。北西壁側には、約1.5m×0.85m×0.1mほどの浅いくぼみがある。中央部が堅く、壁際がやや軟




土層：①暗黄褐色土（やや砂質）
②黒褐色土（ボソボソしている）
③暗黄灰色土（堅く、粘質）
④H－24の覆土




図Ⅲ－27　H－19実測図

質で低くなっている。床面上には炭化物が若干散在している。

**壁**：壁は全体的に急傾斜で立ち上がっている。壁高は約９㎝～17㎝で、北東壁～西壁はやや高い。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは10個検出されている。これらは①壁際から10㎝～15㎝ほど内側にあるもの、②ほぼ長軸線上にあるもの、③壁外にあるもの、というまとまりがある。①は北西側の床面上で５個検出され、すべて直立している。このうちＨＰ－３、Ｈ－５は先端部が細くなっている。支柱穴であろう。②は２個あり、直立している。主柱穴であろうか。③は３個あり、浅いものである。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は97点である。その内訳は土器30点、石器67点である。遺物はすべて覆土中から出土した。ただ南西壁際では、器面を上に向け、流れ込みを思わせるような状態で土器が４点出土している。土器はすべてⅠ群Ｂ類である。石器は石錘、石斧、スクレイパーなどが出土しているが、フレイクが63点出土している。出土遺物には接合したものがある。土器では、覆土出土のものと、Ｈ－21の覆土、Ｎ－７－12Ⅲ層出土の土器片が接合している。また覆土出土のものとＨ－35、Ｈ－39覆土出土の土器片が接合している。石器では、覆土上層出土の石錘片どうしが、また覆土上層出土の石斧片とＮ－７－15Ⅲ層出土のものとが接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢ層上層中である。覆土、周辺包含層出土の土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はＨ－24と重複しており、Ｈ－24より新しいものである。

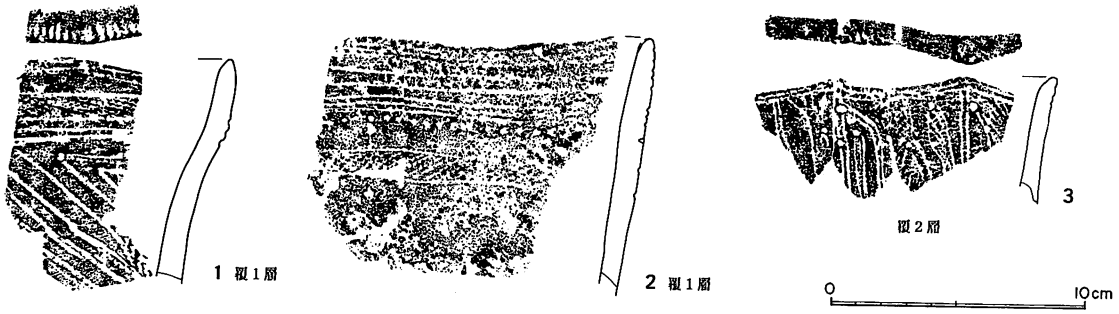
表Ⅲ－３　Ｈ－19小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 10×10（cm） | 11(cm) | 黒色土(粘質、黄色土混入) | 構築面 | | ＨＰ－６ | 18×18 | 3.5 | 黒茶灰色土（粘質） | 構築面 | 非常に浅く、皿状 |
| ＨＰ－２ | 20×20 | 11.5 | 暗褐色土(堅く、やや砂質) | 〃 | 炭化物混入 | ＨＰ－７ | 15×15 | 8 | 暗茶灰色土（〃） | 〃 | |
| ＨＰ－３ | 18×15 | 10.5 | 暗茶褐色土（粘質） | 〃 | 先端部細い | ＨＰ－８ | 18×14 | 3 | 黒褐色土（〃） | Ⅲ層中 | 浅く、若干内傾 |
| ＨＰ－４ | ８×８ | 2 | 〃　（堅く、砂質） | 〃 | 非常に浅く、皿状 | ＨＰ－９ | 10×10 | 2.5 | 黒　色　土（〃） | 〃 | 浅く、Ⅲ状 |
| ＨＰ－５ | 10×10 | 10 | 黒茶灰色土（粘質） | 〃 | 先端部細い | ＨＰ－10 | 10×10 | 3 | 〃　（〃） | 〃 | 浅く、Ⅲ状 |

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－28　図版55）

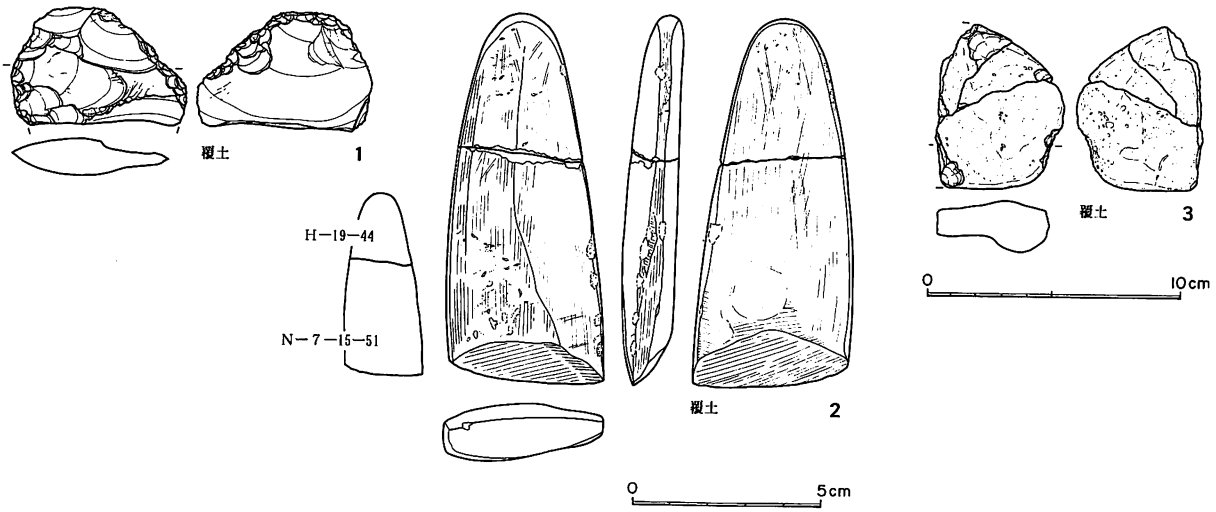
１は覆土１層出土の破片が接合したものであるが、口縁部の破片は、二次焼成を受けたかのように灰白色を呈している。また、同一個体の破片は25ｍ程北側のＮ－８－36・37（図Ⅳ－16－72）からも出土している。頸部がややくびれるキャリパー状に近い器形と見られ、波頂部の両端に副突起があるものであろう。文様は明瞭ではないが、幅の狭い口縁部に、腹縁文で横長の区画をし、腹縁文を斜位に粗く施文している。胴部は三角形、あるいは弧線による文様であろう。２は覆土１層出土のもの。同一個体片は、10ｍ以上南側のＨ－33（図Ⅲ－89－20）、Ｈ－34（図Ⅲ－95－２）、Ｈ－32（図Ⅲ－84－２）からも出土している。このほか、接合しないが周辺の包含層Ｎ－７－10、－20、－30、－33（点）、やや南側のＮ－８－29（３点）、Ｈ－38からも出土している。昨年度調査したＨ－９の土器片（図Ⅲ－61－27）も同一個体で、破片は非常に広範囲から出土している。緩やかな波状の大型土器で両端に副突起がある。胎土に白い砂粒（長石・石英等）が多い。口縁に平行に腹縁文を複数施し、その下位の無文部には、円形刺突文をほぼ等間隔に器面にめぐらせている。同様に細い平行沈線文で区画した中に、左下がりの貝殻腹縁文を斜位に充填している。文様帯の幅は比較的狭く、下位は無文になるとみられる。口唇内側角には貝殻腹縁文による短い刻み、その下位には爪形の痕跡がある。




図Ⅲ－28　H－19出土土器

**石器**（図Ⅲ－29　図版77）

1は両側縁加工のスクレイパー。2は緑色泥岩の石斧。鏑が明瞭で、片刃気味ながら両面から研ぎだしている。刃部は昨年度調査したN－7－15出土のものである。3は石錘片。抉りはたたきによるものである。



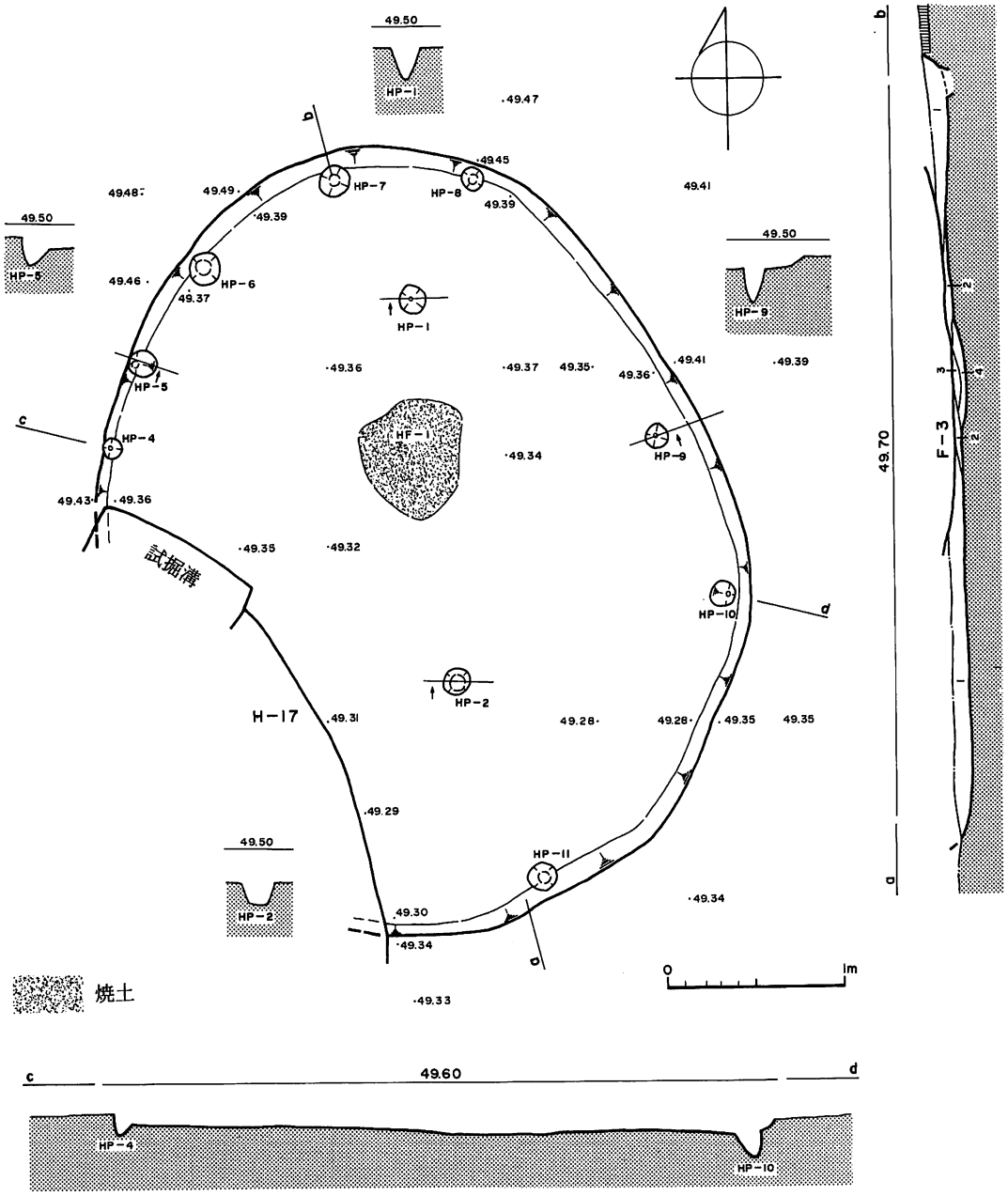

図Ⅲ－29　H－19出土石器

H－20（図Ⅲ－30・31　図版11）

**位置**：N－７－11・12　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高49.51ｍ～49.32ｍである。　**規模**：4.44ｍ／4.24ｍ×（3.90ｍ）／（3.70ｍ）×0.14ｍ

**平面形**：ほぼ北を先頂部とする卵形　**床面積**：11.42㎡　**長軸方向**：N－2.5°－W

**確認・調査・土層**：F－３の焼土を除去したところ、焼土粒を混入した暗褐色土（土層図２）が広がっており、この下に焼土と堅い面を検出した。この堅い面を検出しつつ広げたところ、遺物が多数散在




**土層**：①黒褐色土（粘質でやわらかい）　②暗褐色土（粘質で堅い、焼土粒を少量混入）　③暗黄橙色土（焼土）　④暗橙色土（③＜Ⅴ層）

図Ⅲ－30　H－20実測図

していることから、住居跡として調査を行う。焼土面と生活面と考えられる堅い面上の遺物出土状況を検討しながら全体的に掘り下げる。覆土はほぼ一層である。覆土１層は粘質でやわらかい黒褐色土である（土層図１）層厚は５㎝～10㎝である。ただ焼土周辺には焼土粒が混入する堅い暗褐色土が２㎝～３㎝ほど堆積していた。

**床面**：床面はⅢｂ～Ⅳ層中に構築されている。ほぼ平坦であるが、北から南へわずかに傾斜している。焼土周辺は非常に堅く、壁際周辺は軟質である。構築面上には暗褐色土＋黒褐色土、暗褐色土＋黄色土の混じり合った汚れた土が２㎝～３㎝ほど堆積しており、フローテーション処理を行うために１ｍメッシュに区画して、土壌試料を採取した。

**壁**：全体に緩やかな傾斜で立ち上がっているが、西壁の立ち上がりは不明瞭であった。壁高は10㎝～14㎝ほどである。

**炉跡**：長軸線上のやや北寄りで焼土を検出した。0.64ｍ×0.55ｍの広がりがあり、層厚は５㎝ほどである。地床炉である。若干くぼんでいるが、明瞭な掘り込みはない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは10個検出されている。これらには①ほぼ長軸線上にあるもの　②壁際にあるもの、というまとまりがある。①は焼土のほぼ北と南に１個づつあり、浅いけれども直立している。主柱穴と思われる。②は全体に浅く、ＨＰ－５、10はやや内側に傾いている。

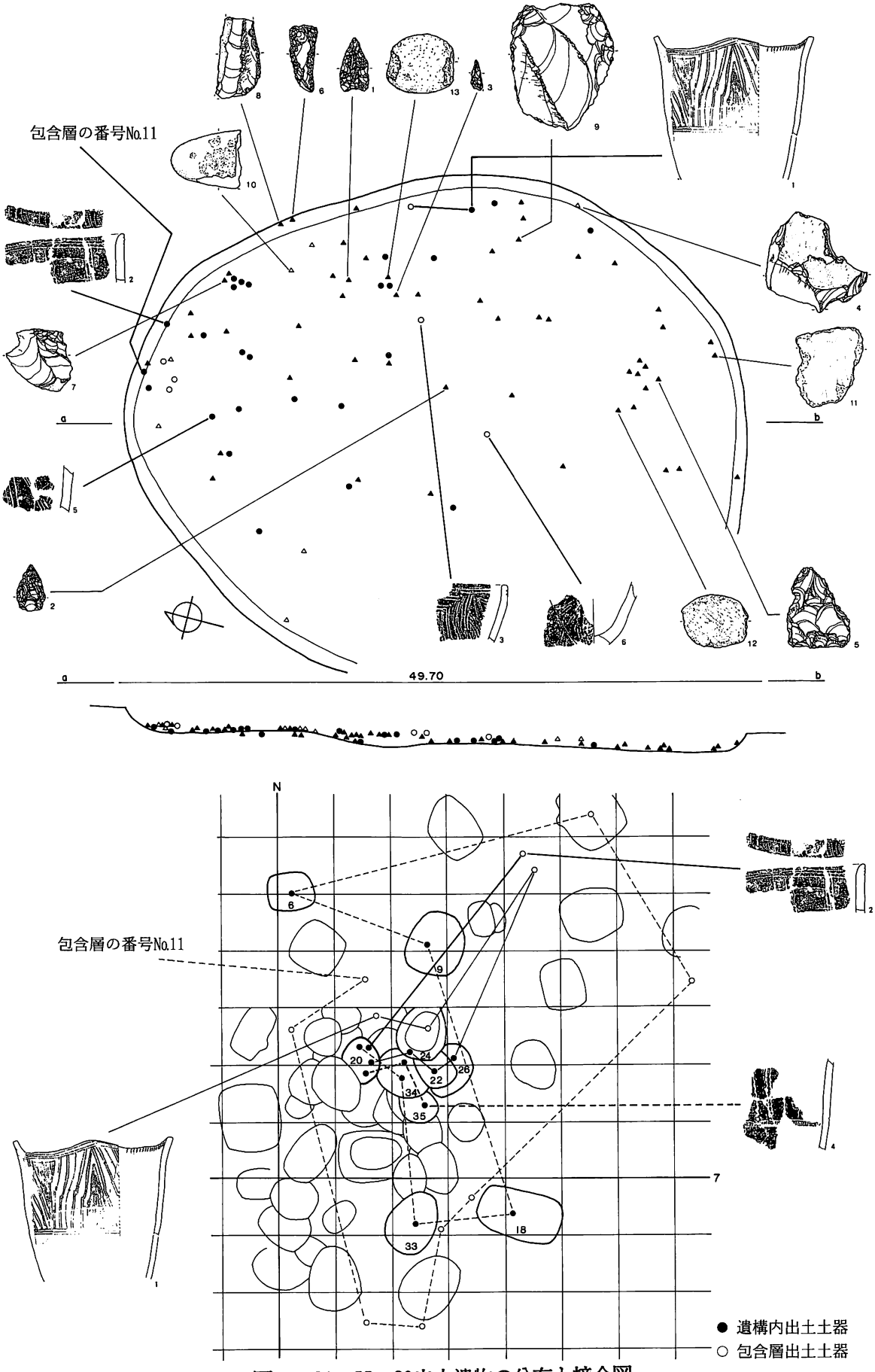
**遺物出土状況**：出土遺物総数は1,616点である。その内訳は土器117点、石器1,499点である。このうち床面および床面直上から出土した土器は100点、石器1,436点である。この数量には床面付近の土と焼土のフローテーション処理して得られた土器細片42点と微細なチップ類1,340点が含まれている。出土した土器はすべてⅠ群Ｂ類で、床面上に水平になった状態で出土していた。石器は石鏃、篦状石器、石錘、砥石、石斧、すり石などが出土しており、このうち床面、床面直上からは、石鏃、スクレイパー、篦状石器、石錘、砥石などが出土している。またフレイクが床面、床面直上から多数出土している。遺物は床面と覆土、床面と他遺構の覆土と包含層という接合関係が見られる。床面出土の土器片とＨ－18、Ｈ－33、Ｈ－34、Ｈ－６、Ｈ－９の覆土、Ｎ－８－27のⅠ層、Ｎ－７－02・13・56・73、Ｎ－８－29・39のⅢ層、Ｎ－８－17のⅢｂ層出土の土器片が接合している。床面・覆土出土の土器片とＨ－24、Ｈ－26の覆土、Ｎ－７－12・22・45のⅢ層出土の土器片が接合している。また覆土出土の土器片とＨ－34、Ｈ－35の覆土出土の土器片が、床面出土の土器片がＮ－７－45のⅢ層下層出土の土器片とが接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢ層上層中と思われる。床面、覆土から出土した土器はすべてⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はＨ－17、Ｈ－34、Ｈ－39、Ｈ－51、Ｈ－52、Ｈ－53と重複しており、Ｈ－17より古く、他の住居跡より新しいものである。また床面の土壌試料から微量のキハダ種子とクルミ属の炭化植物遺体が検出されている。

表Ⅲ－４　Ｈ－20小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 15×14（㎝） | 18(㎝) | 黒褐色土（軟質） | 最終生活面 | 直　立 | ＨＰ－７ | 19×15 | | 黒褐色土 | 最終生活面 | やや内傾する |
| ＨＰ－２ | 14×13 | 12 | 暗茶灰色土(黄色土混入､粘質) | 〃 | 〃 | ＨＰ－８ | 13×11 | | 暗褐色土(軟質､黄色土粒混入) | 〃 | フレイク混入 |
| ＨＰ－３ | | | | | | ＨＰ－９ | 14×10 | 19 | 暗黄褐色土（粘土） | 〃 | 先端部が細い |
| ＨＰ－２ | 10×10 | 18 | 暗黄褐色土(黄色土粒混入) | 〃 | 先端部細く、わずかに内傾 | ＨＰ－10 | 14×14 | 16 | 暗茶褐色土（粘土） | 〃 | 〃、わずかに内傾する |
| ＨＰ－５ | 16×10 | 10 | 黒褐色土(黄色土粒混入) | 〃 | わずかに内傾する | ＨＰ－11 | 17×15 | | | | |
| ＨＰ－６ | 16×16 | | 暗褐色土(黄色土混入) | 〃 | 浅いⅢ状 | | | | | | |

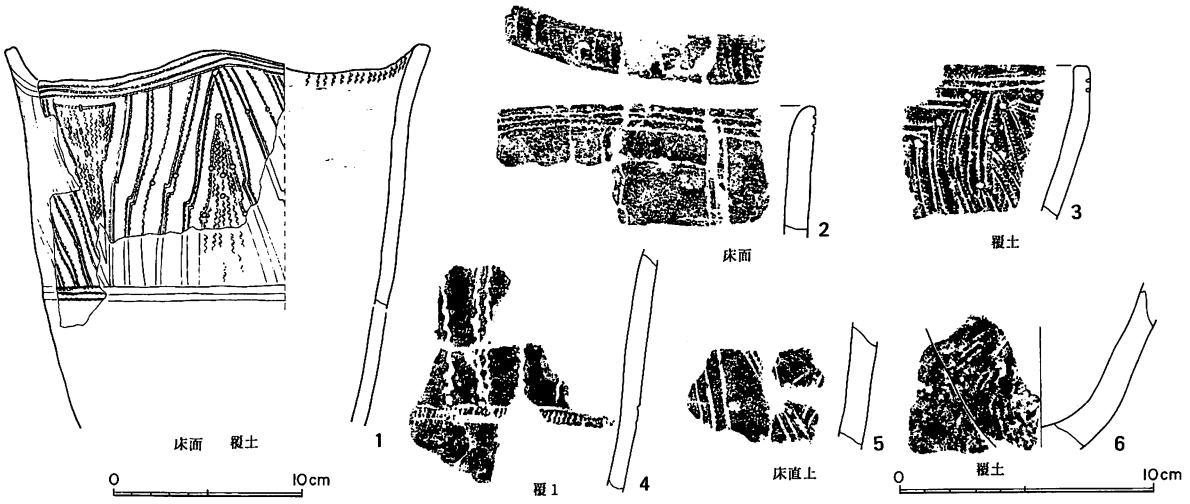



図Ⅲ－31　Ｈ－20出土遺物の分布と接合図

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－32　図版46・55）

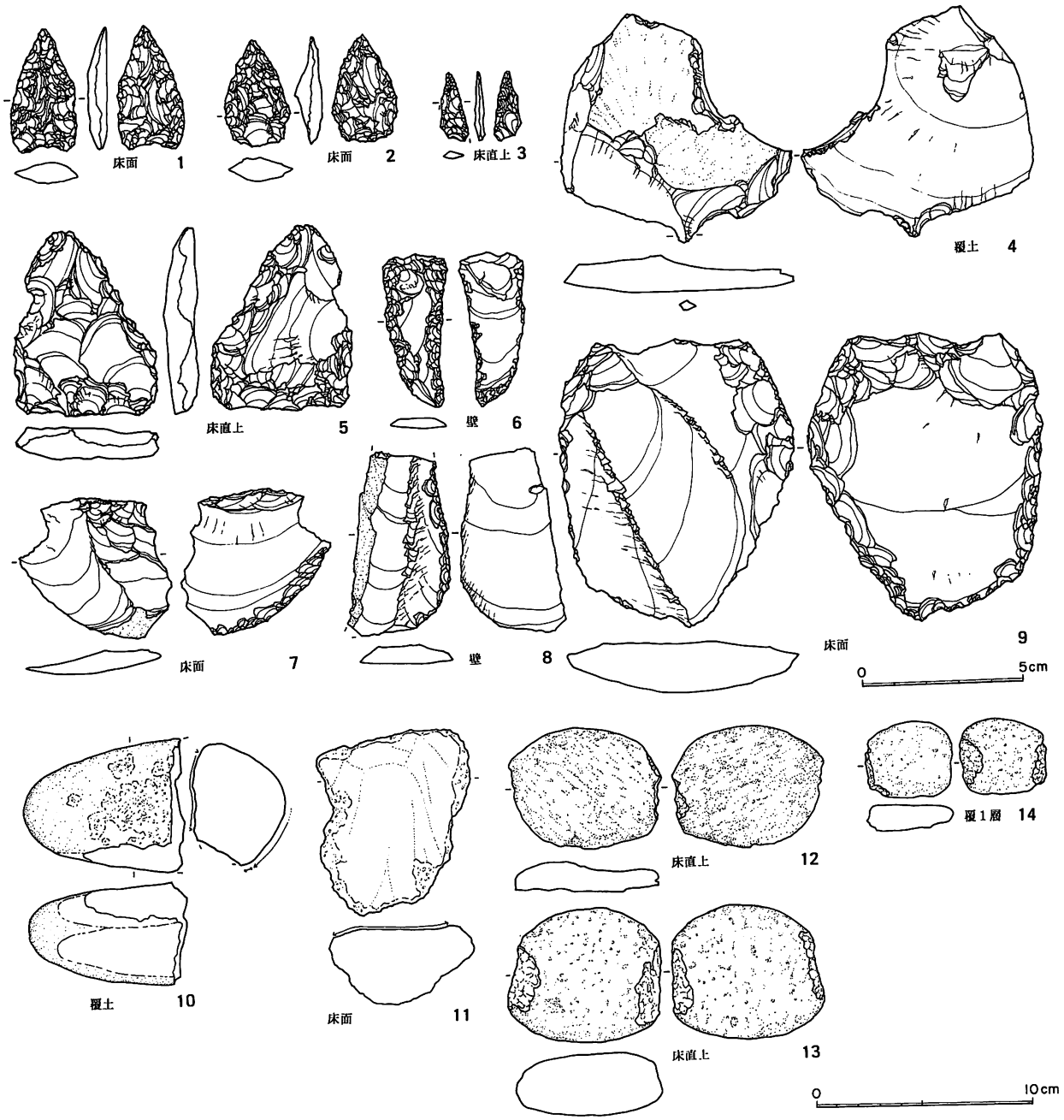
1は床面、覆土1・2層の破片と隣接し互いに重複するH－22・24・26覆土出土の破片、周辺のN－7－12、22と、20m程南東側のN－7－45出土の破片が接合したもの。これらの破片は接合の結果3片の大破片となったが、互いに接合面がなかったために、文様構成、器形を図上で想定し復元したものである。口縁部の4ヵ所に山形の波頂部があり、底部からやや開き気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する中型土器である。口縁部内側角には貝殻腹縁圧痕文がつけられている。文様帯は体部半ばまでとみられ、上下を3条一単位の腹縁文で区画している。波頂部を中心に1条、2条のクランク状の腹縁文を、間隔をあけ斜位に体部の腹縁文につなぎ、大きく6単位に区画している。区画内は三角形の文様が、波頂部と波頂間で尖端がそれぞれ逆向きになるように配し、貝殻腹縁圧痕文を縦位に充填させている。円形刺突文は腹縁文上や文様の先端に配されている。胎土に白い砂粒（長石・石英等）が非常に多い。文様構成は昨年度のH－4出土の土器（図Ⅲ－25－3）に類似している。2は床面のものと昨年度調査区N－7－35・45出土の破片（図Ⅲ－8－60a）と接合したもの。口縁部と胴部に3条ずつ腹縁文をめぐらせ鋸歯状沈線文と2条の腹縁文を交互に間隔をあけて垂下させている。3・4は覆土出土のもの。3は複雑な文様構成のようである。4は重複するH－34の覆土1層出土の破片と接合した。同一個体片は昨年度調査のH－9（図Ⅲ－61－21a・b）、包含層（図Ⅳ－8－67）からも出土している。口縁部が外反する器形。口縁部と胴部に縦に短い貝殻腹縁圧痕文を充填させた細長い区画帯をめぐらせ、1条と2条の鋸歯状沈線文を間隔をあけて縦につないでいる。5は床面出土のもの。6は厚手の底部片。器面には縦・斜位に粗い条痕がみられる。




図Ⅲ－32　H－20出土土器

**石器**（図Ⅲ－33　図版78）

1～3は石鏃。1は三角形凹基鏃で、2は側縁が湾曲する4類である。1・2はやや加工が粗い。3は被熱による欠損品である。4は石錐。剥片の一部に尖頭部を作り出している。5は箆状石器であるが、加工が粗く未製品であろう。6～9はスクレイパー。6は被熱によるはじけが認められる。10はすり石1類。平坦面にはたたきによる軽微なくぼみが認められる。11は礫片を利用した砥石。12～14は石錘。12は片方のみの剥離である。13・14はたたきによる加工である。



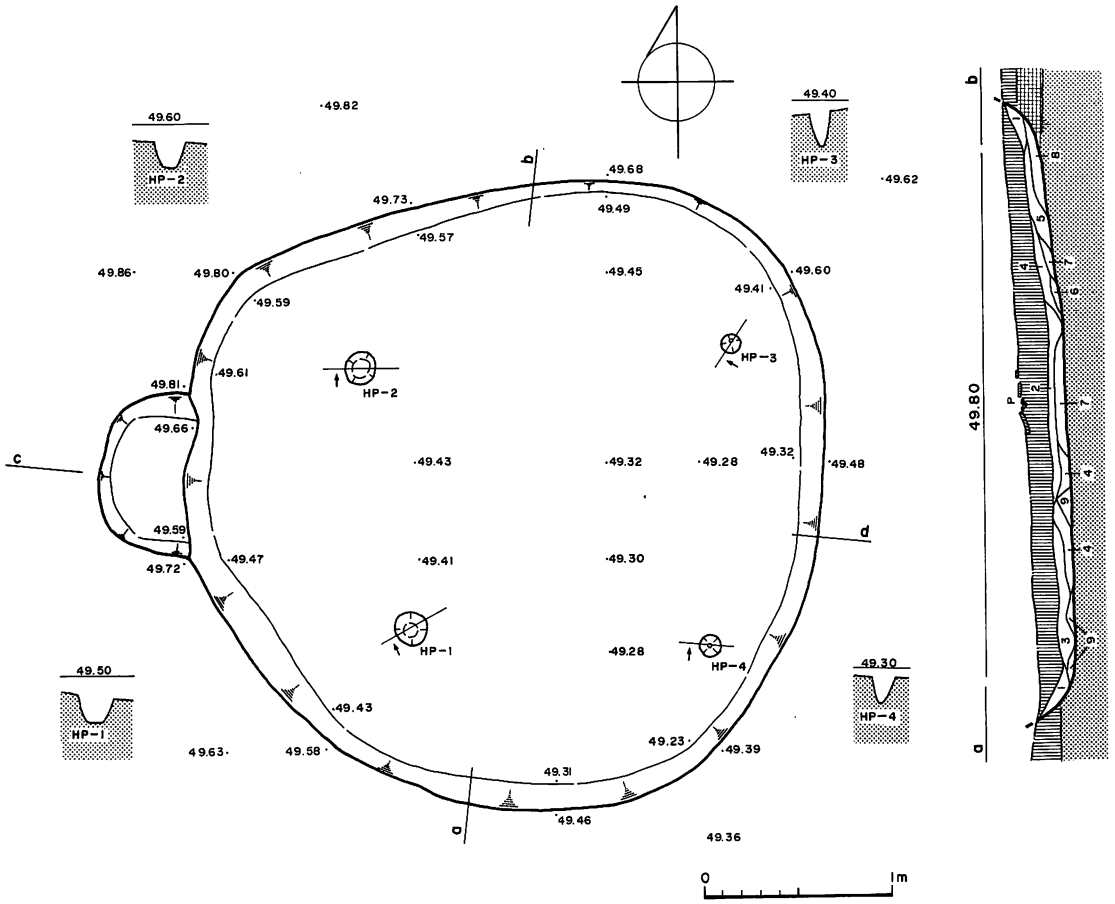

図Ⅲ－33　H－20出土石器

H－21（図Ⅲ－34・35　図版12）

**位置**：N－7－02・12　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形の西斜面上に位置する。標高は49.84m～49.20mである。　**規模**：3.40m／3.14m×3.25m／3.13m×0.15m

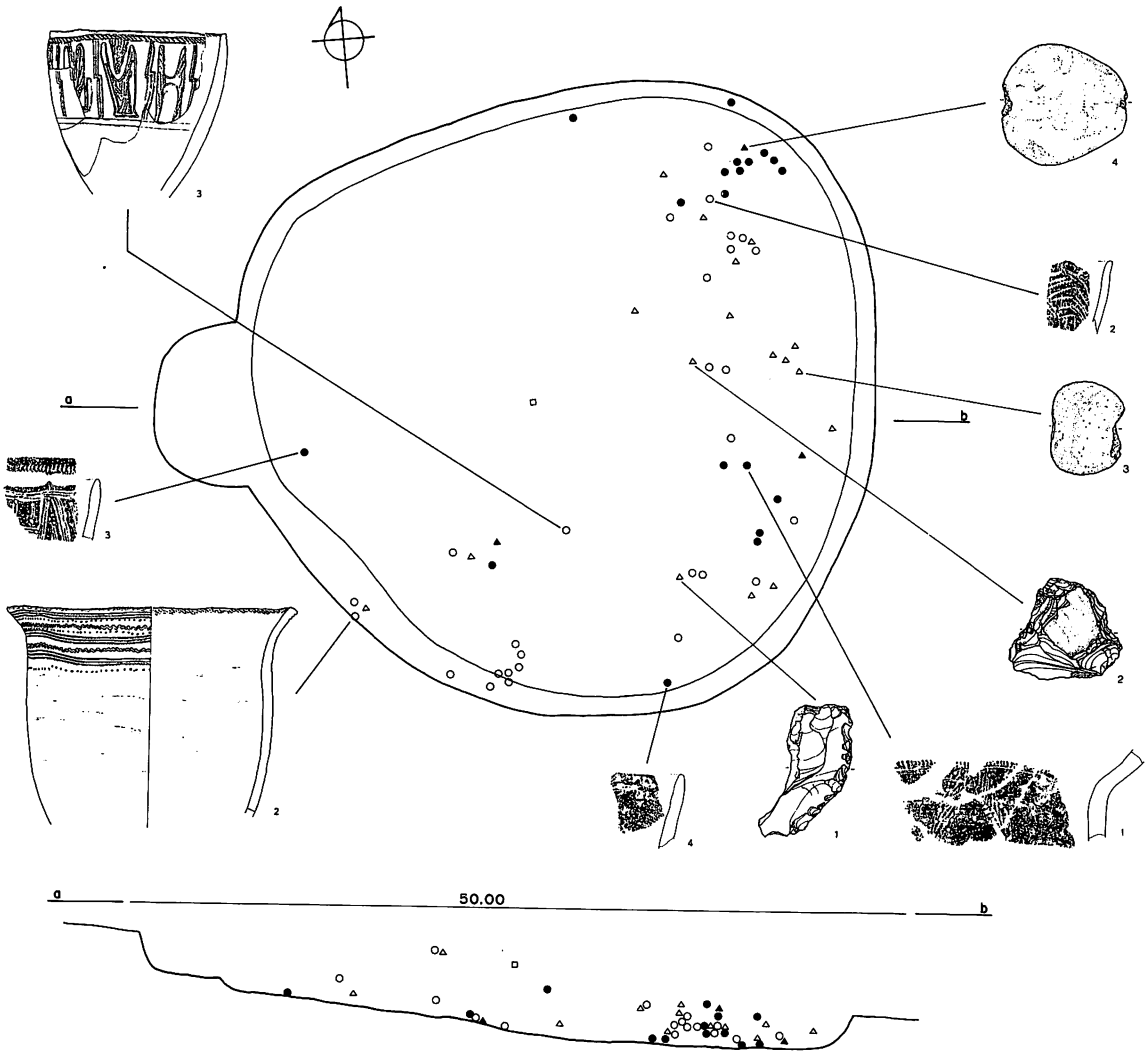
**平面形**：西に先頂部をもつ、やや角張った卵形。　**床面積**：7.92㎡　**長軸方向**：N－80°－W

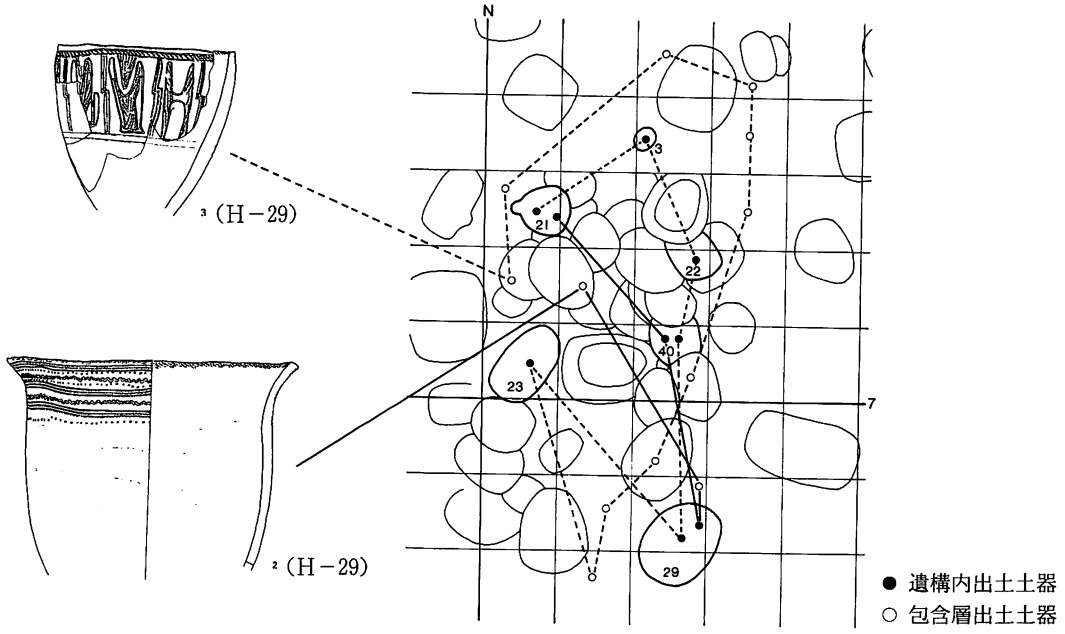
**確認・調査・土層**：N－7－02・12の包含層調査中、Ⅲ層を10cm～15cmほど掘り下げたところ、西側で半円状にⅢb層の落ち込みが検出された。また東側ではP.D.4の堆積も認められたことなどから遺構の存在を想定した。小トレンチを設定し、床面、壁の立ち上がりの検出作業を行った。この結果、西壁側はV層を掘り込んだ床面が確認され、壁の立ち上がりも検出された。また南、東、北壁の立ち上がりも確認出来たことから、Ⅲb層から順次掘り下げ、遺構調査を行った。覆土は大きく二層に分けられる。覆土1層は、Ⅲb層＞黄色土粒の軟質の黒茶色土である。層厚はほぼ15cm前後である。覆




土層：①暗茶黄色土（軟質）　②黒茶色土（Ⅲb≫黄色土粒、砂質）　③黒茶色土（Ⅲb≫黄色土粒、粘質）　④黒茶色土（Ⅲb＞黄色土粒、粘質）　⑤黒茶色土（Ⅲb＞黄色土粒、軟質）　⑥黒褐色土（黄色土をブロック状に混入、粘質）　⑦黒褐色土（粘質）　⑧暗灰黄色土（粘質）　⑨暗黄色土（粘質、汚れている）

図Ⅲ－34　H－21実測図




図Ⅲ－35　H－21出土遺物の分布と接合図

土２層は、汚れの目立つ粘質の暗黄色土である。

**床面**：西側半分はⅤ層を浅く掘り込んで構築されている。東側はＨ－50、Ｈ－51の覆土中に床面が構築されている。やや凹凸があり、西から東へ緩やかに傾斜している。床面は全体的に堅いけれども、南東壁側は軟質である。炭化物が少量散在していた。また生活面と構築面の間には汚れた混合土状の暗黄茶色土が２㎝～３㎝ほど堆積しており、フローテーション処理を行うために１ｍメッシュに区画して土壌試料を採取した。

**壁**：全体に急傾斜で立ち上がっている。壁高さは10㎝～20㎝である。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは４個検出されている。主柱穴で、４本柱と考えられる。覆土は黄色土の混入した汚れた土で、すべて直立している。また西壁際には、0.85ｍ×0.44ｍ、床面と10㎝ほどの高低差のある段状の張り出し部分が検出された。性格は不明であるが、出入口の可能性も考えられる。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は238点である。その内訳は土器110点、石器128点で ある。このうち床面および床面直上から出土した土器は36点、石器115点である。この数量には床面付近の土をフローテーション処理して得られた土器細片１点と、微細なチップ類110点が含まれている。遺物は大半が覆土１層から出土しており、特に東側部分で多い。まとまった出土状態ではない。出土した土器はすべてⅠ群Ｂ類で、石器ではスクレイパー、石錘などが出土している。遺物は覆土と他遺構の覆土と包含層という接合関係を示している。覆土出土の土器片とＨ－29の覆土、Ｈ－40の覆土直上、Ｎ－７－11、Ｎ－８－28のⅢ層出土の土器片が接合している。また、南壁面出土の土器片とＨ－22、Ｐ－３の覆土、Ｈ－40の覆土直上、Ｈ－29の床面、Ｎ－７－20、Ｎ－８－17・29のⅢ層、Ｎ－８－18のⅢｂ層出土の土器片と接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢ層中と思われる。床面、覆土から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、Ｈ－17に付属するものと思われる張り出し部分と重複しているが、この張り出し部分がＨ－17に伴うものかどうか疑問視されていることから、Ｈ－17との新旧関係は不明である。また、Ｈ－50、Ｈ－51と重複しており、これらの住居跡より新しいものである。また、床面付近の土壌試料からは微量のクルミ属の炭化植物遺体が検出されている。

表Ⅲ－５　Ｈ－21小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 14×14(cm) | 14(cm) | 暗黄褐色土(砂質) | 床　面 | 直立 | ＨＰ－３ | 12×12 | 14 | 暗褐灰色土(粘質) | 床　面 | 直立､先端部細い |
| ＨＰ－２ | 10×10 | 19 | 暗灰褐色土＞黄色土 (上層は粘土質､下層は砂質) | 〃 | 〃 | ＨＰ－４ | 12×12 | 14 | 暗灰褐色土(軟質) | 〃 | 〃 |

**遺物**

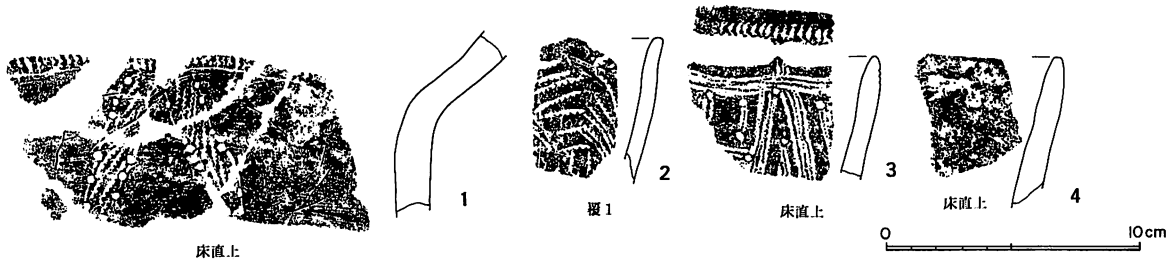
**土器**（図Ⅲ－36　図版55）

１は床直上から出土した。同一個体片は、25ｍ程北東のＮ－７－64（図Ⅳ－16－**74**）からも出土した。口縁部・胴部ともに欠損し、キャリパー状の口頸部だけが残存する。器壁が10～12㎜あり比較的厚手である。おそらく波頂部の下位に相当する位置に、沈線で縁取りした三角形状の文様を描き貝殻腹縁圧痕文を斜位・縦位に粗く施文しているとみられる。沈線上にはほぼ等間隔に円形刺突文が施文されている。胎土には0.1㎜程の白い砂粒が多く、内面はナデられている。２は覆土１層から出土した。小さな山形の突起部で、貝殻腹縁圧痕文が「八」の字状に施文されている。ごく細い沈線文も観察できる。３・４は床直上から出土のもの。３は波頂部の両端にある副突起部。文様は腹縁文で描か

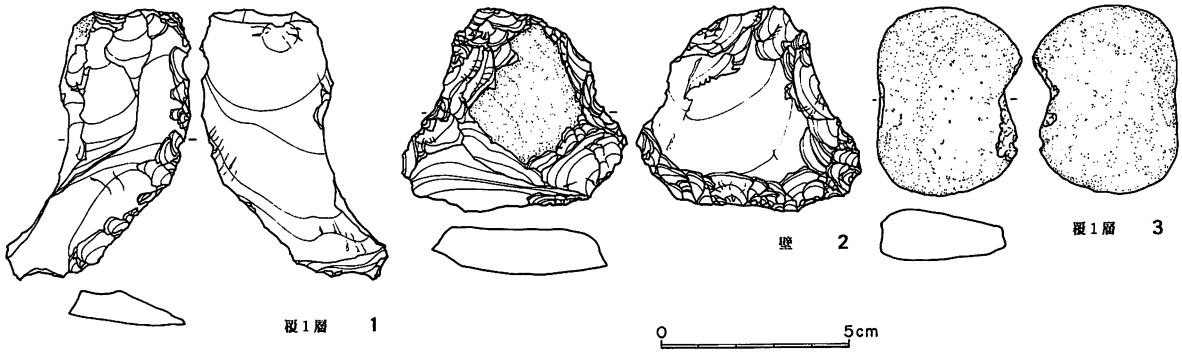
れ、口唇内面には貝殻腹縁圧痕文による刻みが縦位に施されている。４は無文のもの。胎土には白色の長石・石英等の砂粒が多い。

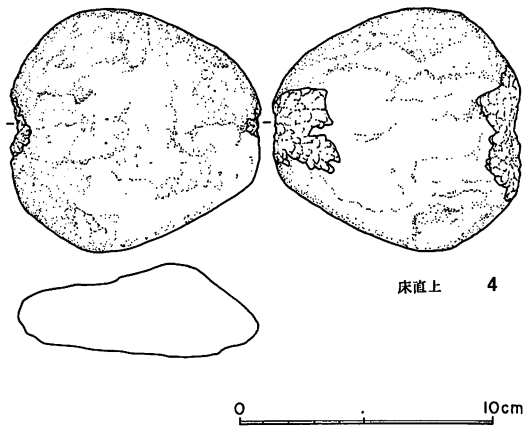
**石器**（図Ⅲ－37　図版78）

１・２はスクレイパー。１は縦長剥片を素材とする。２は加工が全周に巡るが、剥離痕が揃っている素材端部が刃部であろう。他は縁辺が粗雑である。３・４は石錘。３は抉りが明確でない方はたたきによる加工である。




図Ⅲ－36　Ｈ－21出土土器



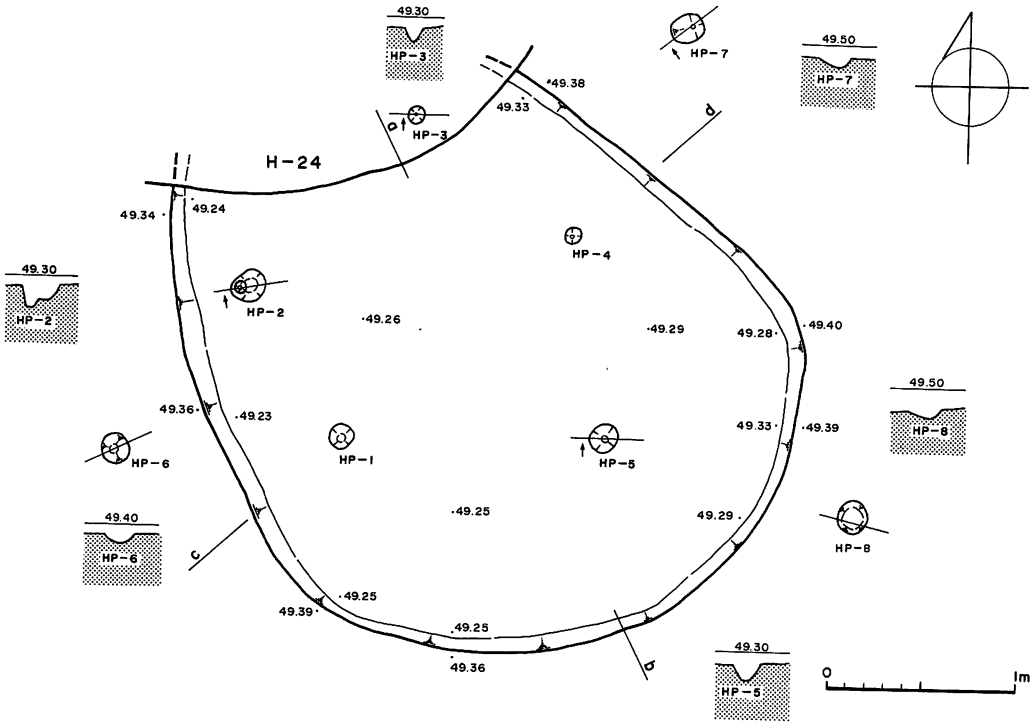

図Ⅲ－37　Ｈ－37出土石器

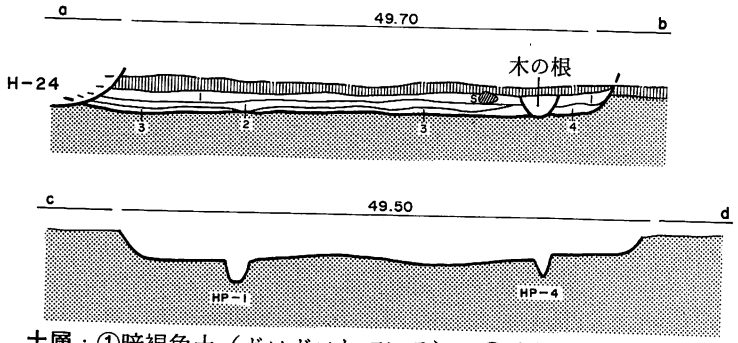
H－22（図Ⅲ－38・39　図版13）

**位置**：N－7－21－・22　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は49.40m～49.30mである。　**規模**：（3.90m）／（3.70m）×2.90m／2.75m×0.16m

**平面形**：北西に先頂部とする卵形。　**床面積**：7.77㎡　**長軸方向**：N－40°－W

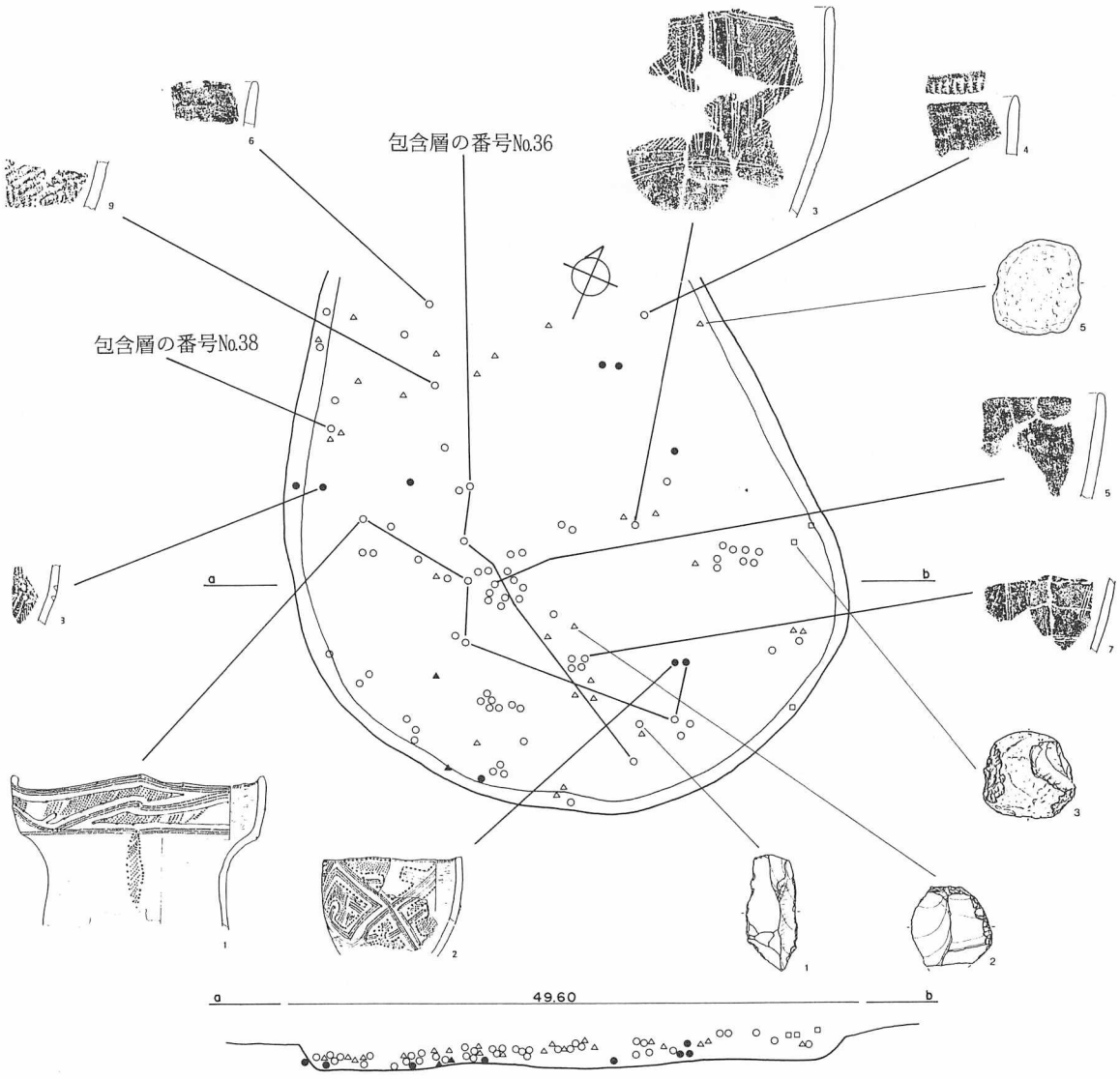
**確認・調査・土層**：N－7－21・22の包含層調査中、厚く堆積していたP.D.3を除去したところ、Ⅲ層上面で浅いくぼみになっているのを確認した。遺構の存在が予想されたため土層観察用の土手を設定し、小トレンチによって床面、壁の立ち上がりの検出作業を行う。また、この落ち込みがH－24によって切られているのも確認する。Ⅲb層を掘り下げたところ落ち込みのほぼ中央部分で土器片が一括出土した。これらを残し、約10cmほど掘り下げ暗褐黄色の堅い土を検出する。この面上に炭化物が多く散在していたことからこの面を床面とし、東、西、南へ広げ、壁の立ち上がりを確認する。覆土は大きく二層に分けられる。覆土1層はボソボソした暗褐色土（土層図1）である。層厚は5cm～8cmである。覆土2層は床面直上に堆積する暗灰黄色土（土層図3）である。層厚は2cm～3cmである。

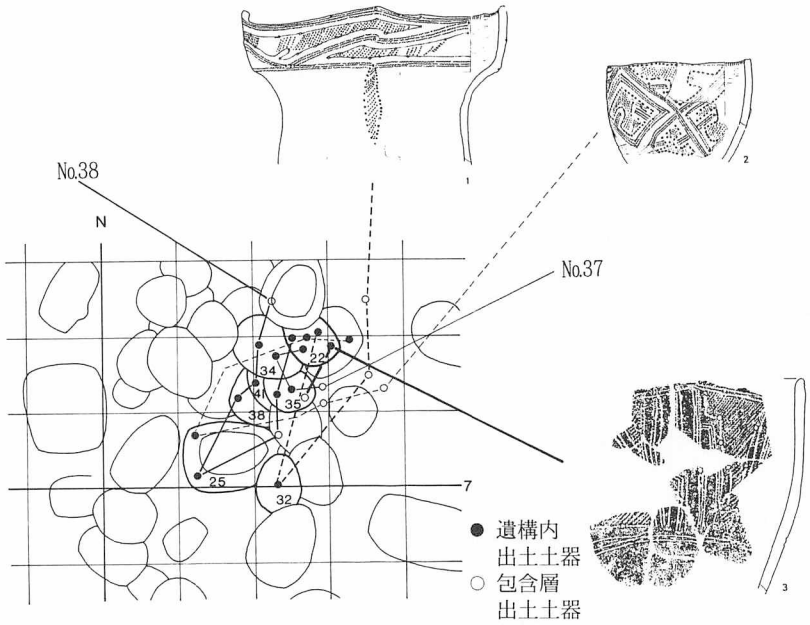



**土層**：①暗褐色土（ボソボソしている）　②暗茶褐色土（粘質）　③暗灰黄色土（砂質④＝②）

図Ⅲ－38　H－22実測図




図Ⅲ－39　Ｈ－22出土遺物の分布と接合図

ただ覆土１層と２層の間に、１層と２層の混合土で粘質の暗茶褐色土（土層図２）が薄く認められた。

**床面**：わずかに西側へ傾斜しているが、ほぼ平坦で、非常に堅い。Ⅴ層直上に構築されている。

**壁**：全体に穏やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は約15㎝である。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは５個検出されている。すべて直立している。ＨＰ－１の東側壁に土器片が立ち、覆土には礫が８個混入していた。ＨＰ－２の壙底部からは土器片が水平の状態で出土した。また、壁外30㎝～50㎝のところに浅い皿状の小ピットが３個検出されている。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は319点である。その内訳は土器が295点、石器が60点である。このうち床面および床直上出土の土器は35点、石器は13点である。遺物は覆土上層（特に覆土１層）で多く出土している。覆土上面からは、ほぼ水平の状態で、内面を上に向けた土器片が一括出土している。覆土中からⅡ群の土器片が２点出土しているが、他はⅠ群Ｂ類の土器である。石器では石槍、石錘、擦り切り残片などが出土している。遺物は、床面直上と覆土、更に他遺構の覆土と包含層出土の土器が接合している。床面直上、ＨＰ－１、覆土出土の土器片とＨ－32覆土上層、Ｎ－７－31のⅢ層、Ｎ－７－32のⅢｂ層出土の土器片が接合している。覆土上層出土の土器片１点と、Ｈ－34、Ｈ－35の覆土、Ｎ－７－21のⅢ層出土の土器片が接合している。また、覆土上層出土の土器片２点とＨ－25、Ｈ－34、Ｈ－35、Ｈ－38、Ｈ－41の覆土、Ｎ－７－12・21のⅢ層出土の土器片と接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢｂ層中と思われる。床面、覆土から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものである。

なお、本住居跡はＨ－24、Ｈ－26、Ｈ－34と重複しており、Ｈ－24より古く、Ｈ－26、Ｈ－34より新しいものである。

表Ⅲ－６　Ｈ－22小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 12×12(cm) | 11(cm) | 暗茶褐色土(砂質､堅い) | 床　面 | 直立､土器片・礫あり | ＨＰ－５ | 15×15 | 11 | 暗茶褐色土(砂質､堅い) | 床　面 | 直立､先端部細い |
| ＨＰ－２ | 20×16 | 10.5 | 黒褐色土（粘質） | 〃 | 〃､土器片あり | ＨＰ－６ | 16×15 | 5 | 黒褐色土（粘質） | Ⅲb層中 | 浅い皿状 |
| ＨＰ－３ | ９×９ | ８ | 暗褐色土（粘質） | 〃 | 直立､先端部細い | ＨＰ－７ | 18×15 | ９ | 〃 | 〃 | わずかに内傾する |
| ＨＰ－４ | ８×８ | 13.5 | 暗茶褐色土（砂質､堅い） | 〃 | 〃 | ＨＰ－８ | 16×16 | ３ | 〃 | 〃 | 浅い皿状 |

**遺物**

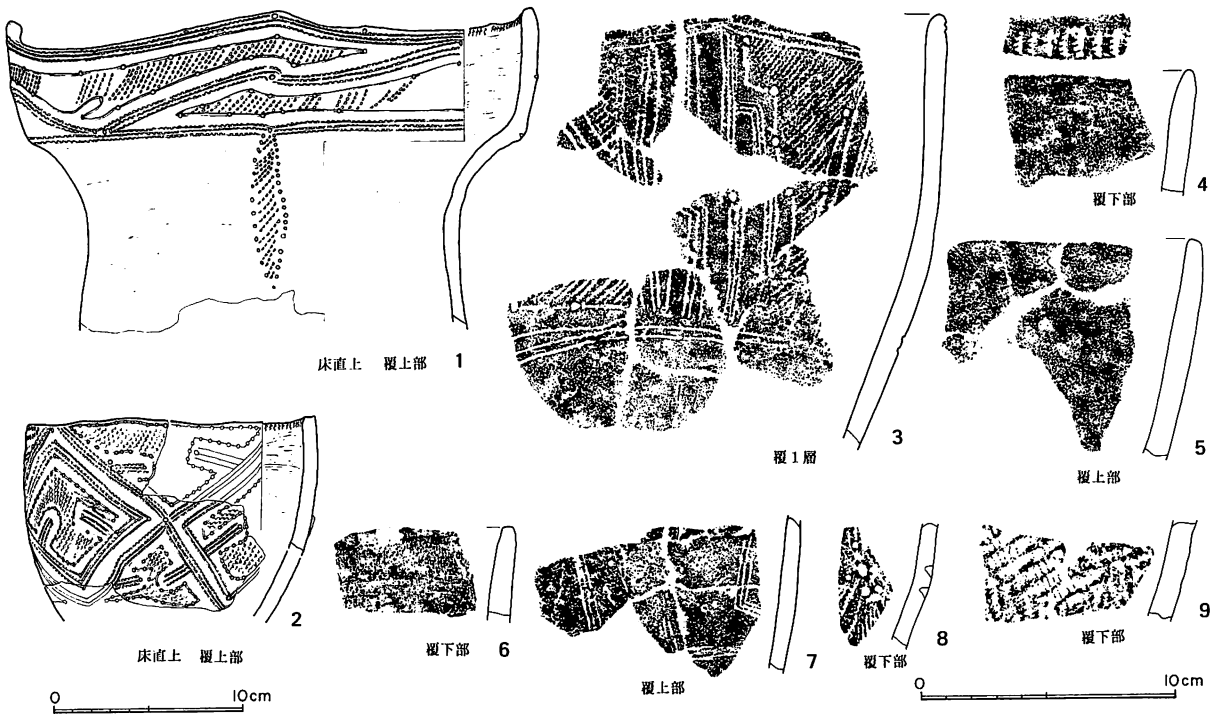
**土器**（図Ⅲ－40　図版46・55）

１は床面直上（１点）、覆土１層出土の破片と５ｍ～６ｍ北側のＨ－32覆土、Ｎ－７－31・32のⅢ層、Ⅲｂ２層出土の破片（７点）が接合した。キャリパー状の大型土器。胴部下半と口縁部付近の２分の１は欠損している。頸部は比較的強くくびれている。４ヵ所に緩やかな波頂部があり、その両端にはごく小さな副突起がある。口縁部の平面形は隅丸の方形で、口唇部の内面には短い貝殻腹縁圧痕文が縦位に施されている。文様帯の上下を３条１単位の腹縁文で区画し、波頂部間からクランク状の腹縁文を斜位に施している。全体を点対称の構成としている。さらに沈線文で再区画した中には、貝殻腹縁部をやや押引き的に施文した圧痕文が充填されている。波頂部下には垂下する帯状の文様が大・小の円形刺突文で描かれ、口縁部同様の圧痕文がやや間隔をあけて施されている。円形刺突文は波頂部、副突起部、クランク状文様の入り組む部分、沈線上では等間隔に施されている。器内・外面には、細かい条痕があるが、体部のものは指などで部分的に消されている。

２は床直上（１点)、覆土１層（12点）の破片と重複するＨ－26覆土１層（７点)、５ｍ～６ｍ程南

側のＨ－25出土の破片と、Ｎ－７－21・31出土のものと接合した。大きく３つの破片に接合したものを図上で復元した。体部下半は欠損しているが上半部は４分の３程が残存する。緩やかな波状口縁で胴部にやや丸味があり、口縁部が直線的に立ち上がる薄手で焼成の良い中型土器。口唇部は平坦である。文様は体部下半まで及んでいるとみられる。３条一単位の腹縁文を大きく「Ｘ」字状に交叉させ、菱形と三角形の区画が形成されている。区画内はさらに、沈線で舌状と方形の文様が描かれ、空間内には貝殻腹縁圧痕文が不規則な方向に施されているが、非常に丁寧に施文している部分もある。円形刺突文は多用され、口縁部、区画内の沈線文上、また腹縁文の交叉する点には、内面から指などで押して突起させ、ほかのものよりも大きな刺突文が施されている。特に沈線上は密に施されている。内面には横位に粗い条痕が観察される。３は覆土１層の破片（３点）と15ｍ程西側のＨ－16柱穴出土の破片（１点）、Ｎ－７－21・22・31出土の破片（６点）が接合した。Ｈ－24の土器（図Ⅲ－47－２）と同一であろう。体部から口縁部にむかって直線的に立ち上がる大型土器と思われる。緩やかな波状縁をなす。波頂部の両端に副突起がある。文様帯は体部半ばまでに限られ２条の平行沈線文で区画された中を波頂部を中心に直線、「鉤の手」状の腹縁文で区画し、三角形状の文様が展開されているかと思われる。区画内は左・右下がりの貝殻腹縁圧痕文を丁寧に充填させている。円形刺突文は、沈線文上や文様が「鉤の手」に変化する部分に施されている。内面は口縁部には横位に、下位には縦位に細かい条痕が観察される。

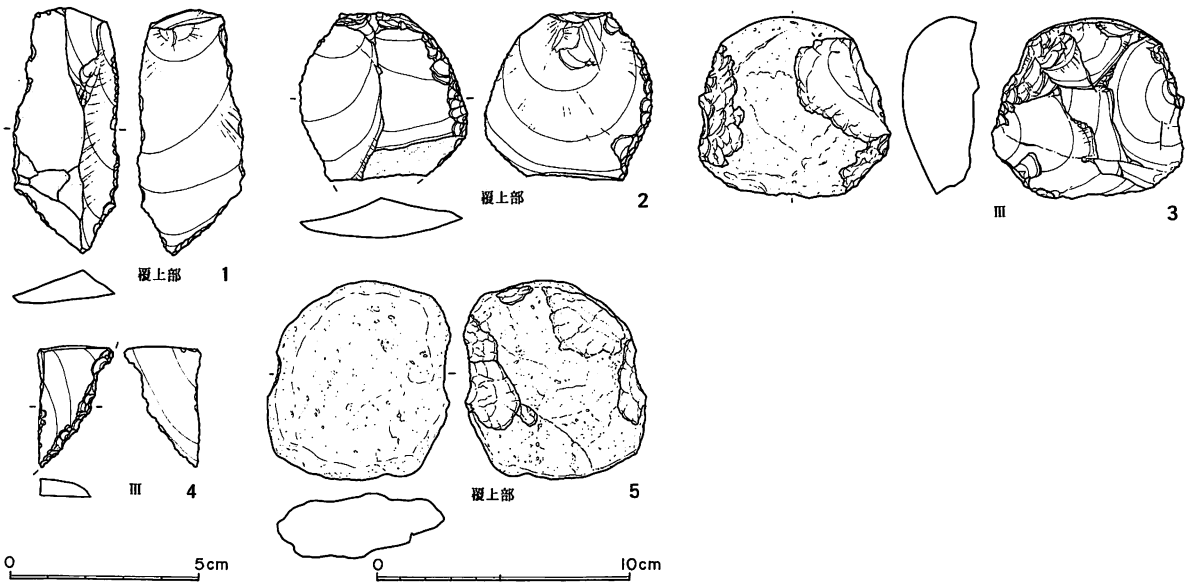
４～６は無文のもの。４の口唇断面は尖り気味で内面には10㎜程の押引き文的な貝殻腹縁圧痕文が施されている。波状口縁かも知れない。５は横位に、６は斜位に浅い擦痕が観察される。７は薄手で、胎土、焼成、色調はＨ－37（図Ⅲ－112－２）のものと類似する。体部下位には細い沈線文に小型の貝殻の腹縁部の圧痕文を重ねた腹縁文で文様が描かれている。内面には非常に細かい条痕がある。８は覆土下部から出土した。Ｈ－34（図Ⅲ－95－１）、Ｈ－35（図Ⅲ－98－４）出土の破片と同一のもの。９は０段多条のＬＲ原体による斜行縄文が施されているⅡ群土器。




図Ⅲ－40　Ｈ－22出土土器

**石器**（図Ⅲ－41　図版79）

1・2・4はスクレイパー。1は縦長剥片を素材とし、細かい調整を周縁に施している。末端は尖頭状を呈し、錐として利用している可能性もある。2は錯交剥離となっている。3は剥片素材の石核である。求心状に剥離されているが、剥離された数は少ない。5は片側加工の石錘。




図Ⅲ－41　H－22出土石器

H－23（図Ⅲ－42・43　図版14）

**位置**：N－7－00・01・N－8－09区にまたがり、沢地形内に立地する。標高は19.10m～19.30mである。南側でH－46と接し、それを切って構築されている

**規模**：5.6m／5.4m×3.68m／3.52m×0.16m

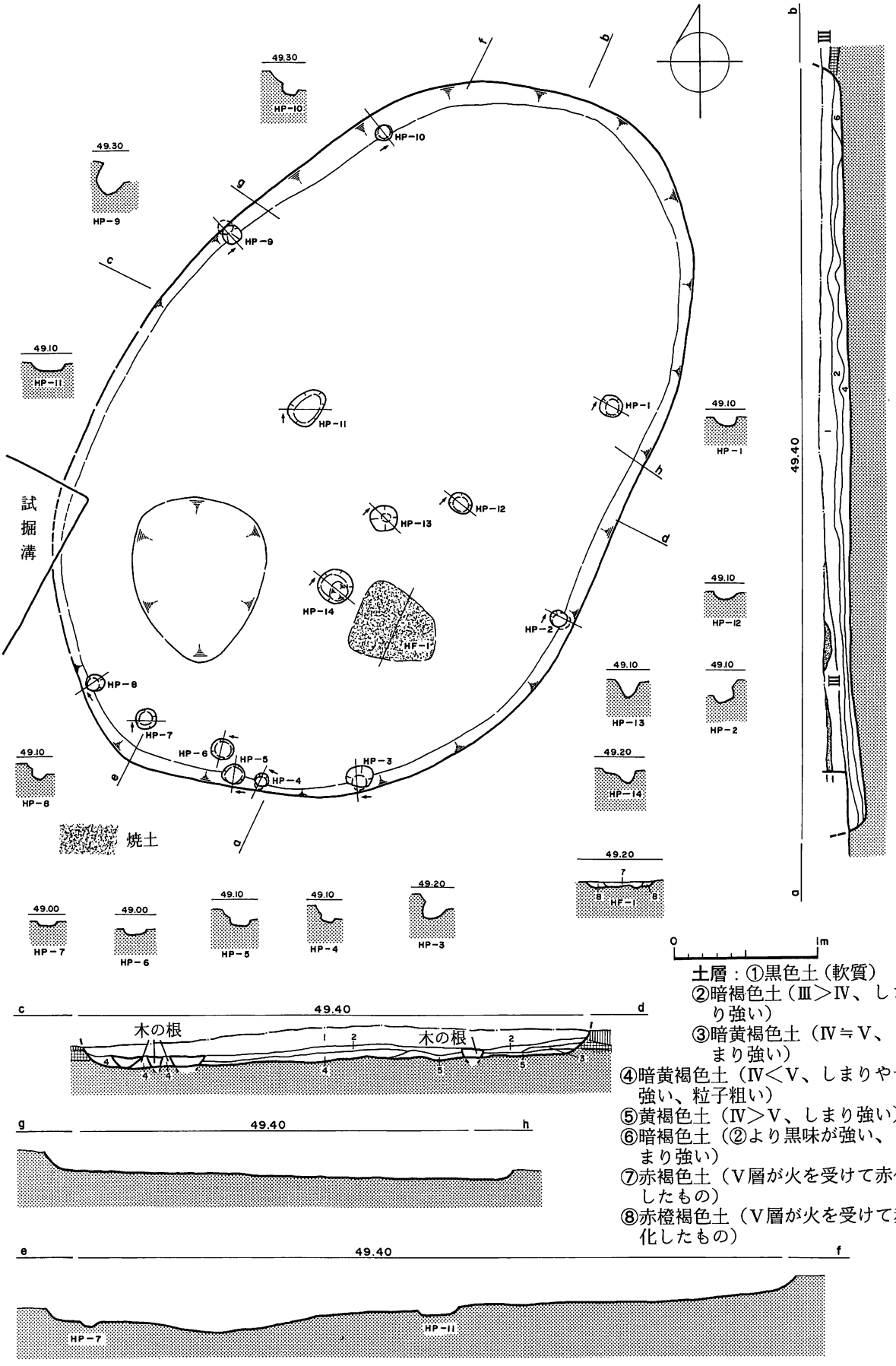
**平面形**：長円形　　**床面積**：14.55㎡　　**長軸方向**：N－38°－E

**確認・調査・土層**：N－7－00区の包含層調査中、長円形状に黒色土の色調が多少異なることを確認した。このため、遺構の存在を想定しベルトを設定、ベルトに沿ってトレンチを入れ、4方向の壁を確認した後、順次掘り下げていった。掘り込みが浅いため南西側では壁が確認できず、掘り過ぎてしまった。覆土1層はⅢ層を主体とする黒色土で、大部分の遺物はこの黒色土から出土している。2層はⅢ層>Ⅳ層の褐色土で数cm程度堆積する。6層も2層と同様であるが、やや黒みが強い。3～5層はⅣ・Ⅴの混合層で、3・5層は東側から、4層は北西側から流れ込んだ堆積状況を示している。西側では小さな木の根痕による撹乱が広く認められた。

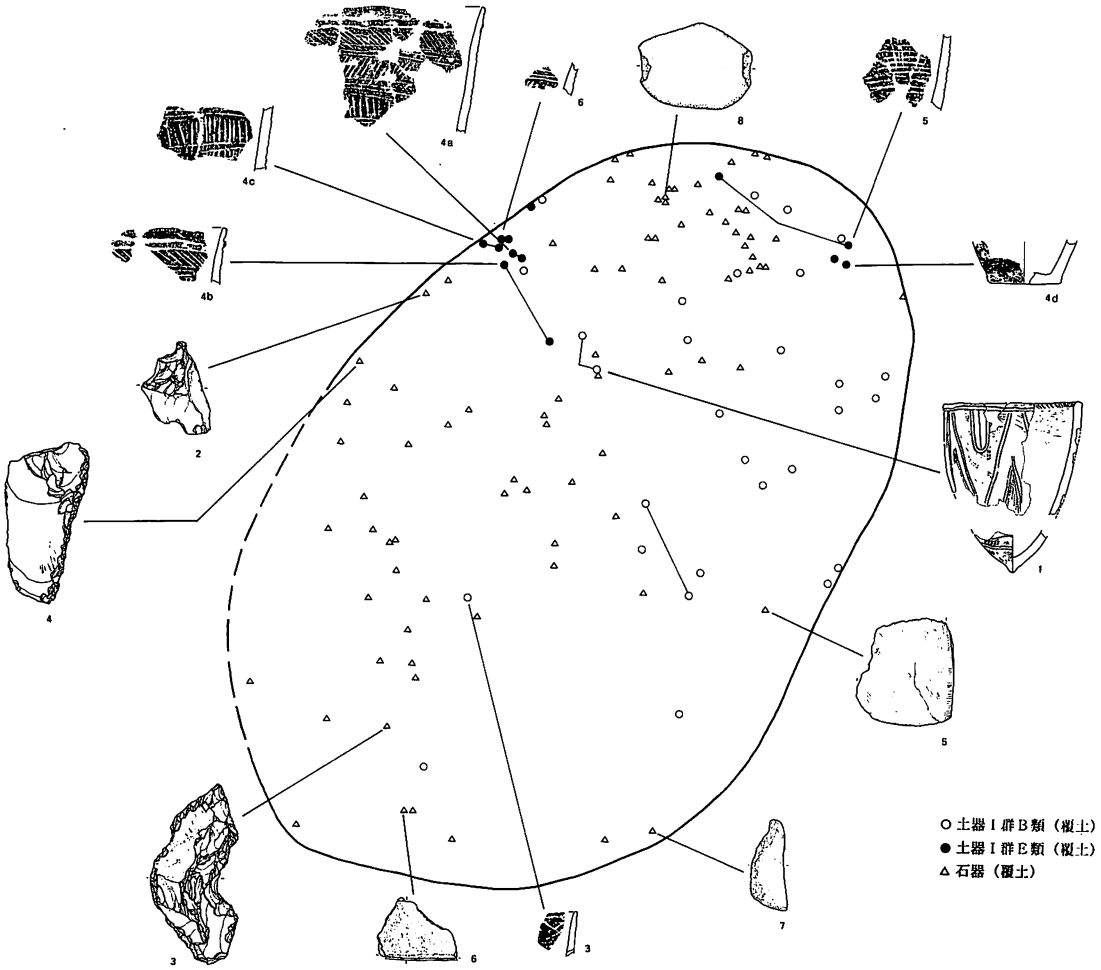
**床面**：Ⅴ層への掘り込みは浅い。Ⅴ層上面で焼土が検出されたことから、構築面が床面と思われる。床面には南～南西方向にむかってわずかに傾斜している。南側では浅い皿状のくぼみが検出され、堆積していた土は覆土1層より粘性が強い黒色土である。

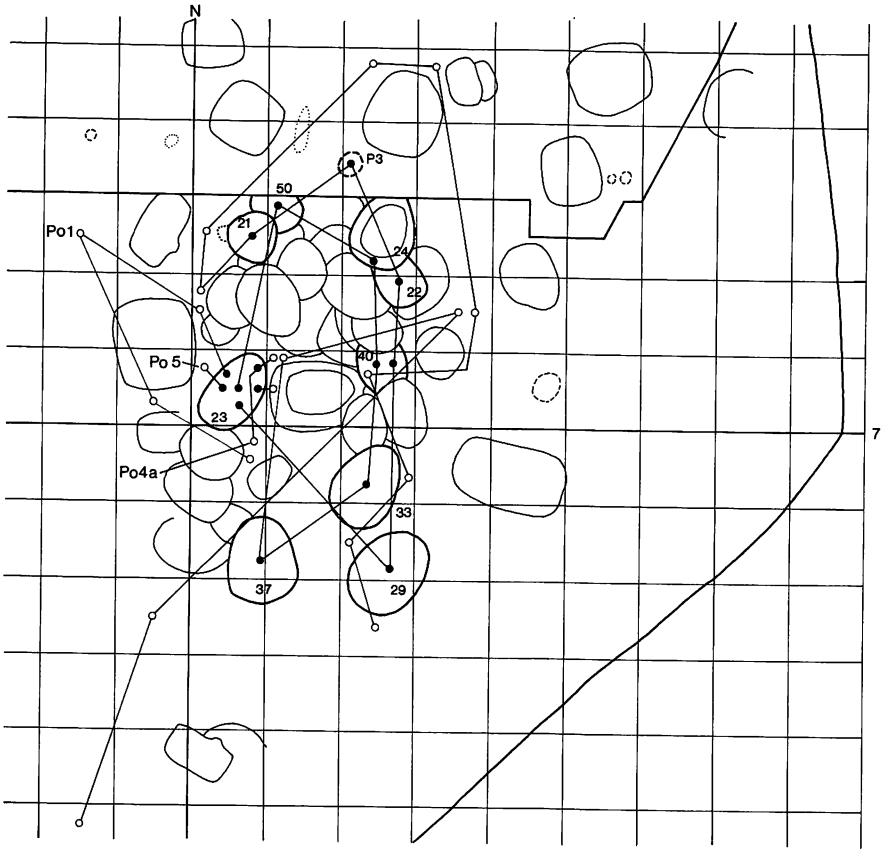
**壁**：床面からの高さは10cm～15cmと低い。北半部は相対的に掘り込みが深いため壁は明瞭で、急傾斜で立ち上がる。

**炉跡**：遺構の南東部に0.58cm×0.54cmの焼土が検出された。Ⅴ層の被熱により赤色化したもので、土壌を採取しフローテーションを行ったが、有意な結果は得られなかった。


49.30
HP-10
HP-9
HP-11
HP-1
HP-12
HP-13
HP-14
HF-1
HP-2
HP-8
HP-7
HP-6
HP-5
HP-4
HP-3
試掘溝
焼土
49.10
49.00
49.20
49.40
木の根
0
1m
土層：①黒色土（軟質）
②暗褐色土（Ⅲ＞Ⅳ、しまり強い）
③暗黄褐色土（Ⅳ≒Ⅴ、しまり強い）
④暗黄褐色土（Ⅳ＜Ⅴ、しまりやや強い、粒子粗い）
⑤黄褐色土（Ⅳ＞Ⅴ、しまり強い）
⑥暗褐色土（②より黒味が強い、しまり強い）
⑦赤褐色土（Ⅴ層が火を受けて赤化したもの）
⑧赤橙褐色土（Ⅴ層が火を受けて赤化したもの）

図Ⅲ－42　H－23実測図




図Ⅲ－43　H－23出土遺物の分布と接合図

**付属ピット**：柱穴状の浅い小ピットが14個検出された。南半部で多い。ただし、すべてを人為的なものとは考えにくい。小ピットは、中央付近のもの（ＨＰ－11～14）と壁ぎわ付近のもの（ＨＰ－１～10）とに分けられる。ＨＰ－１・10とＨＰ－２・９は東西で対になっている。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は141点。ほとんどが覆土１層とともに流れ込んだと思われる。このうち、土器は97点出土しており、Ⅰ群Ｂ類、Ｅ類が出土している。他にセクションベルトから前期の土器片が出土しているが、覆土中のものかどうかは不明である。Ⅰ群Ｂ類（物見台式土器）が広く分布しているのに対し、Ｅ類（ムシリⅠ式土器）は北側の壁付近に集中する。遺構内へ流れ込んだ後傾斜が変換する所に溜まったものと思われる。Ｂ類とＥ類の分布の相違は両者が異なる時期に流れ込んだ結果と考えられる。石器は44点出土した。遺構全体に散在する。主な石器として、石鏃、石匙、スクレイパー、石斧、砥石、石鋸、石錘等がある。土器の遺構間接合は、Ｈ－21、22、24、29、33、40、50、Ｐ－３で認められる。最も離れて接合したものとしては、25ｍ以上離れたＭ－８－84出土の土器片との接合である。

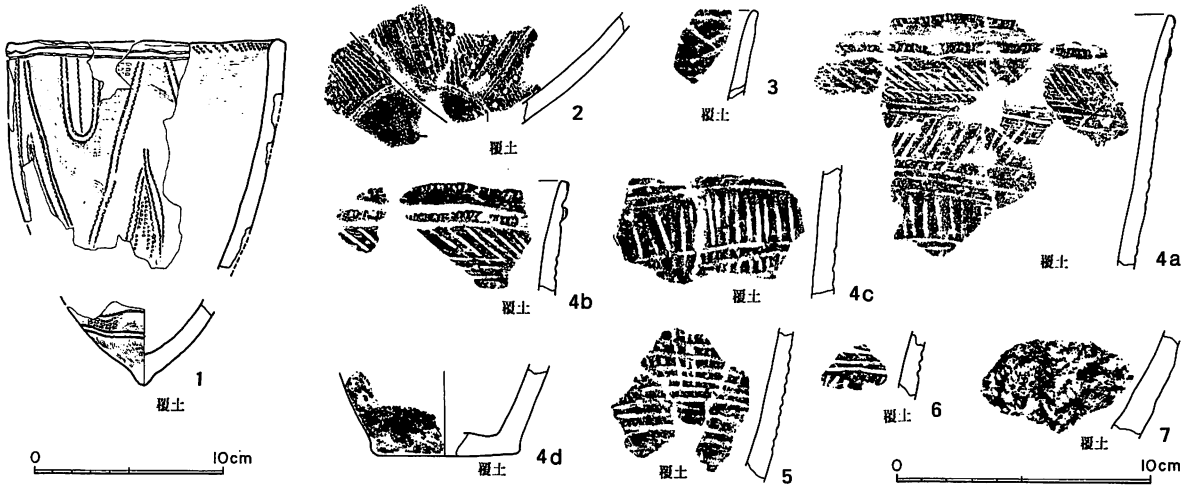
**時期**：掘り込み面はⅢ層中と思われる。床面の遺物はないが、覆土や接合関係の状況から縄文時代早期中葉の時期と思われる。

**遺物**

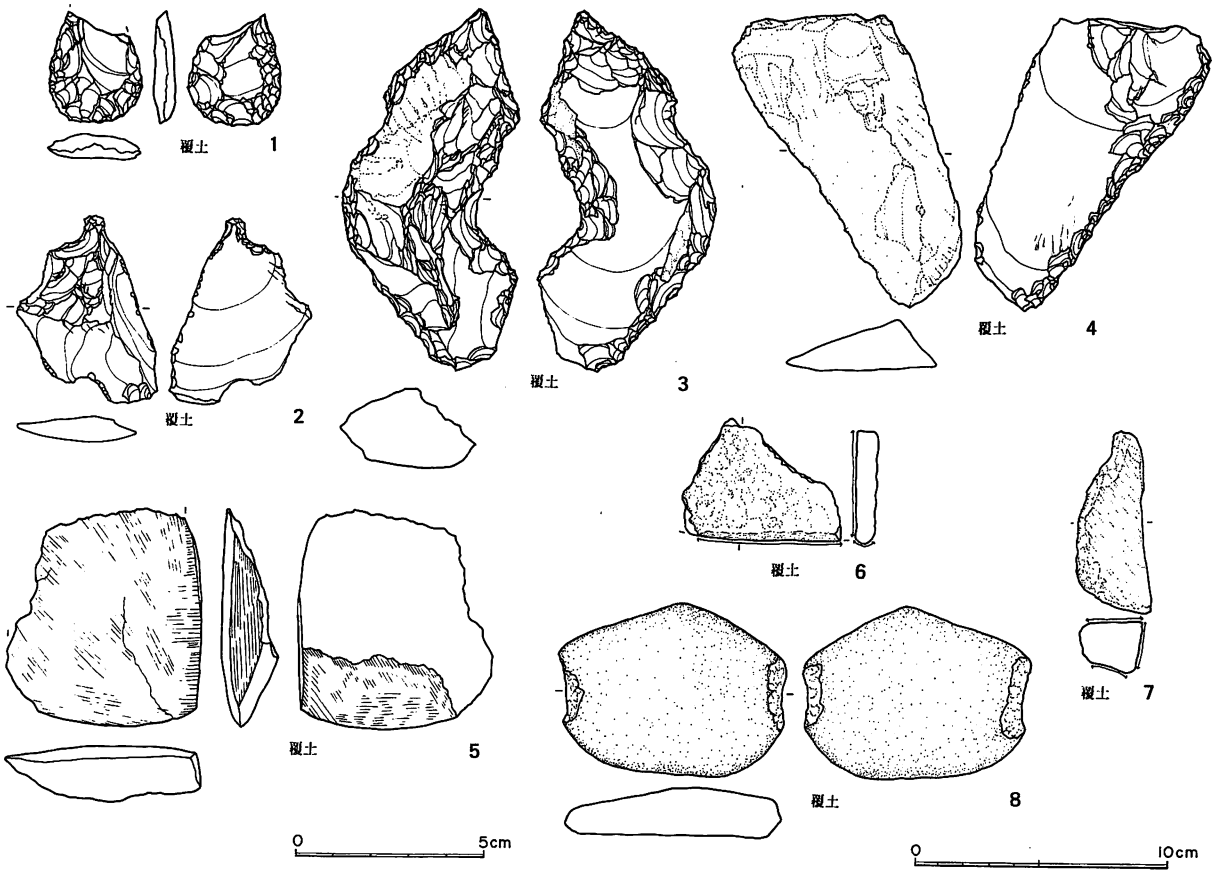
**土器**（図Ⅲ－44　図版46・56）

１は口縁部から体部までの破片（①）と底部の破片（②）は直接には接合しない。①は覆土１・２層の破片（５点）と10ｍ程北西の包含層Ｍ－７－82（６点）、周辺のＭ－７－90、Ｎ－７－10の破片が接合したもの。②はＮ－８－19出土のものである。両者は、精選された胎土、良好な焼成、器厚、灰黄白色の色調、器面に施文されている腹縁文などが、非常に類似している。この様な点から同一個体と判断し、図上で器形を復元したものである。平縁で、乳房状尖底の非常に整った円錐形の中型土器である。全体の２分の１程が残存する。口縁部は丸味を帯びた角形で、内面には貝殻腹縁圧痕文をやや押引き的に、斜位に浅く施している。文様は底部付近にまでおよび、口縁部には平行沈線文が施されているが、下位の区画線は①の部位の下端になるとみられる。区画内は斜位の腹縁文を施すことで８単位に区画されている。区画内には舌状文様と三角形の文様が交互に配され、舌状文様内にはさらに腹縁文が１条縦位に施され、空間部には、貝殻腹縁圧痕文が斜位・縦位に施されている。三角形の配された部分では、空間部は無文で、三角形の中にのみ圧痕文が施されている。底部付近の部位にも同様の圧痕文が施され、腹縁文が１条と２条間隔をあけて横位に施されている。内面は平滑に調整されている。２は薄手の体部下半部の破片。文様帯は底部付近にまでおよんでいる。胎土に白色の砂粒（長石・石英等）が多い。

３～５はⅠ群Ｅ類土器。３は幅３㎜程の篦状工具で文様が描かれている。４ａ～ｄは同一個体。覆土１層の破片と周辺の包含層出土の破片が接合した。同一個体片は、Ｎ－７－01（図Ⅳ－20－20）、隣接するＨ－25などからも多数出土しているが、復元できなかった。口縁部（４ａ）と底部（４ｄ）は、胎土、器厚、内面調整から同一個体と判断した。緩やかな波状口縁で、底部はごくわずかにくびれている。口唇部は体部に比べて薄身で、丁寧にナデ調整され、角には細い棒状工具により刻みが縦位に施されている。文様は３条単位で横位にめぐらされる沈線文で、何段かに区分されているとみられる。口縁部直下は狭い無文帯が形成され、その下位に隆起帯がめぐっている。隆起帯上には縦位に、口唇部同様の刻みが施されている。波線文で区画された部分には上位の２段には矢羽根状に、下段では縦位に沈線文が施されている。上段の文様帯には棒状工具による細い沈線文が部分的にある。５は幅２㎜程の篦状工具で横位に施文後、縦位にも施されている。７は底部付近の部位とみられるⅡ群土




図Ⅲ－44　H－23出土土器




図Ⅲ－45　H－23出土石器

器。

**石器**（図Ⅲ－45　図版79）

１は両面調整石器。上半部は欠損しているが、先細りするものと思われる。２はつまみが棒状の石匙。縁辺には微細な剥離痕が認められる。３・４はスクレイパー。３は両側縁に抉りが入る。先端は扁平な尖頭状を呈する。４は刃部の逆側縁に微細な剥離痕が認められる。５は擦り切り石斧の刃部片。６は断面Ｕ字状の石鋸。砥石と複合する。７は礫片を素材とする角砥石。３面が研磨されている。８は両面に剥離した石錘。

Ｈ－24（図Ⅲ－46　図版15）

**位置**：Ｎ－７－22・32・(23) 北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は49.53ｍ～49.37ｍである。　**規模**：(5.62ｍ）／（5.20ｍ）×4.50ｍ／4.26ｍ×0.18ｍ

**平面形**：北を先頂部とする卵形　**床面積**：16.92㎡　**長軸方向**：Ｎ－Ｓ

**確認・調査・土層**：Ｎ－７－22・32の包含層調査中、Ⅲ層を５㎝～10㎝ほど掘り下げたところで南北を長軸とする長円形状の落ち込みを検出した。これは乾燥すると著しくヒビ割れのする部分に相当するものである。小トレンチを設定し、床面、壁の立ち上がりの確認作業を行う。また北側は昨年度の調査区で、残存する壁の断面観察から床および壁の立ち上がりを確認し、Ⅲｂ層から順次掘り下げ調査を行った。覆土は三層に分けられる。覆土１層は暗褐色土（土層図１）である。軟質で、Ⅲｂ層に黄色土粒が若干混入するものである。層厚は約10㎝前後である。覆土２層は暗茶褐色土で、粘質で非常に堅い土である（土層図２）。層厚は約10㎝前後である。覆土３層は床面直上のもので、黄色土粒が混入する暗黄褐色土である（土層図４）。

**床面**：床面はⅤ層をわずかに掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、西側へわずかに傾斜している模様であるが、中心部の大半がＨ－19によって削平されており、また、北側が不明のため、全体像は不明瞭である。床面は非常に堅い。また、南西壁側には1.4ｍ×0.8ｍ×0.1ｍほどの浅いくぼみがある。

**壁**：全体に緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は８㎝～11㎝ほどである。

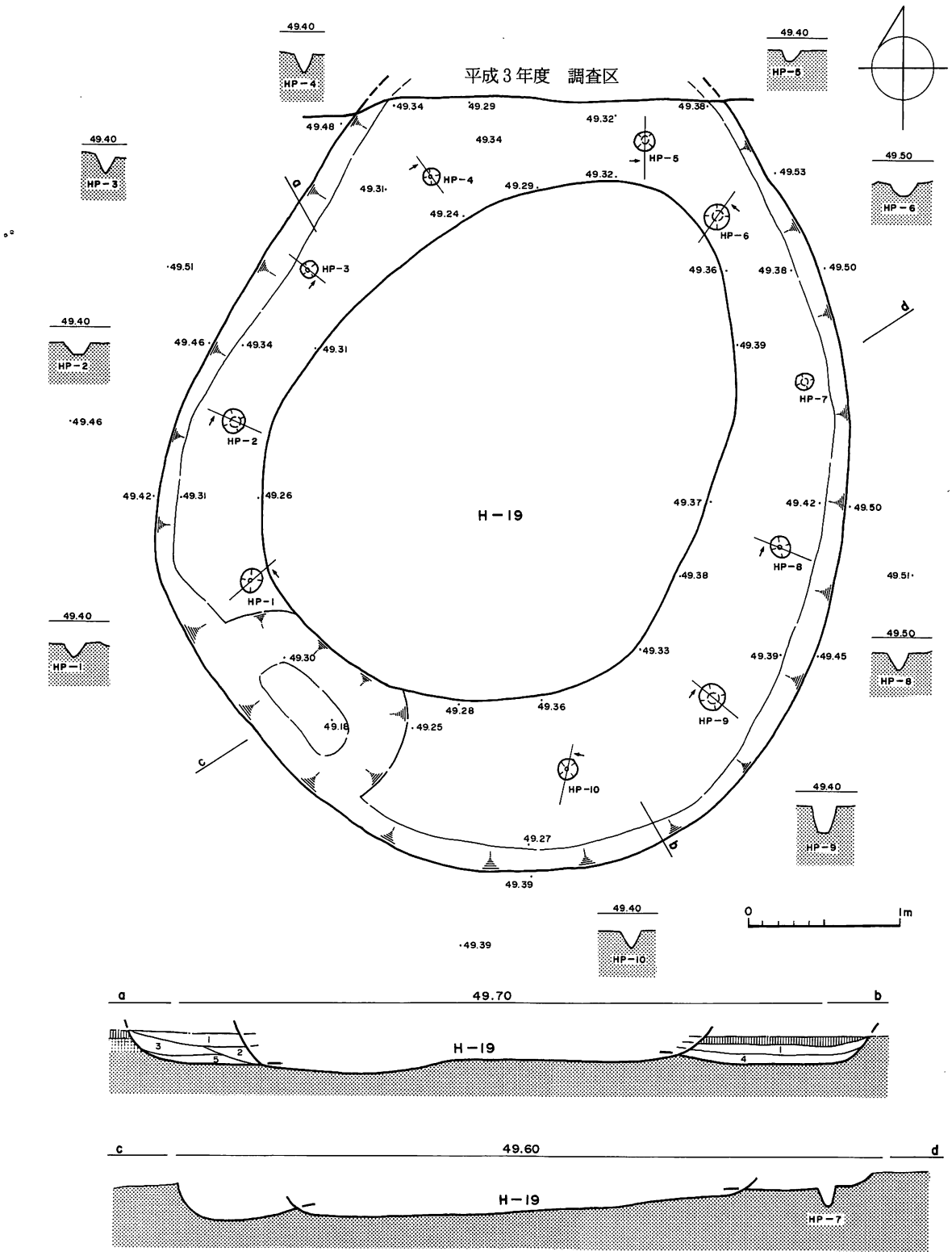
**炉跡**：焼土は検出されていない。ただ北側の覆土２層中で焼土の広がりを検出したが、床面から数センチメートル上にあり、また、Ⅲｂ層が混入していることから、流れ込んだものと考えられる。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは10個検出されている。これらは壁際から20㎝～40㎝内側をめぐるもので、間隔はほぼ１ｍ内外である。すべて直立し、先端部が細くなっているものが多い。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は163点である。その内訳は土器101点、石器62点である。遺物は覆土中からの出土で、その大半は覆土上層から出土したものである。出土した土器はⅠ群Ｂ類のもので、石器では石鏃、石匙、スクレイパー、石錘などが出土している。遺物は覆土どうし、覆土と包含層という接合関係を示している。覆土出土の土器片１点とＨ－26の覆土出土との土器片と、また、覆土出土の土器片１点とＮ－７－05・12・22・32のⅢ層出土の土器片と接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢ層上層と思われる。覆土周辺包含層出土の土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はＨ－19、Ｈ－22、Ｈ－26、Ｈ－34、Ｈ－52、Ｈ－53と重複しており、Ｈ－19より古く、他の住居跡より新しいものである。




土層：①暗褐色土（黄色土粒が若干混入、粘質、軟質）　②暗茶褐色土（粘質、堅い）　③暗褐色土（暗黄色土が少量混入、粘質）　④暗黄褐色粘質土（≒③）　⑤暗黄色土（微小の黄色土粘が若干混入、粘質）

図Ⅲ－46　H－24実測図

表Ⅲ－７　Ｈ－24小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 15×13(cm) | 13(cm) | 黒褐色土(黄色土混入、粘質) | 床　面 | 直立、先端部細い | ＨＰ－６ | 15×15 | 7 | 黒褐色土（粘質） | 床　面 | 直立 |
| ＨＰ－２ | 15×15 | 8 | 褐色土(砂質、堅い) | 〃 | 〃 | ＨＰ－７ | 15×15 | 13 | 〃　（〃） | 〃 | 直立、先端部細い |
| ＨＰ－３ | 14×12 | 12 | 暗褐色土（〃） | 〃 | 〃 | ＨＰ－８ | 13×13 | 12 | 褐色土(砂質、堅い) | 〃 | 〃、 |
| ＨＰ－４ | 15×15 | 12 | 黒褐色土（粘質） | 〃 | 〃 | ＨＰ－９ | 18×16 | 17 | 暗褐色土（砂質） | 〃 | 〃、 |
| ＨＰ－５ | 15×12 | 7 | 〃　（〃） | 〃 | 〃 | ＨＰ－10 | 17×16 | 12 | 〃　（〃） | 〃 | 直立、先端部細い |

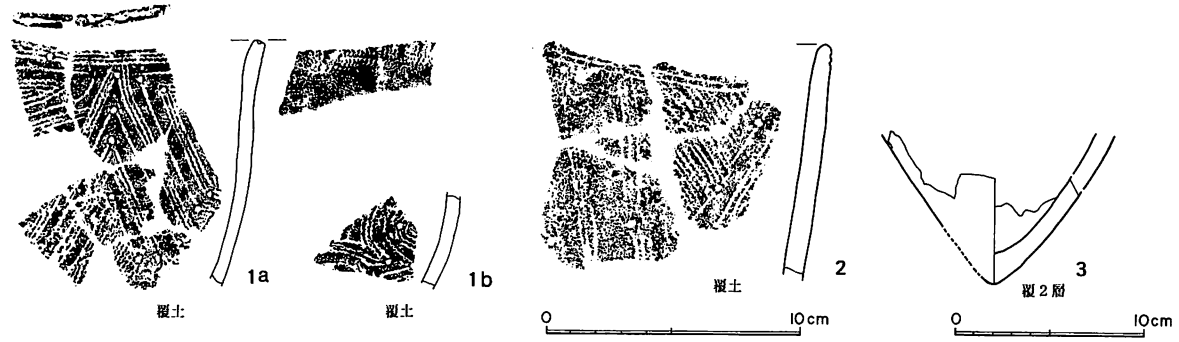
## 遺物

### 土器（図Ⅲ－47　図版46・56）

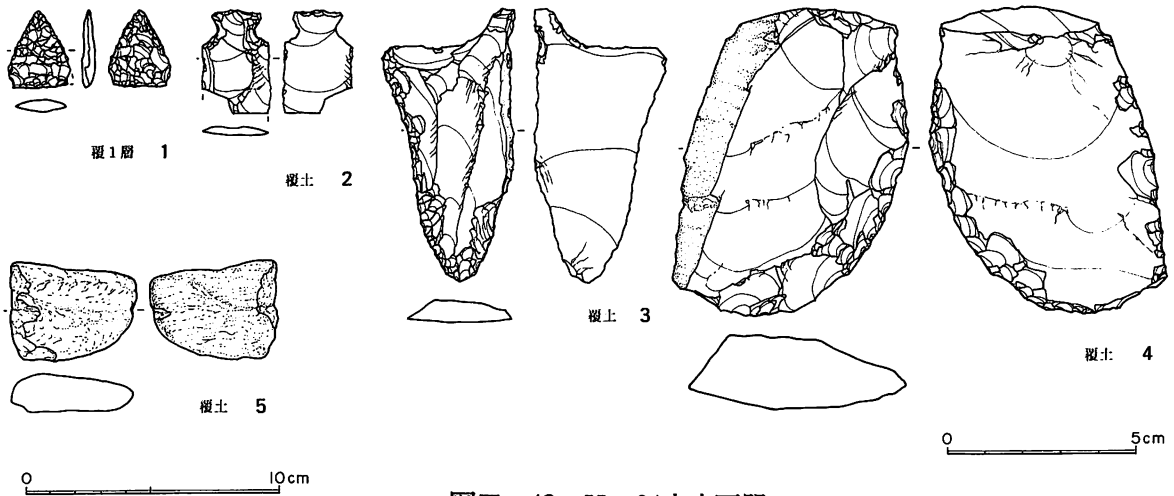
１a・bは波状縁をなし、口縁部はやや外反する。薄手で、口唇は平坦で内側角に押引き文的に貝殻腹縁圧痕文が施されている。波頂部の口唇上にのみ細い沈線がひかれている。文様構成は、はっきりとはしないが、幾何学文的文様が展開されているとみられる。内外面に横位に条痕があ。胎土に白い砂粒（長石・石英等）が多く、脆い土器である。２はＨ－22出土のものと同一個体（図Ⅲ－40－３）。３は砲弾形をなす底部。内面にかすかに条痕が観察される。

### 石器（図Ⅲ－48　図版79）

１は黒曜石製の石鏃。三角形鏃の製作中に端部が折れ、再加工の結果下半部で屈曲する形態になったと思われる。２・３は石匙。２は縦長剥片に抉りのみ作出したもの。３は素材の末端形状を利用してつまみとしている。４は両刃のスクレイパー。刃部の逆側縁には不規則な剥離痕が認められる。５は石錘。石質が軟質のため著しく風化しており、剥離痕が不明瞭である。




図Ⅲ－47　Ｈ－24出土土器




図Ⅲ－48　Ｈ－24出土石器

H－25・44（図Ⅲ－49・50・51・52・53　図版16・17）

**位置**：N－7－10・20、N－8－19・29区にまたがる。　**規模**：6.24m／5.96m×4.60m／4.24m×0.36m

**平面形**：やや丸みをもつ台形　**床面積**：22.24㎡　**長軸方向**：N－86°－E

**確認・調査・土層**：N－7－10区包含層調査中、P.D.3の落ち込みが認められたことから遺構の存在を想定し、ベルトを設定して遺構調査を行った。南側の一部はメインセクションにかかっていたため、作業の進行上、トレンチは7ライン北1mまでしか入れられず、当初は南壁を確認できなかった。この時点では床面を色調や遺物の出土状況から6層上面とし、北側の壁は崖錐堆積であるH－36・4層の立ち上がりと考えて調査を進めた。しかし、床面とした6層上面ですり石等の大型の遺物が6層以下に深く潜り込んでいたため、トレンチを再度深く入れ、南北方向はさらにトレンチを延長した。この結果、Ⅴ層上面で遺物が出土、また南北方向では明瞭な壁の立ち上がりが検出されたため、大小2つの遺構が重複していることを確認した。遺構は大型のものをH－25、入籠になっている小型のものをH－36とし、H－36を調査した後にH－25の調査にとりかかった。覆土は、H－36の下にⅣ・Ⅴ層主体の暗黄褐色土が堆積している（6層）。南東側では炭化物の出土が著しい。H－36より外側の覆土は、褐色土が厚く堆積しており（2層）、H－36構築以前は、遺構全体を覆っていたと思われる。壁ぎわには黒みを帯びる土が崖錐堆積している（3・7・5層）。なお、遺物はすでにH－25として一部取り上げていたため、H－36・1層とⅢb層の一部は、H－25の覆土上部（図Ⅲ－53上、白丸）に含まれている。

**床面**：構築面が床面であろう。地形が北側で高くなっており、床面を平坦にするためⅤ層への掘り込みは北側を深く、南側を浅くしている。床面は、南西方向にわずかに傾斜している。北東側の一部には小動物による細長い攪乱溝が認められたが、遺物の出土状況にはほとんど影響がなかった。南東側では覆土と同様、炭化物の出土が多く、HP－1周辺でも目立った。床面は1mマスごに土壌を採取し、フローテーションを行い、炭化植物遺体の鑑定、$C^{14}$年代測定を依頼した。

**壁**：北側では急傾斜で立ち上がるが、他では傾斜が緩い。壁高は北側で30cm以上、他では20cmに満たない。

**炉跡**：中央付近に炭化物を多量に含む赤橙色の焼土が検出された。焼土の大部分はⅤ層の被熱したものではない。0.43m×0.36mの広がりをもち、一部HP－1に落ち込んでいた。また、北東には隣接して灰の集中が検出された。セクションでは床よりわずかに浮いているが、焼土に伴うものとしてよいと思われる。焼土はⅤ層上面から6層が数cm堆積した間に形成されたのであろう。

**付属ピット**：HP－1は、1.26m×0.9m×0.1mの浅い皿状の不整形ピットで、遺構のほぼ中央に位置する。覆土には炭化物が非常に多く含まれており、フローテーションの結果多量のフレイクとともにキハダ属種子、果肉付キハダ、クルミ属種子の炭化植物遺体が検出された。底面の中央には不整形の小ピットがある。断面形は湾曲しており、性格は不明。HP2～16は柱穴状の小ピットである。概して浅い。壁がわのものはわずかに内傾する。HP－4ではたたき石等が出土した。HP－5の上部は一部攪乱を受けているため、実際にはもう少し深さがあったものと思われる。

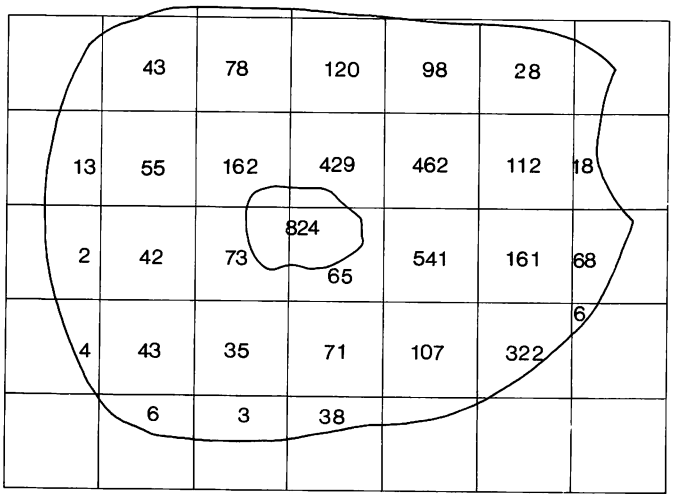
**遺物出土状況**：出土遺物総数は1,607点で、土器606点、石器1,001点である。床面付近からの遺物は、土器162点、石器783点出土した。覆土上部（覆土黒）はH－36の覆土の遺物も一部含まれている。覆土上部の土器はⅠ群B類、E類が出土しており、主として北東で分布が濃い。Ⅰ群E類は北側に分布しており、垂直分布からみて最も新しい時期の流れ込みと思われる。覆土下部（覆土茶）としたものの大部分は2層出土のものである。土器はⅠ群B類だけである。石器はすり石、砥石、石鋸などの出

土数が目立つ。また石槍未製品が南壁ぎわで十数点のフレイクとともに出土した。６点のフレイクが石槍に接合したことから石槍はフレイクとともに廃棄されたものと思われる。床面付近の土器は、南西に多く分布する。しかし、遺構内だけの接合で完形に復元できる土器はない。石器では、たたき石、すり石、砥石、石鋸等の出土数が多く、周辺部に分布する。たたき石は石英片集中の北、ＨＰ－４付近にかたまって分布しており、また石鋸は南東隅に４点集中するが、他の石器については明瞭な分布は示していない。たたき石は10点出土しており、石英を石材とするものが６点をしめる。すり石としたものについてもたたき痕の著しいものが多く、たたき石は使用した作業を主に行っていたと思われる。石英のたたき石が多いことは、石英片の集中がこれらを使用した作業場所である可能性が高い。フローテーションによる微細遺物の分布では、ＨＰ－１の北西１ｍの範囲で多量に認められ、石器の加工がこの付近で行われていたと考えられる。石英破片の集中も含め炉の周辺が作業場として想定される。ただし、石英片集中付近では、石器の素材となるようなフレイクはなく、明瞭なフレイク集中も検出されなかったことから、石英片集中の場は必ずしも石器製作作業に関わるものとは言えない。また、南壁では、ほぼ同じ大きさ、重量の礫が29個集中して出土した。石材は流紋岩、凝灰岩等様々であるが、重量感のある礫を選択しているようである。角礫、亜角礫のものが多い。性格は不明。遺構間接合はＨ－９・22・26・29・32～38・40・41・46・50でみられる。

**時期**：Ⅲ層はかなり不安定な堆積をしているものの、西側でⅢｂ層の流入が認められることから、掘り込み面はⅢｂ層中と思われる。本遺構は東側でＨ－32・44に切られる。床面で出土した土器はⅠ群Ｂ類であり、縄文時代早期中葉の時期と考えられる。

なお、フローテーションの結果、炭化植物遺体としてキハダ属種子、果肉付キハダ、クルミ属が検出された。これらは主としてＨＰ－１と東半部に分布する。出土量ではクルミ属が最も多く、広範囲に分布する。微細なチップも4,048点検出され、ＨＰ－１およびその北西１ｍ以内での出土が多い。微細なチップの分布はクルミ属種子が多く検出された場所と概ね重なるが、キハダ属種子、果肉付キハダは、若干東側に分布する傾向がある。

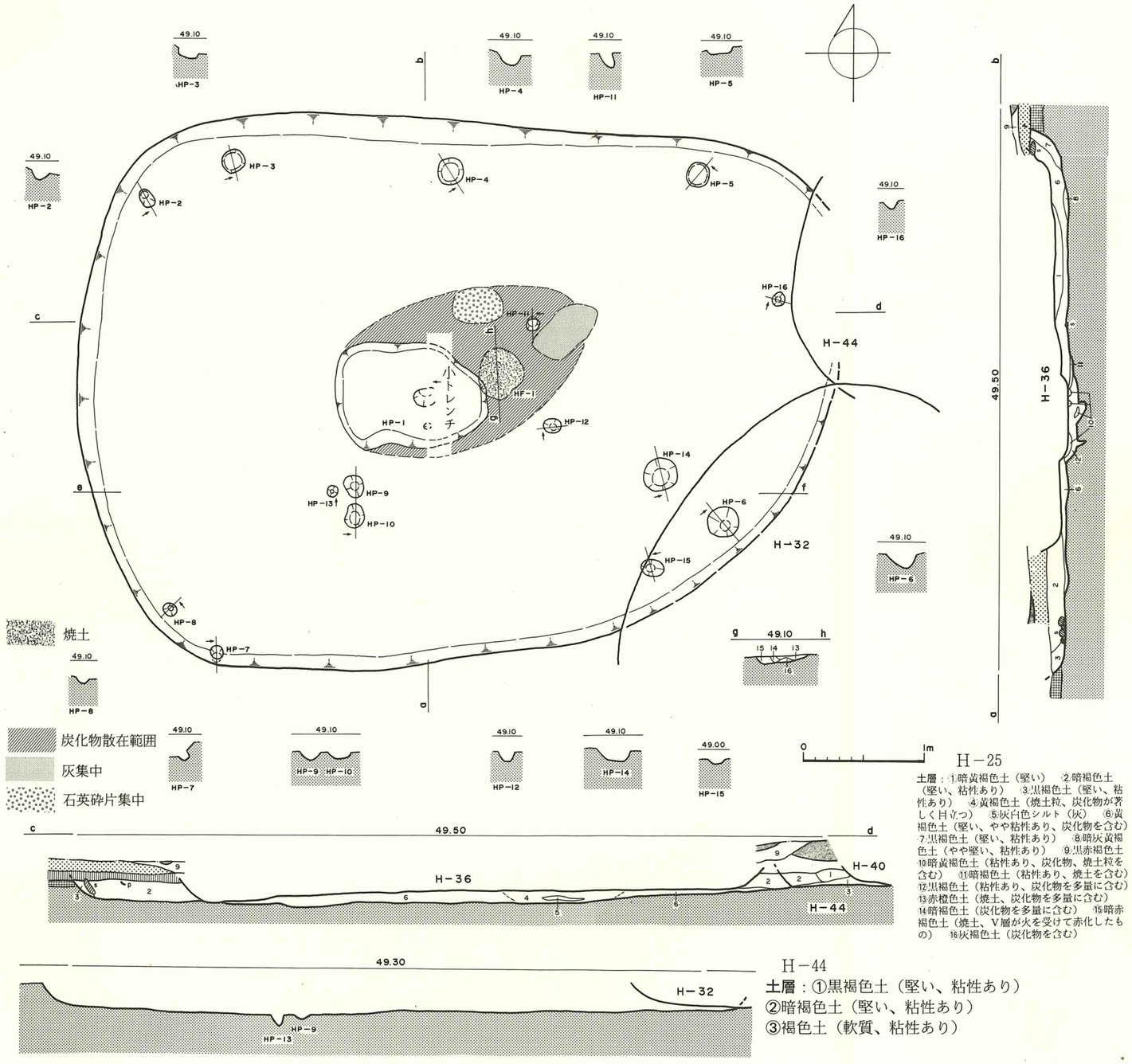
また、床面の炭化物のＣ$^{14}$年代測定では7780±280B.P.の値を示した。




図Ⅲ－49　Ｈ－25出土の微細なチップの分布図

Ｈ－44（図Ⅲ－50）

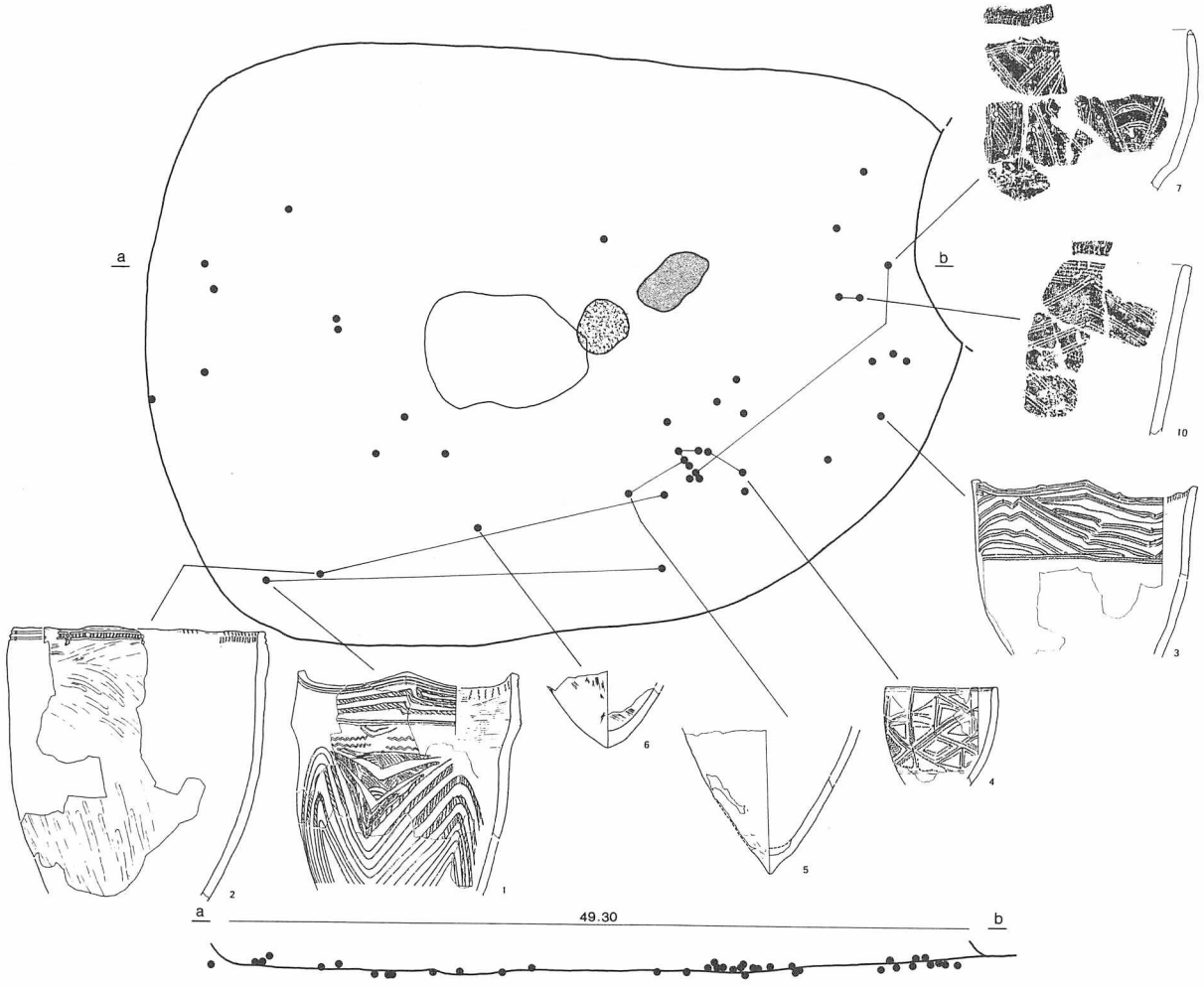
**位置**：Ｎ－７－20区に位置する標高は49.30ｍ付近である。Ｈ－25を切り、Ｈ－31、40に切られている。　**規模・平面形・床面積・長軸方向**：不明



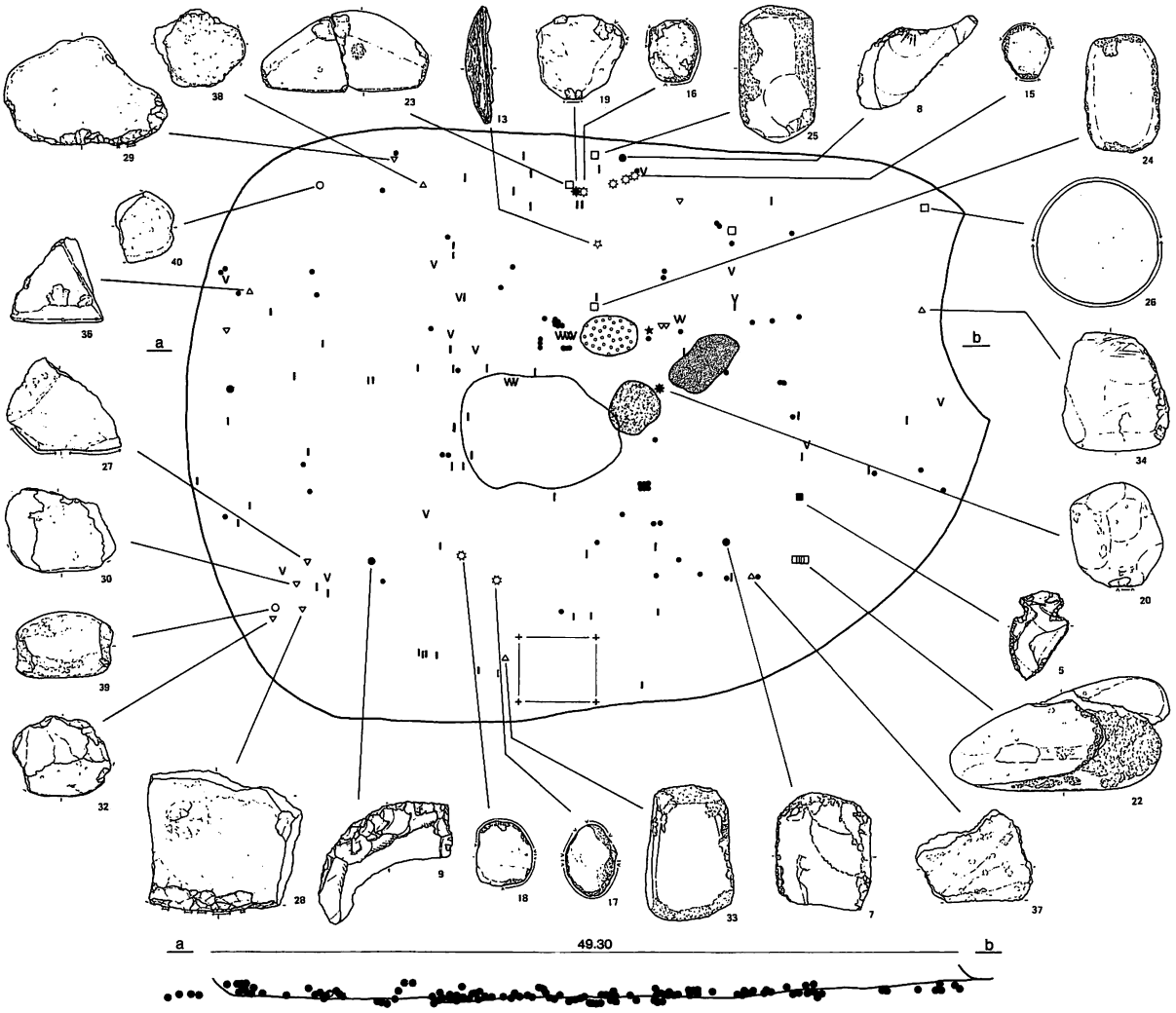

H－25
土層：①暗黄褐色土（堅い）　②暗褐色土（堅い、粘性あり）　③黒褐色土（堅い、粘性あり）　④黄褐色土（焼土粒、炭化物が著しく目立つ）　⑤灰白色シルト（灰）　⑥黄褐色土（堅い、やや粘性あり、炭化物を含む）　⑦黒褐色土（堅い、粘性あり）　⑧暗灰黄褐色土（やや堅い、粘性あり）　⑨黒赤褐色土　⑩暗黄褐色土（粘性あり、炭化物、焼土粒を含む）　⑪暗褐色土（粘性あり、焼土を含む）　⑫黒褐色土（粘性あり、炭化物を多量に含む）　⑬赤橙色土（焼土、炭化物を多量に含む）　⑭暗褐色土（炭化物を多量に含む）　⑮暗赤褐色土（焼土、Ⅴ層が火を受けて赤化したもの）　⑯灰褐色土（炭化物を含む）

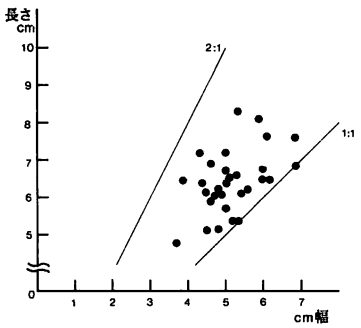
H－44
**土層**：①黒褐色土（堅い、粘性あり）
②暗褐色土（堅い、粘性あり）
③褐色土（軟質、粘性あり）

図Ⅲ－50　H－25・44実測図

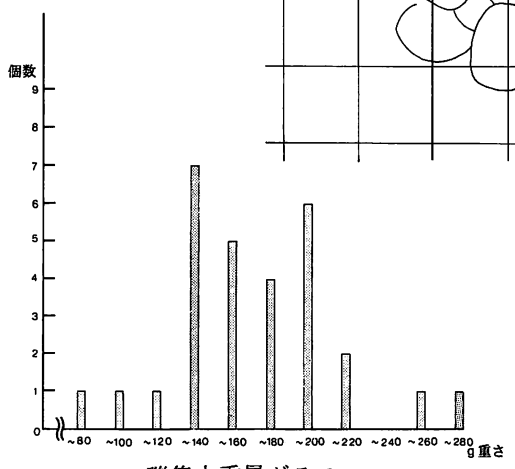



図Ⅲ－51　H－25出土土器（床面）の分布と接合図



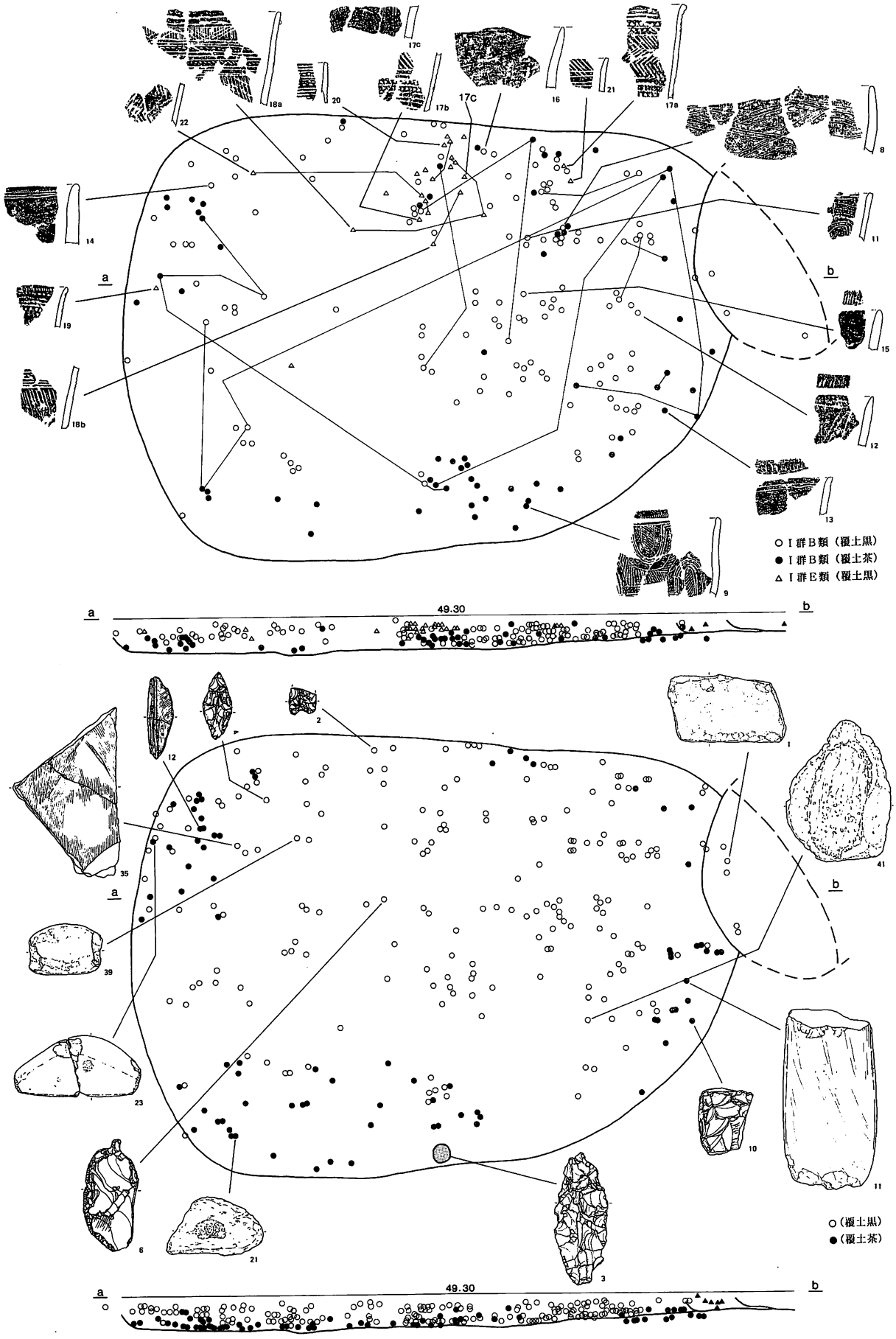




礫集中長幅比グラフ



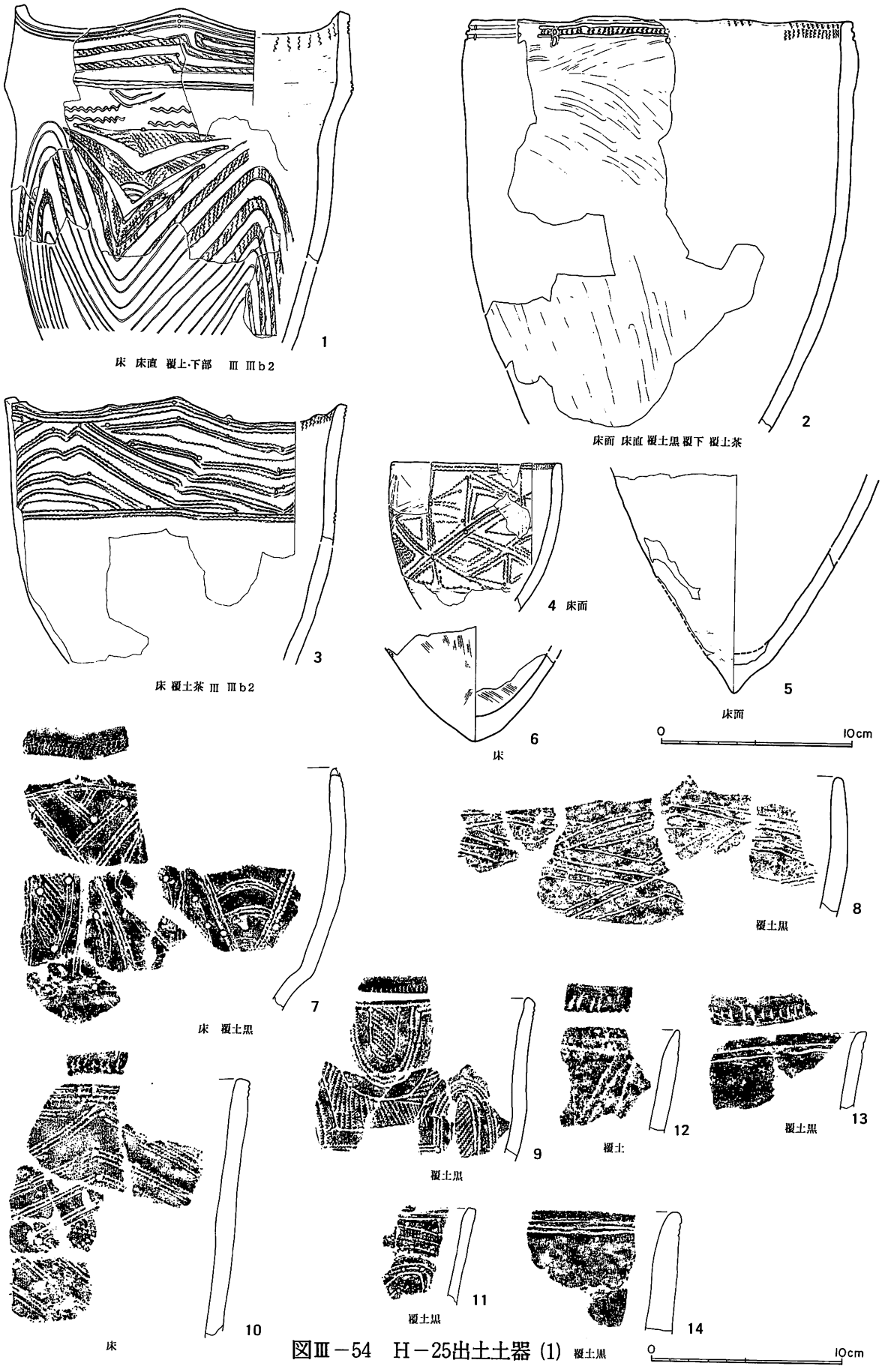

礫集中重量グラフ

図Ⅲ－52　H－25出土石器（床面）の分布と接合図

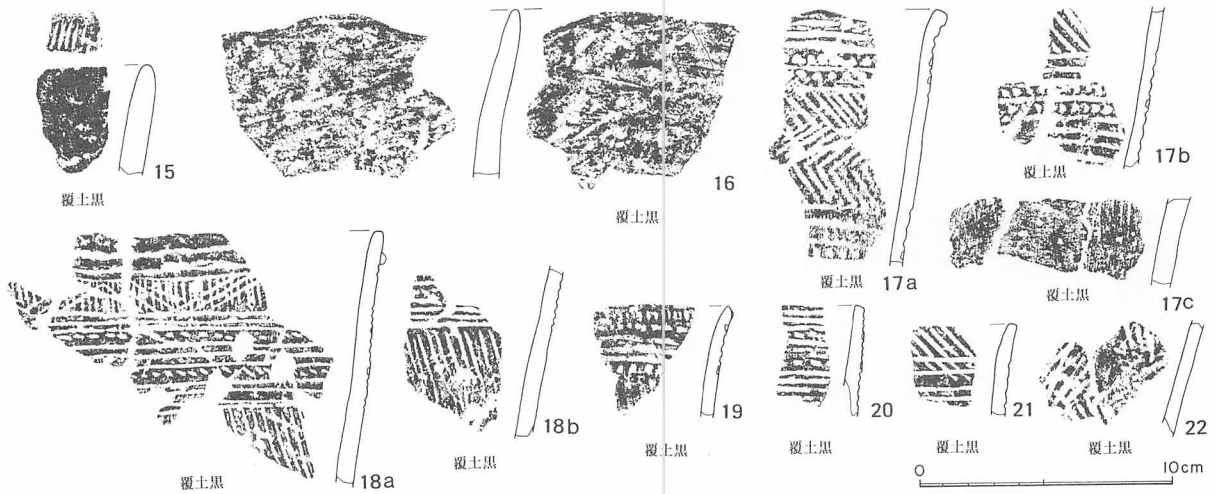



図Ⅲ—53　H—25・44出土遺物(覆土)の分布と接合図

**確認・調査・土層**：Ｈ－25の調査においてトレンチを入れた際にＨ－25を切っている遺構があることが判明、Ｈ－25の調査終了後Ｈ－44の調査を行なう。遺構の上はⅢ層が覆っていたため、まずⅢ層を掘り下げて平面形の検出に努めた。しかし、Ｈ－25、31、40間の空間はわずかで、残存している部分は1.50ｍ×0.70ｍの大きさしかない。そのため、遺構の全体像は不明である。
**床面**：残存部はほぼ平坦である。
**壁**：Ｈ－25・２層とＨ－44・２層はともに暗褐色土と表記したが、後者は黒みが強く、区別は明瞭であった。壁高は12㎝前後である。
**炉跡**：検出されなかった。
**付属ピット**：検出されなかった。
**遺物出土状況**：出土遺物総数は８点、内訳は土器３点、石器５点で、すべて覆土からの出土である。分布は散漫である。土器はⅠ群Ｂ類が出土しており、石器はすり石が出土している。
**時期**：覆土からはⅠ群Ｂ類の土器しか出土しておらず、また切り合い関係から縄文時代早期中葉の時期と思われる。
**Ｈ－25遺物**
**土器**（図Ⅲ－54・55　図版47・57）
１は床面・床直上・覆土下部出土の破片と、重複するＨ－32・36近接するＨ－22・26・34・37の覆土、周辺の包含層出土の破片が接合した。胴部下半は欠損しているが、胴部上半の２分の１程が残存する。キャリパー状で口縁部がやや内傾する大型土器。４ヵ所に波頂部がある。文様は口縁部から胴部下半にまで及んでいる。文様が胴部まで及んでいる資料は、昨年度も一個体（図Ⅳ－4－6）出土している。口縁部文様帯を区画する３条一単位の腹縁文以外の文様は、全て沈線で描かれている。口縁部には、平行沈線によって、波頂部下で「鉤の手」状になる帯状の文様帯が２列配されている。また、「コ」の字状の文様の一部もみられる。頸部の下位には沈線文を１条めぐらせ、4㎝～5㎝程の区画をつくり出し、この部分には、鋸歯状沈線文を間隔をあけて２列施してある。２条の沈線で弧線を配した部分もある。胴部文様帯には平行沈線で連続した大きな山形文様を複数重ねている。波頂部下には三角形の区画が形成されている。胴部下端にかすかに横位の沈線文が観察できることから、同様の区画は文様の下部にもあるように思われる。いずれの沈線文間にも貝殻腹縁圧痕文が充填されている。また上部の弧線に対応する位置に逆向きの弧線が施されている。器面にはかすかに条痕があり、内面は胴上半部に横位に粗い条痕がある。２は床直上・覆土１層の破片（15点）と、重複するＨ－36床面、近接するＨ－33・38、北西に15ｍ程離れたＨ－50出土の破片（各１点）、さらに昨年度調査区で北東に25ｍ以上離れたＮ－７－45（図Ⅳ－8－79）、Ｎ－８－19周辺出土の破片（７点）が接合したもの。非常に広範囲に破片が分散していた。口縁部は不規則に波打っており、体部半ばから口縁部にむかって直線的に立ち上がる大型土器で、器形は昨年度Ｈ－４床直下出土の土器（図Ⅲ－25－6）と類似する。口唇断面は丸身を帯びた角形で、内面角には押引き文的貝殻腹縁圧痕文が施されているが、さらに重ねて刻み目状の深い圧痕文を施した部分もある。文様は口縁部のごく狭い範囲に限られ、竹管状工具によって太い沈線が２条、間隔をあけて施文されている。沈線間には貝殻腹縁圧痕文が粗く施され、端に近い部分には先の尖った工具で斜め上から施文した円形、楕円形の刺突文が、沈線間と下位の沈線上に施されている。器面には細かい条痕と篦状工具によるものかと思われるナデ調整が体部上半にみられる。内面にも条痕、ナデによる調整があるが雑である。３は床面・覆土の破片と、近接するＨ－22・34の覆土、Ｎ－７－01、20ｍ程西側のＭ－７－70出土の破片が接合した。口縁部の２分の１と体部下半は欠損している。口縁部はやや外反する。４ヵ所に波頂部があり両端に副突起がある。




図Ⅲ－54　H－25出土土器 (1)　覆土黒




図Ⅲ－55　Ｈ－25出土土器 (2)

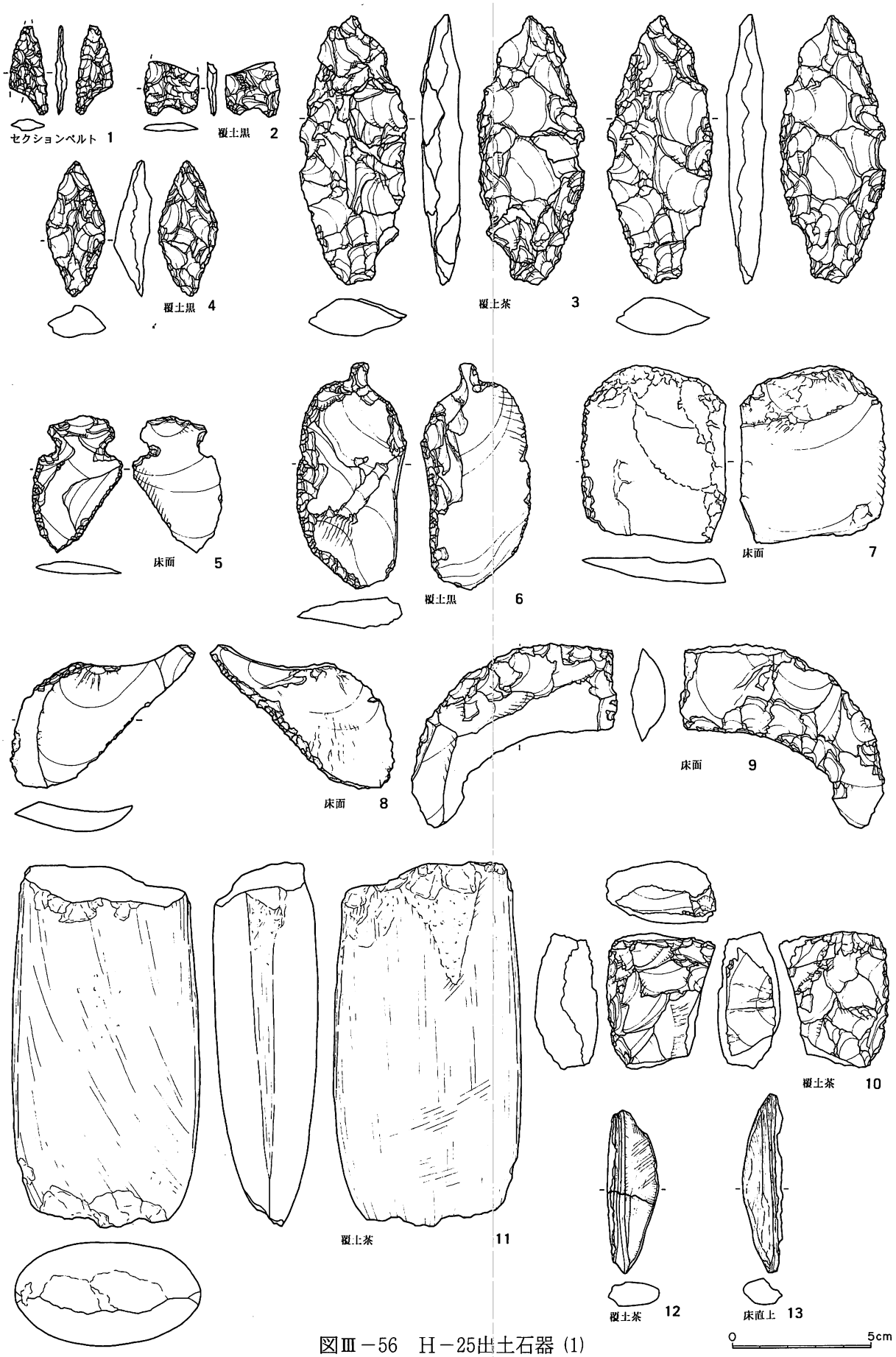
口唇の内側には８㎜程のやや長めの貝殻腹縁圧痕文が縦位に施されている。文様部は体部下半までで、上下の腹縁文で区画された中に波頂部間から３条一単位のクランク状の腹縁文を左右に口縁の流れにそうように数条施した部分や、斜位に施文している部分がある。全体としては腹縁文のみによって山形あるいは緩やかな波状の文様が構成されているとみられる。また、上位から施文された腹縁文の途中から施されるもの、１条のみ施されるもの、弧状の線もみられ、正確に割り付けられた印象は薄い。円形刺突文は文様の端、クランクする部分、腹縁文上に施されているが規則的ではない。口縁の波状の形も一定ではなく、やや雑に作られた印象が残る。文様帯部分は茶褐色、無文部は赤褐色を呈している。４は床面の破片と、重複するＨ－36の床面の破片が接合した。体部下半は欠損しているが上半部は３分の２程が残存する。体部半ばから直線的に口縁部にむかって立ち上がる平縁の小型土器。内面には細かい貝殻腹縁圧痕文が施され、下位には部分的に爪形圧痕がある。文様帯は体部半ばまでで、最初に口縁部の腹縁文から縦位に３条一単位の腹縁文を施し、さらに斜位に施文された線を交叉させて二等辺三角形状の区画を作っている。これが文様の中心となる区画とみられ、対応する位置に同様の区画がみられる。区画内は一筆描き的に描いた三角形、大小の菱形の文様が横位に展開されている。非常に細かい貝殻腹縁圧痕文が菱形の区画内に交互に施文され、無文の部分もある。小さな円形刺突文は菱形文様の縁取り、下位の腹縁文上などに施されている。大きな円形刺突文は縦の３条の腹縁文上やその両端に施文されている。５・６は底部。６は砲弾形で内外面に斜位に条痕がある。５は床面出土の乳房状尖底のもの。輪積みの位置で欠損している。内面は平滑に調整されているが器面は凹凸が著しい。７・８はキャリパー状の器形。７は床面とＨ－36の覆土下部出土のものが接合した。口縁部の幅が広くやや内湾する。文様構成は腹縁文、沈線文で三角形などの幾何学文的文様、孤線が描かれている。沈線で区画された中には貝殻腹縁圧痕文が疎らに施されている。８はＨ－40（図Ⅲ－124－２）と昨年度出土したもと同一個体（図Ⅳ－４－８）。沈線文のみで文様が描かれている。９は包含層出土の破片（図Ⅳ－17－91）と同一個体。小さな山形口縁のもの。大柄な舌状の文様を上下逆向きに配し、空間部を沈線文で大きく区画し、押引き文的貝殻腹縁圧痕文を充填させている。10はＨ－36の床面の破片と接合した。３条一単位の腹縁文で山形、菱形の文様が描かれている。11・12は口縁部。11は薄手。８～10の口唇内面には貝殻腹縁部による圧痕文が縦位に施されている。13・14は口縁部にのみ文様の限られるもの。13は昨年度のＨ－11出土の破片（図Ⅲ－８－78）と同一個体。薄手で口縁

部に２条沈線文が引かれている。内面には棒状工具で縦に刻み目が施されている。14は厚手で口唇はナデられて丸味を帯びている。器面は丁寧に調整され、口縁部に腹縁文が３条施されている。15・16は無文のもの。15は内面に先の細い棒状の工具で７㎜～８㎜程の刻み目がつけられている。16は緩やかな波状口縁。内外面に横位、縦位に粗い条痕がある。

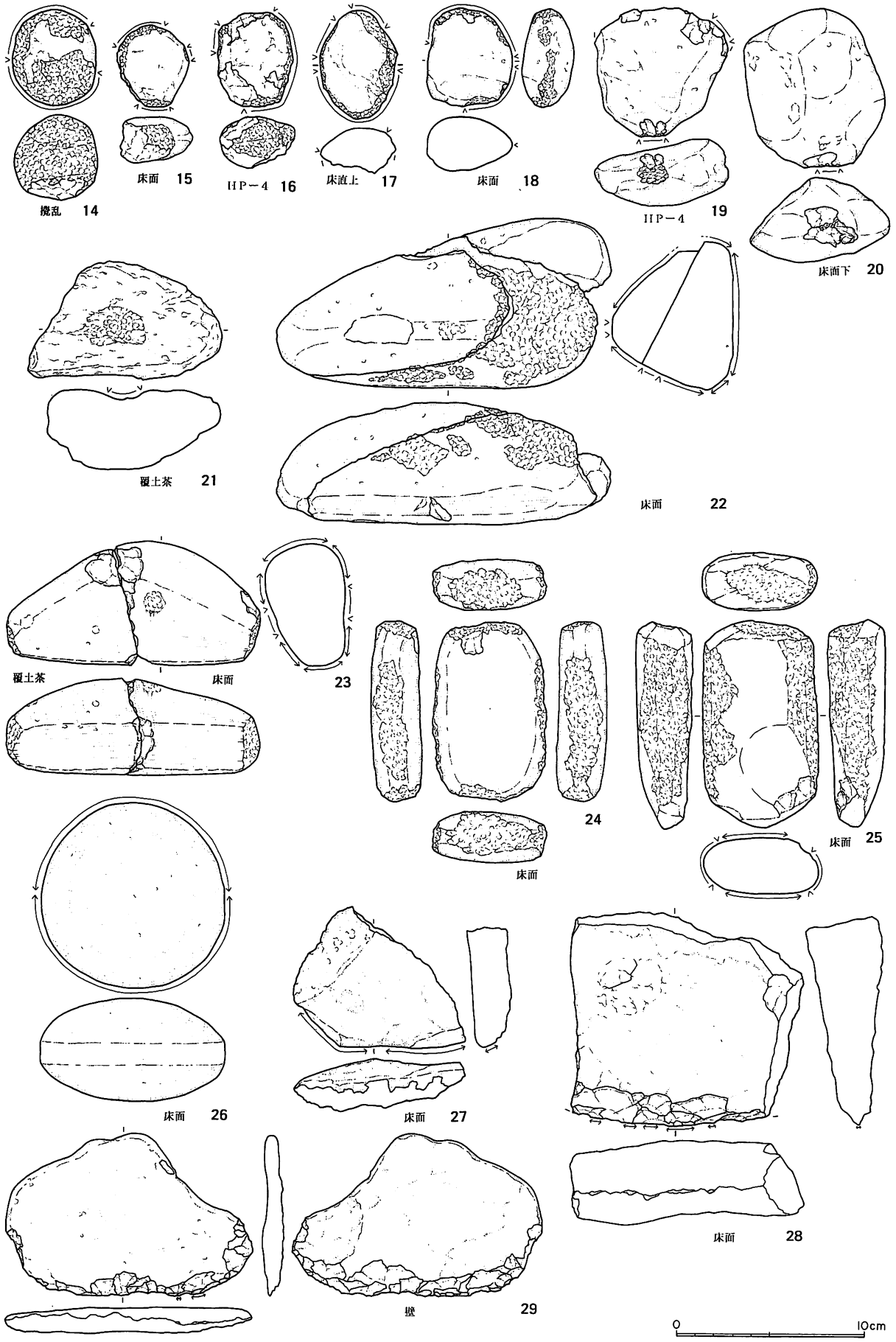
17～22はⅠ群Ｅ類。17a～cは同一個体。Ｎ－７－10（図Ⅳ－20－17）からも同一破片が出土している。薄手で焼成が非常に良い波状口縁のもの。文様は多段化しており、幅２㎜程の篦状工具による沈線文で口縁部に３条平行沈線をめぐらせ、体部上半には逆方向の矢羽根状文様を２段、さらにその下位に複数の平行沈線文を口縁部のものより間隔をあけて施している。半截竹管状の工具による刺突文が、口縁部の下位の沈線間、体部の沈線間にも２列施されている。18a・bはＮ－７－10出土のものと同一（図Ⅳ－20－22）。比較的厚手で口唇上から内面はナデられている。口縁部には細い撚紐を軸に巻いた絡条体圧痕文が斜めに施されている。口縁にそって幅４㎜程の隆起帯がめぐっている。下位には先の尖った工具で平行沈線文を横位に施した後、縦位、斜位に施し、斜格子目状の文様が描かれている。体部上半には平行沈線文を８条めぐらせ、間隔の広い沈線間には横長の刺突文が施されている。その下位はやや斜位に施文されている。19は口唇断面が切り出し形で、細い棒状工具で縦位に刻みがつけられている。幅２㎜程の篦状工具による沈線が３条施され、上下に角形の工具によるとみられる方形の刺突文が施されている。19には横位に、20は横位、斜位に沈線文が施されている。22は浅い沈線文が斜位に施されている。

**石器**（図Ⅲ－56・57・58　図版80・81・82・83）

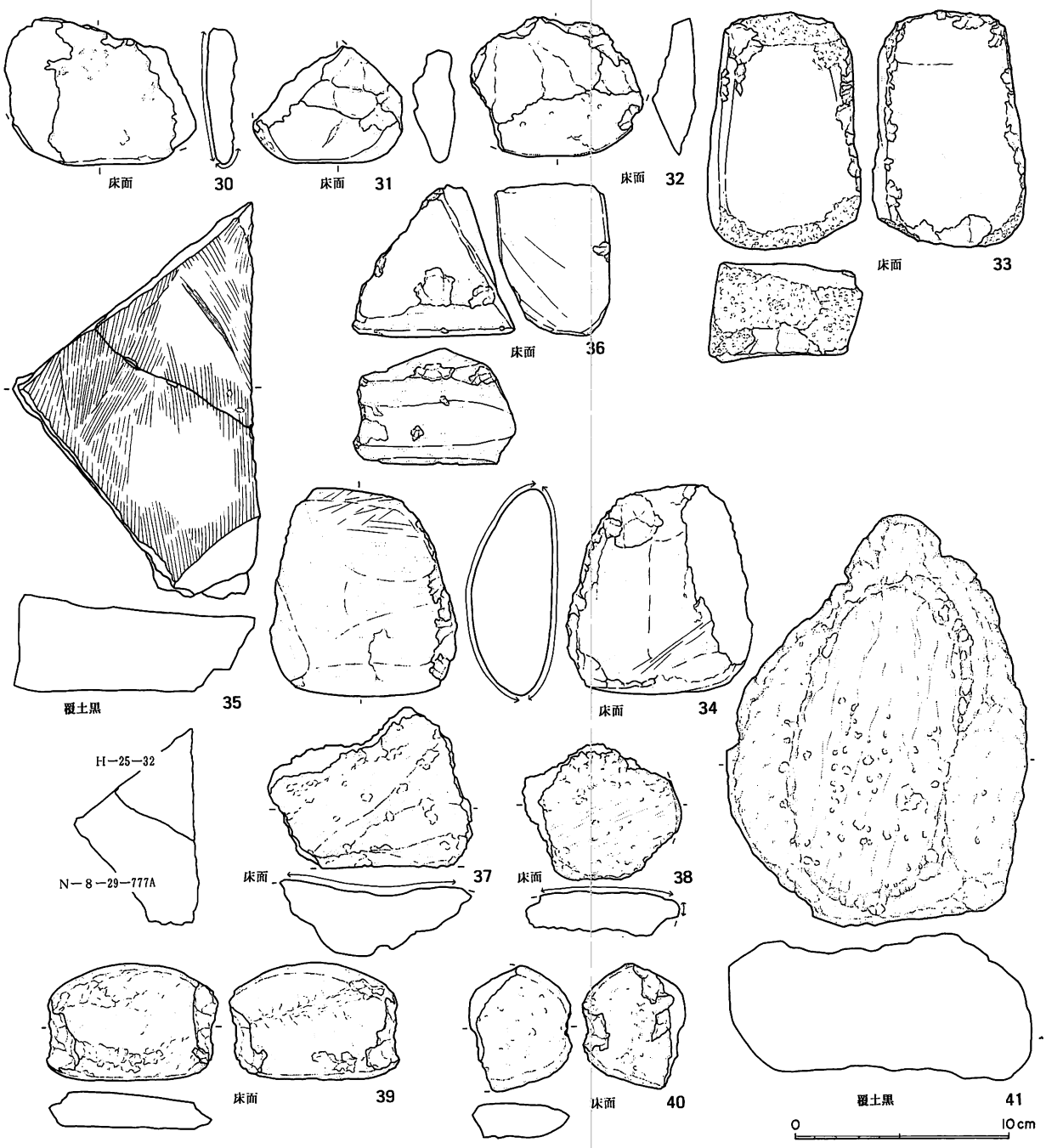
１・２はともに欠損しているが三角形凹基鏃である。３・４は石槍。３は基部が平基気味の木葉形を呈する。フレイク６点が接合しているが、明確な製作順序は認められず、形態にあわせて適宜剥離している。剥離痕の粗さからみて未製品のまま剥片と一緒に廃棄されたものと思われる。４は木葉形の小型のものである。厚身で剥離がうまく抜けていない。５・６は周辺加工の石匙。ただし、６の腹面側の加工は厚みを取るためのものと思われ、刃部を形成していない。７～９はスクレイパーである。７は側面に細かい調整を施したもの。８・９は素材端部のヒンジフラクチャーを利用して刃部を形成している。９の打面側の加工は刃部とするには剥離が粗い。10は打面転移のある石核である。折れ面を打面として利用している。11は閃緑岩の石斧。両刃で、やや丸みがあるものの、定角式に含めうる。全体に研磨が行き届いているが、主面の一部や側面には敲打の痕跡が残っている。また、刃部の剥離は刃部再生を試みたものと思われる。12・13は小型の擦り切り残片。12はＮ－８－９出土のもと接合する。14～21はたたき石。14～18は石英製で、未掲載も含め床面付近から計８点出土している。いずれも５㎝内外の球・円礫素材である。19～20は珪質の流紋岩を石材としている。21はくぼみ痕のあるたたき石。軽石素材である。22～26はすり石。22・23は１類。22はたたき痕が端部付近に認められる。23は覆土と床面出土で接合したもの。３面にすりが認められ、平坦面２面はたたき痕と複合する。また、両端にもたたき痕が認められる。24～26は２類。24・25はすり石としたが、明らかにすった後にたたき石に転用している。たたき痕は全周にわたり著しい。素材は楕円形の礫であろう。26は表面が風化しており明瞭ではないものの、断面形からすり面が全周巡っていたと思われる。27～32は石鋸。27は礫辺の縁片を利用したものである。28・29は機能部の再加工が行なわれている。30～32は10㎝以下の円礫片素材で、30・31は砥石と複合している。33～38は砥石。33は４面利用の角砥石で、両端にはたたき痕も認められる。34には線状痕が認められる。また、２側縁にも幅のあるＵ字状のすり面があるが、石鋸とするには幅が大きすぎるため砥石とした。35は本遺跡の砥石の中では比較的大型の礫を素材としているものである。本来は線状痕が全面にあったようであるが、後の利用で部分的に摩滅




図Ⅲ－56　H－25出土石器 (1)




図Ⅲ－57　H－25出土石器 (2)



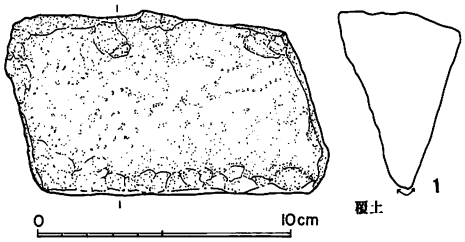

図Ⅲ－58　H－25出土石器 (3)

している。36は使用頻度の差はあるものの、全面を利用している角砥石である。37・38は礫片利用のもの。39・40は石錘。41は軽石製の石製品で、皿状に浅くくぼんでいる。昨年度報告のH－４出土の石製品と同様のものと思われる。

**H－44の遺物**

**石器**（図Ⅲ－59　図版99）

1はすり石1類。軽微なすり面である。




図Ⅲ－59　H－44出土石器

H－26（図Ⅲ－60　図版18）

**位置**：N－7－21・22・31・32　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形の東斜面に位置する。標高49.59m～49.35mである。　**規模**：5.0m／4.8m×（4.0m）／（3.7m）×0.22m

**平面形**：ほぼ南西を先頂部とする卵形　**床面積**：13.45㎡　**長軸方向**：N－21°－E

**確認・調査・土層**：H－22の小トレンチ調査で、H－22の東壁、南壁に覆土状の土の堆積が確認された。またN－7－32の南西側にP.D.3が厚く堆積しており、これを除去し、浅いくぼみを確認した。遺構の存在が予想されたことから、Ⅲ層を順次掘り下げ、Ⅳ層直上で暗黄褐色土のほぼ長円形状の落ち込みを検出した。H－22との関係を把握し得る様に小トレンチを設定し、床面、壁の立ち上がりの検出作業を行う。覆土はほぼ一層である。覆土1層は黄色土の混入する暗褐色土（土層図1）と粘質の暗黄褐色土（土層図3）である。層厚は約10cm前後である。この層の下には覆土1層＋Ⅴ層の粘質で、やや汚れた土が2cm～3cmほど堆積している。

**床面**：床面はわずかにⅤ層を掘り込んで構築されている。西側の一部はH－22によって削平されているが、ほぼ平坦で、非常に堅い。H－22の床面とほぼ同一面である。

**壁**：全体に緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は、北壁が10cm、東壁が22cm、南壁が11.5cmである。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは14個検出されている。これらは、①壁外にあるもの、②壁際にあるもの、③壁より0.5m～1m内側にあるものがある。①は壁より約30cmほど外側をめぐるもので、浅い皿状である。若干内傾気味のものもある。②、③はすべて直立し、先端部が細いものが大半である。

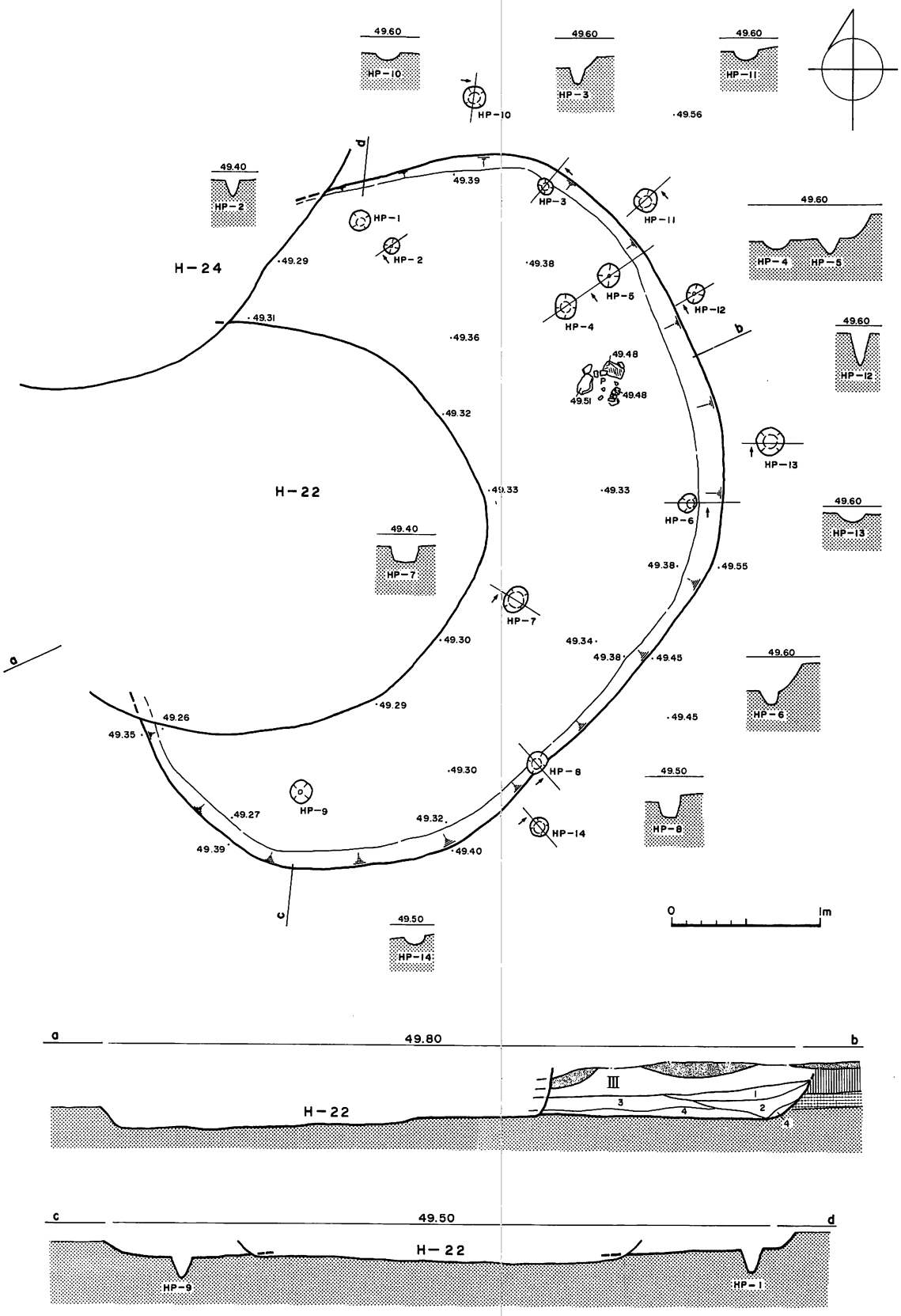
**遺物出土状況**：出土遺物総数は231点である。その内訳は土器167点、石器64点である。遺物は床面直上で土器片が1点出土しただけで、他はすべて覆土上面および覆土上層からの出土である。特に東壁の覆土上層では土器が一括出土している。出土した土器はⅠ群B類で、石器では石鏃、石匙、スクレイパー、石錘、すり石などが出土している。遺物は覆土上層どうし、覆土と包含層という接合関係を示している。覆土上層出土の土器片7点とN－7－32のⅢ層出土の土器片が、また、覆土上層出土の土器片1点とN－7－31のⅢ層出土の土器片がそれぞれ接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢb層中と思われる。床面直上、覆土から出土した土器はⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はH－22、H－24と重複しており、これらの住居跡より古いものである。またH－

表Ⅲ－8　H－26小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 15×15(cm) | 16(cm) | 褐色土>黄色土(粘質) | 床　面 | 直立、先端部細い | HP－8 | 15×13 | 10 | 茶褐色土 | 床　面 | 直立、 |
| HP－2 | 12×10 | 11 | 黒褐色土（軟質） | 〃 | 〃 | HP－9 | 15×15 | 15 | 〃 | 〃 | 〃、先端部細 |
| HP－3 | 13×12 | 10 | 暗茶褐色土 | 〃 | 直立、 | HP－10 | 18×14 | 5 | 黒褐色土 | Ⅲb層中 | 浅い皿状 |
| HP－4 | 17×17 | 5 | 暗褐黄色土 | 〃 | 浅い皿状 | HP－11 | 17×14 | 6 | 〃　（粘質） | 〃 | 〃 |
| HP－5 | 10×10 | 10 | 暗黄褐色土 | 〃 | 直立、先端部細い | HP－12 | 23×23 | 22 | 暗褐色土>黄色土 | 〃 | 直立、先端部細い |
| HP－6 | 11×11 | 10 | 褐色土 | 〃 | 直立、 | HP－13 | 20×20 | 5 | 黒色土 | 〃 | 浅い皿状、若干内傾気味 |
| HP－7 | 20×11 | 10 | 黒褐色土（軟質） | 〃 | 〃 | HP－14 | 13×13 | 5 | 〃 | 〃 | 〃 |




土層：①暗褐色土（粘質）　②黒褐色土（粘質）　③暗黄褐色土（粘質）　④暗黄褐色土（Ⅴ＋③、粘質）

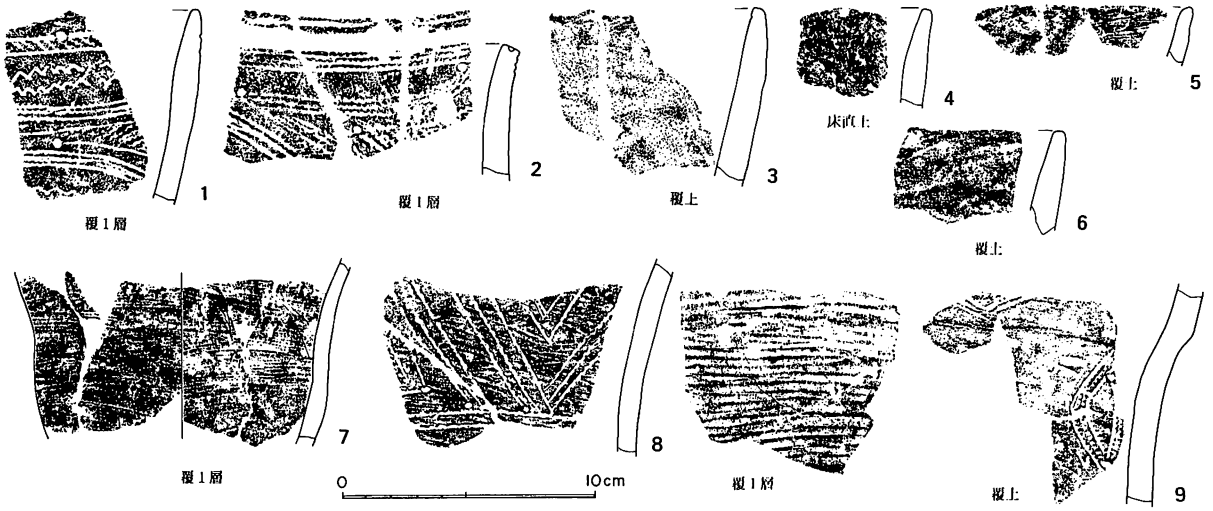
図Ⅲ－60　H－26実測図

34、H－35ときわめて接近しており、新旧関係は不明瞭である。

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－61　図版56）

覆土１層から比較的多数出土したが無文の小片のものが多い。１、２、８はいずれも腹縁文、貝殻腹縁文、沈線文、刺突文で文様が描かれている。１は昨年度のH－９（図Ⅲ－60－３）と同一個体の破片。波頂部を中心に大柄な菱形の文様構成をとるとみられるもので、無文部には鋸歯状沈線文が施されている。２はN－７－31のⅢb$_2$層出土の破片と接合した。同一個体の破片は昨年度の調査区N－７－45をはじめ、周辺の包含層から20点出土したが接合しなかった。波状をなすとみられ、口唇上には沈線が施されているが、とぎれる部分もある。下描きの沈線文は比較的太い。８は包含層N－８－37出土の破片（図Ⅳ－18－106）と同一個体、器面には、幅１㎜～1.5㎜程の条痕が、内面では２㎜程の条痕がある。３～６は無文のもの。３は小突起がある。口縁の内側には沈線文が浅く施されている。４は床直上出土のもの。波状をなす。器面には横位に細かい擦痕がある。５は小型のもの。横位に条痕がある。８は覆土１層とN－７－32（３点）の破片が接合した。胴部が丸味を帯び、口縁部はわずかに外反している。内、外面に、横位に粗い条痕があるが、外面のものは指などで消去されている部分がある。９はH－33出土（図Ⅲ－88－10）と同一個体。キャリパー状器形のもので、垂下する文様が施文されている。




図Ⅲ－61　H－26出土土器

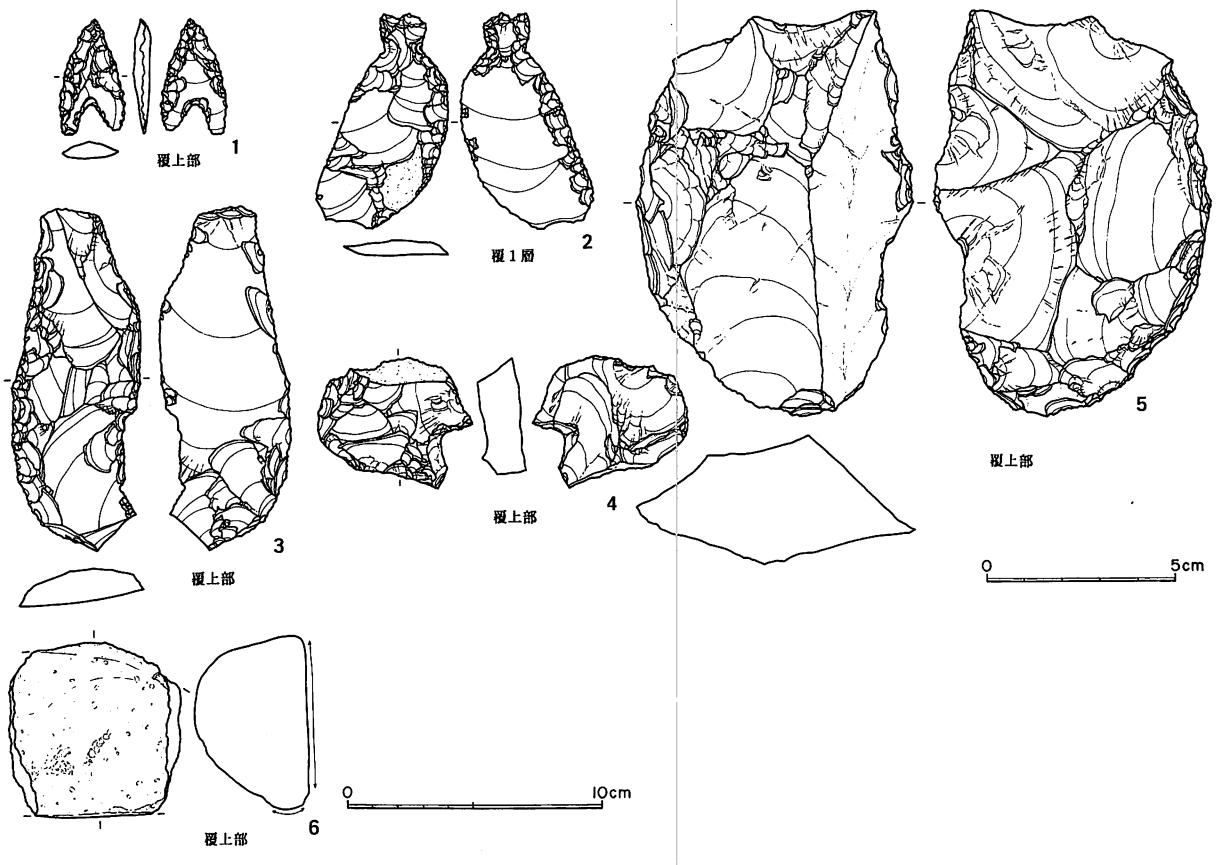
**石器**（図Ⅲ－62　図版84）

１は三角形凹基鏃。側縁は鋸歯状を呈し、下半部は両面とも素材面を残す。２は錯交剥離による周辺加工の石匙。３は縦長剥片素材のスクレイパーで、両側縁に刃部をもつ。４・５は石核で、いずれも求心状に剥片を剥離している。５はスクレイパーに転用している可能性がある。６はすり石片。

H－27（図Ⅲ－63・64　図版18）

**位置**：N－７－30・31　調査区東側は標高49.2m～49.5mの台地上平坦部に位置する。北にH－26、西にH－35・40、南にH－31・18が隣接する。　**規模**：3.48m／3.10m×3.32m／2.88m×0.15m

**平面形**：円形　　**床面積**：7.55㎡　　**長軸方向**：N－45°－W




図Ⅲ－62　Ｈ－26出土石器

**確認・調査・土層**：Ｎ－７－20・21の包含層調査中、東側のⅣ層上面で２ｍ×１ｍの範囲で遺物の集中が確認された。遺物は小さな土器片、フレイク・チップ類がほとんどであったが、出土量が多く周辺に遺構があることも予想されたため、Ｎ－７－30・31のⅢ層を遺構検出作業をおこないながら掘り下げたところ、Ⅳ層上面でほぼ円形の黒色土の落ち込みを確認した。一部木の根による攪乱があったため、北東－南西方向を軸に土層観察用のベルトを設定し、順次掘り下げて調査を行った。Ⅲ層下部とⅣ層上面には遺物が多く出土した。これを除去するとⅤ層上面でほぼ平坦になり、炭化物が散在し、数点ではあるが土器片が貼り付いた状態で出土したので、この面を床と想定し、全体を掘り下げ、壁の立ち上がりを確認した。

覆土は、おおむね三層に分けられる。覆土１層は黒色土でしまり、粘性があり、乾燥するとクラックが激しい。Ⅲａ層に相当する。覆土２層は覆土１層と同様だが、やや汚れが目立つ。覆土３層は黒色土で、やわらかい。φ１㎜程の赤色スコリアが微量に混入する。乾燥すると細かいクラックが入る。遺物の量が最も多く、Ⅲｂ層に相当する。覆土４層は暗黄褐色土でしまりがあり、かたい。

**床面**：Ⅴ層を10㎝程掘り込んでいる。ほぼ平坦で、踏み固めは顕著ではない。

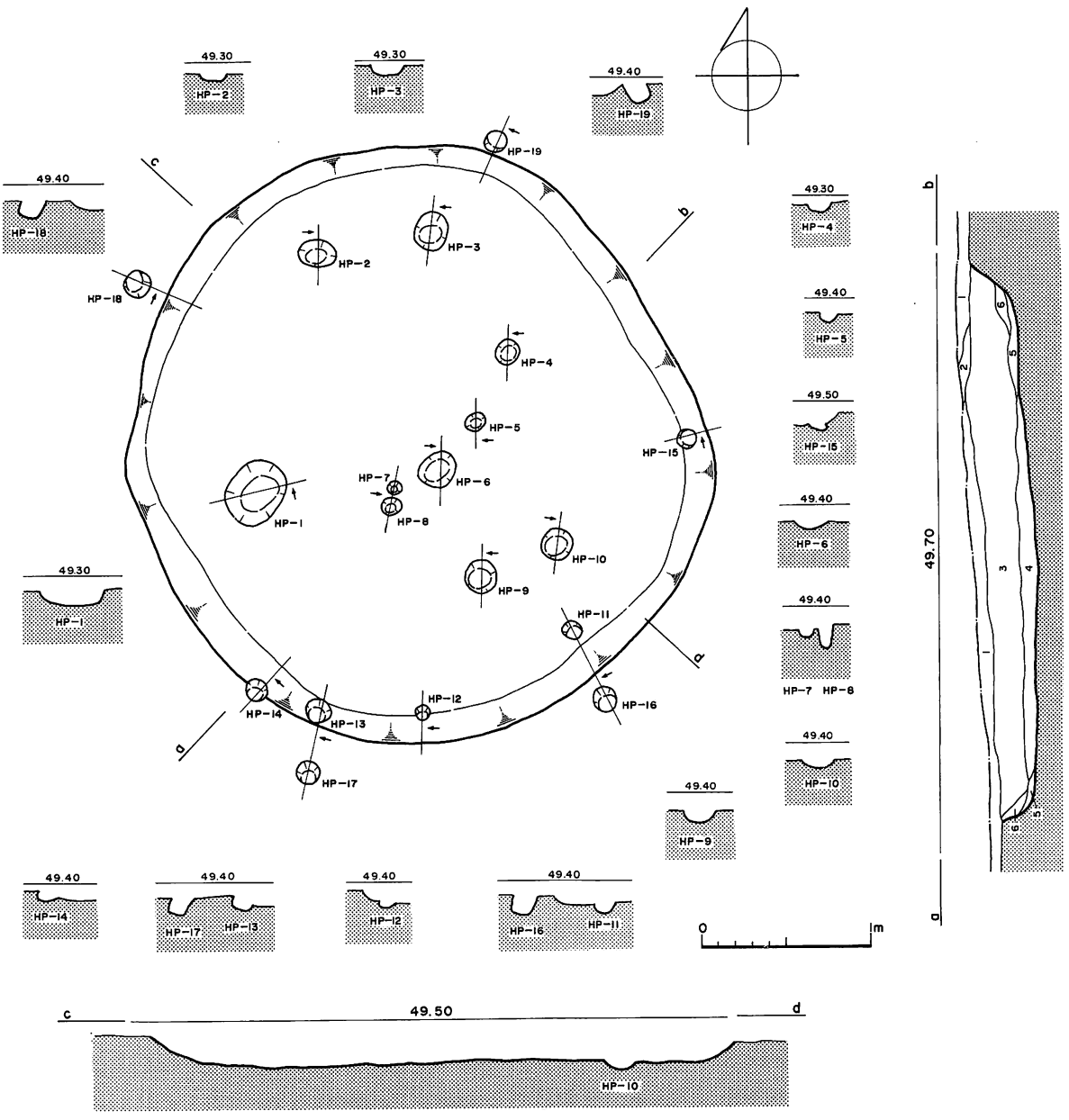
**壁**：全体に緩やかに立ち上がる。壁高は10㎝程度である。南側では不明瞭である。

**炉跡**：検出されなかった。ただし、ＨＰ－１覆土には炭化物が多く含まれており、炉として用いられていた可能性がある。

**付属ピット**：19個検出された。床面にはＨＰ－１を除き10個認められ（ＨＰ－２～11）、いずれも垂直に開口し浅い。壁面には４個認められ（ＨＰ－12～15）、中央に向かって内傾する。外柱穴は４個認められた。遺構内のピットに比べ深く、中央に向かって内傾する。屋根材の支柱穴であろう。

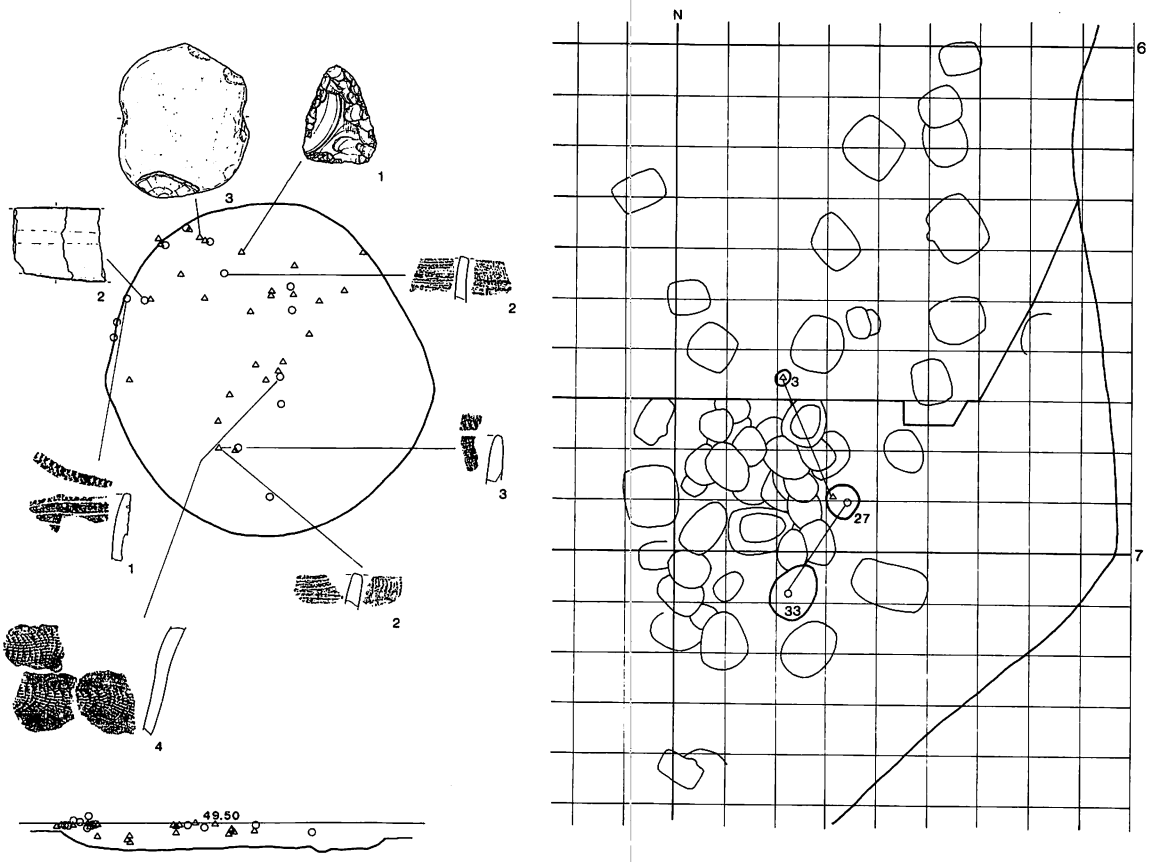
**遺物出土状況**：出土遺物総数は75点で、内訳は土器49点、石器26点である。覆土３層からの出土が多く、分布は北半部に片寄る。土器はⅢ層の流入土である１層を除けばすべてⅠ群Ｂ類である。石器は箆状石器、すり石、石錘等が出土している。遺構間接合は、Ｈ－33、Ｈ－３で認められる。

**時期**：２層以下の覆土にⅠ群Ｂ類土器しか出土していないことから、縄文時代早期中葉の時期と思われる。




**土層**：①黒色土（Ⅲ層、粘性あり）　②暗黄褐色土　③黒色土（軟質、φ１㎜ほどの赤色スコリアを微量に混入）　④暗黄褐色土（しまりあり、堅い）⑤暗黄褐色土（⑥より黄色土が多い）　⑥暗黄褐色土（③＋④）

図Ⅲ－63　Ｈ－27実測図




図Ⅲ－64　Ｈ－27出土遺物の分布と接合図

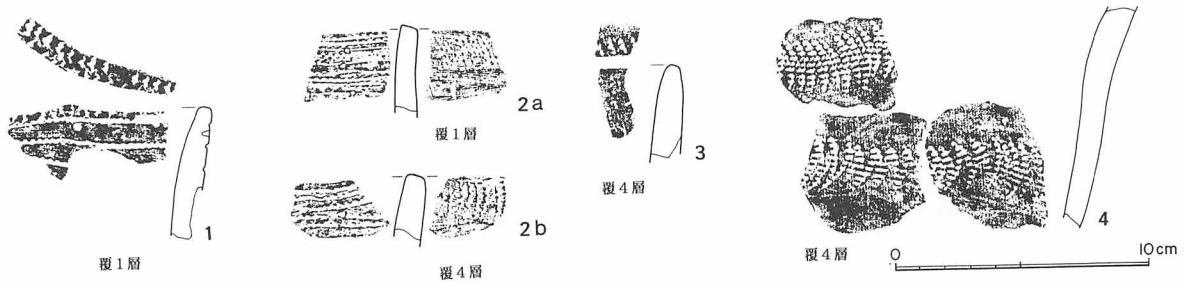
**遺物**

**土器**（図Ⅲ－65　図版58）

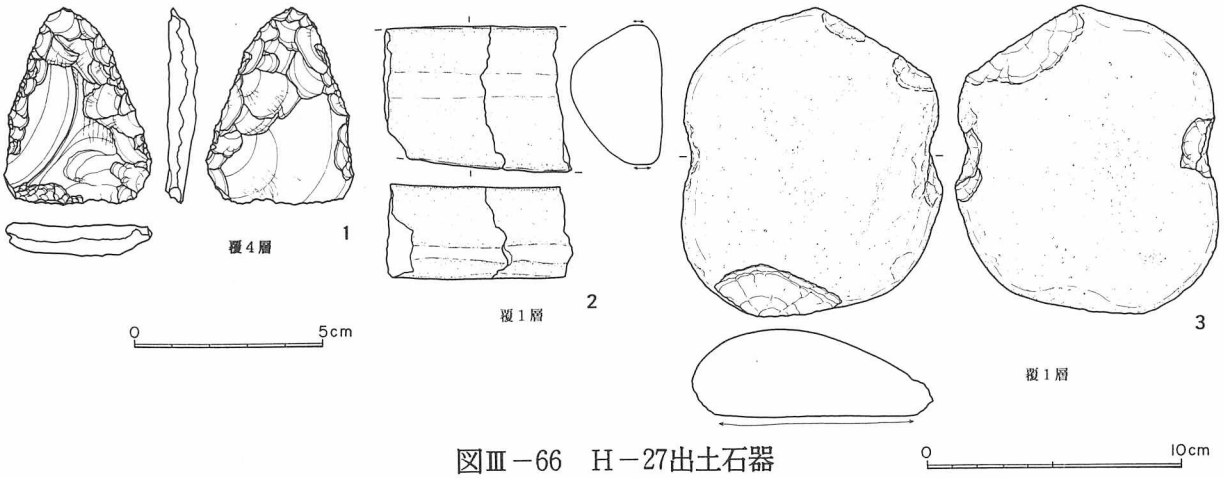
１・２は、腹縁文、刺突文で文様が描かれているが、文様は、はっきりとは分からない。１は覆土１層出土のもの。波頂部の両端の副突起部かとみられる。貝殻腹縁圧痕文に先だって施文される沈線が非常に強く引かれている。口唇部の内・外面角には、貝殻腹縁圧痕文による刻みが深くつけられている。内面はその際に残されたものであろうか。指頭の跡のような浅いくぼみが連続してみられる。２a・bは同一個体片。覆土１・４層から出土した。腹縁文が粗く施されている。３はやや厚手の無文のもの。口縁の内側角には短い貝殻腹縁圧痕文が深く刻まれている。４は覆土４層の破片と５ｍ～６ｍ程離れたＨ－33壁、さらに30ｍ程北西側のＭ－８－96出土の破片が接合した。この土器の破片は非常に広範囲から出土している。Ｈ－33（図Ⅲ－89－24）、Ｈ－35（図Ⅲ－98－２）、Ｈ－52（図Ⅲ－149－１）、包含層Ｍ－７－94・88・84、Ｎ－７－02～04・21・33・44から多数出土している。また、昨年度調査したＨ－３（図Ⅳ－18－８a～c）、包含層（図Ⅳ－９－59a～e）とも同一個体である。キャリーパー状の器形の胴部片で貝殻腹縁部による連続波状文が何段かにわたって施されている。

**石器**（図Ⅲ－66　図版84）

１は篦状石器。刃部の部分的な加工は刃部を直線状に揃えようとした補正的なものと思われる。両面とも素材面を残している。２は２側縁にすり面をもつすり石１類。すり面の幅は小さく１㎝に満たない。昨年度調査したＰ－３覆土から出土したすり石と接合する。３は４辺に剥離を加えた大型の石錘。すり石からの転用品と思われる。




図Ⅲ－65　Ｈ－27出土土器




図Ⅲ－66　Ｈ－27出土石器

Ｈ－28（図Ⅲ－67・68　図版19）

**位置**：Ｎ－８－05　住居跡群の南端、標高48.5ｍの緩斜面に位置する。　**規模**：－×－×0.15ｍ

南西側をＨ－43に壊されている。

**平面形**：（円形）　**床面積・長軸方向**：不明

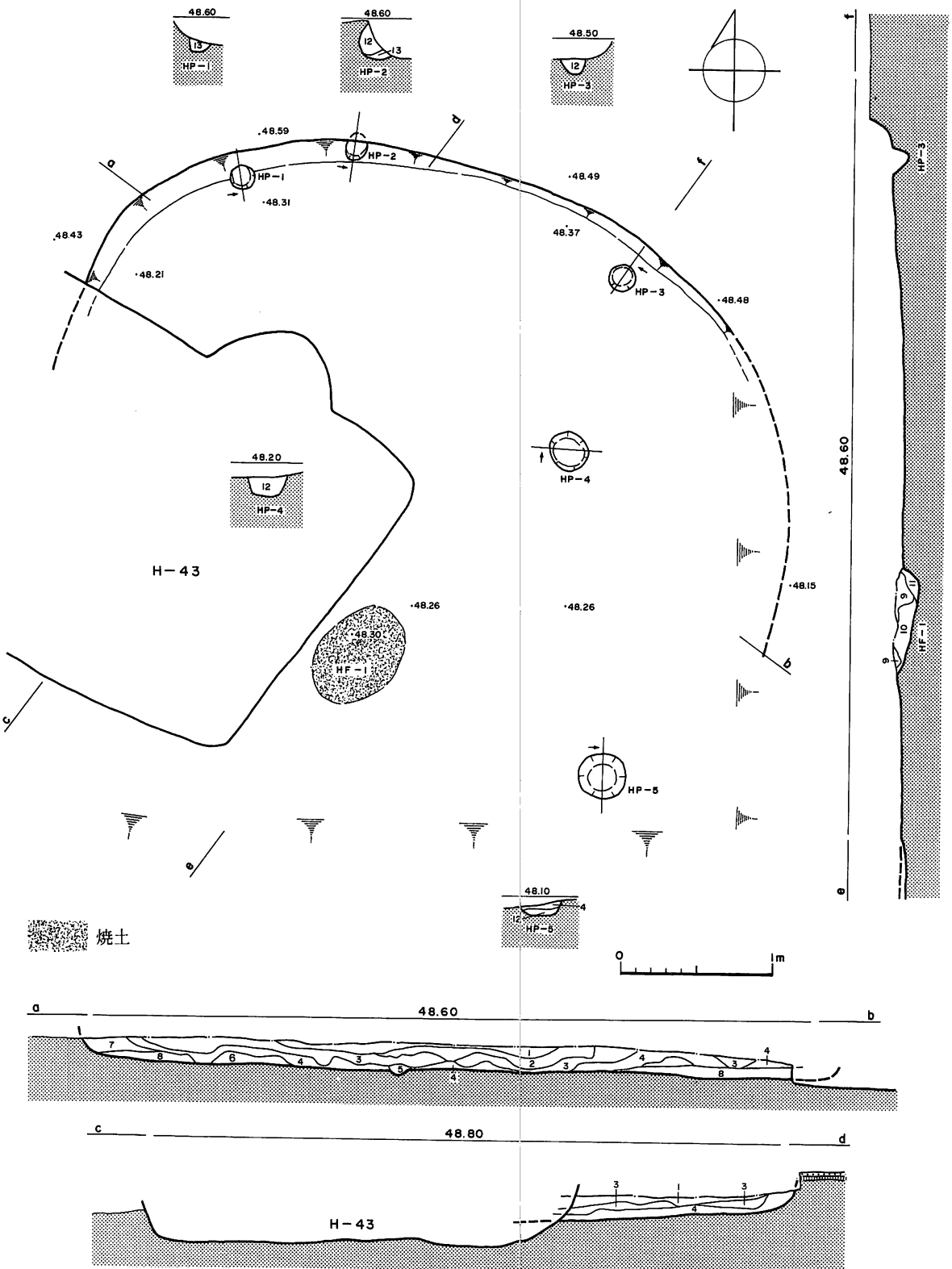
**確認・調査・土層**：Ｈ－43と共にⅢ層調査中に確認した。確認が遅れたことと、地形の傾斜により、南半部のプランは不明である。確認面で精査の結果、縄文時代前期のＨ－43に切られていることが判明したため、Ｈ－43の調査終了後に開始した。北側に壁の立ち上がりを確認した。残存する平面形は北側に丸みを持つ半月形である。覆土は大きく黒褐色系と黄褐色系の２つに分けられる。覆土１層は黒褐色土、覆土２層は灰黒褐色土、覆土３層は明灰黒褐色土、覆土４層は暗灰黒褐色土、覆土５層は黄黒色土、覆土６層は黄褐色砂質土、覆土７層は明黄褐色土、覆土８層は灰黄褐色土である。

**床面**：残存する床はＶ層を掘り込んで構築されている。床面はほぼ平坦だが、南側が高く緩やかに傾斜する。

**壁**：北側のみ壁が確認された。平面形は弧状を呈し、壁高は最大15㎝で緩やかに立ち上がる。西側の壁高は南に向かい徐々に低くなる。

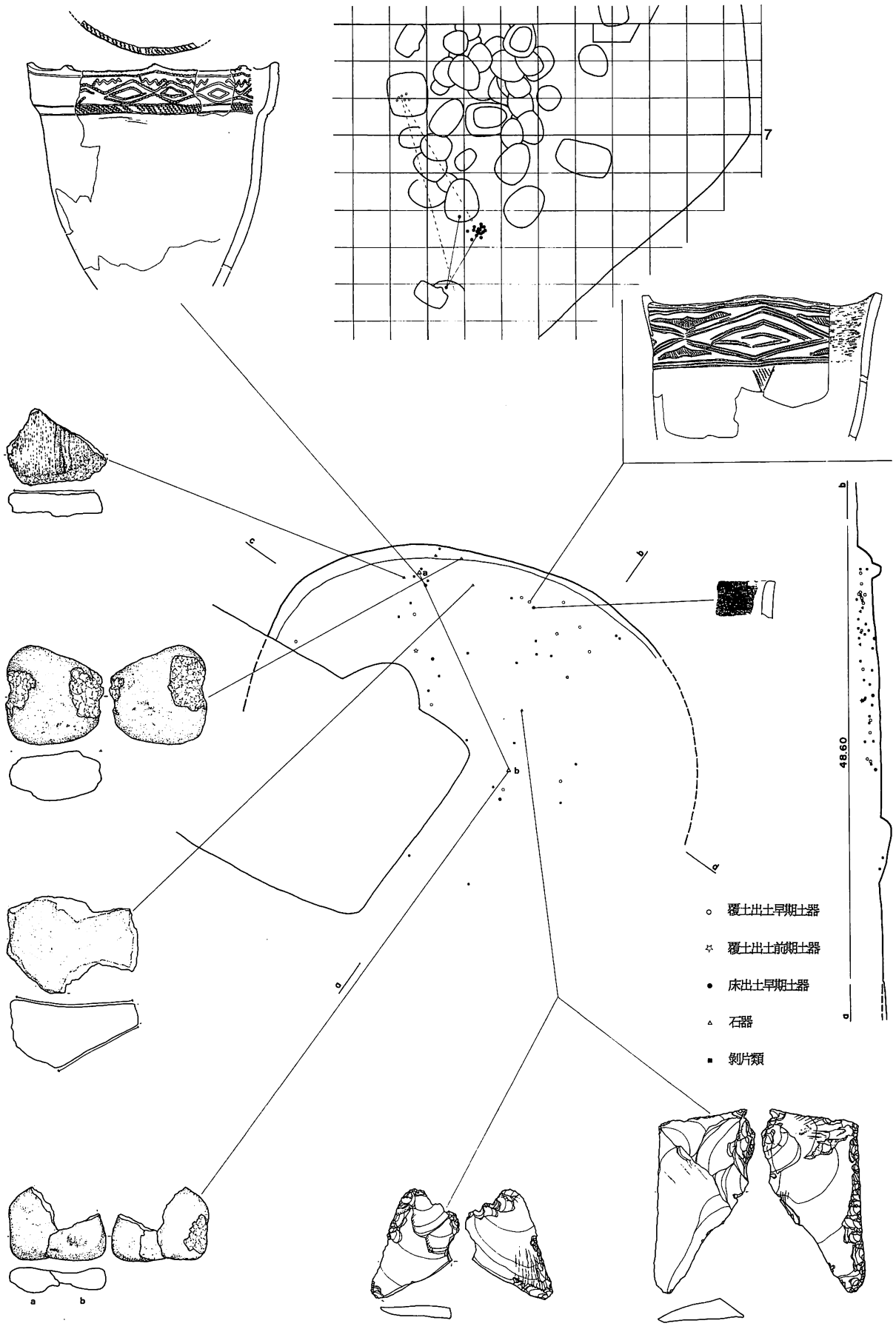
**炉跡**：壁の中央から南側３ｍの所に焼土を検出した。平面形は長円形で直径70㎝、短径50㎝、厚さ15㎝の地床炉である。焼土は、プランのほぼ中央に位置するものと推定され、６ｍ～6.5ｍ程の規模で平面形は円形であったと思われる。焼土の土壌サンプルをフローテーションし、クルミ属１ｇ以下を検出した。

**付属ピット**：ＨＰ－１～３を壁際で検出した。ＨＰ－１・３はやや内傾する。ＨＰ－２は壁に掘り込




土層：①黒褐色土　②灰黒褐色土　③明灰黒褐色土　④暗灰黒褐色土　⑤黄黒色土　⑥黄褐色砂質土
⑦明黄褐色土　⑧灰黄褐色土　⑨暗赤褐色土　⑩赤橙色土　⑪橙色土　⑫暗褐色土　⑬暗黄褐色土

図Ⅲ－67　H－28実測図




図Ⅲ－68　H－28出土遺物の分布と接合図

まれ、大きく内側に傾く。ＨＰ－４・５は壁から離れて直立し、位置から４本の主柱穴のうちの２本と推定される。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は77点で、土器が34点、石器が43点である。そのうち焼土の土壌サンプルをフローテーションした結果得られた剥片13点が含まれる。土器の内訳は、覆土からⅠ群Ｂ類が24点、Ⅱ群が１点、床からⅠ群Ｂ類が９点である。剥片石器は覆土から２点、床から２点出土した。礫石器は覆土から５点出土した。剥片は覆土から14点、床または構築面から７点出土した。復元された土器は床面から出土した土器片にＨ－37の床と覆土から出土したものとＮ－８－17のⅢ層およびⅢｂ層出土の土器片が接合した。接合図に掲載したＨ－16に伴う復元土器は、覆土２層出土のものと、Ｈ－16床出土のものと、Ｈ－37覆土出土の土器片が接合した。石錘は竪穴の中央部の覆土１層と北側の覆土２層から出土したものが接合した。

**時期**：Ｈ－43に切られていることや、床面出土の土器などから、縄文時代早期中葉の時期である。また、Ｈ－16に伴う復元土器と覆土２層から出土した土器片が接合したことからＨ－16より古いものと考えられる。

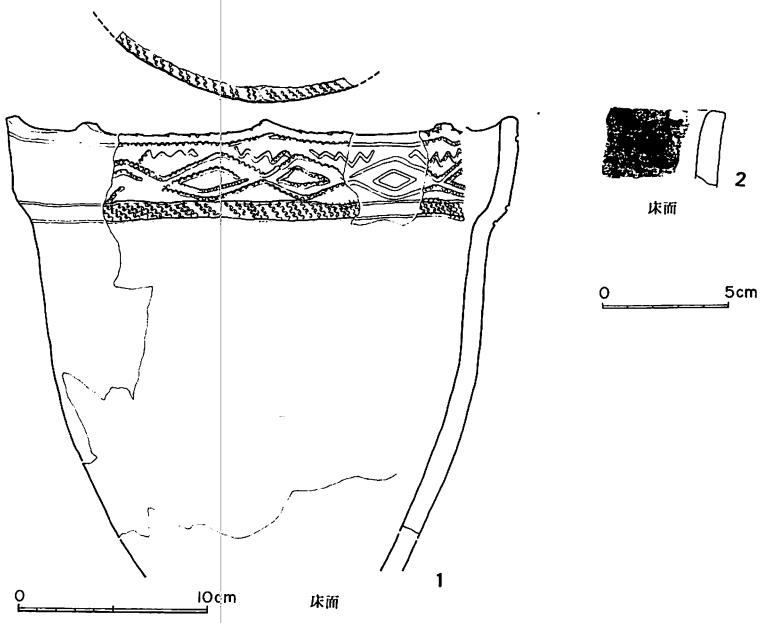
表Ⅲ－９　Ｈ－28小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深　さ | 覆　　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深　さ | 覆　　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 16×15（cm） | ８（cm） | 暗黄褐色土 | 床　面 | 垂　直 | ＨＰ－４ | 26×24（cm） | 14（cm） | 暗褐色土 | 床　面 | 垂　直 |
| ＨＰ－２ | 13×13 | 24 | 暗褐色土・暗黄褐色土 | 壁　面 | 内　傾 | ＨＰ－５ | 32×30 | 11 | 暗灰褐色土・暗褐色土 | 〃 | 〃 |
| ＨＰ－３ | 18×18 | 10 | 暗褐色土 | 床　面 | 垂　直 | | | | | | |

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－69　図版47・58）

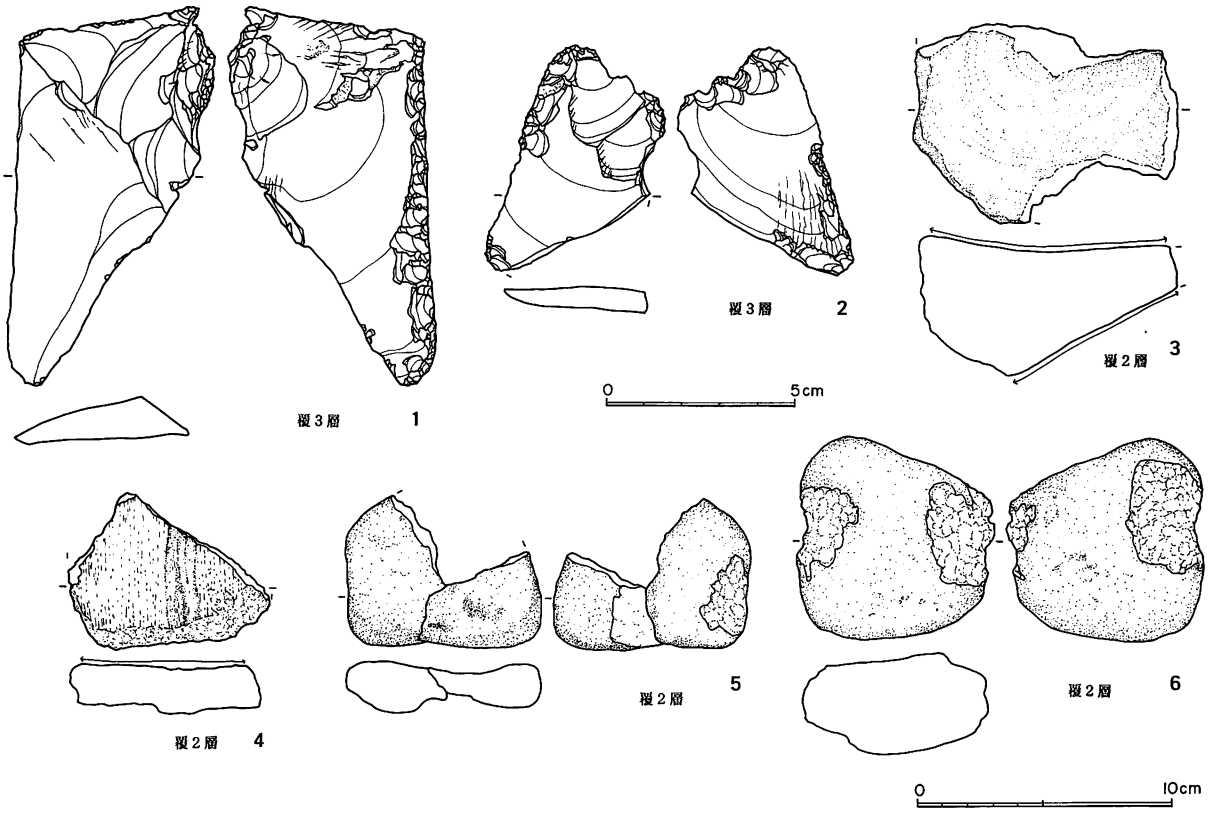
１は床面の破片（５点）と、10m程北側Ｈ－37の床面（２点）、Ｎ－８－17の破片（40点）が接合したもの。口縁部・胴部の２分の１、底部は欠損しているが全体の２分の１程が残存する。口頸部が角形でくびれるキャリパー状の器形のもの。４ヵ所に山形の突起部がある。その間にも突起があるが大きさに変化はない。口唇断面は角形で、口唇上には貝殻腹縁圧痕文による刻みが施されている。口縁部文様帯の上位に腹縁文、下位に太い平行沈線文が２条施されている。沈線間には、貝殻腹縁圧痕文が右下がりに粗く施文されている。区画内に二重の菱形を横位に連結させているが、三角形になっている部分もある。菱形文様の上下の空間には鋸歯状文が施されているが、図にみられるように上位にのみ施文される部分、下位のみの部分がある。内外面には横位の条痕がみられるが、器面のものはナデられて消されている部分が多い。２は非常に焼成が良い無文の口縁部。




図Ⅲ－69　Ｈ－28出土土器

**石器**（図Ⅲ－70　図版84）

1・2はスクレイパー。いずれも腹面に刃部を作出している。3・4は砥石。4は浅い溝状のくぼみが認められる。5・6は石錘。6は赤褐色に変色している。




図Ⅲ－70　H－28出土石器

H－29（図Ⅲ－71・72・73　図版20）

**位置**：N－8－27・28・37・38区にまたがり、H－18、33、37、T－21に隣接する。

**規模**：6.42m／5.84m×4.90m／4.60m×0.34m

**平面形**：隅丸長方形　　**床面積**：20.54㎡　　**長軸方向**：N－62°－E

**確認・調査・土層**：Ⅲ層調査中に、N－8－27・28・37・38区においてP.D.3が不整形に落ち込んでいる状態を確認した。N－8－28の試掘溝の断面から竪穴住居跡を想定し、確認のためトレンチを入れ、順次調査した。土層は、七層に分層した。覆土1、2層はⅢa，Ⅲb層の混じりあった土で、竪穴住居跡放棄後の埋没土である。覆土3層は、土が締まりⅣ層が混じるようになり、最終生活面に近い土である。覆土4層は、土がかなり締まり、炭化物を多く含む。その覆土4層の面に、覆土7層の焼土の面が一致するため、覆土4層が最終生活面と考えられる。覆土5・6層は、壁面崩落等の三角堆積である。なお、土層観察用の土手より、プラント＝オパール分析のためP.D.3の土壌試料を採取した。（プラント＝オパールの分析結果は第Ⅵ章を参照）

**床面**：床面は、Ⅴ層を15㎝～20㎝程掘り込んで構築されている。全体が平坦である。

**壁**：東側の壁は、試掘溝により、一部壊されている。その他の部分は、緩やかな傾斜である。

**炉跡**：住居跡のほぼ中央で焼土（ＨＦ－１）を検出した。明瞭な掘り込みは見られないが、わずかにくぼみになっている。焼土直下のＶ層は白い灰が混じり、固くしまっている。焼土を採取し、フローテーションを行い、クルミ属0.45ｇ、フレイク124 点、土器片65点を検出した（フローテーションの分析結果は、第Ⅵ章参照）。

**付属ピット**：ピットは35個検出した。①、壁にめぐるもの、②、床面にあるもの、③、ＨＦ－１とその付近にあるもの、④、住居の外側にあるものの４つの傾向が見られた。①は、ＨＰ－1、2、5、6、7、8、10、26、30の９個で屋根材の支柱穴である。②は、ＨＰ－3、4、9、11、12、13、14、15、16、32の９個で、うちＨＰ－3、9、11、13、15の５個が屋根材の主柱穴であろう。③はＨＰ－17、18、19、20、21、22、31の７個で用途は不明である。④はＨＰ－23、24、25、27、28、29、35の７個で用途は不明である。ＨＰ－４からⅠ群Ｂ類土器が14点出土している。

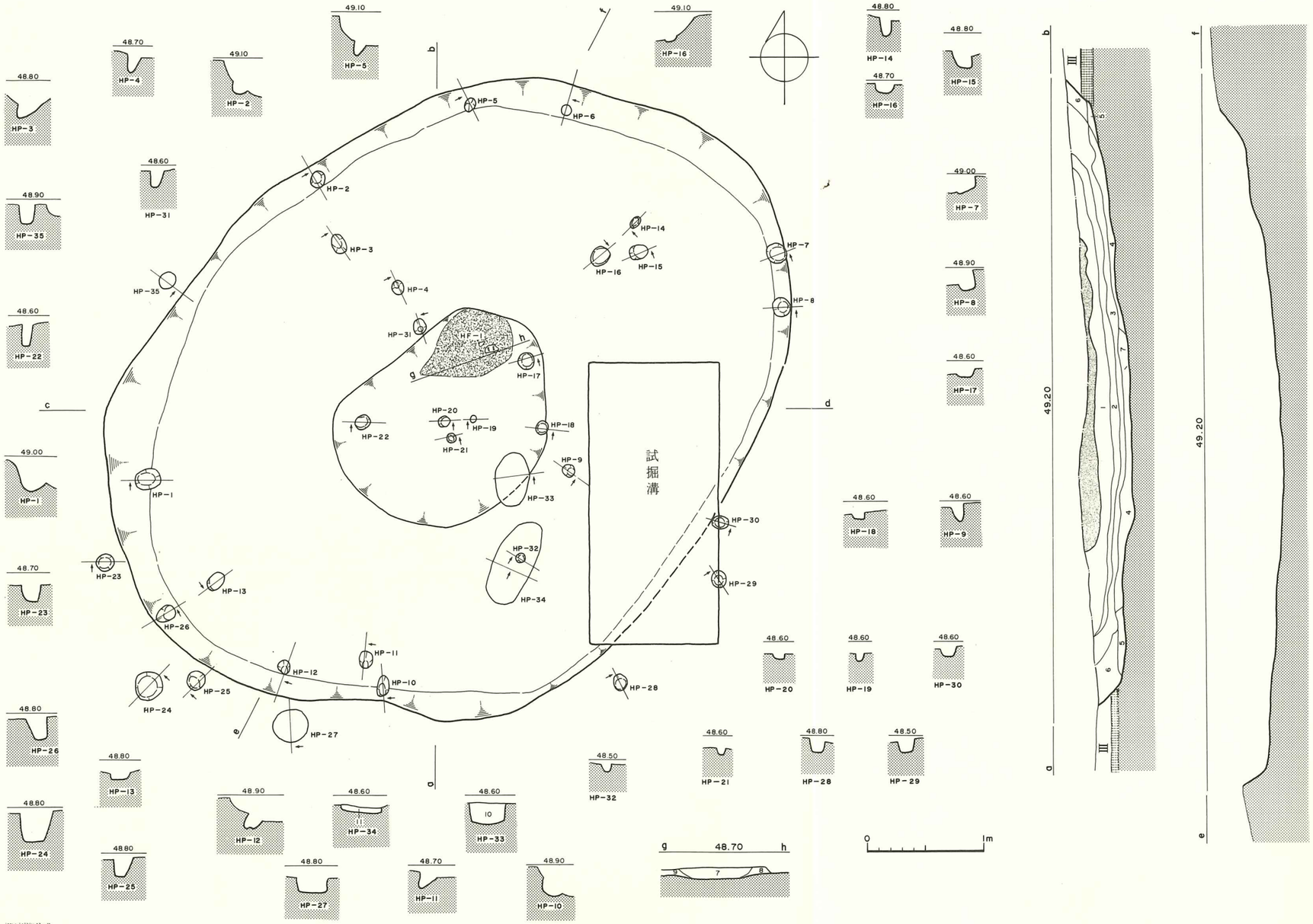
**遺物出土状況**：出土遺物総数は819点、その内訳は、土器618点(内フローテーション試料からの土器片65点)、石器201点(内フローテーション試料からのフレイク124点)である。床面、床面直上の層から出土した遺物は、土器343点、石器43点である。出土した土器は、Ⅰ群Ｂ類土器614点、Ⅱ群土器４点である。石器は、剥片石器が188点、磨製石器が４点、礫石器が９点である。剥片石器は、石錐、箆状石器、両面調整石器、石核、スクレイパー、Ｒフレイク、Ｕフレイク、フレイク、磨製石器は、石斧、石斧破片、擦切残片、研磨石材、礫石器は、たたき石、すり石、砥石、石皿が出土している。床面、床面直上の層からは、石錐、箆状石器、両面調整石器、スクレイパー、研磨石材、すり石、砥石、石皿が出土している。土器は、４個体分が接合している。それぞれの遺物の接合状況は（１）平成４年度Ｈ－29(焼土)＋Ｈ－21(壁)＋Ｈ－22(覆土1)＋Ｈ－23(覆土1)＋Ｈ－40(覆土直上)＋Ｎ－7－01(Ⅲｂ$_2$)＋ Ｎ－7－20(Ⅲ)＋Ｎ－7－32(Ⅲｂ$_2$)＋Ｎ－8－17(Ⅲ)＋Ｎ－8－18(Ⅲｂ$_2$)＋Ｎ－8－29(Ⅲ)＋平成３年度Ｐ－3＋Ｎ－7－24(Ⅲ)＋Ｎ－7－34(Ⅲ)、（２）Ｈ－29(床面)＋Ｈ－21(覆土1)＋Ｈ－40(覆土直上)＋Ｎ－7－11(Ⅲ)＋Ｎ－8－28(Ⅲ)、（３）Ｈ－29(覆土2)＋Ｎ－8－18(Ｐ.Ｄ.3、Ⅲ)＋Ｎ－8－28(Ⅲ)、（４）平成４年度Ｈ－29(覆土3、床面)＋Ｎ－18－18(Ⅲ)＋Ｎ－８－28(Ⅲ)＋平成３年度Ｈ－9(覆土2、4、5)＋Ｐ－3(床面)＋Ｎ－7－23(Ⅲ)＋Ｎ－7－24(Ⅲ)＋Ｎ－7－25(Ⅲ)＋Ｎ－7－33(Ⅲ)＋Ｎ－7－46(Ⅲ)である。石器は、磨製石斧１点が接合している。遺物の接合状況はＨ－29(覆土2)＋Ｎ－8－38(Ⅲ)である。

**時期**：床面出土土器がⅠ群Ｂ類土器であるので、本住居跡は縄文時代早期中葉の時期であろう。

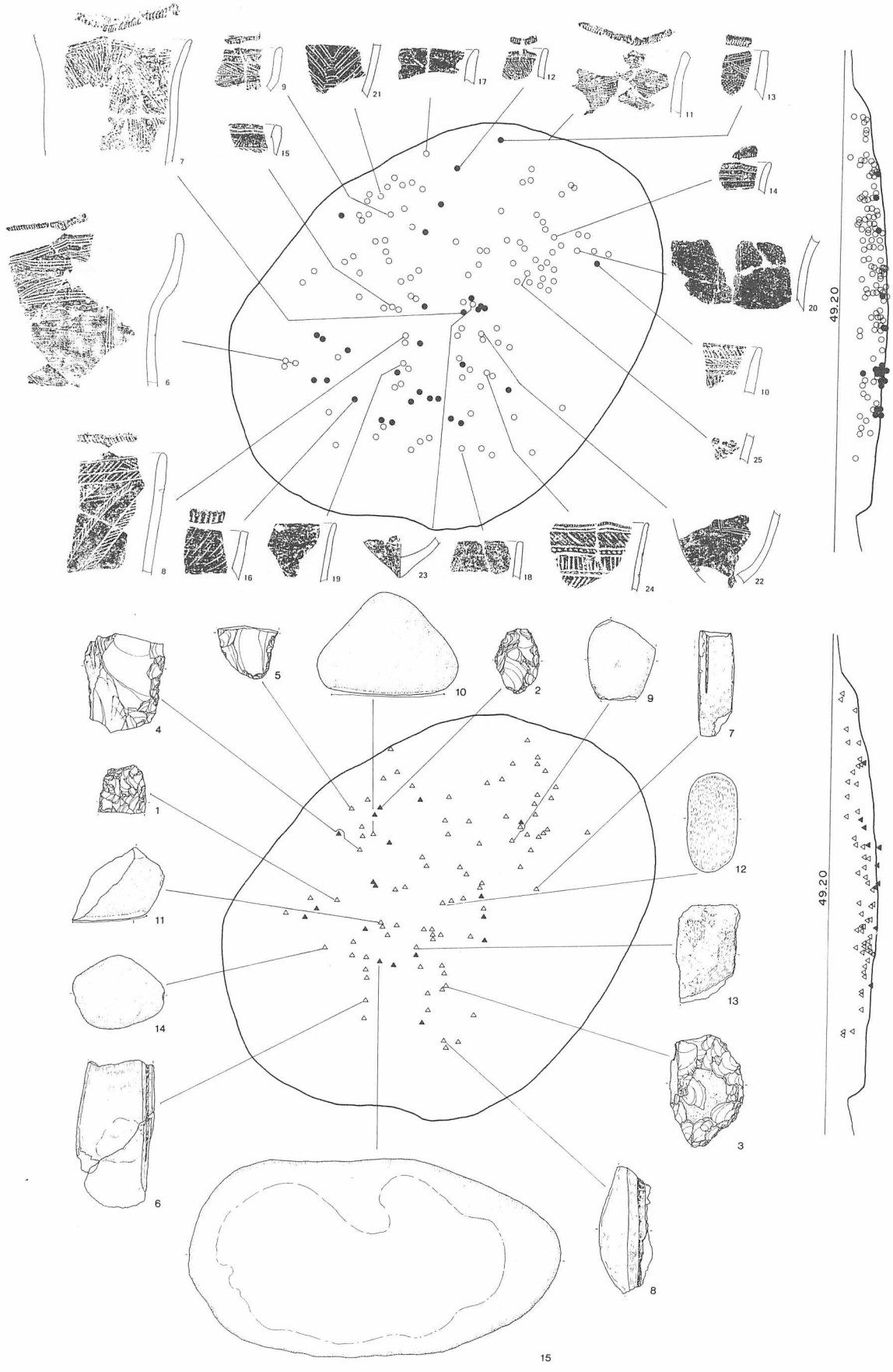
**遺物**

**土器**（図Ⅲ－74・75　図版47・58）

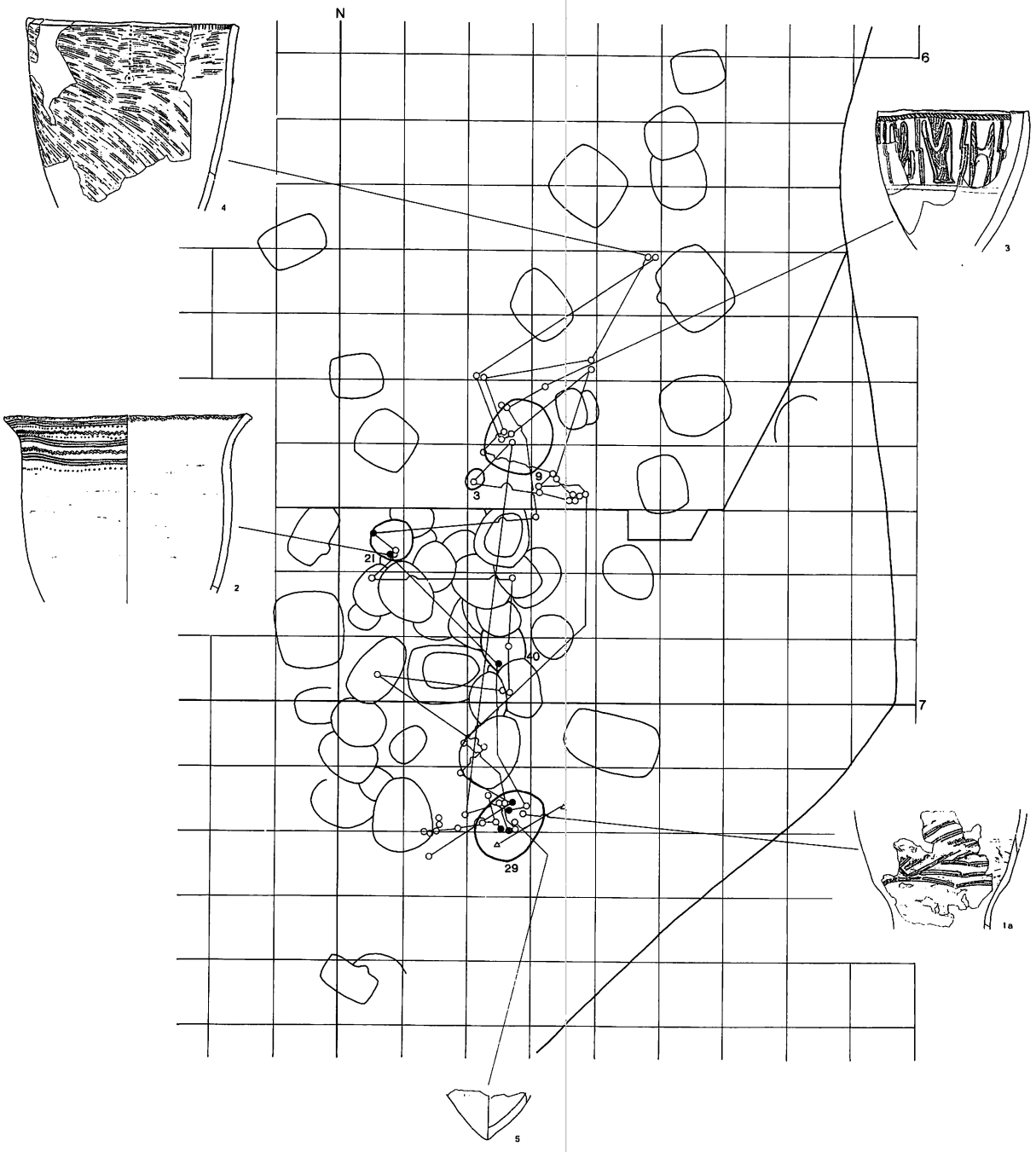
１ａ・ｂは同一個体。全て覆土から出土したが小片が多いため接合した部分が少ない。口縁部の幅は現存している部分のみで10㎝以上ある。包含層出土の土器（図Ⅳ－８－２）に類似の器形である。口縁部の下端には３条一単位の腹縁文が孤状に施文されている。腹縁文で方形、三角形などの幾何学文的文様が描かれているとみられる。小さな円形刺突文は区画内に、大きな刺突文はクランク状の線の変換点、文様の端に施されている。器面には細かい条痕が横位にみられるが、すり消されている部分がある。色調は赤褐色を呈する。２は覆土４層の破片（36点）と北側に10m以上離れたＨ－40、Ｎ－７－11、北西側に25m以上離れたＨ－21の破片と周辺のＮ－８－28の破片が接合した。平縁で口縁部が外反する大型土器。体部下半部と上半部の２分の１程は欠損している。口唇は角形で口唇上に貝殻腹縁圧痕文が斜位に施されている。文様は口縁部のくびれる部分に限られる。３条一単位の腹縁文を間隔をあけて３条めぐらせ、その下位には円形刺突文をめぐらせている。腹縁文間は上段は円形刺突文が２列と鋸歯状沈線文がその間に施文されている。下段には鋸歯状沈線文のみが１条めぐっている。


試掘溝
HF-1
焼土
土層：①黒褐色土（Ⅲb＞Ⅲa）　②黒褐色土（Ⅲa＋Ⅲb）　③暗褐色土（Ⅳ＞Ⅲb）　④褐色土（Ⅳ≫Ⅲb）⑤黄褐色土（Ⅴ≫Ⅳ）　⑥黄褐色土（Ⅴ＞Ⅳ）　⑦暗赤色土（焼土、粘性あり、黒色土が少量まじる）⑧褐色土（＝④）　⑨暗褐色土（④に焼土が少量まじる）⑩橙褐色土（粘性弱い）　⑪暗黄褐色土（Ⅲ＋Ⅴ）

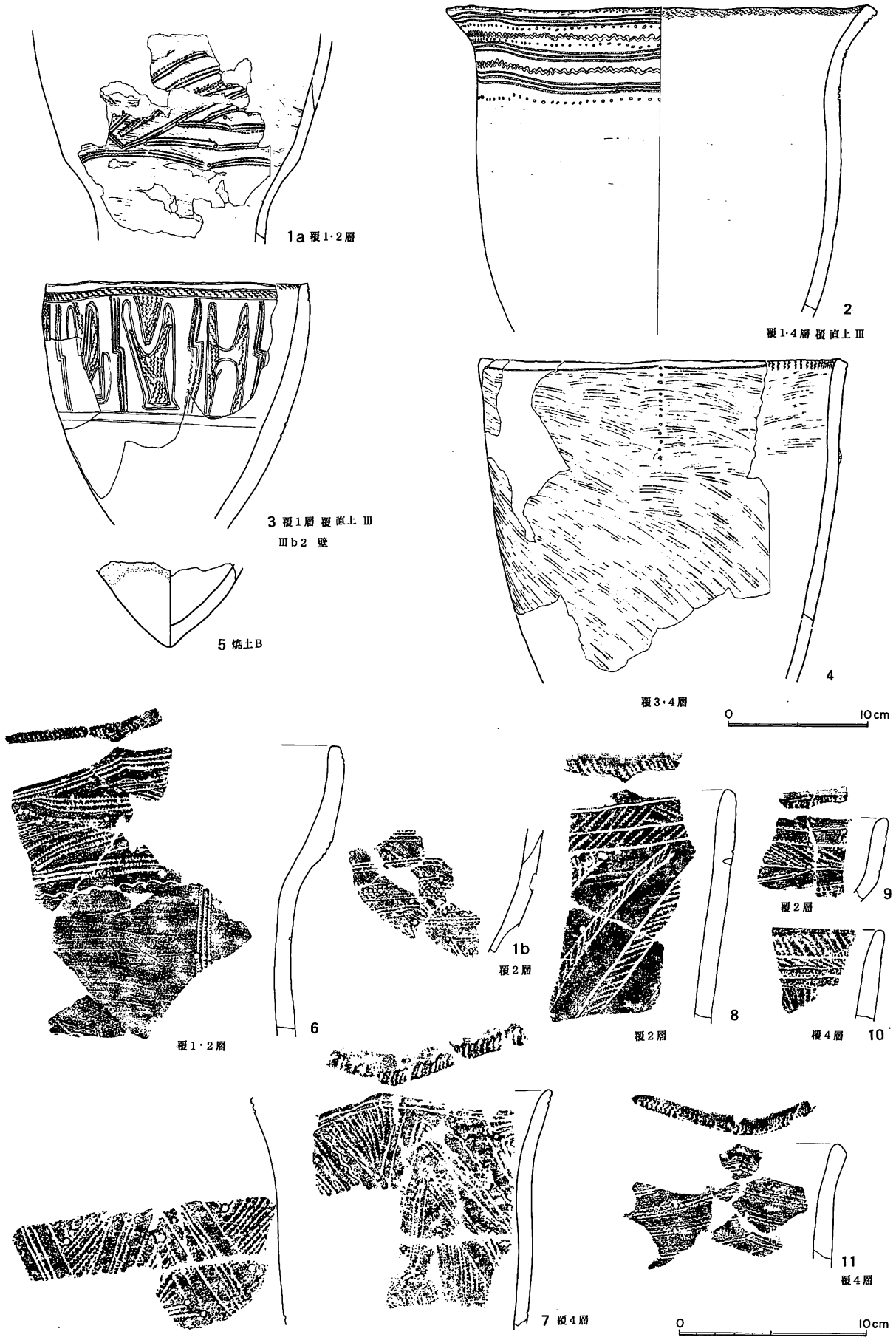
図Ⅲ－71　Ｈ－29実測図



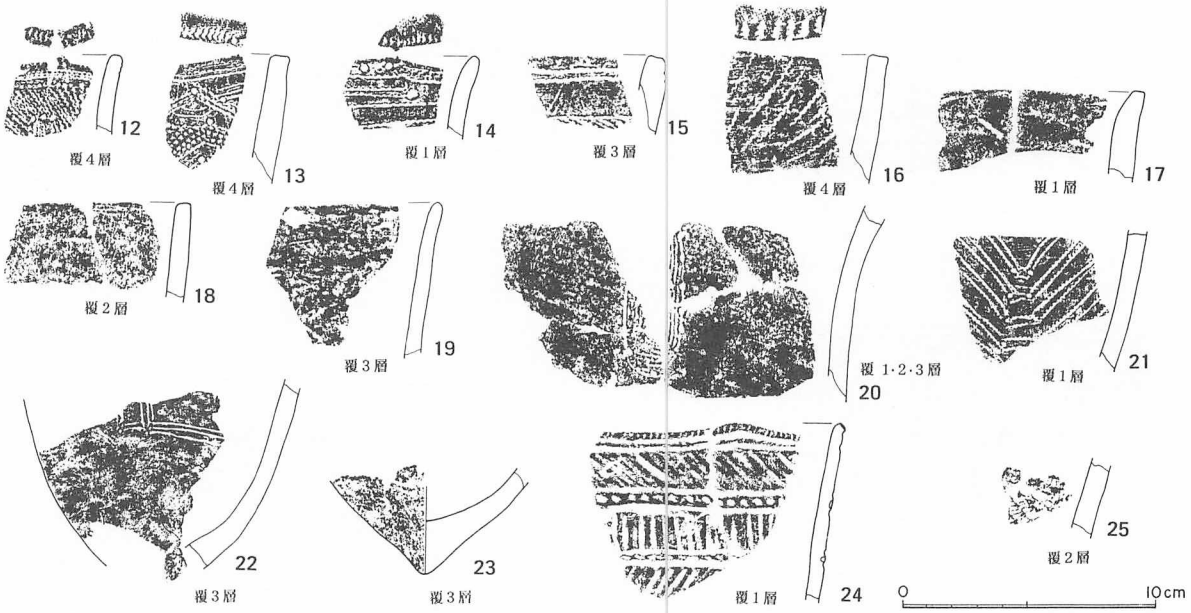

図Ⅲ－72　H－29出土遺物の分布図




図Ⅲ－73　H－29出土遺物の接合図

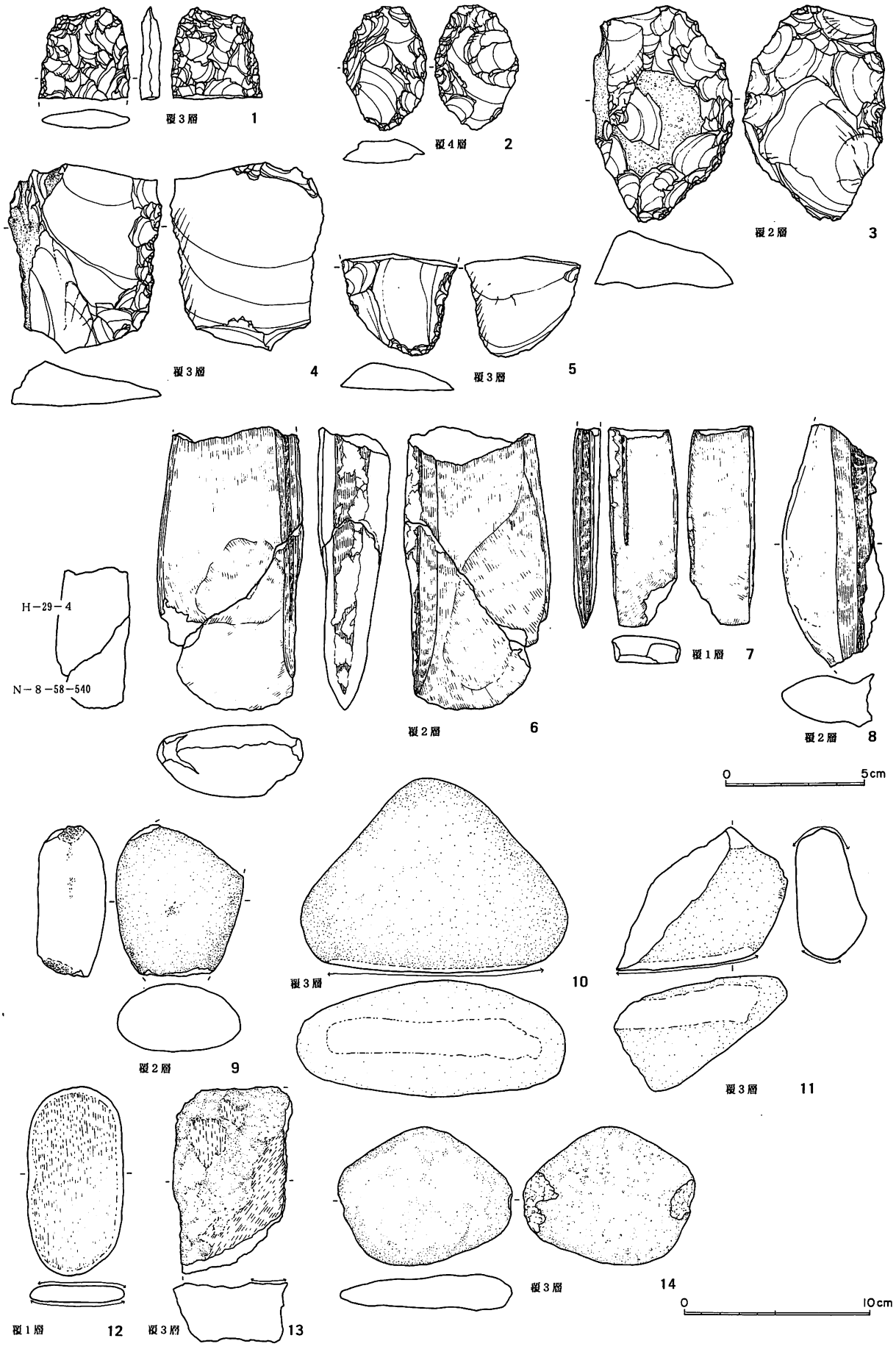



図Ⅲ－74　H－29出土土器 (1)

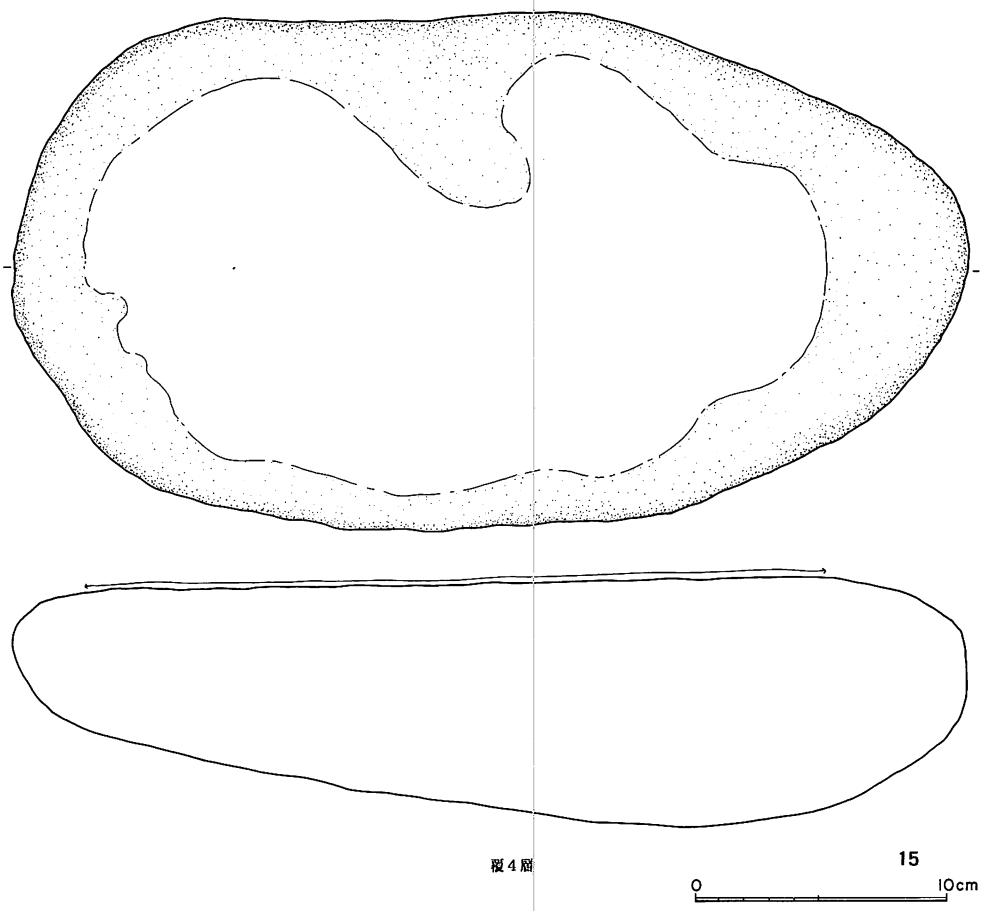



図Ⅲ－75　Ｈ－29出土土器（2）

器面には横位に細かい擦痕が観察できる。非常に丁寧に整形、施文されている土器。粘土も精選されたものを使用している。３は昨年度調査したＰ－３出土の土器（図Ⅲ－85－１）と、Ｈ－29の焼土、２と同様に北側に10ｍ～25ｍ以上離れたＨ－21～23・40の覆土、周辺の包含層出土の土器片が接合したもの。数個に接合した破片は、直接は接合しなかったが図上復元した。平縁で、体部は厚手で、口縁部はやや内傾する。口唇内側に貝殻腹縁圧痕文が押引き文的に施されている。口縁部と体部半ばには平行沈線文を施しているが、口縁部のものには貝殻腹縁圧痕文が充填されている。クランク状の腹縁文、沈線文で10単位ほどに縦に区画し、沈線文で舌状、三角形の文様を描いているが、個々の文様は不揃いである。沈線文の区画内は、貝殻腹縁圧痕文が粗く施されている。４は覆土、Ｎ－８－18・28出土破片が接合したものと、30ｍ以上北側のＨ－９（図Ⅲ－60－７）出土の土器が接合した。平縁で口唇断面は切り出し形で、内側角には貝殻腹縁部による短い圧痕が施されている。口縁直下には腹縁文が１条めぐり、４ヵ所の口縁部のごくわずかに高まる位置から、円形刺突文を垂下させ、下端の刺突文部分は、内面から指などで押し小突起状になっている。体部には全面に、幅30㎜～40㎜程の貝殻腹縁部を利用したとみられる条痕文が横位・斜位に施されている。内面は調整が丁寧で細かい条痕がかすかにみえる。５は砲弾形の底部。６は口縁部がやや外反するキャリパー状器形のもの。山形の小突起がある。口縁部には３条一単位の腹縁文で弧状の文様が描かれている。胴部には、鋸歯状沈線文、腹縁文による垂下する文様がある。内外面に横位に細かい条痕がある。７は覆土４層出土のもの。緩やかな波状の小型土器。口縁部はやや外反する。文様は体部下半までで、山形の腹縁文を連続させて三角形状の文様を展開させている。区画内は貝殻腹縁圧痕文を粗く施文している。鋸歯状沈線文は文様間に斜位に施されている。胎土に白い砂粒が多い。８は平行沈線文により細長い横位、斜位の帯状の文様が描かれ、沈線間には貝殻腹縁圧痕文が充填されている。９はキャリパー状器形のものかもしれない。６～９は口縁部内側に貝殻腹縁圧痕文が施されている。10～16は口縁部。文様構成はわからないが、11は腹縁文による波状の文様がみられる。16は貝殻腹縁圧痕文のみが斜位に施文されている。17～19は無文のもの。20は垂下する舌状の文様が描かれている。22は底部付近の破片。細かい沈線による文様が描かれている。23は砲弾形の底部。器面には横位に、内面には擦痕が横位・斜位にある。24はⅠ群Ｅ類土器。波状口縁で、口唇から内面は丁寧にナデられている。口唇上には、細い棒状




図Ⅲ－76　H－29出土石器 (1)




図Ⅲ－77　H－29出土石器 (2)

工具で縦に刻み目がつけられている。文様は幅2㎜程の平行沈線文を何条か間隔をあけて施し、その間に斜位と縦位の沈線文を交互に施している。平行沈線文間には竹管状工具による半円形状の刺突文と細い棒状工具による横長の刺突文が施されている。

**石器**（図Ⅲ－76・77　図版85）

1は篦状石器の基部と思われる。2・3は両面調整石器。2は小型の楕円形のもので、素材面を残す。刃部は背面右側縁に限られる。3は背面左側面に平坦な自然面を残し、右側縁に刃部を作出している。4・5はスクレイパー。4は両側縁に刃部をもつ。5は明らかに両端の切断後に刃部を作出している。6・7は擦り切り石斧。6は表土出土の刃部と接合する。7はのみ型のもので、片面に浅い擦り切り溝を残している。8は擦り切り残片。擦り切り溝が浅すぎるためか、溝に沿って折れていない。9はたたき石2類。両端の欠損部付近にたたき痕がわずかに残る。10～12はすり石。10・11は1類。10は両端にたたき痕が残る。11も軽微なたたき痕が認められる。12はすり石3類。すり面は軽微である。13は角礫素材の砥石である。たたき石に転用されており、浅くくぼんでいる。14は片面加工の石錘。15は石皿。平坦なすり面をもつ。

Ｈ－30（図Ⅲ－78　図版21）

**位置**：Ｎ－７－41・42　調査区の北東側、標高49.50ｍ～49.60ｍの平坦地に位置する。

**規模**：4.50ｍ／4.30ｍ×3.80ｍ／3.50ｍ×0.12ｍ　　**平面形**：南東部を先頂部とする卵形

**床面積**：11.55㎡　　**長軸方向**：Ｎ－50°－Ｗ

**確認・調査・土層**：Ｎ－７－41・42の包含層調査中、ほぼⅣ層直上で長円状のⅢｂ層の落ち込みを検出した。Ⅲｂ層を除去し、暗褐色土、黄褐色土を掘り下げたところ、南東側で焼土を検出したことから、この黄褐色土の下を床面と想定し、壁の立ち上がりの検出作業を行った。覆土は基本的に一層である。覆土１層は粘質の暗褐色土である。層厚は約10㎝前後である。ただ壁の周辺には粘質で、黒褐色土と黄色土がブロック状に混入する褐色土が堆積している。床面直上には粘質で、やや汚れた黄褐色土が２㎝～３㎝ほど認められた。

**床面**：南東側は若干Ⅴ層を堀り込んでいるが、他はⅤ層直上に構築されている。北西から南東へ緩やかに傾斜しているが、ほぼ平坦である。床面は全体に軟質である。

**壁**：全体的に緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は６㎝～13㎝である。

**炉跡**：床面の南（ＨＦ－２）および南東（ＨＦ－１）で焼土が検出されている。地床炉である。ＨＦ－１は1.2ｍ×0.75ｍの三角形状の広がりをもつもので、焼土と暗褐色土の混り合った土が約10㎝ほど堆積していた。堀り込みは見られない。ＨＦ－２は１ｍ×0.6ｍの長円形状の広がりをもつものであるが、ここには焼土の堆積は見られず、床面が火を受けて赤化したものである。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは８個検出されている。すべて壁際にあり、直立している。ＨＰ－６は深く、北壁に石皿が立てられており、土器片も混入していた。

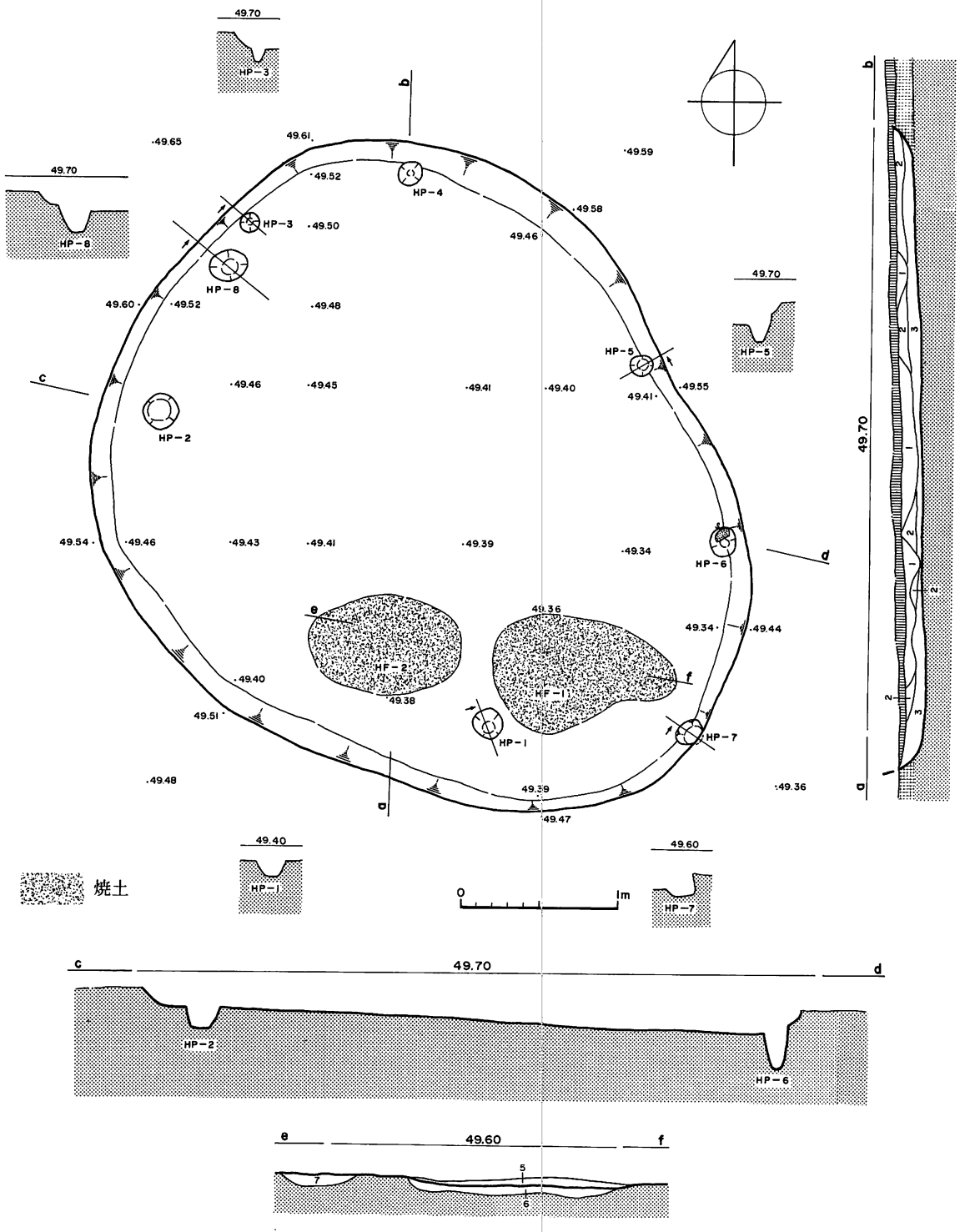
**遺物出土状況**：出土遺物総数は400点である。この内訳は土器45点、石器355点である。このうち床面および床面直上出土の土器は25点、石器312点である。この数量には床面付近の土をフローテーション処理して得られた土器細片３点と微細のチップ類254点を含んでいる。遺物は床面直上の黄褐色土中からちらばった状態で出土している。覆土１層からⅡ群土器が４点出土しているが、他はすべてⅠ群Ｂ類土器である。石器ではスクレイパー、石錘、すり石、石皿などが出土している。床面からはスクレイパー、すり石などが出土している。遺物は床面直上どうし、床面直上と包含層というような接合関係を示している。床面直上出土の土器片１点とＮ－７－44のⅢｂ層、また床面直上出土の土器片とＨ－33の覆土出土の土器片がそれぞれ接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢ層上層中と思われる。床面直上、覆土、周辺包含層から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、ＨＦ－１の焼土をすべて採取し、フローテーション処理をした結果、0.65ｇのクルミ属の炭化植物遺体が検出された。

表Ⅲ－10　Ｈ－30小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 23×20(㎝) | 10(㎝) | 暗茶褐色土(粘質) | 床　面 | 直立 | ＨＰ－５ | 19×16 | 10 | 暗茶褐色土(粘質) | 床　面 | 直立 |
| ＨＰ－２ | 23×20 | 14 | 黒褐色土(〃) | 〃 | 〃 | ＨＰ－６ | 20×18 | 22 | 暗茶色土(軟質) | 〃 | 〃、先端部細い、土器片石皿あり |
| ＨＰ－３ | 15×13 | 8 | 暗褐色土(〃) | 〃 | 〃、先端部細い | ＨＰ－７ | 20×18 | 5 | 暗茶灰色土(砂質) | 〃 | やや内傾する |
| ＨＰ－４ | 17×15 | 13 | 茶褐色土(〃) | 〃 | 〃 | ＨＰ－８ | 20×18 | 16 | 暗褐色土 | 構築面 | 直立 |




土層：①暗褐色土（粘質）　②褐色土（黒褐色土と黄色土がブロック状に混入、粘質）　③黄褐色土（②＞Ⅴ、粘質）　④黄色土ブロック（粘質）⑤明褐色土（暗褐色土＋橙色焼土）　⑥淡橙色土（Ⅴ層が火を受けて赤化したもの）　⑦暗黄橙色土（わずかに火を受けて赤化したもの）

図Ⅲ－78　H－30実測図

遺物

土器（図Ⅲ－79　図版60）

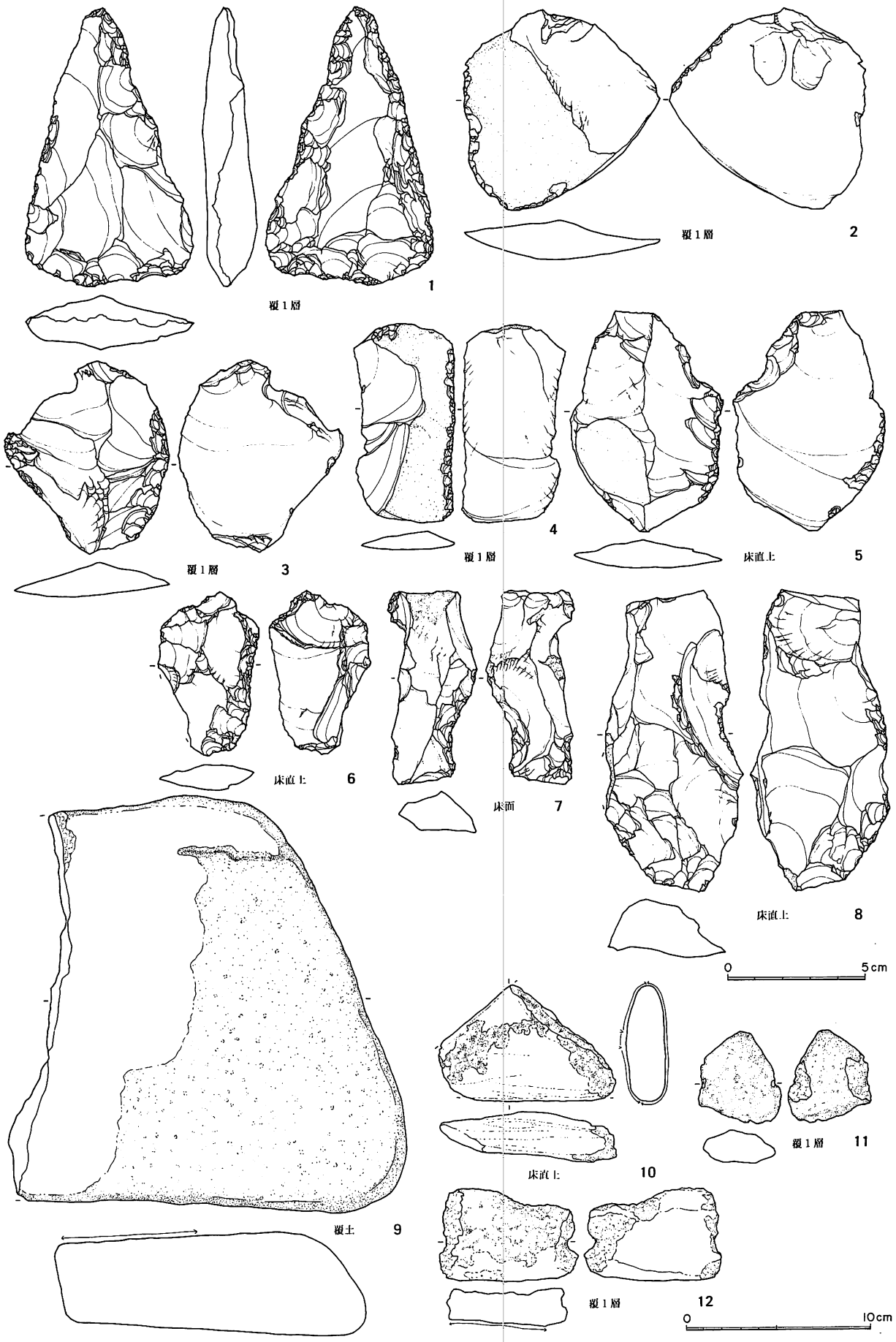
1・4は床直上、2・3は覆土1層出土のもの。1は包含層出土のものと接合したもので、同一個体片はN－7－42（図Ⅳ－18－117）からも出土している。口唇断面はやや丸味を帯びた角形で、部分的に粘土を折り返した部分もみられる。口縁部がやや外反する器形である。体部には細かい条痕が全面にみられる。内面の条痕は縦位、斜位に施されやや乱れている。調整痕とみられるが体部のものは文様のような効果がある。2は波頂部の両端の副突起部。口縁にそった沈線文間に鋸歯状の沈線文が施されている。口縁角に深い刻みがある。3は無文のもの。4はH－33の覆土1・2層出土の破片が接合した。体部半ばから底部にかけてのもの。文様帯の下位を区画するとみられる腹縁文が2条めぐっている。横位にケズリの痕跡が観察される。

石器（図Ⅲ－80　図版86）

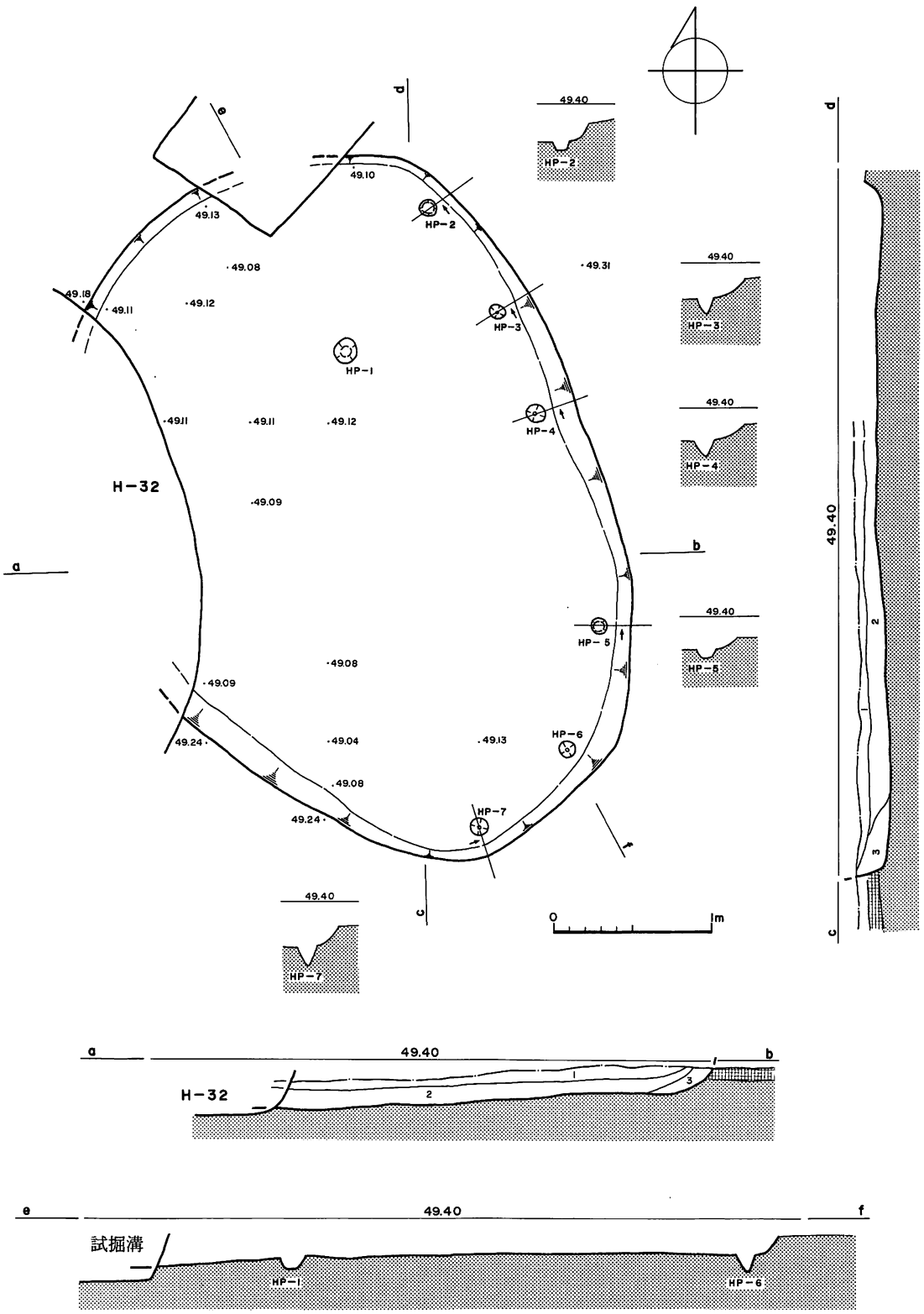
1は箆状石器。三角形状を呈し、刃部はやや湾曲する。2～6はスクレイパー。7・8はRフレイク。7は石核転用のスクレイパーの可能性もある。8は石核か両面調整の石器未製品かの区別ができない。9は石皿の破損品。平坦なすり面をもつ。10は砥石。すり面が全周する。11・12は石錘。11は角礫片を素材としている。12は砥石からの転用品であろう。片側の剥離は不明瞭である。




図Ⅲ－79　H－30出土土器




図Ⅲ－80　Ｈ－30出土石器




土層：①褐色土（Ⅲ≫黄色土、やや砂質）　②淡褐灰色土（砂質）　③褐灰色土（砂質）

図Ⅲ－81　H－31実測図

Ｈ－31（図Ⅲ－81　図版22）

**位置**：Ｎ－８－29・39、Ｎ－７－20・30　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形の東斜面上に位置する。標高は49.33ｍ～49.27ｍである。　**規模**：4.55ｍ／4.34ｍ×（3.25ｍ）／（3.0ｍ）×0.15ｍ

**平面形**：南東を先頂部とする卵形　**床面積**：10.61㎡　**長軸方向**：Ｎ－27°－Ｗ

**確認・調査・土層**：Ｎ－８－39、Ｎ－７－30の包含層調査中、Ⅳ層上面で半円状の褐色土の落ち込みを検出した。このためＮ－８－29、Ｎ－７－20を精査し、遺構検出作業を行ったが明確な輪郭を確認できなかった。またＮ－７－31の杭の南西側にある試掘溝の南東壁でＶ層を掘り込む落ち込みが確認された。東西に土層観察用の土手を設定し、小トレンチによる調査を行った。西側にこの遺構と重複する落ち込み（Ｈ－32）を検出した。まずＮ－８－39、Ｎ－７－30の落ち込みを順次掘り下げ、Ｖ層中に堅い面を検出し、また小ピットも検出されたことからこの面で全体的に床面、壁の立ち上がりの検出作業を行った。覆土は二層である。覆土１層はやや砂質の褐色土である。層厚は６㎝～10㎝である。覆土２層は砂質の淡褐灰色土である。層厚は５㎝～８㎝である。

**床面**：Ｖ層中に構築されている。ほぼ平坦であり、東から西へ緩やかに傾斜している。

**壁**：緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は８㎝～16㎝である。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状ピットは７個検出されている。ＨＰ－１は床面の長軸方向北寄りにあり、直立している。その他は壁際をめぐるもので、小ピット間は60㎝～70㎝である。すべて直立している。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は36点である。この内訳は土器28点、石器８点である。遺物はすべて覆土上層から出土している。出土した土器はⅠ群Ｂ類で他にフレイクが出土している。

**時期**：掘り込み面Ⅲｂ層中と思われる。覆土、周辺包含層から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものである。

なお、本住居跡はＨ－32、Ｈ－40、Ｈ－44と重複しており、Ｈ－32より古く、Ｈ－44よりも新しいものである。Ｈ－40との新旧関係は不明瞭であったが、試掘溝での断面観察から考え、Ｈ－40より本住居跡は新しいものと考えられる。

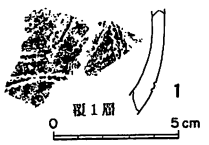
表Ⅲ－11　Ｈ－31小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 15×15（㎝） | 8（㎝） | 黒褐色土（軟質） | 床　面 | 直立 | ＨＰ－５ | 12×12（㎝） | 10（㎝） | 暗茶褐色土（砂質） | 床　面 | 直立 |
| ＨＰ－２ | 12×12 | 5 | 暗黄茶色土（砂質） | 構築面 | 〃、 | ＨＰ－６ | 12×12 | 5 | 暗黄茶色土（砂質） | 構築面 | 〃、先端部細い |
| ＨＰ－３ | 12×12 | 8 | 〃 | 〃 | 〃、先端部細い | ＨＰ－７ | 10×10 | 12 | 〃 | 〃 | 〃 |
| ＨＰ－４ | 12×12 | 10 | 〃 | 〃 | 〃〃、炭化物混 | | | | | | |

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－82　図版60）

１は包含層Ｎ－７－22出土の破片と接合した。薄手で小型の胴下半部の破片。腹縁文で文様が施されている。



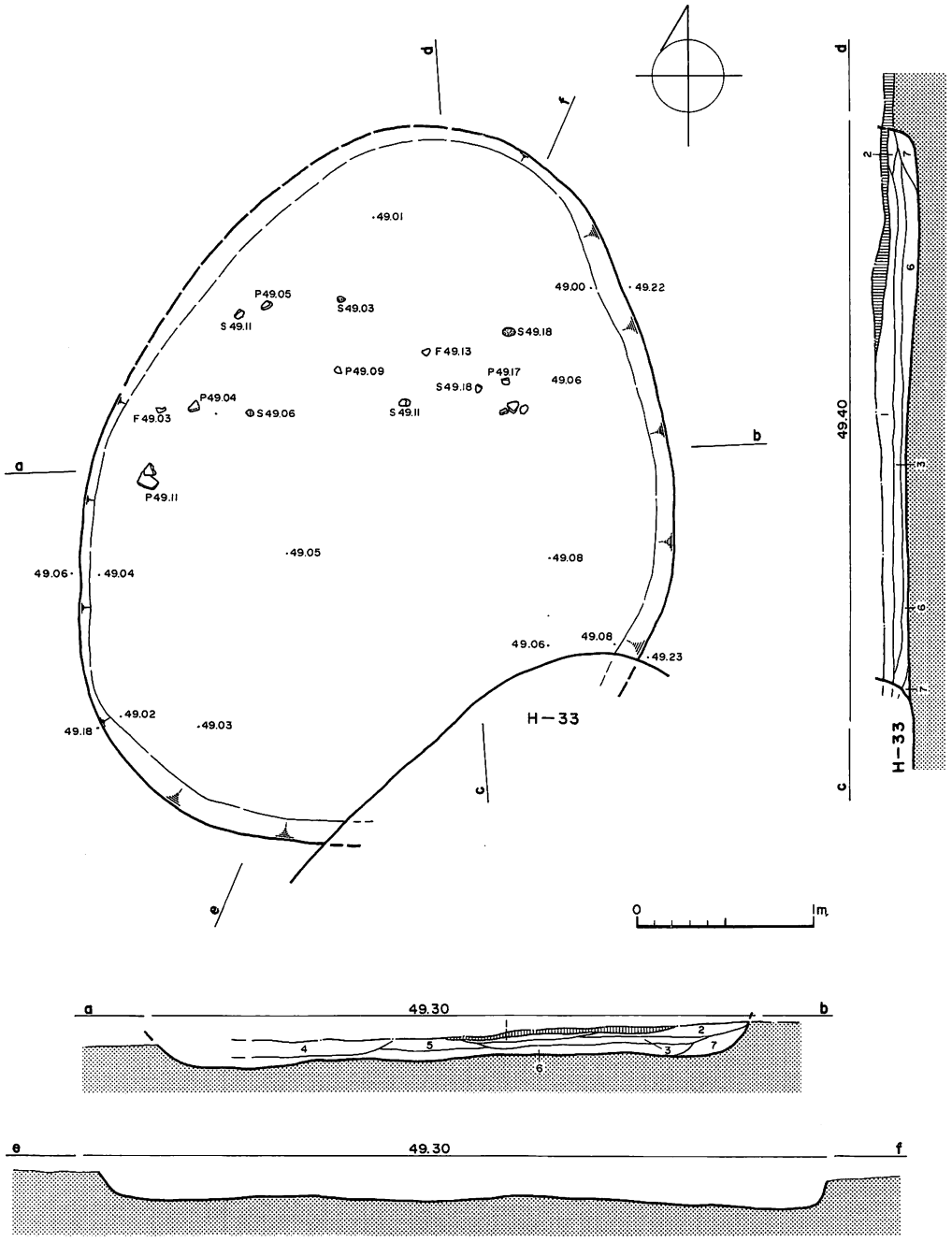

図Ⅲ－82　Ｈ－31出土土器

H－32（図Ⅲ－83　図版22）

**位置**：N－8－19・29、N－7－20　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は49.26mである。　**規模**：4.15m／3.90m×3.35m／3.16m×0.14m

**平面形**：ほぼ北を先頂部とする卵形　**床面積**：9.46㎡　**長軸方向**：N－10°－E

**確認・調査・土層**：N－7－20周辺のⅢ層掘り下げ中、多量の遺物が出土した。このことから遺構の




**土層**：①暗灰褐色土（粘質）　②暗褐色土（砂質）　③黒褐色土（粘質）　④暗褐色土（堅い）　⑤⑥≫黄色土　⑥暗黄褐色土（粘質）
⑦暗黄色土（粘質）

図Ⅲ－83　H－32実測図

存在が予想され、遺構検出作業を行った。Ⅳ層直上で長円形状の落ち込みを検出した。東西メインセクションに沿って小トレンチを設定し、床面、壁の検出作業を行い東側でＨ－31と、西側でＨ－25とそれぞれ重複し、それらを切っていることを確認した。覆土は三層に分けられる。覆土１層は粘質の暗灰褐色土である。東西メインセクション付近のこの層から遺物が一括出土している。層厚は５㎝～10㎝である。覆土２層は粘質の黒褐色土であるが、西側では見られない。覆土３層は粘質の暗黄褐色土である。層厚は４㎝～６㎝である。

**床面**：Ⅴ層をわずかに掘り込んで構築されている。ほぼ平坦である。北東から南西に向けてわずかに傾斜している。

**壁**：全体的に緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は９㎝～16㎝である。

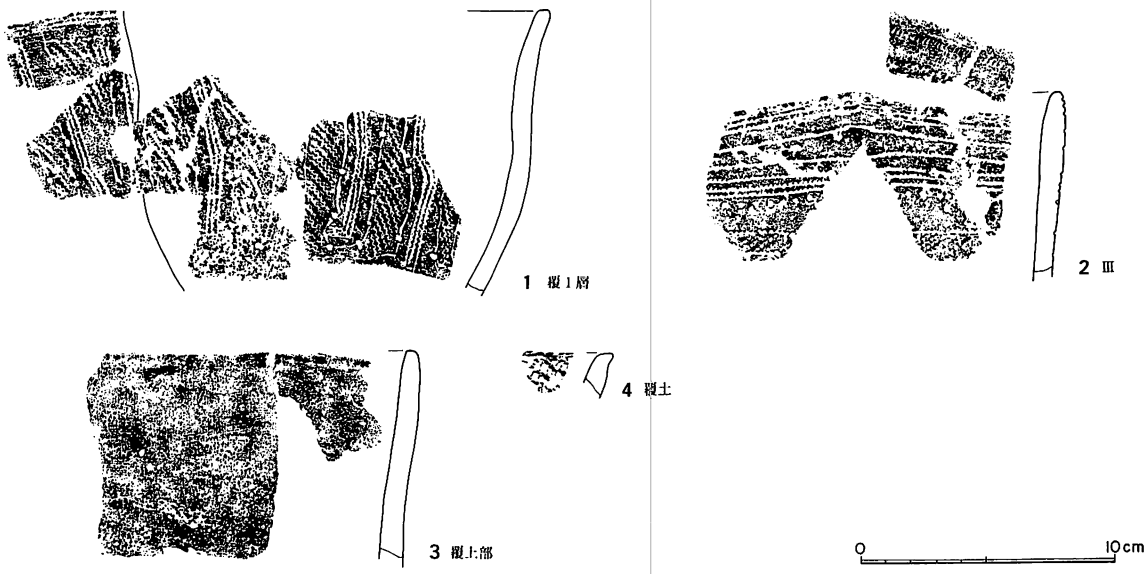
**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットなどは検出されなかった。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は243点である。この内訳は土器136点、石器107点である。このうち床面および床直上出土の土器は１点、石器２点である。遺物は大半が中央部分やや北寄りの覆土１、２層から出土している（86％）。特に覆土１層では62％ほどが出土している。覆土中からⅡ群土器が２点出土した以外はⅠ群Ｂ類土器である。石器では石槍、石錐、スクレイパー、石錘、石鋸、砥石、すり石、たたき石などが出土している。遺物は、覆土と他遺構、覆土を他遺構と包含層という接合関係を示している。覆土上層出土の土器片１点とＨ－36の覆土、Ｎ－７－31のⅢ層出土の土器片と、覆土上層出土の土器片１点とＨ－33の覆土出土の土器片が、それぞれ接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢｂ層中と思われる。床面直上、覆土から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はＨ－31、Ｈ－33、Ｈ－44、Ｈ－25、と重複しており、Ｈ－33より古く、他の住居跡より新しいものである。




図Ⅲ－84　Ｈ－32出土土器

**遺物**

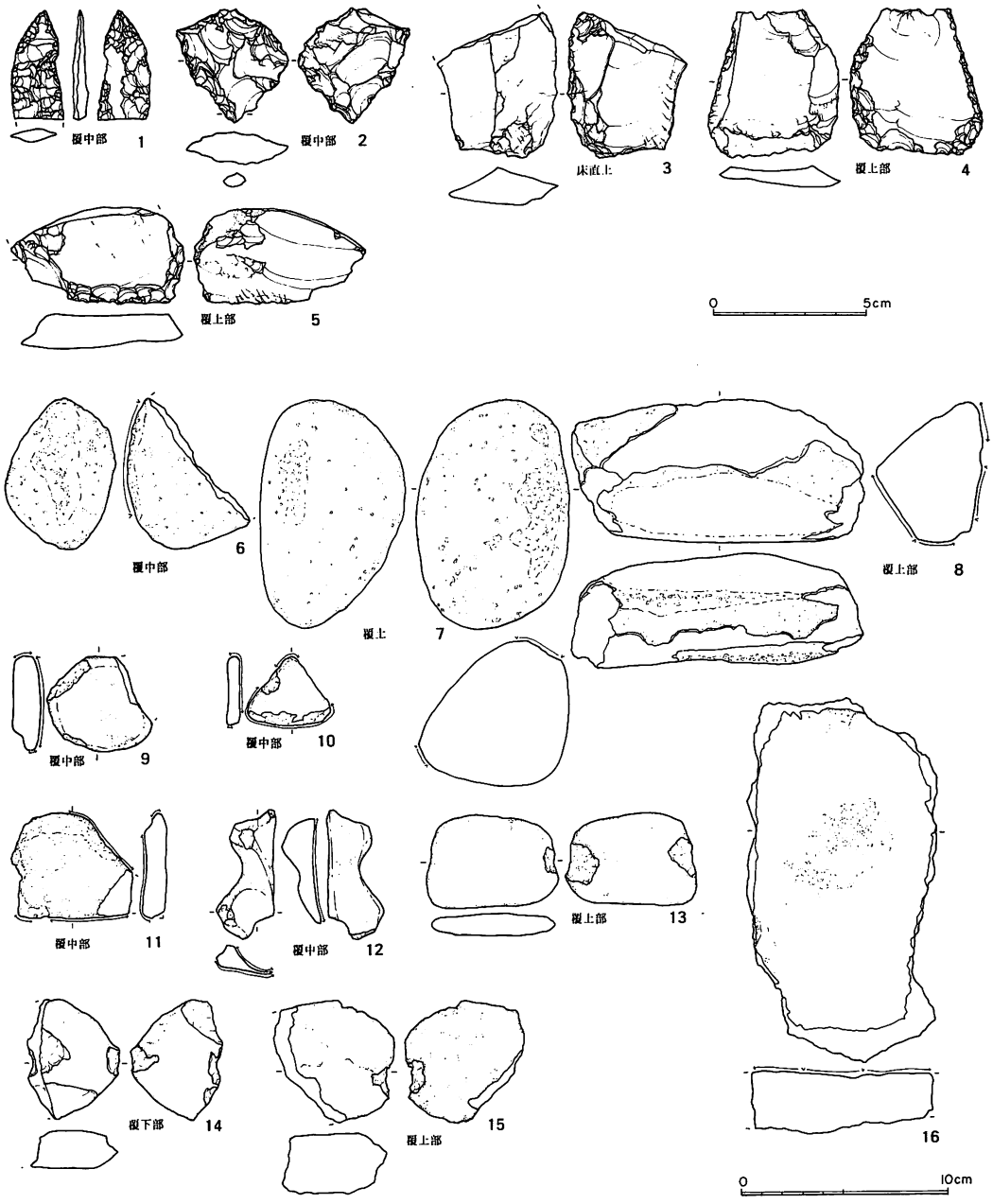
**土器**（図Ⅲ－84　図版60）

１～３はⅠ群Ｂ類土器。覆土１層から出土した。１はＨ－36覆土１層出土の破片と接合した。体部

下半は欠損している。体部は丸味を帯び、口縁部がややくびれて外反する中型土器。波状口縁をなすとみられる。文様帯は上下を腹縁文で区画し、3条一単位のクランク状腹縁文を縦位に施して、三角形、長方形などの幾何学文的文様が展開されている。内面には部分的に細かい条痕がある。2はH－19（図Ⅲ－28－2）、H－33（図Ⅲ－89－20）、H－34（図Ⅲ－95－2）昨年度のH－9（図Ⅲ－61－27）と同一個体。3は口縁が不規則に波打つ無文土器。4は右下がりの縄文が施されているⅡ群土器。内面から口唇上にかけて、丁寧にナデられている。

**石器**（図Ⅲ－85　図版87）

1は小型柳葉形の石槍。素材の影響により左右が非対称である。2は石錐。折れた両面加工の石器を転用したものである。3～5はスクレイパー。3・4は腹面に刃部を作出している。6・7は球形




図Ⅲ－85　H－32出土石器

のたたき石である。８はすり石１類。表面はかなり剥落している。９・10は石鋸。いずれも砥石と複合し、加工により刃部幅を小さくしようと試みている。11・12は砥石。11は縁辺にも研磨面がある。12は使用頻度が著しい。U字状の溝が２方向に認められる。13・15は石錘。14は礫が割れた後石錘に加工している。15は被熱により変色しており、脆い。16はたたき石。割れとの前後関係は不明である。

Ｈ－33（図Ⅲ－86・87　図版22・23）

**位置**：Ｎ－８－18・19・28・29　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は49.28ｍ～49.04ｍである。　**規模**：6.18ｍ／5.90ｍ×4.20ｍ／4.10ｍ×0.18ｍ

**平面形**：ほぼ北東を先頂部とする卵形　**床面積**：19.19㎡　**長軸方向**：Ｎ－35°－Ｅ

**確認・調査・土層**：Ｎ－19・29の包含層調査中、P.D.3が厚く堆積し、またⅢｂ層が長円形状に落ち込んでいるのが確認された。Ｈ－31、Ｈ－32の重複関係がはっきりしないため、東西、南北に小トレンチを設定し、調査を行った。この結果、Ｈ－32とは重複しており、Ｈ－33がＨ－32を切っているのが断面観察によって明らかとなる。またＨ－31とは重複していないことも明らかとなる。床面はⅤ層を掘り込んでいるのが確認され、東、南、西の壁の立ち上がりもわずかではあるが検出することができた。このため、P.D.3、Ⅲｂ層を除去し、覆土を順次掘り下げた。覆土は四層である。覆土１層は粘質の暗褐色である（土層図１）。層厚は５㎝～10㎝である。西側では見られない。覆土２層は軟質で、黄色土を少量混入する黒褐色土である（土層図２・３）。層厚は５㎝～10㎝である。覆土３層は黄色土を混入する暗褐色土である（土層図４、５、７　北東側では炭化物を混入する黒褐色土に相当する）。層厚は10㎝前後で北東部分に顕著に見られた。覆土４層は粘質の暗黄色土である（土層図８、９）。層厚は８㎝前後で、北東壁際に厚く堆積している。

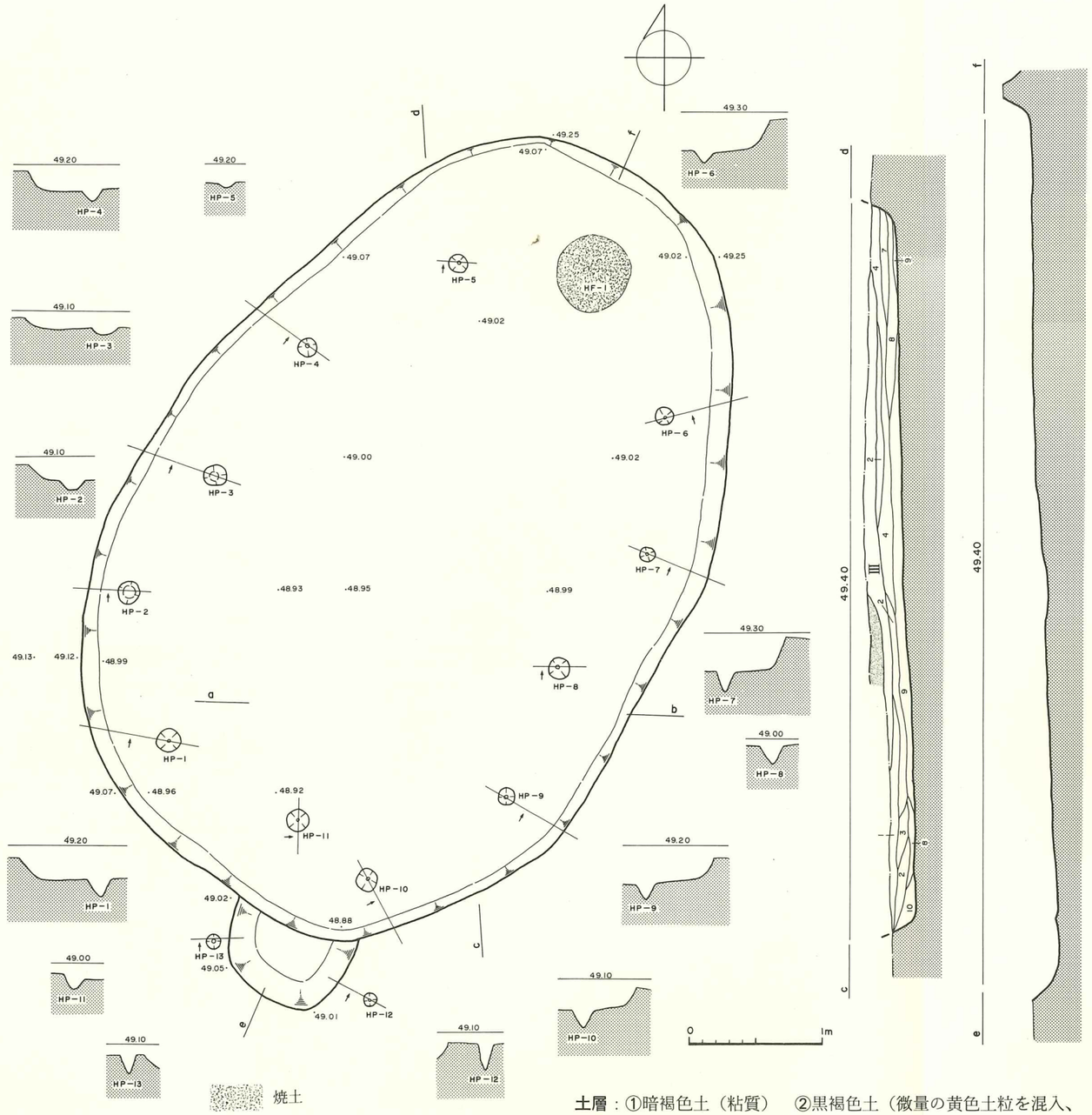
**床面**：Ⅴ層をわずかに掘り込んで構築されている。平坦で、堅い。南西側にやや傾斜している。

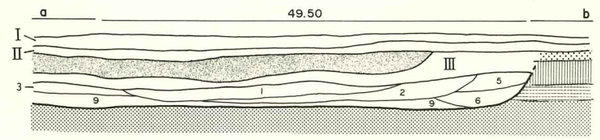
**壁**：全体的に急傾斜で立ち上がっている。壁高は11㎝～22㎝である。

**炉跡**：長軸方向の壁寄りのところに、0.60ｍ×0.54ｍの円形状の広がりをもつ、淡橙色の火を受けて赤化したと思われる痕跡が検出されている。地床炉である。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは11個検出されている。壁際から30㎝～50㎝内側をめぐるもので、小ピット間の間隔は1.0ｍ～1.2ｍである。すべて直立している。南東コーナー付近には、0.8ｍ×0.6ｍの張り出し部分がある。床面とは、わずかに段差がある。またこの張り出し部分の両脇には細かい杭状の小ピットが一個づつ検出されている。

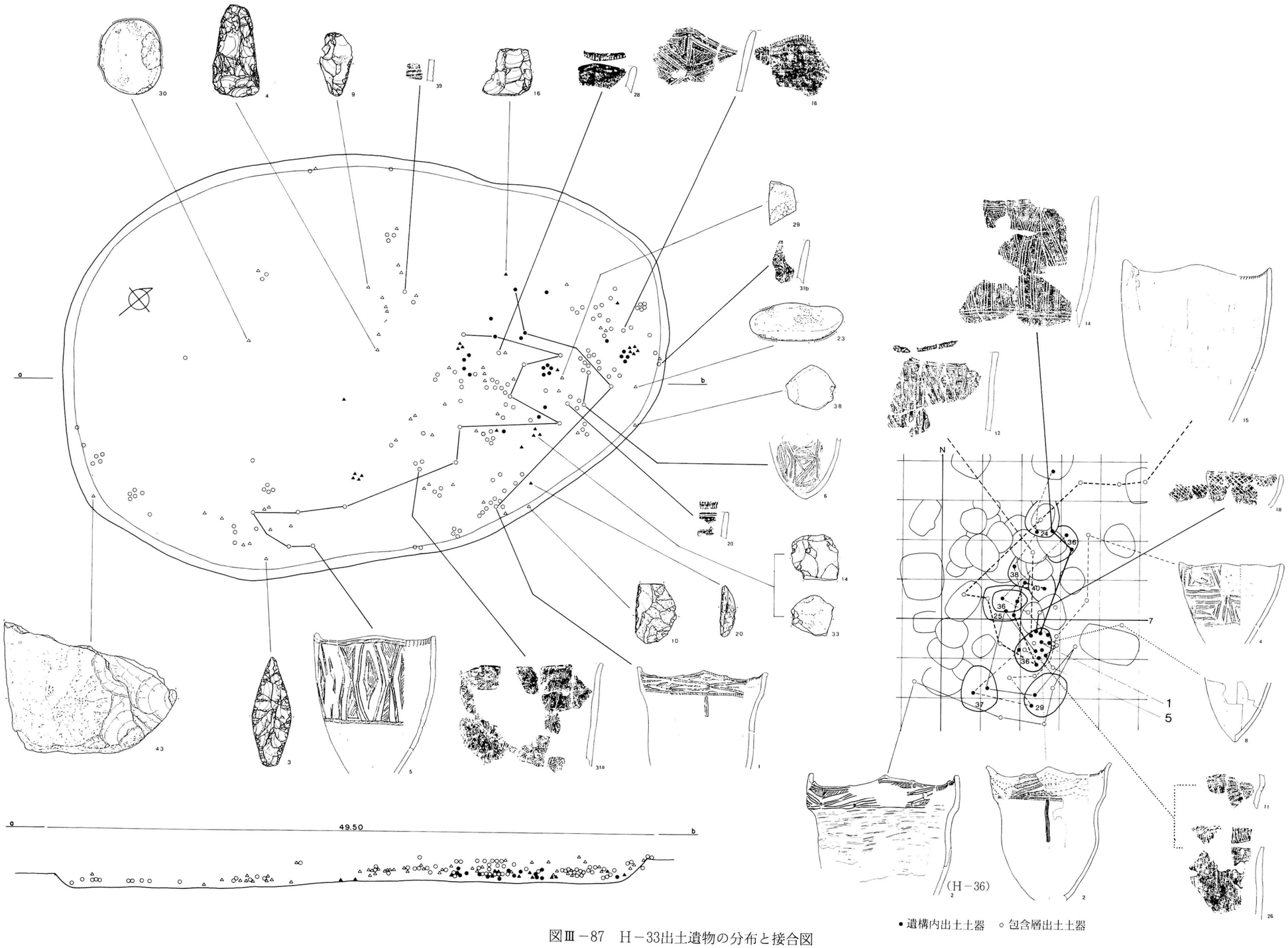
**遺物出土状況**：出土遺物総数は1,332点である。この内訳は土器1,069点、石器263点である。このうち床面および床面直上から出土した土器は27点、石器が26点で、大半が覆土中から出土している。遺物は北東部分の覆土３層、４層から多量に出土した。特に覆土３層出土の遺物は投げ込まれたと思われる状態で、かたまって出土している。覆土中からⅡ群土器が３点出土した以外は、すべてⅠ群Ｂ類土器である。石器では石鏃、石槍、石匙、石鋸、篦状石器、石錘、砥石、擦り切り残片、研磨石材、すり石、石皿などが出土している。床面および床面直上からはスクレイパー、砥石、擦り切り残片などが出土している。遺物の接合関係は、床面直上どうし、床面直上と覆土、覆土どうし、更には他遺構や包含層といった多様な状況を示している。床面直上（１点）、覆土中層（５点）、覆土上層（51点）出土の土器片と、Ｎ－８－28・29のⅢ層、Ｎ－８－28のP.D.３出土の土器片と、床面直上（２点）、覆土中層（２点）、覆土下層（４点）出土の土器片とＨ－26、Ｈ－36の覆土、Ｎ－７－20・27、Ｎ－８－29のⅢ層出土の土器片と、覆土下層出土の土器11点とＮ－７－20のⅢ層出土の土器片とそれぞれ接合している。また覆土中層出土の土器片１点とＨ－25、Ｈ－36、Ｈ－38、Ｈ－40の覆土、Ｎ－７－




**土層**：①暗褐色土（粘質）　②黒褐色土（微量の黄色土粒を混入、軟質）③黒褐色土（②より黄色土粒の混入が多い）　④暗黄茶色土（粘質）⑤暗褐色土（少量の黄色土を混入）　⑥暗褐黄色土（Ⅴ＋⑤）　⑦黒褐色土　⑧暗黄色土（軟質）　⑨暗黄褐色土（粘質）　⑩暗褐色土（Ⅲ＞Ⅴ）

図Ⅲ－86　Ｈ－33実測図




● 遺構内出土土器　○ 包含層出土土器

図Ⅲ－87　H－33出土遺物の分布と接合図

00・10・22・33・43・54、N－8－19のⅢ層出土の土器片とが接合している。更には、覆土上層（30点）、覆土中層（44点）出土の土器片とN－8－29出土の土器片と、覆土上層出土の土器片7点とH－18、H－35の覆土、N－8－49のⅢ層出土の土器片と、覆土上層（3点）、覆土中層（2点）出土の土器片とH－25、H－29、H－36、H－37の覆土、N－8－27のⅠ層、N－8－28・39、M－8－98のⅢ層出土の土器片とが、それぞれに接合している。石器でも覆土上層を下層から出した研磨石材が接合している。以上のような接合状況を見ると、25m近くも離れたものと接合したり、また遺構間どうしで複雑な接合状況を示している。

**時期**：掘り込み面はⅢb層中と思われる。床面、覆土から出土した土器はほとんどⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はH－32と重複しており、H－32より新しいものである。

表Ⅲ－12　H－33小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 20×18(cm) | 15(cm) | 暗褐色土＋黄色土(砂質) | 床　面 | 直立,先端部細い | HP－8 | 20×18 | 14 | 黒茶色土>黄色土(砂質) | 床面 | 直立,先端部細い |
| HP－2 | 18×16 | 5 | 黒茶褐色土(砂質) | 〃 | 〃、 | HP－9 | 15×15 | 12 | 暗茶褐色土＋黄色土 | 〃 | 〃 |
| HP－3 | 15×15 | 5 | 暗褐色土(砂質) | 〃 | 直立,浅い皿状 | HP－10 | 20×18 | 14 | 黒茶色土＋黄褐色土 | 〃 | 〃 |
| HP－4 | 14×14 | 9 | 褐色土　(砂質) | 〃 | 〃、先端部細 | HP－11 | 18×16 | 12 | 暗褐色土(砂質) | 〃 | 〃 |
| HP－5 | 12×12 | 3 | 暗褐色土＋黄色土(砂質) | 〃 | 〃、　浅い | HP－12 | 11×11 | 20 | 暗褐色土＋黄色土 | V層直上 | 抗状 |
| HP－6 | 14×14 | 8 | 暗黄灰色土(砂質) | 〃 | 〃、先端部細 | HP－13 | 11×11 | 15 | 〃 | 〃 | 〃 |
| HP－7 | 14×14 | 15 | 〃　(〃) | 〃 | 〃 | | | | | | |

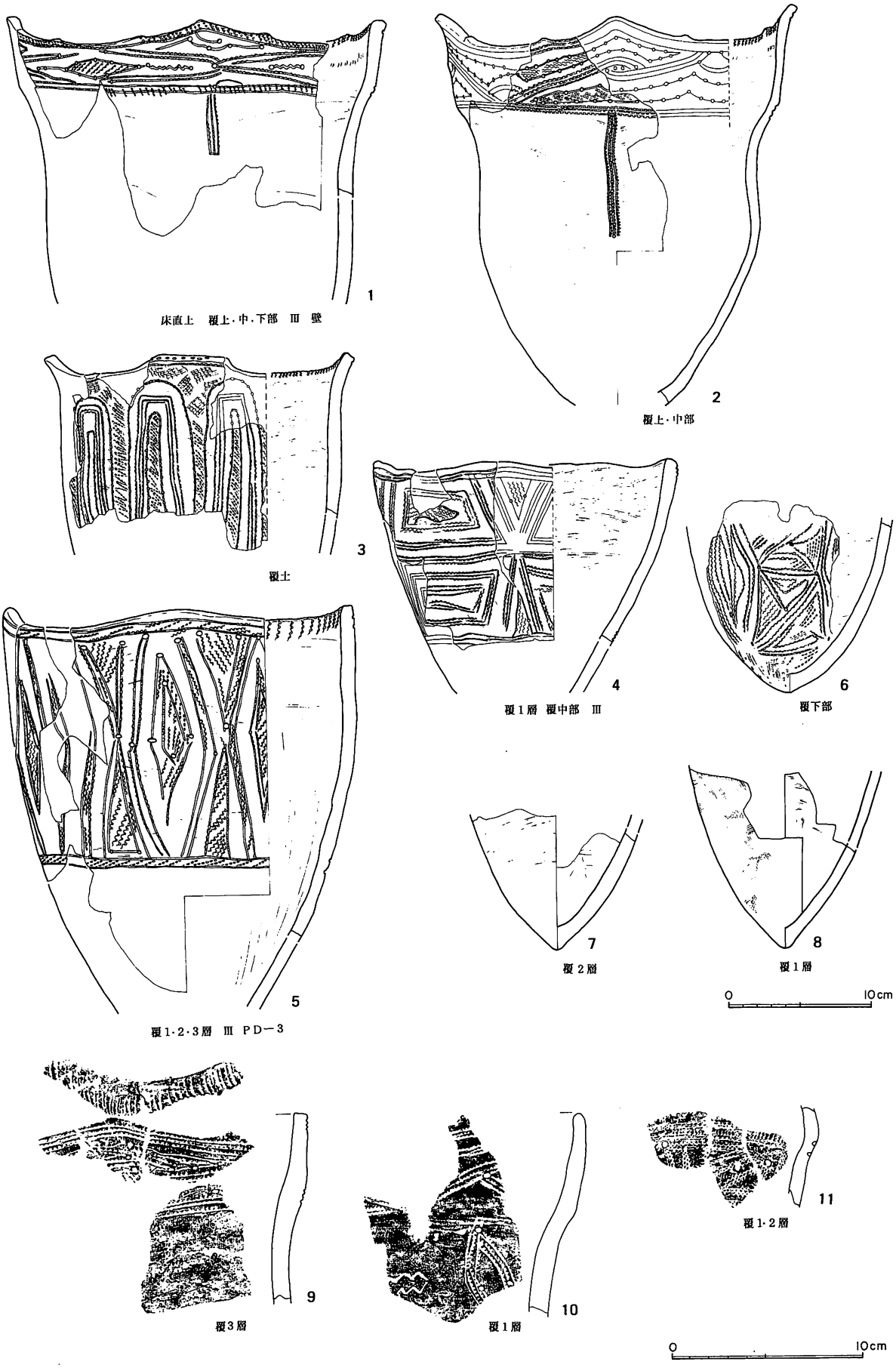
**遺物**

**土器**（図Ⅲ－88・89・90　図版49・60・61・62）

1・2はキャリパー状器形のもの。いずれも4ヵ所に山形の波頂部があり、両端に副突起がある。口縁内側角に貝殻腹縁圧痕文が施文されているが、1は口唇外側角にも施されている。1は床直上、覆土1・2・3層の破片と15m北側のH－26、接近するH－36壁際、N－7－20、N－8－29出土の破片が接合したもの。胴部下半は欠損しているが上半部の3分の2程が残存する。口縁部はわずかに外反する。太い沈線に押引き的な貝殻腹縁圧痕文を重ねた腹縁文で文様が描かれている。波頂部間から斜位に2条一単位の腹縁文を配し、波頂部で交叉させ、細長い菱形の連結した文様が展開されている。波頂部では三角形の文様が描かれているが、沈線で弧線を描いている部分、再区画して、押引き文的な貝殻腹縁圧痕文を施している部分がある。菱形の区画内は沈線文で再区画し、その両端に鋸歯状沈線文を配している。頸部には口縁部の弧線に対応するかのように逆向きの弧線を施している部分もあり、その部分から3条の腹縁文を垂下させている。胴部上半には横位に、半ばから下位にかけては細かい条痕が観察できるがナデ消されている部分が多い。内面には横位に粗い条痕が横位にみられる。2は覆土1・2層の破片（72点）とN－8－29の破片が接合した。底部は欠損しているが、口縁部がやや外反し胴部が丸味を帯びる器形。波頂部間から入り組み文的に腹縁文を配し、大きく三角形状に区画し、点対称の構成となっている。斜位の線は弧線でつながれている。円形刺突文は多用されており、沈線文上には等間隔に、クランク部分は、内面から指で押して器面を突出させ、4個もの刺突文を施している。区画内は1同様の押引き的腹縁圧痕文が充填されている。波頂部には3条の腹縁文を胴部半ばまで垂下させ、中央の線に刺突文を配している。体部には横位の条痕文があるが、大部分はナデ消されている。内面にも同様に横位に条痕があり、口縁部付近には爪形圧痕が部分的にみられる。3は覆土1層とN－8－29出土の破片が接合したものと、昨年度のP－3床面（図Ⅲ－85－5）、

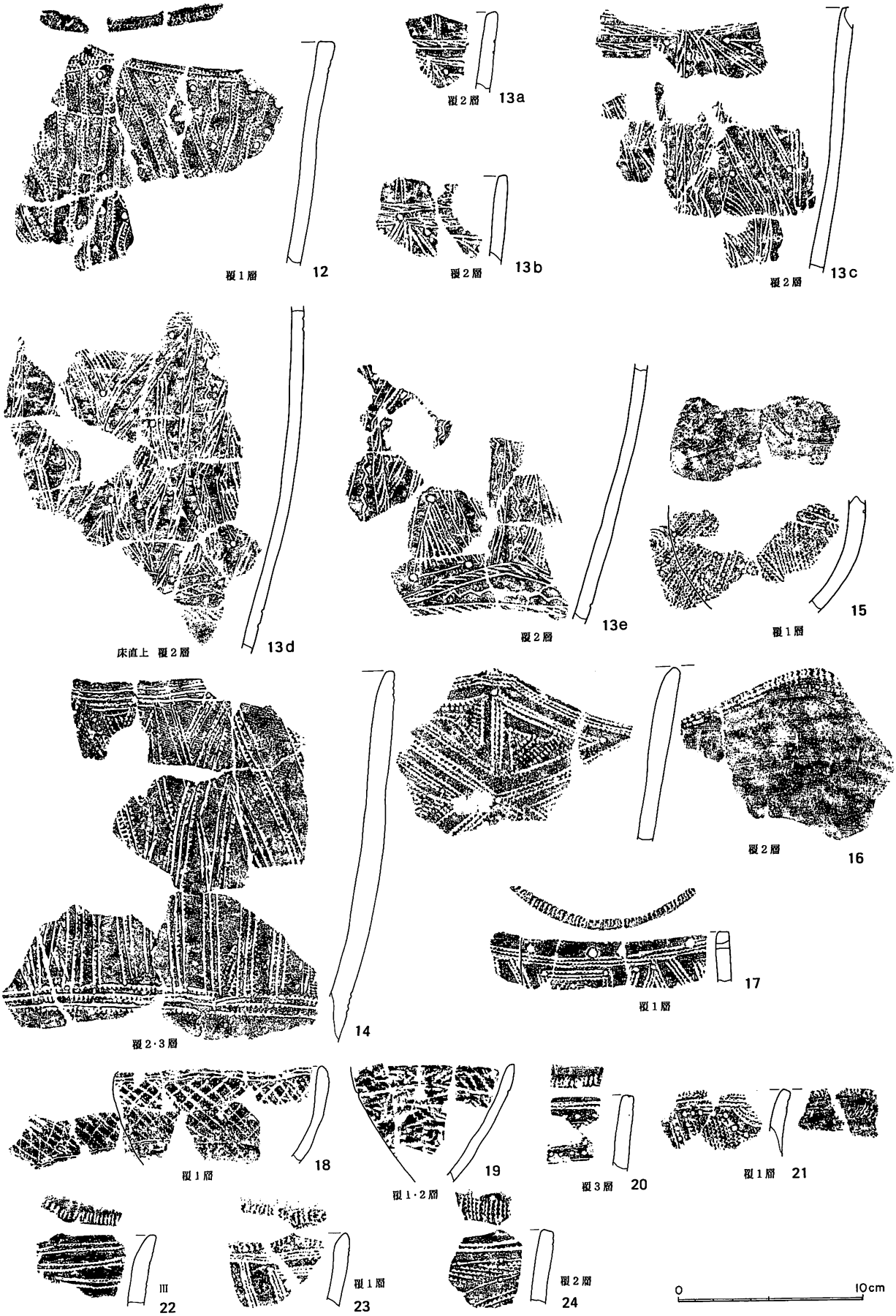
H－23・24覆土、M－8－99出土の破片が接合したもの、さらにH－29出土の3つの部位の破片を図上で復元した。口縁部の形状、器形は包含層出土のもの（図Ⅳ－11－21）と類似するとみられ、文様帯が体部下半まで及ぶものであろう。口縁部はやや外反し、4ヵ所に弁状の突起部があると思われ、この部分にのみ円形刺突文が施されている。口唇部内側角には押引き的な貝殻腹縁圧痕文が施されている。文様は縦長の楕円形の文様が横位に展開しているとみられ、再区画された中と楕円形の文様間の空間部には、押引き的な貝殻腹縁圧痕文が充填されている。円形刺突文は楕円形の区画の外側の沈線上に等間隔で配されている。体部には横位にやや粗い条痕がみられる。内面は炭化物が付着し、同様な条痕がみられる。4は覆土1・2層の破片と近接するH－29・37・38覆土、25m程北側の昨年度調査区N－7－24・30、N－8－18・28出土の破片が接合したもと、30m程北側の昨年度のH－9（図Ⅲ－62－44）の破片とN－8－29の破片が接合したものとを、図上で復元した。緩やかに波打つ波状口縁で、口唇断面は丸味を帯びた角形。底部から口縁部にむかって直線的に立ち上がる器形である。文様帯は体部半ばまでとみられる。3条一単位の腹縁文で、波頂部下に三角形の区画を作り、上下2段の台形状の区画を横位に展開させている。沈線文は細く、貝殻腹縁圧痕文は雑に重ねられている。再区画された中には部分的に腹縁圧痕文が粗く施されている。口縁部には横位に、かすかに条痕がみられるが、ナデ消されている。内面は口縁部には横位に、下半部には斜位に条痕がありケズリの痕跡も残っている。5は覆土、覆土上面のⅢ層出土の破片とN－8－28・29出土の破片が接合した。体部半ばからやや丸味を帯びて、直線的に立ち上がる器形のもの。緩やかな波状口縁で、口縁部内側には10㎜以上もの長い貝殻腹縁圧痕文が縦位に施されている。底部は欠損しているが、2分の1程が残存する。文様帯は体部半ば程までで、2条一単位の腹縁文で、波頂部や波頂部間に菱形の区画を形成して、その両側に交叉する線を施し、上下逆向きの三角形の区画を構成している。その間には屈曲した腹縁文を複数施している部分や、中心となる菱形の区画が形成されず、腹縁文のみが連続して施されている部分がみられる。文様を正確に割り付けた意図は無いようにみられ、腹縁文間を短い線で斜位につないだ部分もある。下描きの沈線文は太く、貝殻腹縁圧痕文は押引き的に施文され、沈線文にそうような形で施されている。刺突文は円形・楕円形のものが腹縁文の屈曲部・菱形の区画の4ヵ所につけられている。文様帯には横位に、体部下半の無文部には縦位に条痕があるが、ナデ消されている部分が多い。内面は口縁部には横位に細かい条痕が、下部には幅0.1㎜の細かい棒状工具で0.5㎝～1㎝程の間隔で縦位に長い条痕がみられる。精選された胎土で、焼成は良好である。6は体部下半から底部までの破片。覆土3層の破片とN－7－20出土のものが接合した。底部は砲弾形になるとみられる。文様は底部付近にまで及んでいる。腹縁文で弧線を複数、縦位に施し、その間に幾何学文的文様が施されている。底部の無文部には縦位の条痕と、貝殻腹縁部の押引き文が浅く施文されている。内面には細かい条痕が底部まで横位に施されている。7は体部には幅3㎜～4㎜程の篦状工具によるとみられるケズリの痕跡が、横位、斜位にみられる。底部付近は細かい条痕がかすかにみられる。底部は乳房状に近い形である。8は床面直下出土のもの。薄手の土器で7と類似の底部である。体部下半には横位・斜位に、内面には横位に幅2・3㎜の篦状工具によるとみられるケズリの痕跡がみられる。

9～11はキャリパー状器形のもの。11は口縁の上部は欠損している。9は近接するH－25覆土、N－8－19出土の破片と接合した。山形の波頂部の両端に副突起がある。頸部のくびれは弱い。口縁内側には10㎜前後の長めの貝殻腹縁圧痕文を施している。口縁部には腹縁文と沈線文で曲線的文様が描かれている。胎土に白い砂粒（長石・石英等）が比較的多い。10は10m程北側のH－26（図Ⅲ－61－9）と同一個体。副突起の部分で腹縁文による楕円形状の文様と鋸歯状沈線文が2条施されている。内外面ともにナデ調整されている。11はN－8－37（図Ⅳ－17－100）出土のものと同一個体。胴部にま




図Ⅲ－88　H－33出土土器 (1)

で細かい腹縁文で文様が描かれている。12は覆土１層の破片とＮ－７－21、Ｎ－８－29出土の破片が接合した。このほか周辺の包含層、重複するＨ－32、近接するＨ－47、南側15ｍ程離れたＨ－43からも破片は出土したが接合できなかった。口縁部がやや外側に直線的に立ち上がる器形のもので小さい山形の突起部がある。口唇上には貝殻腹縁圧痕文がつけられている。文様帯は破片のさらに下位にまで及んでいると思われる。器面には２条一単位のクランク状沈線文が縦位・斜行に施されている。沈線文間には貝殻腹縁圧痕文が施されているが、沈線文に重ならず、そわせる形に施文した結果かもしれない。内面にはケズリの痕跡と幅３・４㎜の篦状工具によるかとみられる調整痕がみられる。13ａ～ｅは同一個体。床面直上、覆土２層の破片とＮ－８－28出土の破片が接合したもの。このほか同一個体の破片は周辺の包含層、Ｎ－７－30（図Ⅳ－17－89）から多数出土したが、接合しなかった。口縁部には小さな山形の突起がある（13ａ・ｂ）。文様帯は幅広いとみられ（13d・e）、文様帯の下位には平行沈縁文を斜めに充填させた帯状の区画があるが文様構成は複雑で２条一単位の沈線文を直線、屈曲させて施し、縦長の菱形、三角形の文様展開させているようである。区画された中には貝殻腹縁圧痕文が充填されている部分もみられる。また、無文部には鋸歯状沈線文（13c・e）、また、文様帯の下部には弧状の文様（13ｅ）もある。内外面には横位に条痕がみられる。14は覆土２・３層出土の破片と15ｍ程北側のＨ－24・26覆土出土の破片が接合した。Ｈ－34出土の土器（図Ⅲ－95－７）も同一個体である。また、30ｍ程北側の昨年度のＨ－６の大型土器（図Ⅲ－45－２）と同一個体である。山形の波頂部の両端に副突起部がある。３条一単位の太い腹縁文で「Ｙ」字状の区画と三角形の区画が構成されている。貝殻腹縁圧痕文は沈線にそうような形に施されている。拓影図には刺突文がみられないが、波頂部下位の文様の交叉する部分にのみ円形刺突文が施されている。内外面ともに口縁部付近に横位に条痕があるが、すり消されている部分もある。15は小型の鉢型土器。円形と舌状の文様の間には貝殻腹縁圧痕文が密に施されている。16は山形波頂部の大型土器。３条一単位の腹縁文で菱形、三角形の区画がつくられているとみられる。口縁内側には貝殻腹縁圧痕文が波頂部分のみ刻み目状に深く施文されているが、ほかの部分には押引き文的な圧痕文が施されている。内面には細かい条痕が横位にみられる。17は平縁でやや口縁部が内傾する中型土器。口唇上に貝殻腹縁圧痕文が刻み目状に施されている。口縁部直下は無文で貫通孔が施されている。２個一対とみられるは三角形状の文様が横位に展開されている。焼成は良好である。18は覆土１層の破片と重複するＨ－32出土の破片が接合したもので図上で復元したものである。同一個体は、Ｎ－８－09（図Ⅳ－17－103）からも出土している。口唇断面は丸味を帯びており、体部と比べて厚手である。中型の鉢形土器。器内外面は凹凸がある。口縁部に２条、細かい沈線文が雑に施されている。文様の下位にも１条めぐっている。その間に腹縁文で斜格子目状の文様が描かれている。19は薄手の小型土器。３個の破片は接合しないが図上で復元した。口唇断面は丸味を帯びた角形。口縁部に１条腹縁文を施し、その上下に貝殻腹縁圧痕文を山形に雑に施している。体部下半ばは無文。器面には凹凸があるが、細かい条痕がかすかにみえる。手捏ねで作ったものであろう。20～25は口縁部の破片。全体の文様構成はわからない。いずれも覆土出土のもの。20～24の口縁部内側には、貝殻腹縁圧痕文が施されている。21には内面に爪形圧痕が部分的にある。24はＨ－35（図Ⅲ－98－２）と同一個体。キャリパー状の器形のもの。10㎜以上の長めの圧痕文がつけられている。25は口縁部に２条沈線文がめぐっている。26～31は無文のもの。30ａ・ｂ（壁）を除きいずれも覆土出土のもの。26は厚手の大型土器。口縁部は角形で体部よりも薄手になっている。口縁部はやや外反し内面には20㎜程の長い貝殻腹縁圧痕文が縦位に施されている。口縁部には横位に、体部には縦位に細かい条痕が、さらに下位には斜位にも施されている。条痕文を縦位に施す際に残されたと思われる。爪形の圧痕が、図左側に縦に長くみられる。内側にはケズリの



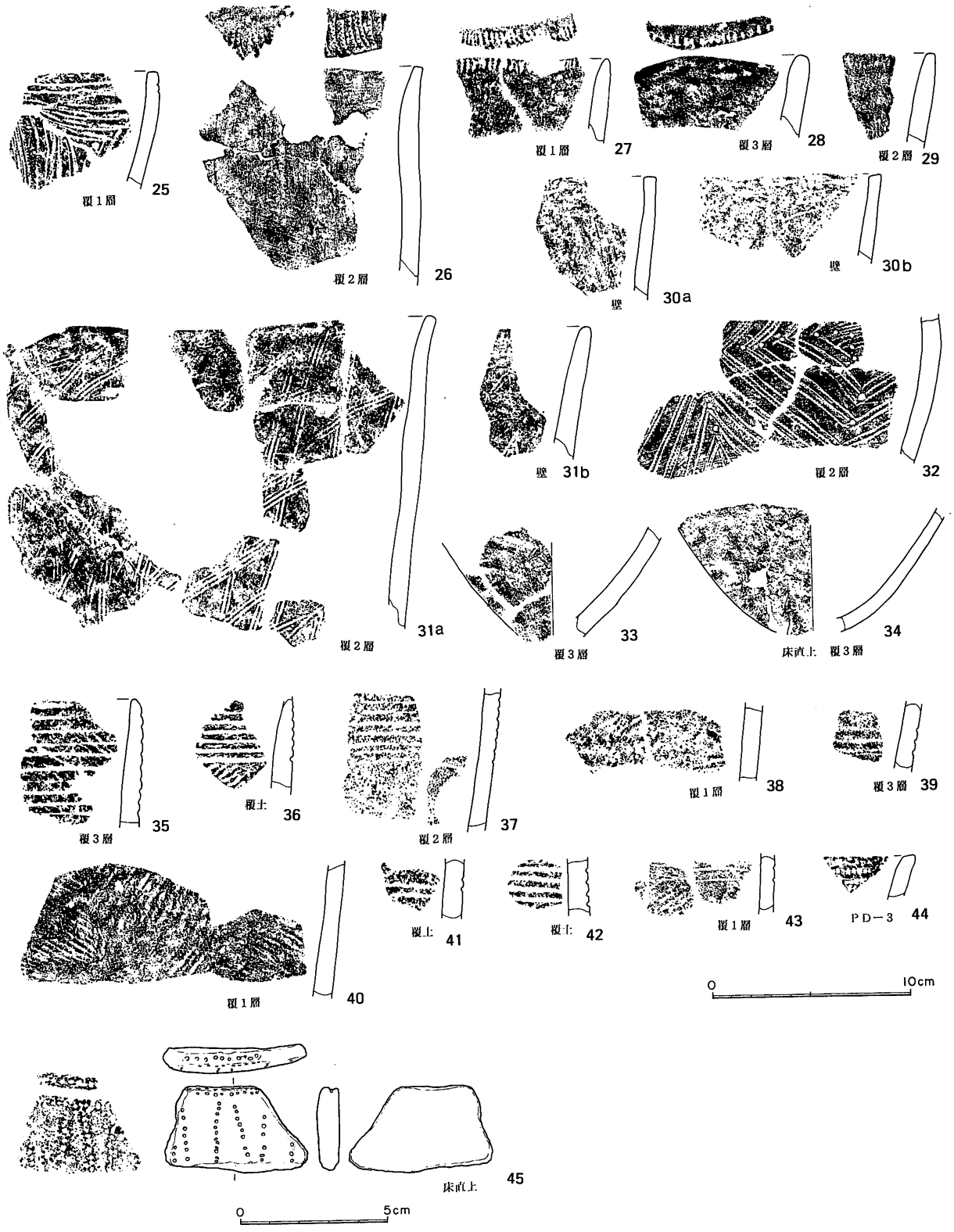

図Ⅲ－89　H－33出土土器 (2)

痕跡がある。27・28は波状口縁をなすもの。27は口縁部の外側にも圧痕文があり、爪形の圧痕がかすかにみられる。28は圧痕文が刻み目状である。30a・bは薄手で、内外面に幅２㎜程の篦状工具によるとみられる粗い条痕がみられる。31a・bは緩やかな波状口縁のもの。床直上、覆土、壁際から出土した破片を文様構成を想定して復元した。厚手の大型土器で、幅４・５㎜の貝殻の腹縁部の一部を使用して、不規則な斜格子目状の文様が描かれている。昨年度包含層出土の土器（図Ⅳ－14－145）と類似している。33・34は底部。34は床面直上出土のもの。

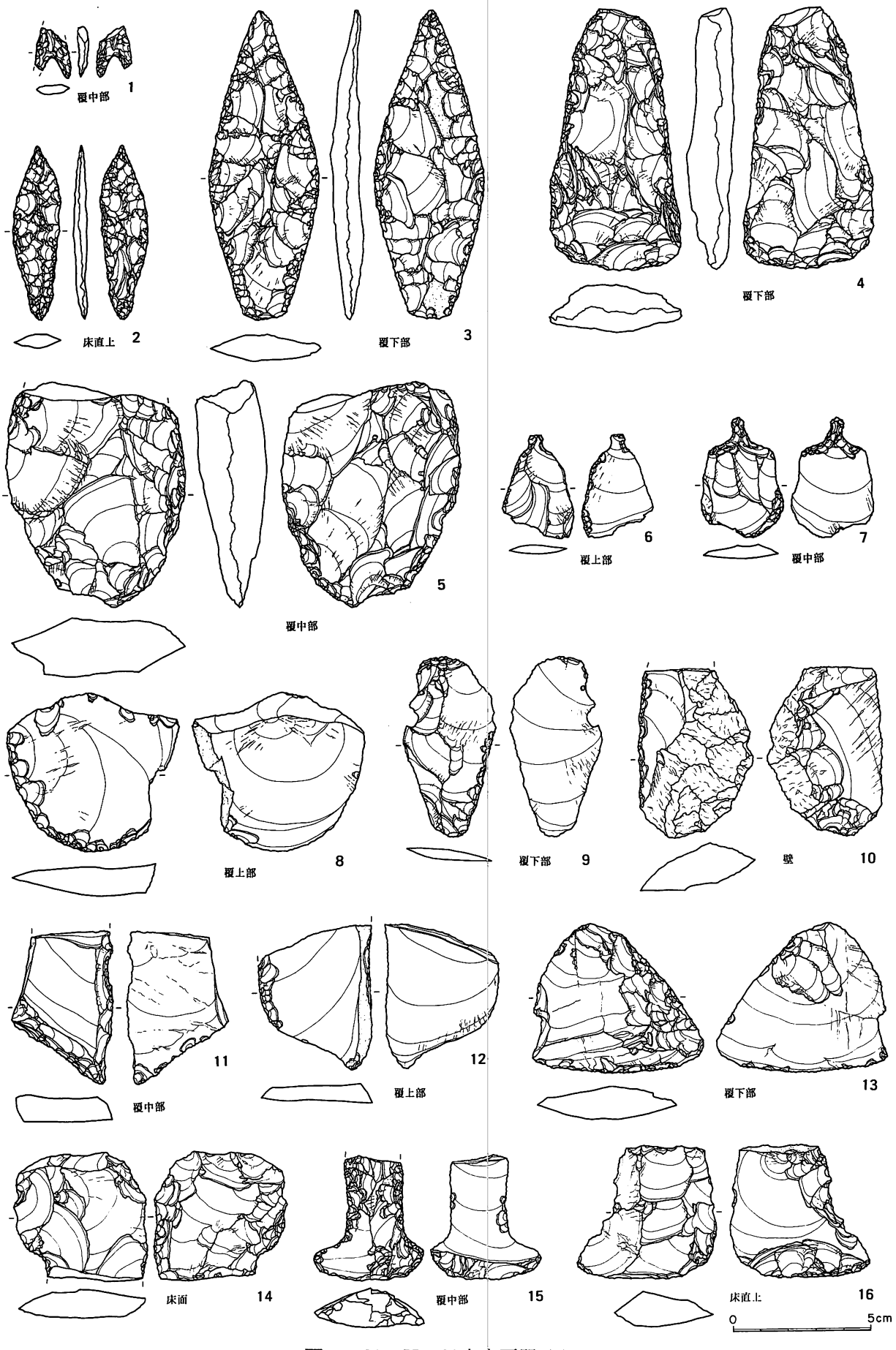
35～44はⅠ群Ａ類土器。35～40は包含層出土の土器（図Ⅳ－５－８～11）と同一個体とみられる。また、昨年度のＨ－１（図Ⅲ－６－１）の土器と同一個体であろう。35は口縁部。指頭によるとみられる圧痕が口唇部に斜めに加えられている。口縁部には沈線文が９条施されている。36は口縁部の上端は欠損している。沈線文の下位にはＬの原体による無節の縄文が浅く施文されている。37は体部に施されている沈線文の部分であろう。38～40は体部の破片。38はＮ－８－39出土の破片と接合した。Ｒ原体による無節の縄文が施されている。40は昨年度のＨ－１出土の土器（図Ⅲ－６－１ｃ）と接合した。ＲとＬの原体による羽状縄文が施されている。41・42は35～40とは別個体の可能性がある。包含層の土器（図Ⅳ－19－20）と同一の個体である可能性が高い。胎土に１㎜程の砂粒が混入し、Ｈ－１の土器よりも厚手である。また沈線が深く施文されている。43は薄手の破片。Ｌ原体による無節の縄文に細かい沈線が施文されている。44は押引き文が施されているⅡ群土器。45は土製品あるいは突起状のもの、土偶の一部などの可能性があるがはっきりとはしない。形はＨ－41出土のもの（図Ⅳ－54－11）に類似する。図左側の部分に小さな円形刺突文列が縦位に施されている。また、上面とその角にも同様な刺突文列が施されている。突起部分であれば、文様のある部分が内面になるであろう。

**石器**（図Ⅲ－91・92・93　図版88・89・90）

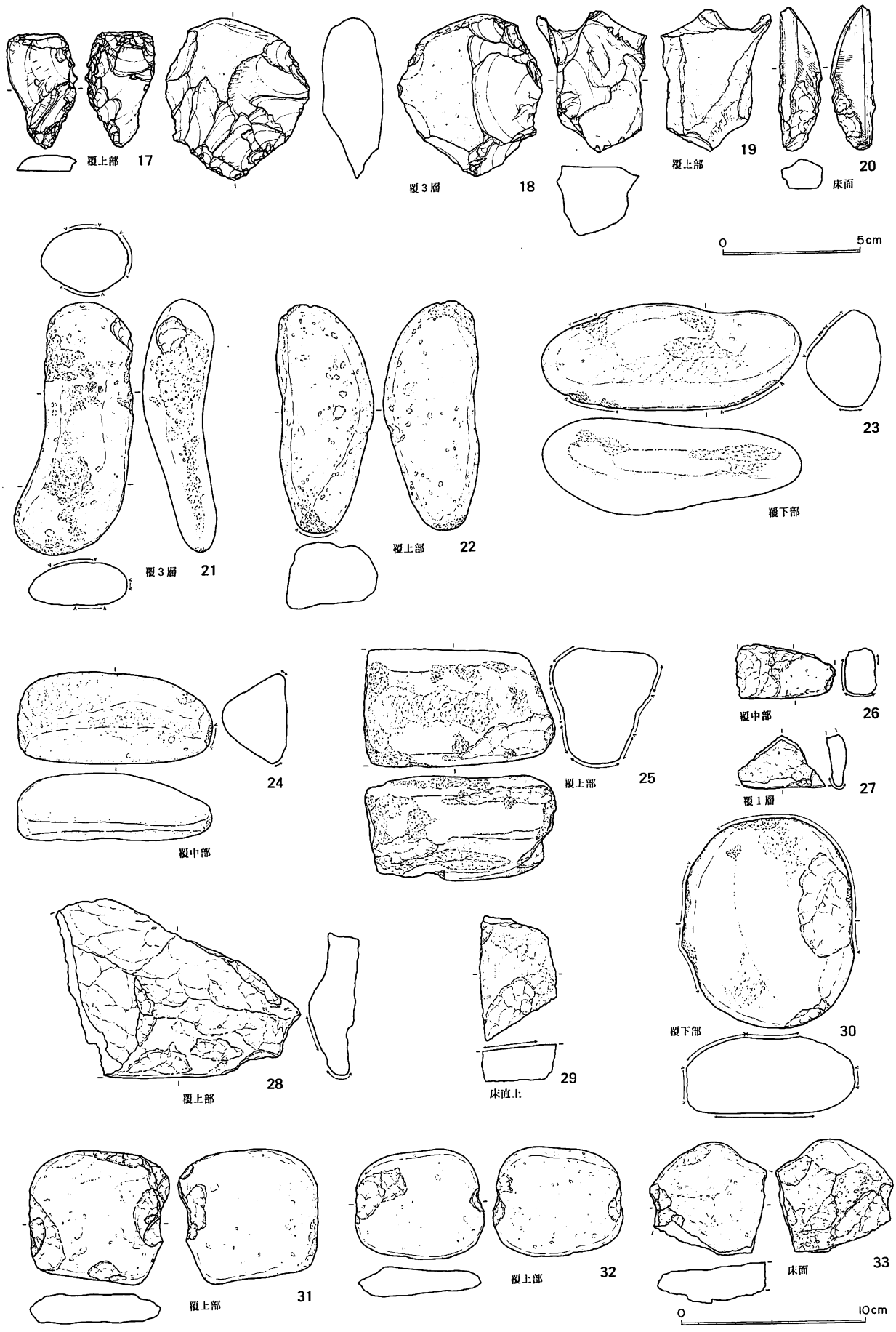
１は三角形凹基鏃。２・３は石槍。２は小型柳葉形のもので、左右非対称である。３は平基で木葉形を呈する。薄身で丁寧な加工である。４は篦状石器。刃部は右主面に作出されており、刃部角は大きい。５は大型の両面調整石器で、木葉形と思われる。６・７は棒状のつまみをもつ石匙。６は細かな錯交剥離が認められるが、背面の剥離は使用痕と思われる。７は刃部には部分的に加工されている。８～16はスクレイパー。10の大部分は被熱している。15はウートラパッセの剥片を素材としている。16は腹面に抉りを入れている。17は黒曜石のＲフレイク。18・19は石核である。18は円礫を素材とし周辺から求心状に剥離している。19は角礫素材の石核片である。20は擦り切り残片。研磨は側縁にも及んでいる。21・22は棒状のたたき石。21はほぼ全面にたたき痕が認められ、使用頻度の著しいものである。23～25はすり石１類。３点ともたたき痕が認められるが、23は明らかにすりの後たたき石に転用している。26～28は石鋸。26・28は砥石と複合する。29・30は砥石。30はすり石転用のもので、平坦面の中央に長いわずかな窪みが認められる。周縁にはたたき痕がめぐる。31～42は石錘。43は石皿である。すり面は軽微で凸部に限られる。



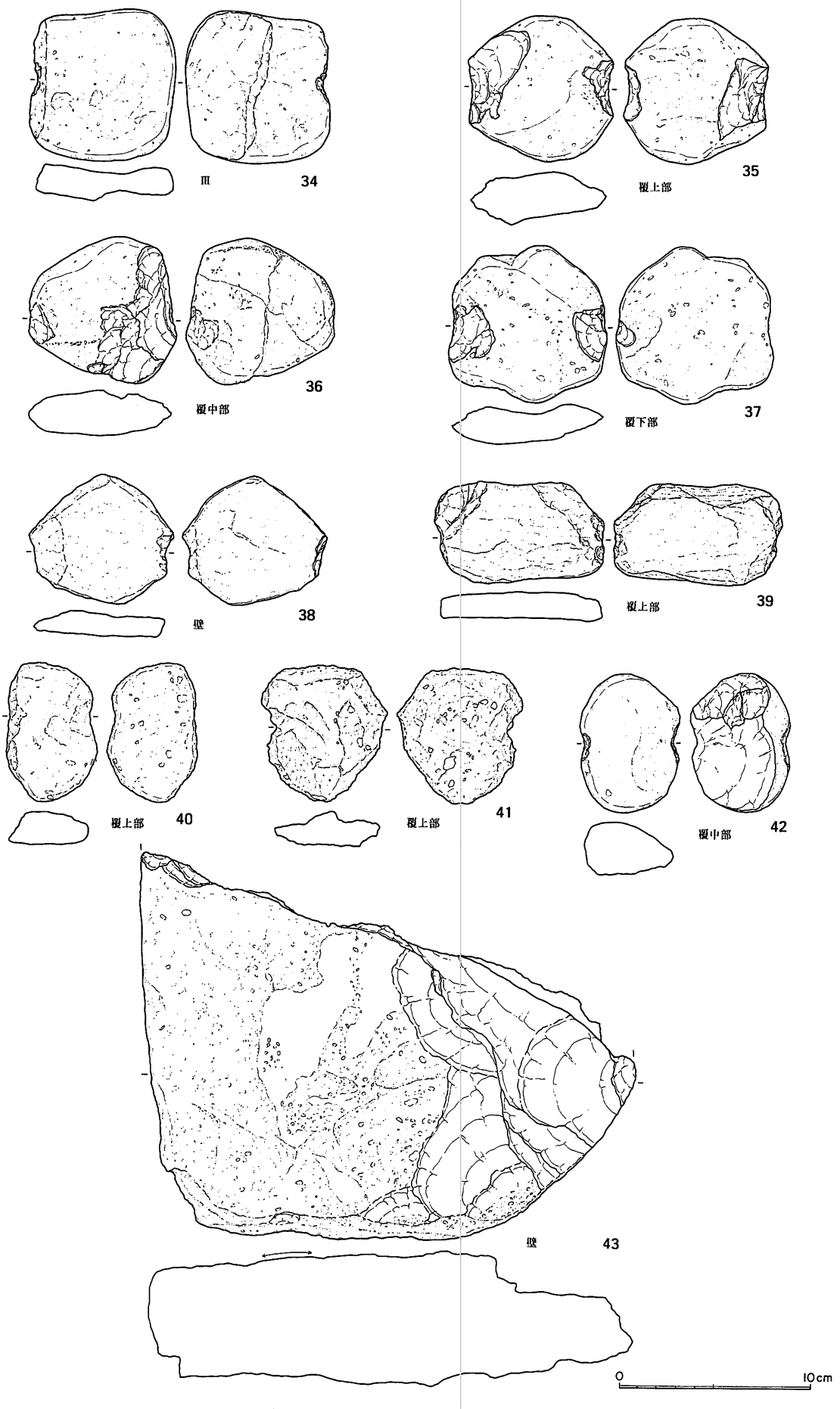

図Ⅲ－90　H－33出土土器 (3)




図Ⅲ－91　H－33出土石器 (1)




図Ⅲ－92　H－33出土石器 (2)




図Ⅲ－93　H－22出土石器 (3)

Ｈ－34（図Ⅲ－94　図版24・25）

**位置**：Ｎ－７－11・12・21・22　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は49.34ｍ～49.37ｍである。　**規模**：4.40ｍ／4.24ｍ×（3.80ｍ）／（3.60ｍ）×0.15ｍ

**平面形**：南東を先頂部とする卵形　**床面積**：12.88㎡　**長軸方向**：Ｎ－51°－Ｗ

**確認・調査・土層**：Ｎ－７－22周辺の包含層調査中、Ⅲ層をわずかに掘り下げたところで遺物が多く出土した。またＮ－７－22の杭の西側でフレイク・チップが集中して出土した。乾燥するとＨ－22、Ｈ－24同様に、ヒビ割れが著しい長円形状の輪郭が確認された。これらの状況から遺構の存在が予想されたため東西、南北に小トレンチを設定し、調査を行った。この結果、検出面から10㎝前後のところで非常に堅い面が検出された。また南壁の立ち上がりも検出されたので、Ⅲ層を除去したのち、出土遺物を取り上げつつ、覆土を掘り下げ調査を行った。覆土はほぼ一層である。覆土１層はやや堅い粘質の暗茶褐色土である。乾燥するとヒビ割れが著しい。層厚は12㎝前後である。床面直上には暗褐黄色の汚れた土が２㎝～３㎝ほど堆積している。

**床面**：Ⅴ層直上に構築されている。ほぼ平坦で、非常に堅い。ただ北西コーナー付近に0.5ｍ×0.5ｍほどで浅いくぼみが見られた。

**壁**：北東、東、西壁は他住居跡と重複しており、全体は不明であるが、残存部分はやや急傾斜で立ち上がっている。壁高は８㎝～13㎝である。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは９個検出されている。これらには①壁際および壁際より約20㎝ほど内側をめぐるもの　②床面中央部のやや北寄りにあるもの、とがある。①はほぼ直立し、おおむね先端部が細くなっている。②は浅いが直立している。

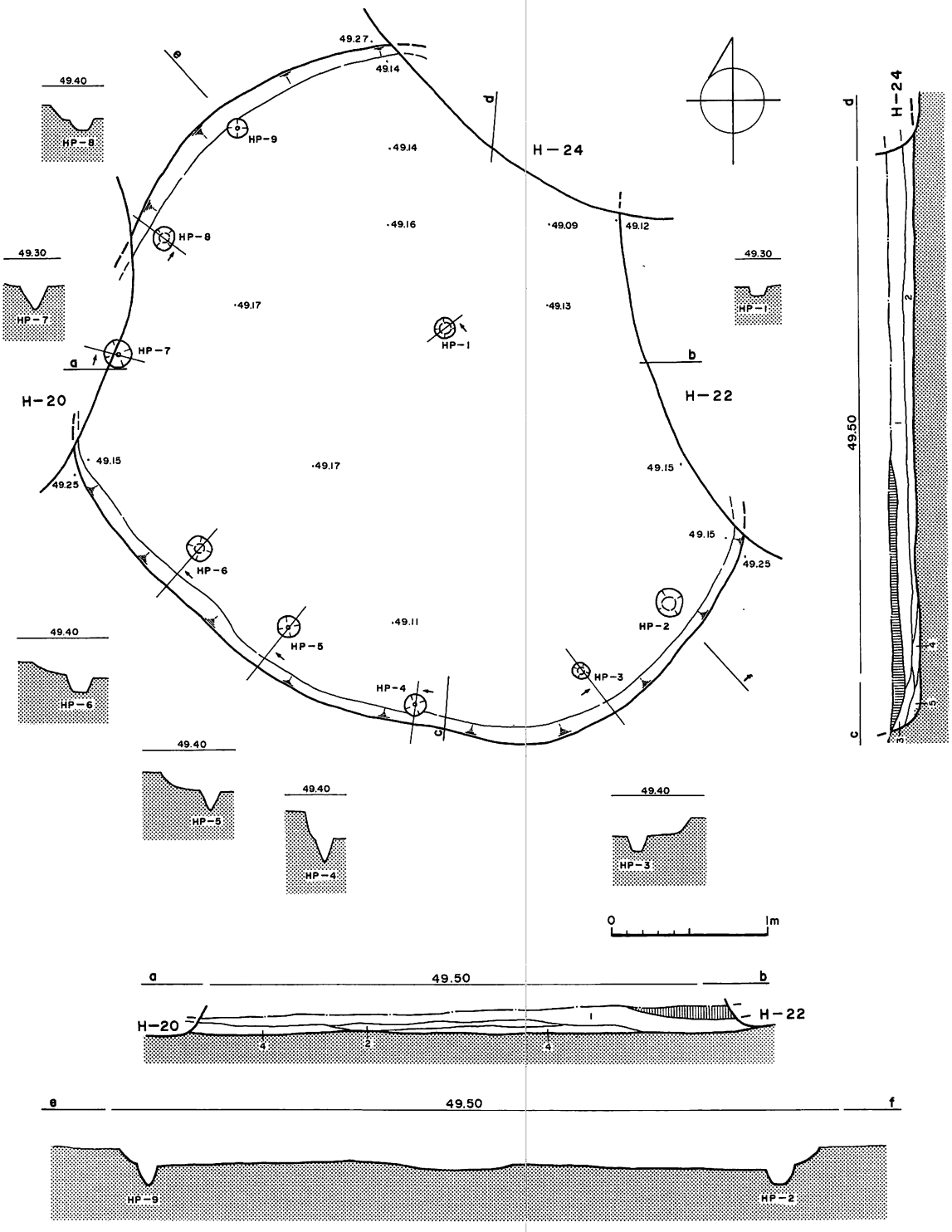
**遺物出土状況**：出土遺物総数は649点である。この内訳は土器406点、石器は243点である。遺物はすべて覆土から出土している。特に覆土上層からの出土が著しい。出土した土器はすべてⅠ群Ｂ類に属するもので、石器では石鏃、石槍、石錐、石斧、研磨石材、すり石、たたき石などが出土している。遺物は覆土と他遺構、更に包含層と接合するという状態を示している。覆土出土の土器片４点とＨ－25の覆土、Ｍ－７－70のⅢ層、Ｎ－７－01のⅢｂ層出土の土器片と接合している。また覆土出土の土器片と、Ｈ－51の覆土、Ｈ－35の覆土、Ｈ－44の覆土、Ｎ－７－12のⅢ層出土の土器片と１点づつ接合している。石器では、覆土出土の研磨石材の刃部破片が、西方約10ｍのＮ－７－01Ⅲｂ層出土の胴半部と接合した。

**時期**：掘り込み面はⅢ層中と思われる。覆土、周辺包含層から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はＨ－20、Ｈ－22、Ｈ－24、Ｈ－35、Ｈ－38、Ｈ－39、Ｈ－41、Ｈ－52と重複しており、Ｈ－20、Ｈ－22、Ｈ－24より古く、他の住居跡より新しいものである。またＨ－26と相接近しているが、新旧関係は微妙で、明瞭でない。

表Ⅲ－13　Ｈ－34小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 13×13(㎝) | 5(㎝) | 黒褐色土 | 床　面 | 直立 | ＨＰ－６ | 16×16（㎝） | 10(㎝) | 暗褐黄色土（砂質） | 床　面 | 直立 |
| ＨＰ－２ | 14×13 | 10 | 暗褐色土 | 〃 | 〃 | ＨＰ－７ | 17×17 | 16 | 黒褐色土≫黄色土(粘質) | 〃 | 〃、先端部細い |
| ＨＰ－３ | 10×10 | 10 | 〃 | 〃 | 〃 | ＨＰ－８ | 14×13 | 7 | 黄褐色土 | 〃 | 〃、 |
| ＨＰ－４ | 13×13 | 15 | 暗黄褐色土（粘質） | 〃 | 直立,先端部細い | ＨＰ－９ | 14×13 | 12 | 黒褐色土＞黄色土 | 〃 | 〃、 |
| ＨＰ－５ | 14×14 | 12 | 暗褐黄色土（砂質） | 〃 | 〃 | | | | | | |



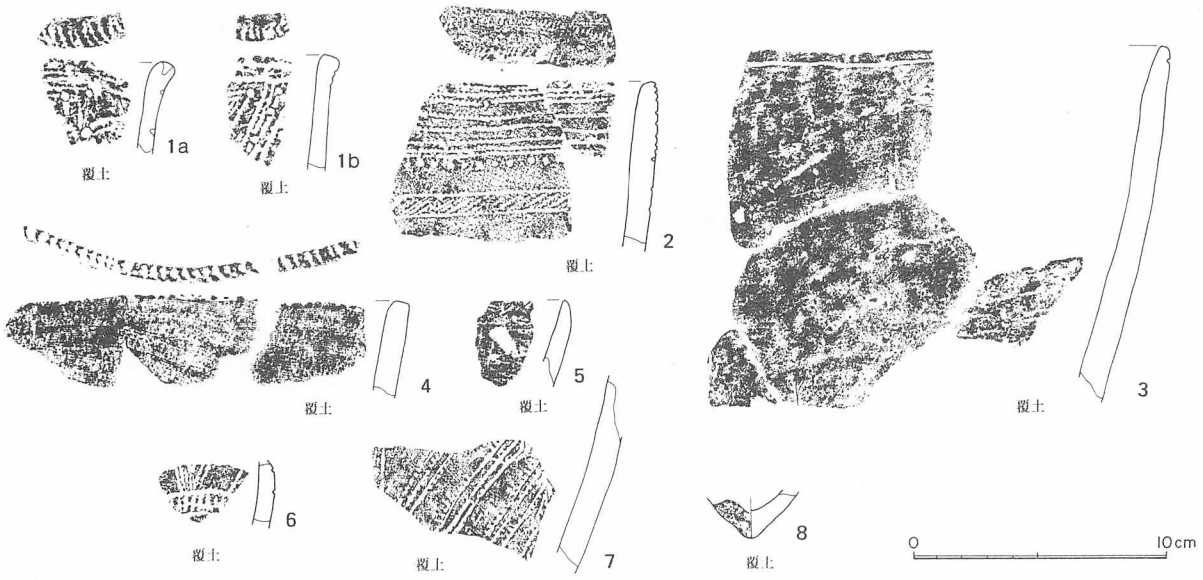

土層：①暗茶褐色土（やや堅く、粘質）　②暗褐黄色土（粘質で堅い）　③暗褐色土（①が少量混入、粘質）　④暗黄灰色土（粘質）　⑤黒茶褐色土（粘質）

図Ⅲ－94　Ｈ－34実測図

遺物

土器（図Ⅲ－95　図版63）

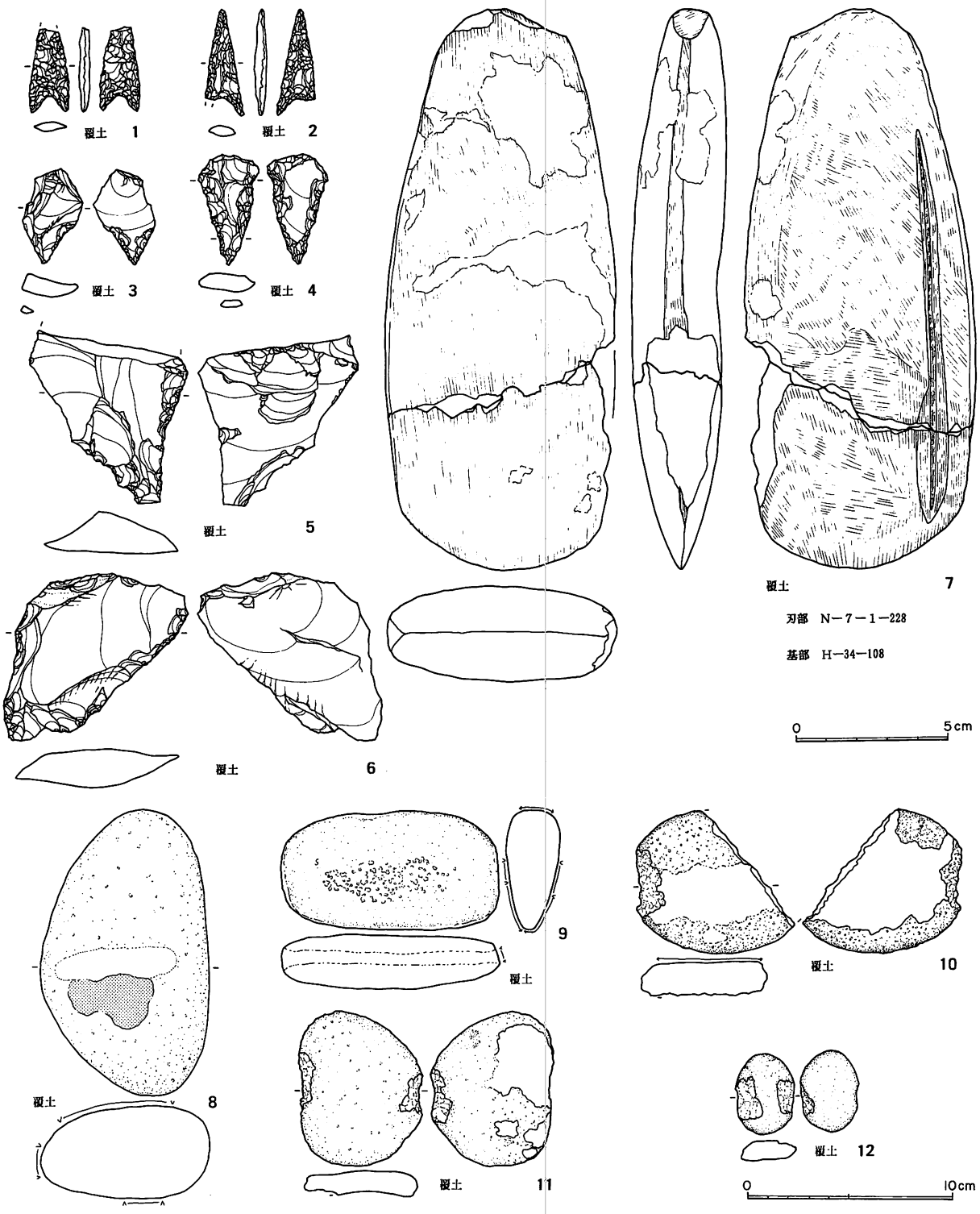
1a・bは同一個体の破片。重複するH－35の覆土（図Ⅲ－98－4）から8点、N－7－21から2点出土したが接合はしなかった。またH－20の床面からも小片が1点出土している。胎土は非常に脆い。緩やかな波状口縁の中型深鉢型土器とみられる。口縁の波頂部をやや肥厚させ、その部分にのみ貝殻腹縁文を施し、波頂部の中心とその両端に楕円形刺突文を施文している。2は覆土とH－44覆土出土の破片が接合したもの。同一個体破片は、広範囲に分散している。H－32（図Ⅲ－84－2）、H－19（図Ⅲ－28－2）、またH－38（1点）、N－7－10・20・33、昨年度のH－9（図Ⅲ－61－27）も同一個体破片である。3は体部がやや厚手で、口縁部にむかって薄くなっている。口縁部に1条、沈線文が引かれている。口唇部に2ヵ所、棒状工具によるかとみられる浅い刻みがある。器面には斜位、縦位に条痕があるが、指などでナデて消されている部分が多い。内面には整形の際に生じたと思われる凹凸があり、粗い条痕が口縁部付近では横位、下位では斜位に観察できる。4・5は無文のもの。4はN－7－12の破片（2点）と接合した。器面には、H－30の土器（図Ⅲ－79－1）にみられるような文様効果のある条痕文が横位に施されている。口唇上には貝殻腹縁部による刻み目が施されている。5の口唇断面は尖り気味である。6は腹縁文による文様が施されている。接合はしないが昨年度のH－9（図Ⅲ－61－21）と同一個体である。7はH－24・26・33出土のものと同一個体（図Ⅲ－89－14）。8は砲弾形の底部。




図Ⅲ－95　H－34出土土器

石器（図Ⅲ－96　図版91）

1・2は三角形凹基鏃。3・4は石錐。いずれも打面を残し、素材の末端部を尖頭状に加工する。4は加工が側縁全体に及ぶ。5・6はスクレイパー。5は折れた後に加工している。7は擦り切り石斧。刃部がN－7－1出土のものと接合する。包含層出土のものがより白っぽい。浅い擦り切り溝が片面に残る。8はたたき石。中央には帯状に白く変色した部分があり、主としてその下半分に黒い付着物が認められる。9はすり石1類。たたき痕が平坦面や周縁に著しい。10～12は石錘。10は砥石からの転用品。12は長辺加工のうち最小のものの一つである。




図Ⅲ－96　H－34出土石器

Ｈ－35（図Ⅲ－97　図版24・25）

**位置**：Ｎ－７－20・21　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は49.34ｍ～49.44ｍである。　**規模**：（3.90ｍ）／（3.70ｍ）×3.10ｍ／2.96ｍ×0.16ｍ

**平面形**：卵形？　**床面積**：9.29㎡　**長軸方向**：Ｎ－25°－Ｗ

**確認・調査・土層**：Ｎ－７－21周辺の包含層調査中、Ｈ－34に切られた半円状のⅢｂ層の落ち込みが検出された。また一方Ｈ－17の南東壁際で焼土が検出されたためＮ－７－21周辺の状況を把握するため、北西－南東に小トレンチを設定し、住居跡があるかどうかの確認作業を行った。この結果Ｎ－７－21の杭のすぐ西側で焼土が検出された。この焼土と半円状の落ち込みとの関係を明確にするため南西－北東に小トレンチを設定し、その断面観察をしたところ、焼土の東側に壁の立ち上がりが確認された。Ｎ－７－21周辺を更に精査し、ほぼ隅丸方形状の輪郭を確認し、Ⅲｂ層を除去し、遺物を取り上げつつ、覆土の掘り下げを行った。覆土は三層である。覆土１層は軟質の黒茶褐色土（土層図１）、層厚はほぼ10㎝前後である。中央部分は薄い。覆土２層は粘質の黒色土である（土層図５）。層厚は５㎝～10㎝である。覆土３層は汚れた暗黄褐色土（土層図７）で、３㎝～５㎝ほどの層厚である。

**床面**：ほぼⅤ層上面に構築されている。非常に堅い。ほぼ平坦で、西側がややくぼんでいる。

**壁**：全体的に急傾斜で立ち上がっている。壁高は北東側が５㎝ほどで浅いが、他は11㎝～16㎝である。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは４個検出されている。壁から10㎝～30㎝内側をめぐるもので、すべて直立している。小ピット間はほぼ1.30ｍである。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は971点である。この内訳は土器698点、石器273点である。遺物はすべて覆土中から出土している。覆土１層から402点、覆土２層から556点と同層で出土遺物の大半を占めている。覆土中層からⅡ群土器が１点出土している以外は、すべてⅠ群Ｂ類である。北東壁際では器面の外面を上にして流れ込んだ状態を思わせる土器片がまとまって出土している。石器では石鏃、石匙、箆状石器、石錘、石鋸、石斧、砥石、研磨石材、すり石、たたき石などが出土している。遺物は、覆土どうし、覆土と他遺構、包含層という接合関係を示している。覆土中層出土の土器片８点とＨ－25、Ｈ－26、Ｈ－９の覆土、Ｎ－７－31のⅢｂ層出土の土器片が接合している。また、覆土中層出土の土器片とＮ－７－90のⅢ層、覆土中層出土の土器片とＮ－７－21のⅢ層、覆土上層出土の土器片とＮ－７－03・20・21・33・04、Ｍ－７－84・94のⅢ層出土の土器片とそれぞれ接合している。石器では覆土上層中から出土したすり石片が３点接合し、またＨ－40覆土出土のすり石とも接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢｂ層中と思われる。覆土、周辺包含層から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はＨ－34、Ｈ－40、Ｈ－41と重複しており、Ｈ－34より古く、他の住居跡より新しいものである。

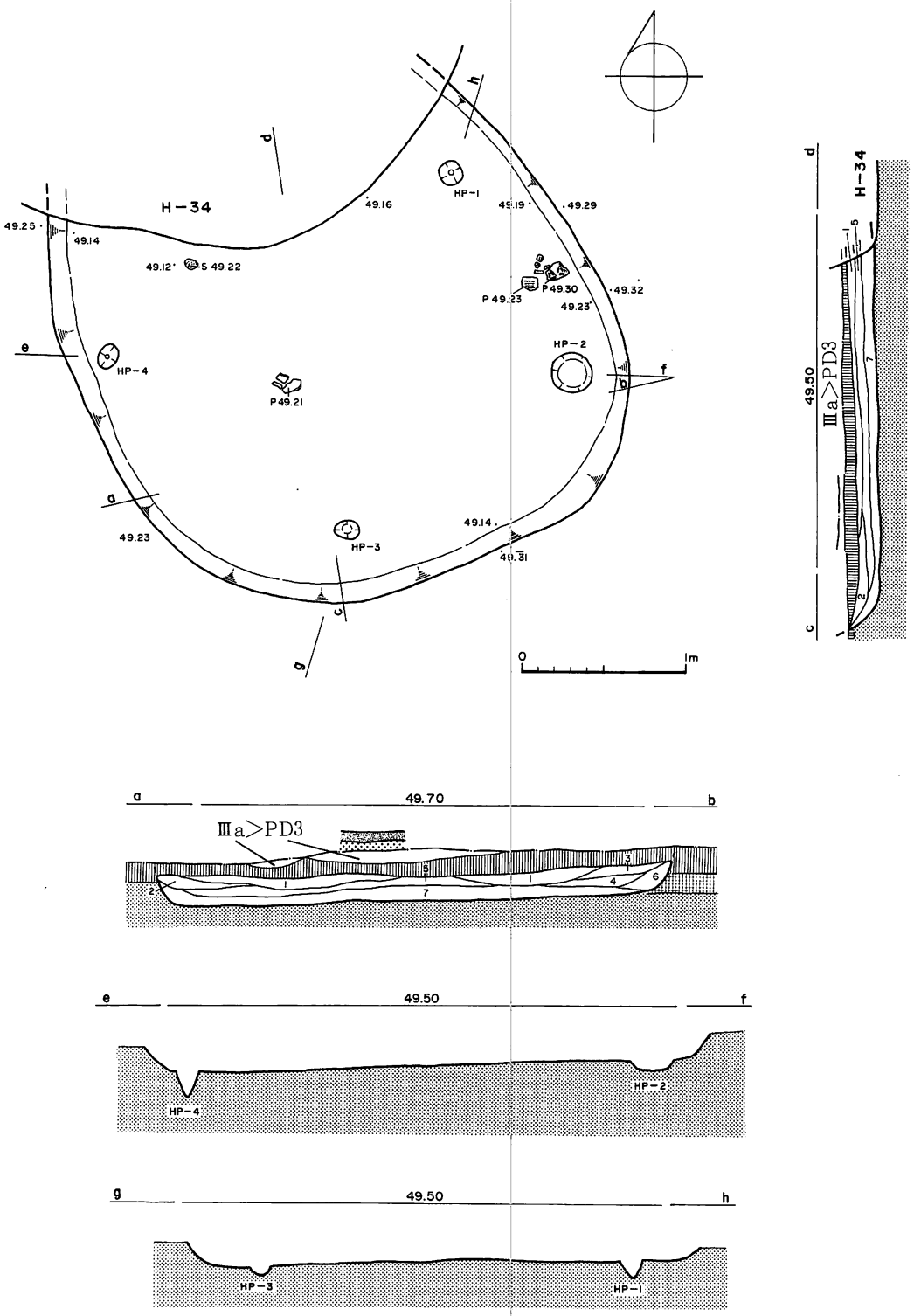
表Ⅲ－14　Ｈ－35小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 11×10(㎝) | 11(㎝) | 暗黄褐色土 | 床　面 | 直立、先端部細い | ＨＰ－３ | 14×10（㎝） | 3（㎝） | 暗褐色土 | 床　面 | 浅い、 |
| ＨＰ－２ | 25×25 | 5 | 暗褐色土 | 〃 | 浅い皿状 | ＨＰ－４ | 15×12 | 15 | 黒褐色土（粘質） | 〃 | 直立、先端部細い、礫・土器片を混入 |

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－98　図版49・63・64）

１～13はⅠ群Ｂ類土器。１は覆土２層の破片と北側、西側にそれぞれ近接するＨ－19・39覆土出土



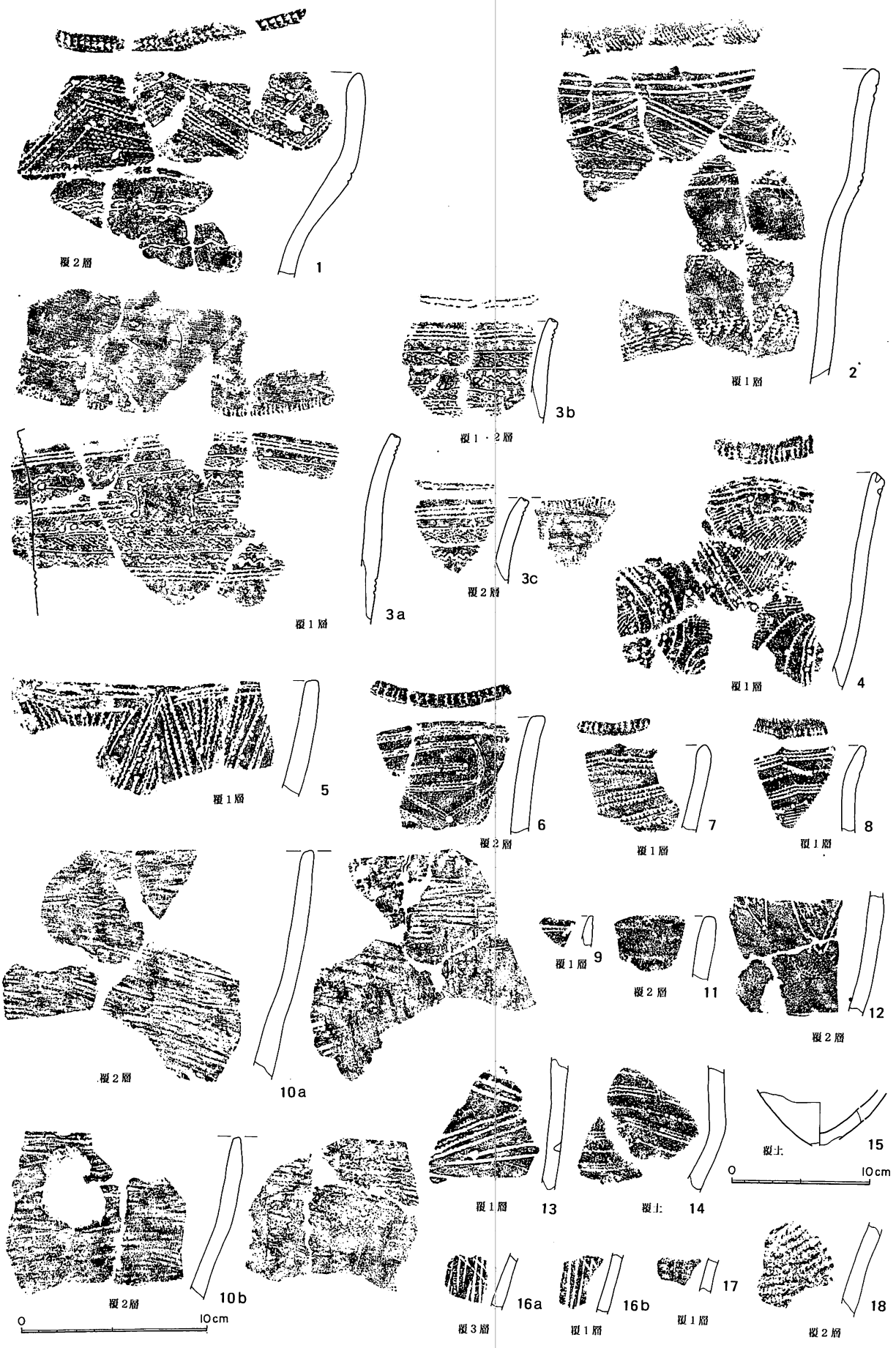

土層：①黒茶褐色土（軟質）　②暗褐色土（粘質）　③黒茶色土（軟質）　④黒褐色土（微少の黄色土が混入、粘質）　⑤黒色土（粘質）　⑥黒褐色土（黄色土混入）　⑦暗黄褐色土

図Ⅲ－97　Ｈ－35実測図

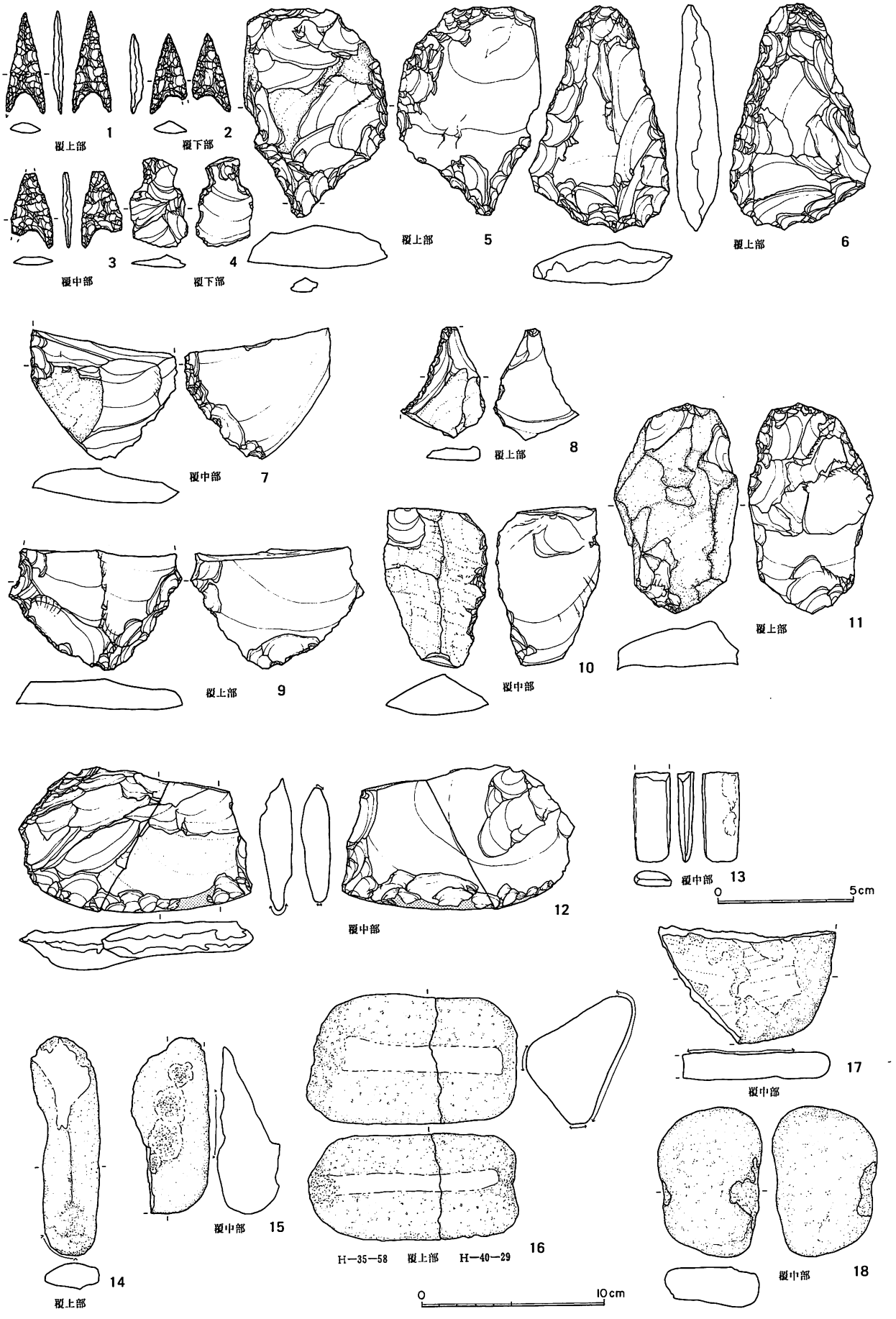
の破片が接合した。近接するH－22・39からも小片が出土している。また昨年度調査したH－3・6出土の破片と同一個体（図Ⅲ－45－9）。キャリパー状の器形の大型土器。口唇部は尖り気味で、内面に貝殻腹縁部による刻みが深く施文されている。口縁部は緩やかな波状で両端に副突起がある。腹縁文により連続的に大きく鋸歯状の文様が描かれているようである。胴部には部分的にとぎれる鋸歯状沈線文を2条あるいは1条、横位に施文している。胎土に白い砂粒（長石・石英等）が多く、脆い土器である。2は覆土1層の破片とN－7－21、N－7－33、N－7－03、さらに40m～50m離れたM－7－84・94の破片が接合したもの。昨年度のH－3（図Ⅲ－18－8a～c）、H－9（図Ⅲ－60－18）、N－7－04・45・55（図Ⅳ－8－59a～e）出土の土器片も同一個体。非常に広範囲に分散しており、破片も多数あったが、大型土器であるためか接合しなかった。頸部がわずかにくびれるキャリパー状の器形。山形の波状口縁になるとみられ、両端に副突起がある。口縁部の裏面には押引き文的な貝殻腹縁圧痕文が施されている。口縁部に2条、頸部に2条の腹縁文がめぐっているが、頸部のものにはその間に細い棒状工具で小さな円形刺突文が施されている。沈線に重ねられている貝殻腹縁圧痕文はやや押引き的である。口縁部の文様構成は1と類似し、斜位の腹縁文で区画し三角形状の文様を展開させているようである。胴部には貝殻腹縁部による連続波状文を間隔をあけて何段か施しているとみられる。焼成が良く、色調は赤褐色である。3は覆土1層出土のもの。同一個体片はH－38（図Ⅲ－116－1）、N－7－05・21からも出土している。緩やかな波状口縁の中型土器。文様帯は口縁部のやや広い範囲に限られそうである。腹縁文で区画された内に、細長い帯状の文様が横位に展開されている。上位の腹縁文下には、平行沈線文間に貝殻腹縁圧痕文を斜位に充填させた帯状文様と、短い鋸歯状沈線文が交互に配されている。文様帯の下部には、帯状文様と鋸歯状文様が間隔をあけて施されている。このような上下の文様の空間部に、上下の一部分を「鉤の手」形に変化させた長方形状の文様が間隔をあけて配されているとみられ、この文様の上下にも、鋸歯状沈線文が施されている。円形刺突文は鋸歯状沈線文の両端、沈線文の角に配されている。口唇上と内面角に貝殻腹縁圧痕文が施されている。内面には横位に細かい条痕が観察できる。4はH－34（図Ⅲ－95－1a・b）から口縁部の一部が出土している。覆土出土の破片と接合した。口縁は緩やかな波状。体部の波頂部下では三角形、その両側には円形の文様を配しているとみられる。比較的大きな円形刺突文が、3条の腹縁文の中央の線に配され、波頂部下の文様の交叉する部分には、ほかの部分より大きい刺突文が配されている。

胎土が脆く、ボロボロと崩れやすい。5～12は覆土1・2層出土のもの。口縁部の一部なので、全体の文様構成ははっきりしない。5・6は緩やかな波状口縁部。5は太い沈線と大型の貝殻の腹縁圧痕文で三角形の文様が描かれているとみられる。6は横長の文様と三角形状の文様がある。7・8はいずれも副突起部分。口唇内面に貝殻腹縁圧痕文による短い刻みがある。9はミニチュア土器。10a・bは緩やかな波状口縁のもの。大型の貝殻の腹縁部、あるいは篦状工具によるものかとみられる条痕が横位に施されている。雑な施文ではあるが、文様効果を意識したのかもしれない。内面には口縁部に横位に粗く条痕が施されている。胎土は橙色である。11は無文のもの。12～16は胴部片。12は三角形状の垂下する文様がある。14は文様の中心部とみられ、内面から指などで押して器面を盛り上がらせている。15は砲弾形になるとみられる底部。

16～17はⅠ群E類土器。16a・bには細い沈線が斜位に施されている。18は0段多条の縄文が施されているⅡ群土器。




図Ⅲ－98　Ｈ－35出土土器




図Ⅲ－99　H－35出土石器

**石器**（図Ⅲ－99　図版92）

1～3は三角形凹基鏃。4は素材に抉りを入れただけの石匙である。5は石錐。素材の末端部に尖頭部を作出している。6は篦状石器。両面とも素材面を残し、加工は粗い。7～9はスクレイパー。10・11はRフレイクである。11はバルブ除去のための加工で、背面には加工がほとんど行われていない。12は硬質頁岩の石鋸である。側縁の剥離後にすっている。3側縁にすり面が残るが、末端部が最も著しい。一方は折れた後も使用されており、末端部ではすり面が段違いとなっている。13はのみ型のすり切り石斧。表面の風化が著しく、研磨痕は不明瞭である。14・15は棒状のたたき石4類。14は一端が大きく割れている。15はくぼみ状のたたき痕がある。16はすり石1類。H－40出土のものと接合する。17は偏平な円礫素材の砥石である。18は石錘。

H－36（図Ⅲ－100・101・102・103・104　図版26・27）

**位置**：N－7－10・20区に位置し、H－25の覆土中に構築されている。標高は49.10m～49.25mである。

**規模**：4.72m／4.36×3.18m／3.00m×0.18m

**平面形**：台形状　　**床面積**：11.71㎡　　**長軸方向**：N－86°－E

**確認・調査・土層**：包含層調査中に長円状にP.D.3の落ち込みが認められ、遺構の存在を想定した。H－25でも触れたように、当初はひとつの遺構として考えていたが調査途中でH－25の中に別の遺構があることを確認、H－36とした。H－25のくぼみを利用して構築されたものと思われる。遺構の上にはP.D.4が薄く堆積しており、Ⅲb層は西～北側から流れ込んでいる。覆土1層は粘性の強い黒色土で、十数cm堆積する。遺構の北、東、南側周辺では黒～暗褐色土（2・4・5層）があり、特に西から南側で比較的厚く堆積していた。南西付近では、2層とH－25覆土との区別が難しく壁の確認に手間取った。

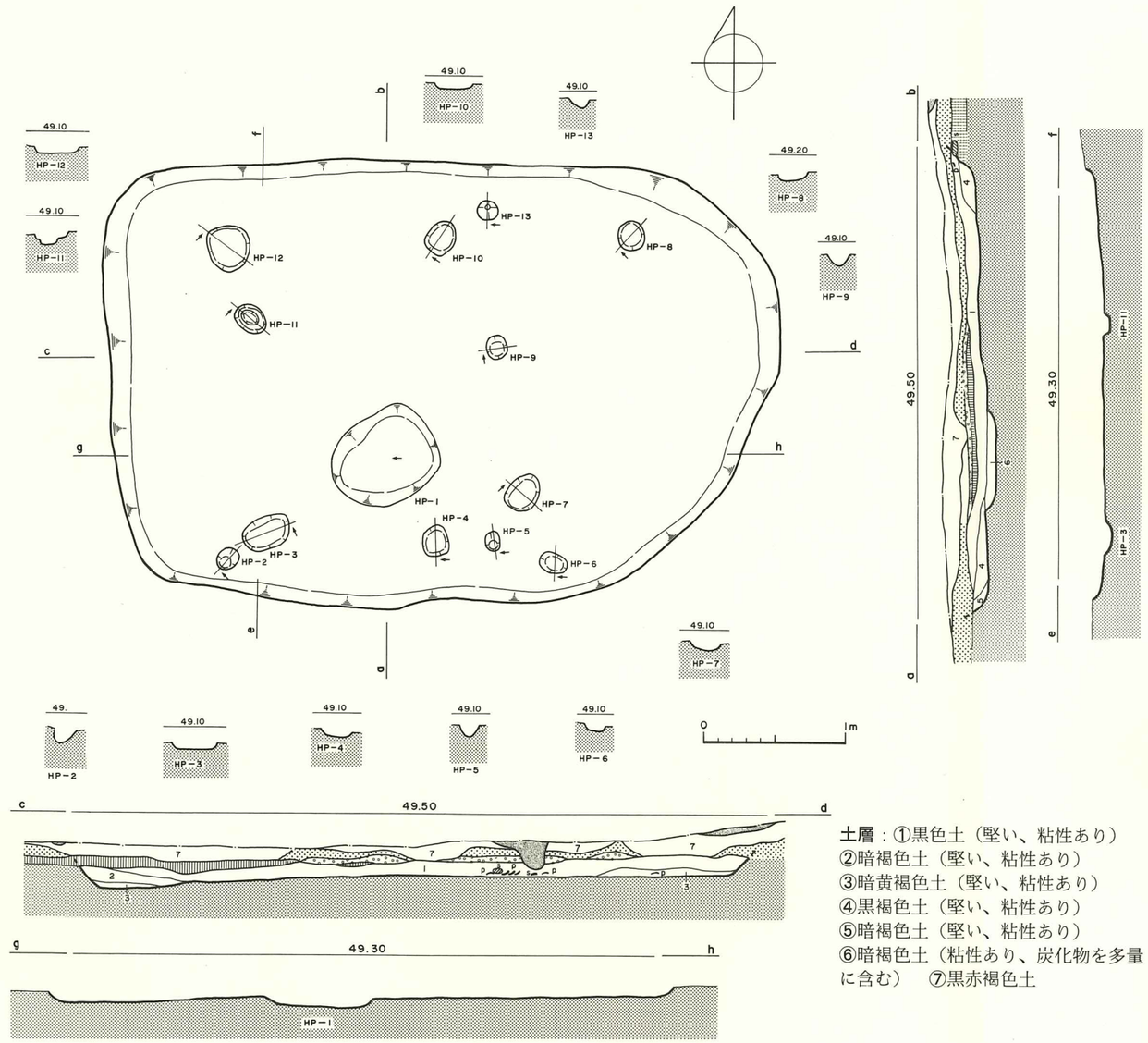
**床面**：確認面からの掘り込みは浅く、十数cm程度である。南西にわずかに傾斜している。HP－1周辺はややくぼんでいる。これはH－25・HP－1の影響によるものであろう。床面の土壌は1mマスごとに採取しフローテーションを行ない、炭化植物遺体の鑑定、$C^{14}$年代測定を依頼した。

**壁**：北側での立ち上がりは明瞭、逆に南西側では不明瞭であった。

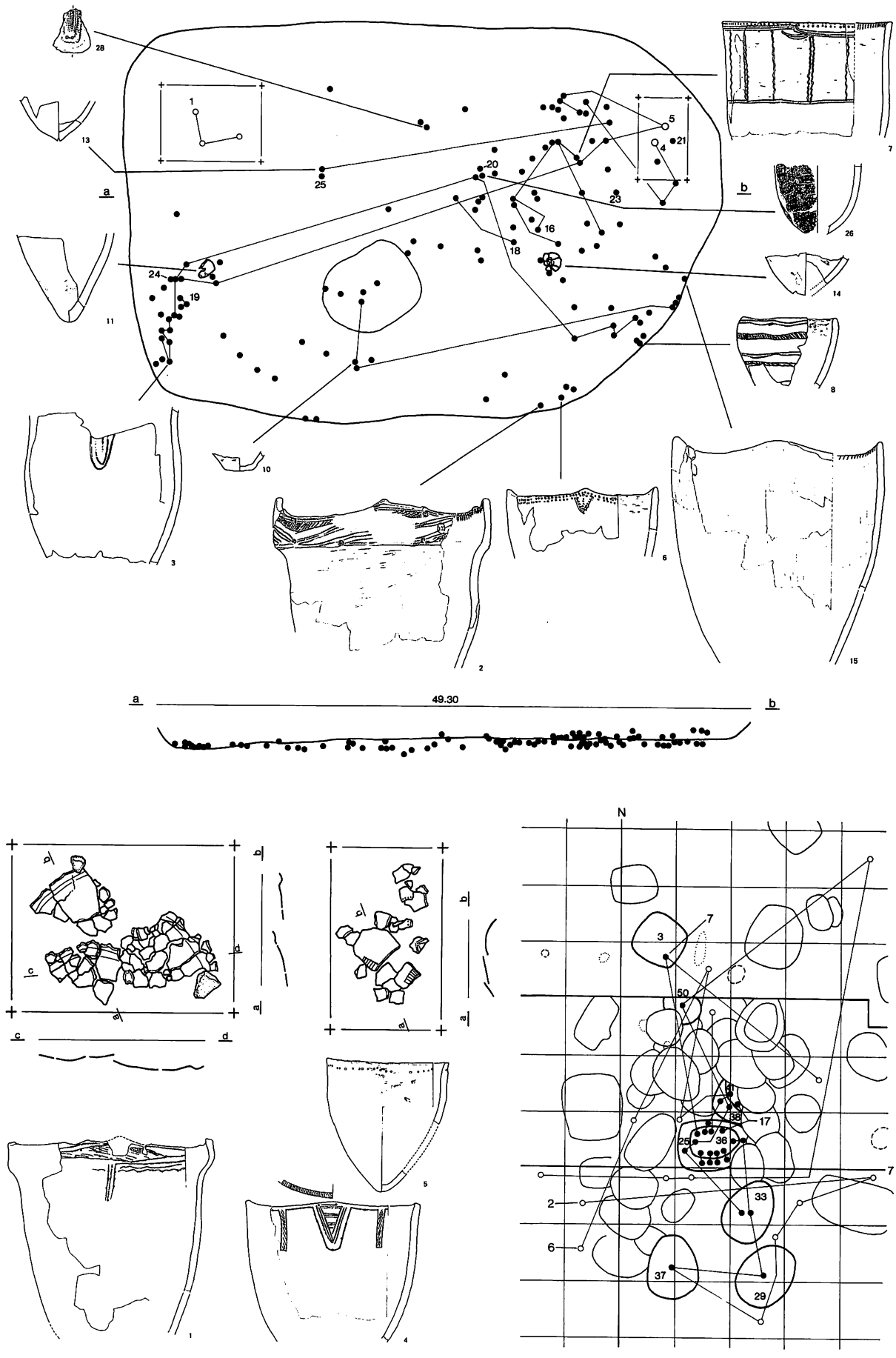
**炉跡**：焼土は検出されなかった。ただし、HP－1には多量の炭化物が含まれており、HP－1を炉として利用していた可能性はある。

**付属ピット**：HP－1はHP－25・HP－1と重複しており、HP－25・HP－1のくぼみを利用したものと思われる。0.76m×0.62m×0.08mの皿状のピットである。覆土は炭化物を多量に含む暗褐色土で、フローテーションの結果、果肉付キハダ、クルミ属種子が検出された。H－25・HP－1と比較して少量である。HP－2～13は柱穴状の小ピットである。概して浅い。大型で5cm程度のもの（HP－3・4・7・8・10・12）と小型で深さ8cm～10cmのもの（HP－2・5・9・11・13）とに分けられる。HP－6・9以外は南北での組合せが可能である。

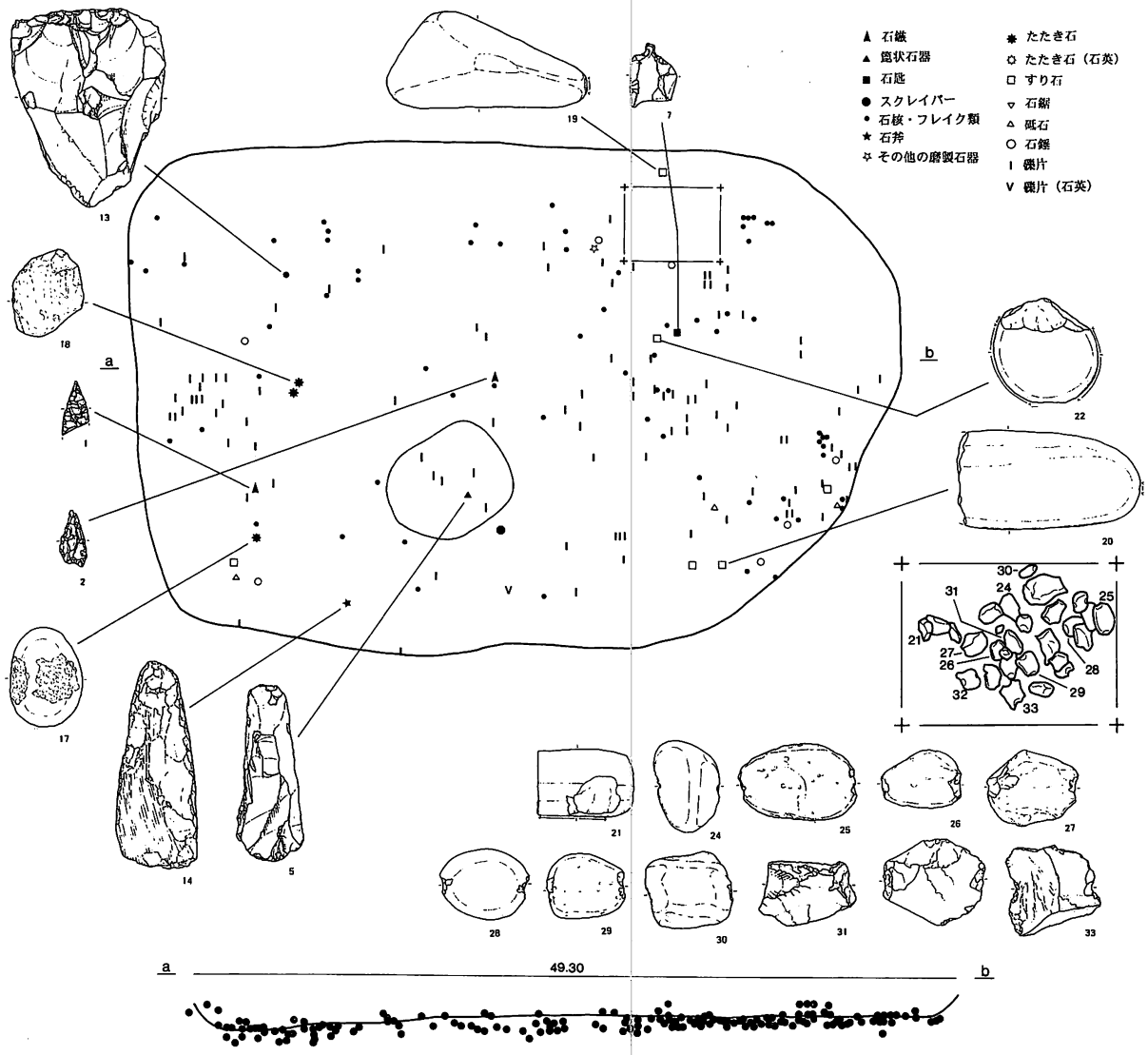
**遺物出土状況**：出土遺物総数は1,442点で、土器1,232点、石器190点である。土器が大部分を占める。覆土出土の土器は217点で、主として北半部に分布する。Ⅰ群E類が1点ある他はすべてⅠ群B類である。石器は58点出土しており、分布は土器と同様北半部が多い。石鏃、石槍、石匙、スクレイパー、石斧、研磨石材、すり石、砥石、石鋸、石錘等が出土している。研磨石材は約26m離れたN－7－45区出土のものと接合する。床面付近の土器は1,015点出土している。すべてⅠ群B類である。分布は北西および南西隅と北東部に偏る。南西隅と北東部の土器には接合関係が認められる。顕著な土器集

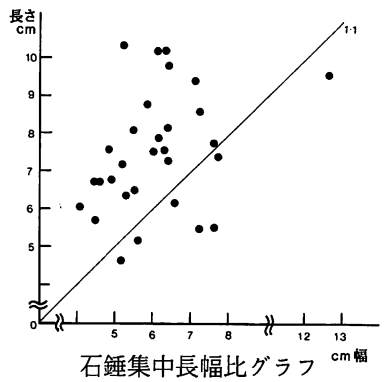



図Ⅲ－100　H－36実測図

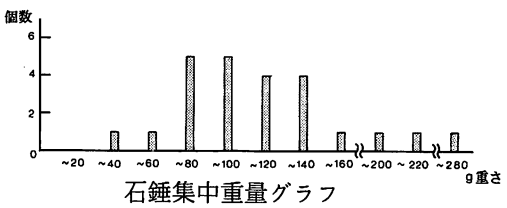



図Ⅲ－101　H－36出土土器（床面）の分布と接合図

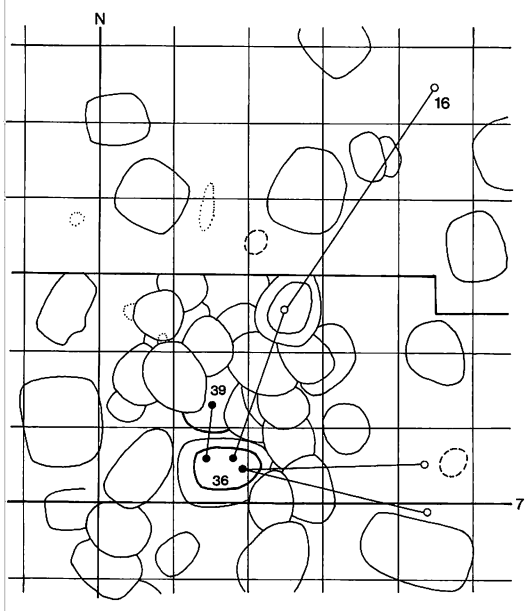


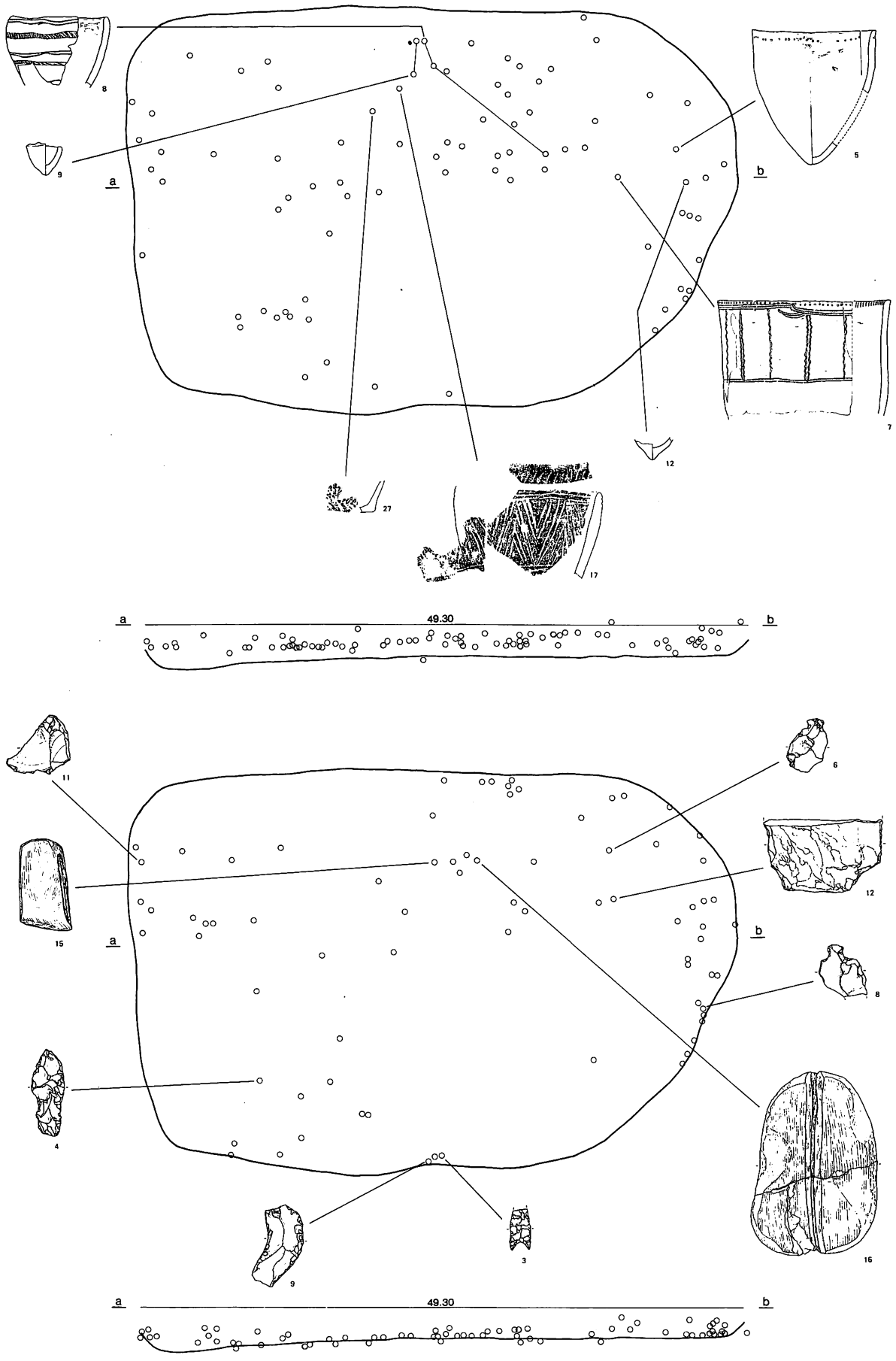

石錘集中長幅比グラフ




石錘集中重量グラフ



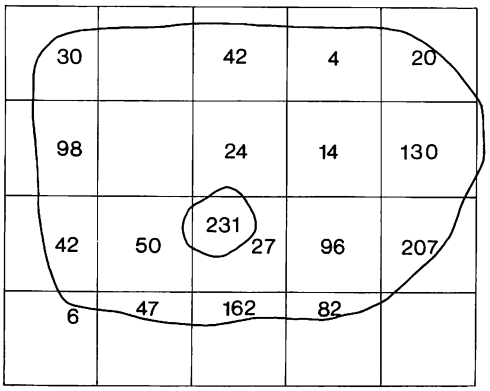

図Ⅲ－102　Ｈ－36出土石器（床面）の分布と接合図




図Ⅲ－103　H－36出土遺物（覆土）の分布と接合図

中は2ヶ所ある（A・B）。土器集中Aは、床面より若干上にあり、3つの大型破片が内面を上にして出土した。これらは同一個体である。底部を除く径の3分の2程度のものをさらに3分割して廃棄している。一部HP－12にかかっており、H－36の廃棄後しばらくして土器を廃棄したものと思われる。土器集中Bでは主として2個体の土器が出土した。外面を上にして出土しているものが多い。石器は132点出土している。石鏃、石槍、箆状石器、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、砥石、石錘等が出土している。東半部と西側の一部で出土が多いが、土器の分布が濃いところとは多少ずれる。北東の壁ぎわでは石錘が29点重なって出土した。集中出土の石錘をみると、素材の大きさは1点のみ突出しているものの他は、5㎝～10㎝大のものである。重さは60ｇ～140gに集中する。加工部位は長軸が多いが、短軸のものもある。石材は、閃緑岩、頁岩、流紋岩、凝灰岩等、多様である。また、形状は円礫だけでなく角礫（6点）もあり、素材の大きさ以外ではあまり統一性がない。遺構間接合は、H－3・25・29・33・37・38・41・50でみられる。

**時期**：掘り込み面はH－25同様Ⅲb層中と思われる。床面の土器がⅠ群B類であることから、縄文時代早期中葉の時期と思われる。



図Ⅲ－104　H－36出土の微細なチップの分布図

フローテーションの結果、炭化植物遺体としてキハダ属種子、果肉付キハダ、クルミ属種子が検出された。また微細なチップ類、土器片も2,070点検出されている。フローテーションで得られた遺物は、全体的に東半部、特に南東側で分布が濃い。

C$^{14}$年代測定では8660±180B.P.の値が示されている。

**遺物**

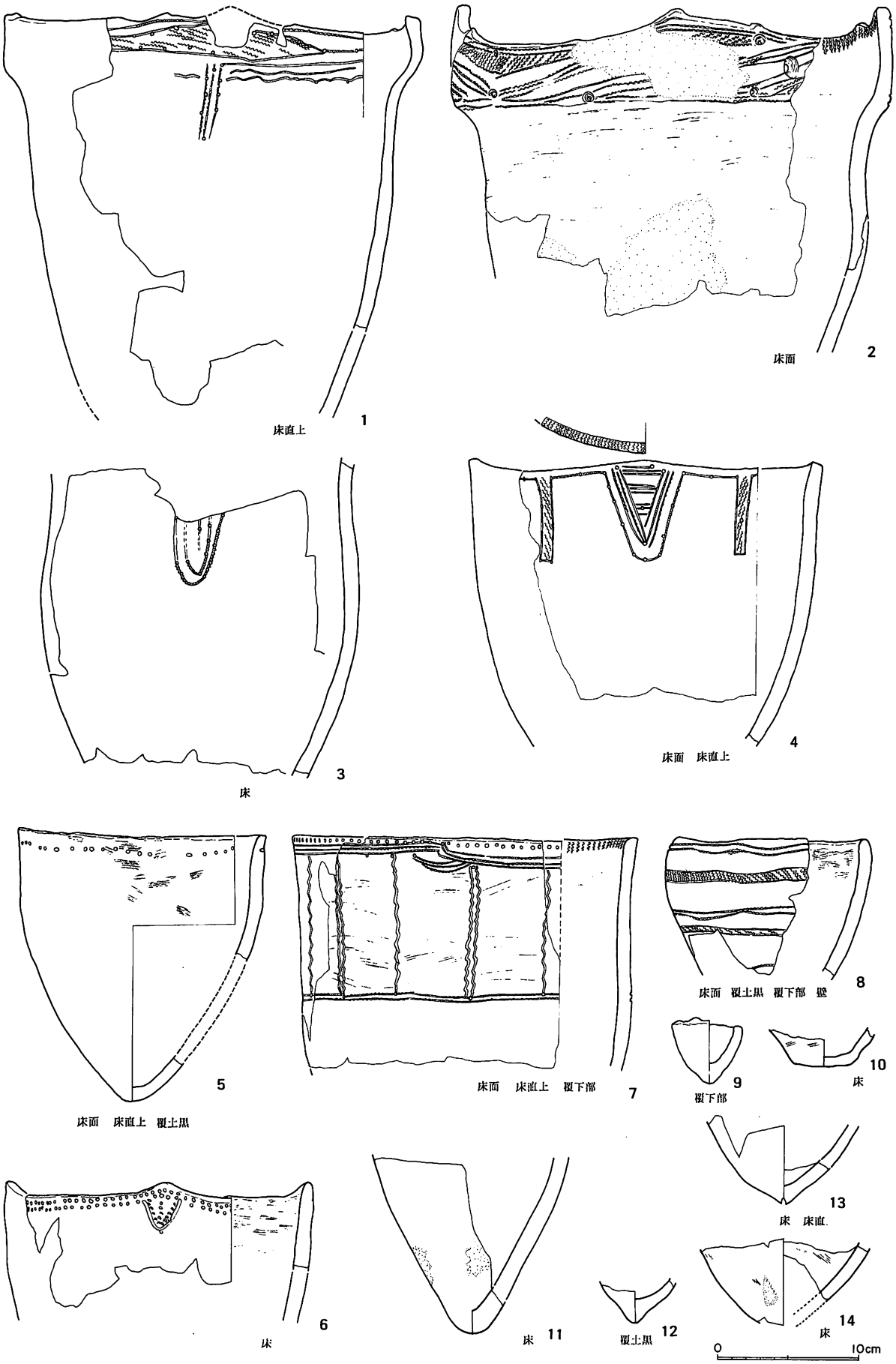
**土器**（図Ⅱ－105・106　図版50・51・65）

1・2はキャリパー状の器形のもの。いずれも4ヵ所に山形の波頂部があり、その両端には副突起がある。1は胴下半部は欠損しているが、上半部の2分の1が残存する。遺構の北西側床直上からまとまって多数出土したが、器面は剥落している部分が多く、半数程の破片が接合したのみである。口縁部の幅は狭く、直立する部分と、指などで押して、大きく内湾する部分がある。体部は凹凸が著しい。口縁部と口頸部に1条ずつ腹縁文をめぐらせ、それぞれの波頂部下に、沈線文によって非常に細長の菱形の文様を配しているとみられ、文様間は腹縁文によってつながれている。波頂部下位には、やや左下がりの腹縁文が3条垂下されている。本来は真っすぐに施文する意図であったと思われる。円形刺突文は沈線文上、垂下する腹縁文の両側、あるいは区画内に充填されている貝殻腹縁文の端に施文されるほか、山形の波頂部では、突起部を肥厚させて、ほかの部分より大きな刺突文を縦位に複数施している。また、頸部の直下には崩れた鋸歯状沈線文が1条ないし2条横位に施されているが途切れる部分もある。口縁部から胴部にかけて横位に粗い条痕がみられるが、指などでナデ消されている部分もある。内面にも同様に横位に粗い条痕がある。胴下半部にはケズリの痕跡が残る。整形・施文ともに稚拙である。2は床面の破片と、重複するH－25、近接するH－37、M－8－98、N－8－28・29出土の破片が接合した。同一個体の破片はH－29、33からも出土している。3条一単位の沈線

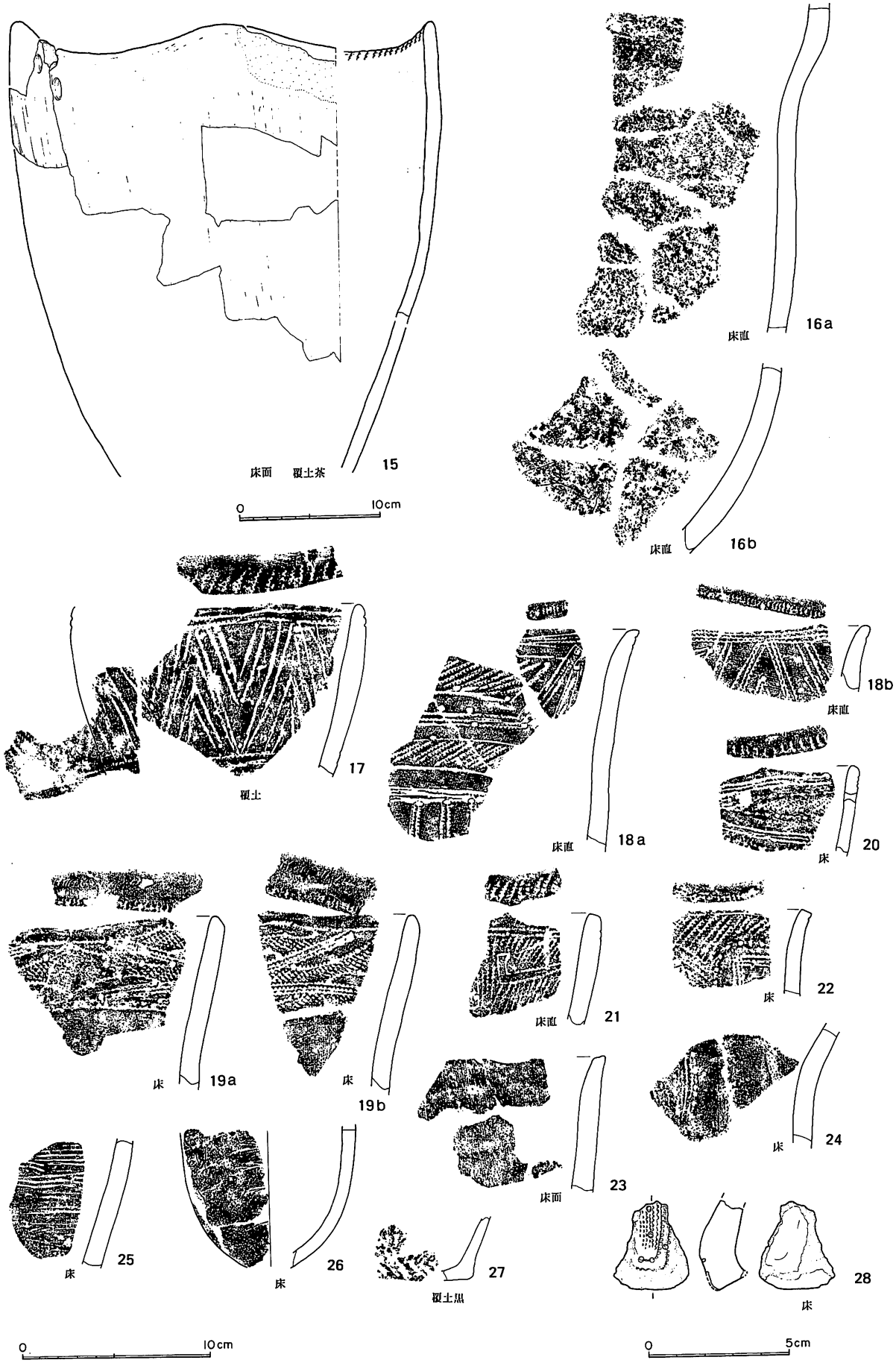
文を副突起部から波頂部間に配し、全体を三角形状に区画している。上下の再区画された空間には左下がりの貝殻腹縁文が斜位に充填されている。貝殻腹縁圧痕文は沈線にそうような形になっている。円形刺突文は径が、3㎜～4㎜ある大きなもので、圧痕が螺旋状であることから巻貝の先端を利用したものとみられる。口縁部から胴部半ばまでは横位に条痕がみられるがナデ消されている部分もある。内面は頸部と胴半ばに炭化物が付着している。3は床面、床直上の破片が接合した。口縁部と体部下半の輪積みの位置で欠損している。体部のくびれ、垂下する文様帯から判断するとキャリパー状の器形の可能性がある。波頂部下位に相当すると思われる位置に半截竹管状工具あるいは細い棒状工具で垂下する舌状の文様が描かれている。円形刺突文は沈線間にほぼ等間隔に施されている。体部は赤褐色を呈し、かすかに斜位の条痕がある。内面は半ば程に縦位の条痕があり下半部は黒褐色を呈する。胎土に白い砂粒（長石・石英等）が比較的多い。4は体部下半は欠損している。床直上の破片と重複するH－25覆土1層の破片が接合したもの。同一個体の破片は10数点以上あったが、磨滅が著しく接合しなかった。破片は大きく2つの部分に接合できたので、図上で器形を復元した。体部から口縁にむかって、やや開き気味に立ち上がる器形のもので、4ヵ所に緩やかな波頂部がある。文様はかろうじて判別できた。腹縁文で波頂部には舌状の文様を、その両端の副突起部に相当する位置には、縦長の垂下する長方形の文様が配されている。角形の口唇部には短い貝殻腹縁圧痕文が縦位に施されている。色調は3同様に全面赤褐色。内面も剥落していてはっきりとは観察できないが口縁部付近では横位に細かい条痕がある。5は北東側の床面からまとまって出土した。同一個体片は、このほか10点あったが、磨滅していて接合しなかった。全体の2分の1が残存する。平縁で底部は小さな丸底に近い。体部半ばから口縁にむかってほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はごくわずか外反する中型土器。平縁で口唇上から内面はナデられている。口縁部には円形刺突文がめぐらされているが施文間隔、大きさともに不揃いである。口縁部には横位に、体部下半には縦位に細かい条痕がある。内面には横位、斜面にみられる。口縁部から体部下半までと丸底気味の底部は赤褐色であるが、底部から5㎝～6㎝上位の部分は黒色に変色している。6は床面の破片と、重複するH－25・38、近接するH－41、周辺の包含層の破片、さらに昨年度の包含層出土の破片（図Ⅳ－9－83）が接合した。口縁部の3分の2が残存する。4ヵ所に山形の波頂部がある。文様は口縁部の狭い範囲に限られ、口縁にそって楕円形の刺突文を2条めぐらせ、波頂部には棒状工具で三角形に区画した中に3列施れている。器面には細い斜位の条痕と細かい棒状工具によるかとみられる条痕がある。口唇上から内面はナデ調整されているが、幅1.5㎜～2.0㎜程の貝殻の腹縁部の一部を利用したとみられる条痕が横位に施されている。7は床面、床直上、覆土下位出土の破片が接合したものと、25m程北側のH－3出土の破片とN－7－31の破片が接合したものを、図上で器形を想定し復元した。図の文様部分は本遺構出土の部位である。平縁で、口縁部は直線的に立ち上がる。口縁部には楕円形の刺突文が一列めぐり、その下位には2条一単位のクランク状の腹縁文をめぐらせている。さらにこの部分には3条一単位の沈線文、腹縁文による弧線を配している。ここから、体部半ばにめぐらされた2条の腹縁文に1条、2条一単位の鋸歯状沈線文を間隔をあけて施している。8は床面・覆土1・3層・壁出土の破片と重複するH－25の破片が接合した。同一個体の小片はH－37からも出土している。厚手て口縁部が内湾する中型土器。体部下半と上半部の2分の1程が残存する。器面には凹凸がある。口縁は不規則に波打ち、口唇断面は丸味を帯びている。2条一単位の腹縁文と、平行沈線間に貝殻腹縁圧痕文を斜位に充填させた帯状の文様を口縁部から順に間隔をあけて器面に施しているが、体部下半までおよぶものとみられる。器面には横位の条痕がみられるが、指などでナデ消されている部分が多い。内面には、横位に細かい条痕がある。胎土に4㎜程の小砂利が混じっている。昨年度包含層出土のもの（図Ⅳ－5－18）と胎土・

焼成・器壁の厚さなど類似している。15は無文の大型土器。この土器は昨年度平縁の深鉢形土器として報告した（図Ⅳ－６－27）ものであるが、同一個体片が多数出土し接合したので、改めて報告することとする。Ｈ－36と床面の破片と重複するＨ－25、近接するＨ－33・38・40の覆土出土の破片、周辺の包含層Ｎ－７－00・10・22，Ｎ－８－19出土破片が、昨年度のものと接合した。４ヵ所に緩やかな山形の波頂部がある大型土器。体部下半は欠損している。体部から口縁部にむかって直線的に立ち上がり、口縁部はやや内湾する。口唇断面は丸味を帯びており、内面には貝殻腹縁部による圧痕文が刻み目状に縦位につけられている。器壁は厚く口縁部から体部半ばまで部分的にケズリの痕跡があるが幅４㎜～５㎜の篦状工具によって縦位にナデ調整されている。内面は同様な工具で縦位、斜位に調整がされている。胎土には白い砂粒（長石・石英等）が比較的多い。焼成は良好。９は手捏ねのミニチュア土器。10～14は底部。11・13・14は底面から出土した。10は平底。底面、器面ともに凹凸が著しい。細かい条痕が横位にみられる。11は丸底気味である。内面は縦位に丁寧に調整され、底部付近は斜位・縦位の条痕がある。胎土には黒色の砂粒（角閃石）がほかの土器よりも多い。12は乳房状尖底に近い。胎土に灰白色、白色の砂粒が多い。13はやや尖り気味の砲弾型になるとみられるが、尖底部には、焼成以前に、先の尖った棒状工具により４㎜程の孔が穿たれている。内面には横位に条痕が残り、尖底部は指などで押して整形している。14は輪積みの位置で欠損している。底部は丸底気味になると思われる。16ａ・ｂは同一個体の体部上半と、底部に近い部位の破片。いずれも床直上からまとまって出土したもの。同一個体は20数点出土し、いくつかの部分に接合したがすべて磨滅が著しいため、かろうじて器形の判別できる部分を掲載した。頸部のくびれの形から、キャリパー状の器形とみられる。色調は赤褐色である。17は覆土の破片とＨ－41出土の破片が接合した。やや内湾気味の厚手の中型土器のごく緩やかな波状になるのかもしれない。口唇は丸味を帯びた角形で、口縁部内面には、10㎜程の長さの貝殻腹縁圧痕文がやや間隔をあけて施文されている。文様は体部半ばまでとみられ上下の区画内に腹縁文で鋸歯状の文様を連続して描いている。円形刺突文は腹縁文の先端に配されている。内面には、横位、縦位に幅２，３㎜の篦状工具あるいは20㎜程の貝殻の腹縁部の一部を利用したとみられる条痕がある。18～23は床面出土の口縁部。23を除きいずれも内面に貝殻腹縁圧痕文が施されているが、19には爪形の圧痕がある。20は８㎜程の長めのもの。21は刻み目状になっている。18ａ・ｂは口縁部が外反する器形のもの。波状口縁をなすとみられる。帯状、幾何学的文様が施されている。体部には横位に細かい条痕がある。内面では斜位にみられる。21は副突起部分。円形刺突起文が多用されている。22はＨ－33出土の土器（図Ⅲ－88－３）と同一個体。23は無文のもの。口縁部はやや外反する。口縁部付近には縦位に条痕がみられる。24・25は床面出土のもの。24には腹縁文による垂下する帯状の文様がみられる。キャリパー状の器形のものかもしれない。25は幅10㎜程の貝殻の腹縁部の一部を使用したと思われる条痕がある。26は丸底気味になるとみられる。体部に、細い棒状工具で横位に沈線状の線がみられる文様がどうかは判断できない。

27はＩ群Ｅ類土器の底部。ややくびれている。沈線で矢羽根状の文様が描かれている。28は床面から出土したＩ群Ｂ類土器。土器の一部分（把手）かあるいは土製品の可能性がある。図の下位を除くほかの部分は割れ面である。色調は赤褐色で一部剥落している。山形の部分（側面図）には、腹縁文を舌状に施し、最も高い部分と腹縁文上に円形刺突文を施している。刺突文は文様の下部には２個並列して施文されている。



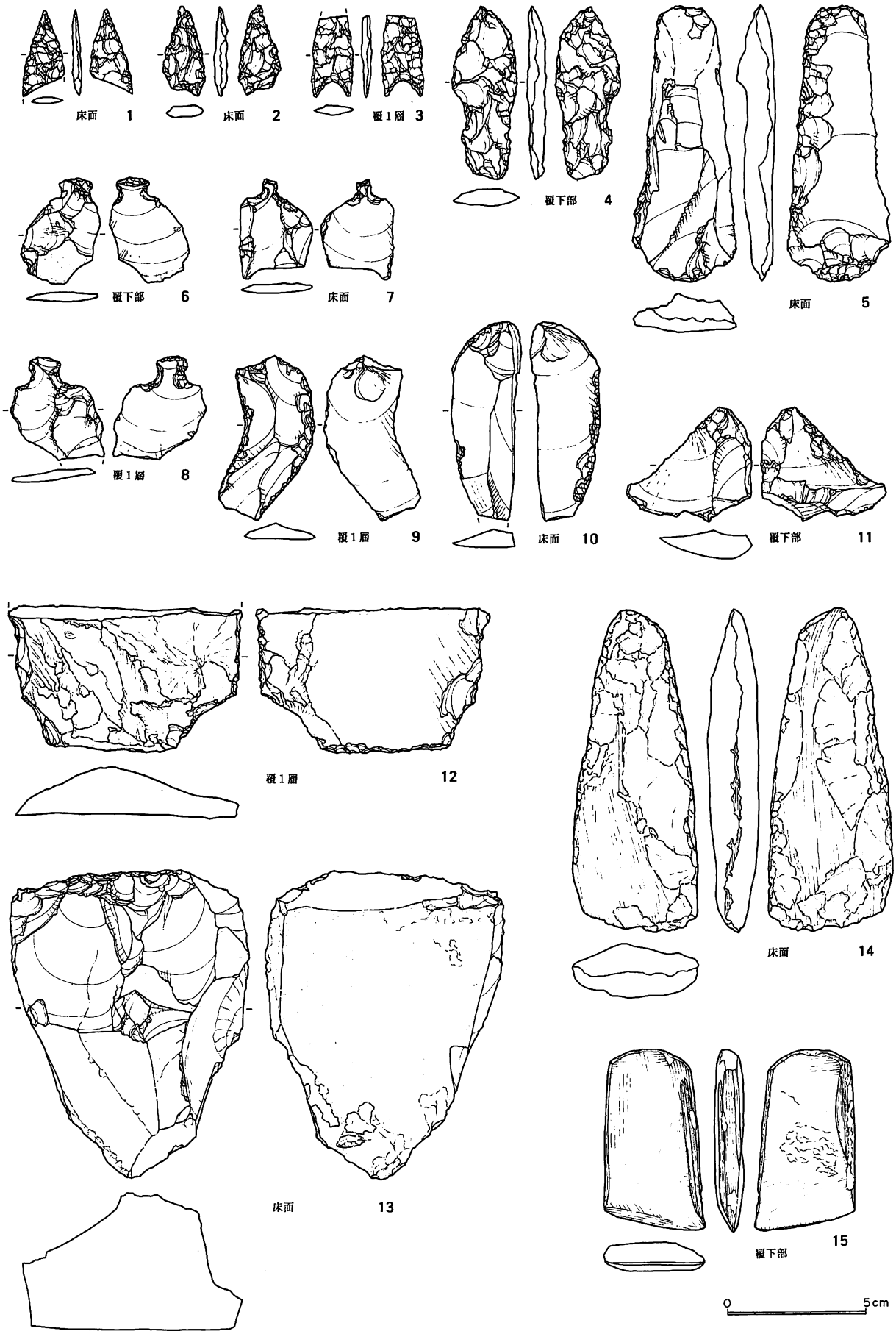

図Ⅲ－105　H－36出土土器 (1)



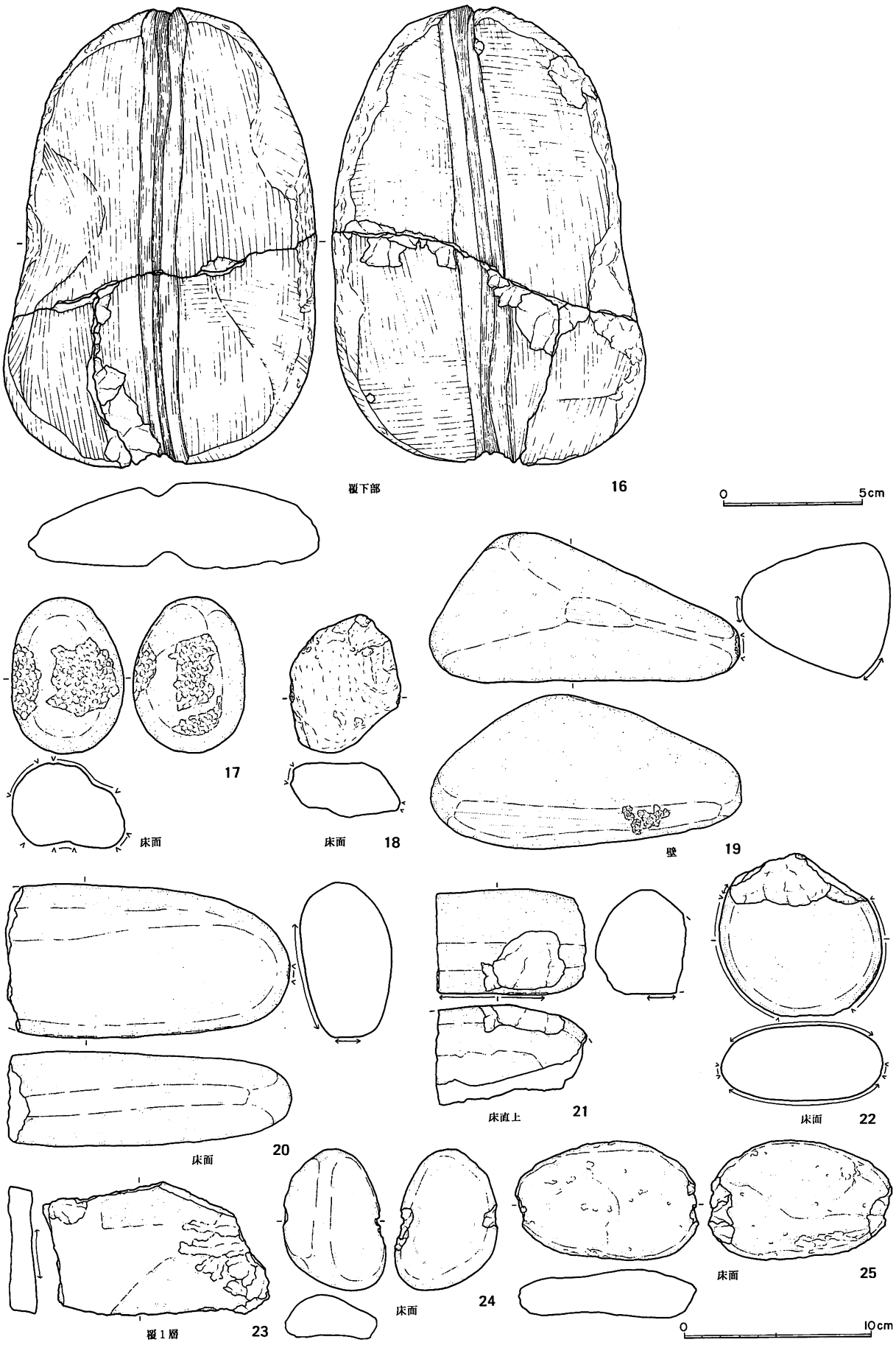

図Ⅲ－106　H－36出土土器 (2)

**石器**（図Ⅲ－107・108・109　図版93・94）

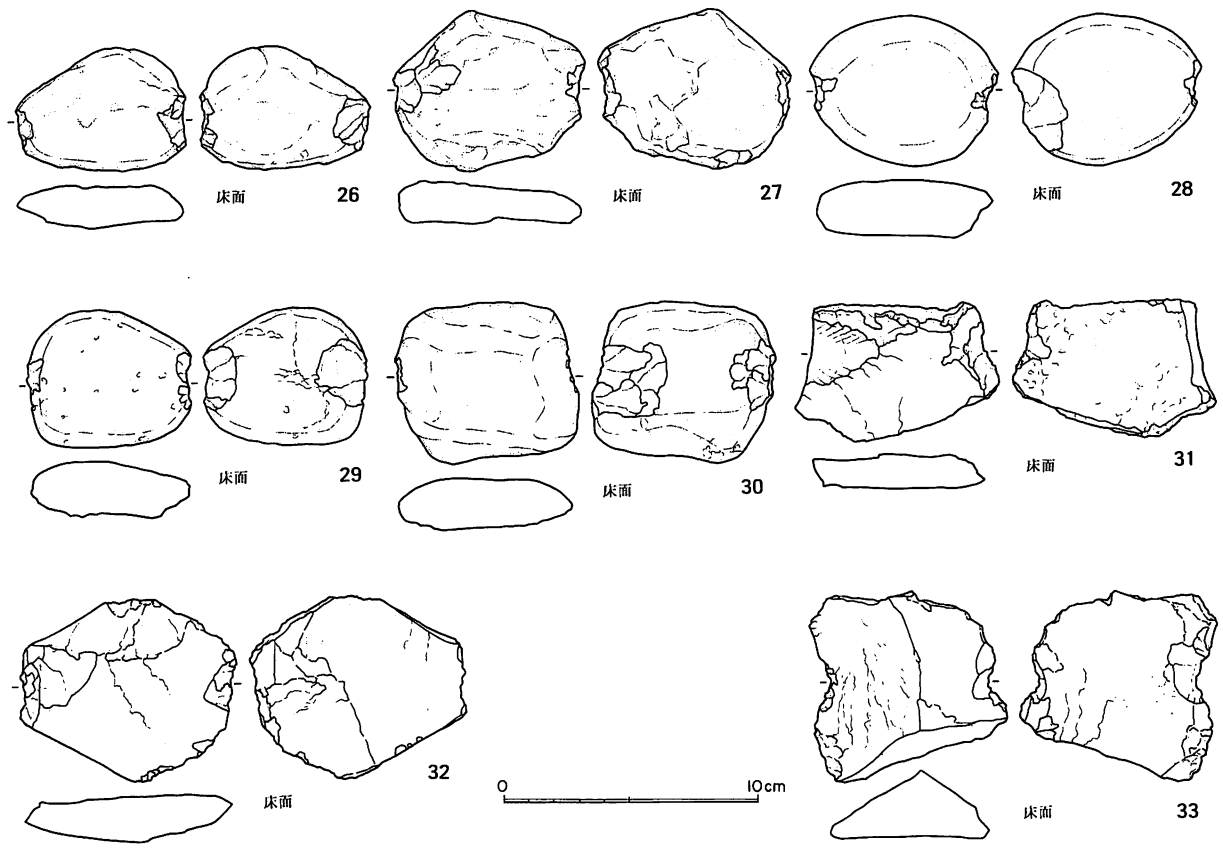
1～3は石鏃。2は製作途中で抉りの加工に失敗したもの。3は三角形凹基鏃である。4は小型の石槍身と茎の区分が明瞭で、加工がやや粗い。5は箆状石器。素材の形状を利用して製作している。6～8は抉りのみ作出している石匙である。9～12はスクレイパー。10の背面右側面は折れ面である。11は黒曜石のもので、黒曜石製のスクレイパーはこの1点だけである。12は硬質頁岩の礫をそのまま加工したものである。13は石核。打面と作業面は固定されている。14は打ち欠きによる石斧の未製品で、素材は礫である。15は小型の擦り切り石斧。刃部には細い面が形成されており、切削もしくはすり等に転用したためと思われる。16は擦り切り溝のある研磨石材。N－7－45・N－7－22出土のものと接合する。17・18出土はたたき石。17はくぼみ状のたたき痕がある。19～21はすり石1類。3点ともたたき痕が認められる。22はすり石2類。周縁にはたたき痕がめぐる。23は礫片を利用した砥石である。24～33は石錘。石錘集中出土の一部である。31～33は角礫素材である。




図Ⅲ－107　Ｈ－36出土石器 (1)




図Ⅲ－108　H－36出土石器 (2)




図Ⅲ－109　H－36出土石器 (3)

H－37（図Ⅲ－110・111　図版28）

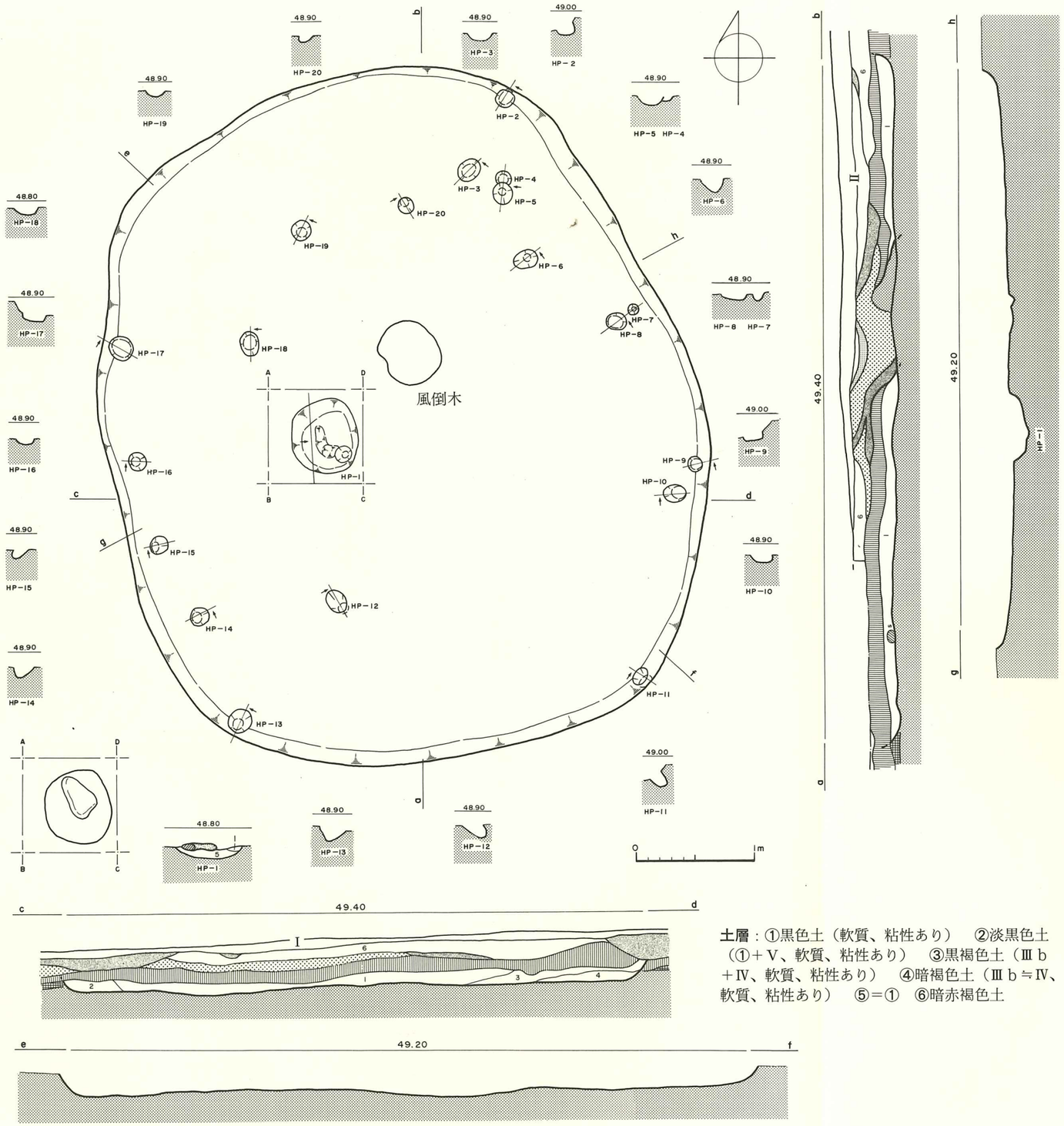
**位置**：N－8－07・08・17・18区にまたがり、標高48.90m～49.00mに立地する。

**規模**：5.80m／5.60m×5.00m／4.82m×0.18m

**平面形**：丸みのある台形状　床面積：22.58㎡　長軸方向：N－13°－W

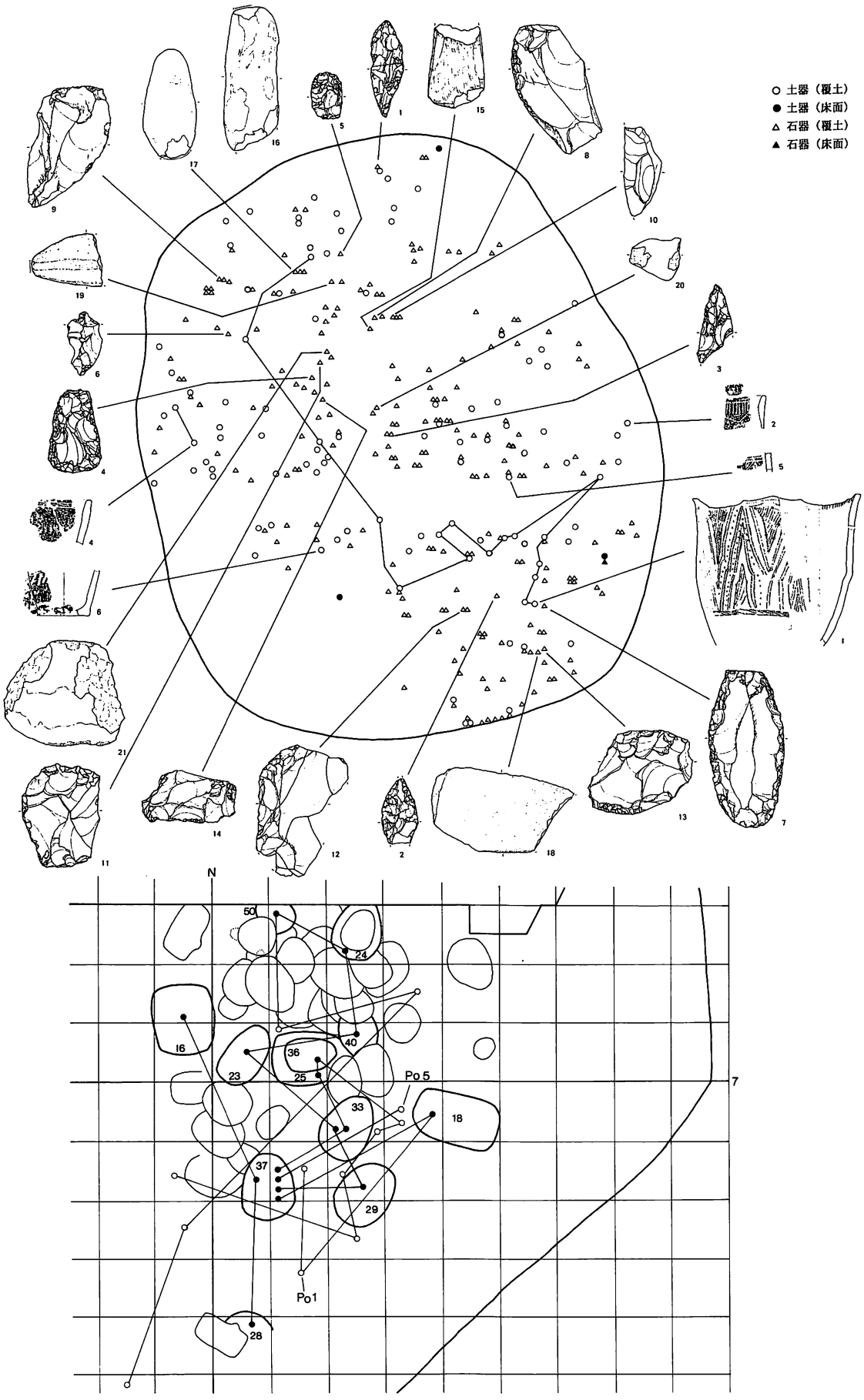
**確認・調査・土層**：N－8－08・17・18区包含層調査中、円形状のP.D.3の落ち込みを確認した。遺構の存在を想定し、N－8－18の杭を中心としてグリッドラインに沿ってベルトを設定し、トレンチを4方向に入れた。土層を観察して遺構と認識し、順次掘り下げていった。なお、N－8－07区ではすでにV層近くまで掘り下げていたため、この付近の平面形ははっきりしない。遺構の中央付近には風倒木痕があり、その影響で土層が一部乱れ、V層が大きく盛り上がっていた。風倒木痕の落ち込みには上部でP.D.2の堆積が認められた。覆土1層は、V層を若干含むためかⅢb層より淡色で粘性のある黒色土である。2層は1層よりさらに淡色で、堅い。西～北西にかけて堆積していた。3、4層はⅢ層とⅣ層の混合土層で北東からの流れ込みと思われる。

**床面**：V層への掘り込みは浅く、10cm未満である。覆土はすべて流れ込みによる堆積で、構築面が床面と思われる。中央付近には風倒木痕があり、周辺はその影響で起伏がある。南西側の壁付近ではわずかにくぼんでいるが、このくぼみはH－48の影響であろう。付属施設としては、中央西寄りに皿状のピット（HP－1）がある。




**土層**：①黒色土（軟質、粘性あり）　②淡黒色土（①＋Ⅴ、軟質、粘性あり）　③黒褐色土（Ⅲｂ＋Ⅳ、軟質、粘性あり）　④暗褐色土（Ⅲｂ≒Ⅳ、軟質、粘性あり）　⑤＝①　⑥暗赤褐色土

図Ⅲ－110　Ｈ－37実測図




図Ⅲ－111　Ｈ－37出土遺物の分布と接合図

**壁**：北東～東側が高い地形のため、この付近の壁の立ち上がりは急傾斜で、確認面から20㎝程度の深さがある。これに対し、南側の立ち上がりは低く不明瞭である。
**炉跡**：検出されなかった。
**付属ピット**：HP－1は0.64m×0.50m×0.10mの円形のピットである。底面には浅い溝状のくぼみがある。ピットの上面では石皿がやや傾いた状態で出土した。覆土は南側に黒色土（1層）の流れ込みがあるが、ほとんどは暗褐色土（2層）の堆積である。暗褐色土は土壌を採取してフローテーションを行った。HP－2～20は柱穴状の小ピットである。概して浅い。すべてが人為的なものとはいえないが、東西の壁ぎわに並ぶものとやや中央より検出されたものとに分けられる。
**遺物出土状況**：出土遺物総数は740点で、内訳は土器400点、石器340点である。覆土上部からの出土が大部分である。土器はⅠ群A類・B類・E類・Ⅱ群土器が出土しているが、Ⅰ群B類土器がほとんどである。石器は石鏃、石槍、箆状石器、石匙、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、砥石、石皿、石錘等が出土している。量的にはスクレイパーが多い。覆土出土の石皿は落ち込むように壁にかかっていた。黒曜石の小破片も多少出土している。床面付近からの出土は少量みられるが、1層が床面の直上に堆積しており、床面とした遺物も遺構に近い時期のものとは断言できない。遺物は遺構全体に分布しており、顕著な傾向は認められない。遺構間接合は、H－16・18・23～25・28・29・33・37・40・50でみられる。
**時期**：本遺構は北西のH－48・49を切って構築されている。掘り込み面はⅢ層中と思われる。床面の遺物では断定できないが、周辺の状況から縄文時代早期中葉の時期と思われる。

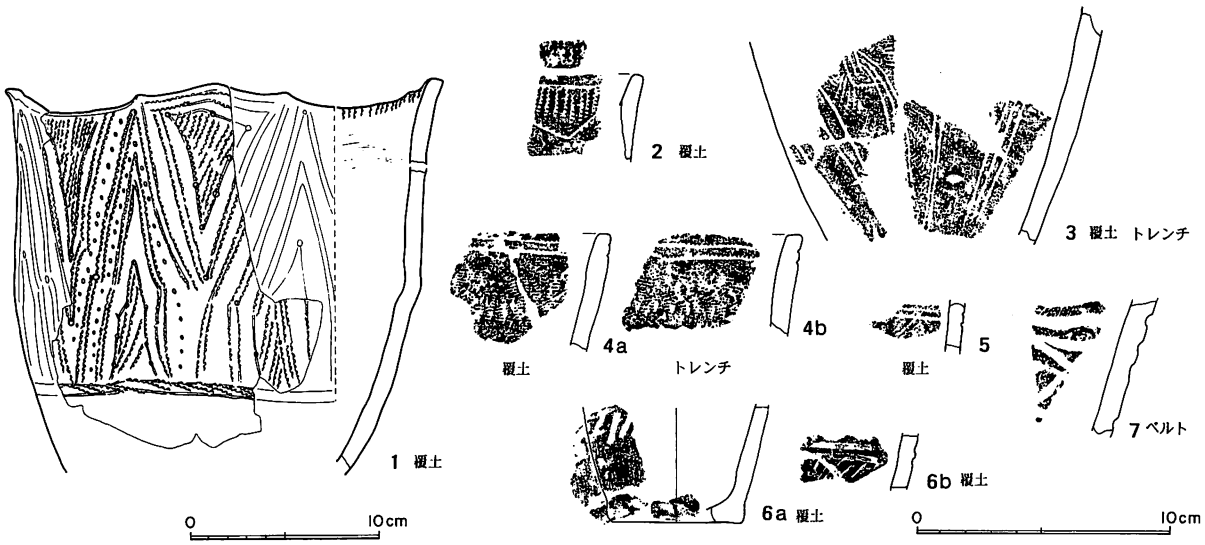
フローテーションの結果、HP－1からは194点の微細なチップ、土器片の他にクルミ属の炭化植物種子が検出されている。

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－112　図版51・66）

1は覆土1層出土の破片とH－18覆土1層、N－8－16・18の破片が接合した。4ヵ所に緩やかな波頂部とその両端に副突起がある。波頂部間からクランク状の腹縁文を施して区画し、全体として三角形の点対称構成となっている。H－18（図Ⅲ－22－4）出土のものと類似の文様構成とみられる。区画内は貝殻腹縁圧痕文が斜位に充填されている。円形刺突文は多用され、腹縁文間の無文部には等間隔に、また波頂部下では内面から指で押し、その部分にほかの部分よりも大きい刺突文が施されている。2～5は覆土出土のもの。2は内面が剥落している。腹縁文で三角に区画した中に、わずかに貝殻腹縁部を押し引いた圧痕文が縦位に施されている。3は胎土、色調、焼成、文様構成がH－23の土器（図Ⅲ－44－4）と類似している。2～3条単位のクランク状、あるいは直線で文様帯を区画し、2同様やや押引き的な貝殻腹縁圧痕文を充填させている部分がみられる。4a・bは同一個体片で胎土が脆い。口縁部に平行に腹縁文を2条めぐらせ、貝殻腹縁部の押引き文が施されているが、部分的に連続波状文かとみられる部分（4a）がある。器面は凹凸が著しく、内面には横位にケズリの痕跡が観察される。

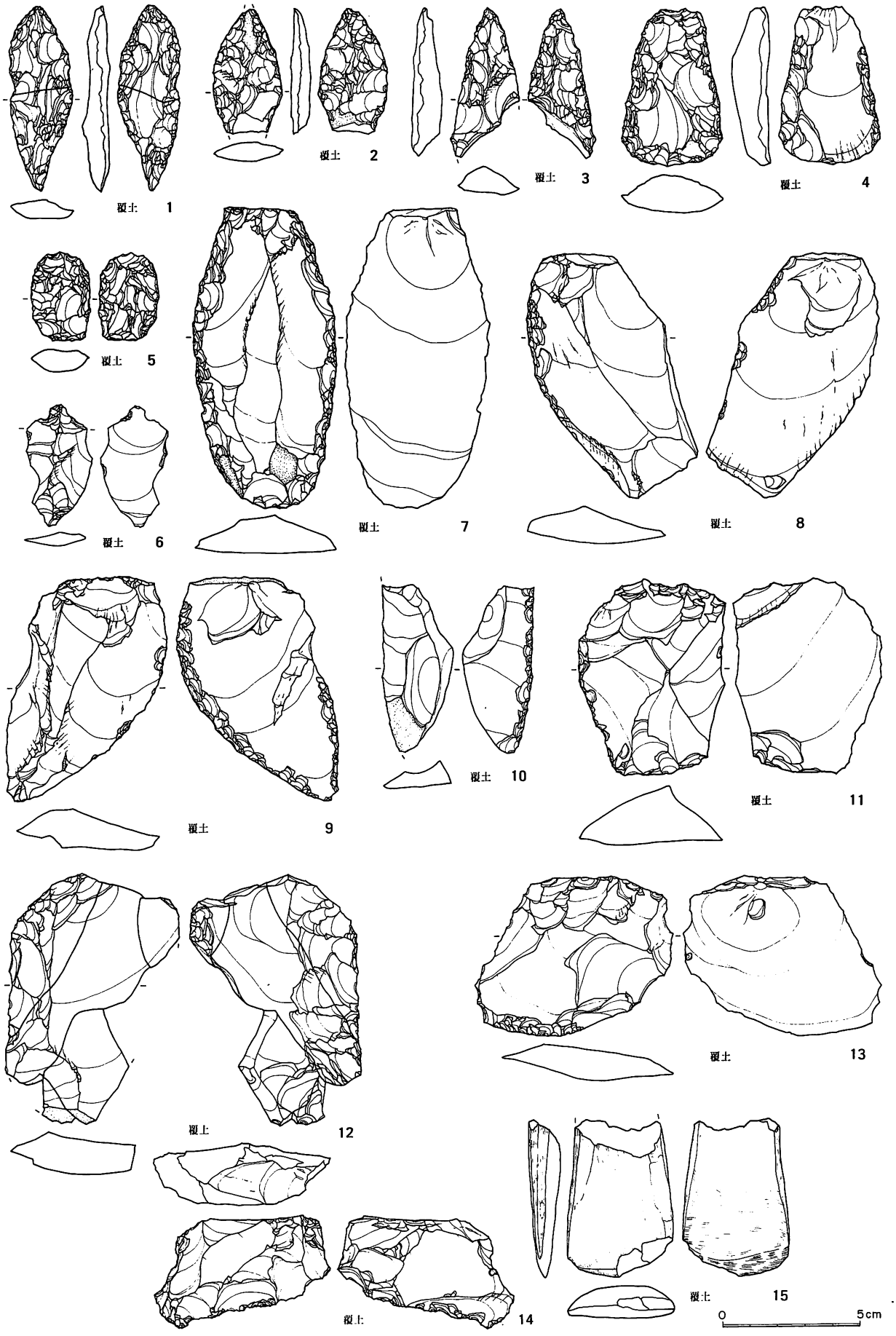
5はⅠ群A類土器。薄手で細い沈線文の下位に、縄文が浅く施されている。6a・bはⅠ群E類土器。焼成は非常に良く薄手である。底部がややくびれる、小型の平底土器。底部付近は無文であるが、胴部（6b）には幅2㎜程の浅い平行沈線文が横位に2条、また斜位（6a）にも施文されている。沈線内に細い条線がみられることから、偏平な幅の狭い板状の工具によるものとみられる。7はⅡ群土器。太い沈線により曲線的文様が描かれている。包含層出土の（図Ⅳ－22－14）と同一個体の可能性がある。



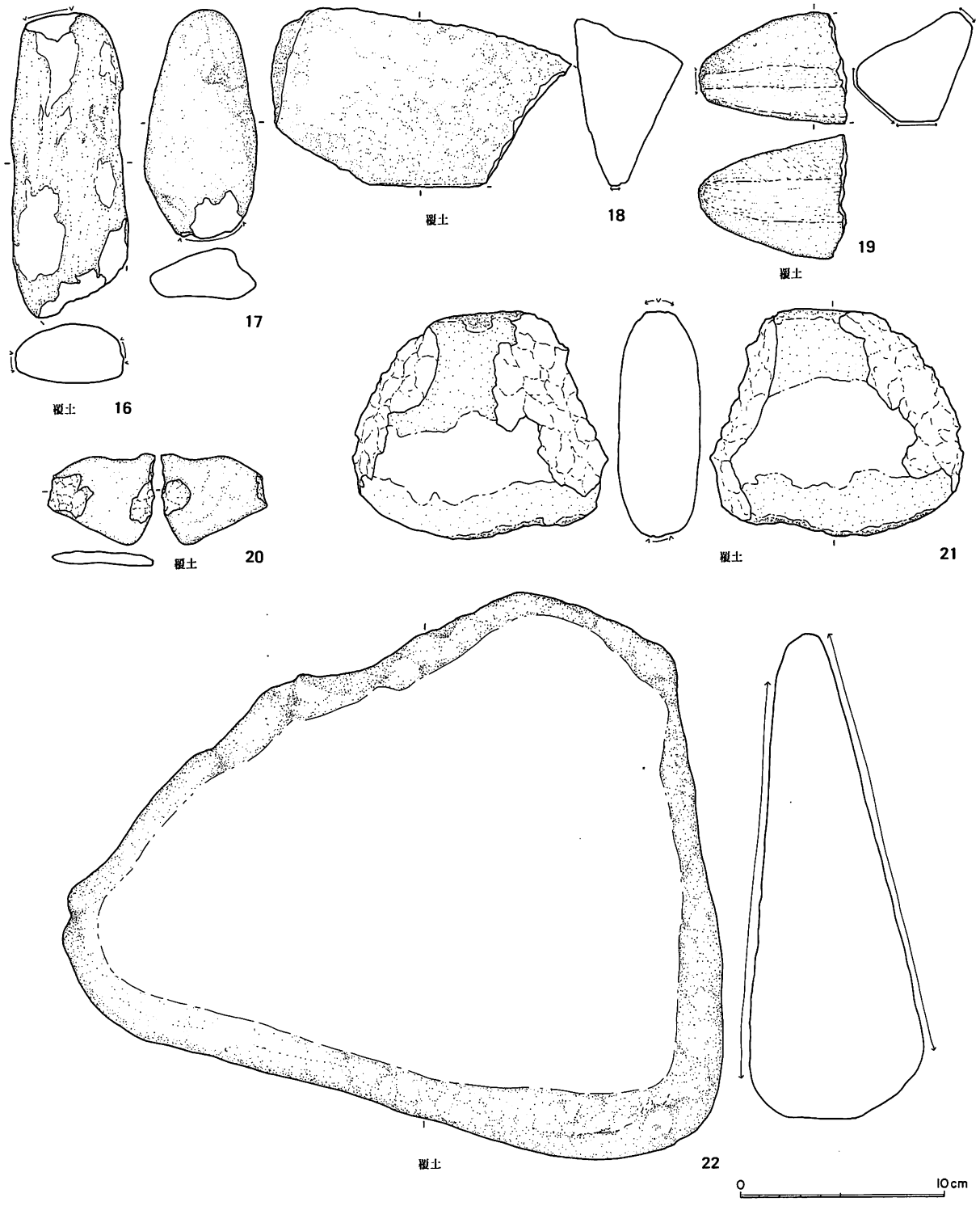

図Ⅲ－112　Ｈ－37出土土器

**石器**（図Ⅲ－113・114　図版95・96）

1～3は石槍。1・2は茎を意識した加工である。4は半両面加工の篦状石器。5は小型の両面調整石器。6は抉りのみいれた石匙。7～13はスクレイパー。7のような周辺加工の定型的な掻器は本遺跡では少ない。10は被熱して割れたものである。14は厚手の剥片を素材とした石核。15は擦り切りの石斧である。非常に粗い研磨痕が認められる。16・17は端部にたたき痕の残るたたき石。16は側面にもたたき痕がある。18・19はすり石1類。19の端部にはたたき痕が認められる。21はすり石2類。周縁部にはたたき痕が著しい。20は石錘。22はＨＰ－1の上面から出土した石皿。すり面は軽微である。




図Ⅲ－113　H－37　出土石器 (1)




図Ⅲ－114　H－37出土石器 (2)

H－38・41(図Ⅲ－115　図版29・30)

H－38

**位置**：N－7－10・11・20・21　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は約49.25m前後である。　**規模**：不明　　**深さ**：0.8m～0.12m　　**平面形・床面積・長軸方向**：不明

**確認・調査・土層**：H－17の南東壁で検出された焼土に伴う遺構検出のため設定した小トレンチ内で、N－7－21西側でもう一ヵ所焼土が検出された。また断面観察によって北西壁の立ち上がりを確認した。このため、この周辺を精査し、輪郭の検出作業を行った。覆土は一層である。覆土1層は黄色土が混入する粘質の暗茶褐色土とやや堅い黄褐色土が混在する汚れた土である。層厚は約10cm前後である。

**床面**：V層上に構築されており、堅く、ほぼ平坦である。南西壁際が浅くくぼんでいる。

**壁**：緩やかな傾斜で立ち上がっているが、全体は不明である。残存部分の壁高は4cm～8cmである。

**炉跡**：0.4m×0.3mの方形状の広がりをもつ焼土が検出されている。地床炉である。軟質でややボソボソした暗赤橙色の焼土が薄く堆積している。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは5個検出されている。壁際から20cm～40cm内側をめぐるもので、0.6m～1.0mの間隔である。すべて直立している。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は157点である。この内訳は土器95点、石器62点である。このうち床面直上から出土した土器は1点で、石器は16点である。遺物は大半が覆土の上層部から出土したものであり、ちらばっている状態で出土している。ただ北西壁付近では礫石器がややまとまって出土し、HF－1の北側でフレイクがまとまって出土した。出土した土器はⅠ群B類に属するもので、石器は覆土中から石鏃、石錘、砥石、すり石、たたき石などが出土している。遺物は覆土と他遺構と包含層のものが接合するという状態を示している。覆土出土の土器片1点と、H－25、H－36、H－41の覆土、N－7－00・10・13　M－8－98のⅢ層出土の土器片が接合している。また覆土上層出土の土器片2点とH－40の覆土直上出土の土器片が接合している。

**時期**：掘り込み面は不明であるが、出土した土器はⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はH－25、H－34、H－39、H－40、H－41と重複しており、H－39、H－25より新しく、他の住居跡より古いものである。

H－41

**位置**：N－7－11・20・21　　**規模・平面形・床面積・長軸方向**：不明

**確認・調査・土層**：H－35とH－38の重複関係を把握するため設定した小トレンチ（c－d）の断面観察で、H－38の覆土を切っている落ち込みを検出した。全体にH－38として調査していたため、残された土層観察用の土手によって確認したものである。このため床面、壁、炉跡などは不明である。覆土は二層に分けられる。覆土1層は黄色土を少量混入する暗褐色土である。層厚は約6cm前後である。覆土2層は粘質の黒褐色土である。層厚は5cm～10cmである。

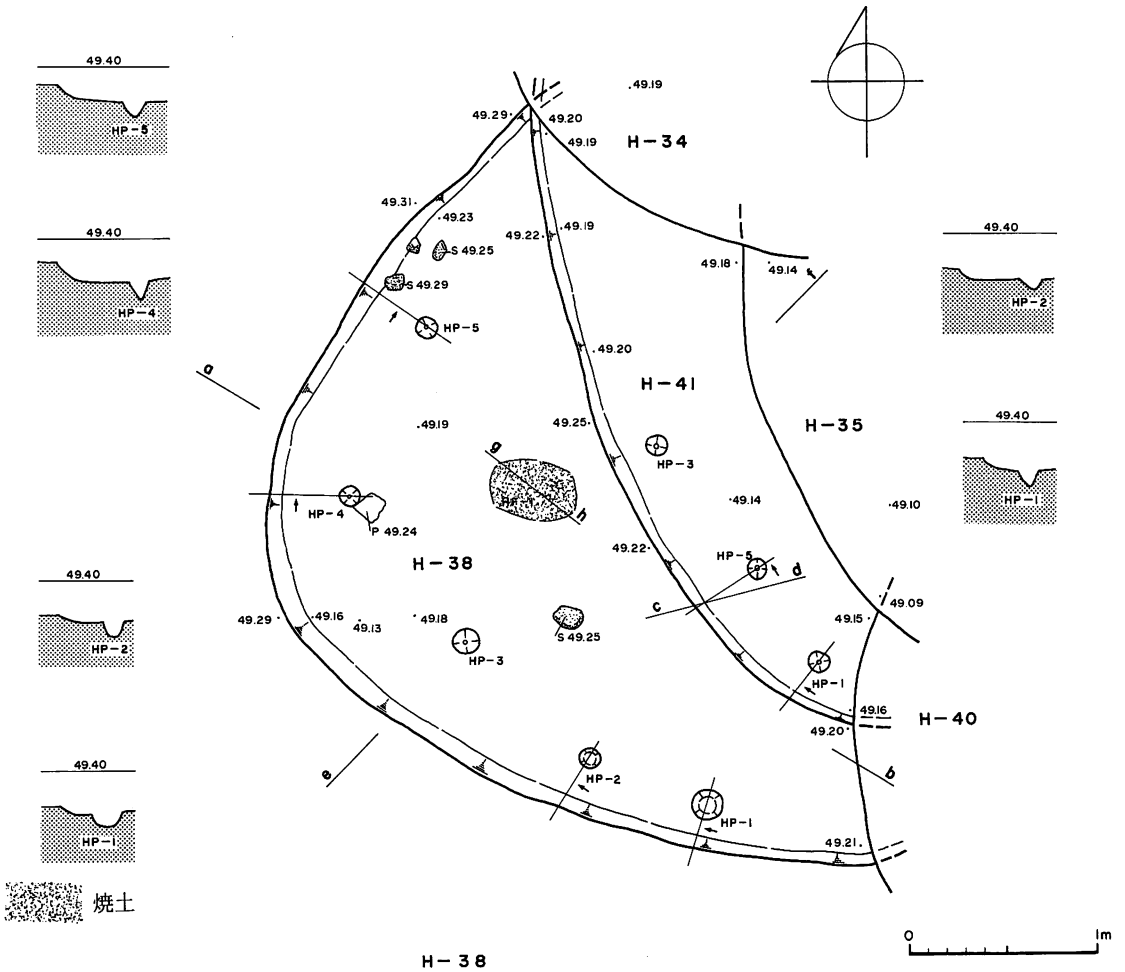
**付属ピット**：柱穴状小ピットは3個検出されている。壁際より20cm～40cmほど内側にあり、直立し、杭状のものである。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は23点である。このうち土器は17点、石器6点で、すべて覆土中から出土している。出土した土器はすべてⅠ群B類に属するものであり、石器では石錘、石斧、すり石などが出土している。覆土中から出土した石斧刃部が、南方約10mのN－8－18のⅢ層出土の胴半部と接

合している。

**時期**：掘り込み面は不明であるが、覆土、周辺包含層から出土した土器はⅠ群B類であることから本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はH－38、H－34、H－35、H－40と重複しており、H－38より新しく、他の住居跡より古いものである。

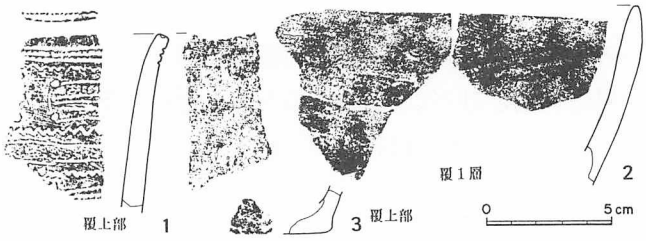



図Ⅲ－115　H－38・41実測図

**遺物**

Ｈ－38の**土器**（図－116　図版66）

１は覆土上層から出土。Ｈ－35（図Ⅲ－98－３）、包含層Ｎ－７－21から出土した破片で、昨年度の包含層出土片（図Ⅳ－12－108）と同一であるが接合しなかった。２は重複するＨ－40覆土直上出土の破片と接合した。無文で、口縁部は薄身になっている。器面は条痕で調整したあと、指などでナデている。３は底部付近がややくびれているⅠ群Ｅ類の小型土器。



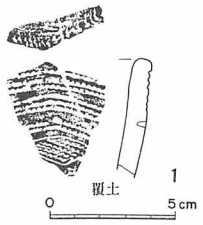

図Ⅲ－116　Ｈ－38出土土器

Ｈ－41の**土器**（図Ⅲ－117　図版66）

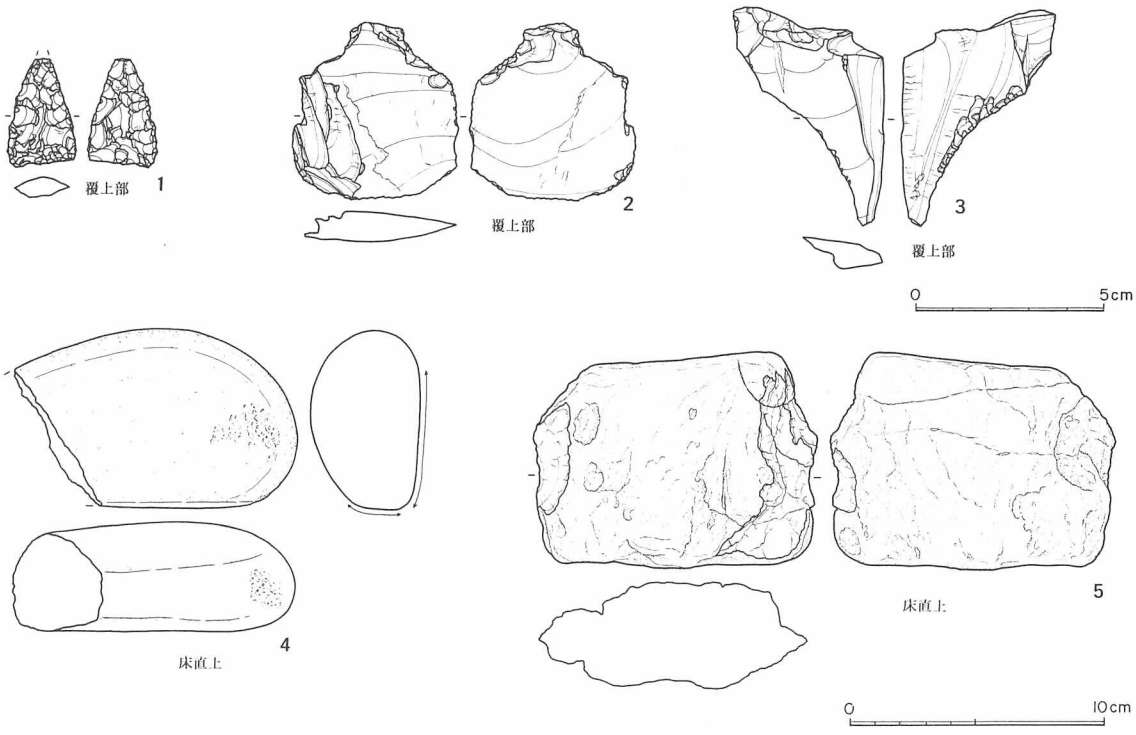
１は覆土出土のもの。小さな山形の波頂部分。口縁部内面に貝殻腹縁部による短い刻みがある。

Ｈ－38の**石器**（図Ⅲ－118　図版97）

１は三角形平基鏃。側縁は鋸歯状となっている。２はつまみ部のみを加工した石匙である。３はスクレイパー。４はすり石１類。端部付近にたたき痕が認められる。５は石錘。




図Ⅲ－117　Ｈ－41
出土土器



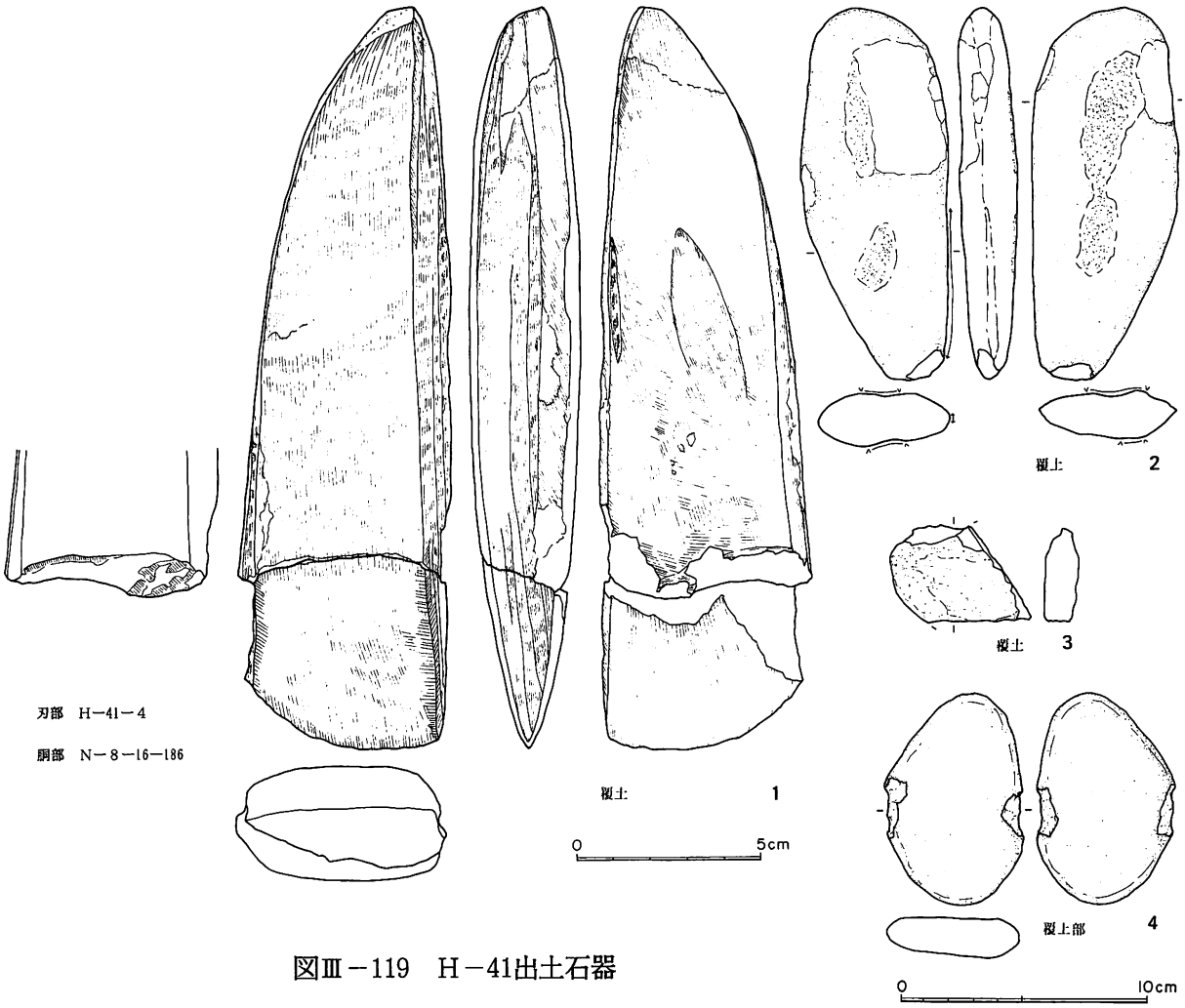

図Ⅲ－118　Ｈ－38出土石器

表Ⅲ－15　H－38・41小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ＜H－38＞ | | | | | |
| HP－1 | 18×18 | 8 | 暗黄褐色土 | 床　面 | 直立 |
| HP－2 | 10×10 | 10 | 暗褐色土＞黄色土 | 〃 | 〃 |
| HP－3 | 14×14 | 12 | 黒褐色土＞黄色土（粘質） | 〃 | 〃 、先端部細かい |
| HP－4 | 10×10 | 8 | 黒褐色土（軟質） | 〃 | 〃 、　〃 |
| HP－5 | 15×15 | 7 | 暗褐色土＞黄色土 | 〃 | 〃 、　〃 |
| ＜H－38＞ | | | | | |
| HP－1 | 10×10 | 10 | 暗褐色土 | 床　面 | 直立、杭状 |
| HP－2 | 10×10 | 5 | 〃 | 〃 | 〃 、〃 |
| HP－3 | 10×10 | 7 | 〃 | 〃 | 〃 、〃 |

H－41の**石器**（図Ⅲ－119　図版98）

1は擦り切り石斧、刃部片がN－8－18出土のものと接合する。両側縁に擦り切り溝が残る。2は敲き石に転用されたすり石3類、縁辺に軽微なすり痕が残る。平坦面にはくぼみ状の敲き痕も認められる。3は砥石片。4は石錘である。

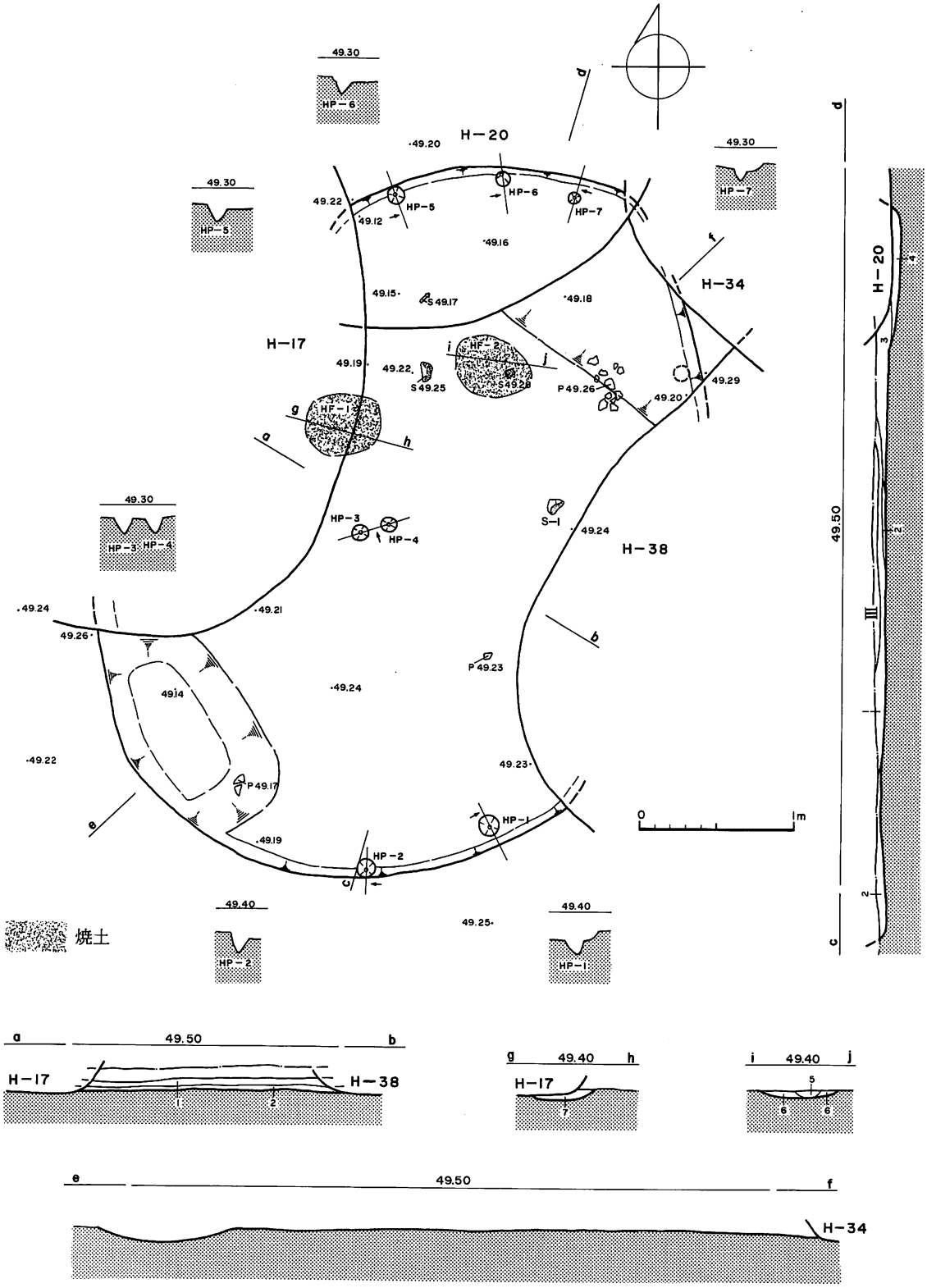



図Ⅲ－119　H－41出土石器

H－39（図Ⅲ－120　図版29）

**位置**：N－7－10・11　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。　標高は49.25m前後である。　**規模**：4.80m／4.70m×（3.70m）／（3.50m）×0.60m～0.15m

**平面形**：卵形か？　**床面積**：（12.88）㎡　**長軸方向**：N－30°－E




土層：①黒茶色土（黄色土混入、堅い）　②黄褐色土（堅い）　③茶褐色土（黄色土混入、堅い）　④暗茶色土（粘質、堅い）　⑤黒褐色土　⑥暗赤褐色土　⑦暗赤灰色土

図Ⅲ－120　H－39実測図

**確認・調査・土層**：Ｈ－17の南東壁際で焼土が検出されたため、Ｎ－７－11周辺Ⅲ層を少しづつ掘り下げ、Ⅳ層直上で黒茶色土の落ち込みの輪郭を検出した。焼土検出面を床面と想定し、全体的な掘り下げ調査を行った結果、焼土の北東寄りにもう１ヵ所の焼土を検出した。覆土は一層である。覆土１層は黄色土の混入する汚れた黒茶色土である。層厚は約10cm前後である。

**床面**：全体に堅く、やや凹凸がある。北東壁はやや浅いくぼみとなり、また、南西壁際は1.40ｍ×0.8ｍ×0.1ｍの長方形状のくぼみになっている。

**壁**：他住居跡と重複して全体は不明であるが、浅い皿状である。

**炉跡**：中央部やや北寄り（ＨＦ－１）とその北東側（ＨＦ－２）に焼土が二ヵ所検出されている。地床炉である。ＨＦ－１、２共に0.4ｍ×0.5ｍの長円形状の広がりをもつ焼土で、明確な掘り込みは認められない。

**附属ピット**：柱穴状小ピットは７個検出されている。ＨＰ－３・４は床面の中央部にあり、直立し、杭状のものである。他は壁際にあり、内傾している。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は76点である。この内訳は土器31点、石器45点である。このうち床面直上出土の土器は８点、石器は29点である。遺物は覆土中から出土したものが多く、特にＨＦ－２周辺およびその北側から多く出土している。ちらばっている状態である。ＨＦ－２の東側で土器片がややまとまって出土している。出土した土器はⅠ群Ｂ類に属するもので、石器では石匙、石錘、研磨石材などが出土している。覆土下層出土の土器片５点が接合している。覆土下層から出土した研磨石材（Ｈ－39実測図　Ｓ－１）はＨ－36の床面と覆土１層から出土したものと接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢｂ層中と思われる。床面直上、覆土から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

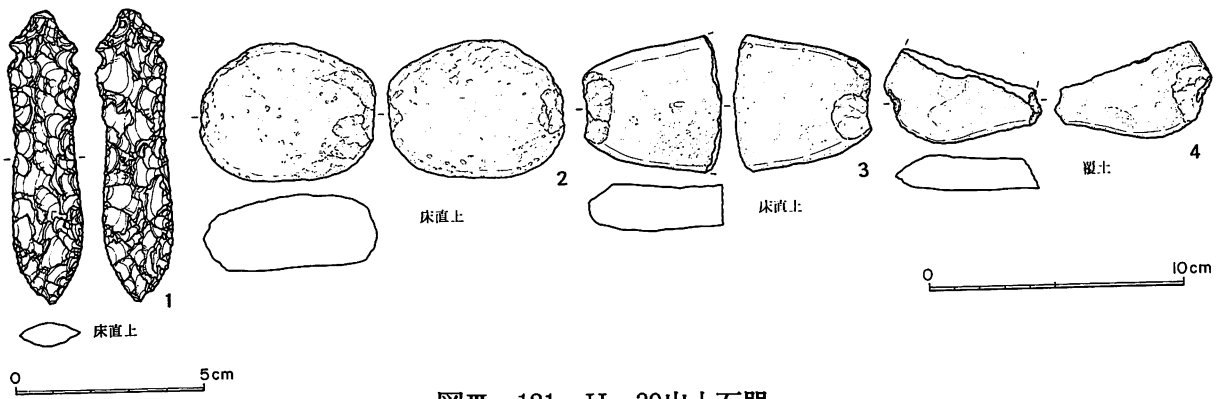
なお、本住居跡はＨ－17、Ｈ－20、Ｈ－34、Ｈ－38と重複しており、これらより古いものである。

表Ⅲ－16　Ｈ－39ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ＨＰ－１ | 12×12 | 10 | 茶褐色土 | 床　面 | やや内傾する |
| ＨＰ－２ | 10×10 | 12 | 〃 | 〃 | 〃 |
| ＨＰ－３ | 10×10 | 10 | 黒褐色土（軟質） | 〃 | 直立、先端部細い |
| ＨＰ－４ | 8×8 | 10 | 〃　（〃） | 〃 | 〃　、　〃 |
| ＨＰ－５ | 10×10 | 10 | 暗茶灰色土（砂質） | 〃 | やや内傾斜 |
| ＨＰ－６ | 8×8 | 8 | 暗褐色土（〃） | 〃 | 〃 |
| ＨＰ－７ | 6×6 | 6 | 〃　（〃） | 〃 | 〃 |

**石器**（図Ⅲ－121　図版97）

１は両面加工の石匙。抉りは浅く、つまみの先端は欠損している。２～４は石錘。２・３は敲き潰




図Ⅲ－121　Ｈ－39出土石器

H－40（図Ⅲ－122　図版24・30）

**位置**：N－7－20・21　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は49.19m～49.38mである。　**規模**：（4.10m）／（3.90m）×3.10m／2.90m×0.12m～0.14m

**平面形**：卵形か？　**床面積**：9.24㎡　**長軸方向**：N－18°－W

**確認・調査・土層**：N－7－31の南の試掘溝壁面で、南東、北西それぞれの面でV層を堀り込んだ落ち込みを確認した。周辺遺構との重複関係を把握するため小トレンチ（H－40実測図a－b、c－d）を設定し、また全体に順次Ⅲb層を掘り下げた。この結果、Ⅳ層直上でⅢb層の落ち込みを検出するとともに、北西壁、南西壁の立ち上がりを確認した。Ⅲb層を除去し、覆土を掘り下げる。覆土は三層に分けられる。覆土1層は粘質で堅い褐色土である。層厚は約5cmほどである。この覆土1層直上で多数の遺物が出土している。面的な広がりはなく、ちらばっている状態である。覆土2層は粘質の黒褐色土である。層厚は3cm～5cmである。覆土3層は床面直上にある粘質の汚れた暗黄褐色土である。層厚は5cm前後である。

**床面**：東側はV層を少し掘り込んでいる。他はV層上面に床面が構築されている。全体に平坦である。

**壁**：緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は8cm～14cmである。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは4個検出されている。南西壁際で検出され、壁際から20cm～40cm内側にあり、小ピット間は60cm～70cmである。すべて直立している。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は382点である。この内訳は土器303点、石器は79点である。遺物はすべて覆土中から出土したものである。覆土直上から覆土上層にかたまって出土している。出土した土器は、覆土直上（2点）と覆土中（1点）から3点出土した以外は、すべてⅠ群B類に属するものである。石器では石匙、スクレイパー、石錘、石斧、研磨石材、すり石、たたき石などが出土している。接合関係では、覆土出土の土器片が4点接合しているが、他は覆土直上でまとまって出土した土器片が他遺構、包含層と接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢb層中と思われる。覆土、周辺包含層から出土した土器はⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はH－31、H－35、H－38、H－44と重複しており、H－35より古く、H－38、H－44より新しいものである。H－31との新旧関係は不明確であったが、H－31の検出状況、試掘溝の壁面観察などから考え、H－31が本住居跡より新しいと思われる。

表Ⅲ－17　H－40小ピット一覧

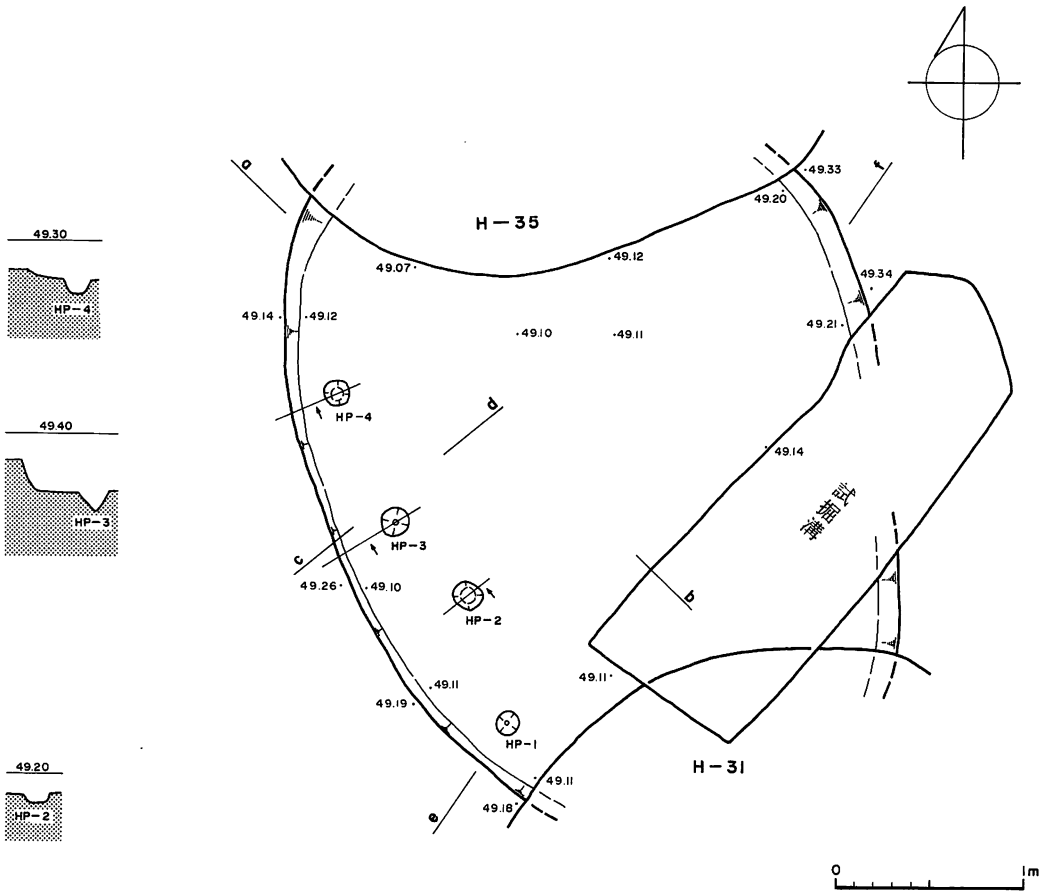
| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深　さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 10×10 | 12 | 暗褐色土 | 床　面 | 直立、先端部細い |
| HP－2 | 14×12 | 4 | 〃 | 〃 | 浅い |
| HP－3 | 10×10 | 10 | 〃 | 〃 | 直立、先端部細い |
| HP－4 | 10×10 | 8 | 〃 | 〃 | 直立 |

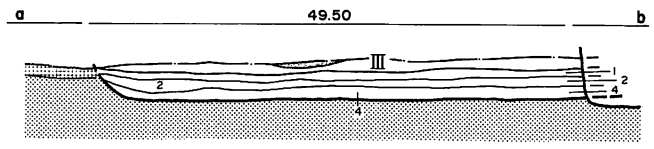
**遺物**

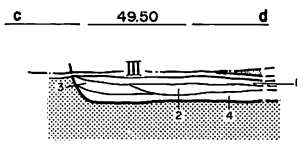
**土器**（図Ⅲ－123　図版52・66）

比較的出土量も多く、接合した破片もあったが、無文部分の破片が多い。1は手捏ねのミニチュア土器。床面直上とN－7－21・31（2点）出土の破片が接合した。2は覆土直上とN－7－25出土の破片が接合した。H－25、N－7－12・33出土のもの（図Ⅲ－54－8）、また昨年度の包含層（図Ⅳ－4－8）出土のものとも同一である。沈線のみで文様が描かれたキャリパー状の器形のもの。3は同一個体の小片がN－7－20・21（図Ⅳ－17－98）からも出土している。波頂部の両端に副突起がある大型

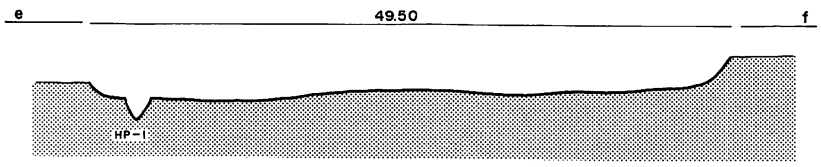
の深鉢形であろう。下描きの沈線文は幅１㎜程あり、重ねている貝殻腹縁圧痕文の印象が薄い。文様は菱形あるいは三角形を組み合わせたものであろう。円形刺突文は、ほかの土器と比べて大きく、断面は円錐形である。やや幅の広い条痕が内外面ともにみられる。口縁部内側には、貝殻腹縁部による刻み目が縦位に施されている。４・５は覆土直上のもの。４は中型土器で波状口縁をなすとみられる。３条一単位の腹縁文での文様帯の区画内に、沈線文で歪な三角形を描き、その中に貝殻腹縁文を斜位



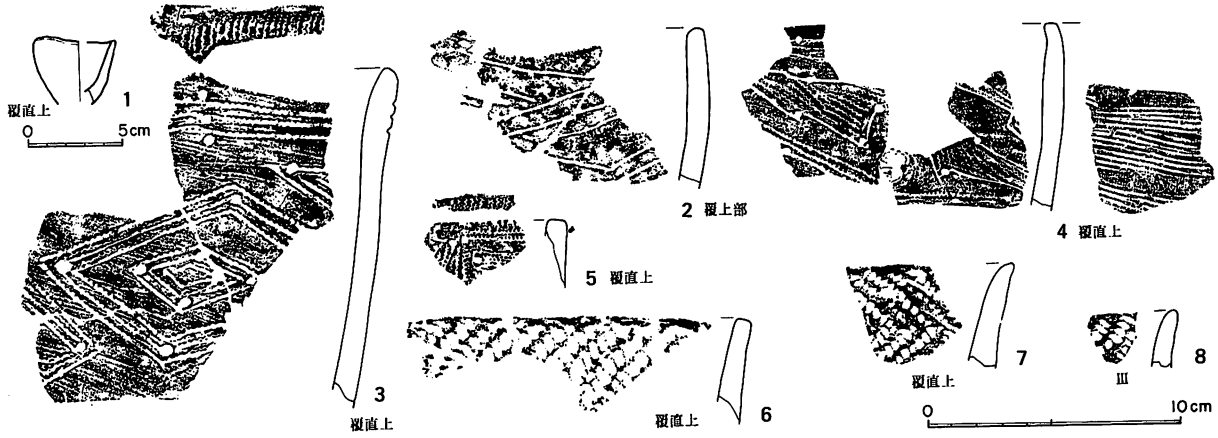



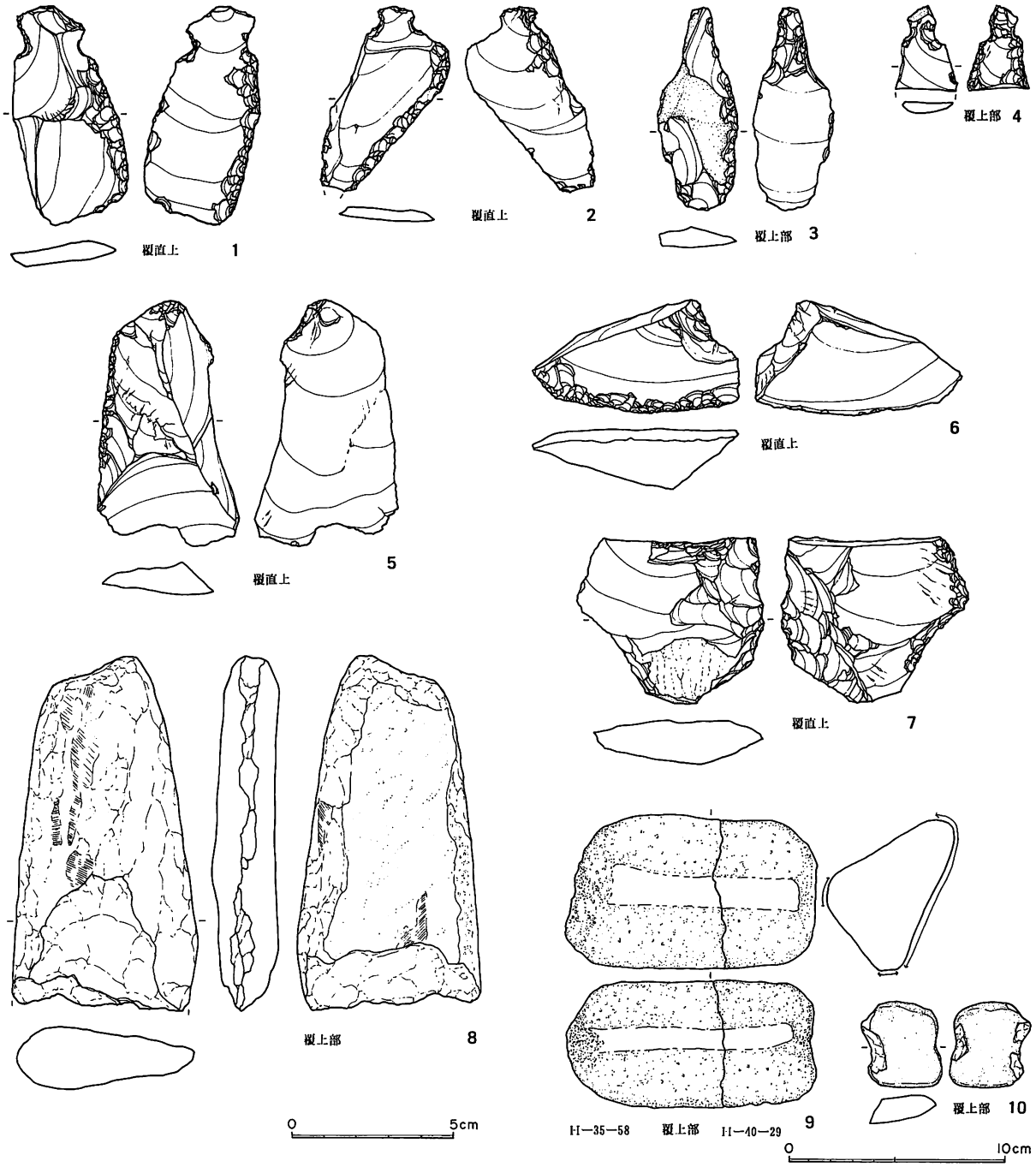

土層：①褐色土（粘質で堅い）　②黒褐色土（粘質）　③暗褐色土（②より褐色が強く、粘性が弱い）　④暗黄褐色土（粘質）




図Ⅲ－122　Ｈ－40実測図




図Ⅲ－123　H－40出土土器




図Ⅲ－124　H－40出土石器

に充填している。6～8はⅢ層、覆土直上から出土したⅡ群土器。太く粗く撚ったLR原体による縄文が深く施されている。口唇直下と口唇上はナデ調整されている。7は口唇上から内面にかけてミガかれ平滑になっている。口唇は尖り気味で緩やかな波状口縁になるかと思われる。器面はLRとRLの原体による羽状縄文が施されている。8は太い原体による縄文が施されている。

**石器**（図Ⅲ－124　図版98）

1～4は石匙で、すべて一側縁ないしは周辺加工のものである。3は素材の折れ面をつまみに利用している。5～7はスクレイパー。8は片岩の石斧未製品。打ち欠き－敲打－研磨（－刃部研磨）の工程が推定される。9はすり石。H－35出土のものと接合する。10は石錘。

H－42（図Ⅲ－125･126、図版30）

**位置**：N－7－63･64･73･74　調査区の北東端の斜面上に位置する。標高は49.35m～48.82mである。

**規模・平面形・床面積・長軸方向**：不明

**確認・調査・土層**：N－7－74周辺の包含層調査中、Ⅴ層直上で焼土を検出した。このためN－7－64のⅢ層を掘り下げつつ遺構検出作業を行ったところ、Ⅳ層直上で半円形状の落ち込みを検出した。焼土検出面を床面と想定し、その北、西側を広げ、床、壁の立ち上がりを確認する。東、南側は傾斜が著しく床、壁などの検出は出来なかった。覆土はほとんどが流失、削平されており明瞭でない。床面直上に暗茶灰色土＞黄色との堅い砂質の混合土が認められただけである。層厚は約8㎝～12㎝である。**床面**：西から東へ緩やかに傾斜している。非常に堅いが、凹凸が著しい。Ⅴ層を掘り込んで構築されている。

**壁**：北－北東にかけて残存しているのみで全体は不明である。ただ東側の沢側はもともと壁の立ち上がりはなかったかとも考えられる。

**炉跡**：床面北東寄りに0.6m×0.5mのほぼ円形状の広がりをもつ焼土が検出されている。地床炉である。これは床面が火を受けて赤化したものである。

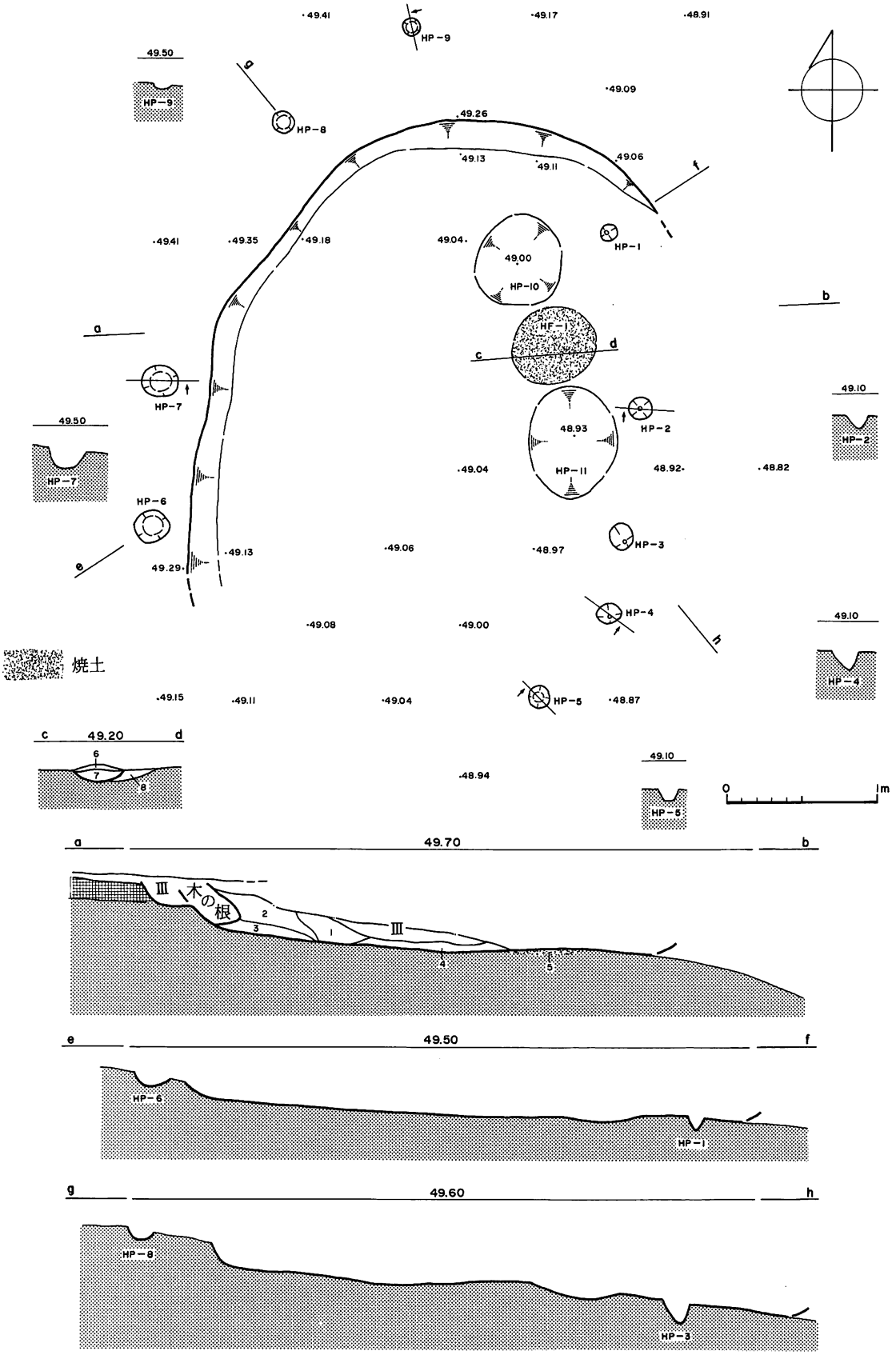
**付属ピット**：柱穴状小ピットは9個検出されている。HP－1～HP－5は床面沢側にあり、すべて直立している。HP－6～HP－9は西壁の外側20㎝～60㎝のところをめぐり、やや内傾気味である。また焼土の北と南にそれぞれ0.6m×0.6m×0.4m、0.7m×0.6m×0.7mの浅い小ピットが検出されている。用途、性格などは不明である。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は133点である。この内訳は土器77点、石器は56点である。土器はすべて床面、床直上、壁からちらばった状態で出土している。石器では石鏃、石匙、箆状石器、石錘、すり石、たたき石などが出土している。覆土出土の土器片どうしが接合している。

なお、焼土を採取し、フローテーション処理を行った。この結果微細なチップ類23点と果肉付キハダ属の炭化植物種子が0.1g検出された。

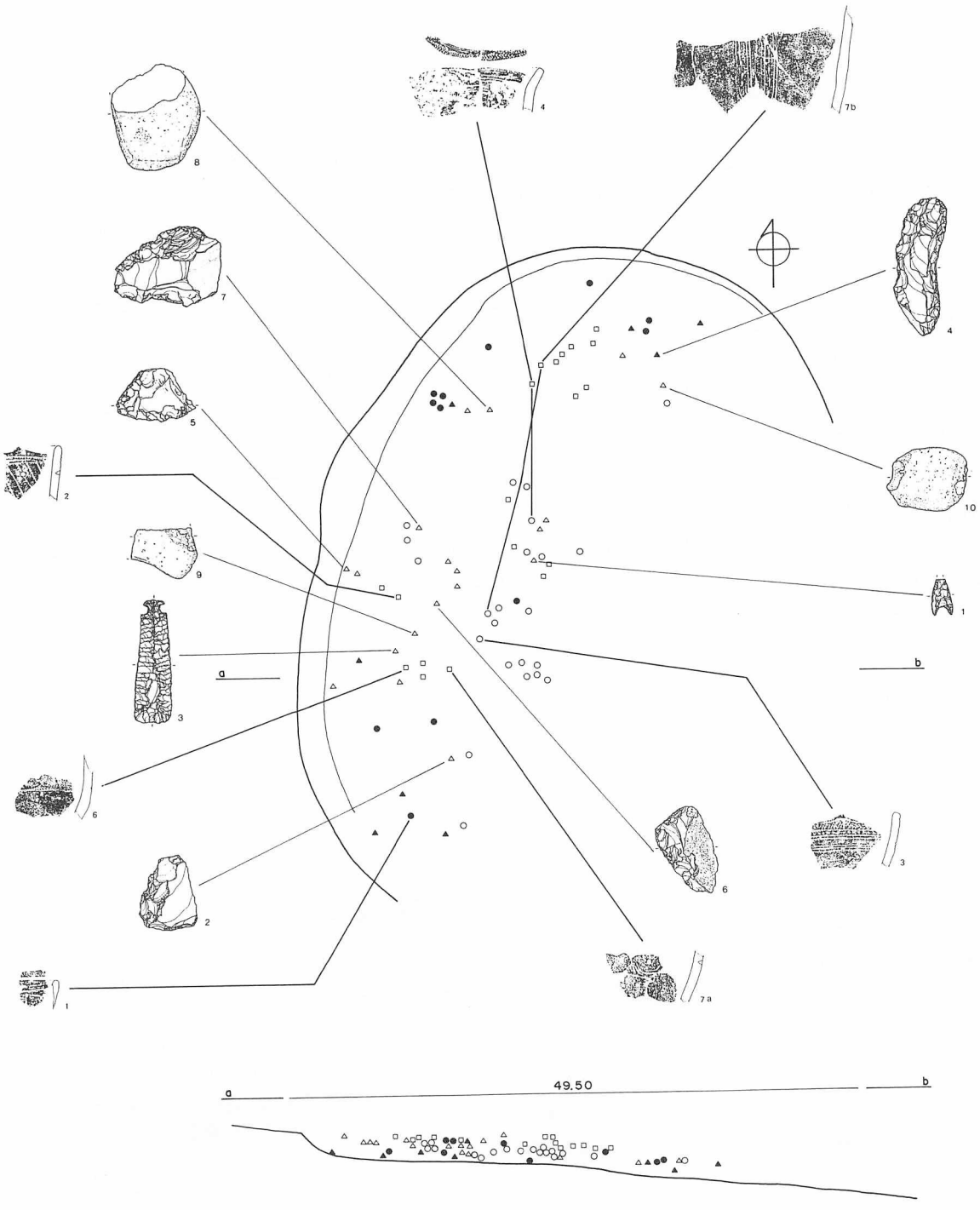
**時期**：掘り込み面はⅢ層中と思われる。床面、周辺包含層から出土した土器はⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものである。

なお、本住居跡は西壁のみが明確に見られるのみで、他は不明であった。柱穴状小ピットの配置は、他の住居跡と明らかに異なっている。これらから考えると簡単な、且つ短時間利用されたものではなかったかと思われる。また平成3年度の調査で検出されたF－1は、住居跡とする明瞭な根拠が見いだされなかったけれども、調査の過程で見られた小ピットの在り方、西側が掘り込み状の浅い斜面になっていたことなどを考え合わせると、本住居跡と良く似ており、同じような利用がなされていたのかも知れない。




土層：①暗茶灰色土（砂質、堅い）　②　①＞黄色土（砂質、堅い）　③　①＋黄色土　④　①＞黄色土（粘質、かたい）⑤赤橙色焼土　⑥　⑦＋褐色土　⑦明黄橙色土　⑧暗褐色土＞⑦

図Ⅲ－125　Ｈ－42実測図




図Ⅲ－126　H－42出土遺物の分布と接合図

表Ⅲ－18　H－42小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深　さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 10×10 | 10 | 暗褐色土＞黄色土（粘質） | 床　面 | 直立、先端部細い |
| HP－2 | 12×12 | 8 | 暗灰色土（粘質） | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－3 | 15×15 | 14 | 黒褐色土（軟質） | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－4 | 15×14 | 12 | 暗茶褐色土＞黄色土（砂質） | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－5 | 12×12 | 8 | 黒色土＋黄色土（軟質） | 〃 | 〃　、 |
| HP－6 | 24×22 | 5 | 暗茶灰色土＞黄色土（砂質） | Ⅳ層直上 | 浅い、内傾気味 |
| HP－7 | 25×20 | 13 | 暗茶灰色土（砂質） | 〃 | 内傾気味 |
| HP－8 | 15×15 | 5 | 暗灰色土（砂質） | 〃 | 浅い、内傾気味 |
| HP－9 | 14×10 | 3 | 暗褐色土（軟質） | 〃 | 〃　、　〃 |

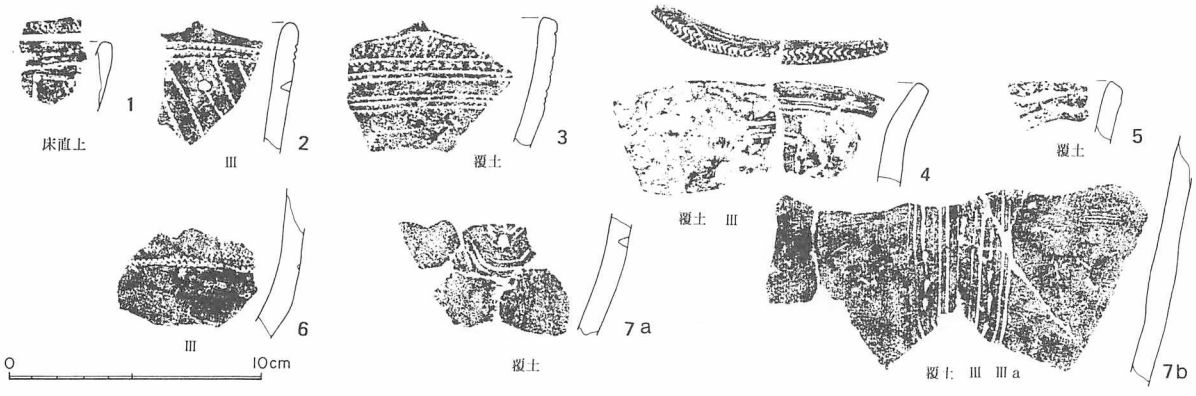
## 遺物

### 土器（図Ⅲ－127　図版67）

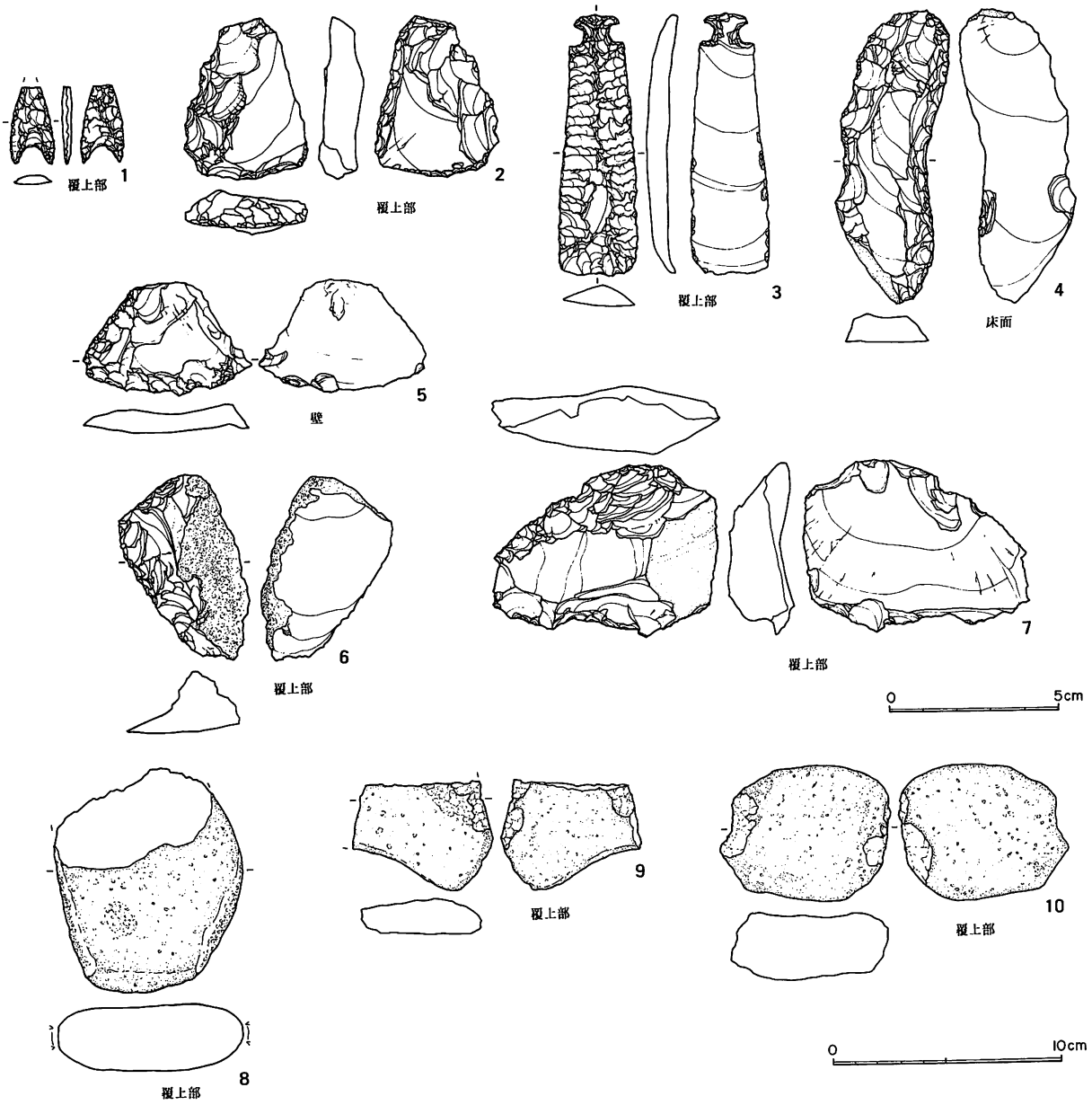
1は床面直上、2～4は覆土出土のもの。1はやや丸味を帯びた口唇上に貝殻腹縁部による短い圧痕が施されている。2は波頂部の両端の副突起部。器面に浅く細い条痕が残る。3はH－17（図Ⅲ－16－3）、H－19（図Ⅲ－28－2）などと、文様構成、細かい砂粒が混入している点で類似している。沈線文を口縁部に並行にめぐらせ、波頂部下位の三角形の部分には左下りの貝殻腹縁圧痕文、その下位には円形刺突文をめぐらせている。4は磨滅していてはっきりとはしないが、幅1.5mm程の沈線文での文様が見られる。6は胴部片。腹縁文が施されている。7a・bはキャリパー状の器形に特徴的な垂下する文様の部分とみられる。十数条の沈線文（7a）を縦位に施し、円形刺突文、やや押引き的な刺突文を左右から2・3条内側の沈線文上に施している。文様の下端は丸く閉じられ（7b）、中央には大きな円形刺突文が施されている。内外面に浅い条痕がみられる。

### 石器（図Ⅲ－128・98）

1は側縁が鋸歯状の三角形凹基鏃である。2は篦状石器。側縁の加工は錯交剥離によるものである。3は片面加工の石匙。非常に丁寧な加工である。4～7はスクレイパー。8はたたき石2類。被熱している。9・10は石錘である。




図Ⅲ－127　H－42出土土器




図Ⅲ－128　H－42出土石器

H－43（図Ⅲ－129・130　図版31）

**位置**：M－8－95、N－8－05　住居跡群の南端、標高48.3～48.5mの緩斜面に位置する。

**規模**：4.3m／4.0×2.35／2.15m×0.25m　H－28を壊して構築されている。

**平面形**：隅丸長方形　北東側に張り出しを持つ　**床面積**：8.16㎡　**長軸方向**：N－58°－W

**確認・調査・土層**：Ⅲ層調査の後半に黒い落ち込みを確認した。確認が遅れたため掘り込み面は下がっている。確認面を精査した結果、2軒の竪穴が重複していることが判明した。長方形の輪郭が明瞭で、他の1軒を切っていた本竪穴の調査を先行した。覆土1層の黒色土中に覆土2層の黒茶褐色土が入り込んでいる。覆土3層は暗茶褐色土、覆土4層は茶褐色土、覆土5層は黄黒色土、覆土6層は暗褐色土、覆土7層は黒褐色土、覆土8層は灰黒色土、覆土9層は暗黄褐色で堅くしまり、上面が生活面、下面は構築面と考えられる。覆土10層は灰暗褐色土である。遺物の取り上げは覆土1層～3層を覆土1で、覆土4層～8層を覆土2で、覆土9層を床で取り上げた。したがって床と表示した遺物は生活面と構築面の間のものである。

**床面**：床はV層を25cm掘り込んで構築され、覆土9層で生活面まで覆われている。床面はほぼ平坦である。

**壁**：壁は急角度で立ち上がり、最大壁は北側で30cmである。

**炉跡**：確認されなかった。

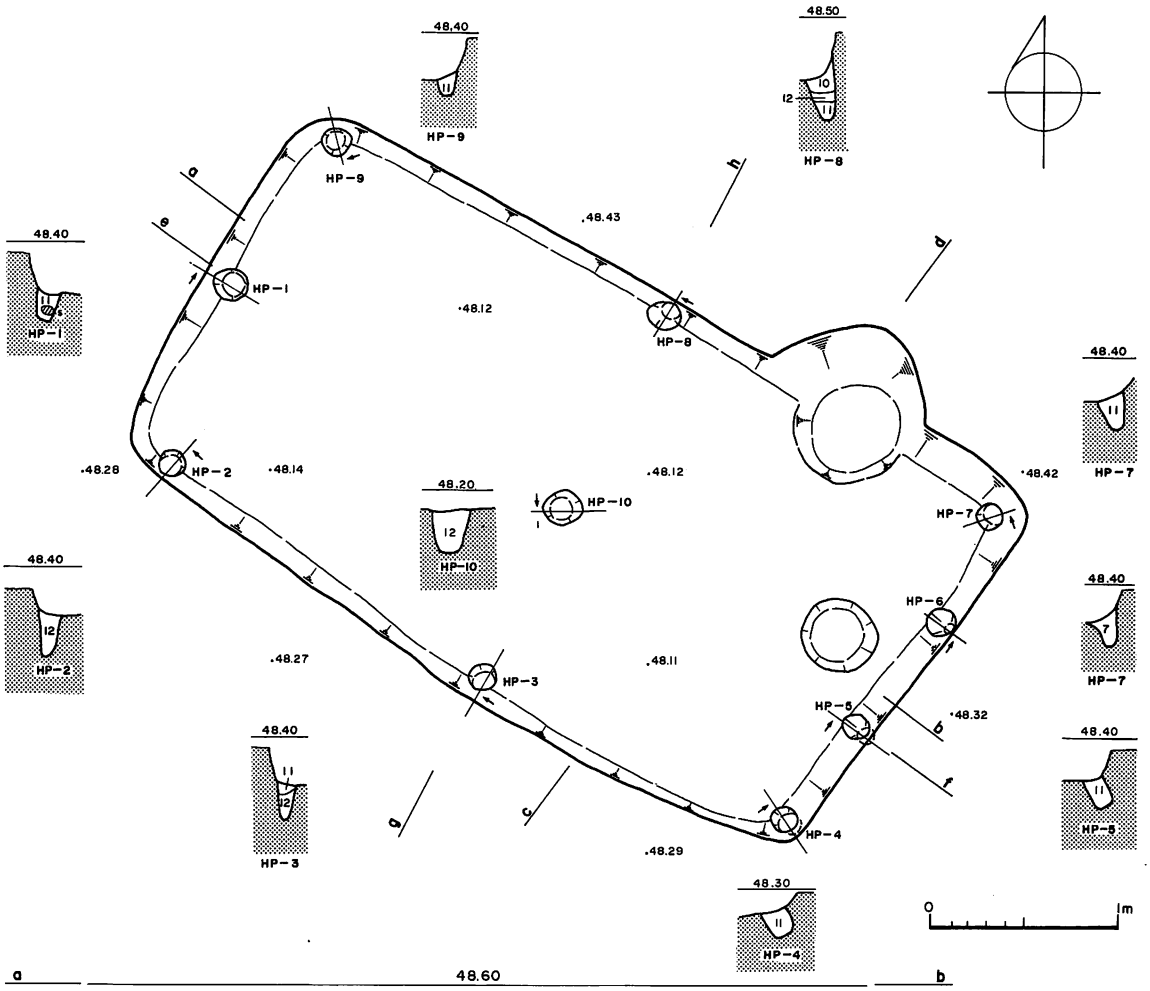
**付属ピット**：①床面に掘り込まれたもの1カ所、②外側に張り出して掘り込まれたもの1カ所、③柱穴状小ピット10カ所の3タイプがある。①は南東側の壁の中央から10cm離れて長径40cm、短径38cmの平面形が円形で深さ10cmの掘り込みのあるピット。覆土は構築面から途切れずに暗褐色土が覆っている。②は東側隅から70cm離れた北東側の壁から外に半円形に張り出して掘り込まれている。底面形は長径50cm、短径45cmの円形で、構築面から10cm掘り下げている。覆土は①と同様に暗黄褐色土が半分覆っている。③の柱穴状小ピットは1ヵ所を除き壁柱穴である。北西側短辺の壁の両隅に2ヵ所、中央に1ヵ所みられる。これと平行して長辺の両壁の中央に1ヵ所ずつ、床の中央に1ヵ所ある。さらに平行して南東側短辺の壁に4ヵ所みられ、規則性が認められる。

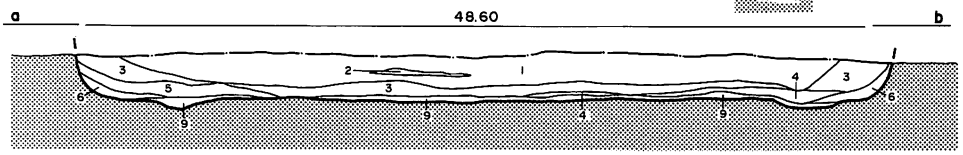
**遺物出土状況**：出土遺物総数は99点で、土器が74点、石器が25点である。そのうち土器は覆土1からⅠ群B類が23点、覆土2からⅠ群B類が18点、Ⅱ群が10点、床からⅠ群B類が21点である。剥片石器は覆土1から4点出土し、覆土2から6点出土した。礫石器は覆土2から3点、柱穴から3点出土している。剥片は覆土1から6点、覆土2から3点、床から1点、柱穴から1点出土した。東よりの覆土2からⅡ群土器を使用した土器片錘が2点出土している。拓本のうち1点は竪穴から5cm西側のⅢ層ものと床出土の土器片が接合している。Ⅰ群B類土器は竪穴内のほぼ全域に分布し、特に北側隅が多い。Ⅱ群土器は南東側に分布する。石器と剥片類もⅡ群土器と同様な分布を示す。

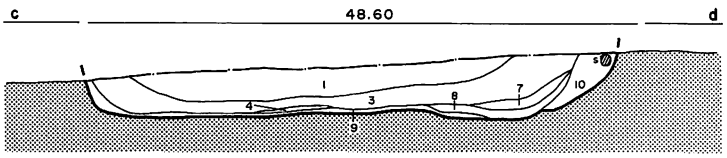
**時期**：Ⅰ群B類期のH－28を壊して構築されていることや、竪穴の形状、遺物の出土状態から縄文時代前期前葉をの時期のものと思われる。

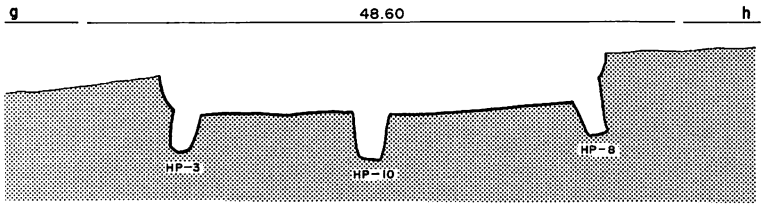
表Ⅲ－19　H－43小ピット一覧

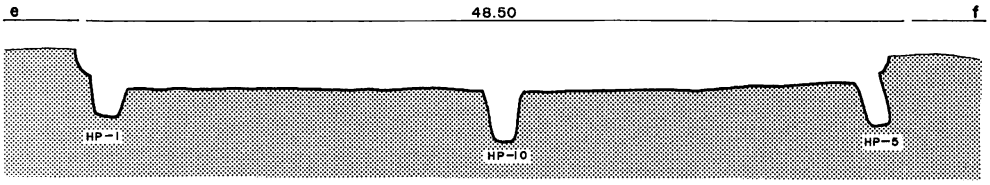
| 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 | 番　号 | 長径×短径 | 深さ | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 19×17（cm） | 15(cm) | 黄褐色土＞黒褐色土 | 床面 | やや内傾 | HP－6 | 15×15(cm) | 13(cm) | 黄褐色土 | 床面 | やや内傾 |
| HP－2 | 15×15 | 22 | 黄褐色土＜褐色土 | 床面 | 垂直 | HP－7 | 14×13 | 15 | 黄褐色土＞黒褐色土 | 床面 | やや内傾 |
| HP－3 | 15×14 | 20 | 黄褐色土＋黒褐色土 | 床面 | やや内傾 | HP－8 | 18×15 | 22 | 黄褐色土＋黒褐色土・灰暗褐色土 | 床面 | やや内傾 |
| HP－4 | 14×14 | 13 | 黄褐色土＞黒褐色土 | 床面 | 内傾 | HP－9 | 15×14 | 9 | 黄褐色土＞黒褐色土 | 床面 | 内傾 |
| HP－5 | 15×13 | 16 | 黄褐色土＞黒褐色土 | 床面 | 内傾 | HP－10 | 20×18 | 23 | 黄褐色土＜黒褐色土 | 床面 | 内傾 |



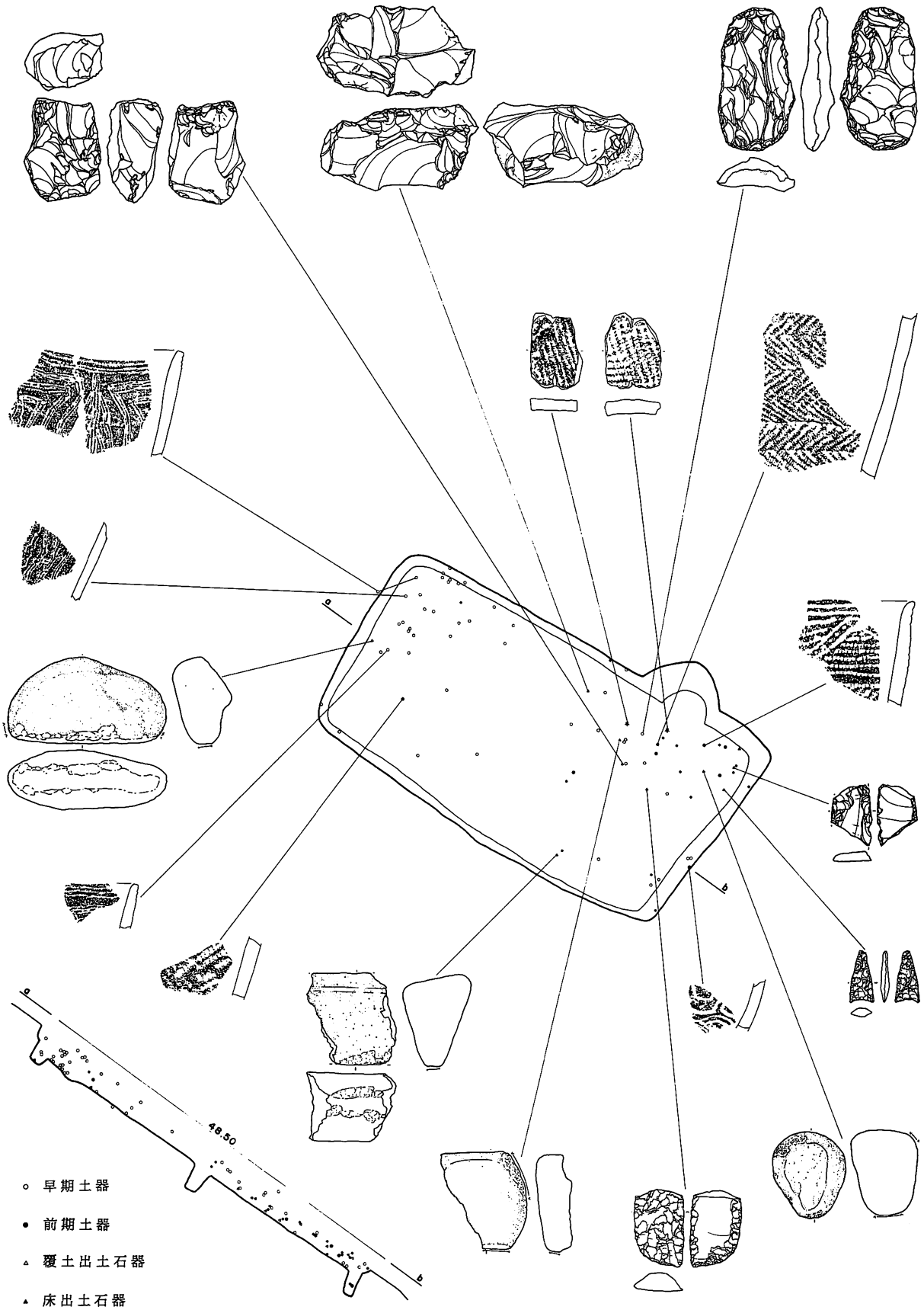




**土層**：①黒色土
②黒茶褐色土
③暗茶褐色土
④茶褐色土
⑤黄黒色土
⑥暗褐色土
⑦黒褐色土
⑧灰黒色土
⑨暗黄褐色土（ローム＋暗茶褐色土）
⑩灰暗褐色土
⑪暗黄黒褐色土
⑫黄黒褐色土

図Ⅲ－129　H－43実測図



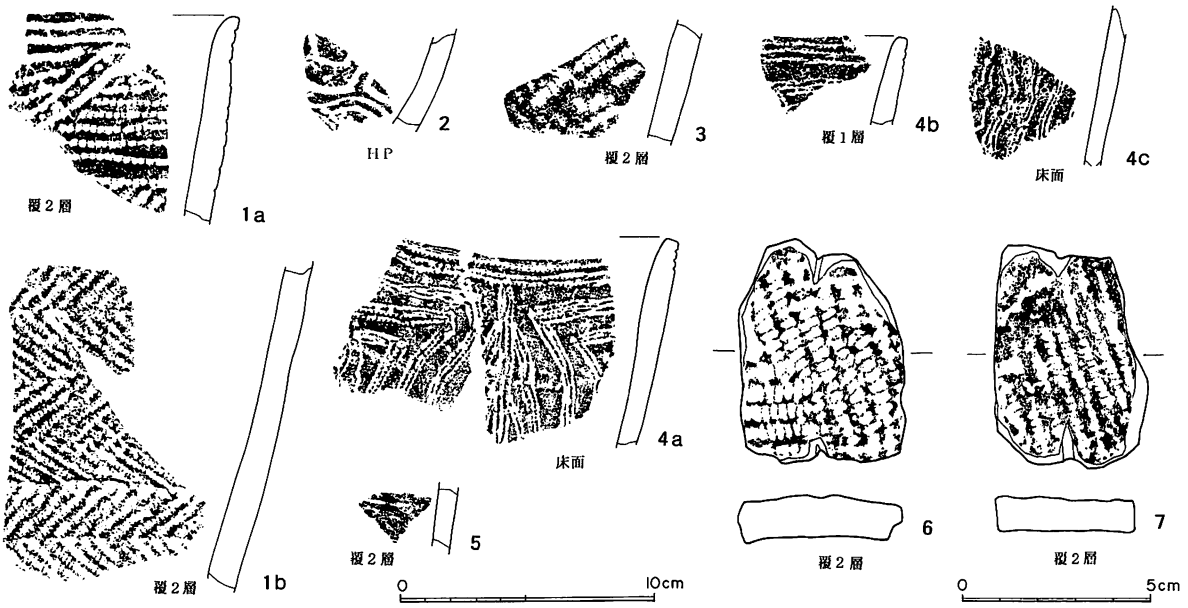

図Ⅲ－130　H－43出土遺物の分布と接合図

遺物

土器（図Ⅲ－131　図版67）

1～3はⅡ群土器。1a・bは同一個体。口唇部から内面は丁寧にナデられて丸味を帯びた断面になっている。口縁にそって押引き文が2条施され、口縁部の比較的広い範囲に、断面が円形の細い棒状工具で刺突文的な押引き文を平行に複数施しているが、斜行の2条の押引き文で区切られている。この間には同じ原体で円形刺突文を等間隔に施している。図左側の文様は弧状の文様の可能性がある。胴部には0段多条のＬＲとＲＬの原体による羽状縄文が段状に施されている。文様施文後、器面をナデている。焼成は良好で、内面は赤褐色を呈している。2は小型土器。弧状の文様が描かれている。

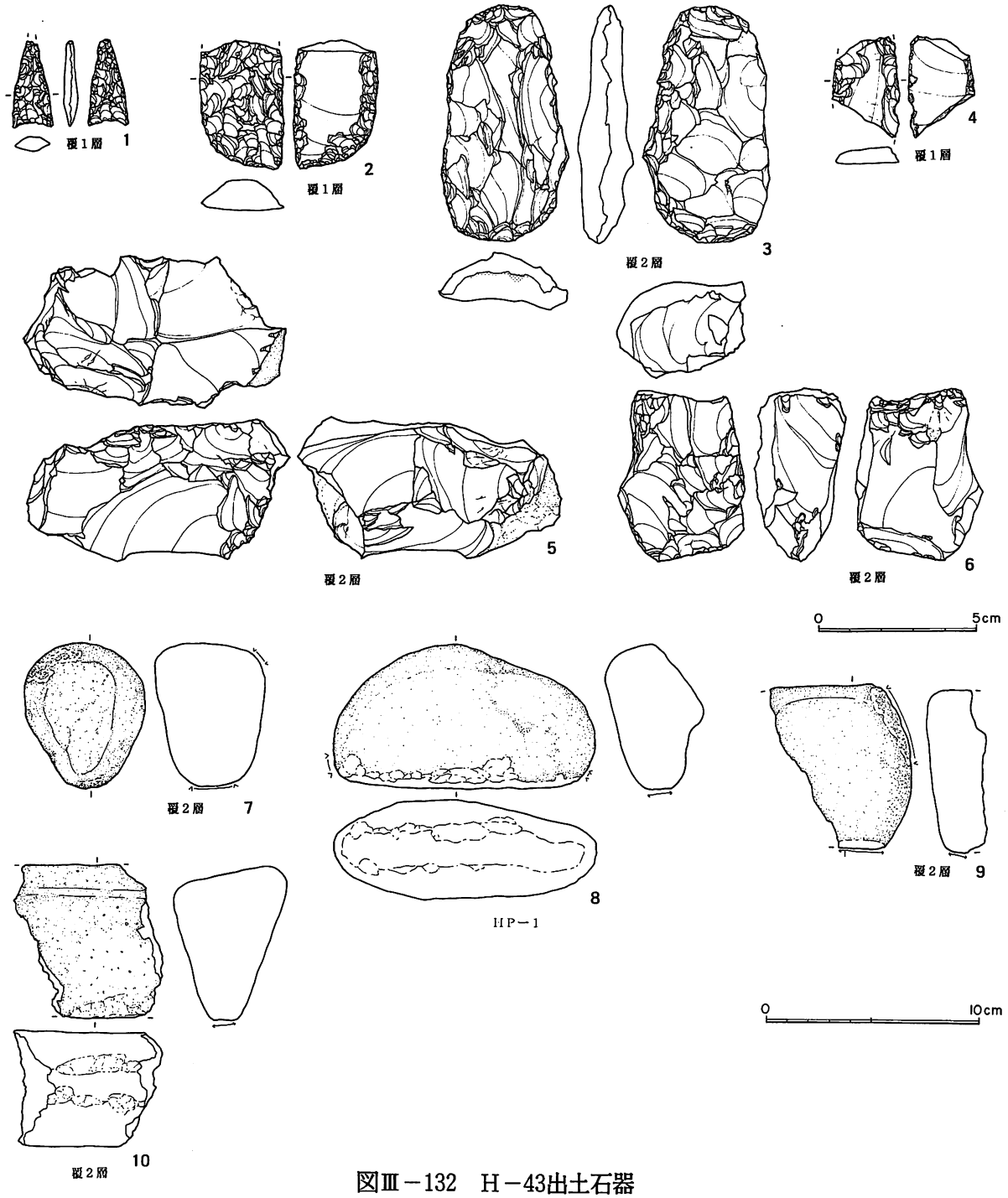
5はⅠ群Ａ類土器。薄手で、色調は灰白色。細い沈線文が施されている。4a～cはⅠ群Ｂ類土器。床面と覆土2層から出土した。波状口縁で、文様は3条一単位の腹縁文で幾何学文的文様を描いているとみられる。下描きの沈線は太く、重ねられている貝殻腹縁圧痕文は雑に施されている。6・7はⅡ群土器の破片を素材にした土器片錘。6は打欠きによって成形されたと思われる。7は図左側部分は擦り切られている。いずれも長方形の短辺に、外面から内面に斜めに切り込みを入れている。




図Ⅲ－131　Ｈ－43出土土器

石器（図Ⅲ－132　図版98）

1は三角形凹基鏃。2は両面加工の篦状石器。両端が円形に加工されており、両端とも刃部として利用した可能性がある。下端の縁辺は潰れている。3は石匙の刃部片。4はスクレイパーとしたが、石匙の可能性が高い。5・6は石核。いずれも打面転移が著しい。7は石英のたたき石。8～10はすり石。8・10は1類。8は両端にたたき痕が認められる。




図Ⅲ−132　H−43出土石器

H−45（図Ⅲ−133　図版32）

**位置**：M−8−99、M−7−90　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形の南西斜面上に位置する。標高は49.30m〜49.20mである。　**規模**：（3.80m）／（3.40m）×（3.14m）／（3.0m）×0.18m

**平面形**：卵形か？　**床面積**：8.61㎡　**長軸方向**：N−77°−E

**確認・調査・土層**：M−7−90の包含層調査中、Ⅳ層直上で半円状のⅢb層の落ち込みを検出した。また、東西メインセクションの南面でⅤ層を若干掘り込んでいる落ち込みを確認した。M−8−99は

ほぼV層上面まで掘り下げてあったため、プランは明瞭でなかったけれども、柱穴状の小ピットが検出されたことなどから、住居跡として調査を行った。Ⅲb層を除去し、覆土と思われる黒茶色土を順次掘り下げ、床面、壁の立ち上がりを確認する。東、南東側の床面、壁の立ち上がりはまったく不明であった。覆土はほぼ二層に分けられる。覆土1層は黒茶色土である。東側には暗茶褐色土が部分的に堆積していた。層厚は約6㎝前後である。覆土2層はV層がまじる砂質の暗黄褐色土である。層厚は5㎝～10㎝である。

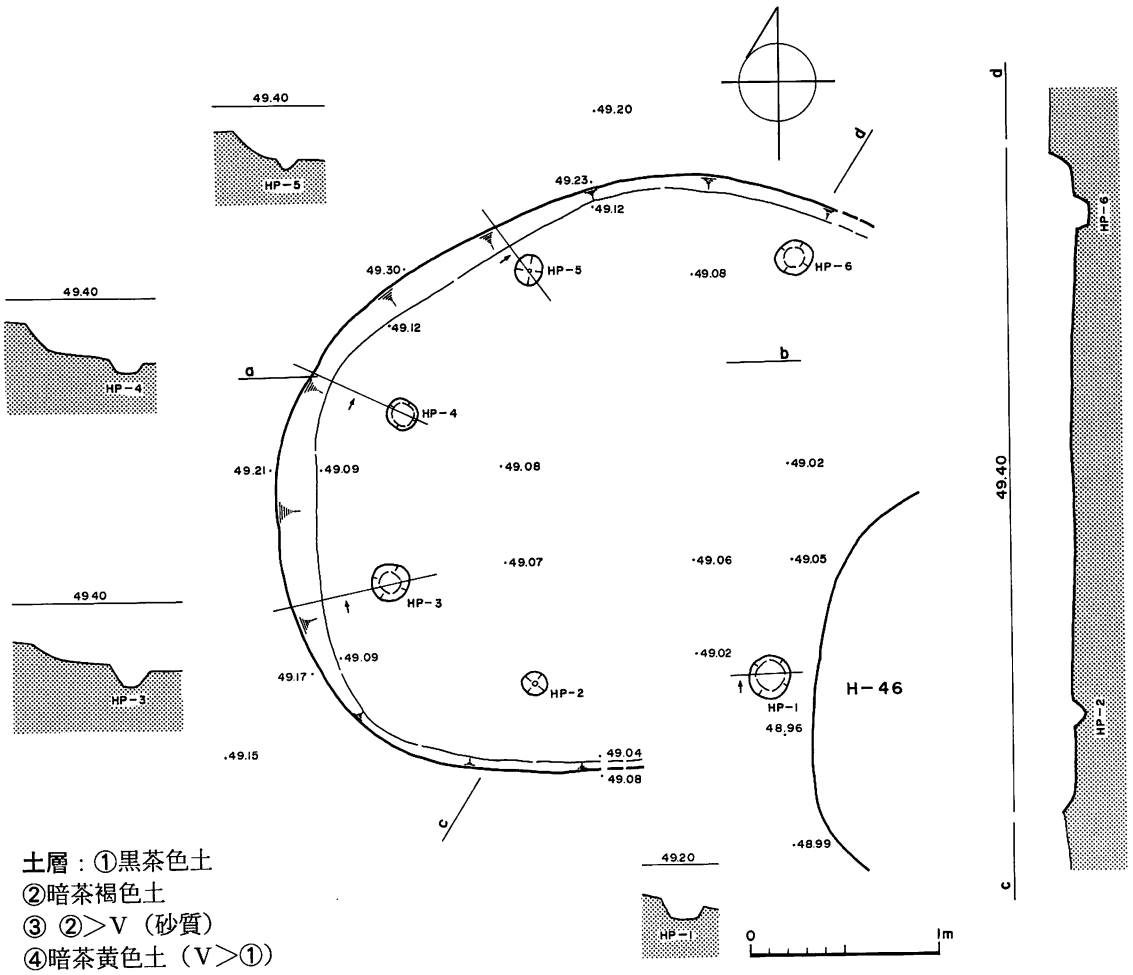
**床面**：V層を浅く掘り込んで構築されているが、東側は不明である。ほぼ平坦で、南東側に傾斜している。東側はⅢb層中に構築されていたものと思われる。

**壁**：北西部分しか明らかでないが、ほぼ急傾斜で立ち上がっている。壁高は11㎝～18㎝である。

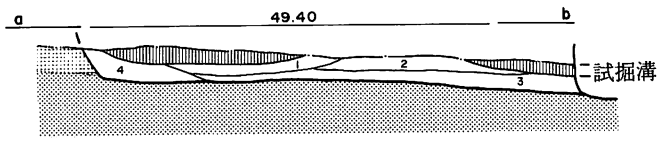
**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは6個検出されている。壁際より10㎝～40㎝内側をめぐっている。すべて直立している。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は20点である。その内訳は土器15点、石器5点である。遺物はすべて覆




土層：①黒茶色土
②暗茶褐色土
③ ②＞V（砂質）
④暗茶黄色土（V＞①）




図Ⅲ－133　H－45実測図

ている。

**時期**：掘り込み面はⅢ層中と思われる。周辺包含層から出土した土器はⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はH－46と重複しているものと思われるが、新旧関係は不明である。

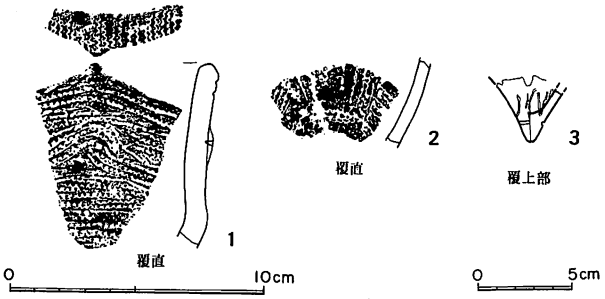
表Ⅲ－20　H－45小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深　さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 22×22 | 5 | 黒褐色土（砂質） | 床　面 | 直立 |
| HP－2 | 10×10 | 5 | 暗茶灰色土（砂質） | 床面直下 | 〃、先端部細い |
| HP－3 | 20×20 | 6 | 暗黄褐色土 | 床　面 | 直立 |
| HP－4 | 15×15 | 7 | 黒褐色土＋黄色土（粘質） | 〃 | 〃 |
| HP－5 | 10×10 | 8 | 暗茶灰色土（砂質） | 床面直下 | 〃、先端部細い |
| HP－6 | 18×18 | 6 | 茶褐色土（砂質） | 床　面 | 〃、　〃 |

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－134　図版68）

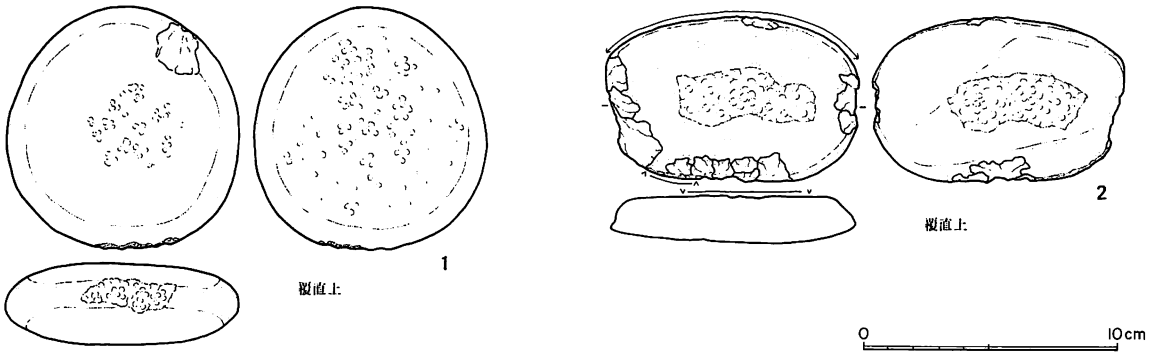
すべて覆土直上出土のもの。1は小さい山形の波頂部があるキャリパー状の器形の土器。文様構成ははっきりとは分からないが、波頂部下位で数条単位の腹縁文を入り組ませ、その部分の粘土をやや盛り上げて、中心に円形刺突文を施している。腹縁文の施文は雑である。刺突文は中心のもの以外は楕円形である。2は小型土器。体部破片ではあるが角があり、やや方形を呈する器形と思われる。3はミニチュア土器。口縁部は欠損している。細かい沈線で底部では一筆描き的に、ほかの部分では三角形などの幾何学文的文様が雑に描かれている。




図Ⅲ－134　H－45出土土器

**石器**（図Ⅲ－135　図版99）

1はすり石2類。平坦面にはあばた状のたたき痕がある。周縁にもたたき痕がめぐる。2は石錘。たたき石からの転用である。



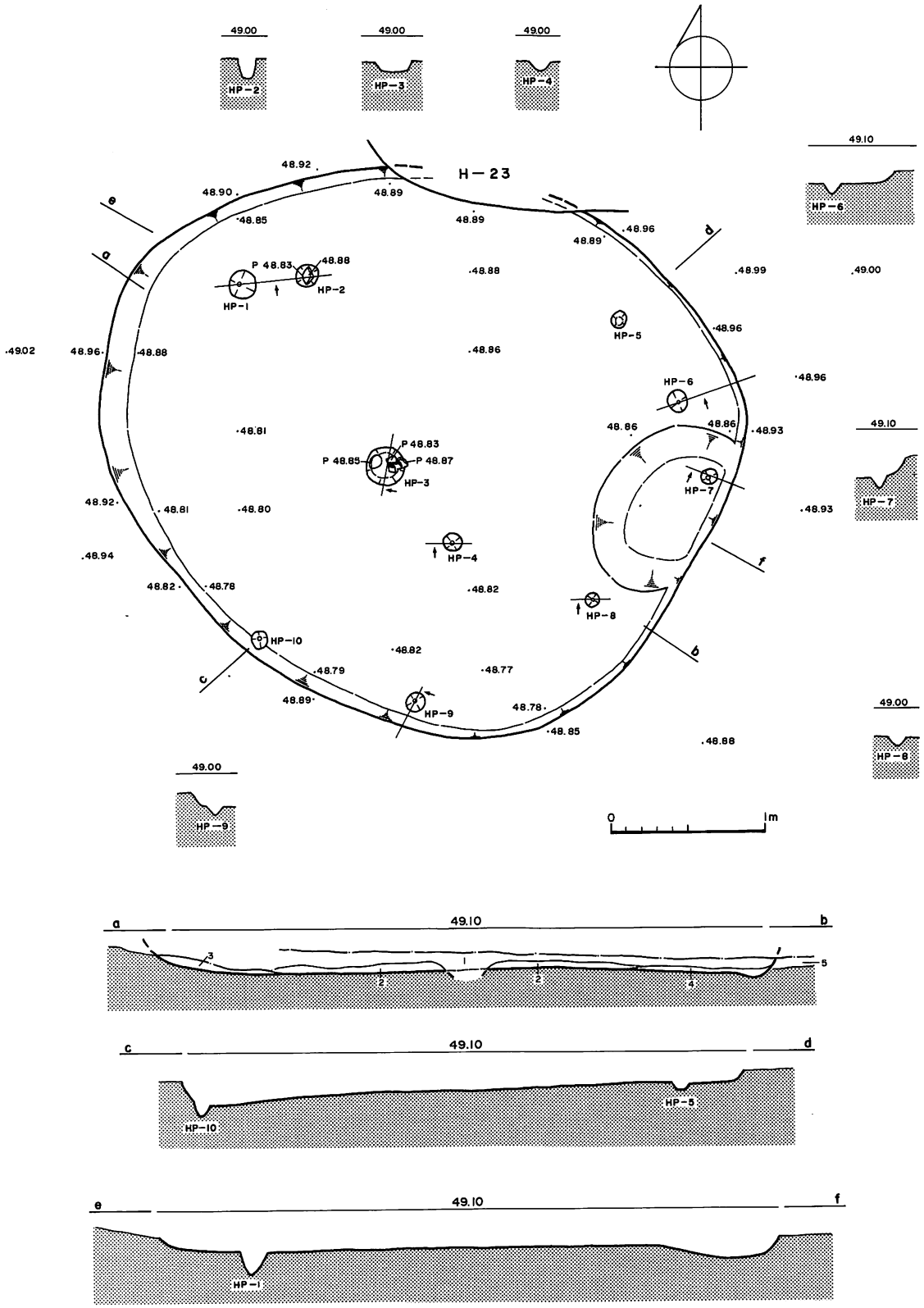

図Ⅲ－135　H－45出土石器

H－46（図Ⅲ－136、図版32）

**位置**：M－8－99、N－7－09　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形の西斜面上に位置する。

標高は48.85m～49.96mである。　**規模**：4.05m／3.84m×3.55m／3.40m×0.16m

**平面形**：北西を先頂部とする卵形　**床面積**：9.82㎡　**長軸方向**：N－63°－W




土層：①黒褐色土＋黄色土粒（やや粘質で堅い）　②暗黄褐色土　③暗灰黄色土（砂質）
④暗褐色土（粘質）　⑤黒茶色土（粘質）

図Ⅲ－136　H－46実測図

**確認・調査・土層**：N－8－09の包含層調査中、Ⅲ層中で掘り上げ土状の暗黄灰色土が半円形状に検出された。このため周辺を精査し、遺構検出調査を行ったところ、長円形状の黒褐色土の落ち込みを検出した。南側にも遺構状の落ち込みが認められたため、重複関係を把握するため土層観察用の土手を残し、小トレンチによる床面、壁の立ち上がりの検出作業を行った。覆土はほぼ一層である。覆土1層は黄色土粒まどりの粘質の黒褐色土である。層厚は5㎝～10㎝である。床面直上には汚れた暗黄褐色土が2㎝～3㎝ほど中央部に認められた。

**床面**：V層を若干掘り込んで構築されている。ほぼ平坦であるが、中央部がやや高くなり南東側に傾斜している。北東コーナー付近には1.1m×0.7m×0.11mの浅いくぼみがある。

**壁**：全体に緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は6㎝～12㎝である。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは10個検出されている。床面中央部に2個あり、他は壁際をめぐっている。すべて直立している。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は51点である。この内訳は土器38点、石器13点である。遺物は覆土中から出土している。HP－2、HP－3の覆土中からも土器片が出土した。出土した土器はⅠ群B類のものであり、石器ではUフレイク、スクレイパーなどが出土している。HP－3の覆土から出土した土器片5点がH－25の覆土、N－8－09のⅢ層出土の土器片と接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢ層中である。覆土および周辺包含層から出土した土器はⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はH－23、H－47と重複しており、H－23より古く、H－47より新しいものである。H－45と相接近しているが、新旧関係は不明である。また、本住居跡の東～南東壁の外側に見られた掘り上げ土状の土は、壁から1mほど外側に5㎝～10㎝の厚さで、本住居跡を囲むように堆積していた。この土は、遺構の覆土中には見られず、他の遺構の掘り上げ土とは考えられない。本住居構築の際の掘り上げ土と考えて良いだろう。

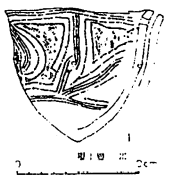
表Ⅲ－21　H－46小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (㎝) | 深　さ (㎝) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 15×12 | 16 | 黒茶色土（粘質） | 床　面 | 直立、先端部細い |
| HP－2 | 12×12 | 12 | 暗褐色土（粘質） | 床面直上 | 〃、土器片混入 |
| HP－3 | 25×25 | 5 | 黒褐色土 | 〃 | 〃、浅い、土器片混入 |
| HP－4 | 10×10 | 5 | 茶褐色土 | 床　面 | 直立、浅い |
| HP－5 | 10×10 | 3 | 暗黄褐色土 | 〃 | 〃 |
| HP－6 | 12×11 | 7 | 暗茶褐色土 | 〃 | 〃、先端部細い、礫混入 |
| HP－7 | 10×10 | 7 | 黒褐色土 | 〃 | 〃　〃 |
| HP－8 | 10×10 | 5 | 暗黄褐色土（砂質） | 〃 | 〃　〃 |
| HP－9 | 11×11 | 6 | 暗黄灰色土 | 〃 | 〃　〃 |
| HP－10 | 15×15 | 6 | 黒褐色土≫黄色土（軟質） | 床面直下 | 〃　〃 |

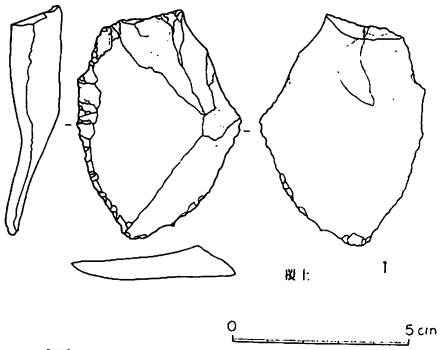
**遺物**

**土器**（図Ⅲ－137　図版55）

1はHP－3出土の破片と、H－25の覆土1層、N－8－09出土の土器が接合した。体部に欠損した部分はあるが、ほぼ完形の小型鉢型土器。4ヵ所に緩やかな波頂部があり、対応する位置に一対の貫通孔がある。文様は体下半部までに限られ、波頂部から3条一単位のクランク状



図Ⅲ－137　H－46出土土器




図Ⅲ－138　H－46出土石器

の腹縁文を施し、全体を4単位に区画している。区画内は舌状の文様が描かれ、全体として点対称の構成になっている。区画内は押引き文的な腹縁文が充填されている。小型の貝殻の腹縁部を利用したものであろう。円形刺突文は多用され、最終的区画の腹縁文上、3条一単位の腹縁文ではその中央に等間隔に施されている。また、クランク状の線の変換点には、ほかより大きな刺突文が施されている。薄手で、焼成が良い土器で、体部にかすかに条痕が観察できる。

**石器**（図Ⅲ－138　図版99）

1はスクレイパーである。

H－47（図Ⅲ－140、図版32）

**位置**：M－8－98・99、N－8－08・09　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形の西斜面上に位置する。標高は48.93m～48.82mである。　**規模**：4.90m／4.65m×(4.10m)／(3.80m)×0.05cm～0.12m

**平面形**：南東を先頂部とする卵形　　**床面積**：14.72㎡　　**長軸方向**：N－36°－W

**確認・調査・土層**：M－8－98・99の包含層調査中、Ⅴ層上面で半円形の落ち込みが検出された。このためN－8－08・19の遺構検出作業を行い、Ⅳ層直上で黒褐色土の落ち込みを検出した。N－8－08の南西部で検出土され焼土（H－49）とH－46との重複関係を把握するためそれぞれに交わる土層観察用の土手を設定し、小トレンチ調査により床面、壁の立ち上がりの検出作業を行った。Ⅴ層を若干掘り込こんだ床面と思われるやや堅い面を検出し、北西側の壁の立ち上がりを確認した。このため全体的に覆土を掘り下げ、調査を行った。覆土はほぼ一層である。覆土1層は黄色土粒の混入する粘質の黒褐色土である。層厚は5cm～10cmである。床面直上には2cm～3cmほど汚れた暗灰黄色土が堆積している。

**床面**：わずかに凹凸が見られるが、ほぼ平坦で、堅い。Ⅴ層を若干掘り込んで構築されている。中央がやや高くなっている。また、南東壁際には径約1.2m、深さ約0.1mほどの浅いくぼみがある。

**壁**：全体に緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は3cm～9cmである。

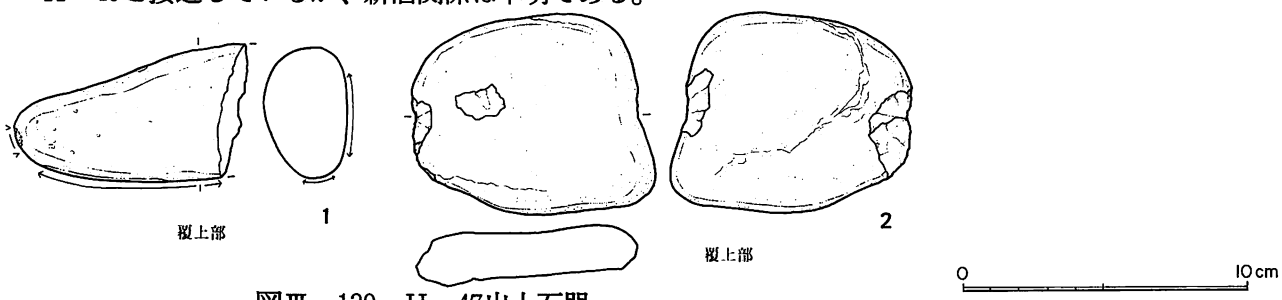
**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは9個検出されている。HP－6～HP－9は壁際から60cmほど内側にあり、直立し、杭状のものである。HP－1、HP－3、HP－4も壁際から30cm～50cmほど内側にあり、直立するものである。HP－5は浅いⅢ状のものである。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は114点である。この内訳は土器110点、石器4点である。遺物は北西－南側にかけての覆土上層から、ちらばった状態で出土している。出土した土器はすべてⅠ群B類のものであり、石器では石錘、すり石、たたき石などが出土している。

**時期**：掘り込み面はⅢb層中と思われる。床面直上、覆土から出土した土器はⅠ群B類であることから本住居跡は縄文時代早期中葉のものである。

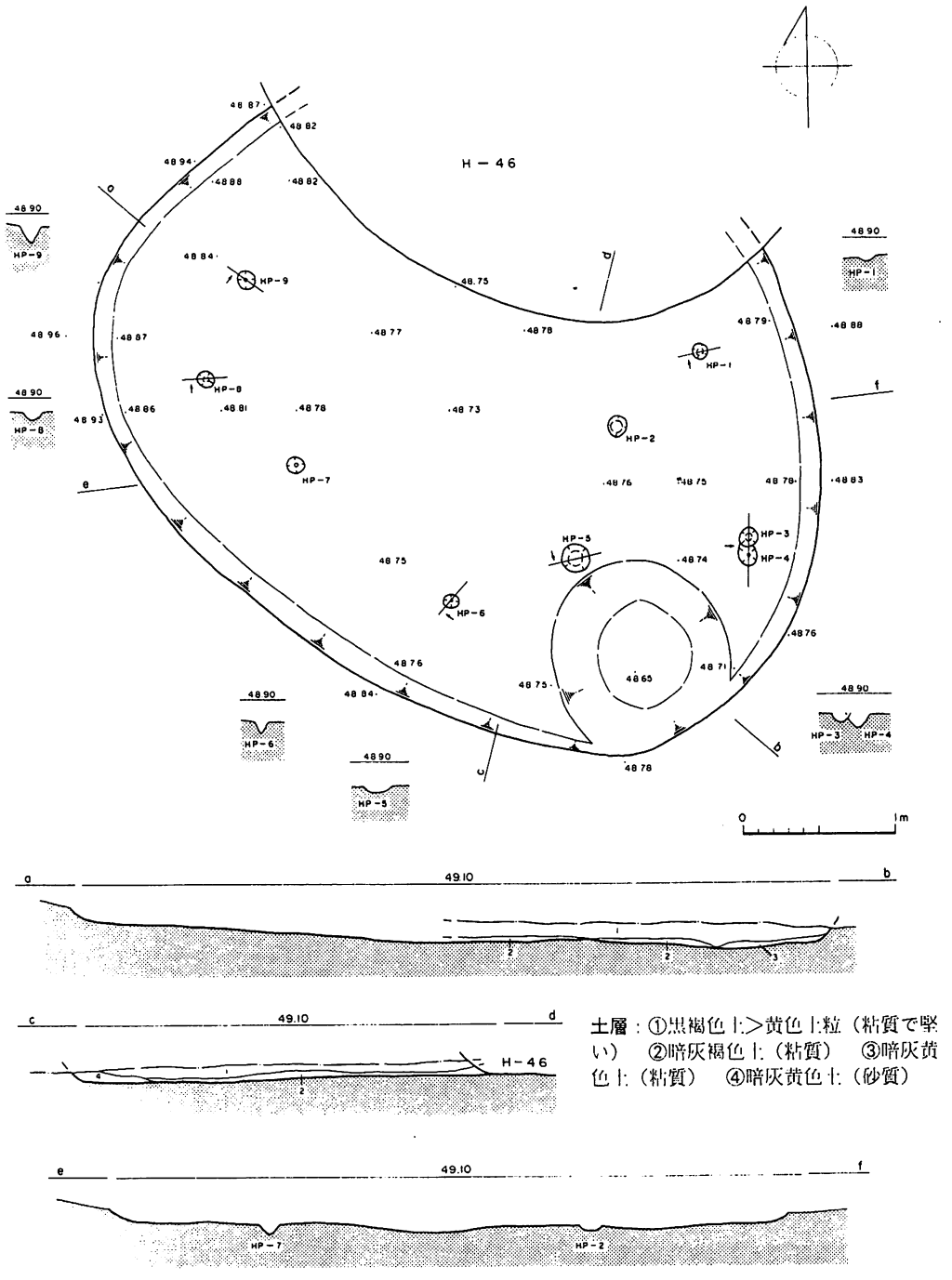
なお、本住居跡はH－46、H－48と重複しており、H－46より古く、H－48より新しいものである。H－49と接近しているが、新旧関係は不明である。




図Ⅲ－139　H－47出土石器

表Ⅲ－22　H－47小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深　さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 10×10 | 3 | 黒褐色土（軟質） | 床面直下 | 直立、浅い皿状 |
| HP－2 | 14×14 | 3 | 茶褐色土（軟質） | 床　面 | 〃　、　〃 |
| HP－3 | 10×10 | 5 | 暗黄褐色土 | 〃 | 〃 |
| HP－4 | 10×10 | 12 | 暗褐色土 | 〃 | 〃 |
| HP－5 | 20×20 | 3 | 茶褐色（軟質） | 〃 | 浅い皿状 |
| HP－6 | 10×10 | 5 | 褐色土＞黄色土 | 床面直下 | 直立、先端部細い |
| HP－7 | 10×10 | 8 | 暗褐色≫黄色土（軟質） | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－8 | 11×10 | 5 | 黒褐色土 | 床　面 | 〃　、　〃 |
| HP－9 | 10×10 | 12 | 〃　（粘質） | 〃 | 〃　、　〃 |




図Ⅲ－140　H－47実測図

**石器**（図Ⅲ－139　図版100）

1は軽微なすり面をもつすり石。たたき痕も認められる。2は石錘である。

Ｈ－48（図Ⅲ－141、図版32）

**位置**：Ｍ－８－08　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は48.80ｍである。

**規模・平面形・床面積・長軸方向**：不明

**確認・調査・土層**：Ｍ－８－08包含層調査中、Ⅳ層直上で暗褐色土の落ち込みを検出した。Ｈ－37、Ｈ－47に北西、南東側がそれぞれ切られており全体像は不鮮明であった。このため北西－南東方向に土層観察用の土手を設定し、小トレンチによる調査によって床面を検出し、北東、南西に広げ、壁の立ちあがりた確認した。覆土は二層に分けられる。覆土１層は粘質の暗褐色土である。層厚は約10cmほどである。覆土上層は灰褐色土で、北西側はやや砂質気味である。層厚は５cmほどである。

**床面**：一部分しかわからないが、残存部はほぼ平坦で、Ⅴ層上面に構築されている。堅い。

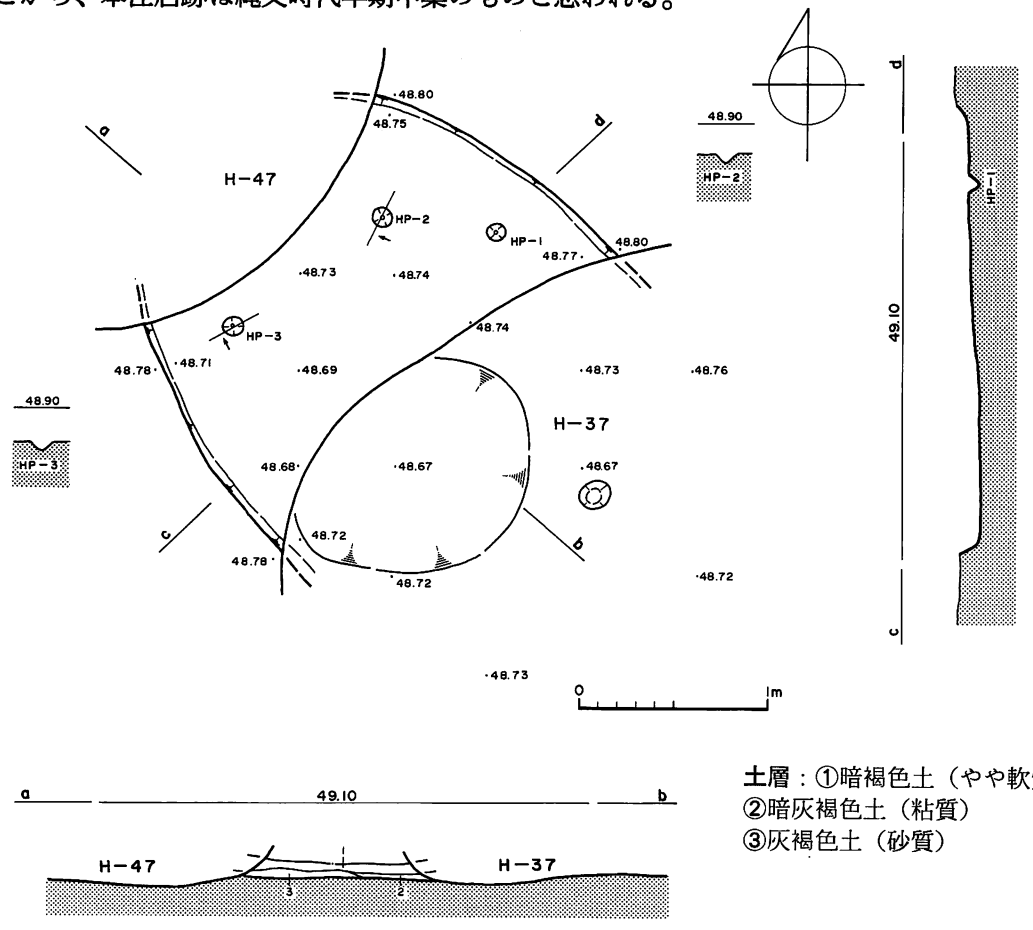
**壁**：残存部分は緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は５cm～13cmである。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは３個検出されている。すべて直立し、杭状のもので壁際より30cm～50cm内側にある。

**遺物出土状況**：遺物は出土していない。

**時期**：掘り込み面はⅢｂ層中と思われるが明瞭ではない。周辺包含層から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。




**土層**：①暗褐色土（やや軟質）
②暗灰褐色土（粘質）
③灰褐色土（砂質）

図Ⅲ－141　Ｈ－48実測図

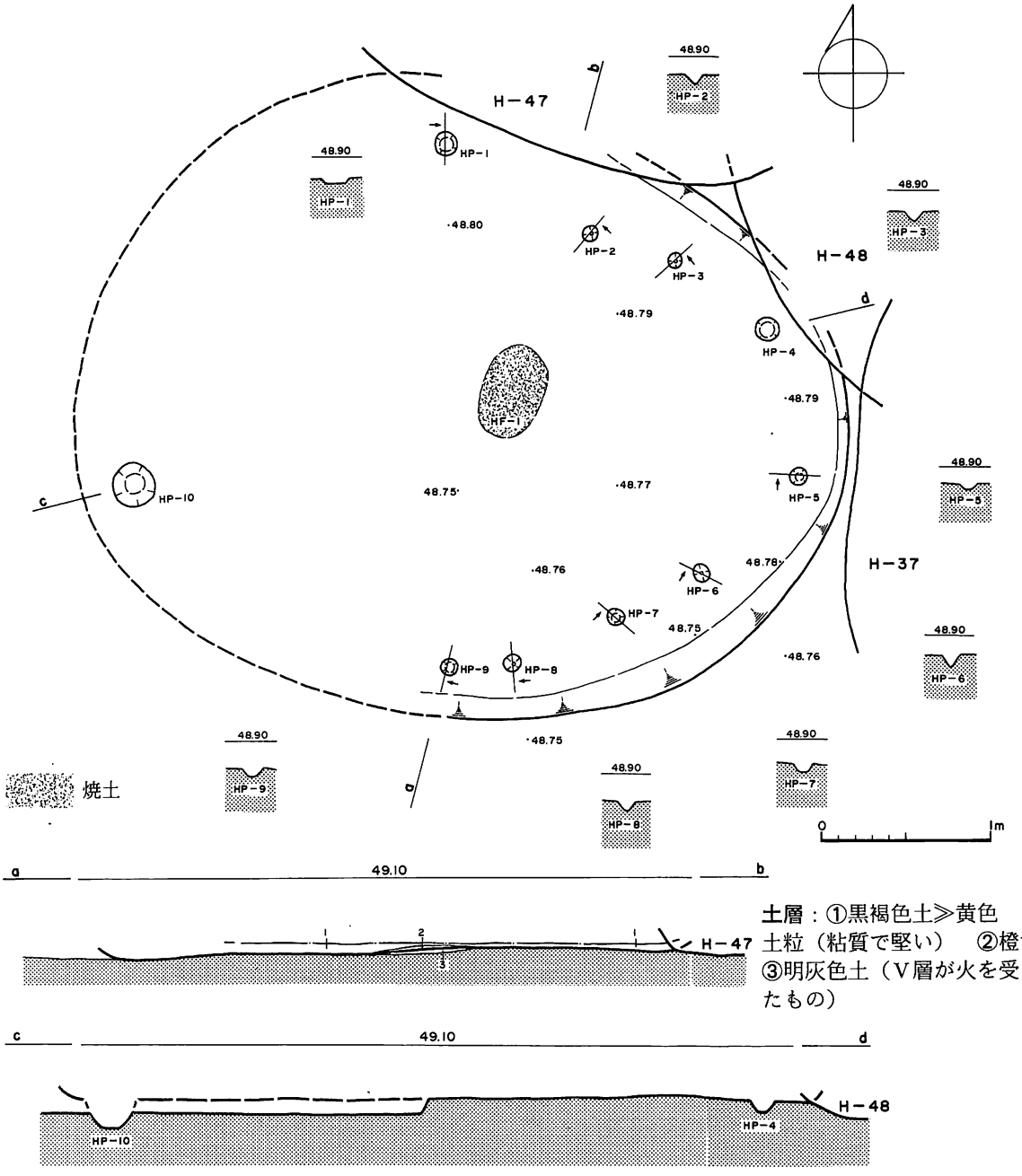
なお、本住居跡はH－47、H－37と重複しており、これらより古いものである。H－49と接近しているが新旧関係は不明である。

表Ⅲ－23　H－48小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深　さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 10×10 | 5 | 暗褐色土＞黄色土（かたい） | 床　面 | 直立、先端部細い |
| HP－2 | 10×10 | 5 | 〃 | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－3 | 10×10 | 5 | 〃 | 〃 | 〃　、　〃 |

H－49（図Ⅲ－142、図版32）

**位置**：M－8－98、N－8－08　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。　標高は48.75ｍである。　**規模・平面形・床面積・長軸方向**：不明




**土層**：①黒褐色土≫黄色土粒（粘質で堅い）　②橙色土（焼土）　③明灰色土（Ⅴ層が火を受けて赤化したもの）

図Ⅲ－142　H－49実測図

**確認・調査・土層**：N－8－08のV層上面で焼土を検出した。周辺を精査したところ柱穴状小ピットが検出されたことから住居跡として調査を行った。土層、壁などは不明であるが、東側では、粘質で堅い黒褐色土≫黄色土粒の汚れた土が2㎝～3㎝ほど残存している。

**床面**：V層上面に構築されている。ほぼ平坦で堅い。焼土の南側は若干低くなっている。

**炉跡**：床面のほぼ中央部で0.6m×0.35mの長円形状の焼土が検出されている。地床炉である。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは10個検出されている。すべて直立している。壁の内側をめぐるものと思われる。

**遺物出土状況**：包含層調査で取り上げているため、本住居跡に伴うものとしての出土土器は見られない。床面上から遺物は出土している。だだ焼土中からフレイクが5点している。

**時期**：掘り込み面は不明である。周辺包含層から出土する土器はⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はH－47、H－48、H－37と接近しているが、明確な重複関係は不明である。

表Ⅲ－24　H－49小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (㎝) | 深　さ (㎝) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 13×13 | 3 | 黒褐色土 | 床　面 | 浅い |
| HP－2 | 9×9 | 6 | 黒色土＋灰黄色土（軟質） | 〃 | 直立、先端部細い |
| HP－3 | 7×7 | 6 | 褐色土 | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－4 | 13×13 | 6 | 暗茶褐色土 | 〃 | 〃　、 |
| HP－5 | 7×7 | 3 | 褐色土 | 〃 | 浅い |
| HP－6 | 10×10 | 10 | 暗褐色土（粘質） | 〃 | 直立、先端部細い |
| HP－7 | 10×10 | 5 | 暗褐色土＞黄色土 | 〃 | 〃 |
| HP－8 | 10×10 | 5 | 暗褐色土≫黄色土 | 〃 | 〃　、先端部細い |
| HP－9 | 10×10 | 5 | 黒褐色土 | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－10 | 25×25 | 12 | 暗褐色土＋黄色土（砂質） | V層上面 | 〃 |

H－50（図Ⅲ－143　図版33）

**位置**：N－7－02・12　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形の西斜面上に位置する。　標高は49.75m～49.30mである。　**規模・平面形・床面積・長軸方向**：不明

**確認・調査・土層**：N－7－02の包含層調査中、Ⅳ層上面でⅢb層の落ち込みを検出した。Ⅲb層を除去し、暗褐色土、暗黄褐色土を順次掘り下げ、V層中に床面と思われる平坦面を検出した。覆土は二層に分けられる。覆土1層は微量の黄色土粒が混入する暗褐色土である。層厚は約10㎝ほどである。覆土2層は砂質の汚れた暗黄褐色土である。層厚は5㎝～10㎝である。なお、西壁際には砂質の汚れた暗褐色土＋黄色土の混合土が三角堆積状にみられた。

**床面**：V層を掘り込んで構築されている。特に西側はV層と深く掘り込んでいる。ほぼ平坦であるが、南東側へわずかに傾斜している。西壁際には径1m、深さ0.15mほどの円形状のくぼみがある。

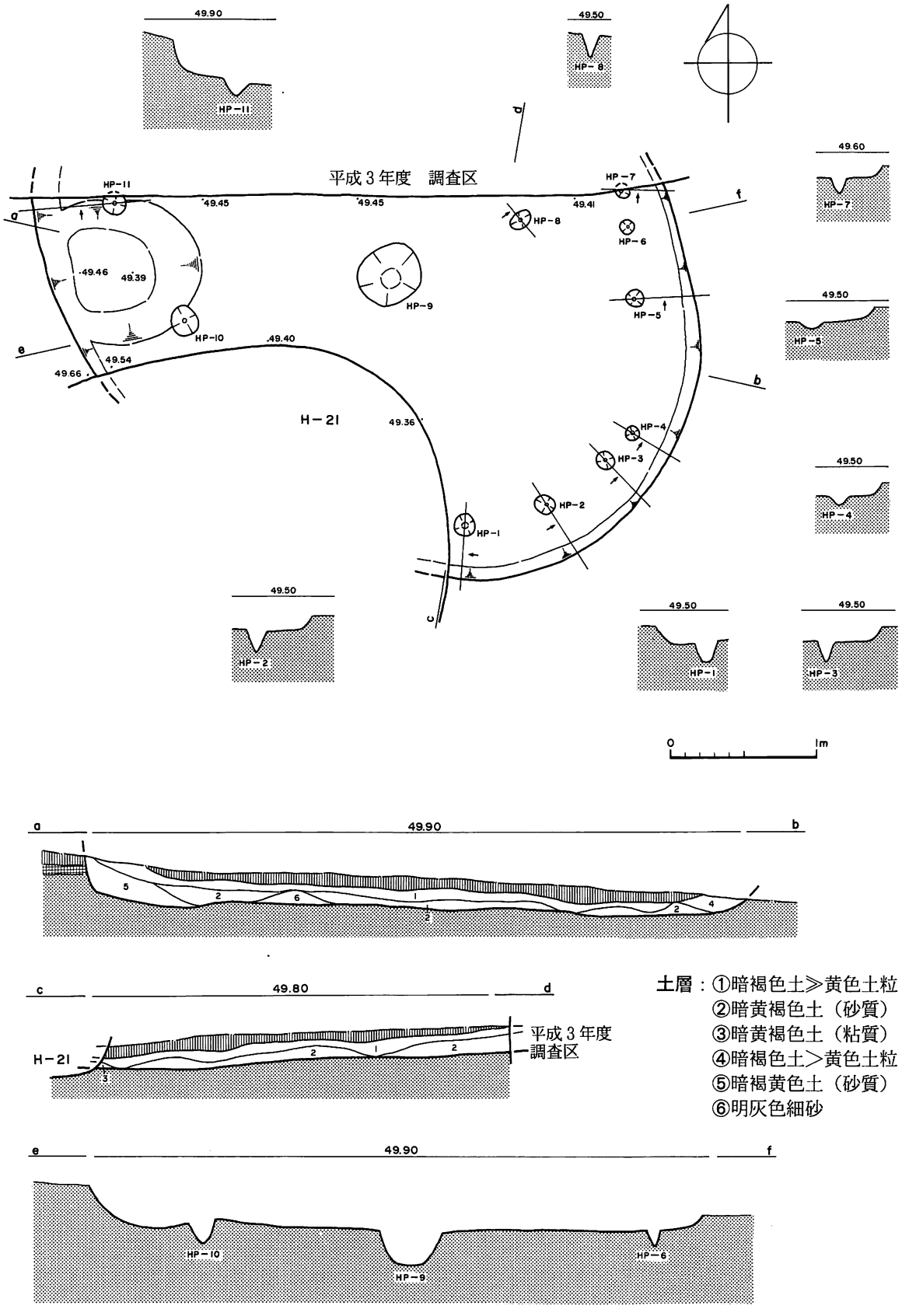
**壁**：残存部分の壁は全体に緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は7㎝～24㎝で、西壁が深い。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは11個検出されている。壁際から30㎝ほど内側をめぐるものは、直立し杭状のものである。HP－9は床面のほぼ中央部にある。直立している。主柱穴かと思われる。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は65点である。この内訳は土器41点、石器24点である。遺物はすべて覆土中から出土したもので、特に上層から多く出土した。西側の覆土中からが多く、流れ込んだ状態を示している。土器はⅠ群B類のものであり、石器では石鏃、石錘、たたき石などが出土している。覆土から出土した土器片とN－7－02のⅢ層出土の土器片と接合している。

**時期**：掘り込み面はⅢb層中と思われる。覆土から出土した土器はⅠ群B類であることから、本住居




図Ⅲ－143　Ｈ－50実測図

跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はH－21、H－51、H－53と重複しており、H－21より古く、他の住居跡より新しいものである。

表Ⅲ－25　H－50小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深　さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 15×15 | 15 | 黒茶褐色土（砂質） | 床　面 | 直立 |
| HP－2 | 16×16 | 15 | 〃　（〃） | 〃 | 〃、先端部細い |
| HP－3 | 12×12 | 13 | 暗茶褐色土＞黄色土 | 〃 | 〃、〃 |
| HP－4 | 10×10 | 6 | 黒褐色土＞黄色土 | 〃 | 〃、〃 |
| HP－5 | 12×12 | 5 | 暗茶褐色土＋黄色土 | 〃 | 浅い皿状 |
| HP－6 | 10×10 | 10 | 黒褐色土＞黄色土 | 〃 | 直立、先端部細い |
| HP－7 | 10×10 | 10 | 〃　〃 | 〃 | 〃、〃 |
| HP－8 | 15×12 | 15 | 暗茶褐色土 | 〃 | 〃、〃 |
| HP－9 | 35×35 | 15 | 〃 | 〃 | 〃、 |
| HP－10 | 26×16 | 15 | 黒褐色土 | 〃 | 〃、先端部細い |
| HP－11 | 15×14 | 12 | 暗茶褐色土＋黄色土 | 〃 | 〃、〃 |

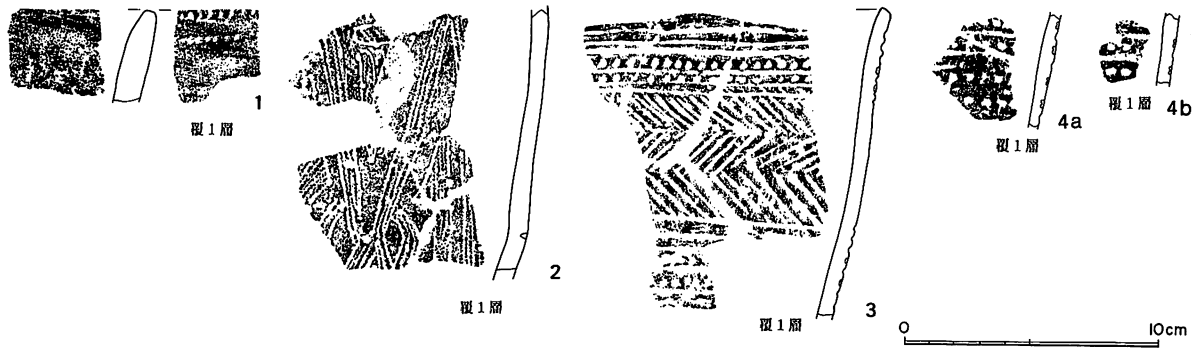
**遺物**

**土器**（図Ⅲ－144　図版68）

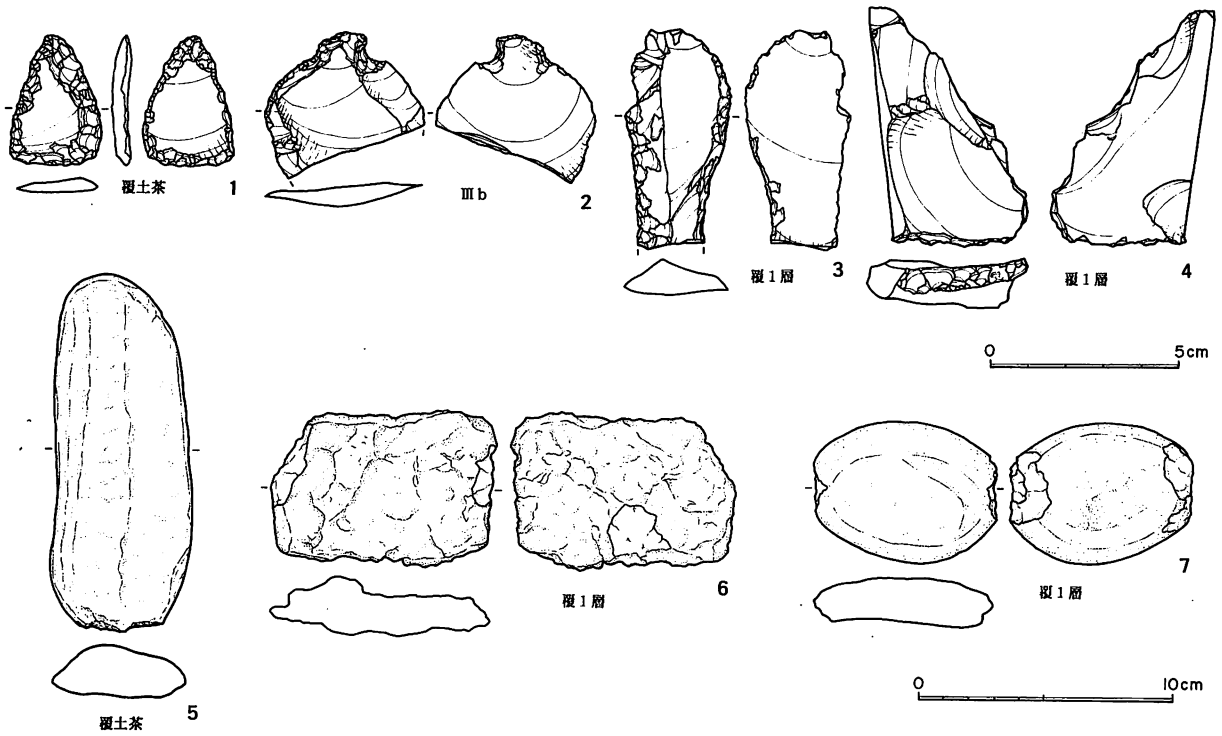
1・2はⅠ群A類、3～5a・bはE類土器である。1は覆土1層出土の無文土器。口唇はやや丸味を帯びている。口唇内側角に貝殻腹縁部による短い刻み目がある。その下位にも径2㎜程のごく浅い圧痕がみられるが原体は分らない。内面には横位に条痕がある。2は覆土1層とN－7－02(4点)出土の破片が接合した。比較的薄手で、焼成が良い。腹縁文の施文は非常に丁寧である。破片の下位に施されているほかのものより大きい円形刺突文は文様の中心となる位置であろう。3は覆土1層とN－7－10（4点）の破片が接合したもの。同一個体片はH－25（図Ⅲ－55－17)、N－7－10、N－8－09（図Ⅳ－20－17）から出土している。4a・bは覆土1層出土のもの。浅い横走沈線文（4a）と隅丸の角形に近い刺突文が段状に施されているようである。刺突文の断面が凸形にみえることから、細い先端を切り揃えていない棒状のもので施文したのかもしれない。

**石器**（図Ⅲ－145　図版100）

1は周辺加工の石鏃4類。2は石匙。抉りのみの加工である。3・4はスクレイパー。5はたたき石。両端にたたき痕がある。6・7は石錘。




図Ⅲ－144　H－50出土土器




図Ⅲ－145　H－50出土石器

H－51（図Ⅲ－147）

**位置**：N－7－01・02・11・12　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形の西斜面上に位置する。標高は49.44m～49.33mである。　**規模・平面形・床面積・長軸方向**：不明

**確認・調査・土層**：N－7－01の包含層調査中、Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。H－21、H－50、H－20、H－17、H－54に切られており、北東、南西壁の一部分が確認されただけである。黒褐色土を掘り下げ、Ⅴ層上面に堅い面を検出し、柱穴状小ピットも検出されたため住居跡として調査を行う。覆土は二層に分けられる。覆土1層は粘質で堅い黒褐色土である。層厚は5㎝～7㎝である。覆土上層は砂質の堅い暗黄灰色土である。層厚は3㎝～5㎝である。

**床面**：ほぼⅤ層上面に構築されている。ほぼ平坦である。

**壁**：残存部分は緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は6㎝～15㎝である。

**炉跡**：南西側に0.6m×0.4mの広がりをもつ焼土が検出されたが、これは覆土上にあり、本住居跡に伴うものではない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは2個検出されている。HP－2は床面のほぼ中央部にあり、直立している。HP－1は壁際にあり、直立し杭状である。

**遺物出土状況**：覆土上層からⅠ群B類土器片が4点、石錘1点が出土している。

**時期**：掘り込み面はⅢb層中と思われる。周辺の包含層から出土した土器はⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

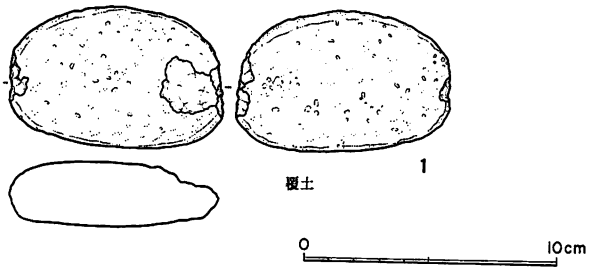
なお、本住居跡はH－17、H－20、H－21、H－50、H－53、H－54と重複しており、H－53より新しく、他より古いものである。

表Ⅲ－26　H－51小ピット一覧

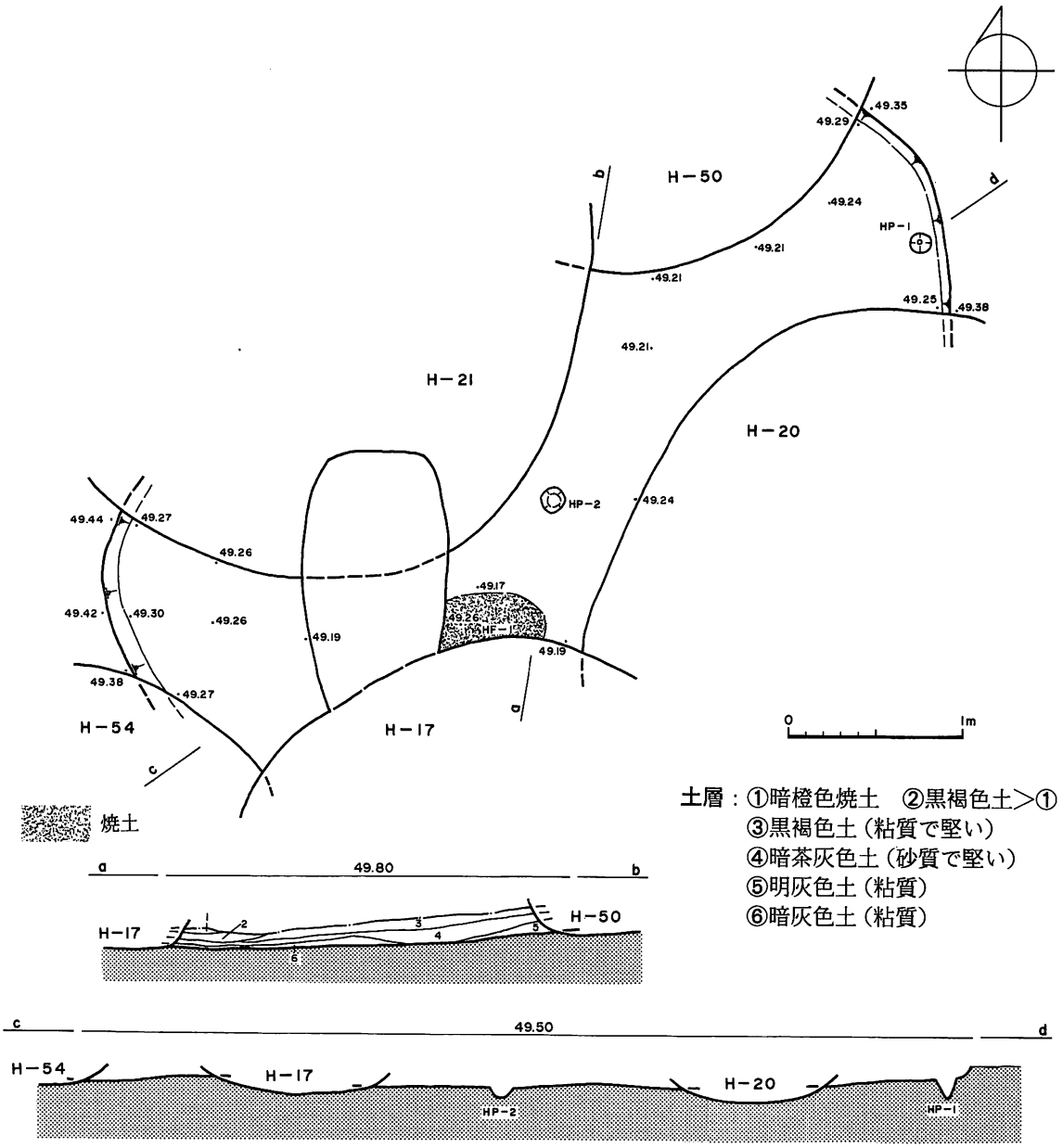
| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深　さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 15×12 | 11 | 暗褐色土＞黄色土（粘質） | 床　面 | 直立、先端部細い |
| HP－2 | 13×13 | 5 | 暗褐色土（堅い） | 〃 | 〃　、　〃 |

石器（図Ⅲ－146　図版100）

1は石錘である。




図Ⅲ－146　H－51出土石器




土層：①暗橙色焼土　②黒褐色土＞①
③黒褐色土（粘質で堅い）
④暗茶灰色土（砂質で堅い）
⑤明灰色土（粘質）
⑥暗灰色土（粘質）

図Ⅲ－147　H－51実測図

Ｈ－52（図Ⅲ－148、図版33）

**位置**：Ｎ－７－12・22　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。　標高は49.20ｍである。　**規模・平面形・床面積・長軸方向**：不明

**確認・調査・土層**：Ｎ－７－22周辺の包含層調査中、Ⅳ層上面で黒褐色土の弧状の落ち込みを検出した。同層を掘り下げ、Ⅴ層上面で堅い面を検出し、また壁の立ち上がり際で柱穴状小ピットが検出されたことから、住居跡として調査を行う。覆土はほぼ一層である。覆土１層は粘質の黒褐色土で、層厚は５㎝～10㎝である。

**床面**：Ⅴ層上面に構築されている。全体像は不明であるが、残存する床面はほぼ平坦で堅い。南東側に１ｍ×0.4ｍの長円形状の浅いくぼみである。

**壁**：残存部分は緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は８㎝～10㎝である。

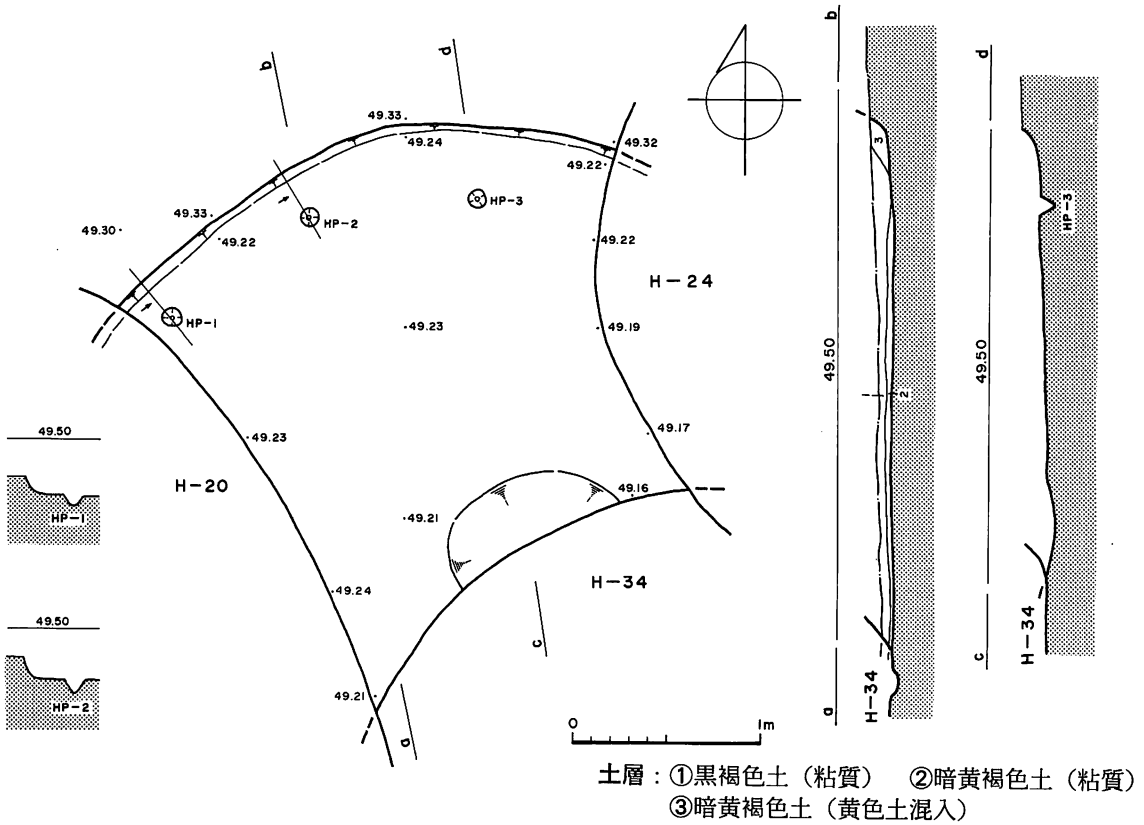
**炉跡**：焼土は検出されいない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは３個検出されている。壁際より20㎝～30㎝内側のところにあり、直立し杭状のものである。

**遺物出土状況**：遺物は覆土上層から32点出土している。出土した土器は25点で、すべてⅠ群Ｂ類に属する土器片である。石器ではＲフレイク１点、フレイク６点が出土している。

**時期**：掘り込み面はⅢｂ層と思われる。覆土、周辺包含層から出土した土器はⅠ群Ｂ類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

なお、本住居跡はＨ－20、Ｈ－24、Ｈ－34、Ｈ－53と重複しており、Ｈ－53よりは新しいが、他より古いものである。




図Ⅲ－148　Ｈ－52実測図

表Ⅲ－27　H－52小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (cm) | 深　さ (cm) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 9×9 | 3 | 暗黄褐色土 | 床　面 | 直立、 |
| HP－2 | 10×10 | 6 | 暗褐色土＞黄色土 | 〃 | 〃、先端部細い |
| HP－3 | 10×10 | 7 | 〃 | 〃 | 〃、　〃 |

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－149　図版68）

1はH－27（図Ⅲ－65－4）、H－33（図Ⅲ－89－24）、H－35（図Ⅲ－98－2）、周辺の包含層、また昨年度調査したH－3（図Ⅲ－18－8a～c）から出土した土器と同一個体の破片。

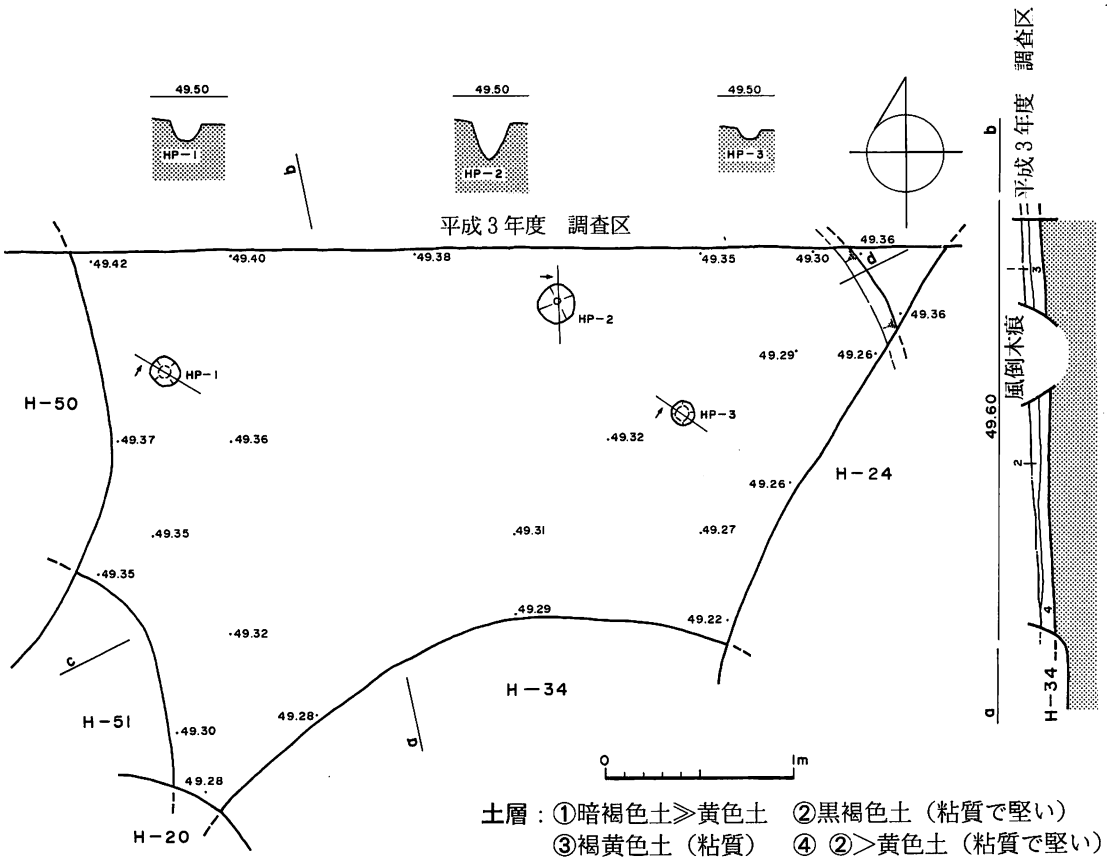



図Ⅲ－149　H－52出土土器

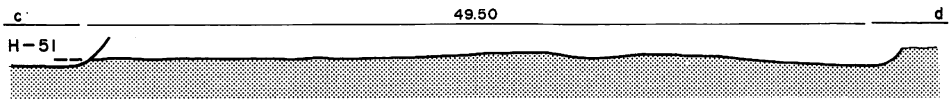
H－53（図Ⅲ－150、図版33）

**位置**：N－7－12・22　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は49.35mである。　**規模・平面形・床面積・長軸方向**：不明

**確認・調査・土層**：N－7－12・22の包含層調査中、Ⅲb層中で遺物が多く出土し、またフレイク集中も検出されたため、遺構の存在が想定された。N－7－12の北東コーナーでわずかではあるが、黒




土層：①暗褐色土≫黄色土　②黒褐色土（粘質で堅い）
③褐黄色土（粘質）　④ ②＞黄色土（粘質で堅い）




図Ⅲ－150　H－53実測図

褐色度の落ち込みが検出されたことから、土層観察用の土手を設定し、掘り下げ、調査を行う。V層上面が堅く、柱穴状小ピットも検出し、更に北東側に残存していた壁の立ち上がりも検出されたことから住居跡とする。覆土はほぼ二層である。覆土1層は粘質で堅い黒褐色土である。層厚は5㎝前後である。覆土2層は粘質の土で、覆土1層に黄色土が混入するものである。層厚は10㎝ほどである。

**床面**：V層上面に構築されている。ほぼ平坦である。南へ緩やかに傾斜している。

**壁**：残存する壁はごくわずかなため、全体的に不明である。

**炉跡**：焼土は検出されていない。

**付属ピット**：柱穴状小ピットは3個検出されている。すべて直立している。

**遺物出土状況**：覆土、床面から遺物は出土していない。覆土直上のⅢb層から多く出土している。

**時期**：掘り込み面はⅢb層中と思われる。覆土直上から出土した土器はI層B類であることから本住居跡は縄文時代早期中葉のもので思われる。

なお、本住居跡は、H－24、H－34、H－20、H－51、H－50と重複しており、これらすべてより古いものである。

表Ⅲ－28　H－53小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (㎝) | 深　さ (㎝) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 17×14 | 10 | 黒褐色土 | 床　面 | 直立 |
| HP－2 | 20×20 | 20 | 暗褐色土 | 〃 | 〃、先端部細い |
| HP－3 | 10×10 | 5 | 〃 | 〃 | 〃、　〃 |

H－54・55（図Ⅲ－151・152　図版33・34）

H－54

**位置**：N－7－01・02区に位置する。標高49.40m～49.65mの緩やかな沢の斜面に構築されている。

**規模**：4.05m／3.88m×(3.20m)／(3.00m)×0.16m

**平面形**：卵型　　**床面積**：9.30㎡　　**長軸方向**：N－4°－W

**確認・調査・土層**：航空写真撮影後、N－7－01区の包含層をⅣ層まで掘り下げたところ不整形な黒色土の落ち込みを検出した。遺構の重複を想定し、トレンチを入れて確認した。掘り込みが浅いため、立ち上がりは不明瞭であったが、黒褐色土と褐色土の混合土層の立ち上がりを壁として掘り下げた。覆土は1層が粘質の強い黒色土である。2層はH－55の1層が流れ込んだものと思われる。3層は4層を切って堆積しており、遺構が廃棄後に水流によって浸食された後に堆積したものと思われる。遺物は1層からの出土がほとんどであるが、3層が堆積するくぼみに沿って南北方向に帯状に分布していた。降水時の水の流路となっていたのであろう。4～9層は色調の似た褐色土である。1層は6㎝～12㎝の厚さで堆積するが、他の層の堆積は数㎝と薄い。

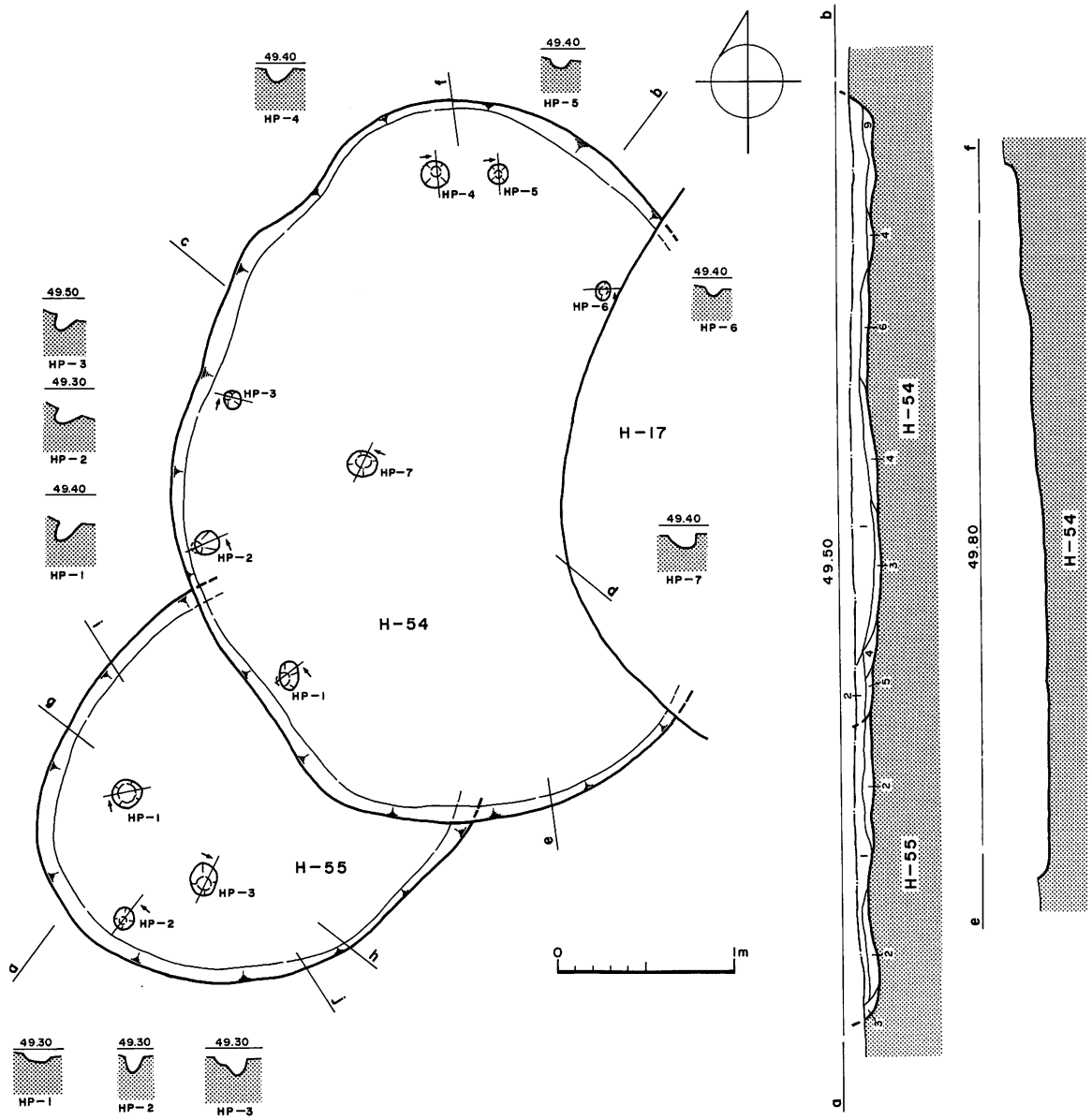
**床面**：床面が構築面と思われる。沢の斜面に構築されており、床面は地形に沿って北西－南東に緩やかに傾斜する。南北セクションの床面に小起伏が認められるのは遺構廃棄後一時期小さな流路ができたためであろう。

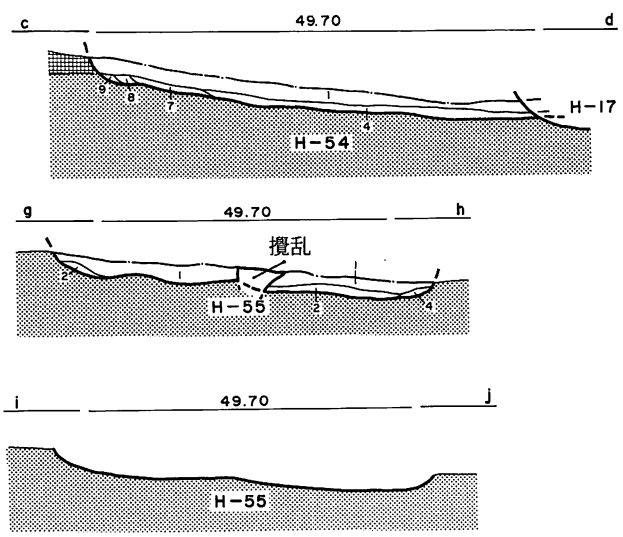
**壁**：壁高は北西側で15㎝前後、南東側で概ね6㎝である。

**炉跡**：検出されなかった。

**付属ピット**：柱穴状小ピットが7つ検出された。いずれも浅い。HP－7が中央やや西寄りにある他はほぼ周辺に位置し、中央にやや傾斜している。なお、南側では木の根痕の影響により、床面が撹乱されていたため、小ピットは検出できなかった。

**遺物出土状況**：出土遺物総数は86点で、内訳は土器65点、石器21点である。すべて覆土からの出土で

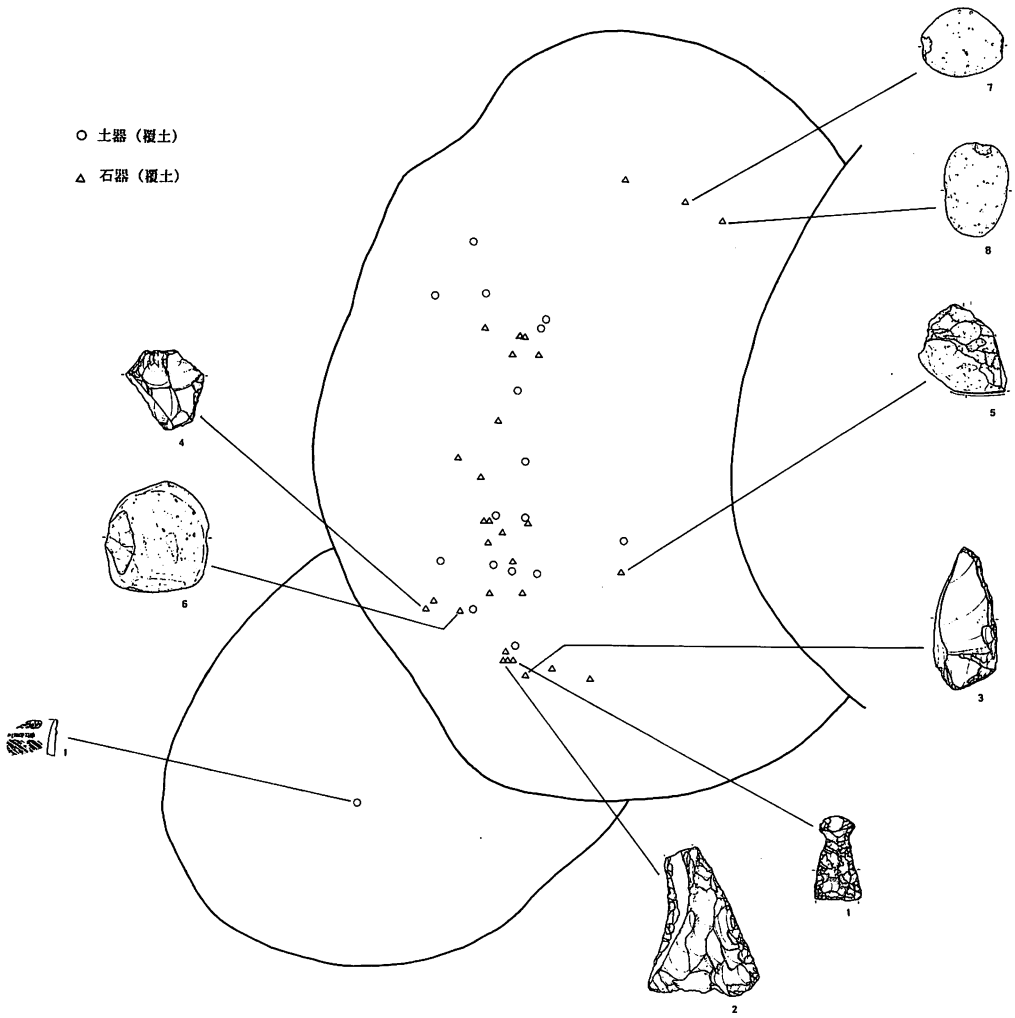



H－54
**土層**：①黒色土（粘性強い）
②黒色土（浮石等の混じりが多く①より粘性が弱い。＝H－55の①）
③黒褐色土（粘性強い）
④暗褐色土（粘性強い）
⑤褐色土（黒褐色土＋褐色土、粘性やや強い）
⑥暗褐色土（粘性強い）
⑦褐色土（Ⅴ層が混入、粘性やや強い）
⑧黒色土（粘性強い）
⑨褐色土（粘性やや強い）

H－55
**土層**：①黒色土（＝H－54の②）
②褐色土（粘性あり）
③明褐色土（褐色土＋Ⅴ、粘性弱い）
④褐色土（粘性あり）

図Ⅲ－151　H－54・55実測図




図Ⅲ－152　H－54・55出土遺物の分布図

ある。土器はすべてⅠ群B類である。石器はスクレイパー、石鋸、石錘等が出土している。分布は南北に帯状に分布しており、上述のとおり、流路に沿って上方からの流れ込んだものと思われる。

**時期**：本遺構は、H－17に切られH－51・55を切っている。遺構に伴う遺物はないものの、切り合い関係等から縄文時代早期中葉の時期と思われる。

**遺物**

H－55

**位置**：N－7－01区に位置し、H－54に切られる。標高は49.20～49.55mである。

**規模**：(2.60m)／(2.40m)×2.10m／1.96m×0.12m

**平面形**：楕円形　　**床面積**：(4.27㎡)　　**長軸方向**：N－47°－E

**確認・調査・土層**：航空写真撮影後の包含層調査中、H－54と同時に検出した。H－54と同様、沢の緩やかな傾斜地に構築されている。覆土は1層が黒色土で、H－54・1層よりは粘質が弱い。2～4層は褐色土系の土層である。

**床面**：床面はⅤ層が構築面と思われる。一部小さな起状があるが、それらの個所の多くは床面に直接

1層が堆積している。2～4層堆積後に浸食を受けたものと思われる。

**壁**：壁の立ち上がりは概ね明瞭である。確認面であるⅣ層から深さは約10cmである。

**炉跡**：検出されなかった。

**付属ピット**：南西寄りに小ピットを3つ検出した。H－54の南西の床が撹乱を受けているため、H－54内でH－55に伴うとみられる小ピットの検出はできなかった。

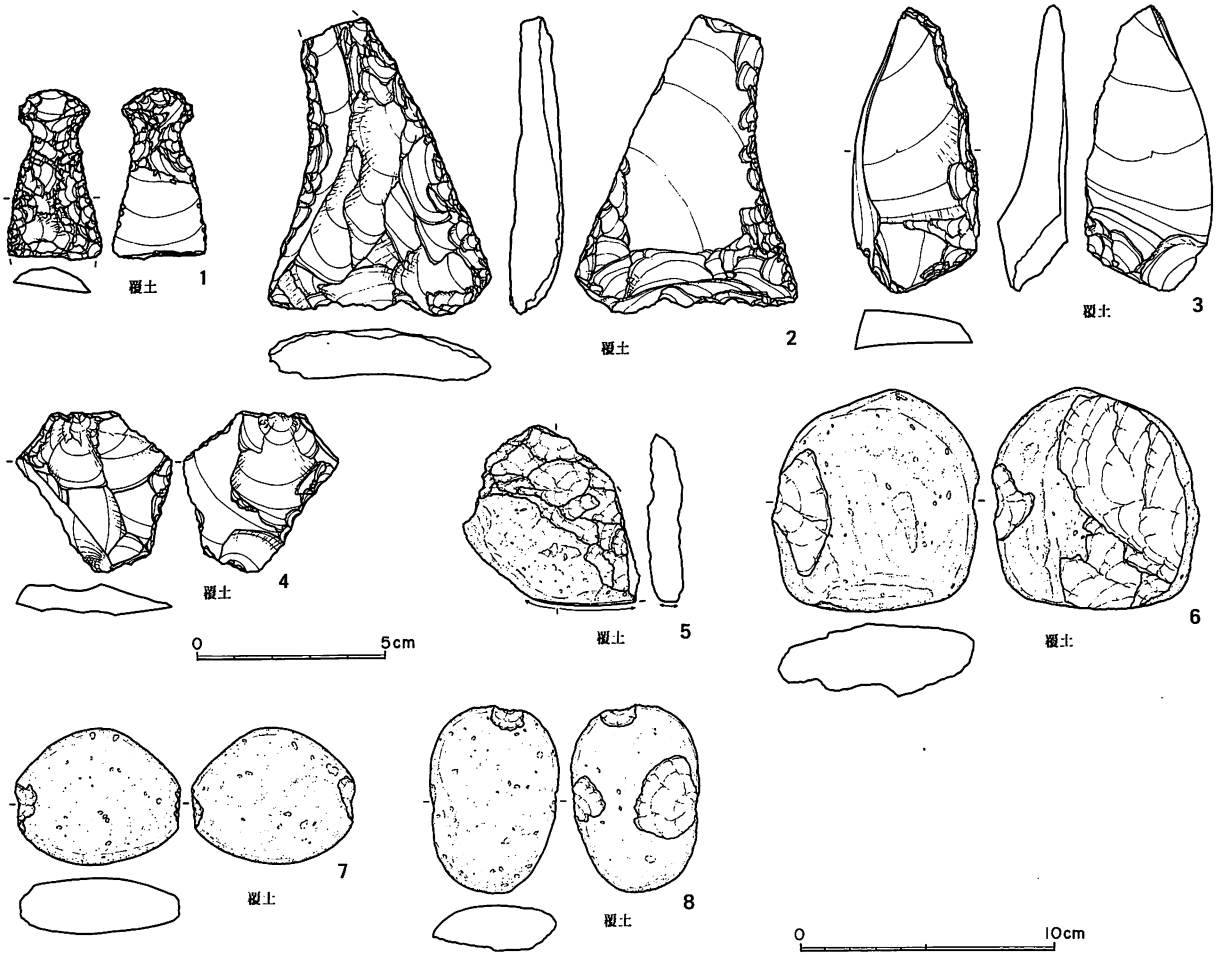
**遺物出土状況**：中央付近で1層からⅠ群B類の土器が3点出土しただけである。

**時期**：直接的に時期を決定するものはないが、切り合いや周辺の状況から縄文時代早期中葉の時期に相当すると思われる。

**遺物**

H－54の**石器**（図Ⅲ－153　図版100）

1は石匙。円形のつまみをもつ2類のもの。2～4はスクレイパー。5は石鋸片。6～8は石錘である。




図Ⅲ－153　H－54出土石器

**遺物**

H－55の**土器**（図Ⅲ－154　図版68）

1はH－23（図Ⅲ－44－18）、周辺の包含層出土土器の破片と同一個体であるⅠ群E類土器。小片はH－25からも出土している。波状口線で、口縁の下位の隆起帯と口唇上に先の細い棒状工具で縦に刻みを入れている。



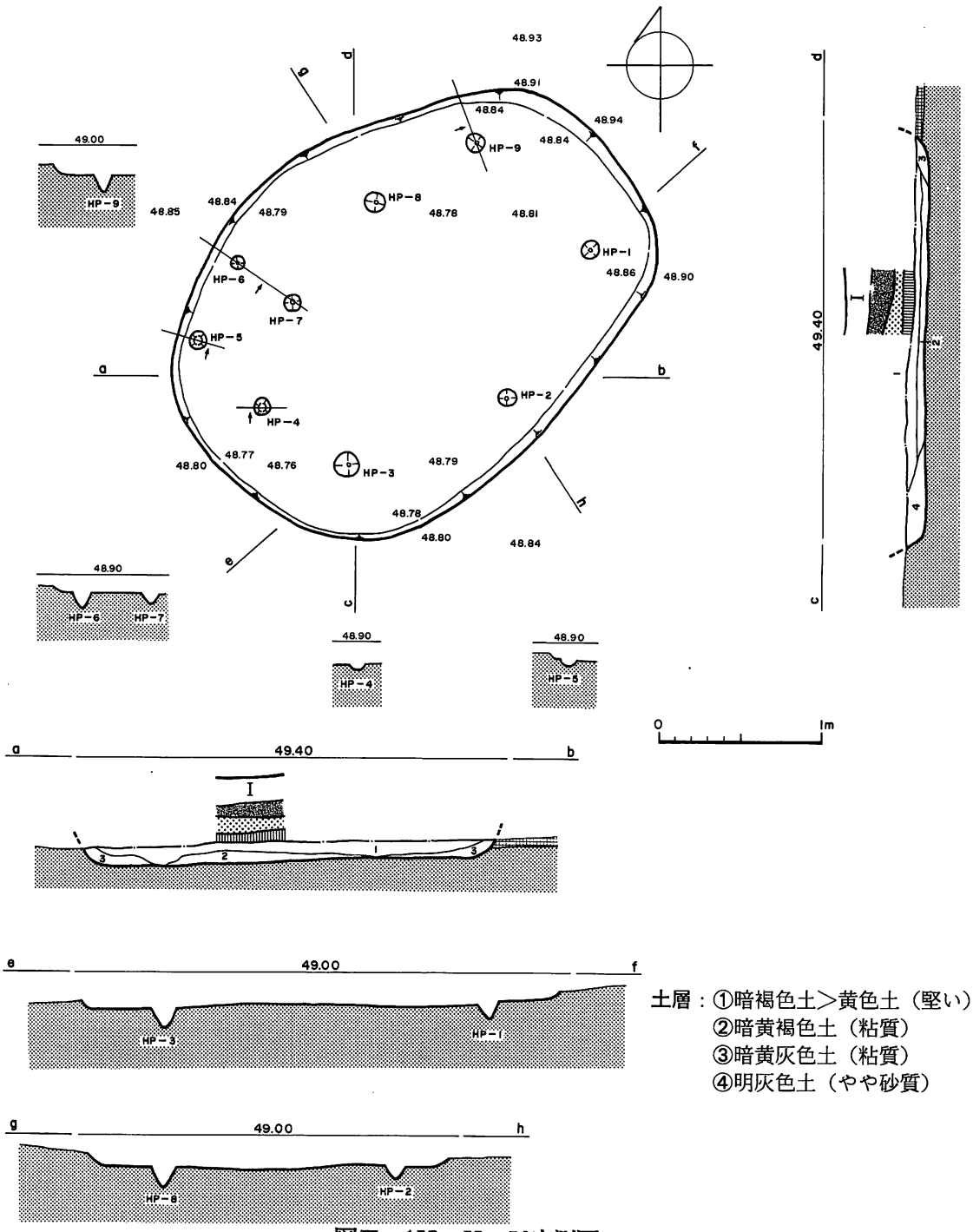

図Ⅲ－154　H－55出土土器

H－56（図Ⅲ－155、図版35）

**位置**：N－８－09・19　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は48.92m～48.80mである。　**規模**：3.04m／2.02m×2.20m／2.15m×0.1m～0.15m

**平面形**：角張った卵形か？　**床積**：5.20㎡　**長軸方向**：N－50°－E

**確認・調査・土層**：N－８－19周辺の包含層調査中、Ⅳ層直上で長円形状の落ち込みを検出した。土層観察用の土手を設定し、順次掘り下げる。Ⅴ層上面で堅い面を検出し、柱穴状小ピット、また壁の立ち上がりを検出した。覆土は二層に分けられる。覆土１層は黄色土が混入している暗褐色土である。層厚は約10cmである。覆土２層は粘質の暗黄褐色土で、層厚は２cm～３cmほどである。



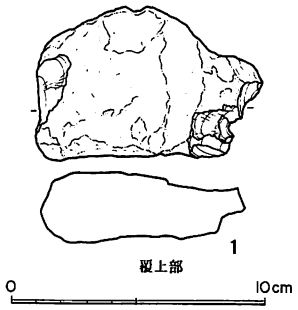

図Ⅲ－155　H－56実測図

**床面**：Ⅴ層上面に構築されている。平坦で堅い。南へわずかに傾斜している。
**壁**：全体に緩やかな傾斜で立ち上がっている。壁高は5㎝前後である。
**炉跡**：焼土は検出されていない。
**付属ピット**：柱穴状小ピットは9個検出されている。HP－1～HP－4、HP－7～HP－9は壁から30㎝～40㎝ほど内側にあり、HP－5、6は壁際にある。すべて直立し、杭状のものである。
**確認・調査・土層**：遺物は覆土中から石錘1点、フレイク3点が出土しただけである。
**時期**：掘り込み面はⅢb層と思われる。周辺包含層から出土した土器はⅠ群B類であることから、本住居跡は縄文時代早期中葉のものと思われる。

表Ⅲ－29　H－56小ピット一覧

| 番　号 | 長径×短径 (㎝) | 深　さ (㎝) | 覆　土 | 検出面 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| HP－1 | 13×13 | 11 | 暗褐色土＞黄色土（砂質） | 床　面 | 直立、先端部細い |
| HP－2 | 10×10 | 7 | 黒褐色土 | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－3 | 13×10 | 12 | 〃 | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－4 | 10×10 | 3 | 暗茶灰色土 | 〃 | 〃　、浅いⅢ状 |
| HP－5 | 10×10 | 3 | 〃　（砂質） | 〃 | 〃　、浅い |
| HP－6 | 10×10 | 11 | 黒褐色土 | 〃 | 〃　、先端部細い |
| HP－7 | 10×10 | 6 | 暗茶褐色土 | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－8 | 17×13 | 11 | 黒褐色土（砂質） | 〃 | 〃　、　〃 |
| HP－9 | 11×11 | 11 | 〃　（〃） | 〃 | 〃　、　〃 |

**石器**（図Ⅲ－156　図版100）
1は石錘である。




図Ⅲ－156　H－56
出土石器

## 2．土　壙

土壙は全部で16基発見された。遺構番号は平成3年度からの連番で、平成4年度はP－10から始まるが、P－10，18，22の3つは欠番となった。その理由は、遺構があると予想した黒色土の落ち込みは、最初から遺構番号を付して精査に着手しており、結果的に人為的な掘り込みではないことが判明した場合、その遺構番号を欠番扱いすることにしたためである。

竪穴住居跡が密集した集落跡付近に検出された土壙には、墓の可能性が考えられるものもあったが、Tピットが分布するだけの遺構確認調査区に見出された土壙は、その殆ど全部が墓や貯蔵穴といったような積極的な構築意図を有するものではなく、粘土などを採取したり、植物の根茎を掘り出したり、といったような、何らかの短時間の作業の結果、付随的に残された穴で、放置された後、自然に土砂が堆積、埋まったものに過ぎないと思われた。それらについては個別的な記載は省略し、後にまとめて概要を述べることにし、まず、集落跡付近発見の土壙について、遺構番号の若い順に個々に説明する。土壙の位置や規模、平面形、長軸方向については、表Ⅰ－3に明記してあり、詳述しない。

P－11（図Ⅲ－157　図版36）

集落跡の西方を南北に流下する小沢の沢頭の一つに位置する。沢よりの南西側は基盤の粘土層が崩落、粘土主体の再堆積土を掘って、壁や床が構築されていた。この南西部を除く壁は、いずれも堅く締まっていた。覆土は自然堆積であり、人為的な埋め戻しは認められない。覆土にはP.D.1が縞状に入り込んでおり、時代的にはかなり新しいと判断される。構築意図は不明だが、水の湧く沢頭につくられていることから、清水を溜めて、飲用その他に利用した施設ではなかろうかと推定される。

P－25（図Ⅲ－159）

集落跡の南西約5ｍに見出された39×29㎝の小さな穴で、深さも確認面から6㎝と浅い。壙底面には、北に断面三角状のすり石が1個、南に丸底土器が1個置かれていた。どのような目的でこれらの遺物が入れられたのかは不明だが、構築時期は、土器から判断して、縄文時代早期中葉と考えられる。

**土器**（図Ⅲ－160　図版52）

1は覆土1層から出土したⅠ群B類土器。わずかに平ら気味の丸底。底部は内面から指などで押して整形している。胴下半部にはケズリ（？）の痕跡がある。内面は横位に細かい条痕が観察される。

**石器**（図Ⅲ－161　図版101）

2は断面三角状のすり石。ほぼ全面にすり、たたきが認められる。

P－26（図Ⅲ－162　図版38）

集落跡の南東端の崖際に、等高線にほぼ直交して掘り込まれた、長さ4.37ｍ、幅0.92ｍの細長い土壙で、深さは確認面から52㎝程である。P－26の中央部には、T－22が交差して掘り込まれており、この部分の壙底面は破壊されている。形状からして、Tピットの掘りかけかとも思われるが、構築意図は不明である。覆土の大半は自然堆積であり、覆土1層や2層など、覆土の上位には22点のⅠ群B類土器の破片や、Rフレイク、石斧やすり石の破片、石鋸など石器4点、フレイク8点と、比較的多数の遺物が混入していた。

**石器**（図Ⅲ－163　図版101）

硬質頁岩製の石鋸。両側縁に摩滅が認められる。

P－27（図Ⅲ－162　図版39）

集落跡の南東部、H－18とH－33に挟まれた位置に検出された。43×39㎝の小さな丸い穴で、深さは確認面から16㎝。底面は、やや南に偏ってすぼまる。覆土には、3点のⅠ群B類土器片とフレイク1点が混入していた。

Ｐ－28（図Ⅲ－162・164　図版39）

集落跡の東端部に、竪穴住居跡の空白な地区があり、Ｐ－28はここに掘られていた。長径が1.7ｍ程の、不整な円形プランを有する。浅めの土壙である。壙底にはやや凹凸があり、壁は緩やか。底、壁ともに堅く、しっかりしている。

覆土は焼土検出面を挟んで、大きく二つの層に分けられる。焼土は覆土６層で、南西側に偏って約1.0×0.8ｍの広がりをもち、層厚は約２～３㎝。焼土より上には、覆土２，３，４，５層など、Ⅲｂ層とⅤ層が混合した、暗黄褐色がちな土層がみられる。焼土より下は、覆土７，８，９層などで、ロームの混入が多い、灰黄色土が主体である。

Ｐ－28からは、総数で土器片152点、石器38点、フレイク10点と多量の遺物が検出されている。これらの遺物は、その大部分が焼土検出面付近と壙底面に遺存していた。焼土検出面の直上には石器が多く、それらは水平の状態で発見されている。土器の多くは、南西壁に張り付いた状態で一括出土したり、北側の壁際で内面を上に向けた状態で一括出土したりなど、壙底近くに見出されたものが多い。これらの土器片は相互に接合し、覆土下層出土の土器片と、Ｎ－７－12・22・31区Ⅲ層出土の土器片とが接合、また、覆土上層出土の土器片と、Ｎ－８－29、Ｎ－７－34区Ⅲ層出土の土器片とが接合している。

Ｐ－28は遺物の出土状況、焼土の堆積状態、覆土が埋め戻されていることなどからみて、土壙墓の可能性が考えられる。また、平成３年度に発見のＰ－６やＰ－７とも、遺物の出土状態や焼土の存在など、共通する要素がみられる。出土した土器の殆どはⅠ群Ｂ類で、Ｐ－28は縄文時代早期中葉の所産と思われる。焼土はすべて採取し、フローテーションを実施した結果、炭化したクルミ属の殻片が0.01ｇ検出された。

土器（図Ⅲ－165 図版69）

１は床直上、覆土下部、壁際から、接合しなかった破片も含め70点出土した。これらの破片は、それぞれの出土位置ごとに３つの部位に接合された。口縁部の２分の１と、胴部の一部、底部は欠損している。口唇断面は角形で、内側角に貝殻腹縁部の圧痕文が施されている。口縁は不規則に波打っている。胴部から口縁部が直線的に立ち上がる小型土器。内外面ともに凹凸が著しく、作りの粗雑な土器である。文様は口縁部の狭い範囲に帯状に展開する。口縁に平行に腹縁文を粗く５条めぐらせ、３条の腹縁文間に、右下りの腹縁文を雑に施している。円形刺突文は非常に少なく、規則性はない。内外面ともに貝殻腹縁部を使用したと思われる、やや幅の広い条痕が粗く施されている。外面は主として横位に、内面は口縁部から胴上半部と底部付近は横位に施されるが、胴部では方向が一定していない。胎土には白い砂粒（長石・石英等）が多い。

２は胴部上半程までの２分の１程が残存する。覆土下部の破片とＮ－７－12・22・31（15点）出土のものが接合した。４ヵ所に緩やかな山形の波頂部がある無文のもの。口縁部にむかいやや外反する。口唇外側角はわずかに丸味を帯びている。内・外面に横位に粗い条痕がみられる。

３は覆土の破片と、20ｍ程南西に離れた包含層のＮ－７－34（昨年度調査区、図Ⅳ－８－72ｂ）出土のものが接合した。ごく緩やかな波状の口縁部に平行に２条腹縁文をめぐらせ、その間に横位に押引いた浅い楕円形の刺突文が等間隔に施されている。その下位には鋸歯状沈線文が２条施されているが、上下とも同じ位置で部分的にとぎれているようである。内・外面ともに丁寧にみがかれており、焼成も良い。

４では覆土の破片と、３と同様に、Ｎ－７－34のⅢｂ$_2$層の破片が接合している。副突起を有する波状口縁の中型の土器。文様は沈線で描かれ、口縁部に２条平行にめぐらせ、胴部は３条一単位の沈

線で、三角形の連続する文様が描かれているとみられる。円形刺突文は浅く三角形の頂点に施されている。また、胴部の沈線文間、無文部分には貝殻腹縁部を押し引き文的に浅く施している。

5は壁際出土のもの。下描きの沈線は深く施文され断面がV字形になっている。口縁部内側には貝殻腹縁部の圧痕が縦位に施されている。

6は焼土直上出土のもの。キャリパー状の器形のものかとみられ、鋸歯状沈線文が2条平行に施されている。7は壁際出土のものであるが、6と同一個体の可能性がある。8はミニチュア土器であろう。9はⅠ群A類。昨年度のH－1出土品（図Ⅲ－6－1a～b）と同一個体と思われる。胴部下半部の破片であろう。Rの原体による無節の斜行縄文を浅く施文後、沈線を施している。

石器（図Ⅲ－166　図版101）

1は篦状石器。掻器とする分類も可能であるが、腹面にある周辺加工は篦状石器の加工の特徴であることから、篦状石器とした。2～5はスクレイパー。4は本遺跡では少ない縦長剥片素材の掻器。素材の反りは大きい。6は片面調整の石器。形状は半円形で、上部に平坦面（一部打面）をもつ。両面調整石器4類と同様の特徴をもつ。7～8はたたき石。7は両面にたたき痕がある。8は軽石製のもので、中央に浅いくぼみ痕をもつ。9もくぼみ痕をもつたたき石。平坦面は全体的にあばた状となっている。10はすり石1類。ほぼ全面をすっている。端部にはたたき痕が明瞭に残る。11は石錘。

その他の土壙

上述した以外のP－12～17、19～21、23、24の11基の土壙は、いずれも遺構確認調査区に見出されたもので、初めに触れたように、何らかの作業に伴って、結果的に残された穴と思われる。

その多くは、長径が0.7mから1.30m程の、不整な円形あるいは長円形の掘り込みだが、P－15、24の2つは、長径が1.5mから2.0m程とやや大きめであった。確認面からの深さも、50cm以下の浅いものが大部分だが、砂質ロームがちな暗黄褐色土層と、有機質に富む黒色がちな土層とが、顕著な互層をなして重なるP－16、23などは、やや深めであった。

覆土はいずれも、薄い土層が順次重なった自然堆積で、埋め戻しは殆どないと判断される。遺物の混入もなく、掘られた時代を特定する材料に乏しいが、Tピットの存在と同様、住居を離れた場所での人々の活動を伝える資料として、看過できないものと考える。

### 3　Tピット（図Ⅲ－167～189　図版69）

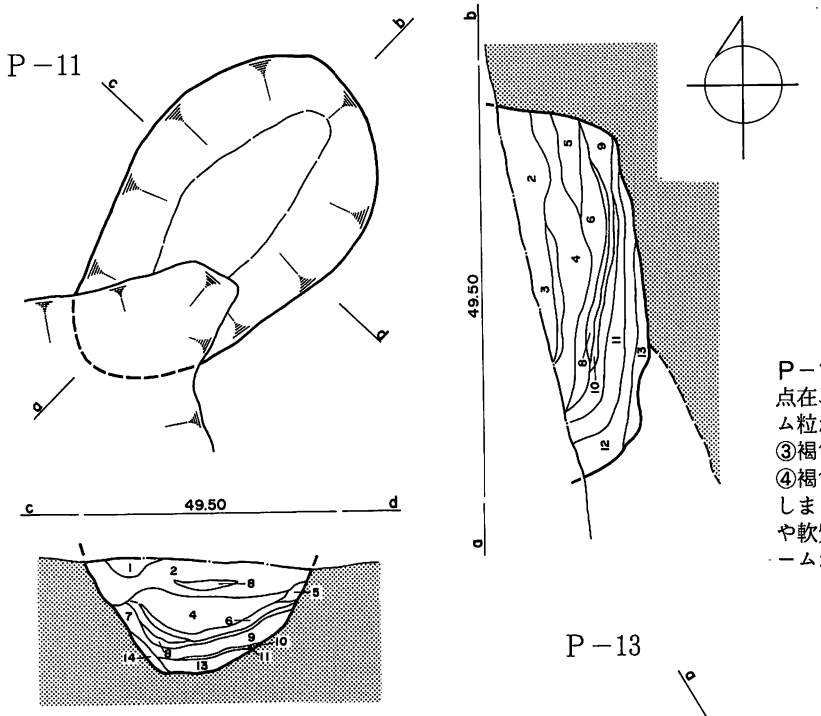
Tピットは新たに40基検出された。遺構番号は昨年度から通して付しており、T－12から始まるが、T－23、24の2つは欠番となった。Tピットの個々の位置や規模、平面形、長軸方位などについては、表Ⅰ－3にまとめてあるので、本文での記載は省略する。

Tピットの分布は、竪穴住居跡が密集する集落跡には少なく、集落を外れた遺構確認調査区に多い傾向がみられた。集落付近に見出されたT－21、22は、それぞれH－18、P－26を切って構築されていた。配列的には、T－14・15やT－16・17・18、T－19・20、T－26・27・28、T－52・53などのように等高線に直交するように2～3基が並ぶものと、T－29・30・33・34・35・38・42・43など、5m内外の間隔で、銭亀宮の川の流下方向にほぼ沿って並ぶものがあり、他は単独に存在するらしく、特別な配列はみられない。

平面形は溝状を呈する。一覧表では、長径2m程度までの短めのものについては、不整長円形と記したが、T－25以外は溝状といって、何ら差支えない形状のものである。

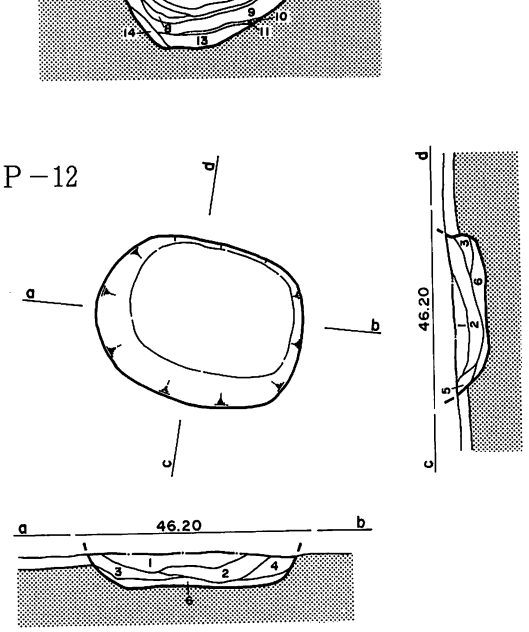
Tピットの規模は、壙底面での長径を目安に、大まかに以下の4者に分けられる。

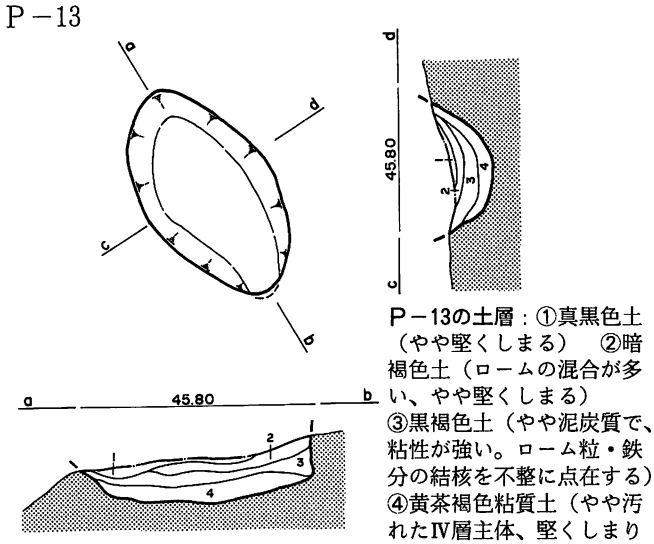
①壙底面での長径が、1.5m以下のごく短いタイプ。平成4年度調査区ではT－25のみが該当する。



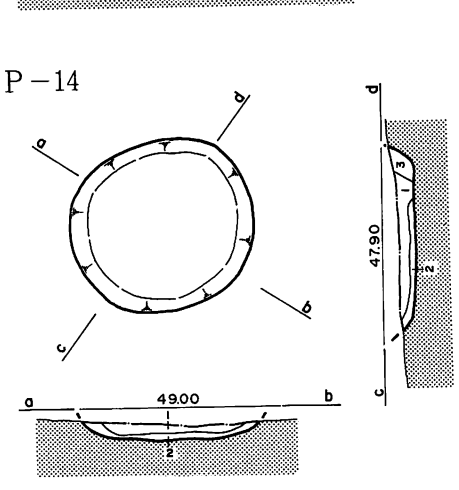

P－11の土層：①暗茶黒褐色土　②暗茶褐色土（灰白色火山灰が点在）③暗灰褐色土（P.D.1が点在）④暗茶褐色土　⑤暗黄茶褐色土（ロームブロックを含む）　⑥灰白色火山灰（P.D.1）　⑦暗茶褐色土　⑧黒色土　⑨暗黄茶褐色土　⑩暗茶褐色土　⑪黒色土　⑫暗茶褐色土　⑬黄茶褐色土　⑭灰茶褐色土（ロームに少量の黒色土を含む）

P－12の土層：①黒褐色土（ローム粒が若干点在、やや堅くしまる）　②暗褐色土（ローム粒がやや多く混在、やや堅くしまる）③褐色土（ロームがち、やや堅くしまる）④褐色土（黒褐色土が不整に混合、やや堅くしまる）　⑤暗黄灰褐色土（ロームがち、やや軟質）　⑥黄灰褐色土（不整で、汚れたロームが主体、やや粘性が強く、やや軟質）

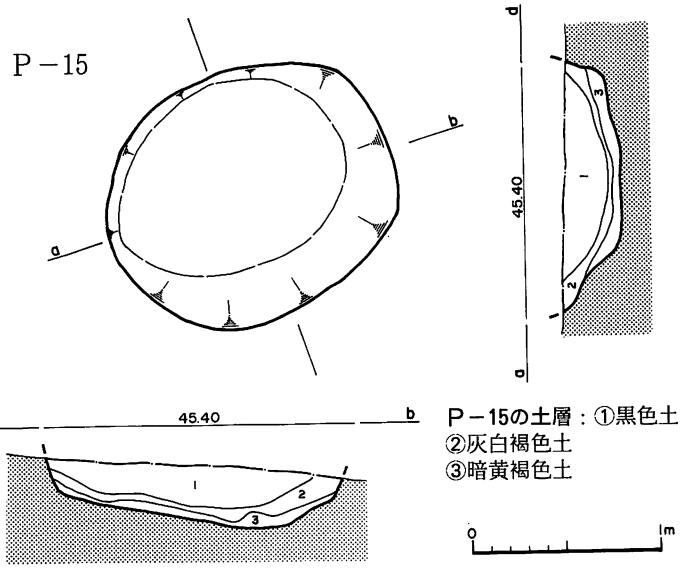



P－13の土層：①真黒色土（やや堅くしまる）　②暗褐色土（ロームの混合が多い、やや堅くしまる）③黒褐色土（やや泥炭質で、粘性が強い。ローム粒・鉄分の結核を不整に点在する）④黄茶褐色粘質土（やや汚れたⅣ層主体、堅くしまりがち）




P－14の土層：①黒褐色土（やや堅くしまる）②暗黄茶褐色土（やや堅くしまる）　③灰黄褐色シルト質土（やや堅くしまる）

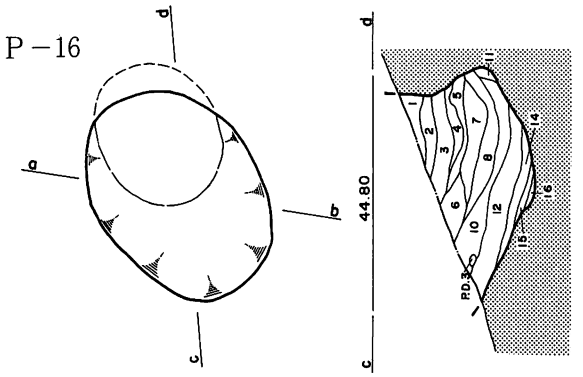


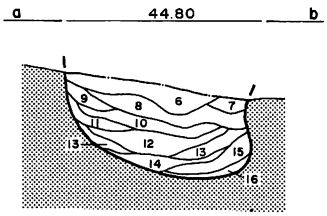

P－15の土層：①黒色土　②灰白褐色土　③暗黄褐色土

0　1m

図Ⅲ－157　土壙実測図（1）

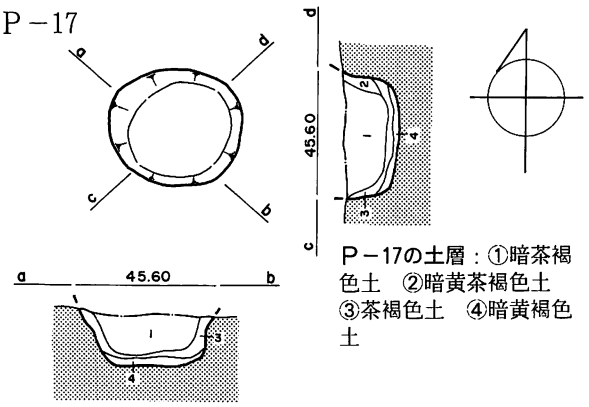
P－16



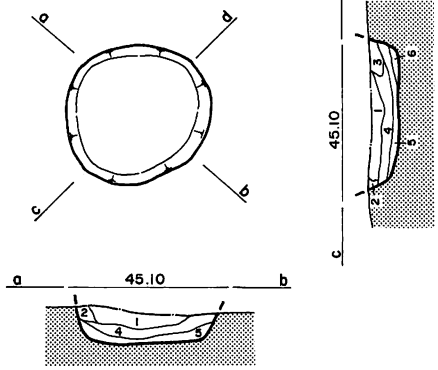

P－16の土層：①暗茶褐色土　②暗黄褐色土　③暗茶褐色土　④暗黄褐色土　⑤黒色土　⑥暗茶褐色土　⑦暗黄褐色土　⑧黒色土　⑨暗黄褐色土　⑩暗茶褐色土　⑪灰白褐色土　⑫黒色土　⑬茶褐色土　⑭暗茶褐色土　⑮暗黄茶褐色土　⑯灰褐色土

P－17



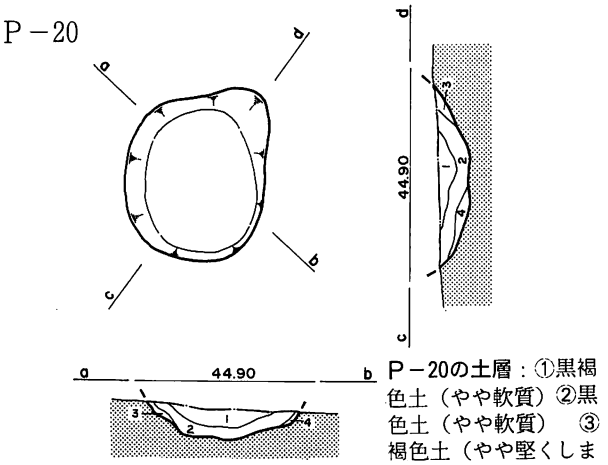

P－17の土層：①暗茶褐色土　②暗黄茶褐色土　③茶褐色土　④暗黄褐色土

P－19



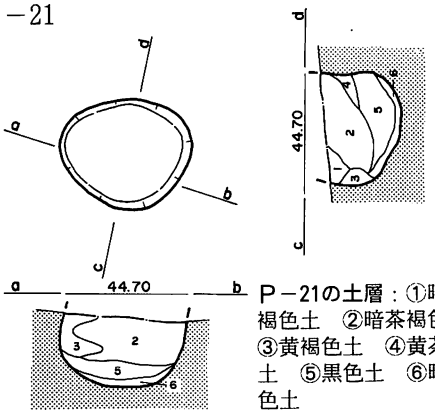

P－19の土層：①黒褐色土（やや軟質）　②暗黄褐色粘質土（やや軟質）　③暗褐色土（軟質）　④黒色土（やや堅くしまる）　⑤黄褐色粘質土（やや軟質）　⑥暗灰黒褐色粘質土（やや軟質）

P－20



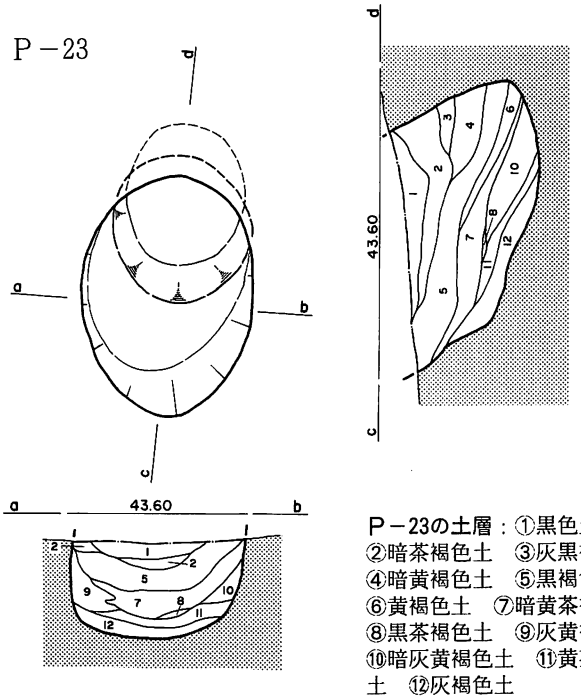

P－20の土層：①黒褐色土（やや軟質）②黒色土（やや軟質）　③褐色土（やや堅くしまる）　④暗黄褐色ローム土（堅くしまりがち）

P－21




P－21の土層：①暗黄茶褐色土　②暗茶褐色土　③黄褐色土　④黄茶褐色土　⑤黒色土　⑥暗黄褐色土

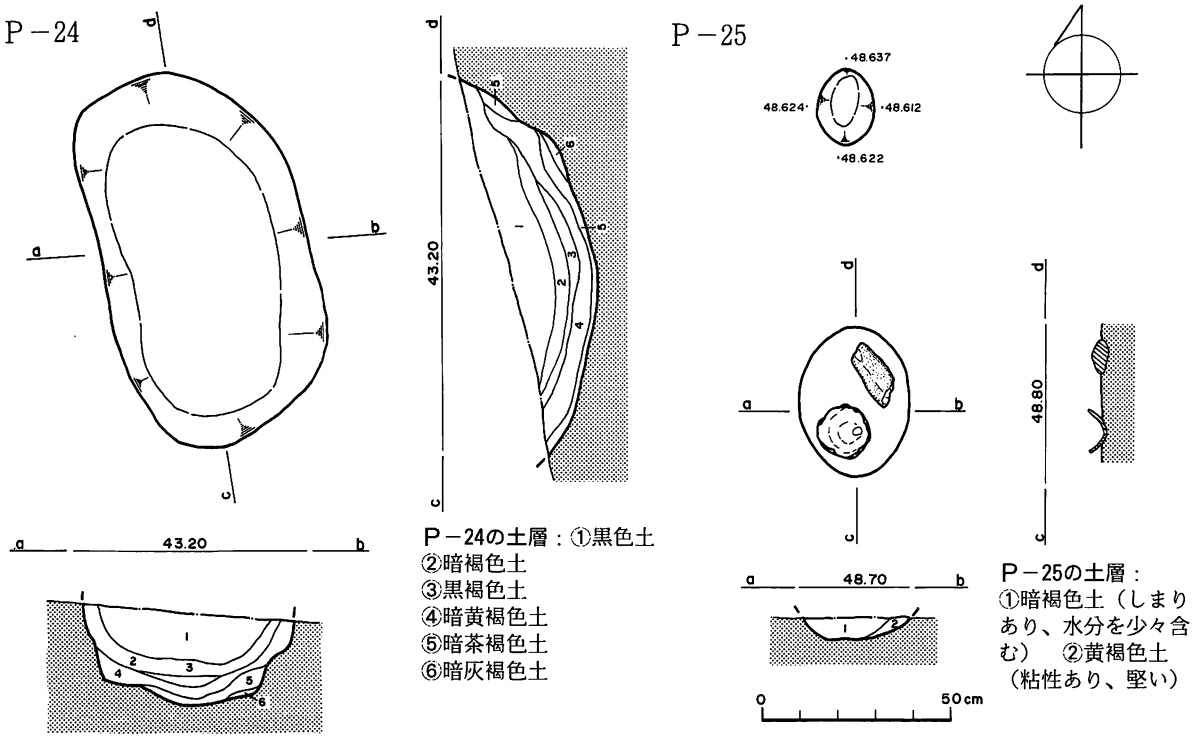
P－23




P－23の土層：①黒色土　②暗茶褐色土　③灰黒褐色土　④暗黄褐色土　⑤黒褐色土　⑥黄褐色土　⑦暗黄茶褐色土　⑧黒茶褐色土　⑨灰黄褐色土　⑩暗灰黄褐色土　⑪黄茶褐色土　⑫灰褐色土

0　1m

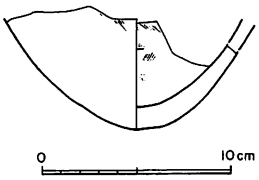
図Ⅲ－158　土壙実測図（2）



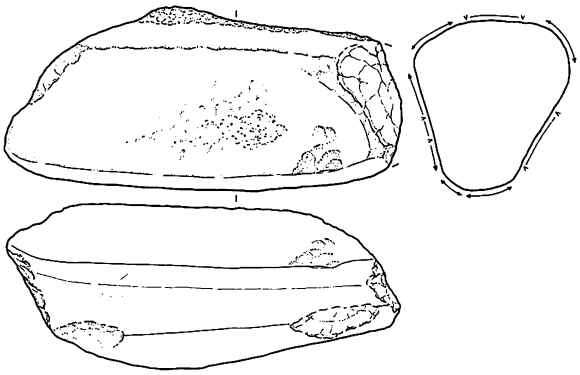

P－24の土層：①黒色土
②暗褐色土
③黒褐色土
④暗黄褐色土
⑤暗茶褐色土
⑥暗灰褐色土

P－25の土層：
①暗褐色土（しまりあり、水分を少々含む）　②黄褐色土（粘性あり、堅い）

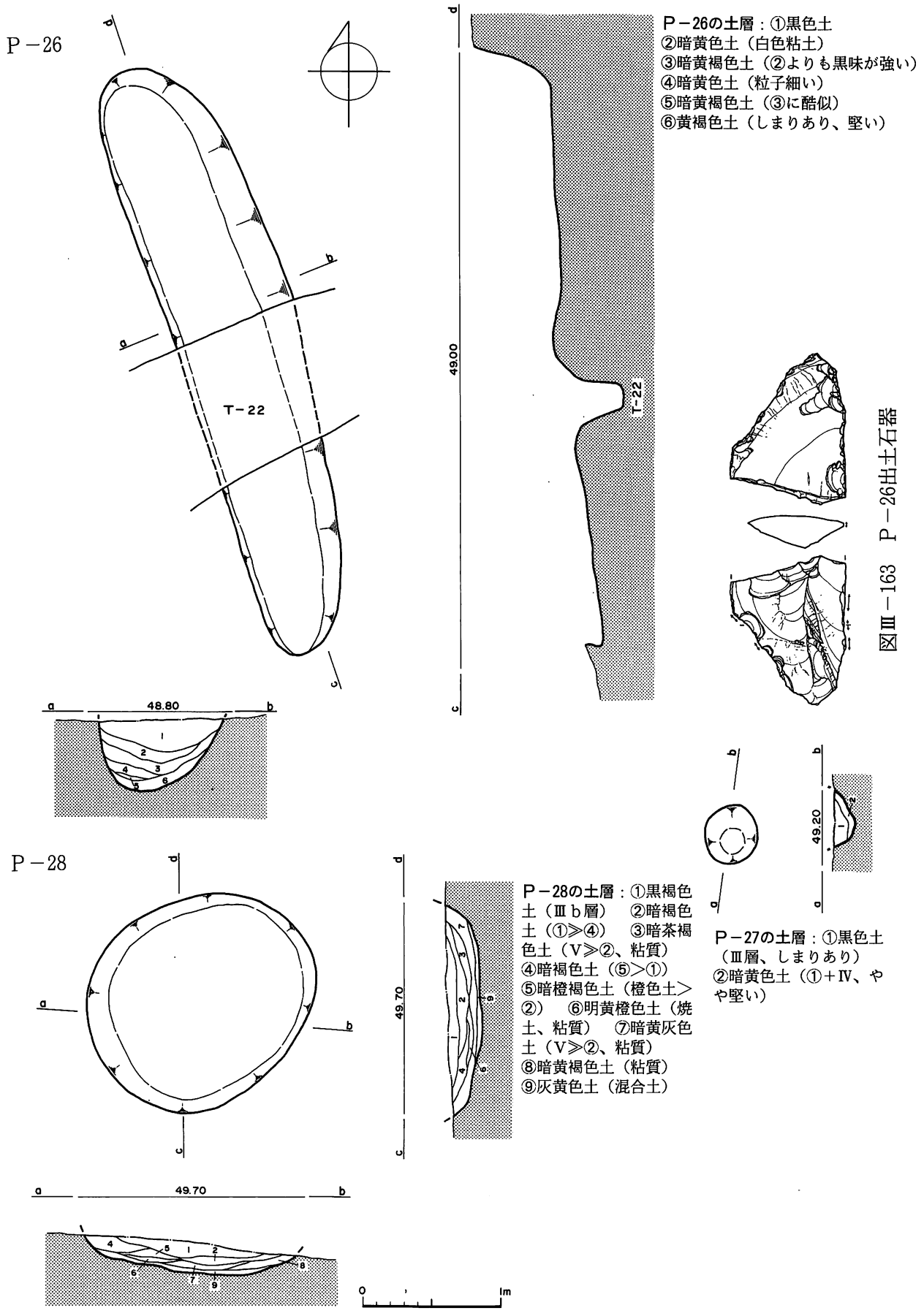
図Ⅲ－159　土壙実測図 (3)




図Ⅲ－160　P－25出土土器

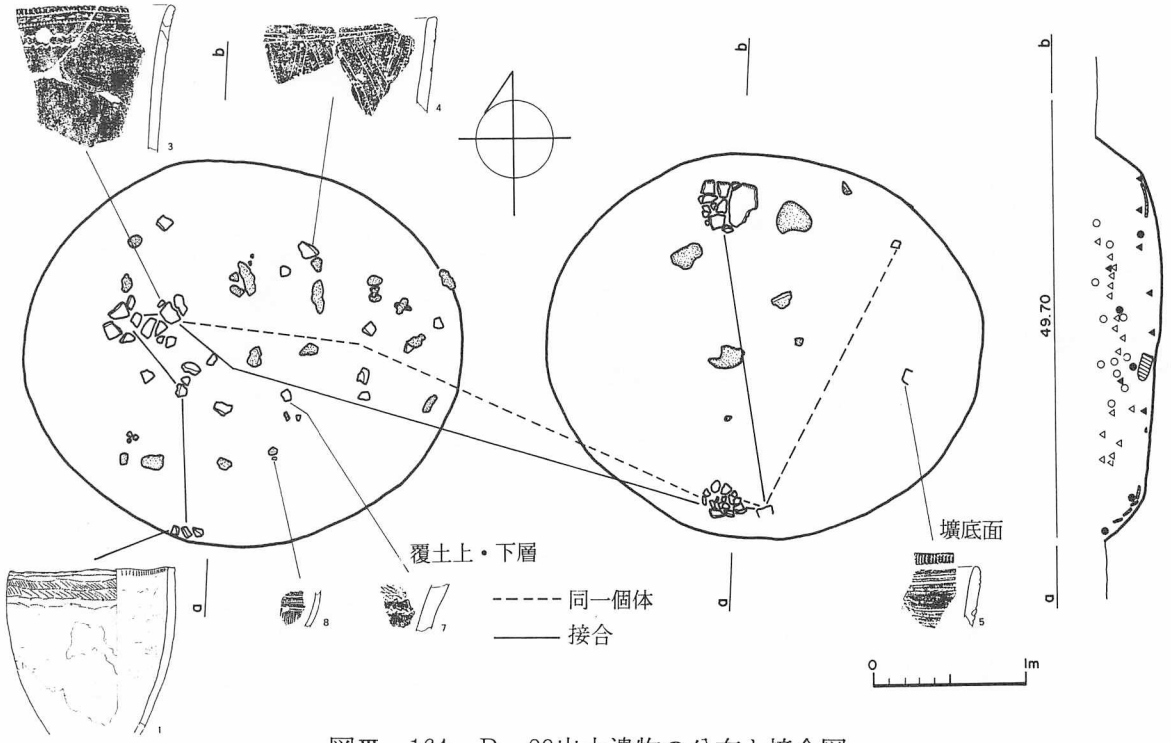


図Ⅲ－161　P－25出土石器

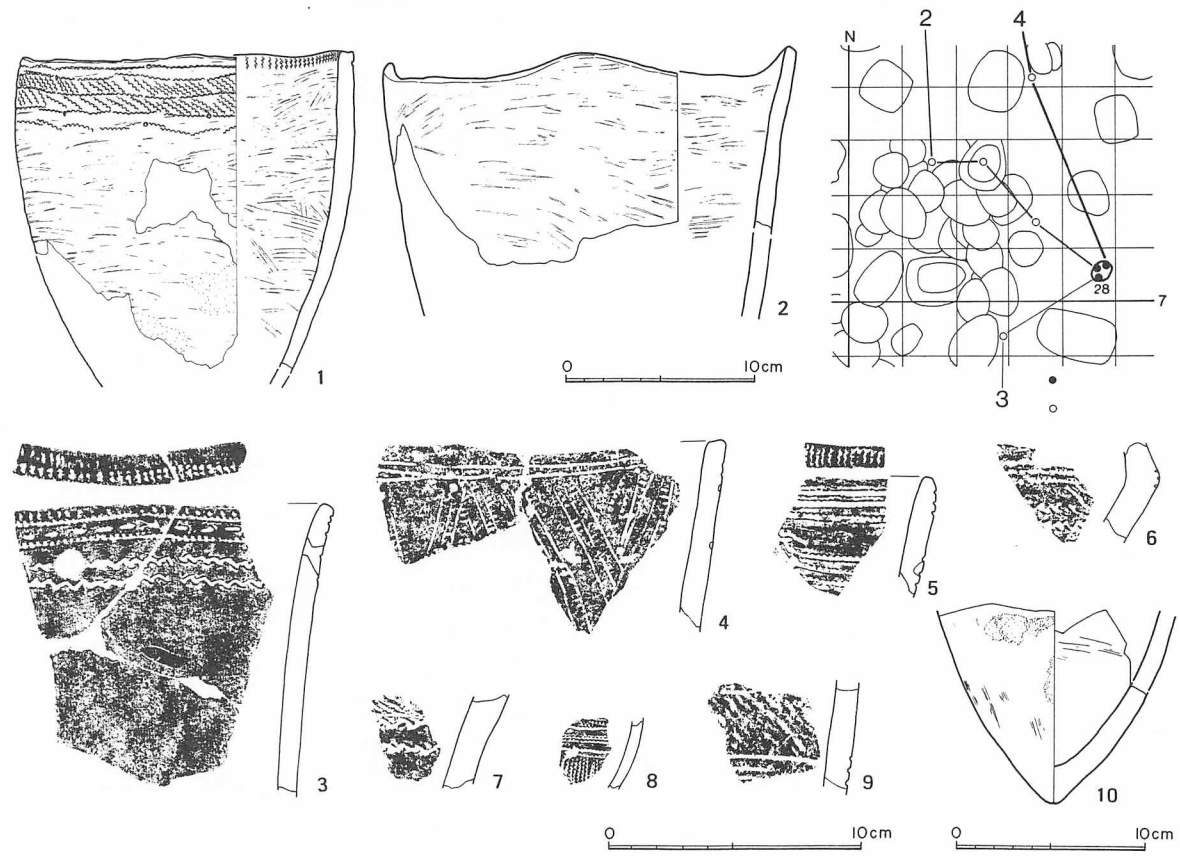



図Ⅲ－163　P－26出土石器

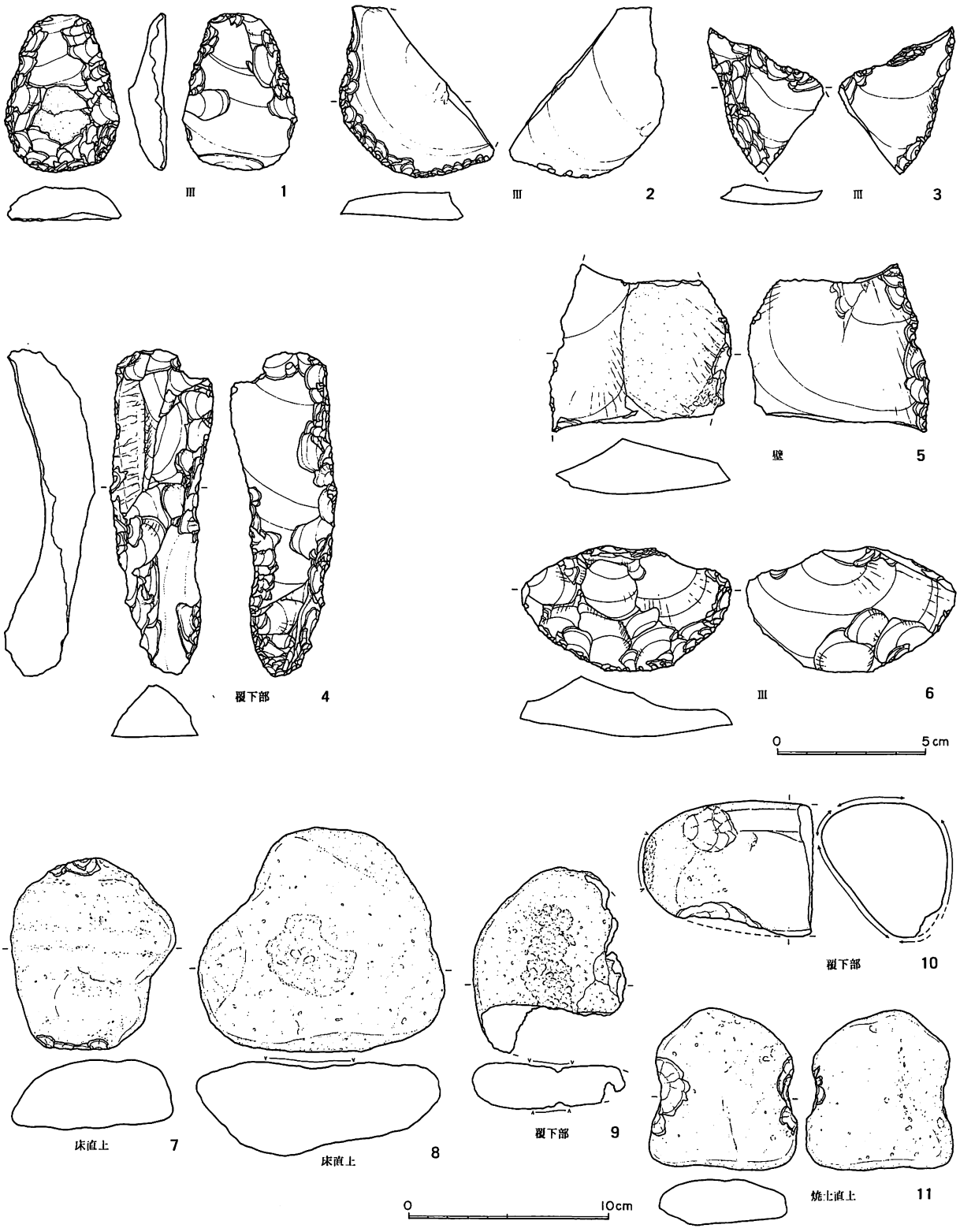
図Ⅲ－162　土壙実測図（4）




図Ⅲ－164　Ｐ－28出土遺物の分布と接合図




図Ⅲ－165　Ｐ－28出土土器




図Ⅲ－166　P－28出土石器

Ｔ－25の底には、Ｔピット特有の有機質に富む黒色腐植質土の堆積がみられた。

②壙底面での長径が、1.7～2.5ｍ程度のもの、Ｔ－29, 30, 32, 33, 34, 35, 38,40, 42, 43, 44, 50, 51の13基が含まれる。

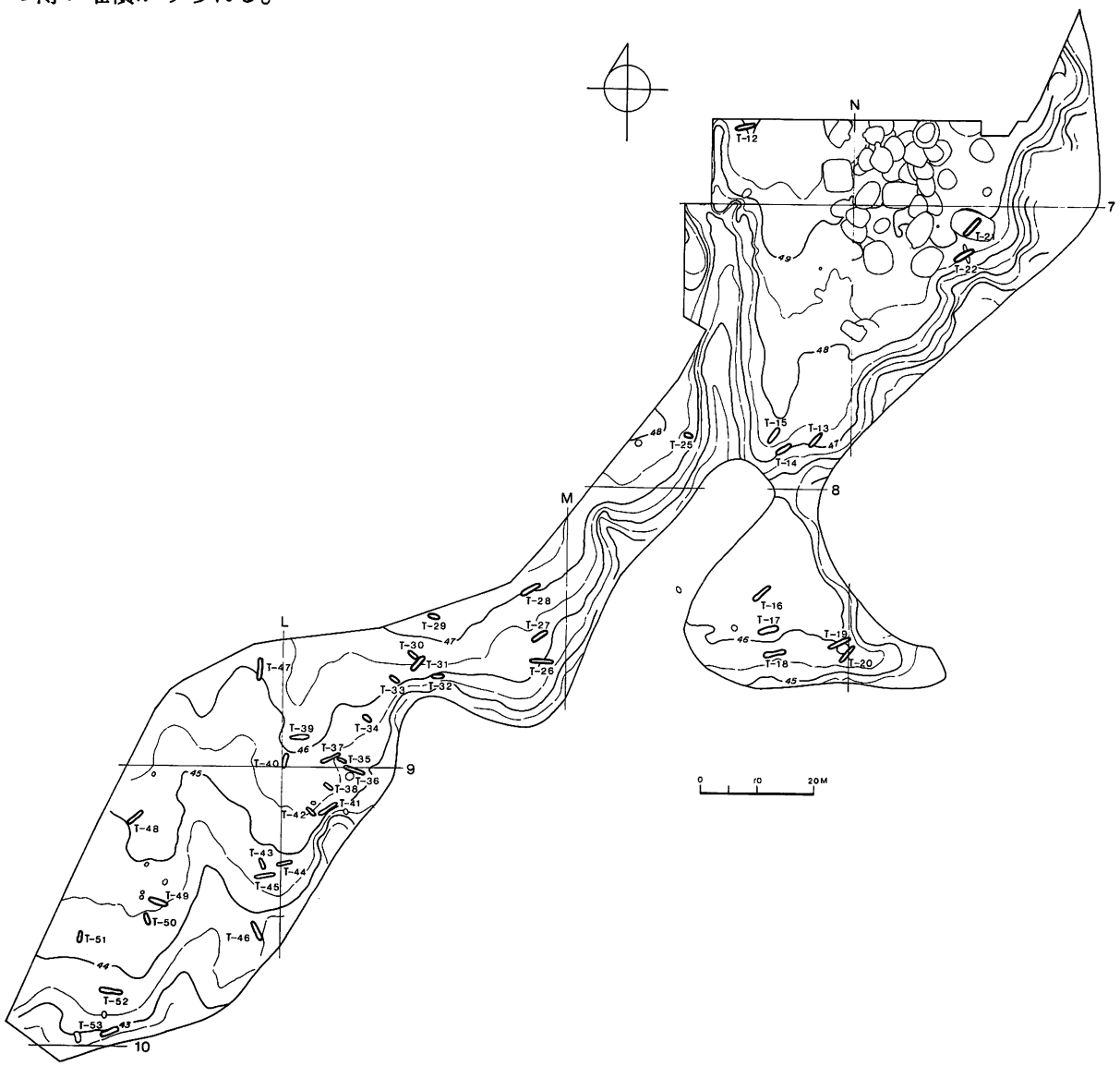
③壙底面での長径が、2.8～4.0ｍと狭長なもの。Ｔ－12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 22, 27, 28, 31, 36, 37, 39, 45, 46, 47, 48, 49, 53の22基が、このグループに属する。

④壙底面での長径が、4.0ｍを超えるさらに長いもの。Ｔ－21, 26, 41, 52の４基がみられた。

①と④は少なく、②と③とが多い。壙底面の幅は、Ｔ－12,33の９㎝からＴ－19の28㎝までの範囲におさまり、平均は16㎝弱であった。Ｔ－37, 40, 50など、壙底面に１～２個の小ピットを有するものが、僅かにみられる。Ｔ－19のように、底に一段低い溝が残された例もみられた。

深さについては、Ｔ－25の35㎝からＴ－14の122㎝までさまざまだが、多くは確認面まで重機で掘り下げたあとの数値であり、本来の深さを示すものではない。

横断面の形状は、上部の崩落の具合によりいろいろだが、当初は壙口部近くまで底の細い幅が維持されていたものと推定される。壙底部や壙底近くでは、通例、１～数枚の有機質に富む黒色腐植質土の薄い堆積がみられる。




図Ⅲ－167　Ｔピットの分布図

縦断面の形状にも、昭和50・51年度の調査でⅠ～Ⅲに大きく分けられたと同様、幾つかのタイプが認められ、また、壙底面に凹凸がみられたり、地形の傾斜に沿って底が一方へ傾くものなど、さまざまな差を指摘できる。

Tピットの長軸方位については、T－15のN－35°－EからT－39のN－90°－Eまで、北東～東－南西～西方向をとるものが、T－12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 27, 28, 31, 32, 37, 39, 41, 44, 45, 48, 53の22基と多数を占める。次いで、T－30のN－52°－WからT－26のN－85°－Wまで、北西～西－南東～東方向をとるものが、T－25, 26, 29, 30, 33, 34, 35, 36, 38, 42, 49, 52の12基と多くT－40のN－11°－EからT－43,46のN－26°－Wまで、ほぼ北－南方向をとるものが、T－40, 43, 46, 47, 50, 51の6基みられた。

若干のTピットの覆土から遺物が採集されており、これらはいずれも混入品だが、図示した代表例について、以下にまとめて説明する。

**土器**（図Ⅲ－172・175・178・179　図版69）

T－19出土の図Ⅲ－172－1は、LR原体による斜行縄文が施されているとみられるⅡ群土器。

T－21出土の図Ⅲ－175－1～10は、いずれもⅠ群B類土器。1の口縁は緩やかな波状をなすとみられる。内面から口唇上は磨かれている。器面には0段多条のLR原体による縦行縄文が段状に施されている。2～10は胴部破片。2～6は押引き文、沈線文が施されている。2・3は磨滅しているのではっきりとはしないが、やや太めの原体を使用していると思われる。4は幅4㎜の沈線で弧状の文様を描いている。包含層出土の土器（図Ⅳ－22－14）などと同様の文様構成とみられる。7～10は縄文が施されているもの。8・9はLRとRLの原体により羽状縄文が施されているが、8は施文後器面をナデ調整している。9・10はともに0段多条の原体である。

T－22出土の図Ⅲ－178－1・2は、腹縁文と刺突文により文様が描かれており、1の口縁部には腹縁文が2条めぐっている。1の口唇外側角には貝殻腹縁部による、短い圧痕文が斜位に施されている。2は比較的厚手である。1・2の内面には、横位に細かい条痕がある。3はH－18（図Ⅲ－22－9）と同一個体と思われる。いずれもⅠ群B類土器。

T－52出土の図Ⅲ－189－1は、覆土中位から出土したⅡ群土器。厚手で、胎土は非常に粗く、黒雲母がめだつ。器面は凹凸が著しく、磨滅していて文様は明瞭ではないが、恐らく結束のある羽条縄文が施されていると思われる。

**石器**（図Ⅲ－171・174・177・188　図版102）

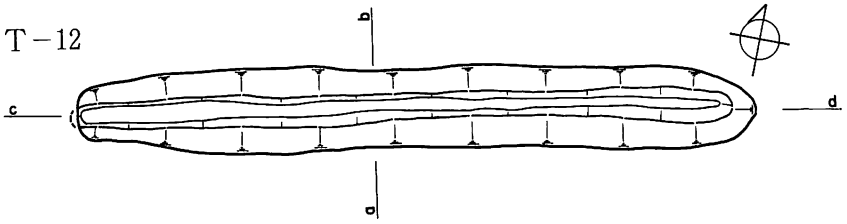
T－18出土の図Ⅲ－171－1は、Uフレイク。剥片の側縁に不連続な剥離痕が残る。

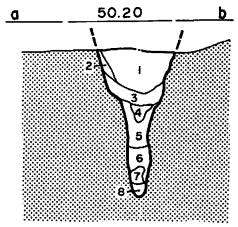
T－21出土の図Ⅲ－174－1は、周辺加工の三角形凹器鏃。2・3は石匙。両者ともに稜線が右側縁に偏る。反対の側縁には腹面に細かな加工がある。形状から早期後葉～前期前半のものであろう。4は球状のたたき石。半割している。5は砥石片。被熱して表面が剥落しており、すり面の残存部は少ない。

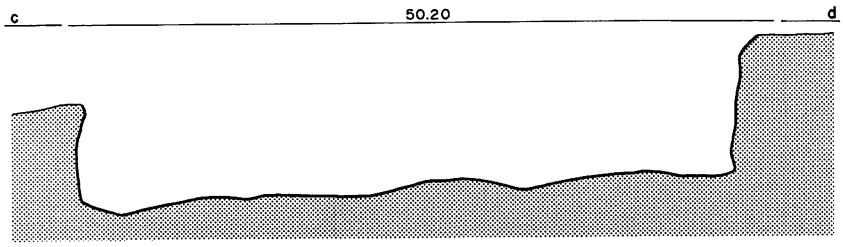
T－22出土の図Ⅲ－177－1は、スクレイパー。腹面には大きな抉りが入っている。2は石皿片と思われるもの。

T－52出土の図Ⅲ－188－1は、木葉形の石槍。基部付近は素材面を大きく残している。周縁部には断続的な磨滅が認められる。擦る・切るの用途に使用された可能性がある。

T－12

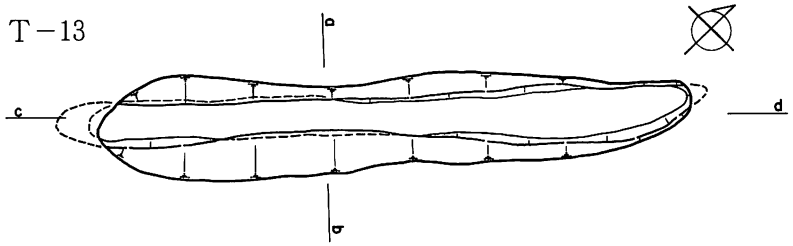


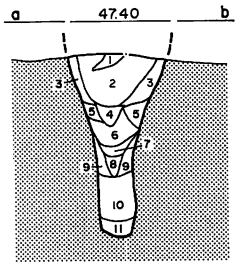



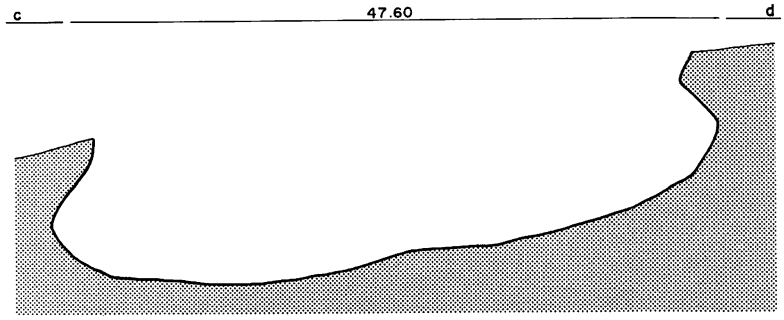




T－12の土層：
①黒褐色土（Ⅲ層）
②暗黄褐色土（Ⅲ層とⅣ層の混合）
③灰黒色土
④灰黒褐色土
⑤黄褐色土（黒色土粒を含む）
⑥明灰黒色土
⑦黄褐色土
⑧黒褐色土

T－13

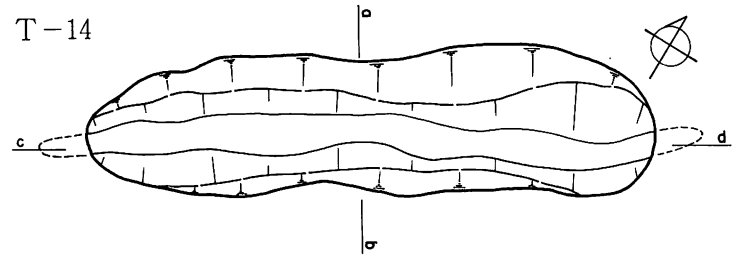


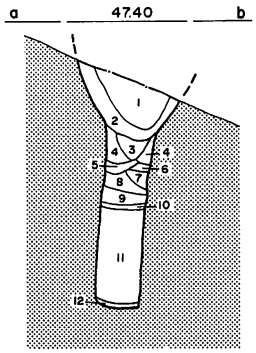



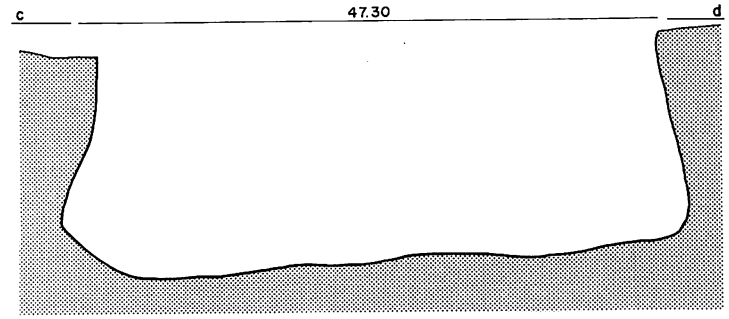




T－13の土層：
①暗褐色土（砂質）　②黒色土（Ⅲｂ層）　③ ②＞Ⅴ層（暗黄色土、粘質）　④黒褐色土（②≫ 暗黄色土、粘質）　⑤Ⅴ層（暗黄色土、粘質）＞②　⑥ ②＋Ⅴ層（暗黄色土、粘質）　⑦淡黒色土　⑧Ⅴ層（灰白色土、堅く砂質）と②がブロック状に混在　⑨暗黄色土（Ⅴ層、粘質）＞灰白色土（Ⅴ層、堅く、砂質）　⑩灰白色土（Ⅴ層、軟質で、ボソボソしている）　⑪黒色土（粘質）

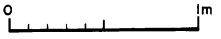
T－14



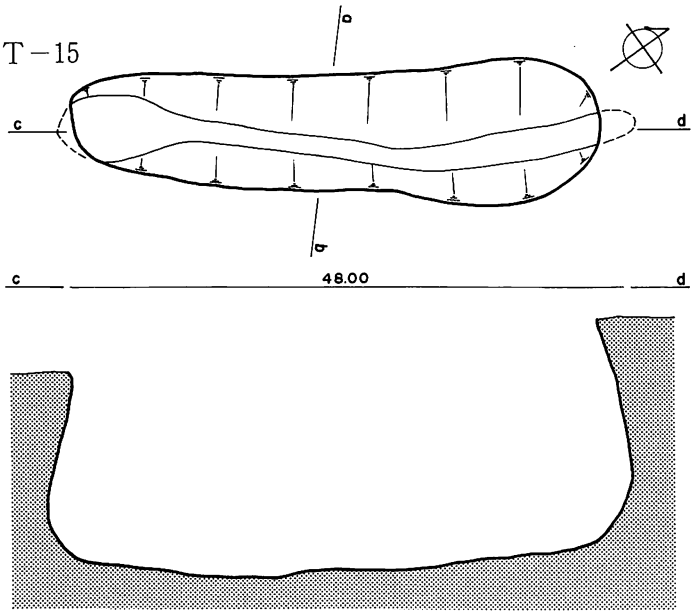



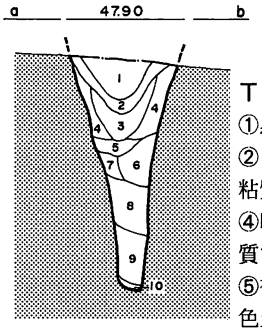

T－14の土層：
①黒色土（Ⅲｂ層）　②①＞暗黄色土（Ⅴ層、粘質）　③暗褐色土　④淡灰黄色土　⑤淡黒色土　⑥淡褐色土　⑦暗灰白色土　⑧＝⑥　⑨＝⑦　⑩黒色土　⑪灰白色土（Ⅴ層、軟質で砂質）　⑫黒色土




図Ⅲ－168　Ｔピット実測図（1）

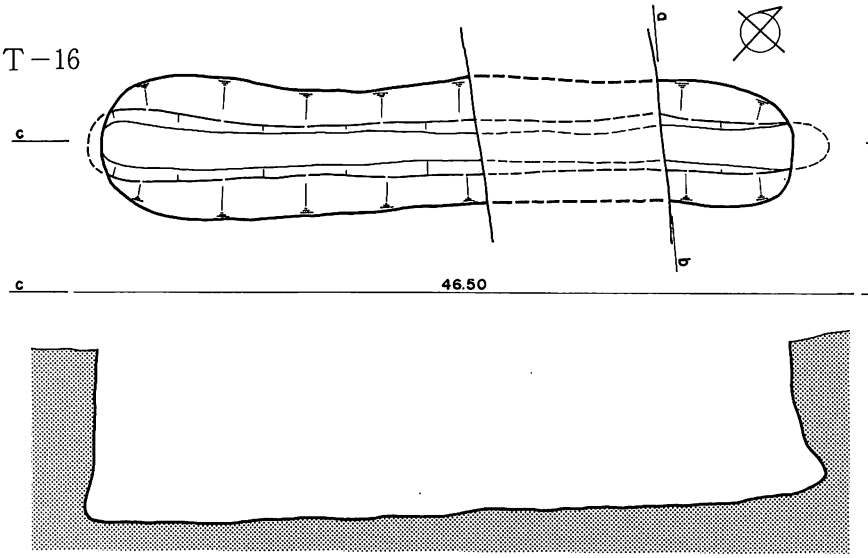
T－15

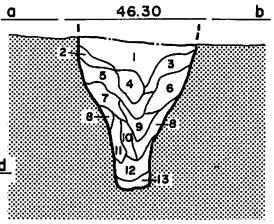



T－15の土層：
①黒色土（Ⅲb層）
②①≫暗黄色土（＝V層、粘質）　③暗黄灰色土　④暗黄色土（V層、粘質でボソボソしている）　⑤褐色土　⑥V層の暗黄色土と灰白色土がブロック土に混在　⑦⑤＋暗黄色土　⑧V層の暗黄色土（砂質）と灰白色土の混合土　⑨灰白色土（＝V層、粘質で、ボソボソしている）　⑩褐色土（⑤に酷似）

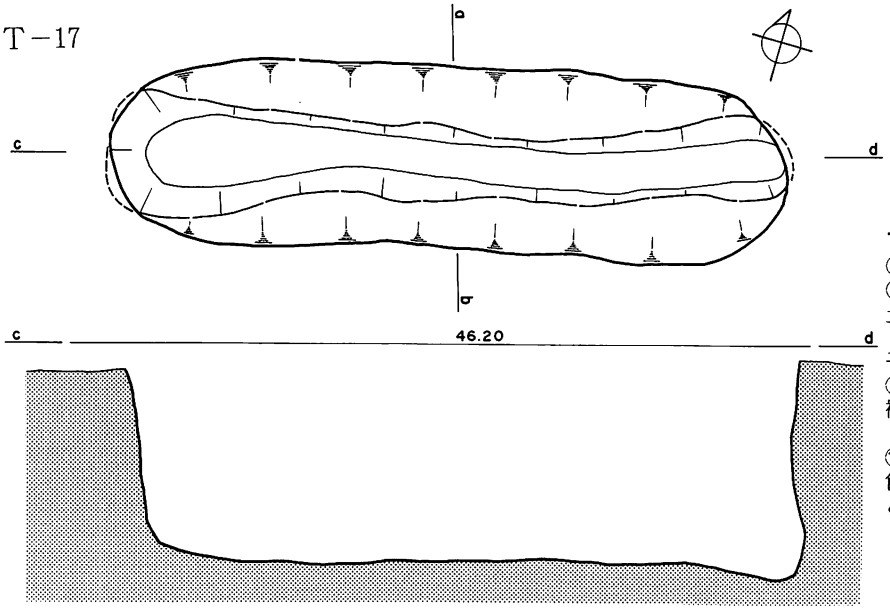
T－16

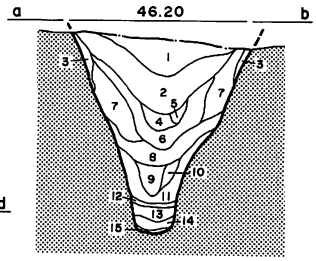


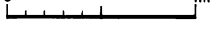

T－16の土層：
①黒色土（粘性あり）　②黄褐色土（堅い）　③黒褐色土（軟質）　④黒褐色土（③より堅い）　⑤暗黄褐色土（φ5㎜程のスコリア少量分布）　⑥黄褐色土（②＞①＋⑤）　⑦黄褐色土（褐色スコリア少量分布）　⑧黄褐色土（⑦の粘土化したもの）　⑨暗黄褐色土（⑦と同様、しまりなし）　⑩灰褐色粘土　⑪灰褐色土（⑩と同様、くずれやすい）　⑫黄灰白色土（⑩＋茶褐色土）　⑬黒色土（粘性あり）

T－17



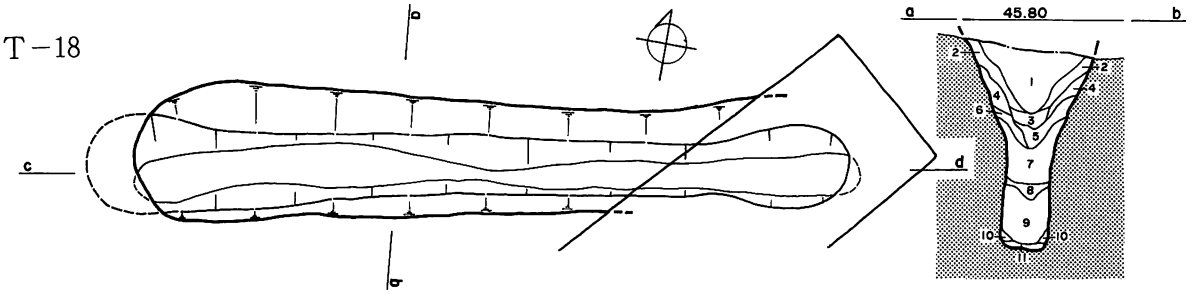



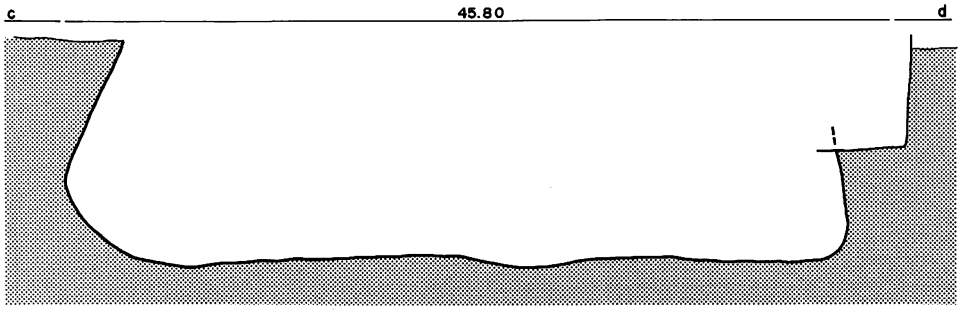

T－17の土層：
①黒色土　②黒色土（しまりあり）　③黄褐色土（Ⅶ＋V）　④黒褐色土（しまりあり）　⑤黒褐色土（粘性あり）　⑥暗黄褐色土（粒子粗い）　⑦暗黄褐色土（堅い）　⑧黄褐色土（しまりあり）　⑨灰褐色土（粘性あり）　⑩灰褐色土（粘土がブロック状に混入）　⑪灰褐色土（粘土化進む）　⑫黒色土（水分多い）　⑬黒色土（⑪と同じ）　⑭灰褐色土（砂質粘土層）　⑮黒色土（水分多い）



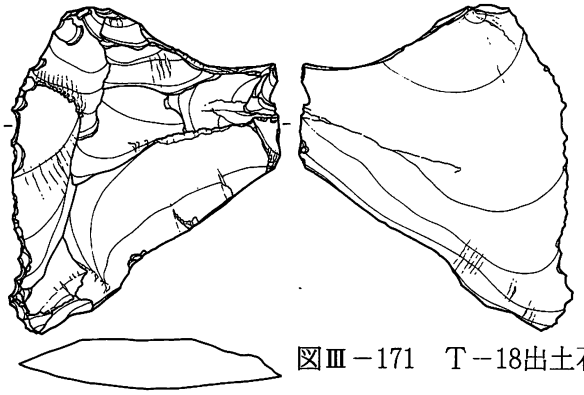

図Ⅲ－169　Tピット実測図 (2)

T－18



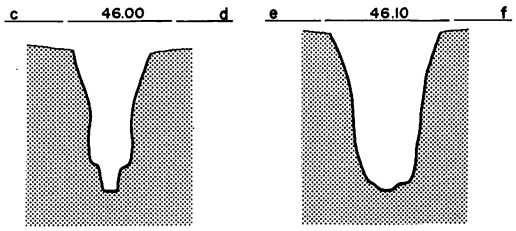




T－18の土層：
①黒色土（堅い）
②黒褐色土（微量の赤色スコリア混入）
③暗黒褐色土（軟質）
④暗黄褐色土（しまりあり）　⑤黒色土（軟質）　⑥黒褐色土（もろい）　⑦灰褐色土（やや粘土化）　⑧黒褐色土（もろい）　⑨暗灰褐色土（堅い）　⑩灰褐色土（砂質粘土層）　⑪黒色土（粘土）

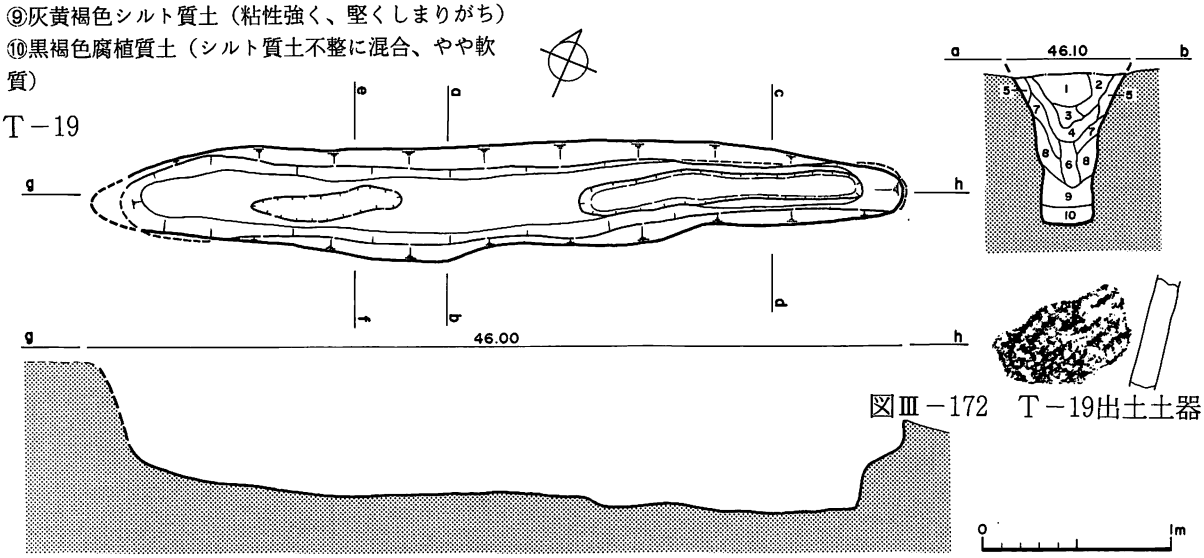


図Ⅲ－171　T－18出土石器

T－19の土層：
①灰黒色土（ローム粒少量混在、やや堅くしまる）　②黄茶褐色土（ロームがち）　③黒色土（ローム少量混在）　④暗褐色土（ローム不整に混合、やや軟質）　⑤暗黄褐色土（汚れたローム主体、やや軟質）　⑥褐色土（ロームがち、軟質）　⑦淡褐色土（ローム混合多し、軟質）⑧黄褐色土（ローム主体、軟質）
⑨灰黄褐色シルト質土（粘性強く、堅くしまりがち）
⑩黒褐色腐植質土（シルト質土不整に混合、やや軟質）



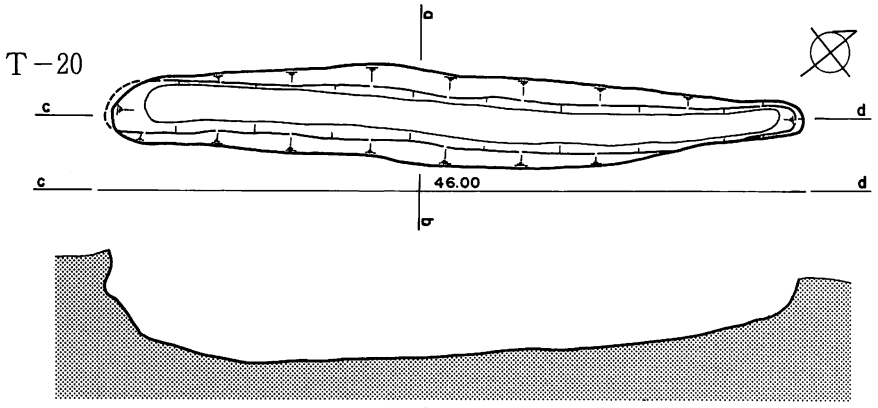

T－19

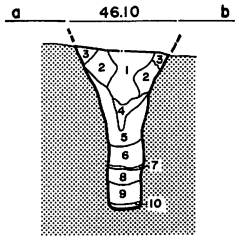




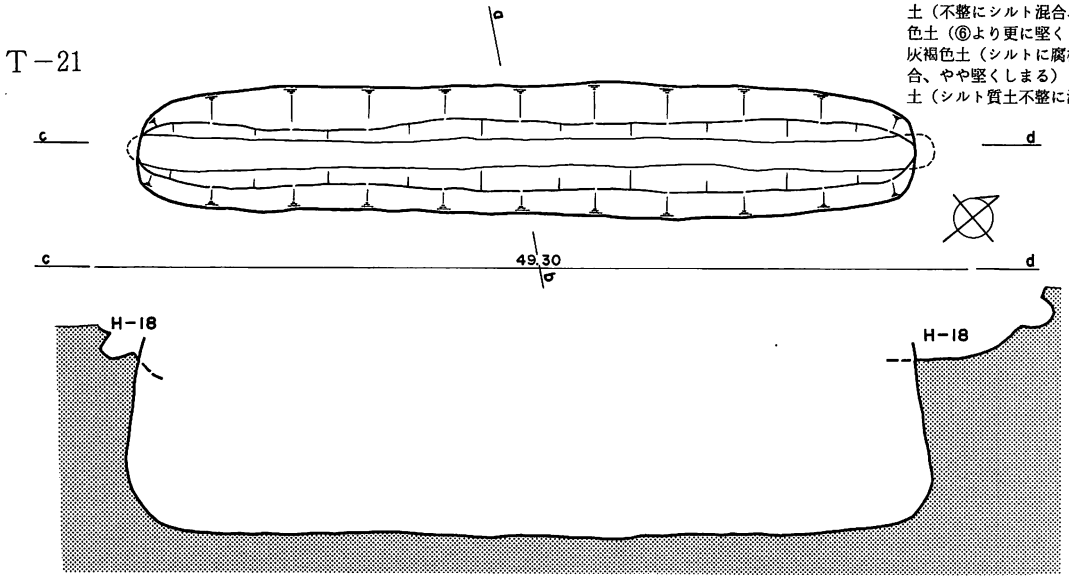

図Ⅲ－172　T－19出土土器

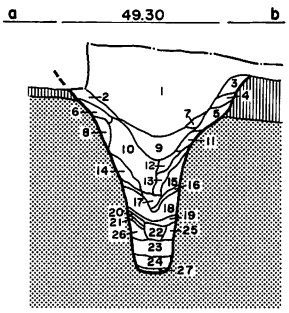
図Ⅲ－170　Tピット実測図（3）




T－20の土層：①灰黒色土（やや堅くしまる）　②黒褐色土（ロームの混合やや多し、やや堅くしまる）　③暗黄茶褐色土（ロームがち、やや堅くしまる）　④暗褐色土（ローム不整に混合、やや軟質）　⑤黄褐色土（シルトがち、やや軟質）　⑥灰褐色土（シルト主体、粘性強く、やや堅くしまる）　⑦黒褐色腐植質土（不整にシルト混合、軟質）　⑧灰褐色土（⑥より更に堅くしまる）　⑨暗黄灰褐色土（シルトに腐植質土が不整に混合、やや堅くしまる）　⑩黒褐色腐植質土（シルト質土不整に混在、やや軟質）

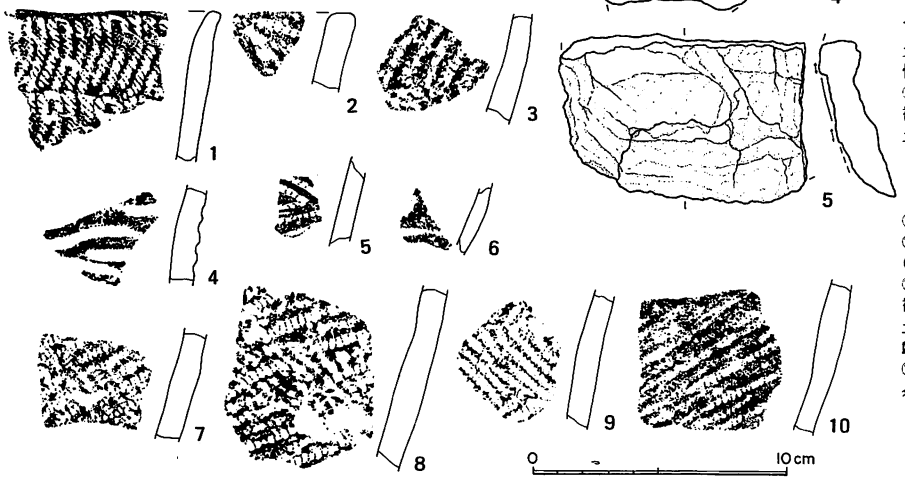



T－21の土層：①黒色土（Ⅲ層）　②黒褐色土（P.D.4の崩落土の混合土、しまり、粘性あり）　③暗茶褐色土（P.D.4の崩落土）　④黒色土（H－18覆土3層の崩落土）　⑤暗褐色土（Ⅲ層＋Ⅳ層、粘性あり）　⑥暗褐色土（≒⑤）　⑦＝③　⑧黄褐色土（Ⅳ層）Ⅲ層）　⑨黒色土（≒④）　⑩黒色土（H－18の覆土2層＋Ⅲ層）　⑪暗黄褐色土（黄褐色土がブロック状に混入、ボロボロしている）　⑫＝③、⑦（堅い）　⑬＝⑤　⑭＝⑧　⑮＝⑭　⑯暗褐色土（粘土状）　⑰暗黄褐色土（水分多く、やわらかい）　⑱＝⑭、⑮　⑲＝⑯　⑳＝⑭、⑮、⑱、　㉑＝⑯、⑲　㉒暗黄褐色土（Ⅳ層＋Ⅴ層のブロックにⅢ層の黒色土混入）　㉓黒色土（粘土状でやわらかい）　㉔茶褐色土（粘土状でしまりあり）　㉕＝⑭、⑮、⑱、⑳　㉖＝⑭、⑮、⑱、⑳、㉕　㉗暗茶褐色土（粘性あり）



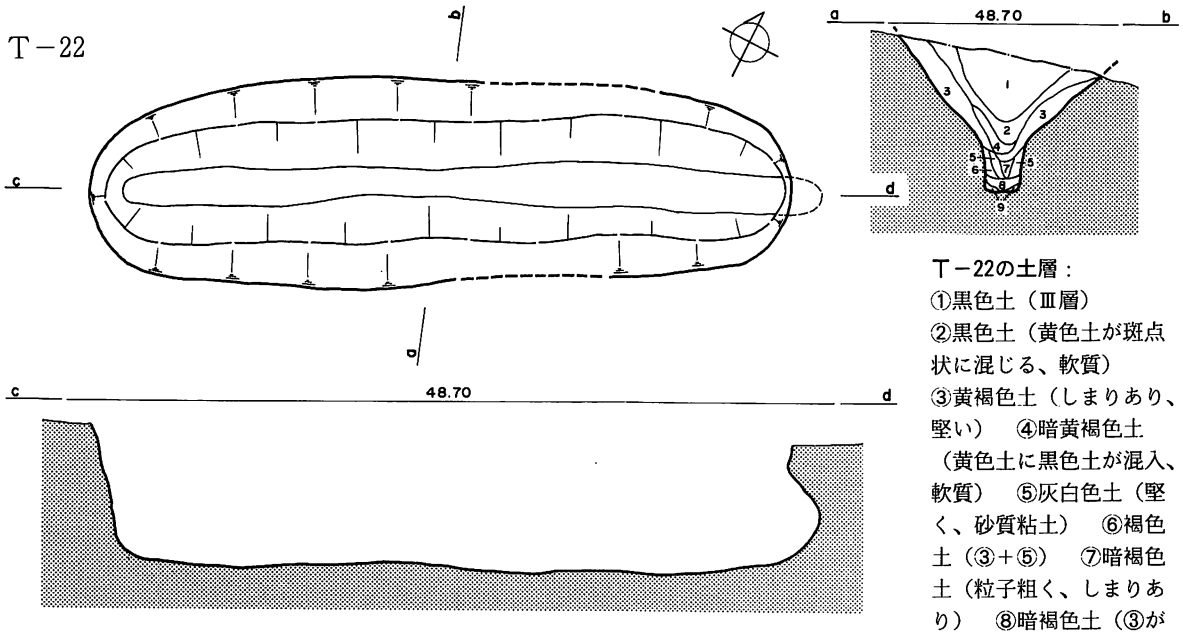

図Ⅲ－174　T－21出土石器



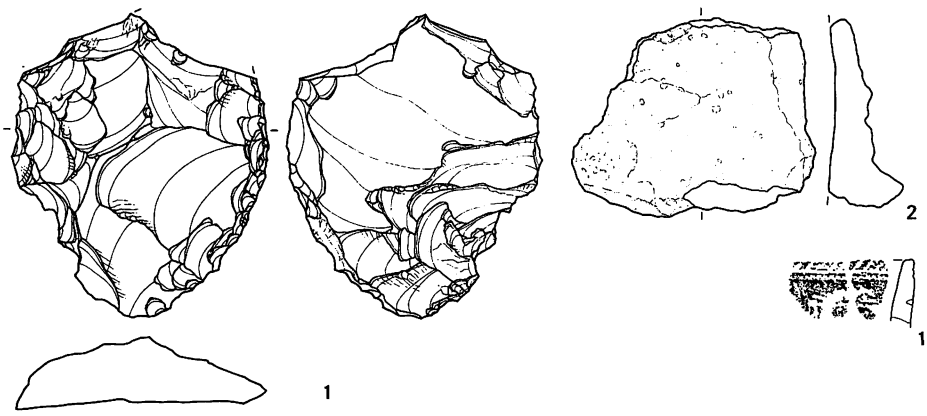

図Ⅲ－175　T－21出土土器

図Ⅲ－173　Tピット実測図（4）

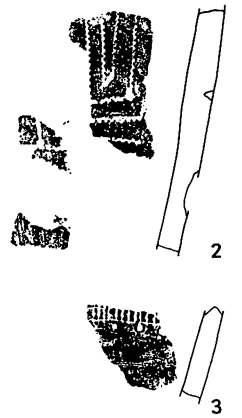
T－22




T－22の土層：
①黒色土（Ⅲ層）
②黒色土（黄色土が斑点状に混じる、軟質）
③黄褐色土（しまりあり、堅い）　④暗黄褐色土（黄色土に黒色土が混入、軟質）　⑤灰白色土（堅く、砂質粘土）　⑥褐色土（③＋⑤）　⑦暗褐色土（粒子粗く、しまりあり）　⑧暗褐色土（③がブロック状に混入）
⑨灰色土（水分多い、砂質まじりで、やや粘土状）

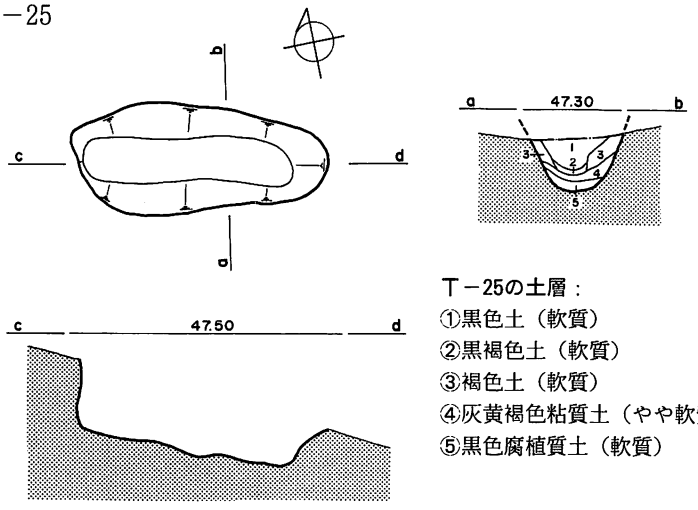



図Ⅲ－177　T－22出土石器

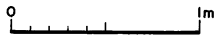



図Ⅲ－178　T－22出土土器

T－25

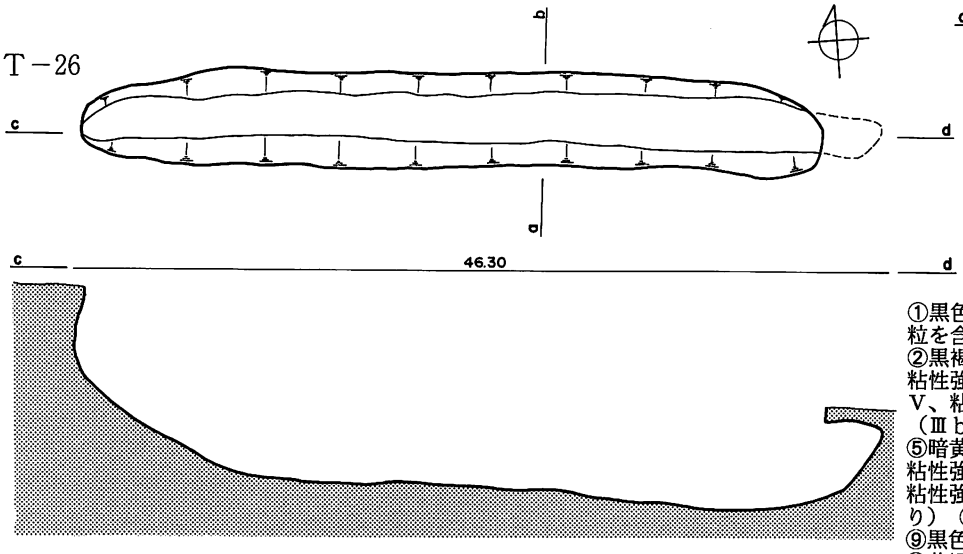



T－25の土層：
①黒色土（軟質）
②黒褐色土（軟質）
③褐色土（軟質）
④灰黄褐色粘質土（やや軟質）
⑤黒色腐植質土（軟質）



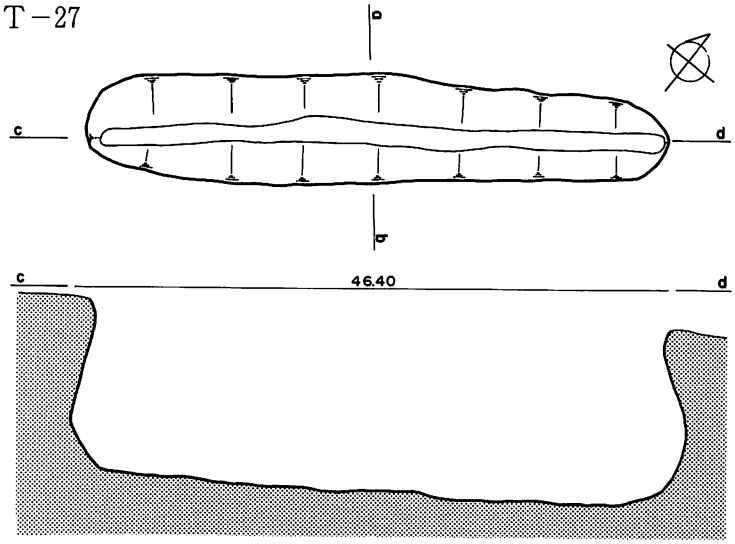

図Ⅲ－176　Tピット実測図（5）

T－26



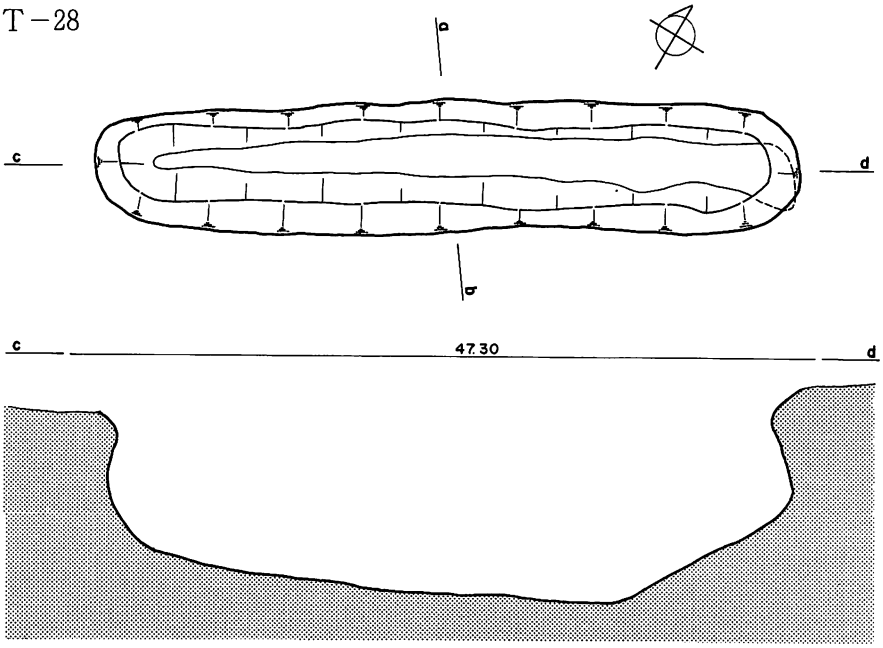

T－26の土層：
①黒色土（Ⅲａ層に火山灰粒を含む、ボソボソ）
②黒褐色土（Ⅲｂ＞Ⅲａ≫Ⅴ、粘性強い）　③黒黄色土（Ⅲａ≫Ⅴ、粘性強い）　④黄褐色土（Ⅲｂ＋Ⅴ、粘性強い）
⑤暗黄褐色土（Ⅴ≫Ⅲａ，Ⅲｂ、粘性強い）　⑥黄色土（Ⅴ≫Ⅲａ、粘性強い）　⑦灰黄色土（粘性あり）　⑧黒黄色土（Ⅴ≫Ⅲａ）
⑨黒色土（Ⅲａ≫Ⅳ、Ⅴ）
⑩黄褐色土（Ⅴ≫Ⅲａ）
⑪灰白色土　⑫黒色土（Ⅲａ、粘性強い）

T－27




T－27の土層：
①黒褐色土（Ⅲａ＞Ⅲｂ）　②暗黄褐色土（Ⅳ＞Ⅲ、Ⅳ≫Ⅴ）　③黄褐色土（Ⅴ≫Ⅲｂ、Ⅳ）　④暗黄褐色土（Ⅴ＞Ⅲａ、Ⅴ）Ⅲｂ）　⑤暗黄色土（Ⅴ≫Ⅲａ）　⑥暗黄褐色土（Ⅲａ＞Ⅴ、粘性あり）　⑦暗黄色土（Ⅴ≫Ⅲａ、粘性あり）　⑧暗黄灰褐色土（Ⅴ＋Ⅳ、粘性あり）　⑨暗褐色土（Ⅲｂ≫Ⅴ、粘性あり）　⑩暗灰黄色土（Ⅴ＋Ⅳ、粘性あり）　⑪黄色土　⑫灰色粘土　⑬黄色土（Ⅴ層の崩落土）　⑭黒色土（Ⅲａ層の崩落土）　⑮黒色土（Ⅲｂ層の崩落土）

T－28

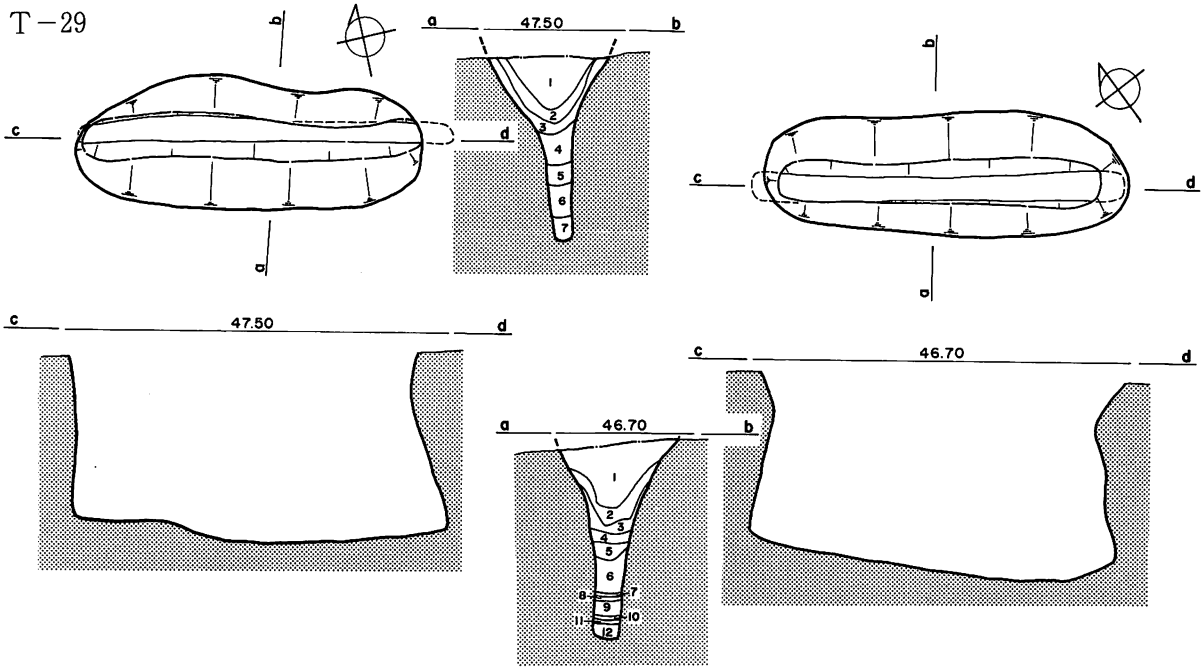



T－28の土層：①黒褐色土（Ⅲａ＞Ⅲｂ）　②暗黄色土（Ⅴ≫Ⅲａ）　③黄褐色土（Ⅴ≫Ⅲｂ）　④暗褐色土（Ⅴ＞Ⅲａ）　⑤黒褐色土（Ⅲａ＞Ⅲｂ）　⑥暗黄色土（Ⅴ＞Ⅲａ、Ⅲｂ）　⑦黄色土（Ⅴ層の崩落土）　⑧黄褐色土（Ⅴ≫Ⅲｂ）　⑨暗黄褐色土（Ⅴ＞Ⅲａ、Ⅲｂ）　⑩灰黄色土　⑪黄色土（Ⅴ層の崩落土）　⑫黒色土（Ⅲａ層）　⑬暗黄色土（Ⅴ≫Ⅲａ）　⑭黒色土（Ⅲａ層）　⑮暗黄褐色土（Ⅲｂ＞Ⅴ・Ⅲａ）　⑯黒色土（Ⅲａ層）

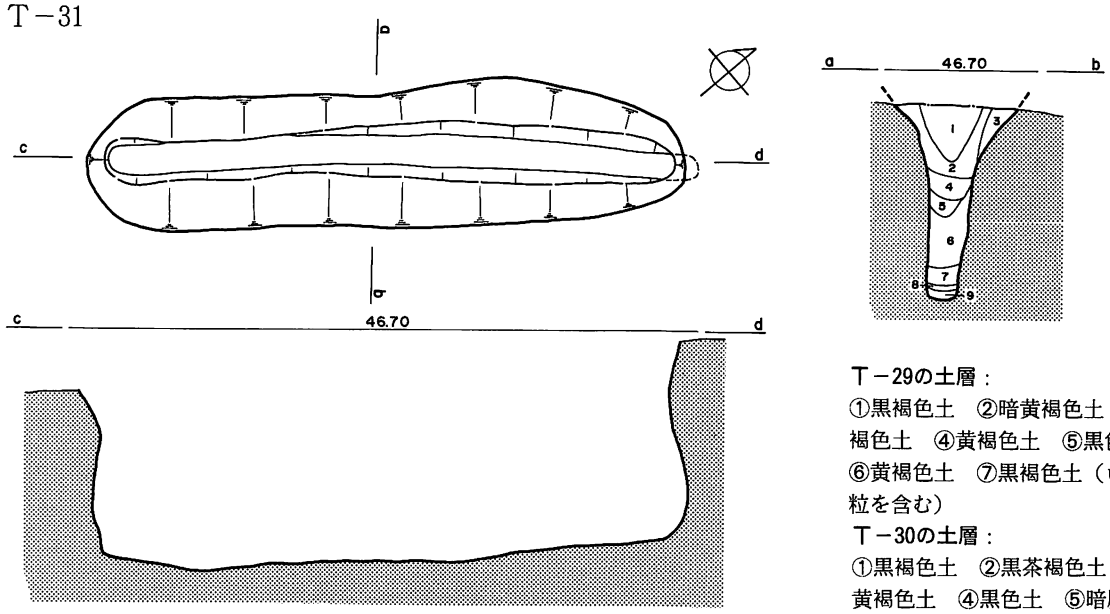
0　1m

図Ⅲ－179　Tピット実測図 (6)

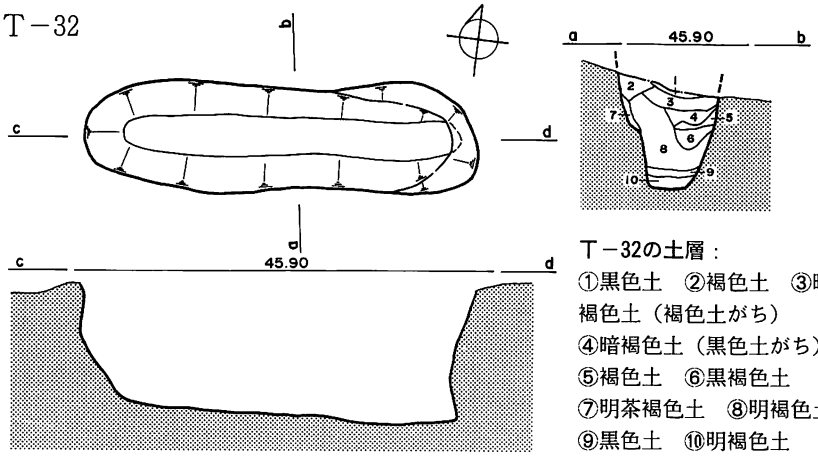
T－29




T－31




T－32




T－29の土層：
①黒褐色土　②暗黄褐色土　③暗褐色土　④黄褐色土　⑤黒色土　⑥黄褐色土　⑦黒褐色土（ローム粒を含む）

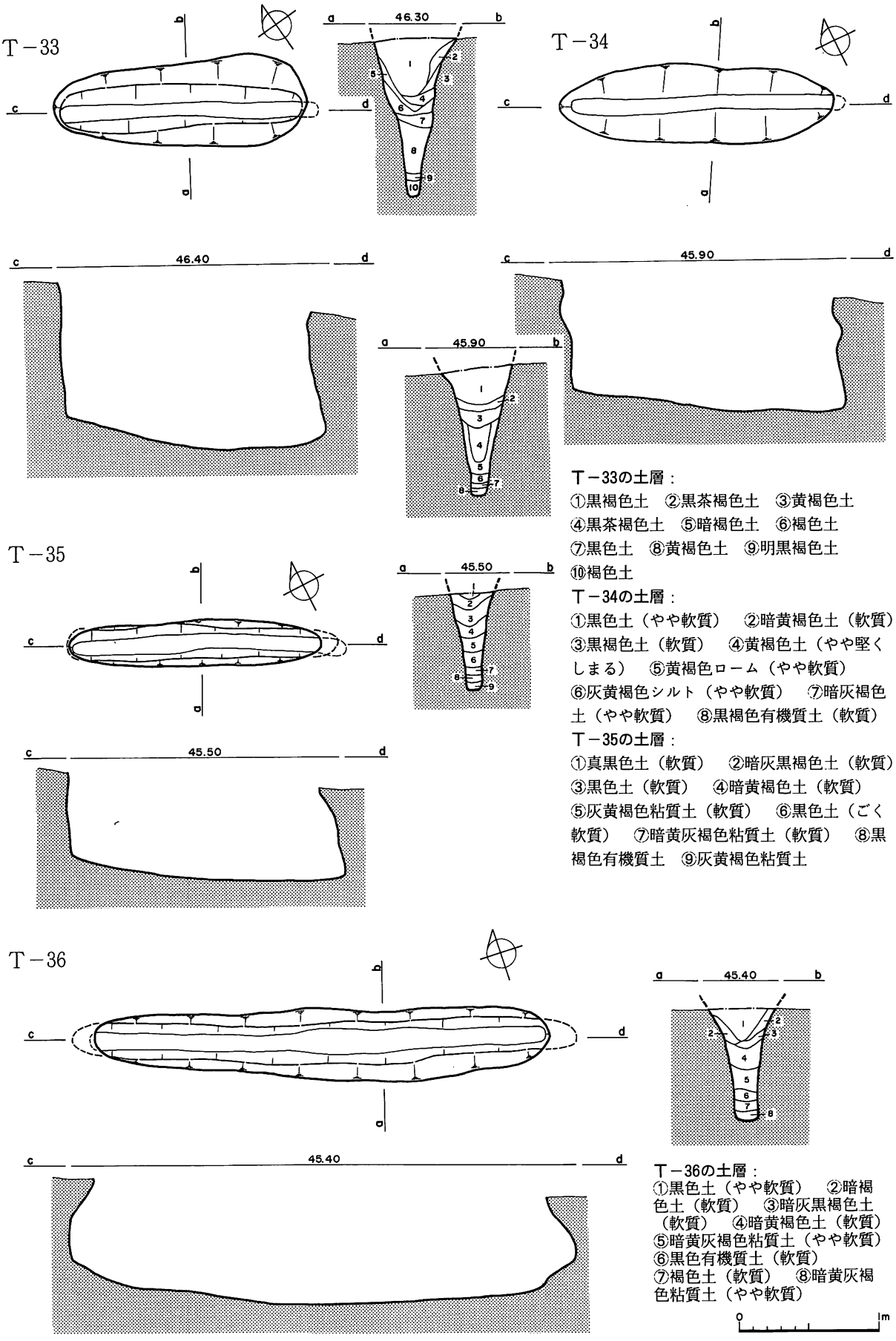
T－30の土層：
①黒褐色土　②黒茶褐色土　③暗黄褐色土　④黒色土　⑤暗灰褐色土　⑥黄褐色土　⑦灰黒色土　⑧黄褐色土　⑨黒色土　⑩黄褐色土　⑪黒色土　⑫褐色土

T－31の土層：
①黒褐色土
②暗茶褐色土　③黄褐色粘質土　④黒色粘質土　⑤暗黄褐色粘質土　⑥黄褐色粘質土　⑦黒色土　⑧黄褐色土　⑨黒色土

T－32の土層：
①黒色土　②褐色土　③暗褐色土（褐色土がち）　④暗褐色土（黒色土がち）　⑤褐色土　⑥黒褐色土　⑦明茶褐色土　⑧明褐色土　⑨黒色土　⑩明褐色土

0　m

図Ⅲ－180　Tピット実測図 (7)



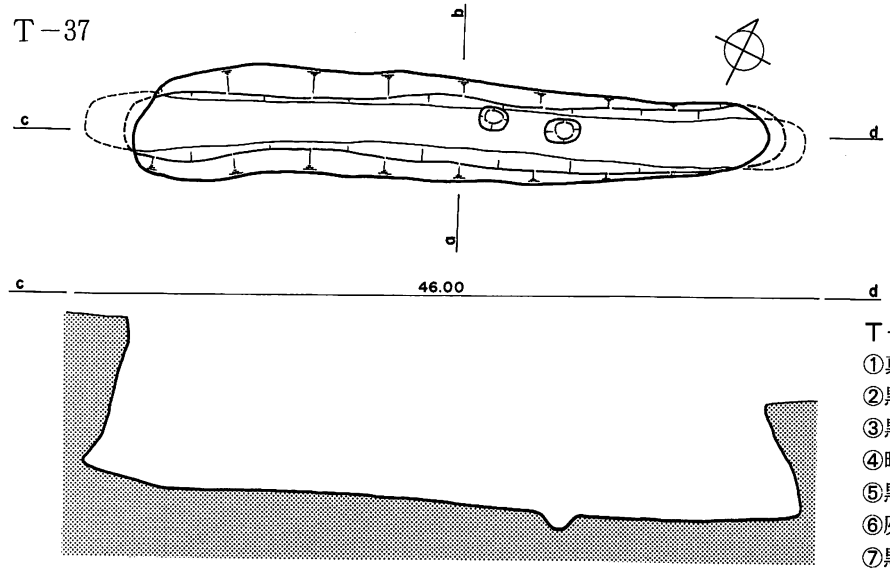

T－33の土層：
①黒褐色土　②黒茶褐色土　③黄褐色土
④黒茶褐色土　⑤暗褐色土　⑥褐色土
⑦黒色土　⑧黄褐色土　⑨明黒褐色土
⑩褐色土

T－34の土層：
①黒色土（やや軟質）　②暗黄褐色土（軟質）
③黒褐色土（軟質）　④黄褐色土（やや堅くしまる）　⑤黄褐色ローム（やや軟質）
⑥灰黄褐色シルト（やや軟質）　⑦暗灰褐色土（やや軟質）　⑧黒褐色有機質土（軟質）

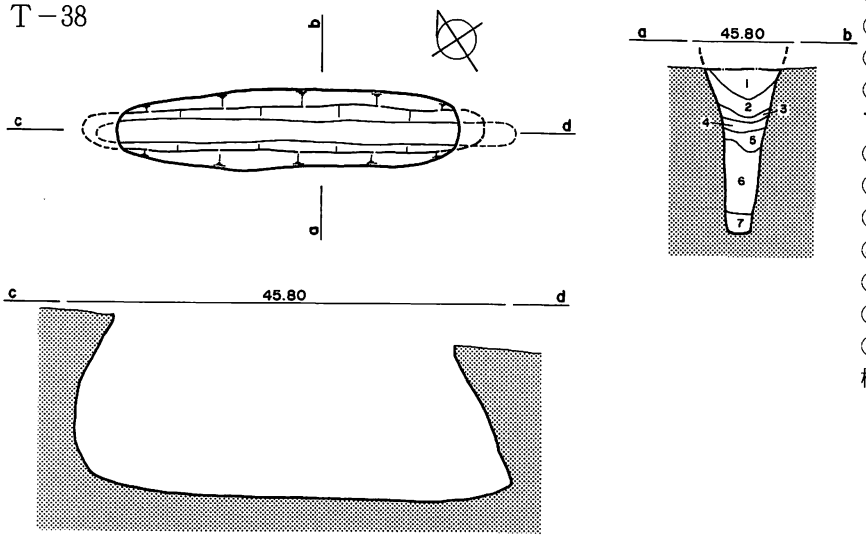
T－35の土層：
①真黒色土（軟質）　②暗灰黒褐色土（軟質）
③黒色土（軟質）　④暗黄褐色土（軟質）
⑤灰黄褐色粘質土（軟質）　⑥黒色土（ごく軟質）　⑦暗黄灰褐色粘質土（軟質）　⑧黒褐色有機質土　⑨灰黄褐色粘質土

T－36の土層：
①黒色土（やや軟質）　②暗褐色土（軟質）　③暗灰黒褐色土（軟質）　④暗黄褐色土（軟質）
⑤暗黄灰褐色粘質土（やや軟質）
⑥黒色有機質土（軟質）
⑦褐色土（軟質）　⑧暗黄灰褐色粘質土（やや軟質）

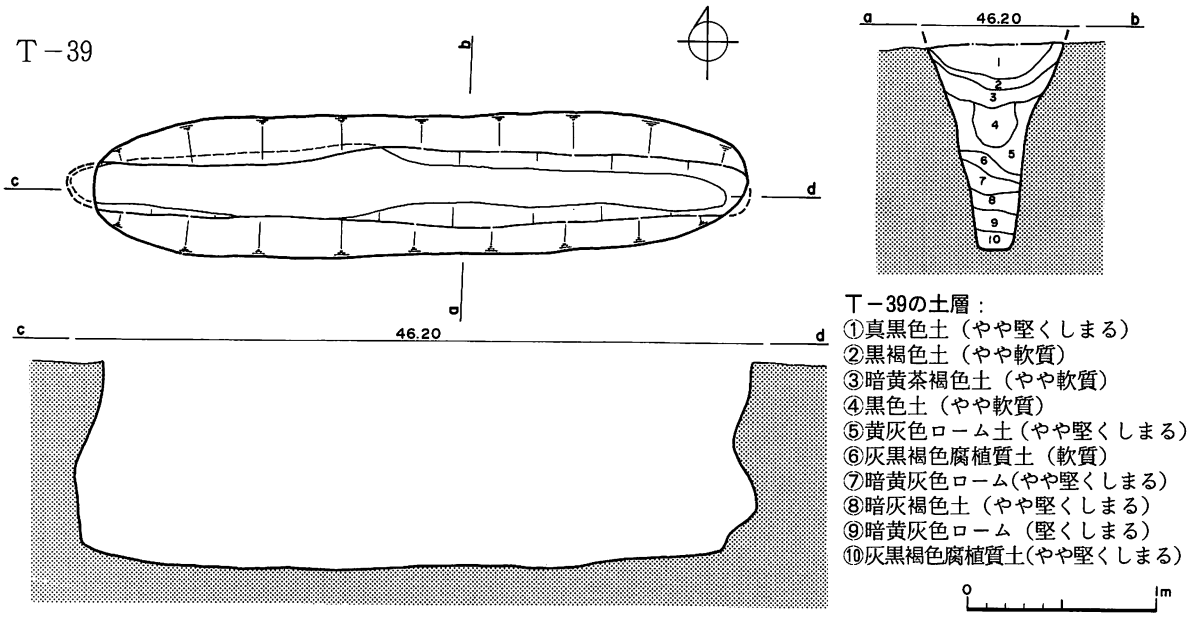
図Ⅲ－181　Tピット実測図 (8)




T－37の土層：
①真黒色土（やや軟質）
②黒褐色土（軟質）
③黒色土（軟質）
④暗黄褐色土（軟質）
⑤黒褐色土（軟質）
⑥灰黄褐粘質土（軟質）
⑦黒色土（軟質）
⑧暗黄褐色粘質土（軟質）
⑨黒褐色有機質土（ごく軟質）
⑩暗灰褐色粘質土（軟質）
⑪黒色有機質土（軟質）




T－38の土層：
①黒色土（軟質）
②黒褐色土（やや堅くしまる）
③暗黄灰色粘質土（やや軟質）
④暗黄茶褐色土（やや堅くしまる）
⑤暗黄茶褐色土
⑥灰黄褐色ローム（やや軟質）
⑦黄茶褐色粘質土（軟質、黒色有機質土が不整に混合）

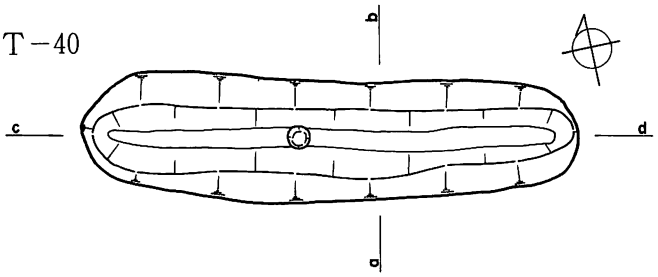


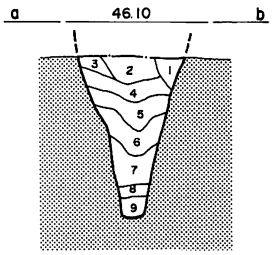

T－39の土層：
①真黒色土（やや堅くしまる）
②黒褐色土（やや軟質）
③暗黄茶褐色土（やや軟質）
④黒色土（やや軟質）
⑤黄灰色ローム土（やや堅くしまる）
⑥灰黒褐色腐植質土（軟質）
⑦暗黄灰色ローム（やや堅くしまる）
⑧暗灰褐色土（やや堅くしまる）
⑨暗黄灰色ローム（堅くしまる）
⑩灰黒褐色腐植質土（やや堅くしまる）

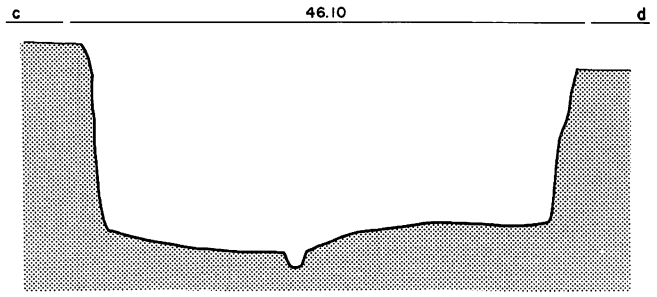
0　1m

図Ⅲ－182　Tピット実測図 (9)

T－40

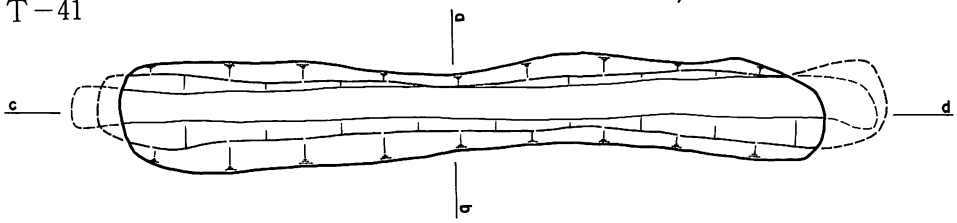


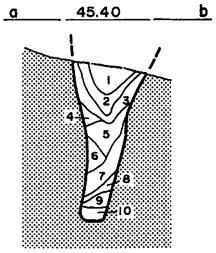



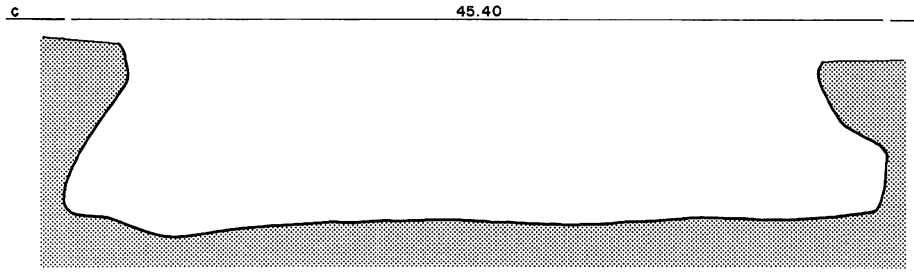




T－40の土層：
①褐色粘質土（やや堅くしまる）
②真黒色土（やや軟質）
③黒色土（やや堅くしまる）
④暗黄褐色土（やや軟質）
⑤暗黄褐粘質土（軟質）
⑥黄灰褐ローム（軟質）
⑦灰白色シルト質土（やや堅くしまる）
⑧黒褐色腐植質土（やや軟質）
⑨暗灰黄褐色土（黒色腐植質土を若干混合）

T－41

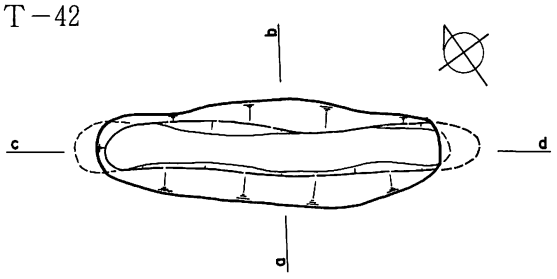


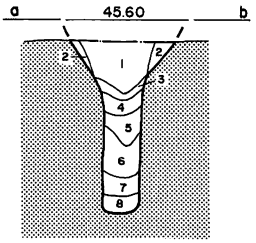



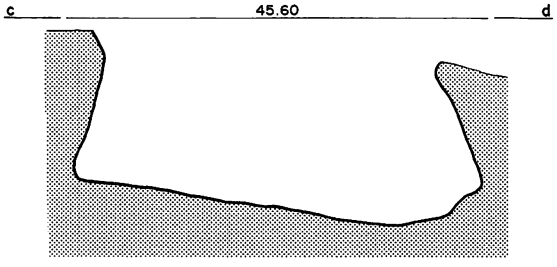




T－41の土層：
①真黒色土（やや軟質）
②黒褐色土（やや軟質）
③暗黄灰褐色粘質土（軟質）　④褐色土（軟質）　⑤暗灰褐色土（ボソボソしている）
⑥黄灰色ローム土(軟質)
⑦暗黄灰色ローム土（軟質）　⑧黒色腐植質土（軟質）　⑨暗黄灰褐色シルト質土（やや軟質）　⑩灰黒色腐植質土（ごく軟質）

T－42



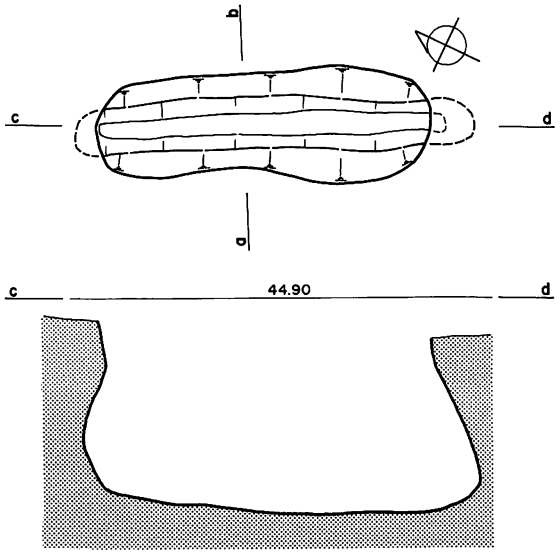



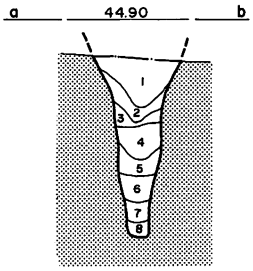

T－42の土層：
①真黒色土（やや軟質）　②暗褐色土（やや堅くしまる）　③褐色土（やや軟質）　④黒褐色土（やや軟質）　⑤黄茶褐色土（やや軟質）　⑥暗黄褐色ローム質土（やや堅くしまる）　⑦暗黄灰色シルト質土（やや軟質）　⑧黒色腐植質土（軟質）




図Ⅲ－183　Tピット実測図 (10)

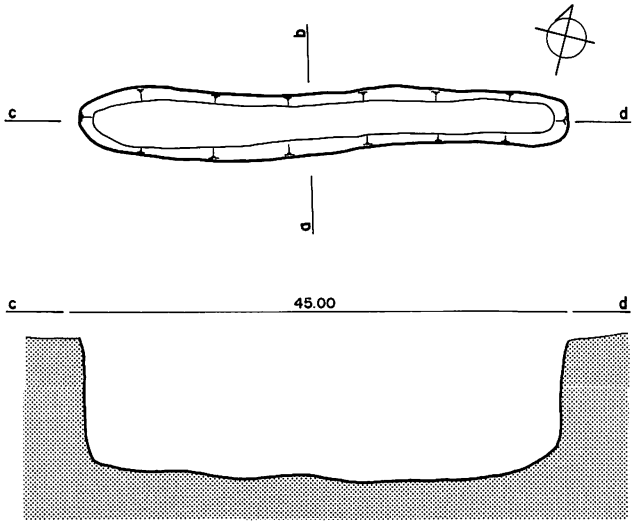
T－43

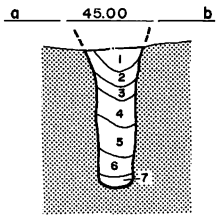



T－43の土層：
①真黒色土（やや軟質）
②黒褐色土（やや軟質）
③暗黄褐色ローム質土（やや堅くしまる）
④黒色土（やや軟質）
⑤黄灰色シルト質土（軟質）
⑥黒色腐植質土（軟質）
⑦暗黄灰色シルト質土（軟質）
⑧黒褐色腐植質土（軟質）

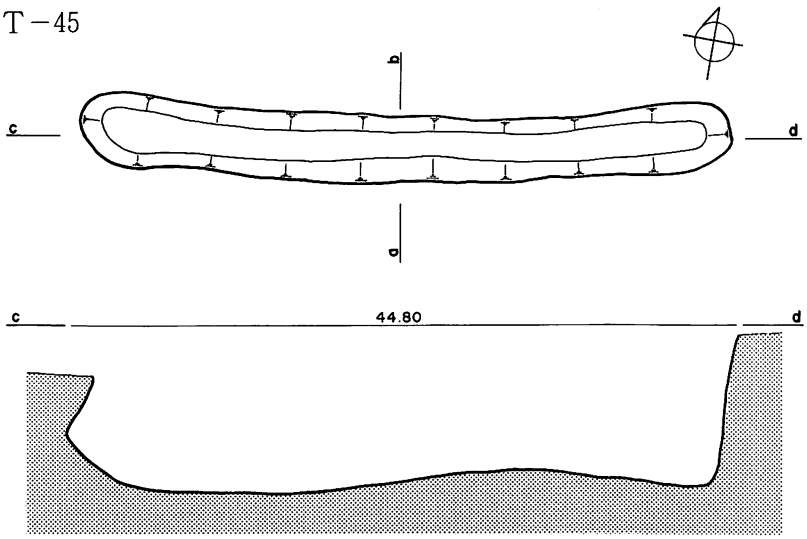
T－44

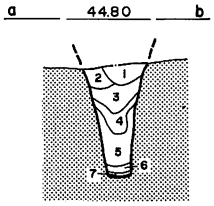


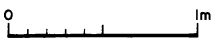

T－44の土層：
①黒褐色土（やや軟質）
②暗褐色土（やや堅くしまる）
③黒色土（軟質）
④暗黄茶褐色土（軟質）
⑤暗黄灰色シルト質土（やや軟質）
⑥黄灰色シルト質土（ごく軟質）
⑦黒色腐植質土（ごく軟質）

T－45



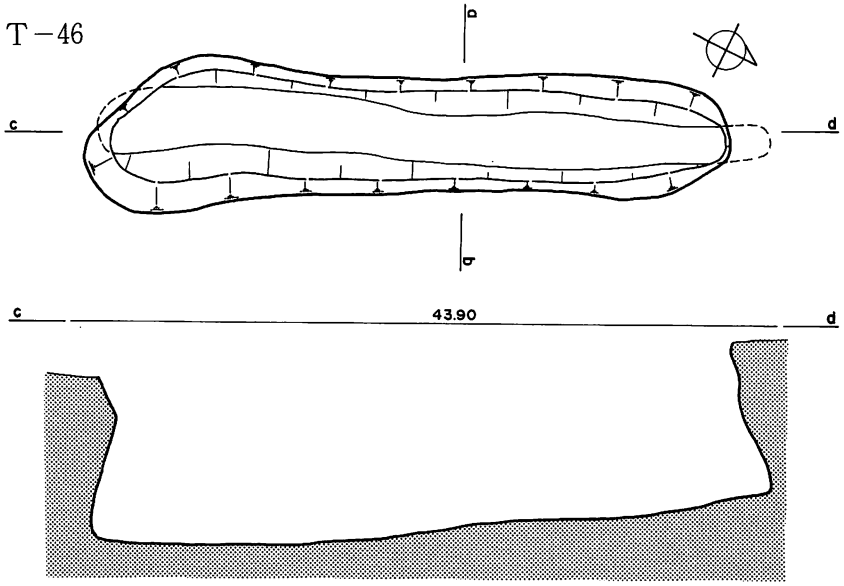



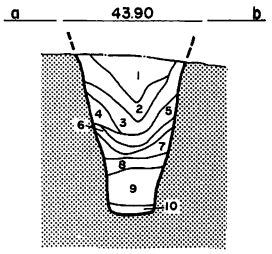

T－45の土層：
①黒褐色土（やや堅くしまる）
②暗茶褐色土（やや堅くしまる）
③黒色土（やや軟質）
④暗黄褐色ローム質土（軟質）
⑤黄灰色ローム質土（軟質）
⑥暗黄灰褐色土（やや堅くしまる）
⑦黒色腐植質土（軟質）




図Ⅲ－184　Tピット実測図 (11)

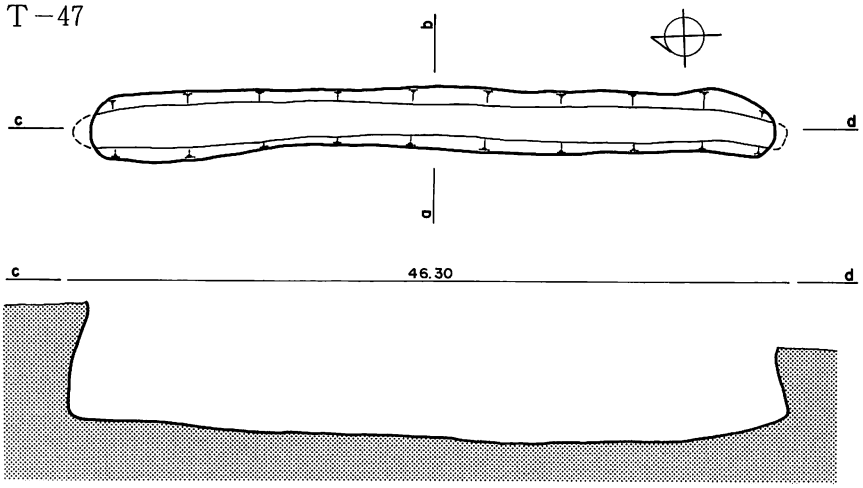
T－46

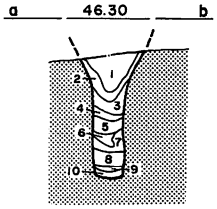



T－46の土層：
①黒色土（やや堅くしまる）
②黒褐色土（やや堅くしまる）
③暗黄褐色土（やや堅くしまる）
④黄灰色ローム質土（堅くしまる）
⑤黒色腐植質土（軟質）
⑥黄灰色ローム質土（やや軟質）
⑦灰白色シルト質土（堅くしまる）
⑧暗黄褐粘質土（堅くしまる）
⑨灰白色シルト質土（堅くしまる）
⑩灰黒色腐植質土（軟質）

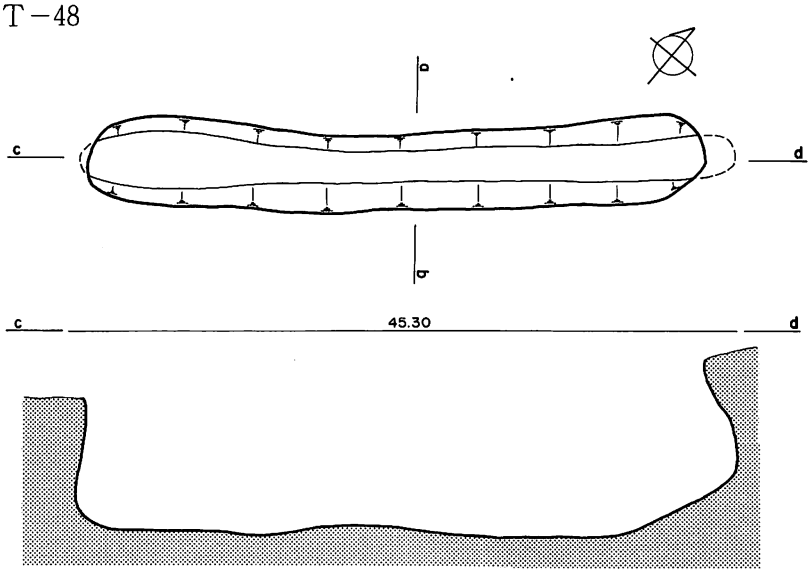
T－47

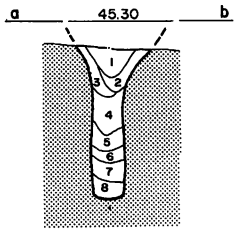



T－47の土層：
①黒褐色土　②黒茶褐色土
③黒褐色粘質土　④暗褐色土
⑤黒色土　⑥黒茶褐色土
⑦暗黄褐色土　⑧黒色土
⑨褐色土　⑩黒色土

T－48



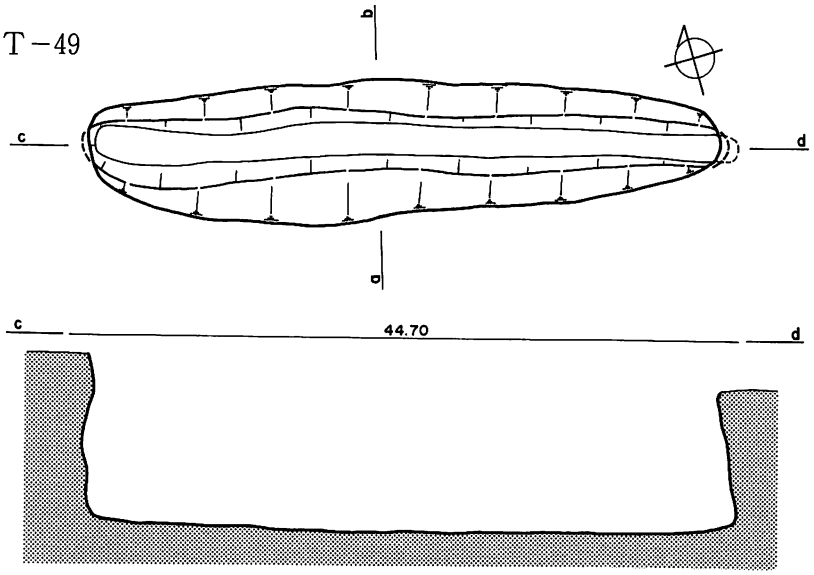




T－48の土層：
①黒色土（やや堅くしまる）
②黒色土（やや軟質）
③黒褐色土（軟質）
④灰黒色土（やや堅くしまる）
⑤暗黄褐色土（軟質）
⑥黒色粘質土（やや軟質）
⑦灰黒褐色腐植質土（軟質）
⑧灰黒色粘質土（軟質）



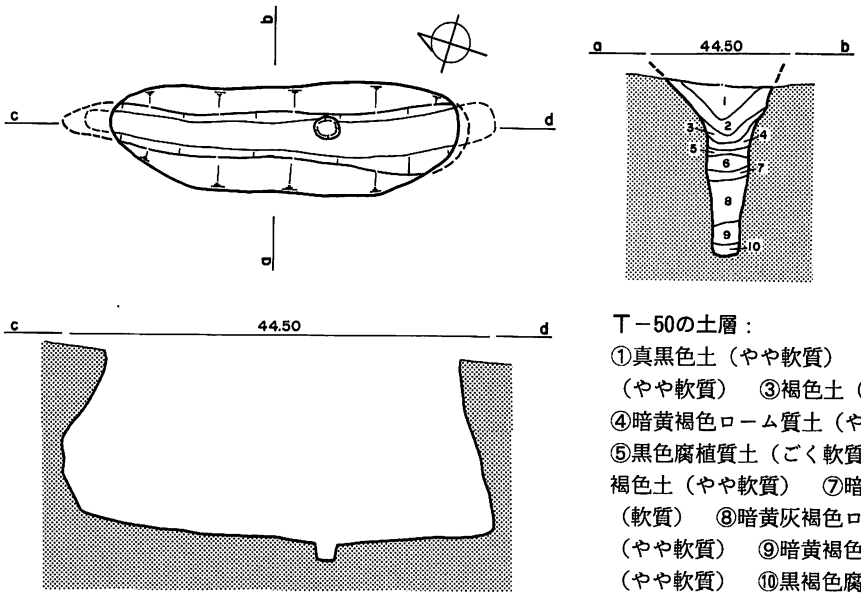

図Ⅲ－185　Tピット実測図 (12)

T－49



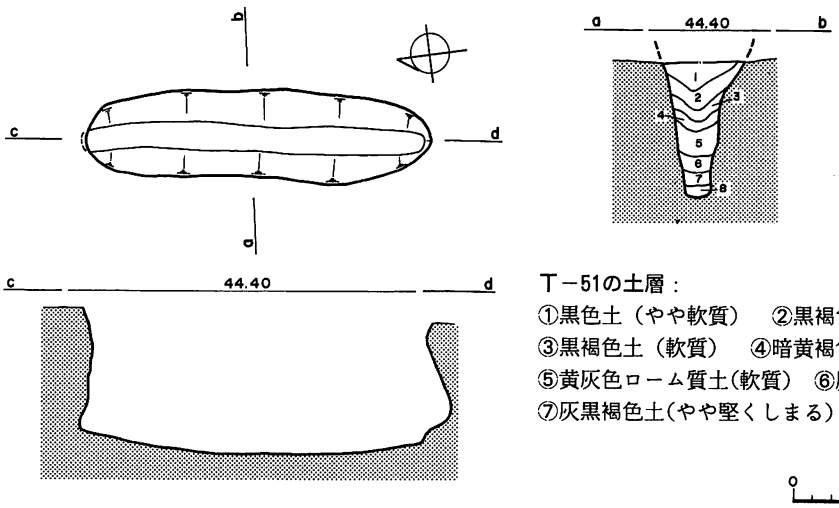

T－49の土層：
①黒色土（やや軟質）　②暗黄褐色土（軟質）　③黒褐色土（軟質）　④褐色土（やや軟質）　⑤黒褐色土（軟質）　⑥黄灰褐色ローム質土（やや堅くしまる）　⑦暗黄褐色ローム質土（やや軟質）　⑧黒褐色土（やや堅くしまる）　⑨暗黄褐色ローム質土（軟質）　⑩黒色腐植質土（ごく軟質）　⑪黄灰色ローム土（やや軟質）　⑫黒褐色腐植質土（軟質）

T－50




T－50の土層：
①真黒色土（やや軟質）　②黒褐色土（やや軟質）　③褐色土（軟質）　④暗黄褐色ローム質土（やや軟質）　⑤黒色腐植質土（ごく軟質）　⑥暗黄褐色土（やや軟質）　⑦暗灰茶褐色土（軟質）　⑧暗黄灰褐色ローム質土（やや軟質）　⑨暗黄褐色ローム質土（やや軟質）　⑩黒褐色腐植質土（ごく軟質）

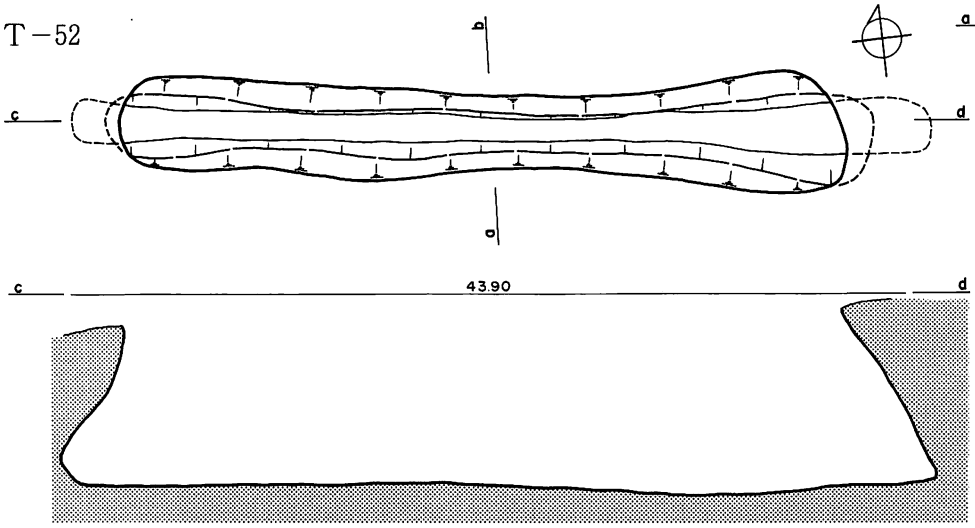
T－51




T－51の土層：
①黒色土（やや軟質）　②黒褐色土（やや軟質）　③黒褐色土（軟質）　④暗黄褐色土（軟質）　⑤黄灰色ローム質土（軟質）　⑥灰黒色土（軟質）　⑦灰黒褐色土（やや堅くしまる）　⑧黒色腐植質土

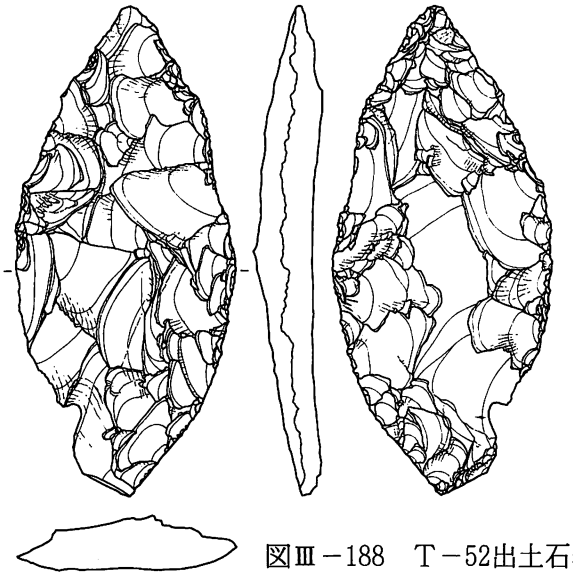
0　m

図Ⅲ－186　Tピット実測図 (13)

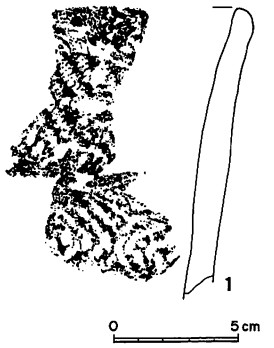


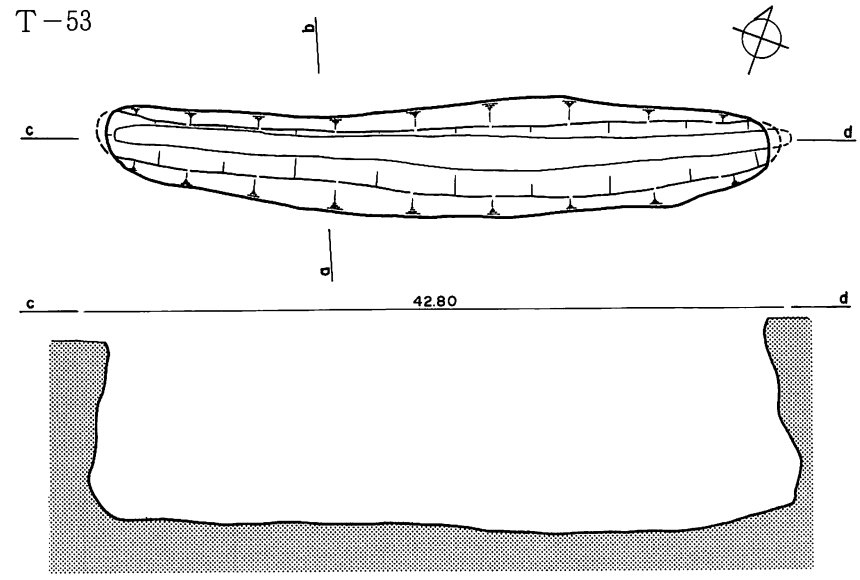

T－52の土層：
①黒褐色土　②黒茶褐色土　③暗茶褐色土　④黒褐色土　⑤褐色土　⑥黄褐色土　⑦黒色土　⑧黄褐色土　⑨黒色土　⑩黒茶褐色土　⑪黒色土　⑫黒褐色土

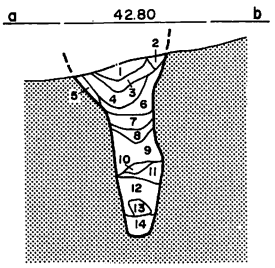
図Ⅲ－189　T－52出土土器



図Ⅲ－188　T－52出土石器




T－53の土層：
①黒褐色土　②暗褐色土　③暗茶褐色土　④明黄色土　⑤暗褐色土　⑥褐色土　⑦茶褐色土　⑧暗黄褐色土　⑨黄褐色土　⑩青灰色土　⑪淡茶褐色土　⑫暗青灰色土　⑬暗茶褐色土　⑭暗青灰色土

0　1m

図Ⅲ－187　Tピット実測図 (14)

4　焼　土（図Ⅲ－190・191）

**位置**：N－7－12　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形の西斜面上に位置する。　標高は49.30m～49.40mである。

**確認・調査**：N－7－12の包含層調査中、Ⅲ層を3㎝～5㎝ほど掘り下げたところで、焼土の広がりを検出した。焼土周辺は砂質の暗褐色土が堆積しており、非常に堅い面になっている。

**形状**：焼土は0.9m×0.8mほどの三角形状の広がりをもっており、層厚は1㎝～2㎝ほどである。明瞭な掘り込みはない。

**床面**：焼土周辺は2m×3mほどの長円形状にくぼんでおり、堅くなっている。浅いくぼみを利用しているものと思われる。

**遺物出土状況**：焼土周辺から59点の遺物が出土している。このうち土器は21点、石器は38点である。遺物は焼土の西側で多く出土している。出土した土器はすべてⅠ群B類土器で、石器では石鏃、石斧、すり石、たたき石などが出土している。また、特に焼土周辺の床面上からフレイクおよびフレイクチップが多く散在していた。

**時期・性格**：床面および周辺の包含層出土の土器がⅠ群B類であることから、縄文時代早期中葉のものと思われる。浅いくぼみ地を一時的に利用したものと考えられる。

なお、本遺構の直下にはH－20があり、H－20廃棄後浅いくぼみ地になっていたのであろう。検出状況などから考えると、本遺構は最も新しい時期に属するものと思われる。

**遺物**

**土器**（図Ⅲ－192　図版69）

1は無文土器の口縁部。2は腹縁文が施されている。内外面に細かい条痕がある。いずれもⅠ群B類土器。

**石器**（図Ⅲ－193　図版102）

1は周辺加工の三角形凹基鏃。加工は粗雑である。2は小型の研磨石材。石の脈がすでにひび割れており、この素材から石斧製作は困難と思われる。3・5はたたき石。3は端部付近に明瞭なたたき痕が残る。5は石英製のもの。4はすり石。表面がほとんど剥落し脆い。被熱によるものであろう。

F－4（図Ⅲ－194）

**位置**：N－8－19　北から南へ緩やかに傾斜する浅い沢状地形中に位置する。標高は49.05m付近である。周辺にはH－33、H－25、H－56、などがある。これらの遺構に囲まれた平坦地である。

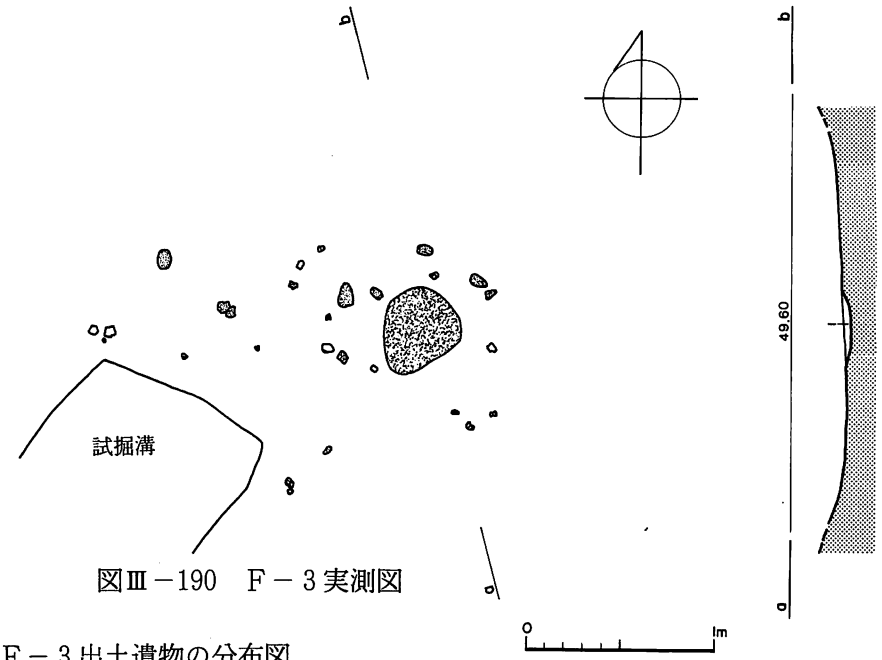
**確認・調査**：N－8－19の包含層調査中、Ⅴ層上面で焼土の広がりを検出した。焼土周辺は非常に堅くなっており、住居跡の可能性もあるため、周辺を精査し、壁の立ち上がり、柱穴状小ピットなどの検出作業を行ったけれども、それらは検出されなかったため、焼土として調査をおこなった。

**形状**：0.7m×0.6m広がりをもつ長円形状のものである。

**層位**：層厚は約10㎝ほどで、明橙色土である。焼土下のⅤ層は若干赤く変色していた。浅いくぼみ状になっているが、明瞭な掘り込みではない。

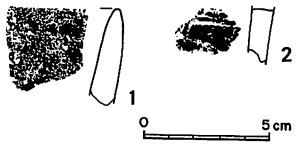
**遺物出土状況**：焼土中および周辺の床面上からは遺物は出土していない。

**時期・性格**：時期を明確にすることは困難ではあるが、周辺遺構、周辺の包含層出土の土器がⅠ群B類であることなどから考えると、縄文時代早期中葉のものと思われる。

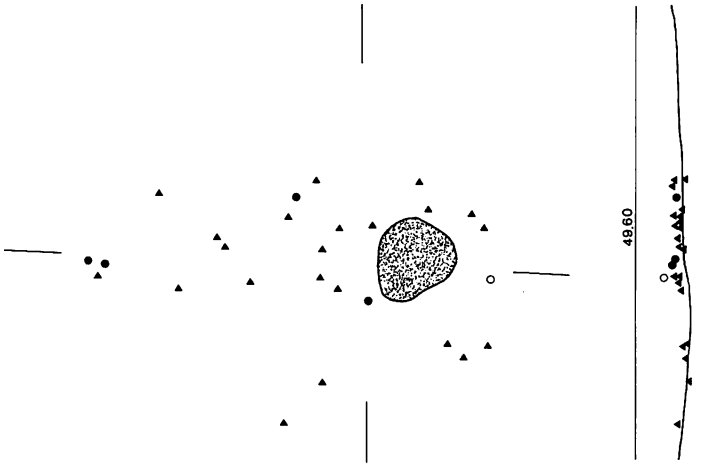



図Ⅲ－190　F－3実測図

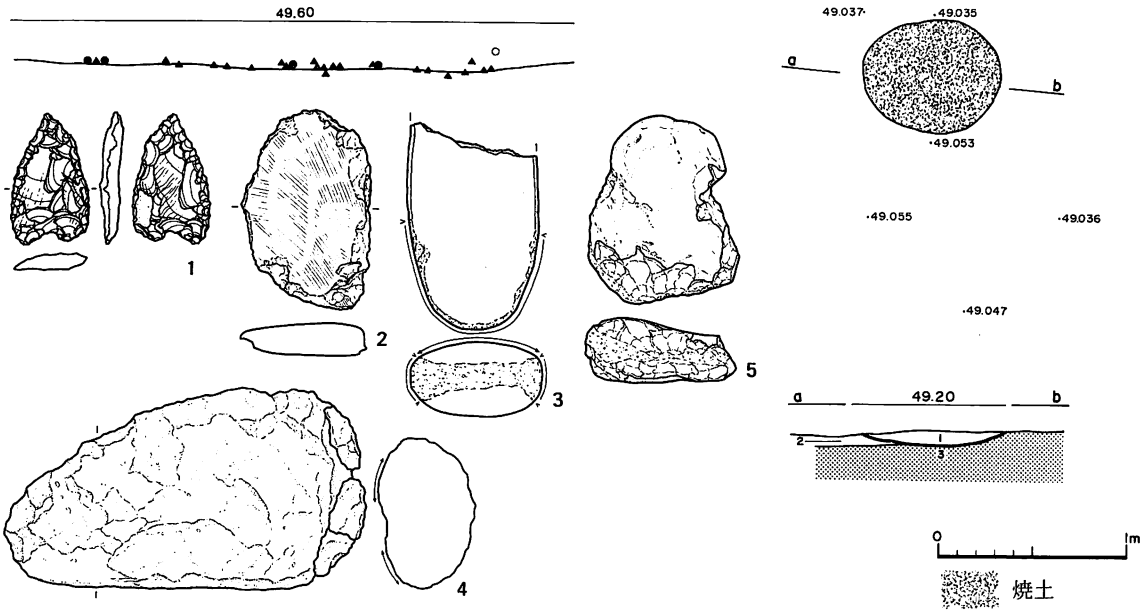
図Ⅲ－191　F－3出土遺物の分布図




図Ⅲ－192　F－3出土土器




図Ⅲ－194　F－4実測図




図Ⅲ－193　F－3出土石器

# Ⅳ　包含層出土の遺物

## 1　土器（図Ⅳ－5・8～24　図版103～121）

縄文時代早期（Ⅰ群）、前期（Ⅱ群）、晩期（Ⅴ群）に属するものがある。出土総点数は17,027点。早期のもの（Ⅰ群A・B・E類）が80％を占め、このうちB類が最も多く（13,740点）、次いでE類（711点）、A類（373点）が出土した。前期のものは住居跡が2軒検出されたことから出土量は多く（2,176点）、晩期はごくわずか（27点）出土した。

各時期の土器の分布については、Ⅴ章に分布図と出土傾向が述べてあるので、ここでは各群の最初に簡単に記載した。なお複数の遺構から出土した破片が接合した土器については、破片数が少ないこと、床面出土のものがほとんどないことから、包含層の土器として報告した。

縄文時代早期の土器（図Ⅳ－5・8～21　図版103～117）

**Ⅰ群A類（1～20　図版103・111）**

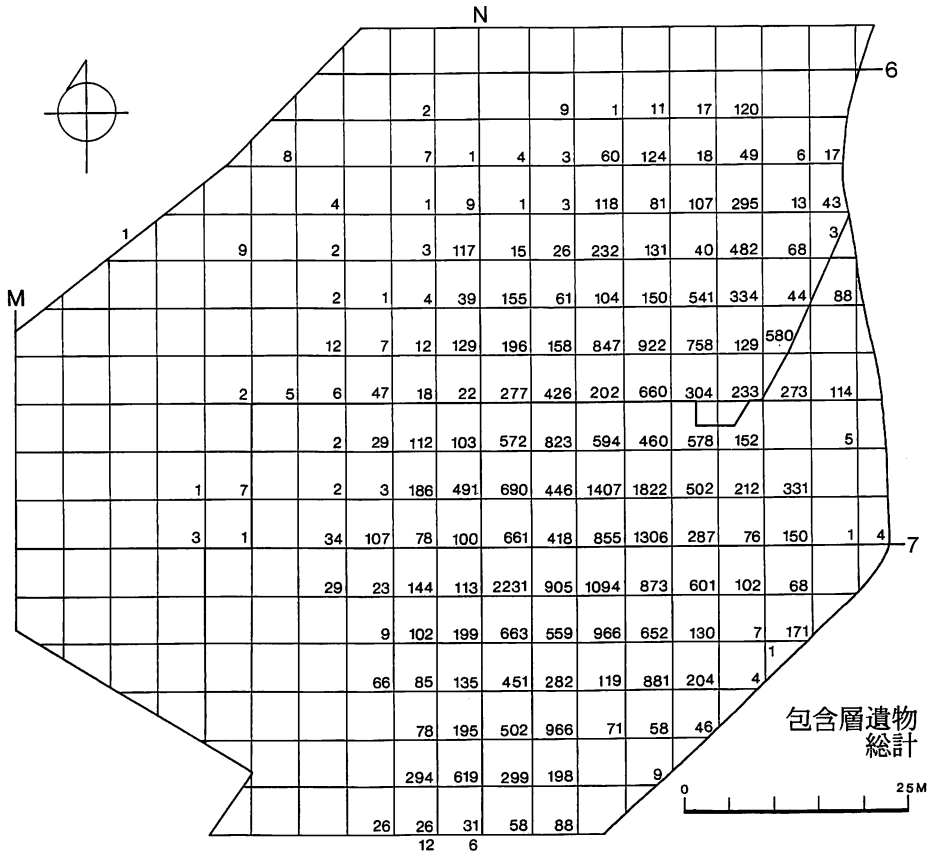
373点出土した。量的には少ないが3ヵ所ほどに分布のまとまりがみられた。H－18・33周辺の包含層、N－7－30区の北東側、N－8－16周辺の沢頭付近、である。この3ヵ所の地区では、同一個体の破片が出土する傾向があったほか、少なくとも3個体分の破片が混在して遺存していた。昨年度調査したH－1（図Ⅲ－5－1）出土の土器と30m以上離れたH－18の破片（図Ⅲ－23－24a）が接合した例もあるように、本類の土器は、後世の住居の構築などによる人為的な土の移動や、地形的な要因によって、広範囲に分散しているようである。

縄文地に平行沈線文が口唇直下、胴部に複数施文される特徴のある土器で、口唇上は指などで押圧され小波状になっている。本年度の調査地区からは、平行沈線文と斜位の沈線文が施されているもの、口唇直下が無文になるものも出土した。接合の結果、少なくとも3個体、①1～7、②8～11、③12～18が確認できた。

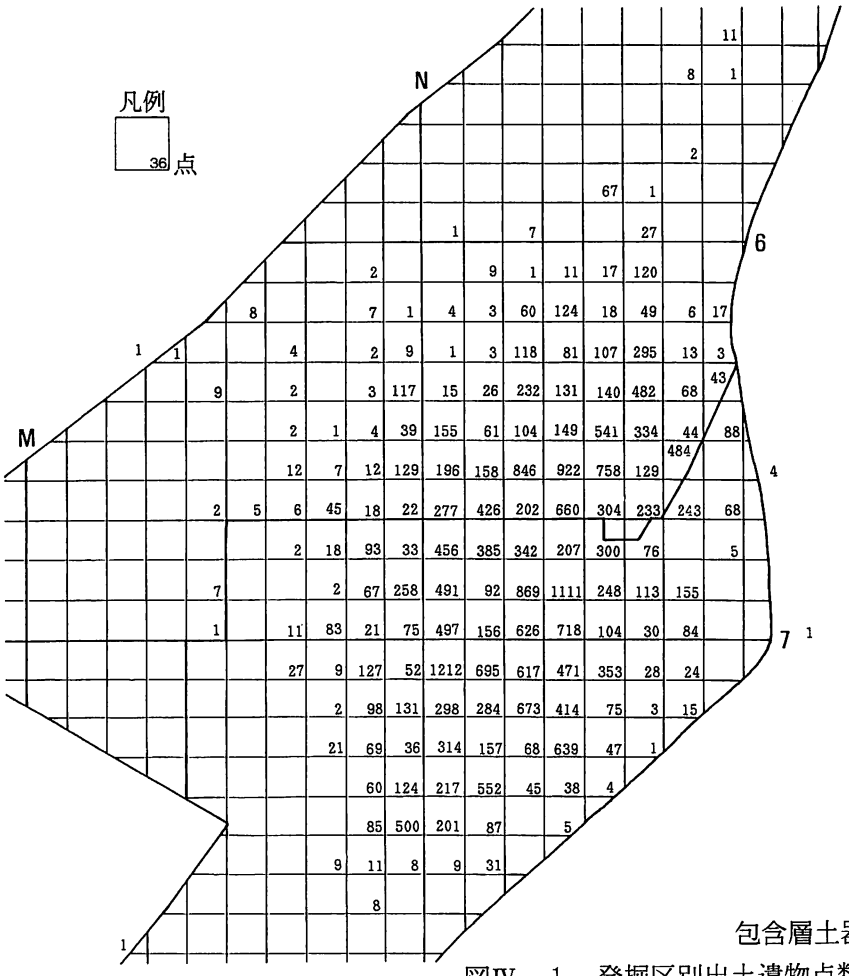
①1aと2～7は同一個体とみられる。口縁部と体部下半は欠損しており、1a・bは、体部のみの破片を復元、展開した図と拓影図である。図のドット部分は、H－33覆土4層、下層、壁から出土した破片で、図左上の縄文の施文された破片はH－33周辺の包含層N－8－19・27・28・37、沈線下位の無文部分は、H－33から北側へ30m程離れた昨年度調査区M－7－96、N－7－05出土の破片である。胎土、焼成、灰白色の色調、沈線文がH－1の土器と非常に類似しているので、当初は同一個体かと考えたが、器面に施されている縄文が“無節”で、体部の沈線文は9条。また口縁部と体部に施文されている沈線文が、ほぼ9cm程の間隔をもって施文されているのに対して、1の土器ではその部位に沈線文が施されていないという違いがみられる。

1は、体部に幅4mm前後の間隔で平行沈線文が6条めぐっているが間隔は不揃いである。沈線文の上位には、LRとRLの原体による羽状縄文、斜行縄文が浅く施されている。条と条の間隔が開いているのは、原体の撚りが弱く自縄自巻的になっているためと思われる。2～7は沈線文、縄文が施されているもので、2・3は体部の沈線下の部位とみられ、LR原体による縄文を、1同様に浅く施した後、2には細い沈線文が2条重なりあうように施文されている。また箆状工具による粗い条痕が横位にみられる。4・6はRLの原体、5・7にはLRの原体による縄文が浅く施されている。

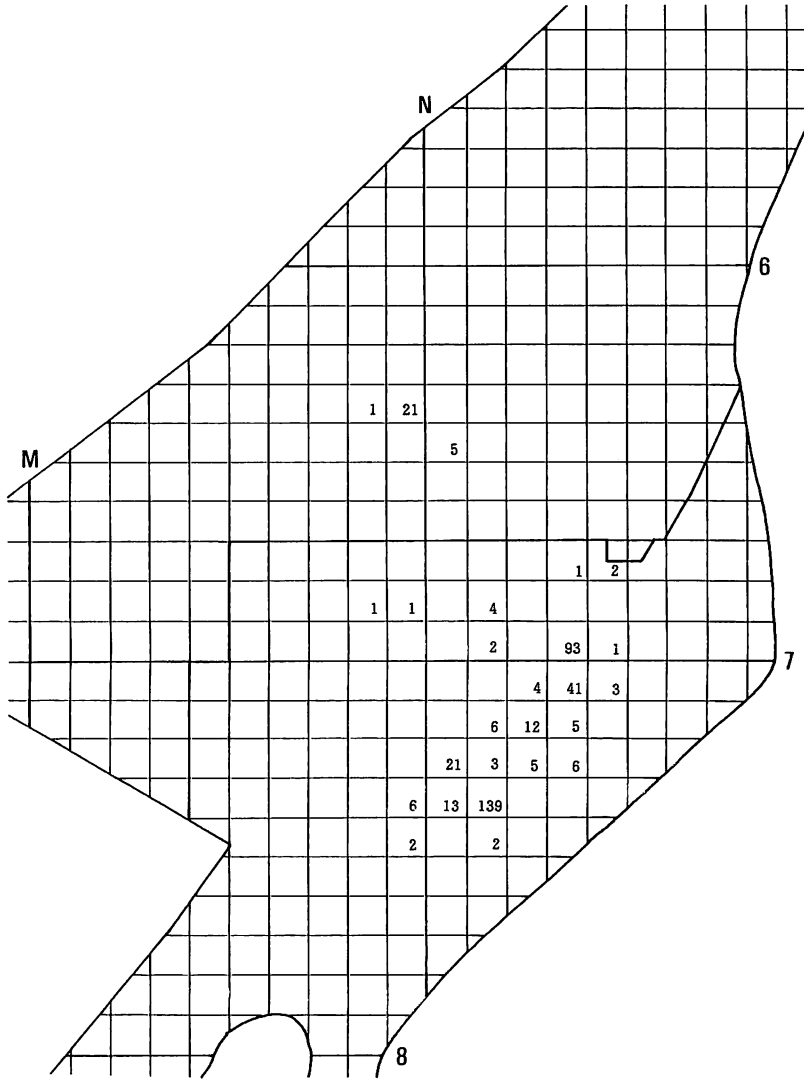
②8～11はH－1出土の土器（図Ⅲ－5－1）と同一個体とみられるもの。いずれも平行沈線文が施されている。8・10・11は体部、9は口縁部付近の破片と思われる。8にはLとRの原体による羽状縄文、9・11には斜行縄文が施されている。



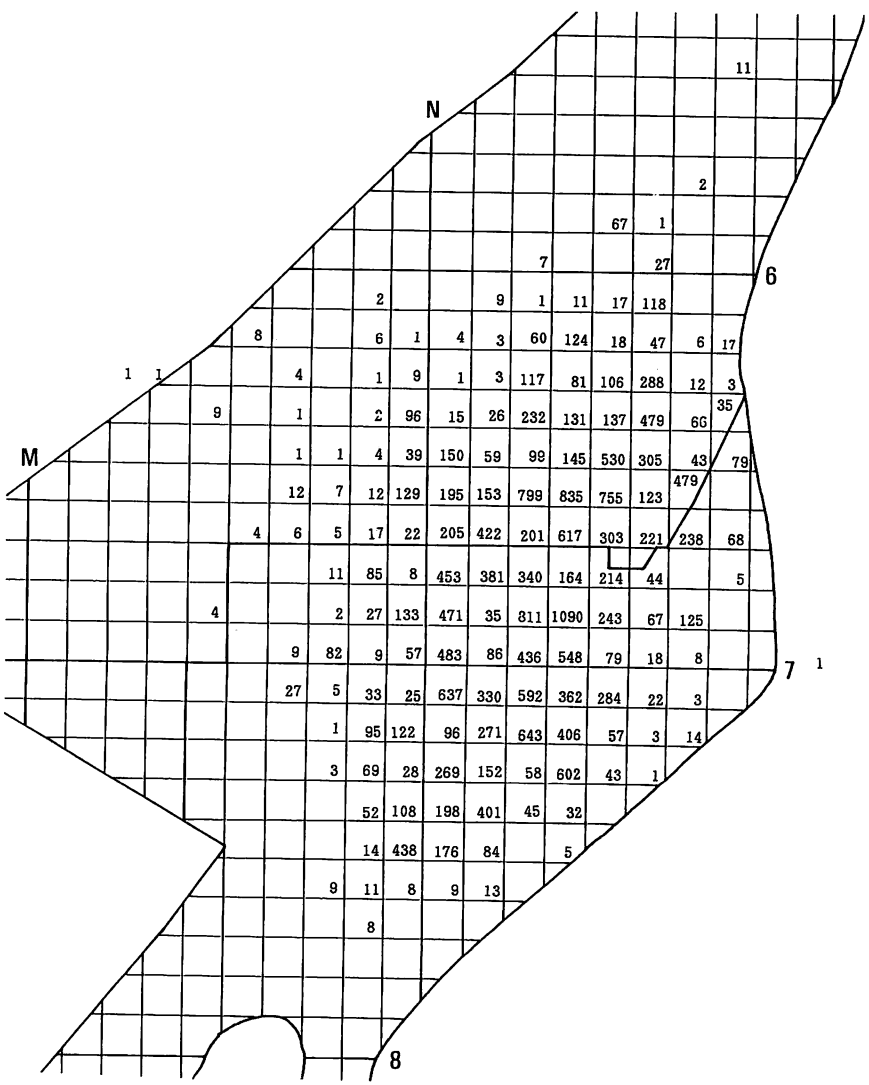

M－６－81－２点
N－６－00－４点
N－６－13－７点
N－６－21－１点
N－６－30－７点
N－６－31－２点
N－６－32－２点
N－６－34－３点
N－６－35－１点
N－６－40－２点
N－６－41－68点
N－６－42－３点
N－６－43－２点
N－６－44－５点
N－６－45－１点
N－６－50－39点
N－６－51－３点
N－６－52－２点
N－６－54－１点
N－６－56－２点
N－６－62－10点
N－６－63－１点
N－６－64－74点
N－６－66－７点
N－６－67－２点
N－６－68－４点
N－６－74－６点
N－６－75－25点
N－６－77－８点
N－６－78－４点
N－６－79－１点
N－６－87－３点
N－６－88－５点




図Ⅳ－１　発掘区別出土遺物点数（1）

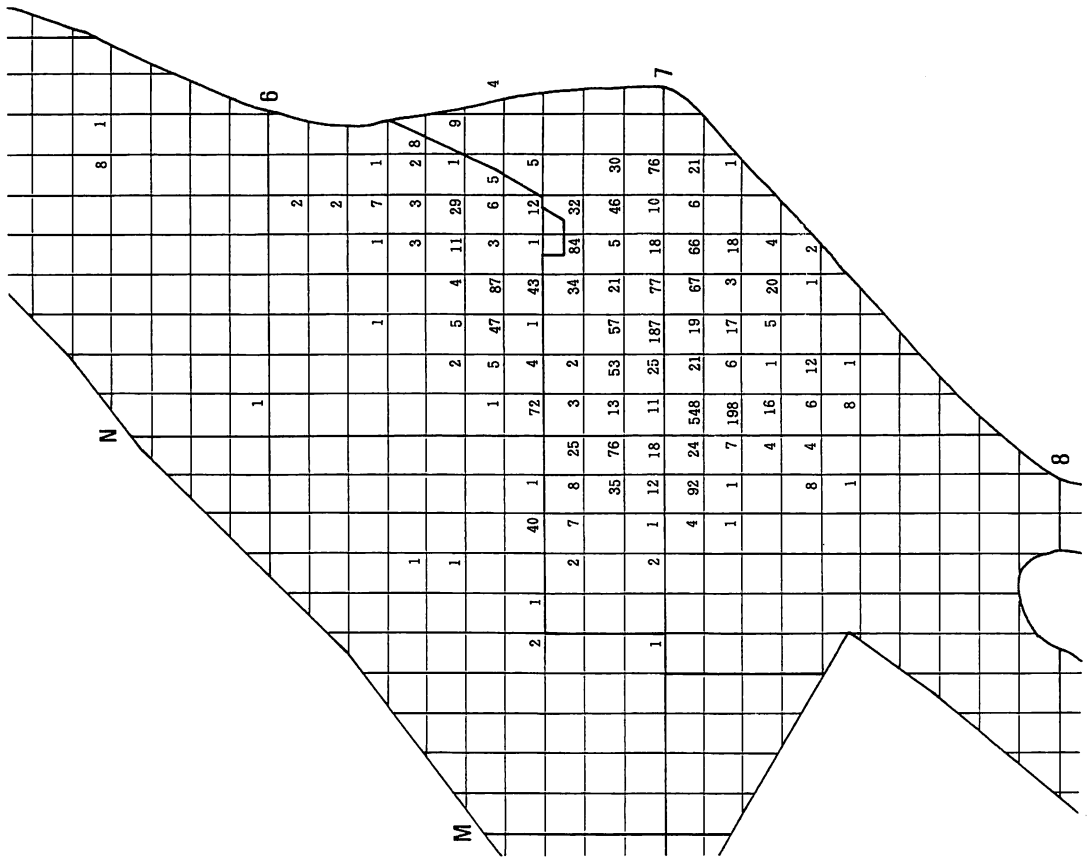



Ⅰ群A類

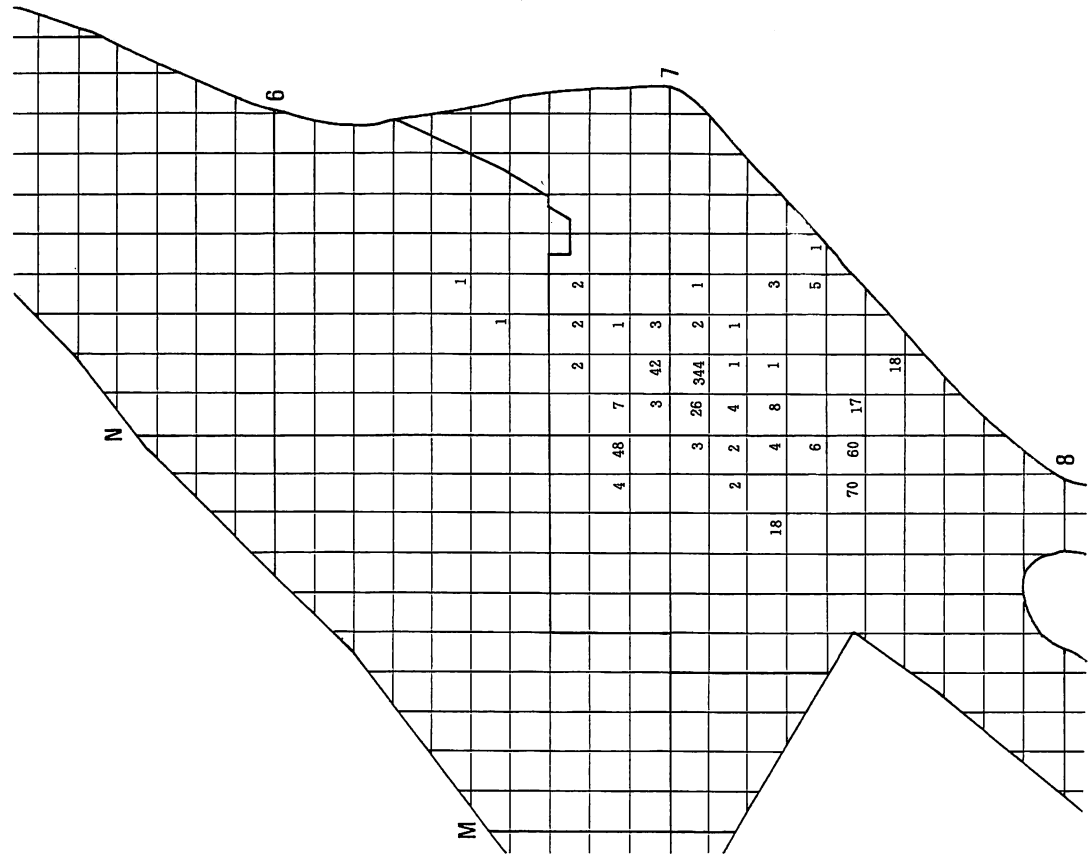



Ⅰ群B類

図Ⅳ－2　発掘区別出土遺物点数 (2)

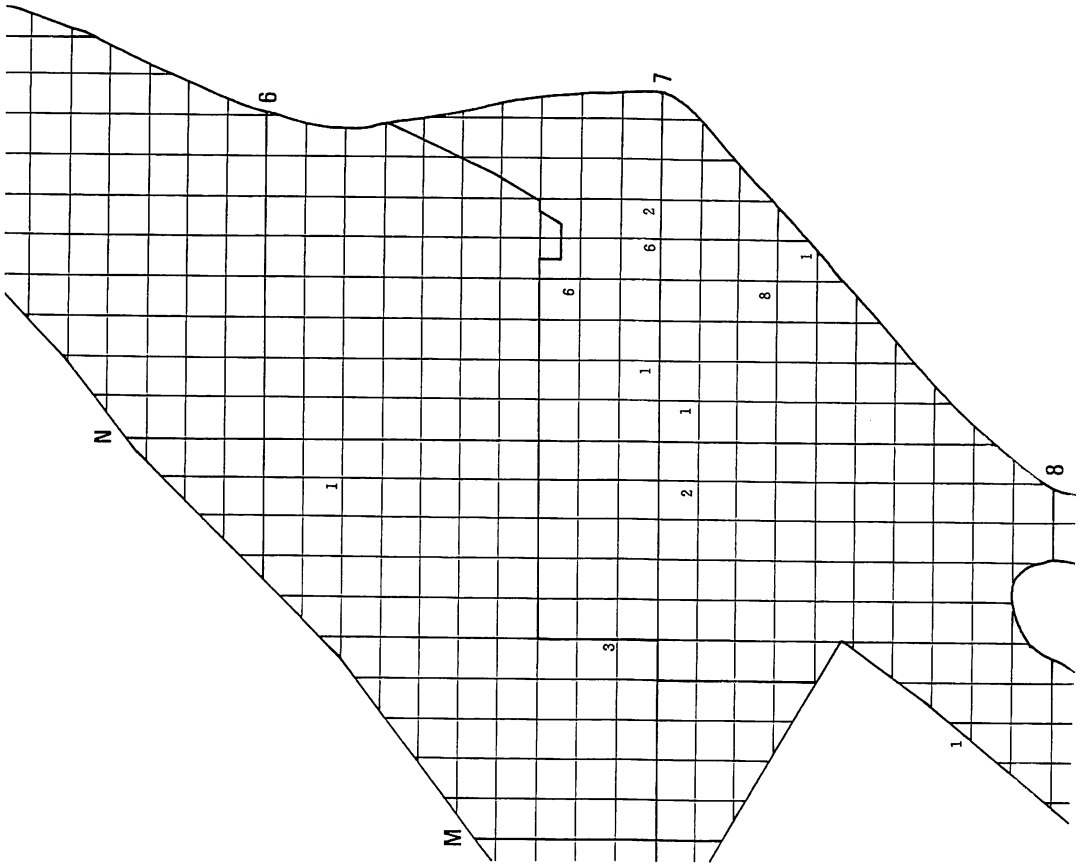



Ⅱ群




Ⅰ群E類

図Ⅳ－３　発掘区別出土遺物点数（3）

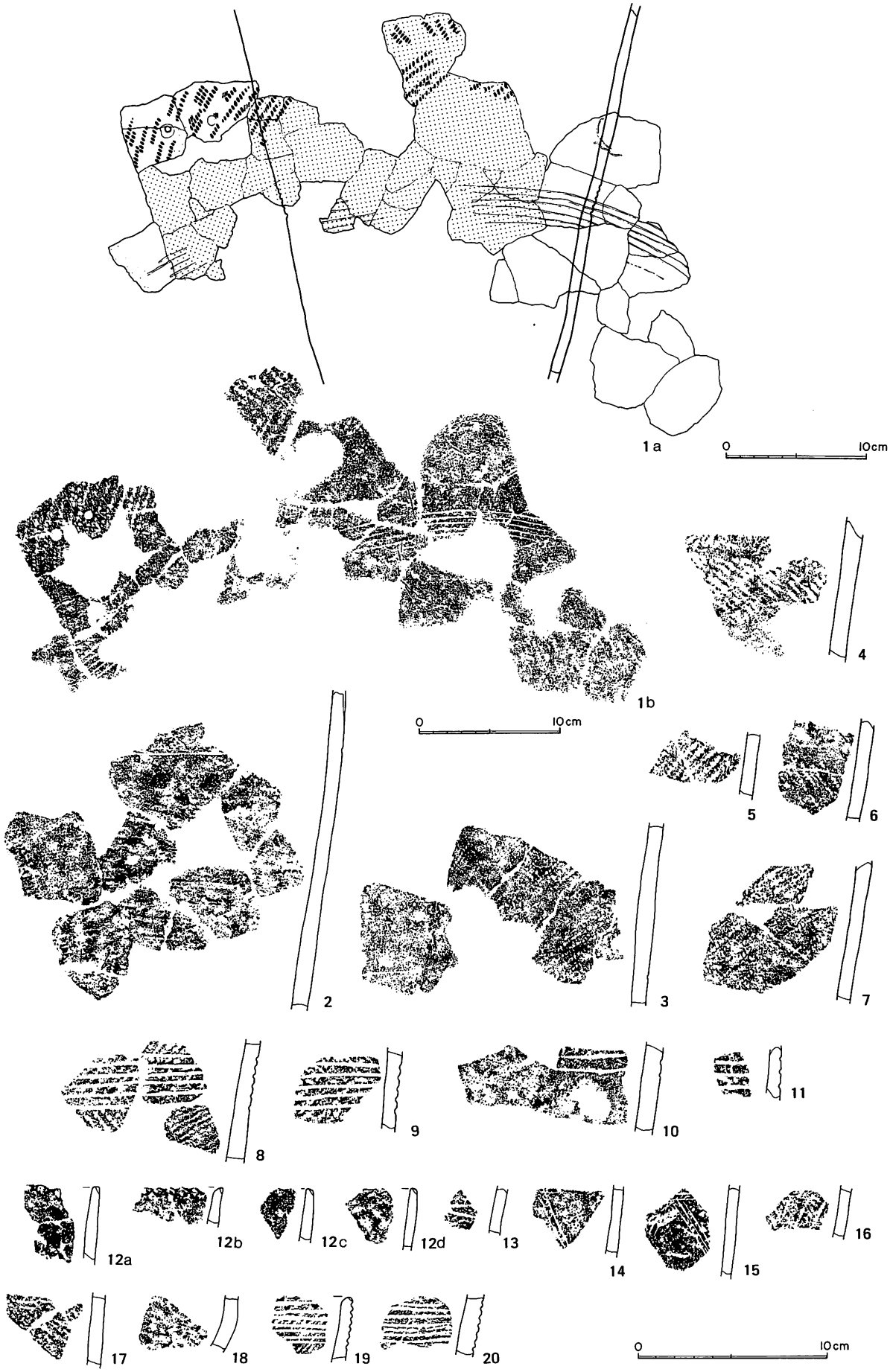



図Ⅳ－4　発掘区別出土遺物点数（4）

③12ａ～ｄ・13～18は同一個体の破片とみられる。破片はＮ－８－16・18を中心とした地区から出土したもので、ほかのＡ類土器とは次の点で明瞭に区別できた。胎土、焼成は類似するが、非常に薄手で、口縁部に沈線文がなく、色調は17・18が灰黄褐色である以外は、すべて黒褐色である。口唇部には指頭によるとみられる小さな圧痕を斜めに加えて、小波状口縁となっている（12ａ～ｃ）。口唇直下の少なくとも３㎝程の範囲は無文である。13～17は体部、18は底部付近の破片である。13には比較的太い沈線文が２条施されている。14・15は非常に細い沈線が施されるもので、１，２条の平行沈線文が施され、さらに斜位にも複数施されている。16は左下がりの縄文が浅く施されている。17は右下がりの縄文が施文された後、細い平行沈線文が施されている。18は無文の底部に近い部位の破片。②のグループの土器の破片は、識別しえた限りでは28点確認できた。

19は比較的薄手で口縁部は丸味を帯びている。口唇部は、ほかの土器の口縁部同様、小波状縁になっている。ＬＲ原体による斜行縄文を浅く施文後、幅1.5㎜程の浅い沈線が７条加えられている。上位の３条は施文具をやや傾けて施文しているため、下位の４条のものよりやや太くなっている。１～７の土器片が出土した地点に近接したＮ－７－27から出土したこと、色調などが類似していることから同一個体の可能性がある。20は体部の破片、厚手で、施文具をやや傾けて深く押し引いて施した沈線文が６条、間隔を密に施されている。この土器は先に記したＨ－１の土器、①１～７の土器のグループのものである可能性もある。

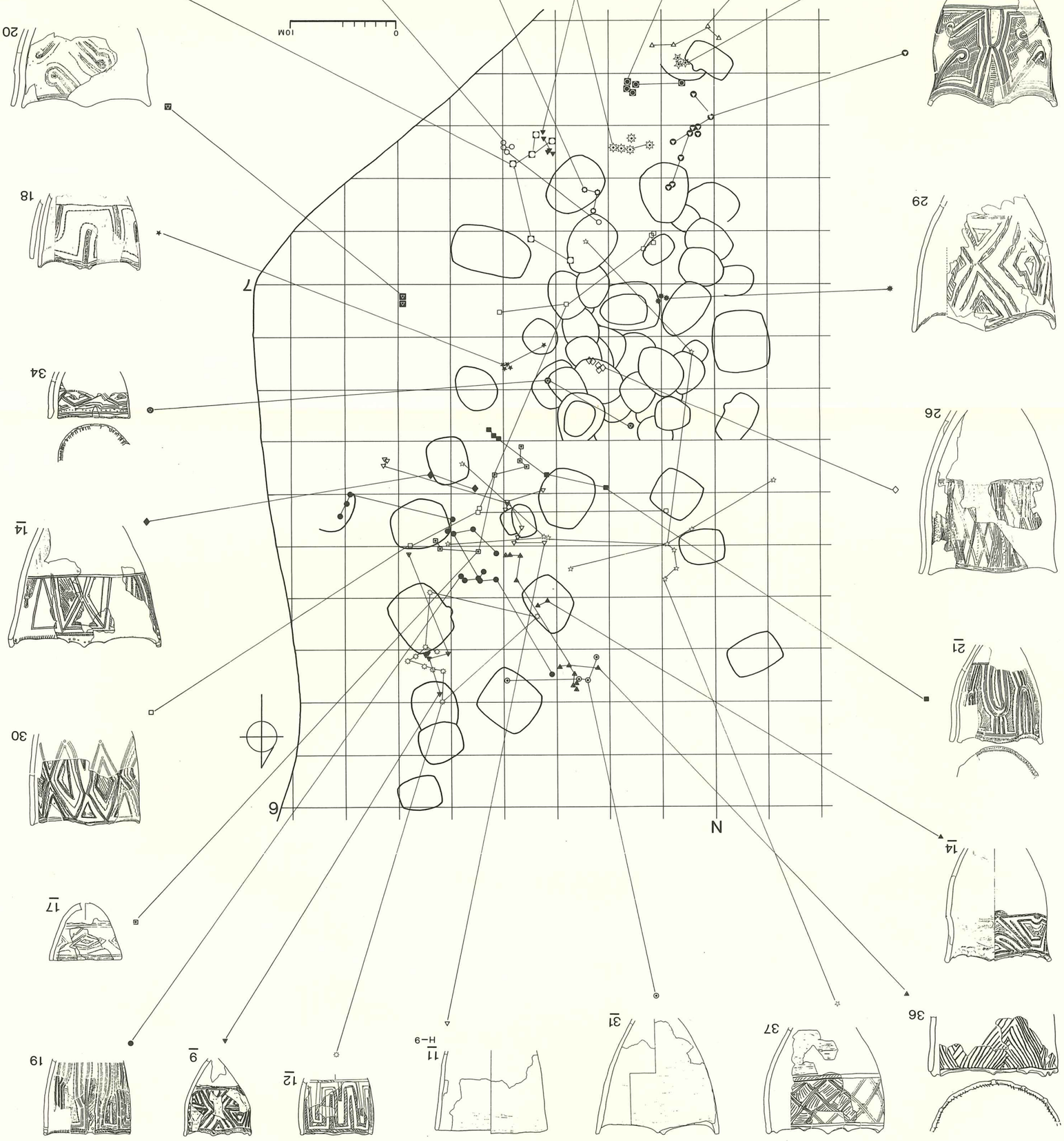
昨年度の報告では出土したＡ類土器52点すべてを同一個体と考えたが、①１～７のグループの土器がＨ－１の土器とは別個体と考えられることから、少なくとも２個体分の破片があったことが分った。昨年度包含層出土の土器（図Ⅲ－８－49ａ～ｃ）の底部（49ｃ）を再度観察したが、いずれの土器片とも接合しなかった。この土器片もまた別個体の可能性がある。


1a
0
10cm
1b
0
10cm
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12a
12b
12c
12d
13
14
15
16
17
18
19
20
0
10cm

図Ⅳ－5　Ⅰ群A類土器

図Ⅳ－6　Ⅰ群B類の復元土器接合図 (1)

番号は包含層土器掲載番号に一致
番号に下線を引いたものには昨年度報告の包含層土器掲載番号に一致




図Ⅳ－7　Ⅰ群B類の復元土器接合図 (2)

番号は包含層土器掲載番号に一致
番号に下線を引いたものは昨年度報告の包含層土器掲載番号に一致

Ⅰ群Ｂ類（１～９・11～135　図版103～109・112～116）

本類の土器の分布は、Ｍ－７、Ｍ－８、Ｍ－７、Ｍ－８の早期の住居跡が集中する地区と重なり、南側の住居跡集中区から離れた沢頭付近までは比較的出土量は多いが、Ｎラインから北側では極端に出土量が減る。また住居集中区東側の沢状になっている斜面、また沢の中からもわずかではあるが出土している。昨年度の調査で予想した以上に包含層は広範囲に広がっていた。また同一個体の破片が広範囲に分布しており、昨年度調査区出土の破片と接合した例が多数ある。

貝殻腹縁圧痕文、腹縁文、沈線文、刺突文、条痕文などを単独あるいは組み合わせて文様を構成するもので、無文のものもある。底部は主に砲弾形の尖底をなし、乳房状に近い尖底、平底、丸底のものがわずかにみられる。文様は、主に沈線文に貝殻腹縁圧痕文を重ね、あるいは縁取りする手法による“腹縁文”で描かれる。器内・外面には貝殻殻頂部、腹縁部の一部、箆状工具等による条痕が残るものがあるが、ナデ調整によりすり消されているものが多い。ケズリの痕跡の残るもの、みがかれているものもある。器形、文様構成、文様要素でａ～ｈ種の８種類に分けられる。昨年度の分類を踏襲したが、幾分修正、あるいは付け加えた部分もある。

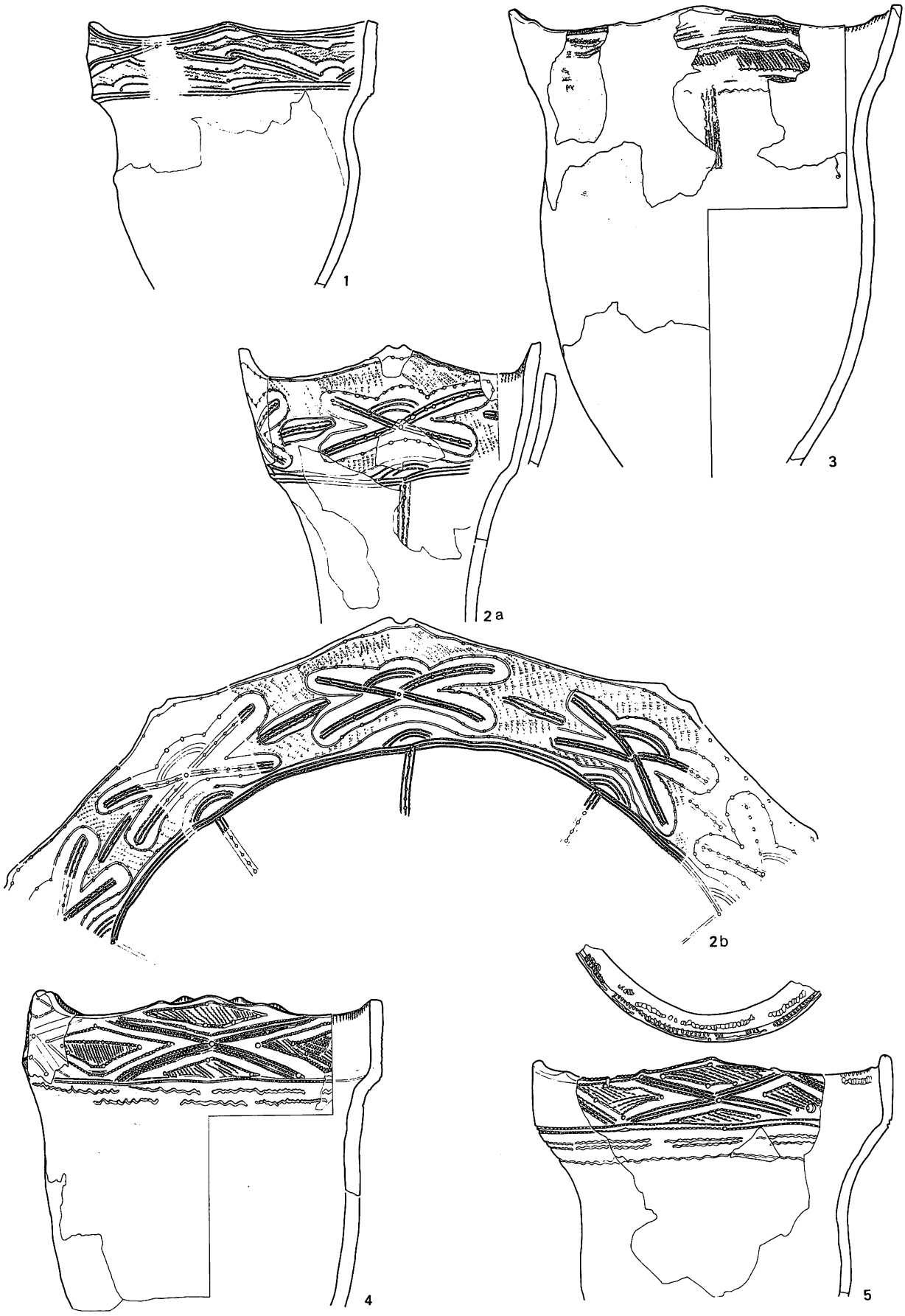
ａ種（１～９・11・61～76）

口頸部がキャリパー状のもの。口縁部が幅広のもの（２・63）、幅の狭いもの（１・３～11・61・62・67～76）がある。口縁部は直立するもの（３～５・８・61・63～65）、外傾するもの（１・２・７・９・62・66～70・72・76）が多く、内傾するもの（６・11）は少ない。口縁部の４ヵ所に小さな山形の突起部があるもの（４～８・11・62・68）、緩やかな波状縁になるもの（１・３・61・63・65）が多く、山形の突起部が二股に分かれるもの（２）もある。小さな山形口縁のものでは、両端に副突起があるものが多く、口縁部の平面形は隅丸方形である。口唇上が平坦で角形のもの（１～４・６～８・64～70）、やや丸味を帯びるもの（５・11・61～63・72・76）がある。口唇の内側には貝殻腹縁圧痕文を斜位・縦位に施すもの（１・３～８・11・62・64～68・70・72）がある。圧痕文は、４㎜前後の短いものが多いが、10㎜をこえる長めの圧痕文が施されるもの（65・69）、深く刻み目状になっているもの（４・５・10・11・62・64・66）もある。またその際についたと思われる爪形圧痕が下位に残されているものがある（４）。頸部に角のあるもの（１・２・４・５～７）はくびれの度合いが比較的強いものが多いが、角がないものが多く、これらのものはくびれが弱い。

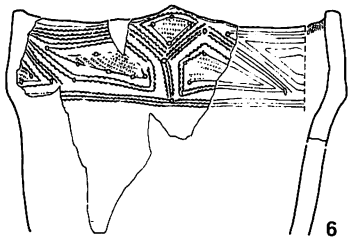
文様帯は口縁部に限られるもの（１・６）、波頂部下の頸部から垂下する文様が施されるもの（２・９・68・74）、胴部に鋸歯状沈線文が横位に施されるもの（４・５・63・64）、また両者を組み合わせたもの（３・７・８・11・66・67・73）が比較的多い。胴部に部分的に文様が施されるものと異なり、文様帯が形成されるものがある。（72）。口縁部文様帯の上下は、１条あるいは複数の腹縁文で区画されるものが多く（１～３・６～８・61～65）、２条の腹縁文や平行沈線文による細長い帯状文様帯が区画文となるもの（９・63・66）もある。このほか上下の区画文が異なるもの、下位の区画文のみのものもみられる（45）。

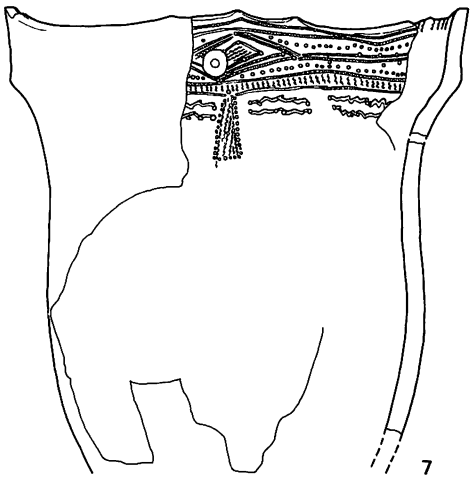
文様は腹縁文、沈線文で三角形、菱形の幾何学文的な区画がされるもの、直線、曲線で、細長い帯状の文様を横位に展開させるもの。簡素化された文様のものもある。区画内は再区画され、主に貝殻腹縁圧痕文を充填文としているが（１・３～６・61・63～69・71・72）、沈線文、腹縁文のみで再区画するものもある（７・８・11）。円形、楕円形刺突文は腹縁文、沈線上や文様の屈曲部、鋸歯状沈線文ではその両端に配されるのが一般的で（１～６・10・11・61～72・74）、無文部分に配されるものもある（７～９）。

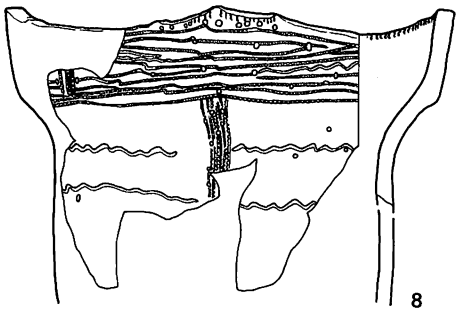
１は昨年度Ｈ－３、包含層出土の土器（図Ⅳ－４－４）と、Ｈ－３から５～10ｍ南側に離れたＮ－

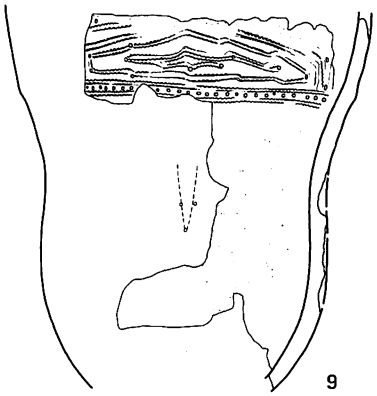


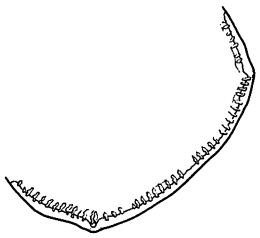

図Ⅳ－8　Ⅰ群B類土器 (1)

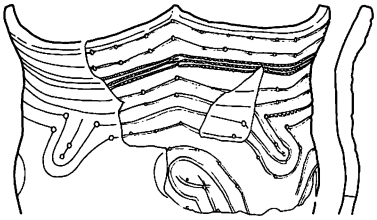


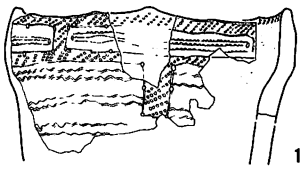



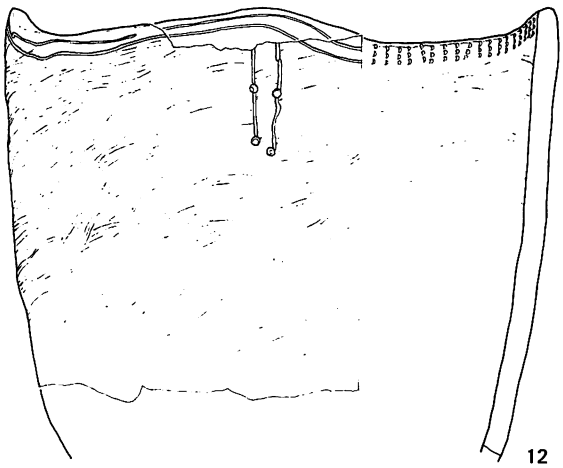



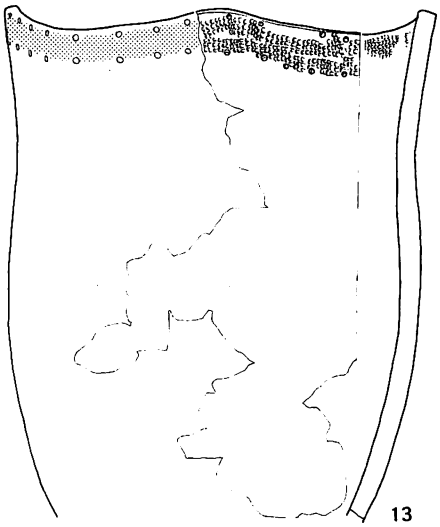





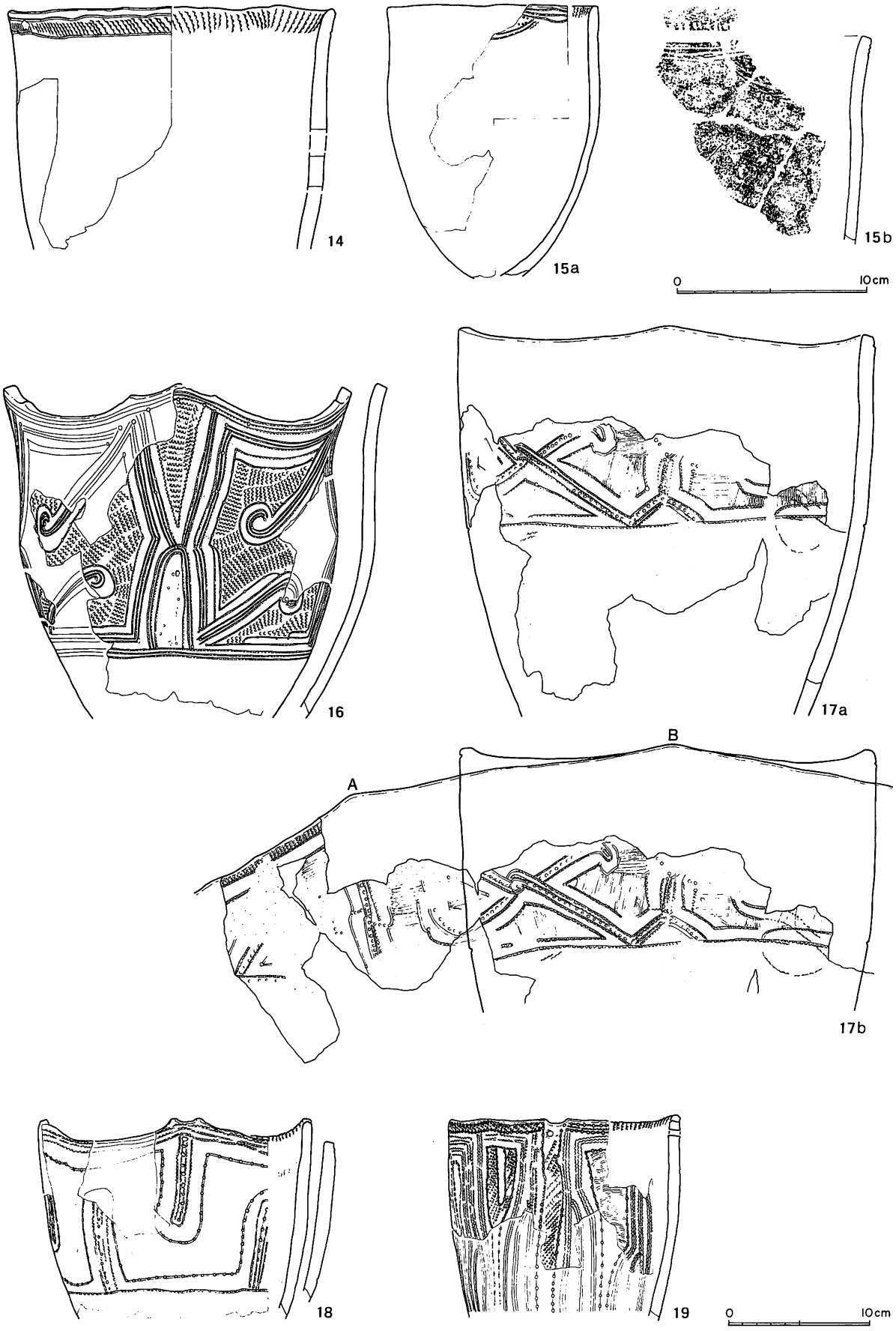




図Ⅳ－９　Ⅰ群B類土器 (2)

0　10cm




図Ⅳ－10　Ⅰ群B類土器 (3)

７－01、Ｈ－54（覆土）出土の破片が接合したものである。今年度出土の部位は口縁部から底部付近の部位までで、この破片と昨年度のものが接合し全体の器形が分かったので改めて報告することとする。全体の２分の１程が残存する。波頂部下で入り組むようにクランク状の腹縁文を斜位に施し、全体を４単位に区画している。上下の区画の腹縁文、斜位の腹縁文は弧線でつながれている。沈線文で再区画された中は貝殻腹縁圧痕文が充填されている。胴部は無文であるが波頂部下の位置に内面から指などで押して突起状にしている。垂下する文様を施す意識はあったのかもしれない。２は口縁部から胴部下半までの２分の１程が残存する。文様帯の区画は口縁部は沈線文、頸部は腹縁文でなされている。文様は二股の突起部を中心に４単位に構成されている。突起下では、文様帯の半ばを中心に放射状に腹縁文を施し「Ｘ」字状の文様を描き、上部は弧線でつないでいる。弧線は突起下の下位の腹縁文にも施されている。この文様を大きく沈線文で囲み、「リボン」状の文様を１つの単位として、４ヵ所に配している。これらの文様間には２，３条の腹縁文を横位に施し、沈線で囲むことにより横長の楕円形の文様が配されているが、形が不揃いであったり、沈線が省略されている部分もある。文様内は無文であるが、空間部には押引き文的貝殻腹縁圧痕文が、口縁部付近では主に斜位に、下半では縦位・斜位に充填されているが、連続波状文になっている部分、押圧することなく原体を引くため集合沈線文的になっている部分もある。頸部の突起下に対応する位置から、３条の腹縁文で垂下する文様が施されている。内面は凹凸が著しく、幅10㎜前後の貝殻の腹縁部の一部を使用したとみられる条痕が残る。３はＭ－８－95周辺出土の多数の破片と、Ｈ－43覆土の破片（２点）が接合した。胴部下半までの５分の２程が残存する。口縁部の文様は残存部が少なくはっきりとはしないが、３条の腹縁文を副突起部から斜位に施して区画し、１に類似の文様構成かとみられる。充填文は斜位に丁寧に施されている。波頂部下には、腹縁文で垂下する細長い帯状の文様を配し、貝殻腹縁圧痕文を縦位に充填させている。垂下する文様の両側、頸部付近には、鋸歯状沈線文が施されている。胎土に白い砂粒（長石、石英等）が多い。４は昨年度Ｈ－３出土の土器（図Ⅲ－18－１）と同一個体。昨年度の破片とＮ－７－21を中心とした包含層、そこから北側へ10～15ｍ程南側の昨年度調査区Ｎ－７－77出土の破片と、Ｈ－23（１点）、Ｈ－25（２点）、Ｈ－36（１点）、Ｈ－40（１点）の覆土、覆土直上出土の破片が接合したものである。改めて報告することとする。胴部下半は欠損しているが上半部の５分の４程が残存する。波頂間から、波頂部で交叉するように腹縁文を施し、菱形、三角形の区画を形成している。再区画内は充填文が斜位に施されている。胴部上半には鋸歯状沈線文が２列間隔をあけ、上下で一部が重なるように施されている。波頂部下の文様の交叉する部分には、内面から指などで押して盛り上がらせ、ほかの部分よりも大きい円形刺突文が施されている。無文部にはかすかに条痕がみられるがナデ調整されている。５は４と類似の文様構成のもの。区画内の充填文は４よりも丁寧に施されている。胴部には鋸歯状沈線文が３列施されている。上位の２条は平行に間隔をあけて、下位のものは上位の２条よりも崩れて曲線的で、器面を一周しているとみられる。４・５ともに鋸歯状沈線文の両端に円形刺突文は配されていない。口縁部内側の貝殻腹縁圧痕文の下位には、部分的に連続する不揃いで小さな楕円形状の浅い圧痕がある。指頭、篦状工具での圧痕であろうか。６は包含層（Ｎ－７－10・31、Ｍ－８－84・97）、遺構（Ｈ－2・24・33・37・40・50）から出土した破片が接合したもので、広範囲に破片が分散していた。破片は口縁部から胴部までの３つの部位に接合したものを、図上で復元した。胴部半ばまでの２分の１程が残存する。破片が少ないため、胴部文様の有無はわからない。３，４条の腹縁文で突起下に「Ｙ」字形の文様を施し、文様帯を４単位に区画し、波頂間は方形に再区画されている。区画内の充填文は非常に小さな貝殻の腹縁部の一部を使用したとみられ、圧痕文は押引き文的になっている。突起下の文様が交叉する部分と下端の腹縁文には、ほかの部

分よりも大きな円形刺突文が施されている。無文部には横位に条痕がみられる。７はＮ－７－01を中心とした包含層から出土した破片と、そこから東側、北側へそれぞれ10ｍ～15ｍ程離れたＮ－７－61、Ｎ－８－36出土の破片、さらにＨ－54覆土出土の破片など広範囲に分散していたものが接合したものである。破片は大きな２つの部位に接合したものを図上で復元した。突起部下に腹縁文で菱形の文様を描き、文様間を２条の腹縁文でつないでいる。文様の上下の細長い空間部には、小さな円形刺突文列が配されている。円形刺突文は腹縁文の上下にもほぼ等間隔で配されている。突起部下には腹縁文を２条斜めに施し、円形刺突文を外側あるいは重ねるように三角形にめぐらせ垂下する文様を描いている。貝殻腹縁圧痕文が斜めに充填されている。また文様の左右には、鋸歯状沈線が２列、間隔をあけて施され、円形刺突文は両端をはじめ、沈線文上とその上下にも配されている。下位には爪形圧痕がところどころにみられる。器面は丁寧にナデ調整されている。内面には篦状工具による条痕が口縁部では横位、胴下半部では縦位にみられる。８は口縁部から胴部半ばまでの２分の１程が残存する。口唇は平坦だが突起部は指でつまみあげられたように丸味を帯びている。口縁部の副突起間にはその部分にのみ、外側にも貝殻腹縁圧痕文による短い刻みが疎らに施され、下位には大小の円形刺突文が配されている。波頂間には縦位の腹縁文が施されているが文様帯を区画する線である可能性がある。文様は曲線的で、腹縁文と屈曲する沈線文で描かれている。突起下には、部分的に「鈎の手」状に曲がる腹縁文で細長い帯条あるいは楕円形状の文様がみられる。その下位には細長い文様を「鈎の手」状の腹縁文、沈線文をつないでいる部分もあるが、現存する部分のみでは全体の構成はよくわからない。突起下には、腹縁文を複数、縦位に施し、垂下する文様が描かれている。腹縁文には、１条おきに円形刺突文が配されている。文様の左右には鋸歯状沈線文が２列、間隔をあけて施されているが、下位のものは崩れて曲線的になっている。また鋸歯状文の上下に円形、楕円形刺突文が数個施されているが、施されている部分は一定していない。９は口縁部から胴部の破片が接合したものと、垂下する文様帯がごく一部残る胴下半部の破片を図上で器形を想定し復元したものである。図に表現された垂下する文様は欠損している部分に描き入れたものである。全体の４分の１程が残存する。口縁部は欠損しているが波状口縁になるとみられる。胴部下半が丸味を帯びる器形である。口縁部文様帯下位には２条一単位の腹縁文を２列めぐらせ、その間に小さな円形刺突文を配した細長い帯状の区画がある。文様は腹縁文で台形等の幾何学文的文様が描かれているとみられ、一筆描き的な線で再区画されている。波頂部とみられる位置には、貝殻腹縁圧痕文による垂下する三角形状の文様が描かれている。内面には幅10㎜程の大型の貝殻の一部を使用したとみられる条痕がある。胎土は精選されたものを使用しており、焼成は良好である。11はＮ－７－21出土の破片と、周辺の互いに重複する遺構Ｈ－22・25・34・35・38・41からそれぞれ１，２点ずつ出土した破片が接合したもの。口縁部の幅は比較的狭い。口縁部には沈線文で細長い長方形の文様を、波頂部を中心に４単位配している。区画内は３条の腹縁文を施している。文様のまわりの空間部には貝殻腹縁圧痕文が疎らに施されている。頸部には区画線となる沈線が１条めぐっている。突起部下には沈線文による長方形の垂下する文様が配され、充填文は押引き文的である。文様の両側には２条一単位の細い沈線による鋸歯状文が２列、さらに下位にも１列、施されている。内面には幅1.5㎜程の大型の貝殻の腹縁部の一部を使用したとみられる条痕が横位にある。

61～63・65・67～72は頸部のくびれが弱いものである。61は山形の突起部のあるものとみられる。副突起部からクランク状の沈線を配して区画し、腹縁文間を弧線でつないでいる。１に類似の文様構成とみられる。区画内の充填文は小型の貝殻の腹縁部を使用し、やや押引き文的になっている。文様帯の下位の空間部には腹縁文で、横長の文様も描かれている。円形刺突文は沈線文上に密に配されて

いる。胎土・焼成は9の土器に類似する。62は61同様細いクランク状の腹縁文で、文様帯を区画しているとみられる。区画内は弧線、屈曲線で文様が描かれ、細長い無文部には鋸歯状沈線文が配されている。61・62はいずれも薄手の中型土器。63は波頂部に縦位に腹縁文を施し、文様帯を4単位に区画しているとみられる。口縁部には沈線文を2条めぐらせ、短い貝殻腹縁圧痕文を斜位に施し、帯状の文様帯が形成されている。区画内は沈線文で方形に再区画されている。腹縁文は沈線文にそわせるような形になっている。胴部には鋸歯状沈線文が2列みられるが、上位のものは器面を一周するとみられる。下位のものは5・7にみられるように途切れる形で施されている。64は腹縁文で文様帯を斜位に区画する構成とみられ、3に類似する構成と思われる。充填文は丁寧に押引き文的に施されている。65a・bは波頂間から左右に斜位に腹縁文を施し、逆向き三角形が連続する構成のものとみられる。腹縁文・充填文は雑に施されている。胎土には白い砂粒（長石、石英等）が多い。内面は丁寧にナデ調整されている。器面にはケズリの痕跡が残る。66a・b～69は口縁部の幅が比較的狭いもので、横に細長い帯状の文様が構成され、67・68では垂下する文様の両側の上位、中位、下位のいずれかの位置に鋸歯状沈線文が2列施されている。66a・bは波長間に短い貝殻腹縁圧痕文を縦位に施し（66a）、文様帯が区画されているとみられる。文様の上下に狭い部分には崩れて曲線的になった鋸歯状文が施されている。波頂部下には、腹縁文を3，4条、胴部半ばまで縦位に施し、垂下する文様が配されている。腹縁文上は大小の刺突文が互い違いに配されている。67a・bでは帯状の文様帯、垂下する文様の腹縁文上に円形刺突文が密に配されている。68は67と類似し、円形刺突文が多用されている。帯状の文様が2段みられる。H－18（図Ⅲ－22－12）と同一個体。69は貝殻腹縁圧痕文が沈線文にそうような形で施されている。70は菱形の文様が、71には三角形あるいは菱形の文様が連続して横位に配されているのかもしれない。72はH－19（図Ⅲ－28－1）と同一で、口縁部は、66と同様に短い貝殻腹縁圧痕文で縦位に区画され、同形の帯状の文様帯がある。体部は腹縁文で幾何学文的文様を描いているとみられる。73は口縁部の幅が狭いもので、口唇上に貝殻腹縁圧痕文が斜位に施されている。ごく緩やかな波状口縁のものとみられる。上下の区画文は、沈線文と腹縁文を組み合わせたもので、波頂間に相当するかと思われる位置に鋸歯状沈線文を縦位に施して区画し、沈線文、腹縁文で、区画を境に点対称の「ワラビ手」状の文様を描き、小さな円形刺突文を内側にめぐらせている。波頂部と思われる位置には、2条一単位の沈線文で縦長の帯状になるかとみられる垂下する文様が描かれ、両側には鋸歯状沈線文が2列配されている。74はH－21（図Ⅲ－36－1）と同一個体で頸部のくびれが非常に強い。75はH－26（図Ⅲ－61－7）と同一個体。口縁部の幅の広いものである。76はH－36（図Ⅲ－105－2）と胴一個体で、胴部に連続波状文が施されている。

b種（12～15・77～83）

緩やかな波状口縁のもの（12・13・15・79・82）、小さな山形の突起部があるもの（78a・b）、平縁のもの（14）などがある。口唇上が平坦で角形になるもの（13～15、77・80・82）、やや丸味を帯びるもの（12・81）、尖り気味のもの（83）がある。口唇内側に貝殻腹縁圧痕文が施されるもの（12・14・15・77～81・83）があるが、刻み目状に深い圧痕文になっているもの（79・80）などがある。直立気味の器形のもの（12）、やや外反するもの（13～15・78・79・81）などがある。復元したもの以外は断片的資料であるため、文様構成同様、明瞭に器形のわかるものは少ない。

文様は、口縁部のごく狭い範囲に限られ帯状、あるいは、垂下する文様を施すものがみられ、胴部との文様をつなぐ構成のものは少ない（77a・b）。

b種－1（77a・b）

77a・bは、昨年度の包含層出土の土器片（図Ⅳ－9－61a・b）と接合した。口縁部に細く、やや

曲線的な沈線文を２条めぐらせ、２条一単位の直線、蛇行する沈線文を交互に間隔をあけて縦位に施し、体部の文様とつなげていると思われる。

b種－２（12～15・78～83）

口縁部の狭い範囲に帯状に文様が施されるもので、垂下する文様が施されるものもある。

12は昨年度のH－６、H－９覆土出土の破片が接合した土器（図Ⅲ－60－８）と、南側に10～20m以上離れた今年度調査区のH－20（床面）、H－18（覆土）、H－33（覆土中）、H－34（覆土１層）出土の破片（各1,2点）、これらの住居跡周辺の包含層出土の破片（11点）とが接合したもので、改めて報告することとする。体部下半は欠損するが、口縁部から上半部までの３分の２程が残存する大型土器。器面には幅10㎜前後の貝殻の腹縁部の一部を利用したとみられる、弧状の条痕文が全面に斜位に施されているが、体部下半ではすり消されている。口縁の波形にそって平行沈線文が施されているが、間隔は一定せず、途切れたり重なるところもある。沈線文には、部分的に、内面に施されているものと同様の貝殻腹縁圧痕文が疎らにつけられている。波頂部からは沈線文を２条、縦位に施し、円形刺突文が中間と先端に配されているが、沈線が１条の部分もある（図裏面）。内面にも同様の原体による条痕文が斜位・縦位にある。胎土には白色の砂粒（長石、石英等）が多く、脆弱である。口縁部付近は黒褐色、体部下半は黄褐色を呈する。13は非常に丁寧にナデ調整されているもので、底部付近の部位の２分の１が残存する。体部はやや丸味を帯び、口縁部でごくわずかにくびれている。波頂部のみを肥厚させ、口縁部には幅10㎜程の貝殻の腹縁部の一部を使用し、押引き状に施文した貝殻腹縁圧痕文が２列、一部重なる部分もあるがめぐっている。上下には比較的大きな円形刺突文がほぼ等間隔に配されている。口縁部内側にも同様の原体による圧痕文が１列施されているが、すり消されている部分もある。胎土は精選されたものが使用されており、焼成は良好である。色調は灰白色を呈する。14は体部下半は欠損しているが、上半部の２分の１程が残存する。３つの部位に接合したものを図上で復元した。口縁部に、平行沈線文を施し、その間に貝殻腹縁圧痕文を斜位に充填させている。内面の圧痕文は間隔が不規則で、疎らである。昨年度H－４床直下の土器（図Ⅲ－25－６）の類似の器形と思われる。15a・bは口縁部から底部付近までほぼ３分の１程残存するが、口縁部の文様はごく一部しかわからない。薄手の土器で、緩やかな波状口縁のものである可能性がある（15b）。口縁部に３条の腹縁文をめぐらせ、同様の原体で弧状につなぐ文様が、２ヵ所あるいは４ヵ所に配されていると思われる。波状縁であれば、波頂部下に配されているのであろう。器面には細かい条痕があるがナデ調整されすり消されている。胎土に灰白色の砂粒が多い。78では口縁部に腹縁文を２条めぐらせ、その間に楕円形の刺突文列が配されている。突起部下には、２条の腹縁文で垂下する菱形とみられる文様を描き、その間には円形刺突文を配し、貝殻腹縁圧痕文を斜位に充填させている。胎土に白い砂粒（長石、石英等）が多い。79a・bは口唇の内面が丸味を帯びる。口唇上には小さな円形刺突文を配し、口唇直下には内面同様の刻み目状の短い貝殻腹縁圧痕文を施している。口縁部をめぐる３条の腹縁文は不揃いで、下位には円形刺突文列を配している。３条の貝殻腹縁圧痕文を三角形状に垂下させ、それに重ねて円形刺突文を配しているが雑な施文である。80は細い腹縁文が２条平行に施されている。79・80の腹縁文は、沈線文に貝殻腹線圧痕文をそわせるような形になっており、80では圧痕文が省略されているところもある。81a・bは太い平行沈線文とその下位に鋸歯状沈線文が施されている。鋸歯状沈線文は一周せず、途切れる部分の両端に円形刺突文を配している。82は貫通孔が間隔をあけて、配されている。胎土は精選されており。焼成は良好である。83は口唇断面が切り出し形のもので、口縁部に太い沈線文を２条めぐらせ、その間に、間隔をあけて貝殻腹縁圧痕文を斜位に施している。住吉町式（D類）に相当するものかもしれない。

c種（10・16～39・84～110）

口唇部が直立気味のもの（17～19・22～24・28～30・35・36・39）、頸部がくびれて外反するもの（10・16・20・21・26・27・31・32・34・85・88・91）、胴部から口縁部にむかい直線的に開くもの（84）、内湾するもの（25・37・83・84・95）がある。文様帯は口縁部から体部上半部までのもの（16～18・22；25～29・32・35・84・85）、体部下半にまでおよぶものがある。（19・23・38・93・95）。

平縁のもの（22・23・31・34・35）、緩やかな波状口縁のもの、（17・21・24・26・30・38・39）、4ヵ所に山形の突起部があるもの（10・20・25・27～29・32・33・36・37）がある。山形の突起部のあるものでは、その両端に副突起をもつものが多い。また、口縁部の突起が二股に分かれているもの（18・19）もある。

口唇断面は口唇上が平坦で角形のもの（10・16・17・20・21・24～29・34・36・37・84～89・95～97・100・102・103・108・110）、丸味を帯びるもの（18・19・23・30・31・33・35・38・39・90～94・98・99・101・109）がある。

口唇内側角に貝殻腹縁圧痕文を施すもの（10・18・19・26～29・31～36・38・84～88・91・93・95・96・98・99・101～103）が圧倒的に多く、刻み目状に深く施されるもの、10㎜程の長めの圧痕文を施すものもある。

文様帯は上下を一条あるいは2，3条の腹縁文で区画するもの（18・20～22・24～26・28・30・35・36・85～92・96・98～102）や、腹縁文、沈線文で間に貝殻腹縁圧痕文、刺突文を充填させた細長い帯状の区画文で区画するもの（23・26・27・29・95）などがある。上下で区画文が異なるものもある（17）。

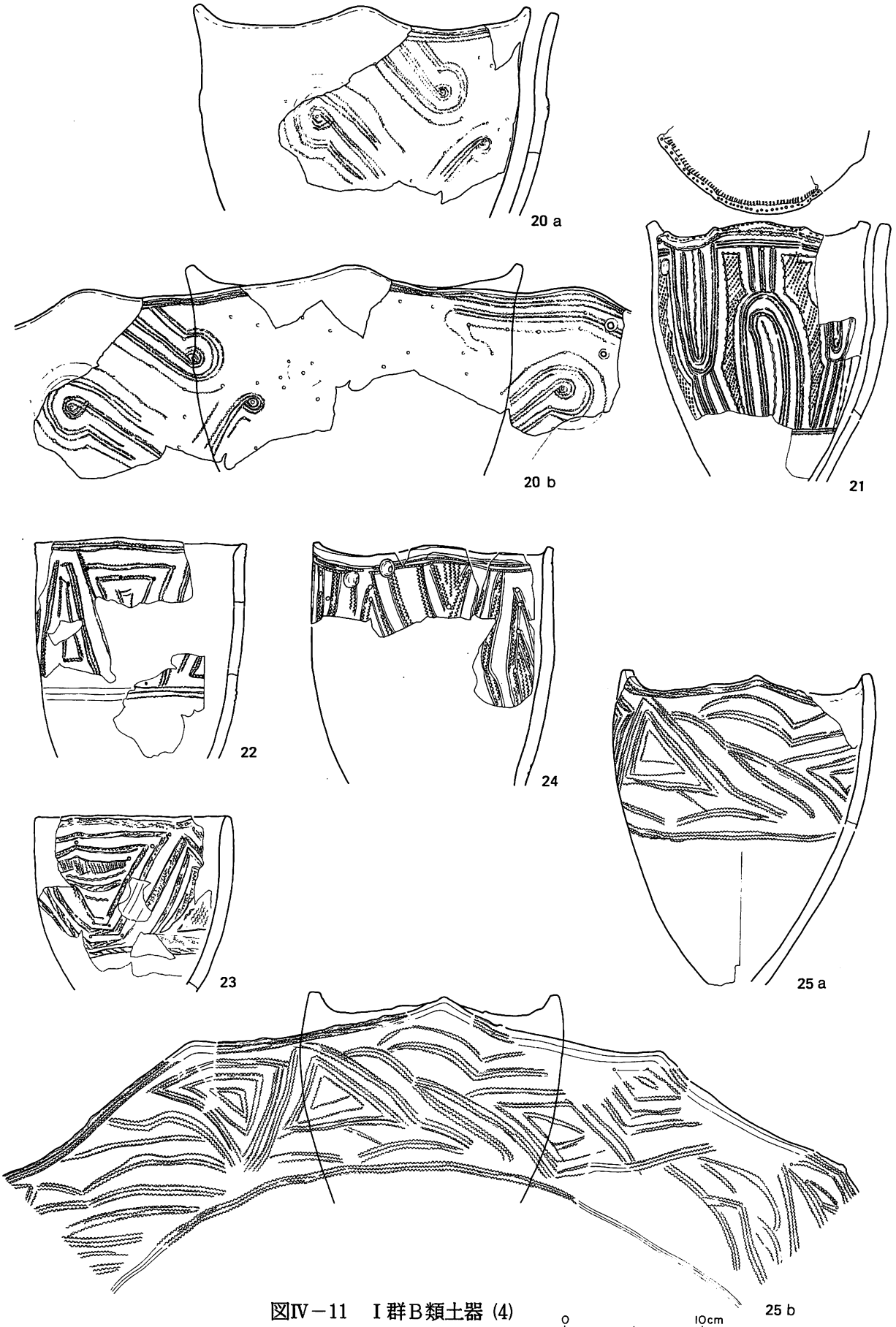
文様は昨年度多数出土した土器のように三角形、菱形、方形などの幾何学文的文様で構成されるもののほか、舌状、「ワラビ手」状文様を上下から斜位・縦位に配するもの（18・20・21）、曲線的な文様構成のものも（25・39）ある。

区画内の文様も昨年度とは異なるものがみられた。区画内の充填文は主に貝殻腹縁圧痕文でなされる。円形・楕円形刺突文は、腹縁文、沈線文上や、文様の中心部、屈曲部、鋸歯状沈線文の両端に配されるものが一般的である（16・18・19・21・22・27～32・36・38・84～96・104～107）が、2条の腹縁文・平行沈線文間に列をなして配されるもの（17）、文様帯間や無文部、文様帯の上位、下位に配されるもの（17・23・26）もある。文様構成から、c種－1～3に分けられる。

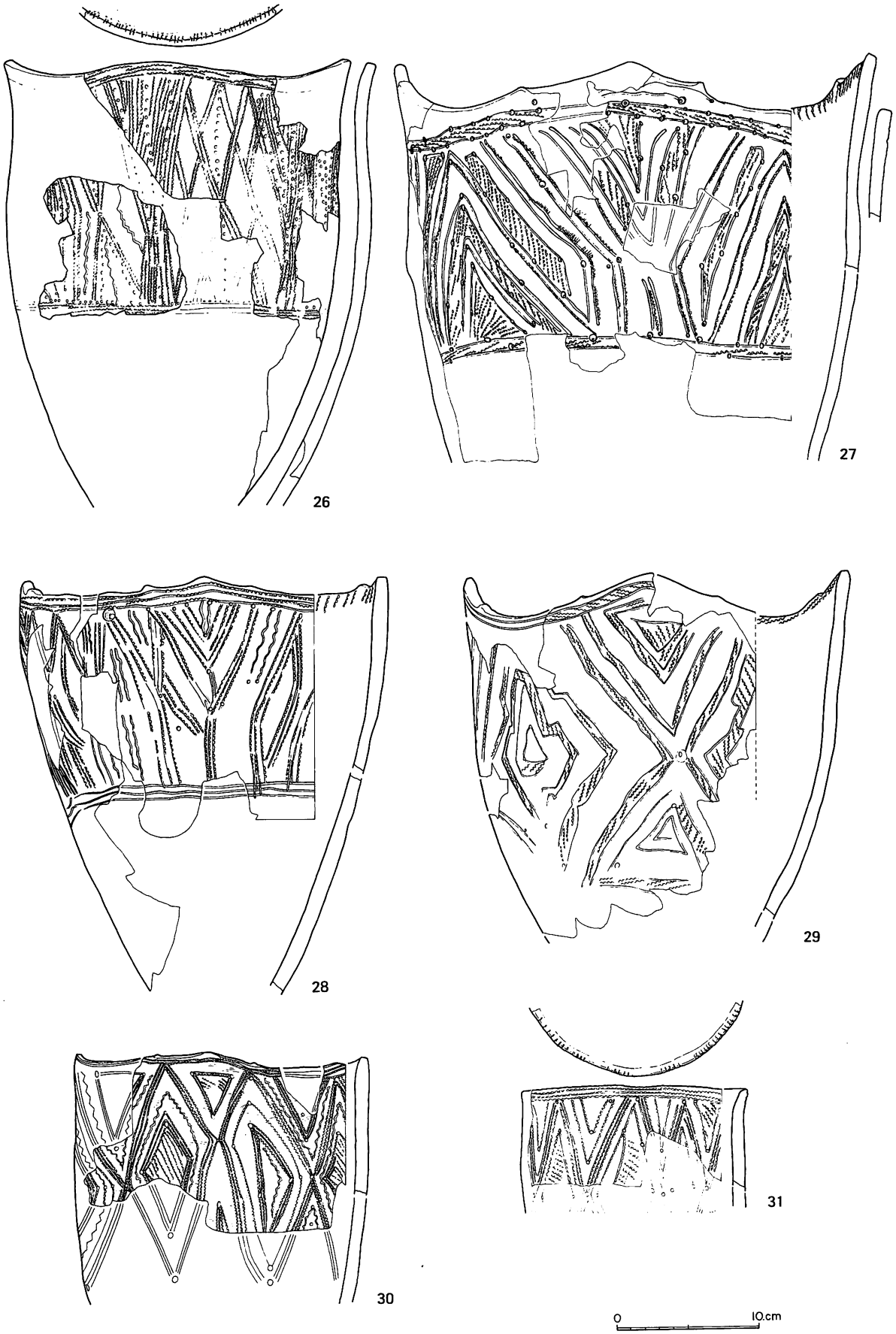
c種－1（10・16～38・89～92）

文様帯が縦位に複数単位に区画されるもの、上下から文様を配するのみで、明確に区画がされないものも含めた。昨年度多くみられた、口縁部から斜位・縦位に腹縁文や沈線文を配して区画するものは少ない。波頂部や波頂間から施される区画文自体が、一つの文様帯を形成しているものもみられる。

16は突起部下の文様帯の半ばを中心に、口縁部の両端の副突起部から3条の腹縁文を斜位に配し、下位の区画線から施される舌状の文様をつなげて大きな区画文とし、器面を4単位に方形に区画している。再区画された中には、上下の対角に相当する位置から、腹縁文で「ワラビ手」状の文様を入り組むような形で配し、沈線文で囲んでいる。文様の中心には、ほかの部分よりも大きな円形刺突文を配している。区画文の三角形状の部分、文様帯の空間部には、幅10㎜程の貝殻の腹縁部を利用した押引き文が、非常に丁寧に充填されている。舌状の部分には沈線で再区画し、刺突文を配したと思われる痕跡があり、刺突文の一部がかすかにみられる。器面には丁寧にナデ調整されている。内面には口縁部には細かい条痕が横位に、体部半ばから下位にかけては、幅10㎜程の貝殻の一部を使用したとみられる条痕文が横位にみられる。胎土には白い砂粒が多い。17は同一個体片が40点ほどあったが、器




図Ⅳ－11　Ⅰ群Ｂ類土器 (4)




図Ⅳ－12　Ⅰ群Ｂ類土器 (5)

面が磨滅していることと、胎土に砂粒が多く脆弱なために、口縁のごく一部から、体部下半までの３分の１程しか接合しなかった。文様帯上位には縦位に短い貝殻腹縁圧痕文を充填させた帯状の区画帯が、文様帯下位には腹縁文が１条めぐっている。波頂部下で４単位に区画されているようである。２条一単位腹縁文・沈線文で細い帯状の文様をクランク状に、波頂部から配して区画文としている部分（Ａ）、２条一単位、あるいは、４条の腹縁文を縦位に施し、下位にはＡと同形の帯状文様を下位の区画線に三角形状につなげている部分（Ｂ）がある。Ａにみられるクランク状の文様の両側には、沈線文が同形に施されている。Ｂの区画文に弧状の線がみられることからこの部分もクランク状になっているのかもしれない。このように文様構成は、ごく一部しかわからないが、帯状の細長い文様を斜位にクランク状に配して交叉させ、円形と方形の文様を組み合わせた大柄な文様もみられる（波頂部Ａ－Ｂ間）。方形の文様部分には舌状の文様も描かれている。円形文様内は、沈線文による文様がみられる。このような文様で再区画された空間部には、幅５㎜～６㎜の貝殻の腹縁部を使用した条痕文が縦位・斜位に充填文として施されている。無文になっている部分もある。円形刺突文が多用され、帯状の文様帯には等間隔に配されるほか、文様の空間部にもみられる。また無文部には最初に割り付けた文様の痕跡がある。18は体部上半までの２分の１程が残存する。縦位につながる区画文はないが、16・21にみられる区画文と同様の意図のものと思われる。二股になった突起部と波頂間に腹縁文を上下から配し、沈線文で大きく区画し、上下で逆向きの舌状の文様が配されている。舌状の区画内に配される刺突文は、ほかの部分よりも幾分大きい。器面には粗い条痕が横位にみられるが、区画内はすり消されている。19は昨年度包含層から出土した土器（図Ⅳ－５－10）とＨ－42（覆土）出土の破片が接合したもの。口縁部はほぼ復元できたので改めて図化し、補足分を報告することとする。２個対になる山形突起部は、口縁の４ヵ所にあり、また２個一対になると考えられた貫通孔も同様に４ヵ所にみられた。突起部下の帯状の文様により４単位に方形に区画されている。器・内外面は丁寧にナデ調整され焼成も良好である。20a・bは縦位の区画はされていないが、文様構成が、16の区画内にみられるものと類似するので、一応ここで記載することとする。器面の磨滅が著しいため、円形刺突文の位置でかろうじて文様の一部がわかった。波頂部に３条の腹縁文による、三角形状の文様と、沈線文がみられるが（20b）、区画線がどうかは、はっきりとはしない。波頂部・波頂間の上下から、腹縁文による「ワラビ手」状の文様を配し、さらに、腹縁文、沈線文で大きく囲んでいく方法かとみられる。一般的には大きく区画し、その中に文様を充填させる手法が多いが、18・20は施文の順序が逆ではないかと思われる。

10は口縁部のくびれの状態がａ種の土器に類似しているもので、当初はａ種に属する器形のものと考えていたが、胴部に施されている文様が、16・20に共通する要素をもつこと、口縁部内側が明瞭にくびれていないことから、ｃ種と分類することが妥当と判断した。文様帯が、上下２段に分かれているもので、ほかのｃ種－１とは異なる特徴のものであるが、16・20との文様の共通性から一応ここで報告することとする。体部半ばの輪積みの位置で割れている。体部半ばまでの２分の１程が残存する。大きな山形口縁のもので、口縁部の波形にそって、上から順に、平行沈線文と３条一単位の沈線文を交互に３条めぐらせている。くびれ部の１条の腹縁文により文様帯が区画されている。胴部文様は、器面が磨滅しているため明瞭ではないが、20にみられるような、腹縁文で描かれた、「ワラビ手」状の文様を上下に入り組ませる構成と思われる。胎土には１㎜程の小砂利が多い。21は昨年度Ｈ－９出土の破片（図Ⅲ－61－19）、Ｎ－７－44周辺の包含層出土の破片（図Ⅳ－10－92a・c）、そこから北側へ30ｍ以上離れたＭ－８－88、Ｎ－７－42、61出土の破片が接合したもので、器形が復元できたので改めて報告することとする。角形の口唇上には小さな円形刺突文が施されている。また口縁部にめ

ぐらされる腹縁文は、波状の部分にのみ円形刺突文が施されている。文様は８単位で構成されている。波頂部から、３条一単位の腹縁文を縦位に施し、文様帯下位から配される大柄な舌状の文様とつないでいる。この文様を交互に逆向きに配している。文様帯間の狭い空間部は、これらの文様にそうような形で沈線文で区画され、斜位に充填文が施されている。舌状の区画内は鋸歯状沈線文が縦位に施されている。円形刺突文は、19同様、多用されている。22・23は三角形あるいは台形状に区画されているものである。22は施文されている沈線文は非常に深く施されており、腹縁文は沈線文にそうような形になっている。23は体部下半までの４分の３程が残存する。区画内は、２条一単位の腹縁文によって再区画されているが、貝殻腹縁圧痕文が沈線文と重なる部分はほとんどみられず、沈線文にそうような形になっている部分や、細長い帯状の沈線文による区画に斜位に圧痕文を充填させたようにみえる部分もある。最終的区画内には、斜位・縦位の帯状の文様、屈曲の弱い鋸歯状文が施されている部分がある。円形刺突文も無文部分に配されている。22・23ともに作り、施文が粗雑である。38は体部下半までの３分の１程が残存する。器面にはあらかじめ貝殻腹縁圧痕文が施されていたとみられ、文様を描いた後、すり消しているが、部分的に痕跡が残っている。文様は波頂部から非常に細い２条の腹縁文を施し、文様帯を４単位に区画している。区画内は同様の腹縁文で、上位の区画線の端と端をつなぐように、一筆描き的に舌状の文様が描かれている。下位の区画線からは方形の文様が描かれている。これらの文様間を埋めるように細長い楕円形状の文様も描かれている。隣り合う区画で対称的な構成になっているかのようにみえるが、図右端に、左側の区画にはみられない、舌状あるいは楕円形状の区画がある。自由に文様の配置、形を変えているようにみえる。円形刺突文は大小あるが、規則的に配されているのは、口縁部の縦位の区画線の先端部のみである。鋸歯状沈線文は、口縁部の両端に２条、波頂間までの短いものがある。また楕円形状の区画内にも、曲線に近い形のものが１条施されている。体部には、幅15㎜程の貝殻の腹縁部の一部を使用した連続波状文が施されているが、波状文に重ねて条痕文を施している部分もある。

24・26～28は区画文として「Ｙ」字形を組み合わせた文様を施しているものである。24は28に類似の文様構成とみられるものである。文様間には菱形の文様が配されている。沈線文のみで文様の描かれる部分もあり、貝殻腹縁圧痕文は沈線にそうような形になっている。26はＮ－７－21出土の破片を主に、Ｈ－34・35・38覆土出土の破片が128点あったが、接合したのは半数である。体部半ばまでの３分の１程が残存する。４つの部位に接合したものを図上で復元した。文様帯を区画する腹縁文は途切れたり、沈線文のみになっている部分がある。口縁部と胴部が直接、接合している部分が少ないので、波頂部の文様は推定線で描いてある。２条あるいは３条一単位の腹縁文を、緩やかな波頂部の両端から斜位に、文様帯の半ばからやや下の部分からは縦位に施すことで「Ｙ」字形の文様を中心の区画文としているとみられる。波頂部間も同様な文様があることから、全体を８単位に区画していると思われる。これらの文様帯間は、腹縁文を斜位に、「Ｘ」字形に施して大きく区画し、その間に短い腹縁文を加えることで菱形の文様が構成されているが、「Ｘ」字形の文様のみの部分もある。円形刺突文は多用されており、区画文では中央や両端の狭い無文部にほぼ等間隔で配されている。また、菱形の文様には縦に、大きく区画された三角形の部分では、形にそうように内側に配されている。鋸歯状沈線文は、崩れて曲線的になっているものもあるが、部分的に施されているとみられる。直接は接合しなかった破片などをみると、縦長の菱形の区画に円形刺突文と充填文が施されているものがあることなどから、区画文の左右で文様が異なるのかもしれない。破片はすべて色調が黄白色を呈し、細かく割れているものが多かった。27は２ヵ年の調査で出土し、復元された土器の中で一番大型なものである。破片も大きく割れていたものが多い。口径は30㎝以上、現存する器高は波頂部から30㎝程あ

る。昨年度Ｈ－６覆土から出土した土器（図Ⅲ－45－２）と、器形、文様構成が類似する。大きな山形口縁のもので、口縁部の狭い範囲に無文帯があり、この部分には長・短２条の崩れた鋸歯状沈線が施されている。部分的に貝殻腹縁圧痕文をそわせているところもあるが、文様は主に沈線文で描かれている。突起部の下位に相当する文様帯の半ばよりやや下位は、粘土をはり付けて小突起状にしている。ここにむけて副突起部からそれぞれ２条単位の沈線文を施し、縦の沈線とつなぎ、「Ｙ」字形の大きな文様を描き区画文としている。この文様にそうように間隔をあけて同様の沈線を施している。区画文の間には、大きく三角形の文様を描いている。「Ｙ」字形、三角形の文様内、沈線で区画された帯状の空間には、大型の貝殻の腹縁部を使用した圧痕文が、縦位・斜位に充填されている。26・27はいずれも器内、外面が丁寧にナデ調整されている。28はＨ－29覆土出土の破片が一点接合した。体部下半までの４分の３程が残存する。文様構成は27と類似する。波頂部間は、区画文様にそうように間隔をあけて２・３条一単位の腹縁文を複数施しているが、短い線をさらにつなぎ、区画文様の両端にも、小さな「Ｙ」字形文様が描かれている。また長い弧線をつないでいる部分もあり、比較的自由に文様が描かれている。波頂部の三角形部分や、腹縁文間の無文部には、崩れた鋸歯状文、ほぼ曲線に近い形の沈線文が施されているが、波頂部下の三角形部分は無文になっている箇所がある。

25a・bは、Ｎ－７－31出土の破片と周辺の遺構Ｈ－25（３点）、Ｈ－26（２点）、Ｈ－35（８点）覆土出土の破片と、南側へ20ｍ程離れた昨年度のＨ－９出土の破片（図Ⅲ－61－37）が接合したものである。底部付近までの４分の３程が残存する。３条一単位の腹縁文のみで、文様が描かれるものである。複数の弧線をつなげて曲線的な文様が描かれているが、基本的には、文様帯を斜位に区画し、三角形、菱形の文様を配する構成のものと思われる。展開図（25b）には２ヵ所の突起部下に三角形と菱形の文様がみられるが、斜位の区画線は、弧線を複数つなげる文様のものであろう。突起下に区画文がみられるのは３ヵ所のみで、緩やかな山形の文様を斜位の区画線につなげる部分もある。均等な割り付けによって、文様が描かれている印象は薄い。円形刺突文が施文される部分もごくわずかで、波頂部下の菱形の文様に配されているのが、展開図右側の２ヵ所の波頂部にみられるが、菱形の区画内の２条の腹縁文の両端にも施されているらしい。胎土には、石英や長石などの白い砂粒や１㎜程もある小砂利が非常に多く混っている。内・外側ともに篦状工具による条痕があるが、器面のものは丁寧にナデ調整されている。腹縁文は沈線文に貝殻腹縁部の圧痕文をそわせるような形になっている。

89はＨ－43（図Ⅲ－131－４）と同一個体。腹縁文で三角形の区画が描かれている。文様間には屈曲する腹縁文が縦位に施されている。90は３条一単位の腹縁文による三角形の区画文がある。91a・bは昨年度包含層出土の土器（図Ⅳ－10－92b）と接合した。昨年度の報告では92a～dを同一個体と報告したが、92a・cと92b・dは同一個体ではなかったことがわかったのでここで訂正する。同一個体片は、Ｈ－25（図Ⅲ－54－９）からも出土している。細い沈線文で大柄な舌状の文様を上下逆向きに配し、区画文とし、区画内を腹縁文、沈線文で再区画している。充填文は斜位に施されている。

ｃ種－２（29～37、84～88、93～96）

三角形・菱形の区画文を単独あるいは組み合わせて、横位に連続して展開させる文様構成のもの（29～34・84～88）、腹縁文で連続する山形文が施されるもの（35・36）、斜格子目の文様が施されるもの（37）がある。区画内は同形の文様で再区画され、区画内はｃ種－１同様に貝殻腹縁圧痕文が充填文として施されるものが多く、鋸歯状沈線が、文様間の空間部に施されるものもある。円形刺突文はｃ種－１同様、腹縁文、沈線文上、文様の交叉する部分、鋸歯状沈線の先端などに配されるほか、文様の空間部に配されるものもある。

29～31は三角形、菱形の文様が連続して展開されるもの。29は口縁部から体部下半までの４分の３

程が残存する。文様はすべて2条一単位の沈線文で描かれる。円形刺突文は数ヵ所にあるのみである。山形の突起部下の文様帯の中心に粘土を張り付け小突起状にし、大きな円形刺突文を配している。この部分にむけて、口縁部の副突起部と下位の区画線から沈線文を施し、上下で逆向きの三角形の文様を描いている。波頂間には部分的に「鉤の手」状に屈曲する沈線文で菱形の文様を描き、これらの文様を連続して展開させている。文様の割り付けが均等ではないため、文様の位置がずれている部分もみられる。2条の沈線文間にはいずれも貝殻腹縁圧痕文が、斜位に疎らに充填されている。区画内には圧痕文が充填される部分と、一筆描き的に再区画される部分がある。内面は比較的丁寧にナデ調整されている。30は昨年度包含層出土の土器（図Ⅳ－11－103）と接合した。体部半ばまでの文様帯部分の3分の1程が残存する。29とほぼ同様の文様構成である。腹縁文で描かれた文様の再区画内は充填文が疎らに施される部分、崩れた鋸歯状沈線が空間部を囲むように施される部分がある。最終的区画内に施される部分もみられる。内・外面に細かい横位の擦痕がみられる。31は体部半ばの輪積みの位置で欠損している。三角形の区画内は腹縁文で再区画されるところと、充填文が斜位に疎らに施される部分がある。菱形の区画内は、弧線が配されている部分もあるが、押引き文的な圧痕文が充填されている。内・外面に丁寧にナデ調整され、焼成も良好である。

32～34は菱形の文様が横位に展開されるもの。32は口縁部から底部までの3分の1程が残存する。乳房状にほぼ近い形の底部のもの。波頂部下で交叉するように腹縁文を配し、連続する文様が3段形成されている。口縁部は三角の区画になっている。文様は2条一単位の腹縁文で描かれているが、一部沈線文のみのところもある。区画内は充填文が横位、斜位に施されている。体部半ばは、赤褐色になっている。無文部の上位には横位に、底部付近には縦位に条痕があるが、内面はナデ調整されている。33は体部半ばまでの2分の1程が残存する。文様は太い沈線によって描かれている。波頂部下は三角形の区画が形成され、大柄な菱形の文様が展開されているが、部分的に変則的になっている。三角の区画内は充填文と、空間部には鋸歯状文が施されている。菱形の部分は、貝殻腹縁圧痕文を施した後一筆描きで再区画される部分や、「鉤の手」状の沈線文や弧線が施されている部分があり、細長い無文帯が一部形成されている。34は昨年度Ｈ－5覆土3層出土の破片（図Ⅲ－36－7）と北西側に30m以上離れた包含層Ｎ－7－00、Ｈ－36覆土下出土の破片が接合したもので、2つの部位に接合したものを図上で復元したものである。本年度の調査区から、口縁部の2分の1が出土したので、改めて報告することとする。厚手で平坦な口唇上には小さな円形刺突文が配されている。口縁部には2条腹縁文が施され、下位には楕円形の刺突文列がほぼ等間隔にめぐっている。沈線文により菱形と横位に連結させる文様が描かれ、文様の上下は「鉤の手」に屈曲する腹縁文が2条施されているとみられる。腹縁文は沈線文が深く施文されているため、沈線文のみでの文様の印象をうける。貝殻腹縁圧痕文が省略され、沈線文のみが施文されている部分がみられる。胎土に白い砂粒（長石、石英等）が多い。35・36は腹縁文により連続する山形の文様が描かれているものである。35はＨ－22・34・35覆土出土の破片と接合したもの。細い腹縁文で文様が描かれている。再区画内は充填文が疎らに施されている。36はＨ－22覆土出土の破片が数点接合した。4ヵ所に山形の突起部があり、突起のすぐ脇に副突起があるようにみえるが、突起部の間隔が不揃いなことから、大小、二股になっている突起部の可能性もある。35同様の文様構成であるが、充填文は施されておらず、山形の下向きの部分に円形刺突文が施されている。37は昨年度Ｐ－9出土の破片（図Ⅲ－89－2）、包含層から出土し、拓影図で図上復元した破片（図Ⅳ－10－90）と、Ｎ－7－01・05、さらに南側に10～30m以上も離れたＨ－50（覆土）、Ｈ－20（床面）、Ｈ－33（覆土下）出土の破片が接合したもので、破片は広範囲に分布していた。体部下半で欠損しているが、2分の1程が残存する。3条一単位の腹縁文で全体を大きく三角

形に分割し、斜位の線を加えることで斜格子目の文様が施されている。区画内は貝殻腹縁圧痕文を間隔をあけて施している。刺突文は文様の四隅に配されている。体部下半の無文部には幅10㎜程の貝殻の腹縁部の一部を使用した条痕文が主に横位に施されている。

84a・bは同一個体。30・31に類似の文様構成のものとみられ、突起部下には菱形、波頂部間には上下逆向きの三角形、あるいは方形の文様が交互に配されているとみられ、これらの文様をつなぐ短い腹縁文が部分的に施されている。再区画内には充填文が斜位、縦位に施されている。円形刺突文は多用され、区画内の細長い無文部には、ほぼ等間隔に、文様帯間の無文部には縦位、あるいは、腹縁文にそわせる形に配されている。崩れて半ば曲線的になった鋸歯状文が三角形の区画内に施されている。35は菱形、あるいは菱形と三角形の連続する文様のものとみられる。充填文は丁寧に斜位に施されている。86は昨年度の包含層の土器（図Ⅳ－12－10）と同一個体の可能性がある。87・88も同様の文様構成のものとみられ、86では、連続する菱形の文様は三角形に再区画されている。88では三角形の区画に弧線をつないでいる。92は方形の区画文が連続して上下に配される文様のものとみられ、Ｈ－33出土のもの（図Ⅲ－88－４）に類似の文様構成とみられる。胎土・焼成も類似している。96は30・31と類似の文様構成とみられ、文様は太い沈線で下描きされた腹縁文で施されている。

94は口縁部にやや幅の広い無文帯が形成されているもので、貫通孔がやや間隔をあけて施されている。体部の文様は腹縁文により方形の区画文が描かれている。口唇上には箆状工具による圧痕文が施されている。爪形圧痕が横位に残っている。

93・95は中型の鉢型土器。93の文様構成は、91に類似のものとみられるもので、腹縁文で方形の区画を上下に配し、区画の中心は内面を指などで押して盛り上がらせ、小さく区画された中心には、貫通孔がある。区画内は中心を境に逆向きに斜位に充填文が施されている。刺突文は大小あり、口縁部に１条めぐるほか、区画線に重ねて密に施されている。また貫通孔のまわりにも配されているらしい。95は２条の沈線間に、短い貝殻腹縁圧痕文を斜位に充填させた帯状の文様を底部付近にめぐらせ、沈線文で文様帯を区画し、上下に無文帯を形成している。この部分には方形の文様が描かれている。

ｃ種－３（39）

沈線文により曲線的な文様が描かれるもの

39は、Ｎ－８－37周辺の包含層を中心とした破片（24点）と、そこから北側に５ｍ～15ｍ程離れたＨ－33（２点）、Ｈ－40（１点）覆土出土の破片、包含層Ｎ－８－09出土の破片、昨年度の調査地区Ｎ－７－33出土の破片が接合したもので、破片は広範囲に分散していた。大きく２つの部位に接合された。波頂部の破片が３片あったので、４ヵ所に波頂部がある器形を想定し復元したものである。体部半ばまでの２分の１が残存する。緩やかな波状口縁のものではあるが、口縁部の一部の波形が、極端にほかの部分と異なること、文様構成がはっきりとはしないので、２面実測を行った。39cは文様の構成を観察するために、展開図的にしたものである。口唇部は平坦で角形の部分（39b）と、内側がやや丸味を帯びる部分（39a）がある。口唇直下には、波形にそって楕円形の刺突文列がめぐっている。体部の文様はすべて、沈線文と円形刺突文で描かれているが、文様構成は複雑ではっきりとはわからない。単独の沈線で一筆描き的に描く部分、２条一単位の線で楕円形状の区画が配される部分がみられる。また曲線と直線を組み合わせているところもある。

口縁部で大きく鋸歯状に施され、波頂部から斜めに下っていく沈線文は、途中から１条の沈線がそえられているが、全体を大きく区画する役割をもつ線かもしれない。形の不揃いな舌状、楕円形、方形の区画が斜位に配されている構成のようにみえる。空間部には、自由に、弧線、短い直線が施されている。内・外面には細かい条痕が横位にみられる。

97～107は断片的な資料で、全体の文様構成のわかるものは少ない。また遺構出土の破片と接合はしないが同一個体であるものも掲載してある。97はH－33出土の土器（図Ⅲ－90－25）と同一のもの。口縁部に帯状の区画文がある。98はH－48出土の土器（図Ⅲ－123－3）と同一のもの。菱形の文様の横位に展開する構成のもの。99は波頂部で円形刺突文が施されている。口縁部内側の圧痕文は、刻み目状になっている。100はH－33出土の土器（図Ⅲ－88－11）と同一個体の可能性があるもので、キャリパー状の器形の土器の口縁部かもしれない。101は口縁部内側に10㎜以上の長めの腹縁圧痕文が施されている。102では刻み目状になっている。内面には細かい条痕が横位に施されている。103はH－33出土の土器（図Ⅲ－89－19）と同一個体。小型の土器で、腹縁文により斜格子目状の文様が施されている。104はH－34（図Ⅲ－95－1）、H－35（図Ⅲ－98－4）出土の土器と同一個体である。破片は多数あったが、接合はできなかった。105はH－33出土の土器（図Ⅲ－86－3）と同一個体。大柄な菱形の文様が横位に展開されているものである。106はH－26出土の土器（図Ⅲ－59－7）と同一個体、器面には幅15㎜程の貝殻の一部を使用した条痕が横位にみられる。107も同様にH－26出土の土器（図Ⅲ－59－2）と同一のもので、大型土器の体部下位の区画文に相当する部分。

108～110は、ほかのc種の土器と文様構成が異なるものである。108は口唇上は平坦にナデ調整されているため、粘土の一部が外側にはみ出ている部分がある。口縁部に1条、沈線文をめぐらせ、貝殻腹縁圧痕文を斜位に浅く施している。体部は、腹縁文により斜格子目状の文様が描かれている。109は口縁部はやや外反する。口唇は外側がやや丸味を帯びる角形。内外の角に貝殻腹縁部による短い圧痕文が刻み目状に施されている。口縁部のやや幅の広い範囲に、連続波状文が3列施されているが、一部重なっている。文様の上位には円形刺突文、口唇上と文様下位には、楕円形の刺突文が施されている。110は、貝殻腹縁圧痕文が斜位に疎らに施されている。口唇上には平坦で内面には押引き文的な貝殻腹縁圧痕文が施されている。H－29の土器（図Ⅲ－75－16）と同一個体である。

f種（111～117）

文様効果を意図したとみられる条痕文が施されているもの。貝殻の腹縁部の一部を使用して文様を描くものもある。

111・112・117は貝殻殻頂部を使用したとみられる細かい条痕文、114～116は腹縁部の一部を原体として使用した条痕文が施されている。111は口縁部が外反する薄手のもの。角形の口唇上には小さな円形刺突文が配され、内側角には短い貝殻腹縁圧痕文が縦位に施されている。器面の条痕文は斜位、内面では横位に施されている。112は口唇部外側がやや丸味を帯びる。いずれも非常に細かい丁寧な施文の条痕ではあるが、調整痕である可能性もある。113は胎土が灰白色を呈する。口唇は平坦で、口唇上から内側角に棒状工具による短い刻み目が縦位につけられている。条痕文は幅10㎜～15㎜程の腹縁部を使用して深く施されている。内面は、口縁部にのみ斜位に条痕文があるが、下位はナデ調整され無文である。114は胎土が113に比べより白色に近い。口縁部は丸味があり、やや内湾気味、口縁部にのみ、幅10㎜前後の原体を使用した条痕文が横位に施されている。下位はナデ調整され無文となっている。115は口縁部は角形で、幅5㎜程の原体で、縦位に間隔をあけて施文している。116a・bはH－33（図Ⅲ－90－154）のものと同一個体。幅5㎜前後の原体で不規則な斜格子目状の文様が描かれている。117はH－30（図Ⅲ－79－1）のものと同一個体。口縁部で小さく外傾する。器面には横位に、内面では縦位・斜位に条痕文が施されている。

g種（40～44・118～125）

無文のものである。ミニチュア土器もここに含めた。平縁のものが多く、緩やかな波状口縁になるものもみられる（40・41・123）。キャリパー状器形に類似のもの（40）もある。文様が全くないもの

（40～44・121～125）と、口唇内側角に貝殻腹縁圧痕文が施されるもの（118～120）があり、外側角にも施されているもの（118）がある。底部の形態がわかるものは少なく、尖底のもの（43）、小さな丸底気味のもの（40・41）、平底のもの（42）がある。

40は小さな丸底になるとみられる。形はやや歪んでいてナデ調整されているが器面には凹凸がある。４ヵ所に緩やかな波頂部がある。口唇は薄手で、口縁部がくびれる小型のキャリパー状のものに類似の器形である。頸部には細かい条痕がみられる。41は全体の３分の２が残存する。厚手の土器であるが口唇部はやや薄手になり、ごくわずか外反する。緩やかな波状口縁のもの。胎土には、長石、石英等の白い砂粒が多くわずかにミガキがはいっている。42は厚手で、口唇断面は丸味を帯びている。口唇上から内側にかけては、貝殻の腹縁部によるとみられる条痕が斜位にみられる。器面はミガキがかけられている。42は41同様厚手のもので、内・外面に幅５㎜程の条痕が主に横位にみられる。43・44はいずれも、手捏ねのミニチュア土器。43は内面に指で成形した痕跡がある。118a・bの口唇断面は角形で、胎土に砂粒が多い。119は口縁部が外反する。貝殻腹縁での圧痕文は刻み目状である。120は口唇は尖り気味である。押引き文的な圧痕文が施されている。126は比較的大型のもの。内面の圧痕文は10㎜程もある長めのもので、斜位にやや間隔をあけて施されている。器面には細かい条痕がある。122は内・外面に大型の貝殻の腹縁部を使用した条痕が横位に粗く施文されているが、かるくナデ調整されている。123は口唇部は薄手で、丸味を帯びている。内・外面に棒状工具によるケズリの痕跡が残るが、ナデ調整されている。125は口縁部が薄身になっている。内・外面に横位・縦位の細かい条痕がある。

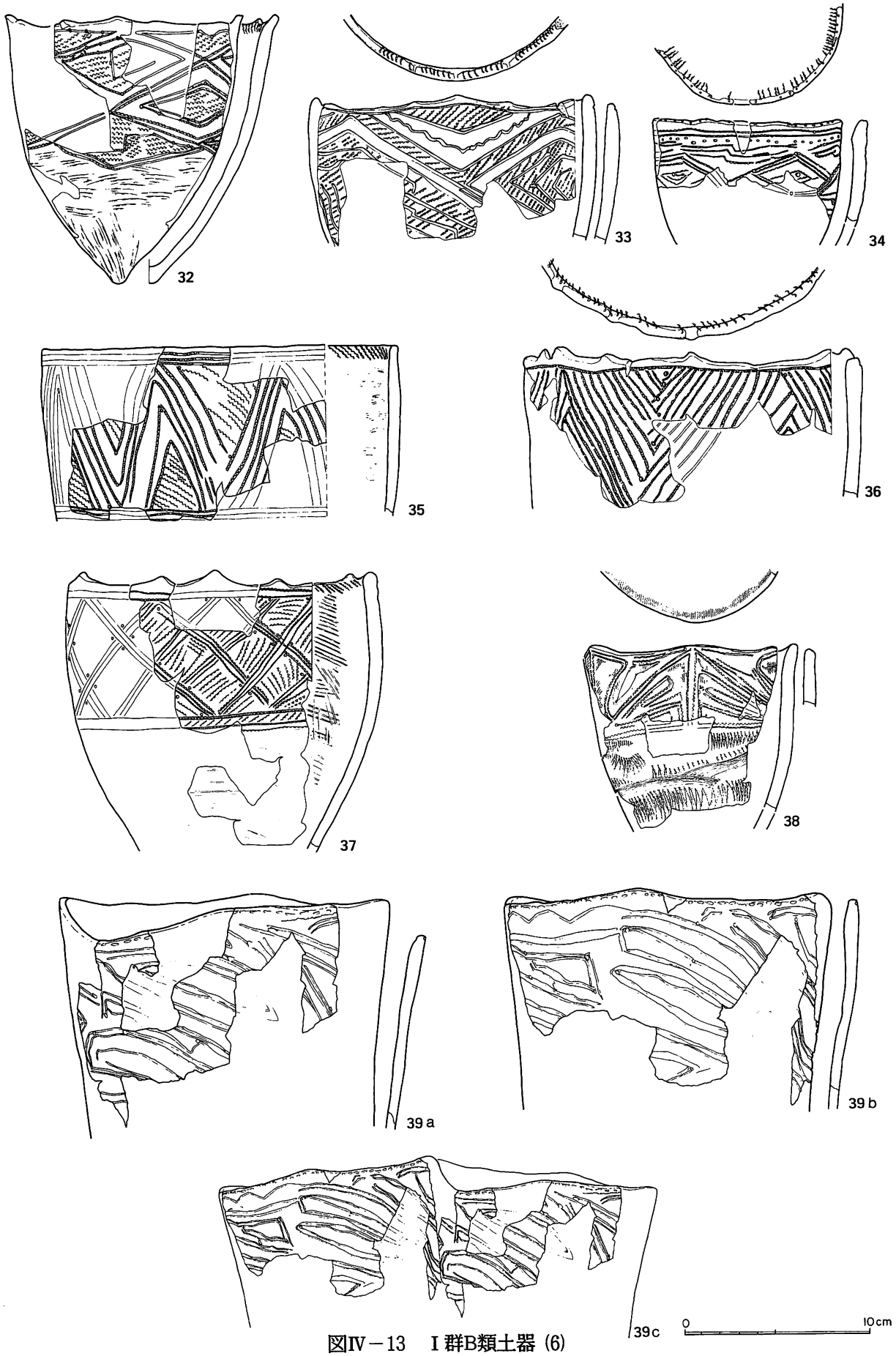
ｈ種（45～60・126～135）

無文の底部付近の部位のものである。

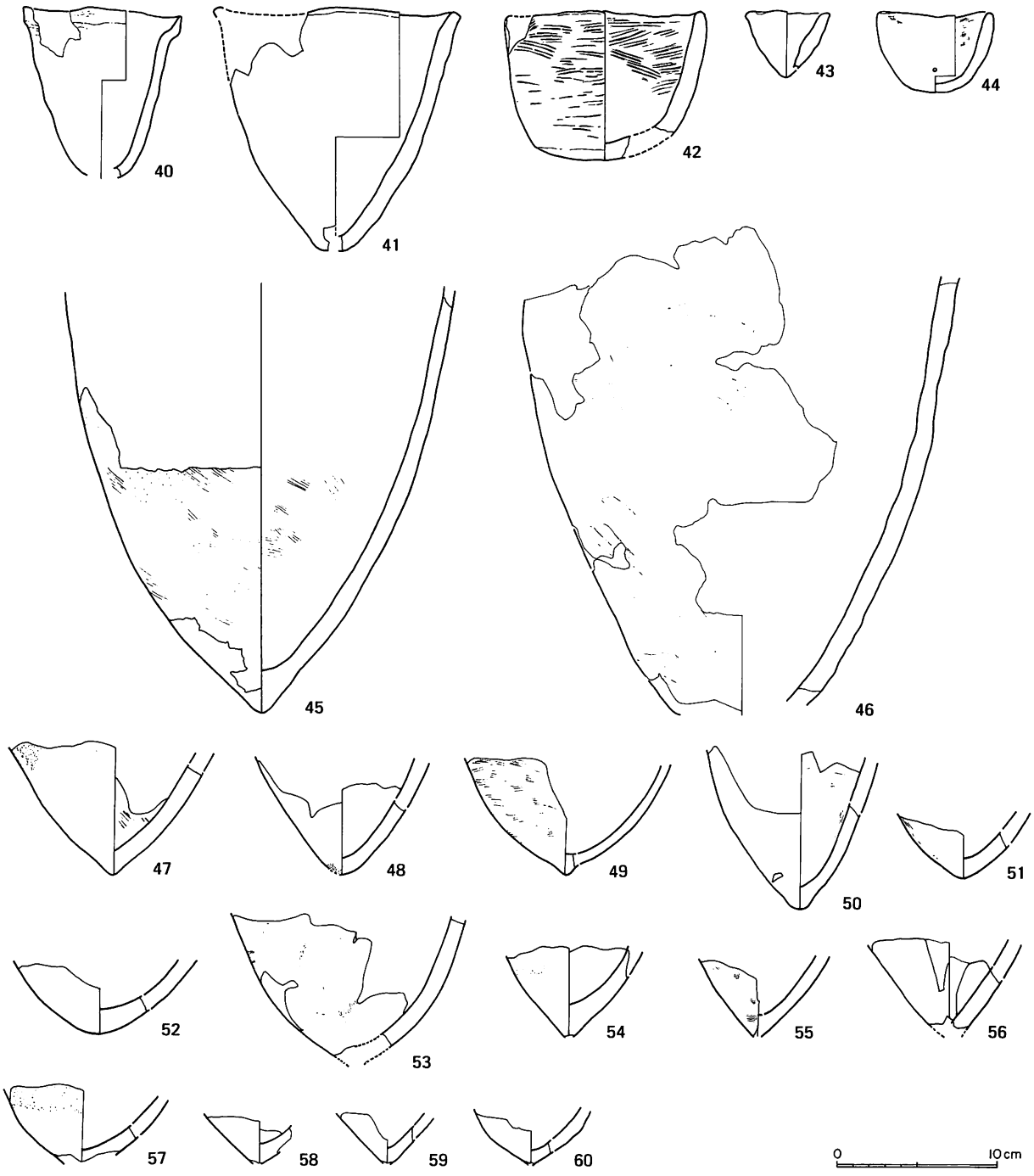
45は大型土器。体部半ばから底部付近の部位の２分の１程が残存している。底部の輪積みの位置で欠損している。Ｈ－16床面、Ｈ－21覆土の破片がそれぞれ２点接合している。器内・外面は凹凸が著しく、幅５㎜程の篦状工具による調整痕が体部半ばでは横位に、下半部から底部では斜位にみられる。内面は、篦状、棒状工具による調整痕がある。外面よりも丁寧にナデ調整されている。色調は灰白色であるが、内面の底部付近は黒褐色を呈する。46はＨ－29覆土２層出土の破片（２点）も接合した。体部半ばから底部までの５分の３程が残存する大型土器。尖底になるとみられるが、尖端部は欠損している。器面には条痕がかすかに残る部分もあるが、全体に丁寧にナデ調整されている。内面には、細かい条痕が底部付近までは横位に、下部では斜方向に施されているが、外面同様に調整されている。体部は赤褐色、底部は黒褐色を呈する。焼成は良好である。47・48は砲弾形。47はかすかに条痕があるがナデ調整されている。49・50は乳房状に近い尖底部。49は底部付近にまで横位に条痕がある。50は胎土に砂粒が多い。内面に横位、縦位の細かい条痕が部分的にある。51・52は丸底気味のもの。53～60は尖底部が欠損している。53は横位に細かい条痕とケズリの痕跡が縦位にみられる。126～127は砲弾形、128・129は砲弾形と乳房状形の中間的な形である。130は乳房状尖底のもの。131・132は尖底部は欠損しているが、132は丸底気味になるとみられる。133・134は平底のもの。133は底部付近に腹縁圧痕文が施されている。135は平底のミニチュア土器。

Ⅰ群Ｅ類（１～42　図版110・117・118）

ムシリⅠ式に相当するもの。711点出土した。昨年度は小破片が２点出土したのみであったが、本年度は、Ｎ－８－19から１個体分が押しつぶされたような状態で出土したほか、復元、図上復元できた個体が２個あり確認できた個体数は30点以上である。ほとんどのものが破片であったため全体の器形・文様構成を知り得るものは少ない。破片は一括出土した土器を除き、調査区の全域に分散してい




図Ⅳ－13　Ⅰ群B類土器 (6)




図Ⅳ－14　Ⅰ群B類土器 (7)

るが、Ｈ－18周辺と、遺構の集中区から離れた、調査区南側の大地の縁辺部に少量ながらまとまる傾向がみられた。

Ｅ類は２つに分けられ、さらに文様要素からａ～ｅ種に細分できる。

**Ｅ類－１（１）**

幅５㎜程の太い沈線文が深く施されているもの。胎土には１㎜程の白い方形の石英粒や長石、２～３㎜程の小砂利が比較的多く混入している。

１はＮ－８－19から一括出土した土器。器高は31㎝以上ある大型の円筒形の器形である。底部の縁

辺は角張り、底部からほぼ直線的に立ち上がる。器厚は７㎜～８㎜程あり厚手であるが、口縁部はやや薄手である。体部上半に太い沈線文を、縦位にほぼ等間隔に深く明瞭に施文している。長さは一定ではなく、先細りになっている。器面には細かい条痕がみられる部分もあるが、丁寧にナデ調整されている。内面には幅３㎜程の箆状工具によるとみられる条痕がほぼ全面にあるが、口縁部付近ではより細かい条痕も観察される。色調は沈線文が施されている部位までは黒褐色で、底部付近は赤褐色を呈する。内面には顔料を塗布したかのような非常に鮮やかな赤褐色の部分がある。

Ｅ類－２（２・４～42）

沈線文、刺突文、隆起帯、絡条体圧痕文などで文様が施されているものである。波状口縁のものが多くみられる。器壁は５㎜内外のものが多い。底部は角張るもの、やや丸味を帯びるものがあり、わずかにくびれるものがある。沈線文は幅２㎜程の箆状工具、細かい棒状工具などで施文される。胎土は精選されたものを使用しており、焼成は良好である。内・外面ともに丁寧に調整されている。

ａ種（２・４～14）

沈線文により文様が描かれているもの。

２は調査区南端Ｎ－８－14から出土した。大きく３つの部位に接合された破片から器形を想定し、図上復元した。底部付近は欠損している。箆状工具で、横位にやや間隔をあけた２条単位の平行沈線文を６段、器面にめぐらせている。さらに下位にも１条の沈線が付加されている。横位に沈線文を施文後、口縁部には、短い沈線文を縦位に連続して施している。平行沈線文間には矢羽根状に浅く施文している。内面には、口縁部付近では横位に、下半部では斜位に箆状工具によると思われる条痕がみられる。４ａ・ｂは同一個体。２と類似の文様構成とみられる。施文原体の幅は２のものよりもやや幅広く、深く施文されている。沈線文内に条がみえることから、原体は植物の茎の部分のようなものかもしれない。５は縦位に施文後、斜位に浅く施文し、斜格子目状の文様になっている。６ａ・ｂも同様の構成である。７ａ・ｂは同一個体。波状口縁になるとみられる（７ｂ）。８はほかのＥ類土器とは、やや胎土が異なり、石英などの砂粒が目立つ。緩やかな波状口縁で口縁直下とやや間隔をあけて、下位に２条、非常に先の細い棒状工具で横位に沈線文をめぐらせている。沈線間には斜位に浅く、ヘラ状工具による文様がみえる。口唇直下には同様の工具で縦位に連続して短く刻み状に施文している。９もやや胎土が粗いものである。口縁部に平行に沈線文を施し、口唇内側角には細い棒状工具による刻みがある。８・９は、ほかの土器とはやや異なる印象のものであるが一応本類に入れておくこととする。10～14は胴部の破片、14は平行沈線文の上下に縦位・斜位の沈線文が施されている。

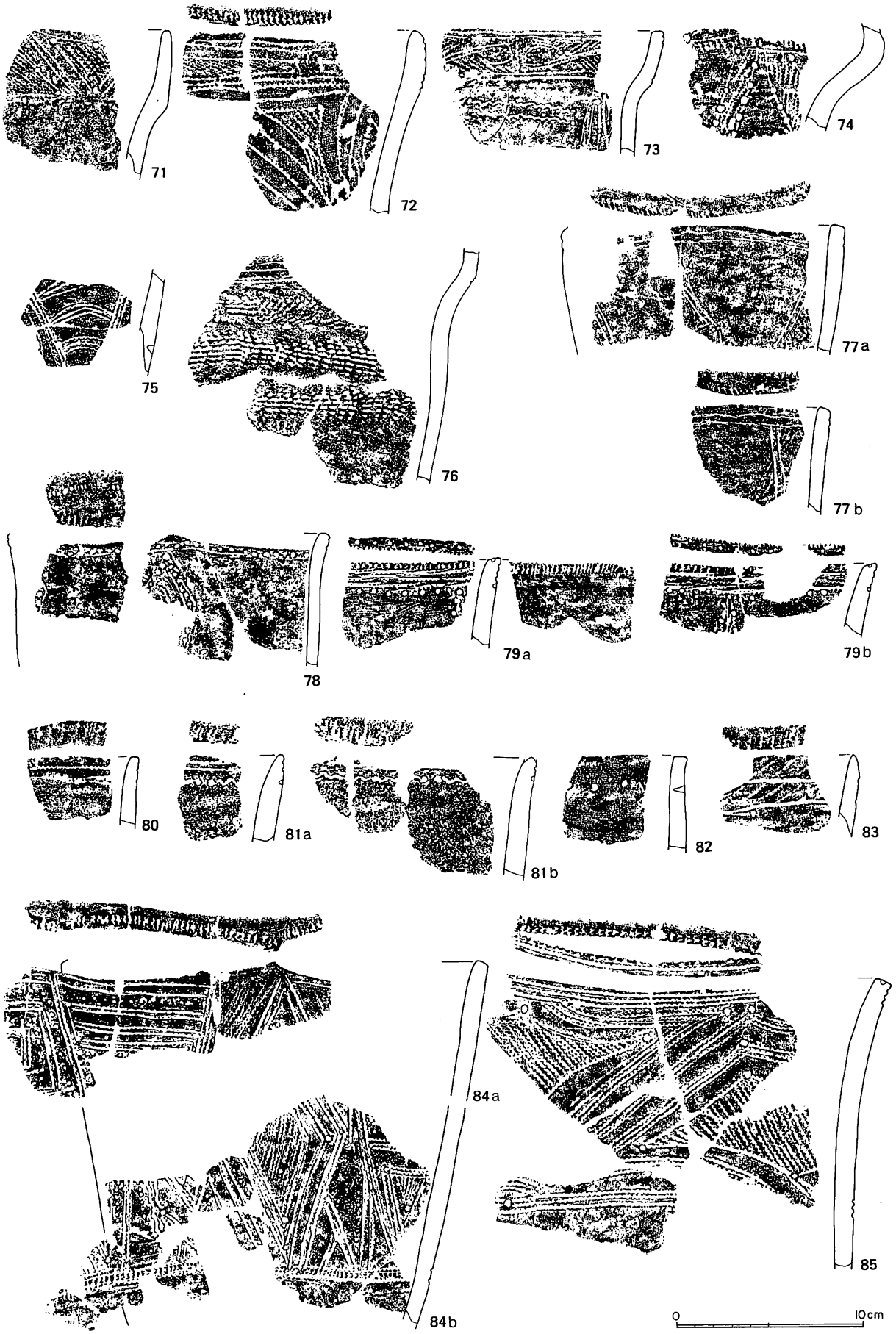
ｂ種（15～19）

沈線文、刺突文により文様が描かれているもの。

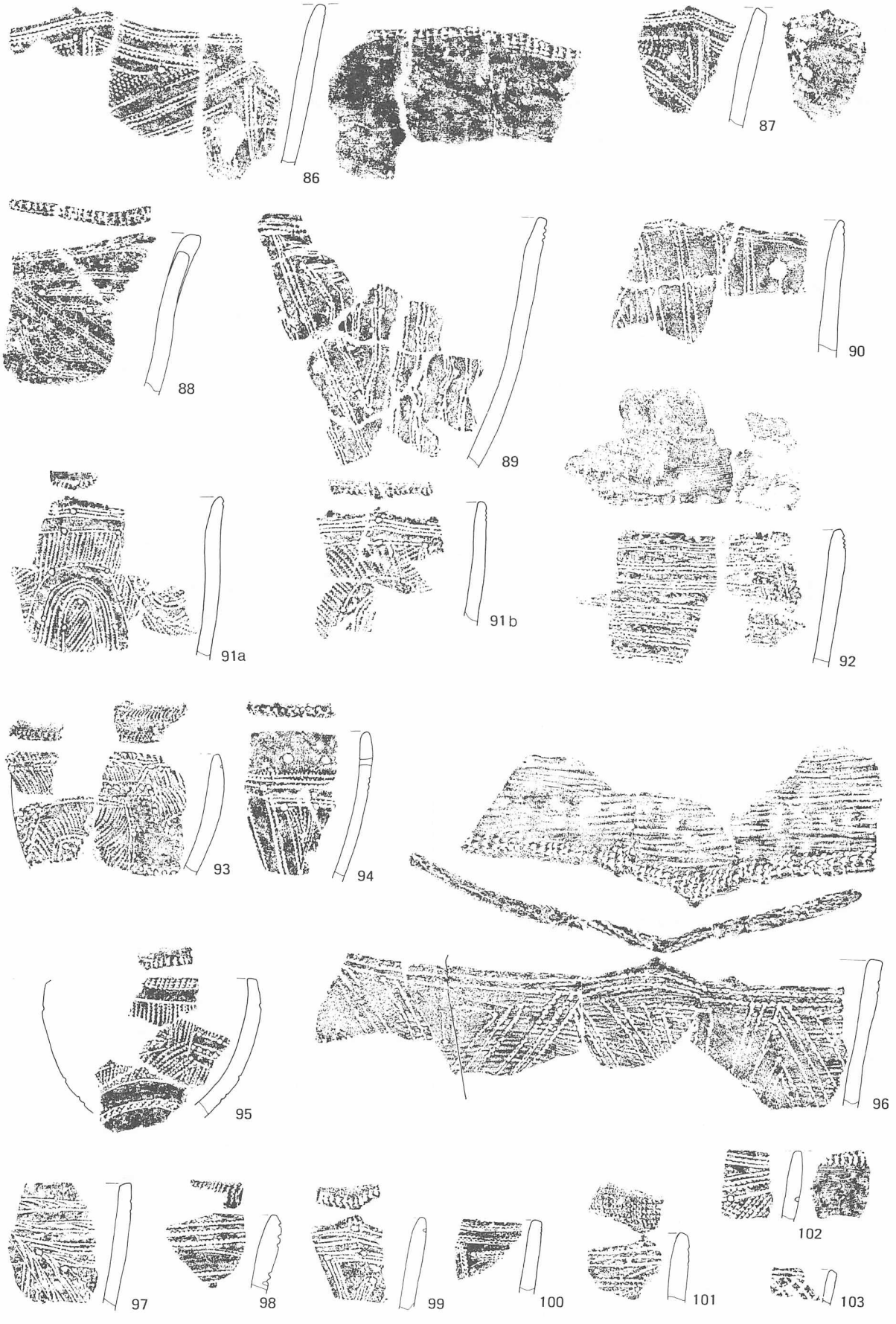
15～19は基本的には横位に施される沈線文の間に刺突文をめぐらせているものである。15a～cは同一個体。口縁部と体部下半から底部の破片は直接はつながらない。２に類似の器形、器高かと思われる。口唇は薄身でやや尖り気味である。文様は口唇直下のごく狭い範囲を除き、全面に描かれており、２段に構成されている。口縁部から体部下半までの上位には、横位の沈線をやや間隔を密に施した後、半截竹管状工具による三角形状の刺突文列を５・６条置きに施している。刺突する際、やや押引き的になって横長の刺突文（15b・c）となる部分もある。刺突文を施文する部分では沈線の間隔がほかの部分よりやや広い。刺突文を施文する部分を意識していたのであろう。下位には矢羽根状の文様を施している。内面には、かすかに横位の条痕があるがナデ消されている。16a・ｂは同一個体と思われる破片。平縁で口唇断面は角形である。口縁部の狭い範囲に15ａ～cと類似の文様帯があり、下位には縦位の沈線文が体部下半まで施されていると思われる。13と同様、沈線文間に15aに類似の



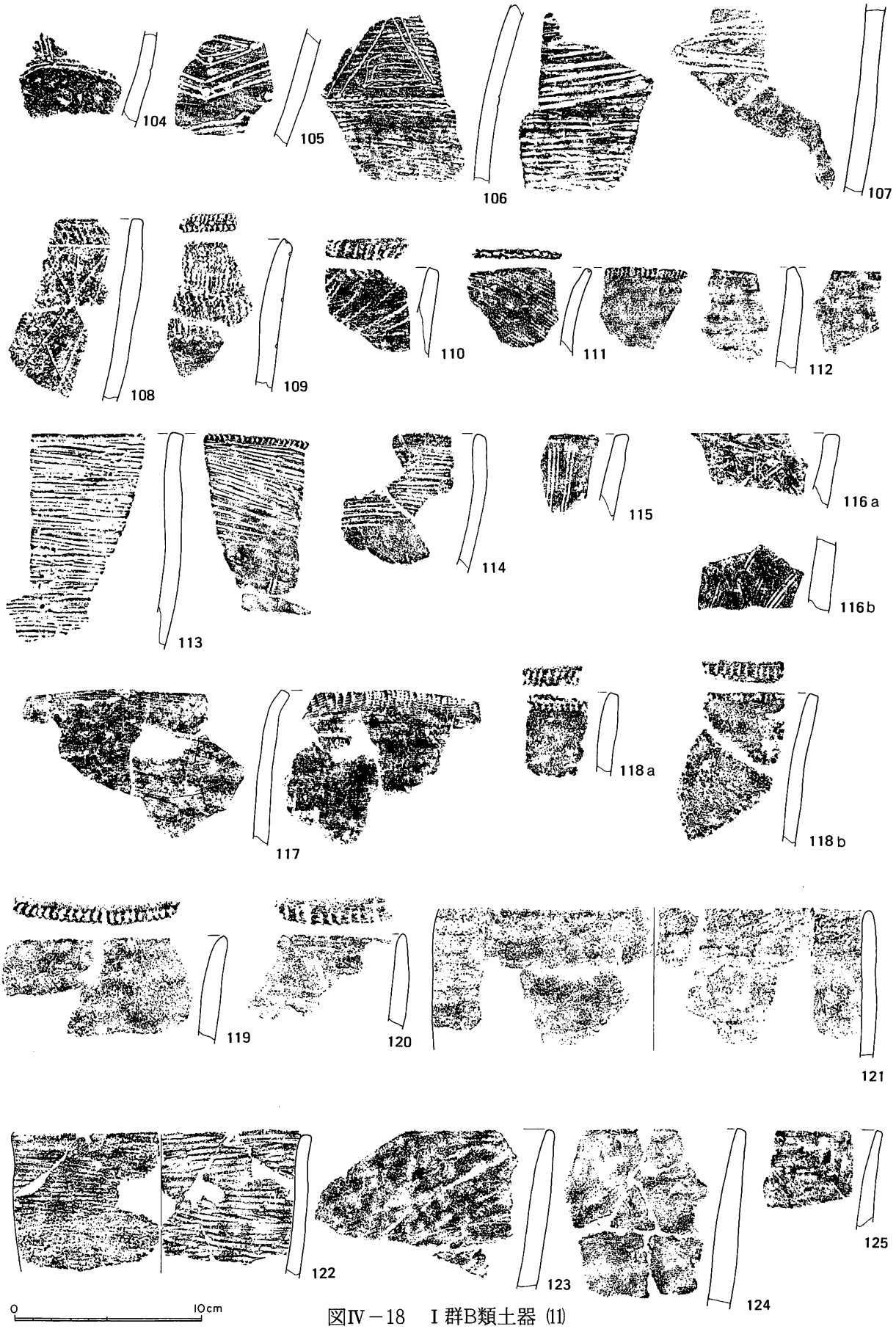

図Ⅳ－15　Ⅰ群B類土器 (8)



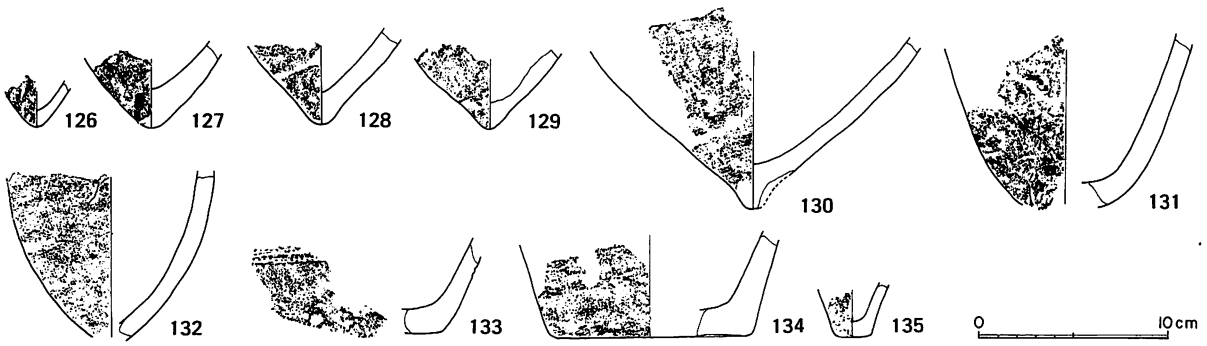

図Ⅳ－16　Ⅰ群B類土器 (9)




図Ⅳ－17　Ⅰ群B類土器 (10)




図Ⅳ－18　Ⅰ群B類土器 (11)




図Ⅳ－19　Ⅰ群B類土器 (12)

刺突文列が２条めぐっている。内面には、口縁部付近では横位に、体部では横・縦位に、篦状工具によるかとみられる条痕がある。17a・bはＨ－25（図Ⅲ－55－17a～c)、Ｈ－50（図Ⅲ－143－３）と同一個体。波状口縁をなす。口縁部と体部の横位に施された沈線文間には竹管状工具あるいは半截竹管状工具による刺突文列が２列を一単位として施されている。体部に斜位の沈線文がある。18・19は口縁部のみの破片である。

ｃ種（20～29）

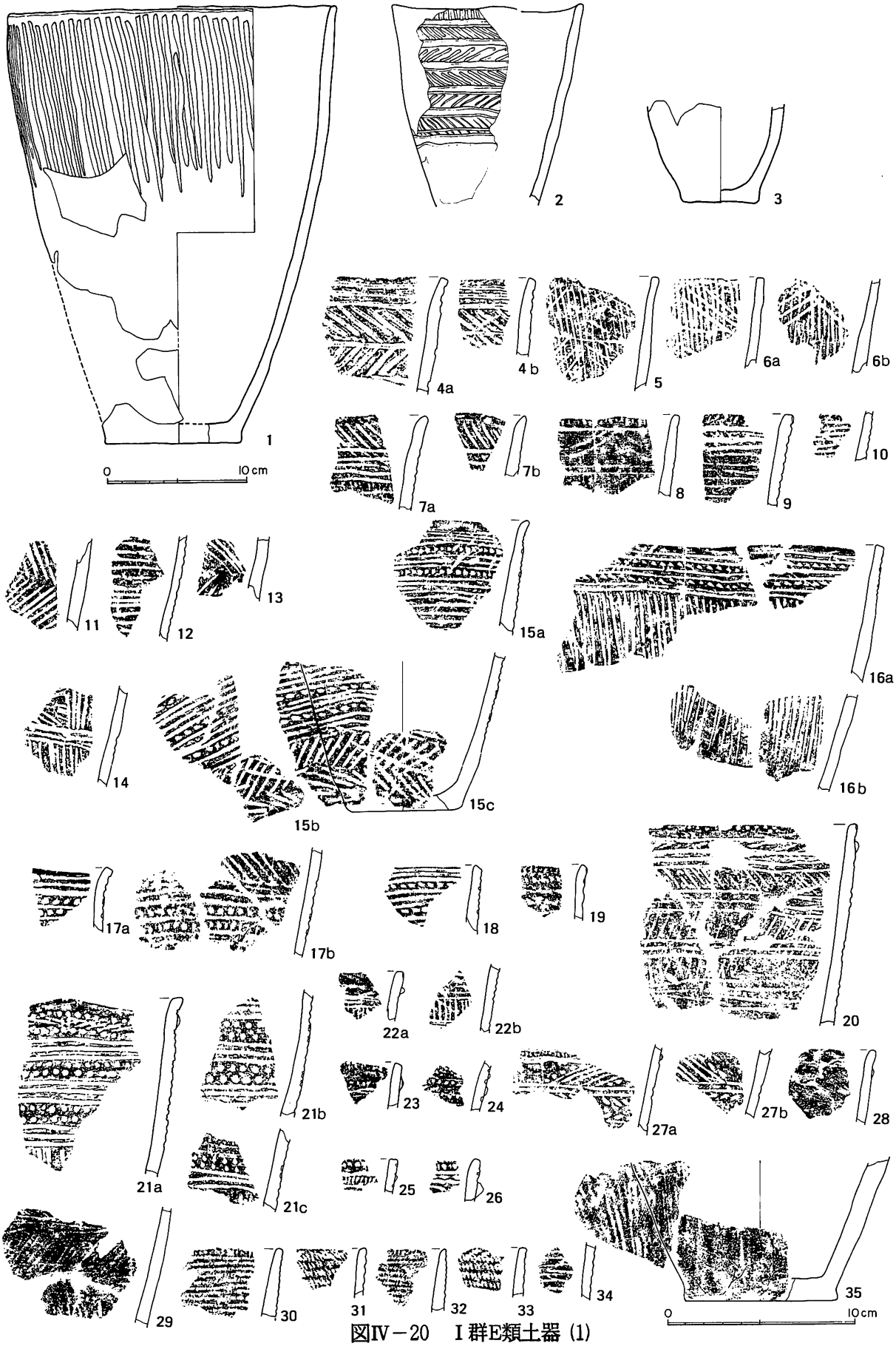
隆起帯が施されているもので、沈線文、刺突文、絡条体圧痕文、刻み目を組み合わせて文様が描かれているもの。

20は比較的大型の器形になるとみられる。文様は３条ずつ横位に施される沈線文で何段かに区分されるらしい。口縁部直下は狭い無文帯が形成され、その下位に４㎜幅ほどの隆起帯がめぐっている。隆起帯上には絡条体圧痕文が斜位に施されている。文様帯を区画する沈線文間には斜位・縦位に沈線文が施されている。21a～cは同一個体。20同様、口縁部の狭い無文帯下位に隆起帯がめぐり、その上には波頂部下で方向を逆にした刻み目が斜位に施されている。沈線文間と隆起帯の上には中空の竹管状工具による円形刺突文が２条、並列に施されている。下位の文様帯には縦位の沈線文も施されている。Ｈ－23（図Ⅲ－44－４）からも同一個体が出土している。22は口縁部・胴部の破片。22ａと23は口縁部に、24には体部につけられた隆起帯上に非常に細い撚紐を巻いた絡条体圧痕文がつけられ、23・24は隆起帯上に、25・27ａ・ｂは縦位に、26は斜位に刻み目が施されている。27ａ・ｂは文様帯が何段かに分かれているとみられる。28は無文地に隆起帯がある。29はＨ－23（図Ⅲ－44－40a～d）と同一個体。口縁部に隆起帯がある。

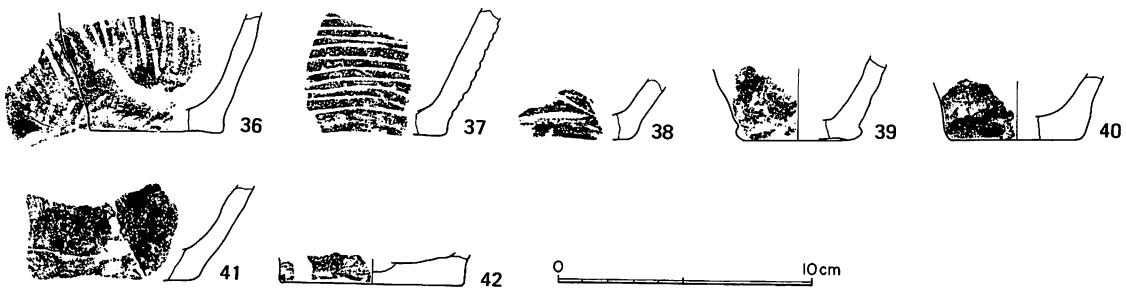
ｄ種（30～34）

絡条体圧痕文のみが施されているもの。

いずれも丸軸に撚紐をまいた原体を横位に平行に施文している。33はやや太めの原体のもので波状口縁をなす。34は22・23などに施文されているものと類似し、非常に細い撚紐を使用している。いずれも小型の土器である。




図Ⅳ－20　Ⅰ群E類土器 (1)




図Ⅳ－21　Ⅰ群Ｅ類土器 (2)

ｅ種（３・35～42）

底部付近の部位のものを一括した。

底部の縁辺がやや丸味を帯び、ごくわずかにくびれている。39のように丸味を帯びたあげ底気味のものもある。35～38は底部付近まで文様が施されている。35・36は縦位にやや太い縦位の沈線文、37には細い原体による横位の沈線文が施されている。35はほかのＥ類土器と胎土が異なり、石英などの鉱物が混入しているのが目立ち、砂っぽい。焼成はほかの土器ほど良好ではない。内面も条痕で雑に調整してある。３は35に類似の胎土のものであるが、内面は比較的丁寧に調整されている。

Ⅱ群（１～55　図版　110・119～121）

2,176点出土した。本年度の調査では同時期の住居跡から検出された復元土器２個体をはじめ、５個体の土器が復元できた。また文様、原体、胎土から判断し、少なくとも60個以上の個体が確認できた。破片は遺構の周辺はもちろん、広範囲から得られている。昨年度調査区出土の破片と接合した資料も多い。いずれも春日町、トドホッケ式に相当するものである。胎土には繊維が比較的多く混入し、焼成は概ね良好である。口唇上から内面にかけてはナデ調整されているものが多く、内面全体に及ぶものとみられる。全体の文様構成がわかるものは少ないが、文様、施文の特徴からａ～ｃ種に分けられる。

ａ種 主に口縁部に押引き文が施され、体部には縄文が施されるもの（３～７）。

押引きに使用する原体には竹管状工具の弧になった部分によるもの（３～７）、先の尖った細い棒状工具によるものなどがある。３・４は平縁のもの。口唇断面はいずれも角形である。３はＨ－15（図Ⅲ－６－３）、Ｈ－18（図Ⅲ－23－26）と同一個体。口唇部には断面の丸い棒状工具で斜めに浅く刻みを入れているが、口縁部の外角にまで及んでいる。口縁部には竹管状工具による押引き文が３条めぐっている。ＬＲとＲＬ原体による羽状縄文が施されている。４は口縁部がやや外反する。文様構成は３と類似するが、押引き文の施されている範囲は狭く、羽状縄文も整然と構成されていない。縄文が重なって菱形文様のようにみえる部分もある。内面には炭化物が付着している。３・４ともに施文後、指などですり消されている部分がある。５・６は緩やかな波状口縁のもの。５に施されている押引き文は半ば沈線文のようになっており、波頂部では２条の押引き文をつなぐ短い文様も施文され

ている。体部には縄文が施されているが、原体は、はっきりとしない。羽根状あるいは菱形の構成のようにみえる。6は3と類似するものである。ＬＲ原体による斜行縄文が施文されている。7a・bは底部付近の部位、同心円状に器面に施されているが、原体を引く際に止めることをせず、沈線文のようになっている。押引き文に先立って、条の細いＲＬ原体による斜行縄文が施されている。

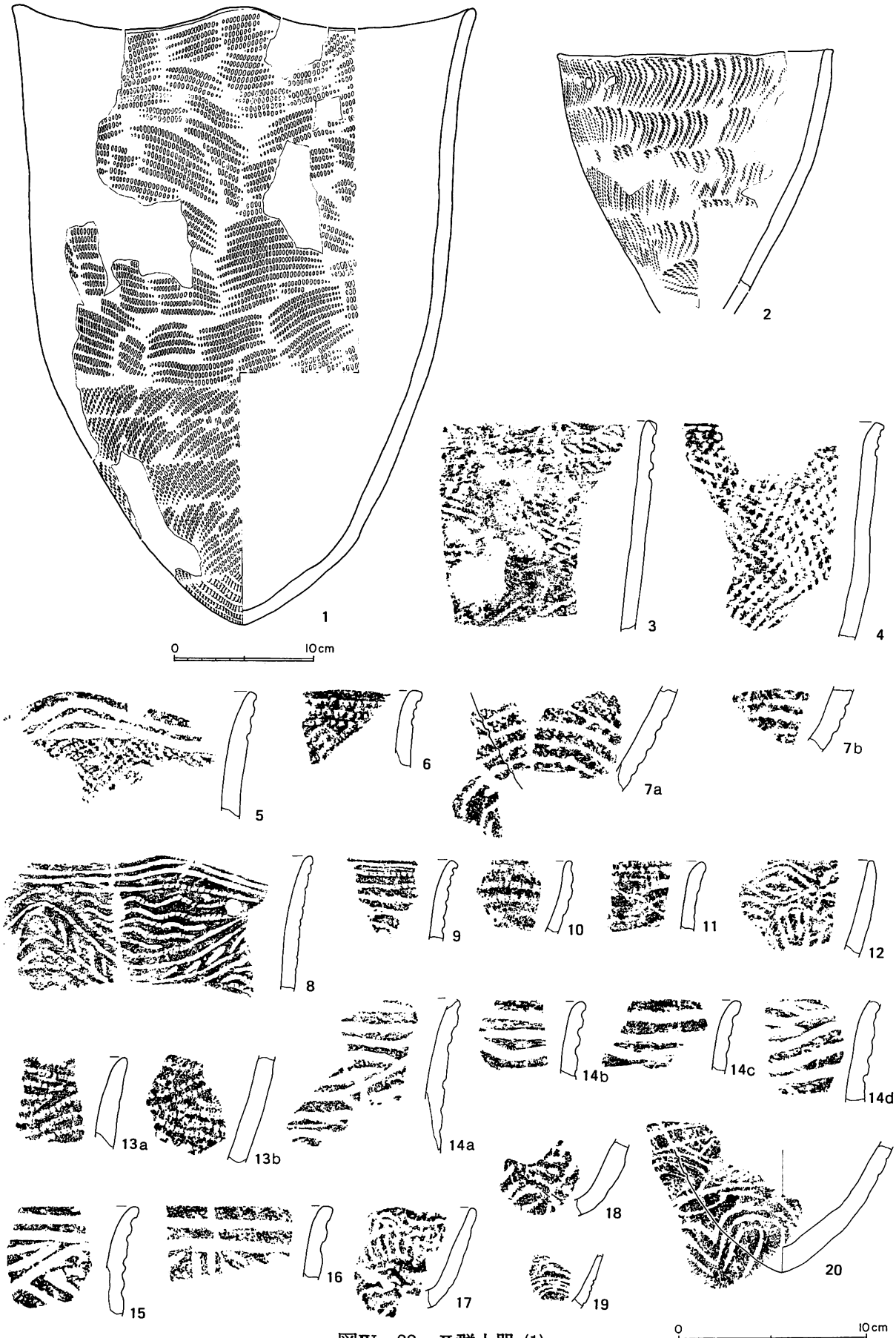
b種　押引き文が施されているもの（1・8～20）。

口縁部のみ、底部のみの破片が多いため、縄文やほかの文様と組み合わせて文様が構成されている可能性がある。押引き文の施文の方法も様々で、押圧しては引くという一般的なもの、刺突文列の効果にみえる押圧を一つ一つ強くするもの、押圧することをせずに沈線文のように引いていくものなどがある。

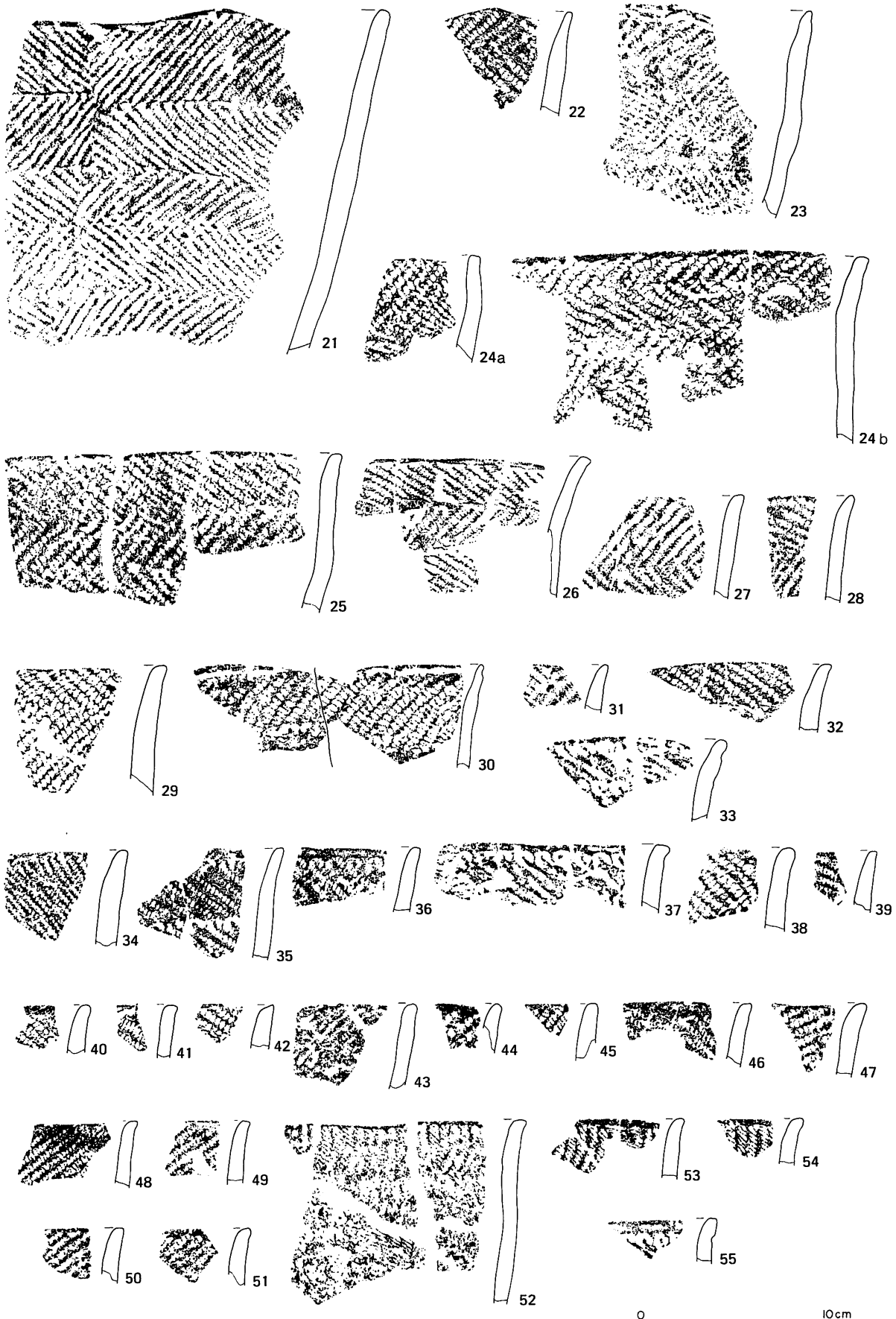
1は器高が45㎝程ある大型土器。4ヵ所に山形の波頂部がある。底部から体部半ばまでは開き気味で、半ばから口縁部にむかって直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。内・外面ともに凹凸がある。口唇断面は内側の丸味を帯びた角形で、文様は非常に丁寧に施文されており、口縁部から体部下半までは0段多条のＬＲ原体を斜位に施して横走気味の縄文が施文されている。全体として縄文帯による波状の文様となっている。下半部から底部付近までは同じ原体で斜行縄文を4段程施文しているが、底部付近では、口縁部同様横走気味になっている部分がある。底部から5㎝程の間には幅5㎜程の篦状工具によって、底部にむかって、斜位、縦位に、浅く押引き文が施されている。内面は底部まで非常に丁寧にナデ調整されている。器面は体上部では灰黄褐色を呈し、一部は大きく楕円形状に黒色になっている。底部付近は赤褐色である。8は緩やかな波状口縁のもの。口縁にそって平行に施文し、体部には大きく波状に施文し、その間に小さく波状に複数施文している。沈線文的に施文されている部分もあり、短く押引き文間に斜めに施されている部分もある。口縁部文様を施文前に、ＬＲ原体とＲＬ原体によるかとみられる縄文が施されているが、羽状あるいは菱形の文様に構成されているとみられる。9は波状口縁をなすとみられ、口縁直下に押引き文の原体とは異なる細い棒状工具による沈線文が1条めぐっている。11は篦状工具あるいは、半截竹管状工具の弦の部分によったらしい押引き文のもの。中に細い筋がみえる。12は口唇断面は薄く、縦・横に弧状の文様を描いている。13a・bは同一個体の可能性があるもので、刺突文列的な押引き文のもの。14a～dは沈線状の押引き文のもの。Ｈ－37の土器（図Ⅲ－107－8）と同一個体の可能性がある。幅が4㎜～5㎜程の太い竹管状工具で口縁部に平行に施文し、弧状、波状の文様がその下位に施されるらしい。15・16は14と類似するが、15は14と比べて胎土に繊維が少なく、焼成も良好である。16は、縦位に文様が施され、これにつなぐように弧線が描かれている。14と同一の可能性もある。17～20は底部あるいは底部に近い部位の破片。20は底部を囲むように大きく楕円形状の文様が連続して描かれているようである。体部には弧状、平行の押引き文の文様がある。18は押引き文を連続させず、短く間隔をあけて施文しているようにみえる。17は緩やかな波状の小型土器。手捏ねで作られたものであろう。口縁部と体部半ばに波状に施文された文様を、縦位の弧線でつなぐ文様が施されているとみられる。底部付近は同心円状に施されているらしい。19はミニチュア土器で細い施文具により波状の文様が描かれている。Ｈ－18出土の土器片（図Ⅲ－23－30）と同一個体。

c種　縄文の施されているもの（2・21～55）。

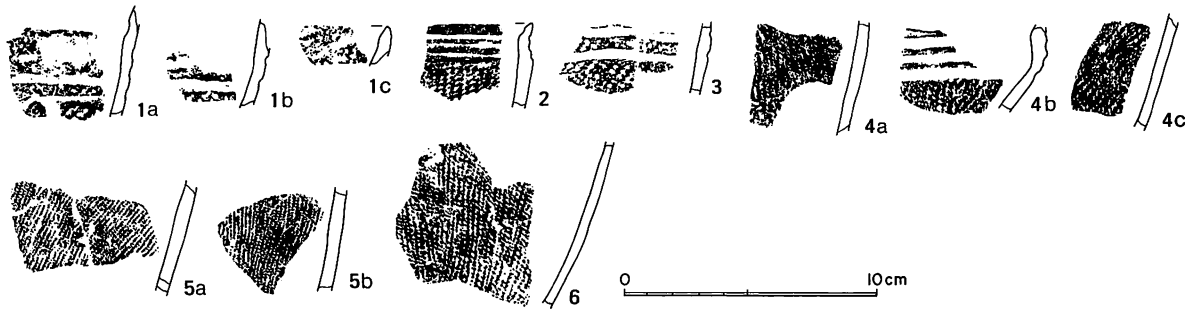
2はＮ－8－08からまとまって出土した。底部は欠損している。底部付近から開き気味に立ち上がり、口縁部でごくわずかに直線的になる中型土器。器面には0段多条のＬＲ原体による、撚りのゆるい自縄自巻的な原体による縄文が施されている。弱く撚られているため、先端は弱いループ状になっている。器面の凹凸が著しい部分では、条の間隔がほかの部分よりも広くなっている。施文後に指な


1
2
3
4
0
10cm
5
6
7a
7b
8
9
10
11
12
13a
13b
14a
14b
14c
14d
15
16
17
18
19
20
0
10cm

図Ⅳ－22　Ⅱ群土器 (1)


21
22
23
24a
24b
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
0
10cm

図Ⅳ－23　Ⅱ群土器 (2)




図Ⅵ－24　Ｖ群土器

どですり消されている部分もみられる。底部付近では横走気味の縄文になっている部分もある。内面は丁寧に調整されている。21～29は羽状縄文が施されているもの。21・22は波状口縁、23～29は平縁のもの。０段多条の原体を使用しているものが多い。21は大型土器。非常に焼成が良く、内面も丁寧にナデ調整されている。ＬＲとＲＬの原体を交互に施して、羽状縄文と菱形の文様が構成されている。23は口縁直下に１条ないし２条の沈線文がめぐっているとみられる。23と同様の文様構成であるが粗く、不規則に施されているので、文様が乱れている。内外面ともに凹凸が著しい。24～26は口縁が外反する器形のもの。24は条の比較的太い原体で施文されている。内面は丁寧に調整されている。25は24と同一個体の可能性がある。26は薄手の土器。縄文は21のように段状に施文されている。28は口縁部がやや外反する。30は小型の土器。口縁直下に１条、沈線文が施されているが、途切れている部分もあるらしい。31～55は斜行縄文が施されている口縁部。小片のため全体の文様はわからない。31は磨滅していてはっきりしないが、同じ原体を斜位・縦位に施した羽状縄文のものかもしれない。明瞭に波状口縁とわかるものは32と33のみである。32～42はＲＬ原体、43～51はＬＲ原体による縄文のもの。37と55は同一個体で、縄の末端のループ状の部分がある。52は口縁部がやや外反するもので、２と同様、撚りのゆるい原体による縄文が施されている。

縄文時代晩期の土器（図Ⅳ－24　図版121）

Ｖ群（１～６）

27点出土した。１a～cは同一個体。口縁部に浅い幅広の沈線が間隔をあけて複数施されている。口縁部内側にも１条めぐっている。２は口唇が尖り気味で頸部の幅が広く、幅２㎜程の沈線が３条めぐっている。内側にも１同様にやや段状に沈線が引かれている。体部にはＬＲ原体による縦行縄文が施されている。３はＬＲ原体による斜行縄文を施した後に幅広の沈線文を加えてある。１～３は深鉢型土器。４ａ・ｂは頸部がくびれる深鉢型土器。ＬＲ原体による縦行気味の縄文が施されている。口縁部にはやや幅広の沈線文が間隔をあけて施されている。５・６はいずれも体部の破片で、縦行縄文が施されている。

## 2．石器

包含層出土の石器総数は、12,550点で、内訳は剥片石器群7,116点、磨製石器群89点、礫石器群5,330点である。出土総数は昨年度より少ないものの、一定の範囲で平均的に出土する傾向を示しており、昨年度ほど分布の疎密は大きくない。遺構付近での出土点数が多いものの、石器の分布は必ずしも遺構の集中度とは比例していないようである。微地形からみると、Nラインの東側付近にある浅い沢地形から東側での出土が著しい。特に、遺構集中部から東の銭亀宮の川にかけて位置する標高のやや高い場所での出土が目立つ。石器ごとの分布では、磨製石器群や石核、すり石等に集中部が認められるように、個々に異なる分布傾向を示しているが、明瞭に作業場所を反映していると思われるものは少ない。度重なる遺構の構築や遺跡の利用頻度の高さに由来しているものと思われる。

### a．剥片石器

剥片石器群は総数7,116点で、全体の56.7%を占める。石器は、石鏃・石槍・石錐・両面調整石器・石匙・スクレイパー・加工痕ある剥片（Rフレイク）・使用痕ある剥片（Uフレイク）・フレイク・石核等が出土している。後4者を除く狭義の石器は443点出土している。石材は黒曜石が数点ある他はすべて硬質頁岩である。硬質頁岩としたものには一部めのう質頁岩が含まれている。

**石鏃**（図－Ⅳ－32－1～34　図版－122）

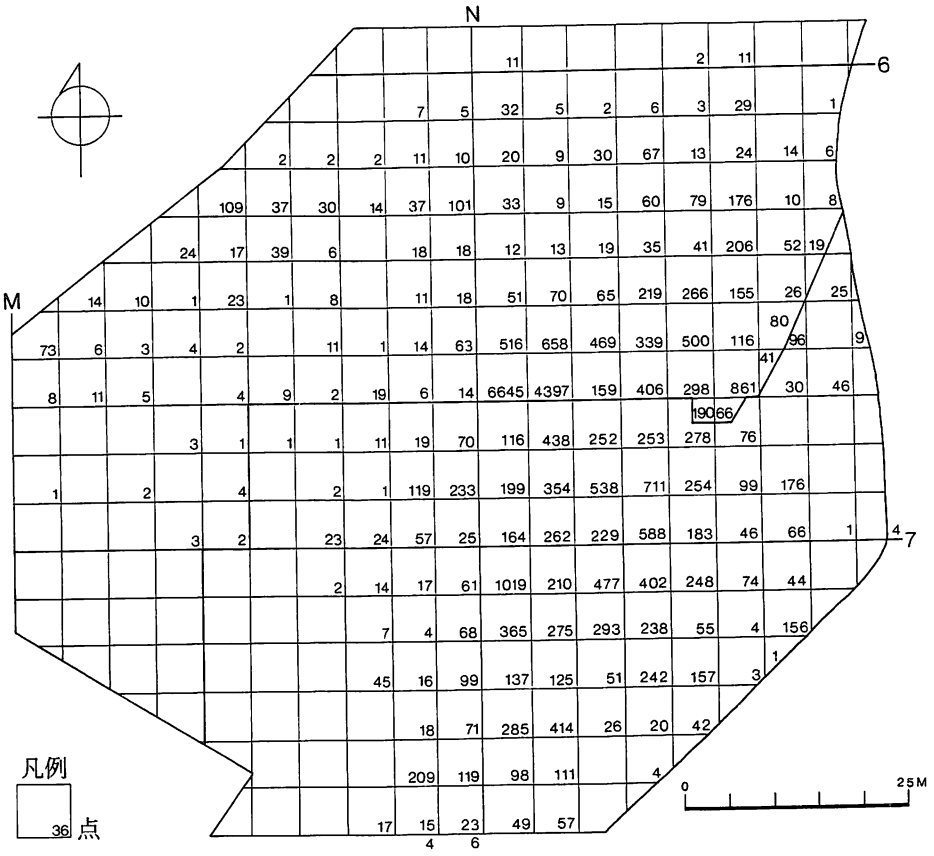
53点出土している。転用品で錐としたものが6点あり、それらを加えると59点となる。3点の黒曜石製（22・25）を除いてすべて石材は、硬質頁岩である。内訳は1a類31点（58.5%）、1b類6点（11.3%）、2類4点（7.6%）、3類3点（5.6%）、4類5点（9.4%）、5類4点（7.6%）で、形態不明の5類を除くと、1a類が70.5%を占める。1～19は1a類である。1a類はさらに基部の特徴から抉入部が屈曲するもの（1～13）と浅く湾曲するもの（14～19）に大きく分かれる。このうち、9は周縁を鋸歯状に加工したものである。17は先端部を再加工したものである。22～24は1b類、25～27は2類、28・29は3類、30～34は4類である。2類のうち、24は1a類の製作途中の可能性がある。4類は1類の製作途中、もしくは粗製品であろう。

**石槍**（図－Ⅳ－32－35～37　図版－122）

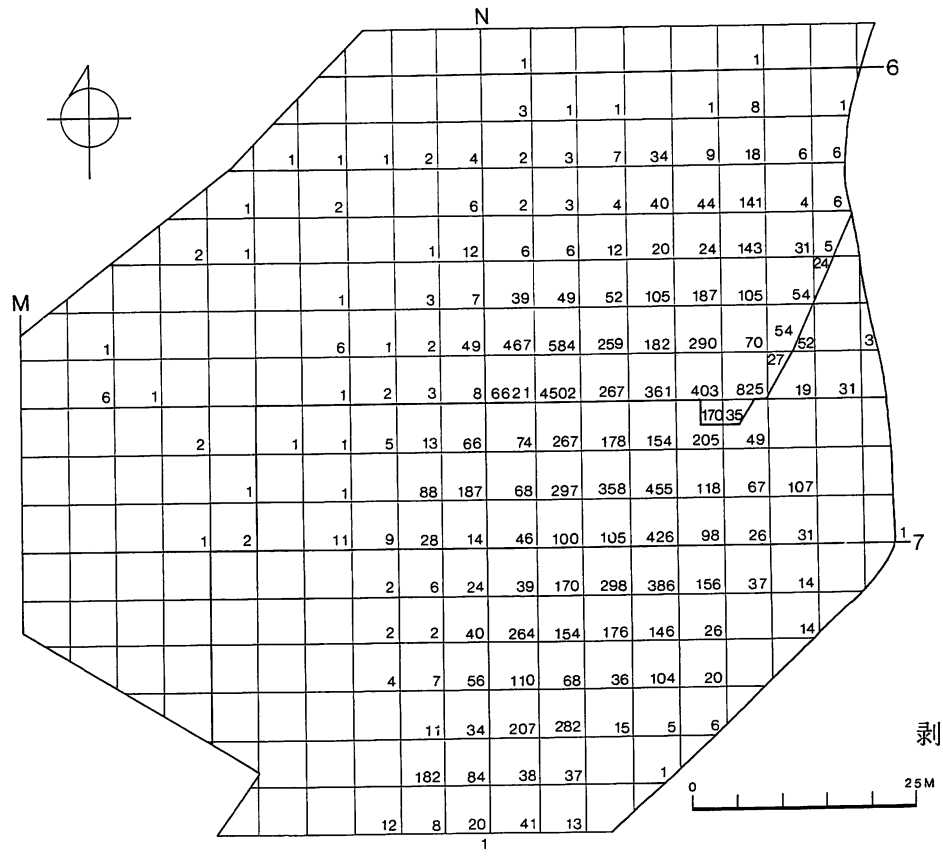
11点出土している。ただし、欠損品が多く、完形品は掲載した3点だけである。1a類5点（45.5%）、1b類1点（9.0%）、3類5点（36.5%）である。1a類がほとんどであるが、遺構出土の石槍とは割合が多少異なっており、必ずしも遺跡全体の傾向を表してはいない。35は1b類、36は1a類である。36は若干左右が非対象となる。左面右側縁が中央部でわずかに屈曲している。上端が基部であろう。37は製作工程初期のものである。すでに尖頭部が作出されている。この資料でみる限り、石槍は製作過程中に他の両面調整の石器と分けられたのではなく、当初から石槍を意図して製作されたと思われる。

**石錐**（図－Ⅳ－33－38～54　図版－123－1）

31点出土している。1類10点（32.2%）、2類6点（19.4%）、3類8点（25.8%）、4類6点（19.4%）、5類1点（3.2%）である。石材はすべて硬質頁岩である。38～42は1類である。先端部の加工は、先端部と柄が明瞭に分かれるもの（39・42）と、尖頭部付近を加工しそのまま先細りするもの（38・40・41）がある。42は尖頭部の作り出しが長い。43～45は棒状の形態の2類である。2類は周辺加工で細身のものも含めている。46～49は3類である。3類は剥片もしくは石器の折れ面を利用して尖頭部を作り出す特徴的なものである。50～54は石鏃を転用した4類である。4類は20%弱を占め、転用率は比較的高い。



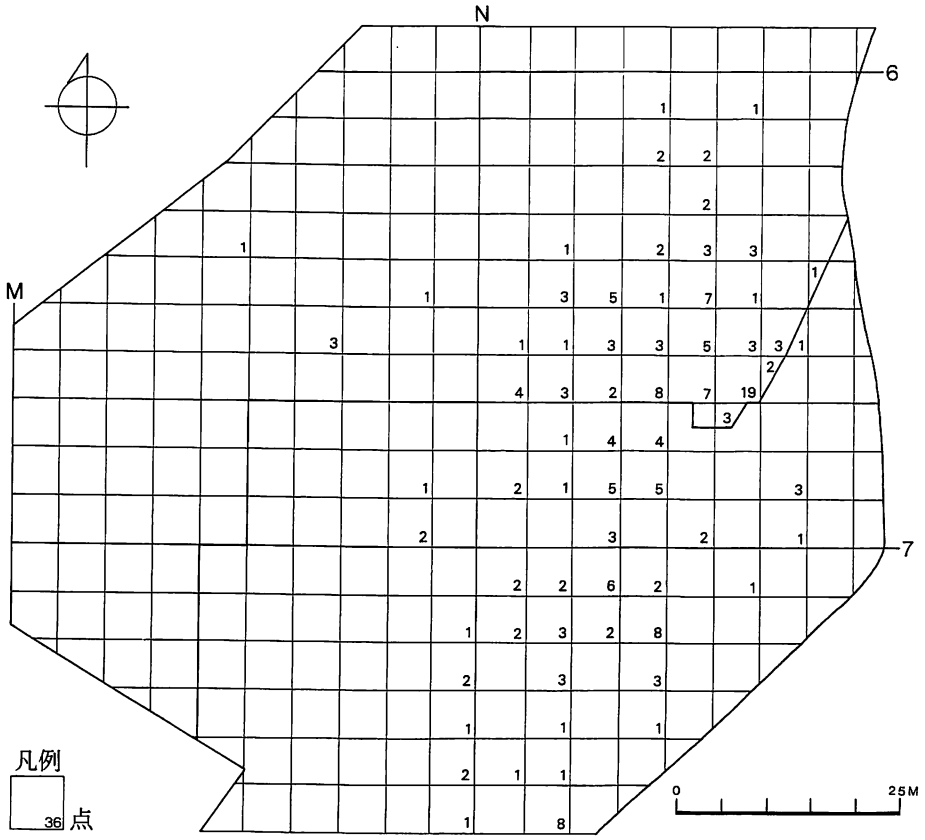

H－3年
N－6－01－4点
N－6－13－7点
N－6－21－1点
N－6－31－2点
N－6－32－2点
N－6－34－3点
N－6－35－1点
N－6－41－1点
N－6－42－3点
N－6－43－2点
N－6－44－5点
N－6－45－1点
N－6－51－2点
N－6－52－2点
N－6－54－1点
N－6－56－2点
N－6－62－8点
N－6－63－1点
N－6－64－6点
N－6－66－7点
N－6－67－2点
N－6－68－4点
N－6－74－5点
H－4年
K－10－76－3点
M－8－91－2点
N－6－75－14点
N－6－77－8点
N－6－78－4点
N－6－79－1点
N－6－87－3点
N－6－88－5点
N－6－90－1点




剥片石器群

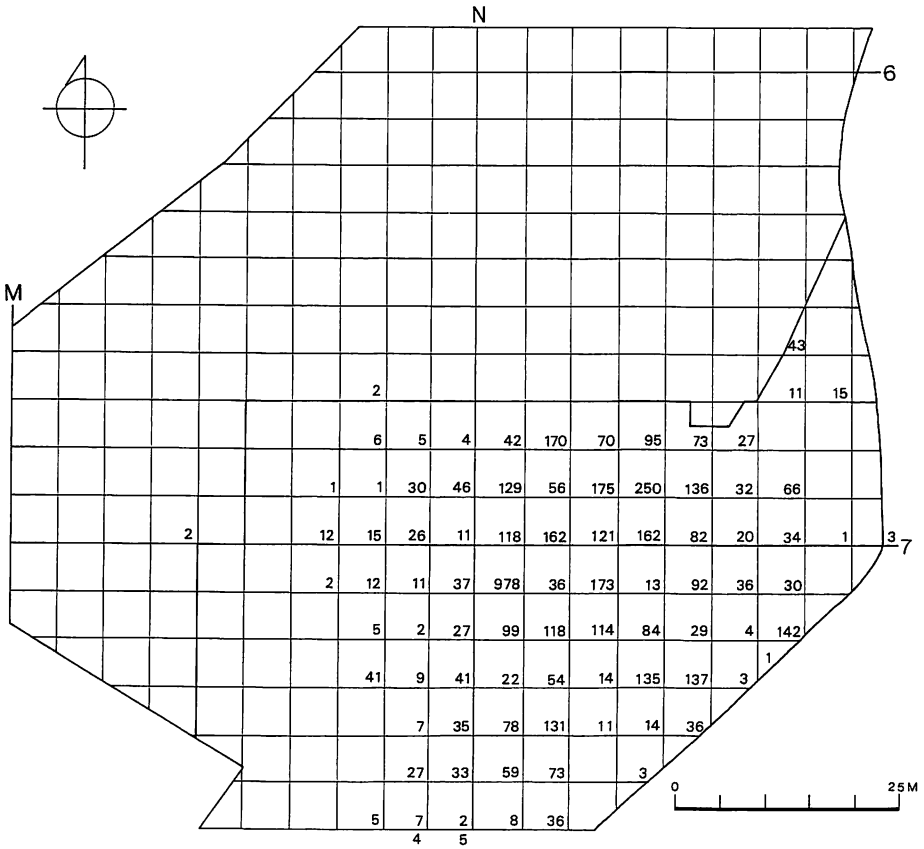
H－3年
N－6－21－1点
N－6－31－2点
N－6－42－1点
N－6－44－1点
N－6－50－1点
N－6－62－1点
N－6－64－5点
N－6－74－4点
N－6－75－2点
N－6－77－1点
N－6－78－1点
H－4年
K－10－76－3点

図Ⅳ－25　発掘区別出土石器総数（1）




H－3年
N－6－63－1点

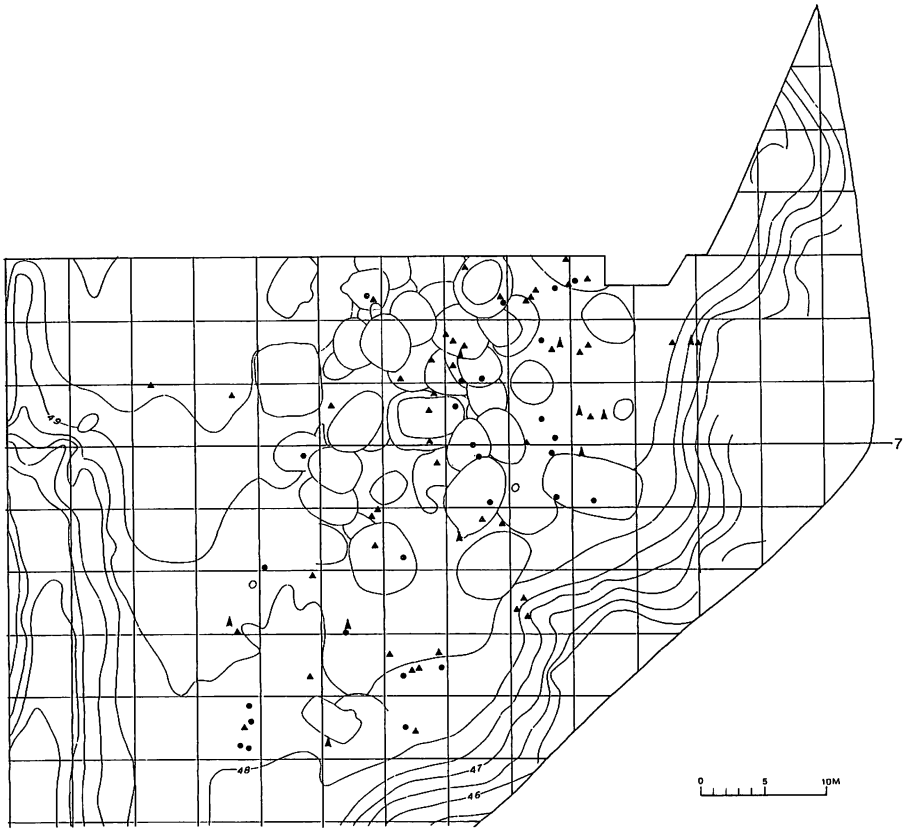
磨製石器群



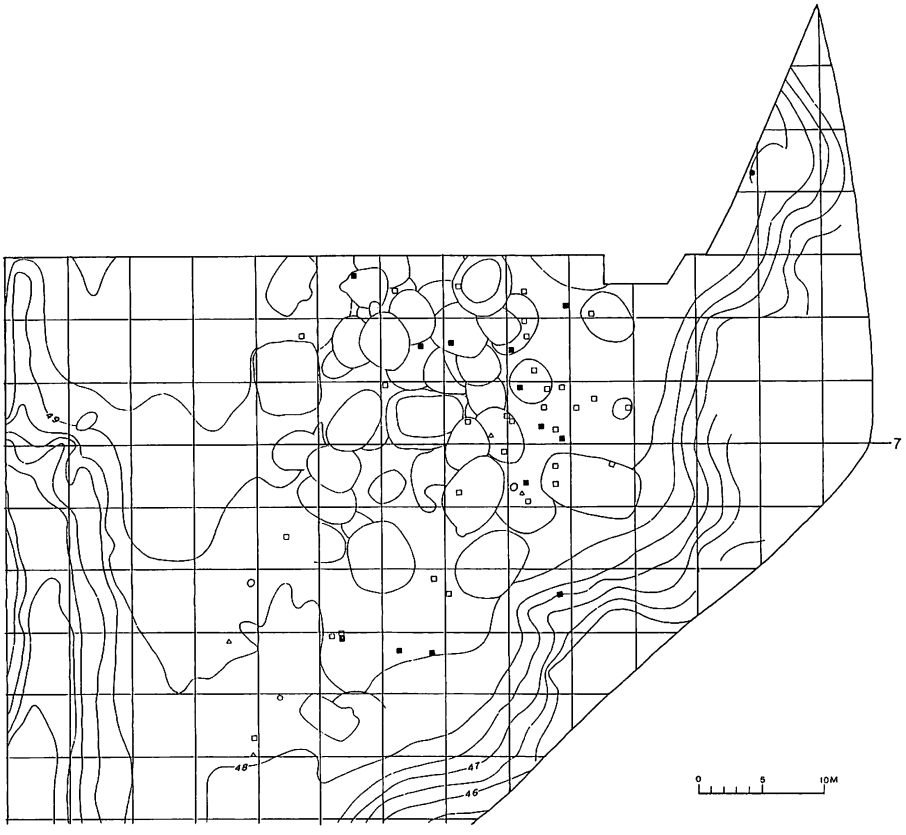

M－8－91－2点
N－7－90－3点

礫石器群

図Ⅳ－26　発掘区別出土石器総数 (2)

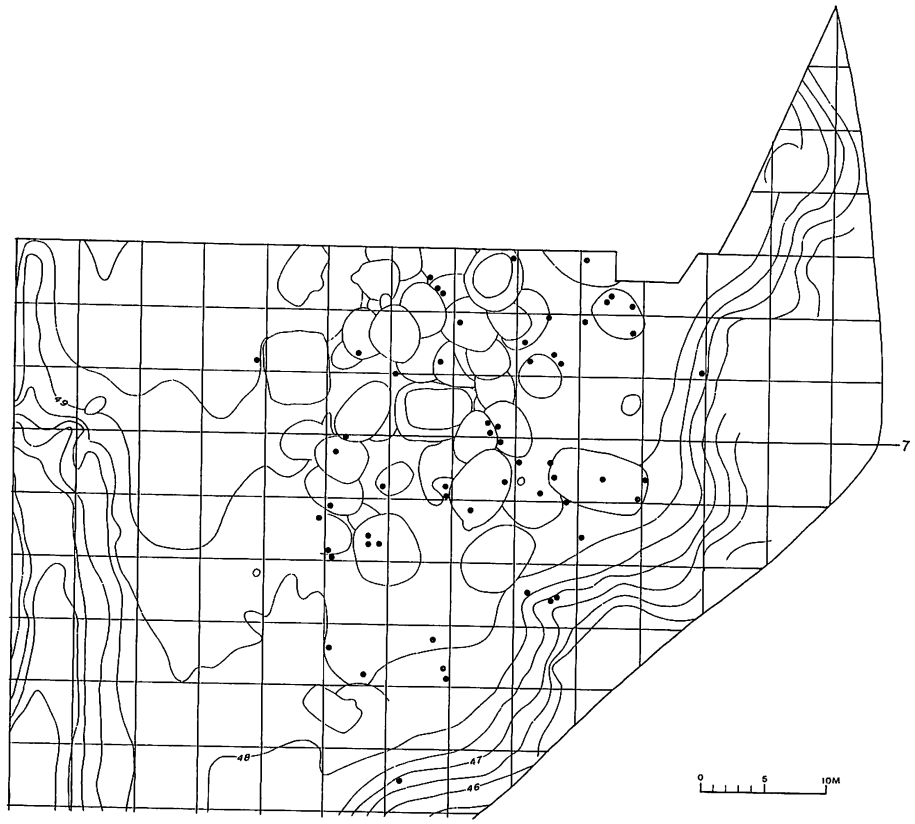



石鏃・石槍・石錐



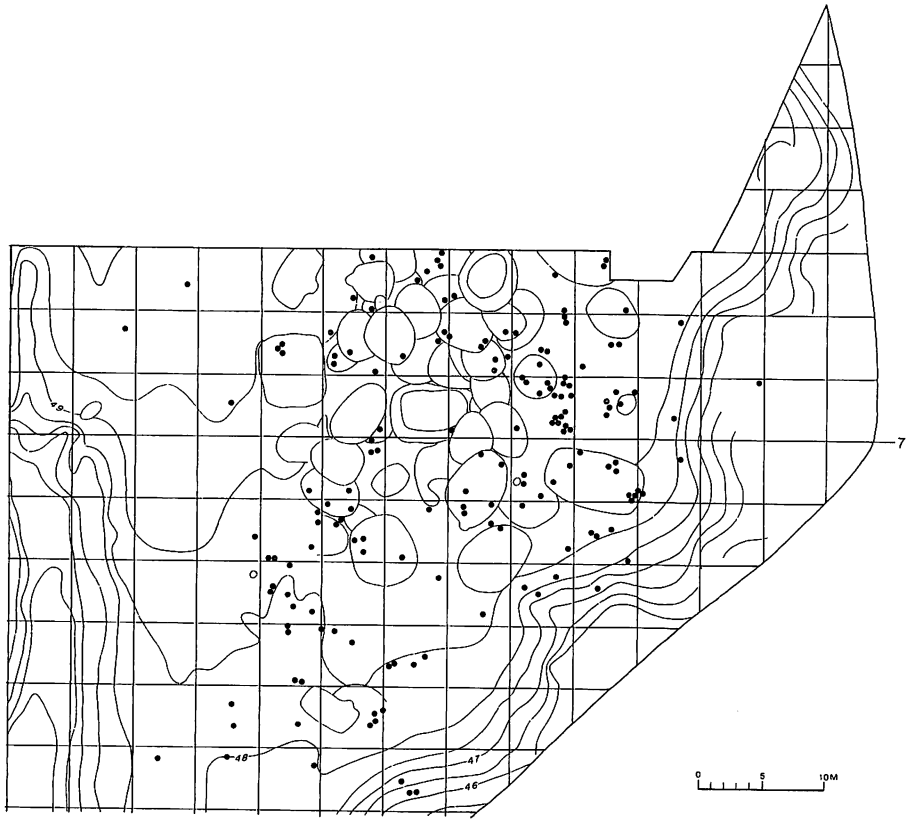

篦状石器・両面調整石器

図Ⅳ－27　分類別分布図（1）




• 石匙

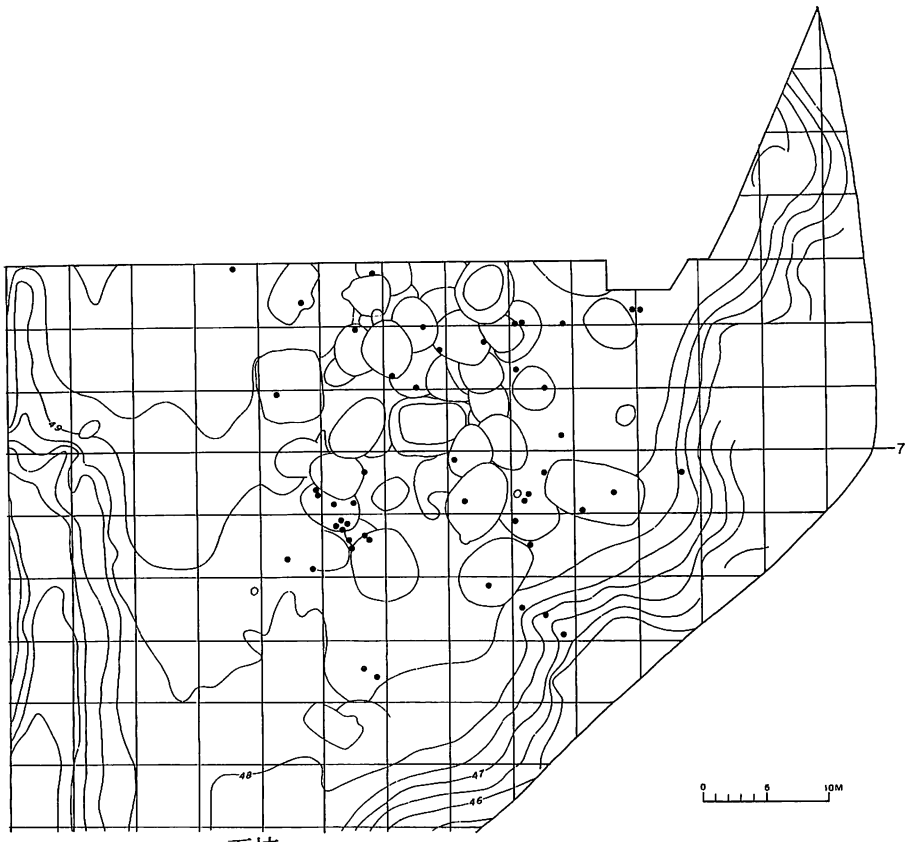
石匙



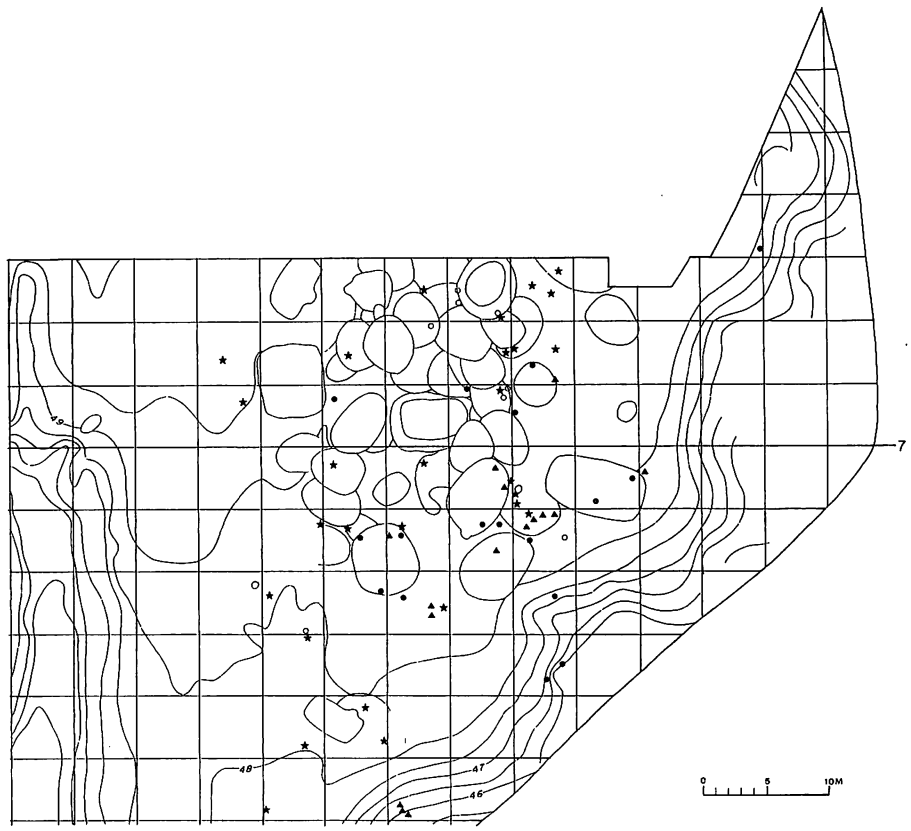

• スクレイパー

スクレイパー

図Ⅳ－28　分類別分布図 (2)

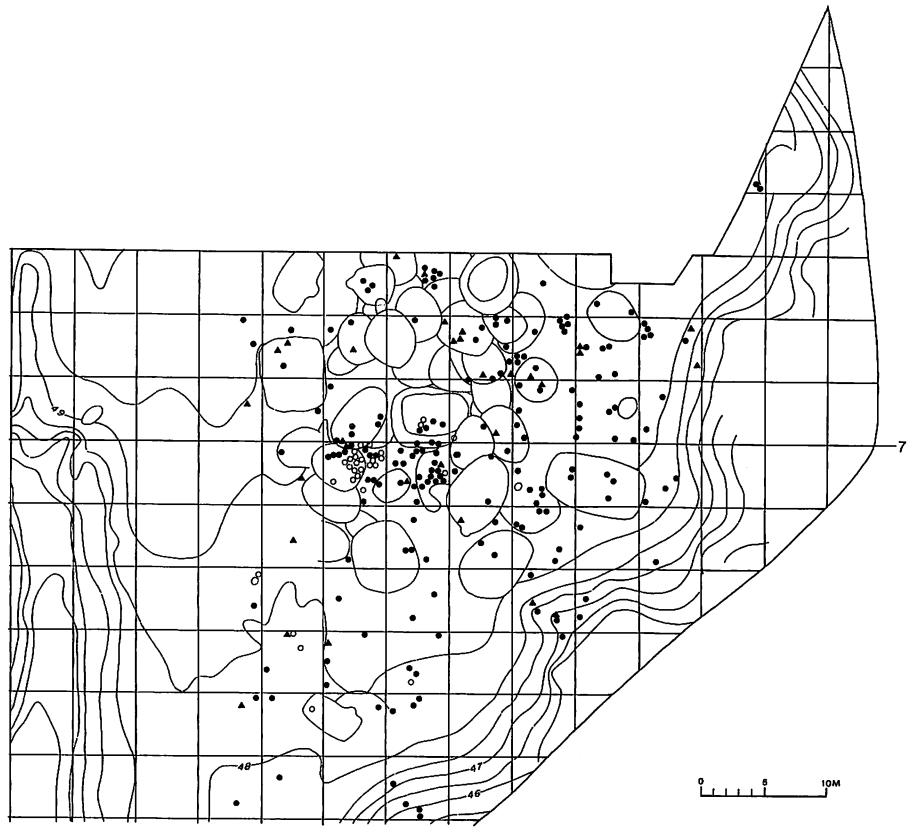



石核

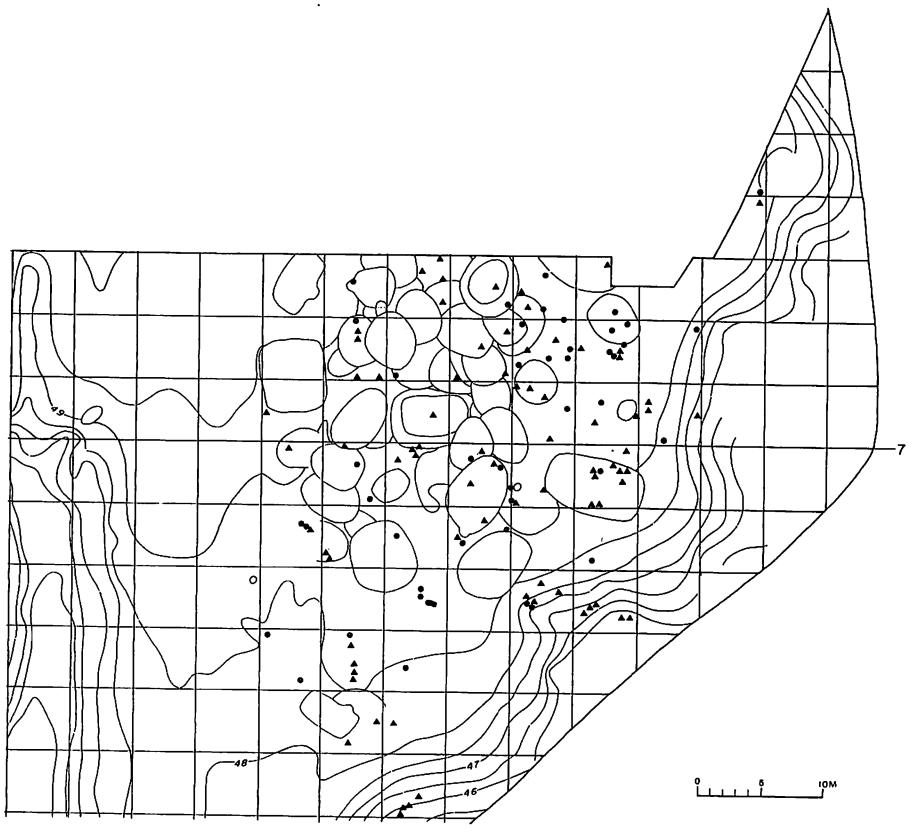



石斧・擦切残片・研磨石材・石斧破片

図Ⅳ－29　分類別分布図 (3)

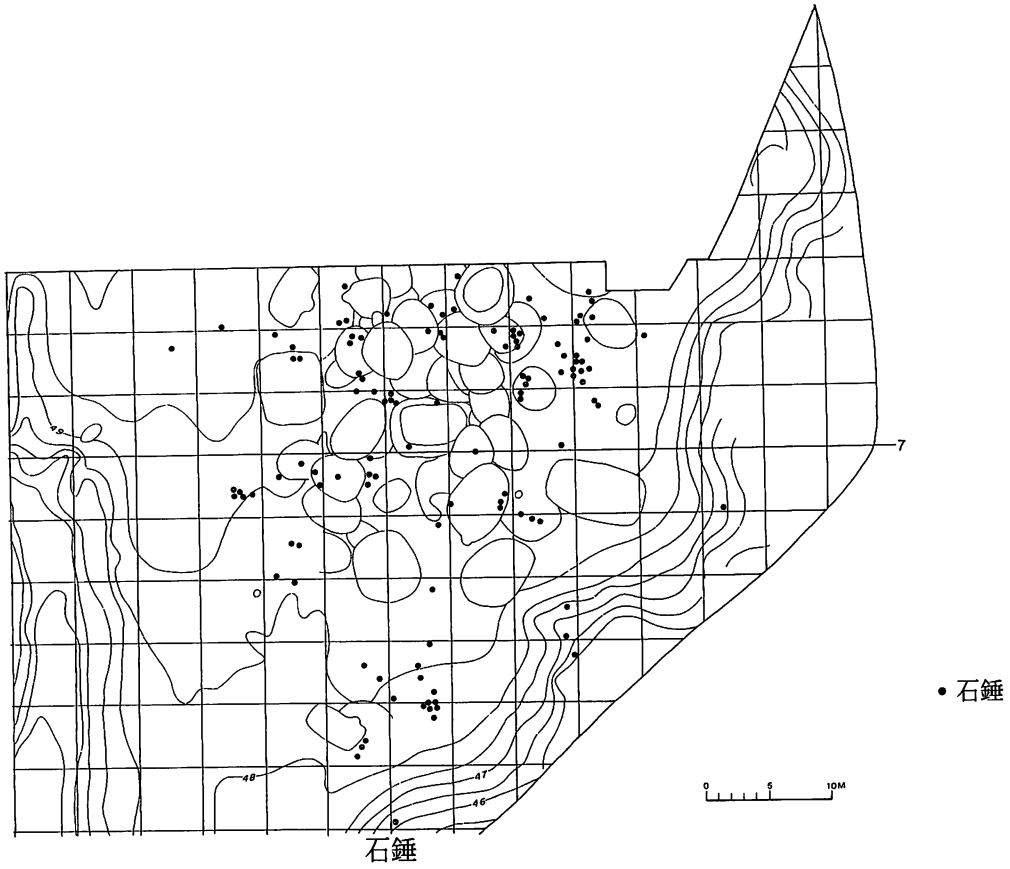



たたき石・すり石・石皿




砥石・石鋸

図Ⅳ－30　分類別分布図 (4)




図Ⅳ－31　分類別分布図 (5)

**篦状石器**（図－Ⅳ－33・34－55～71　図版－124）

篦状石器は40点出土している。石材はすべて硬質頁岩である。１ａ類12点（30.0%）、１ｂ類３点（7.5%）、１ｃ類２点（5.0%）、２ａ類11点（27.5%）、３類12点（30.0%）で、直刃のａ類の（67・70・71）は素材の形状を利用して製作されており、前２者を簡略化したものであろう。刃部は両刃・片刃両者認められるが、片刃のものがほとんどである。56～63は１ａ類である。58は石槍の転用と思われる。59は刃部の加工途中に廃棄されてものと思われ、大きな剥片を残す。60も刃部の加工途中の廃棄である。61～63は小型のものである。63については両面調整石器として扱うべきものかもしれない。65～66は１ｂ類である。65は基部が摩滅しており、石錐に転用されている。65は左面右側縁の基部側が摩滅しており、石鋸に転用されている。55・64は１ｃ類である。いわゆるトランシェ様石器と呼ばれるものである。65～71は２ａ類である。２類では両面加工のものが１点と少なく、また曲刃のｂ類も包含層からは得られていない。

**両面（片面）調整石器**（図－Ⅳ－34・35－72～79　図版－123－２）

上記の分類に入れ難いものを一括して両面調整石器とした。25点出土している。石材はすべて硬質頁岩である。形態のわかるものについて、形態上の特徴からいくつかについてまとめておく。72～74は２類とした小型で三角形・撥型のものである。石鏃未製品の可能性をもつものもある。76・77は３類とした木葉形のものである。３類は尖頭部があれば石槍と分類できるが、先端は尖頭部として意図的には加工されていない。２点出土している。78は４類とした一方に平坦面をもつ半円状のもの。平坦面は折れ面である。２点出土している。３・４類は形態が異なるものの、湾曲する側縁を刃部とする同様の機能が考えられる。75・79は他に類例がないため５類に含めた。75は小型の方形状のもので

基部がやや丸みをもつ。加工は丁寧である。79は大型で粗製のものである。形態は箆状石器の一部に似るが、未製品としても大きく、厚みがある。

**石匙**（図－Ⅳ－36－80～101　図版－125）

71点出土している。石材はすべて硬質頁岩である。身部の加工方法とつまみ部の形状で分類した。１ａ類１点（1.4%）、１ｂ類１点（1.4%）、２ａ類１点（1.4%）、２ｃ類７点（15.5%）、３ｃ類21点（29.6%）、３ｄ類４点（5.6%）、４ｃ類９点（12.7%）、４ｄ類４点（5.6%）で、他は形態不明のものである。80は１ａ類のものである。他と比較して、薄く精巧に製作されている。81は１ｂ類である。１ｂ類は遺跡全体で１点のみで、１ａ類の粗製品の可能性もある。82～85は２類とした半両面・片面加工のものである。83は端部が円形に加工されている。84は形状から早期後葉～前期前葉のものと思われ、２類の半数以上はこの時期のものと思われる。86～93は３類である。形態不明のものを除けば、半数以上が３類である。87・88は３ｄ類で、他は３ｃ類である。94～100は４類である。素材は長さ５㎝前後の薄手の剥片が多い。縁辺には微細な剥離痕が残る。94～97・10は４ｃ類で、98・99は４ｄ類である。101は大型のもので、この種のものは他には出土していない。表面が一部被熱により剥落している。背面右側縁には細かな加工痕が認められる。

**スクレイパー**（図－Ⅳ－37・38－102～125　図版－126）

211点出土している。石材はすべて硬質頁岩である。１ａ類５点（2.4%）、１ｂ類58点（28.3%）、２類124 点（60.5%）、３類６点（2.9%）、４類６点（2.9%）、５類６点（2.9%）で、他は形態不明のものである。外湾する刃部をもつ１類が約30%あるのに対し、内湾する刃部をもつ３類が少ないのが対照的である。刃部の形態はかなり素材に影響されていると思われ、刃部を作出する素材の部位をかなり意図的に選択している。１ａ類は円形状のものも含めている（102～104）。短軸に刃部を作出するものは包含層からは１点しか出土しておらず、１ａ類としたものは円形状のものがほとんどである。105～109は１ｂ類である。２側縁に刃部をもつもの（105・109・110）は８点ある。110～121は２類である。整った縦長剥片素材のもの（111・112）は10点にも満たず、ほとんどは幅広・横長剥片である。２側縁に刃部をもつもの（112・116・121）も15点と少ない。加工部位は腹面、背面加工ともにみられる。これは素材にあわせて刃部角が急角度となる面を加工して刃部を作るためであろう。122・123は抉入部をもつ４類、124・125は鋸歯状の刃部をもつ５類である。５類は間隔が一定で比較的大きな剥離によるものを分類している。

**石核**（図－Ⅳ－39・40－126～136　図版－127）

66点出土している。石材はすべて硬質頁岩である。このうち、129・131は節理が多く粗粒で珪質分の少ない頁岩である。この種の頁岩は付近の礫層中に角礫として若干含まれている。これを石材とする石核は５点出土しており、他と比較して大型である。ただし、石器にはほとんど利用されていない。石核からみた剥片剥離技術は、打面と作業面を固定するもの（126～131）、打面転移を行なうもの（132・133・135）、作業面を固定して打点を移動させるもの（134・135）の３種類が認められる。数量的には、打面転移を行なうものが最も多く、他２者は各10点以下の出土である。素材は大部分が礫素材のもので、剥片素材のもの（132・134・136）は非常に少ない。

ｂ．磨製石器群

磨製石器は89点で全体の0.7%を占める。磨製石斧・環状石斧・擦り切り残片・研磨石材・石斧破片が出土している。石材は蛇紋岩が78点（87.6%）、閃緑岩２点（2.3%）、緑色泥岩９点（10.1%）である。なお、遺構からは片岩製のものが１点出土している。他の石器群と比較して出土数が少なく、

個体ごとの石質の相違が大きいために多く接合した。最も遠い距離での接合は約40ｍある。

**磨製石斧**（図－Ⅳ－41～43－137～153　図版－128・129）

磨製石斧は33点出土している。石材は閃緑岩１点、緑色泥岩７点の他はすべて蛇紋岩である。製作技法による分類では１類26点、２類１点、４類６点で、擦り切り技法による１類が75%以上を占める。３類とした礫石斧は本年度の調査で出土していない。

137～149は１類である。149が緑色泥岩製である他はすべて蛇紋岩製。器形の仕上げはあまり丁寧ではなく、ほとんどが側面に擦り切り痕を残している。また、基部は傾斜したり、丸みを帯びているものが多い。これは基部付近が素材の形状をほぼとどめていないためであり、円礫を素材としていること、製作された石斧の長さと素材の長さがあまり変わっていないことが推定できる。刃部は大部分が片刃であり、明瞭な鏑はほとんど作られていない。刃部の形態は円刃もしくは偏刃である。刃部の研ぎ出しは137を除き斜め～横方向に行なわれている。

破損後の再生は顕著に認められる例が多い。137は刃部の破損後、再度折れ面に刃部を作出しようと試み、折れ面を研磨している。138では破損した刃部に擦り切りの痕が認められ、明らかにのみ型の石斧を製作しようとしている。145・146は基部の折れ面に研磨が認められる。石斧が破損し短くなっても利用しようとした意図がうかがえる。140も刃部側の折れ面に研磨の痕跡がある。147は擦り切り残片を素材としたのみ型のものである。のみ型の石斧は擦り切り残片や138のような大型の石斧の破損品を素材としていると思われる。149は擦り切りの後、敲打によって整形している。

150は２類である。質の悪い緑色泥岩を石材としている。包含層出土のもので２類と認定できるものはこの１点のみである。

151・152は全面が研磨され、製作技法は不明。151は緑色泥岩、152は閃緑岩である。２点とも基部が細く仕上げられている。同様の形態のものは他に１点出土している。152は刃部再生のための剥離痕がある。遺構の出土状況からみて、この種の石斧は早期中葉の時期のものではなく、以降の時期のものと思われる。153は昨年度出土の礫石斧。細長い礫に刃部だけを作出したものである。刃部は打ち欠きの後、研磨して作出している。

**擦り切り残片**（図－Ⅳ－43－154～157　図版－129）

19点出土している。石材はすべて蛇紋岩である。両側縁に擦り切り後の折断面をもつものは１例しかない。長さは大小さまざまで、細身のものと凹凸のある不整形なものが出土している。また、10cm前後のものはすべて折れている。幅広のものは出土しておらず、昨年度報告されたように単に整形のために擦り切りを行なっている場合があると思われる。大型の残片が少ないことについては、たとえ折り取りの際破損しても、大部分が再利用された結果と思われる。

**研磨石材**（図－Ⅳ－44－158～160　図版－129）

17点出土している。ただし、完形品は４点しか出土していない。石材は158が緑色泥岩である他はすべて蛇紋岩である。擦り切りを行なう前の研磨は、厚さを減じること、凹凸をなくし厚さを一定にすることの二つの目的があると思われる。

など、157は一応研磨石材としたが、大型の石斧の基部である可能性が高い。石斧再生過程の一つの好例である。素材破損後、まず両面から擦り切りを行なって溝を入れており、その後で板状に割れている。この割れが意図的なものかどうかは不明。割れた後、一方の破片の折れ面を研磨し、先の擦り切り溝にあわせて再び擦り切りを行なっているが、これを切断する際、破損したため廃棄されたと思われる。157は緑色泥岩を石材としているが、蛇紋岩以外の石材を用いた擦り切り技法関連の磨製石器は上記した石斧とあわせて２点しか出土していない。

**環状石斧**（図－Ⅳ－44－161　図版－129）

161は環状石斧の未製品と思われる。石材は閃緑岩である。左面は縁辺を剥離する前に研磨された面を残している。また、整形は右面を中心に行なわれており、右面では剥離の後中心部付近を敲打している。両面にあるくぼみは敲打によるものである。くぼみは中心の位置を決定し、それを目安にして縁辺を整形するためと思われる。昨年度の資料中にも半分近く欠損している未製品が1点認められた。

C．礫石器

礫石器群は総数5,330点で、全体の42.5%を占める。石器はたたき石・すり石・砥石・石鋸・石皿・石錘・加工痕ある礫・礫が出土している。後2者を除く石器は637点出土している。石材は、安山岩・流紋岩・閃緑岩・凝灰岩・石英（昨年度珪岩としたもの）・片岩等様々であるが、個々の石器によって主となる石材が異なる傾向が認められる。なお、石鋸としたものに硬質頁岩を石材とするものが一部含まれている。

**たたき石**（図－Ⅳ－45－162～175　図版－130）

39点出土している。1類15点（38.5%）、2類10点（25.6%）、3類1点（2.6%）、4類2点（5.1%）、5類11点（28.2%）で、形態不明の5類を除くと球形・円形の1・2類が大部分を占める。石材は、流紋岩8点、安山岩・石英各7点、閃緑岩4点、凝灰岩・泥岩・片岩各2点、不明5点である。石英はたたき石のみに利用されており、7点のうち1類に5点認められる。くぼみ状のたたき痕をもつもの（164・172・174）は5点、あばた状の細かなたたき痕が集中するもの（170・171・173）は4点ある。162～169は1類。162はほぼ全体が使用されている。170～172は2類、170は周縁部のたたき痕が著しく、たたきの後、砥石に転用された可能性がある。174は3類、173・175は4類である。

**すり石**（図－Ⅳ－45～47－176～194　図版－131・132）

226点出土している。1類110点（48.7%）、2類38点（16.8%）、3類9点（4.0%）、4類69点（30.5%）で、形態不明の4類を除けば約70%を1類が占める。石材は閃緑岩91点（40.2%）、安山岩61点（30.0%）、流紋岩13点（5.8%）、凝灰岩11点（4.9%）、石英安山岩3点（1.0%）、片麻岩1点（0.5%）、不明46点（20.3%）である。細分ごとに顕著な石材選択の差は認められず、閃緑岩・安山岩の順で両者が大部分を占める。たたき石と複合するものは71点認められ、そのうちくぼみ状のたたき痕をもつものは7点認められる。たたき石との複合は、1類41点（37.3%）、2類18点（47.3%）、3類6点（66.7%）である。2・3類の割合が高いのは素材がたたき石と共通することにもよるが、細片の多い4類を除けば複合率が約40%もあり、たたき石とすり石が連続した作業で用いられていたと推測できる。

176～186は1類。1類は平面形態が三角形に近いもの（176～179）と棒状のもの（180～186）がある。178は重さが1,500ｇある最大級のもので、逆に179は最小の部類に含まれるものである。181はすり石が破損した後折れ面を砥石として使用したものである。182・183はすり面を3面もつもの、184は全面にすり面をもつものである。184のように全面に使用されているものは稀で、180～182のように2、3面のものが多い。185・186は角礫を素材としたもの。この種のすり面の幅は狭い。188～192は2類。側縁のたたき痕はすり痕の後に形成されていることが多いが、平坦面のたたき痕とすり痕の前後関係は不明瞭なものが多い。193・194は3類。187は球形のものである。球形のものは、この1点だけである。

**砥石**（図－Ⅳ－48・49－195～213　図版－133）

102点出土している。１類47点（46.0%）、２類31点（30.5%）、３類１点（1.0%）、４類23点（22.5%）である。１類と２類の形態の相違は機能の相違ではなく、使用頻度の差であると思われる。２類としたものでも深く抉れているようなものは少なく、使用頻度の高い個体は少ないことを示していると思われる。石材は流紋岩43点（42.3%）、凝灰岩28点（27.4%）、安山岩・閃緑岩・頁岩各３点（3.0%）、蛇紋岩・粘板岩・砂岩各１点（0.9%）、不明19点（18.7%）である。円礫、各礫等素材の形態はほとんど関係なく用いており、礫片も利用されている。石質は軟質・硬質ともにある。石材に流紋岩・凝灰岩を多用する以外には素材を選択していない。

195～201・211は１類。195・196は珪質分が少なく粒子の粗い硬質頁岩を石材としている。石英の付着面を主要なすり面としている。砥石としては最も粗いものであろう。195では２分割された後その分割面を再び使用している。199は割れた２つの礫片を利用している。202～210は２類。202・204は４面使用の角砥石。４面使用の角砥石はこの２点のみである。210は唯一磨製石器群以外で蛇紋岩が利用されたものである。212は３類。２条の浅い溝状のすり面をもつ。198・206はくぼみ状のたたき痕をもつ。たたき石との複合は４点認められる。213は砥石と石鋸の接合資料。砥石として利用された後、割れた際に生じた礫片の縁辺を石鋸として利用したものである。上端部から縦方向に割れている。

**石鋸**（図－Ⅳ－49－214～224　図版－134）

52点出土している。石材は流紋岩34点（65.5%）、凝灰岩13点（25.0%）、片岩２点（3.8%）、硬質頁岩２点（3.8%）、粘板岩１点（1.9%）で、砥石以上に流紋岩、凝灰岩が多用されている。素材は、他の石器の転用品？（214・215）、礫の縁辺をそのまま利用するもの（216～218・222・223）、礫辺の鋭い縁辺を利用するもの（219・220・221・224）などがある。砥石との複合は15点認められる（221・222）。大きさも様々あり、石材とすり面となる縁辺が細いこと以外に明確な選択の意図はみられない。214・215は硬質頁岩のもので、スクレイパーの転用品と思われる。214は刃部の再生も行なわれている。刃部再生は221・222でも行なわれているが、全体としては少ない。

**石錘**（図－Ⅳ－50－225～244　図版－135）

144点出土している。一方のみに抉りを入れ他は素材の形状をそのまま利用しているものも含めた。石材は、流紋岩44点（30.5%）、閃緑岩28点（20.1%）、凝灰岩20点（13.9%）、安山岩18点（12.5%）、泥岩４点（2.8%）、片岩２点（1.4%）、珪岩１点（0.7%）、不明26点（18.1%）である。素材は扁平な円礫の他に、角礫（242）、礫片（241）を用いたものも少数ある。加工は敲打によるもの（241）もわずかに認められる。抉りは２対あるものが１点ある他はすべて１対のものである。また、加工により形態を整えているもの（243・244）も３点認められる。他の石器との複合は、すり石が３点（241）、たたき石が２点（237）、砥石が１点（243）ある。

**石皿**（図－Ⅳ－51－245～247　図版－136）

74点出土している。ただし、N－８－09区出土の破片50点、およびN－８－69区出土の破片８点は同一個体であり、個体数としては18点以下である。ほとんどが245・246のような平坦なすり面であり、凹状になるものは247のみである。素材は角礫が多く（246・247）、円礫のもの（245）は少ない。

**加工痕ある礫**（図－Ⅳ－51－248）

248は礫の接合資料である。石材は片岩。棒状の礫を両側縁から加工しているが、何を目的としたかは不明である。

**平成３年度調査区出土の石核**（図－Ⅳ－52・53－249～257）

昨年度出土の石核は写真図版を掲載のみで、内容を説明することができなかったため、改めて記載

する。

昨年度の石核は53点出土した。その後の再検討の結果、石核は50点で接合の結果49個体を識別した。全て硬質頁岩であるが、肉眼観察で流紋岩？が１個体、やや特殊な頁岩（節理が発達し、粗粒光沢に乏しい。以下頁岩Ａと仮称。）が11個体に使われている（258～260）。頁岩Ａ素材の石器はほとんど出土しておらず、他の材質による剥片剥離作業とは若干性格が異なるものとみられる。

**大きさについて**　石核の重さは9.7ｇから843.0ｇまで変化に富む。注目されるのは頁岩Ａと他の石材の間にかなりの違いがあることで、前者（11個体）は102.6ｇから843.0ｇ（平均261.0ｇ）の間にあって109.7ｇ～279.4ｇに７個体が含まれるのに対し、後者（38個体）は9.7ｇから184.0ｇ（平均53.8ｇ）をはかり22.0ｇ～91.5ｇの間に26個体が収まる。剥離これた剥片の大きさにではそれほど明確な隔たりがあるとは思えないので、素材の大きさや石核の消費度等に差があるとみられる。

**素材について**　頁岩Ａで４個体、他で５個体が剥片を素材としている（257）ものと判断し、後者ではさらに５個体に可能性がある。ただし、剥片素材の石核と石器との区別には問題が残る。頁岩Ａでは、他に節理割れの多い岩片を利用するもの（258）２個体、また他の石材で円礫を素材とするもの（249）２個体、石核の破片を素材とするもの（254）２個体（両者接合）がある。最後の例では石核の分割とみることもできる。礫素材を確認できる個体は少ないが、風化した礫面を一部にもつ例（249・250・252・253・255・257・258）は計26個体と過半数に達している。しかし、頁岩Ａでは３個体とやや少なく、円礫ではなく、ブランクから作業が始まる場合があった可能性もある。

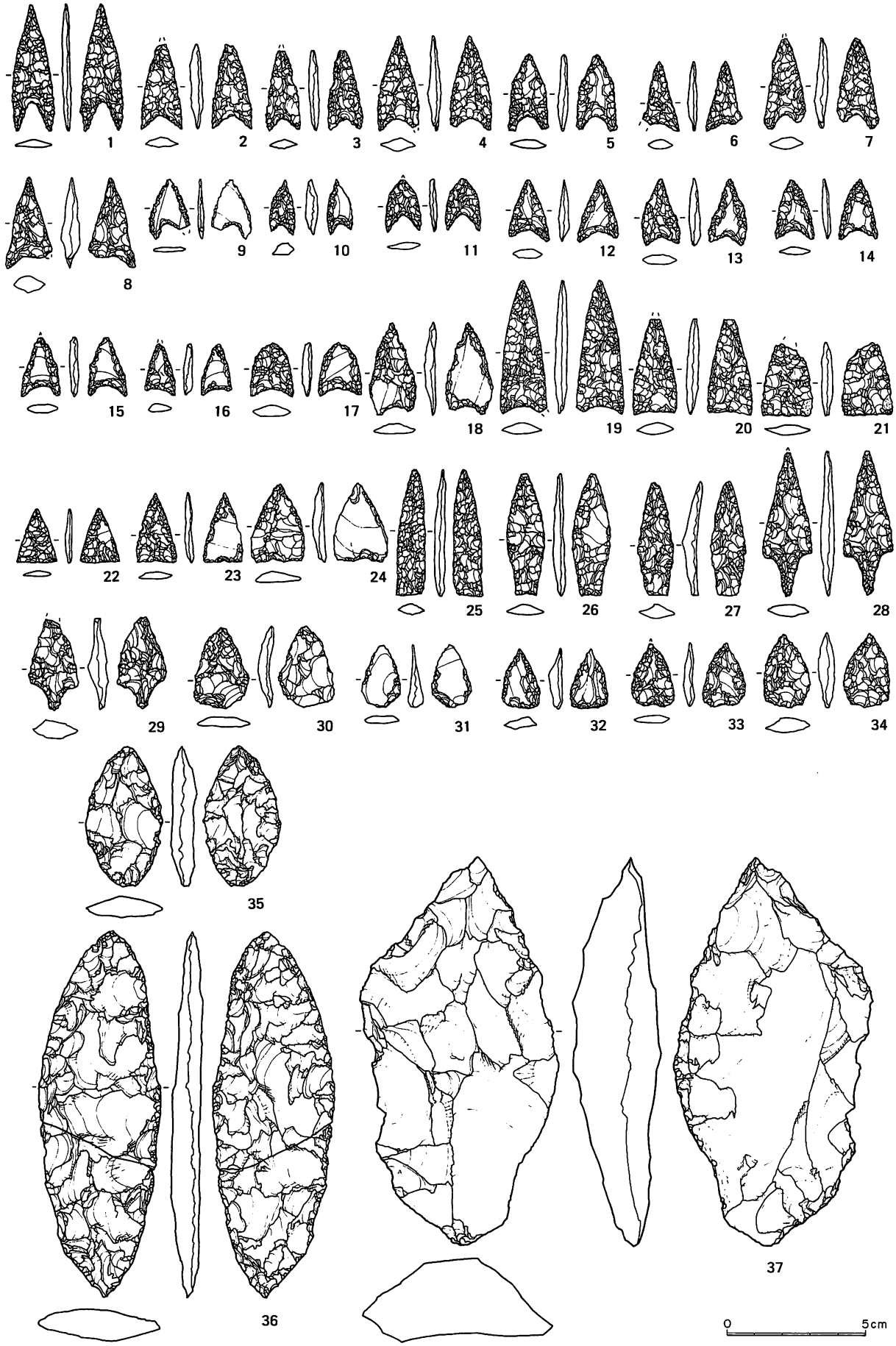
**打面の形成について**　剥離の度に打面と作業面を入れ替えているようにみえる例（258）は１個体だけで、多くの場合連続して複数の剥片を剥離した作業面と対応する打面とを区別することは可能である。打面の形成について判断できた40個体、延べ62カ所の打面の内訳は、礫打面11、剥離面打面38、切り子打面13カ所である。頁岩Ａに限ると10個体、延べ18カ所の全てが剥離面を打面としている。折れ面（254）や節理割れ面を打面としたものも剥離面打面に含めているので数が増えている部分もあるが、調整の乏しい平坦な打面が優勢となる傾向を認めることができる。

剥離角について、頁岩Ａ石角の剥離打面延べ18カ所の剥離角は89°～121°（平均102°）で、12カ所が93°～111°に収まる。他の石材では礫打面10カ所が92°～142°（平均109°、96°～118°に７カ所）、剥離面打面21カ所が93°～130°（平均109°、100°～115°に14カ所、切り子打面13カ所が91°～120°（平均109°、102°～117°に９カ所）の範囲にあり、全体に頁岩Ａのものより剥離角が少し大きいものの、打面の種類による差はほとんどない。

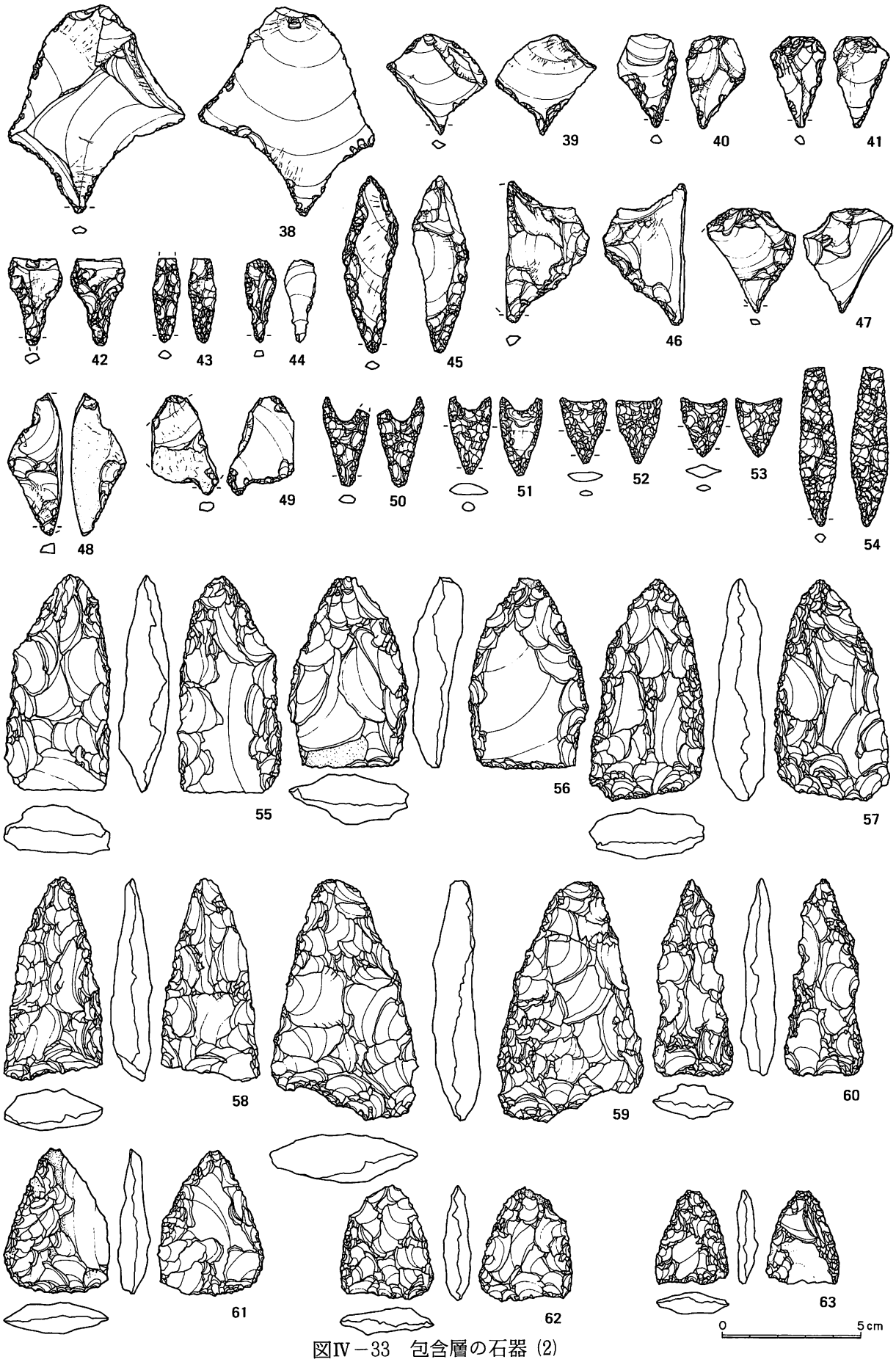
**打面転移について**　打面転移の有無について判断できた21個体のうち18個体に打面の転移が認められ（250・251・253・256・258～260）、８個体では２回以上（251・254・256・260）、最大３回（２個体、251・260）の転移が観察できる。確実に打面を転移していないものは頁岩Ａの３個体に過ぎない。切り子打面における剥離角が礫打面・剥離面の打面のそれと同じであることを考慮すると切り子打面は意図的に容易したものではなく、単に作業面への打面転移が忌まわれなかったことを示すものかも知れない。

**縦長剥片の剥離について**　縦長剥片の剥離痕が観察された石核は頁岩Ａ３個体（258～260）、その他１個体で、多くはない。石匙、削器等多くの石器の素材になっている縦長剥片は作業の初期に剥離されたため残骸からは確認できないのであろうか。

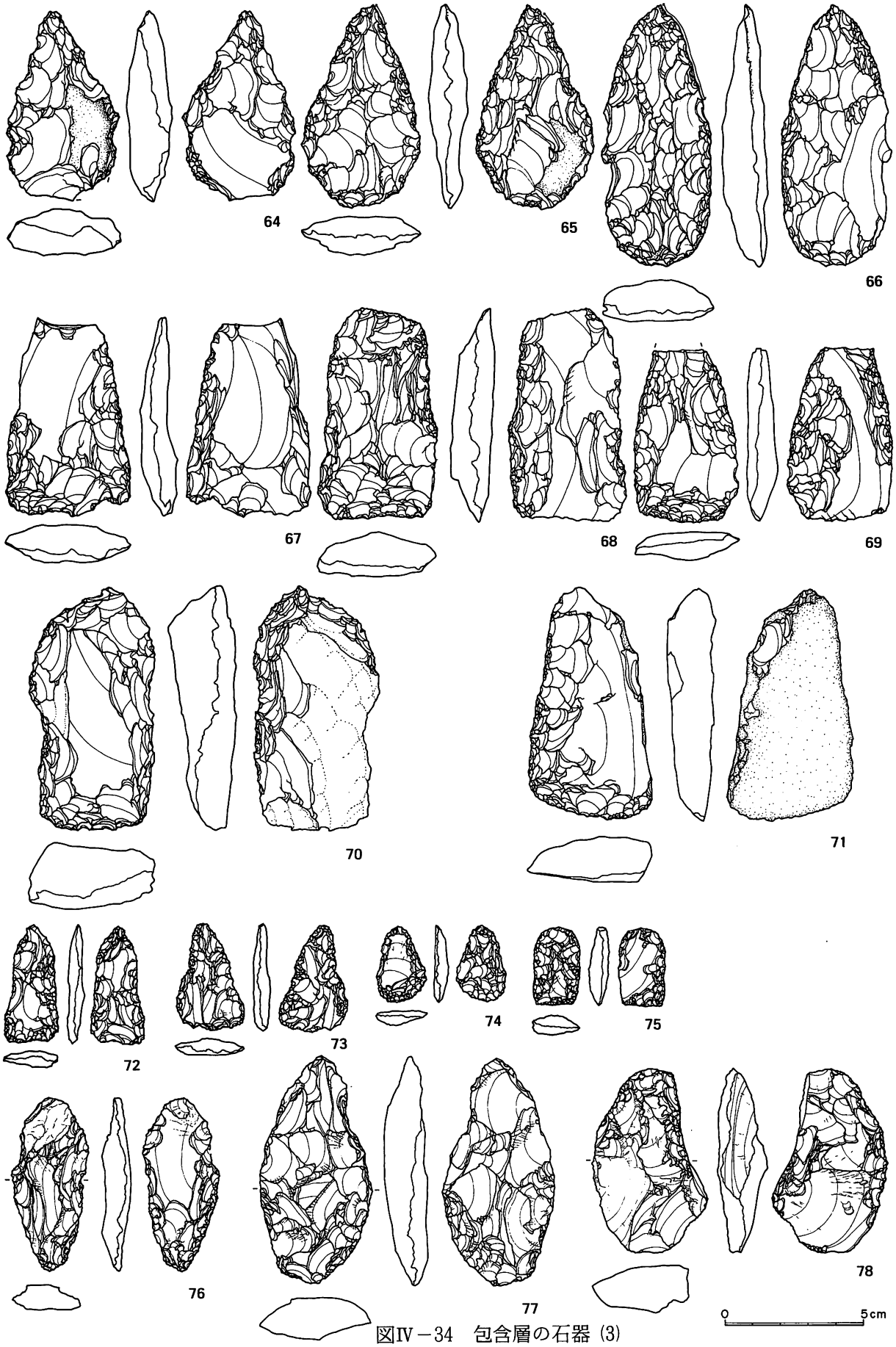
**破損について**　製作の末期に石核の整形・再生もしくは剥片剥離の結果とは解しがない大きな割れ・折れを生じているもの（249・257）は19個体、全て頁岩Ａ個体以外の石材を用いたものであるため、半数に事故による破損らしいものが認められることになる。しかし、破損した遺物（平均47.6ｇ）と



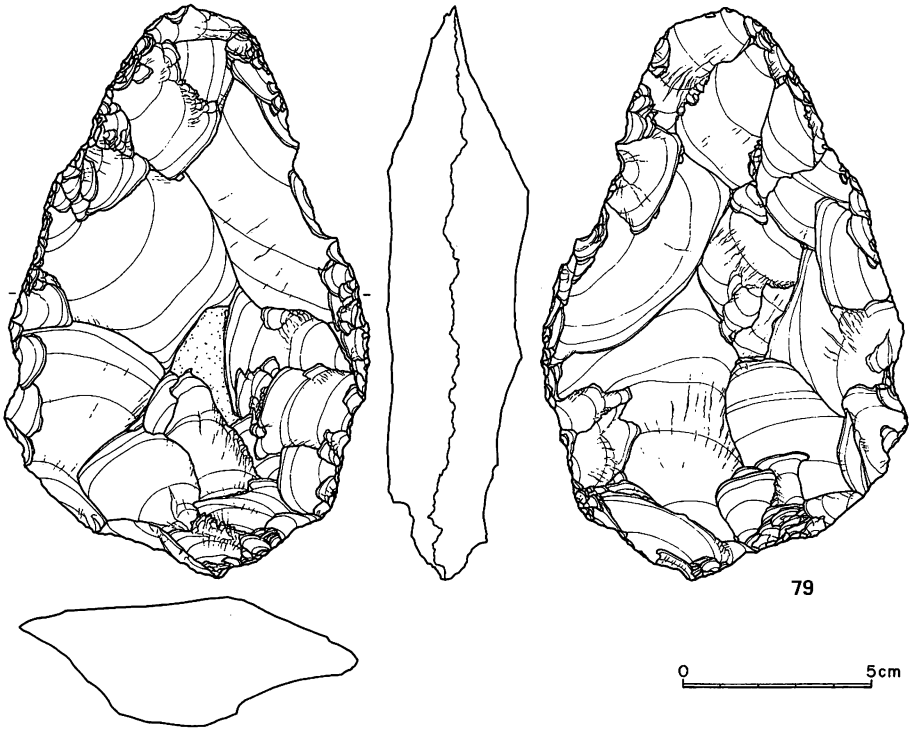

図Ⅳ－32　包含層の石器 (1)




図Ⅳ－33　包含層の石器 (2)

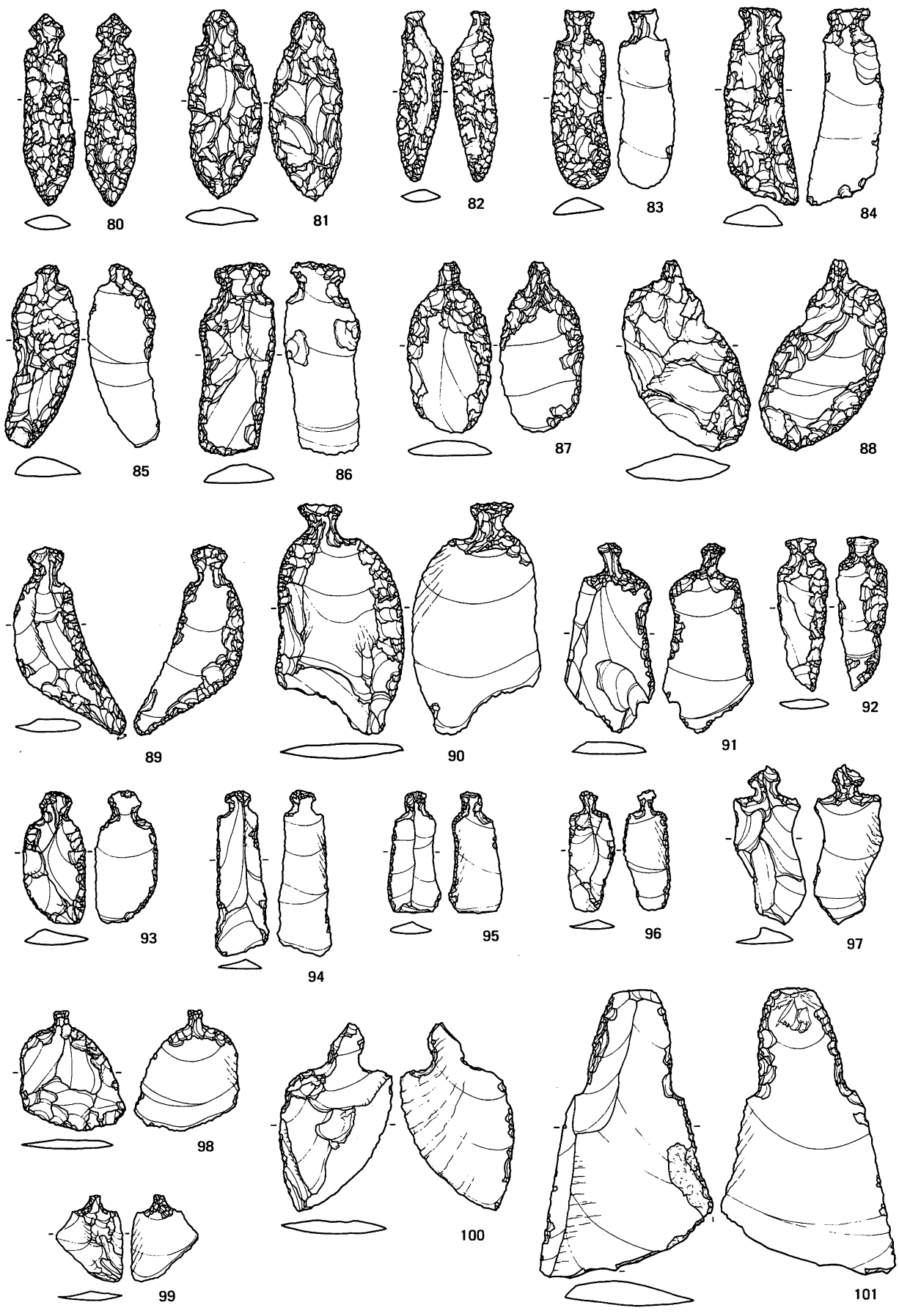



図Ⅳ－34　包含層の石器（3）

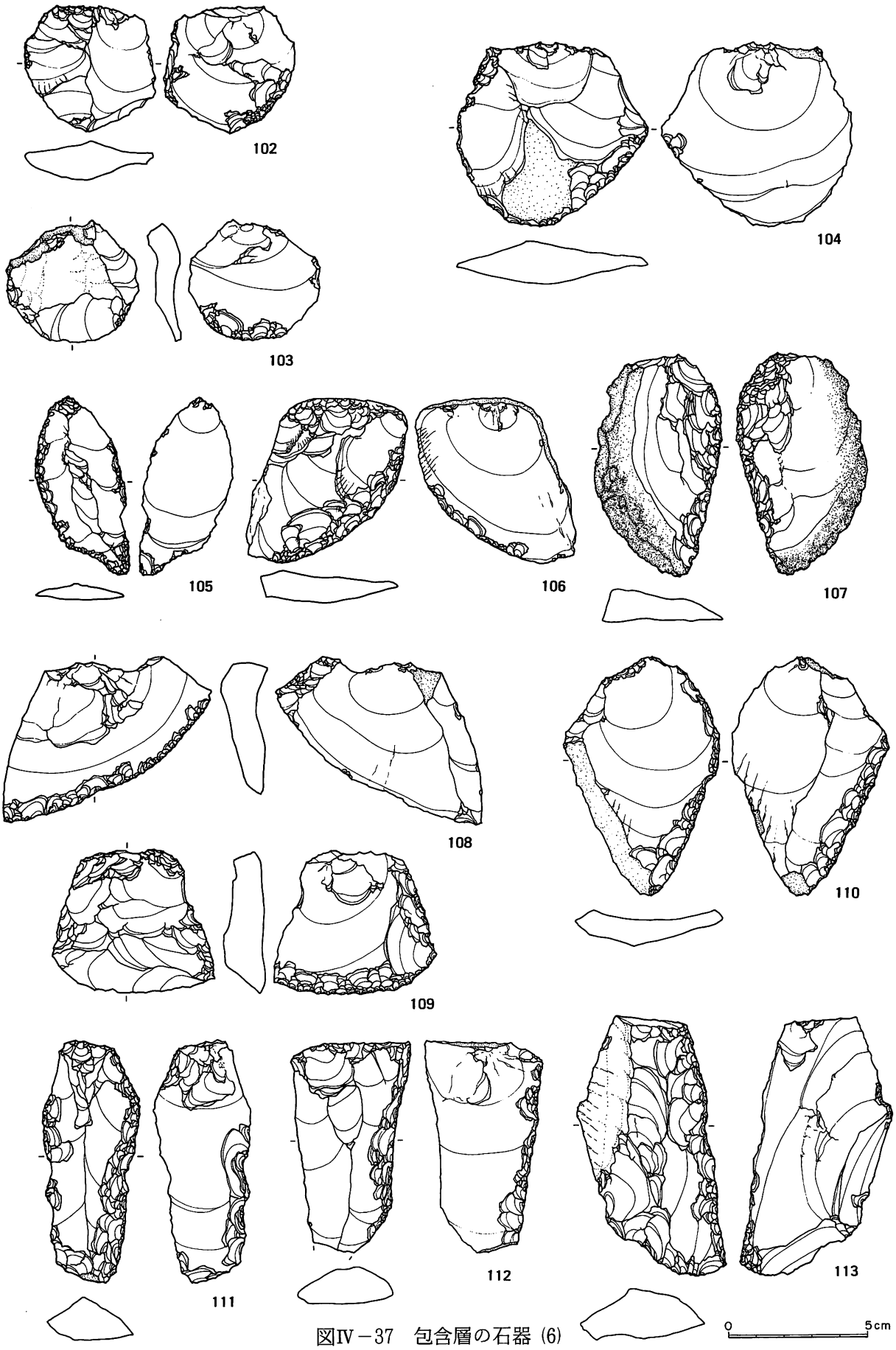



図Ⅳ－35　包含層の石器 (4)

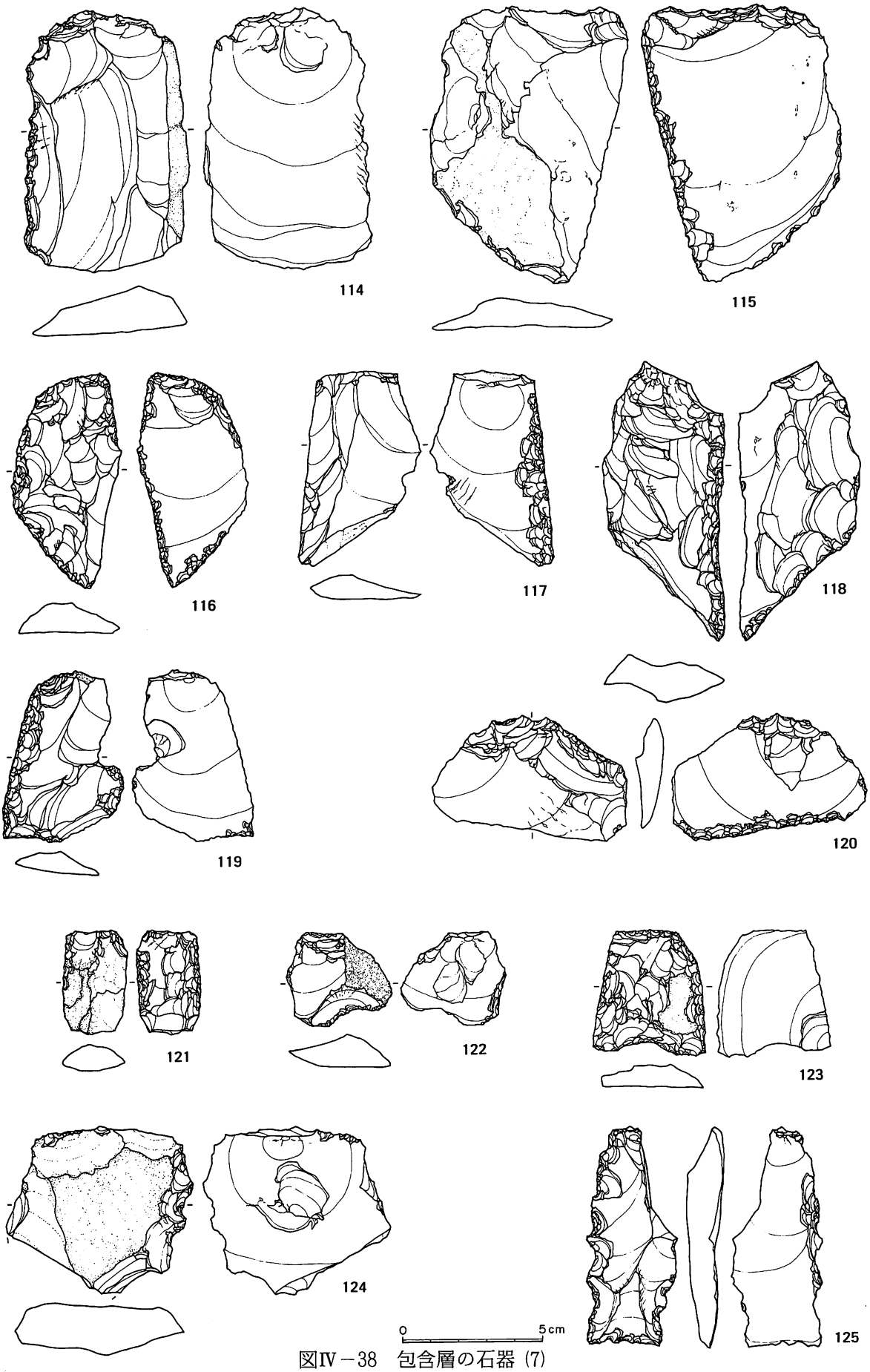
そうでないもの（頁岩Ａ以外、平均60.0ｇ）の大きさはそれほど違いはない。これは剥片剥離作業の終了を決めたものが事故自体ではなく、消耗による石核自体の小型化にあったことを意味するように思われる。なお、上記とは別に被熱による弾けらしいものが３個体に認められる。（西脇対名夫）



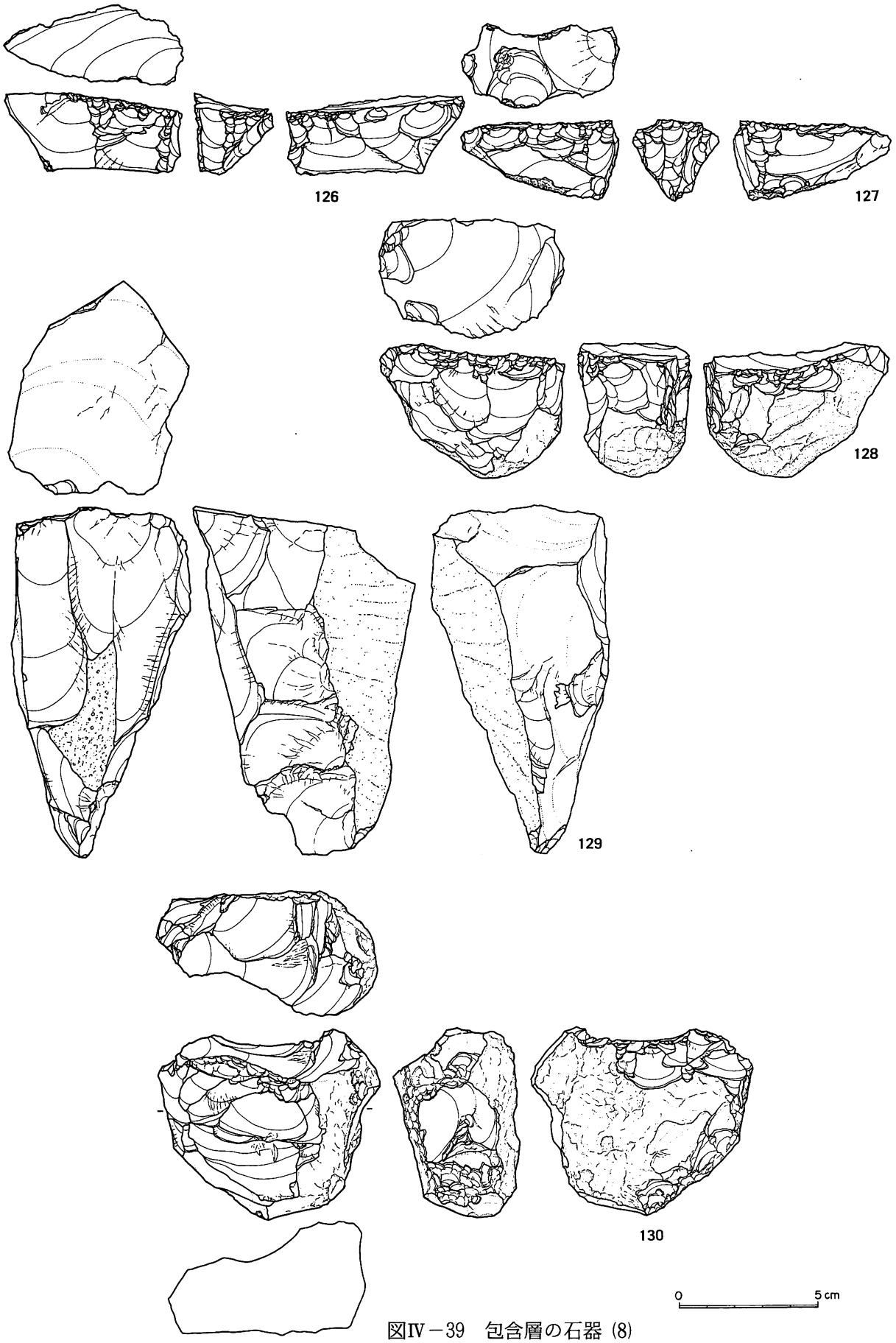

図Ⅳ－36　包含層の石器 (5)



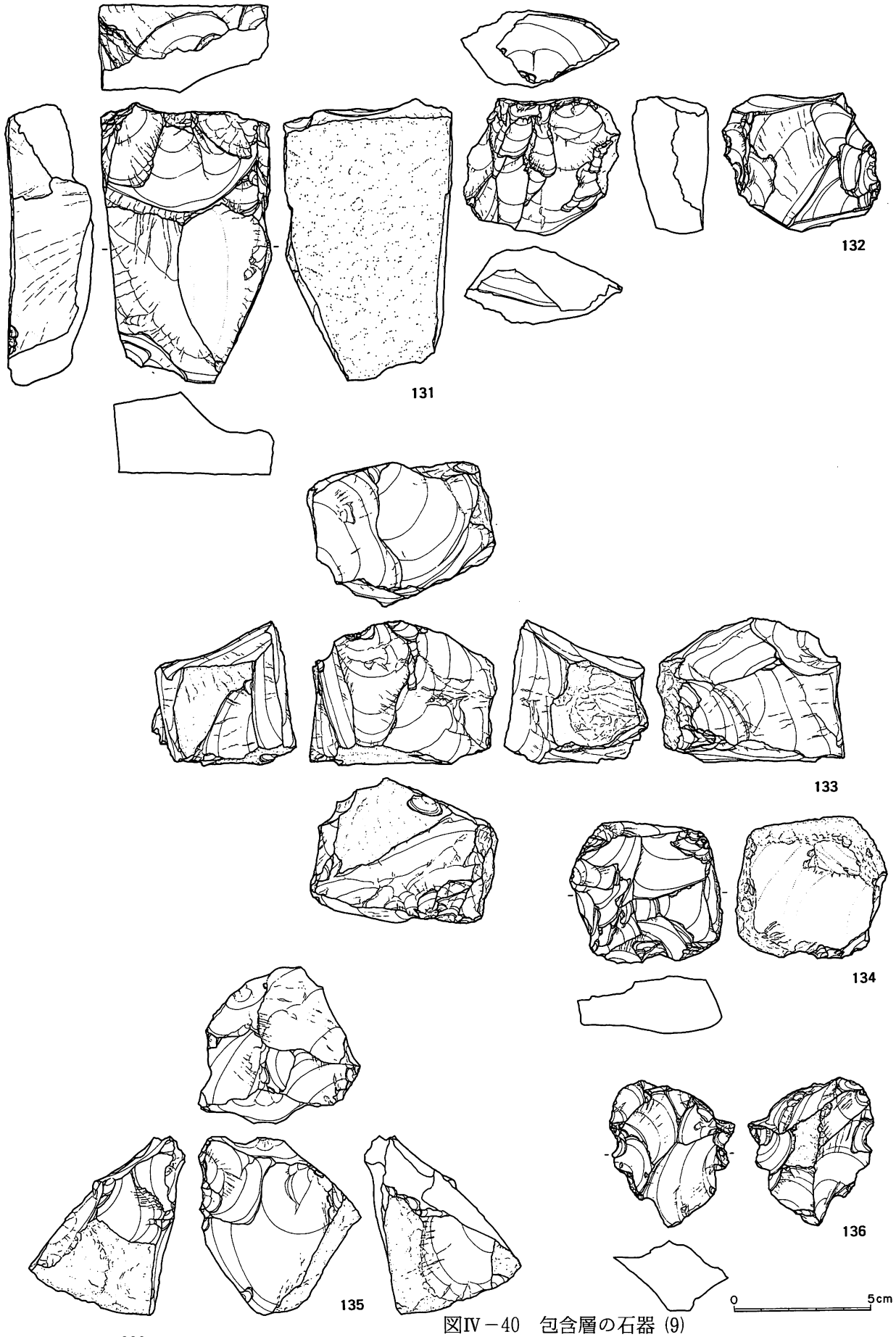

図Ⅳ－37　包含層の石器 (6)



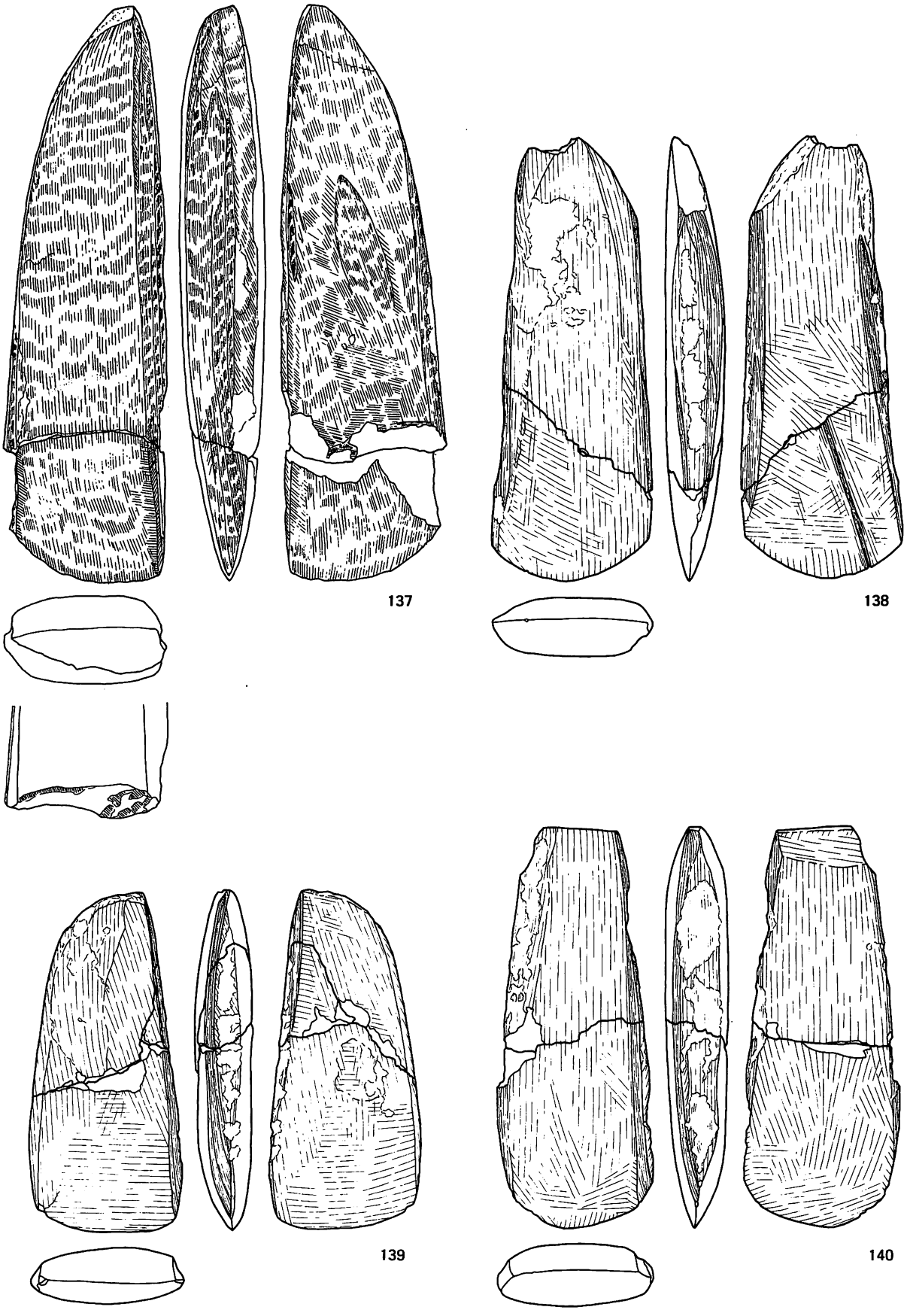

図Ⅳ－38　包含層の石器（7）



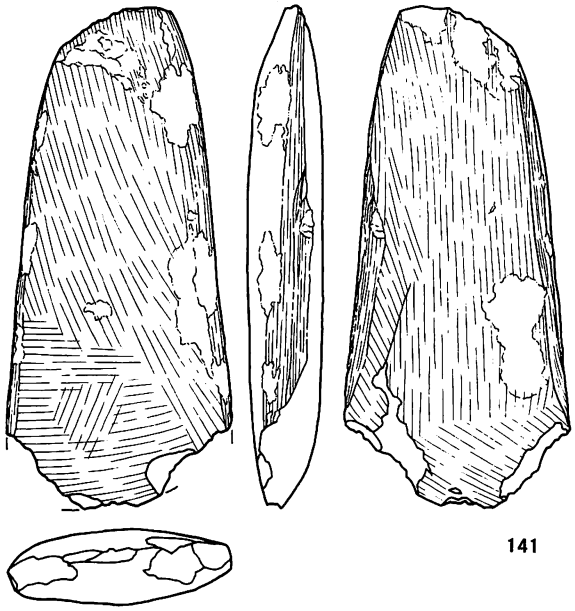

図Ⅳ－39　包含層の石器 (8)

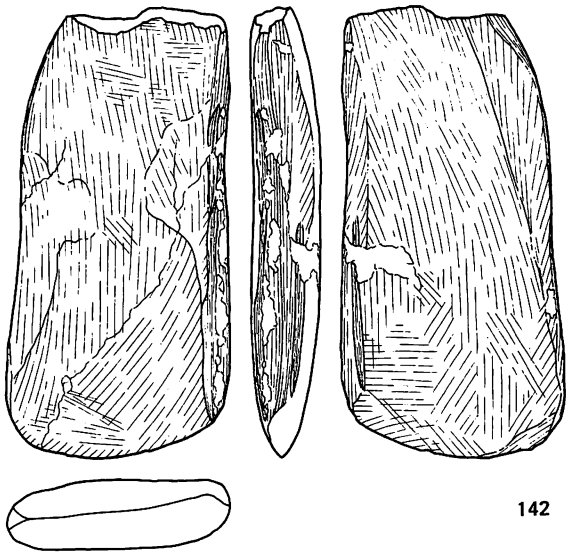


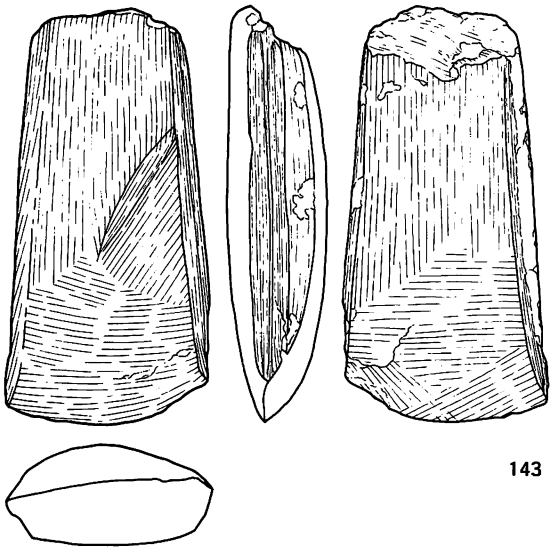

図Ⅳ－40　包含層の石器 (9)

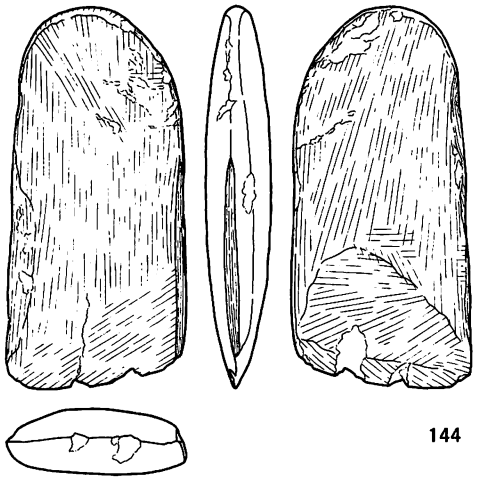


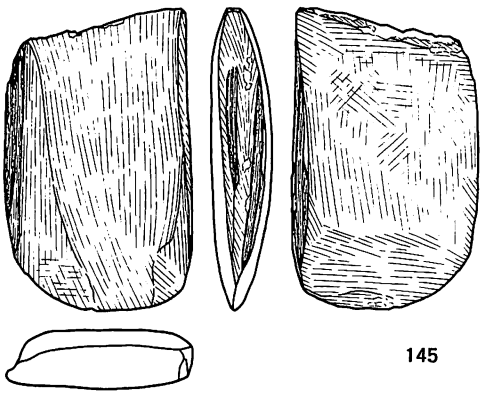

図Ⅳ－41　包含層の石器 (10)

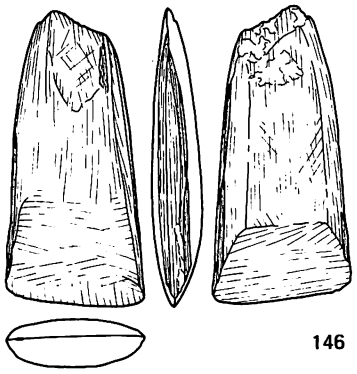


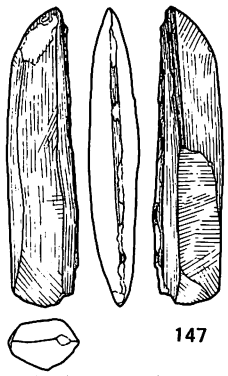



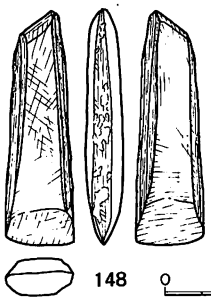



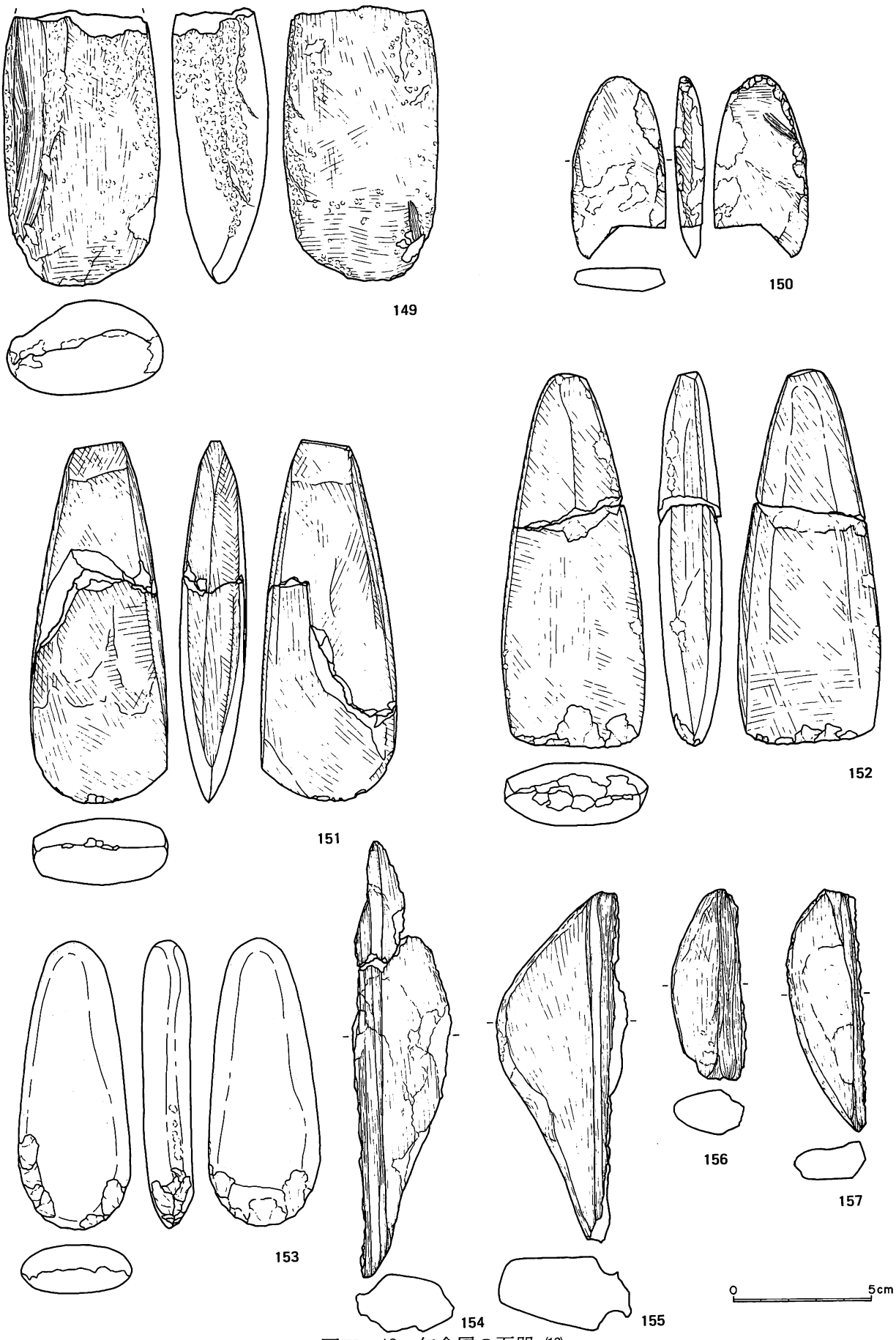



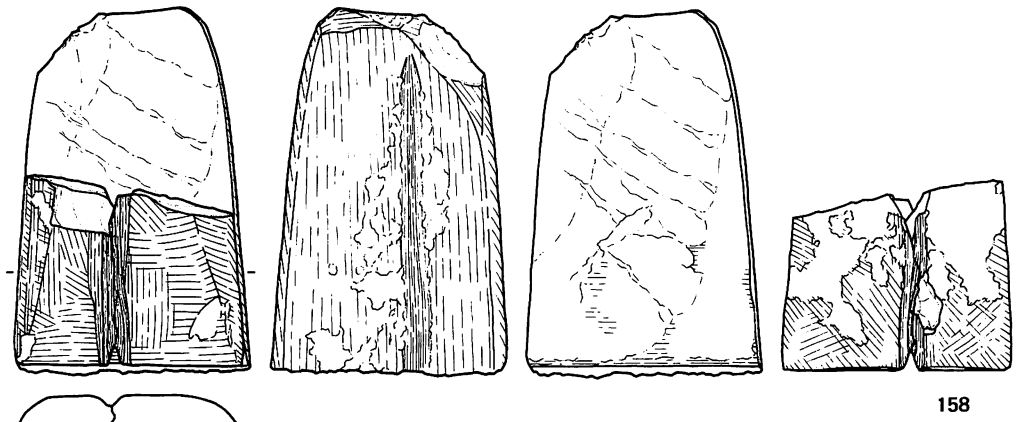



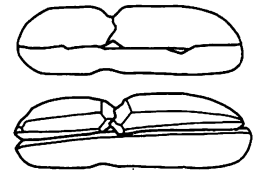

図Ⅳ－42　包含層の石器 (11)

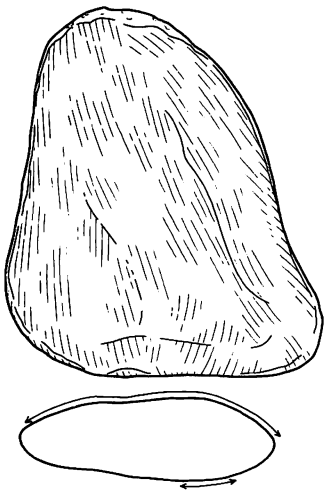



図Ⅳ－43　包含層の石器 (12)

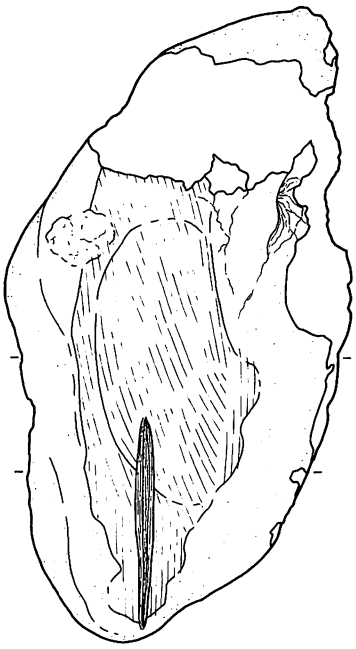


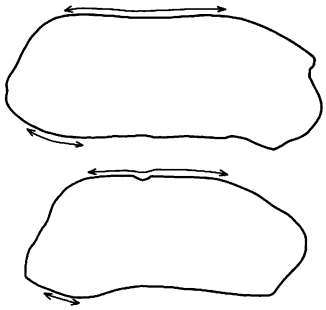
158



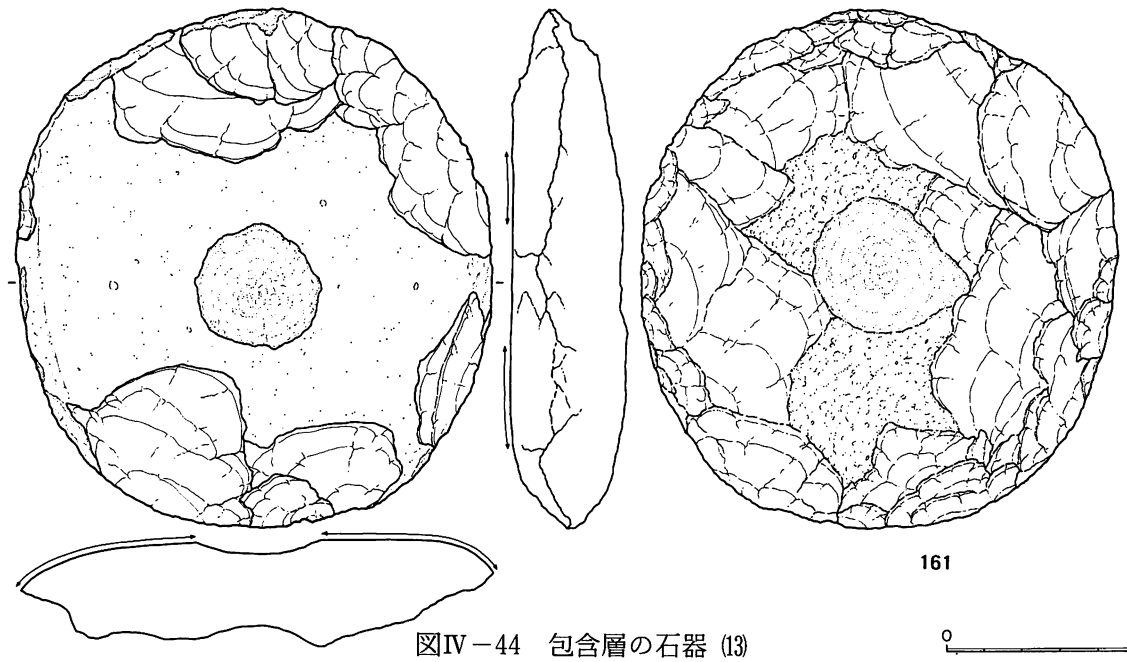


159





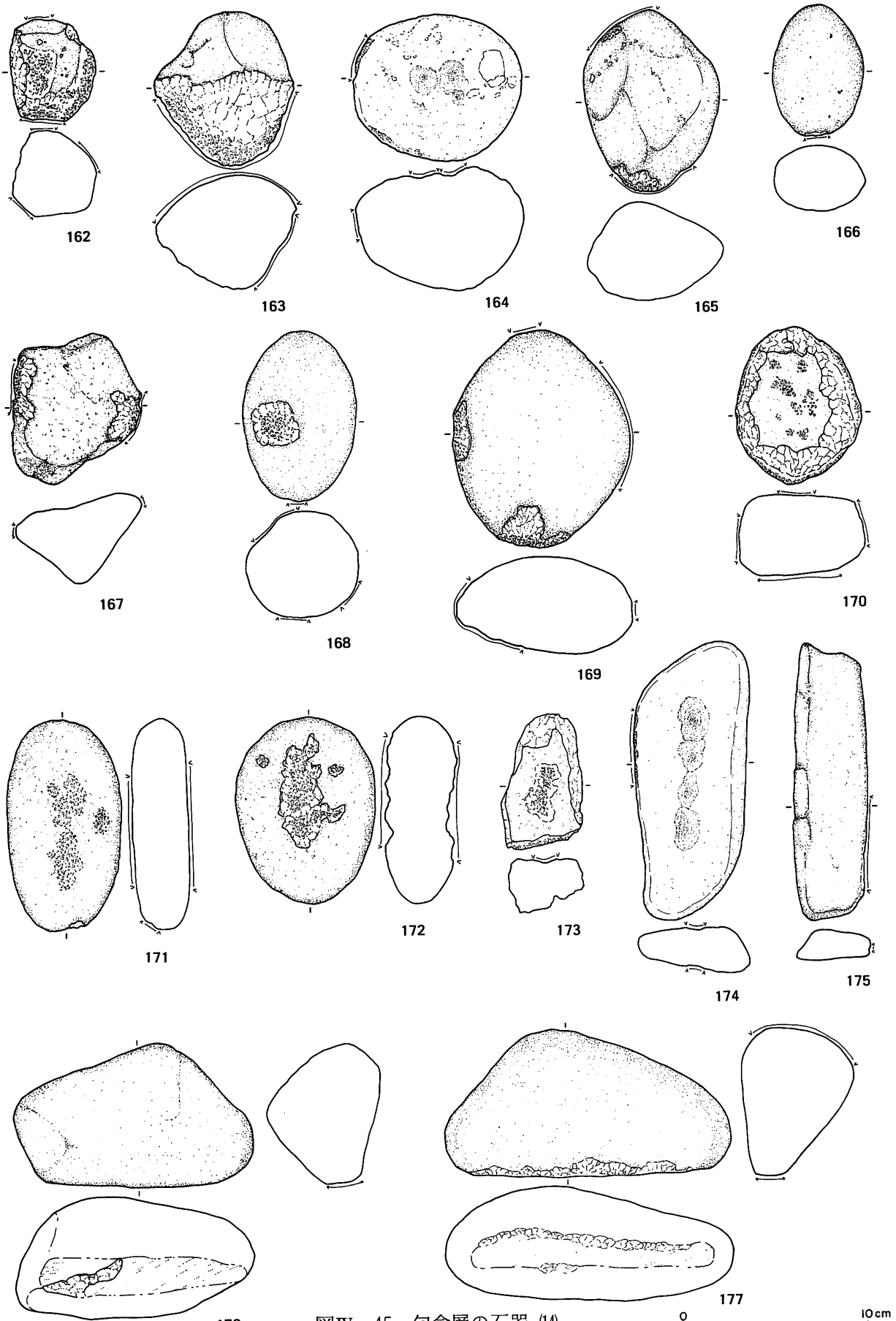
160



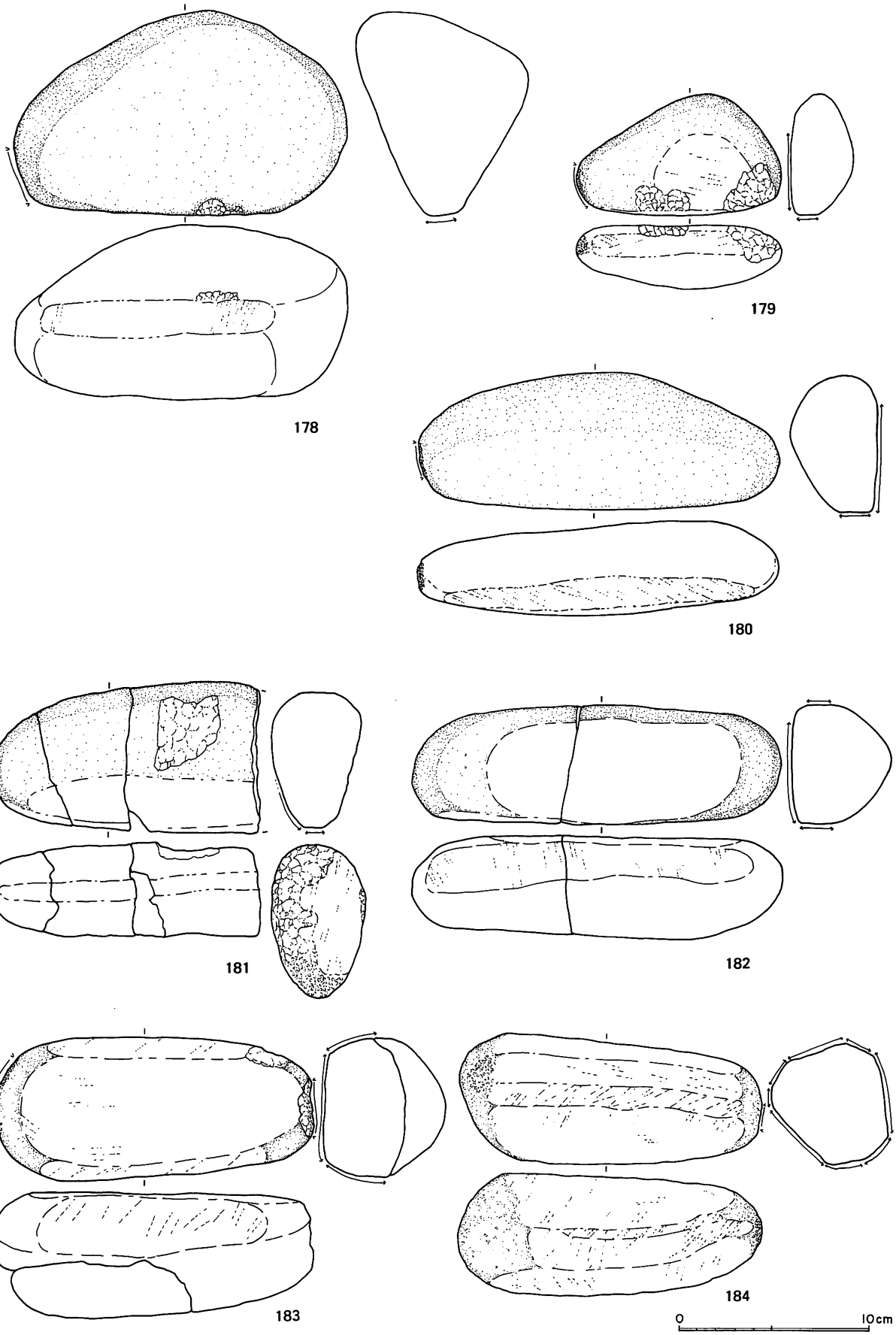
161

図Ⅳ－44　包含層の石器 (13)

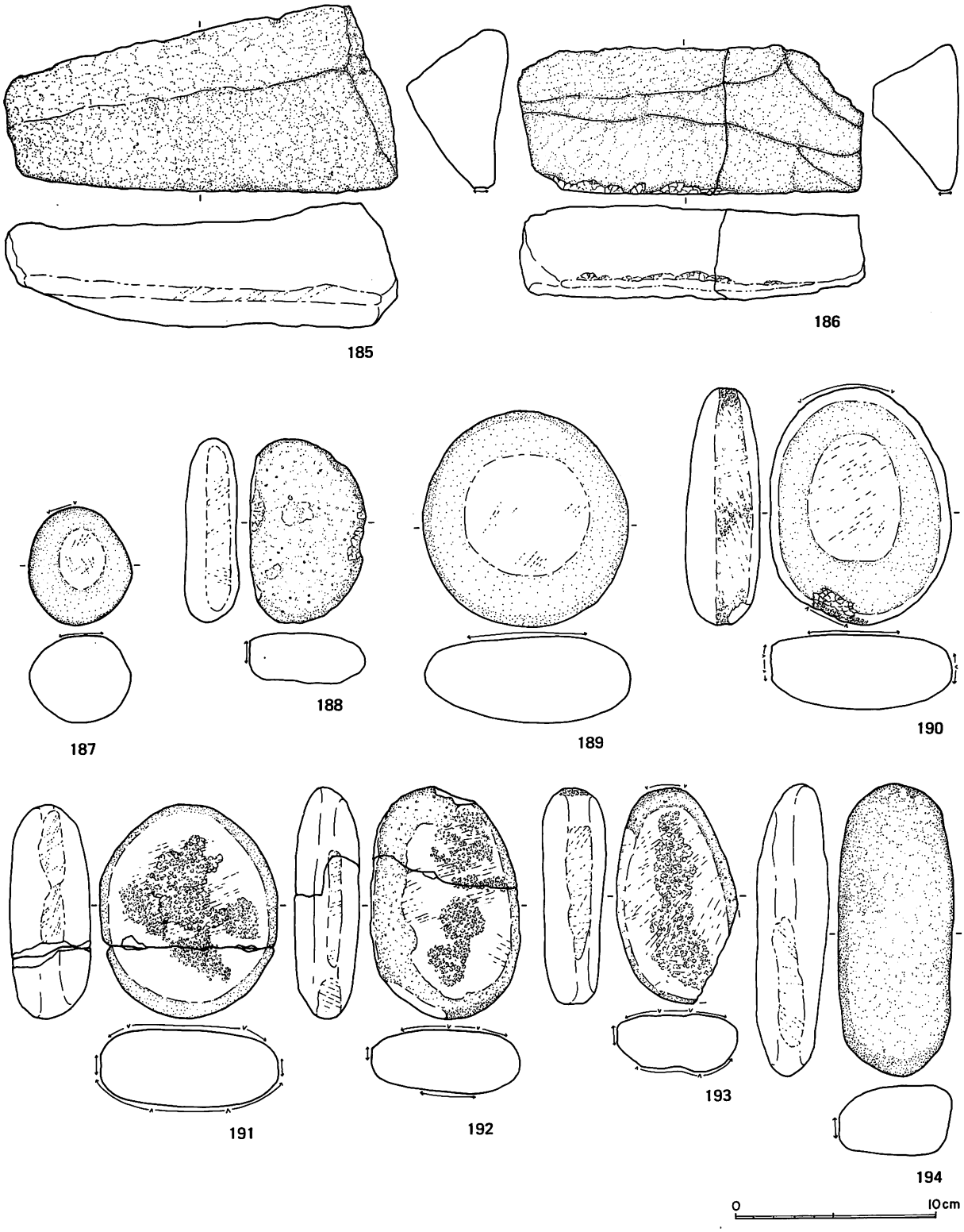
0　5cm



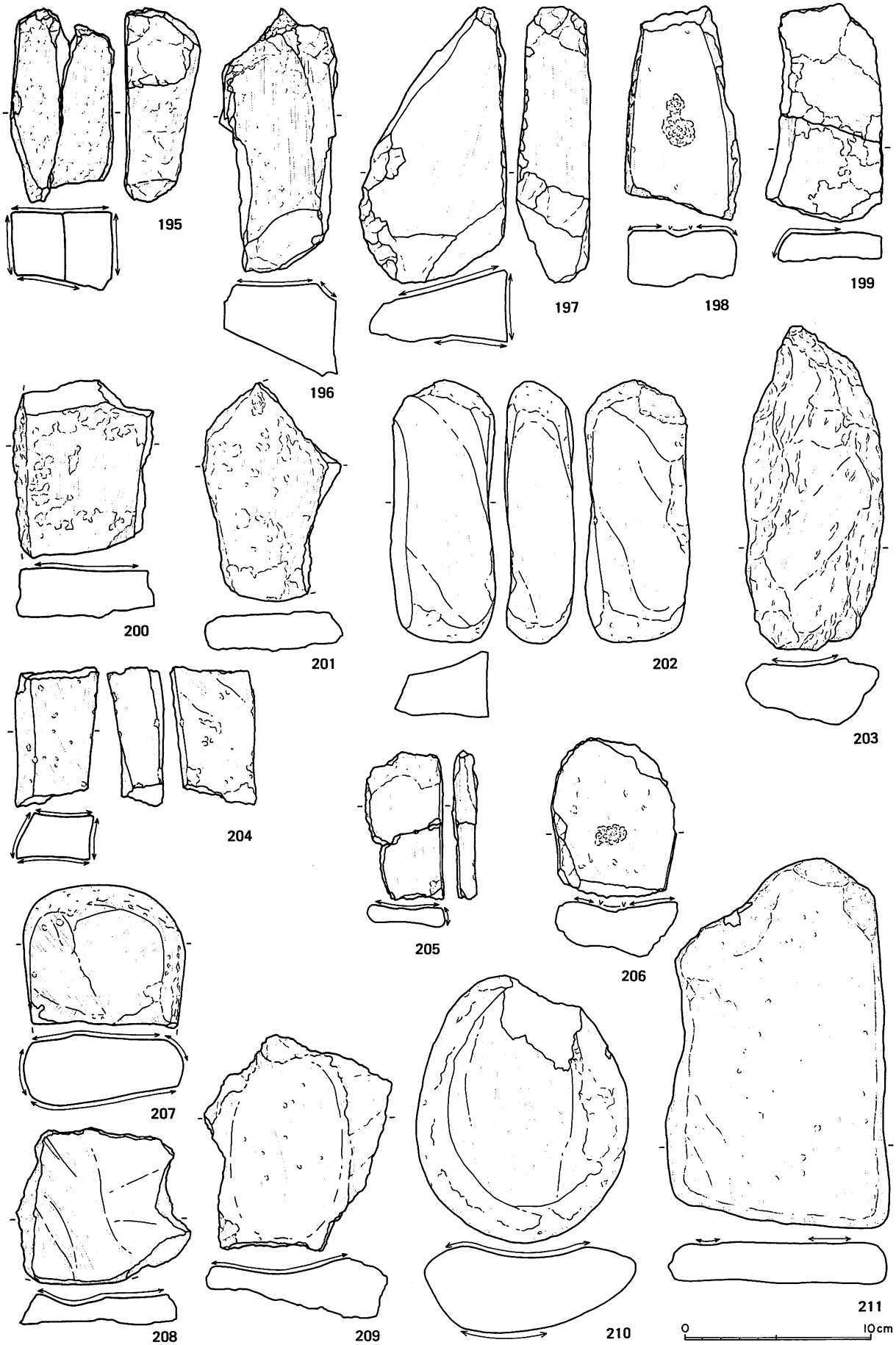

図Ⅳ－45　包含層の石器 (14)



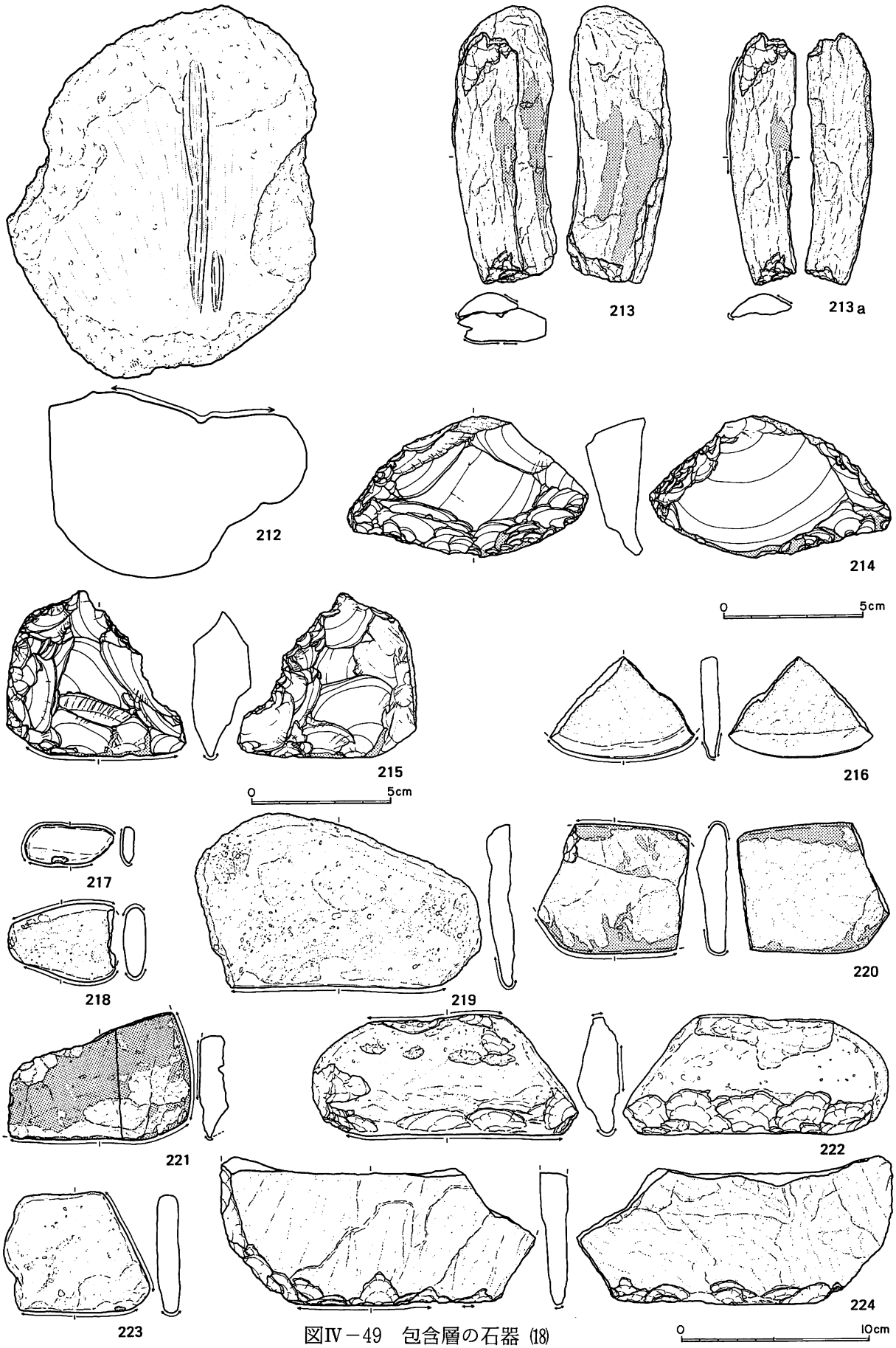

図Ⅳ－46　包含層の石器 (15)



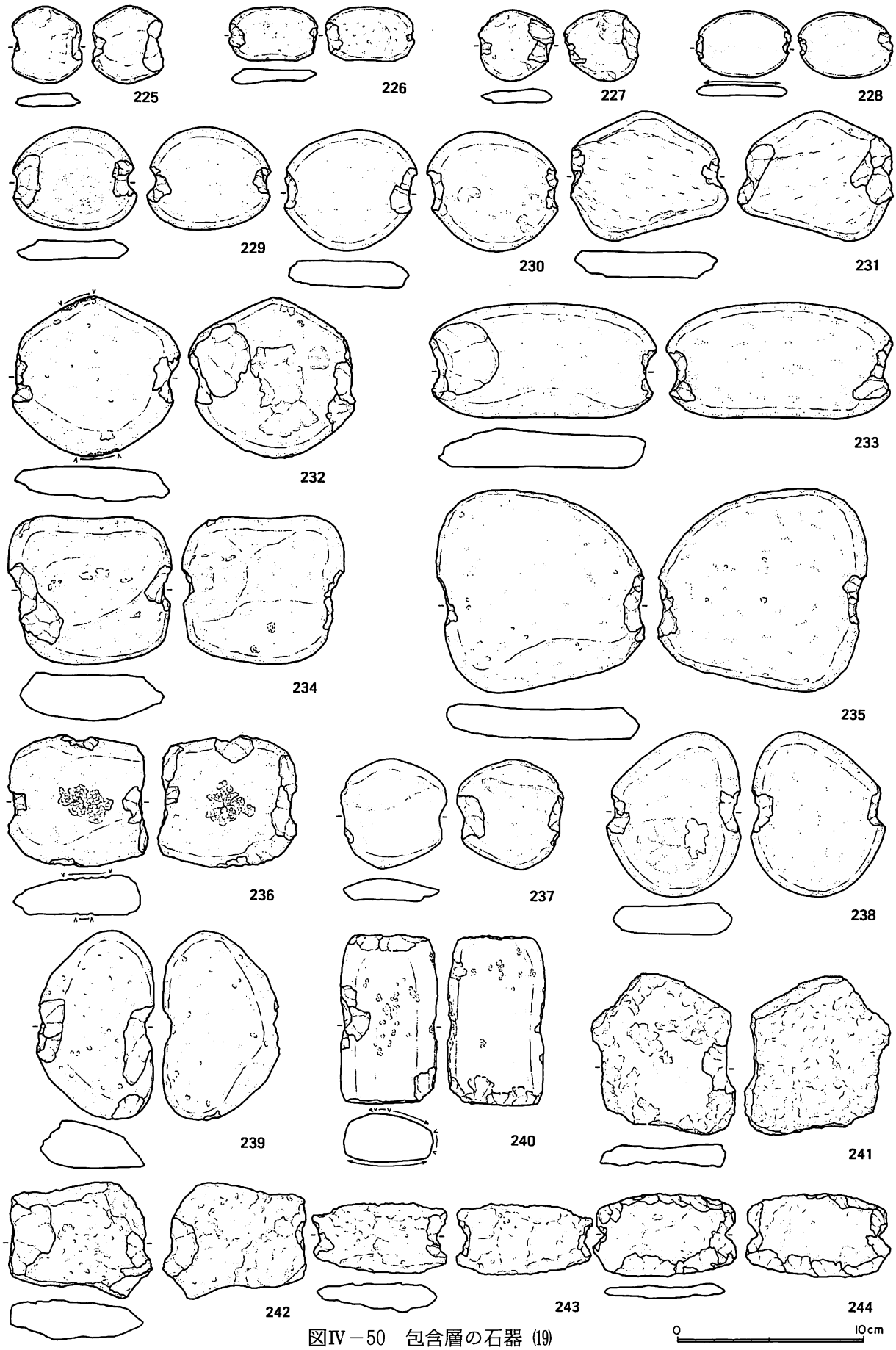

図Ⅳ－47　包含層の石器 (16)



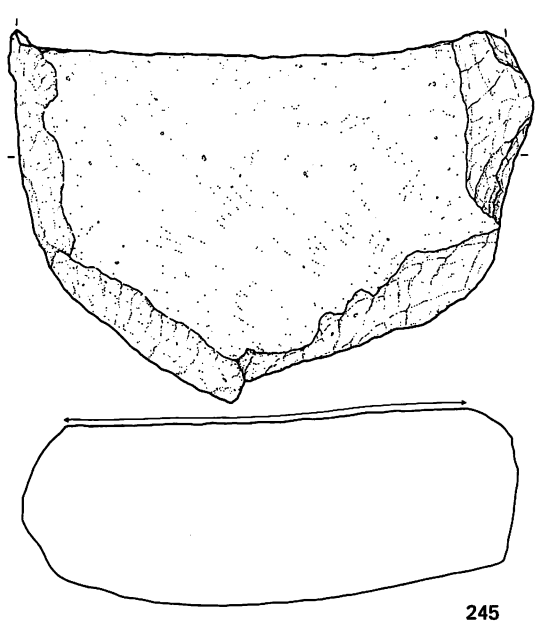

図Ⅳ－48　包含層の石器 (17)

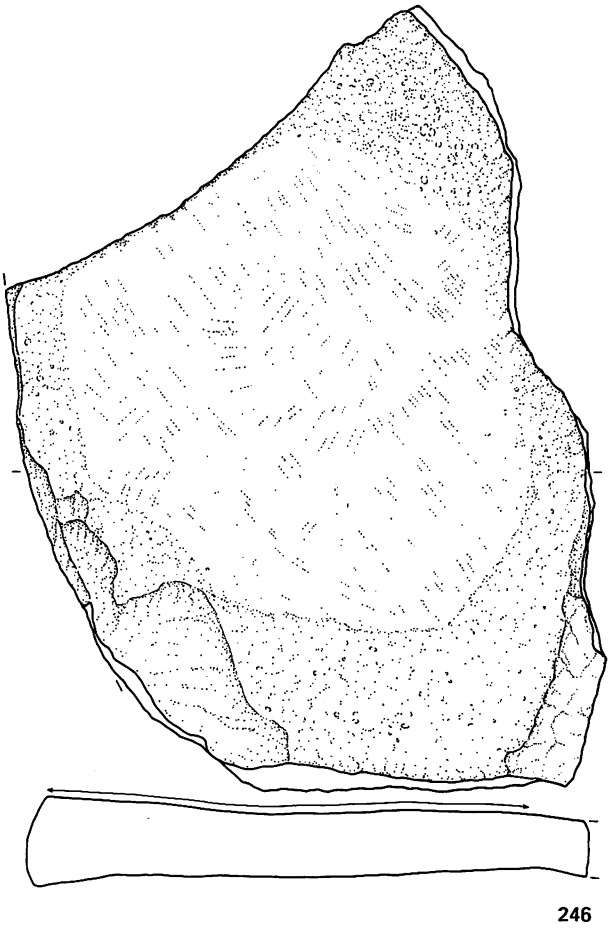


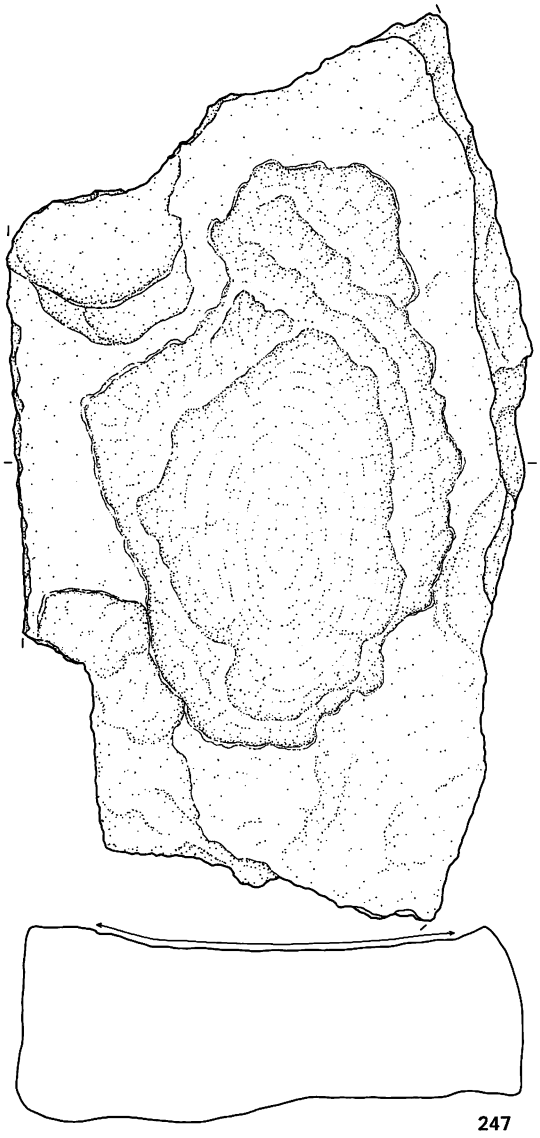

図Ⅳ－49　包含層の石器 (18)

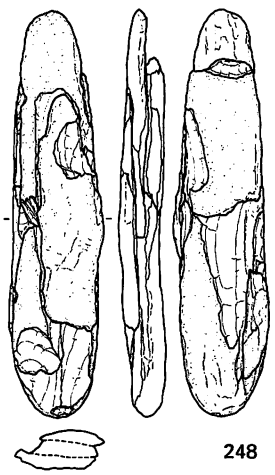


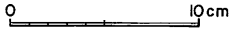

図Ⅳ－50　包含層の石器 (19)

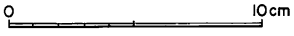


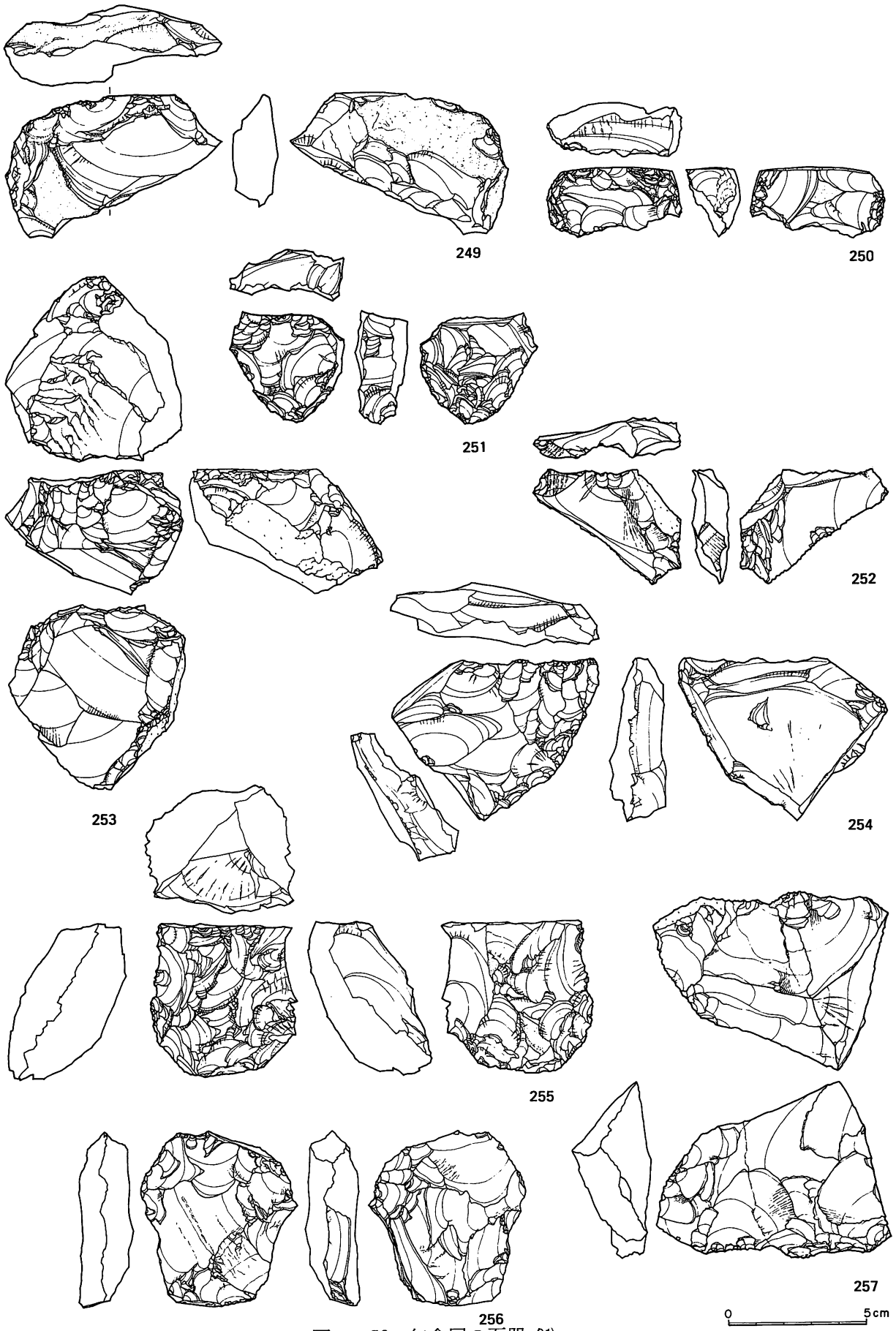



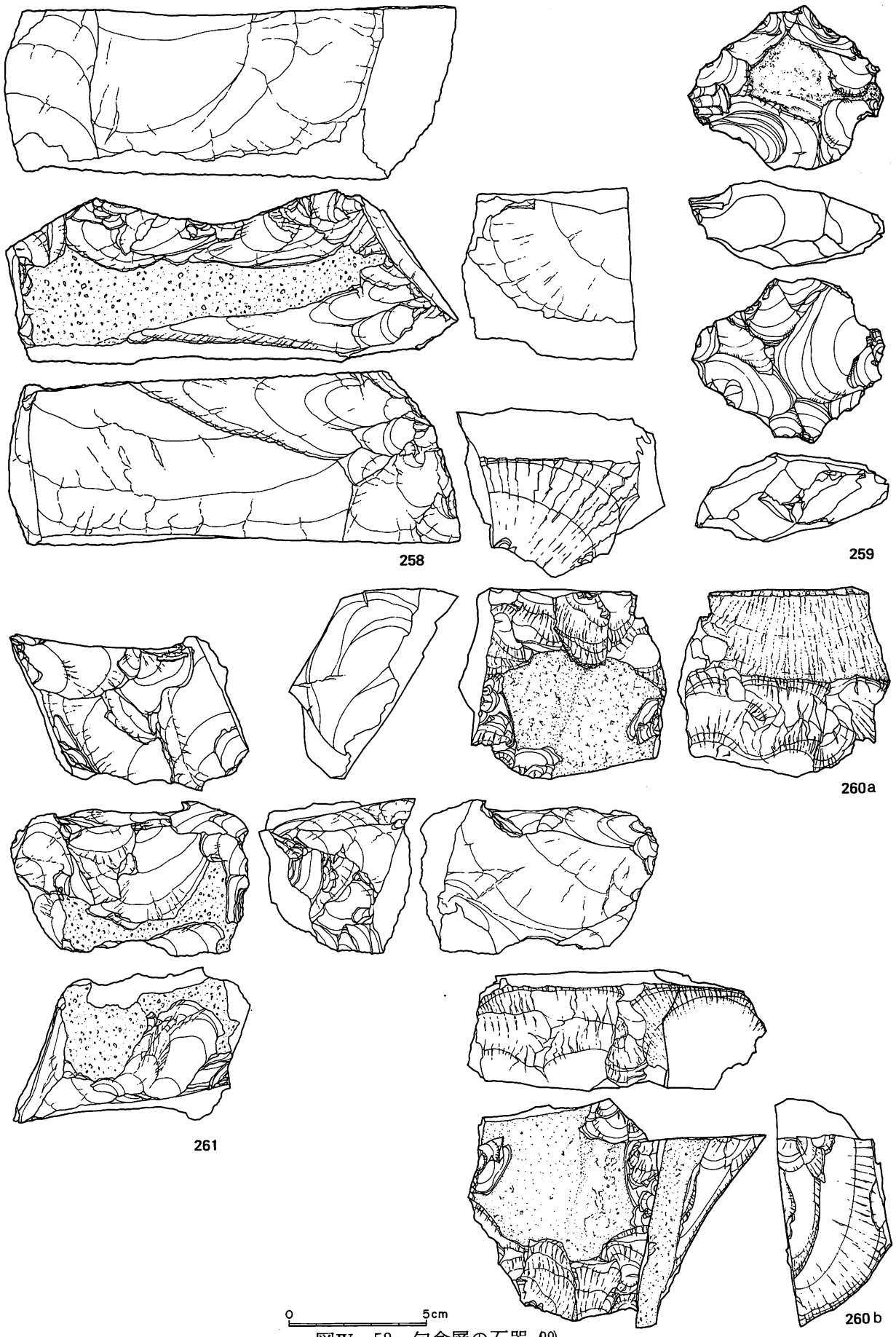




図Ⅳ－51　包含層の石器 (20)




図Ⅳ－52　包含層の石器 (1)

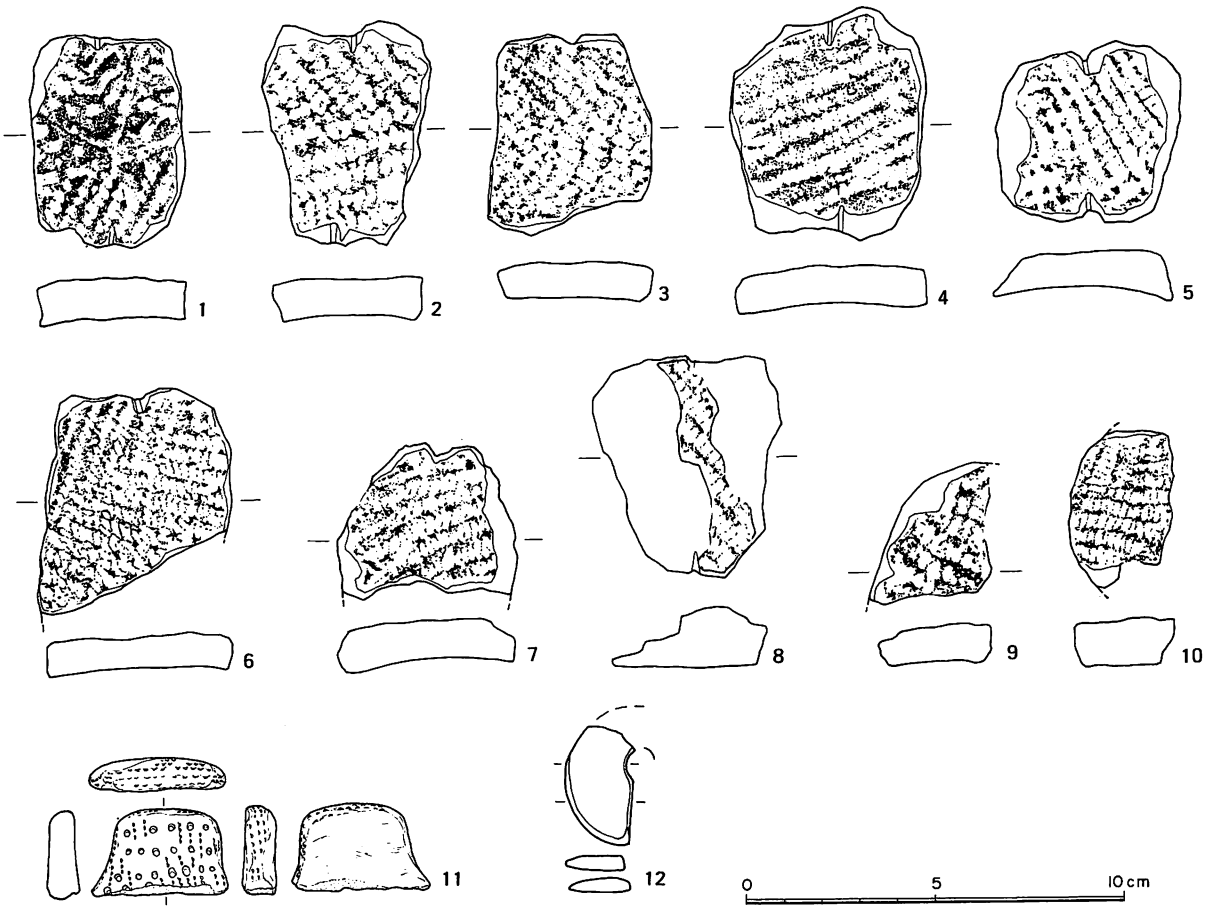



図Ⅳ－53　包含層の石器 (2)

### 3　土・石製品（図Ⅳ－54－１～12）

１～８はII群土器を利用した土器片錘である。６～８は欠損しているが、いずれもほぼ一定の大きさのものである。打ち欠きにより簡単に整形しているものが多く、３・６の左側にみられるような擦り切りによって整形されているものもある。長方形状のものでは、短辺に外側から内側に、斜めに切り込みを入れるもの（１・２・４・６・８）、まっすぐに深く切り込みを入れるもの（２・３・５・７）がある。９・10はⅡ群土器を利用した円盤状土製品で、いずれも欠損している。11はＨ－41出土のものであるが一応ここで報告することとする。やや湾曲した舌状の形のもので、図の下位は割れ面である。上面、右側面には、貝殻腹縁圧痕文が３条、丁寧に施文されている。図正面部には、同様に圧痕文が縦位に疎らに施され、小さな円形刺突形が整然と配されている。裏面には横位に細い条痕がある。Ⅰ群Ｂ類土器に属する土製品の可能性がある。

12はキャラメル色をしたカンラン岩製の抉状耳飾りである。全体の半分強が欠損している。出土地点はＨ－18付近であり、出土層位はⅢ層上部である。残存部から推定して平面形は円形ないしはやや縦に長い楕円形であろう。研磨は抉入部まで丁寧に行なわれており、孔方向が不明瞭である。孔部は中心よりやや上部に位置する。抉状耳飾りの特徴から、編年的には前期中葉～後葉に該当するものと思われ（藤田1992）、遺跡出土の前期土器より若干時期が下ることになる。




図Ⅳ－54　土・石製品

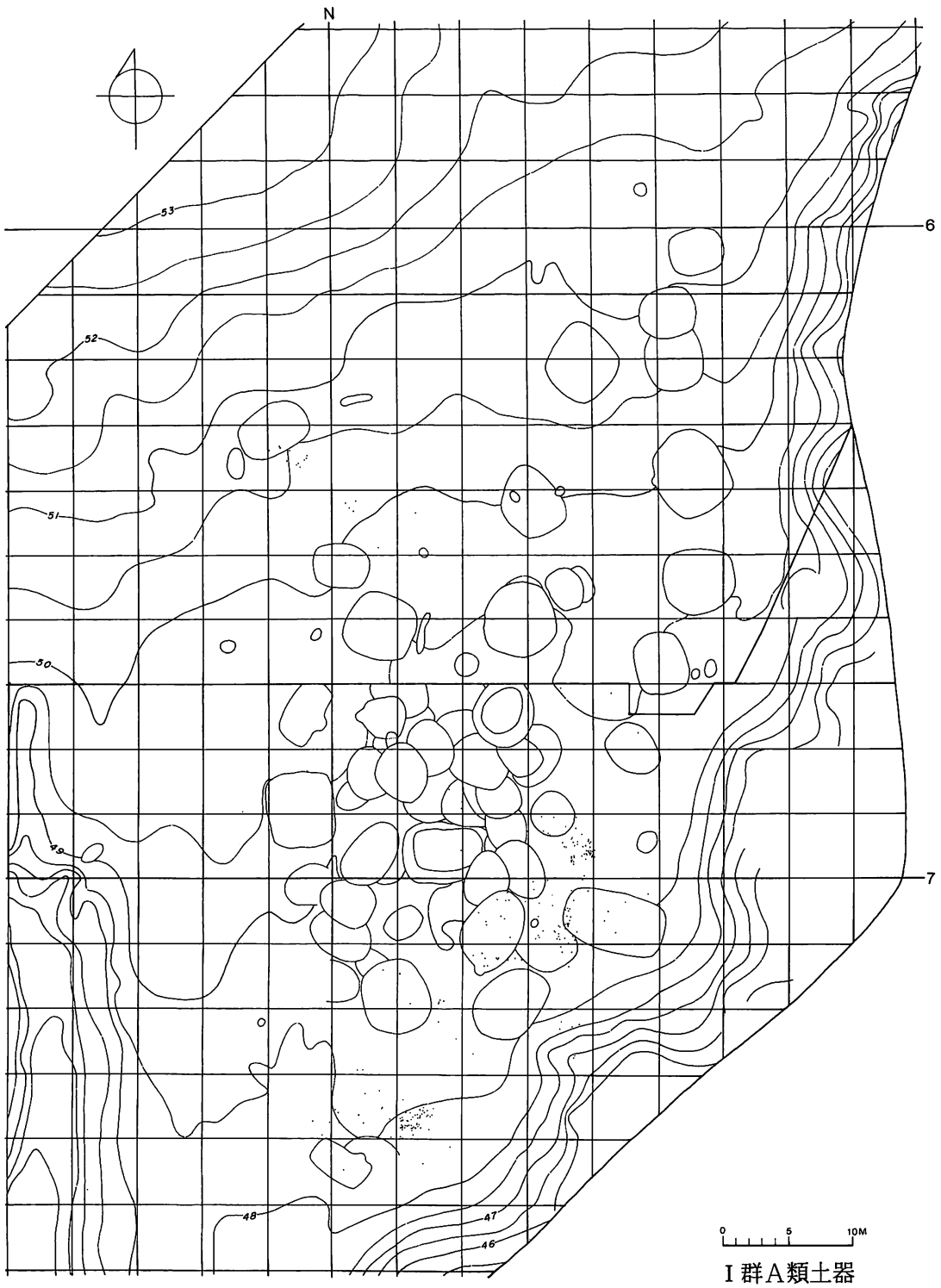
# Ⅴ まとめ

## 1 遺物の分布・接合と遺構の立地

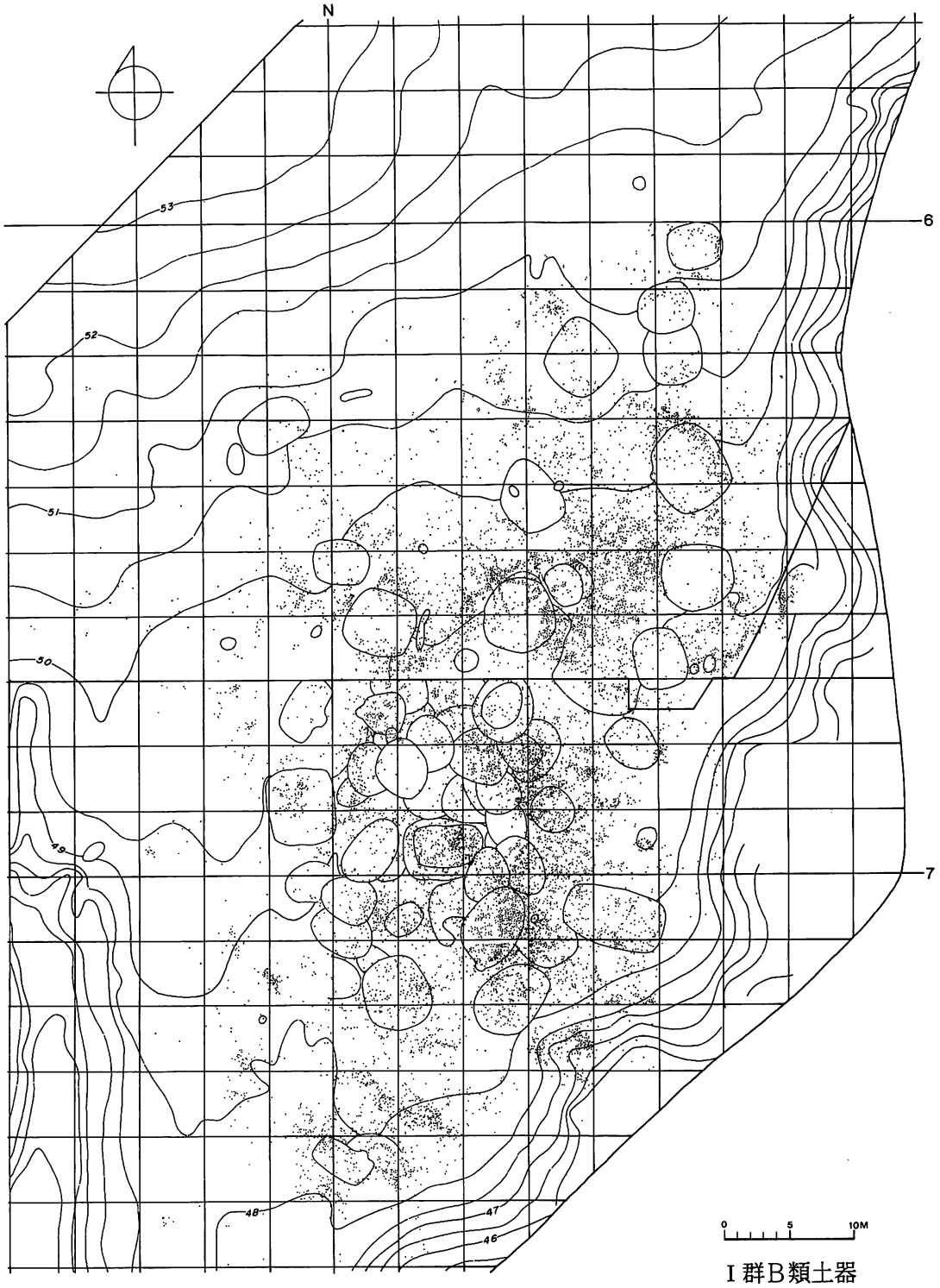
図Ⅴ－1～9は、平成3・4年度発掘分の土器の型式別分布図、石器の分布接合関係図である。当初ここでは遺跡の立地と遺物の分布、接合を中心にまとめる予定であったが、整理期間が不足で、遺構、包含層を含めた土器や石器の分布・接合関係の検討は十分できず、それぞれ平面的な分布を示すにとどまった。分布、接合関係については、土器については遠藤が、石器については山原が、判明した事実について第Ⅳ章、第Ⅴ章で触れている。

平成3・4年度中野A遺跡で検出された遺構はほぼ物見台式に伴うもので、出土した石器の多くも物見台式に伴うものと考えられる。ここでは中野A遺跡と隣接する中野B遺跡に絞って立地条件や時期に大きな隔たりのない遺跡における石器の組成について検討してみたい。資料として平成4年度中野A遺跡（以下4年中野Aとする。以下同じ）、平成3年度中野A遺跡（3年中野A）、平成3・4年度中野A遺跡の合計（3・4年中野A）、昭和50、51年度中野A遺跡グループⅡ（グループⅡ）、昭和50、51年度中野B遺跡（中野B）の石器組成の表を上げる（表Ⅴ－1）。3・4年中野A、グループⅡは主に物見台式、中野Bは主に住吉町下層式を伴う住居跡の検出された遺跡である。石器の組成を分析するにあたり、フレイク、Rフレイク、Uフレイク、礫などに相当するものは除外した。分類の違い等で対照可能なものはまとめ、対照が難しいものは除いた。以上を踏まえ3・4年中野Aは遺構、包含層の全ての点数を、グループⅡ、中野Bは報告書に器種別に点数の記載のあったものを利用する。図Ⅴ－1はその結果をまとめ、見やすさを考えてグラフにしたものである。図Ⅴ－2は各器種を推定される用途に分け、石錘、たたき石・すり石・石皿、石斧と石斧製作に関係するもの（石斧関連）、石匙・匙型石器（石匙等）、スクレイパー・掻器・削器（スクレイパー等）、石鏃・尖頭器・尖頭器様石器・石槍（石鏃等）の6つにわけた。

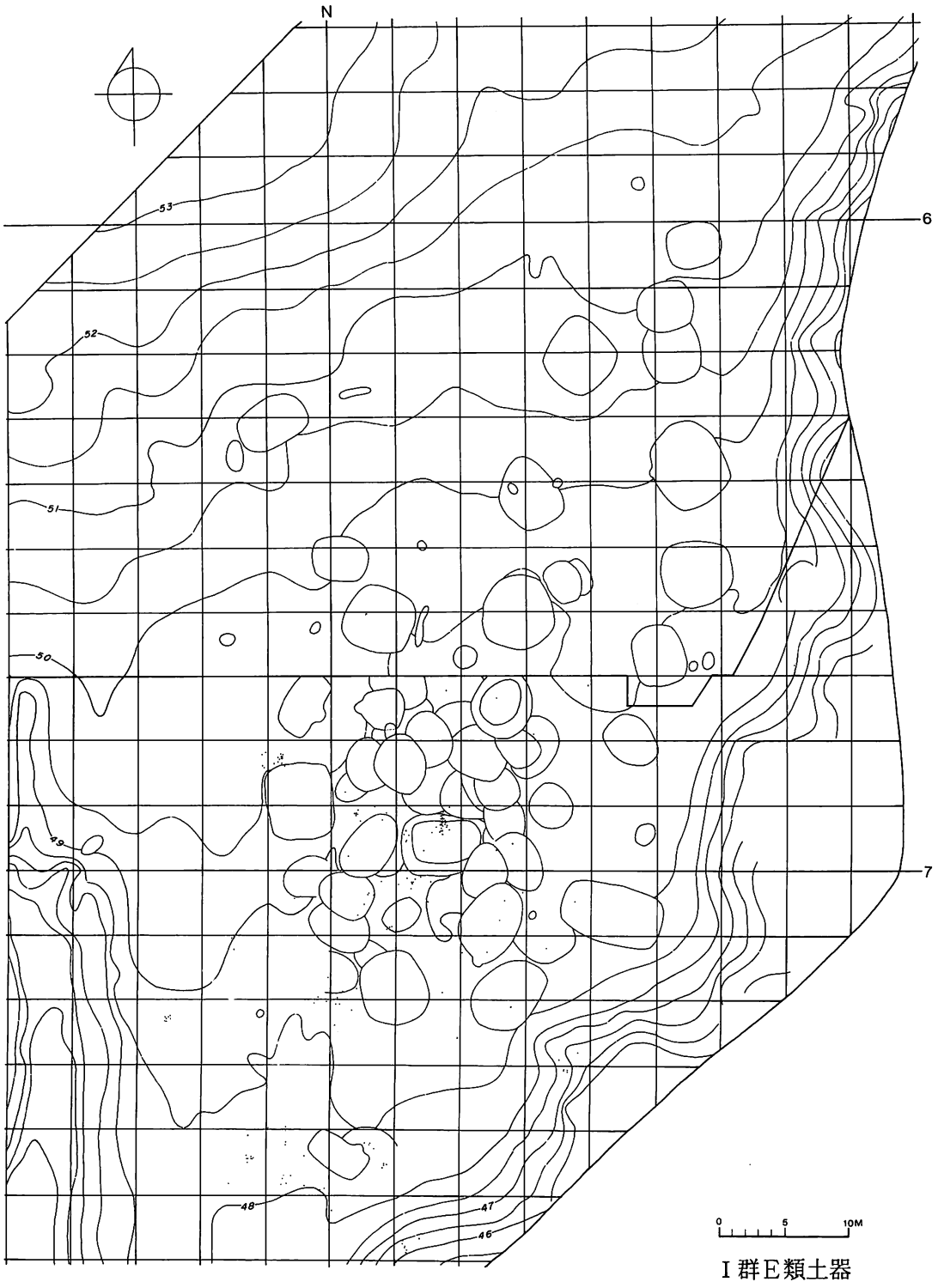
まず石錘は、3・4年中野A13%、グループⅡ30%、中野B55%で各々に大きな差がある。グループⅡは全体の3割、中野Bでは全体の半数以上にも及んでいる。つぎにたたき石・すり石・石皿は、3・4年中野A26%、グループⅡ7%、中野B11%である。3・4年中野Aが一番多く、全体の3割弱を占める。たたき石・すり石・石皿の3つの中で一番差が大きいものは、すり石で3・4年中野A15%、グループⅡ5%、中野B8%で、グループⅡと中野Bではほとんどを占める。石斧関連は、3・4年中野A25%、グループⅡ10%、中野B4%で3・4中野Aでは全体の4分の1を占める。その中で特に差が大きいのは砥石で、3・4年中野A13%、グループⅡ5%、中野B2%である。3つすべてにおいて石斧関連の半数を占める。石匙等は、3・4年中野A6%、グループⅡ5%、中野B3%である。全体における割合は小さい。スクレイパー等は3・4年中野A18%、グループⅡ31%、中野B19%である。3つとも全体の5分の1以上を占め、グループⅡでは全体の約3割に及ぶ。石鏃等は分類の差によって比率にも差が生じている可能性があるが、3・4年中野A6%、グループⅡ12%、中野B3%で全体における比率も小さい。この結果3・4年中野Aではたたき石・すり石・石皿＞石斧関連＞スクレイパー等＞石錘＞石匙等＞石鏃等、グループⅡではスクレイパー等＞石錘＞石鏃等＞石斧関連＞たたき石・すり石・石皿＞石匙等、中野Bでは石錘＞スクレイパー等＞たたき石・すり石・石皿＞石斧関連＞石匙等＞石鏃等となり、石器の組成は大きく異なる。石器の組成がそのまま依存する生業の割合や、その生業に使用する道具の割合を示しているとは言えないが、以上の結果の内、全体の30%を越えたものに対しては少なくとも傾向を示していると言えるだろう。このデータを他の遺跡と比較し、今後さらに比較検討を深めたい。



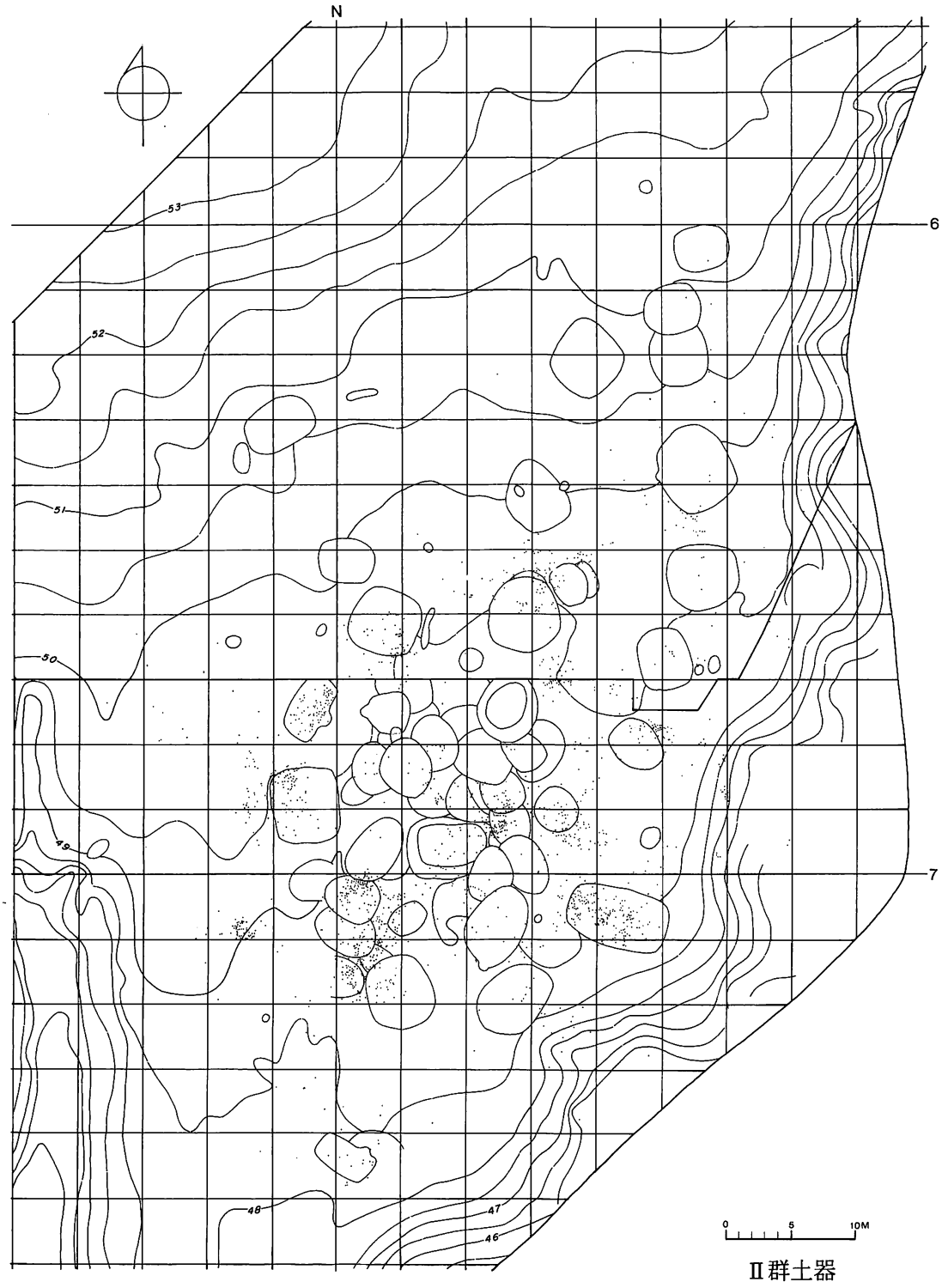

図Ⅴ－１　平成３年・４年度土器型式別分布図（1）



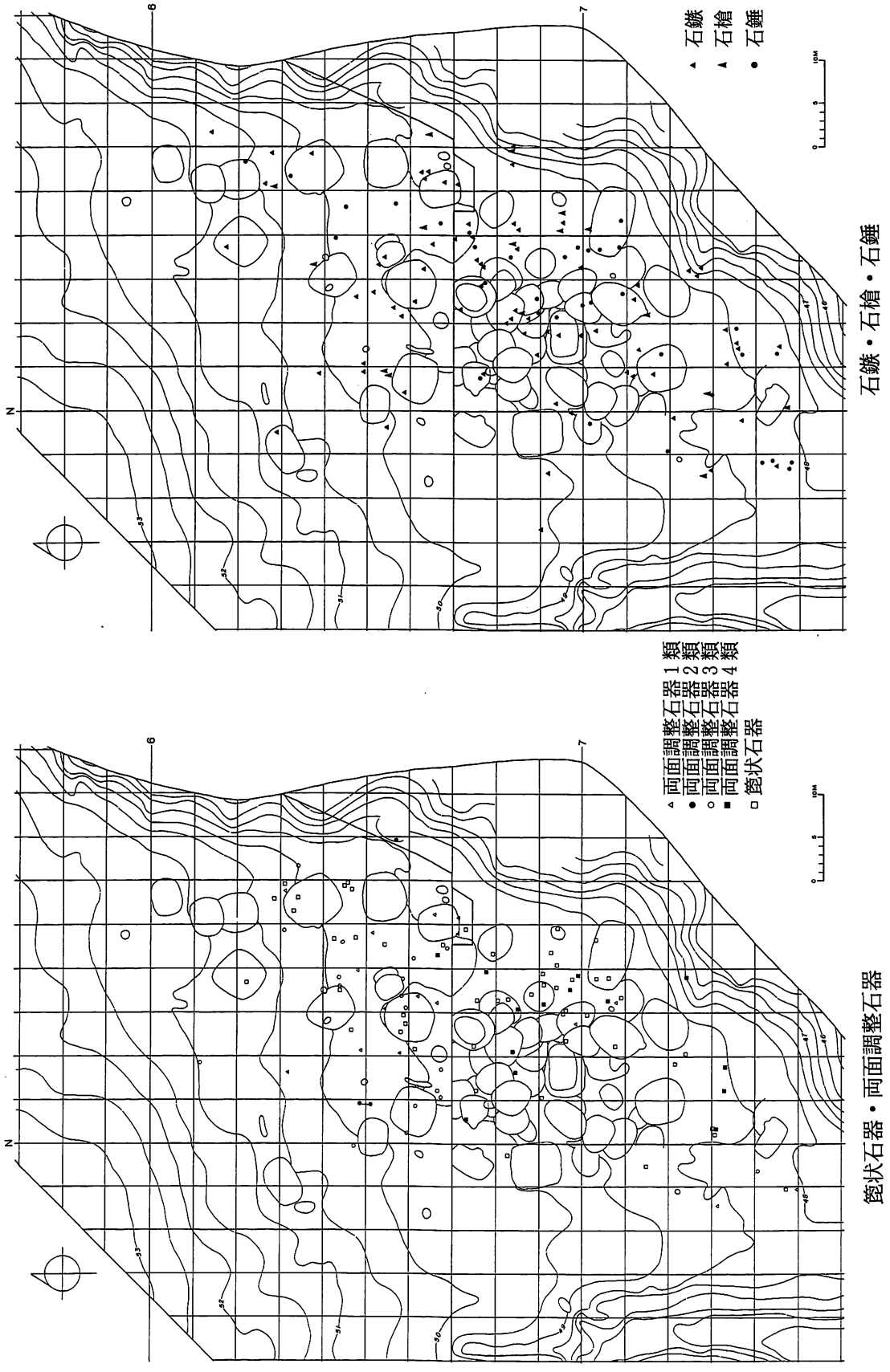

図Ⅴ－2　平成3年・4年度土器型式別分布図 (2)



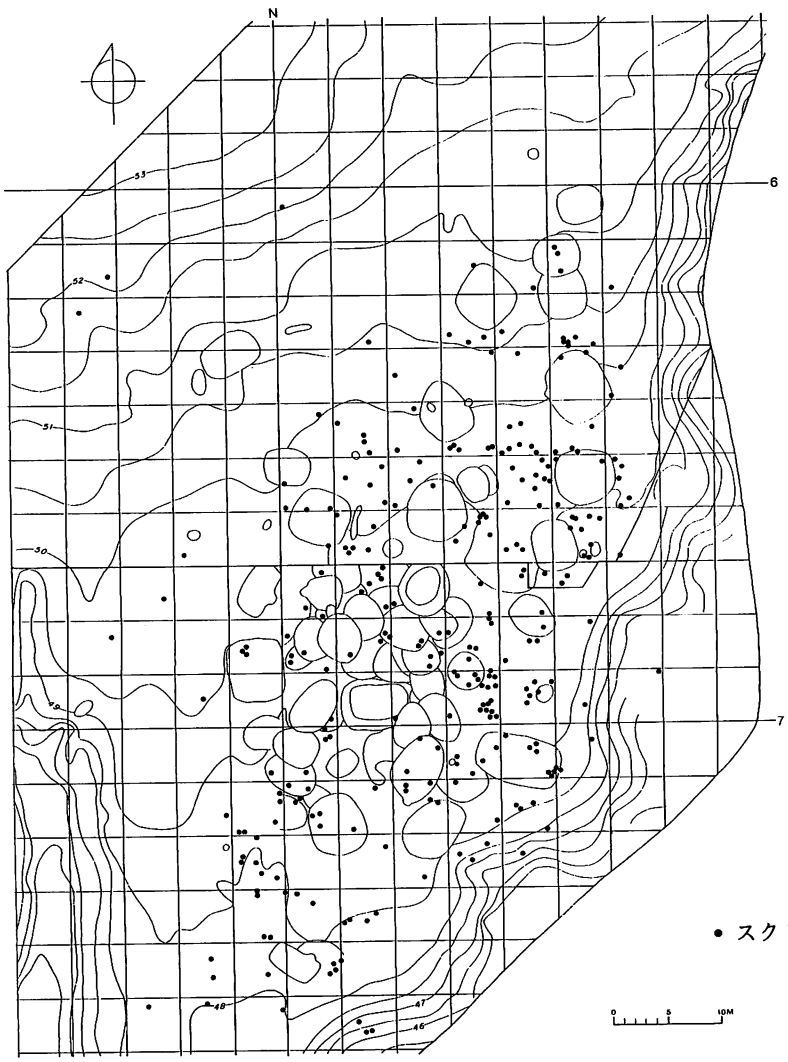

図Ⅴ－３　平成３年・４年度土器型式別分布図 (3)



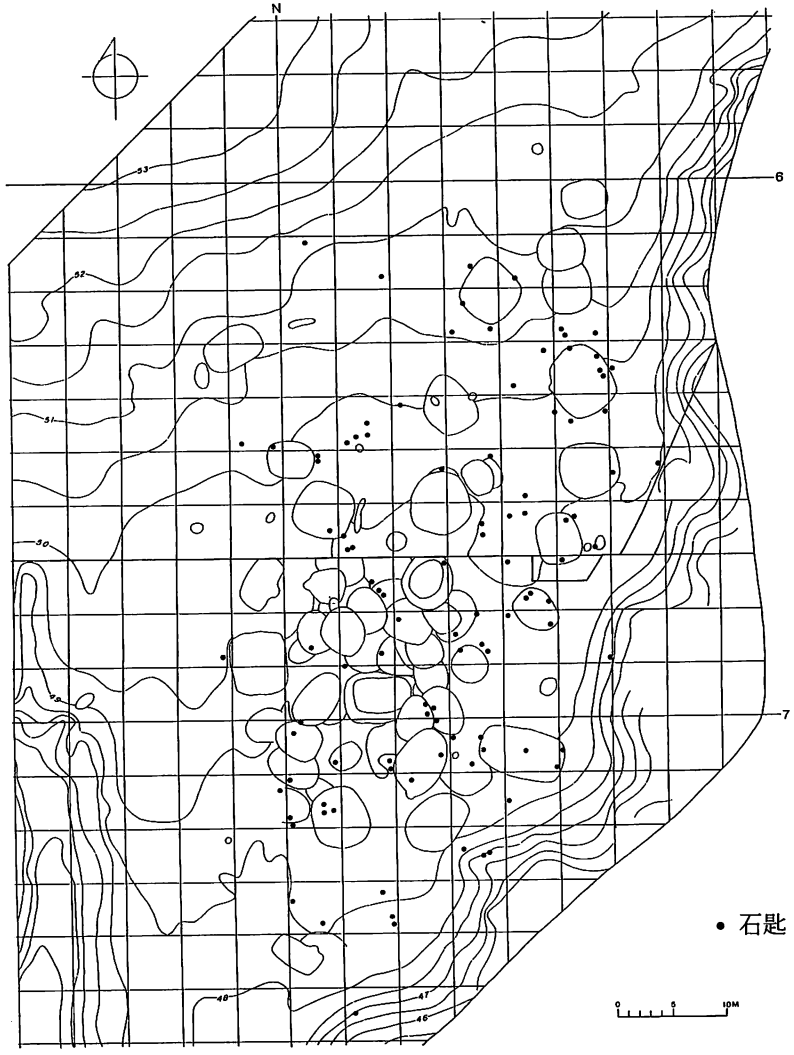

図Ⅴ－4　平成3年・4年度土器型式別分布図 (4)




図Ⅴ－5　平成3年・4年度石器分類別分布・接合関係図 (1)

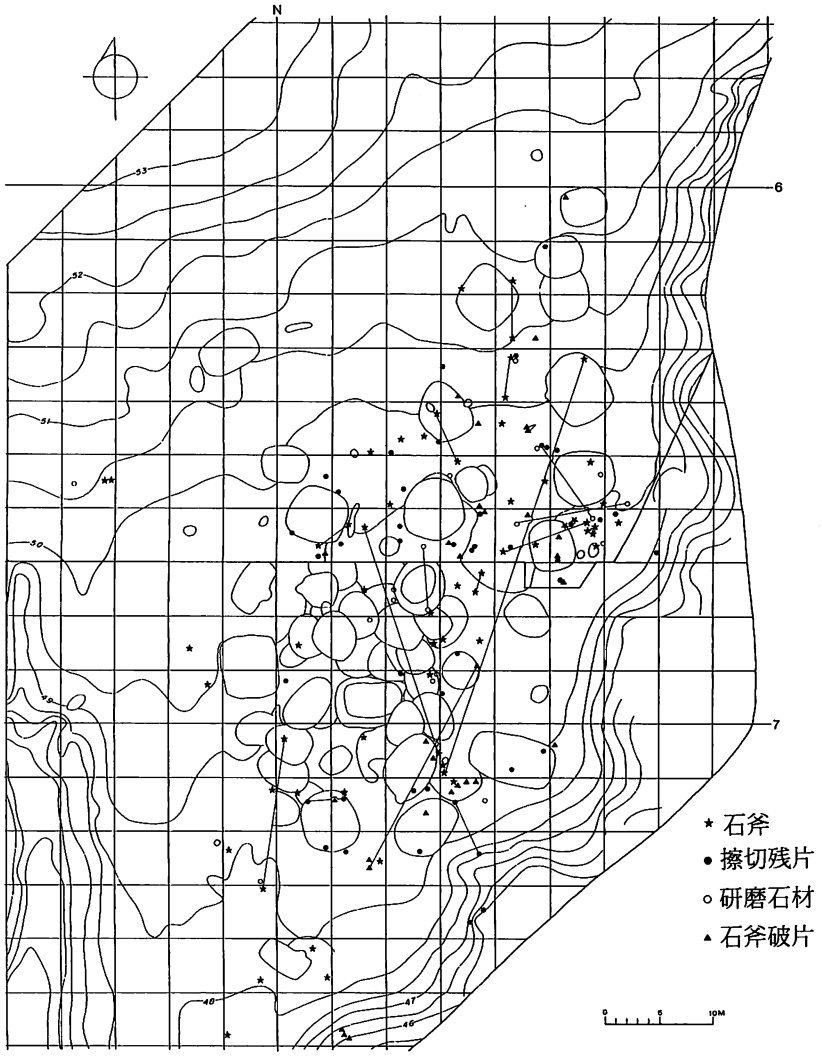



スクレイパー

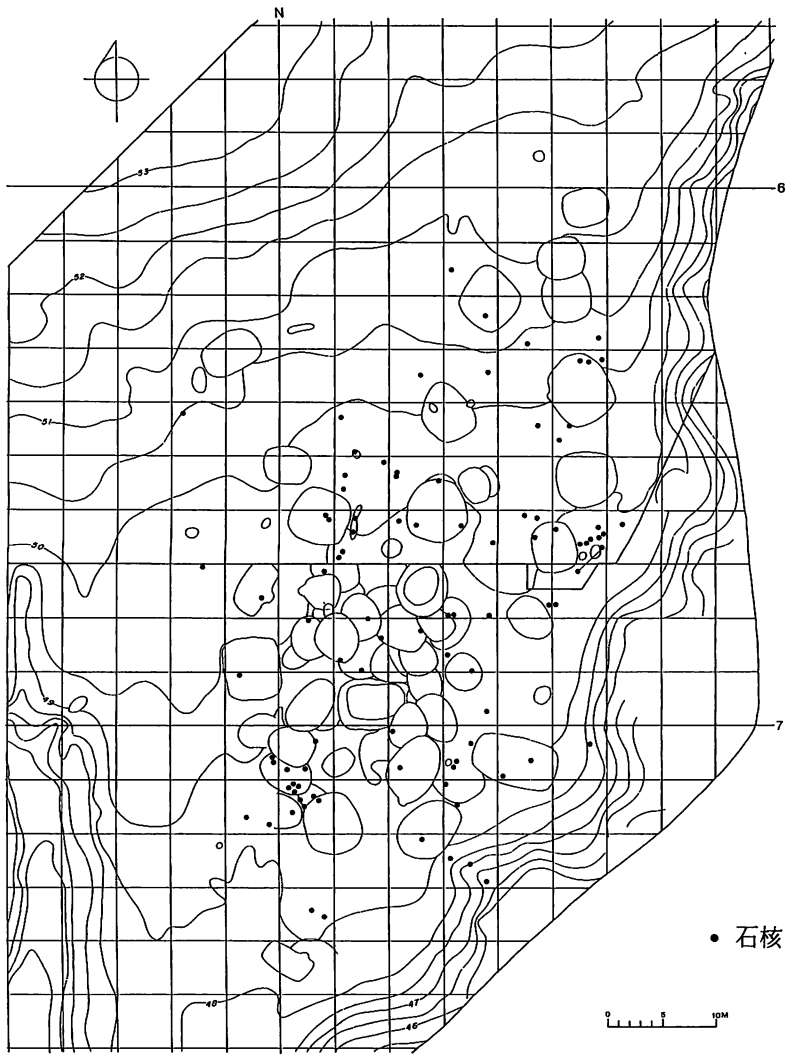



石匙

図Ⅴ－6　平成3年・4年度石器分類別分布・接合関係図 (2)

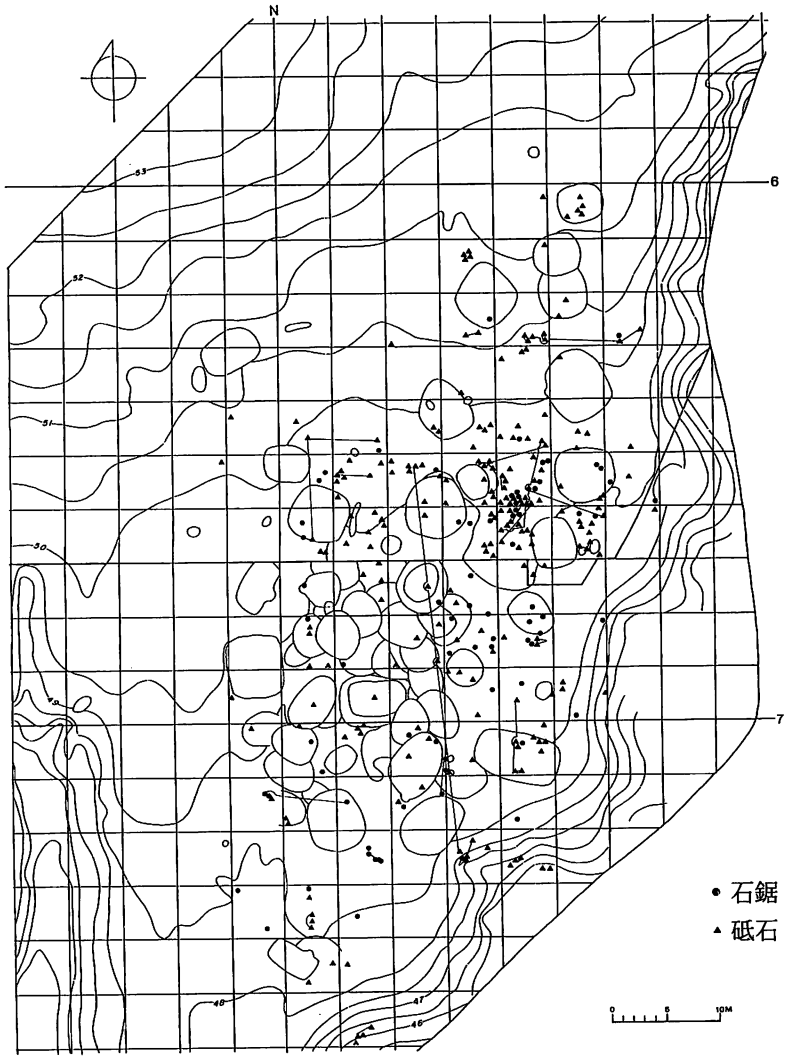



石斧・擦切残片・研磨石材・石斧破片

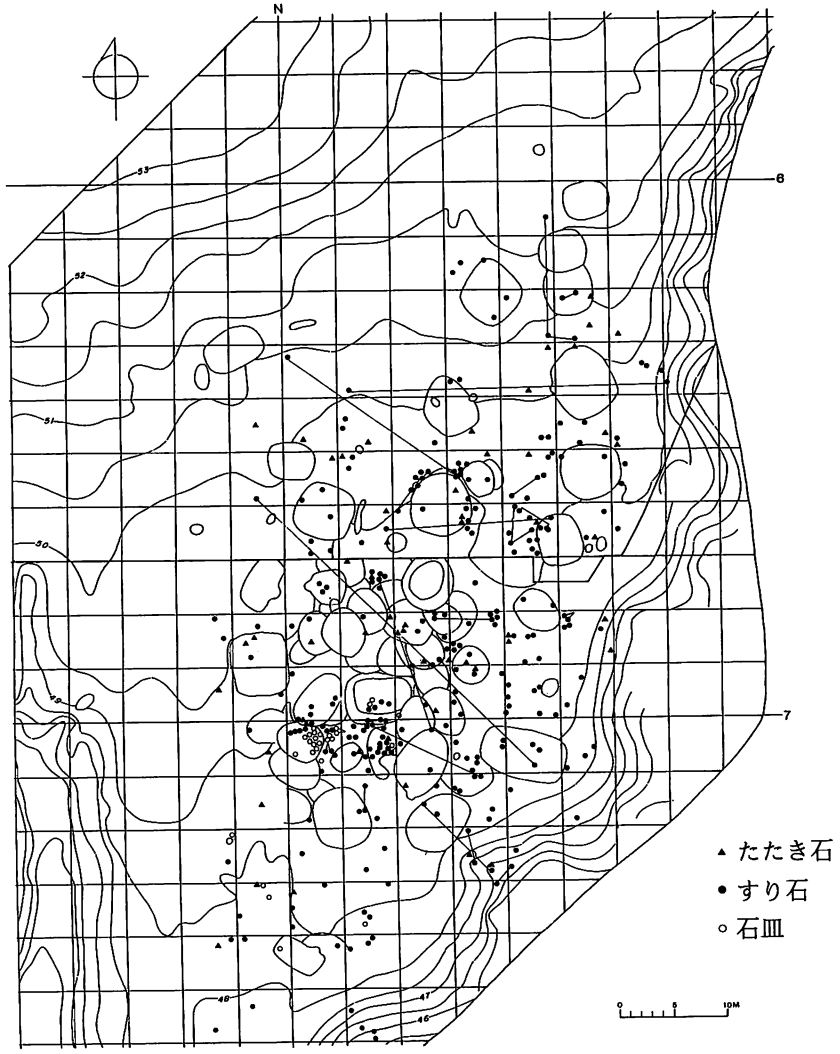



石核

図Ⅴ－7　平成3年・4年度石器分類別分布・接合関係図 (3)




砥石・石鋸




たたき石・すり石・石皿

図Ⅴ－8　平成3年・4年度石器分類別分布・接合関係図 (4)

表Ⅴ－1　中野A・B遺跡石器組成比較一覧

平成4年度　中野A遺跡

| 遺構名 | 石鏃 | 石槍 | 石匙 | 錐状 | 両設 | スク | 石錐 | 石核 | 石斧 | 掻切 | 研磨 | 破片 | 砥石 | 石製 | たた | すり | Ⅲ | 石錘 | 環状 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺構／728(%) | 5 | 2 | 5 | 2 | 1 | 19 | 1 | 4 | 3 | 2 | 2 | 1 | 6 | 4 | 7 | 17 | 2 | 17 | |
| 包含層／1231(%) | 4 | 1 | 6 | 3 | 2 | 17 | 2 | 5 | 3 | 2 | 1 | 2 | 8 | 4 | 3 | 18 | 6 | 12 | 1 |
| 合　計／1959(%) | 4 | 1 | 6 | 3 | 2 | 17 | 2 | 5 | 3 | 2 | 2 | 1 | 7 | 4 | 5 | 17 | 4 | 14 | 1 |

平成3年度　中野A遺跡

| 遺構名 | 石鏃 | 石槍 | 石匙 | 石匙 | 錐状 | 極器 | 削器 | 石錐 | 抉入 | 石核 | 石斧 | 掻切 | 研磨 | 砥石 | 石製 | たた | すり | Ⅲ | 石錘 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺構／322(%) | 4 | | 2 | 2 | 1 | 4 | 11 | 1 | 2 | 4 | 3 | 5 | 1 | 23 | 5 | 7 | 9 | 2 | 14 |
| 包含層／918(%) | 5 | 1 | 4 | 3 | 1 | 1 | 14 | 1 | 2 | 6 | 6 | 4 | 1 | 20 | 4 | 4 | 12 | 1 | 10 |
| 合　計／1140(%) | 4 | 1 | 3 | 3 | 1 | 2 | 14 | 1 | 2 | 6 | 5 | 4 | 1 | 21 | 4 | 5 | 11 | 1 | 11 |

平成3・4年度　中野A遺跡

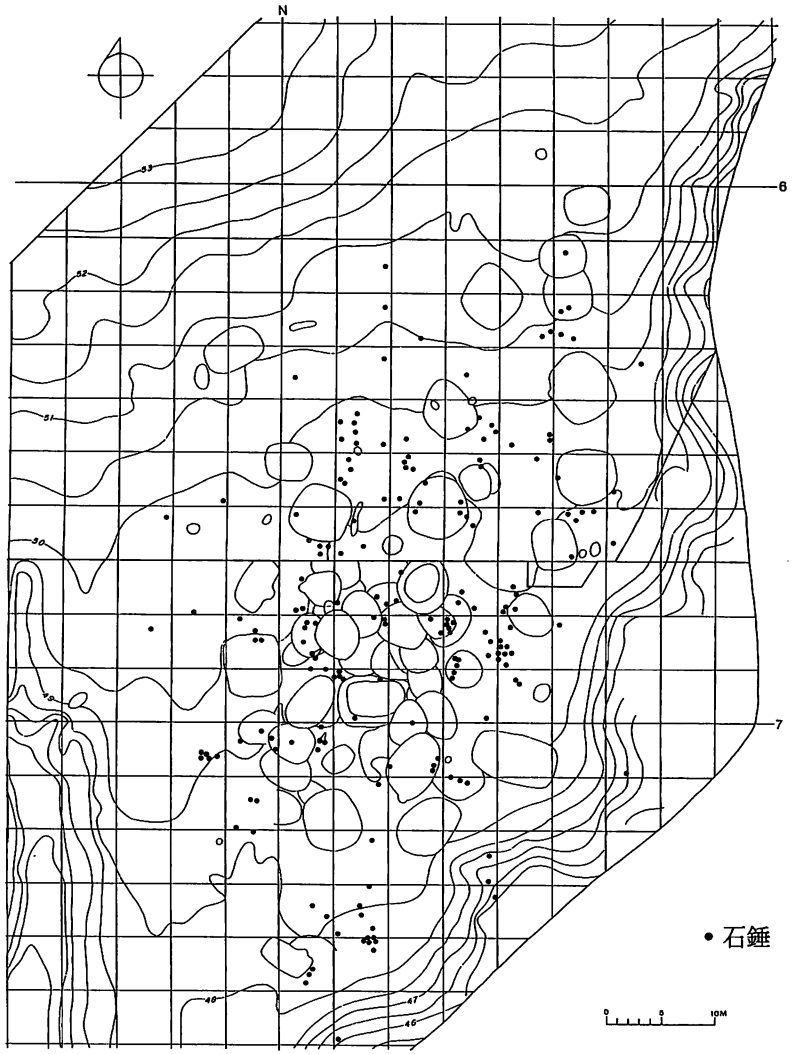
| 遺構名 | 石鏃 | 石槍 | 石匙・匙形 | 錐状 | スク・極器・削器 | 石錐 | 石核 | 石斧 | 掻切 | 研磨 | 砥石 | 石製 | たた | すり | Ⅲ | 石錘 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺　構／322(%) | 5 | 2 | 5 | 2 | 18 | 1 | 4 | 3 | 3 | 1 | 12 | 4 | 8 | 15 | 2 | 15 |
| 包含層／918(%) | 5 | 1 | 6 | 2 | 18 | 2 | 6 | 4 | 3 | 1 | 14 | 4 | 3 | 16 | 4 | 11 |
| 合　計／1140(%) | 5 | 1 | 6 | 2 | 18 | 2 | 5 | 4 | 3 | 1 | 13 | 4 | 5 | 15 | 3 | 13 |

昭和50・51年度　中野A遺跡　グループⅡ

| | 石鏃 | ポイント | 石槍 | 石匙 | トラン | 両加 | スク | 抉入 | 石錐 | 石核 | 石斧 | 掻切 | 砥石 | 石製 | たた | すり | Ⅲ | 石錘 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H－9 | | | 2 | 1 | | | 24 | | | | | | 4 | 3 | 1 | 5 | | 16 | 56 |
| H－10 | 8 | | 4 | 5 | | 4 | 28 | | 3 | | 2 | | 8 | | 1 | 2 | 1 | 7 | 73 |
| H－11 | 6 | | 3 | 5 | | 4 | 36 | 2 | | 1 | 1 | | 12 | 2 | | 4 | | 16 | 92 |
| H－12 | | 1 | | 1 | | | 12 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 6 | 26 |
| H－13 | 4 | | 2 | 6 | | | 16 | | | | 3 | | 5 | | 1 | 6 | | 37 | 80 |
| H－14 | 1 | 2 | | | | | 12 | | | | | 2 | 8 | 1 | | | | 3 | 29 |
| P－2 | | | | | | | 3 | | | | | | | | | 1 | | | 4 |
| P－5 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| P－6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| P－7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| P－10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 4 |
| P－11 | 1 | | | 3 | | | 29 | | | | | | 1 | | | 3 | 5 | | 32 | 74 |
| P－12 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 遺構外 | 88 | 104 | 30 | 108 | 4 | 3 | 552 | | | 21 | 52 | | 85 | 13 | 20 | 97 | 6 | 544 | 1,727 |
| 合　計 | 109 | 107 | 41 | 129 | 4 | 11 | 712 | 2 | 3 | 23 | 60 | 3 | 123 | 19 | 27 | 122 | 7 | 665 | 2,167 |
| 遺　構／440 | 5 | 1 | 3 | 5 | 1 | 1 | 32 | | 2 | 1 | 2 | 1 | 9 | 1 | 2 | 6 | 1 | 27 | |
| 遺構外／1727 | 5 | 6 | 2 | 6 | | | 31 | 1 | 1 | 1 | 3 | | 5 | 1 | 1 | 6 | 1 | 30 | |
| 合　計／2167 | 5 | 5 | 2 | 5 | 1 | 1 | 31 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 5 | 1 | 1 | 5 | 1 | 30 | |

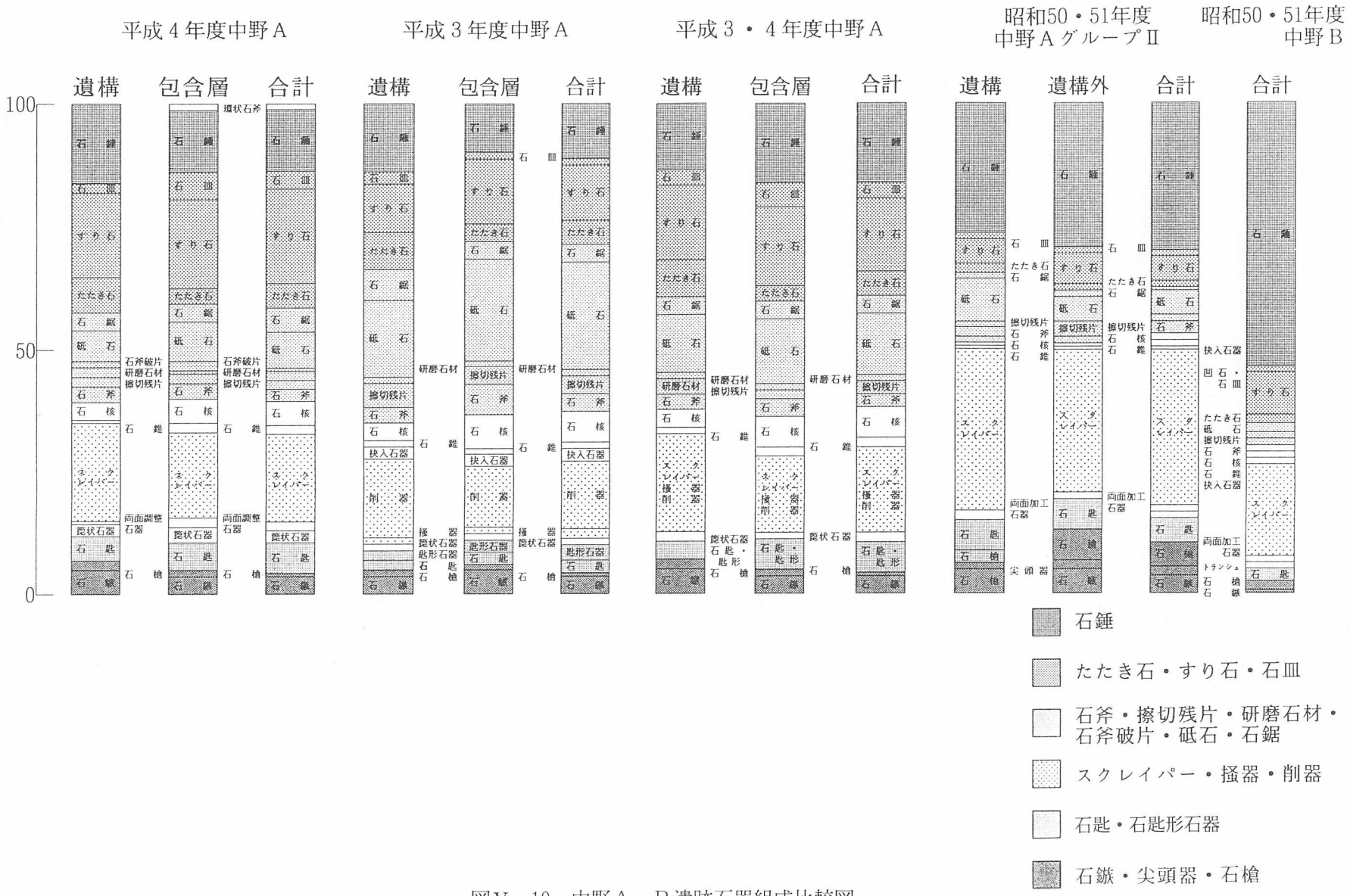
昭和50・51年度　中野B遺跡

| | 石鏃 | 石槍 | 石匙 | トラン | 両加 | スク | 抉入 | 石錐 | 石核 | 石斧 | 掻切 | 砥石 | たた | すり | 凹凹 | 石錘 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H－1 | | 3 | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | | 2 | | 14 | 23 |
| H－2 | | 4 | 5 | | | 26 | | 1 | 1 | 2 | | 3 | 5 | 7 | 1 | 78 | 133 |
| H－3 | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | 7 | 10 |
| H－5 | | 3 | | | | 12 | | | | | | | 3 | 9 | 2 | 77 | 106 |
| H－6 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | 2 | 4 |
| H－7 | 1 | 2 | 2 | | | 26 | | | 1 | | | 1 | 1 | 4 | | 68 | 106 |
| H－10 | | | 3 | | | | | | | | 1 | | | 2 | 1 | 5 | 12 |
| H－11 | 11 | 19 | 18 | 2 | | 114 | | 2 | 2 | 8 | | 8 | 7 | 67 | 10 | 369 | 637 |
| H－12 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | 3 |
| H－14 | 3 | 1 | 2 | | 1 | 20 | | | 1 | | 1 | | 1 | 5 | | 45 | 80 |
| H－15 | | | 1 | | | | | | | | | | | 3 | | 5 | 9 |
| H－16 | | | 1 | | | 7 | | | | | 1 | | 1 | 3 | | 30 | 43 |
| H－17 | | | | | | 3 | | | 1 | | | 3 | 1 | 6 | | 17 | 31 |
| H－18 | | | | | | 8 | | | | | | | 1 | 3 | | 11 | 23 |
| H－19 | | 5 | 5 | | | 53 | | | 1 | 2 | | 7 | 4 | 14 | | 102 | 193 |
| H－20 | 1 | 1 | 2 | | | 15 | 1 | | | 1 | | 6 | 3 | 4 | | 71 | 105 |
| H－21 | 2 | 4 | 10 | | 1 | 70 | | 2 | 1 | 1 | | 5 | 2 | 26 | | 127 | 251 |
| 合　計 | 18 | 42 | 50 | 2 | 2 | 358 | 1 | 5 | 8 | 15 | 2 | 36 | 29 | 157 | 14 | 1,030 | 1,769 |
| 合　計／1769 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 | 19 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 8 | 1 | 55 | |




石錘

図Ⅴ－9　平成3年・4年度石器分類別分布・接合関係図 (5)




図Ⅴ－10　中野Ａ・Ｂ遺跡石器組成比較図

## ２　縄文時代早期中葉（Ⅰ群Ｂ類土器相当）の住居跡について

1991（平成３）年、1992（平成４）年の調査で、住居跡56軒、土壙25個、Ｔピット51個が発見された。そのほかにも焼土や遺物集中などが検出され、1976（昭和51）年の調査と合わせると中野Ａ遺跡の集落全体がほぼ明らかになったと言えよう。特に住居跡は縄文時代早期中葉（Ⅰ群Ｂ類＝物見台式土器期）の住居跡群として完結した。昨年度発見された住居跡を検討し、“一つの見通し”という条件付きではあるが、得られた結論（「平成３年度　中野Ａ遺跡」Ⅴ　まとめ　１遺構）と本年度の調査で明らかになった諸点を比較検討し、住居跡の新旧、共存する住居跡とその変遷について考えることにする。また住居の上屋構造、屋内の生活空間、更には1976年の調査で発見された住居跡とその関係についても、若干触れたいと思う。

１）住居跡の新旧について

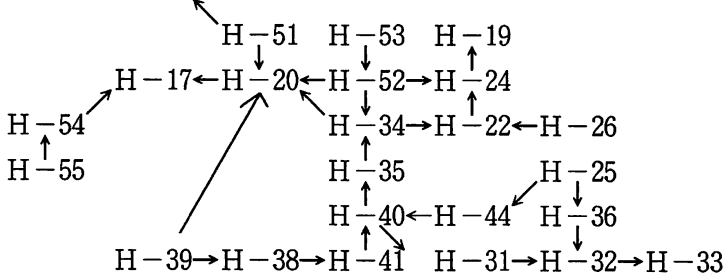
まず本年度の調査で発見された住居跡について検討する。本年度は42軒の住居跡が発見された。このうちＨ－15、Ｈ－43は縄文時代前期に属するものである。またＨ－28、Ｈ－41、Ｈ－44、Ｈ－52、Ｈ－53は重複がはなはだしく、全体が把握できなかった。ただＨ－28以外の4 軒は重複関係の頃では検討の対象としているが、他の項では対象外としている。残り35軒の住居跡の中にも全体が不明瞭なものもあったが、柱穴状小ピットや残存する平面形などからできる限り推定、復元し、検討の対象とした。

㈠ 重複関係から見た新旧

40軒の住居跡は複雑且つ縦横に重複していた。いずれの住居跡とも重複していなかったものは、Ｈ－16、Ｈ－18、Ｈ－27、Ｈ－29、Ｈ－30、Ｈ－56の６軒に過ぎなかった。なおＨ－45、Ｈ－49ははっきりと重複関係を把握できなかった。以下にこれらの重複関係を示す（旧→新）。

①　Ｈ－23←Ｈ－46←Ｈ－47←Ｈ－48→Ｈ－37

②　Ｈ－21←Ｈ－50




①、②の重複関係図から推測できることは、Ｈ－17、Ｈ－19、Ｈ－21、Ｈ－23が総体的に新しい時期の住居跡であり、Ｈ－25、Ｈ－39、Ｈ－48がより古い時期のものであろう、ということである。

㈡ 出土遺物の接合関係などから見た新旧

昨年度出土した遺物との接合も含めて、出土遺物の接合、同一個体の分布状況から以下のような新旧関係が得られた。

①Ｈ－３、Ｈ－６→Ｈ－18
②Ｈ－21、Ｈ－22、Ｈ－23→Ｈ－29
③Ｈ－18、Ｈ－33、Ｈ－34、Ｈ－６、Ｈ－９→Ｈ－20
④Ｈ－３→Ｈ－36
⑤Ｈ－32→Ｈ－22
⑥Ｈ－26、Ｈ－36→Ｈ－33
⑦Ｈ－22、Ｈ－24、Ｈ－26→Ｈ－20
⑧Ｈ－21、Ｈ－40→Ｈ－29
⑨Ｈ－３→Ｈ－18
⑩Ｈ－33→Ｈ－30
⑪Ｈ－25、Ｈ－29、Ｈ－37→Ｈ－36
⑫Ｈ－28、Ｈ－37→Ｈ－16

きわめて大雑把な新旧関係しか認められない。ただ注目すべく点は、①、③、④、⑨で明らかなよ

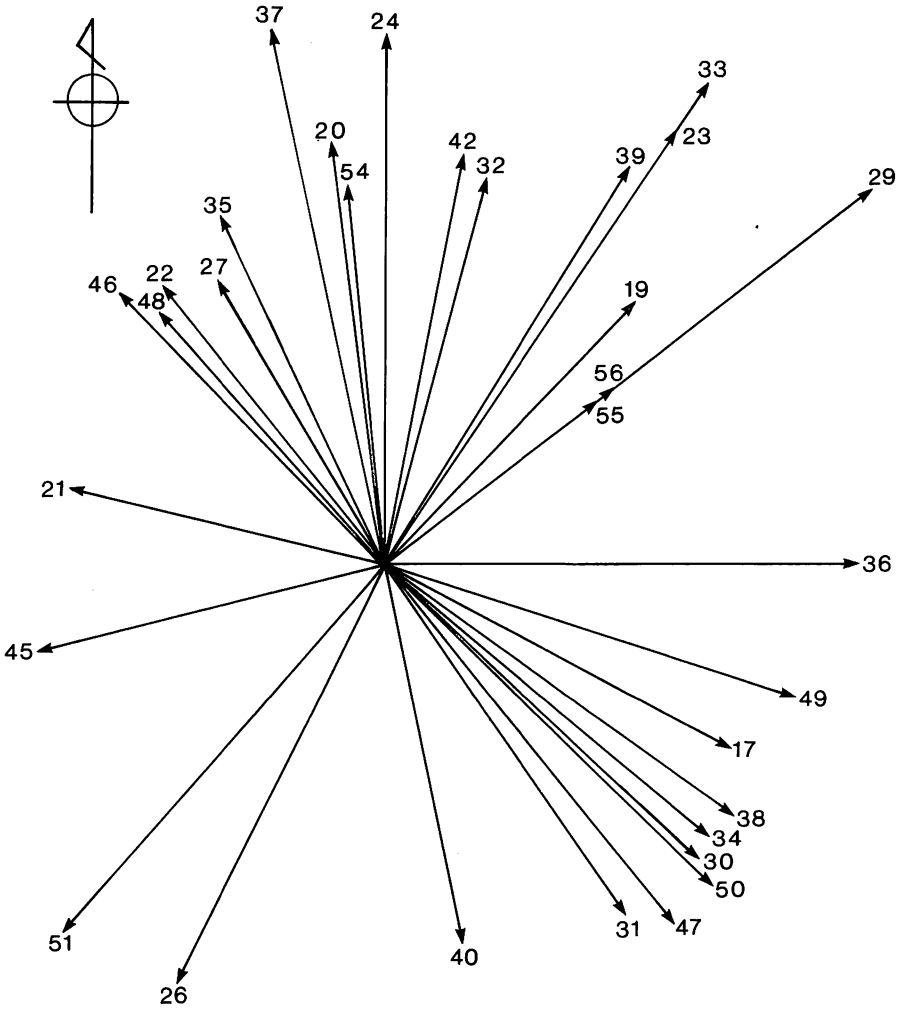
うに、昨年度の住居跡の方が、本年度の住居跡より古いと思われることである。

(ハ) 平面形から見た新旧

本年度の住居跡の平面形を概観すると、卵型状のものが多いことに気付かれるであろう。H－16が隅丸方形状、H－18が隅丸長方形状、H－27が円形状である以外はおおよそ卵形状のものである。この卵形状のものでも先頂部が角張り、五角形（H－21、H－56）あるいは台形状（H－17、H－25、H－36、H－37）に近いものも認められるが、概して卵形状の変形と考えて良いと思われる。H－25の東側は重複していて不鮮明であるが、検出された部分から推測するとほぼ隅丸長方形状に近似したものと思われる。資料は少ないが、(ロ) の①、③、④、⑨とH－25周辺の重複関係から、隅丸方形状→隅丸長方形状→卵形状という新旧関係が想定できる。

(ニ) 長軸方向について

昨年度も触れたけれども、長軸方向が新旧関係に直接関わるかどうかは明瞭でない。しかしながら同時性をもつ蓋然性は高いと思われる。このことを考慮し、長軸方向を見るとH－16、H－27ははっきりしないが、他の住居跡は長軸方向を確認できる。特に卵形状の先頂部に注目すると、ほぼ全方向に認められる。ただその中でも北西～北～東～南東方向にまとまりが多く見られ、28軒がこの範囲内に収まっている。この中でも①南東方向　②北東方向　③北方向　④北西方向というまとまりが見られる（図Ⅴ－11）。




図Ⅴ－11　長軸方向模式図

①にはH－17、H－30、H－31、H－34、H－38、H－47、H－49、H－50の８軒
②にはH－19、H－23、H－29、H－33、H－39、H－55、H－56の７軒
③にはH－20、H－24、H－32、H－37、H－42、H－54の６軒
④にはH－22、H－35、H－46、H－48の４軒
がある。H－36は東方向、H－21、H－45はほぼ西方向、H－26、H－51はほぼ南西方向、H－40は南南東方向である。

(ホ) 柱穴状小ピットについて

壁面および壁付近にある柱穴状小ピットに注目すると、昨年同様　①壁面に内傾する小ピットのあるもの　②壁際より内側に直立する小ピットがめぐるもの　というまとまりが見られる。①にはH－18が該当する。H－16、H－23、H－29、H－37、H－39にも壁面に内傾する小ピットが認められた。しかしながらこれら５軒の住居跡ではごく一部分に検出されただけである。これら以外の住居跡はすべて②に該当する。柱穴状小ピットの検出状況から新旧関係を云々する材料はない。ただ本年度の住居跡は圧倒的に②のものが多いことを指摘するにとどめておく。

(ヘ) 昨年度と本年度の異同について

昨年度と本年度の住居跡に重複関係は見られない。出土遺物の接合関係、同一個体の分布状況からは、(ロ)の①、③、④、⑨のような漠然とした新旧関係が見られたに過ぎない。昨年度の住居跡の長軸方向はほぼ北－南、北西－南東、東－西であり、本年度のものより範囲は限定されるが、かなり重なるものが多い。次に違いが明瞭に見られる平面形と柱穴状小ピットについて考えてみる。

ⅰ）平面形について

昨年度の住居跡は、隅丸方形状（H－３、H－12、H－13)、隅丸長方形状（H－６、H－11)、台形状（H－２、H－４、H－５、H－７、H－８、H－14)、五角形状（H－９）のものであった。H－９は他に比べると異質な平面形であるが、卵形状の範囲に収まるものかと思われる。本年度の住居跡では、隅丸方形状（H－16)、隅丸長方形状（H－18、H－25)、円形に近いもの（H－27）もあるが、40軒のうち36軒（90％）は卵形状あるいは卵形状に近似するものである。(ロ)の結論を考慮に入れると、隅丸方形状→隅丸長方形状→台形状→卵形状という大きな流れの新旧関係が想定され、円形状のものが最も新しい時期のものと考えられる。

ⅱ）桂穴状小ピットについて

昨年度と本年度の柱穴状小ピットにはともに　①壁面に内傾するものと②壁付近をめぐる直立するものがある。ところが昨年度の住居跡には①のものが多い。本年度の住居跡にもH－18のように①のものがあり、また部分的に①が見られるものもあるけれども、②の壁際および壁の内側に直立する小ピットのめぐるものが圧倒的に多い。これは、一概に新旧を論じる根拠とはなり難いかも知れないが、大筋として、壁面に内傾する小ピットを有する住居跡の方がより古い時期に多いのではないか、という想定が考えられる。

ⅲ）出土土器について

昨年度も本年度も床面出土の土器として取り上げたものでも、確実にその住居跡に伴うものとされるものはほとんどなく、また小破片のものであった。従って覆土出土の土器、あるいは包含層出土と土器の文様帯の変化に注目し、おおよその新旧を考えざるを得なかった。これによると本年度の出土土器には精緻さ、美しさがやや欠け、文様帯がくずれ気味のものが総体的に多いという。これは本年度の出土土器の方がより新しい傾向が伺えることを示しているのではなかろうか。

以上、(イ)～(ホ)の五つ事項について検討してきた。そこで(イ)および(ロ)の新旧関係、且つ(ヘ)、(ニ)の諸要

素を加味し、総合的に考えると、以下のような新旧関係が想定される（図V－12）。

H－3・H－12・H－13・H－16 → H－6・H－11 → H－18 → H－8・H－10 → H－2・H－4・H－14・H－5・H－7・H－25 → H－39・H－55 → H－38・H－49 → H－18 → H－35・H－48 →

H－26・H－51 → H－47・H－31・H－34・H－35 → H－36 → H－32・H－37 → H－33・H－56 → H－22・H－46 → H－9・H－24・H－54 → H－20・H－42 → H－21・H－45 → H－17・H－30 →

H－19・H－23・H－29 → H－27

この新旧関係および住居の変遷には、昨年度検討課題とされたH－3、H－9の位置付けについては昨年と同じ結論を踏襲している。H－3、H－9については調査担当者からその位置付けについて異議が提出され、本年度の調査結果を待って検討し直すことで、結論は一応保留していた。しかしながら、これまでの検討によっても明確にすることはできなかった。(ロ)のような漠然とした新旧関係が得られたに過ぎない。ただ平面形では隅丸方形状→隅丸長方形状というおおよその新旧関係が伺えたこと、またH－9は、本年度の大半を占める卵形状の平面形に近いということが明らかとなり、大筋において昨年度の新旧関係は容認されるのではないかと考えている。

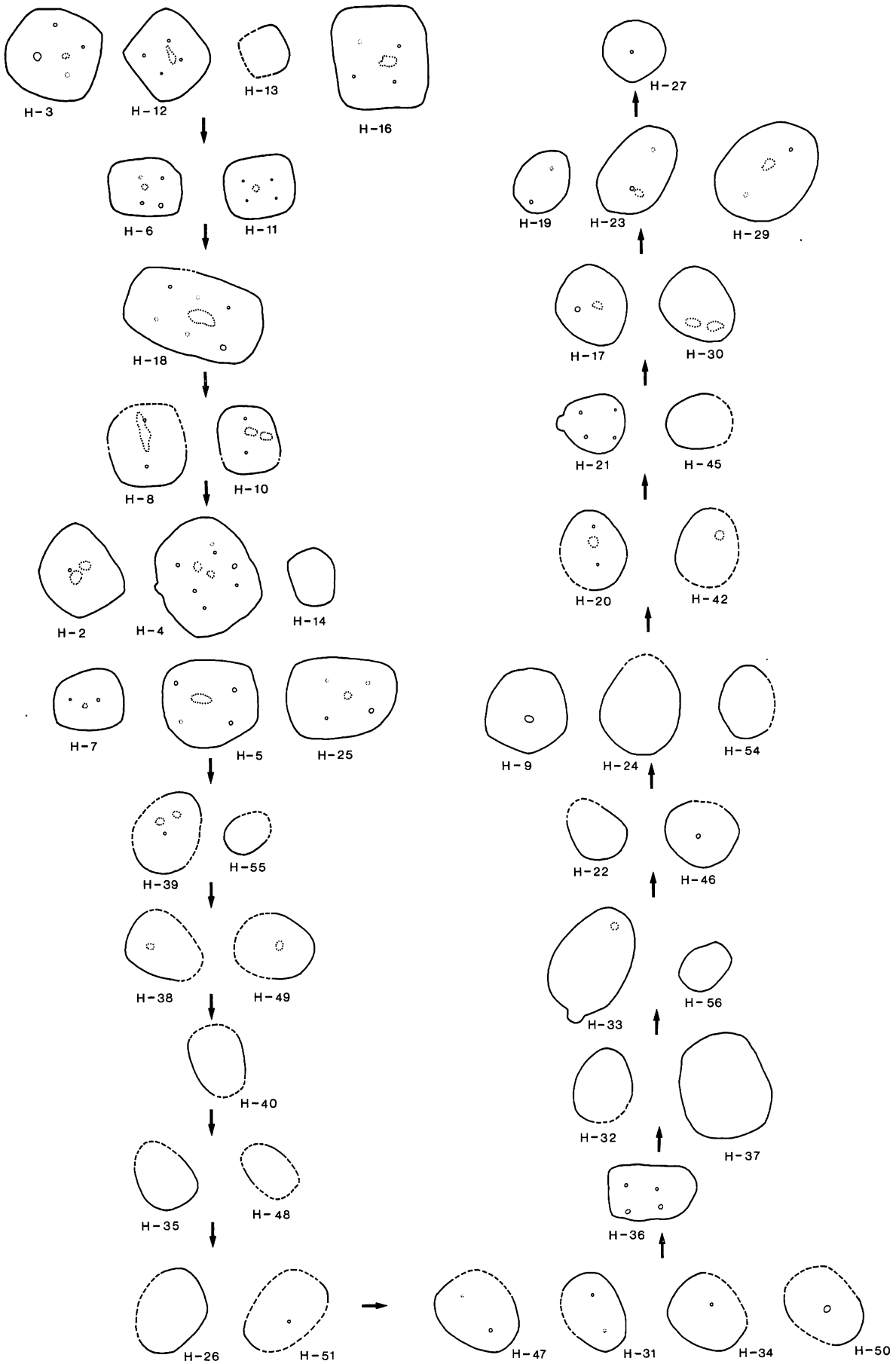
二年にわたる調査で発見された住居跡から、共存する住居跡は2～3軒で、平面形が隅丸方形状のものがより古く、隅丸長方形状→台形状→卵形状という変化を読みとることができる。ただ①すべての住居跡が検討の対象とされていない、②H－18、H－40、H－27、H－36のように単独で共存する可能性があるものが認められる。③H－31、H－34、H－47、H－50のように4軒が共存していると思われるものもある。④出土遺物の接合関係において、H－25、H－29、H－37→H－36、H－28、H－37→H－16という関係も存在し、上記の結論と大きく矛盾するものもあるという限定条件も付け加えなければならない。②は検討の対象からはずした5軒の住居跡との共存関係も考えなければならない。③は出土遺物、4軒の位置関係などから再検討する必要があろう。③については、H－29とH－36、H－37とH－16の新旧関係を吟味する必要があるだろう。幾つかの再検討の余地があるけれども、大筋において上記の結論は首肯されるものと思われる。

物見台式土器を作った人々は、沢に沿った台地縁辺の南東斜面の、やや高い処に住み始め、継続的に、順次低い処へと移動していた様子が伺える。特にN－7－12・22周辺にあたるやや浅い沢状地形となっている付近には、短時間に何度も何度も住居が作られ、人々が生活の場として利用したものと思われる。

2）住居の上屋構造について

住居の上屋構造を想定するための柱穴状小ピットが39軒の住居跡で検出された（H－44は検討の対象としていない）。柱穴状小ピットについては(ホ)のところで若干触れているが、ここでは斜め材、主柱更には床面積との関係を踏えて考えることにする。

(イ)上屋構造の斜め材に注目すると、①斜め材を壁面に建てるもの②斜め材を壁外に出すものの二つに大別できる。明らかに①に該当するものはH－16、H－18で、①の可能性があるものとしてH－23、H－29、H－37、H－39がある。その他はすべて②のものである。①は15%、②は85%で　②の住居跡が圧倒的に多い。昨年度では①が45%　②が55%であるのに較べ、本年度の住居は、斜め材を壁外


H-3
H-12
H-13
H-16
H-6
H-11
H-18
H-8
H-10
H-2
H-4
H-14
H-7
H-5
H-25
H-39
H-55
H-38
H-49
H-40
H-35
H-48
H-26
H-51
H-47
H-27
H-19
H-23
H-29
H-17
H-30
H-21
H-45
H-20
H-42
H-9
H-24
H-54
H-22
H-46
H-33
H-56
H-32
H-37
H-36
H-31
H-34
H-50

図Ⅴ－12　新旧関係図

に出す構造のものがきわめて多いと言えるだろう。斜め材を壁外に出す構造には、屋内空間をより広く利用できるという利点がある。また②の住居跡の壁高が全体に低いことから見て、床面を余り深く堀りくぼめず、より簡単に構築したものであったのではないかと想像される。

(ロ)次に主柱穴と思われる焼土周辺および床面中央部付近の小ピットに注目すると、35軒のうちで19軒の住居跡で直立する小ピットが検出された（H－24、H－26、H－38は不明であった)。35軒の住居跡の中で、主柱穴と考えられる小ピットが検出されなかったもの（主柱が用いられなかったと考えられるもの）は13軒あり、その他は1～数個の小ピットが検出された。後者の中には規則的な配列が認められなかったものも少なくないが、推定、復元したものも含んでいる。主柱は1～6本と多様である。そこで床面積を便宜的に ⓐ7㎡未満のもの ⓑ7.01㎡～10㎡のもの ⓒ10.01㎡～12.20㎡のもの ⓓ12.80㎡～17㎡もの ⓔ19㎡～23㎡のもの ⓕ25㎡以上のものに分け、主柱と平面形の関係を見てみる。ⓐは主柱をもたず、平面形は卵形状である。斜め材は壁外に出している。ⓑは10軒の住居跡のうち6軒は主柱がなく、1本柱が2軒、2本柱と4本柱がそれぞれ1軒である。このうちH－21は4本柱で台形状、H－27が1本柱で円形状である以外はほぼ卵形状の平面形である。ⓒは8軒のうち3軒が主柱をもたず、1本柱が1軒、2本柱が2軒、4本柱が1軒である。H－36が4本柱で隅丸長方形状あるいは台形状である以外は、ほぼ卵形状の平面形である。ⓓは8軒の住居跡のうち、1本柱が4軒、2本柱が2軒で、平面形は卵形状である。ⓔは4軒の住居跡のうち3軒は2～4本柱である。H－33は主柱穴は検出されなかった。H－37が台形状であるほかは卵形状の平面形である。ⓕは4～6本柱で、隅丸方形状、隅丸長方形状の平面形である。

床面積が12.20㎡以下の住居跡は、1～2本の主柱のものもあるが、概して主柱のないものが多い。平面形はほぼ卵形状のものである。20㎡以上の住居跡は2、4～6本の主柱をもち、平面形は隅丸方形状、隅丸長方形状あるいは台形状である。12.80㎡～19㎡の住居跡では、卵形状で主柱をもたないH－33を除いて1～2本の主柱をもち、ほぼ卵形状の平面形である。以上の検討結果を新旧関係図（図Ⅴ－12）と比較してみると、2，4～6本柱で隅丸方形状、隅丸長方形状の住居跡から1～2本、主柱をもたない卵形状の住居跡へ、やや大型のものから小型のものへ、という大よその変移を読み取ることができるのではないだろうか。ただH－21、H－36、H－13、H－14、H－29、H－33のように必ずしもこの変移に当てはまらないものもあり、これらについては全体的な流れの中で他の要素も加味して再考する必要があるだろう。

(ハ)昨年度の住居跡には、建て替えが行なわれたと思われる住居跡が7軒確認された。しかしながら、本年度の調査でははっきりと建て替えが行なわれたと確認できるものは検出されなかった。ただH－20とF－3、H－24とH－19、H－25とH－36というように、住居廃棄後そのくぼみを利用して再度生活の場として活用した例がいくつか認められた。

3）生活空間について

昨年度はH－4床面付近の土壌を試料採取し、フローテーション処理を行った。この結果炭化植物遺体および炭化材が検出され、その重量別分布から日常的な生活空間と出入口を推測した。本年度も各住居跡の床面付近の土壌や焼土をできる限り採取し、試料の収集に努めた。この結果、H－16、H－18、H－20、H－21、H－25、H－36でキハダ属種子、クルミ属などの炭化植物遺体が検出されている。これらを出土量（重量）別に作成した分布図が図Ⅴ－13・14である。

①H－16では微量のクルミ属が検出されている。分布にまとまりは認められない。

②H－18ではキハダ属種子、果肉付キハダ、クルミ属が検出されている。微量の不明種子も検出されている。キハダ属種子は北東壁側で少量検出され、クルミ属は全体的に検出されているが、焼土周

辺付近では検出されていない。ただ北西、南東壁付近に多いようである。

③Ｈ－20ではキハダ属種子、クルミ属が検出されている。全体に微量であるが、北西、南東壁付近に分布している。焼土周辺では検出されていない。

④Ｈ－21では微量のクルミ属が南西壁付近で検出されている。

⑤Ｈ－25ではキハダ属種子、果肉付キハダ、クルミ属が検出されている。焼土周辺とその東側で多い。またＨＰ－１からはキハダ属種子、クルミ属が検出されている。

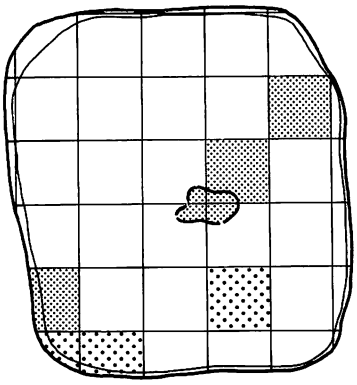
⑥Ｈ－36ではキハダ属種子、果肉付キハダ、クルミ属が検出されている。Ｈ－25と同じ分布状況を

表Ⅴ－２　床面積一覧

| | 遺構番号 | 床面積 | 主柱 | 平面形 | 断面形 |
|---|---|---|---|---|---|
| ⓐ 7㎡未満 | | | | | |
| | Ｈ－55 | 4.27㎡ | 0 | 卵形 | |
| | Ｈ－48 | 6.61㎡ | 0 | 〃 | 〃 |
| | (Ｈ－13) | 4.21㎡ | 0 | 方形 | |
| | (Ｈ－14) | 5.94㎡ | 0 | 長方形 | |
| | | | | | |
| ⓑ 7.01㎡～10㎡ | | | | | |
| | Ｈ－19 | 7.70㎡ | 2 | 卵形 | |
| | Ｈ－21 | 7.92㎡ | 4 | (台形状) | |
| | Ｈ－22 | 7.77㎡ | 0 | 卵形 | |
| | Ｈ－27 | 7.55㎡ | 1 | 円形 | |
| | Ｈ－32 | 9.46㎡ | 0 | 卵形 | |
| | Ｈ－35 | 9.29㎡ | 0 | 〃 | |
| | Ｈ－40 | 9.24㎡ | 0 | 〃 | 〃 |
| | Ｈ－45 | 8.61㎡ | 0 | 〃 | 〃 |
| | Ｈ－46 | 9.82㎡ | 1 | 〃 | |
| | Ｈ－54 | 9.30㎡ | 0 | 〃 | |
| | | | | | |
| ⓒ 10.01㎡～12.20㎡ | | | | | |
| | Ｈ－17 | 12.17㎡ | 1 | 卵形 | |
| | Ｈ－20 | 11.42㎡ | 2 | 〃 | |
| | Ｈ－30 | 11.55㎡ | 0 | 〃 | |
| | Ｈ－31 | 10.61㎡ | 2 | 〃 | |
| | Ｈ－36 | 11.71㎡ | 4 | (台形状) | |
| | Ｈ－38 | 11.81㎡ | － | 卵形 | |
| | Ｈ－42 | 10.56㎡ | 0 | 〃 | |
| | Ｈ－49 | 11.87㎡ | 0 | 〃 | |
| | (Ｈ－６) | 10.57㎡ | 4 | 長方形 | |
| | (Ｈ－７) | 11.90㎡ | 1～2 | 〃 | |
| | (Ｈ－11) | 10.68㎡ | 4 | 〃 | |

| | 遺構番号 | 床面積 | 主柱 | 平面形 | 断面形 |
|---|---|---|---|---|---|
| ⓓ 12.80㎡～17㎡ | | | | | |
| | Ｈ－23 | 14.55㎡ | 2 | 卵形 | |
| | Ｈ－24 | 16.92㎡ | － | 〃 | |
| | Ｈ－26 | 13.45㎡ | － | 〃 | 〃 |
| | Ｈ－34 | 12.88㎡ | 1 | 〃 | |
| | Ｈ－39 | 12.88㎡ | 1 | 〃 | |
| | Ｈ－47 | 14.72㎡ | 2 | 〃 | |
| | Ｈ－50 | 13.70㎡ | 1 | 〃 | |
| | Ｈ－51 | 15.60㎡ | 1 | 〃 | 〃 |
| | (Ｈ－２) | 15.75㎡ | 1 | 台形 | |
| | (Ｈ－８) | 16.00㎡ | 2 | 〃 | |
| | (Ｈ－10) | 16.42㎡ | 2 | 長方形 | 〃 |
| | | | | | |
| ⓔ 19㎡～23㎡ | | | | | |
| | Ｈ－33 | 19.19㎡ | 0 | 卵形 | |
| | Ｈ－29 | 20.54㎡ | 2～4 | 略卵形 | |
| | Ｈ－25 | 22.24㎡ | 4？ | 長方形 | 〃 |
| | Ｈ－37 | 22.58㎡ | 4 | 卵形 | |
| | (Ｈ－５) | 20.73㎡ | 4 | 台形 | |
| | (Ｈ－12) | 20.95㎡ | 2～4 | 方形 | 〃 |
| | (Ｈ－９) | 22.88㎡ | 1～2 | 五角形 | |
| | (Ｈ－３) | 20.80㎡ | 4 | 方形 | |
| | | | | | |
| ⓕ 25㎡以上 | | | | | |
| | Ｈ－16 | 26.31㎡ | 4 | 方形 | |
| | Ｈ－18 | 28.74㎡ | 4～6 | 長方形 | 〃 |
| | (Ｈ－４) | 25.87㎡ | 4～6 | 〃 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

H－16

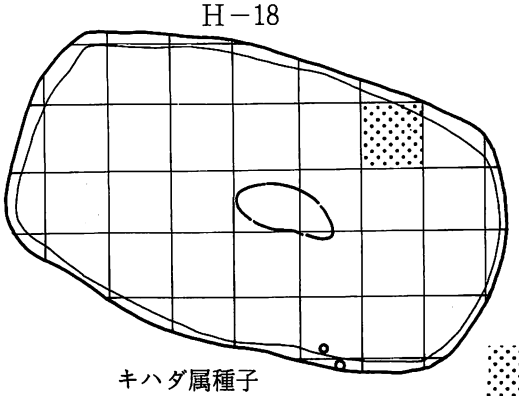


クルミ属

0.03～0.02 g

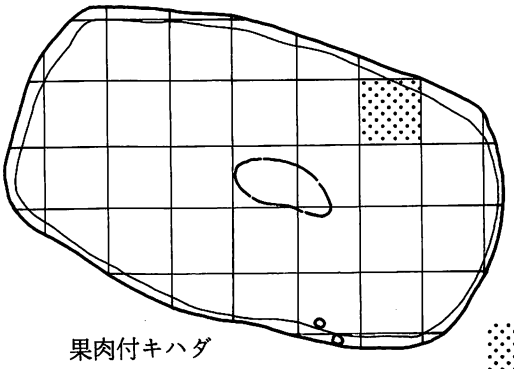
＞0.00

H－18



キハダ属種子

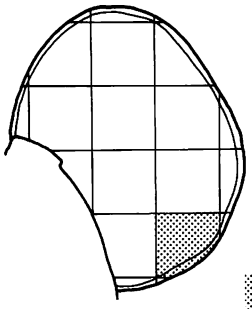
1粒



果肉付キハダ

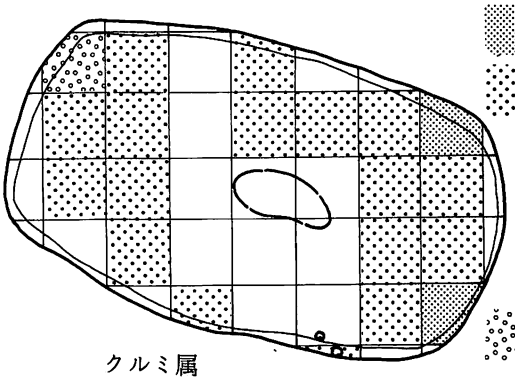
＞0.00

H－20



キハダ属種子

3片

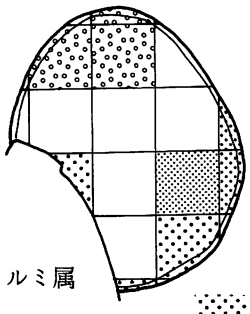


～0.10 g

0.9～0.01 g

＞0.00

クルミ属



クルミ属

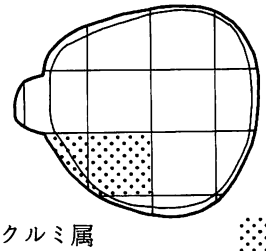
～0.23 g

0.14～0.013 g

0.09～0.02 g

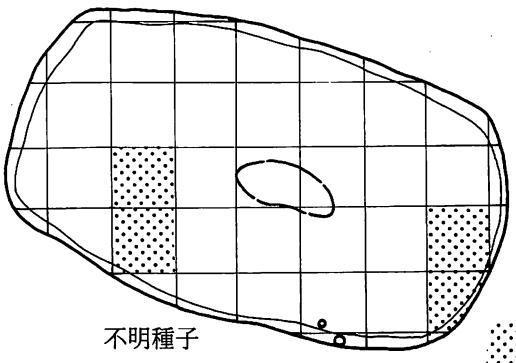
＞0.00

H－21



クルミ属

0.01 g



不明種子

1粒

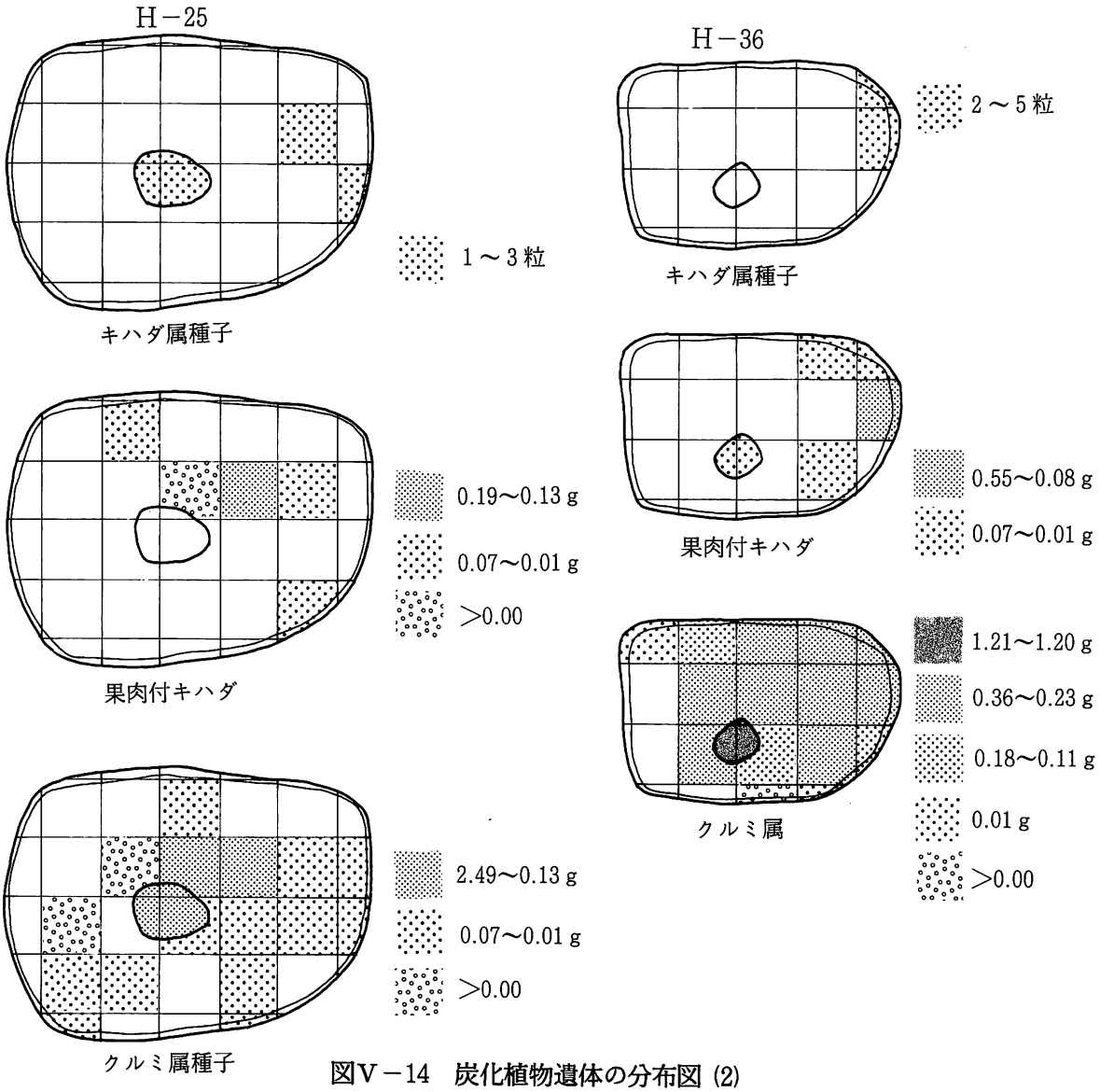
図Ⅴ－13　炭化植物遺体の分布図 (1)

示している。またＨＰ－１からは果肉付キハダ、クルミ属が検出されている。

Ｈ－16、Ｈ－21は分布状況にまとまりがない。Ｈ－18、Ｈ－20では焼土周辺に分布が認められない。Ｈ－25、Ｈ－35では焼土周辺およびその東側に分布が集中しており、中央部にある小ピットにも炭化植物遺体が混入されていた。Ｈ－18、Ｈ－20とＨ－25、Ｈ－36の分布状況には明瞭な違いが認められる。焼土周辺に炭化植物遺体が検出された住居跡と検出されなかった住居跡が存在することは、焼土周辺をどのように利用していたのか、あるいは日常生活において何らかの敷物が利用されていたかどうかの違いによるものと思われる。また床面中央部の小ピットに炭化植物遺体が混入していたということは、その小ピットがどのような性格のものなのかを考える上に一つの資料を提供していると言えないだろうか。

本年度はＨ－４のように日常的な生活空間や出入口を推測させるような良好な資料を得ることができなかった。

４）1976年の調査で発見されたグループII遺構群とされているＨ－９、Ｈ－10、Ｈ－11、Ｈ－12、Ｈ－13、Ｈ－14の６軒の住居跡は、Ⅰ群Ｂ類に属するものである。これらは1991・1992年の住居跡群のほぼ150ｍ南東方向に位置している。宮の川に沿った台地縁辺部の標高48.50ｍ～46.00ｍ、北から南の




図Ⅴ－14　炭化植物遺体の分布図 (2)

表Ⅴ－３　同時共存の住居床面積一覧

| | 遺構番号 | 床面積合計 | | 遺構番号 | 床面積合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | H－3＋H－12 | 41.75㎡ | 13 | H－47＋H－31 | 25.33㎡ |
| ② | H－13＋H－16 | 30.52㎡ | 14 | H－34＋H－50 | 26.58㎡ |
| ③ | H－6＋H－11 | 21.25㎡ | 15 | (H－36) | 11.71㎡ |
| 4 | (H－8) | 28.74㎡ | 16 | H－32＋H－37 | 32.04㎡ |
| 5 | H－8＋H－10 | 32.44㎡ | 17 | H－33＋H－56 | 24.39㎡ |
| 6 | H－2＋H－4＋H－14 | 47.56㎡ | 18 | H－22＋H－46 | 17.59㎡ |
| 7 | H－7＋H－5＋H－25 | 54.88㎡ | 19 | H－9＋H－24＋H－54 | 49.10㎡ |
| ⑧ | H－39＋H－55 | 17.15㎡ | 20 | H－20＋H－42 | 21.98㎡ |
| 9 | H－38＋H－49 | 23.68㎡ | 21 | H－21＋H－45 | 16.53㎡ |
| 10 | (H－40) | 9.24㎡ | 22 | H－17＋H－30 | 23.72㎡ |
| 11 | H－35＋H－48 | 15.86㎡ | 23 | H－19＋H－23＋H－29 | 42.79㎡ |
| 12 | H－26＋H－51 | 29.05㎡ | 24 | H－27 | 7.55㎡ |

緩やかに傾斜する斜面上に立地し、ほぼ同様の地形上にある。それではほぼ同型式の土器などを共有する住居群間にどのような関係が考えられるだろうか。①両者の出土土器には明瞭な新旧の差異は認められず、ほぼ同時期に併存していたものと推測される。②平面形が隅丸方形、隅丸長方形上、略卵形状、円形状である。これは1991・1992年の調査結果と対応している。これは標高のやや高い処から低い処へ、１軒づつ移行していったことを伺わせる。一方、1991・1992年の共存する住居跡の床面積合計を比較すると、その増減に伴い幾つかの頂点が認められる（表Ⅴ－３)。共存する住居跡の増減はおもに家族数に起因するだろうし、床面積の増減は家族構成員の変化あるいは使用目的の変化によるものと思われる。具体的な根拠に乏しいが、この両者の関係について、以下のような併存関係を想定してみたい。即ち、家族構成員が増加し、一定の生活領域が限界に近くなった時、家族は分立し、生活の場を二カ所に分離したのではなかろうか。生活領域の拡大と生活の安定化という側面からも充分考えられることではなかろうか。表Ⅴ－３の②の時にH－19が、③の時にH－13が、⑧の時にH－９が、⑯の時にH－10が、⑳の時にH－11が、㉔の時にH－12が、それぞれ分離したと想定される。

最後に同一土器型式内における住居跡の平面形の変化について考えてみる。隅丸方形状→隅丸長方形状→卵形状という総体的な変移は、ほぼ屋内に焼土があるものからないものへ、壁高の高いものから低いものへ、主柱が４～６本のものから主柱をもたないものへ、そして大型の住居から小型の住居跡へという大筋における変化に対応している。これは居住時期の違い、長期的な居住から短期的な居住へという変化を物語っていると言えないだろうか。

中野Ａ遺跡の集落全体を解明すべく、新旧関係、共存する住居数について推測を混じえて検討してきた。しかしながら出土土器などとの徹底的な比較検討はできず、きわめて一面的で、総体的な結論になっている。事実、調査担当者からも共存する住居の組み合わせ、新旧の位置付けに異論も提起され、十分な検討は出来なかった。今後、出土遺物と遺構の相互関係、更には同時期の他遺跡との比較検討によって古代の人々の生活像がより鮮明にされることを切望するとともに、そのための一つの資料としたい。

### 3　Ⅱ群土器に伴う竪穴住居跡

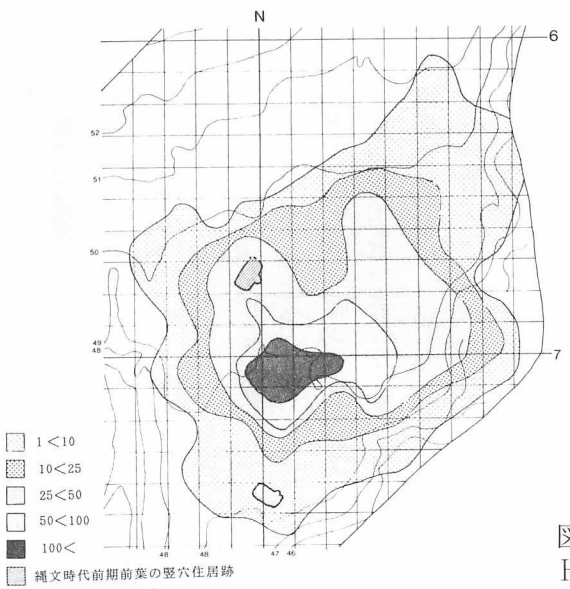
本遺跡で縄文時代前期前葉の春日町・トドホッケ式土器（Ⅱ群土器）に伴う竪穴住居跡が２軒検出された。中野Ａ遺跡では竪穴の密集地は掘り尽くされたと考えられる。また、Ⅱ群土器の分布範囲も調査区内で収束している。したがって、前期前葉の竪穴はＨ－15とＨ－43の２軒だけと考えられる。また、この２軒の竪穴の距離は約30ｍで、出土遺物、竪穴の形状などからごく近い時期に構築されたものと考えられる。後述する竪穴の形状や土器の分布状態、竪穴の位置などから、２軒で集落を形成したと思われる。２軒の竪穴に共通する形状はⅡ群土器の時期に共通するのか、または、地域的な特徴かを考えてみたい。当該期の土器を伴出する遺跡はままあるが、当該期の竪穴住居跡例は管理のため９例を集めたのみである。ここでは土器型式の編年などの検討はおこなわず、各報告にしたがい竪穴の構築時期とした。

(1)　Ⅱ群土器の分布

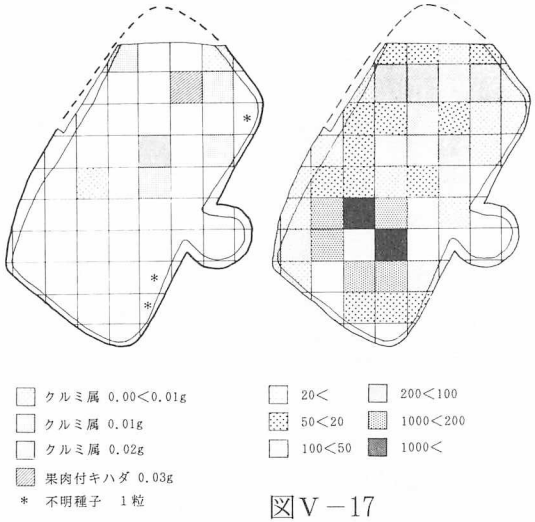
図Ⅴ－15は春日町・トドホッケ式に相当する土器（Ⅱ群土器）の出土点数を５ｍ毎の隣接する小グリッドと平均化し図化したものである。Ⅱ群土器は平成２・３年度調査区の境目中央から南側に多く分布する。Ｍ－７－09がほぼその中心で、東側に広がりがみられ、傾斜が急になった辺りで急激に分布密度が減る。北東側と南西側の分布密度は徐々に少なくなるが、北東側では分布域が漸減し、段丘の奥に係わりをみせている。東側は沢頭があり、分布密度は急激に減る。竪穴住居内で出土したⅡ群土器はＨ－15が91点、Ｈ－43が10点出土している。他の時期の竪穴に較べ出土点数は極端に少なく、また、周囲からの出土も少ない。しかし、分布密度の多いところから両竪穴に向かって分布の等密度線が舌状に伸びているのが、Ｈ－15との間で顕著に表れる。この舌状部が、分布密度の多い中心部への通路になっていたことが想定される。縄文時代早期の竪穴群のあったところが、縄文時代前期になってもほぼ平坦な開地となっていたことが推定され、Ⅱ群土器の出土頻度の高いところと重なっている。またここは２軒の竪穴の中間にあたり、頻繁に利用されていたことが推定される。想像するならば、２軒の中間に東西方向に広がる広場があり、その広場を中心に東側の沢への降り口や、北側の台地の奥への沢に沿った出入口になっていたのではないだろうか。

(2)　竪穴住居跡の形態

検出された２軒の竪穴住居跡に共通してみられる特徴は、平面形が長方形を呈し、堀り込みが深く、壁がしっかりしている。片側に張り出しを持つ。柱穴は壁際にあるものと中央部のものがある。配置は短辺の両角と中央部に１ないし２本有り、これに平行するように長辺の両側中央部と竪穴の中央部に柱穴がみられる。住居内に炉跡は検出されないなどである。類似する構造をもつ例は、函館市豊原１遺跡、戸井町蛯子川２遺跡、恵山町日ノ浜砂丘１遺跡がある。図Ⅴ－20は春日町・トドホッケ式期と当該期の前段階にあたる時期の竪穴住居跡の類例である。７に焼土がみられるほかは、すべて竪穴住居内に炉跡は検出されていない。１～５はサイベ沢遺跡の例で土器型式は春日町・トドホッケ式に先行する花積下層式・早稲田５類時のものである。６・７は売場遺跡の竪穴住居跡で、長七谷地Ⅲ群が伴っている。８は表館遺跡の例で表館式・早稲田の６種類のものである。９～16は春日町式または、春日町・トドホッケ式に伴う竪穴住居跡。９は柏原17遺跡、10・11は日ノ浜砂丘1 遺跡、12は蛯子川２遺跡、13・14は豊原１遺跡、15・16は本遺跡のものである。これらは形態から４タイプに分けられる。ａ：円形からやや隅丸方形に近く、柱穴のないもの（１、２）。ｂ：隅丸長方形で柱穴が壁の近くにみられるが、規則性が認められないもの（４、５）。ｃ：隅丸（長）方形で柱穴が四隅の近くにみられるもの（３、６、８、９、10）。ｄ：隅丸長方形で壁際の柱穴がそれぞれ対応するような規則性の認められるもの（７、11～16）。このうち７は床から焼土が検出されていることや、竪穴内部の



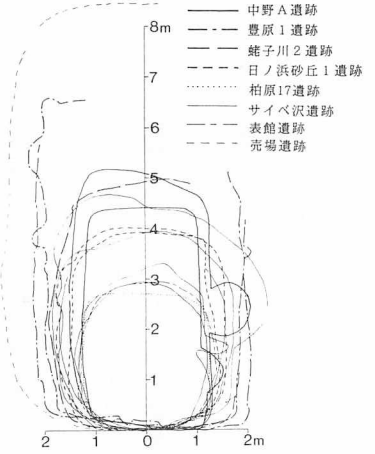

図Ⅴ－15　Ⅱ群土器の平均化した分布密度



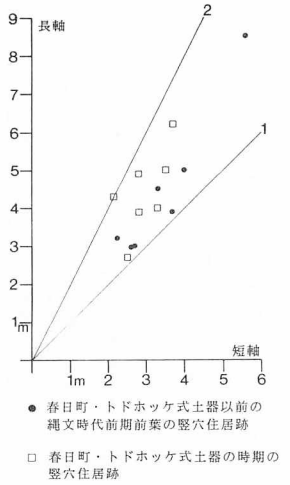

図Ⅴ－16
Ｈ－15出土の植物遺体



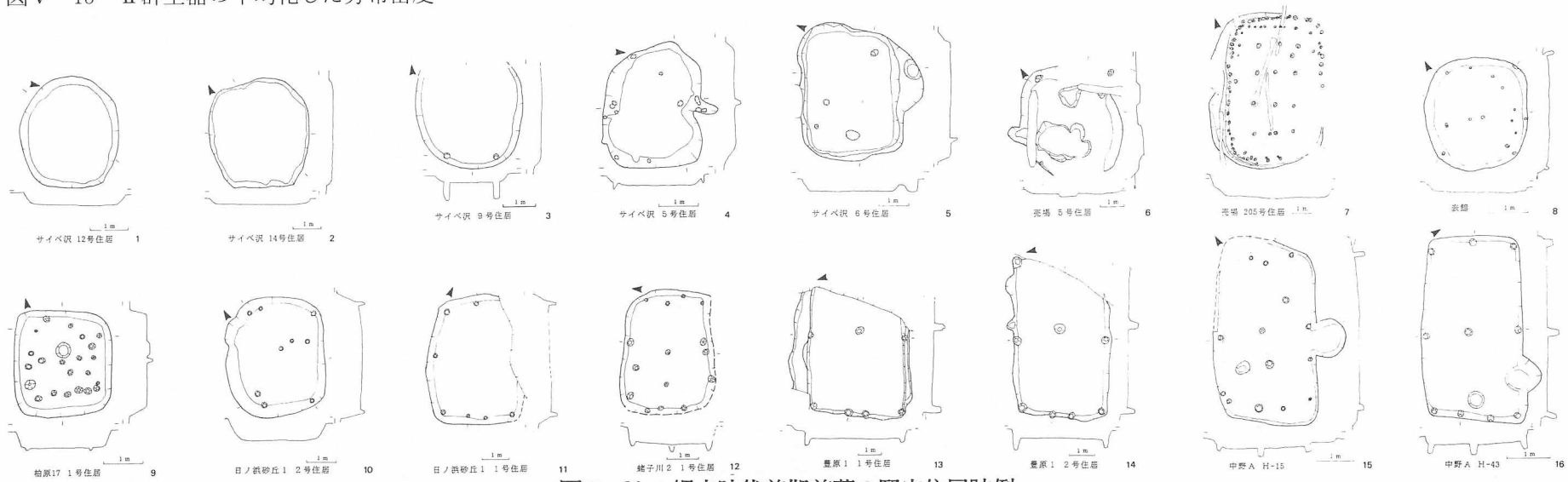

図Ⅴ－17
土壌水洗で出土した
フレイク・チップ




図Ⅴ－18　住居規模比較




図Ⅴ－19
竪穴住居跡長幅比




図Ⅴ－20　縄文時代前期前葉の竪穴住居跡例

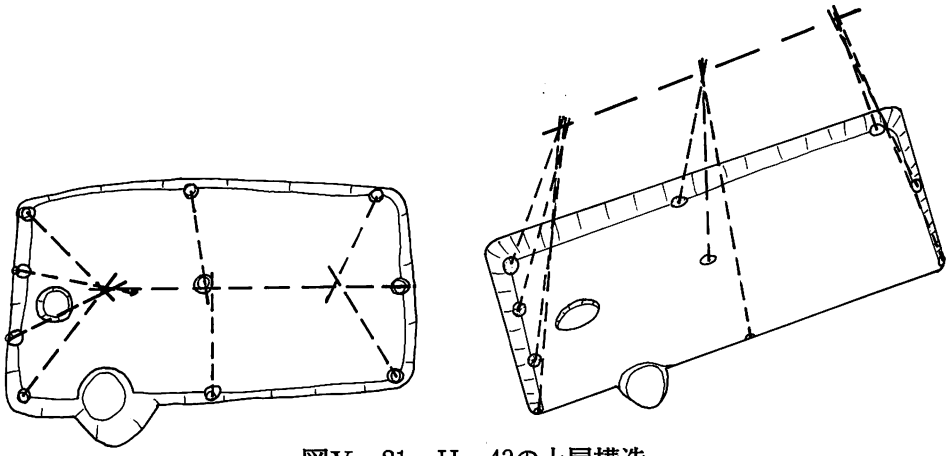
柱穴が主柱穴をなし、壁際にみられる多数の柱穴は主たる構造材ではなく斜め材と思われ、他のｄタイプの竪穴とは構造が異なるものと考えられる。花積下層式・早稲田５種類の竪穴はａ、ｂ、ｃの３タイプが、長七谷地Ⅲ群期はｃ、ｄの２タイプが、表館式・早稲田の６類期はｃのタイプが、春日町・トドホッケ式期はｃ、ｄの２タイプが、あてはまる。竪穴形状の変遷は掘り方の浅い方（円）形から、深い方形を呈し柱穴が壁際にあるものに替わり、つぎに深い長方形で壁際の柱穴に規則性がみられるものに推移したと思われる。７を除いたｄタイプを詳細にみると、竪穴の両短辺に３カ所と４カ所の柱穴の列があり、両長辺の中間位置に各１カ所と中央に１カ所というパターンがみられる。11の竪穴は中央部に攪乱があり、柱穴が検出されなかったものである。12と15はこの柱穴のパターンのほかに小ピットがみられる。13は長辺の両側にベンチ状の段がある。15は片側の長辺に張り出しがみられ、両横に柱穴がある。16は片側の長辺にある中央と隅の柱穴の間に張り出しをもつ。住居の規模（図Ⅴ－18）は推定復元すると、13・14が最も大きく床面積20㎡を超え、つぎに11、15、12、16の順になる。竪穴の長軸と短軸の比較（図Ⅴ－19）は16が最も細長く12が方形に近くなる。それぞれ相違点はあるが、構築意図の基本的な形態は同様であり、類似性が感じられる。また、15で床と構築面の間の層から検出したフレイク・チップ（大半は微細なチップ）を除き、共通して床から出土した遺物は少ない。ことに床で検出された土器は極くわずかである。それぞれの竪穴住居は掃除してから廃棄したように見受けられる。ｄタイプの竪穴住居はⅡ群土器に伴う竪穴型式と思われるが類例を見る限りでは渡島半島の南東部にのみ出現する。これらの竪穴は極めて類似性を持ち、地域的な近さだけでは説明し切れないものがある。同一集団が移り住んだ可能性も考慮に入れる必要があるだろう。なお、４遺跡間の距離は、最も西側に位置する中野Ａ遺跡と豊原１遺跡は直線距離で約３㎞、豊原１遺跡と蛯子川２遺跡は約13㎞、蛯子川２遺跡と日ノ浜砂丘１遺跡は約11.5㎞である。縄文時代前期中葉の円筒土器下層式期の竪穴住居跡は函館空港第４地点で検出されているが、竪穴の形態は円形から楕円形のものである。

(3)　竪穴住居内の空間利用

Ｈ－15では、床面から構築面の間の土層を50㎝角毎に採集し、フローテーションにより植物遺体とフレイク・チップなどを検出した。植物遺体（図Ⅴ－16）はクルミ属0.06ｇや果肉付キハダ0.03ｇのほか不明種子が３粒検出されている。クルミ属や果肉付きキハダは竪穴の北半部にみられる。図Ⅴ－17の図中で空白になっているところは土壌水洗を行っていない場合とフレイク・チップが検出されないところがある。また、出土したものは微細なチップが大半で、大きなフレイクは少ない。竪穴中央部の南側に200点以上出土したところが1.5ｍ角にみられる。この中の２カ所の50㎝角で1000点以上検出されている。両横の空白は水洗を行っていない。また、100点以上出土したところが北半部奥で４ヵ所ある。床出土のⅡ群土器は竪穴の北半部に多い。石鏃は南半部で出土し、石錐は中央部から出土している。礫石器は北半部の出土が多い。これらの結果からＨ－15では北側で食料生産活動が行われ、南側で石器作りなどが行われたものと推定される。Ｈ－15、43は長辺の片側に張り出しがある。各竪穴の長軸の向きが約90°異なるにもかかわらず張り出しの方向は、土器の分布で述べた広場に向いている。この張り出しを境にＨ－15の内部は北半部と南半部で使い分けている。張り出しを出入口と仮定すると右側と左側が意識されているのであろう。Ｈ－43の張り出しは東側に寄っており、出土した石器や土器片錘なども南東側に多い。しかし、２軒の竪穴の柱穴配置をみると出入口の可能性のあたるところが他に１ヵ所ある。竪穴短辺の柱穴数が片側に３本、もう一方が４本で対象形ではない。上屋構造（図Ⅴ－21）を合わせて考えると、両短辺とも３本の柱で済むところを片側だけ４本になっているのは意味があるのであろう。柱穴の配置と傾きから、上屋構造は三角テントのようになる。４本

柱のある側の中央部を出入口としてみると、この上屋構造が適したものであろう。出入口の近くに道具を置いてあったと仮定すると、北西側が居住部分と想定される。

H－15、43の2軒の住人は、本遺跡に住み着き集落を営み、他の場所に集落を移したのであろう。残念ながら今回のデータを加味しても、その生活形態を復元するには至らない。今後の調査の課題としたい。また、dタイプの類似した竪穴との関係を見直す必要がある。



図V－21　H－43の上屋構造

表V－4　掲載縄文前期前葉住居一覧

| 番号 | 市町村名 | 遺跡名 | 住居番号 | 平面形 | 平面形数値 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 函館市 | サイベ沢遺跡 | 12号 | 不整円形 | 2.98×2.62 | 花積下層・早稲田5類 |
| 2 | 函館市 | サイベ沢遺跡 | 14号 | 隅丸方形 | 3.9×3.62 | 花積下層・早稲田5類 |
| 3 | 函館市 | ダイベ沢遺跡 | 9号 | 隅丸方形 | (－)×3.15 | 花積下層・早稲田5類 |
| 4 | 函館市 | サイベ沢遺跡 | 5号 | 不整長方形 | 3.25×2.25 | 花積下層・早稲田5類 |
| 5 | 函館市 | サイベ沢遺跡 | 6号 | 隅丸長方形 | 4.55×3.3 | 花積下層・早稲田5類 |
| 6 | 八戸市 | 売場遺跡 | 5号 | 隅丸方形 | 5.0×4.0 | 長七谷地Ⅲ群 |
| 7 | 八戸市 | 売場遺跡 | 205号 | 隅丸長方形 | 8.5×5.6 | 長七谷地Ⅲ群 |
| 8 | 六ヶ所村 | 表館遺跡 | | 隅丸方形 | 3.0×2.7 | 表館式・早稲田6類 |
| 9 | 苫小牧市 | 柏原17遺跡 | 1号 | 隅丸方形 | 2.7×2.5 | 春日町式 |
| 10 | 恵山町 | 日ノ浜砂丘1遺跡 | 2号 | 隅丸方形 | 4.0×3.3 | 春日町・トドホッケ式 |
| 11 | 恵山町 | 日ノ浜砂丘1遺跡 | 1号 | 隅丸長方形 | 5.0×3.5 | 春日町・トドホッケ式 |
| 12 | 戸井町 | 蛯子川2遺跡 | 1号 | 隅丸長方形 | 3.9×2.8 | 春日町式 |
| 13 | 函館市 | 豊原1遺跡 | 1号 | 隅丸長方形 | (5.20)×4.2 | 春日町・トドホッケ式 |
| 14 | 函館市 | 豊原1遺跡 | 2号 | 隅丸長方形 | 6.2×3.75 | 春日町・トドホッケ式 |
| 15 | 函館市 | 中野A遺跡 | H－15 | 隅丸長方形 | 4.9×2.8 | 春日町・トドホッケ式 |
| 16 | 函館市 | 中野A遺跡 | H－43 | 隅丸長方形 | 4.3×2.15 | 春日町・トドホッケ式 |

## ４　Ｔピット

中野Ａ遺跡に見出されたＴピットは、延長500ｍ程のこれまでの発掘調査区の全域に広く分布しており、昭和50・51年度75基、昭和52年度７基、平成３年度11基、平成４年度40基の、計133基を数える（図Ⅴ－22）。通算の総発掘面積は26,757.5㎡であり、Ｔピットの密度指数は50（基数／ha）となる。

平成３・４年度では、確実にP.D.3を切ってＴピットが構築された例はなく、昭和50・51年度検出のＴ－52、平成３年度のＴ－９、平成４年度のＴ－21などは、物見台式土器を伴う竪穴住居跡を切って構築されていた。P.D.3の下部には春日町式土器が包含されており、中野Ａ遺跡のＴピットの構築年代については、その多くが縄文早期中葉以降、縄文前期前葉までの間と推定される。

133基のＴピットのうち、全長が不明な昭和50・51年度のＴ－８、36の２例を除いた131基の規模について、壙底部での長径と短径を、図Ⅴ－23中段にまとめて図示する。僅かだが、既刊の報告書の実測図と一覧表の数値が明らかに一致しないときは、掲載の実測図を測って数値を修正した。Ⅲ章では平成４年度検出のＴピットを、壙底面の長径を基準に、①～④に分けて説明したが、131基の長径を20㎝毎に集計すると、上段の折線グラフにみるように、特に4.0ｍを境に③と④に分ける根拠はないことが判明した。ここでは、中野Ａ遺跡のＴピットの規模について、Ⅰ：壙底部の長径が1.4ｍ未満、Ⅱ：1.4ｍ以上2.2ｍ未満、Ⅲ：2.2ｍ以上の３つに分けて考えたい。Ⅰのタイプは全部で３例と極めて少ない。Ⅱのタイプは29例で全体の22％強。Ⅲのタイプは99基で、全体の75％以上を占める。

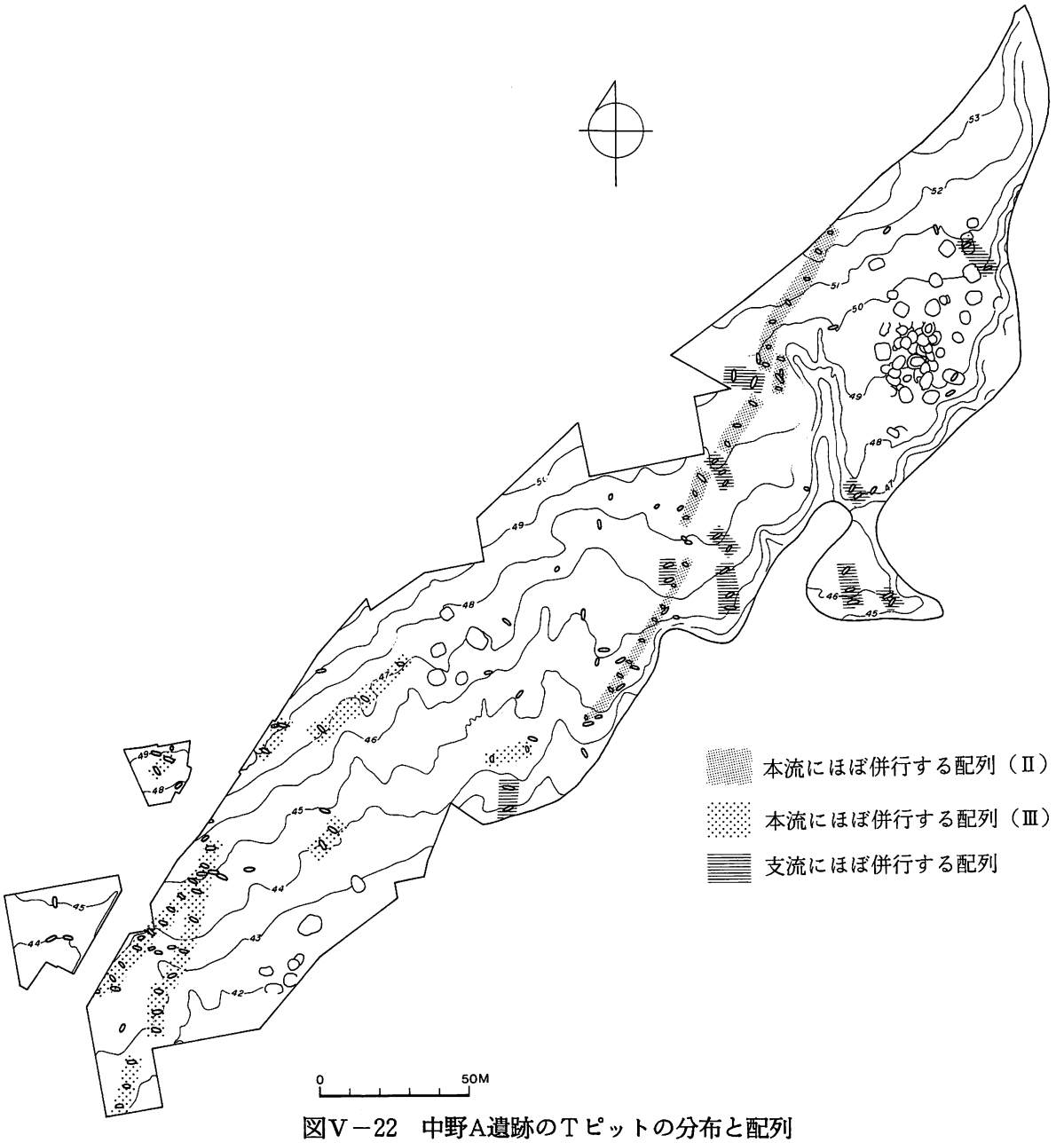
中野Ａ遺跡では、道央部などに比較的多い、平面形が小判形や隅丸長方形を呈する、内山分類のＣ型（内山1977）、森田・遠藤分類のＤ型（森田・遠藤1984）といったタイプのものは、検出されていない。長径2.2ｍ以上のⅢでは、長幅比が14以上の狭長な例が圧倒的多数を占める。長幅比が14以下とやや幅広のものも７例あるが、特に意識的に幅広くつくられたグループがあったという印象は強くない。壙底部の幅を５㎝刻みで集計してみると、図右のようにⅠでは15～20㎝の間にピークがあり、ⅡとⅢではともに10～15㎝の間に多数が集中している。中野Ａ遺跡のＴピットは、全体として幅の狭いものが殆どであった。また、壙底面に１～２個の小ピットがあるものは、全部で５例と少なかった。

長軸方位を10°単位でまとめると、図Ⅴ－23の下の折線グラフとなる。類例の少ないⅠでは、一般的な傾向を指摘できないが、ⅡではＮ－100～120°－Ｅ（Ｎ－60～80°－Ｗ）に集中し、ⅢではＮ－60～70°－Ｅ、Ｎ－100～110°－Ｅ（Ｎ－70～80°－Ｗ）、Ｎ－120～130°－Ｅ（Ｎ－50～60°－Ｗ）の３つのピークが認められる。大まかにみて、Ｎ－40°－ＥからＮ－40°－Ｗの北西～南西－北東～南東方向をとるものが80％以上と大部分で、これらから大きく外れて、北－南の方向をとるものは少ない。長軸の方位については、往時の微地形や障害物などを考慮して、個々の多少のズレにこだわらず、それぞれのＴピット群の配列との関連を意識する必要があるようだ。

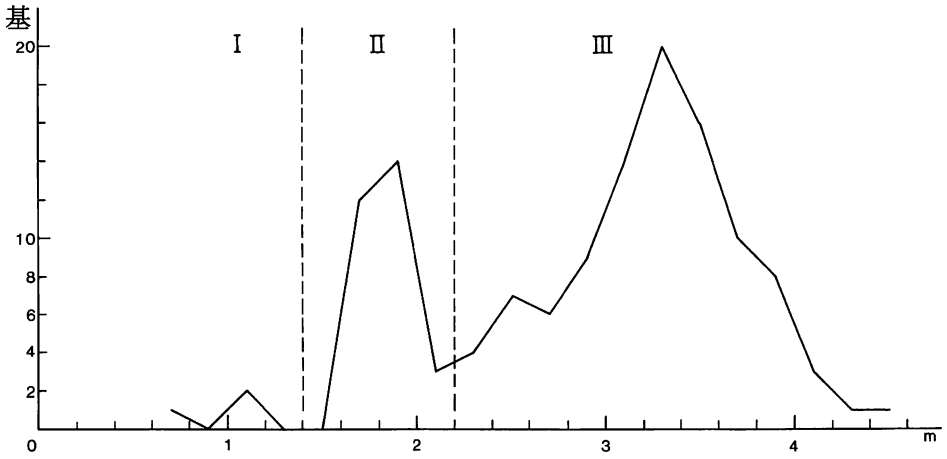
Ｔピットの配列については、配列とみなしたものが必ずしも同時に存在した保証はないが、図Ⅴ－22に示すように、中野Ａ遺跡では、約60％のＴピットが配列を構成しており、大勢としては、意図的な配列があったことを認めていいように思われる。銭亀宮の川の本流は、ほぼ北東から南西へＮ－55°－Ｅほどの方向に流下するが、中野Ａ遺跡のＴピットは、この本流の方向に併行して連なる列と、70～80ｍおきくらいに、ほぼ北から南へ降って本流に合流する、支流の小沢に併行する配列の、大別して二者が認められる。前者はさらに、図Ⅴ－22に密な網目で示すように、上にⅡと捉えたタイプを主体とする北半部の列と、粗な網目で示す、Ⅲの規模のものが主流を占める南半部のグループとに分けられる。これら本流併行の配列は、２個で構成されるものもあるが、３個以上の比較的多数のＴピットが並ぶ場合が多い。個々のＴピットの長軸方位は、ほぼ西北西－東南東をとる例が多い。

一方、図Ⅴ－22に横縞で示す、支流にほぼ併行する配列のＴピット群は、特に段丘の縁辺部に２～３個ずつ並ぶのが通例である。本流併行のように、多数のＴピットが連綿と続くということはない。支流併行のものは、規模的にはⅢに属するものが殆どで、壙底部の長径の平均値は3.5ｍ程と、本流併行のⅢのタイプの平均値3.2ｍ程に比べて、やや長大なものが多いといえる。個々のＴピットの長軸方位は、概して東北東－西南西をとる例が多い。

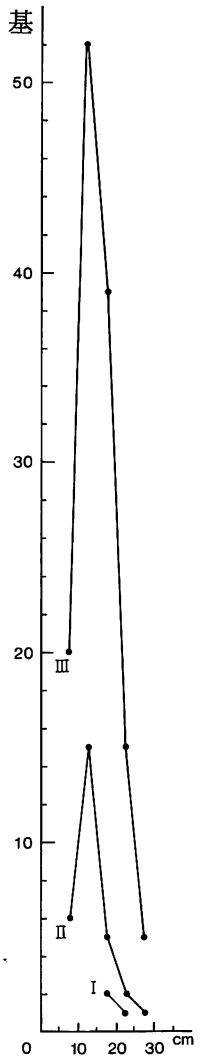
このような大別二者の配列の差は、何に由来するのであろうか。Ｔピットについては、これがシカなどの大型哺乳動物を捕獲するための落し穴と考える見解が主流を占めている。落し穴とみた場合、佐藤孝則氏の説くように、それが狩猟の補助手段として用いられたマイナーな方法であったという考え（佐藤1983・1986）と、西脇対名夫氏が想定するような、積極的に罠に追い込む集約的な狩猟法とみなす意見（西脇1991）に大きく分かれる。いずれにせよ、中野Ａ遺跡では、本流併行のものと、支流併行の配列とがあり、両者では狩猟の方法に違いがあった可能性が強いものと思われた。



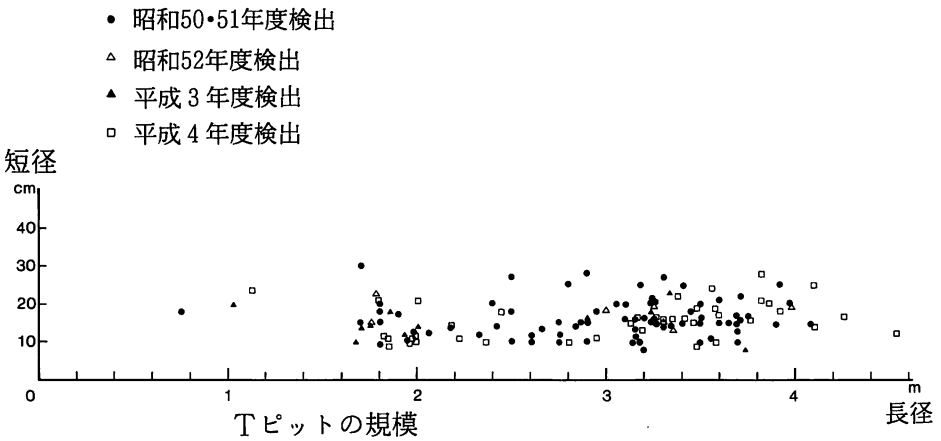

図Ⅴ－22　中野Ａ遺跡のＴピットの分布と配列



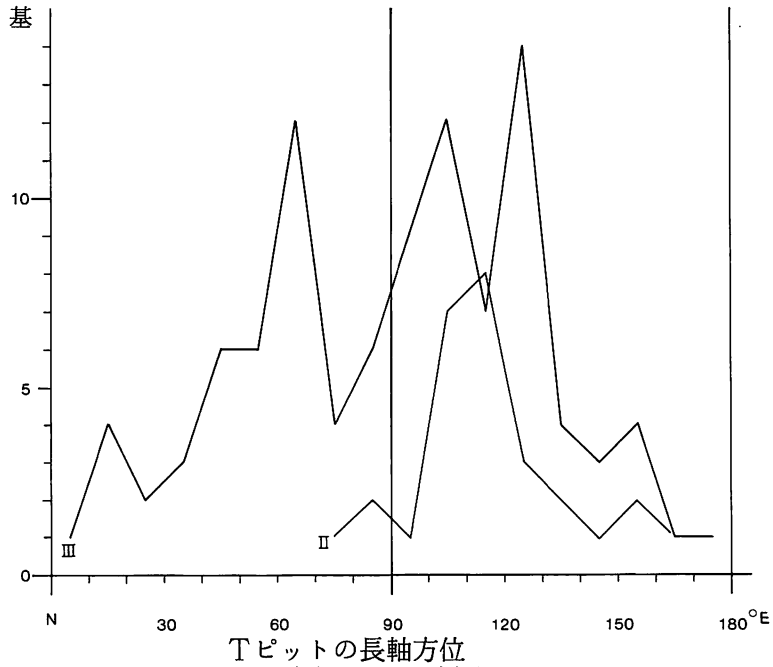

Ｔピットの長径



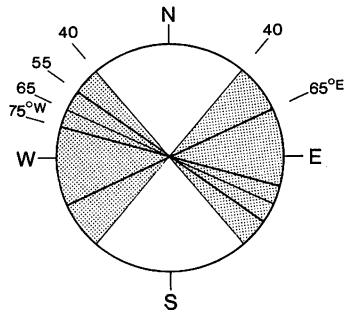

Ｔピットの短径




Ｔピットの規模




Ｔピットの長軸方位




N－65°－WはⅡのタイプの長軸方位のピークの主軸を示す。
N－65°－E、N－55°－W、N－75°－WはⅢのタイプの長軸方位の３つのピークの主軸をそれぞれ示す。

図Ⅴ－23　中野A遺跡のＴピットの規模と長軸方位

## 5　土器（図Ⅴ－24～29）

2ヵ年にわたる調査で得られた土器は、約27,000点にものぼり、このうち本遺跡の主体を占める、Ⅰ群B類土器（約24,000点、復元個体数約220点）について、先の調査で第Ⅲ群土器として報告された土器も含めて集成し、ごく簡単ではあるがまとめとしたい。

昨年度の報告では、仮に第1～3グループに類型化し集成を試みたが相当数の資料が追加されたので、b種、f種、g種の土器の集成、新たな文様模式図を加え、a、c種を中心に再検討することとした。b、f種については、口縁部に施文されている文様要素・構成に注目し、類似点が多いことから、まとめて集成を行った。

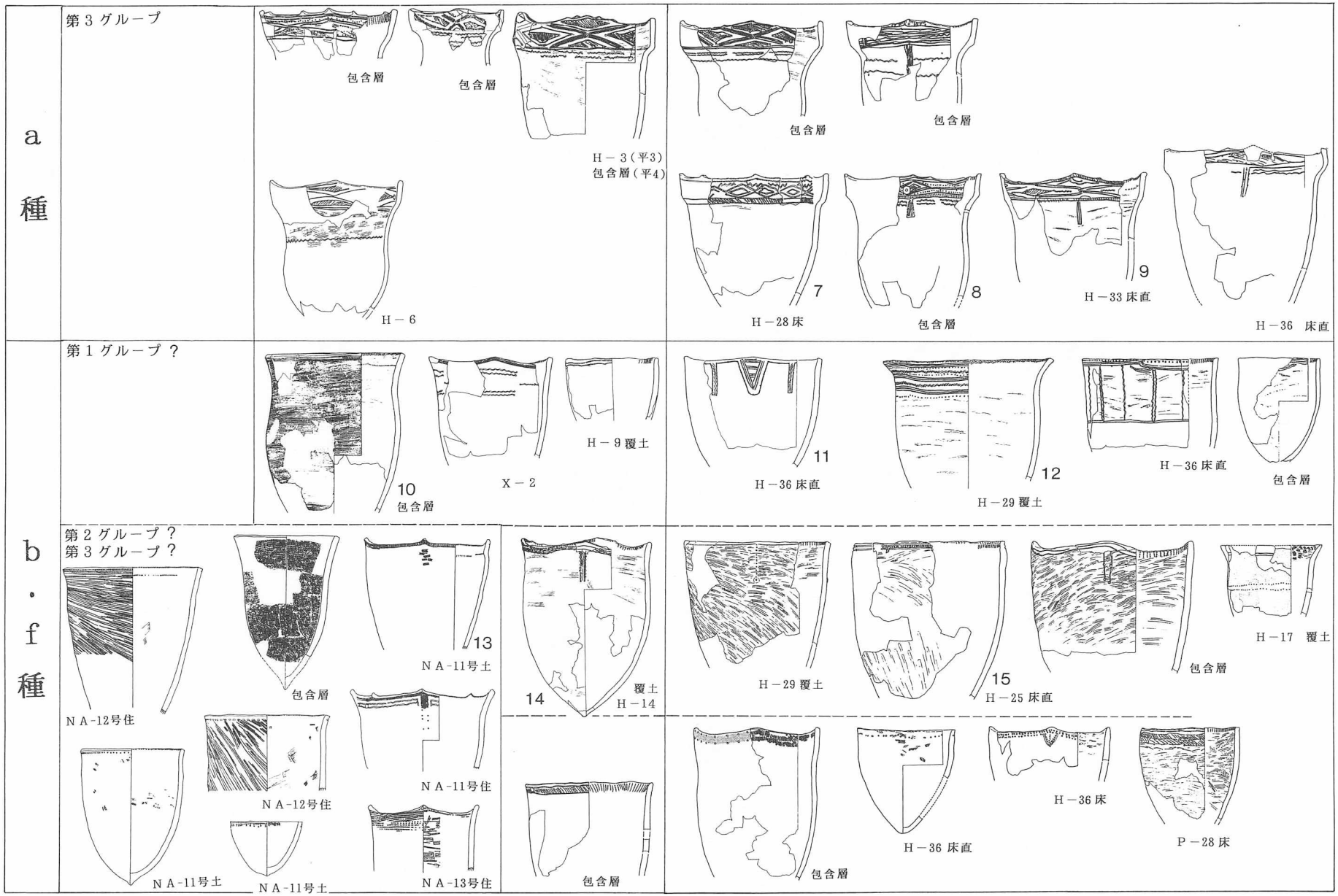
**第1グループ**；a種、c種ともに、3条一単位の腹縁文により上下を区画し、クランク状や、屈曲した文様を口縁部から斜位、縦位に施し、文様帯を区画するもので、三角形、台形等の幾何学文的文様の点対称構成が基本の形である。文様帯は、ほぼ均等に割り付けがなされている。区画内は再区画されるが、区画文と充填文の区別がつけがたい構成のものもある（16）。円形刺突文は文様の要所、沈線文上に施される。充填文内には圧痕文が整然と施文されている。a種では、今年度、これらの文様とは異なる構成のものが出土した（1　文様18）。上下の区画をせずに、先に文様を配して、沈線で縁取りする手法のものである。またc種では、17～19・20（文様25）にみられる、入組文的な文様構成のものが注目される。1と同様に、「ワラビ手」状の文様を描いた後、沈縁で縁取りしている。入組文は、千歳（13）遺跡の「千歳Aタイプ」に類例がある。短絡的ではあるが、入組文からクランク状文様への変化を想定すれば、これらの土器は本グループの中でも比較的古い段階に位置付けられる可能性がある。b・f種では10、12（文様23）のように3条の腹縁文が施されるものが、第1グループに相当する可能性がありそうである。さらに、文様を沈線で縁取るもの（11　文様26）ある。この様な手法の土器は他のグループには存在しない。古い階段の要素のものであろうか。まだ口縁部が2股にわかれ小さな山形突起状になるものがa種（1）、c種（21）にある。

**第2グループ**；a、c種ともに、第1グループ同様、点対称構成のものがあるが、区画文はクランク状の名残りのあるやや屈曲したもの、直線化したものとなる。波頂部を中心に区画するだけのものもあり、第1グループのものより簡素化するものが多い。円形刺突文は細長い文様の空間部に多用されるものや、口縁部の狭い範囲に施文されるものがみられる。a種では3条一単位の腹縁文による上下の区画文のほか、細長い帯状の文様帯に、縦位に短い腹縁圧痕文を充填する区画帯もみられる。2～4の土器は本グループに含められるとみられるが、かならずしも同じ様相ではない。c種では「Y」字形の文様を組合せた区画文を中心に、文様間を三角形、方形状の文様でつなぐ構成のものがある（22）。a種の6の文様は、明瞭ではないが、この種の文様を横位に配しているものであろう。23・24の文様構成は、第3グループに類似するが、区画文、充填文の施文が丁寧になされていること、a種の5の土器の胴部文様に、23の文様が対応されるとみられるので、一応、本グループに含めた。b・f種では帯状の文様帯に縦の刻み、圧痕文を施している13～15の土器が、このグループに対応されるかもしれない。

**第3グループ**；a・c種ともに横長、縦長の菱形、三角形を、単独あるいは、組合せて横位に展開させる文様構成のものがある。3条一単位の腹縁文で文様を描くという意識が薄れている傾向がみられる。上下の区画文も第2グループと同形の帯状のものがあり、区画文が文様の一部となっているものもある。円形刺突文は多用されるものが、第2グループから引き続きみられ、第1・2グループのように規則的な位置に配されるものは、ごく少数である。腹縁文や沈線文から独立して、文様の空間部に配列されるものがみられる。区画内は、圧痕文が疎らに施されるもの、全く施されないものがあ

| | 昭和50/51年度 | 平成3年度 | 平成4年度 |
|---|---|---|---|
| a種 | 第1グループ | P－7覆土<br>H－9覆土<br>H－3覆土 | H－22床直<br>H－33覆土<br>1 包含層<br>包含層<br>包含層 |
| | 第2グループ | 包含層<br>包含層<br>包含層<br>H－5床<br>H－4床<br>包含層 | 包含層<br>5 H－25床直<br>6 H－29覆土<br>包含層<br>H－36床<br>包含層<br>H－18床 |
| | | 2 包含層<br>3 NA-11号土<br>4 NA-10号住 | |

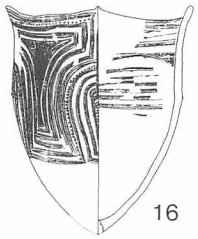
図Ⅴ－24　Ⅰ群B類土器集成図（1）



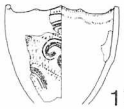

図Ⅴ－25　Ⅰ群B類土器集成図（2）

C 種

第1グループ


16
NA-2～5号土

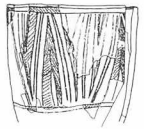

NA-10号住


17
H－9覆土


H－2　覆土

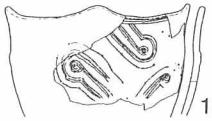

H－4　床　覆土


H－4　覆土

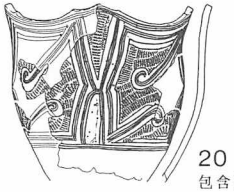

H－9覆土


包含層


18
包含層

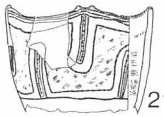

19
包含層

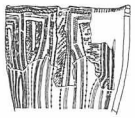

H－22覆土


20
包含層

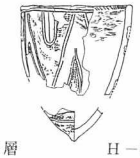

H－46
覆土


H－33覆土


21
包含層

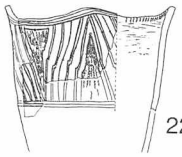

包含層

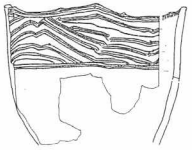

包含層

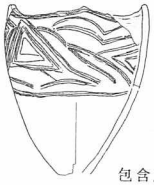

H－23
覆土

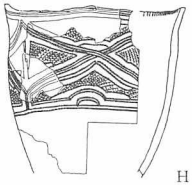

包含層


H－3（平3）
H－18床直（平4）

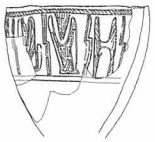

22
H－20覆土


H－25　床

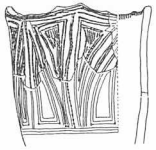

包含層

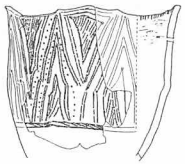

H－16　床直

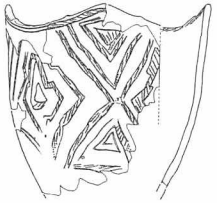
第2グループ


P－3床（平3）
H－29覆土（平4）


H－4覆土

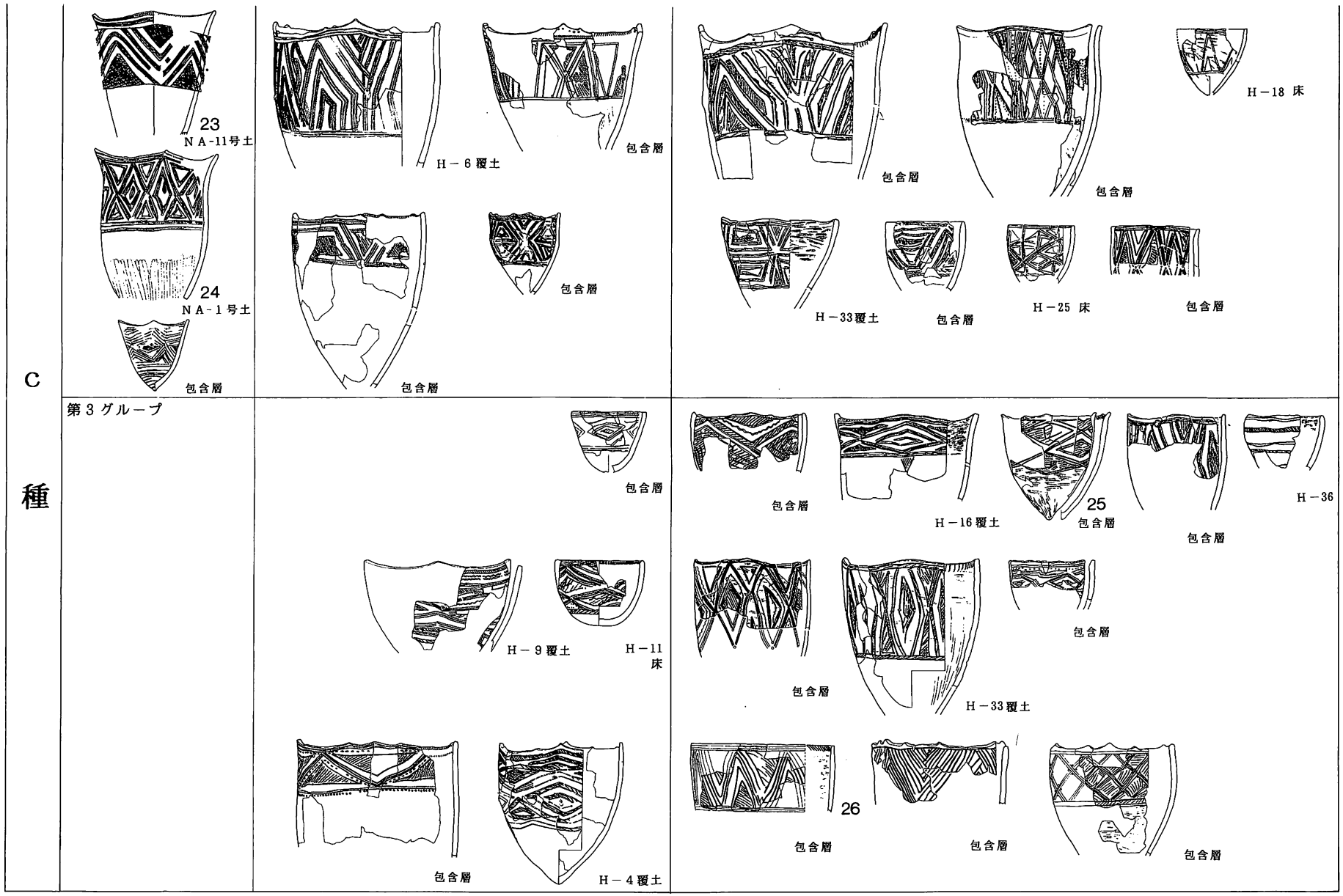

H－18　床直


H－37覆土

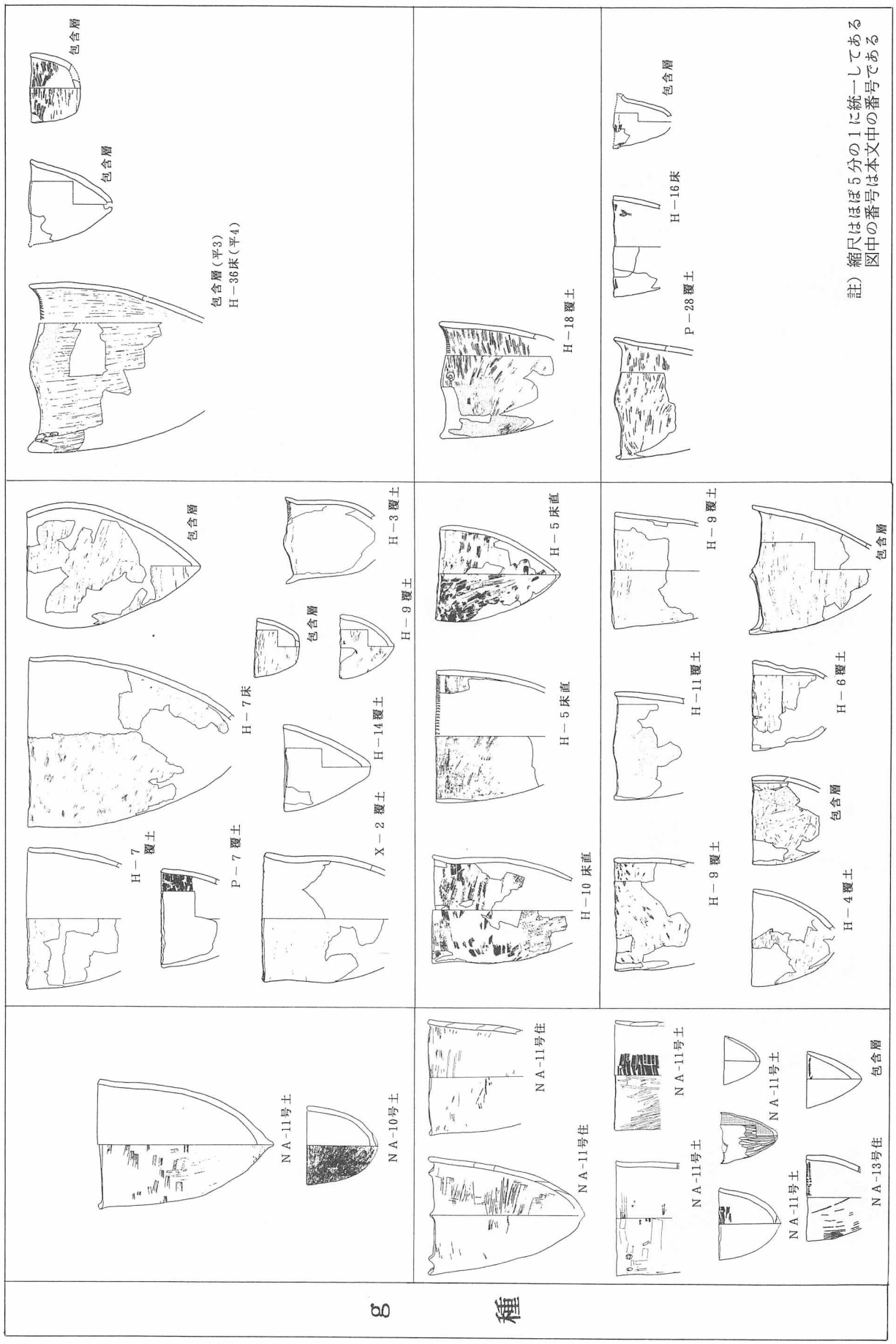

包含層


包含層

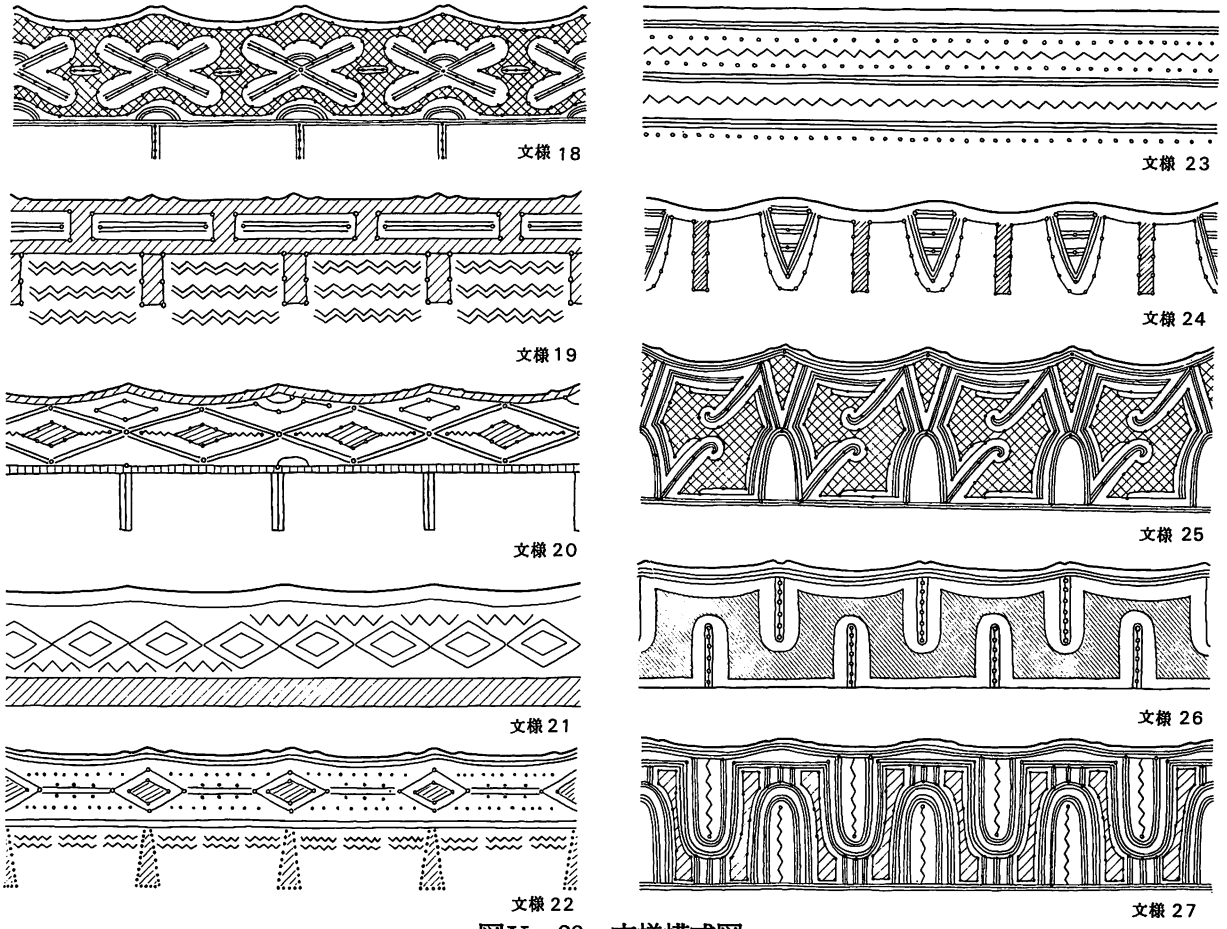
図Ⅴ－26　Ⅰ群B類土器集成図（3）




図Ⅴ－27　Ⅰ群B類土器集成図 (4)




図Ⅴ－28　Ⅰ群B類土器集成図（5）




図Ⅴ－29　文様模式図

る。また、崩れた鋸歯状沈線文が、文様帯に施されるものが多い。崩れた腹縁文で、横長の区画文が描かれるものもあり、注目される。7～9（文様20～21）は、比較的狭い範囲に、横一列に三角形状文様を配する、単純な構成のものである。昨年度、第3グループとしてとらえた土器群と比べ、より簡素化、単純化した文様となっている。本グループの中でも新しい段階かとみられるものである。c種では、三角形、菱形の文様が多段化するものがみられる（25）。また26のように、腹縁文のみで、大柄な山形の文様を連続して描くものもある。b・f種では、刺突文列が、口縁部にめぐるものが対応されるかもしれない。

g種の土器群については、再度観察し、器面の調整によって、グループ分けを試みた。上段から、ミガキ、擦痕のあるもの、ナデ調整のものである。先の調査のⅢ群土器については、報文と図から知り得る範囲で、擦痕のもの、ナデ調整のものの2つに分けた。a～f種の土器をより詳細に観察することで各グループの土器との組合せが可能になると思われるが、現段階では、分類したのみにとどまった。

以上のように大きく3つの類型にグループ分けしたが、いずれもさらに細分可能な大きな幅をもった土器群である。型式学的な観点からの細分の必要性を感じながら、現段階では、そこまでは至らなかったことを反省している。第1～3グループに類型化していく作業の中で、より複雑な文様構成のものから、単純な構成へ変化していく過程が、わずかながら認識できたのみではあるが、中野A遺跡の第Ⅲ群土器、Ⅰ群B類土器は一つの「型式」としてとらえることが充分に可能な土器群であることは間違いないことと思われる。

## 6　石器

本遺跡出土の石器総数は6,3314点、内訳は剥片石器群51,068点、磨製石器群277点、礫石器群11,925点その他である。遺構数や土器の出土量からみて石器の大部分はⅠ群Ｂ類土器の時期のものと思われ、石器や石材組成等の傾向は概ねこの時期のものを反映していると思われる。ここでは本時期に伴うと思われる石器群について幾つかの特徴を述べてみたい。なお、掲載したグラフは完形品に限っている。

**石材**

剥片石器群の石材となる硬質頁岩は、遺跡が立地する台地の両側を流れる松倉川、汐泊川においても採取可能である。ただし、光沢のないものがほとんどであり、光沢のある良質の硬質頁岩はきわめて稀であった。遺跡から出土している硬質頁岩は、色、光沢等様々なものがあり、周辺採取のものや他地からの搬入等多方面から得ていたものと思われる。良質の硬質頁岩については、他地からの搬入によるものが多いと思われる。黒曜石は絶対的に出土量が少なく、出土した遺物も小さい。石器・剥片等を偶発的に得たものと思われる。なお、一部の石核にみられる粗粒で光沢のない灰緑色の硬質頁岩は花岡の調査によれば遺跡付近の礫層中に散見できるらしい。

磨製石器群の主要な石材である蛇紋岩は、上磯町茂辺地中学校の香河氏より流紋岩であるという御指摘を受けた。戸井町で産出する流紋岩に類似するらしい。遺物とそこで産出する流紋岩とを実際に比較していないため、名称は一応従来通り蛇紋岩としたが、戸井町で産出する流紋岩を石材としているならば遺跡から十数㎞の距離に磨製石器の石材産地が存在することになる。流紋岩としても斑晶が少なく流理構造が非常に発達した軟質の流紋岩を選択していたことになり、他とは異なる石質を利用していたことに変わりはない。

礫石器群の石材はほぼ遺跡周辺で採取可能なものであるが、石材によって採取できる場所は多少異なる。砥石・石鋸に多用される流紋岩・凝灰岩は遺跡付近の礫層中に含まれるものである。たたき石・すり石に多用される石英・安山岩・閃緑岩・片岩は松倉川・汐泊川の河床礫中に認められる。ただし閃緑岩は肉眼観察の石材鑑定では個々の断定が難しく、類似するという程度である。

以上のことを含めて遺跡と石器石材採取の距離は、遺跡内もしくは遺跡のごく近辺の礫層（流紋岩・凝灰岩→砥石・石鋸・石錘、灰緑色硬質頁岩→剥片石器）、遺跡周辺の河川・浜（石英→たたき石、安山岩・閃緑岩？・片岩→たたき石・すり石・石斧・石錘、硬質頁岩→剥片石器）、遺跡から少し離れた場所（蛇紋岩《流紋岩》→石斧）？、生活圏外からの搬入（黒曜石・硬質頁岩→剥片石器）と推定できる。剥片石器の石材を除きほぼ日常の生活圏で採取可能な距離である。

**剥片石器群**

昨年度の調査と合わせた主要な石器の出土数は石鏃144点、石槍41点、石錐55点、箆状石器82点、両面（片面）調整石器195点、石匙178点、スクレイパー578点である。

石鏃は１ａ類91点、１ｂ類13点、２類５点、３類７点、４類12点で、１ａ類が60％以上を占めており、形態不明の５類を除くと72.8％に達する。１ａ類とした三角形凹基鏃のうち、この時期の石鏃は出土数や遺構の出土状況から抉りのやや深いものが該当すると思われる。早期後半にみられる３類とした柳葉形鏃は遺構から出土していないため、この時期にまで遡るどうかは不明である。

石槍は破損しているものが多いため、特徴は把握しがたい。ただし、大きさは５㎝～６㎝程度のものと10㎝以上のものとに大きく別れるようである。

石錐は１類20点、２類10点、３類12点、４類13点である。遺構からは１類の出土がほとんどで、定型的に加工したものは認められない。それ故、折れ面を利用して製作されている３類については、特徴的ではあるものの時期を確定できない。

篦状石器は1a類21点、1b類16点、1c類4点、2a類16点、2b類8点、3類17点で、やや1類が多い。刃部形態と平面形態との関係は直刃のa類が1・2類ともにあるのに対し曲刃のb類は1類に多い傾向にある。1c類はトランシェ様石器と呼称されるものであるが、出土数は少なく客体的な位置を占めている。刃部に加工がない点以外には篦状石器との相違はみられず、この種は篦状石器の傍系と考えるべきと思われる。全体的には加工の粗いものが多い。

両面（片面）調整石器は1類11点、2類27点、3類33点、4類4点、5類30点である。昨年度未分類剥片石器としたものの大部分がこれに含まれる。本遺跡出土の両面調整石器がどれだけ時期的な特徴をもつものかは今後の類例をみなければならないが、小型の両面調整石器が多いことは一つの特徴としてあげられよう。なお、5類は石槍、篦状石器の破損品も含む可能性が高い。

石匙は1a類7点、1b類1点、1c類1点、2a類3点、2b類1点、2c類15点、3b類4点、3c類45点、3d類11点、4c類42点、4d類17点、5類31点である。このうち、2類は早期後半～前期前半のものであり、早期中葉のものは遺構の出土状況から2類以外のものであると思われる。早期中葉の石匙は、薄く丁寧に製作された1a類とつまみだけを作出した4類に特徴づけられよう。1b・c類は1a類の粗製品であろう。長幅比グラフをみると1類は他より細身に仕上げられていることが明瞭である。1a類は遺構の床面からの出土が7点中3点認められ、その出土状況も特徴的である。4類は素材の剥片につまみだけを作出したもので、d類とした棒状のつまみが3類よりやや多くなる。素材の剥片は5cm以下のものが多く、3類より小型の剥片を選択していると思われる。

スクレイパーは1a類41点、1b類143点、2類309点、3類26点、4類18点、5類15点、6類26点である。包含層でも記載したように内湾刃が非常に少ないことは、刃部を作出する際に直線ないしはやや外湾する縁辺をもつ素材を選択していると思われる。また、1a類の大部分は円形状のものであり、素材の短軸に刃部を作出するもの（エンド・スクレイパー）はきわめて少ない。

**磨製石器群**

磨製石器群の主要な石器である磨製石斧は、112点出土している。内訳は1類76点、2類14点、3類2点、4類20点で、大部分は1類の擦り切り技法によるものである。1類はⅠ群B類の時期とみてさしつかえないと思われる。本遺跡出土の擦り切り技法は円礫を素材とし、擦り切りの前に素材の凹凸をなくし一定の厚さ（石斧の厚さ？）にするまで研磨を行なっている。擦り切り溝を入れ、折り取った跡、側面の研磨と刃部の作出を行なっているが、側面の研磨は粗く、擦り切り溝や折り取り面を残すものが多い。刃部は片刃であるが、鎬は不明瞭である。刃部の研ぎ出しは斜め～横方向に行なわれているものが大部分であり、縦方向のものは少ない。なお、1類の主な石材である蛇紋岩（流紋岩）はやわらかく、研磨や擦り切り溝を入れるのは見た目以上に容易である。擦り切り技法は石材にもかなり関連していると思われる。打ち欠き・敲打による2類も遺構内からの出土があり、少数ながらⅠ群B類の時期に伴うと思われる。石材は閃緑岩、緑色泥岩で、蛇紋岩（流紋岩）はみられない。蛇紋岩より硬く、擦り切りに不向きなためであろう。石斧製作が石材に反映していると思われる。ただし、緑色泥岩では擦り切り、敲打、打ち欠き全ての方法が認められる。

出土した石斧をみる限り、大きさは長さ20cm前後、刃部幅5cm～7.5cmの大型、長さ9cm～15cm幅4cm～6.5cmの中型、長さ5cm～8cm、刃部幅3.5cm～5cmの小型、刃部幅2cm以下ののみ型に大別できる。ただし、大型で刃部幅が最大の石斧（H－34）も当初は幅狭く切ることを意図していたとみられる溝を残しており、大型の石斧も刃部幅がすべて6.5cm以下に収まる。本遺構の石斧は破損品等の再利用や刃部再生が顕著であることから、大型の石斧を再生した結果、中型の石斧の大きさになったものもかなりあると思われる。それ故、大型のものと中型のものの刃部幅がほぼ一致していることも

含め、大型と中型との間に大きな機能差があるとは思われない。

**礫石器群**

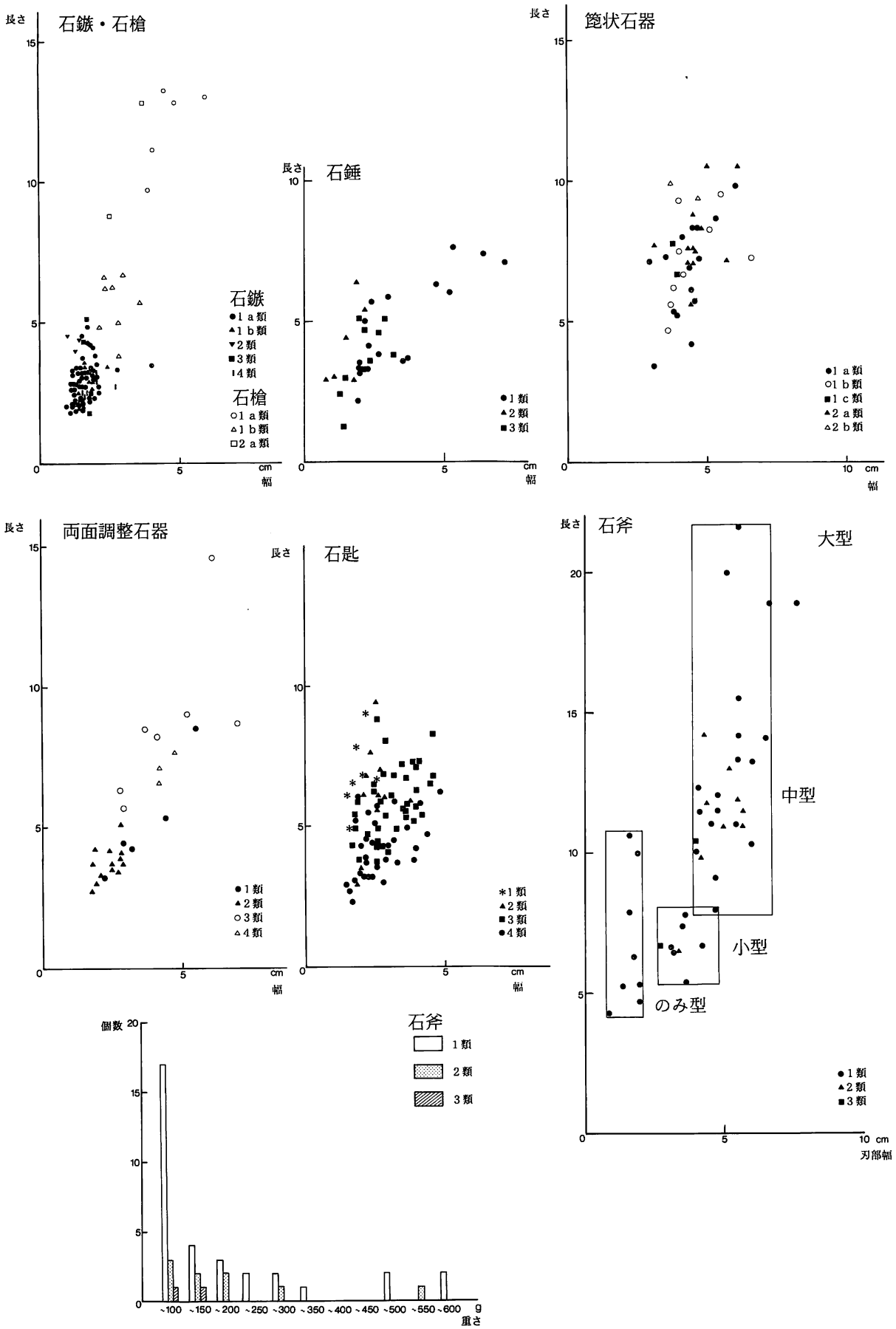
礫石器群の主要な石器の出土数は、たたき石149点、すり石471点、砥石393点、石鋸130点、石錘390点、石皿91点である。このうち、砥石、石鋸、石皿については破片が多く、個体数との間に大きな隔たりがあると思われ、必ずしも実態は表していない。

たたき石は1類13点、2類53点、3類21点、4類8点、5類31点である。用いられた石材の特徴としては、石英がほとんどたたき石に限定されて用いられており、特に1類に多い。

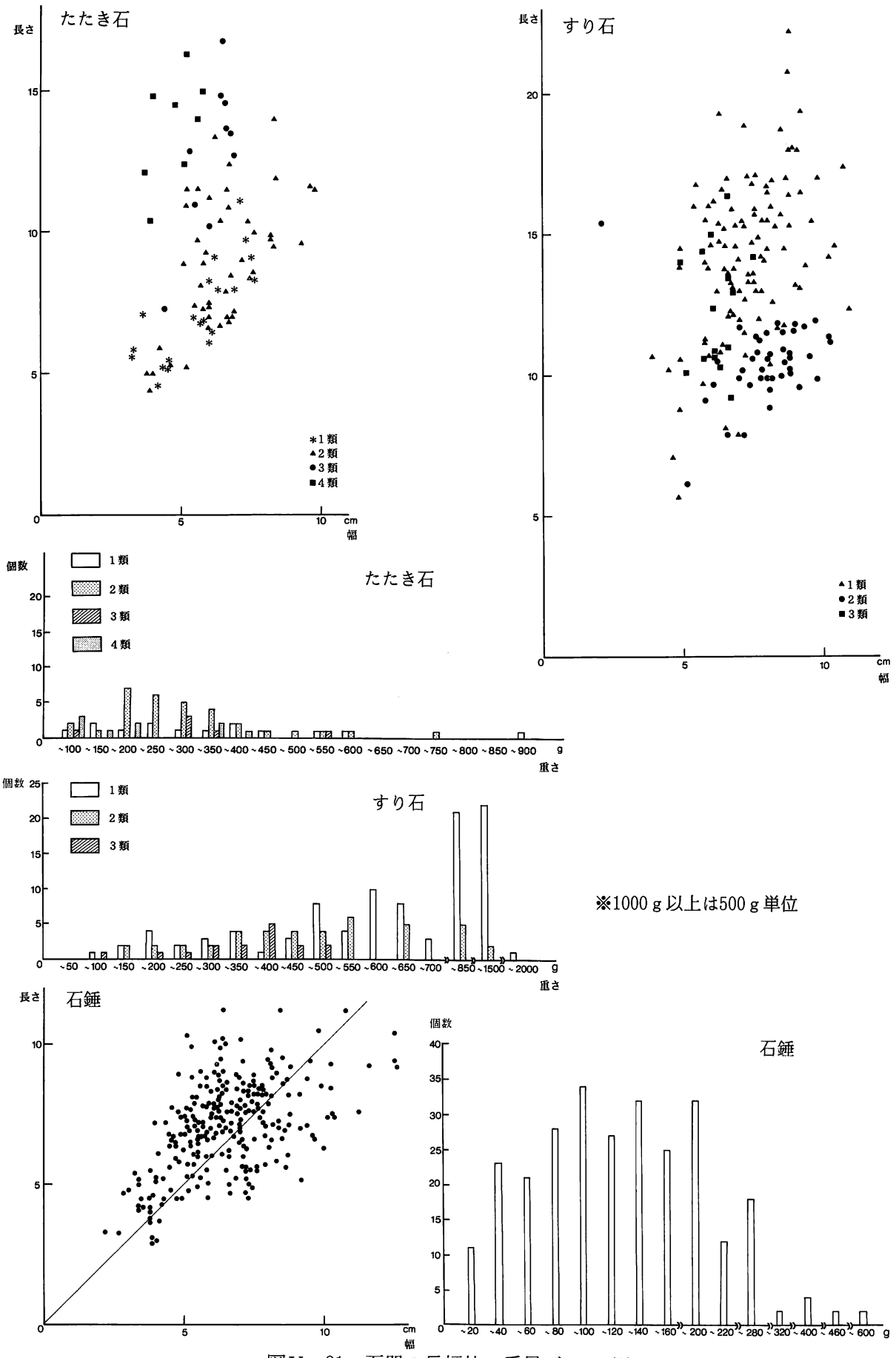
すり石は1類188点、2類64点、3類15点、4類209点である。長幅比グラフでは概ね分類別にまとまりがあり、分類ごとに素材の大きさを選択しているようである。1類はさらに重さ400ｇ～650ｇ、800ｇ～850ｇ、1000ｇ～1500ｇの3つに大きくまとまる。

すり石にはたたき痕の残るものが多数認められる。閃緑岩、安山岩が多いという石材の共通点も含め、たたき石とすり石の作業は関連していると思われる。また、すり石が多量に出土しているのに対し、石皿の出土は非常に少なく、30個体は越えないものと思われる。石皿には前期土器のそばから出土したものもあり、Ⅰ群Ｂ類の時期のものはさらに少ないであろう。本遺跡に限っては、すり石と石皿はセットとして必ずしも用いられていないと思われる。

石斧製作と関係する砥石、石鋸は流紋岩、凝灰岩を多用している。礫片を実際にすってみると短時間で刃部が磨耗することがわかる。破片が多く個体数が推定できないものの、多量に出土する背景には消耗の度合いが著しいこともあると思われる。1点の石斧製作に対し石鋸・砥石は複数使用されたと考えられ、他の石器の転用や手近にある石材を多用するのもこのあたりに理由が求められよう。




図V－30　石器の長幅比・重量グラフ (1)




図Ⅴ－31　石器の長幅比・重量グラフ (2)

# Ⅵ　自然科学的分析

## 1　液体シンチレーション$^{14}$C年代測定結果

山田　　治（京都産業大学理学部）

| 機関記号・測定番号 | 遺跡・遺構・サンプル地点名 | $^{14}$C年代測定値（BP） |
|---|---|---|
| KSU－2251 | H－15床面<br>（前期　春日町） | 5580± 30BP |
| KSU－2252 | H－16床面<br>（早期　物見台） | 9100±1900BP |
| KSU－2253 | H－18床面<br>（早期　物見台） | 9520± 320BP |
| KSU－2254 | H－20床面<br>（早期　物見台） | 9580±1800BP |
| KSU－2255 | H－25床面<br>（早期　物見台） | 7780± 280BP |
| KSU－2256 | H－36床面<br>（早期　物見台） | 8660± 180BP |
| KSU－2257 | H－43床面<br>（前期　春日町） | 5960± 100BP |

＊$^{14}$Cの半減期は5,568年。y. B. P. はAD1950年を起点としてそれ以前の過去の年数を示す。

付記　平成３年度同様、$^{14}$C年代測定用の資料として提出した炭化材は、フローテーション作業によって得られた微細な破片を集めたもので、炭化材の量が測定に必要な量をほぼ満たした遺構について、年代測定を依頼した。なお、H－43については炭化物の集中して出土した地点の土壌をそのままサンプリングし、土壌の処理を行わず送付した。

## 2　炭化種子

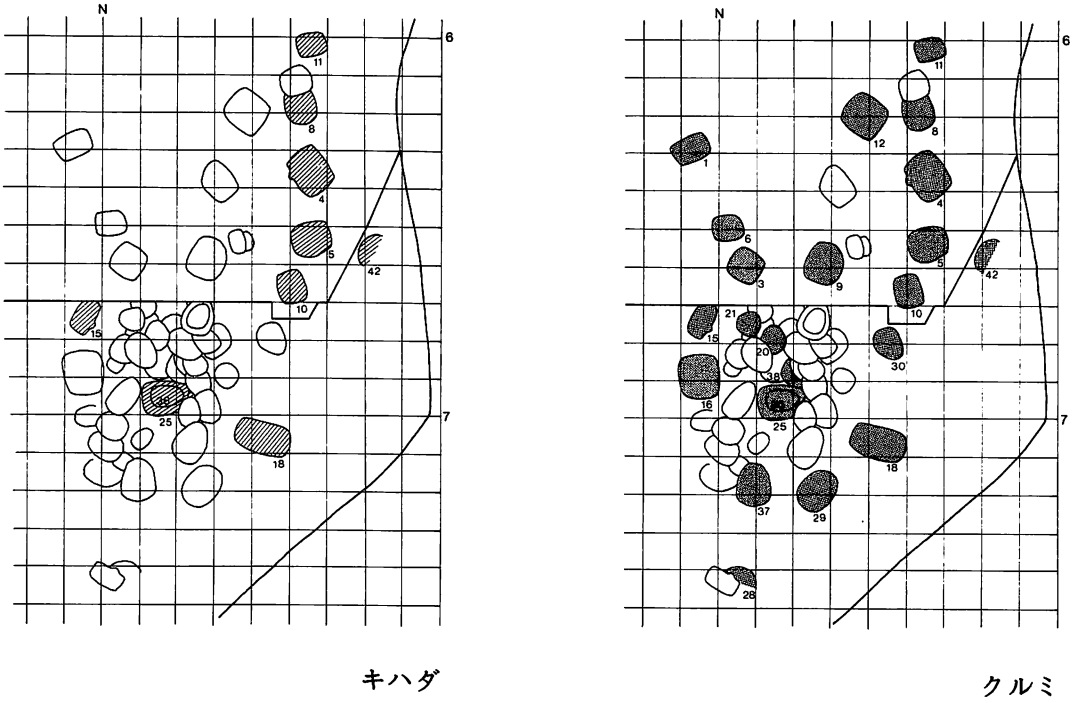
### (1)　試料の採取と分析依頼について

昨年度同様、竪穴住居床面の土壌、土壙やＴピットの壙底付近の土壌、屋外の焼土など、保存状況の良い遺構に関連する土壌はできるだけ採取し、フローテーション作業を行った。採取した資料は全部で213件である。

採取された土壌は、発掘期間中に、１、試料土壌の計量、２、試料土壌の乾燥、３、浮遊物の回収に、2.0㎜メッシュ、1.42㎜メッシュ、残渣の回収に1.0㎜メッシュのフルイを用いて、水洗浮遊選別、４、試料を乾燥させ、サンプル地点ごとに袋に収納を行った。仕分け作業を終えて、当センターに持ち帰った試料について、昨年度の分析結果に基づき、大まかな分類作業を行った。作業時間の関係上、浮遊物のうち1.0㎜メッシュ～1.42㎜メッシュまでの資料については選別を行わなかった。

大まかな分類をすませて試料105件については、北海道大学埋蔵文化財調査室の吉崎昌一、椿坂恭代両氏に、試料の分析、炭化種子の同定をお願いし、上記99件の分析結果をいただき、次節に報告をご執筆いただいた。

以上の経過を踏まえ、且つ、昨年度の分析結果と比較を加えると、キハダとクルミに見られた分布の偏りについて、図Ⅴ－１に示すとおり、クルミは、試料を採取した遺構のほとんどから検出され、この中野Ａ遺跡において生活を営んでいた人に広く利用されていたようである。これに対して、キハダは、縄文前期春日町式の住居跡のＨ－15を除いて考えると、昨年度の分布傾向と同様に、ほとんど沢沿いの住居跡に集中している。このような分布傾向が当遺跡だけに該当するものなのか、他の遺跡にも適応するものなのか、今後の課題としたい。なお、住居跡の床面を、50㎝～１ｍメッシュに区画し




図Ⅵ－１　キハダ属・クルミ属検出遺構分布図

表VI－1　フローテーション遺構別集計

| 遺構名 | サンプル採取地点 | サンプル量 | キハダ属種子（粒） | キハダ属種子（片） | 果肉付キハダ（g） | クルミ属（g） | 不明種子（粒） | フレイク | 土器片 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H－15 | 床22 | 1.0 | | | | | | 12 | | |
| H－15 | 床23 | 7.5 | | | | | | 84 | 11 | |
| H－15 | 床24 | 4.1 | | | | | | 15 | 6 | |
| H－15 | 床25 | 2.6 | | | | | | 3 | | |
| H－15 | 床33 | 9.0 | | | | | | 490 | 20 | |
| H－15 | 床34 | 21.0 | | | | | | 226 | 25 | |
| H－15 | 床35 | 10.2 | | | | | | 47 | 26 | |
| H－15 | 床36 | 9.5 | | | | | | 16 | 6 | |
| H－15 | 床41 | 2.5 | | | | | | 30 | | |
| H－15 | 床42 | 10.0 | | | | | | 745 | | |
| H－15 | 床44 | 26.5 | | | | | | 1729 | 19 | |
| H－15 | 床45 | 7.5 | | | | >0.00 | | 39 | | |
| H－15 | 床46 | 16.5 | | | | | | 46 | | |
| H－15 | 床47 | 25.8 | | | | | | 36 | | |
| H－15 | 床48 | 8.5 | | | | | | 14 | | |
| H－15 | 床51 | 4.2 | | | | | | 21 | 1 | |
| H－15 | 床52 | 7.3 | | | | | | 835 | 6 | |
| H－15 | 床53 | 15.2 | | | | | | 1091 | 3 | |
| H－15 | 床54 | 9.8 | | | | | | 241 | | |
| H－15 | 床55 | 5.5 | | | | | | 7 | | |
| H－15 | 床56 | 25.9 | | | | | | 54 | | |
| H－15 | 床57 | 25.6 | | | | | | 39 | 1 | |
| H－15 | 床58 | 27.1 | | | | | | 101 | 6 | |
| H－15 | 床59 | 13.1 | | | | 0.01 | | 29 | | |
| H－15 | 床61 | 7.0 | | | | | 1 | 40 | 1 | |
| H－15 | 床62 | 9.0 | | | | | 1 | 71 | 1 | |
| H－15 | 床64 | 12.6 | | | | | | 75 | | |
| H－15 | 床65 | 10.1 | | | | 0.01 | | 22 | | |
| H－15 | 床66 | 22.7 | | | | 0.02 | | 58 | | |
| H－15 | 床67 | 35.5 | | | | | | 65 | 1 | |
| H－15 | 床68 | 26.0 | | | | | | 118 | 2 | |
| H－15 | 床69 | 13.5 | | | | | | 52 | | |
| H－15 | 床74 | 5.0 | | | | | | 12 | 1 | |
| H－15 | 床75 | 14.5 | | | | | | 52 | 6 | |
| H－15 | 床66ベニガラ | 1.0 | | | | >0.00 | | | | |
| H－15 | 床76 | 10.3 | | | | | | 130 | 5 | |
| H－15 | 床77 | 20.8 | | | | | | 44 | 4 | |
| H－15 | 床78 | 27.7 | | | 0.03 | | | 63 | 7 | |
| H－15 | 床79 | 10.9 | | | | | | 9 | 1 | |
| H－15 | 床86 | 5.5 | | | | 0.02 | | 5 | | |
| H－15 | 床87 | 0.8 | | | | | | 15 | 6 | |
| H－15 | 床88 | 16.4 | | | | 0.02 | | 190 | 15 | |
| H－15 | 床89 | 17.7 | | | | >0.00 | | 25 | | |
| H－15 | 床97 | 6.0 | | | | | 1 | 5 | 4 | |
| H－15 | 床98 | 3.0 | | | | | | 9 | | |
| H－15 | HP | 2.0 | | | | | | 7 | 3 | |
| H－15 | HP－1 | 8.0 | | | | | | | | |
| 小　計 | | 581.9 | | | 0.03 | 0.08 | 3 | 7,017 | 187 | |
| H－16 | 床02 | 10.0 | | | | >0.00 | | 19 | | |
| H－16 | 床03 | 17.2 | | | | 0.03 | | 2 | | |
| H－16 | 床04 | 11.5 | | | | | | 4 | 4 | |
| H－16 | 床06 | 15.1 | | | | | | 1 | | |
| H－16 | 床07 | 28.5 | | | | | | 15 | 24 | |
| H－16 | 床12 | 12.1 | | | | >0.00 | | 14 | | |
| H－16 | 床13 | 10.5 | | | | | | 6 | | |
| H－16 | 床14 | 4.0 | | | | | | 10 | | |
| H－16 | 床16 | 12.6 | | | | | | 21 | 3 | |
| H－16 | 床17 | 13.0 | | | | | | 5 | | |
| H－16 | 床22 | 9.2 | | | | | | 9 | | |
| H－16 | 床23 | 21.0 | | | | | | 7 | | |
| H－16 | 床24 | 20.8 | | | | | | 21 | | |
| H－16 | 床25 | 18.0 | | | | | | 4 | | |
| H－16 | 床26 | 9.6 | | | | | | 2 | | |
| H－16 | 床33 | 21.5 | | | | >0.00 | | 4 | | |
| H－16 | 床34 | 22.0 | | | | | | 9 | | |
| H－16 | 床35 | 18.2 | | | | 0.02 | | 6 | | |
| H－16 | 床43 | 12.0 | | | | | | 13 | | |
| H－16 | 床44 | 10.0 | | | | | | 4 | | |
| H－16 | 床45 | 17.3 | | | | | | 5 | | |
| H－16 | 床46 | 8.5 | | | | 0.03 | | 9 | | |
| H－16 | 焼土 | 36.8 | | | | >0.00 | | 139 | | |
| 小　計 | | 359.4 | | | | 0.08 | | 329 | 31 | |
| H－17 | 焼土 | 12.1 | | | | | | 6 | | |
| 小　計 | | 12.1 | | | | | | 6 | | |
| H－18 | N83920 | 1.0 | | | | | | 1 | | |
| H－18 | N83921 | 9.0 | | | | | | | | |
| H－18 | N83922 | 9.1 | | | | | | 5 | | |

| 遺構名 | サンプル採取地点 | サンプル量 | キハダ属種子（粒） | キハダ属種子（片） | 果肉付キハダ（g） | クルミ属（g） | 不明種子（粒） | フレイク | 土器片 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H－18 | N83930 | 8.2 | | | | | | 54 | | |
| H－18 | N83931 | 21.3 | | | | 0.03 | | 69 | 1 | |
| H－18 | N83932 | 27.2 | | | | 0.01 | | 81 | | |
| H－18 | N83933 | 11.5 | | | | >0.00 | | 7 | 1 | |
| H－18 | N83940 | 23.4 | | | | 0.01 | 1 | 83 | 4 | |
| H－18 | N83941 | 28.5 | | | | 0.09 | 1 | 43 | | |
| H－18 | N83942 | 20.7 | | | | 0.02 | | 37 | 4 | |
| H－18 | N83943 | 21.2 | | | | 0.04 | | 43 | 3 | |
| H－18 | N84804 | 9.5 | | | | 0.06 | | 17 | | |
| H－18 | N84814 | 18.1 | | | | 0.02 | | 22 | 10 | |
| H－18 | N84824 | 23.4 | | | | | | 14 | 19 | |
| H－18 | N84834 | 39.9 | | | | 0.09 | | 140 | 11 | |
| H－18 | N84844 | 35.0 | | | | 0.13 | 1 | 2 | 3 | |
| H－18 | N84900 | 6.0 | | | | | | 8 | | |
| H－18 | N84901 | 15.8 | | | | 0.06 | | 82 | 2 | |
| H－18 | N84902 | 2.5 | | | | | | | | |
| H－18 | N84903 | 3.0 | | | | | | | | |
| H－18 | N84910 | 19.0 | | | | | | 204 | 6 | |
| H－18 | N84912 | 19.8 | | | | 0.01 | | 47 | 1 | |
| H－18 | N84913 | 14.5 | | | | 0.04 | | 13 | 7 | |
| H－18 | N84920 | 38.4 | | | | | | 22 | 28 | |
| H－18 | N84921 | 19.2 | | | | | | 15 | | |
| H－18 | N84922 | 12.3 | | | | 0.01 | | 6 | | |
| H－18 | N84923 | 11.5 | | | | | | 12 | | |
| H－18 | N84930 | 57.6 | | | | 0.02 | | 113 | 3 | |
| H－18 | N84931 | 42.4 | | | | 0.02 | | 114 | 8 | |
| H－18 | N84932 | 28.5 | 1 | | >0.00 | 0.09 | | 70 | 3 | |
| H－18 | N84933 | 2.5 | | | | | | 6 | | |
| H－18 | N84934 | 9.1 | | | | | | | | |
| H－18 | N84940 | 78.4 | | | | 0.04 | 1 | 95 | 21 | |
| H－18 | N84941 | 48.0 | | | | 0.07 | | 75 | | |
| H－18 | N84942 | 37.6 | | | | 0.11 | | 7 | 8 | |
| H－18 | N85900 | 3.1 | | | | | | | | |
| H－18 | N85901 | 6.0 | | | | | | 4 | | |
| H－18 | N85902 | 0.5 | | | | | | | | |
| H－18 | HF－1 | 55.5 | | | | | | 54 | 7 | |
| H－18 | HF－2 | 7.2 | | | | | | 1 | 13 | |
| H－18 | HP－1 | 9.0 | | | | 0.01 | | 56 | 12 | |
| H－18 | HP－3 | 4.0 | | | >0.00 | 0.01 | | 1 | 8 | |
| 小　計 | | 858.4 | 1 | | | 0.99 | 4 | 1,623 | 183 | |
| H－20 | 床01 | 1.0 | | | | | | | | |
| H－20 | 床02 | 9.5 | | | | >0.00 | | 11 | | |
| H－20 | 床03 | 38.0 | | | | >0.00 | | 37 | | |
| H－20 | 床04 | 42.8 | | | | >0.00 | | 110 | 2 | |
| H－20 | 床05 | 22.5 | | | | | | 20 | | |
| H－20 | 床06 | 15.0 | | | | | | 16 | | |
| H－20 | 床07 | 29.7 | | | | | | 23 | | |
| H－20 | 床08 | 27.5 | | | | | | 39 | | |
| H－20 | 床09 | 36.2 | | | | 0.13 | | 334 | 7 | |
| H－20 | 床10 | 5.0 | | | | 0.02 | | 14 | | |
| H－20 | 床11 | 6.0 | | | | | | 1 | | |
| H－20 | 床12 | 41.5 | | | | 0.23 | | 271 | 6 | |
| H－20 | 床13 | 37.7 | | | | 0.14 | | 286 | 27 | |
| H－20 | 床14 | 8.2 | | | | | | 11 | | |
| H－20 | 床15 | 28.0 | | 3 | | 0.02 | | 71 | | |
| H－20 | 床16 | 17.0 | | | | 0.09 | | 64 | | |
| H－20 | 床17 | 4.0 | | 1 | | | | 26 | | |
| H－20 | 焼土 | 13.0 | | | | | | 6 | | |
| 小　計 | | 382.6 | | 4 | | 0.63 | | 1,340 | 42 | |
| H－21 | 床01 | 7.0 | | | | | | 3 | | |
| H－21 | 床02 | 20.7 | | | | | | 6 | | |
| H－21 | 床03 | 24.0 | | | | | | 9 | | |
| H－21 | 床04 | 6.0 | | | | | | 5 | | |
| H－21 | 床05 | 13.0 | | | | | | 9 | 1 | |
| H－21 | 床06 | 32.0 | | | | | | 26 | | |
| H－21 | 床08 | 6.0 | | | | | | 3 | | |
| H－21 | 床09 | 8.0 | | | | 0.01 | | 5 | | |
| H－21 | 床10 | 20.0 | | | | 0.01 | | 44 | | |
| 小　計 | | 136.7 | | | | 0.02 | | 110 | 1 | |
| H－23 | 焼土 | 19.7 | | | | | | | | |
| 小　計 | | 19.7 | | | | | | | | |
| H－25 | 床01 | 3.0 | | | | | | 4 | | |
| H－25 | 床02 | 5.0 | | | | | | 2 | | |
| H－25 | 床03 | 6.3 | | | | | | 13 | | |
| H－25 | 床04 | 1.7 | | | | | | | | |
| H－25 | 床05 | 4.0 | | | | 0.03 | | 6 | 14 | |
| H－25 | 床06 | 21.0 | | | | 0.04 | | 43 | | |
| H－25 | 床07 | 16.8 | | | | >0.00 | | 42 | | |
| H－25 | 床08 | 17.3 | | | | | | 55 | | |

| 遺構名 | サンプル採取地点 | サンプル量 | キハダ属種子（粒） | （片） | 果肉付キハダ（g） | クルミ属（g） | 不明種子（粒） | フレイク | 土器片 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H－25 | 床09 | 14.5 | | | | | | 43 | | |
| H－25 | 床10 | 7.6 | | | | | | 3 | | |
| H－25 | 床11 | 30.1 | | | | 0.01 | | 35 | | |
| H－25 | 床12 | 16.6 | | | | | | 73 | | |
| H－25 | 床13 | 15.5 | | | | >0.00 | | 162 | | |
| H－25 | 床14 | 19.7 | | | 0.01 | | | 78 | | |
| H－25 | 床15 | 4.1 | | | | | | 38 | | |
| H－25 | 床16 | 23.0 | | | | | | 71 | | |
| H－25 | 床17 | 6.6 | | | | 0.01 | | 65 | | |
| H－25 | 床18 | 10.3 | | | >0.00 | 0.13 | | 429 | | |
| H－25 | 床19 | 12.6 | | | | 0.02 | | 120 | | |
| H－25 | 床20 | 2.5 | | | | 0.01 | | | | |
| H－25 | 床21 | 22.0 | | | | 0.02 | | 107 | | |
| H－25 | 床22 | 16.3 | | | | 0.09 | | 541 | | |
| H－25 | 床23 | 12.2 | | | 0.13 | 0.18 | | 462 | 3 | |
| H－25 | 床24 | 11.6 | | | | | | 98 | | |
| H－25 | 床25 | 18.7 | | | 0.06 | | | 322 | 3 | |
| H－25 | 床26 | 18.3 | | | | 0.01 | | 161 | | |
| H－25 | 床27 | 18.3 | 3 | | 0.07 | 0.02 | | 112 | | |
| H－25 | 床28 | 11.9 | | | | | | 28 | 1 | |
| H－25 | 床29 | 1.0 | | | | | | 6 | | |
| H－25 | 床30 | 15.5 | 1 | | | 0.03 | | 68 | 1 | |
| H－25 | 床31 | 6.2 | | | | 0.01 | | 18 | 3 | |
| H－25 | 床32 | 4.0 | | | | | | | | |
| H－25 | 焼土 | 6.4 | | | | | | 29 | | |
| H－25 | HP－1 | 70.6 | 3 | | 0.19 | 2.49 | | 824 | | |
| H－25 | 灰 | 1.0 | | | | | | 26 | | |
| 小　計 | | 472.2 | 7 | | 0.46 | 3.77 | | 4,084 | 25 | |
| H－28 | 焼土 | 39.0 | | | | >0.00 | | 13 | | |
| 小　計 | | 39.0 | | | | >0.00 | | 13 | | |
| H－29 | 焼土 | 38.6 | | | | 0.45 | | 124 | 65 | |
| 小　計 | | 38.6 | | | | 0.45 | | 124 | 65 | |
| H－30 | 焼土 | 151.9 | | | | 0.65 | | 254 | 3 | |
| 小　計 | | 151.9 | | | | 0.65 | | 254 | 3 | |
| H－36 | 床01 | 2.0 | | | | | | 6 | 2 | |
| H－36 | 床02 | 13.0 | | | | | | 42 | 12 | |
| H－36 | 床03 | 3.0 | | | | | | | | |
| H－36 | 床04 | 12.8 | | | | 0.01 | | 98 | 3 | |
| H－36 | 床05 | 6.3 | | | | | | 30 | 6 | |
| H－36 | 床06 | 19.8 | | | | 0.36 | | 47 | | |
| H－36 | 床07 | 13.5 | | | | 0.29 | | 50 | | |
| H－36 | 床08 | 15.1 | | | | 0.11 | | | 25 | |
| H－36 | 床09 | 3.0 | | | | >0.00 | | | 36 | |
| H－36 | 床10 | 21.1 | | | | 0.18 | | 162 | | |
| H－36 | 床11 | 4.9 | | | | 0.26 | | 27 | | |
| H－36 | 床12 | 13.3 | | | | 0.26 | | 24 | | |
| H－36 | 床13 | 6.0 | | | | 0.01 | | 42 | 2 | |
| H－36 | 床14 | 21.5 | | | 0.01 | 0.27 | | 682 | 14 | |
| H－36 | 床15 | 16.8 | | | | 0.35 | | 96 | | |
| H－36 | 床16 | 8.0 | | | 0.05 | 0.23 | | 14 | 2 | |
| H－36 | 床17 | 1.2 | | | | 0.12 | | 4 | | |
| H－36 | 床18 | 16.7 | 5 | | 0.55 | 0.30 | | 207 | 13 | |
| H－36 | 床19 | 11.8 | 2 | | 0.04 | 0.26 | | 130 | | |
| H－36 | 床20 | 6.7 | | | | 1.21 | | 54 | | |
| H－36 | HP－1 | 21.2 | | | 0.07 | 1.20 | | 231 | | |
| H－36 | HP－11 | 1.1 | | | | | | 9 | | |
| 小　計 | | 238.8 | 7 | | 0.72 | 5.42 | | 1,955 | 115 | |
| H－37 | HP－1 | 16.0 | | | | 0.13 | | 190 | 4 | |
| 小　計 | | 16.0 | | | | 0.13 | | 190 | 4 | |
| H－38 | 焼土 | 5.2 | | | | 0.05 | | 7 | | |
| 小　計 | | 5.2 | | | | 0.05 | | 7 | | |
| H－39 | HF－2 | 4.5 | | | | | | | | |
| H－39 | 焼土 | 5.4 | | | | | | 15 | | |
| 小　計 | | 9.9 | | | | | | 15 | | |
| H－42 | 焼土 | 22.7 | | | 0.10 | | | 23 | | |
| 小　計 | | 22.7 | | | 0.10 | | | 23 | | |
| H－49 | 焼土 | 5.1 | | | | | | 5 | | |
| 小　計 | | 5.1 | | | | | | 5 | | |
| P－30 | 床面 | 1.2 | | | | | | | | |
| P－30 | 焼土 | 6.2 | | | | 0.01 | | 4 | 2 | |
| 小　計 | | 7.4 | | | | 0.01 | | 4 | 2 | |
| T－19 | 10層 | 3.8 | | | | | | | | |
| 小　計 | | 3.8 | | | | | | | | |
| T－20 | 10層 | 2.0 | | | | >0.00 | 1 | | | |
| 小　計 | | 2.0 | | | | >0.00 | 1 | | | |
| T－25 | 05層 | 0.5 | | | | | | | | |
| 小　計 | | 0.5 | | | | | | | | |
| F－4 | 焼土 | 20.6 | | | | 2.66 | | | | |
| 計 | | 3363.9 | 15 | 4 | 1.31 | 14.94 | 8 | 17,099 | 658 | |

て、土壌試料を採取し、各区画における炭化植物遺体の量的な分布などについては、竪穴住居の構造や空間利用と合わせて、和泉田が第Ⅴ章で考察を行っている。

**中野Ａ遺跡（1992年度発掘）の植物遺体**　　吉崎　昌一（北海道大学埋蔵文化財調査室）

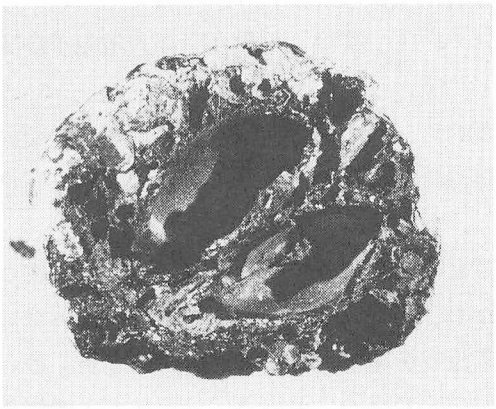
(1)　扱った資料の性格ほか

ここに扱った資料は、函館空港拡張整備工事に伴う埋蔵文化財調査で発掘された中野Ａ遺跡から検出されたものである。遺跡は、北海道函館市中野町100－１～12にあり、平成４年５月から10月にかけて北海道埋蔵文化財センターによって発掘が実施された。ここからは縄文時代早期の物見台式土器（貝殻紋尖底土器）を伴う竪穴住居40軒と縄文時代前期初頭の春日町式土器を伴う竪穴住居２軒（Ｈ－15、43）が見出されている。それらの竪穴住居の中で撹乱のおそれのない床面堆積物から炭化種子が検出され、送付されてきた。表Ⅵ－１に、今回扱った資料の採取地点と検出された植物種子の種類をあげておく。

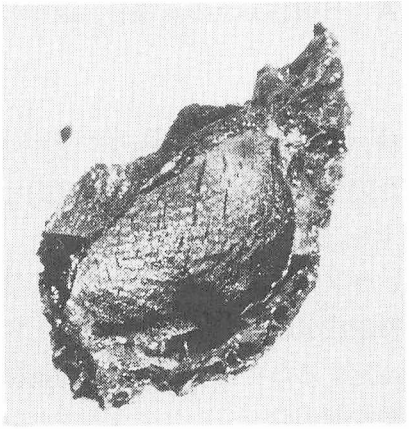
(2)　検出された植物種子

出土した炭化種子は、1991年度の発掘で得られたものと基本的に同一である。どの竪穴住居からもクルミ属（おそらくオニグルミJuglans ailanthifolia Carr.であろう）の核細片が散漫に検出されている。個体数をカウントすることは無理なので、表には乾燥状態の重量を示しておいた。図版Ⅵ－１の４に核片の例を示しておく。つぎに多く検出されたのはキハダ属Phellodendron Rupr.（Phellodendron amurense Rupr.）で、ほぼ全形の残っているものが15粒、破片が４片検出された。図版Ⅵ－１の３ａ－ｂに粒形のわかるものとその表面構造を拡大したものを示しておく。図版Ⅵ－１の１～２にはキハダの液果状核果がそのまま炭化、出土している例をあげておく。１は液果状核果が半割になったもの。中央に２個の割れた種子が観察される。２は核果の一部分で、中央部に偏楕円形の種子が剥落した痕跡が残っているもの。20号住居（Ｈ－20）からこうした資料が４例検出された。キハダの実は乾燥して貯蔵、いろいろな煮物に混ぜて風味をつけるのに用いられていたことが民俗例で知られている。また、黒化した実はそのまま生食もされていた。北海道の縄文時代遺跡からもよく検出され、中野Ａ遺跡の1991年度発掘においても同様の資料が検出されている。

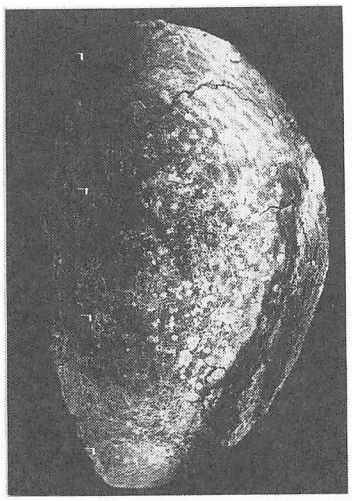
不明種子はダメージが大きかったり、固定に必要な部分が観察できなかったものなどで、種類が不明のものを一括しておいた。



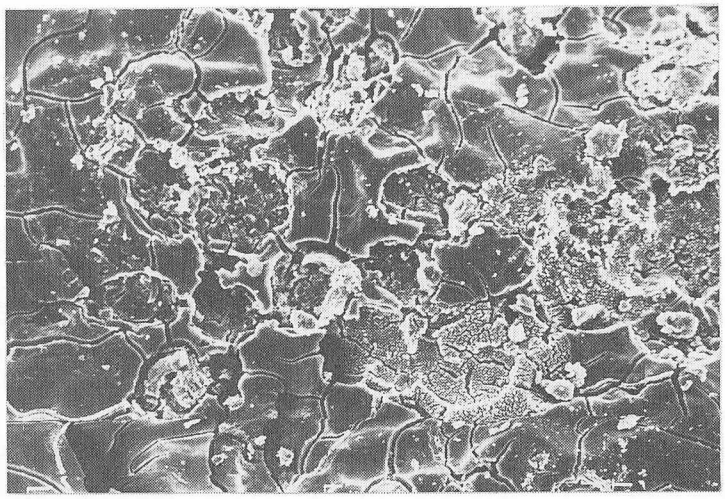
1　果肉付キハダ



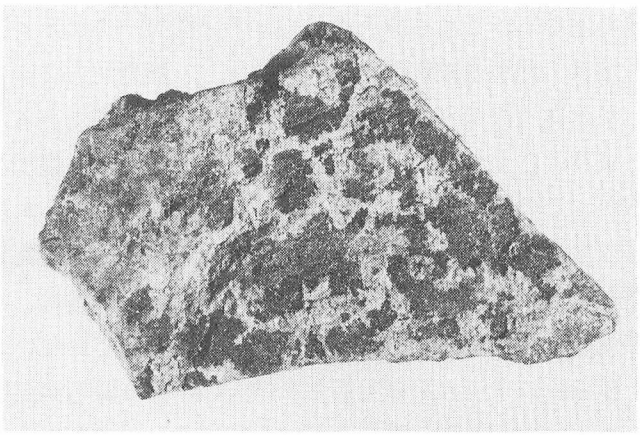
2　果肉付キハダ片



3ａ　キハダの種子　×35
長さ×3.8㎜、幅2.4㎜



3ｂ　3ａの拡大　×500



4　クルミ核

図版Ⅵ－１　1992年度函館市中野Ａ遺跡出土炭化植物遺体

## 3　中野Ａ、Ｂ遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析

藁科　哲男（京都大学原子炉実験所）

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光Ｘ線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている[1, 2, 3]。

黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確立を求めて産地を同定する。

蛍光Ｘ線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。

今回分析を行なった試料は、函館市中野町の中野Ａおよび中野Ｂ遺跡の出土の25個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面に打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光Ｘ分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はAl、Si、K 、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。

塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca／K、Ti／K、Mn／Zr、Fe／Zr、Rb／Zr、Sr／Zr、Y／Zr、Nb／Zr の比量をそれぞれ用いる。

黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布する。調査を終えた原産地を図Ⅵ－２に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成の上から、これら原石を分類すると図Ⅵ－２に示すように83個の原石群に分かれる。白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方２㎞の採石場の露頭、鹿砦東方約２㎞の幌加沢地点、また白土沢などより転礫として黒曜石が採取できる。この露頭からの黒曜石原石は白滝第一群にまとまり、白土沢の転礫は白滝第二群にまとまる。幌加沢よりの転礫の中で、70％は幌加沢群にまとまるが、この群は白滝第二群と一致し、元素組成から両群を区別できない。さらに、幌加沢産原石の30％は白滝第一群に一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取され、この原石の元素組成は置戸群にまとまる。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三の沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、

この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、十勝地域の美蔓地区から円礫の黒曜石原石が見つかり、これら原石で新たに美蔓第一、第二群の原石群が作られた。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここの原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえないものが多く、稀に球果の見られない、またあっても非常に少ない握り拳半分大の良質な原石が少数みられた。これら原石の元素組成は赤井川群にまとまる。豊泉産原石は豊浦町から産出し使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鯵ケ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ケ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。深浦群は青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で作られた群である。深浦群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群は赤井川産原石、十勝三股産原石と大部分は弁別が可能であるが、両産地の原石の組成は比較的似ている。戸門産黒曜石の産出量は非常に少なく、また大きさも石鏃が作れる程度であって、この原石が使用された証拠は現在確認されていない。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca／K、Ti／Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値はやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した中野A、B遺跡の遺物の結果を表VI－3に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb／Zrの一変量だけを考えると、表VI－3の試料番号31679番の遺物ではRb／Zrの値は1.181で、十勝三股区の［平均値］±［標準偏差値］は、1.097±0.055である。遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から1.5σ離れている。ところで十勝三股原産地から100個の原石を採ってきて分析すると、平均値から±1.5σのずれより大きいものが13個ある。すなわち、この遺物が、十勝三股群の原石から作られていたと仮定しても、1.5σ以上離れる確率は13%であると言える。だから十勝三股群の平均値から1.5σしか離れていないときには、この遺物が十勝三股群の原石から作られたものではないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を置戸群に比較すると、置戸群の平均値からの隔たりは、約10σである。これを確率の言葉で表現すると、置戸群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から10σ以上離れている確率は、百億分の一であると言える。このように、百億個に一個しかないような原石はたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、置戸群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺跡は十勝群に13%、置戸群に一億分の一%の確率でそれぞれ帰属される」。各遺跡の遺物についてこの判断を表VI－2のすべての原石群について行ない、

低い確率で帰属された原産地を消していくと残るのは、十勝三股の原産地だけとなり、十勝産地の石材が使用されていると判定される。実際はRb／Zrといった唯１個の変量だけでなく、前述した５個の変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えばＡ原産地のＡ群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、Ａ群の石材で作られた遺物であれば、Ａ群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はＡ群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT²検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する[4,5]。表Ⅵ－４に中野Ａ、中野Ｂ遺跡より出土した遺物の産地推定の結果を示す。原産地は確率の高い産地のものだけを選んで記した。原石群を作った原石試料は直径３㎝以上であるが、多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには、原石群の元素組成のバラツキの範囲を越て大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1％に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D²の値を記した。この遺物については、記入されたD²の値が原石群の中で最も小さなD²値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。

今回、分析した中野Ａ遺跡の10個の遺物の産地分析の結果では、赤井川産原石が５個、豊泉産原石が３個、置戸産原石が１個、深浦産原石が１個それぞれ使用されていることが明らかになった。中野Ｂ遺跡出土の15個の遺物の産地分析の結果は、赤井川産が９個、豊泉産が３個、白滝産、十勝産が各１個使用されていることが明らかになった。試料番号31675番の石鏃は風化が激しく原石産地は特定できなかった。黒曜石原石の伝播は北海道から本州に伝播しその逆は確認されていなかった。この逆ルートを探る目的で、道南地方出土の斑晶を含む黒曜石（出来島産黒曜石を想定）を多数分析したが出来島産原石と一致せず、これが北海道埋蔵文化財センターの越田氏が記憶していた原産地の豊泉産原石であったことが後日判明し、逆ルートの可能性は消滅した。しかし、今回分析した遺物の中に深浦産原石が使用されていることが判明し、函館に本州産黒曜石が伝播していることが明らかになり逆ルートが証明された。また、本遺跡で使用された赤井川、置戸、豊泉、白滝、十勝の各産地の原石は東北地方の遺跡に伝播している石材の種類と一致し、本遺跡がこれら石材の本州への伝播中継遺跡と考察しても産地分析の結果と矛盾しない。

**参考文献**

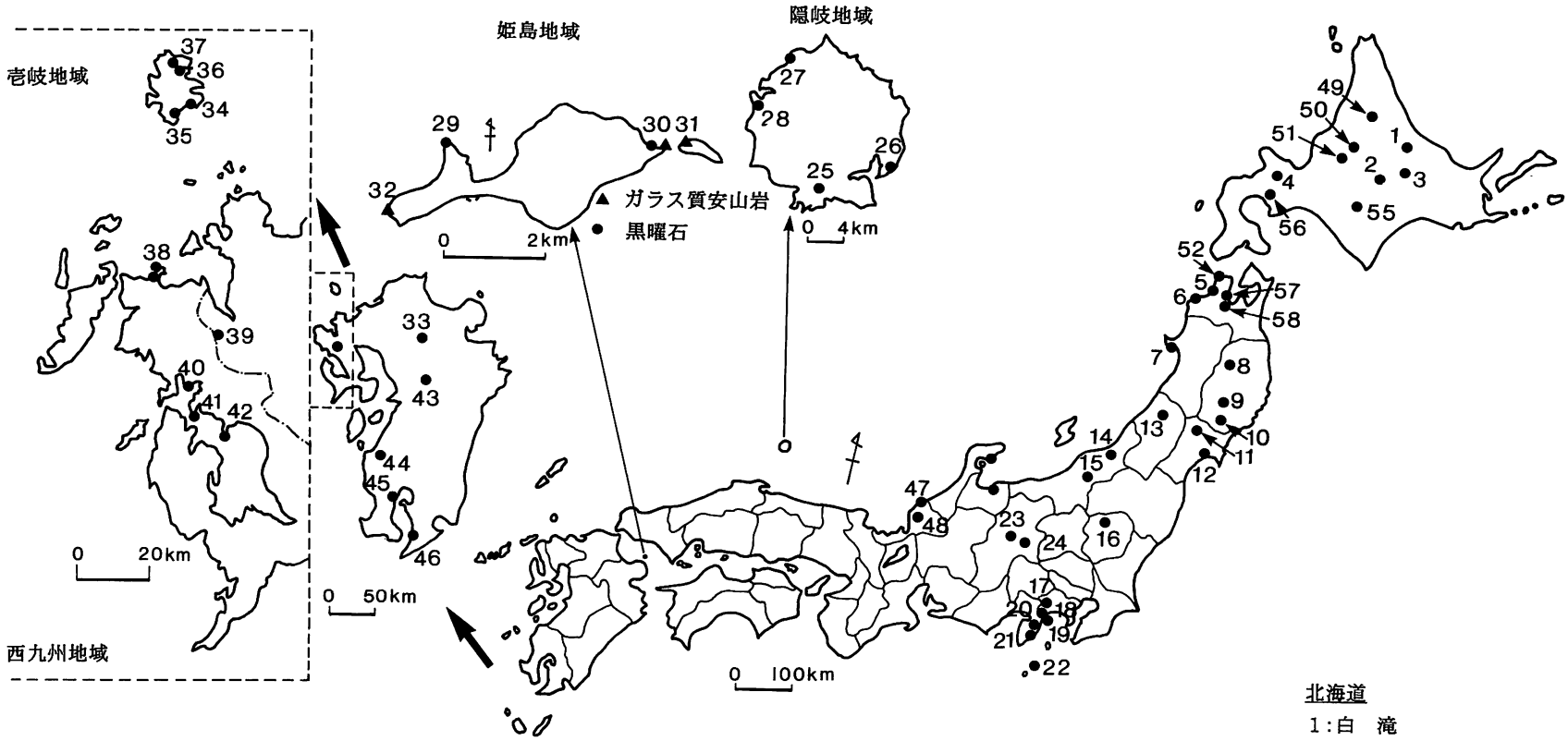
１）藁科哲男・東村武信（1975）、蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（Ⅱ）。考古学と自然科学、８:61-69

２）藁科哲男・東村武信・鎌木義昌（1977）、（1978）、蛍光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（Ⅲ）。（Ⅳ）。考古学と自然科学、10,11:53-81:33-47

３）藁科哲男・東村武信（1983）、石器原材の産地分析。考古学と自然科学、16:59-89

４）東村武信（1976）、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学、９:77-90

５）東村武信（1990）、考古学と物理化学。学生社




西九州地域
長崎県
38:松　浦
40:淀　姫
41:中町、古里
2：大　崎
佐賀県
39:腰岳
壱岐地域
34:久喜ノ辻
35:君ケ浦
36:角川
37:貝畑
大分県
33:塚　瀬
熊本県
43:冠ケ岳
鹿児島県
44:出　水
45:竜ケ水
46:長　谷
隠岐地域
25:加　茂
26:津　井
27:久　見
28:福　浦
姫島地域
29:観音崎
30:両　瀬
31:稲　積
32:オイ崎
長野県
23:霧ケ峰
男女倉
和田峠
24:麦草峠
石川県
53:比　那
福井県
47:安　島
48:三里山
東京都
22:神津島
神奈川県
17:箱根・笛塚
18:箱根・畑宿
19:鍛冶屋
静岡県
20:上多賀
21:柏峠西
富山県
59:魚　津
宮城県
11:湯　倉
12:塩　釜
山形県
13:月　山
新潟県
57:戸　門
54:佐　藤
58:鶴ケ坂
14:板　山
15:大白川
栃木県
16:高原山
青森県
5:出来島
6:深　浦
52:折腰内
岩手県
8:雫　石
9:折　居
10:花　泉
北海道
1:白　滝
幌加沢
2:十勝三股
3:置　戸
4:赤井川
49:名　寄
50:近文台
51:滝　川
55:美　蔓
56:豊　泉
秋田県
7:男　鹿

図Ⅵ－２　黒曜石の原産地

# 表Ⅵ－2　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

| 原産地 | 原石群名 | 分析個数 | Ca／K 又±σ | Ti／K 又±σ | Mn／Zr 又±σ | Fe／Zr 又±σ | Rb／Zr 又±σ | Sr／Zr 又±σ | Y／Zr 又±σ | Nb／Zr 又±σ | Al／K 又±σ | Si／K 又±σ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 名寄第一 | 114 | 0.478±0.011 | 0.121±0.005 | 0.035±0.007 | 2.011±0.063 | 0.614±0.032 | 0.574±0.022 | 0.120±0.017 | 0.024±0.016 | 0.033±0.002 | 0.451±0.010 |
| | 〃　第二 | 12 | 0.315±0.011 | 0.106±0.003 | 0.023±0.005 | 1.796±0.070 | 0.692±0.043 | 0.264±0.017 | 0.293±0.018 | 0.039±0.020 | 0.029±0.002 | 0.401±0.010 |
| | 白滝第一 | 130 | 0.173±0.014 | 0.061±0.003 | 0.079±0.013 | 2.714±0.142 | 1.340±0.059 | 0.283±0.019 | 0.341±0.030 | 0.073±0.026 | 0.028±0.002 | 0.374±0.010 |
| | 幌加沢 | 23 | 0.139±0.009 | 0.023±0.001 | 0.099±0.015 | 2.975±0.102 | 1.794±0.077 | 0.104±0.010 | 0.470±0.037 | 0.103±0.027 | 0.027±0.002 | 0.369±0.007 |
| | 白滝第二 | 27 | 0.138±0.004 | 0.021±0.002 | 0.102±0.015 | 3.049±0.181 | 1.855±0.088 | 0.097±0.016 | 0.492±0.039 | 0.107±0.019 | 0.027±0.002 | 0.368±0.006 |
| | 近文台第一 | 30 | 0.819±0.013 | 0.165±0.006 | 0.081±0.010 | 3.266±0.117 | 0.604±0.031 | 0.941±0.030 | 0.165±0.020 | 0.039±0.016 | 0.039±0.002 | 0.457±0.008 |
| | 〃　第二 | 107 | 0.517±0.011 | 0.099±0.005 | 0.067±0.090 | 2.773±0.097 | 0.812±0.037 | 0.818±0.034 | 0.197±0.024 | 0.041±0.019 | 0.035±0.002 | 0.442±0.009 |
| | 〃　第三 | 17 | 0.514±0.012 | 0.098±0.005 | 0.066±0.014 | 2.765±0.125 | 0.814±0.068 | 0.815±0.042 | 0.199±0.039 | 0.078±0.008 | 0.034±0.002 | 0.443±0.011 |
| | 滝川 | 21 | 0.257±0.012 | 0.122±0.005 | 0.075±0.008 | 1.609±0.081 | 1.016±0.043 | 0.460±0.020 | 0.233±0.033 | 0.043±0.017 | 0.027±0.002 | 0.385±0.008 |
| | 置戸 | 65 | 0.326±0.008 | 0.128±0.005 | 0.045±0.008 | 1.813±0.062 | 0.824±0.034 | 0.454±0.020 | 0.179±0.023 | 0.044±0.020 | 0.030±0.002 | 0.412±0.010 |
| | 十勝三股 | 60 | 0.256±0.018 | 0.074±0.005 | 0.068±0.010 | 2.281±0.087 | 1.097±0.055 | 0.434±0.023 | 0.334±0.029 | 0.064±0.025 | 0.029±0.002 | 0.396±0.013 |
| | 美蔓第一 | 41 | 0.499±0.020 | 0.124±0.007 | 0.052±0.010 | 2.635±0.181 | 0.802±0.061 | 0.707±0.044 | 0.199±0.029 | 0.039±0.023 | 0.033±0.002 | 0.442±0.015 |
| | 〃　第二 | 28 | 0.593±0.036 | 0.144±0.012 | 0.056±0.010 | 3.028±0.251 | 0.762±0.040 | 0.764±0.051 | 0.197±0.026 | 0.038±0.022 | 0.034±0.002 | 0.449±0.009 |
| | 赤井川 | 50 | 0.254±0.029 | 0.070±0.004 | 0.086±0.010 | 2.213±0.104 | 0.969±0.060 | 0.428±0.021 | 0.249±0.024 | 0.058±0.023 | 0.027±0.002 | 0.371±0.009 |
| | 豊泉 | 75 | 0.473±0.019 | 0.148±0.007 | 0.060±0.015 | 1.764±0.072 | 0.438±0.027 | 0.607±0.028 | 0.157±0.020 | 0.025±0.017 | 0.032±0.002 | 0.469±0.013 |
| 青森県 | 折腰内 | 35 | 0.190±0.015 | 0.075±0.003 | 0.040±0.008 | 1.575±0.066 | 1.241±0.046 | 0.318±0.014 | 0.141±0.033 | 0.076±0.021 | 0.024±0.002 | 0.348±0.010 |
| | 出来島 | 27 | 0.346±0.022 | 0.132±0.007 | 0.231±0.019 | 2.268±0.085 | 0.865±0.044 | 1.106±0.056 | 0.399±0.038 | 0.179±0.031 | 0.038±0.003 | 0.499±0.013 |
| | 深浦 | 36 | 0.080±0.008 | 0.097±0.011 | 0.013±0.002 | 0.697±0.021 | 0.128±0.008 | 0.002±0.002 | 0.064±0.007 | 0.035±0.004 | 0.026±0.002 | 0.379±0.010 |
| | 戸門第一 | 28 | 0.250±0.024 | 0.069±0.003 | 0.068±0.012 | 2.358±0.257 | 1.168±0.062 | 0.521±0.063 | 0.277±0.065 | 0.076±0.025 | 0.026±0.002 | 0.362±0.015 |
| | 〃　第二 | 28 | 0.084±0.006 | 0.104±0.004 | 0.013±0.002 | 0.691±0.021 | 0.123±0.006 | 0.002±0.002 | 0.069±0.010 | 0.033±0.005 | 0.025±0.002 | 0.369±0.007 |
| | 鶴ケ坂 | 33 | 0.344±0.017 | 0.132±0.007 | 0.232±0.023 | 2.261±0.143 | 0.861±0.052 | 1.081±0.060 | 0.390±0.039 | 0.186±0.037 | 0.037±0.002 | 0.496±0.018 |
| 秋田県 | 男鹿 | 43 | 0.293±0.007 | 0.087±0.004 | 0.223±0.015 | 1.637±0.072 | 1.512±0.082 | 0.920±0.054 | 0.287±0.042 | 0.125±0.031 | 0.027±0.002 | 0.362±0.006 |
| 岩手県 | 釜石 | 25 | 0.636±0.033 | 0.187±0.012 | 0.052±0.007 | 1.764±0.061 | 0.305±0.016 | 0.431±0.021 | 0.209±0.016 | 0.045±0.014 | 0.041±0.003 | 0.594±0.014 |
| | 折原 | 22 | 0.615±0.055 | 0.180±0.016 | 0.058±0.007 | 1.751±0.062 | 0.306±0.033 | 0.421±0.051 | 0.228±0.079 | 0.045±0.011 | 0.041±0.005 | 0.594±0.055 |
| | 花泉 | 30 | 0.596±0.046 | 0.177±0.018 | 0.056±0.008 | 1.742±0.072 | 0.314±0.019 | 0.420±0.025 | 0.220±0.016 | 0.044±0.013 | 0.041±0.003 | 0.586±0.030 |
| 宮城県 | 湯倉 | 21 | 2.174±0.068 | 0.349±0.017 | 0.057±0.005 | 2.544±0.149 | 0.116±0.009 | 0.658±0.024 | 0.138±0.015 | 0.020±0.013 | 0.073±0.003 | 0.956±0.040 |
| | 塩釜 | 37 | 4.828±0.395 | 1.630±0.104 | 0.178±0.017 | 11.362±1.150 | 0.168±0.018 | 1.298±0.063 | 0.155±0.016 | 0.037±0.018 | 0.077±0.002 | 0.720±0.032 |
| 山形県 | 月山 | 44 | 0.285±0.021 | 0.123±0.007 | 0.182±0.016 | 1.906±0.096 | 0.966±0.069 | 1.022±0.071 | 0.276±0.036 | 0.119±0.033 | 0.033±0.002 | 0.443±0.014 |
| 新潟県 | 佐渡第一 | 34 | 0.228±0.013 | 0.078±0.006 | 0.020±0.005 | 1.492±0.079 | 0.821±0.047 | 0.288±0.018 | 0.142±0.018 | 0.049±0.017 | 0.024±0.004 | 0.338±0.013 |
| | 〃　第二 | 12 | 0.263±0.032 | 0.097±0.018 | 0.020±0.006 | 1.501±0.053 | 0.717±0.106 | 0.326±0.029 | 0.091±0.022 | 0.046±0.015 | 0.026±0.002 | 0.338±0.009 |
| | 板山 | 44 | 0.232±0.011 | 0.068±0.003 | 0.169±0.017 | 2.178±0.110 | 1.772±0.098 | 0.772±0.046 | 0.374±0.047 | 0.154±0.034 | 0.027±0.002 | 0.359±0.009 |
| | 大白川 | 22 | 0.569±0.012 | 0.142±0.007 | 0.033±0.005 | 1.608±0.049 | 0.261±0.012 | 0.332±0.011 | 0.150±0.015 | 0.033±0.011 | 0.036±0.003 | 0.491±0.014 |
| 栃木県 | 高原山 | 40 | 0.738±0.067 | 0.200±0.010 | 0.044±0.007 | 2.016±0.110 | 0.381±0.025 | 0.502±0.028 | 0.190±0.017 | 0.023±0.014 | 0.036±0.002 | 0.516±0.012 |
| 東京都 | 神津島第一 | 56 | 0.381±0.014 | 0.136±0.005 | 0.102±0.011 | 1.729±0.079 | 0.471±0.027 | 0.689±0.037 | 0.247±0.021 | 0.090±0.026 | 0.036±0.003 | 0.504±0.012 |
| | 〃　第二 | 23 | 0.317±0.016 | 0.120±0.008 | 0.114±0.014 | 1.833±0.069 | 0.615±0.039 | 0.656±0.050 | 0.303±0.034 | 0.107±0.026 | 0.033±0.002 | 0.471±0.009 |
| 神奈川県 | 箱崎・笛塚 | 30 | 6.765±0.254 | 2.219±0.057 | 0.228±0.019 | 9.282±0.622 | 0.048±0.017 | 1.757±0.061 | 0.252±0.017 | 0.025±0.019 | 0.140±0.008 | 1.528±0.046 |
| | 〃・畑宿 | 41 | 2.056±0.064 | 0.669±0.019 | 0.076±0.007 | 2.912±0.104 | 0.062±0.007 | 0.680±0.029 | 0.202±0.011 | 0.011±0.010 | 0.080±0.005 | 1.126±0.031 |
| | 鍛冶屋 | 31 | 1.663±0.071 | 0.381±0.019 | 0.056±0.007 | 2.139±0.097 | 0.073±0.008 | 0.629±0.025 | 0.154±0.009 | 0.011±0.009 | 0.067±0.005 | 0.904±0.020 |
| 静岡県 | 上多賀 | 31 | 1.329±0.078 | 0.294±0.018 | 0.041±0.006 | 1.697±0.068 | 0.087±0.009 | 0.551±0.023 | 0.138±0.011 | 0.010±0.009 | 0.059±0.004 | 0.856±0.018 |
| | 柏峠西 | 35 | 1.213±0.164 | 0.314±.0028 | 0.031±0.004 | 1.699±0.167 | 0.113±0.007 | 0.391±0.022 | 0.143±0.007 | 0.009±0.009 | 0.047±0.004 | 0.663±0.020 |
| 長野県 | 霧ケ峰 | 171 | 0.138±0.009 | 0.066±0.003 | 0.104±0.011 | 1.339±0.057 | 1.076±0.047 | 0.360±0.023 | 0.275±0.030 | 0.112±0.023 | 0.026±0.002 | 0.361±0.013 |
| | 和田峠第一 | 143 | 0.167±0.028 | 0.049±0.008 | 0.117±0.011 | 1.346±0.085 | 1.853±0.124 | 0.112±0.056 | 0.409±0.048 | 0.139±0.026 | 0.025±0.002 | 0.355±0.016 |
| | 〃　第二 | 17 | 0.146±0.003 | 0.032±0.003 | 0.151±0.010 | 1.461±0.039 | 2.449±0.135 | 0.036±0.012 | 0.517±0.044 | 0.186±0.025 | 0.027±0.002 | 0.368±0.007 |
| | 〃　第三 | 62 | 0.248±0.048 | 0.064±0.012 | 0.114±0.011 | 1.520±0.182 | 1.673±0.140 | 0.274±0.104 | 0.374±0.048 | 0.122±0.024 | 0.025±0.003 | 0.348±0.017 |
| | 〃　第四 | 37 | 0.144±0.017 | 0.063±0.004 | 0.094±0.009 | 1.373±0.085 | 1.311±0.037 | 0.206±0.030 | 0.263±0.038 | 0.090±0.022 | 0.023±0.002 | 0.331±0.019 |
| | 〃　第五 | 47 | 0.176±0.019 | 0.075±0.010 | 0.073±0.011 | 1.282±0.086 | 1.053±0.196 | 0.275±0.058 | 0.184±0.042 | 0.066±0.023 | 0.021±0.002 | 0.306±0.013 |
| | 〃　第六 | 53 | 0.156±0.011 | 0.055±0.005 | 0.095±0.012 | 1.333±0.064 | 1.523±0.093 | 0.134±0.031 | 0.279±0.039 | 0.010±0.017 | 0.021±0.002 | 0.313±0.012 |
| | 鷹山・和田 | 53 | 0.138±0.004 | 0.042±0.002 | 0.123±0.010 | 1.259±0.041 | 1.978±0.067 | 0.045±0.010 | 0.442±0.039 | 0.142±0.022 | 0.026±0.002 | 0.360±0.010 |
| | 男女倉 | 119 | 0.223±0.026 | 0.102±0.010 | 0.059±0.008 | 1.169±0.081 | 0.701±0.109 | 0.409±0.052 | 0.128±0.024 | 0.053±0.017 | 0.026±0.002 | 0.354±0.008 |
| | 麦草峠 | 68 | 0.263±0.020 | 0.138±0.011 | 0.049±0.008 | 1.403±0.069 | 0.532±0.048 | 0.764±0.031 | 0.101±0.018 | 0.056±0.016 | 0.029±0.002 | 0.401±0.017 |
| 富山県 | 魚津 | 12 | 0.278±0.013 | 0.065±0.004 | 0.064±0.008 | 2.084±0.095 | 0.906±0.057 | 0.641±0.046 | 0.194±0.014 | 0.102±0.021 | 0.027±0.002 | 0.372±0.009 |
| 石川県 | 比那 | 17 | 0.370±0.014 | 0.087±0.004 | 0.060±0.009 | 2.699±0.167 | 0.639±0.028 | 0.534±0.023 | 0.172±0.028 | 0.052±0.018 | 0.032±0.002 | 0.396±0.017 |
| 福井県 | 安島 | 21 | 0.407±0.007 | 0.123±0.005 | 0.038±0.006 | 1.628±0.051 | 0.643±0.041 | 0.675±0.030 | 0.113±0.020 | 0.061±0.016 | 0.032±0.002 | 0.450±0.010 |
| | 三里山 | 21 | 0.350±0.018 | 0.123±0.008 | 0.036±0.006 | 1.561±0.081 | 0.608±0.031 | 0.798±0.039 | 0.069±0.020 | 0.062±0.013 | 0.028±0.002 | 0.381±0.008 |
| 島根県 | 加茂 | 20 | 0.154±0.008 | 0.092±0.009 | 0.018±0.003 | 0.943±0.029 | 0.289±0.016 | 0.006±0.003 | 0.047±0.010 | 0.144±0.019 | 0.022±0.001 | 0.269±0.017 |
| | 津井 | 30 | 0.150±0.008 | 0.100±0.003 | 0.015±0.002 | 0.919±0.033 | 0.305±0.010 | 0.013±0.003 | 0.046±0.013 | 0.132±0.007 | 0.022±0.001 | 0.258±0.006 |
| | 久見 | 31 | 0.142±0.004 | 0.061±0.002 | 0.020±0.003 | 0.981±0.048 | 0.398±0.013 | 0.001±0.002 | 0.093±0.015 | 0.229±0.010 | 0.023±0.002 | 0.317±0.006 |
| 大分県 | 観音崎 | 41 | 0.126±0.017 | 0.045±0.003 | 0.428±0.057 | 6.897±0.806 | 1.829±0.220 | 1.572±0.180 | 0.325±0.088 | 0.622±0.099 | 0.035±0.002 | 0.418±0.011 |
| | 両瀬第一 | 33 | 0.221±0.021 | 0.045±0.003 | 0.450±0.061 | 7.248±0.668 | 1.917±0.194 | 1.660±0.173 | 0.355±0.057 | 0.669±0.105 | 0.035±0.002 | 0.419±0.009 |
| | 〃　第二 | 32 | 0.634±0.047 | 0.140±0.013 | 0.194±0.026 | 4.399±0.322 | 0.614±0.077 | 3.162±0.189 | 0.144±0.031 | 0.240±0.041 | 0.038±0.002 | 0.451±0.011 |
| | 〃　第三 | 10 | 1.013±0.140 | 0.211±0.026 | 0.126±0.016 | 3.491±0.231 | 0.305±0.057 | 4.002±0.174 | 0.109±0.021 | 0.137±0.028 | 0.040±0.004 | 0.471±0.017 |
| | オイ崎 | 29 | 1.074±0.110 | 0.224±0.024 | 0.122±0.012 | 3.460±0.301 | 0.286±0.048 | 4.010±0.197 | 0.101±0.022 | 0.133±0.025 | 0.040±0.003 | 0.469±0.014 |
| | 椿穂 | 25 | 0.653±0.066 | 0.141±0.016 | 0.189±0.030 | 4.398±0.425 | 0.605±0.096 | 3.234±0.264 | 0.151±0.033 | 0.245±0.050 | 0.037±0.002 | 0.448±0.015 |
| | 塚瀬 | 30 | 0.313±0.023 | 0.127±0.009 | 0.065±0.010 | 1.489±0.124 | 0.600±0.051 | 0.686±0.082 | 0.175±0.018 | 0.102±0.020 | 0.028±0.002 | 0.371±0.009 |
| 佐賀県 | 腰岳 | 26 | 0.124±0.015 | 0.029±0.001 | 0.076±0.012 | 2.694±0.110 | 1.686±0.085 | 0.441±0.030 | 0.293±0.039 | 0.257±0.029 | 0.027±0.002 | 0.356±0.008 |
| 長崎県 | 久喜ノ辻 | 37 | 0.165±0.012 | 0.066±0.002 | 0.034±0.003 | 1.197±0.030 | 0.403±0.012 | 0.005±0.004 | 0.114±0.012 | 0.326±0.008 | 0.024±0.002 | 0.294±0.008 |
| | 君ケ浦 | 28 | 0.161±0.011 | 0.064±0.002 | 0.034±0.003 | 1.209±0.032 | 0.405±0.008 | 0.005±0.004 | 0.119±0.016 | 0.322±0.010 | 0.025±0.002 | 0.294±0.006 |
| | 角川 | 29 | 1.138±0.010 | 0.037±0.002 | 0.056±0.007 | 1.741±0.083 | 1.880±0.076 | 0.012±0.012 | 0.303±0.038 | 0.652±0.036 | 0.026±0.002 | 0.358±0.010 |
| | 松浦第一 | 23 | 0.218±0.010 | 0.029±0.002 | 0.085±0.013 | 2.692±0.125 | 1.674±0.064 | 0.439±0.027 | 0.284±0.047 | 0.266±0.028 | 0.027±0.002 | 0.359±0.012 |
| | 〃　第二 | 17 | 0.176±0.016 | 0.030±0.004 | 0.062±0.022 | 2.364±0.389 | 1.607±0.245 | 0.308±0.074 | 0.277±0.056 | 0.210±0.050 | 0.026±0.002 | 0.361±0.010 |
| | 〃　第三 | 16 | 0.245±0.019 | 0.060±0.006 | 0.045±0.012 | 1.975±0.240 | 0.878±0.099 | 0.421±0.081 | 0.130±0.030 | 0.145±0.023 | 0.026±0.002 | 0.358±0.013 |
| | 〃　第四 | 22 | 0.287±0.019 | 0.067±0.004 | 0.044±0.007 | 1.906±0.106 | 0.765±0.074 | 0.484±0.034 | 0.115±0.023 | 0.117±0.018 | 0.028±0.001 | 0.367±0.007 |
| | 淀姫 | 44 | 0.329±0.014 | 0.080±0.005 | 0.042±0.007 | 1.804±0.065 | 0.539±0.022 | 0.504±0.035 | 0.077±0.018 | 0.117±0.014 | 0.029±0.002 | 0.374±0.009 |
| | 中町第一 | 25 | 0.248±0.017 | 0.058±0.008 | 0.057±0.007 | 1.884±0.085 | 0.832±0.092 | 0.403±0.026 | 0.112±0.021 | 0.152±0.017 | 0.026±0.002 | 0.363±0.007 |
| | 〃　第二 | 17 | 0.327±0.030 | 0.080±0.017 | 0.045±0.007 | 1.832±0.074 | 0.653±0.088 | 0.483±0.030 | 0.090±0.030 | 0.093±0.023 | 0.027±0.002 | 0.358±0.012 |
| | 古里第一 | 40 | 0.192±0.020 | 0.027±0.003 | 0.080±0.016 | 2.699±0.125 | 1.780±0.164 | 0.413±0.065 | 0.312±0.056 | 0.259±0.040 | 0.027±0.002 | 0.358±0.008 |
| | 〃　第二 | 22 | 0.414±0.012 | 0.073±0.006 | 0.102±0.015 | 2.898±0.204 | 1.221±0.094 | 1.951±0.124 | 0.133±0.047 | 0.261±0.034 | 0.031±0.002 | 0.383±0.010 |
| | 〃　第三 | 19 | 0.257±0.035 | 0.062±0.009 | 0.054±0.009 | 1.939±0.131 | 0.812±0.113 | 0.436±0.052 | 0.101±0.029 | 0.145±0.037 | 0.028±0.002 | 0.364±0.011 |
| | 大崎 | 25 | 0.161±0.011 | 0.051±0.002 | 0.037±0.006 | 1.718±0.056 | 0.948±0.030 | 0.179±0.018 | 0.191±0.026 | 0.137±0.019 | 0.024±0.002 | 0.340±0.006 |
| 熊本県 | 冠ケ岳 | 21 | 0.261±0.012 | 0.211±0.008 | 0.032±0.003 | 0.780±0.038 | 0.324±0.011 | 0.279±0.017 | 0.064±0.011 | 0.037±0.006 | 0.025±0.002 | 0.277±0.009 |
| 鹿児島県 | 出水 | 22 | 0.272±0.014 | 0.139±0.006 | 0.020±0.005 | 1.165±0.050 | 0.699±0.027 | 0.414±0.021 | 0.102±0.019 | 0.041±0.013 | 0.023±0.001 | 0.319±0.006 |
| | 竜ケ水 | 28 | 0.514±0.032 | 0.167±0.008 | 0.063±0.009 | 1.524±0.079 | 0.619±0.079 | 0.719±0.054 | 0.115±0.019 | 0.082±0.016 | 0.037±0.003 | 0.523±0.009 |
| | 長谷 | 30 | 0.553±0.032 | 0.137±0.006 | 0.065±0.010 | 1.815±0.062 | 0.644±0.028 | 0.553±0.029 | 0.146±0.021 | 0.066±0.020 | 0.037±0.003 | 0.524±0.012 |
| | JG－1 *) | 127 | 0.755±0.010 | 0.202±0.005 | 0.076±0.011 | 3.759±0.111 | 0.993±0.036 | 1.331±0.146 | 0.251±0.027 | 0.105±0.017 | 0.028±0.002 | 0.342±0.004 |

又：平均値、　σ：標準偏差値、　＊：ガラス質安山岩

a)：Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E.(1974).1974 fompilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodirite and JB-1 basalt. Geochemical Jounal 8 175-192.

表Ⅵ－３　中野A、中野B遺跡出土の黒曜石製遺物分析結果

| 試料番号 | 元素比 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ca／K | Ti／K | Mn／Zr | Fe／Zr | Rb／Zr | Sr／Zr | Y／Zr | Nb／Zr | Al／K | Si／K |
| 31656 | .246 | .071 | .096 | 2.347 | 1.047 | .464 | .266 | .035 | .026 | .348 |
| 31657 | .325 | .127 | .029 | 1.806 | .826 | .451 | .158 | .054 | .028 | .373 |
| 31658 | .3263 | .070 | .080 | 2.201 | .928 | .417 | .205 | .067 | .021 | .321 |
| 31659 | .262 | .069 | .081 | 2.193 | .999 | .441 | .264 | .049 | .022 | .315 |
| 31660 | .461 | .149 | .062 | 1.811 | .448 | .631 | .167 | .023 | .024 | .419 |
| 31661 | .260 | .070 | .075 | 2.339 | .968 | .465 | .263 | .000 | .023 | .324 |
| 31662 | .446 | .144 | .061 | 1.885 | .470 | .622 | .169 | .039 | .026 | .418 |
| 31663 | .451 | .147 | .058 | 1.604 | .414 | .563 | .152 | .042 | .029 | .421 |
| 31664 | .089 | .113 | .013 | .768 | .126 | .003 | .062 | .037 | .026 | .352 |
| 31666 | .255 | .070 | .091 | 2.425 | .926 | .459 | .275 | .000 | .023 | .340 |
| 31667 | .260 | .070 | .072 | 2.270 | .936 | .449 | .265 | .000 | .024 | .326 |
| 31668 | .474 | .144 | .067 | 1.824 | .408 | .561 | .116 | .000 | .030 | .429 |
| 31669 | .468 | .148 | .062 | 1.797 | .465 | .589 | .143 | .023 | .029 | .436 |
| 31670 | .257 | .075 | .086 | 2.182 | .956 | .414 | .237 | .049 | .023 | .329 |
| 31671 | .246 | .072 | .090 | 2.432 | .986 | .424 | .236 | .028 | .023 | .340 |
| 31672 | .165 | .069 | .082 | 2.941 | 1.353 | .291 | .412 | .064 | .025 | .346 |
| 31673 | .272 | .074 | .085 | 2.188 | .937 | .451 | .231 | .000 | .020 | .321 |
| 31674 | .463 | .146 | .046 | 1.732 | .462 | .620 | .120 | .027 | .031 | .423 |
| 31675 | .133 | .037 | .073 | 2.200 | 1.095 | .411 | .296 | .053 | .011 | .176 |
| 31676 | .261 | .067 | .071 | 2.423 | 1.011 | .445 | .303 | .053 | .024 | .328 |
| 31677 | .224 | .058 | .081 | 2.214 | .988 | .439 | .276 | .033 | .019 | .286 |
| 31678 | .265 | .068 | .075 | 2.184 | .947 | .404 | .253 | .000 | .023 | .319 |
| 31679 | .240 | .078 | .062 | 2.385 | 1.181 | .412 | .310 | .030 | .028 | .359 |
| 31680 | .262 | .072 | .100 | 2.455 | 1.055 | .470 | .230 | .042 | .023 | .329 |
| 31682 | .267 | .075 | .099 | 2.457 | 1.023 | .462 | .241 | .059 | .022 | .336 |

表Ⅵ－４　中野A、中野B遺跡出土の黒曜石製石器、石片の原材産地推定結果

| 試料番号 | 名称・位置・層位 | 時代(伴出土器) | 原石産地(確率) | 判定 | 遺物品名 | 備考 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 31656 | 1. N-7-58 Ⅲ | | 赤井川（91%）戸門第１（16%） | 赤井川 | 両面調整石器 | 中野A | |
| 31657 | 2. N-7-28 Ⅲ | | 置戸（71%） | 置戸 | 石鏃 | 〃 | |
| 31658 | 3. N-7-53 Ⅲ | | 赤井川（80%） | 赤井川 | 石鏃 | 〃 | |
| 31659 | 4. H-3 覆土2層 | | 赤井川(97%)戸門第１(10%)十勝三股（７%） | 赤井川 | 腹面調整石器 | 〃 | |
| 31660 | 5. H-8 床面 | | 豊泉（99%） | 豊泉 | 加工痕のある剥片 | 〃 | |
| 31661 | 6. N-8-06 Ⅲ | | 赤井川（５%）戸門第１（３%） | 赤井川 | 使用痕 〃 | 〃 | |
| 31662 | 7. H-37 覆土1層 | | 豊泉（72%） | 豊泉 | 剥片 | 〃 | |
| 31663 | 8. H-37 〃 | | 〃 （56%） | 豊泉 | 剥片 | 〃 | |
| 31664 | 9. H-37 〃 | | 深浦（17%）戸門第２（26%） | 深浦 | 剥片 | 〃 | |
| 31666 | 10. H-38 覆土 | | 赤井川（１%）戸門第１（１%） | 赤井川 | 剥片 | 〃 | |
| 31667 | 11. 29-29 Ⅲ | | 〃 （10%） 〃 （１%） | 赤井川 | 石鏃 | 中野B | |
| 31668 | 12. 30-30 Ⅲ | | 豊泉（９%） | 豊泉 | 石鏃 | 〃 | |
| 31669 | 13. 30-32 Ⅰ | | 〃 （82%） | 豊泉 | 石鏃 | 〃 | |
| 31670 | 14. 33-32 Ⅲ | | 赤井川（88%）戸門第１（２%） | 赤井川 | 石製品 | 〃 | |
| 31671 | 15. 34-38 Ⅲ | | 〃 （13%） 〃 （２%） | 赤井川 | 石鏃 | 〃 | |
| 31672 | 16. 35-37 Ⅲ | | 白滝第１（４%） | 白滝 | 石鏃 | 〃 | |
| 31673 | 17. 36-34 Ⅲ | | 赤井川（５%） | 赤井川 | 石鏃 | 〃 | |
| 31674 | 18. 36-34 Ⅲ | | 豊泉（61%） | 豊泉 | 剥片 | 〃 | |
| 31675 | 19. 36-37 Ⅲ | | | 不明 | 石鏃 | 〃 | 風化激しい |
| 31676 | 20. 38-30 Ⅲ | | 戸門第１（17%）赤井川（５%） | 赤井川 | 石鏃 | 〃 | |
| 31677 | 21. H-22 覆土 | | 赤井川（４%） | 赤井川 | 石鏃 | 〃 | |
| 31678 | 22. H-22 〃 | | 〃 （40%） | 赤井川 | 使用痕のある剥片 | 〃 | |
| 31679 | 23. H-23 床面直上 | | 十勝三股（37%）戸門第１（１%） | 十勝 | 石鏃 | 〃 | |
| 31680 | 24. H-24 覆土 | | 赤井川（４%） 〃 （５%） | 赤井川 | 石鏃 | 〃 | |
| 31682 | 25. H-27 〃 | | 〃 （27%） 〃 （３%） | 赤井川 | 剥片 | 〃 | |

## 4　函館市中野Ａ遺跡土壌および焼土（？）の植物珪酸体分析

近藤　錬三（帯広畜産大学土地資源利用学）

銭亀沢層火山灰と称する赤褐色土（Ｅ－Ｗ セクション、Ｐ．Ｄ．３：Ｈ－29試料）が焼土か否かを植物珪酸体分析により検討したので、その結果を報告する。

### １．供試土壌

分析に供した土壌及び焼土は、中野Ａ遺跡の埋没腐植層（基本土壌模式図のⅡ、Ⅲａ層に相当）と焼土（基本土層模式図のＰ．Ｄ．３層に相当）の５試料である。（表Ⅵ－５参照）。

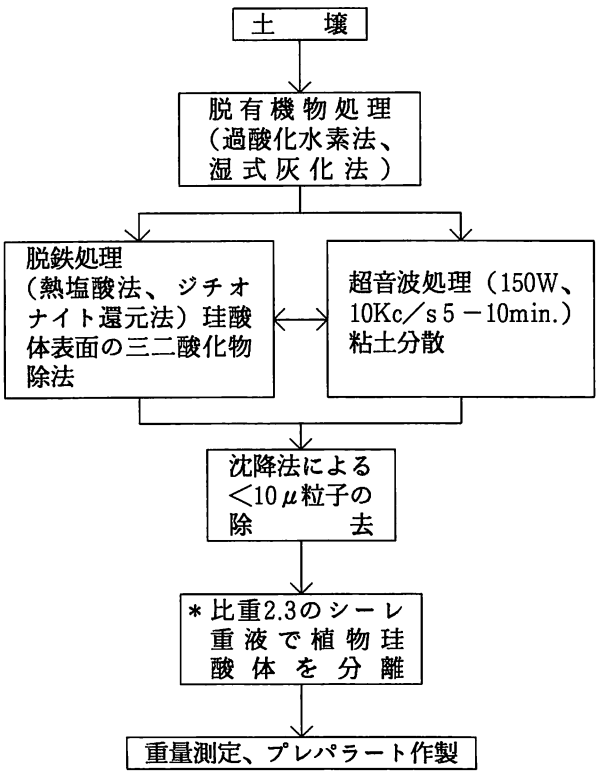
### ２．植物珪酸体の分離、定量法

土壌および焼土から植物珪酸体を分離する方法の概略を図Ⅵ－３に示した：

風乾細土（＜2.0㎜）10ｇを500mlのトールビーカーにとり、過酸化水素、熱塩酸、および超音波処理後、フルイと沈降法によって５－200μｍの粒経画分を得た。この画分試料0.5ｇ-1.0ｇをマルトー・クイックセパレター用遠心管にとり、比重2.3のナトリュウム・ポリタングステイト重液20mlとよく混合した。これを1500－2000回転で約５分間遠心分離した後、遠心管上の浮上物を前もって用意したろ紙に移した。この操作は、浮上物が肉眼で認められなくなるまでくり返した（ほぼ３回）。ろ紙上の植物珪酸体を温水でよく洗浄した後、秤量管に移し、105℃で乾燥した。この重量を測定し植物珪酸体量とした。植物珪酸の形態別組成は、上記の植物珪酸体試料の少量をスライドグラス上にとり、クローブ油で固定した後、佐瀬・近藤（1974）、近藤・隅田（1978・1981）の分類に準じ、光学顕微鏡で同定した。

### ３．植物珪酸体の形態的特徴

供試試料から分離した植物珪酸体は、樹木起源珪酸体をほとんど含まず、大部分がイネ科草本起源であったので、それらの形態別組成を中心に記載し、Ⅰ）イネ科草本起源珪酸体、Ⅱ）シダ類起源珪酸体、Ⅲ）その他の珪酸体に区分した。




図Ⅵ－３　植物珪酸体の分離・定量法（近藤1986）
＊本分析では、ポリタングステイトを使用

イネ科草本起源珪酸体は、短細胞由来の小型珪酸体と機動細胞、プリッケルヘアー、長細胞などに由来する大型珪酸体に二大別した。さらに、小型珪酸体はタケ型、キビ型、ヒゲシバ型、ウシノケグサ型、高円錐台形型、およびその他の短細胞珪酸体に細別した。また、ファン型はササ、非ササ、ヨシの３亜型、ポイント型はササ、非ササの２亜型にそれぞれ細別した。

その他の珪酸体の中には、植物珪酸体の破片、風化物、樹木起源、カヤツリグサ科起源珪酸体および起源不明の珪酸体が含まれている。

ａ）タケ型（写真図版Ⅳ－２：Ａ～Ｄ）

タケ亜科（タケ類、ササ類）および一部のダンチク亜科の葉身表皮細胞に特徴的に観察される長座鞍珪酸体である。供試試料のタケ型はすべてササ類起源である。

ｂ）キビ型（写真図版Ⅳ－２：Ｅ～Ｇ）

暖地型イネ科草本であるキビ亜科（ススキ、エノコログサ、ヒエ、トウモロコシなど）および一部のダンチク亜科（ダンチク、ヌマガヤなど）の葉身表皮細胞に特徴的に観察される亜鈴形、複合亜鈴形、および十字形珪酸体である。

ｃ）ウシノケグサ型（写真図版Ⅳ－２：Ｈ－Ｉ）

寒冷地型イネ科草本であるイチゴツナギ亜科（ウシノケグサ、ノガリヤス、ムギ類など）の葉身表皮細胞に特徴的に観察される矩形、楕円形、ボート状および星状形態の珪酸体である。

ｄ）ヒゲシバ型（写真図版Ⅳ－３：Ｊ～Ｋ）

シバ、ニワホコリなどのスズメガヤ亜科、ヨシ属およびタケ・ササ類の表皮細胞に特徴的に観察される短座鞍形（または、両刃の戦斧形）珪酸体である。

ｅ）高円錐台形型（写真図版Ⅳ－３：Ｌ）

一部のダンチク亜科に見られるが、日本のイネ科および土壌中での検出は稀である。ハワイやニュージーランドのダンチク亜科にみられ、スプール形とも言われている。

ｆ）その他の短細胞珪酸体

ａ）－ｅ）以外の短細胞珪酸体で、イチゴツナギ亜科、ダンチク亜科に多くみられる。これらは、主に低円錐台形およびその変形の比較的小型の珪酸体である。また、一部コルク細胞由来の珪酸体も含まれている。

ｇ）ファン型（写真図版Ⅳ－３：Ｍ～Ｒ）

イネ科草本の葉身表皮にのみ特徴的に観察される機動細胞由来の扇状（または、食パン状）形態の珪酸体である。ファン型珪酸体は、科、属、あるいは一部種レベルで形態的違いが認められる。試料中に検出されるファン型珪酸体はササ類（Ｍ、Ｎ）、キビ亜科、イチゴツナギ亜科の非ササ類（Ｏ～Ｑ）、およびヨシ属（Ｒ～Ｔ）に由来するものである。

ｈ）ポイント型（写真図版Ⅳ－４：Ｕ、Ｖ）

イネ科草本の葉身表皮のプリッケルヘアーに由来する矢尻状、またはかぎ状形態の珪酸体である。この種の珪酸体は、タケ亜科（Ｕ）およびイチゴツナギ亜科（Ｖ）に多く包含される。

ｉ）棒状型（写真図版Ⅳ－４：Ｘ）

イネ科草本の葉身表皮の長細胞に由来する棒状形態の珪酸体である。棒状型珪酸体は短細胞珪酸体と異なり、イネ科植物分類グループとさほど関係が認められない。

ｊ）シダ類起源珪酸体（写真図版Ⅳ－４：Ｙ）

多くのシダ類に検出され、表面に多数の小孔を有する棒状珪酸体である。

ｋ）その他の珪酸体

この種の珪酸体は、供給源が全く不明な珪酸体、カヤツリグサ科由来の珪酸体、樹木起源珪酸体（写真図版Ⅳ－４：Ｚ）および珪酸体の破片、あるいは風化物が含有される。

**４．植物珪酸体分析**

植物珪酸体量は、腐植層（13.91,9.52%）、Ｐ．Ｄ．３試料（8.29～18.29%）のいずれも極めて多い（表Ⅵ－５）。植物珪酸体の供給源は植物、とくに本試料の場合はイネ科植物であるので、腐植層で多く含有されることは当然である。しかし、Ｐ．Ｄ．３試料のように腐植を含まない赤褐色の土壌においても植物珪酸体が極めて多いことは不自然である。一般に植物珪酸体量と腐植量との間には正の関係がみられ（近藤・佐瀬、1986：佐瀬・近藤、1974）、Ｐ．Ｄ．３試料のように腐植量が少ないか、あるいは赤褐色の土壌では上述したような多量の植物珪酸体量を見出すことは稀である。したがって、そ

表Ⅳ－５　中野A遺跡土壌の植物珪酸体組成（%）

| 試料 | 植物珪酸体量 | タケ型 | キビ型 | ウシノケグサ型 | ヒゲシバ型 | 長円錐台形型 | 他の小型 | ファン型 | | | | ポイント型 | | | 棒状型 | シダ起原 | その他 | 読み取り総数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | ササ | 非ササ | ヨシ | 全 | ササ | 非ササ | 全 | | | | |
| Ⅱ層　① | 13.9 | 10.0 | 10.3 | 10.4 | 3.3 | 0.4 | 3.1 | 8.0 | 2.5 | | 10.5 | 4.6 | 4.4 | 9.0 | 32.8 | 3.7 | 6.5 | 1652 |
| P.D.3　② | 18.3 | 13.9 | 7.4 | 7.3 | 4.1 | 0.5 | 1.7 | 10.8 | 4.8 | 0.1 | 15.7 | 5.4 | 2.5 | 7.9 | 28.4 | 2.9 | 10.2 | 1027 |
| P.D.3　④ | 8.3 | 13.7 | 8.2 | 7.7 | 3.9 | 0.3 | 2.7 | 9.1 | 2.0 | 0.2 | 11.3 | 14.0 | 1.7 | 15.7 | 29.6 | 0.3 | 6.6 | 1405 |
| P.D.3 H－29 | 15.3 | 13.5 | 9.0 | 8.3 | 5.4 | 1.3 | 5.2 | 7.0 | 2.0 | 0.3 | 9.3 | 8.9 | 2.8 | 11.7 | 28.3 | 2.6 | 5.4 | 1542 |
| Ⅲａ層　③ | 9.5 | 19.7 | 7.4 | 3.6 | 6.4 | 0.7 | 3.7 | 10.5 | 5.3 | 0.3 | 16.2 | 6.8 | 5.5 | 12.3 | 18.7 | 1.1 | 10.3 | 1054 |

れら試料は、火山灰（土壌でいう母材）ではなく、元来腐植層であったが、何等かの原因でそれらが焼かれた焼土と考えるのが自然であろう。

P.D.3（H－29）の植物珪酸体の形態別組成（表－１）を見ると、イネ科植物分類群と関係のある短細胞珪酸の中では、タケ型がもっとも多く、ついでキビ型、ウシノケグサ型の順である。一方、大型細胞では、棒状型＞ポイント型＞ファン型の順に多い。ポイント型の内容を見るとササ属由来のササ亜型が圧倒的に多い。ファン型もポイント型と同様にササ亜型が多い。

以上のような植物珪酸体組成の特徴は、２、３の珪酸体の型に多少の違いがあるが、P.D.3試料のそれと大略変わらない。したがって、３試料は同じ焼土と見てさしつかえない。ただし、これらの試料は、直上の腐植層（Ⅱ層）に比べ、タケ型とヒゲシバ型の頻度が高く、キビ型、ウシノケグサ型および棒状型が少ない傾向にある。もし、これらの層と直上の腐植層（Ⅱ層）が、ほぼ同じ年代の土壌で、植生が類似していたとしたら、これらの焼土試料には人為的にササ属が添加された（燃料、その他）とも考えられる。しかし、下層（Ⅲａ層）の植物珪酸体組成を見ると、つぎのようにも解釈される。すなわち、Ⅲａ層の土壌生成時において遺跡地点周辺では、キビ亜科、イチゴツナギ亜科をともなうササ属優勢の植生であり、降雨時にはやや排水不良でヨシなども繁茂していたと推定される。その後、火山灰の降下により乾燥科が進み、ササ属からキビ亜科、イチゴツナギ亜科等の非ササ属イネ科草本優占の植生環境に漸次変化していった。したがって、焼土形成時はⅡ、Ⅲａ層の移行期に相当する層位とも考えられる。いずれにしても、P.D.3試料は焼土であることは確かであるが、腐植層（Ⅱ層）と同時代の焼土かどうかは供試した５点のみでは判断できない。遺跡周辺地域における詳しい植生環境を知るには、それら地域の未撹乱土壌断面および系統的土壌採取による遺跡土層の植物珪酸体分析の比較検討が必要である。

**参考文献**

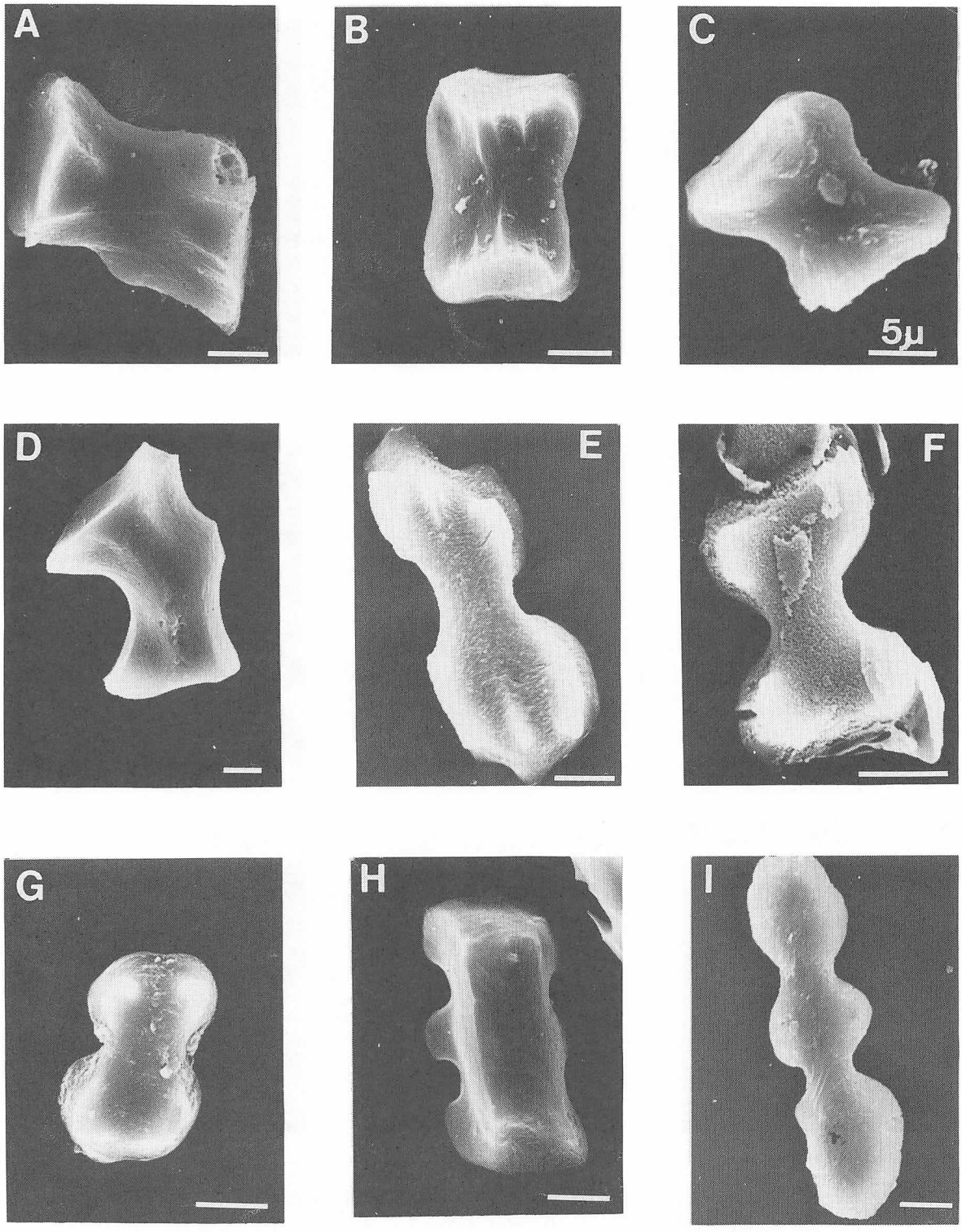
近藤錬三（1986）宮本遺跡の土壌および土器胎土の植物珪酸体分析、p.148-158 帯広市埋蔵文化財調査報告書『帯広市　宮本遺跡』帯広市教育委員会

近藤錬三・ピアスン友子（1981）樹木葉のケイ酸体に関する研究（第２報）双子葉被子植物樹木葉の植物珪酸体について、帯畜大研報、12 p.217-229

近藤錬三・隅田友子（1978）樹木葉のケイ酸体に関する研究（第１報）裸子植物および単子葉被子樹木葉の植物珪酸体について、土肥誌、49 p.138-144

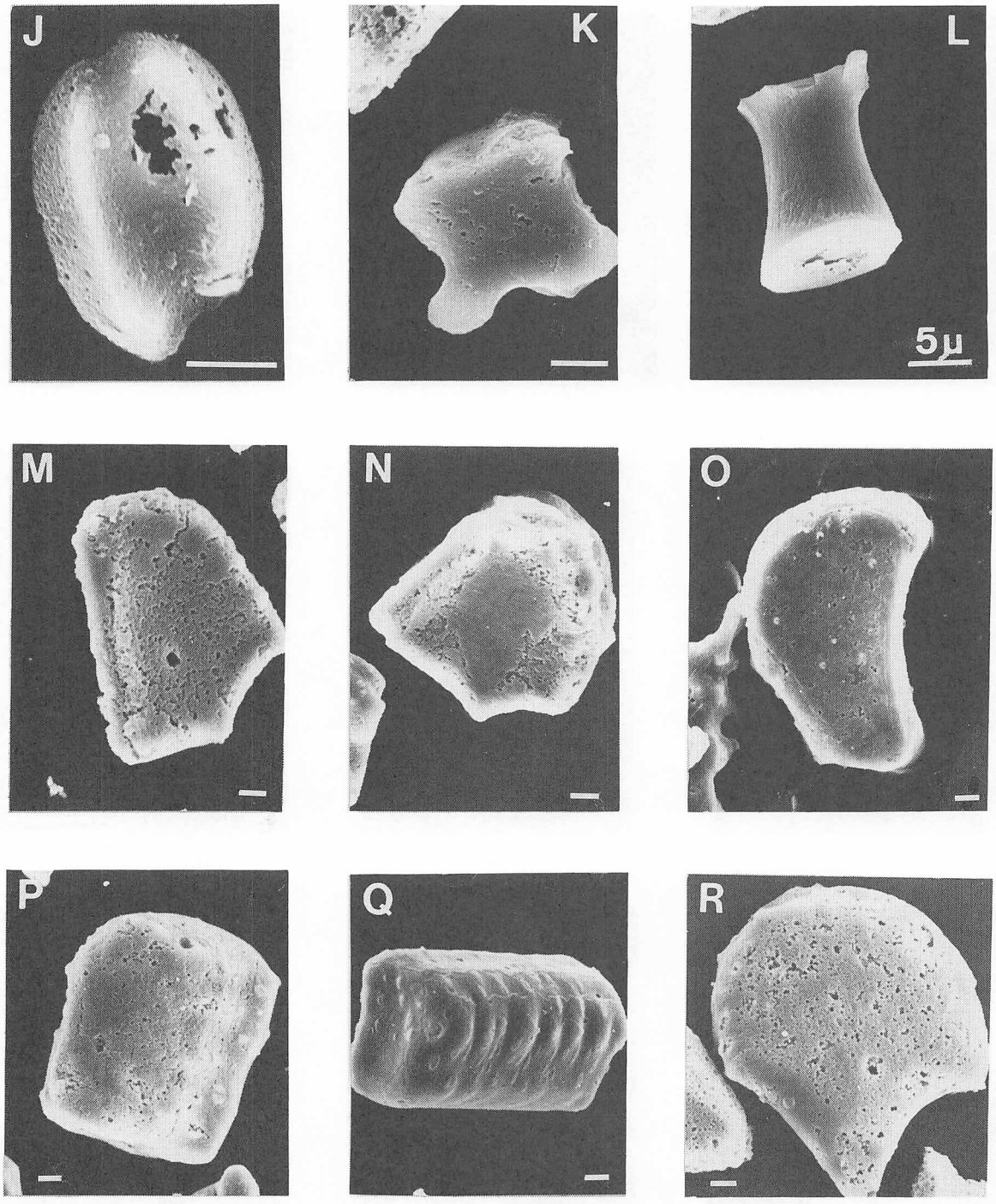
近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体、その特性と応用、第四紀研究、25（１）、p.31-63

佐瀬　隆・近藤錬三（1974）北海道の埋没火山灰土腐植酸中の植物珪酸体について、帯畜大研法、８、p.147-183



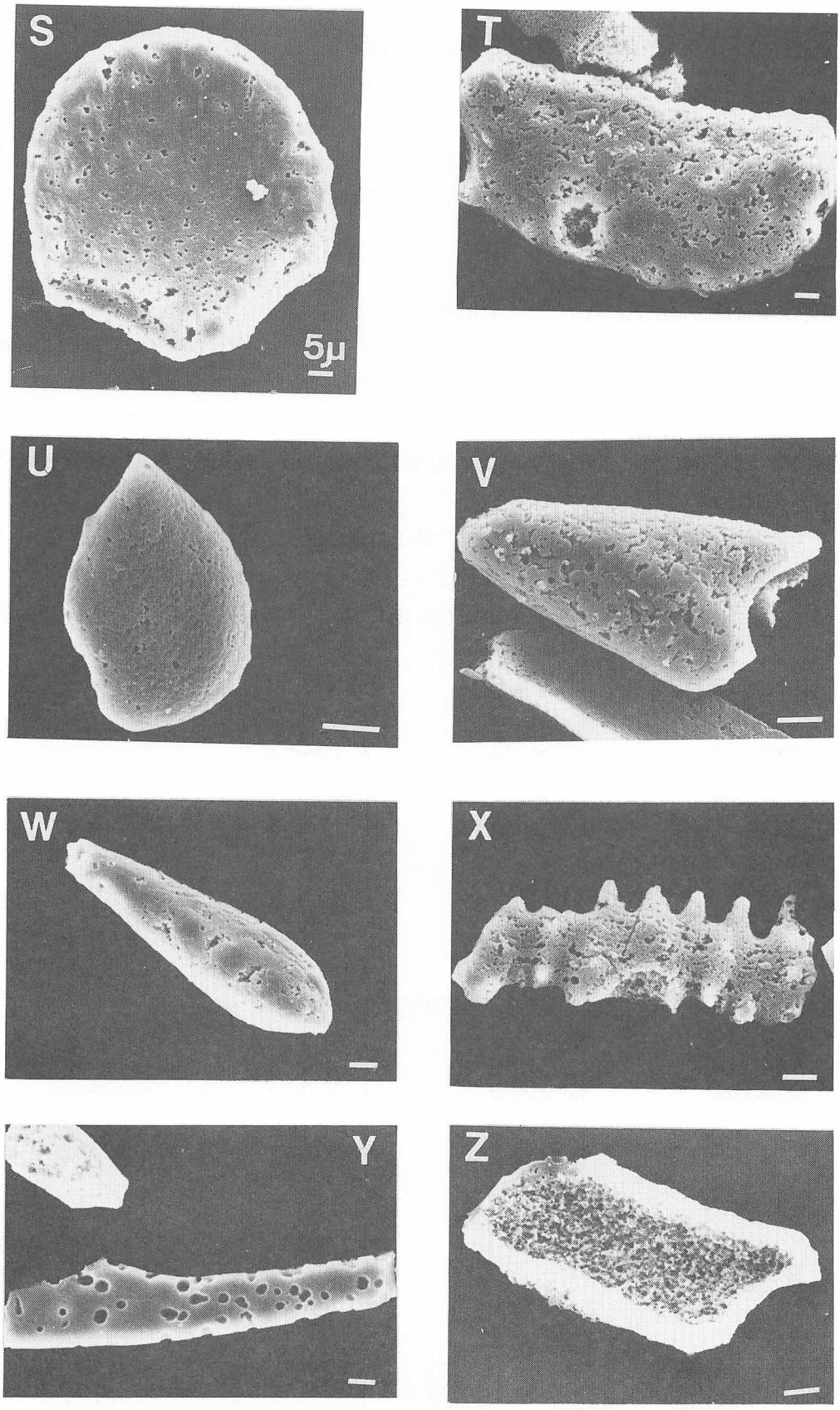

A－D：タケ型、E－G：キビ型、H－Ⅰ：ウシノケグサ型
A，B，C，E：P.D.3 H－29、D，F，H：Ⅱ層①、G，Ⅰ：Ⅲa層

図版Ⅵ－2　中野A遺跡土壌から分離した植物珪酸体の走査型電子顕微鏡写真（1）




Ｊ－Ｋ：ヒゲシバ型、Ｌ：高円錐台形型（スプール形）、Ｍ，Ｎ：ファン型（ササ亜型）
Ｏ－Ｑ：ファン型（非ササ亜型）、Ｒ：ファン型（ヨシ亜型）
Ｊ，Ｋ，Ｍ，Ｏ，Ｐ：P.D.3 Ｈ－29、Ｌ，Ｍ，Ｎ，Ｑ，Ｒ：Ⅱ層①

図版Ⅵ－３　中野A遺跡土壌から分離した植物珪酸体の走査型電子顕微鏡写真（2）




S，T：ファン型（ヨシ亜型）、U：ポイント型（ササ亜型）、V，W：ファン型（非ササ亜型）X：棒状型、Y：シダ類起源珪酸体、Z：広葉樹起源珪酸体
T，U，V，X：P.D.3 H－29、S，W，Y，Z：Ⅱ層①

図版Ⅵ－4　中野A遺跡土壌から分離した植物珪酸体の走査型電子顕微鏡写真（3）

## 5　中野Ａ遺跡の火山灰・土壌の鉱物組成と火山灰の対比

### (1)　はじめに

中野Ａ遺跡の完新世火山灰と土壌の鉱物組成について記載し、既知の火山灰との対比を行なった。火山ガラスの屈折率は次年度に報告する。火山灰と土壌の岩相・色調・産状はⅡ章－３で述べられている。

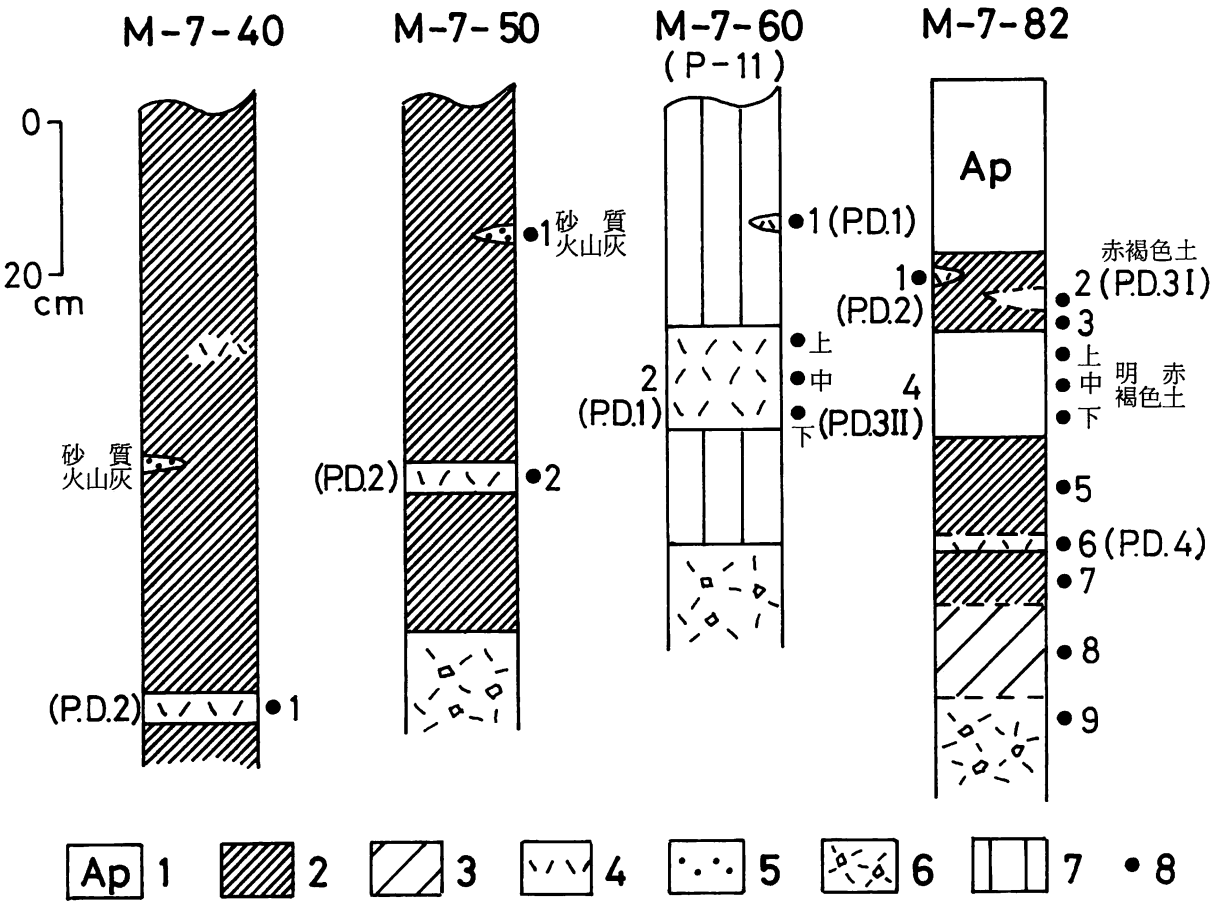
### (2)　試料と試料の処理方法及び火山ガラスの形態分類

図Ⅵ－４に火山灰と土壌試料の採取地点の地質柱状図を示す。試料は次の手順で処理し検鏡した。水洗→６％$H_2O_2$・10％ＨＣl処理→水洗→乾燥→篩い分け→粒径1/8－1/16㎜についてプレパラート作成→偏光顕微鏡下で200粒以上検鏡→各鉱物の粒数％を求め鉱物組成とする（軽石やプラントオパールを含む試料では、これらも含めて算出した。黒雲母については、黒雲母を除いた検鏡粒数に対する黒雲母の割合を求めた。）。

火山ガラスの形態は、主に泡壁がつくる模様と粒子全体の形状から分類した（写真図版Ⅵ－５・６）。

Ｆ型：気泡・泡壁が繊維状に細長く平行に伸びるもの。

Ｌ－Ｃ型：泡壁がridge をなして直線－曲線状に走るもの。いわゆるバブルウォール型の典型。




図Ⅵ－４　試料採取地点の地質柱状図

１：作土　２：黒色－赤黒色腐植土　３：黒褐色腐植土　４：シルト質降下火山灰

５：砂質降下火山灰　６：火砕流堆積物　７：遺構覆土　８：試料採取位置

表Ⅵ－６　火山灰・土壌の鉱物組成と火山ガラスの形態量比

（粒径1／8－1／16㎜、粒数%）

| 火山灰・土壌試料 | | 石英 | トリディマイト | アルカリ長石 | 斜長石 | 黒雲母 | 角閃石 | 斜方輝石 | 単斜輝石 | 不透明鉱物 | 火山ガラス | 軽石 | 風化鉱物粒 | プラントオパール | 火山ガラスの形態量比 | 検鏡粒数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| M－7－40 | 1（P.D.２） | | | 1.4 | | | | | | | 98.3 | | | 0.3 | L-C≫F>P>M>UT | 352 |
| M－7－60 | 1砂質火山灰 | 0.6 | 1.1 | | 34.1 | | 17.9 | 2.6 | 6.3 | 5.1 | 11.6 | 16.8 | 3.1 | 0.9 | L-C≫F,M,UT | 352 |
| | 2（P.D.２） | | | 2.2 | | | 0.3 | | | | 97.5 | | | | L-C≫F>M>P,UT | 367 |
| M－7－60 | 1（P.D.１） | | | | 17.0 | | 1.8 | 2.1 | 0.7 | 1.4 | 77.0 | | | | M≫L-C>>F,P,UT | 283 |
| | 2上(P.D.１) | | | | 8.4 | | 0.4 | | | | 91.2 | | | | M≫L-C>F,UT | 250 |
| | 2中(P.D.１) | | | | 12.0 | | | | | 0.3 | 87.6 | | | | M≫L-C≫F,P,UT | 299 |
| | 2下(P.D.１) | | | | 18.0 | | 4.9 | 0.4 | 0.7 | 0.4 | 75.7 | | | | M≫L-C≫F,P,UT | 284 |
| M－7－82 | 1（P.D.２） | | | 3.4 | | | 0.9 | | | | 95.7 | | | | L-C≫F>M>P,UT | 232 |
| | 2（P.D.３Ⅰ） | 1.7 | | | 7.4 | | 3.5 | 0.9 | 0.4 | | 4.3 | 0.9 | | 80.9 | L-C,M,UT | 230 |
| | 3(黒色腐植土) | 1.7 | | | 9.4 | | 4.7 | 0.4 | | | 3.8 | | | 80.0 | L-C,UT | 235 |
| | 4上(P.D.３Ⅱ) | 1.4 | | | 9.3 | [0.5] | 4.2 | 1.4 | 0.9 | 0.5 | 3.7 | | 0.5 | 78.2 | L-C,M,UT | 216 |
| | 4中(P.D３Ⅱ) | 2.5 | | | 7.3 | [0.7] | 5.5 | | 0.4 | 0.7 | 4.7 | 0.7 | 0.4 | 77.8 | L-C,M | 275 |
| | 4下(P.D.３Ⅱ) | 3.3 | | | 6.6 | [0.4] | 4.4 | 1.1 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 0.4 | 4.4 | 78.4 | L-C,M,UT | 273 |
| | 5(黒色腐植土) | 1.6 | | | 13.1 | [0.2] | 5.3 | 0.6 | 0.2 | 1.4 | 17.8 | | 0.4 | 59.6 | M>L-C>P,UT | 495 |
| | 6（P.D.４） | | | | 18.1 | | | 3.0 | | 2.2 | 76.3 | | | 0.4 | M≫F>L-C,UT | 270 |
| | 7(赤黒色腐植土) | 3.7 | | | 16.0 | [1.2) | 15.4 | 0.3 | 0.3 | 0.6 | 6.2 | | 2.8 | 54.8 | F,L-C,M,P,UT | 325 |
| | 8(黒褐色腐植土) | 9.0 | | | 19.9 | [2.5] | 26.4 | 0.4 | 1.1 | 1.8 | 16.2 | | 6.5 | 18.8 | L-C>F,M,UT | 277 |
| | 9(火砕流堆積物) | 7.5 | | 0.4 | 36.7 | [2.2] | 38.9 | 0.9 | 0.9 | 1.8 | 9.3 | | 3.5 | | L-C,UT | 226 |

M型：泡壁がつくる模様が網目状のもの。気泡径はＬ－Ｃ型よりはるかに小さい。

Ｐ型：薄い平板状。

UT：未分類。上記の型に属さないもの。

(3)　結果と対比

表Ⅵ－６に火山灰と土壌の鉱物組成・火山ガラスの形態量比を示す。

P.D.１：試料Ｍ－７－60の１と２。遺構Ｐ－11の覆土中にレンズ状に堆積する部分とその上方に斑状に産出するものがある（図Ⅲ－157 ）。両者はみかけ上異なる層準に産出するが、鉱物組成に差はないと考える。M型の火山ガラスに富み、次いで斜長石が多い。斑状部分は土壌動物等によってレンズ状部分から拡散したものと推定される。函館市教育委員会（1977）は駒ヶ岳統ｄ火山灰（Ko-d－A.D.1640 年－）に対比している。周辺遺跡では、知内町湯の里３、木古内町新道４・札苅、上磯町矢不来天満宮跡、函館市桔梗２、七飯町大中山13等で認められる（北海道埋蔵文化財センター、1986ａ・ｂ・1987・1988ａ・ｂ・1992a)。

砂質火山灰：試料Ｍ－７－50の１。斜長石が比較的多く、角閃石・軽石が多い。角閃石は輝石量を上回る。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多い。噴出源不明。上掲の遺跡のほか、上磯町三ツ石でも認められる（花岡、1990)。

P.D.2：試料Ｍ－７－40の１、Ｍ－７－50の２、Ｍ－７－82の１。火山ガラスに頗る富み、アルカリ長石を含む特異な火山灰である。火山ガラスはＬ－Ｃ型が多い。このような特徴を有する火山灰は白頭山－苫小牧火山灰（Ｂ－Tm）で、年代は800－900 年前である（町田ほか、1981；町田ほか、1984；町田・新井、1992)。周辺遺跡では上掲の遺跡のほか、松前町札前、南茅部町ハマナス野・八木Ｂ、七飯町上藤城７等でも認められる（町田、1985；花岡、1991・1992・1993)。また露頭でも良く追跡される。

P.D.３：試料Ｍ－７－82の２と４。Ⅱ章－３で述べたように、本層は少なくとも二つの層準で産出

する。M－７－82では２、４ともに鉱物量よりもプラントオパールに著しく富む。プラントオパールには白濁したものがある[1)]。この鉱物組成上の傾向は、２と４の直上・直下の腐植土の鉱物組成と同じであるが、４はその母材と考えられる直下の５よりもプラントオパールがさらに多い。このことは、プラントオパール供給物質（草木）が人為的に集められ焼かれた可能性が高く、白濁したプラントオパールは熱を受けたことを示すものと思われる。本層は、色調・産出層準・鉱物組成から佐々木ほか（1970）の銭亀沢層に対比される。従来、銭亀沢層は火山灰として扱われてきたが、プラントオパールに著しく富むこと、遺物を含むこと、及び色調から火山灰ではなく焼土と考えられる。近藤（1993。本書Ⅵ章－４）も同様の考えである。

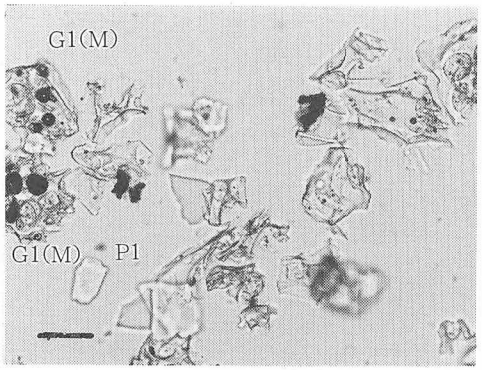
P.D.4：試料M－７－82の６。M型火山ガラスに富み、次いで斜長石が多い。本層のM型ガラスは、P.D.1のM型ガラスと比べると泡壁の厚さが薄い。噴出源不明。本層の下位から縄文時代早期の貝殻文土器が出土する。縄文時代早期以降の降下で、おそらく同前期よりは古い。この間の鍵層として重要である。本火山灰と鉱物組成が良く類似し、火山ガラスの形態が同じ火山灰が、登別市川上Ｂ・伊達市牛舎川右岸遺跡で認められ、幌別黄橙色火山灰と仮称され縄文時代早期の降下物と考えられている（北海道埋蔵文化財センター、1985・1990）。

１）昨年度のP.D.3に関する予察（北海道埋蔵文化財センター、1992ｂ）では、白濁した針状物質を海綿骨針としたが、これは長柱状のプラントオパールの誤りであった。

## 引用文献

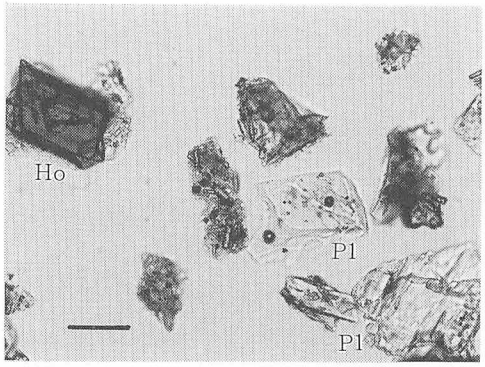
函館市教育委員会（1977）:『函館空港第４地点・中野遺跡』 1289pp.
花岡正光（1990）:「三ツ石遺跡の火山灰について」『三ツ石遺跡』 106pp., 上磯町教育委員会, pp.66-68.
花岡正光（1991）:「上藤城７遺跡の火山灰について」『上藤城７遺跡』 79pp., 七飯町教育委員会, pp.73-76.
花岡正光（1992）:「八木Ｂ遺跡の火山灰について」『八木Ｂ遺跡』 243pp., 南茅部町埋蔵文化財調査団, pp.７－８.
花岡正光（1993）:「ハマナス野遺跡の火山灰について」『八木Ａ遺跡・ハマナス野遺跡』 南茅部町埋蔵文化財調査団.（印刷中）
北海道埋蔵文化財センター（1985）:『登別市川上Ｂ遺跡』 109pp.
北海道埋蔵文化財センター（1986a）:『知内町湯の里３遺跡』 54pp.
北海道埋蔵文化財センター（1986b）:『木古内町札苅遺跡』 128pp.
北海道埋蔵文化財センター（1987）:『木古内町建川２・新道４遺跡』 614pp.
北海道埋蔵文化財センター（1988a）:『上磯町矢不来天満宮跡』 89pp.
北海道埋蔵文化財センター（1988b）:『函館市桔梗２遺跡』 252pp.
北海道埋蔵文化財センター（1990）:『伊達市牛舎川右岸遺跡・稀府川遺跡』 282pp.
北海道埋蔵文化財センター（1992a）:『七飯町大中山13遺跡』 125pp.
北海道埋蔵文化財センター（1992b）:『函館市中野Ａ遺跡』 408pp.
町田　洋・新井房夫・森脇　広（1981）:「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』 Vol.51, pp.562-569.
町田　洋・新井房夫・小田静夫・近藤邦彦・杉原重夫（1984）:「テフラと日本考古学－考古学研究と関係するテフラのカタログ－」 古文化財編集委員会編『古文化財の自然科学的研究』 984pp., 同朋舎：pp.865-928.
町田　洋（1985）:「松前町・札前遺跡における火山灰層」『札前』 401pp. 松前町教育委員会, pp.296-299.
町田　洋・新井房夫（1992）:『火山灰アトラス－日本列島とその周辺』 276pp., 東京大学出版会.
近藤錬三（1992）:「函館市中野Ａ遺跡土壌および焼土（？）の植物珪酸体分析」 北海道埋蔵文化財センター『函館市中野Ａ遺跡（Ⅱ）』 424pp. 388－393.
佐々木竜男・片山雅弘・音羽道三・天野洋司（1970）:「渡島半島の火山灰について」『北海道農業試験場土性調査報告』 No.20, pp.255-281.

（花岡正光）.



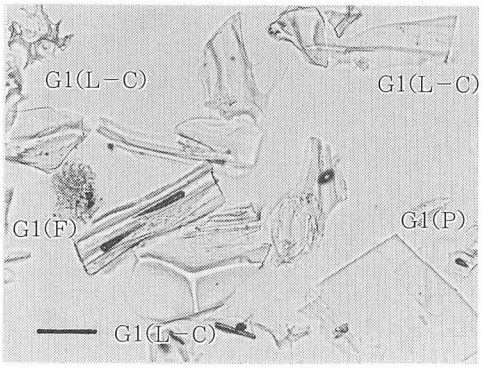

P.D.1 (Ko－d?)

試料：M－7－60の1



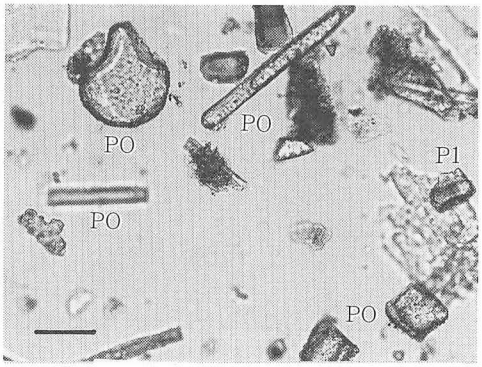

砂質火山灰

試料：M－7－50の1



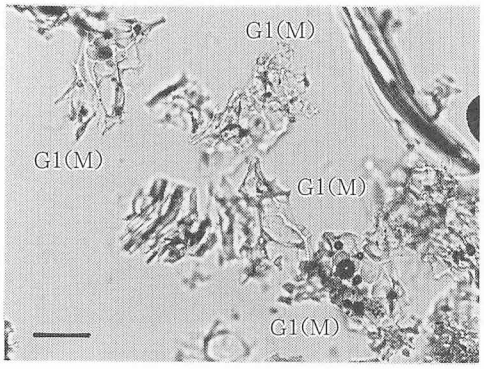

P.D.2 (B－Tm)

試料：M－7－82の1



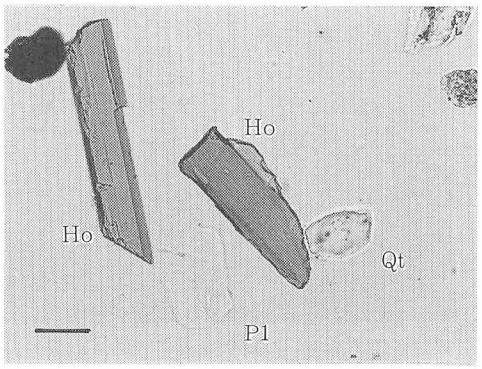

P.D.3 (銭亀沢層)

試料：M－7－82の4中




P.D.4

試料：M－7－82の6

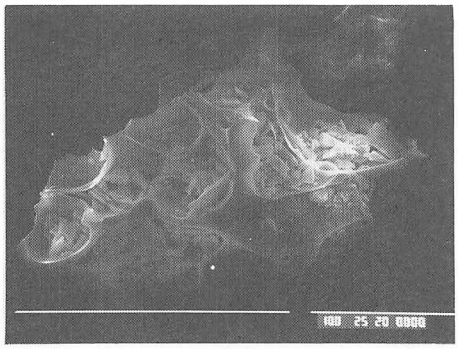



火砕流堆積物

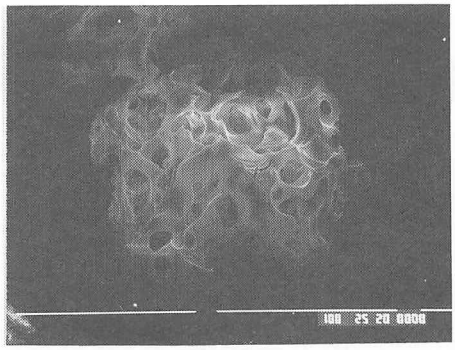
(銭亀沢火山灰層、銭亀－女那川火砕流堆積物)

## 図版Ⅵ－5　火山灰・土壌の偏光顕微鏡写真

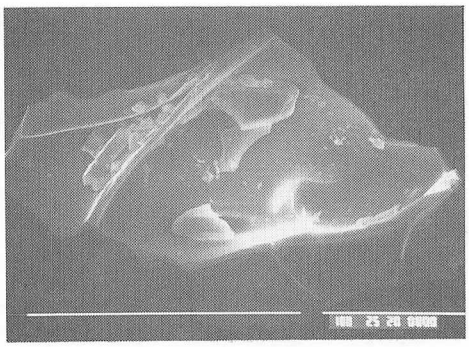
Gl：火山ガラス　Ho：角閃石　Pl：斜長石　PO：プラントオパール
Qt：石英　(　) 内は火山ガラスの型．下方ポーラーのみ．スケールバーは50μm．



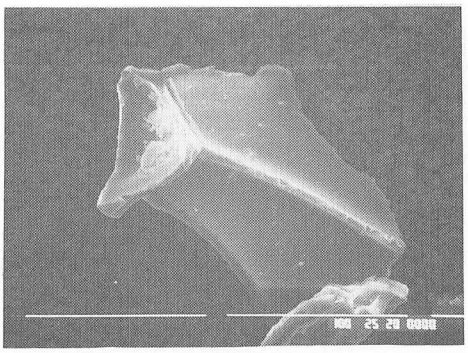
M型ガラス
試料：M－７－60の１



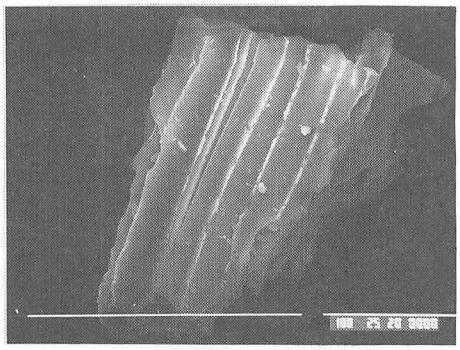
M型ガラス
試料：M－７－82の６



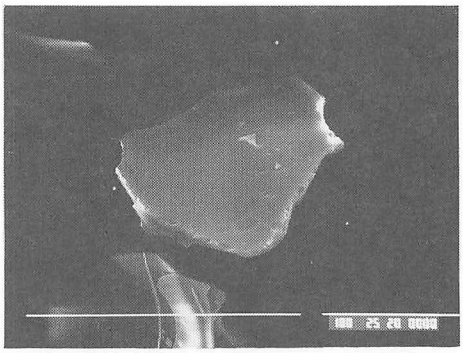
L－C型ガラス
（バブルウォール型）
試料：M－７－82の１



L－C型ガラス
（バブルウォール型）
試料：M－７－82の１



F型ガラス
試料：M－７－82の１



P型ガラス
試料：M－７－82の１

図版Ⅵ－６　火山ガラスのSEM写真

SEMはJSM－T200を使用．加速電圧25KV．
スケールバーは100 $\mu m$．

# あ と が き

平成３年度実施の中野Ａ遺跡の調査では、縄文時代早期前葉の竪穴住居跡が１軒、中葉のそれが13軒、土壙10基、Ｔピット11基、焼土２ヵ所などが検出されたが（北埋調報79）、継続調査の平成４年度調査区からは、さらに竪穴住居が42軒、土壙16基、Ｔピット40基、焼土２ヵ所など多数の遺構、遺物が発見された。竪穴住居跡のうち２軒は縄文前期前葉の所産だが、残る40軒はほぼ早期中葉の物見台式土器の時期に構築されたものである。過去の昭和50・51年度中野Ａ遺跡グループⅡ調査区に見出された６軒の竪穴住居跡（函館市教育委員会1977）と合わせると、物見台式土器段階の住居跡は実に59軒もの数となる。中野Ａ遺跡は、まさに縄文時代早期中葉を代表する大集落跡といえよう。

物見台式に比定される集落跡については、Ⅴ章２節に和泉田が追究したように、竪穴住居の形態や構造などにみられる時間的な変化や、数軒単位での移動の様相など、大まかながら集落の変遷を想定することができた。すなわち、竪穴住居は一時期に２～３軒が共存し、標高のやや高いところから低い方へと移動、特にＮ－７－12・22区を中心とする一帯では結果的に住居が集中し、幾重にも重複して建てられたこと。竪穴住居の形態は、大筋では、隅丸方形状→隅丸長方形状→台形状→卵形状→円形状へと、新旧の変移が窺えること。構造的には、やや大型で複数の主柱穴をもち、壁面に内傾する小ピットを有するものから、壁付近をめぐる直立の小ピットがみられ、斜め材は壁外へ出すものへ変化したこと。時期が新しくなるほど、やや小型で、炉や主柱穴のない住居が増えるらしいことなど、おおよその傾向が指摘できた。

これらは、重複する竪穴住居の切り合い関係や、伴出遺物の接合関係、出土土器の型式などを判断材料に、竪穴住居の形態や構造、長軸方向などにみられる新旧関係や同時性を相互に考慮して、集落の変遷に迫ろうとして得られた結論である。しかし、和泉田も認めるように、土器の接合関係では一部に新旧の逆転を示唆する資料があったり、住居の形態や構造についても、一連の変移に単純化して捉えきれるものか否か、不確実な要素も含まれているなど、再検討の余地が残されている。過去の調査におけるグループⅡの変遷についても、石器や土器の接合関係などから、９号住居と14号住居、10号住居と11号住居、12号住居と13号住居という２棟１対での移り変わりを想定する林謙作氏の見解（林1986）と、住居それ自体の形態や構造の変化に主眼をおく和泉田の考えには、大きな食違いがみられる。単年度で発掘調査から報告書の刊行までを遂行することは、時間的な制約が大きく、現時点でとりあえず提示できた分析と推定の一つということでご理解いただきたい。

縄文時代前期前葉の春日町・トドホッケ式土器を伴う竪穴住居跡は２軒発見された。この２軒はⅤ章３節に谷島が説くように、長軸方向は異なるが、形態や構造はほぼ同一で、近隣の該期の類例ともよく合致する、規格性の認められる住居であった。このような規格性は当然ながら、竪穴住居内での空間利用にも見出される可能性が強く、フローテーションの結果からは、調理に関連したと覚しき空間や、石器作りに利用された空間などがある程度推定できた。しかしながら、空間の使い分けを明確に論証し、出入口の位置などを特定するまでには至っていない。

集落の周辺に見出された土壙には、墓跡の可能性があるものも若干みられたが、その数は、竪穴住居跡の数に比べて少なく、墓域が別に存在したことも考えられる。単独で検出された焼土は屋外炉と推定されるが、一部には、簡単な居住施設に伴った炉跡の可能性があるものがあった。

中野Ａ遺跡のＴピットは、その大部分が縄文早期中葉以降に掘られたもので、形態的には細長い溝状のものが主体であった。配列的には大きく二者あり、Ｔピットが落し穴であった場合、その狩猟法が必ずしも一様ではなかったことを意味するものと思われた。

出土土器の大半は、昨年度と同様にⅠ群B類土器で、ほぼ物見台式の範疇に含まれるものであった。器形や文様、調整の具合などには種々のバラエティーがあり、Ⅴ章5節に遠藤がまとめたように幾つかの細分が考えられた。この時期の竪穴住居跡は中野A遺跡全体で59軒に達し、数軒単位での移り変わりがあったと想定される以上、土器の型式にも相応の変化があったことは容易に推測される。Ⅰ群B類土器については、平成4年度出土分や過去のグループⅡ資料も加えて、昨年度設定の第1グループから第3グループまでの類型を遠藤がさらに集成し、体系化した。総体的には、複雑な文様構成をもつ土器がより古く、単純な構成のものがより新しいという傾向が確認されたが、伴出土器の型式学的な細分に即して、確実に個々の遺構の新旧を見極めることは今一つ困難な状態であり、土器の細分についても、もう少し時間をかけて検討を加える必要があると思われる。物見台式以外では、日計式併行のⅠ群A類土器、Ⅰ群E類としたムシリⅠ式土器の仲間、そして春日町・トドホッケ式に比定される縄文前期のⅡ群土器があり、縄文晩期の亀ヶ岡系の土器片なども少量ながら採集されている。

石器については剥片石器群、磨製石器群、礫石器群のそれぞれに各種の道具類がみられ、縄文早期中葉の石器の組合せや、それぞれの器種における形態的な特徴をほぼ抽出できたものと考えている。石器の組成については、Ⅴ章1節で倉橋が検討したように、中野A遺跡の昭和50・51年度グループⅡ調査区、平成3年度調査区、同4年度調査区で、それぞれ若干の相違が認められる。これらの差が何に由来するのかは明言できないが、平成3・4年度調査区に、石皿・すり石・たたき石という、恐らく植物質食料の加工処理に用いられたと考えられる道具類が相対的に多い事実は、一面では集落の安定性を示すものといえ、結果的に竪穴住居跡が著しく密集、重複する状況をもたらした要素と無縁ではないと思われた。また、石斧の材質がこれまで言われていた蛇紋岩ではなく、流紋岩である可能性が強まったことも注意される。やや特殊な石器としては環状石斧があるが、これまでの知見では物見台式に伴出した類例はないようで、ムシリⅠ式土器に伴う可能性が強いらしい。

土錘や玦状耳飾など、土・石製品も発見されたが、それらは縄文前期の所産と判断された。

諸科学的分析のうち、液体シンチレーション$^{14}$C年代測定結果では、物見台式土器を伴う竪穴住居跡から得られた試料の測定値に、B.P.9,000年代から7,000年代まで、かなりの幅があった。フローテーション作業によって採集できる試料の量的な限界性の表れといえようか。

竪穴住居床面土壌のフローテーション結果では、キハダとクルミの炭化種子が検出され、キハダが沢沿いの住居跡に集中するなど、昨年度とほぼ同様の傾向が認められた。

黒曜石製遺物の原産地分析では、大部分の利器を頁岩でまかなえるこの地域に、道内の広い範囲や、いわゆる逆ルートの青森県の黒曜石がもたらされている事実が明らかにされた。

P.D.3と称されてきた赤褐色土が焼土か否か、植物珪酸体分析によって検討していただいた結果では、P.D.3は元来腐植層であり、焼かれて焼土と化したものと判定された。草木が人為的に集められ焼かれた可能性が高いとの指摘は、縄文時代前期頃の人間の活動を知るうえで、十分に考慮される必要があろう。また、P.D.2が800〜900年前に降下した白頭山－苫小牧火山灰（B－Tm）に対比され、P.D.4が幌別黄橙色火山灰と仮称されるものによく類似し、縄文早期中葉以降、前期前葉までの間の鍵層として重要であるという花岡の指摘は、考古学的にみて重視されよう。

以上、中野A遺跡の発掘調査結果を簡単にまとめたが、昨年と同様に、本報告書には不備や不足が少なくないものと反省している。調査員が個々に担当した分野の成果をそれぞれぶつけあい、相互により深く、より多角的に検討を加えたうえで、より総合的な過去の理解を目指す努力が必要なことは十分承知しているが、調査員が相互に討議、意見交換する時間はやはり絶対的に不足であり、個別的な知見の羅列を超える内容を盛り込むことはできずに終わった。

## 引用・参考文献


相原　淳一（1982）「日計式土器群の成立と解体」『赤い本』創刊号

青森県教育委員会（1975）『千歳(13)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書27

〃　（1981a）『表館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書61

〃　（1981b）『新納屋遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書62

〃　（1982）『鴨平(1)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書72

〃　（1984a）『和野前山遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書82

〃　（1984b）『表館遺跡調査報告書 Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書92

〃　（1985）『売場遺跡発掘調査報告書（第1次調査・第2次調査・第3次調査・第4次調査）』青森県埋蔵文化財調査報告書93

石本　省三（1975）「函館空港第4地点遺跡」『北海道考古学』11

内山　真澄（1977）「札幌S267・268遺跡の土壙群－いわゆるTピットについて」『札幌市文化財調査報告書』XIV

江坂　輝弥（1950）「青森県下北郡東通村、尻屋、物見台遺跡の調査報告」『考古学雑誌』36－4

江坂　輝弥（1955）「青森県下北郡ムシリ遺跡」『日本考古学年報』3

江坂　輝弥（1957）「ムシリⅠ式土器について」『先史時代』5

大場　利夫他（1955）『函館市梁川町遺跡』市立函館博物館

大沼　忠春（1984）「道南の前期土器群の編年について」『北海道考古学』20

大沼　忠春（1986）「道南の前期土器群の編年について（Ⅱ）」『北海道考古学』22

小笠原忠久（1974）「函館市石崎町出土の早期縄文土器－新型式の尖底貝殻文土器－」『桧山考古学研究会会誌』3

久保　泰他（1983）『白坂』松前町教育委員会

久保　泰他（1985）『日ノ浜砂丘1遺跡』恵山町教育委員会

小薬　一夫（1991）「住居型式」論からの視点－縄文時代前期の集団領域解明に向けて－」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』X

児玉作左衛門・大場利夫（1953）「函館市住吉町遺跡の発掘について」『北方文化研究報告』8

児玉作左衛門・大場利夫（1954）「函館市春日町出土の遺物について」『北方文化研究報告』9

(財)北海道埋蔵文化財センター（1992a）『上清水2遺跡・共栄3遺跡(2)・東松沢2遺跡・北明1遺跡』北埋調報76

(財)北海道埋蔵文化財センター（1992b）『中野A遺跡』北埋調報79

佐川　正敏（1979）「中野A遺跡A地点〔グループⅡ〕371地区の土器」『函館空港中野遺跡』みやま書房

佐々木竜男・片山雅弘・音羽道三・天野洋司（1970）「渡島半島の火山灰について」『北海道農業試験場土性調査報告』20

笹津　備洋（1960）「青森県八戸市日計遺跡」『史学』33－1　三田史学会

佐藤　孝則（1983）「北海道における溝状ピットの自然科学的検討」『十勝考古』6　十勝川流域史研究会

佐藤　孝則（1986）「動物生態学からみた溝状ピットの機能」『北海道考古学』22

市立函館博物館（1973）『函館志海苔古銭』

杉山　　武（1976）「第Ⅰ群土器」『千歳遺跡(13)発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書27

鈴木　正語（1984）『サイベ沢遺跡』函館市教育委員会

瀬川　秀良（1974）『日本地形史－北海道地方－』朝倉書房

高橋　　誠（1986）「形式学的方法－貝殻沈線文系土器」『季刊考古学』17

高橋　正勝（1960）「日吉町百合園遺跡発掘調査報告書『青雲台史』1

高橋　正勝（1967）「北海道鳴川遺跡の尖底貝殻文土器について」『石器時代』8

武内　収太（1967）『函館空港整備事業の内遺跡発掘調査実績報告－函館空港Ⅰ遺跡－』

竹田　輝雄（1959）「貝殻文土器文様の要素摘出」『先史時代』8　先史学同好会

田島一雄他（1988）『根井沼(1)遺跡発掘調査報告書』三沢市埋蔵文化財報告書5

田原　良信（1979）『中野Ａ遺跡発掘調査報告書』函館市教育委員会
田原　良信・鈴木　正語（1985）『サイベ沢Ⅱ遺跡』函館市教育委員会
田原　良信（1996）『豊原１遺跡』函館市教育委員会
千代　　肇（1953）『北海道南部に於ける遺跡及び遺物の考古学的研究』
千代　　肇（1975）「函館空港第４地点遺跡」『考古学ジャーナル』105
千代　　肇（1980）「先史時代」『函館市史』通説編第一巻
苫小牧市埋蔵文化財センター（1982）『柏原17遺跡』苫小牧市東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅳ
名久井文明（1982）「貝殻文尖底土器」『縄文文化の研究』３　雄山閣
名久井文明（1977）「東北地方早期縄文土器と中野遺跡」『函館空港第４地点・中野遺跡』函館市教育委員会
西川　博孝（1989）「物見台」と「吹切沢」－東北・北海道南部における貝殻紋土器末葉の編年－」『先史考古学研究』２　阿佐ケ谷先史学研究会
西脇対名夫（1991）「共栄３遺跡におけるＴピットの機能について」『上清水２遺跡・共栄２遺跡・共栄３遺跡』北埋調報70
函館市教育委員会（1969）『函館空港整備事業の内遺跡発掘調査実績報告』
（1975）『函館市内埋蔵文化財対策調査概要』
（1977）『函館空港第４地点・中野遺跡』
（1981）『見晴町Ｂ遺跡発掘調査報告書』
長谷川　潔・鈴木　　守（1964）５万分の1地質図幅および説明書『五稜郭』北海道地下資源調査所
八戸市教育委員会（1988）『田面木平遺跡(1)』八戸市埋蔵文化財調査報告書20
浜野美代子（1990）「土偶出現の時期と形態」『季刊考古学』30
林　　謙作（1955）「東北・北海道の貝殻文土器群」『北海道青年人類科学研究会会誌』６
林　　謙作（1986）「道南の縄文ムラ」『図説発掘が語る日本史』１　新人物往来社
原田　昌幸（1987）「縄文時代早期の土偶」『考古学ジャーナル』272
藤田富士男（1992）『玉とヒスイ』同朋会出版社
古屋敷則男（1988）『蝦子川２遺跡』戸井町教育委員会
北海道火山灰命名委員会（1982）『北海道の火山灰』
前野　英一（1960）「函館市湯川土師遺跡紹介」『青雲台史』１
町田　　洋・新井　房夫・森脇　　広（1981）「日本海を渡ってきたテラフ」『科学』51
町田　　洋・新井　房夫・小田　静夫・遠藤　邦彦・杉原　重夫（1984）「テラフと日本考古学」『古文化財の自然科学的研究』同朋舎
町田　　洋・新井　房夫（1992）『火山灰アトラス－日本列島とその周辺－』東京大学出版会
松下　亘編（1974）『西股』北海道第四紀研究会
三宅　徹也（1977）「青森県と北海道南部の貝殻文系土器をめぐる研究史について－特に吹切沢式・物見台式・住吉町式土器に関して－」『函館空港第４地点・中野遺跡』函館市教育委員会
宮　　文子（1977）「函館空港遺跡出土の動物遺存体」『函館空港第４地点・中野遺跡』函館市教育委員会
村田　文夫（1955）「関東地方における竪穴住居について」『考古学雑誌』53－３
森田　知忠・遠藤　香澄（1984）「Ｔピット論」『北海道の研究』１　清文堂
山懸耕太郎・町田　　洋・新井　房夫（1989）「銭亀－女那川テフラ」『地理学評論』62－３
山内　清男（1967）「日本遠古之文化」『先史考古学論文集』１（新版）
横山　英介編（1979）『函館空港中野遺跡』みやま書房
横山　英介（1989）「北海道の早期貝殻文・沈線文系土器について」『東北・北海道における縄文時代早期中葉から前期初頭にかけての土器編年について－第４回縄文検討会シンポジウム－』
吉崎　昌一（1965）「縄文文化の発展と地域性－北海道－」『日本の考古学』２

# 表1　遺構の出土遺物一覧

| 遺構 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | その他 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ⅰa | Ⅰb | Ⅰe | Ⅱ | Ⅴ | 合計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 箆状 | 両調 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 合計 | 石斧 | 擦切 | 研磨 | 破片 | 合計 | たたき | すり | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状 | 礫 | 合計 | 土器片錘 | 土製品 | 土製円盤 | 合計 |
| H−15 | | 15 | | 278 | | 293 | 4 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 | 3 | 9 | 8 | 7482 | 1 | 7516 | | | | | 0 | 2 | 3 | | | | 1 | | 90 | 96 | 1 | | | 7,905 |
| H−16 | | 256 | | 3 | | 259 | 2 | 1 | 1 | | | | 10 | 5 | 5 | 348 | | 372 | 1 | | | | 1 | 1 | 2 | | 1 | 1 | 2 | | 9 | 16 | | | | 648 |
| H−17 | | 32 | | | | 32 | | | | 2 | | 2 | 5 | 3 | 2 | 88 | 1 | 103 | 2 | | | | 2 | | 5 | 2 | 3 | | | | 16 | 26 | | | | 163 |
| H−18 | 5 | 1152 | 64 | 67 | | 1288 | 4 | 2 | 1 | 1 | | 5 | 26 | 15 | 41 | 3369 | 3 | 3467 | 2 | 1 | | | 3 | | 27 | | 3 | | 6 | | 136 | 172 | | | | 4.930 |
| H−19 | | 30 | | | | 30 | | | | | | | 1 | 1 | | 63 | | 65 | 1 | | | | 1 | | | | | | 2 | | 4 | 6 | | | | 102 |
| H−20 | | 117 | | | | 117 | 3 | | | 1 | | | 4 | | 3 | 1478 | | 1489 | 1 | | | | 1 | | 3 | | 1 | | 5 | | 48 | 57 | | | | 1.664 |
| H−21 | | 110 | | | | 110 | | | | | | | 2 | 1 | | 123 | | 126 | | | | | 0 | | | | | | 2 | | 14 | 16 | | | | 252 |
| H−22 | | 261 | | 2 | | 263 | | 1 | | | | | 3 | 2 | 2 | 56 | 1 | 65 | | 2 | | | 2 | | | | | | 1 | | 26 | 27 | | | | 357 |
| H−23 | | 74 | 22 | 1 | | 97 | 2 | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 31 | | 40 | 1 | | | | 1 | | | | 2 | 1 | 1 | | 67 | 71 | | | | 209 |
| H−24 | | 101 | | | | 101 | 1 | | | | | 2 | 1 | 2 | 3 | 52 | | 61 | | | | | 0 | | | | | | 1 | | 14 | 15 | | | | 177 |
| H−25 | 1 | 558 | 46 | 1 | | 606 | 2 | 3 | | 1 | | 5 | 9 | 12 | 11 | 4954 | 3 | 5000 | 1 | 3 | | 2 | 6 | 14 | 25 | 4 | 15 | 11 | 10 | | 380 | 459 | | | | 6,071 |
| H−26 | | 167 | | | | 167 | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | 5 | 50 | 3 | 62 | | | | | 0 | | 1 | | | | 1 | | 24 | 26 | | | | 255 |
| H−27 | | 48 | | 1 | | 49 | | | | 1 | | | | 1 | 2 | 18 | 1 | 23 | | | | | 0 | | 2 | | | | 1 | | 93 | 96 | | | | 168 |
| H−28 | | 33 | | 1 | | 34 | | | | | | | | | 4 | 34 | | 38 | 1 | | | | 1 | | | | 2 | | 2 | | 25 | 29 | | | | 102 |
| H−29 | | 615 | | 3 | | 618 | | | 1 | 1 | 2 | | 5 | 4 | 12 | 162 | 1 | 188 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 2 | | | | 55 | 64 | | | | 874 |
| H−30 | | 41 | | 4 | | 45 | | | | | | | 6 | 3 | 5 | 337 | | 351 | | | | | 0 | | 1 | 1 | | | 2 | | 6 | 10 | | | | 406 |
| H−31 | | 28 | | | | 28 | | | | | | | | | | 8 | | 8 | | | | | 0 | | | | | | | | | 0 | | | | 36 |
| H−32 | 4 | 145 | | 2 | | 151 | | 1 | 1 | | | | 4 | 7 | 5 | 98 | 2 | 118 | | | | | 0 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | | 44 | 66 | | | | 335 |
| H−33 | 113 | 1064 | 3 | 4 | | 1184 | 1 | 3 | | 1 | 1 | 2 | 13 | 8 | 24 | 201 | 2 | 256 | | 2 | 1 | | 3 | 3 | 5 | 1 | 2 | 4 | 13 | | 188 | 216 | | 1 | | 1,660 |
| H−34 | | 406 | | | | 406 | 3 | 1 | 3 | | | | 6 | 2 | 12 | 205 | | 232 | 1 | | 2 | | 3 | 1 | 2 | | 2 | | 3 | | 188 | 196 | | | | 837 |
| H−35 | | 702 | 4 | 1 | | 707 | 3 | | 1 | 1 | | 1 | 7 | 7 | 13 | 222 | | 255 | 1 | | 2 | 2 | 5 | 2 | 9 | | 2 | 2 | 3 | | 165 | 183 | | | | 1,150 |
| H−36 | | 1231 | 1 | | | 1232 | 3 | 1 | | 1 | | 4 | 5 | 8 | 8 | 2053 | 1 | 2084 | 2 | 1 | 5 | | 8 | 3 | 7 | | 3 | 1 | 39 | | 199 | 252 | | 1 | | 3,577 |
| H−37 | 3 | 384 | 4 | 9 | | 400 | 1 | 3 | | 1 | | 1 | 13 | 8 | 24 | 466 | 3 | 520 | 1 | | | | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | | 1 | | 135 | 144 | | | | 1,065 |
| H−38 | | 91 | 4 | | | 95 | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | 4 | 47 | | 55 | | | | | 0 | | 2 | | 1 | | 4 | | 64 | 71 | | | | 221 |
| H−39 | | 31 | | | | 31 | | | | | | 1 | | 2 | 2 | 36 | | 41 | | | 1 | | 1 | | | | | | 3 | | 7 | 10 | | | | 83 |
| H−40 | | 300 | | 51 | | 351 | | | | | | 4 | 3 | | 3 | 63 | 1 | 74 | 1 | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | | | 1 | | | 3 | | | | 430 |
| H−41 | | 18 | | | | 18 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | 1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 18 | 21 | | 1 | | 43 |
| H−42 | | 108 | | 1 | | 109 | | | | 1 | | 1 | 5 | 2 | 3 | 40 | 1 | 53 | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | 3 | | 7 | 11 | | | | 174 |
| H−43 | | 63 | | 11 | | 74 | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | | 3 | 11 | 3 | 21 | | | | | 0 | 2 | 2 | | | | | | 12 | 16 | 2 | | | 113 |
| H−44 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | 1 | | 2 | | 3 | | | | | 0 | | 2 | | | | | | 1 | 3 | | | | 9 |
| H−45 | | 15 | | | | 15 | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | | | | 0 | | 2 | | | | 1 | | 2 | 5 | | | | 22 |
| H−46 | | 38 | | | | 38 | | | | | | | 1 | | 1 | 11 | | 13 | | | | | 0 | | | | | | | | 22 | 22 | | | | 73 |
| H−47 | | 110 | | | | 110 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | 0 | | 2 | | | | 1 | | 5 | 8 | | | | 119 |

| 遺構 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | その他 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | II | V | 合計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 箆状 | 両調 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 合計 | 石斧 | 擦切 | 研磨 | 破片 | 合計 | たたき | すり | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状 | 礫 | 合計 | 土器片錘 | 土製品 | 土製円盤 | 合計 |
| H−49 | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| H−50 | | 46 | 5 | | | 51 | 1 | | | | | 1 | 2 | | | 20 | | 24 | | | | | | 1 | | | | 2 | | 8 | 11 | | | | 86 |
| H−51 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | 5 |
| H−52 | | 25 | | | | 25 | | | | | | | | 1 | | 6 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | 32 |
| H−53 | | 5 | | | | 5 | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | 10 |
| H−54 | | 65 | | | | 65 | | | | | | | 3 | | 4 | 10 | | 17 | | | | | | | | | 1 | 3 | | 21 | 25 | | | | 107 |
| H−55 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| H−56 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | 6 | | 6 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | 8 |
| P−25 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | 2 |
| P−26 | | 22 | | | | 22 | | | | | | | | 1 | | 8 | | 9 | 1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | 8 | 10 | | | | 42 |
| P−27 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | 6 |
| P−28 | 1 | 151 | | | | 152 | | | | 1 | 1 | | 4 | 1 | 11 | 14 | | 32 | | | | | | 16 | 1 | | 2 | 1 | | 5 | 25 | | | | 209 |
| T−17 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | 3 |
| T−18 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| T−19 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| T−21 | | 31 | | 14 | | 45 | 1 | | | | | 2 | 1 | 2 | 1 | 23 | | 30 | | | | | | 1 | 2 | | | | | 4 | 7 | | | | 82 |
| T−22 | | 53 | | | | 53 | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 16 | 1 | 20 | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | 7 | 8 | | | | 82 |
| T−26 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| T−45 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| T−52 | | | | 42 | | 42 | | 1 | | | | | | | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 45 |
| FC−11 | | | | | | | | | | | | | | | | 143 | | 143 | | | | | | | | | | | | | | | | | 143 |
| F−3 | | 21 | | | | 21 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | 47 | | 50 | | | 1 | | 1 | | 4 | | | | | 5 | 9 | | | | 81 |
| F−4 | | | | | | | | | | | | | | | | 88 | | 88 | | | | | | | | | | | | | | | | | 88 |
| 合計 | 127 | 8779 | 153 | 496 | | 9552 | 35 | 18 | 10 | 16 | 6 | 38 | 147 | 114 | 229 | 22,503 | 28 | 23.144 | 19 | 12 | 14 | 5 | 50 | 54 | 123 | 13 | 43 | 26 | 121 | | 2,129 | 2,519 | 3 | 3 | | 35.274 |

## 表2　包含層の出土遺物一覧

| | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | その他 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | II | V | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 箆状 | 両調 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切 | 研磨 | 破片 | 小計 | たたき | すり | 石皿 | 砥石 | 石鋸 | 石錘 | 環状 | 礫 | 小計 | 玦状耳飾 | 土器片錘 | 小計 | 合計 |
| 包含層 | 400 | 23,098 | 713 | 2,623 | 32 | 26,866 | 53 | 11 | 32 | 40 | 25 | 71 | 241 | 323 | 513 | 5.771 | 66 | 7.116 | 33 | 19 | 17 | 19 | 88 | 39 | 226 | 74 | 102 | 52 | 144 | 1 | 4.693 | 5.331 | 1 | 12 | 12,550 | 39,416 |

# 表3　遺構別出土遺物一覧

※○はフローテーション採取の遺物

H－15

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ie | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両調石器 | 石匙 | スクレイパー | R7フレイク | U7フレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 覆土1 | | 6 | | 54 | | 60 | 1 | 1 | 1 | 2 | | 1 | 1 | 9 | 1 | 117 | 1 | 135 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 2 | 138 | | | | |
| 覆土2 | | 3 | | 10 | | 13 | | | | | | | | | | 12 | | 12 | | | | | | | | | | | | | | 14 | | | | |
| 床直上 | | 1 | | 3 | | 4 | | | 1 | | | | | | | 8 | | 9 | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 10 | | | | |
| 床面 | | 3 | | 22 | | 25 | 2 | | | | | 1 | 1 | 1 | | 3 | 42 | | 50 | | | | | 1 | 2 | | | | | | 3 | 53 | | | | |
| 床面○ | | | | 184 | | 184 | | | | | | | | | | | 7,010 | | 7,010 | | | | | | | | | | | | | 7,010 | | | | |
| 構築面 | | 1 | | 2 | | 3 | 1 | | | | | | 1 | 1 | | 4 | 42 | | 49 | | | | | | | | | | | | | 49 | | | | |
| 柱穴 | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | |
| 柱穴○ | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | 7 | | 7 | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | |
| FC－8 | | | | | | | | | | | | | | | | | 240 | | 240 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 14 | | 278 | | 292 | 4 | 1 | 2 | 2 | 1 | 3 | 3 | 9 | 8 | 7,482 | 1 | 7,516 | | | | | | 2 | 3 | | | 1 | | 90 | 96 | 7,372 | 1 | | | 7906 |

H－16

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ie | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両調石器 | 石匙 | スクレイパー | R7フレイク | U7フレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土1 | | 20 | | | | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 覆土2 | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 床直上 | | 3 | | | | 3 | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | |
| 床面 | | 200 | | | | 200 | 1 | 1 | 1 | | | | 10 | 4 | 5 | 16 | | 38 | 1 | | | | 1 | 1 | 2 | | 1 | 1 | 2 | | | 7 | 46 | | | | |
| 床面○ | | 31 | | | | 31 | | | | | | | | | | 190 | | 190 | | | | | | | | | | | | | | 190 | | | | |
| 焼土○ | | | | | | | | | | | | | | | | 139 | | 139 | | | | | | | | | | | | | | 139 | | | | |
| HP－3 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| HP－15 | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 合計 | | 256 | | 3 | | 259 | 2 | 1 | 1 | | | | 10 | 5 | 5 | 348 | | 372 | 1 | | | | 1 | 1 | 2 | | 1 | 1 | 2 | | 9 | 16 | 389 | | | | 648 |

H－17

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ie | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両調石器 | 石匙 | スクレイパー | R7フレイク | U7フレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土上部 | | 20 | | | | 20 | | | | 1 | | 2 | 3 | 3 | 2 | 35 | 1 | 47 | | | | | | | 2 | 2 | 3 | | | | 7 | 54 | | | | |
| 覆土下部 | | 12 | | | | 12 | | | | 1 | | | 2 | | | 35 | | 38 | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | 40 | | | | |
| HF－1○ | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | |
| FP－1 | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | | 12 | | | | | | | 3 | | | | | | 3 | 15 | | | | |
| 合計 | | 32 | | | | 32 | | | | 2 | | 2 | 5 | 3 | 2 | 88 | 1 | 103 | 2 | | | | 2 | | 5 | 2 | 3 | | | 16 | 26 | 131 | | | | 163 |

H－18

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ie | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両調石器 | 石匙 | スクレイパー | R7フレイク | U7フレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土1 | 5 | 50 | 2 | 67 | | 124 | 2 | | 1 | | | | 4 | 6 | 13 | 192 | 2 | 220 | | | | | | | 1 | | | 1 | | | 2 | 222 | | | | |
| 覆土2 | | 20 | 9 | | | 29 | | 1 | | | | | | 3 | 6 | 18 | | 28 | | | | | | | | | | | | | | 28 | | | | |
| 覆土3 | | 249 | 11 | | | 260 | | 1 | | | | 3 | 10 | 4 | 8 | 136 | | 162 | 2 | | | | 2 | | 1 | | 2 | | | | 3 | 167 | | | | |
| 覆土4 | | 195 | 42 | | | 237 | 1 | | | | | 1 | 2 | 1 | 2 | 65 | | 72 | | | | | | | | | | | | | | 72 | | | | |
| 床直上 | | 14 | | | | 14 | 1 | | | | | | 7 | 1 | 6 | 27 | 1 | 44 | | 1 | | | 1 | | 23 | | | 4 | | | 27 | 72 | | | | |
| 床面 | | 434 | | | | 434 | | | | | | 1 | 3 | | 6 | 4 | | 14 | | | | | | | 2 | | 1 | 1 | | | 4 | 18 | | | | |
| 床面○ | | 143 | | | | 143 | | | | | | | | | | 1,511 | | 1,511 | | | | | | | | | | | | | | 1,511 | | | | |
| HF－1 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| HF－1○ | | 7 | | | | 7 | | | | | | | | | | 54 | | 54 | | | | | | | | | | | | | | 54 | | | | |
| HF－2○ | | 13 | | | | 13 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| HP－1 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| HP－1○ | | 12 | | | | 12 | | | | | | | | | | 56 | | 56 | | | | | | | | | | | | | | 56 | | | | |
| FP－3○ | | 8 | | | | 8 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| FC－9 | | | | | | | | | | | | | | | | 1,245 | | 1,245 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| FC－10 | | | | | | | | | | | | | | | | 59 | | 59 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 掘げ土 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 5 | 1152 | 64 | 67 | | 1,288 | 4 | 2 | 1 | 1 | | 5 | 26 | 15 | 41 | 3,369 | 3 | 3,467 | 2 | 1 | | | 3 | | 27 | | 3 | | 6 | | 136 | 172 | 2,338 | | | | 4,930 |

H－19

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ie | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両調石器 | 石匙 | スクレイパー | R7フレイク | U7フレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土 | | 7 | | | | 7 | | | | | | | 1 | | | 25 | | 26 | 1 | | | | 1 | | | | | | 2 | | 2 | 29 | | | | |
| 覆土1 | | 23 | | | | 23 | | | | | | | | 1 | | 38 | | 39 | | | | | | | | | | | | | | 39 | | | | |
| 合計 | | 30 | | | | 30 | | | | | | | 1 | 1 | | 63 | | 65 | 1 | | | | 1 | | | | | | 2 | | 4 | 6 | 72 | | | | 102 |

H－20

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ie | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両調石器 | 石匙 | スクレイパー | R7フレイク | U7フレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土 | | 7 | | | | 7 | | | | | | | | | 2 | 52 | | 54 | | | | | | | 1 | | | | | | 2 | 56 | | | | |
| 覆土1 | | 11 | | | | 11 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | 1 | | 2 | | | | 1 | | 3 | 5 | | | | |
| 床直上 | | 9 | | | | 9 | 1 | | | 1 | | | | | | 15 | | 17 | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | 20 | | | | |
| 床面 | | 48 | | | | 48 | 2 | | | | | | 2 | | 1 | 58 | | 63 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 64 | | | | |
| 床面○ | | 42 | | | | 42 | | | | | | | | | | 1,334 | | 1,334 | | | | | | | | | | | | | | 1,334 | | | | |
| 焼土○ | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | |
| 床下 | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | | 12 | | | | | | | | | | | | | | 12 | | | | |
| 壁 | | | | | | | | | | | | | 2 | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 合計 | | 117 | | | | 117 | 3 | | | 1 | | | 4 | | 3 | 1,478 | | 1,489 | 1 | | | | 1 | | 3 | | 1 | | 5 | | 48 | 57 | 1,547 | | | | 1,664 |

H－21

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ie | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両調石器 | 石匙 | スクレイパー | R7フレイク | U7フレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土1 | | 70 | | | | 70 | | | | | | | 1 | 1 | | 9 | | 11 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 12 | | | | |
| 床直上 | | 34 | | | | 34 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 3 | | | | |
| 床面 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 床面○ | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | 110 | | 110 | | | | | | | | | | | | | | 110 | | | | |
| 壁 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 合計 | | 110 | | | | 110 | | | | | | | 2 | 1 | | 123 | | 126 | | | | | | | | | | | 2 | | 14 | 16 | 142 | | | | 252 |

H－22

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ie | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両調石器 | 石匙 | スクレイパー | R7フレイク | U7フレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| III | | 4 | | | | 4 | | | | | | | 1 | | | 6 | 1 | 8 | | | | | | | | | | | | | | 8 | | | | |
| 覆土上 | | 206 | | | | 206 | | 1 | | | | | | | 1 | 36 | | 38 | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | | | 1 | 40 | | | | |
| 覆土下 | | 49 | | 2 | | 51 | | | | | | | | | | 7 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | |
| 床直上 | | | | | | | | | | | | | 2 | | | 3 | | 5 | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | 6 | | | | |
| 床面 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 4 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | |
| HP－1 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| HP－2 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 261 | | 2 | | 263 | | 1 | | | | | 3 | 2 | 2 | 56 | 1 | 65 | | 2 | | | 2 | | | | | | 1 | | 26 | 27 | 94 | | | | 209 |

H－23

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| 腹土1 | | 62 | 22 | | | 84 | 2 | | | | | 1 | 1 | 2 | 2 | 29 | | 37 | 1 | | | | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | | | 3 | 41 | | | | |
| 腹土2 | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| くぼみ | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ベルト | | 9 | | 1 | | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 層位不明 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 4 | | | | |
| 合計 | | 74 | 22 | 1 | | 97 | 2 | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 31 | | 40 | 1 | | | | 1 | | | | 2 | 1 | 1 | | 67 | 71 | 111 | | | | 177 |

H－24

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| 腹土 | | 101 | | | | 101 | 1 | | | | | 2 | 1 | 2 | 3 | 52 | | 61 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 62 | | | | |
| 合計 | | 101 | | | | 101 | 1 | | | | | 2 | 1 | 2 | 3 | 52 | | 61 | | | | | | | | | | 1 | | 14 | 15 | 76 | | | | 177 |

H－25

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| 腹土2 | | 45 | 6 | | | 51 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 腹土3 | | 18 | | | | 18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 腹土4 | | 34 | | | | 34 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 腹土黒 | 1 | 221 | 40 | 1 | | 263 | 1 | 1 | | 1 | | 4 | 4 | 3 | 6 | 69 | 1 | 90 | | | | 1 | 1 | | 14 | 1 | 5 | 1 | 7 | | 28 | 119 | | | | |
| 腹土茶 | | 60 | | | | 60 | | 2 | | | | | 1 | 2 | 2 | 40 | 2 | 49 | 1 | 1 | | | 2 | 1 | 4 | 1 | 4 | 2 | 1 | | 13 | 64 | | | | |
| 腹土下 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | | 1 | | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| ベルト | | 14 | | | | 14 | 1 | | | | | | | 1 | | 6 | | 8 | | 1 | | | 1 | | | 2 | | | | | 2 | 11 | | | | |
| 床直上 | | 11 | | | | 11 | | | | | | | | | | 5 | | 5 | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 7 | | | | |
| 床面 | | 104 | | | | 104 | | | | | | 1 | 4 | 3 | 3 | 739 | | 750 | | | | 1 | 1 | 6 | 7 | | 5 | 7 | 2 | | 27 | 778 | | | | |
| 床面○ | | 25 | | | | 25 | | | | | | | | | | 3205 | | 3,205 | | | | | | | | | | | | | | 3,205 | | | | |
| 床下 | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | 4 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 5 | | | | |
| HP－1○ | | | | | | | | | | | | | | | | 29 | | 29 | | | | | | | | | | | | | | 29 | | | | |
| 灰○ | | | | | | | | | | | | | | | | 26 | | 26 | | | | | | | | | | | | | | 26 | | | | |
| HP－1○ | | | | | | | | | | | | | | | | 824 | | 824 | | | | | | | | | | | | | 0 | 824 | | | | |
| FC－4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | 2 | 2 | | | | |
| 撹乱 | | 19 | | | | 19 | | | | | | | | 2 | | 3 | | 5 | | | | | | 3 | | | 1 | | | | 4 | 9 | | | | |
| 壁 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 4 | | | | |
| 合計 | 1 | 558 | 46 | 1 | | 606 | 2 | 3 | | 1 | | 5 | 9 | 12 | 11 | 4,954 | 3 | 5,000 | 1 | 3 | | 2 | 6 | 14 | 25 | 4 | 15 | 11 | 10 | | 380 | 459 | 5,465 | | | | 6071 |

H－26

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| 腹土上 | | 160 | | | | 160 | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | 5 | 48 | 3 | 60 | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | 62 | | | | |
| 腹土下 | | 7 | | | | 7 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 合計 | | 167 | | | | 167 | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | 5 | 50 | 3 | 62 | | | | | | | 1 | | | | 1 | | 24 | 26 | 88 | | | | 255 |

H－27

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| 腹土1 | | 21 | | 1 | | 22 | | | | | | | | 1 | | 3 | 1 | 5 | | | | | | | 2 | | | | 1 | | 3 | 8 | | | | |
| 腹土2 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 腹土4 | | 25 | | | | 25 | | | 1 | | | | | | 2 | 7 | | 10 | | | | | | | | | | | | | | 10 | | | | |
| 腹土5 | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | 6 | | 6 | | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | |
| 合計 | | 48 | | 1 | | 49 | | | 1 | | | | | 1 | 2 | 18 | 1 | 23 | | | | | | | 2 | | | | 1 | | 93 | 96 | 119 | | | | 168 |

H－28

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| 腹土1 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 腹土2 | | 24 | | | | 24 | | | | | | | | | 2 | 12 | | 14 | 1 | | | | 1 | | | | 2 | | 2 | | | 4 | 19 | | | | |
| 床面 | | 9 | | | | 9 | | | | | | | | | 2 | 5 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | |
| 構築面 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 焼土○ | | | | | | | | | | | | | | | | 13 | | 13 | | | | | | | | | | | | | | 13 | | | | |
| 合計 | | 33 | | 1 | | 34 | | | | | | | | | 4 | 34 | | 38 | 1 | | | | 1 | | | | 2 | | 2 | | 25 | 29 | 68 | | | | 102 |

H－29

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| P. D. 3 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| Ⅲ | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 腹土1 | | 80 | | | | 80 | | | | | | | 2 | 1 | 1 | 4 | 1 | 9 | | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | | 1 | 11 | | | | |
| 腹土2 | | 71 | | | | 71 | | | | | 1 | | | | | 6 | | 9 | 1 | 1 | | | 2 | 1 | 1 | | 1 | | | | | 3 | 21 | | | | |
| 腹土3 | | 60 | | | | 60 | | 1 | 1 | | | | 2 | 1 | 2 | 14 | | 21 | | | | | | | 2 | | 1 | | | | | 3 | 24 | | | | |
| 腹土4 | | 318 | | | | 318 | | | 1 | | | | 1 | 2 | 3 | 9 | | 16 | | | 1 | | 1 | | 1 | | | | | | | 2 | 19 | | | | |
| HF－1 | | 21 | | | | 21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| HF－1○ | | 66 | | | | 65 | | | | | | | | | | 124 | | 124 | | | | | | | | | | | | | | 124 | | | | |
| 合計 | | 615 | | 3 | | 618 | | | 1 | 1 | 2 | | 5 | 4 | 12 | 162 | 1 | 162 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | 1 | 5 | 1 | 2 | | | | 55 | 64 | 256 | | | | 874 |

H－30

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| 腹土 | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 腹土1 | | 14 | | 4 | | 18 | | | | | | | 5 | | 2 | 33 | | 40 | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 床直上 | | 22 | | | | 22 | | | | | | | 1 | 2 | 1 | 47 | | 51 | | | | | | | 1 | | | | | 2 | 2 | 42 | | | | |
| 床面 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | | 6 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 52 | | | | |
| 床面○ | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | 254 | | 254 | | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | |
| 合計 | | 41 | | 4 | | 45 | | | | | | | 6 | 3 | 5 | 337 | | 351 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | | 6 | 10 | 254 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 361 | | | | 406 |

H－31

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| 腹土上 | | 28 | | | | 28 | | | | | | | | | | 8 | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 8 | | | | |
| 合計 | | 28 | | | | 28 | | | | | | | | | | 8 | | 8 | | | | | | | | | | | | | | 8 | | | | 36 |

H－32

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 諸状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 敲切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石錘 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円礫土製 | |
| Ⅲ | | 15 | | | | 15 | | | | | | | | 3 | 1 | 19 | | 23 | | | | | | | | | | | | | | 23 | | | | |
| 腹土 | | 9 | | 2 | | 11 | | | | | | | | | 1 | 8 | | 9 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 2 | 11 | | | | |
| 腹土上 | 4 | 88 | | | | 92 | | | | | | | 2 | 2 | 2 | 39 | | 45 | | | | | | | 1 | | | | | | 3 | 48 | | | | |
| 腹土ロ | | 29 | | | | 29 | | 1 | 1 | | | | 1 | 2 | 1 | 22 | 2 | 30 | | | | | | 1 | | 1 | 2 | 2 | | | 6 | 36 | | | | |
| 腹土下 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | 7 | | 7 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 8 | | | | |
| 腹土1 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 床直上 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 床面 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 合計 | 4 | 145 | | 2 | | 151 | | 1 | 1 | | | | 4 | 7 | 5 | 98 | 2 | 118 | | | | | | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 3 | | 44 | 66 | 174 | | | | 335 |

H－33

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P. D. 3 | | 12 | | 1 | | 13 | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | |
| Ⅲ | | 102 | | | | 102 | | 1 | | | | | | 4 | 1 | 10 | 1 | 17 | | | | | | 1 | | | | 1 | | | 2 | 19 | | | | |
| 覆土 | 36 | 4 | | 2 | | 42 | | | | | | | 1 | | 1 | 14 | | 16 | | | | | | | | | | | | | | 16 | | | | |
| 覆土1 | 25 | 288 | 1 | | | 314 | | | | | | | | | 3 | 9 | | 12 | | | | | | 1 | | | 1 | | | | 2 | 14 | | | | |
| 覆土2 | 33 | 475 | 2 | 1 | | 511 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 覆土3 | 14 | 127 | | | | 141 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 覆土上 | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 45 | 1 | 56 | | | | | | 1 | 2 | | | 6 | | | 9 | 65 | | | | |
| 覆土中 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 | 3 | | 5 | 65 | | 76 | | | | | | | 1 | | 2 | 4 | | | 7 | 83 | | | | |
| 覆土下 | | | | | | | | 1 | | 1 | | | 5 | 1 | 8 | 33 | | 49 | | 1 | 1 | | 2 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | 4 | 55 | | | | |
| 床直上 | | 23 | | | | 23 | | 1 | | | | | 1 | | | 19 | | 21 | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | 22 | | | | |
| 床面 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | 1 | | | 1 | | 2 | | 1 | | | 2 | | | | | 1 | | | | 1 | 4 | | | | |
| 壁 | 5 | 29 | | | | 34 | | | | | | | | | 2 | 1 | | 3 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 2 | 5 | | | | |
| 合計 | 113 | 1064 | 3 | 4 | | 1,184 | 1 | 3 | | 1 | 1 | 2 | 13 | 8 | 24 | 201 | 2 | 256 | | 2 | 1 | | 3 | 3 | 5 | 1 | 2 | 4 | 13 | | 188 | 216 | 475 | | 1 | | 1,660 |

H－34

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土 | | 406 | | | | 406 | 3 | 1 | 3 | | | | 6 | 2 | 12 | 202 | | 229 | 1 | | 2 | | 3 | 1 | 2 | | 2 | | 3 | | | 8 | 240 | | | | |
| 層位不明 | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | |
| 合計 | | 406 | | | | 406 | 3 | 1 | 3 | | | | 6 | 2 | 12 | 205 | | 232 | 1 | | 2 | | 3 | 1 | 2 | | 2 | | 3 | | 188 | 196 | 431 | | | | 837 |

H－35

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅲ | | 9 | | | | 9 | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | |
| 覆土 | | 58 | | | | 58 | | | | | | | | | 1 | 7 | | 8 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | 10 | | | | |
| 覆土上 | | 246 | 3 | | | 249 | 1 | | 1 | 1 | | | 4 | | 7 | 92 | | 106 | | | 1 | 1 | 2 | 1 | 7 | | | 1 | | | 9 | 117 | | | | |
| 覆土中 | | 375 | | 1 | | 376 | 1 | | | | | | 3 | 4 | 3 | 99 | | 110 | 1 | | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | | 2 | 1 | 1 | | | 7 | 120 | | | | |
| 覆土下 | | 14 | 1 | | | 15 | 1 | | | | | 1 | | 2 | 1 | 22 | | 27 | | | | | | | | | | | | | | 27 | | | | |
| 合計 | | 702 | 4 | 1 | | 707 | 3 | | 1 | 1 | | 1 | 7 | 7 | 13 | 222 | | 255 | 1 | | 2 | 2 | 5 | 2 | 9 | | 2 | 2 | 3 | | 165 | 183 | 442 | | | | 1,150 |

H－36

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土1 | | 65 | 1 | | | 66 | | | | | | 1 | 2 | | 1 | 22 | | 27 | | 1 | | | 1 | | | | 1 | | 2 | | | 3 | 31 | | | | |
| 覆土表 | | 8 | | | | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 覆土下 | | 143 | | | | 143 | | 1 | | | | 2 | 2 | 3 | 1 | 12 | | 21 | 1 | | 2 | | 3 | | 1 | | | 1 | 1 | | | 3 | 27 | | | | |
| 床直上 | | 142 | | | | 142 | | | | | | | | 2 | 1 | 14 | | 17 | | | | | | | 1 | | | 4 | | | 5 | 22 | | | | |
| 床面 | | 748 | | | | 748 | 2 | | | 1 | | 1 | 1 | 3 | 5 | 48 | 1 | 62 | 1 | | 3 | | 4 | 3 | 4 | | 2 | | 32 | | | 41 | 107 | | | | |
| 床面○ | | 115 | | | | 115 | | | | | | | | | | 1715 | | 1,715 | | | | | | | | | | | | | | | 1,715 | | | | |
| HP－1 | | 5 | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| HP－1○ | | | | | | | | | | | | | | | | 231 | | 231 | | | | | | | | | | | | | | | 231 | | | | |
| HP－3 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| HP－11 | | | | | | | | | | | | | | | | 9 | | 9 | | | | | | | | | | | | | | | 9 | | | | |
| HP－12 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 壁 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 合計 | | 1231 | 1 | | | 1,232 | 3 | 1 | | 1 | | 4 | 5 | 8 | 8 | 2,053 | 1 | 2,084 | 2 | 1 | 5 | | 8 | 3 | 7 | | 3 | 1 | 39 | | 199 | 252 | 2,344 | | 1 | | 3,577 |

H－37

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土 | | | | | | | 1 | 3 | | 1 | | 1 | 13 | 8 | 24 | 239 | 3 | 293 | 1 | | | | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | | 1 | | | 9 | 303 | | | | |
| 覆土1 | 3 | 346 | 4 | 9 | | 362 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 覆土2 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 覆土下 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 床面 | | 27 | | | | 27 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| HP－1○ | | 4 | | | | 4 | | | | | | | | | | 190 | | 190 | | | | | | | | | | | | | | | 190 | | | | |
| 堆積不明 | | | | | | | | | | | | | | | | 35 | | 35 | | | | | | | | | | | | | | | 35 | | | | |
| 合計 | 3 | 384 | 4 | 9 | | 400 | 1 | 3 | | 1 | | 1 | 13 | 8 | 24 | 466 | 3 | 520 | 1 | | | | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | | 1 | | 135 | 144 | 665 | | | | 1,065 |

H－38

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土 | | 18 | | | | 18 | | | | | | | | | | 4 | | 4 | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | 2 | 6 | | | | |
| 覆土上 | | 70 | 4 | | | 74 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | 4 | 29 | | 37 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 38 | | | | |
| 覆土下 | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 床直下 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | 5 | | 5 | | | | | | | 1 | | | 3 | | | 4 | 9 | | | | |
| HF－1○ | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | |
| 合計 | | 91 | 4 | | | 95 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | 4 | 47 | | 55 | | | | | | 2 | | 1 | | 4 | | 64 | 71 | 128 | | | | 221 |

H－43

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土1 | | 23 | | | | 23 | 1 | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 6 | | 10 | | | | | | | | | | | | | | 10 | | | | |
| 覆土2 | | 18 | | 10 | | 28 | | | | 1 | | | | | 2 | 3 | 3 | 9 | | | | | | 2 | 1 | | | | | | 3 | 12 | | | | |
| 床面 | | 21 | | | | 21 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| HP | | 1 | | 1 | | 2 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| HF－1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 合計 | | 63 | | 11 | | 74 | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | | 3 | 11 | 3 | 21 | | | | | | 2 | 2 | | | | | | 12 | 16 | 37 | 2 | | | 113 |

H－44

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土1 | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 覆土表 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 黒1 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | 2 | | | | | | | 2 | 4 | | | | |
| 黒2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 合計 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | 1 | | 2 | | 3 | | | | | | | 2 | | | | | | | 1 | 3 | 6 | | | | 9 |

H－45

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土直上 | | 15 | | | | 15 | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | | | | | | 2 | | | 1 | | | 3 | 5 | | | | |
| 合計 | | 15 | | | | 15 | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | | | | | | 2 | | | 1 | | 2 | 5 | 7 | | | | 22 |

H－46

| 層位 | 土器 Ia | Ib | Ic | II | V | 小計 | 剥片石器群 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 磨製石器群 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | 礫石器群 たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | 合計 | その他 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 覆土 | | 31 | | | | 31 | | | | | | | 1 | | 1 | 11 | | 13 | | | | | | | | | | | | | | 13 | | | | |
| HP埋土 | | 7 | | | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 38 | | | | 38 | | | | | | | 1 | | 1 | 11 | | 13 | | | | | | | | | | | | | 22 | 22 | 35 | | | | 73 |

H-47

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 表土 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表土1 | | 108 | | | | 108 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表土上 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 床直上 | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | 3 | | | | |
| 合計 | | 110 | | | | 110 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | 2 | | | 1 | | 5 | 8 | 9 | | | | | 119 |

H-39

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 表土 | | 3 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 7 | 8 | | | | | | | | | | | | | 1 | 9 | | | | |
| 表土上 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 3 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | |
| 表土下 | | 18 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 1 | 3 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | 4 | | | | |
| 床直上 | | 8 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 10 | 12 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 14 | | | | |
| HF-1○ | | | | | | | | | | | | | | | | | 15 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | 15 | | | | |
| 合計 | | 31 | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | 2 | 36 | 41 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | 3 | 7 | 10 | 52 | | | | |

H-40

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| Ⅲ | | 1 | | 47 | | 48 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表土直上 | | 163 | | 4 | | 167 | | | | | | | 2 | 3 | | 2 | 45 | 52 | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | 54 | | | | |
| 表土上 | | 112 | | | | 112 | | | | | | | | | | | 4 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | |
| 表土 | | 24 | | | | 24 | | | | | | | 2 | | | 1 | 14 | 17 | 1 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | 2 | 20 | | | | |
| 合計 | | 300 | | 51 | | 351 | | | | | | | 4 | 3 | | 3 | 63 | 1 | 74 | 1 | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | | | | | 3 | 79 | | | | 430 |

H-41

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| Ⅲ | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | | 2 | 5 | | | | |
| 表土上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表土 | | 17 | | | | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 合計 | | 18 | | | | 18 | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | | 1 | 18 | 21 | 24 | | 1 | | 43 |

H-42

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| Ⅲ | | 27 | | | | 27 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| Ⅲb | | 5 | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表土 | | 54 | | 1 | | 55 | | | | 1 | | 1 | 3 | 1 | | 11 | 1 | 18 | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | 3 | | 4 | 23 | | | | |
| 床直上 | | 20 | | | | 20 | | | | | | | | | 2 | 3 | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | |
| 床面 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | |
| HF-1○ | | | | | | | | | | | | | | | | 23 | | 23 | | | | | | | | | | | | | | | | 23 | | | | |
| 壁 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 合計 | | 108 | | 1 | | 109 | | | | 1 | | 1 | 5 | 2 | 3 | 40 | 1 | 53 | | 1 | | | 1 | 1 | | | 3 | | 7 | 11 | 65 | | | | 174 |

H-49

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 表土 | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |

H-50

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| Ⅲb | | 10 | | | | 10 | | | | | | 1 | | | | 2 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | |
| 表土 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 表土1 | | 18 | 5 | | | 23 | | | | | | | 1 | | | 3 | | 4 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 6 | | | | |
| 表土2 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 表土3 | | 14 | | | | 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表土茶 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 14 | | 15 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 16 | | | | |
| 合計 | | 46 | 5 | | | 51 | 1 | | | | | 1 | 2 | | | 20 | | 24 | | | | | | 1 | | | 2 | | 8 | 11 | 35 | | | | 86 |

H-51

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 表土 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表土上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | 5 |

H-52

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 表土1 | | 25 | | | | 25 | | | | | | | | | 1 | 6 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | |
| 表土上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 25 | | | | 25 | | | | | | | | | 1 | 6 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | 32 |

H-53

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 層位不明 | | 4 | | | | 4 | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | |
| 撹乱 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 5 | | | | |
| 合計 | | 5 | | | | 5 | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 |

H-54

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 表土黒 | | 55 | | | | 55 | | | | | | | 2 | | 4 | 6 | | 12 | | | | | | | | | 1 | 3 | | | | 4 | 16 | | | | |
| 表土1 | | 10 | | | | 10 | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 表土下 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | |
| 層位不明 | | | | | | | | | | | | | 3 | | 4 | 10 | | 17 | | | | | | | | | 1 | 3 | | 21 | 25 | 42 | | | | 107 |
| 合計 | | 65 | | | | 65 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

H-55

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 表土黒 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |

H-56

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | 礫石器群 | | | | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 環状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | Rフレイク | Uフレイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 扳切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| Ⅲ | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 表土上 | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 3 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 4 | | | | |
| 層位不明 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 合計 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | 6 | | 6 | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 7 | | | | 8 |

P－25

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土1 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 合計 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 |

P－26

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 8 | | 9 | 1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | | 2 | 12 | | | | |
| 復土1 | | 21 | | | | 21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 復土2 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 22 | | | | 22 | | | | | | | | 1 | | 8 | | 9 | 1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | | 8 | 10 | 20 | | | | 42 |

P－27

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 合計 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 3 | | | | 6 |

P－28

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| Ⅱ | 1 | 4 | | | | 5 | | | | 1 | 1 | | 2 | | 3 | 4 | | 11 | | | | | | | | | | | | | | 11 | | | | |
| 復土上 | | 11 | | | | 11 | | | | | | | | | 3 | 3 | | 6 | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 8 | | | | |
| 復土下 | | 36 | | | | 36 | | | | | | | 1 | | 2 | | | 3 | | | | | | 14 | 1 | | | | | | 15 | 18 | | | | |
| 焼土直上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | | |
| 焼土 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | |
| 焼土○ | | 2 | | | | 2 | | | | | | | | | | 4 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 床直上 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | 2 | 4 | | | | |
| 床面 | | 57 | | | | 57 | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 壁 | | 40 | | | | 40 | | | | | | | 1 | 1 | 2 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | |
| 合計 | 1 | 151 | | | | 152 | | | | 1 | 1 | | 4 | 1 | 11 | 14 | | 32 | | | | | | 16 | 1 | | 2 | 1 | | 5 | 25 | 57 | | | | 209 |

T－17

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 層位不明 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 3 | | | | 1 |

T－18

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |

T－19

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |

T－21

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | 31 | | 14 | | 45 | 1 | | | | | 2 | 1 | 2 | 1 | 23 | | 30 | | | | | | 1 | 2 | | | | | | 3 | 33 | | | | |
| 合計 | | 31 | | 14 | | 45 | 1 | | | | | 2 | 1 | 2 | 1 | 23 | | 30 | | | | | | 1 | 2 | | | | | | 4 | 7 | 37 | | | | 82 |

T－22

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | 53 | | | | 53 | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 16 | 1 | 20 | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | 22 | | | | |
| 合計 | | 53 | | | | 53 | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 16 | 1 | 20 | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | 7 | 8 | 29 | | | | 82 |

T－26

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |

T－45

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | | 1 |

T－52

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | |
| 復土中 | | | | 42 | | 42 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 42 | | 42 | | 1 | | | | | | | | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | | | | 45 |

FC－11

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 復土 | | | | | | | | | | | | | | | | 143 | | 143 | | | | | | | | | | | | | | 143 | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | 143 | | 143 | | | | | | | | | | | | | | 143 | | | | 143 |

F－3

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| Ⅲ | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 1 | 26 | | 29 | | 1 | | | 1 | | 4 | | | | | | 4 | 34 | | | | |
| 復土 | | 21 | | | | 21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 21 | | | | |
| 復土○ | | | | | | | | | | | | | | | | 21 | | 21 | | 1 | | | 1 | | 4 | | | | | 5 | 9 | 60 | | | | |
| 合計 | | 21 | | | | 21 | 1 | | | | | | | | 1 | 47 | | 50 | | | | | | | | | | | | | | 34 | | | | 81 |

F－4

| 層位 | 土器 | | | | | | 剥片石器群 | | | | | | | | | | | 磨製石器群 | | | | | 礫石器群 | | | | | | | 合計 | その他 | | | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Ia | Ib | Ie | Ⅱ | Ⅴ | 小計 | 石鏃 | 石槍 | 石錐 | 楔状石器 | 両面石器 | 石匙 | スクレイパー | R7レイク | U7レイク | フレイク | 石核 | 小計 | 石斧 | 擦切残片 | 研磨石材 | 石斧破片 | 小計 | たたき石 | すり石 | 石皿 | 砥石 | 石錘 | 石棒 | 環状石斧 | 礫 | 小計 | | 土器片錘 | 土製品 | 円盤土製 | |
| 焼土○ | | | | | | | | | | | | | | | | 88 | | 88 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | 88 | | 88 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 88 |

## 表4　遺構の掲載土器一覧

| 遺構番号 | 図番号 | 出土層位 | 分類 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|
| H－15 | 6-1 | 床面・構築面・覆1 | Ⅱ | H-18 | 23 |
| | 2 | 床面・覆1・2 | Ⅱ | | 16 |
| | 3 | 覆1 | Ⅱ | H-18, N-7-40,N-8-69 | 4 |
| | 4 | 覆1 | Ⅱ | | 1 |
| | 5 | 覆1 | Ⅱ | | 1 |
| | 6 | 床面 | Ⅱ | | 1 |
| | 7a | 覆1 | Ⅱ | | |
| | b | 覆1 | | | 3 |
| | 8 | 覆1 | Ⅱ | | 2 |
| | 9 | 床面 | Ⅱ | | 1 |
| | 10 | 覆1 | Ⅱ | | 1 |
| | 11 | 床面 | Ⅱ | | 2 |
| | 12 | 床直 | Ⅱ | | 1 |
| | 13 | 覆1 | Ⅱ | | 3 |
| | 14a | 床直 | Ⅱ | | |
| | b | 覆1 | | | 2 |
| | 15 | 覆1・2 | Ⅱ | | 2 |
| | 16 | 覆1 | Ⅱ | | 2 |
| | 17 | 覆1 | Ⅱ | | 1 |
| | 18 | 覆2 | Ⅱ | | 1 |
| | 19 | 床直 | Ⅱ | | 1 |
| | 20 | 覆Ⅱ | ⅠB | | 1 |
| | 21 | 床面 | ⅠB | | 1 |
| | 22 | 覆1 | Ⅱ | | 1 |
| H－16 | 10-1 | 床面，覆1・2・Ⅲ | ⅠB | H-28・37, M-7-91,N-7-01 | 68 |
| | 2 | 床面，床直上，覆1 | ⅠB | M-7-90・91 | 41 |
| | 3 | 床面 | ⅠB | | 7 |
| | 4 | 床面 | ⅠB | H-18,M-8-95 | 36 |
| | 5 | 覆土 | Ⅱ | | 2 |
| | 6 | 覆下 | Ⅱ | | 1 |
| | 7 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| H-17 | 15-1 | 覆上・下 | ⅠB | H-18,N-7-01,N-8-08 | 2 |
| | 2 | 覆下 | ⅠB | N-7-12 | 2 |
| | 3 | 覆土 | ⅠB | | 1 |
| H-18 | 22-1 | 床面，覆3.4，HP | ⅠB | N-8-49 | 82 |
| | 2 | 床直上・Ⅲ | ⅠB | H-3・6,N-7-03,04,12,14 | 34 |
| | 3 | 床面，床直上，覆3 | ⅠB | N-8-49・59 | 63 |
| | 4 | 床面 | ⅠB | N-8-29 | 15 |
| | 5 | 覆上 | ⅠB | H-31,N-7-12・20,N-8-29 | 32 |
| | 6 | 覆1,覆上 | ⅠB | H-33,N-8-29・49 | 24 |
| | 7 | 床面 | ⅠB | | 17 |
| | 8 | 床面 | ⅠB | | 1 |
| | 9 | 覆3・4 | ⅠB | | 13 |
| | 10 | 覆3 | ⅠB | | 1 |
| | 11a | 床直，覆3 | 1B | | |
| | b | 床面 | | | 7 |
| | 12 | 覆3 | ⅠB | N-8-29 | 3 |
| | 23-13 | 覆2・4 | ⅠB | T-21,N-8・48 | 17 |
| | 14 | 覆1 | ⅠB | | 2 |
| | 15 | 覆3 | ⅠB | | 2 |
| | 16 | 覆3 | ⅠB | | 13 |
| | 17 | 床面 | ⅠB | | 3 |
| | 18a | 床面 | ⅠB | | |
| | b | 床面 | | | 57 |
| | 19 | 覆4 | ⅠB | | 2 |
| | 20 | 覆3 | ⅠB | | 2 |
| | 21 | 覆3 | ⅠB | | 3 |
| | 22 | 床直 | ⅠB | | 3 |
| | 23 | 覆1・3 | ⅠA | | 1 |
| | 24a | 覆 | ⅠB | 1・3 | 5 |
| | 25 | 覆1・2・3.4 | ⅠB | | 48 |
| | 26 | 覆1 | Ⅱ | H-15,N-7-40,N-8-69 | 4 |
| | 27 | 覆2・4 | Ⅱ | | 7 |
| | 28 | 覆1 | Ⅱ | N-8-49 | 2 |
| | 29 | 覆1 | Ⅱ | | 1 |
| | 30 | 覆1 | Ⅱ | N-8-39 | 3 |
| H－19 | 28-1 | 覆1 | ⅠB | T-22,N-7-41，N-8-36・37 | 7 |
| | 2 | 覆1 | ⅠB | H-9・32・34・38・44， | |
| | | | | N-7-10・20・33 | 14 |
| | 3 | 覆2 | ⅠB | H-21,N-7-12 | 3 |
| H－20 | 32-1 | 床面，覆土 | ⅠB | H-22・24・26, N-7-12・22・45 | 31 |
| | 2 | 床 | ⅠB | N-7-35・45 | 5 |
| | 3 | 覆土 | ⅠB | | 1 |
| | 4 | 覆1 | ⅠB | H-9-34・35，N-7-25・68 | 14 |
| | 5 | 床直上 | ⅠB | | 3 |
| | 6 | 覆土 | ⅠB | | 1 |
| H－21 | 36-1 | 床直 | ⅠB | N-7-64 | 8 |
| | 2 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 3 | 床直 | ⅠB | N-7-30 | 2 |
| | 4 | 床直 | ⅠB | | 1 |
| H－22 | 40-1 | 床直上，覆上 | ⅠB | H-32,N-7-31・32 | 21 |
| | 2 | 床直上，覆土 | ⅠB | H-25・26,N-7-21・31 | 31 |
| | 40-3 | 覆1 | ⅠB | H-16・24, N-7-12・21・22・31 | 14 |
| | 4 | 覆下 | ⅠB | | 1 |
| | 5 | 覆上 | ⅠB | | 4 |
| | 6 | 覆下 | ⅠB | | 1 |
| | 7 | 覆上 | ⅠB | N-7-31 | 5 |
| | 8 | 覆下 | ⅠB | H-34・35,N-7-12・21 | 19 |
| | 9 | 覆下 | Ⅱ | | 2 |
| H－23 | 44-1 | 覆土 | ⅠB | M-7・82・90,N-7-01 | |
| | | | | N-8-19 | 16 |
| | 2 | 覆土 | ⅠB | | 3 |
| | 3 | 覆土 | ⅠE | | 2 |
| | 4a | 覆土 | ⅠE | H-25・55,N-7-01・10・20 | |
| | b | 覆土 | | N-8-09 | |
| | c | 覆土 | | | |
| | d | 覆土 | | | 34 |
| | 5 | 覆土 | ⅠE | N-7-00 | 4 |
| | 6 | 覆土 | ⅠE | | 1 |
| | 7 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| H－24 | 47-1a | 覆土 | ⅠB | | |
| | b | 覆土 | | | 7 |
| | 2 | 覆土 | ⅠB | H-16・22,N7-7-12・21・22・23 | 14 |
| | 3 | 覆2 | ⅠB | | 13 |
| H－25 | 54-1 | 床，床直，覆上・下，Ⅲ，Ⅲb₂ | ⅠB | H-22・26・32・33・34・37, N-7-30,N-8-8・19・29・38・39 | 41 |
| | 2 | 床面，床直，覆黒覆茶，覆下 | ⅠB | H-33・36・38・50, M-8・79・88・89, N-7-44・45,N-8-9・19 | 32 |
| | 3 | 床，覆土，覆茶Ⅲ，Ⅲb₂ | ⅠB | H-22・34,M-7-70,N-7-01 | 13 |
| | 4 | 床面 | ⅠB | H-36 | 31 |
| | 5 | 床面 | ⅠB | | 25 |
| | 6 | 床 | ⅠB | | 5 |
| | 7 | 床，覆黒 | ⅠB | H-36,N-8-28 | 8 |
| | 8 | 覆黒 | ⅠB | H-40, N-7-12・25・33・43・44 | 19 |
| | 9 | 覆黒 | ⅠB | N-7-30・63 | 5 |
| | 10 | 床 | ⅠB | H-36 | 6 |
| | 11 | 覆黒 | ⅠB | | 2 |
| | 12 | 覆土 | ⅠB | | 1 |
| | 13 | 覆黒 | ⅠB | H-11,N-7-49・59・67, N-8-29 | 6 |
| | 14 | 覆黒 | ⅠB | | 2 |
| | 55-15 | 覆黒 | ⅠB | H-9,M-7-94，N-7-34 | 6 |
| | 16 | 覆黒 | ⅠB | | 1 |
| | 17a | 覆黒 | ⅠE | H-50,N-7-10 | |
| | b | 覆黒 | | | |
| | C | 覆黒 | | | 26 |
| | 18a | 覆黒 | ⅠE | | |
| | b | 覆黒 | | N-7-10 | 12 |
| | 19 | 覆黒 | ⅠE | | 1 |
| | 20 | 覆黒 | ⅠE | N-7-10 | 2 |
| | 21 | 覆黒 | ⅠE | | 1 |
| | 22 | 覆黒 | ⅠE | M-8-77 | 8 |
| H－26 | 61-1 | 覆1 | ⅠB | H-9,M-7-95 | |

| 遺構番号 | 図番号 | 出土層位 | 分類 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | N-7・04・05・24 | 17 |
| | 2 | 覆1 | ⅠB | N-7-21・31・32・45 | 20 |
| | 3 | 覆上 | ⅠB | N-7-・31 | 2 |
| | 4 | 床直上 | ⅠB | | 1 |
| | 5 | 覆土 | ⅠB | | 3 |
| | 6 | 覆土 | ⅠB | | 1 |
| | 7 | 覆1 | ⅠB | N-7-32 | 4 |
| | 8 | 覆1 | ⅠB | N-8-37 | 3 |
| | 9 | 覆土 | ⅠB | H-33 | 2 |
| H－27 | 65-1 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 2a<br>b | 覆1<br>覆4 | ⅠB | | 7 |
| | 3 | 覆4 | ⅠB | | 1 |
| | 4 | 覆4 | ⅠB | H-3・6・9・33・35・52<br>M-7・84・94，M-8・88・96<br>N-7-02・03・04・12・<br>20・21・33・44・45・55 | 43 |
| H－28 | 69-1 | 床面 | ⅠB | H-37,N-8-17 | 48 |
| | 2 | 床面 | ⅠB | | 1 |
| H－29 | 74-1a<br>b | 覆1・2<br>覆2 | ⅠB | H-29 | 57 |
| | 2 | 覆1・4,覆直上,Ⅲ | ⅠB | H-21・40,N-7-11,N-8-28 | 37 |
| | 3 | 覆1,覆直上,Ⅲ<br>Ⅲb$_2$，壁 | ⅠB | H-21・22・23・70,P-3,<br>N-7-01・02・13・20・24・<br>32・33・34,N-8・17・18・29 | 22 |
| | 4 | 覆3・4 | ⅠB | H-9,P-3,N-7-23・24・25<br>33・35・46,N-8・18・28 | 35 |
| | 5 | 焼土B | ⅠB | | 1 |
| | 6 | 覆土，覆1・2 | ⅠB | | 8 |
| | 7 | 覆4 | ⅠB | N-7-21,N-8-27・28 | 20 |
| | 8 | 覆2 | ⅠB | | 2 |
| | 9 | 覆2 | ⅠB | | 3 |
| | 10 | 覆4 | ⅠB | | 1 |
| | 11 | 覆4 | ⅠB | | 4 |
| | 75-12 | 覆4 | ⅠB | | 1 |
| | 13 | 覆4 | ⅠB | | 1 |
| | 14 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 15 | 覆3 | ⅠB | | 6 |
| | 16 | 覆4 | ⅠB | | 1 |
| | 17 | 覆1 | ⅠB | | 2 |
| | 18 | 覆2 | ⅠB | H-23,N-8-27・29 | 6 |
| H－29 | 75-19 | 覆3 | ⅠB | | 1 |
| | 20 | 覆1・2・3 | ⅠB | | 4 |
| | 21 | 覆1 | ⅠB | H-33,N-8-18・28 | 17 |
| | 22 | 覆3 | ⅠB | | 1 |
| | 23 | 覆3 | ⅠB | | 1 |
| | 24 | 覆1 | 1E | N-8-08 | 3 |
| | 25 | 覆2 | Ⅱ | | 1 |
| H－30 | 79-1 | 床直 | ⅠB | N-7-30・41・44，N-8・28 | 13 |
| | 2 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 3 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 4 | 床直 | ⅠB | H-33 | 3 |
| H－31 | 82-1 | 覆1 | ⅠB | N-7-22 | 2 |
| H－32 | 84-1 | 覆土，覆1 | ⅠB | H-25・36,N-7-31 | 7 |
| | 2 | Ⅲ | ⅠB | H-9・19・38,N-7-10・20・33 | 7 |
| | 3 | 覆上 | ⅠB | | 2 |
| | 4 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| H－33 | 88-1 | 床直上，覆上・中・下<br>Ⅲ，壁 | ⅠB | H-26・36,N-7-20<br>N-8-29 | 28 |
| | 2 | 覆上・中 | ⅠB | N-8・29 | 86 |
| | 3 | 覆土 | ⅠB | H-23・29・36,P-3<br>T-22,M-7-87,M-8-99<br>N-7・30,N-8・29・38・59 | 27 |
| | 4 | 覆1・中・Ⅲ | ⅠB | H-9・24・29・37・38<br>N-7・24・30・32<br>N-8-18・28・29 | 21 |
| | 5 | 覆土,覆1・2・3,P.D.3,Ⅲ | ⅠB | N-8-28・29 | 66 |
| | 6 | 覆下 | ⅠB | N-7-20 | 16 |
| | 7 | 覆2 | ⅠB | H-35 | 5 |
| | 8 | 覆1 | ⅠB | H-18・35,N-8・29・49 | 23 |
| | 9 | 覆3 | ⅠB | H-25,N-8-19 | 5 |
| | 10 | 覆1 | ⅠB | H-26 | 2 |
| | 11 | 覆1・2 | ⅠB | N-8・29・37 | 4 |
| | 89-12 | 覆1 | ⅠB | H-32・43・47,N-7-04・21・<br>44・47・53,N-8・27・29・38 | 19 |
| | 13a<br>b<br>c<br>d<br>e | 覆2<br>覆2<br>覆2<br>床直上，覆2<br>覆2 | ⅠB | N-8・28 | 65 |
| | 14 | 覆2・3 | ⅠB | H-6・24・26・34<br>M-7-93,N-7-02・04・24 | 49 |
| | 15 | 覆1 | ⅠB | | 3 |
| | 16 | 覆2 | ⅠB | N-7-21・22・44,N-8-69 | 9 |
| | 17 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 18 | 覆1 | ⅠB | H-32,N-8-09 | 9 |
| | 19 | 覆1・2 | ⅠB | | 6 |
| | 20 | 覆3 | ⅠB | | 1 |
| | 21 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 22 | Ⅲ | ⅠB | | 1 |
| | 23 | 覆土，覆1 | ⅠB | | 2 |
| | 24 | 覆2 | ⅠB | H-3・6・9・27・33・35・52,<br>M-7・84・94,M-8・88・96<br>N-7-02・03・04・12・20・21<br>・33・44・45・55 | 43 |
| | 90・25 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 26 | 覆2 | ⅠB | N-8-29 | 6 |
| | 27 | 覆1 | ⅠB | | 2 |
| | 28 | 覆3 | ⅠB | | 1 |
| | 29 | 覆2 | ⅠB | | 1 |
| | 30a<br>b | 壁 | ⅠB | H-29,N-8-27・29 | 6 |
| | 31a<br>b | 覆2<br>壁 | ⅠB | N-7-12,N-8-09 | 15 |
| | 32 | 覆2 | ⅠB | H-29,N-8・18・28 | 17 |
| | 33 | 覆3 | ⅠB | | 3 |
| | 34 | 床直上，覆3 | ⅠB | | 2 |
| | 35 | 覆3 | 1A | | 5 |
| | 36 | 覆土 | 1A | | 5 |
| | 37 | 覆2 | 1A | | 3 |
| | 38 | 覆1 | 1A | N-8・39 | 2 |
| | 39 | 覆3 | 1A | | 1 |
| | 40 | 覆1 | 1A | H-1 | 2 |
| | 41 | 覆土 | 1A | | 1 |
| | 42 | 覆土 | 1A | | 1 |
| | 43 | 覆1 | 1A | | 5 |
| | 44 | P.D.3 | Ⅱ | | 1 |
| | 45 | 床直上 | ⅠB | | 1 |
| H－34 | 95-1a<br>b | 覆土 | ⅠB | H-22・35,N-7-12 | 18 |
| | 2 | 覆土 | ⅠB | H-9・19・32・38・44<br>N-7-10・20・33 | 14 |
| | 3 | 覆土 | ⅠB | H-51 | 4 |
| | 4 | 覆土 | ⅠB | N-7-12 | 3 |
| | 5 | 覆土 | ⅠB | | 1 |
| | 6 | 覆土 | ⅠB | H-9,N-7-31,N-8-28 | 4 |
| | 7 | 覆土 | ⅠB | H-6・24・26・33<br>M-7-93,N-7-02・04・24 | 49 |
| | 8 | 覆土 | ⅠB | | 1 |
| H－35 | 98-1 | 覆2 | ⅠB | H-19 | 10 |
| | 2 | 覆1 | ⅠB | H-3・6・27・33・35・52<br>M-7・84・94,M-8・88・96<br>N-7-02・03・04・12・20<br>21・33・44・45・55 | 43 |
| | 3a<br>b<br>c | 覆1<br>覆1・2<br>覆2 | ⅠB | H-38,N-7-05・21 | 41 |
| | 4 | 覆土，覆1 | ⅠB | H-22・34,N-7-12 | 18 |
| | 5 | 覆1 | ⅠB | | 2 |
| | 6 | 覆2 | ⅠB | | 2 |

| 遺構番号 | 図番号 | 出土層位 | 分類 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|
| H－35 | 98-7 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 8 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 9 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 10a | 覆2 | ⅠB | | |
| | b | 覆2 | | | 8 |
| | 11 | 覆2 | ⅠB | | 1 |
| | 12 | 覆2 | ⅠB | | 2 |
| | 13 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 14 | 覆土 | ⅠB | | 2 |
| | 15 | 覆土 | ⅠB | | 2 |
| | 16a | 覆3 | ⅠE | M-7-91,M-8-95 | |
| | b | 覆1 | | N-7-21,N-8-09・37 | 19 |
| | 17 | 覆1 | 1E | | 1 |
| | 18 | 覆2 | Ⅱ | | 1 |
| H－36 | 105-1 | 床直上 | ⅠB | | 54 |
| | 2 | 床面 | ⅠB | H-25・29・33・37,M-8-98 | |
| | | | | N-8・27・28・29・39 | 52 |
| | 3 | 床 | ⅠB | H-25 | 31 |
| | 4 | 床面，床直上 | ⅠB | H-25 | 40 |
| | 5 | 床面，床直上，覆黒 | ⅠB | | 40 |
| | 6 | 床 | ⅠB | H-38・41,M-8-98, | |
| | | | | N-7-00・10・13 | 11 |
| | 7 | 床面，床直上，覆下 | ⅠB | H-3,N-7-31 | 26 |
| | 8 | 床面，覆黒，覆下，壁 | ⅠB | H-25・37 | 9 |
| | 9 | 覆下 | ⅠB | | 3 |
| | 10 | 床 | ⅠB | | 2 |
| | 11 | 床 | ⅠB | | 1 |
| | 12 | 覆黒 | ⅠB | | 1 |
| | 13 | 床，床直 | ⅠB | | 2 |
| | 14 | 床 | ⅠB | | 1 |
| | 106-15 | 床面，覆茶 | ⅠB | H-25・33・38・40 | |
| | | | | N-7-00・10・22・33・43・53 | |
| | | | | N-8-19 | 33 |
| | 16a | 床直 | ⅠB | | |
| | b | 床直 | | | 13 |
| | 17 | 覆土 | ⅠB | H-41 | 2 |
| | 18a | 床直 | ⅠB | | |
| | b | 床直 | | | 6 |
| | 19a | 床 | ⅠB | | |
| | b | 床 | | | 3 |
| | 20 | 床 | ⅠB | | 1 |
| | 21 | 床直 | ⅠB | | 1 |
| | 22 | 床 | ⅠB | | 1 |
| | 23 | 床面 | ⅠB | | 1 |
| | 24 | 床 | ⅠB | | 2 |
| | 25 | 床 | ⅠB | | 1 |
| | 26 | 床 | ⅠB | | 3 |
| | 27 | 覆黒 | 1E | | 1 |
| | 28 | 床 | ⅠB | | 1 |
| H－37 | 112-1 | 覆土 | ⅠB | H-18,N-8-07・16・18 | 53 |
| | 2 | 覆土 | ⅠB | | 1 |
| | 3 | 覆土，トレンチ | ⅠB | | 3 |
| | 4a | 覆土 | ⅠB | | |
| | b | トレンチ | | | 3 |
| | 5 | 覆土 | ⅠA | | 1 |
| | 6a | 覆土 | ⅠE | N-8-39 | |
| | b | 覆土 | | | 5 |
| | 7 | ベルト | Ⅱ | M-8・98,N-7-21 | |
| | | | | N-8-08・28・39・96 | 8 |
| H－38 | 116-1 | 覆上 | ⅠB | H-35,N-7-05・21 | 41 |
| | 2 | 覆1 | ⅠB | H-40 | 3 |
| | 3 | 覆上 | 1E | | 1 |
| H－40 | 123-1 | 覆直土 | ⅠB | N-7-21・31 | 3 |
| | 2 | 覆土 | ⅠB | H-25,N-7-12・25・33・43・44 | 19 |
| | 3 | 覆直上 | ⅠB | N-7-20・31 | 8 |
| | 4 | 覆直上 | ⅠB | | 2 |
| | 5 | 覆直上 | ⅠB | | 1 |
| | 6 | 覆直上 | Ⅱ | | 4 |
| | 7 | 覆直上 | Ⅱ | | 1 |
| | 8 | Ⅲ | Ⅱ | | 1 |
| H－41 | 117-1 | 覆土 | ⅠB | | 2 |
| H－42 | 127-1 | 床直上 | ⅠB | | 1 |
| | 2 | Ⅲ | ⅠB | | 1 |
| | 3 | 覆土 | ⅠB | | 1 |
| | 4 | 覆土，Ⅲ | ⅠB | | 3 |
| | 5 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 6 | Ⅲ | ⅠB | | 1 |
| | 7a | 覆土 | ⅠB | | |
| | b | 覆土，Ⅲ，Ⅲa | | | 19 |
| H－43 | 131-1a | 覆2 | Ⅱ | | |
| | b | 覆2 | | | 6 |
| | 2 | HP | Ⅱ | | 1 |
| | 3 | 覆2 | Ⅱ | | 1 |
| | 4a | 床面 | | | |
| | b | 覆1 | ⅠB | M-8-95・96,N-8-06 | |
| | c | 床面 | | | 16 |
| | 5 | 覆2 | ⅠA | | 1 |
| | 6 | 覆2 | Ⅱ | | 1 |
| | 7 | 覆2 | Ⅱ | | 1 |
| H－45 | 134-1 | 覆直 | ⅠB | | 1 |
| | 2 | 覆直 | ⅠB | | 2 |
| | 3 | 覆上 | ⅠB | | 1 |
| H－46 | 137-1 | 覆1，Ⅲ | ⅠB | H-25,N-8-09 | 15 |
| H－50 | 144-1 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| | 2 | 覆1 | ⅠB | N-7-02 | 10 |
| | 3 | 覆1 | ⅠE | H-25,N-7-10 | 26 |
| | 4a | 覆1 | ⅠE | | |
| | b | 覆1 | | | 2 |
| H－52 | 149-1 | 覆土 | ⅠB | H-3・6・9・27・33・35・52 | |
| | | | | M-7-84・94，M-8-88・96 | |
| | | | | N-7-02・03・04・12・20・21・ | |
| | | | | 33・44・45・55 | 43 |
| H－55 | 154-1 | Ⅰ | ⅠE | H-23・25,N-7-01 | |
| | | | | 10・20,N-8-09 | 34 |
| P－25 | 160 | 覆1 | ⅠB | | 1 |
| P－28 | 165-1 | 床直上，覆下，Ⅲ，壁 | ⅠB | | 70 |
| | 2 | 覆下 | ⅠB | N-7-12・22・31 | 15 |
| | 3 | 覆土 | ⅠB | N-7-34 | 4 |
| | 4 | 覆土 | ⅠB | N-8-29 | 2 |
| | 5 | 壁 | ⅠB | | 2 |
| | 6 | 焼土直上 | ⅠB | | 2 |
| | 7 | 覆下 | ⅠB | | 1 |
| | 8 | 覆上 | ⅠB | | 1 |
| | 9 | Ⅲ | ⅠA | | 1 |
| | 10 | Ⅲ | ⅠB | | 14 |
| T－19 | 172 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| T－21 | 175-1 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 1 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 3 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 4 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 5 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 6 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 7 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 8 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 9 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| | 10 | 覆土 | Ⅱ | | 1 |
| T－22 | 178-1 | 覆土 | ⅠB | | 2 |
| | 2 | 覆土 | ⅠB | N-7-41,N-8-36・37 | 7 |
| | 3 | 覆土 | ⅠB | H-18 | 3 |
| T－52 | 189 | 覆中 | Ⅱ | | 2 |
| F－3 | 192-1 | Ⅲ | ⅠB | | 1 |
| | 2 | Ⅲ | ⅠB | | 1 |

## 表5　遺構の掲載石器一覧

| 図番号 | 出土区域<br>遺物番号 | 層　位 | 分　類 | 細分類 | 材　質 | 長さ×幅×厚さcm | 重さg | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図Ⅱ－7－1 | H-15-337 | 床　面 | 石　鏃 | 1-b | 硬質頁岩 | (2.6×1.9×0.6) | (1.9) | |
| 2 | H-15-386 | 構築面 | 石　鏃 | 1-b | 硬質頁岩 | (2.1×2.2×0.6) | (1.8) | |
| 3 | H-15-329A | 床　面 | 石　鏃 | 1-b | 硬質頁岩 | (1.5×1.5×0.4) | (1.2) | |
| 4 | H-15-250 | 覆土1 | 石　鏃 | 4 | 硬質頁岩 | 2.5×1.5×0.3 | 1.0 | |
| 5 | H-15-301 | 床　面 | 両面調整石器 | 2 | 硬質頁岩 | 3.7×1.8×0.5 | 2.5 | |
| 6 | H-15-267 | 床直上 | 石　錐 | 4 | 硬質頁岩 | 3.1×1.6×3.0 | 1.2 | |
| 7 | H-15-23 | 覆土1 | 石　錐 | 3 | 硬質頁岩 | 5.9×3.0×0.7 | 10.7 | |
| 8 | H-15-101 | 覆土1 | 両面調整石器 | 5 | 硬質頁岩 | (9.6×7.5×2.6) | (166.0) | |
| 9 | H-15-171 | 覆土1 | 箆状石器 | 3 | 硬質頁岩 | (4.9×3.6×1.1) | (16.3) | |
| 10 | H-15-145 | 覆土1 | 箆状石器 | 3 | 硬質頁岩 | (6.4×5.1×2.0) | (55.1) | |
| 11 | H-15-233<br>304<br>382 | 覆土1<br>床　面<br>構築面 | 石　匙 | 2-e | 硬質頁岩 | (6.8×2.5×0.7) | (14.0) | |
| 12 | H-15-326 | 床　面 | スクレイパー | 6 | 硬質頁岩 | (4.5×4.5×0.9) | (12.2) | |
| 13 | H-15-389 | 構築面 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | (2.9×2.2×0.4) | (2.0) | |
| 14 | H-15-113 | 床　面 | 石　核 | | 硬質頁岩 | 4.4×3.4×3.4 | 52.6 | |
| 15 | H-15-320 | 床　面 | すり石 | | 輝緑岩 | (16.0×9.0×6.6) | (880.0) | たたき痕あり |
| 16 | H-15-199 | 覆土1 | すり石 | 1 | 安山岩 | 7.9×7.0×3.0 | 207.4 | |
| 17 | H-15-303 | 床　面 | すり石 | 2 | 安山岩 | 11.6×8.9×5.3 | 770.0 | |
| 18 | H-15-120 | 覆土1 | たたき石 | 3 | 安山岩 | (6.9×4.8×1.8) | (91.5) | |
| 19 | H-15-258 | 床直上 | 石　錘 | | 凝灰岩 | (7.3×6.9×1.7) | (77.2) | |
| 図Ⅲ－11－1 | H-16-47 | 床　面 | 石　鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 3.1×1.2×0.4 | 1.2 | |
| 2 | H-16-87 | 床　面 | 石　槍 | 3 | 硬質頁岩 | (4.7×2.7×0.6) | (5.0) | |
| 3 | H-16-66 | 床　面 | スクレイパー | 1-a | 硬質頁岩 | 7.3×3.9×1.8 | 44.5 | 縦長剥片 |
| 4 | H-16-79 | 床　面 | スクレイパー | 1-a | 硬質頁岩 | 9.1×6.4×1.6 | 65.2 | |
| 5 | H-16-57 | 床　面 | スクレイパー | 1-a | 硬質頁岩 | 4.8×4.3×0.8 | 13.2 | |
| 6 | H-16-25 | 床　面 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | (5.5×7.0×1.5) | (42.3) | |
| 7 | H-16-101A | 床　面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 7.7×5.5×2.4 | 85.4 | |
| 8 | H-16-42 | 床　面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 10.0×4.7×1.5 | 55.2 | |
| 9 | H-16-45 | 床　面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (5.2×5.8×1.5) | (38.3) | |
| 10 | H-16-10 | 床　面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 3.7×4.4×1.0 | 12.4 | |
| 11 | H-16-58A | 床　面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.0×8.8×2.3 | 78.2 | |
| 12 | H-16-51・63 | 床　面 | Rフレイク | | 硬質頁岩 | (4.7×5.3×1.6) | (4.63) | |
| 13 | H-16-52 | 床　面 | 石　鋸 | | 硬質頁岩 | 6.0×9.1×2.4 | 122.0 | |
| 14 | H-16-59 | 床　面 | Rフレイク | | 硬質頁岩 | (8.8×6.4×1.6) | (44.2) | |
| 15 | H-16-78 | 床　面 | 石　斧 | 1 | 蛇紋岩 | (9.1×4.7×1.4) | (8.8) | |
| 16 | H-16-61 | 床　面 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | (13.9×5.9×3.9) | 87.5 | たたき痕あり |
| 17 | H-16-60 | 床　面 | すり石 | 2 | 安山岩 | 7.9×7.1×4.1 | 340.0 | |
| 18 | H-16-22 | 床　面 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | (10.4×7.1×3.6) | (393.8) | たたき痕あり |
| 19 | H-16-77 | 床　面 | 砥　石 | 1 | 流紋岩 | (12.1×9.5×5.8) | (597.6) | |
| 20 | H-16-2 | 床直上 | 石　錘 | | | 8.8×9.4×3.7 | 304.4 | |
| 21 | H-16-65 | 床　面 | 石　錘 | | 凝灰岩 | 4.1×3.4×1.2 | 18.5 | |
| 22 | H-16-50 | 床　面 | 石　錘 | | 安山岩 | 5.2×4.0×1.9 | 45.8 | |
| 23 | H-16-91 | 床　面 | 石　錘 | | 安山岩 | 7.4×6.3×1.4 | 65.1 | |
| 図Ⅲ－16－1 | H-17-54 | 覆土上部 | 箆状石器 | 1-b | 硬質頁岩 | 9.5×5.5×2.5 | 96.0 | |
| 2 | H-17-80 | 覆土下部 | 箆状石器 | 2-a | 硬質頁岩 | 10.5×5.0×2.5 | 106.0 | |
| 3 | H-17-56 | 覆土上部 | 石　匙 | 4-d | 硬質頁岩 | 3.0×2.8×5.0 | 2.4 | |
| 4 | H-17-68 | 覆土上部 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 8.9×5.6×2.0 | 67.3 | |
| 5 | H-17-35 | 覆土上部 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 8.2×4.3×1.8 | 60.3 | 縦長剥片 |
| 6 | H-17-9 | 覆土上部 | 石　核 | | 硬質頁岩 | 8.0×3.7×2.3 | 96.0 | |
| 7 | H-17-117 | 覆土下部 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.3×8.2×2.8 | 73.3 | |
| 8 | H-17-115 | 覆土下部 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (2.9×4.1×5.5) | (5.3) | |
| 9 | H-17-95・97 | 覆土下部 | 石　斧 | 2 | 閃緑岩 | 16.8×6.5×3.5 | 600.0 | 未製品 |
| 図Ⅲ－17－10 | H-17-64 | 覆土上部 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 16.0×8.2×6.9 | 1180.0 | たたき痕あり |
| 11 | H-17-142 | HP-1 | すり石 | 1 | 花崗斑岩 | (11.8×7.2×5.8) | (710.0) | たたき痕あり |
| 12 | H-17-65 | 覆土上部 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 16.0×5.9×6.9 | 650 | たたき痕あり |
| 13 | H-17-140 | HP-1 | すり石 | 1 | 砂　岩 | (13.2×5.9×6.0) | (660) | たたき痕あり |
| 14 | H-17-141 | HP-1 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 15.4×6.3×4.5 | 660 | たたき痕あり |

| 図番号 | 出土区域 遺物番号 | 層　位 | 分　類 | 細分類 | 材　質 | 長さ×幅×厚さcm | 重さg | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | H-17-6 | 覆土上部 | すり石 | 2 | 閃緑岩 | 10.5×6.2×2.2 | 191.5 | たたき痕あり |
| 16 | H-17-61 | 覆土上部 | すり石 | 2 | 閃緑岩 | 12.2×7.0×2.6 | 381.6 | たたき痕あり |
| 17 | H-17-16•26 | 覆土上部 | 石　鋸 | | 凝灰岩 | (9.3×8.5×0.6) | (46.2) | |
| 18 | H-17-143 | HP-1 | 礫 | | | 5.0×2.6×12.5 | 21.8 | 白色粘土層 |
| 図Ⅲ−24−1 | H-18-712A | 床直上 | 石　鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 2.8×1.2×0.3 | 0.5 | |
| 2 | H-18-556 | 覆土1 | 石　鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | (2.3×1.7×0.5) | (1.5) | |
| 3 | H-18-562 | 覆土1 | 石　鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 2.2×1.4×0.4 | 0.7 | |
| 4 | H-18-483 | 覆土4 | 石　鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 4.1×2.6×0.4 | (2.6) | |
| 5 | H-18-528 | 覆土1 | 石　錐 | 3 | 硬質頁岩 | 3.0×1.5×0.4 | (3.3) | |
| 6 | H-18-69 | 床直上 | 箆状石器 | 1-a | 硬質頁岩 | 7.1×4.5×1.2 | 38.2 | |
| 7 | H-18-817 | 覆土3 | 両面調整石器 | 1 | 硬質頁岩 | 4.3×3.2×1.1 | 13.4 | |
| 8 | H-18-821 | 覆土3 | 石　匙 | 3-b | 硬質頁岩 | 4.3×2.6×0.5 | 5.5 | |
| 9 | H-18-725 | 床　面 | 石　匙 | 1-a | 硬質頁岩 | 9.0×2.2×0.5 | 12.3 | |
| 10 | H-18-814A | 覆土3 | 石　匙 | 4-d | 硬質頁岩 | 2.7×1.6×0.5 | 1.6 | |
| 11 | H-18-745 | 覆土3 | 石　匙 | 3-b | 硬質頁岩 | (2.6×3.0×0.6) | (3.9) | |
| 12 | H-18-709 | 床直上 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 13.0×6.0×1.7 | 162.6 | |
| 13 | H-18-238 | 覆土1 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (5.3×2.9×0.8) | (13.0) | |
| 14 | H-18-827 | 覆土3 | スクレイパー | 6 | 硬質頁岩 | (4.0×4.1×0.5) | (11.1) | |
| 15 | H-18-726 | 床　面 | スクレイパー | 1-a | 硬質頁岩 | 6.1×6.8×2.0 | 70.9 | |
| 16 | H-18-475 | 覆土3 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | (4.0×4.1×0.4) | (6.8) | |
| 17 | H-18-664 | 覆土4 | スクレイパー | 1-a | 硬質頁岩 | (6.4×5.4×1.0) | (34.7) | |
| 18 | H-18-724B | 床　面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | | 51.4 | |
| 19 | H-18-476 | 覆土3 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 6.8×5.8×1.6 | 51.3 | |
| 20 | H-18-750 | 覆土3 | スクレイパー | 1-a | 硬質頁岩 | 4.5×6.0×2.1 | 36.7 | |
| 図Ⅲ−25−21 | H-18-686 | 床直上 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 5.3×7.2×1.5 | 38.2 | |
| 22 | H-18-716 | 床直上 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 9.0×7.2×1.3 | 114.8 | |
| 23 | H-18-705 | 床直上 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.3×6.0×0.9 | 35.4 | |
| 24 | H-18-724A | 床　面 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 6.7×8.3×1.7 | 87.0 | |
| 25 | H-18-785 | 覆土3 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 9.0×4.1×1.1 | 36.5 | |
| 26 | H-18-388 | 覆土3 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.8×5.1×1.3 | 33.9 | |
| 27 | H-18-603 | 覆土1 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (7.0×5.7×2.3) | (102.2) | |
| 28 | H-18-517 | 覆土4 | スクレイパー | 3 | 硬質頁岩 | (7.7×6.0×1.9) | (93.0) | |
| 29 | H-18-481 | 覆土4 | Rフレイク | | 硬質頁岩 | 5.2×5.3×1.6 | 42.7 | 石核？ |
| 30 | H-18-241 | 覆土1 | Rフレイク | | 硬質頁岩 | 6.3×5.6×1.1 | 51.6 | |
| 31 | H-18-132 | 覆土1 | 石　核 | | 硬質頁岩 | 8.5×8.3×1.8 | 117.4 | |
| 図Ⅲ−26−32 | H-18-706 | 床直上 | 石　核 | | 硬質頁岩 | (8.2×8.3×3.1) | (182.6) | |
| 33 | H-18-362 | 覆土3 | 石　斧 | 4 | 閃緑岩 | (2.8×6.0×1.5) | (20.1) | |
| 34 | H-18-717 | 床直上 | 石　斧 | 1 | 蛇紋岩 | (7.5×4.1×1.2) | (54.7) | |
| 35 | H-18-385 | 覆土3 | 石　斧 | 1 | 蛇紋岩 | 10.0×1.9×1.0 | 22.7 | N-7-31-984と接合 |
| 36 | H-18-672 | 床直上 | すり石 | 1 | 安山岩 | 14.0×4.3×4.2 | 268.5 | くぼみ，H-3-236と接合 |
| 37 | H-18-403 | 覆土3 | すり石 | 1 | 安山岩 | 13.6×7.5×5.6 | 650 | たたき痕あり |
| 38 | H-18-232 | 覆土1 | すり石 | 2 | 閃緑岩 | (7.7×5.0×4.0) | (209.8) | |
| 39 | H-18-428 | 覆土3 | 砥　石 | 2 | 凝灰岩 | 11.5×10.0×3.5 | 398 | |
| 40 | H-18-402 | 覆土3 | 砥　石 | 1 | 流紋岩 | 12.5×8.3×5.7 | 525 | |
| 41 | H-18-263 | 覆土1 | 石　錘 | | 閃緑岩 | 7.0×7.0×1.5 | 98.7 | |
| 42 | H-18-625 | 床　面 | 石　錘 | | 流紋岩 | 9.3×8.1×3.2 | 208.0 | |
| 43 | H-18-707 | 床直上 | 石　錘 | | 閃緑岩 | 10.5×9.8×3.0 | 251.0 | |
| 図Ⅲ−29−1 | H-19-45 | 覆　土 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | (3.2×4.7×1.0) | (13.1) | |
| 2 | H-19-44 | 覆　土 | 石　斧 | | 緑色泥岩 | 9.8×4.2×1.6 | 85.2 | N-7-15-51と接合 |
| 3 | H-19-1•46 | 覆　土 | 石　錘 | | 流紋岩 | (5.5×6.5×2.1) | (68.1) | |
| 図Ⅲ−33−1 | H-20-69 | 床　面 | 石　鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 3.8×2.0×0.6 | 4.5 | |
| 2 | H-20-73 | 床　面 | 石　鏃 | 4 | 硬質頁岩 | 3.2×2.0×0.6 | 4.0 | |
| 3 | H-20-68B | 床直上 | 石　鏃 | 5 | 硬質頁岩 | (2.2×2.0×0.7) | (0.3) | |
| 4 | H-20-44B | 覆　土 | 石　錐 | 1 | 硬質頁岩 | 7.1×7.2×1.5 | 51.5 | |
| 5 | H-20-47A | 床直上 | 箆状石器 | 1-a | 硬質頁岩 | 5.7×4.5×0.8 | 21.9 | |
| 6 | H-20-102 | 壁 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 4.6×1.9×0.3 | 3.7 | |
| 7 | H-20-98B | 床　面 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 4.1×4.7×1.0 | 11.0 | |
| 8 | H-20-103 | 壁 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (5.5×3.6×0.6) | (12.9) | 縦長剥片 |
| 9 | H-20-56 | 床　面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 8.9×7.3×2.0 | 116.6 | |
| 10 | H-20-99 | 覆　土 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | (7.3×6.1×4.1) | (227.7) | くぼみ痕あり |

| 図番号 | 出土区域<br>遺物番号 | 層位 | 分類 | 細分類 | 材質 | 長さ×幅×厚さcm | 重さg | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | H-20-48B | 床面 | 砥石 | 1 | 流紋岩 | 8.8×7.0×3.9 | 176.8 | |
| 12 | H-20-46 | 床直上 | 石錘 | | 流紋岩 | 6.6×5.5×1.0 | 61.0 | |
| 13 | H-20-14 | 覆土1 | 石錘 | | 安山岩 | 4.0×3.5×1.1 | 25.4 | |
| 14 | H-20-68C | 床直上 | 石錘 | | 凝灰岩 | 6.6×5.0×2.5 | 120.6 | |
| 図Ⅲ−37−1 | H-21-11B | 覆土1 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 7.7×3.4×1.5 | 29.6 | 縦長剥片 |
| 2 | H-21-3B | 壁 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.4×5.7×1.3 | 44.4 | |
| 3 | H-21-20A | 覆土1 | 石錘 | | 安山岩 | 7.4×4.9×1.8 | 115.1 | |
| 4 | H-21-28A | 床直上 | 石錘 | | 流紋岩 | 9.5×9.4×3.6 | 456.8 | |
| 図Ⅲ−41−1 | H-22-12B | 覆土上部 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 6.4×2.8×1.0 | 15.5 | 縦長剥片 |
| 2 | H-22-19A | 覆土上部 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | (4.4×4.5×1.3) | (20.1) | |
| 3 | H-22-2A | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 4.8×7.2×2.8 | 53.8 | |
| 4 | H-22-11C | Ⅲ | スクレイパー | 6 | 硬質頁岩 | (3.2×2.0×0.5) | (3.2) | |
| 5 | H-22-67B | 覆土上部 | 石錘 | | 流紋岩 | 7.2×7.8×2.8 | 183.4 | |
| 図Ⅲ−45−1 | H-23-141 | | 両面調整石器 | 5 | 硬質頁岩 | (2.9×2.5×0.7) | (4.4) | セクションベルト |
| 2 | H-23-47 | 覆土 | 石匙 | 4-d | 硬質頁岩 | 4.9×3.7×0.7 | 7.9 | |
| 3 | H-23-119 | 覆土 | Rフレイク | | 硬質頁岩 | 9.5×4.7×2.2 | 66.9 | |
| 4 | H-23-46 | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 7.7×6.2×1.4 | 47.4 | |
| 5 | H-23-138 | 覆土 | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | (5.7×5.2×1.5) | (50.7) | |
| 6 | H-23-128B | 覆土 | 石鋸 | | 凝灰岩 | (6.3×4.8×0.9) | (37.2) | |
| 7 | H-23-126 | 覆土 | 砥石 | 1 | 凝灰岩 | 7.2×2.0×2.0 | 43.8 | |
| 8 | H-23-107 | 覆土 | 石錘 | | 閃緑岩 | 8.9×6.9×1.9 | 151.0 | |
| 図Ⅲ−48−1 | H-24-27A | 覆土1 | 石鏃 | 1-b | 硬質頁岩 | 2.0×1.6×0.3 | 0.9 | |
| 2 | H-24-23A | 覆土 | 石匙 | 4-c | 硬質頁岩 | (2.7×1.9×0.3) | (1.8) | |
| 3 | H-24-33 | 覆土 | 石匙 | 3-d | 硬質頁岩 | 7.2×3.5×0.6 | 15.1 | |
| 4 | H-24-26 | 覆土 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 8.1×6.3×1.5 | 106.2 | |
| 5 | H-24-39A | 覆上 | 石錘 | | 凝灰岩 | 5.1×4.0×1.5 | 24.1 | |
| 図Ⅲ−56−1 | H-25-689 | | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | (3.2×1.4×0.4) | (0.9) | セクションベルト |
| 2 | H-25-67 | 覆土黒 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | (2.0×2.0×0.4) | (0.9) | |
| 3 | H-25-423A | 覆土茶 | 石槍 | 1-a | 硬質頁岩 | 9.7×3.9×1.5 | 50.3 | H-25-423Bフレイク6点と接合 |
| 4 | H-25-56 | 覆土黒 | 石槍 | 1-b | 硬質頁岩 | 4.8×2.1×1.4 | 9.1 | |
| 5 | H-25-603 | 床面 | 石匙 | 3-c | 硬質頁岩 | 4.9×3.3×0.5 | | |
| 6 | H-25-28 | 覆土黒 | 石匙 | 3-d | 硬質頁岩 | 7.1×4.0×1.7 | 29.1 | |
| 7 | H-25-594 | 床面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 6.4×5.2×0.9 | | |
| 8 | H-25-655 | 床面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.2×6.7×1.3 | 23.8 | |
| 9 | H-25-497 | 床面 | スクレイパー | 3 | 硬質頁岩 | 7.4×6.6×1.4 | 35.5 | |
| 10 | H-25-410A | 覆土茶 | 石核 | | 硬質頁岩 | 4.9×4.0×2.3 | 49.0 | |
| 11 | H-25-447 | 覆土茶 | 石斧 | 2 | 閃緑岩 | (13.0×0.6×3.8) | (518.2) | |
| 12 | H-25-460B | 覆土茶 | 擦り切り残片 | | 蛇紋岩 | 5.9×1.9×0.9 | 16.4 | N-8-09-1119と接合 |
| 13 | H-25-569 | 床直上 | 擦り切り残片 | | 蛇紋岩 | 6.4×1.0×1.0 | 12.7 | |
| 図Ⅲ−57−14 | H-25-681 | 床攪乱 | たたき石 | 1 | 石英 | 5.2×4.5×5.0 | 142.2 | |
| 15 | H-25-656 | 床面 | たたき石 | 2 | 石英 | 4.4×3.9×2.5 | 54.6 | |
| 16 | H-25-657A | HP-4 | たたき石 | 2 | 石英 | 5.0×4.0×2.7 | 72.6 | |
| 17 | H-25-538 | 床直上 | たたき石 | 2 | 石英 | 5.9×4.2×2.4 | 69.9 | |
| 18 | H-25-537 | 床直上 | たたき石 | 2 | 石英 | 5.3×4.6×2.9 | 92.7 | |
| 19 | H-25-657B | HP-4 | たたき石 | 2 | 流紋岩 | 6.9×7.2×3.5 | 158.2 | |
| 20 | H-25-673 | 床面下 | たたき石 | 2 | 流紋岩 | 8.4×7.5×4.5 | 296.5 | |
| 21 | H-25-403 | 覆土茶 | たたき石 | 2 | 軽石 | 10.4×6.4×4.3 | 108.1 | 石製品？ |
| 22 | H-25-601 | 床面 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 9.1×18.0×6.5 | 1250.0 | |
| 23 | H-25-467<br>573 | 覆土茶<br>床面 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 6.6×13.6×5.2 | 600.0 | たたき痕あり |
| 24 | H-25-563 | 床面 | すり石 | 2 | 閃緑岩 | 9.7×6.1×2.8 | 290.1 | たたき痕あり |
| 25 | H-25-574 | 床面 | すり石 | 3? | 閃緑岩 | 11.1×6.6×3.1 | 350.4 | たたき痕あり |
| 26 | H-25-624 | 床面 | すり石 | 2 | 安山岩 | 9.9×9.8×5.5 | 900.0 | |
| 27 | H-25-492 | 床面 | 石鋸 | | 凝灰岩 | (7.5×9.3×2.8) | (133.4) | |
| 28 | H-25-483 | 床面 | 石鋸 | | | (11.5×12.5×4.7) | (750.0) | |
| 29 | H-25-516B | 床面 | 石鋸 | | 流紋岩 | 8.8×13.4×1.5 | 171.4 | |
| 図Ⅲ−58−30 | H-25-491 | 床面 | 石鋸 | | 流紋岩 | (6.9×8.9×1.5) | (114.9) | 砥石複合 |
| 31 | H-25-507 | 床面 | 石鋸 | | 凝灰岩 | (5.4×6.9×2.0) | (68.7) | 砥石複合 |
| 32 | H-25-488 | 床面 | 石鋸 | | 流紋岩 | (6.4×8.0×1.9) | (85.4) | |
| 33 | H-25-544 | 床面 | 砥石 | 2 | 凝灰岩？ | (11.0×7.2×4.6) | (540.2) | たたき痕あり |

| 図番号 | 出土区域<br>遺物番号 | 層　位 | 分　類 | 細分類 | 材　質 | 長さ×幅×厚さcm | 重さg | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34 | H-25-619 | 床　面 | 砥　石 | 1 | 流紋岩 | (9.7×8.7×3.7) | (405.2) | 線状痕あり |
| 35 | H-25-32 | 覆土茶 | 砥　石 | 1 | 流紋岩 | (18.3×11.4×4.7) | (755.0) | N-8-2-777Aと接合 |
| 36 | H-25-511A | 床　面 | 砥　石 | 2 | 流紋岩 | (7.0×7.6×5.3) | (261.0) | |
| 37 | H-25-597 | 床　面 | 砥　石 | 2 | 流紋岩 | (7.5×9.5×3.5) | (198.0) | |
| 38 | H-25-517 | 床　面 | 砥　石 | 2 | 流紋岩 | (6.3×17.4×2.1) | (83.3) | |
| 39 | H-25-489 | 床　面 | 石　錘 | | 片　岩 | 5.4×7.9×1.7 | 116.8 | |
| 40 | H-25-514 | 床　面 | 石　錘 | | 凝灰岩 | (5.9×4.8×1.6) | (196.2) | |
| 41 | H-25-172 | 覆土黒 | 石製品 | | 軽　石 | 14.0×19.1×8.3 | 980.0 | |
| 図Ⅲ－62－1 | H-26-50B | 覆土上部 | 石　鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 3.0×1.7×0.4 | 1.6 | |
| 2 | H-26-81 | 覆土上部 | 石　匙 | 3-c | 硬質頁岩 | 5.6×3.5×0.5 | 9.1 | |
| 3 | H-26-5 | 覆土上部 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 9.0×3.5×3.2 | 308.0 | 縦長剥片 |
| 4 | H-26-34A | 覆土上部 | 石　核 | | 硬質頁岩 | 3.4×4.1×1.3 | 12.9 | |
| 5 | H-26-33A | 覆土上部 | 石　核 | | 硬質頁岩 | 10.7×1.7×0.4 | 239.8 | |
| 6 | H-26-4 | 覆土上部 | すり石 | 2 | 安山岩 | (6.8×6.8×4.5) | (344.4) | |
| 図Ⅲ－70－1 | H-27-46 | 覆土4 | 箆状石器 | 1-a | 硬質頁岩 | 5.2×39×9.0 | 14.3 | |
| 2 | H-27-16 | 覆土1 | すり石 | 1 | 安山岩 | (7.4×5.8×3.7) | (209.3) | P-3-32と接合 |
| 3 | H-27-12 | 覆土1 | 石　錘 | | 閃緑岩 | 10.4×12.5×3.5 | 528.6 | すり痕あり、4辺加工 |
| 図Ⅲ－66－1 | H-28-41A | 覆土3 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 10.3×5.1×1.2 | 46.7 | |
| 2 | H-28-41B | 覆土3 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 6.0×4.6×1.0 | 19.1 | |
| 3 | H-28-53 | 覆土2 | 砥　石 | 1 | 流紋岩 | (10.5×7.5×5.2) | (365.2) | |
| 4 | H-28-17 | 覆土2 | 砥　石 | 3 | 流紋岩 | (8.0×6.2×1.8) | (77.5) | |
| 5 | H-28-619 | 覆土2 | 石　錘 | | | (7.7×6.0×2.1) | (73.0) | |
| 6 | H-28-54A | 覆土2 | 石　錘 | | 凝灰岩 | 7.1×7.9×3.8 | 272.1 | |
| 図Ⅲ－76－1 | H-29-129 | 覆土3 | 箆状石器 | 3 | 硬質頁岩 | (3.3×3.1×0.7) | (9.1) | |
| 2 | H-29-152 | 覆土4 | 両面調整石器 | 1 | 硬質頁岩 | 4.4×2.9×0.7 | 10.1 | |
| 3 | H-29-25 | 覆土2 | 両面調整石器 | 4 | 硬質頁岩 | 7.7×4.8×2.1 | 72.0 | |
| 4 | H-29-202 | 覆土3 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 6.7×5.5×1.7 | 60.4 | |
| 5 | H-29-156 | 覆土3 | スクレイパー | 6 | 硬質頁岩 | (3.6×4.1×1.0) | (14.1) | |
| 6 | H-29-4 | 覆土2 | 石　斧 | 1 | 蛇紋岩 | (10.1×5.3×2.6) | (181.3) | N-8-38-540と接合 |
| 7 | H-29-54 | 覆土1 | 石　斧 | 1 | 蛇紋岩 | (7.6×2.5×1.0) | (31.0) | |
| 8 | H-29-18 | 覆土2 | 擦り切り残片 | | 蛇紋岩 | 8.6×3.6×1.9 | 68.4 | |
| 9 | H-29-83 | 覆土2 | たたき石 | 2 | 閃緑岩 | (8.2×6.8×3.6) | 294.0 | |
| 10 | H-29-136 | 覆土3 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 14.2×10.2×6.0 | 1,118.0 | たたき痕あり |
| 11 | H-29-101 | 覆土3 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | (7.7×9.7×5.0) | (287.2) | たたき痕あり |
| 12 | H-29-37 | 覆土3 | すり石 | 3 | 凝灰岩 | 10.1×5.1×1.0 | 69.8 | |
| 13 | H-29-214 | 覆土3 | 砥　石 | 1 | 流紋岩 | (9.8×6.2×3.2) | (270.8) | |
| 14 | H-29-13 | 覆土3 | 石　錘 | | 閃緑岩 | (8.9×7.5×2.2) | (176.2) | |
| 図Ⅲ－77－16 | H-29-182 | 覆土4 | 石　皿 | | 閃緑岩 | 37.6×20.3×9.8 | 11,000.0 | |
| 図Ⅲ－80－1 | H-30-75 | 覆土3 | 箆状石器 | 1-a | 硬質頁岩 | 9.8×6.0×1.4 | 80.0 | |
| 2 | H-30-5 | 覆土1 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 6.7×7.2×2.0 | 67.2 | |
| 3 | H-30-76 | 覆土1 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 6.5×5.7×1.8 | 37.3 | |
| 4 | H-30-79 | 覆土1 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 7.2×3.6×0.7 | 24.8 | 縦長剥片 |
| 5 | H-30-51 | 床直上 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 7.8×5.4×1.3 | 41.5 | |
| 6 | H-30-48 | 床直上 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 4.3×3.9×1.0 | 17.8 | |
| 7 | H-30-64 | 床直上 | Rフレイク | | 硬質頁岩 | 7.0×3.3×2.3 | 34.9 | 石核？ |
| 8 | H-30-47 | 床直上 | Rフレイク | | 硬質頁岩 | 10.8×5.0×2.1 | 89.1 | |
| 9 | H-30-80 | 覆　土 | 石　皿 | | 閃緑岩 | (22.5×21.4×5.7) | (4,345.0) | |
| 10 | H-30-59 | 床直上 | 砥　石 | 1 | 流紋岩 | (6.3×9.3×2.6) | (147.1) | |
| 11 | H-30-7 | 覆土1 | 石　錘 | | 流紋岩 | 4.5×4.9×1.8 | 33.5 | |
| 12 | H-30-28 | 覆土4 | 石　錘 | | 流紋岩 | 7.4×5.0×2.1 | 85.4 | |
| 図Ⅲ－85－1 | H-32-93A | 覆土中 | 石　槍 | 2-b | 硬質頁岩 | (3.5×2.0×0.5) | (2.5) | |
| 2 | H-32-79B | 覆土中 | 石　錘 | 1 | 硬質頁岩 | 3.7×3.7×1.0 | 9.5 | |
| 3 | H-32-147 | 床直上 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (4.7×3.9×1.3) | (20.5) | |
| 4 | H-32-28 | 覆土上 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 4.7×4.2×0.7 | 15.2 | |
| 5 | H-32-29A | 覆土上 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (3.2×5.6×1.2) | (27.0) | |
| 6 | H-32-57 | 覆土中 | たたき石 | 1 | 流紋岩 | (5.9×7.3×5.9) | (157.6) | |
| 7 | H-32-159 | 覆土上 | たたき石 | 1 | 流紋岩 | 11.1×7.1×7.1 | 575.8 | |
| 8 | H-32-100 | | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 14.1×7.0×5.1 | 575.8 | |
| 9 | H-32-60 | 覆土中 | 石　鋸 | | 片　岩 | (5.2×4.6×1.3) | (43.7) | 砥石複合 |
| 10 | H-32-63 | 覆土中 | 石　鋸 | | 片　岩 | 3.4×4.1×0.7 | 11.3 | 砥石複合 |

| 図番号 | 出土区域<br>遺物番号 | 層位 | 分類 | 細分類 | 材質 | 長さ×幅×厚さcm | 厚さg | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | H-32-81C | 覆土中 | 砥石 | 1 | 流紋岩 | (5.9×5.1×1.1) | (65.0) | |
| 12 | H-32-62 | 覆土中 | 砥石 | 3 | 流紋岩 | 2.8×6.3×1.9 | 20.2 | |
| 13 | H-32-4 | 覆土上 | 石錘 | | | 6.4×4.5×1.1 | 57.8 | |
| 14 | H-32-145A | 覆土下 | 石錘 | | 凝灰岩 | 4.5×5.9×1.9 | 48.1 | |
| 15 | H-32-156 | 覆土上 | 石錘 | | | (6.0×5.8×3.1) | (99.1) | |
| 16 | H-32-66 | 覆土中 | 石Ⅲ | | 安山岩 | (17.7×9.3×1.9) | (20.2) | たたき痕あり |
| 図Ⅲ-91-1 | H-33-120C | 覆土中 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | (1.8×1.3×0.4) | (0.5) | |
| 2 | H-33-371A | 床直上 | 石槍 | 2-b | 硬質頁岩 | 6.3×2.7×0.5 | 4.6 | |
| 3 | H-33-304 | 覆土下 | 石槍 | 1-a | 硬質頁岩 | 11.1×4.0×1.2 | 33.2 | |
| 4 | H-33-324 | 覆土下 | 箆状石器 | 2-a | 硬質頁岩 | 9.4×4.7×1.8 | 71.6 | |
| 5 | H-33-149 | 覆土中 | 両面調整石器 | 1 | 硬質頁岩 | (8.1×6.5×2.6) | (128.0) | |
| 6 | H-33-406 | 覆土上 | 石匙 | 3-d | 硬質頁岩 | 3.7×2.6×0.4 | 2.5 | |
| 7 | H-33-130 | 覆土中 | 石匙 | 4-d | 硬質頁岩 | 4.3×3.0×0.7 | 5.8 | |
| 8 | H-33-200A | 覆土上 | スクレイパー | 1-a | 硬質頁岩 | 5.7×6.3×1.4 | 44.5 | |
| 9 | H-33-328A | 覆土下 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 6.5×3.3×0.7 | 9.8 | 縦長剥片 |
| 10 | H-33-360 | 壁 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (6.1×0.1×1.8) | (44.8) | 被熱 |
| 11 | H-33-109 | 覆土中 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (5.5×3.7×0.9) | (21.8) | |
| 12 | H-33-184A | 覆土上 | スクレイパー | 6 | 硬質頁岩 | (5.2×4.1×1.1) | (17.2) | |
| 13 | H-33 | 覆土下 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.4×6.2×1.5 | 36.5 | |
| 14 | H-33-364B | 床面 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (4.7×4.8×1.2) | (28.4) | |
| 15 | H-33-106B | 覆土中 | スクレイパー | 3 | 硬質頁岩 | (4.6×3.9×1.4) | (13.3) | |
| 16 | H-33-385 | 床直上 | スクレイパー | 4 | 硬質頁岩 | 4.8×5.0×1.3 | 13.3 | |
| 図Ⅲ-92-17 | H-33-30 | 覆土上 | Rフレイク | | 黒曜石 | 4.1×2.5×0.8 | 7.3 | |
| 18 | H-33-439 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 5.9×5.2×2.2 | 61.3 | |
| 19 | H-33-227B | 覆土上 | 石核 | | 硬質頁岩 | (4.0×5.1×2.5) | (44.1) | |
| 20 | H-33-358 | 床面 | 擦り切り残片 | | 蛇紋岩 | (5.2×1.6×1.1) | 8.6 | |
| 21 | H-33-440 | Ⅲ | たたき石 | 3 | 閃緑岩 | 13.7×6.6×3.8 | 333.0 | |
| 22 | H-33-3 | 覆土上 | たたき石 | 4 | 流紋岩 | 12.4×5.1×3.7 | 303.4 | |
| 23 | H-33-376 | 覆土下 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 14.0×5.8×4.8 | 492.8 | たたき痕あり |
| 24 | H-33-138 | 覆土下 | すり石 | 1 | 安山岩 | 10.6×4.9×3.6 | 242.8 | たたき痕あり |
| 25 | H-33-45 | 覆土上 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | (10.4×6.4×5.7) | (557.0) | たたき痕・くぼみ痕あり |
| 26 | H-33-112A | 覆土中 | 石鋸 | | 蛇紋岩 | (4.7×2.9×1.0) | (8.2) | 砥石複合 |
| 27 | H-33-261 | 覆土1 | 石鋸 | | 蛇紋岩 | (5.2×3.0×1.8) | (35.9) | |
| 28 | H-33-27 | 覆土上 | 石鋸 | | 流紋岩 | (13.1×9.7×2.7) | (234.0) | 砥石複合 |
| 29 | H-33-371B | 床直上 | 砥石 | 1 | 流紋岩 | (6.7×4.3×2.1) | (66.9) | |
| 30 | H-33-312B | 覆土下 | 砥石 | 1 | 閃緑岩 | 11.3×9.3×4.1 | 640 | たたき痕あり |
| 31 | H-33-14 | 覆土上 | 石錘 | | 流紋岩 | 7.6×7.3×1.6 | 126.4 | |
| 32 | H-33-23 | 覆土上 | 石錘 | | 流紋岩 | 6.4×6.0×2.3 | 83.4 | |
| 33 | H-34-364A | 床面 | 石錘 | | 流紋岩 | (6.4×6.1×2.3) | (83.4) | |
| 図Ⅲ-93-34 | H-33-441 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 7.6×7.8×2.0 | (115.2) | |
| 35 | H-33-22A | 覆土上 | 石錘 | | 流紋岩 | 7.6×7.5×3.0 | 171.1 | |
| 36 | H-33-155 | 覆土中 | 石錘 | | 流紋岩 | 7.7×7.6×2.3 | 200.3 | |
| 37 | H-33-402 | 覆土下 | 石錘 | | 流紋岩 | 8.2×8.1×2.2 | 179.0 | |
| 38 | H-33-375 | 壁 | 石錘 | | | 8.8×6.7×1.6 | 98.0 | |
| 39 | H-33-19 | 覆土上 | 石錘 | | | 8.8×5.3×1.6 | 109.7 | |
| 40 | H-33-22B | 覆土上 | 石錘 | | 軽石 | 4.7×7.2×1.8 | 43.2 | |
| 41 | H-33-200B | 覆土上 | 石錘 | | 流紋岩 | 6.6×7.1×2.1 | 82.0 | |
| 42 | H-33-107 | 覆土中 | 石錘 | | | 5.2×7.2×3.0 | 128.0 | |
| 43 | H-33-401 | 壁 | 石Ⅲ | | 安山岩 | (19.9×25.9×7.1) | (4500.0) | |
| 図Ⅲ-96-1 | H-34-114A | 覆土 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | (2.7×1.4×0.4) | (1.1) | |
| 2 | H-34-223 | 覆土 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 3.4×1.3×0.4 | 1.1 | |
| 3 | H-34-218 | 覆土 | 石錘 | 1 | 硬質頁岩 | 3.2×2.0×0.6 | 3.5 | |
| 4 | H-34-194 | 覆土 | 石錐 | 1 | 硬質頁岩 | 3.5×2.0×0.6 | 3.4 | |
| 5 | H-34-148 | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.1×5.2×1.4 | 24.8 | |
| 6 | H-34-12 | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.4×6.1×1.2 | 34.6 | |
| 7 | H-34-108 | 覆土 | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 18.9×7.6×3.2 | 561.8 | N-7-1-228と接合 |
| 8 | H-34-30 | 覆土 | たたき石 | 2 | 安山岩 | 14.0×8.3×4.5 | 760.0 | |
| 9 | H-34-18 | 覆土 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 10.6×5.8×2.6 | 254.7 | たたき痕あり |
| 10 | H-34-51B | 覆土 | 石錘 | | 流紋岩 | (7.7×7.0×1.7) | (98.7) | |
| 11 | H-34-219 | 覆土 | 石錘 | | 流紋岩 | 5.6×7.5×1.1 | 71.8 | |

| 図番号 | 出土区域遺物番号 | 層位 | 分類 | 細分類 | 材質 | 長さ×幅×厚さcm | 重さg | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | H-34-119B | 覆土 | 石錘 | | 閃緑岩 | 2.9×3.9×0.9 | 17.1 | |
| 図Ⅲ-99-1 | H-35-75 | 覆土上 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 3.7×1.5×0.4 | 1.1 | |
| 2 | H-35-33 | 覆土下 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 3.0×1.4×0.5 | 1.1 | |
| 3 | H-35-30 | 覆土中 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | (2.7×1.5×0.3) | (0.9) | |
| 4 | H-35-66 | 覆土下 | 石匙 | 4-c | 硬質頁岩 | 3.3×2.0×0.4 | 2.0 | |
| 5 | H-35-69 | 覆土上 | 石錐 | 1 | 硬質頁岩 | 7.6×5.3×1.8 | 64.1 | |
| 6 | H-35-76 | 覆土上 | 箆状石器 | 1-b | 硬質頁岩 | 8.3×5.1×1.7 | 60.8 | |
| 7 | H-35-7 | 覆土中 | スクレイパー | 1-a | 硬質頁岩 | 4.8×5.3×1.3 | 28.4 | |
| 8 | H-35-40 | 覆土上 | スクレイパー | 3 | 硬質頁岩 | (3.4×3.6×0.5) | (5.3) | |
| 9 | H-35-55 | 覆土上 | スクレイパー | 5 | 硬質頁岩 | (4.4×6.4×1.2) | (35.2) | |
| 10 | H-35-8 | 覆土中 | Rフレイク | | 硬質頁岩 | 5.8×3.8×1.5 | 29.7 | |
| 11 | H-35-17 | 覆土上 | Rフレイク | | 硬質頁岩 | 7.8×4.6×1.8 | 56.7 | |
| 12 | H-35-89 | 覆土中 | 石鋸 | | 硬質頁岩 | 5.3×8.5×1.8 | 74.8 | |
| 13 | H-35-88 | 覆土中 | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | (3.3×1.4×0.6) | (3.7) | |
| 14 | H-35-56 | 覆土上 | たたき石 | 4 | 片岩 | 12.1×3.7×1.6 | 81.5 | |
| 15 | H-35-87 | 覆土中 | たたき石 | 4 | | (9.7×4.3×3.4) | (118.4) | くぼみ痕あり |
| 16 | H-35-58 | 覆土中 | すり石 | 1 | 安山岩 | 11.5×7.2×5.7 | 630.0 | H-40-29と接合 |
| 17 | H-35-21 | 覆土中 | 砥石 | 1 | 流紋岩 | (9.7×6.5×1.5) | (109.0) | |
| 18 | H-35-22 | 覆土中 | 石錘 | | 閃緑岩 | 5.8×8.3×2.2 | 139.9 | |
| 図Ⅲ-107-1 | H-36-144 | 床面 | 石鏃 | 5 | 硬質頁岩 | (3.1×1.5×0.3) | (1.1) | |
| 2 | H-36-198 | 床面 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 3.2×1.5×0.6 | 2.2 | |
| 3 | H-36-29 | 覆土 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | (2.9×1.5×0.6) | (1.6) | |
| 4 | H-36-112 | 覆土下 | 石槍 | 2-b | 硬質頁岩 | 6.2×2.4×0.6 | 8.9 | |
| 5 | H-36-204 | 床面 | 箆状石器 | 2-b | 硬質頁岩 | 9.9×3.7×2.4 | 46.6 | |
| 6 | H-36-47 | 覆土下 | 石匙 | 4-c | 硬質頁岩 | 3.8×2.9×0.6 | 3.9 | |
| 7 | H-36-186 | 床面 | 石匙 | 4-d | 硬質頁岩 | 3.6×2.6×0.4 | 3.5 | |
| 8 | H-36-41B | 覆上 | 石匙 | 4-c | 硬質頁岩 | 3.7×3.3×0.5 | 4.2 | |
| 9 | H-36-28 | 覆土 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 5.9×3.5×1.0 | 11.1 | |
| 10 | H-36-207 | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 7.2×2.5×0.7 | 14.4 | |
| 11 | H-36-100 | 覆土下 | スクレイパー | 2 | 黒曜石 | 4.5×4.1×1.0 | 14.7 | |
| 12 | H-36-27 | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (5.3×8.4×1.8) | (11.5) | |
| 13 | H-36-165 | 床面 | 石核 | | 硬質頁岩 | 11.1×8.6×5.0 | 437.0 | |
| 14 | H-36-139 | 床面 | 石斧 | 2 | 緑色泥岩 | 11.7×4.4×2.0 | 118.1 | |
| 15 | H-36-84 | 覆土下 | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 6.6×3.1×1.1 | 43.5 | |
| 図Ⅲ-108-16 | H-36-70 | 覆土下 | 研磨石材 | | 蛇紋岩 | 16.4×11.3×3.1 | 83.0 | |
| 17 | H-36-141 | 床面 | たたき石 | 1 | 閃緑岩 | 8.3×6.0×4.6 | 350.4 | くぼみ痕あり |
| 18 | H-36-162 | 床面 | たたき石 | 2 | | 7.4×6.0×2.9 | 102.0 | |
| 19 | H-36-365 | 壁 | すり石 | 1 | 輝緑石 | 16.7×8.0×8.1 | 350.4 | たたき痕あり |
| 20 | H-36-216 | 床面 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 15.3×8.3×5.1 | 1020.0 | たたき痕あり |
| 21 | H-36-247 | 床直上 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | (8.1×5.5×5.4) | (360.8) | たたき痕あり |
| 22 | H-36-188 | 床面 | すり石 | 2 | 閃緑岩 | (8.7×8.6×4.1) | (168.0) | たたき痕あり |
| 23 | H-36-40 | 覆土 | 砥石 | 1 | 凝灰岩 | (12.2×7.1×1.4) | (168.0) | |
| 24 | H-36-270 | 床面 | 石錘 | | 閃緑岩 | 5.5×7.6×2.3 | 144.3 | 石錘集中 |
| 25 | H-36-262 | 床面 | 石錘 | | 流紋岩 | 9.8×6.4×2.6 | 186.1 | 石錘集中 |
| 図Ⅲ-109-26 | H-36-272 | 床面 | 石錘 | | 流紋岩 | 6.8×4.9×1.7 | 78.2 | 石錘集中 |
| 27 | H-36-275 | 床面 | 石錘 | | 流紋岩 | 7.6×6.3×1.8 | 79.5 | 石錘集中 |
| 28 | H-36-265 | 床面 | 石錘 | | 流紋岩 | 7.5×6.0×2.3 | 115.2 | 石錘集中 |
| 29 | H-36-254 | 床面 | 石錘 | | 流紋岩 | 6.5×5.5×2.2 | 94.2 | 石錘集中 |
| 30 | H-36-269 | 床面 | 石錘 | | 流紋岩 | 7.3×6.4×2.1 | 129.4 | 石錘集中 |
| 31 | H-36-271 | 床面 | 石錘 | | | 6.5×5.5×2.2 | 92.6 | 石錘集中 |
| 32 | H-36-251 | 床面 | 石錘 | | 流紋岩 | 8.6×7.2×2.0 | 117.6 | 石錘集中 |
| 33 | H-36-253 | 床面 | 石錘 | | 流紋岩 | 7.8×7.6×2.7 | 131.2 | 石錘集中 |
| 図Ⅲ-113-1 | H-37-107A・281 | 覆土 | 石槍 | 1-b | 硬質頁岩 | 6.6×2.3×1.1 | 11.3 | |
| 2 | H-37-154 | 覆土 | 石槍 | 1-b | 硬質頁岩 | (4.5×2.5×0.7) | (9.6) | |
| 3 | H-37-25A | 覆土 | 石槍 | 3 | 硬質頁岩 | (5.4×2.4×1.1) | (9.6) | |
| 4 | H-37-62 | 覆土 | 箆状石器 | 1-b | 硬質頁岩 | 5.6×3.7×1.4 | 25.5 | |
| 5 | H-37-91A | 覆土 | 両面調整石器 | 1 | 硬質頁岩 | 3.2×2.2×0.8 | 6.6 | |
| 6 | H-37-159B | 覆土 | 石匙 | 4-d | 硬質頁岩 | 4.4×2.4×0.4 | 2.8 | |
| 7 | H-37-157 | 覆土 | スクレイパー | 1-a | 硬質頁岩 | 10.8×5.2×1.4 | 100.0 | |
| 8 | H-37-74 | 覆土 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 8.8×6.2×1.3 | 70.8 | |

| 図番号 | 出土区別遺物番号 | 層位 | 分類 | 細分類 | 材質 | 長さ×幅×厚さcm | 重さg | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | H-37-265A | 覆土下 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 8.1×5.8×1.5 | 60.2 | |
| 10 | H-37-77A | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (6.1×2.6×10.0) | (14.1) | 被熱 |
| 11 | H-37-167 | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 7.1×5.3×2.1 | 50.3 | |
| 12 | H-37-153A | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (9.1×6.1×1.5) | (76.2) | |
| 13 | H-37-167 | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.7×7.2×1.3 | 42.2 | |
| 14 | H-37-46 | 覆土 | 石核 | | 硬質頁岩 | 4.0×6.3×2.3 | 54.3 | |
| 15 | H-37-73 | 覆土 | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | (5.8×3.9×1.2) | (35.6) | |
| 図Ⅲ-114-16 | H-37-83 | 覆土 | たたき石 | 3 | | 14.6×6.7×2.9 | 384.8 | |
| 17 | H-37-80A | 覆土 | たたき石 | 3 | | 11.0×5.5×2.5 | 205.6 | |
| 18 | H-37-166 | 覆土 | すり石 | 1 | 凝灰岩 | 14.5×8.7×5.7 | 455.8 | |
| 19 | H-37-82 | 覆土 | すり石 | 1 | 砂岩 | (7.2×5.4×9.2) | (214.4) | |
| 20 | H-37-49 | 覆土 | 石錘 | | | 4.3×5.2×0.6 | 20.2 | |
| 21 | H-37-66 | 覆土 | すり石 | 2 | 閃緑岩 | 12.4×10.9×4.0 | 780.0 | たたき痕あり |
| 22 | H-37-271 | HP-1 | 石皿 | | 閃緑岩 | 32.3×27.5×8.5 | 9000.0 | |
| 図Ⅲ-118-1 | H-38-57 | 覆土上 | 石鏃 | 1-b | 硬質頁岩 | 2.9×1.8×5.5 | 2.4 | |
| 2 | H-38-44 | 覆土上 | 石匙 | 4-b | 硬質頁岩 | 4.7×4.4×1.0 | 16.3 | |
| 3 | H-38-20 | 覆土上 | スクレイパー | 3 | 硬質頁岩 | 5.7×4.0×1.4 | 15.3 | |
| 4 | H-38-37A | 床直上 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | (11.1×7.1×4.4) | (498.4) | たたき痕あり |
| 5 | H-38-311 | 床直上 | 石錘 | | 石英 | 11.2×8.4×4.3 | 600.0 | |
| 図Ⅲ-121-1 | H-39-17 | 床直上 | 石匙 | 1-a | 硬質頁岩 | 7.8×1.9×0.7 | 10.5 | |
| 2 | H-39-18 | 床直上 | 石錘 | | 安山岩 | 6.9×5.5×3.0 | 156.7 | |
| 3 | H-39-19 | 床直上 | 石錘 | | 流紋岩 | (5.5×5.4×1.9) | (69.9) | |
| 4 | H-39-27 | 覆土 | 石錘 | | | (6.2×3.8×1.7) | (30.9) | |
| 図Ⅲ-124-1 | H-40-4 | 覆土直上 | 石匙 | 3-c | 硬質頁岩 | 6.7×3.6×0.9 | 12.9 | |
| 2 | H-40-16 | 覆土直上 | 石匙 | 3-c | 硬質頁岩 | 5.7×4.0×0.7 | 9.6 | |
| 3 | H-40-27 | 覆土上 | 石匙 | 3-d | 硬質頁岩 | 6.2×2.5×0.9 | 2.7 | |
| 4 | H-40-27 | 覆土上 | 石匙 | 3-c | 硬質頁岩 | (2.7×1.9×0.4) | (1.6) | |
| 5 | H-40-9 | 覆土直上 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 7.6×4.4×1.6 | 27.9 | |
| 6 | H-40-17 | 覆土直上 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (3.6×6.4×1.9) | (23.9) | |
| 7 | H-40-3 | 覆土直上 | スクレイパー | 3 | 硬質頁岩 | (5.1×5.8×1.6) | (42.7) | |
| 8 | H-40-31 | 覆土上 | 石斧 | 2 | 片岩 | 10.9×5.7×2.1 | 180.8 | |
| 9 | H-40-29 | 覆土上 | すり石 | 1 | | (5.1×5.5×7.1) | (223.4) | H-35と接合 |
| 10 | H-40-28 | 覆土上 | 石錘 | | | 4.0×3.0×1.5 | 23.2 | |
| 図Ⅲ-119-1 | H-41-4 | 覆土 | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | (5.5×5.5×2.1) | (72.2) | N-8-16-186と接合 |
| 2 | H-41-5 | 覆土 | すり石 | 1 | | 6.0×15.0×2.4 | 278.2 | たたき痕あり・くぼみ痕あり |
| 3 | H-41-9 | 覆土 | 砥石 | 1 | 蛇紋岩 | (3.9×5.7×1.5) | (34.2) | |
| 4 | H-41-16 | 覆土 | 石錘 | | 閃緑岩 | 8.6×5.6×1.8 | 109.8 | |
| 図Ⅲ-128-1 | H-42-27B | 覆土 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | (2.2×1.3×0.3) | (0.7) | |
| 2 | H-42-56B | 覆土 | 箆状石器 | 1-b | 硬質頁岩 | 4.7×3.6×1.3 | 20.2 | |
| 3 | H-42-46 | 覆土 | 石匙 | 2-c | 硬質頁岩 | 7.6×2.4×0.7 | 11.9 | |
| 4 | H-42-3 | 床面 | スクレイパー | 3 | 硬質頁岩 | 8.6×3.1×1.1 | 33.5 | |
| 5 | H-42-44 | 壁 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 5.0×3.4×0.8 | 13.5 | |
| 6 | H-42-41 | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 5.5×3.9×1.8 | 24.1 | |
| 7 | H-42-39B | 覆土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 6.7×5.1×2.0 | 49.9 | |
| 8 | H-42-17 | 覆土 | たたき石 | 2 | | 9.8×8.2×3.0 | 330.8 | 被熱 |
| 9 | H-42-45 | 覆土 | 石錘 | | 流紋岩 | (6.2×4.8×1.6) | (47.1) | |
| 10 | H-42-4 | 覆土 | 石錘 | | 流紋岩 | 6.8×5.7×2.9 | 127.8 | |
| 図Ⅲ-132-1 | H-43-35 | 覆土1 | 石鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 2.7×1.2×0.5 | 1.2 | |
| 2 | H-43-56 | 覆土2 | 箆状石器 | 2-b | 硬質頁岩 | 7.5×4.0×1.9 | 44.2 | |
| 3 | H-43-25 | 覆土1 | 石匙 | 2-e | 硬質頁岩 | (4.1×2.6×1.0) | (13.3) | |
| 4 | H-43-36 | 覆土1 | スクレイパー | 6 | 硬質頁岩 | (3.2×2.1×0.5) | (1.2) | |
| 5 | H-43-64 | 覆土2 | 石核 | | 硬質頁岩 | 8.3×4.4×4.4 | 146.5 | |
| 6 | H-43-58 | 覆土2 | 石核 | | 硬質頁岩 | 5.4×4.0×2.4 | 70.3 | |
| 7 | H-43-47 | 覆土2 | たたき石 | 1 | 石英 | 6.8×5.7×5.3 | 282.0 | |
| 8 | H-43-41 | HP-1 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 12.3×6.7×4.6 | 452.8 | たたき痕あり |
| 9 | H-43-59B | 覆土2 | すり石 | 4 | | (6.8×7.7×4.9) | (200.3) | |
| 10 | H-43-68 | 覆土2 | すり石 | 1 | 安山岩 | (7.0×7.3×5.4) | (321.8) | |
| 図Ⅲ-69-1 | H-44-2 | 覆土 | すり石 | 1 | | 12.7×7.2×5.0 | 530.0 | |
| 図Ⅲ-135-1 | H-45-5B | 覆土直上 | すり石 | 2 | 閃緑岩 | 9.6×9.2×3.2 | 425.2 | たたき痕あり |
| 2 | H-45-5A | 覆土直上 | 石錘 | | 閃緑岩 | 10.0×6.5×1.9 | 194.3 | たたき痕・擦り痕あり |

| 図番号 | 出土区域<br>遺物番号 | 層　位 | 分　類 | 細分類 | 材　質 | 長さ×幅×厚さcm | 厚さg | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図Ⅲ－138－1 | H-46-5 | 覆　土 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 6.6×4.7×1.5 | 25.1 | |
| 図Ⅲ－139－1 | H-47-1 | 覆土上 | すり石 | 4 | | (8.4×4.9×3.0) | (112.9) | たたき痕あり |
| 2 | H-47-18 | 覆土上 | 石　錘 | | | 8.6×7.2×2.1 | 176.6 | |
| 図Ⅲ－145－1 | H-50-29 | 覆土茶 | 石　鏃 | 1-b | 硬質頁岩 | 3.4×2.4×0.6 | 3.8 | |
| 2 | H-50-24 | Ⅲb | 石　匙 | 4-c | 硬質頁岩 | (3.9×4.3×0.7) | (7.1) | |
| 3 | H-50-31 | 覆土1 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (5.8×2.8×1.0) | (15.9) | |
| 4 | H-50-27 | 覆土1 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 6.2×4.3×1.3 | 25.4 | |
| 5 | H-50-16 | 覆土茶 | たたき石 | 4 | 片　岩 | 14.0×5.6×2.4 | 262.5 | |
| 6 | H-50-30 | 覆土1 | 石　錘 | | 流紋岩 | 8.9×6.2×2.4 | 125.0 | |
| 7 | H-50-28 | 覆土1 | 石　錘 | | 安山岩 | 7.2×5.6×2.0 | 136.9 | |
| 図Ⅲ－146－1 | H-51-3 | 覆土上 | 石　錘 | | 安山岩 | 8.5×5.6×2.7 | 169.2 | |
| 図Ⅲ－153－1 | H-54-33A | 覆　上 | 石　匙 | 2-b | 硬質頁岩 | (4.5×2.5×0.8) | (7.0) | |
| 2 | H-54-33B | 覆　土 | スクレイパー | 3 | 硬質頁岩 | 7.8×5.9×1.4 | 49.0 | |
| 3 | H-54-34 | 覆　土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (7.5×3.4×1.9) | (35.2) | |
| 4 | H-54-37 | 覆　土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 4.2×4.1×0.9 | 15.7 | |
| 5 | H-54-35 | 覆　土 | 石　鋸 | | 流紋岩 | (6.9×7.0×1.6) | (70.0) | |
| 6 | H-54-31 | 覆　土 | 石　錘 | | 流紋岩 | 8.2×8.7×2.9 | 246.8 | |
| 7 | H-54-15 | 覆　土 | 石　錘 | | 安山岩 | 6.5×5.3×2.2 | 97.4 | |
| 8 | H-54-16 | 覆　土 | 石　錘 | | 安山岩 | 5.0×7.3×2.4 | 107.4 | |
| 図Ⅲ－166－1 | H-56-4 | 覆土上 | 石　錘 | | 頁　岩 | 9.0×6.1×2.9 | 184.2 | |
| 図Ⅲ－161－1 | P-25-2 | すり石 | | 1 | 閃緑岩 | 15.5×7.1×6.5 | 900.0 | たたき痕あり |
| 図Ⅲ－163－1 | P-26-8 | 覆　土 | 石　鋸 | | 頁　岩 | 5.4×4.2×1.2 | 21.4 | |
| 図Ⅲ－166－1 | P-28-21B | Ⅲ | 箆状石器 | 1-b | 硬質頁岩 | 6.2×3.8×1.2 | 21.5 | |
| 2 | P-28-20A | Ⅲ | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | (5.7×5.2×1.0) | (22.1) | |
| 3 | P-28-21C | Ⅲ | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 4.9×3.9×0.7 | 8.3 | |
| 4 | P-28-25B | 覆土下 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 10.8×3.5×1.8 | 59.3 | |
| 5 | P-28-41 | 壁 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | (5.6×6.1×1.9) | (61.3) | |
| 6 | P-28-29A | Ⅲ | 両面調整石器 | 4 | 硬質石器 | 7.1×4.2×2.0 | 47.6 | |
| 7 | P-28-43 | 床直上 | たたき石 | 2 | | (8.2×9.5×3.8) | (331.4) | |
| 8 | P-28-42A | 床直上 | たたき石 | 2 | 軽　石 | (12.4×4.4×4.7) | (337.8) | |
| 9 | P-28-36 | 覆土下 | たたき石 | 2 | 閃緑岩 | (6.1×5.6×1.9) | (331.4) | |
| 10 | P-28-24 | 覆土下 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | (8.5×6.8×6.2) | (507.2) | たたき痕あり |
| 11 | P-28-3 | 焼土直上 | 石　錘 | | 流紋岩 | 6.3×8.0×2.4 | 193.9 | |
| 図Ⅲ－171－1 | T-18-1 | 覆　土 | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 8.6×7.2×1.7 | 78.5 | |
| 図Ⅲ－174－1 | T-21-10 | 覆　土 | 石　鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 2.6×1.9×0.3 | 1.2 | |
| 2 | T-21-11 | 覆　土 | 石　匙 | 2-e | 硬質頁岩 | (2.9×1.9×0.6) | (3.3) | |
| 3 | T-21-9 | 覆　土 | 石　匙 | 2-c | 硬質頁岩 | 6.0×2.9×0.8 | 14.2 | |
| 4 | T-21-6 | 覆　土 | 石　匙 | 1 | 流紋岩 | (8.0×6.6×4.6) | (282.2) | |
| 5 | T-21-14 | 覆　土 | すり石 | 4 | | (9.7×6.7×3.5) | (189.5) | |
| 図Ⅲ－177－1 | T-22-5 | 覆　土 | スクレイパー | 1-b | 硬質頁岩 | 8.0×6.8×2.0 | 90.7 | |
| 2 | T-22-4 | 覆　土 | 砥　石 | 1 | | (9.6×7.9×3.0) | (185.5) | |
| 図Ⅲ－188 | T-52-1 | 覆土中 | 石　槍 | 1-a | 硬質頁岩 | 13.0×5.9×1.8 | 98.1 | |
| 1 | F-3-13 | Ⅲ | 石　鏃 | 1-a | 硬質頁岩 | 3.5×2.0×0.6 | 3.7 | |
| 2 | F-3-5 | Ⅲ | たたき石 | 2 | 石　英 | 7.5×6.0×2.6 | 143.5 | |
| 3 | F-3-17 | Ⅲ | すり石 | 3 | 閃緑岩 | (8.2×5.1×2.9) | (182.3) | |
| 4 | F-3-17 | Ⅲ | すり石 | 1 | | (14.3×8.0×5.1) | (760.0) | 被熱 |

## 表６　包含層の掲載土器一覧　早期Ⅰ群Ａ類

| 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 |
|---|---|---|---|---|
| 5－1 a・b | M-7-96 N-7-05 N-8・28・37 H-33 | Ⅲ・Ⅲb2 覆土 覆下 壁 | | 40 |
| 2 | N-7-30 | Ⅲ | | 11 |
| 3 | N-7-30 | Ⅲ | | 6 |
| 4 | N-8-39 | Ⅲ | | 3 |
| 5 | N-7-30 | Ⅲ | | 2 |
| 6 | N-7-30 | Ⅲ | | 2 |
| 7 | N-7-30 | Ⅲ | | 3 |
| 8 | M-7-86 N-7-30 | Ⅲ Ⅲb2 | | 3 |
| 9 | N-7-30 | Ⅲ | | 1 |
| 10 | N-8-28 | Ⅲ | | 2 |
| 11 | N-8-96 | Ⅲ | | 1 |
| 12 a b c | N-8-16 N-8-16 N-8-07 | Ⅲ Ⅲ Ⅲ | | |
| d | N-8-16 | Ⅲ | | 6 |
| 13 | N-8-18 | Ⅲ | | 2 |
| 14 | N-8-18 | Ⅲ | | 1 |
| 15 | N-8-18 | Ⅲ | | 1 |
| 16 | N-8-16 | Ⅲ | | 1 |
| 17 | N-8-16 | Ⅲ | | 2 |
| 18 | N-8-16 | Ⅲ | | 1 |
| 19 | N-8-27 | Ⅰ | | 1 |
| 20 | M-8-95 | Ⅰ | | 1 |

## 表７　包含層の掲載土器一覧　早期Ⅰ群Ｂ類

| 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 |
|---|---|---|---|---|
| 8－1 | N-7-01-03 H-3 H-54 | Ⅲ．ⅢB2 覆2．上 覆黒 | | 32 |
| 2 a・b | N-7-30 41・51 H-30 | Ⅲ．Ⅲb2 覆土 | N-7-41 | 34 |
| 3 | M-8-90 M-8-95・96 N-8-05・06・95 H-43 | Ⅲ 杭 覆土 覆2 | | 59 |
| 4 | M-7-94 N-7-02・03 N-7-04・13・20 N-7-21・30・33 N-7-34・35・44 N-8・39・59 H-3 H-23・25 H-36 H-40 | Ⅲ．Ⅲb2 P.D.3 掘上土 覆1・中 覆1 覆下 覆直上 | | 28 |
| 5 | N-8-27・37 | Ⅲ | | 5 |
| 9－6 | M-8-84・97 N-7-10・31 H-23・24 H-40・50 | Ⅲ 覆土 覆土・茶 | | 16 |
| 7 | N-7-01・02 N-7-21・61 N-8-36・37 H-54 | Ⅲ Ⅲb2 覆1 覆黒 | | 27 |
| 8 | N-7-00 H-9 H-25 | Ⅲ 覆4 覆土 | | 11 |
| 9 | M-7-82 M-8-95 N-7-01 N-8-05・06 | Ⅲ | M-7-82,N-7-01 N-8-05, H-43 | 22 |
| 10 | N-8-16 | Ⅲ | | 11 |
| 11 | N-7-12・21 H-22・25 H-34・35 H-38・41 | Ⅲ 覆上．覆1 覆土．覆上 | | 12 |
| 12 | N-7-02・13 N-7-56・73・ N-8-17・27 ・29・39・ H-6・9 H-18・20 H-33・34 | Ⅰ．Ⅲ． Ⅲb2 覆2・3・4・5 覆土．床 | | 29 |
| 13 | M-8-95 N-8-05・16 | Ⅲ | M-8-95 | 98 |
| 10－14 | M-8-99 N-8-77・08 16・17・37 | Ⅲ・Ⅲb2 | | 10 |
| 15 a・b | N-7-21・ 22・31・41 H-22 | Ⅲ Ⅲb2 覆上 | | 25 |
| 16 | N-8-06・07 H-37 | Ⅰ．Ⅲ 覆1 | N-8-07 | 96 |
| 17 a・b | M-8-95・96 ・97 N-8-05・06 ・37 | Ⅲ | M-8-95・98 N-7-00・20 N-8-14 | 39 |
| 18 | N-7-31 | Ⅲ．Ⅲb2 | | 18 |
| 19 | N-7-44・45 ・54・64 H-42 | Ⅰ．Ⅲ Ⅲ上．下Ⅲb 覆土 | | 32 |
| 11－20 a・b | N-7-50・73 | Ⅲ | | 9 |
| 21 | M-7-89 M-8-88 N-7-33・42・ 44・47・61 | Ⅰ．Ⅲ Ⅲ上 Ⅲb2 掘上土 | | 14 |
| 22 | M-8-87・95 N-8-16 | Ⅰ．Ⅲ | M-8-85・86・87 N-8-15 | 18 |
| 23 | N-8-17 | Ⅲ．Ⅲb2 | N-8-17・39 | 32 |
| 24 | M-7-82 M-8-95 N-8-05・15 | Ⅰ．Ⅲ | | 13 |
| 25 a・b | N-7-31 H-9・25・ 26・35 | Ⅲ.Ⅲ以.覆土. 覆2.覆上 .中.覆茶 | | 60 |
| 12・26 | N-7-21 H-34・35・ ・38 | Ⅲ 覆土.覆上 .覆中 | N-7-21 H-34・35 | 128 |
| 27 | N-8-28・37 | Ⅲ | N-8-28・37 | 50 |
| 28 | N-8-18・28 H-29 | ⅢP.D.3 覆2 | N-8-28 | 102 |
| 29 | N-7-00 H-25 | Ⅲ 覆1 | N-7-00 | 86 |
| 30 | N-7-04・20 ・40・44・54 N-8-19 | 覆土 Ⅲ．Ⅲb2 ．Ⅲb | N-7-04・20・22 ・24・31・44 N-8-28 H-31 | 28 |
| 31 | N-8-07・35 | Ⅰ．Ⅲ | | 4 |
| 13－32 | N-8-37 | Ⅲ | N-8-37 | 14 |
| 33 | N-8-27・29 ・37・39 | Ⅲ | N-8-27・36 | 14 |
| 34 | N-7-00・53 H-5 H-36 | Ⅲ 覆土 覆下 | | 5 |
| 35 | N-7-21 H-22・34 ・35 | Ⅲ 覆土 覆上・中 | N-7-21 H-22 | 16 |
| 36 | M-7-97 N-7-12・16・ 18・31・32・76 H-22 | Ⅲ 覆上 | N-7-31 H-26 | 19 |
| 37 | M-7-83 N-7-01・04・ 05・25・34 ・43・54 H-20・33 H-50 P-9 | Ⅰ・Ⅲ Ⅲb2 床面・覆下 覆1 覆2 | N-7-25 H-24 P-9 | 29 |
| 38 | N-8-16 | Ⅲ | N-7-01,H-18 | 22 |
| 39 a・b・c | N-7-33 N-8-05・09 ・17・19・27 ・36・37 H-33・40 | Ⅲ 覆土 覆上 | N-8-09・27・38 | 31 |
| 14－40 | N-7-31 H-32 | Ⅲ・Ⅲb2 覆土 | | 20 |
| 41 | N-8-09 H-37・47 | Ⅲ 覆1・覆上 | | 14 |
| 42 | N-8-49 | Ⅲ | | 14 |
| 43 | N-8-09 | Ⅲ | | 3 |
| 44 | M-8-89 | Ⅲ | | 4 |
| 45 | M-8-98 N-8-07・09 ・18 H-29 | Ⅲ 覆2 | N-8-09 | 39 |
| 46 | M-7-91・94 N-7-02 H-16・21 | Ⅲ 床面・覆1 | | 43 |
| 47 | N-7-31 | Ⅲ | | 1 |
| 48 | N-7-31 | Ⅲ | | 1 |
| 49 | N-8-37 | Ⅲ | | 2 |
| 50 | N-7-61 | Ⅲ | | 1 |
| 51 | N-8-17 | Ⅲ | | 2 |
| 52 | M-8-97 | Ⅲ | | 1 |
| 53 | N-8-38 | Ⅲb2 | | 18 |
| 54 | N-8-08 | Ⅲb2 | | 1 |
| 55 | M-7-70 | Ⅲ | | 1 |
| 56 | N-8-39 | Ⅲ | | 3 |
| 57 | N-7-02 | Ⅲ | | 4 |
| 58 | N-7-32 | Ⅲ | | 1 |
| 59 | N-7-02 | Ⅲ | | 1 |
| 60 | N-8-17 | Ⅲb2 | | 2 |
| 15－61 | M-8-94 ・95・96 | Ⅰ．Ⅲ | | 6 |
| 62 | M-7-81 N-7-00 | Ⅲ Ⅲb2 | | 3 |
| 63 | N-7-31 | Ⅲ | N-8-39 | 12 |
| 64 | N-7-12 N-8-28 | Ⅲ Ⅲ | N-8-28 | 7 |
| 65 a b | N-7-21 N-7-41 | Ⅲ Ⅲ | N-7-21・31 | 9 |
| 66 a b | N-8-19 N-8-19 | Ⅲ Ⅲ | | 9 |
| 67 a b | N-7-30 ・40・50 N-7-30 | Ⅲ Ⅲ | | 4 |
| 68 | N-7-30 | Ⅲ | | 1 |
| 69 | N-8-29 | Ⅲ | N-8-29,H-18 | 3 |
| 70 | N-8-28 | Ⅲ | N-7-10・31 | 3 |
| 16－71 | N-7-02 | Ⅲ | | 1 |
| 72 | N-8-36・37 | Ⅲ | N-7-41,H-19 T-22 | 7 |
| 73 | N-8-68 | Ⅲ | | 1 |
| 74 | N-7-64 | Ⅲb | H-21 | 8 |
| 75 | N-8-28 | Ⅲ | H-25・36 | 8 |
| 76 | N-7-21 N-7-31 | Ⅲ Ⅲb2 | M-7-73,N-7-00・20・ 21・31,N-8-28,H-36 | 14 |
| 77 a b | M-7-81 M-7-72 | Ⅲ Ⅲa | N-7-03・13 | 5 |
| 78 | N-7-30 N-8-37 | Ⅲ Ⅲ | | 7 |
| 79 a b | N-8-28 N-7-02 ・30・33 | Ⅲ Ⅲ | | 4 |
| 80 | N-7-31 | Ⅲb2 | | 1 |
| 81 a b | N-7-40 N-7-30・40 | Ⅲ Ⅲ | | 4 |
| 82 | N-7-02 | Ⅲ | | 1 |
| 83 | N-8-27 | Ⅰ | | |
| 84 a b | N-7-01 ・02・20 | Ⅲ Ⅲb2 | N-7-02 | 18 |
| 85 | N-7-63 | Ⅲ | | 9 |
| 17－86 | N-7-21 ・22 | Ⅲ Ⅲb2 | N-7-44 | 6 |
| 87 | N-8-69 | Ⅲ | H-33 | 3 |
| 88 | N-7-12 | Ⅲ | H-17 | 2 |
| 89 | M-8-96 | Ⅲ | M-8-95, N-8-06, H-43 | 16 |
| 90 | N-7-05 ・22・32 | Ⅲ | | 4 |
| 91 a b | N-7-53・63 N-7-20・32 | Ⅲ | | |
| 92 | M-8-95 N-8-29 | Ⅲ Ⅲ | | 5 4 |
| 93 | N-8-28 | Ⅲ | H-9 | 2 |
| 94 | N-7-73 | Ⅲ | | 2 |

| 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 | 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 | 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17－95 | N-7-30 | Ⅲ | | 4 | 109 | N-7-31 | Ⅲ | | 2 | 122 | N-7-32 | Ⅲb2 | | |
| 96 | N-8-37 | Ⅲ | | 4 | 110 | N-8-37 | Ⅲ | | 1 | | N-7-33 | Ⅲ | | 7 |
| 97 | N-7-30 | Ⅲ | N-8-28, H-33 | 65 | 111 | N-7-31 | Ⅲ | | 1 | 123 | N-7-21•22 | Ⅲ | N-7-51 | 2 |
| 98 | N-7-20 | Ⅲ | N-7-20, H-40 | 8 | 112 | N-7-73 | Ⅲ | | 1 | 124 | N-7-30 | Ⅲ | | 6 |
| 99 | N-7-30 | Ⅲ | H-21 | 2 | 113 | N-7-22 | Ⅲ | | 2 | 125 | N-8-47 | Ⅲ | | 1 |
| 100 | N-8-37 | Ⅲ | N-8-29, H-33 | 4 | 114 | N-7-61 | Ⅲ | | 2 | 19－126 | N-8-39 | Ⅲb | | 1 |
| 101 | N-8-08 | Ⅲb2 | | 1 | 115 | N-8-07 | Ⅲ | | 1 | 127 | N-7-22•32 | Ⅲ | | 2 |
| 102 | N-7-32 | Ⅲ | | 1 | 116 a | N-8-09 | Ⅲb | | | 128 | N-7-12 | Ⅲ | | 1 |
| 103 | N-8-09 | Ⅲ | H-32・33 | 9 | b | N-7-12 | Ⅲ | H-33 | 15 | 129 | M-8-95 | Ⅲ | | 1 |
| 18－104 | N-7-12 | Ⅲ | N-7-12,H-22 | | 117 | N-7-41 | Ⅲ | | | 130 | N-7-20 | Ⅲ | | 2 |
| | | | ・34・35 | 18 | | N-7-42 | Ⅲb2 | N-7-30 | 5 | 131 | N-8-37 | Ⅲ | | 1 |
| 105 | N-7-20 | Ⅲ | | 1 | 118 a | N-8-38 | Ⅲ | | | 132 | N-8-29 | Ⅲ | | 2 |
| 106 | N-8-37 | Ⅲ | H-26 | 3 | b | N-8-37 | Ⅲ | | 3 | 133 | N-7-02 | Ⅲ | | 1 |
| 107 | N-7-31 | Ⅲ, Ⅲb2 | N-7-21•31•32 | | 119 | N-8-37 | Ⅲ | | 3 | 134 | N-8-37 | Ⅲ | | 1 |
| | | | •45,H-26 | 20 | 120 | N-7-21•31 | Ⅲ | | 2 | 135 | N-7-12 | Ⅲ | | 1 |
| 108 | N-8-37 | Ⅲ | | | 121 | N-8-38 | Ⅲ | | | | | | | |
| | N-8-39 | 杭 | | 2 | | N-8-39 | Ⅲ | | 5 | | | | | |

## 包含層の掲載土器一覧　早期ＩＥ類

| 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 | 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 | 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20－1 | N-8-19 | Ⅲ | N-8-19 | 156 | 15 a | N-7-10 | 包含層 | | | 26 | N-8-28 | Ⅲb2 | | 1 |
| 2 | N-8-14 | Ⅲ | N-8-14 | 15 | b | N-7-10 | Ⅲ | | | 27 a | M-8-95 | Ⅲ | | |
| 3 | N-8-05 | Ⅲ | | 11 | c | N-8-36 | Ⅲ | | 7 | b | M-8-95 | Ⅲ | | 3 |
| 4 a | M-8-85 | Ⅲ | | | 16 a | M-8-95 | Ⅲ | M-7-91,M-8-95,N-7-21,N-8-09•37,H-35 | | 28 | N-8-09 | Ⅲ | | 5 |
| b | M-8-95 | | | 2 | b | M-8-95 | Ⅲ | | 19 | 29 | N-7-01 | Ⅲb2 | N-7-10・20,N-8-09, H-23・25・55 | 34 |
| 5 | N-7-22 | Ⅲ | | | 17 a | N-7-10 | Ⅲ | N-7-10 | | 30 | N-7-01 | Ⅲ | | 1 |
| | N-7-32 | Ⅲ | | 2 | b | N-7-10 | Ⅲ | H-25・50 | 26 | 31 | M-8-98 | Ⅲ | | 1 |
| 6 a | N-8-09 | Ⅲ | | | 18 | N-7-10 | Ⅲ | H-25 | 2 | 32 | N-8-06 | Ⅲ | | 1 |
| b | N-8-09 | Ⅲ | | 3 | 19 | N-7-09 | Ⅲ | | 1 | 33 | N-8-07 | Ⅲ | | 1 |
| 7 a | N-8-37 | Ⅲ | | | 20 | N-8-05 | Ⅲ | | 6 | 34 | N-8-06 | Ⅲ | | 1 |
| b | N-8-29 | Ⅲ | | 3 | 21 a | M-8-95 | Ⅲ | | | 35 | M-8-95 | Ⅲ | | 2 |
| 8 | N-8-09 | Ⅲ | | 2 | b | M-8-95 | Ⅲ | M-8-95 | | 21－36 | M-8-88 | Ⅲ | M-8-95 | 3 |
| 9 | M-8-91 | Ⅲ | | 1 | c | M-8-95 | Ⅲ | | 5 | 37 | M-7-91 | Ⅲ | M-7-91 | 10 |
| 10 | N-7-21 | Ⅲ | | 1 | 22 a | N-7-10 | Ⅲ | N-7-10, H-25 | | 38 | M-7-81 | Ⅲ | | 1 |
| 11 | M-8-95 | Ⅲ | | 1 | b | N-7-10 | Ⅲ | | 12 | 39 | M-8-96 | Ⅲ | | 2 |
| 12 | M-8-77 | Ⅲ | | 2 | 23 | N-8-09 | Ⅲ | | 1 | 40 | M-8-77 | Ⅲ | | 1 |
| 13 | M-8-95 | Ⅲ | | 1 | 24 | M-8-95 | Ⅲ | | 1 | 41 | M-8-99 | Ⅲ | | 3 |
| 14 | M-8-95 | Ⅲ | | 2 | 25 | M-8-85 | Ⅲ | | 1 | 42 | N-8-07 | Ⅰ | | 2 |

## 包含層の掲載土器一覧　前期Ⅱ群

| 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 | 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 | 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 22－1 | N-7-00, | Ⅱ, Ⅲ | | | d | M-8-98 | Ⅰ | H-37,N-8-08•96 | 8 | 34 | N-7-01 | Ⅲ | | 1 |
| | N-8-09 | P.D.3 | | 109 | 15 | M-7-60 | Ⅲ | | 1 | 35 | M-7-91 | Ⅲ | | 2 |
| 2 | N-8-18•28 | 覆2, Ⅲ | | | 16 | N-8-08 | Ⅲ | | 2 | 36 | N-8-09 | Ⅲ | | 1 |
| | H-29 | P.D.3 | N-8-28 | 102 | 17 | N-7-21 | Ⅲ | | 7 | 37 | N-7-42 | Ⅲ | | 3 |
| 3 | N-7-40 | Ⅲ | | | 18 | M-8-88 | Ⅲ | | 1 | 38 | M-8-96 | Ⅲ | | 1 |
| | N-8-69 | | | 2 | 19 | N-8-39 | Ⅲ | H-18 | 3 | 39 | N-7-31 | Ⅲ | | 1 |
| 4 | M-7-81•91 | Ⅲ | | | 20 | M-7-91 | P.D.3 | | 2 | 40 | N-7-30 | Ⅲ | | 1 |
| | N-8-08 | Ⅲ | | 3 | 23－21 | N-7-60 | Ⅲ | | 4 | 41 | M-7-80 | Ⅲ | | 1 |
| 5 | N-8-49 | Ⅲ | | 4 | 22 | N-8-08 | Ⅲ | | 1 | 42 | N-7-20 | Ⅲ | | 1 |
| 6 | N-8-08 | Ⅲ | | 1 | 23 | M-7-81 | P.D.3 | | 1 | 43 | M-7-61 | Ⅲ | | 1 |
| 7 a | M-7-81•91 | Ⅲ | | | 24 a | N-7-21 | Ⅲ | | | 44 | N-7-20 | Ⅲ | | 1 |
| b | M-7-91 | Ⅲ | | 4 | b | N-7-20 | Ⅲ | | 6 | 45 | N-7-60 | Ⅲ | | 1 |
| 8 | M-7-82 | Ⅲ | | 2 | 25 | N-7-03•18 | Ⅲ | | | 46 | N-7-30 | Ⅲ | | 2 |
| 9 | N-7-51 | P.D.3 | | 1 | | •31 | | | 3 | 47 | N-7-64 | Ⅰ | | 1 |
| 10 | M-7-92 | Ⅲ | | 1 | 26 | M-8-99 | Ⅲ | | 6 | 48 | N-7-50 | Ⅲ | | 1 |
| 11 | N-8-69 | Ⅲ | | 2 | 27 | N-8-0836 | Ⅲ | | | 49 | N-7-61 | Ⅲ | | 1 |
| 12 | N-8-08 | Ⅲ | | 1 | | •37 | | | 4 | 50 | N-7-30 | Ⅲ | | 1 |
| 13 a | M-7-80 | Ⅲ | | | 28 | N-7-61 | Ⅲ | | 1 | 51 | N-7-64 | Ⅰ | | 1 |
| b | M-7-91 | Ⅲ | | 2 | 29 | N-8-09 | Ⅲ | | 2 | 52 | N-8-69 | Ⅲ | | 5 |
| 14 a | N-7-21 | Ⅲ | | | 30 | N-8-08 | Ⅲ | | 4 | 53 | N-8-29 | Ⅲ | | 3 |
| | N-8-28 | Ⅲ | | | 31 | M-7-92 | Ⅲ | | 1 | 54 | N-8-47 | Ⅲb | | 1 |
| b | N-8-39 | Ⅲ | | | 32 | N-7-20 | Ⅲ | | 3 | 55 | M-8-88 | Ⅲ | | 1 |
| c | N-8-39 | Ⅲ | | | 33 | N-7-42 | Ⅲ | | 2 | | | | | |

## 包含層の掲載土器一覧　晩期Ⅴ群

| 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 | 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 | 図番号 | 発掘区 | 出土層位 | 同一個体出土遺構・発掘区 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 24－1 a | N-7-50 | Ⅲ | | | 3 | N-7-40 | Ⅲ | | 2 | 5 a | N-8-37 | Ⅲ | | |
| b | N-7-40 | Ⅲ | | | 4 a | N-7-32 | Ⅲ上 | | | b | N-8-46 | Ⅲ | | 5 |
| c | N-7-50 | Ⅲ | | 3 | b | N-7-32 | Ⅲ | | | 6 | M-8-89 | Ⅰ | | 2 |
| 2 | N-8-09 | 撹乱 | | 1 | c | N-7-32 | Ⅲ | | 3 | | | | | |

## 包含層・遺構の掲載土・石製品一覧

| 挿図番号 | 出土区・遺物番号 | 層位 | 分類 | 点数 | 挿図番号 | 出土区・遺物番号 | 層位 | 分類 | 点数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 54－1 | M-7-82-41 | Ⅲ | 土器片錘 | 1 | 54－7 | N-8-07-118 | Ⅰ | 土器片錘 | 1 |
| 2 | N-8-19-214 | Ⅲ | 〃 | 1 | 8 | N-8-19-364 | Ⅲ | 〃 | 1 |
| 3 | N-8-27-3 | ⅢP.D.3 | 〃 | 1 | 9 | N-7-31-1022 | Ⅲ | 円盤状土製品 | 1 |
| 4 | M-7-80-12 | Ⅲ | 〃 | 1 | 10 | N-7-40-274B | Ⅲb2 | 〃 | 1 |
| 5 | M-8-96-156 | Ⅲ | 〃 | 1 | 11 | H-41-7 | 覆土 | 土製品（?） | 1 |
| 6 | N-8-28-132 | Ⅲ | 〃 | 1 | 12 | N-8-39-93 | Ⅲ | 抉状耳飾り | 1 |

# 表7　包含層の掲載石器一覧

| 図番号 | 出土区域遺物番号 | 層位 | 分類 | 細分類 | 材質 | 長さ×幅×厚さcm | 重さg | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | N-7-32-261 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 4.5×1.5×0.3 | 1.5 | |
| 2 | N-7-49-39 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 3.0×1.5×0.4 | 1.2 | |
| 3 | N-7-16-301 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 2.8×1.3×0.3 | 1.1 | |
| 4 | N-7-21-17 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 3.4×1.5×0.4 | 1.5 | |
| 5 | N-7-10-304B | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 2.7×1.5×0.4 | 1.1 | |
| 6 | N-7-41-381 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 2.4×1.3×0.4 | 0.6 | |
| 7 | N-7-21-388 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 3.2×1.5×0.5 | 1.6 | |
| 8 | N-8-19-853B | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 3.2×1.6×0.6 | 2.0 | |
| 9 | N-7-02-182 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 2.1×1.5×0.2 | 0.1 | |
| 10 | N-8-16-440 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 2.0×0.9×0.4 | 0.6 | |
| 11 | N-7-41-343 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 1.9×1.3×0.3 | 0.5 | |
| 12 | N-8-28-164 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 1.9×1.5×0.4 | 1.0 | |
| 13 | N-8-08-481A | Ⅲb | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 2.4×1.3×0.3 | 0.9 | |
| 14 | N-7-32-329 | Ⅲb | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 2.1×1.3×0.2 | 0.7 | |
| 15 | N-7-51-29 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 2.1×1.4×0.3 | 0.7 | |
| 16 | N-7-81-77 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 1.8×1.1×0.3 | 0.9 | |
| 17 | N-7-30-904 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 1.9×1.5×0.4 | 1.1 | |
| 18 | N-7-21-132 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 3.3×2.7×0.4 | 1.9 | |
| 19 | N-8-08-161 | Ⅲ | 石鏃 | 1a | 硬質頁岩 | 4.8×17×0.4 | 3.3 | |
| 20 | N-7-63-72 | Ⅲ | 石鏃 | 1b | 硬質頁岩 | 3.4×1.6×0.5 | 2.1 | |
| 21 | N-8-37-122 | Ⅲ | 石鏃 | 1b | 硬質頁岩 | (2.6×1.9×0.5) | (1.8) | |
| 22 | M-7-91-389 | Ⅲ | 石鏃 | 1b | 硬質頁岩 | 1.9×1.4×0.2 | 0.3 | |
| 23 | M-8-79-6 | Ⅲ | 石鏃 | 1b | 黒曜石 | 2.5×1.4×0.3 | 0.7 | |
| 24 | N-7-32-34 | PD3 | 石鏃 | 1b | 硬質頁岩 | 2.8×1.9×0.4 | 2.0 | |
| 25 | N-7-22-135C | Ⅲ | 石鏃 | 2 | 黒曜石 | 4.5×1.0×0.4 | 1.6 | |
| 26 | M-8-85-1A | Ⅲ | 石鏃 | 2 | 硬質頁岩 | 4.4×1.4×0.5 | 2.1 | |
| 27 | M-8-85-35 | Ⅲ | 石鏃 | 2 | 硬質頁岩 | 4.0×1.3×0.5 | 2.1 | |
| 28 | M-7-70-16 | Ⅲ | 石鏃 | 3 | 硬質頁岩 | 5.1×1.8×0.5 | 2.6 | |
| 29 | N-7-32-187 | Ⅲ | 石鏃 | 3 | 硬質頁岩 | 3.3×1.8×0.7 | 2.5 | |
| 30 | N-7-10-139 | Ⅲ | 石鏃 | 4 | 硬質頁岩 | 2.9×2.0×0.6 | 2.6 | |
| 31 | M-8-96-105 | Ⅲ | 石鏃 | 4 | 硬質頁岩 | 2.2×1.4×0.5 | 1.0 | |
| 32 | N-8-87-22 | Ⅲ | 石鏃 | 4 | 硬質頁岩 | 2.2×1.4×0.4 | 1.1 | |
| 33 | N-7-10-204 | Ⅲ | 石鏃 | 4 | 硬質頁岩 | 2.3×1.6×0.4 | 1.1 | |
| 34 | N-7-22-109A | Ⅲ | 石鏃 | 4 | 硬質頁岩 | 2.7×2.7×0.6 | 2.4 | |
| 35 | N-8-28-526 | | 石槍 | 1b | 硬質頁岩 | 5.0×2.8×0.9 | 10.6 | |
| 36 | N-8-05-115<br>M-8-87-5 | Ⅲ | 石槍 | 1a | 硬質頁岩 | 13.2×4.4×1.1 | 62.5 | |
| 37 | N-7-31-529 | Ⅲ | 石槍 | 3 | 硬質頁岩 | 13.9×7.0×3.2 | 212.2 | 未製品 |
| 38 | N-7-21-125 | Ⅲ | 石錐 | 1 | 硬質頁岩 | 7.4×6.4×2.1 | 37.8 | |
| 39 | N-7-01-267A | Ⅲb | 石錐 | 1 | 硬質頁岩 | 3.6×3.6×0.8 | 5.5 | |
| 40 | N-7-31-182 | Ⅲ | 石錐 | 1 | 硬質頁岩 | 3.3×2.2×0.6 | 3.9 | |
| 41 | N-8-39-888 | Ⅲ | 石錐 | 1 | 硬質頁岩 | 3.3×2.0×0.9 | 4.2 | |
| 42 | N-8-85-14 | Ⅲ | 石錐 | 1 | 硬質頁岩 | 3.2×2.0×0.7 | 3.0 | |
| 43 | N-8-29-711 | Ⅲ | 石錐 | 2 | 硬質頁岩 | 3.0×1.1×0.4 | 1.1 | |
| 44 | N-8-15-142 | Ⅲ | 石錐 | 2 | 硬質頁岩 | (2.9×0.8×0.4) | (1.2) | |
| 45 | M-8-97-101B | Ⅲ | 石錐 | 2 | 硬質頁岩 | 6.4×1.9×0.5 | 7.1 | |
| 46 | M-8-96-53 | Ⅲ | 石錐 | 3 | 硬質頁岩 | 5.1×2.9×0.9 | 11.6 | |
| 47 | N-7-32-179 | Ⅲ | 石錐 | 3 | 硬質頁岩 | 3.8×3.2×0.8 | 5.9 | |
| 48 | N-7-21-3 | Ⅲ | 石錐 | 3 | 硬質頁岩 | 5.1×2.0×1.0 | 8.0 | |
| 49 | N-7-22-172A | Ⅲ | 石錐 | 3 | 硬質頁岩 | 3.6×2.4×0.8 | 5.7 | |
| 50 | N-7-41-367 | Ⅲ | 石錐 | 4 | 硬質頁岩 | 3.2×1.7×0.4 | 1.7 | |
| 51 | N-8-49-210 | Ⅲ | 石錐 | 4 | 硬質頁岩 | 2.8×1.5×0.4 | 0.9 | |
| 52 | N-7-20-118 | Ⅲ | 石錐 | 4 | 硬質頁岩 | 2.3×1.8×0.4 | 1.4 | |
| 53 | N-8-39-683 | Ⅲ | 石錐 | 4 | 硬質頁岩 | 2.1×1.7×0.4 | 0.9 | |
| 54 | M-8-85-47 | Ⅲ | 石錐 | 4 | 硬質頁岩 | 5.7×1.4×0.3 | 40.0 | |
| 55 | N-7-32-262 | Ⅲ | 楔状石器 | 1c | 硬質頁岩 | 7.8×3.8×1.8 | 44.0 | |
| 56 | N-8-27-19 | Ⅲ | 楔状石器 | 1a | 硬質頁岩 | 6.9×2.3×1.7 | 43.2 | |
| 57 | N-7-30-685 | Ⅲ | 楔状石器 | 1a | 硬質頁岩 | 8.0×4.1×0.9 | 42.4 | |
| 58 | N-7-30-306 | Ⅲ | 楔状石器 | 1a | 硬質頁岩 | 7.3×3.5×1.5 | 27.5 | |
| 59 | N-7-12-177 | Ⅲ | 楔状石器 | 1a | 硬質頁岩 | 8.7×5.3×1.8 | 57.6 | |
| 60 | N-7-20-315B | Ⅲ | 楔状石器 | 1a | 硬質頁岩 | 7.1×2.9×1.7 | 18.3 | |
| 61 | N-8-85-2C | Ⅲ | 楔状石器 | 1a | 硬質頁岩 | 5.3×3.8×1.2 | 18.1 | |
| 62 | N-7-10-333 | Ⅲb | 楔状石器 | 1a | 硬質頁岩 | 4.2×4.4×1.0 | 10.5 | |
| 63 | M-8-85-66 | Ⅲ | 楔状石器 | 1a | 硬質頁岩 | 3.4×2.6×0.8 | 5.3 | |
| 64 | N-7-40-100 | Ⅲ | 楔状石器 | 1b | 硬質頁岩 | 7.3×4.7×1.4 | 29.5 | |
| 65 | N-8-47-137 | Ⅲ | 楔状石器 | 1c | 硬質頁岩 | 6.7×4.1×1.6 | 34.5 | |
| 66 | N-7-30-435 | Ⅲ | 楔状石器 | 1b | 硬質頁岩 | 9.3×4.0×1.6 | 52.8 | |
| 67 | N-8-49-12 | Ⅲ | 楔状石器 | 2a | 硬質頁岩 | 7.1×4.5×1.4 | 40.4 | |
| 68 | N-7-31-747 | Ⅲ | 楔状石器 | 2a | 硬質頁岩 | 7.6×4.3×1.6 | 34.5 | |
| 69 | N-8-06-389 | Ⅲ | 楔状石器 | 2a | 硬質頁岩 | 6.2×3.8×1.1 | 23.9 | |
| 70 | N-8-39-304 | Ⅲ | 楔状石器 | 2a | 硬質頁岩 | 8.8×4.5×2.5 | 76.4 | |
| 71 | N-7-40-115 | Ⅲ | 楔状石器 | 1a | 硬質頁岩 | 8.3×4.5×1.7 | 60.9 | |
| 72 | N-7-20-409 | Ⅲ | 両面調整石器 | 2 | 硬質頁岩 | 4.2×1.9×0.6 | 4.2 | |
| 73 | N-8-85-3 | Ⅲ | 両面調整石器 | 2 | 硬質頁岩 | 3.7×2.5×0.6 | 4.6 | |
| 74 | M-8-86-36 | Ⅲ | 両面調整石器 | 2 | 硬質頁岩 | 2.7×1.8×0.5 | 2.1 | |
| 75 | N-7-11-59 | Ⅲ | 両面調整石器 | 5 | 硬質頁岩 | 2.8×1.7×0.5 | 2.1 | |
| 76 | N-8-28-474 | Ⅲ | 両面調整石器 | 3 | 硬質頁岩 | 6.3×2.8×1.1 | 14.2 | |
| 77 | N-8-64-23 | Ⅲ | 両面調整石器 | 3 | 硬質頁岩 | 8.2×4.1×1.6 | 45.3 | |
| 78 | N-8-95-34 | Ⅲ | 両面調整石器 | 4 | 硬質頁岩 | 6.6×4.2×1.8 | 39.2 | |
| 79 | N-7-30-263 | Ⅲ | 両面調整石器 | 5 | 硬質頁岩 | 15.0×9.6×3.8 | 411.2 | |
| 80 | N-7-21-567 | Ⅲ | 石匙 | 1a | 硬質頁岩 | 6.8×2.1×0.6 | 6.6 | |
| 81 | N-8-08-461 | Ⅲ | 石匙 | 1b | 硬質頁岩 | 6.7×2.6×0.7 | 9.0 | |
| 82 | N-7-21-452 | Ⅲ | 石匙 | 1c | 硬質頁岩 | 6.1×1.5×0.6 | 4.4 | |
| 83 | N-7-42-254 | Ⅲ | 石匙 | 2c | 硬質頁岩 | 6.4×2.2×0.7 | 9.0 | |
| 84 | M-7-91-50 | P.D.3 | 石匙 | 2c | 硬質頁岩 | 7.0×2.7×0.9 | 13.5 | |
| 85 | N-8-09-903 | Ⅲ | 石匙 | 2c | 硬質頁岩 | 6.6×2.6×0.9 | 12.0 | |
| 86 | N-8-16-605 | Ⅲ | 石匙 | 3c | 硬質頁岩 | 6.9×2.8×0.7 | 14.5 | |
| 87 | N-7-64-74 | Ⅲ | 石匙 | 3d | 硬質頁岩 | 6.1×3.1×0.8 | 11.9 | |
| 88 | N-8-08-370A | Ⅲ | 石匙 | 3d | 硬質頁岩 | 6.8×4.6×1.0 | 25.5 | |
| 89 | N-7-25-472 | Ⅲ | 石匙 | 3c | 硬質頁岩 | 5.5×4.5×0.5 | 9.8 | |
| 90 | M-7-60-4 | Ⅲ | 石匙 | 3c | 硬質頁岩 | 8.3×4.6×0.7 | 24.0 | |
| 91 | N-8-7-390 | Ⅲ | 石匙 | 3c | 硬質頁岩 | 6.8×3.2×0.6 | 11.0 | |
| 92 | N-8-06-241 | Ⅲ | 石匙 | 3c | 硬質頁岩 | 5.4×1.8×0.5 | 4.7 | |
| 93 | N-8-48-39 | Ⅲ | 石匙 | 3c | 硬質頁岩 | 4.7×2.2×0.6 | 5.2 | |
| 94 | N-7-51-106B | Ⅲ | 石匙 | 4c | 硬質頁岩 | 6.0×1.9×0.5 | 4.4 | |
| 95 | N-8-29-154 | Ⅲ | 石匙 | 4c | 硬質頁岩 | 4.3×2.0×0.5 | 3.6 | |
| 96 | N-7-31-975A | Ⅲ | 石匙 | 4c | 硬質頁岩 | 4.3×1.7×0.4 | 7.3 | |
| 97 | N-8-08-462 | Ⅲb | 石匙 | 4c | 硬質頁岩 | 5.7×2.6×0.7 | 4.1 | |
| 98 | N-7-22-120 | Ⅲ | 石匙 | 4d | 硬質頁岩 | 4.2×4.0×0.4 | 7.3 | |
| 99 | N-8-493B | Ⅲ | 石匙 | 4d | 硬質頁岩 | 3.2×2.4×0.4 | 2.2 | |
| 100 | N-8-59-13 | Ⅲ | 石匙 | 4c | 硬質頁岩 | 6.8×4.1×0.6 | 5.2 | |
| 101 | M-7-30-1 | Ⅰ | 石匙 | 3 | 硬質頁岩 | 10.4×6.2×1.0 | 60.6 | |
| 102 | M-8-98-12 | Ⅰ | スクレイパー | 1a | 硬質頁岩 | 4.5×4.7×1.4 | 25.9 | |
| 103 | N-7-41-312B | Ⅲ | スクレイパー | 1a | 硬質頁岩 | 6.6×6.9×1.5 | 43.1 | |
| 104 | M-8-85-55 | Ⅲ | スクレイパー | 1a | 硬質頁岩 | 4.3×4.8×1.2 | 20.6 | |
| 105 | N-8-49-401 | 排土 | スクレイパー | 1b | 硬質頁岩 | 5.0×3.2×0.7 | 11.7 | |
| 106 | N-8-14-60 | Ⅲ | スクレイパー | 1b | 硬質頁岩 | 5.9×5.7×1.1 | 38.5 | |
| 107 | N-7-30-731A | Ⅲ | スクレイパー | 1b | 硬質頁岩 | 7.8×4.6×1.2 | 44.7 | |
| 108 | N-7-61-8 | Ⅲ | スクレイパー | 1b | 硬質頁岩 | 6.0×7.4×1.2 | 42.9 | |
| 109 | N-8-38-487 | Ⅲ | スクレイパー | 1b | 硬質頁岩 | 8.5×5.6×1.3 | 41.3 | |
| 110 | M-8-97-101A | Ⅲ | スクレイパー | 1b | 硬質頁岩 | 5.1×5.9×1.5 | 48.9 | |
| 111 | N-7-61-18 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 8.7×3.5×1.5 | 41.6 | |
| 112 | N-8-49-71 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 7.6×4.3×1.3 | 40.8 | |
| 113 | N-7-12-296 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 9.3×5.4×1.4 | 78.8 | |
| 114 | N-7-40-134 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 9.2×5.9×1.7 | 100.4 | |
| 115 | N-7-32-192 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 9.8×7.0×1.2 | 74.1 | |
| 116 | N-7-22-1 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 7.6×4.0×1.1 | 33.0 | |
| 117 | M-8-94-30 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 6.9×4.4×0.9 | 27.4 | |
| 118 | N-7-01-1 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 9.9×4.3×1.9 | 61.4 | |
| 119 | N-8-05-66 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 6.1×4.3×0.8 | 19.2 | |
| 120 | N-8-43-139 | Ⅲb | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 4.5×7.0×1.0 | 25.5 | |
| 121 | N-7-31-1014 | Ⅲ | スクレイパー | 2 | 硬質頁岩 | 3.7×2.3×0.9 | 9.2 | |
| 122 | N-8-08-388 | Ⅲ | スクレイパー | 4 | 硬質頁岩 | 4.3×3.8×1.2 | 13.8 | |
| 123 | N-8-37-477 | Ⅲ | スクレイパー | 4 | 硬質頁岩 | 4.0×4.5×1.0 | 17.1 | |
| 124 | M-8-99-26 | Ⅲ | スクレイパー | 5 | 硬質頁岩 | 6.0×6.7×1.9 | 68.7 | |
| 125 | N-8-28-504 | Ⅲ | スクレイパー | 5 | 硬質頁岩 | 7.8×3.3×1.1 | 2.3 | |
| 126 | N-8-38-478 | Ⅲb | 石核 | | 硬質頁岩 | 2.9×6.9×2.8 | 35.2 | |
| 127 | N-8-37-182 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 2.8×5.7×3.1 | 37.2 | |
| 128 | M-7-92-33 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 4.8×6.6×4.3 | 130.1 | |
| 129 | N-7-11-70 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 12.4×6.5×7.9 | 500.0 | |
| 130 | N-7-60-19 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 8.0×6.9×4.5 | 247.0 | |
| 131 | N-8-07-128 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 10.1×6.2×3.3 | 255.8 | |
| 132 | N-8-69-24 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 5.0×5.8×2.8 | 78.7 | |
| 133 | N-7-21-41 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 5.3×6.8×5.3 | 201.5 | |
| 134 | N-8-39-287 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 6.6×5.4×5.2 | 155.0 | |
| 135 | N-7-42-135 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 5.1×5.6×2.1 | 67.2 | |
| 136 | N-7-32-292 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 5.4×4.6×2.7 | 44.6 | |
| 137 | N-8-18-186 | Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 20.0×5.8×3.1 | 500.0 | |
| 138 | N-8-09-1023<br>M-8-96-160 | Ⅲ<br>Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 15.5×5.7×2.1 | 270.0 | |
| 139 | N-7-56-61<br>N-7-56-409 | Ⅲ<br>Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 12.0×5.4×2.1 | 190.0 | |
| 140 | N-7-13-445<br>N-8-29-929 | Ⅲ<br>Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 14.2×5.5×2.2 | 251.5 | |

| 図番号 | 出土区域遺物番号 | 層位 | 分類 | 細分類 | 材質 | 長さ×幅×厚さcm | 重さg | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 141 | M-8-98-144 | Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 13.2×6.0×2.12 | 22.2 | |
| 142 | N-8-05-166 | Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 11.9×6.0×1.9 | 229.9 | |
| 143 | N-7-80-45 | Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 11.0×5.5×2.7 | 228.3 | |
| 144 | N-8-97-66 | Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 11.0×4.8×1.7 | 129.1 | |
| 145 | N-7-31-577 | Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 8.0×5.0×1.6 | 107.0 | |
| 146 | M-7-81-62 | Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 7.8×3.2×1.3 | 51.7 | |
| 147 | M-8-97-73 | Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 7.9×1.9×1.4 | 25.8 | |
| 148 | N-7-21-144A | Ⅲ | 石斧 | 1 | 蛇紋岩 | 6.3×1.8×1.0 | 18.0 | |
| 149 | N-7-12-161 | Ⅲ | 石斧 | 1 | 緑色泥岩 | (9.9×5.6×3.5) | (298.6) | |
| 150 | N-8-19-422 | Ⅲ | 石斧 | 2 | 緑色泥岩 | (6.5×3.6×1.1) | (38.0) | |
| 151 | N-7-32-4・N-7-32-75 | Ⅲ上面・Ⅲ | | 4 | 緑色泥岩 | 13.0×4.9×2.4 | 230.2 | |
| 152 | N-7-03-33・N-8-36-54 | Ⅲ・Ⅲ | 石斧 | 4 | 閃緑岩 | 13.5×5.2×2.3 | 230.5 | |
| 153 | N-7-63-173 | Ⅲ | 石斧 | 3 | 閃緑岩 | 10.4×4.0×1.8 | 118.7 | |
| 154 | N-8-06-178・N-8-18-263 | Ⅲ・Ⅲ | 擦切残片 | | 蛇紋岩 | 15.8×3.6×2.1 | 114.2 | |
| 155 | N-7-40-199 | Ⅲ | 擦切残片 | | 蛇紋岩 | 12.2×4.8×2.9 | 178.6 | |
| 156 | N-7-40-244 | Ⅲ | 擦切残片 | | 蛇紋岩 | 6.9×2.6×1.7 | 38.3 | |
| 157 | N-8-37-183 | Ⅲ | 擦切残片 | | 蛇紋岩 | 8.8×2.3×1.6 | 47.7 | |
| 158 | N-7-45-464・N-7-61-25・N-7-53-372 | Ⅲ・Ⅲ・Ⅲ | 研磨石材 | | 緑色泥岩 | (5.0×6.1×1.1) | (170.0) | |
| 159 | N-7-21-215 | Ⅲ | 研磨石材 | | 蛇紋岩 | 9.7×8.9×2.3 | 289.2 | |
| 160 | N-7-80-44 | Ⅲ | 研磨石材 | | 蛇紋岩 | 16.7×9.2×4.5 | 775.0 | |
| 161 | N-8-06-190 | Ⅲ | 環状石斧 | | 閃緑岩 | 13.7×12.6×3.1 | 630.0 | 未製品 |
| 162 | N-7-41-295 | Ⅲ | たたき石 | 1 | 閃緑岩 | 5.5×4.6×4.6 | 144.4 | |
| 163 | N-7-52-175 | Ⅲ | たたき石 | 1 | 石英 | 8.3×7.6×5.1 | 358.8 | |
| 164 | N-7-31-78 | Ⅲ | たたき石 | 1 | 安山岩 | 9.1×7.5×6.6 | 594.0 | |
| 165 | M-7-80-6 | Ⅲ | たたき石 | 1 | 石英 | 9.7×7.3×5.3 | 460.2 | |
| 166 | N-8-19-566 | Ⅲ | たたき石 | 1 | 安山岩 | 7.0×4.9×3.5 | 162.8 | |
| 167 | N-7-12-97A | Ⅲ | たたき石 | 1 | 流紋岩 | 8.0×6.9×4.0 | 224.0 | |
| 168 | N-8-28-459 | Ⅲ | たたき石 | 1 | 閃緑岩 | 9.1×6.2×5.7 | 525.7 | 砥石転用？ |
| 169 | N-8-19-859 | Ⅲ | たたき石 | 2 | 石英 | 11.6×9.6×5.2 | 715.0 | |
| 170 | N-7-41-296B | Ⅲ | たたき石 | 2 | 閃緑岩 | 8.5×6.8×4.4 | 384.8 | |
| 171 | N-7-31-7 | Ⅲ | たたき石 | 2 | 安山岩 | 11.2×6.0×2.9 | 285.2 | |
| 172 | N-8-09-846 | Ⅲ | たたき石 | 2 | | 10.0×7.6×4.0 | 342.6 | |
| 173 | N-8-39-1018 | Ⅲ | たたき石 | 4 | 凝灰岩 | 7.3×4.4×2.9 | 83.0 | |
| 174 | N-8-96-133 | Ⅲ | たたき石 | 3 | 片岩 | 14.9×6.4×2.5 | 322.2 | |
| 175 | N-7-60-44 | PD3 | たたき石 | 4 | 流紋岩 | 14.8×4.0×1.6 | 150.5 | |
| 176 | N-7-40-164 | Ⅲ | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 13.0×7.8×6.5 | 700.0 | たたき痕あり |
| 177 | N-7-30-24 | Ⅲ | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 15.5×8.0×6.2 | 910.0 | たたき痕あり |
| 178 | N-8-29-185 | Ⅲ | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 17.4×10.7×9.7 | 1500.0 | たたき痕あり |
| 179 | N-8-39-678 | Ⅲ | すり石 | 1 | 安山岩 | 10.8×6.4×3.3 | 261.1 | たたき痕あり |
| 180 | M-8-96-88 | Ⅲ | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 18.9×7.2×5.0 | 810.0 | たたき痕あり |
| 181 | N-8-37-492・M-7-81-145・H-25-464 | Ⅲ・Ⅲ・覆土系 | すり石 | 1 | 閃緑岩 | (14.1×7.9×4.9) | (800.0) | 砥石複合 |
| 182 | N-7-60-43・N-7-60-53 | Ⅲ | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 18.4×6.3×5.4 | 970.0 | |
| 183 | N-7-43-95・N-7-73-14 | Ⅲ・Ⅲ | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 16.8×7.5×6.6 | 1200.0 | たたき痕あり |
| 184 | N-7-64-30 | Ⅲ | すり石 | 1 | 閃緑岩 | 15.9×6.8×6.4 | 865.0 | たたき痕あり |
| 185 | N-8-17-193 | Ⅲ | すり石 | 1 | 凝灰岩 | 19.4×9.2×6.2 | 950.0 | |
| 186 | N-8-09-876・N-8-09-877 | Ⅲ・Ⅲ | すり石 | 1 | 凝灰岩 | 17.0×7.3×4.7 | 500.0 | |
| 187 | M-8-09-865 | Ⅲ | すり石 | 4 | 花崗岩 | 5.9×5.1×4.5 | 11.2 | たたき痕あり |
| 188 | N-7-30-903 | Ⅲ | すり石 | 2 | 凝灰岩 | 9.1×5.8×2.7 | 187.0 | |
| 189 | N-7-20-15 | Ⅲ | すり石 | 2 | 閃緑岩 | 10.7×10.3×4.3 | 500.0 | |
| 190 | N-8-39-970 | Ⅲ | すり石 | 2 | 閃緑岩 | 11.8×9.0×3.7 | 538.2 | たたき痕あり |
| 191 | N-7-20-527・N-7-33-599 | Ⅲ・Ⅲ | すり石 | 2 | 閃緑岩 | 10.6×8.8×4.0 | 502.2 | たたき痕あり |
| 192 | N-7-21-255・N-7-31-496 | Ⅲ・Ⅲ | すり石 | 2 | 安山岩 | 11.4×7.6×3.2 | 377.6 | くぼみ痕あり |
| 193 | M-8-06-401 | Ⅲ | すり石 | 3 | 安山岩 | 10.7×6.0×3.1 | 223.4 | くぼみ痕あり |
| 194 | N-7-41-311 | Ⅲ | すり石 | 3 | | 14.4×5.7×3.6 | 406.6 | |
| 195 | N-7-24-224・N-8-37-128 | Ⅲ | 砥石 | 1 | 硬質頁岩 | 10.3×5.6×4.1 | 322.0 | |
| 196 | N-8-19-860 | Ⅲ | 砥石 | 1 | 硬質頁岩 | 14.0×6.3×4.9 | 525.4 | |
| 197 | N-7-63-58 | Ⅲ | 砥石 | 1 | 凝灰岩 | 14.7×7.9×4.0 | 484.4 | |
| 198 | N-8-37-482 | Ⅲ | 砥石 | 1 | 流紋岩 | 7.4×4.5×3.0 | 97.9 | くびみ痕あり |
| 228 | N-7-02-84 | Ⅲ | 石錘 | | 凝灰岩 | 5.0×3.4×0.5 | 15.5 | |
| 229 | N-8-05-195 | Ⅲ | 石錘 | | | 6.6×5.5×1.2 | 70.2 | |

| 図番号 | 出土区域遺物番号 | 層位 | 分類 | 細分類 | 材質 | 長さ×幅×厚さcm | 重さg | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 199 | N-8-09-1028・N-8-99-54 | Ⅲ | 砥石 | 1 | 凝灰岩 | 11.6×6.3×1.7 | 169.5 | |
| 200 | N-8-49-38 | Ⅲ | 砥石 | 1 | 流紋岩 | (9.4×7.5×2.8) | (286.3) | |
| 201 | N-8-29-651 | Ⅲ | 砥石 | 1 | 流紋岩 | (11.7×7.4×2.1) | (200.0) | |
| 202 | N-8-85-2G | Ⅰ | 砥石 | 2 | | 14.1×5.6×3.7 | 372.6 | |
| 203 | N-7-31-1051 | Ⅲ | 砥石 | 1 | 流紋岩 | 17.3×7.6×4.3 | 710.5 | |
| 204 | N-8-37-48 | Ⅲ | 砥石 | 2 | 凝灰岩 | (11.4×6.7×3.0) | (244.5) | |
| 205 | N-7-41-240・N-7-41-242 | Ⅲ | 砥石 | 2 | 凝灰岩 | (7.9×4.2×1.5) | (40.0) | |
| 206 | N-7-64-87 | Ⅰ | 砥石 | 2 | 流紋岩 | (8.5×6.2×3.2) | (177.1) | くぼみ痕あり |
| 207 | N-7-61-39 | Ⅲ | 砥石 | 2 | 流紋岩 | 8.6×7.7×3.9 | 286.3 | |
| 208 | N-8-29-461 | Ⅲ | 砥石 | 2 | 流紋岩 | (9.3×8.4×2.2) | (160.0) | |
| 209 | N-7-60-45 | PD3 | 砥石 | 2 | 流紋岩 | (11.6×10.0×3.2) | (288.3) | |
| 210 | N-7-40-131 | Ⅲ | 砥石 | 2 | 蛇紋岩 | 14.9×11.4×4.8 | 990.0 | |
| 211 | M-8-98-134 | Ⅲ | 砥石 | 1 | 流紋岩 | 19.9×12.0×2.3 | 830.0 | |
| 212 | N-7-12-118 | Ⅲ | 砥石 | 3 | 閃緑岩 | 19.8×16.5×10.0 | 3670.0 | |
| 213 | N-8-17-130・N-8-17-135・N-8-17-136 | Ⅲ・Ⅲ・Ⅲ | 石錘・砥石 | 1 | 粘板岩 | 14.6×5.4×2.4 | 260.0 | 砥石複合 |
| 214 | N-8-17-205 | Ⅲb | 石錘 | | 硬質頁岩 | 5.1×8.6×2.4 | 72.0 | |
| 215 | N-8-19-924 | Ⅲ | 石錘 | | 硬質頁岩 | 5.9×5.5×2.3 | 67.6 | |
| 216 | N-8-29-924 | Ⅲ | 石錘 | | 凝灰岩 | 5.4×7.7×1.0 | 40.0 | |
| 217 | N-8-29-735 | Ⅲ | 石錘 | | 片岩 | 2.1×4.7×0.7 | 8.8 | |
| 218 | N-7-70-49 | Ⅲ | 石錘 | | 凝灰岩 | 4.2×5.7×1.2 | 37.1 | |
| 219 | N-7-30-725A | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 9.3×15.3×1.5 | 200.8 | |
| 220 | M-7-60-14 | Ⅲ | 石錘 | | 凝灰岩 | 6.9×8.1×1.9 | 130.9 | |
| 221 | N-8-37-267・N-8-37-435 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 6.8×9.8×1.7 | 116.1 | 砥石複合 |
| 222 | N-8-49-45 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 6.4×14.2×2.5 | 220.6 | 砥石複合 |
| 223 | N-7-61-43 | Ⅲ | 石錘 | | 凝灰岩 | 6.5×7.9×1.4 | 81.9 | |
| 224 | N-8-37-487 | Ⅲ | 石錘 | | 凝灰岩 | 8.0×16.9×1.7 | 221.3 | |
| 225 | N-8-37-285 | Ⅲ | 石錘 | | 凝灰岩 | 3.7×4.1×0.7 | 16.6 | |
| 226 | N-8-06-327 | Ⅲ | 石錘 | | 凝灰岩 | 4.7×2.9×0.7 | 15.8 | |
| 227 | N-8-37-326 | Ⅲ | 石錘 | | | 4.0×3.8×0.7 | 16.6 | |
| 230 | N-7-42-346 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 7.1×6.3×1.6 | 95.0 | |
| 231 | N-7-21-263 | Ⅲ | 石錘 | | 珪岩 | 8.4×6.9×1.6 | 133.4 | |
| 232 | N-7-31-643 | Ⅲ | 石錘 | | 閃緑岩 | 8.6×8.5×2.3 | 222.2 | たたき痕あり |
| 233 | N-8-99-91 | Ⅲ | 石錘 | | 閃緑岩 | 12.3×6.2×2.2 | 268.9 | |
| 234 | N-7-30-946 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 8.7×8.7×3.2 | 236.3 | |
| 235 | N-8-09-1025 | Ⅲ | 石錘 | | 閃緑岩 | 11.2×10.8×2.3 | 379.6 | |
| 236 | N-8-37-490 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 7.6×7.2×2.5 | 196.2 | |
| 237 | M-7-91-319 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 5.7×5.3×1.1 | 43.7 | |
| 238 | N-7-12-209 | Ⅲ | 石錘 | | 閃緑岩 | 7.1×8.7×2.2 | 193.5 | |
| 239 | N-7-10-310 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 10.0×5.0×0.5 | 202.6 | |
| 240 | N-8-29-22 | Ⅲ | 石錘 | | 閃緑岩 | 5.2×9.2×2.5 | 202.7 | |
| 241 | N-8-16-242 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 7.5×8.8×1.6 | 91.3 | 砥石複合 |
| 242 | M-8-99-88 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 7.7×6.1×2.2 | 118.0 | |
| 243 | M-8-89-89 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 7.2×4.0×2.6 | 41.7 | |
| 244 | M-8-89-116 | Ⅲ | 石錘 | | 流紋岩 | 7.7×4.6×0.9 | 38.6 | |
| 245 | N-7-40-275 | Ⅲ | 石Ⅲ | | 閃緑岩 | (20.6×26.2×10.3) | (7500) | |
| 246 | N-8-05-145 | Ⅲ | 石Ⅲ | | | 41.6×31.6×4.7 | 7000 | |
| 247 | N-7-61-47 | Ⅲ | 石Ⅲ | | | 47.7×29.0×11.0 | 15500 | |
| 248 | N-8-38-285・2・86・277・415・495・N-8-39-36 | Ⅲ | 加工痕ある礫 | | 片岩 | 16.0×3.8×1.9 | 119.0 | |
| 249 | N-7-33-98 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | (5.1×7.9×2.8) | (76.4) | |
| 250 | N-7-25-73 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 2.5×4.8×2.1 | 19.9 | |
| 251 | N-7-56-50 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 3.7×4.1×1.7 | 25.0 | |
| 252 | N-7-43-53 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 3.4×5.6×3.1 | 18.5 | |
| 253 | N-7-53-22 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 4.5×6.4×6.8 | 184.0 | |
| 254 | N-7-57-75 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 5.5×7.5×4.4 | 74.7 | N-7-57-361と接合 |
| 255 | N-7-53-242B | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 5.8×5.5×4.3 | 115.2 | |
| 256 | N-7-53-392 | Ⅲb | 石核 | | 硬質頁岩 | 6.3×5.7×1.9 | 72.1 | |
| 257 | N-7-24-561 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | (4.2×8.4×5.7) | (109.1) | |
| 258 | N-7-53-214 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 7.0×5.9×2.8 | 91.5 | |
| 259 | N-7-23-76 | Ⅲb | 石核 | | 硬質頁岩 | 5.9×16.5×6.3 | 843.0 | |
| 260 | N-7-52-49 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 6.1×8.8×5.7 | 287.4 | |
| 261 | N-7-38-35 | Ⅲ | 石核 | | 硬質頁岩 | 7.0×7.8×7.1 | 279.4 | N-7-52-49（剥片）と接合 |

㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第84集
函館市
中　野　A　遺　跡（Ⅱ）本文編
―函館空港拡張工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成5年3月26日発行
編　集　財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎011(561) 3131
印　刷　中西印刷㈱
〒065 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号